

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第461集

長野原一本松遺跡(5)

ハツ場ダム建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第28集

— 本文編 —

2009

国 土 交 通 省
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第461集

長野原一本松遺跡(5)

八ッ場ダム建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第28集

— 本文編 —

2009

国 土 交 通 省
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団



5区全景



5-77号住居跡全景



5-88号住居跡炉石棒出土状態



5-113号住居跡土器囲い炉

序

長野原一本松遺跡は、山間を深く刻んで流れる吾妻川を望む段丘上に営まれた遺跡です。昭和27年、この吾妻川を堰き止め、洪水調整、水利用の八ッ場ダムの建設計画が発表され、平成6年度よりダム工事に係わる発掘調査が本格的に開始されました。

長野原一本松遺跡は、八ッ場ダム建設に伴う発掘調査として行われた最初の遺跡であり、平成17年度までの足かけ12年に涉って継続調査が実施され、多くの遺構・遺物が検出され、群馬県内においても有数な、縄文時代の集落遺跡であることが明らかになりました。

長野原一本松遺跡の発掘調査は平成20年度をもって一応の終了となり、発掘された多量の遺構・遺物の整理作業が本格的に開始される事となりました。

すでに、平成6～14年度までの調査報告は『長野原一本松遺跡』(1)～(4)として刊行されており、本書『長野原一本松遺跡(5)』は平成15年度に調査された遺構・遺物の報告となります。本書は集落の中心域の北側にあたる部分の報告で、多くの住居跡、掘立柱建物柱、土坑等が調査されました。

これらの遺構に伴い、大量の遺物も出土しており、集落構造を解明する上で重要な部分の報告でもあります。

発掘調査から報告書刊行に至るまで、国土交通省八ッ場ダム工事事務所、群馬県教育委員会、および長野原町教育委員会をはじめとする関係機関や地元関係者の皆様には、多大なるご尽力を賜りました。本報告書を上梓するにあたり、衷心より感謝申し上げます。

本書が長野原町、吾妻郡内、ひいては群馬県における縄文時代研究の新たな資料として活用されることを願い序といたします。

平成21年3月

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長 高橋 勇 夫

例 言

1. 本書は八ッ場ダム建設工事に伴い発掘調査された、長野原一本松遺跡の発掘調査報告書である。すでに刊行された報告書の内容は以下のとおりである。

「長野原一本松遺跡(1)」2002……平成6～8年度調査成果の報告

「長野原一本松遺跡(2)」2007……平成9～11年度調査成果の報告

「長野原一本松遺跡(3)」2008……平成12・13年度調査成果の報告

「長野原一本松遺跡(4)」2008……平成14年度調査成果の報告

本書は平成15年度調査成果の報告である。

2. 本書で報告する平成15年度の発掘調査期間は以下のとおりである。

平成15年4月1日～平成15年12月31日

3. 長野原一本松遺跡は群馬県吾妻郡長野原町大字長野原字一本松地内に所在する。

4. 発掘調査は建設省（現国土交通省）の委託を受け、群馬県教育委員会が財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団に委託して実施された。

5. 本報告書に関係する平成15度の発掘調査組織は以下のとおりである。

理事長 小野宇三郎、常務理事 住谷永市、事業局長 神保侑史、管理部長 萩原利通

八ッ場ダム調査事務所長 水田 稔、同調査研究部長 津金澤吉茂、同調査研究課長 斉藤和之

同庶務係長 野口富太郎、同庶務係 矢嶋知恵子

6. 本報告書に関する平成19・20年度の整理組織は以下のとおりである。

平成19年度 理事長 高橋勇夫、常務理事 木村裕紀、事業局長 津金澤吉茂、管理部長 矢崎俊夫

資料整理部長 佐藤明人 調査研究部長 西田健彦

総務部長 萩原 勉 総務G 笠原秀樹、須田朋子、矢島一美 斉藤陽子

経理G 石井 清、斉藤恵利子、柳岡良宏、

八ッ場ダム調査事務所長 巾 隆之、同調査研究部長 中東耕志、

同庶務GL 吉田有光、 若林正人

平成20年度 理事長 高橋勇夫、常務理事 津金澤吉茂、木村裕紀（事務局長）、総務GL笠原秀樹

経理GL 佐嶋芳明、調査研究部長 飯島義雄、資料整理部長 相京建史、

八ッ場ダム調査事務所長 中東耕志、調査研究部長 中澤 悟、整理GL 藤巻幸男

調査研究GL 飯田陽一、庶務GL 吉田有光、主幹 若林正人

7. 発掘調査期間 平成15年4月1日～平成15年12月31日

8. 発掘調査担当者 小野和之・飯森康広・原 信行・瀧川仲男

9. 整理期間 平成19年度 平成19年4月1日～平成20年3月31日

平成20年度 平成20年4月1日～平成21年3月31日

10. 報告書作成担当

整理担当 小野和之（平成19・20年度） 山口逸弘（平成20年度）

編集担当 小野和之

本文執筆 小野和之

遺物写真撮影 佐藤元彦

遺物保存処理 関 邦一、土橋まり子、小材浩一、津久井桂一、森田智子

石材鑑定 渡辺弘幸（甘楽町立新屋小学校）

整理嘱託員 新山保和（平成19年度）

整理補助員 足立やよい 中嶋公江 富澤友理 唐澤美恵子 鈴木理佐（平成20年度）

（株式会社歴史の杜）新保純子（平成19・20） 小林里子（平19・20） 深井美紀（平19・20）

霜田順子（平成19） 石井なみ枝（平19） 長崎弘美（平19） 朝比奈香奈（平19）

井草峯子（平20） 丸山里美（平20） 篠原信子（平20）

11. 出土遺物および図面・写真等の記録は群馬県埋蔵文化財調査センターで保管している。

12. 発掘調査および本書の作成にあたっては下記の機関、諸氏よりご教示、ご指導をいただいた。記して感謝の意を表する。（敬称略）

国土交通省関東地方整備局八ッ場ダム工事事務所、長野原町教育委員会、白石光男 富田孝彦 大工原 豊

凡 例

1 本書で使用した方位は、国家座標の北を示す。

2 等高線・遺構断面図等に記した数値は海拔標高を示す。

3 付図を含む遺構図の縮尺は、原則として以下の通りである。

遺構全体図 1/1000 各区別遺構全体図 1/200

住居跡 1/60 炉 1/30 カマド 1/30 埋設土器 1/20 土坑 1/40または1/60

掘立柱建物 1/80 配石 1/40または1/60 その他は図中に明記

4 遺物実測図の縮尺は、原則として以下の通りである。


・土器 完形・半完形 1/4 破片類 1/3

・石器 石皿、台石、丸石等の大形品 1/4または1/6 打製石斧、磨製石斧、磨石、敲石等 1/3

石鏃、石錐等 1/1 石核 1/2 垂飾品等の小型品 1/2

5 図に使用したスクリーントーンは以下のことを示す。

遺構 焼土 

遺物 土器 赤彩痕 

目 次

序	
例言	
凡例	
目次	
挿図目次	
表目次	
第1章 長野原一本松遺跡の発掘調査	1
第1節 発掘調査に至る経緯	1
第2節 発掘調査の方法	2
第3節 調査経過	3
第2章 地理的及び歴史的環境	6
第1節 地理的環境	6
第2節 歴史的環境	6
第3章 検出された遺構と遺物	11
第1節 基本層序	11
第2節 遺構・遺物の概要	13
第3節 縄文時代の遺構と遺物	18
1. 住居跡	18
2. 掘立柱建物跡	333
3. 埋甕	336
4. 炉	336
5. 列石・配石	339
6. 土坑	343
7. ピット	454
8. 遺構外出土遺物	456
(1) 土器・土製品	456
(2) 石器・石製品	475
9. 出土遺物観察表	484
第4節 平安時代の遺構と遺物	589
1. 住居跡	589
第5節 中・近世の遺構と遺物	592
1. 掘立柱建物跡	592
2. 竪穴状遺構	594
3. 焼土	598
4. 土坑	601
5. ヤックラ（集石遺構）	603
6. 遺構外出土遺物	608
第4章 まとめ	617
第5章 自然化学分析編	626

挿図目次

第 1 図	長野原一本松遺跡位置図	1	第 58 図	5-71号住居跡(2)	67
第 2 図	長野原一本松遺跡調査区及び経過図	5	第 59 図	5-71号住居跡出土遺物(1)	67
第 3 図	周辺の遺跡	折込み	第 60 図	5-71号住居跡出土遺物(2)	68
第 4 図	基本層序	12	第 61 図	5-71号住居跡出土遺物(3)	69
第 5 図	4・5・6区全体図	折込み	第 62 図	5-71号住居跡出土遺物(4)	70
第 6 図	5区遺構集中部	17	第 63 図	5-71号住居跡出土遺物(5)	71
第 7 図	4-16号住居跡	19	第 64 図	5-72号住居跡(1)	72
第 8 図	4-16号住居跡出土遺物	20	第 65 図	5-72号住居跡(2)	73
第 9 図	4-17号住居跡(1)	22	第 66 図	5-72号住居跡出土遺物(1)	73
第 10 図	4-17号住居跡(2)	23	第 67 図	5-72号住居跡出土遺物(2)	74
第 11 図	4-17号住居跡出土遺物(1)	23	第 68 図	5-72号住居跡出土遺物(3)	75
第 12 図	4-17号住居跡出土遺物(2)	24	第 69 図	5-72号住居跡出土遺物(4)	76
第 13 図	4-17号住居跡出土遺物(3)	25	第 70 図	5-73号住居跡	77
第 14 図	4-18号住居跡(1)	26	第 71 図	5-73号住居跡出土遺物(1)	78
第 15 図	4-18号住居跡(2)	27	第 72 図	5-73号住居跡出土遺物(2)	79
第 16 図	4-18号住居跡出土遺物(1)	28	第 73 図	5-73号住居跡出土遺物(3)	80
第 17 図	4-18号住居跡出土遺物(2)	29	第 74 図	5-74号住居跡(1)	81
第 18 図	4-18号住居跡出土遺物(3)	30	第 75 図	5-74号住居跡(2)	82
第 19 図	4-19号住居跡	31	第 76 図	5-74号住居跡出土遺物(1)	82
第 20 図	4-19号住居跡出土遺物	32	第 77 図	5-74号住居跡出土遺物(2)	83
第 21 図	4-20号住居跡	33	第 78 図	5-74号住居跡出土遺物(3)	84
第 22 図	4-20号住居跡出土遺物	34	第 79 図	5-74号住居跡出土遺物(4)	85
第 23 図	4-22号住居跡	35	第 80 図	5-75号住居跡	86
第 24 図	4-22号住居跡出土遺物	36	第 81 図	5-75号住居跡出土遺物(1)	86
第 25 図	4-23号住居跡(1)	36	第 82 図	5-75号住居跡出土遺物(2)	87
第 26 図	4-23号住居跡(2)	37	第 83 図	5-75号住居跡出土遺物(3)	88
第 27 図	4-23号住居跡(3)	38	第 84 図	5-76号住居跡	89
第 28 図	4-23号住居跡出土遺物(1)	38	第 85 図	5-76号住居跡出土遺物(1)	89
第 29 図	4-23号住居跡出土遺物(2)	39	第 86 図	5-76号住居跡出土遺物(2)	90
第 30 図	4-23号住居跡出土遺物(3)	40	第 87 図	5-76号住居跡出土遺物(3)	91
第 31 図	4-23号住居跡出土遺物(4)	41	第 88 図	5-77号住居跡(1)	92
第 32 図	4-23号住居跡出土遺物(5)	42	第 89 図	5-77号住居跡(2)	93
第 33 図	5-1号住居跡	43	第 90 図	5-77号住居跡(3)	94
第 34 図	5-1号住居跡出土遺物	44	第 91 図	5-77号住居跡出土遺物(1)	94
第 35 図	5-38・39号住居跡(1)	46	第 92 図	5-77号住居跡出土遺物(2)	95
第 36 図	5-38・39号住居跡(2)	47	第 93 図	5-77号住居跡出土遺物(3)	96
第 37 図	5-38・39号住居跡出土遺物(1)	47	第 94 図	5-77号住居跡出土遺物(4)	97
第 38 図	5-39号住居跡出土遺物(2)	48	第 95 図	5-78号住居跡	98
第 39 図	5-39号住居跡出土遺物(3)	49	第 96 図	5-78号住居跡出土遺物(1)	99
第 40 図	5-39号住居跡出土遺物(4)	50	第 97 図	5-78号住居跡出土遺物(2)	100
第 41 図	5-69号住居跡	52	第 98 図	5-78号住居跡出土遺物(3)	101
第 42 図	5-69号住居跡出土遺物(1)	53	第 99 図	5-78号住居跡出土遺物(4)	102
第 43 図	5-69号住居跡出土遺物(2)	54	第100図	5-78号住居跡出土遺物(5)	103
第 44 図	5-69号住居跡出土遺物(3)	55	第101図	5-78号住居跡出土遺物(6)	104
第 45 図	5-69号住居跡出土遺物(4)	56	第102図	5-79号住居跡	105
第 46 図	5-69号住居跡出土遺物(5)	57	第103図	5-79号住居跡出土遺物	105
第 47 図	5-70号住居跡(1)	57	第104図	5-80号住居跡	106
第 48 図	5-70号住居跡(2)	58	第105図	5-80号住居跡出土遺物(1)	106
第 49 図	5-70号住居跡(3)	59	第106図	5-80号住居跡出土遺物(2)	107
第 50 図	5-70号住居跡出土遺物(1)	59	第107図	5-81号住居跡(1)	108
第 51 図	5-70号住居跡出土遺物(2)	60	第108図	5-81号住居跡(2)	109
第 52 図	5-70号住居跡出土遺物(3)	61	第109図	5-81号住居跡出土遺物(1)	110
第 53 図	5-70号住居跡出土遺物(4)	62	第110図	5-81号住居跡出土遺物(2)	111
第 54 図	5-70号住居跡出土遺物(5)	63	第111図	5-82号住居跡	112
第 55 図	5-70号住居跡出土遺物(6)	64	第112図	5-82号住居跡出土遺物(1)	113
第 56 図	5-70号住居跡出土遺物(7)	65	第113図	5-82号住居跡出土遺物(2)	114
第 57 図	5-71号住居跡(1)	66	第114図	5-82号住居跡出土遺物(3)	115

第115图	5-83号住居跡(1)	116	第177图	5-93号住居跡出土遺物(7)	170
第116图	5-83号住居跡(2)	117	第178图	5-94号住居跡	171
第117图	5-83号住居跡(3)	118	第179图	5-94号住居跡出土遺物(1)	172
第118图	5-83号住居跡出土遺物(1)	118	第180图	5-94号住居跡出土遺物(2)	173
第119图	5-83号住居跡出土遺物(2)	119	第181图	5-94号住居跡出土遺物(3)	174
第120图	5-83号住居跡出土遺物(3)	120	第182图	5-95号住居跡	175
第121图	5-83号住居跡出土遺物(4)	121	第183图	5-95号住居跡出土遺物	176
第122图	5-83号住居跡出土遺物(5)	122	第184图	5-96号住居跡	176
第123图	5-83号住居跡出土遺物(6)	123	第185图	5-96号住居跡出土遺物	177
第124图	5-83号住居跡出土遺物(7)	124	第186图	5-97号住居跡	178
第125图	5-83号住居跡出土遺物(8)	125	第187图	5-97号住居跡出土遺物	179
第126图	5-83号住居跡出土遺物(9)	126	第188图	5-98号住居跡(1)	179
第127图	5-83号住居跡出土遺物(10)	127	第189图	5-98号住居跡(2)	180
第128图	5-83号住居跡出土遺物(11)	128	第190图	5-98号住居跡(3)	181
第129图	5-83号住居跡出土遺物(12)	129	第191图	5-98号住居跡出土遺物(1)	182
第130图	5-83号住居跡出土遺物(13)	130	第192图	5-98号住居跡出土遺物(2)	183
第131图	5-84号住居跡(1)	131	第193图	5-99号住居跡(1)	184
第132图	5-84号住居跡(2)	132	第194图	5-99号住居跡(2)	185
第133图	5-84号住居跡(3)	133	第195图	5-99号住居跡出土遺物(1)	186
第134图	5-84号住居跡出土遺物(1)	133	第196图	5-99号住居跡出土遺物(2)	187
第135图	5-84号住居跡出土遺物(2)	134	第197图	5-99号住居跡出土遺物(3)	188
第136图	5-84号住居跡出土遺物(3)	135	第198图	5-100号住居跡(1)	188
第137图	5-85号住居跡(1)	136	第199图	5-100号住居跡(2)	189
第138图	5-85号住居跡(2)	137	第200图	5-100号住居跡(3)	190
第139图	5-85号住居跡出土遺物(1)	138	第201图	5-100号住居跡出土遺物(1)	190
第140图	5-85号住居跡出土遺物(2)	139	第202图	5-100号住居跡出土遺物(2)	191
第141图	5-86号住居跡	139	第203图	5-100号住居跡出土遺物(3)	192
第142图	5-86号住居跡出土遺物	140	第204图	5-100号住居跡出土遺物(4)	193
第143图	5-87号住居跡(1)	141	第205图	5-100号住居跡出土遺物(5)	194
第144图	5-87号住居跡(2)	142	第206图	5-100号住居跡出土遺物(6)	195
第145图	5-87号住居跡出土遺物(1)	142	第207图	5-101号住居跡(1)	196
第146图	5-87号住居跡出土遺物(2)	143	第208图	5-101号住居跡(2)	197
第147图	5-88号住居跡(1)	144	第209图	5-101号住居跡出土遺物(1)	198
第148图	5-88号住居跡(2)	145	第210图	5-101号住居跡出土遺物(2)	199
第149图	5-88号住居跡(3)	146	第211图	5-101号住居跡出土遺物(3)	200
第150图	5-88号住居跡出土遺物(1)	146	第212图	5-101号住居跡出土遺物(4)	201
第151图	5-88号住居跡出土遺物(2)	147	第213图	5-102号住居跡	202
第152图	5-88号住居跡出土遺物(3)	148	第214图	5-102号住居跡出土遺物	203
第153图	5-88号住居跡出土遺物(4)	149	第215图	5-103号住居跡	204
第154图	5-89号住居跡	149	第216图	5-103号住居跡出土遺物	205
第155图	5-89号住居跡出土遺物	150	第217图	5-104号住居跡	206
第156图	5-90号住居跡(1)	151	第218图	5-104号住居跡出土遺物	207
第157图	5-90号住居跡(2)	152	第219图	5-105号住居跡(1)	208
第158图	5-90号住居跡出土遺物(1)	152	第220图	5-105号住居跡(2)	209
第159图	5-90号住居跡出土遺物(2)	153	第221图	5-105号住居跡出土遺物(1)	210
第160图	5-91号住居跡	154	第222图	5-105号住居跡出土遺物(2)	211
第161图	5-91号住居跡出土遺物	155	第223图	5-105号住居跡出土遺物(3)	212
第162图	5-92号住居跡(1)	156	第224图	5-106号住居跡・出土遺物	213
第163图	5-92号住居跡(2)	157	第225图	5-107号住居跡	214
第164图	5-92号住居跡出土遺物(1)	158	第226图	5-107号住居跡出土遺物	215
第165图	5-92号住居跡出土遺物(2)	159	第227图	5-108号住居跡	216
第166图	5-92号住居跡出土遺物(3)	160	第228图	5-108号住居跡出土遺物	217
第167图	5-92号住居跡出土遺物(4)	161	第229图	5-109号住居跡(1)	218
第168图	5-93号住居跡(1)	162	第230图	5-109号住居跡(2)	219
第169图	5-93号住居跡出土遺物(1)	162	第231图	5-109号住居跡出土遺物(1)	220
第170图	5-93号住居跡(2)	163	第232图	5-109号住居跡出土遺物(2)	221
第171图	5-93号住居跡(3)	164	第233图	5-110号住居跡	222
第172图	5-93号住居跡出土遺物(2)	165	第234图	5-110号住居跡出土遺物	222
第173图	5-93号住居跡出土遺物(3)	166	第235图	5-111・112号住居跡(1)	224
第174图	5-93号住居跡出土遺物(4)	167	第236图	5-111・112号住居跡(2)	225
第175图	5-93号住居跡出土遺物(5)	168	第237图	5-111号住居跡出土遺物(1)	225
第176图	5-93号住居跡出土遺物(6)	169	第238图	5-111号住居跡出土遺物(2)	226

第239图	5-112号住居跡出土遺物(1)·····	227	第301图	5-125号住居跡(1)·····	282
第240图	5-112号住居跡出土遺物(2)·····	228	第302图	5-125号住居跡(2)·····	283
第241图	5-113号住居跡(1)·····	229	第303图	5-125号住居跡出土遺物(1)·····	283
第242图	5-113号住居跡(2)·····	230	第304图	5-125号住居跡出土遺物(2)·····	284
第243图	5-113号住居跡(3)·····	231	第305图	5-125号住居跡出土遺物(3)·····	285
第244图	5-113号住居跡出土遺物(1)·····	231	第306图	5-125号住居跡出土遺物(4)·····	286
第245图	5-113号住居跡出土遺物(2)·····	232	第307图	5-125号住居跡出土遺物(5)·····	287
第246图	5-113号住居跡出土遺物(3)·····	233	第308图	5-126号住居跡·····	287
第247图	5-113号住居跡出土遺物(4)·····	234	第309图	5-126号住居跡出土遺物·····	288
第248图	5-113号住居跡出土遺物(5)·····	235	第310图	5-127号住居跡·····	289
第249图	5-113号住居跡出土遺物(6)·····	236	第311图	5-127号住居跡出土遺物(1)·····	289
第250图	5-113号住居跡出土遺物(7)·····	237	第312图	5-127号住居跡出土遺物(2)·····	290
第251图	5-113号住居跡出土遺物(8)·····	238	第313图	5-128・129号住居跡·····	290
第252图	5-114号住居跡·····	239	第314图	5-128号住居跡出土遺物·····	291
第253图	5-114号住居跡出土遺物·····	240	第315图	5-129号住居跡出土遺物·····	291
第254图	5-115号住居跡·····	241	第316图	5-130・133号住居跡·····	292
第255图	5-115号住居跡出土遺物·····	241	第317图	5-133号住居跡·····	293
第256图	5-116号住居跡·····	242	第318图	5-130号住居跡出土遺物·····	293
第257图	5-116号住居跡出土遺物·····	242	第319图	5-131・139号住居跡·····	294
第258图	5-117号住居跡·····	243	第320图	5-131号住居跡出土遺物(1)·····	295
第259图	5-117号住居跡出土遺物·····	243	第321图	5-131号住居跡出土遺物(2)·····	296
第260图	5-118号住居跡·····	244	第322图	5-132号住居跡·····	296
第261图	5-118号住居跡出土遺物(1)·····	244	第323图	5-132号住居跡出土遺物(1)·····	297
第262图	5-118号住居跡出土遺物(2)·····	245	第324图	5-132号住居跡出土遺物(2)·····	298
第263图	5-119号住居跡·····	246	第325图	5-133号住居跡出土遺物(1)·····	299
第264图	5-119号住居跡出土遺物(1)·····	246	第326图	5-133号住居跡出土遺物(2)·····	300
第265图	5-119号住居跡出土遺物(2)·····	247	第327图	5-134号住居跡·····	301
第266图	5-120号住居跡(1)·····	248	第328图	5-134号住居跡出土遺物(1)·····	301
第267图	5-120号住居跡(2)·····	249	第329图	5-134号住居跡出土遺物(2)·····	302
第268图	5-120号住居跡出土遺物(1)·····	249	第330图	5-134号住居跡出土遺物(3)·····	303
第269图	5-120号住居跡出土遺物(2)·····	250	第331图	5-134号住居跡出土遺物(4)·····	304
第270图	5-120号住居跡出土遺物(3)·····	251	第332图	5-135号住居跡·····	305
第271图	5-120号住居跡出土遺物(4)·····	252	第333图	5-135号住居跡出土遺物·····	306
第272图	5-121号住居跡·····	253	第334图	5-136号住居跡·····	306
第273图	5-121号住居跡出土遺物·····	253	第335图	5-136号住居跡出土遺物·····	307
第274图	5-122号住居跡·····	254	第336图	5-137号住居跡·····	307
第275图	5-122号住居跡出土遺物·····	255	第337图	5-137号住居跡出土遺物·····	307
第276图	5-123号住居跡·····	256	第338图	5-138号住居跡·····	308
第277图	5-123号住居跡出土遺物(1)·····	257	第339图	5-138号住居跡出土遺物·····	309
第278图	5-123号住居跡出土遺物(2)·····	258	第340图	5-139号住居跡出土遺物(1)·····	309
第279图	5-123号住居跡出土遺物(3)·····	259	第341图	5-139号住居跡出土遺物(2)·····	310
第280图	5-124号住居跡(1)·····	260	第342图	5-140号住居跡·····	310
第281图	5-124号住居跡(2)·····	折込み	第343图	5-140号住居跡出土遺物·····	311
第282图	5-124号住居跡(3)·····	263	第344图	5-141号住居跡·····	311
第283图	5-124号住居跡出土遺物(1)·····	264	第345图	5-141号住居跡出土遺物·····	312
第284图	5-124号住居跡出土遺物(2)·····	265	第346图	5-142号住居跡·····	313
第285图	5-124号住居跡出土遺物(3)·····	266	第347图	5-142号住居跡出土遺物·····	313
第286图	5-124号住居跡出土遺物(4)·····	267	第348图	5-144号住居跡·····	314
第287图	5-124号住居跡出土遺物(5)·····	268	第349图	5-144号住居跡出土遺物(1)·····	315
第288图	5-124号住居跡出土遺物(6)·····	269	第350图	5-144号住居跡出土遺物(2)·····	316
第289图	5-124号住居跡出土遺物(7)·····	270	第351图	5-144号住居跡出土遺物(3)·····	317
第290图	5-124号住居跡出土遺物(8)·····	271	第352图	5-144号住居跡出土遺物(4)·····	318
第291图	5-124号住居跡出土遺物(9)·····	272	第353图	5-145号住居跡·····	319
第292图	5-124号住居跡出土遺物(10)·····	273	第354图	5-145号住居跡出土遺物·····	320
第293图	5-124号住居跡出土遺物(11)·····	274	第355图	6-10号住居跡(1)·····	321
第294图	5-124号住居跡出土遺物(12)·····	275	第356图	6-10号住居跡(2)·····	322
第295图	5-124号住居跡出土遺物(13)·····	276	第357图	6-10号住居跡出土遺物(1)·····	323
第296图	5-124号住居跡出土遺物(14)·····	277	第358图	6-10号住居跡出土遺物(2)·····	324
第297图	5-124号住居跡出土遺物(15)·····	278	第359图	6-15号住居跡·····	324
第298图	5-124号住居跡出土遺物(16)·····	279	第360图	6-15号住居跡出土遺物·····	325
第299图	5-124号住居跡出土遺物(17)·····	280	第361图	6-16号住居跡(1)·····	326
第300图	5-124号住居跡出土遺物(18)·····	281	第362图	6-16号住居跡(2)·····	327

第363图	6-16号住居跡出土遺物(1)	327	第425图	土坑出土遺物(3)	390
第364图	6-16号住居跡出土遺物(2)	328	第426图	土坑出土遺物(4)	391
第365图	6-16号住居跡出土遺物(3)	329	第427图	土坑出土遺物(5)	392
第366图	6-16号住居跡出土遺物(4)	330	第428图	土坑出土遺物(6)	393
第367图	6-16号住居跡出土遺物(5)	331	第429图	土坑出土遺物(7)	394
第368图	6-17号住居跡	332	第430图	土坑出土遺物(8)	395
第369图	6-17号住居跡出土遺物	332	第431图	土坑出土遺物(9)	396
第370图	5-6号掘立柱建物跡	334	第432图	土坑出土遺物(10)	397
第371图	5-7号掘立柱建物跡	335	第433图	土坑出土遺物(11)	398
第372图	5-1号焼土出土遺物	336	第434图	土坑出土遺物(12)	399
第373图	5-9~12号埋甕・5-11・12号炉	337	第435图	土坑出土遺物(13)	400
第374图	5-9~11号埋甕出土遺物	338	第436图	土坑出土遺物(14)	401
第375图	5-12号埋甕・5-11号炉出土遺物	339	第437图	土坑出土遺物(15)	402
第376图	配石・列石全体图・5-9号列石	340	第438图	土坑出土遺物(16)	403
第377图	5-441~445号配石	341	第439图	土坑出土遺物(17)	404
第378图	5-442~445号配石出土遺物	342	第440图	土坑出土遺物(18)	405
第379图	4-71~73・75~80号土坑	344	第441图	土坑出土遺物(19)	406
第380图	4-81・82・85・88~95号土坑	345	第442图	土坑出土遺物(20)	407
第381图	4-96~99・102・103・105号土坑	346	第443图	土坑出土遺物(21)	408
第382图	4-106~109号土坑	347	第444图	土坑出土遺物(22)	409
第383图	4-104・110~116号土坑	348	第445图	土坑出土遺物(23)	410
第384图	5-804・807~811号土坑	349	第446图	土坑出土遺物(24)	411
第385图	5-812~816・821・822号土坑	350	第447图	土坑出土遺物(25)	412
第386图	5-823~828号土坑	351	第448图	土坑出土遺物(26)	413
第387图	5-829~835号土坑	352	第449图	土坑出土遺物(27)	414
第388图	5-836~844号土坑	353	第450图	土坑出土遺物(28)	415
第389图	5-845~855号土坑	354	第451图	土坑出土遺物(29)	416
第390图	5-856~863号土坑	355	第452图	土坑出土遺物(30)	417
第391图	5-864~871・873号土坑	356	第453图	土坑出土遺物(31)	418
第392图	5-872・874~878・883号土坑	357	第454图	土坑出土遺物(32)	419
第393图	5-879~881・884~888号土坑	358	第455图	土坑出土遺物(33)	420
第394图	5-890~895号土坑	359	第456图	土坑出土遺物(34)	421
第395图	5-889・896~900号土坑	360	第457图	土坑出土遺物(35)	422
第396图	5-901~903・905・906号土坑	361	第458图	土坑出土遺物(36)	423
第397图	5-907~910・913~917号土坑	362	第459图	土坑出土遺物(37)	424
第398图	5-918~924号土坑	363	第460图	土坑出土遺物(38)	425
第399图	5-925~929・931号土坑	364	第461图	土坑出土遺物(39)	426
第400图	5-932~937号土坑	365	第462图	土坑出土遺物(40)	427
第401图	5-938~945号土坑	366	第463图	土坑出土遺物(41)	428
第402图	5-946~951号土坑	367	第464图	土坑出土遺物(42)	429
第403图	5-952~957号土坑	368	第465图	土坑出土遺物(43)	430
第404图	5-958~964号土坑	369	第466图	土坑出土遺物(44)	431
第405图	5-965~970・972・973号土坑	370	第467图	土坑出土遺物(45)	432
第406图	5-975~979号土坑	371	第468图	土坑出土遺物(46)	433
第407图	5-980・984~987号土坑	372	第469图	土坑出土遺物(47)	434
第408图	5-988~993・995号土坑	373	第470图	土坑出土遺物(48)	435
第409图	5-996~1001・1005・1006号土坑	374	第471图	土坑出土遺物(49)	436
第410图	5-1003・1004・1007~1013号土坑	375	第472图	土坑出土遺物(50)	437
第411图	5-1014~1022号土坑	376	第473图	土坑出土遺物(51)	438
第412图	5-1023~1031号土坑	377	第474图	土坑出土遺物(52)	439
第413图	5-1032・1034~1041・1043号土坑	378	第475图	土坑出土遺物(53)	440
第414图	5-1044~1052・1054号土坑	379	第476图	土坑出土遺物(54)	441
第415图	5-1055・1056・1058~1064号土坑	380	第477图	土坑出土遺物(55)	442
第416图	5-1065~1075・1077号土坑	381	第478图	土坑出土遺物(56)	443
第417图	5-1078~1080・1082~1087号土坑	382	第479图	土坑出土遺物(57)	444
第418图	5-1088~1096号土坑	383	第480图	土坑出土遺物(58)	445
第419图	5-1097~1104号土坑	384	第481图	土坑出土遺物(59)	446
第420图	5-1105・1107~1112・1114号土坑	385	第482图	土坑出土遺物(60)	447
第421图	6-181・197・204~209号土坑	386	第483图	土坑出土遺物(61)	448
第422图	6-210~214・15-1号土坑	387	第484图	土坑出土遺物(62)	449
第423图	土坑出土遺物(1)	388	第485图	土坑出土遺物(63)	450
第424图	土坑出土遺物(2)	389	第486图	土坑出土遺物(64)	451

第487図	土坑出土遺物(65).....	452	第516図	5-68号住居跡(1)	590
第488図	土坑出土遺物(66).....	453	第517図	5-68号住居跡(2)	591
第489図	4-47・90・91・5-259~265号ピット.....	454	第518図	5-68号住居跡出土遺物	591
第490図	5-267~284号ピット	455	第519図	4-1号掘立柱建物跡・出土遺物	593
第491図	遺構外出土土器(1).....	460	第520図	4-2号掘立柱建物跡	594
第492図	遺構外出土土器(2).....	461	第521図	4-3号竪穴状遺構・出土遺物	595
第493図	遺構外出土土器(3).....	462	第522図	4-4号竪穴状遺構	596
第494図	遺構外出土土器(4).....	463	第523図	4-5・6号竪穴状遺構(1)	597
第495図	遺構外出土土器(5).....	464	第524図	4-5・6号竪穴状遺構(2)	598
第496図	遺構外出土土器(6).....	465	第525図	4-5号竪穴状遺構出土遺物	599
第497図	遺構外出土土器(7).....	466	第526図	4-3~8号焼土	600
第498図	遺構外出土土器(8).....	467	第527図	4-9~11号焼土・出土遺物	601
第499図	遺構外出土土器(9).....	468	第528図	4-83・84・86・100・101・5-803・805・806号土坑.....	602
第500図	遺構外出土土器(10).....	469	第529図	5-817~820号土坑	603
第501図	遺構外出土土器(11).....	470	第530図	土坑出土遺物.....	603
第502図	遺構外出土土器(12).....	471	第531図	4・5区ヤックラ全体図.....	604
第503図	遺構外出土土器(13).....	472	第532図	4-1号ヤックラ	605
第504図	遺構外出土土器(14).....	473	第533図	4-2・3号ヤックラ	606
第505図	遺構外出土土器(15).....	474	第534図	5-1号ヤックラ	607
第506図	遺構外出土石器(1).....	476	第535図	ヤックラ出土遺物.....	607
第507図	遺構外出土石器(2).....	477	第536図	遺構外出土遺物.....	608
第508図	遺構外出土石器(3).....	478	第537図	住居時期別分布図.....	618
第509図	遺構外出土石器(4).....	479	第538図	4-17号住居跡遺物出土図	619
第510図	遺構外出土石器(5).....	480	第539図	5-88号住居跡遺物出土図	620
第511図	遺構外出土石器(6).....	481	第540図	5-124号住居跡遺物出土図.....	621
第512図	遺構外出土石器(7).....	482	第541図	5-77号住居跡遺物出土図	622
第513図	遺構外出土石器(8).....	483	第542図	5区柱穴列.....	623
第514図	4-21号住居跡	589	第543図	石器組成図.....	624
第515図	4-21号住居跡出土遺物	589	第544図	重量分布図.....	625

表 目 次

表1	周辺遺跡一覧表.....	8	表4	平安時代、中・近世遺物観察表	608
表2	土器観察表	484	表5	遺構一覧表(平成15年度)	610
表3	石器観察表	565			

第1章 長野原一本松遺跡の発掘調査

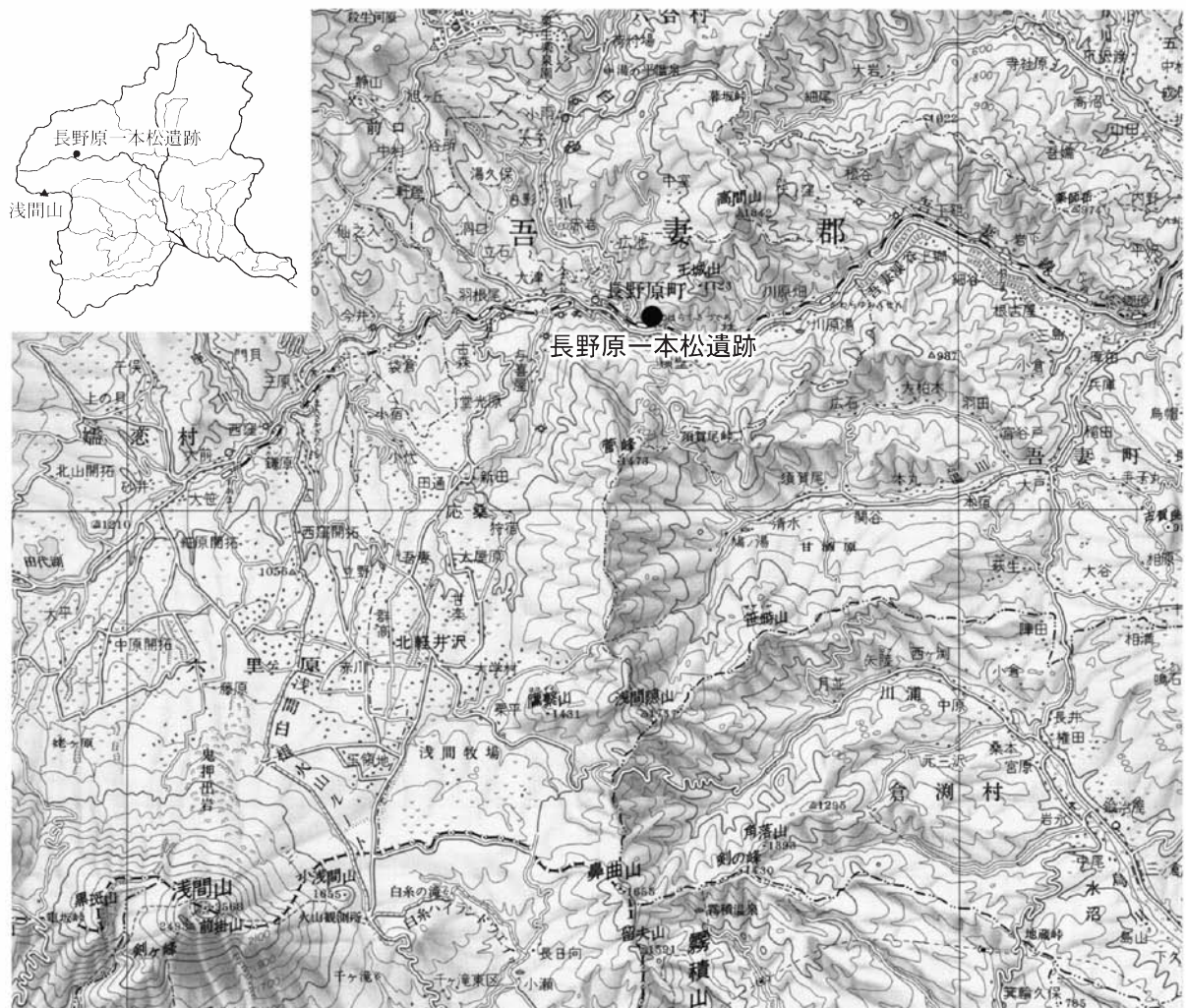
第1節 発掘調査に至る経緯

ハッ場ダム建設に伴う発掘調査は平成6年度より開始され、長野原一本松遺跡では、長野原地区の代替地造成に伴う発掘調査として行われた。調査開始からちょうど10年目にあたる平成15年度は、代替地の北側部分を対象として調査を行った。代替地の北東部にあたる4区の北側部分から西に調査は進められ、5区の北側部分さらに6区の一部について調査を行った。調査面積は9,550㎡である。

4区では調査範囲の北及び東側には近・現代の集石遺構（ヤックラ）が存在していた。特に北側のヤックラは小山状に石が集められていた。これらのヤックラは現在の畑や山林の地境ともなっている。

調査区内北側部分は傾斜がやや強くなり、黒色土の厚さも比較的薄い状況を呈していた。区の南側には大きく開く谷が在り、遺構はこの谷を廻るように作られた状況が見られる。検出された遺構は縄文時代の住居跡7軒、平安時代1軒、土坑46基(数基の風倒木含む)、中世の掘立柱建物跡2棟、竪穴状遺構4基、その他焼土等である。

5区については調査区の南側から西にかけて多くの住居跡、土坑が検出された。切り合いも多く、堆積する黒色土も厚かった。検出した住居は縄文時代80軒、平安時代1軒、土坑311基である。6区については東側の一部を調査、住居跡4軒、土坑13基を検出した。



第1図 長野原一本松遺跡位置図

第2節 発掘調査の方法

長野原一本松遺跡の発掘調査は平成6年より開始され、調査にあたって調査区全体を覆う形でグリッド設定を行った。設定にあたっては、日本平面直角座標第IX系を使用し、1km方眼の大グリッド「地区」を設定しさらにこの中を100m方眼の中グリッド「区」に分けた。この区が調査区を表す名称として使用されている。

中グリッド「区」の中をさらに4m方眼で細分したものを最小グリッドとして使用している。このグリッドの呼称は、中グリッドの南東隅を起点とし、北方向に1・2・3……と数字を付し25まで、西方向へA・B・C……とYまで付した。こうして設定した最小グリッドの呼称は中グリッド「区」、小グリッドの南東交点（例えばA-1）を付け4m方眼名とした。

遺構番号は区毎に1から付し年度を超える場合でも、続き番号を使用している。このため年度をまたいで調査を行った遺構については同番号を用いている。

発掘調査の手順は調査対称区域を委託者側立ち会いの下で範囲および上物等の確認を行った。調査では、まず重機によって表土の除去を行い、遺構確認面を確定した。場所により2ないし3面調査が必要となる場合があり、特に谷地部分については黒色土の堆積状況により注意を要した。表土除去後遺構確認作業に入り、時期の新しい遺構から掘り下げを行った。また黒色土の堆積が厚く遺構の検出が難しい場所については、グリッド方眼を設定し、人力による掘り下げを行った。また遺物については極力出土位置に留めて掘削を行い、遺構等の確認ができない部分についてはグリッド毎に取り上げを行った。

確認された各遺構の調査は基本的に土層観察用のベルトを1ないし2本を設定し掘り下げた。この際遺物については原位置に留め、床面あるいは底面確認後土層観察を行い、写真、実測後ベルトの除去を行う。

ベルト除去後は遺物出土状態の観察、写真・実測を行い取り上げを行った。遺物取り上げ後は土坑等については底面の確認、精査を行い平面図、断面図、写真撮影を行う。また、住居については、床面の精査、柱穴、埋甕、炉の確認を行い、それぞれの断面図、平面図、写真撮影後掘り上げを行った。その後全体の写真、平面図、断面図を取り生活面の調査を終了する。最後に床面、炉、埋甕等の断ち割りを行い、堀方面の調査、検出を行い、床下土坑、重複等の確認をし調査を終了する。

各遺構調査後は全体図の作成、写真撮影を行なった。なお、発掘調査は4月から12月までとし、凍結等により1～3月の間は行っていない。

ハッ場ダム関連遺跡の略称として調査開始時に協議を行い下記の略号を付すこととなった。

1. ハッ場ダムの略称 YD (Yanba-Dam)
2. 遺跡番号 長野原町の5地区に1～5までの番号を付し、それぞれの地区内における調査順に1から始まる連番を用いることとした。
1-川原畑地区、2-川原湯地区、3-横壁地区、4-林地区、5-長野原地区である。ちなみに、長野原一本松遺跡はYD (ハッ場ダムの略称)、5 (長野原地区)、01 (地区内における1番目の調査遺跡) となり、YD 5-01が長野原一本松遺跡の略称となる。

調査時における取り上げ遺物のラベル、各図面には基本的にこの略称が付されている。但し、報告書作成時には基本的に遺跡略称は使用していない。

なお、住居、土坑等の遺構番号については100方眼の中グリッド「区」毎に、1から付番し、当該年度の調査では、前年度からの続き番号を使用している。

第3節 発掘調査の経過

平成15年度調査の経過

以下に4月からの調査経過を概述する。

4月

調査開始、一部前年度に表土を除去した部分より進め全面遺構確認作業開始。

昨年度に炉の存在を確認していた4-16号住居の掘削を開始、他に土坑や包含層確認に入る。

4-71・72号土坑確認、風倒木の可能性。北西部分の谷地を確認調査、掘削、礫および土器の集中が見られる。トレンチにて下部の確認。4-16号住居跡の全体をほぼ検出、張り出し部を南に持つ敷石住居、張り出し部分は削平か、接合部に方形石組み遺構あり。4-16号住居跡の北側に4-3号竪穴状遺構確認、南壁に石積みあり、床面に炭化物、焼土が見られる。その他、近世と判断される焼土が点在。4-17号住居跡は主体部が方形を呈し南側に張り出しを有す。

敷石は僅かに点在する程度で床面に凹凸顕著。奥壁に平石を埋め込んだ立石および北西角に石棒が埋め込まれていた。調査は北側から南に進めて行った。中世と考えられる掘立柱建物が2棟検出された。(4-1号および2号)さらに竪穴状遺構が4基検出された、特に3号、5号は遺存状況が良く、焼失した状況が伺われた。

5月

4-17号住居跡に石組遺構確認、一部に地山礫を利用。4-3号竪穴の床面より円盤状鉄製品出土、紡錘車か。調査区の南東部において4-18号住居跡を確認、比較的大型の住居であるが、南側が削平されていた。住居北よりの床面に大型の土器が伏した状態で検出されている。

4-18号住居跡の西側に検出された4-19号住居跡は当初石が大量に投げ込まれた土坑と考えていたが、礫を取り除いた後に炉が検出されたことから住居に変更。

4-16号住居の掘方を行う中でほぼ真下に位置する4-20号住居跡を確認したが遺存状況は悪かった。

4-1・2号ヤックラ断ち割り、全景写真。

土坑調査出土遺物少なく時期不明なものも多い。区の西側谷地部において平安住居(4-21号)を検出したものの、状態は極めて悪く、全容は不明。

6月

4区に続き西側5区の調査を進める。北東側は遺構が遺構はまばらで僅かに平安時代の住居(5-68号)が検出されたのみであった。このため黒色土の残る部分について、トレンチ調査で遺構確認を行ったが遺構は確認されなかった。

4区と5区にかけて土坑が点在して検出された。いわゆる陥し穴の他に長円形で礫が多量に詰まった近世以降と考えられる土坑が見られた。

7月

さらに東へ調査を進めて行く中で、遺物が多く出土しはじめる。4区との境部分である谷地部において縄文の住居を確認、さらに南側平成11年度の調査区に接する部分において数軒の重複する住居を確認した。

また、4区において検出した4-5号竪穴状遺構は多くの炭化材、種実、焼土が検出され茶臼や筒状の銅製品が出土した。5区の南側において5-38・39号住居跡の調査、本住居は一部平成11年度に調査を実施している。4区の調査がほぼ終了となり高所作業車による全景写真。

第1章 長野原一本松遺跡の発掘調査

8月

調査の中心を5区に移す。調査区の南側にほぼ東西に走る水道管に沿って住居が並ぶように検出された。多くの住居が重複するなかにおいて5-77号住居跡（敷石住居）は状態が良好であった。主体部ほぼ全面に石が敷かれ、南に延びた張り出し部にも比較的大きな石が並んで検出された。西側に検出された5-92・93・113号住居跡は重複し、多量の土器および石器が出土している。さらに西側には10軒以上の住居跡が重複して作られていたために、調査は困難を強いられた。また土坑も多く検出されており、整理を進める中で2棟の掘立柱建物（5-A・B号）を認定するに至った。

遺構の集中部分から北側に僅かに離れるだけで住居はもちろんのこと、土坑の検出もほとんど見られなくなった。

9月

5区西側部分の調査、5-83号住居跡確認、後期の大型住居、張り出し部は平成8年度に配石として調査されている。多量の土器、石器を出土。周辺部に5-94・96号住居跡を検出したがいずれも、削られており残りが悪い。北側の遺構集中部において多くの土坑を確認、いずれも住居を切って掘り込まれている。

5-39号住居跡の東側に重複した5-74号住居跡（敷石住居）を確認、張り出し部には扇形の敷石が見られる。主体部は東西に走る水道管敷設溝により大きく壊されている。

10月

住居の広がりにはさらに調査区の北西側に広がっていたが、薄くなっている。逆に南西側は住居および土坑が極めて重複して構築された状況で、各遺構の状況は極めて悪かった。そうした状況の中5-83号および5-124号住居跡は大型の柄鏡形住居で東西に約30m程離れて位置するが形状が似ており時期もほぼ同時期と考えられ注目される。

住居の密集度合いは西側6区に入り途切れる状況を示す。6-10号住居跡は敷石住居であるが主体部にほとんど石は見られず。炉から南側張り出し部に向かって石が検出されている。

本年度の調査は東から4・5・6区と進めてきたが、住居跡の分布状況からちょうど環状集落域の北側弧状部分の調査であったと考えられる。時期的には中期後半から後期前半の住居や土坑が確認されたわけであるが、一本松遺跡を理解する上でかなり重要な部分が明らかになったものと考えられる。

11月

5区南西部分の最も遺構集中部の調査に入る。黒色土中より多くの遺物が出土するが、遺構の範囲が確定しがたい。著しい重複のため、極めて困難な状況が続く、検出した住居は北側の遺存状況は比較的良かったものの、南側に関しては多くの土坑の重複が見られることから削平が著しい。

僅かに検出した住居の並びを見ると明らかに弧状を為している状況であった。5-124号住居跡を確認、大型の柄鏡形住居、掘り込み深く礫や遺物も多く出土。周囲は自然礫多く、また他の住居、土坑が多く重複する。大型の礫が弧状に並んだ5-9号列石を確認、5-124号住居跡と関連か。

12月

5-124号住居の調査に集中する。下面の調査に入り遺物の量も多く覆土中に多量の礫が見られたことなどから調査はなかなか進まない状況であった。検出した炉は浅い落ち込みと埋設土器を伴う。さらに、本址の掘方を行う中でさらに古い5-145号住居跡も検出された。張り出し部の下位に検出した土坑の中に大きな礫を検出した。調査終盤の12月後半に大雪が降り、大変な状況下ながら、何とか12月最終週をもって平成15年度の調査を終了した。



第2図 長野原一本松遺跡調査区及び経過図

第2章 地理的及び歴史的環境

第1節 地理的環境

長野原一本松遺跡が所在する吾妻郡長野原町は、関東地方の北西奥部、群馬県吾妻郡域の南西部に広がる町である。町の北部を吾妻川が東流し、川の左岸を国道145号線が走る。この国道は渋川市で新潟に続く国道17号と分岐し、吾妻川に沿って長野原町に入り大津で草津と嬭恋方面に別れる。古くは草津道として川の右岸側を通っていた。

遺跡に立って周囲を臨むと南には川を隔てて須賀尾峠、丸岩を、遙か北西方向には草津白根山、南西には浅間山が位置している。いずれも現在も活発に活動している日本でも有数の活火山として知られている。

町の北部を流れる吾妻川は、長野県境の鳥居峠付近に源を発して東に流れ、町域のほぼ中央で川幅をやや広くし、東端では第3紀層を深く刻んで紅葉の名所として知られる吾妻渓谷を形成し、さらに東に流れ渋川市付近で利根川に合流している。この吾妻川には両側に迫る山地から流れ下る多くの支流が見られる。

長野原一本松遺跡が載る台地は、吾妻川左岸の河岸段丘上で、左岸側にあつては比較的平坦で開けた場所でもある。

遺跡地の地形は北側の山から傾斜する台地がやや南傾斜を持つ舌状地形を為し、東西および南側が谷地形となっており、下位段丘面には現在 JR の長野原草津口駅、長野原町立東中学校等があつて、やはり比較的平坦な舌状地形となっている。吾妻川はこの台地の南を大きく迂回する形で流れている。

遺跡地内の地形をさらに詳細に見ると、集落の中心部分が位置する場所の標高は635m前後である、この集落のある舌状台地は南への張り出しに比して横幅を有す、東にもやや狭いながら同様の地形が見られるが、遺構の広がりほとんど見られない。さらに東側には、この台地の東縁を区切る「とちのき沢」が谷を作り吾妻川に流れ込んでいく。この沢を隔てた東側が幸神遺跡である。

また、この付近は遺跡地の南側がかなり急崖であるのに対し、西側については平坦部分こそ幅狭となつてはいるが、比較的緩やかな傾斜をもつて続いており、現在でも遺跡地に入る道路はこの場所を通過している。

遺跡の西側約500mには、六合村方面から流れ下る白砂川が吾妻川に合流しており、流れ込む支流としては大きな河川の一つである。

第2節 歴史的環境

長野原町における遺跡調査の先駆けは昭和29年に行われた勘場木遺跡が揚げられる。「勘場木石器時代住居跡」として県指定史跡となっている。その後、昭和30年代後半から40年代にかけて分布調査が行われ、昭和53年には川原畑地区に所在する石畑岩陰遺跡が鉄道工事に伴い調査が行われている。昭和62年からは八ツ場ダム建設に関する埋蔵文化財詳細分布調査が、県および町教育委員会によって行われ、183カ所の遺跡(包蔵地)が報告されている。

また、昭和63年の懈(くぬぎ)Ⅱ遺跡の調査をはじめとし、多くの発掘調査が町教育委員会によって行われている。平成6年からは、当事業団による八ツ場ダム建設に伴う発掘調査が開始され、本遺跡を始め、対岸の横壁中村遺跡、久々戸遺跡、林楡木遺跡、中棚遺跡等々新たな遺跡の調査が実施され、縄文時代から近世にかけての調査が行われ現在に至っている。

以下、長野原一本松遺跡周辺における時代毎の主な遺跡を概観しておきたい。一覧表のNoは地図の遺跡番号と一致する。なお、遺跡分布図上の細線は遺跡の範囲を、太線で囲まれた部分は各調査年次毎の調査区を示している。

旧石器時代

長野原町においては旧石器時代の遺物は現在のところ出土していない。

縄文時代

長野原一本松遺跡の南側を東流する吾妻川は、ハッ場地区を南北に分ける大きな自然的な要因であったと考えられる。本遺跡を含め両岸の上下段丘上、さらには川に注ぐ沢筋に面した場所に多くの遺跡が所在する。

先述したように草創期、早期の遺物に関しては近年の調査で発見が相次ぐようになってきた。林楡木II遺跡・立馬II遺跡等で草創期後半の撚糸文土器や早期の押型文土器などが出土している。また岩陰遺跡等も知られ、石畑岩陰遺跡などで多縄文系の土器が出土している。これらの遺跡では早期末から前期初頭の繊維土器なども見られる。右岸側の遺跡では現在のところ草創期、早期の遺跡はほとんど見られない。

前期については早期末から続く遺跡として林楡木II・立馬I・III遺跡・三平遺跡において早期末の繊維土器、前期初頭から後半にかけての花積下層式、関山式、諸磯式土器等が出土している。

中期になると遺跡は拡大し、両岸の比較的広い地を求めて居住するようになる。初頭から前半にかけての遺跡は林楡木II、立馬I・II遺跡で中期初頭の住居、土坑が検出されている。中葉から後半になると遺跡数、遺構数は増え、本遺跡と横壁中村遺跡は吾妻川を隔てて対峙する大集落を形成するようになる。

この時期のその他の遺跡としては、左岸では上ノ平遺跡が、右岸には横壁中村遺跡の上流に接して位置する山根I、III遺跡があるもののその規模は前述した2遺跡に比すれば小規模である。なお、上ノ平遺跡では中期中葉の住居がまとまって検出されている。

後期については、長野原一本松遺跡、横壁中村遺跡で引き続き集落の継続が見られ、林中原・同上原I・IV遺跡で住居等が見られる。さらに、平成20年度に調査が行われた川原湯石川原遺跡において縄文中・後期の住居の他、配石墓、列石遺構等が検出された。晩期については長野原一本松遺跡ではほとんど見られないが、横壁中村遺跡では多くの遺物が見られる。左岸では下原遺跡、立馬遺跡で、右岸では久々戸遺跡、下原遺跡で少量の土器が出土、川原湯勝沼遺跡では晩期末から弥生前期に比定される再葬墓が検出されている。

弥生時代の遺跡は少ないものの、前期の遺物は川原湯勝沼遺跡で見られ、中期については横壁中村遺跡、立馬II遺跡等で出土しており、今後その数は増えてゆくものと考えられる。

古墳時代についてはこれまで明確な遺構が確認されていなかったが、下原遺跡、林中原遺跡で中期の住居跡が発見され注目される。古墳に関しては現在のところ確認はされていない。

奈良・平安時代の遺跡は長野原一本松、楡木II、花畑、立馬、三平、川原湯勝沼、横壁中村遺跡等で住居が検出されている。時期は9世紀後半から10世紀を中心としている。この時期の遺構の調査数は近年増しており、沢沿いの奥まった場所にも集落が点在することが確認されている。

中世に関しては長野原一本松・横壁中村・中棚II遺跡等で遺構・遺物が検出されている。周辺に見られる城郭跡としては、林城、西に白砂川を隔てて長野原城が位置し、川を挟んだ南には柳沢城が位置している。

近世の遺跡は両岸の下位段丘において久々戸、尾坂、中棚、下原、川原湯勝沼遺跡等において天明三年の浅間山噴火に伴う泥流下の建物や畑が検出されている。中でも平成19年度に調査が開始された川原湯東宮遺跡では、泥流に埋没した大型の建物跡が検出され、多くの木製品や金属製品が出土し注目された。

・参考文献 長野原町教育委員会 1990「長野原町の遺跡—町内遺跡詳細分布調査報告書—」

第2章 地理的及び歴史的環境

表1 周辺遺跡一覧表

No.	遺跡名	所在地	主な時代	概要	備考	報告書等
1	長野原一本松遺跡	長野原町長野原	縄文・平安	縄文時代中期～後期にかけての集落跡、大形の掘立柱建物、敷石住居などを検出、平安時代の住居、中世の掘立柱建物や多くの土坑等が検出されている。	平6～17・19・20年度埋文事業団調査 本書は平15年度調査資料の報告	③⑬⑯⑳
2	幸神遺跡	長野原町長野原	縄文	縄文時代中期の住居・土坑、陥し穴。	平8・9・17年度埋文事業団調査	⑭
3	尾坂遺跡	長野原町長野原	近世	天明三年泥流下の畑・建物跡。平安時代の住居跡、縄文埋蔵。	平6・7・11・18～20年度、埋文事業団調査	
4	御嶽山岩陰	長野原町林	縄文・弥生	岩陰遺跡。		
5	蜂ツ沢岩陰	長野原町林	縄文?	岩陰遺跡。打製石斧出土。		
6	楡木I遺跡	長野原町林	縄文	散布地。		
7	楡木II遺跡	長野原町林	縄文	縄文時代早期の集落、前期、中期の住居、平安時代の住居跡	平12・13年度、埋文事業団調査	⑰
8	楡木III遺跡	長野原町林	縄文・弥生	縄文時代前期・後期、弥生時代の包含層。	平9年度、埋文事業団調査	
9	滝沢観音岩陰	長野原町林	中世・近世	岩陰遺跡。「滝沢観音」の堂宇と石仏群あり。		
10	二反沢遺跡	長野原町林	中世・近世	中世の石垣を伴う造成跡、近世水路、畑跡。(旧大乘院堂跡)	平12年度、埋文事業団調査	⑱
11	中棚I遺跡	長野原町林	縄文・平安	散布地。		
12	中棚II遺跡	長野原町林	近世	天明三年泥流下の畑、および安永九年と考えられる埋没畑。	平11～13・15年度、埋文事業団調査	⑤⑥
13	下原遺跡	長野原町林	古墳・近世	天明三年(1783)泥流下の畑、中世の畑、古墳時代中期の住居跡、および祭祀遺物、平安時代の焼失住居等。	平12・16年度、埋文事業団調査	⑤⑭
14	林宮原遺跡	長野原町林	古墳・平安	古墳時代の住居跡1、平安時代の住居跡6、土坑6。	平15年度、町教委調査	町教委2004
15	林中原I遺跡	長野原町林	縄文・中世	縄文時代中期前半の住居跡・土坑。中世城郭「林城」を調査、石垣を伴う土橋、ため池を検出、さらに炉に内耳鍋を伴う竪穴状遺構等。	平19・20年度埋文事業団調査	
16	林中原II遺跡	長野原町林	縄文	縄文時代後期の敷石住居、晩期の土器片。	平15年度、町教委調査	
17	下田遺跡	長野原町林	平安・近世	散布地。		
18	上原I遺跡	長野原町林	縄文	縄文時代後期の敷石住居跡。	平15年度、町教委調査	
19	上原II遺跡	長野原町林	縄文	散布地。		
20	上原III遺跡	長野原町林	縄文	散布地。		
21	上原IV遺跡	長野原町林	縄文・近世	縄文時代後期の敷石住居、配石遺構。	平15年度、埋文事業団調査	⑰
22	花畑遺跡	長野原町林	縄文・平安	平安時代の住居跡、陥し穴群。	平9～12年度、埋文事業団調査	④
23	林の御塚	長野原町林	中世・近世	寛永二年(1625)に「権大僧都法印村信」の墳墓として築造されたと伝えられる。古墳の可能性も。	長野原町指定	
24	東原I遺跡	長野原町林	縄文	縄文時代土器片、陥し穴。	平6・9年度、埋文事業団調査	
25	東原II遺跡	長野原町林	縄文	縄文時代後期土器片、石器出土。	平10年度埋文事業団調査	
26	東原III遺跡	長野原町林	平安・近世	散布地。		
27	立馬I遺跡	長野原町林	縄文	縄文時代早期・晩期の住居跡。弥生時代中期後半の土器棺墓。	平13・14年度、埋文事業団調査	⑬
28	立馬II遺跡	長野原町林	縄文	縄文時代草創期・早期の土器・石器。中期初頭～前半の住居跡9軒、中期後半の住居跡1軒。平安時代前後の陥し穴等。	平14・15年度、埋文事業団調査	⑩
29	立馬III遺跡	長野原町林	縄文	早期の竪穴住居、中期後半敷石住居、集石、屋外炉等	平19年度埋文事業団調査	
30	川原湯勝沼遺跡	長野原町川原畑	縄文・平安・近世	縄文時代晩期の埋設土器、古墳時代の遺物、平安時代の住居跡、天明三年泥流下の畑。	平15・16年度、埋文事業団調査	⑧
31	横壁勝沼遺跡	長野原町横壁	縄文	縄文時代中期～後期の土器片、槍先形尖頭器出土。	平6・7年度、埋文事業団調査	
32	横壁中村遺跡	長野原町横壁	縄文・弥生平安・中世	縄文時代中期後半から後期後半を中心とする集落跡、後期の列石、配石遺構等。縄文時代晩期、弥生時代の土器片、平安・中世の遺構・遺物。	平8～17年度、埋文事業団調査	⑤⑦⑨⑫⑲⑳
33	山根I遺跡	長野原町横壁	縄文・平安	散布地、磨製石斧、石鏃、石棒などの石器類出土。		
34	山根II遺跡	長野原町横壁	平安・近世	散布地。		
35	山根III遺跡	長野原町横壁	縄文・近世	縄文時代中期後半の住居、土坑調査。	平10・13年度、埋文事業団調査	⑯
36	山根IV遺跡	長野原町横壁	縄文・近世	石器出土。		
37	西久保I遺跡	長野原町横壁	縄文	縄文時代後期の住居、水場を検出。	平6・10・12年度、埋文事業団調査	
38	西久保II遺跡	長野原町横壁	平安	散布地。		
39	西久保III遺跡	長野原町横壁	縄文	散布地。		
40	西久保IV遺跡	長野原町横壁	縄文	散布地。		
41	柳沢城跡	長野原町横壁	中世	別城一郭付随と呼ばれる特殊な構造、曲輪、堀、土居などを検出、常滑、瀬戸、美濃、珠洲焼、さらには中国陶磁などが出土。	平5年度、町教委調査	
42	久々戸遺跡	長野原町長野原	近世	天明三年泥流下の畑、建物跡、縄文時代の土器片。	平9・10・15年度、埋文事業団調査	⑤⑥
43	向原遺跡	長野原町長野原	縄文・弥生平安	縄文時代中期後半～後期の住居跡3軒・敷石住居2軒、土坑群。弥生時代中期の土坑、平安時代の住居跡10軒を検出。	平5年度、町教委調査	「向原遺跡」町教委1996
44	輪木I遺跡	長野原町長野原	近世	天明泥流下の畑跡、近世の陶磁器片。	平16年度、町教委調査	町教委2004
45	輪木II遺跡	長野原町長野原	縄文・平安	縄文時代中期の土器片、石器出土。		
46	輪木III遺跡	長野原町長野原	縄文	縄文時代中期の石鏃、石筈等出土。		
47	長野原城跡	長野原町長野原	中世	土塁や堀切、物見台などが残る。長野原合戦の舞台となる。		

参考文献

- ① 長野原町 『長野原町誌』上巻 1976
- ② 長野原町 『長野原町の自然』 1988
- ③ 群馬県埋蔵文化財調査事業団 『長野原一本松遺跡(1) ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第1集』 2002
- ④ 群馬県埋蔵文化財調査事業団 『ハツ場ダム発掘調査集成(1) ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第2集』 2002
- ⑤ 群馬県埋蔵文化財調査事業団 『久々戸遺跡・中棚II遺跡・下原遺跡・横壁中村遺跡』ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第3集 2003
- ⑥ 群馬県埋蔵文化財調査事業団 『久々戸遺跡(2)・中棚II遺跡(2)・西ノ上遺跡・上郷A遺跡』ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第4集 2004
- ⑦ 群馬県埋蔵文化財調査事業団 『横壁中村遺跡(2)』ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第5集 2005
- ⑧ 群馬県埋蔵文化財調査事業団 『川原湯勝沼遺跡(2)』ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第6集 2005
- ⑨ 群馬県埋蔵文化財調査事業団 『横壁中村遺跡(3)』ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第7集 2006
- ⑩ 群馬県埋蔵文化財調査事業団 『立馬II遺跡』ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第8集 2006
- ⑪ 群馬県埋蔵文化財調査事業団 『上郷B遺跡・廣石A遺跡・二反沢遺跡』ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第9集 2006
- ⑫ 群馬県埋蔵文化財調査事業団 『横壁中村遺跡(4)』ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第10集 2006
- ⑬ 群馬県埋蔵文化財調査事業団 『立馬I遺跡』ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第11集 2006
- ⑭ 群馬県埋蔵文化財調査事業団 『下原遺跡II』ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第12集 2007
- ⑮ 群馬県埋蔵文化財調査事業団 『長野原一本松遺跡(2)』ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第15集 2007
- ⑯ 群馬県埋蔵文化財調査事業団 『山根III遺跡(2)・上原IV遺跡・幸神遺跡』ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第17集 2008
- ⑰ 群馬県埋蔵文化財調査事業団 『楡木II遺跡』(平安・中近世編)ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第18集 2008
- ⑱ 群馬県埋蔵文化財調査事業団 『長野原一本松遺跡(3)』ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第19集 2008
- ⑲ 群馬県埋蔵文化財調査事業団 『横壁中村遺跡(6)』ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第20集 2008
- ⑳ 群馬県埋蔵文化財調査事業団 『横壁中村遺跡(7)』ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第22集 2008
- ㉑ 群馬県埋蔵文化財調査事業団 『長野原一本松遺跡(4)』ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第24集 2008



第3図 周辺の遺跡

第3章 検出された遺構と遺物

第1節 基本層序

長野原一本松遺跡は、吾妻川の左岸に形成された河岸段丘上に立地する。この段丘は浅間山起源の「応桑泥流」堆積物を吾妻川が浸食して形成されたものと考えられており、この堆積物が本遺跡の基盤層をなしている。

「応桑泥流」下には泥流発生直前に降下したとされる、As-BP（浅間一板鼻褐色軽石）およそBP1,8000～20,000が、さらに下位には始良火山灰（AT、BP25,000）層の存在が想定される。また、「応桑泥流」上層ローム中に観察される浅間山給源の軽石層は、浅間一白糸軽石（As-SP、BP18,000）、浅間一板鼻黄色軽石（As-YP、BP13,000～14,000）、浅間一草津黄色軽石（As-YPK、BP10,500～11,500）の軽石層が認められている。

本遺跡内で肉眼的に観察されるのは、As-YPKである。基本層序ではⅧ-1からⅧ-3層にあたる。このAs-YPK層中、Ⅷ-2層はほぼ純粋で発泡も良好（10mm～50mm）な軽石層で、1～2mの厚さで見られる。

Ⅵ（ローム層）上位は、黒褐色ないしは黒色土で台地上部分では4ないしは5層に分けられる。

I層は表土層で、現耕作地部ではおよそ20～30cm、山林その他の場所では30cm前後である。下のII層は部分的にAs-A〔浅間一A軽石、天明三（1783年）降下〕の混入が認められるII-1と、II-1を基調とするも、比較的安定したAs-Aをほとんど含まないII-2とに分層される。そして、このII-2層上層において灰褐色を呈すAs-Kk〔浅間一粕川テフラ、1128年〕の堆積も、極めて部分的にはあるが確認されている。また、As-B〔浅間B軽石、天仁元（1108年）〕およびAs-C（浅間C軽石、4世紀初頭）の存在も示唆されているが、現在のところ確認されていない。さらにAs-D（浅間D軽石、およそBP4,000）についても今後慎重に見てゆく必要がある。

Ⅲ層は小軽石粒がわずかに含まれる黒色土で、かなり軟質である。このⅢ層において確認される遺構として陥し穴がある、平面形が楕円形を呈し底面が長方形を呈すロート状の穴で、覆土は軟質な土で埋まっている。IIおよびⅢ層は、台地上ではほぼ均一な堆積状況を示すが、谷部分においては急激に厚さを増すことが確認できる。本書中の95区の谷地部がその好例である。また、対照的に3区については谷地に向かう斜面部であるが、急傾斜地ということもあり、I層表土下にIIおよびⅢ層がほとんど認められないという状況であった、地形その他自然の作用による変化が看取される。

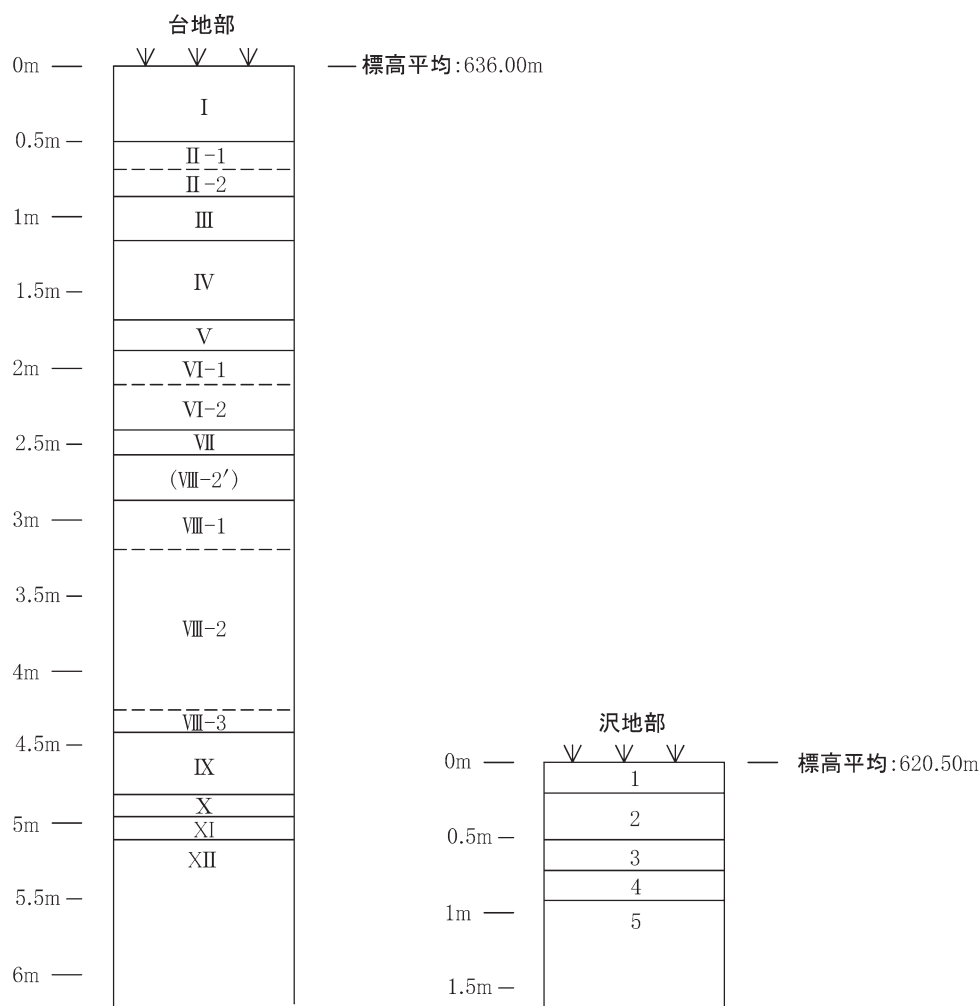
Ⅳ層は白色および黄色軽石を含む黒褐色土で、やや大粒の軽石なども混入する、本層は主に縄文時代の遺構検出面であるが、黒味が強く場所によっては極めて検出が困難であった。このため明確な検出面として、V層まで下げなければならない場面も多々であった。

V層はいわゆるローム漸移層で若干の軽石粒を含む比較的安定した層として認識される。色調は明るい黒褐色土で、比較的締まりがある。

以下Ⅵ層はローム層でⅥ-1（ソフトローム）、Ⅵ-2（ハードローム）に大別される。長野原一本松遺跡で検出されたほとんどの遺構構築面でもある。

平成15年度の調査対象地である4・5・6区については、東西に長く北側が高く南に傾斜を持つ地形で、4区と5区かかる部分が、南に下がる谷地の谷頭にあたり、かなり厚く黒色土の堆積を認めた、さらに上から流れ落ちてきたと思われる礫なども多く含まれている。

第3章 検出された遺構と遺物



第4図 基本層序

基本層序

台地部

- I層 現表土 As-Aを混入する耕作土。
- II-1層 暗褐色土 色調やや茶色がかかる。As-Aを多量混入し、I層に類似するが締まり強い。
- II-2層 黒褐色土 色調やや灰色がかかる。シルト質土をブロック状に混入するが、他の混入物を殆ど含まない。土壤粒子が細かく、サラサラする。白色や黄色などの小軽石粒を微量混入する他は、全体的に混入物を殆ど含まない。締まりなく軟質。
- III層 黒色土 白色や黄色などを呈する粒径約1~5mm前後の小軽石粒やローム粒を多量混入する。層の上・下位で混入物の量に差が看取される部分がある。
- IV層 黒褐色土 白色や黄色などを呈する粒径約1~5mm前後の小軽石粒やローム粒を多量混入する。層の上・下位で混入物の量に差が看取される部分がある。
- V層 暗褐色土 ローム漸移層。軽石粒を微~少量混入する。(一部にIV層との漸移的な層も含む。)
- VI層 黄褐色ローム (VI-1層):ソフトローム (VI-2層):ハードローム
- VII層 黄褐色砂質土 粒径約1~3mm前後の小軽石粒による砂質土。硬化しており、ブロック状の堆積部分も看取される。(VII-2'層 As-YPk、軽石の二次堆積層。台地部の特定範囲で確認される。)
- VIII層 As-YPk (VIII-1層) 赤褐色・黄橙色・灰白色などの火山灰に分けられる。軽石に伴うもので、硬化しているアッシュ。 (VIII-2層) 浅間-草津黄色軽石層。風化などにより、色調が白色がかかる部分もある。粒径は概ね約10~50mm前後の幅が看取される。 (VIII-3層) 橙色・赤褐色・灰色などの火山灰に分けられる。軽石に伴うアッシュ。
- IX層 黄褐色ローム X層に類似するが、軽石の量が少ない。
- X層 黄褐色ローム ロームを主体に、軽石粒を多量混入する。
- XI層 黄褐色ローム 色調がやや白色がかかる。As-BPと思われる軽石と小角礫を少量混入する。
- XII層「応桑泥流堆積物」 赤色・青色スコリアを多量混入する。

沢地部

- 1層 暗褐色土 色調がやや茶色がかかる。現表土。
- 2層 黒色土 礫を少~多量混入する。土質は、台地部のIII層に類似する。
- 3層 黒褐色土 植物質の遺伝子を多量混入する泥炭質土で、少量の湧水がある。
- 4層 礫層 小角礫を主体とする淡褐色土との混土層。淡褐色土は変質したロームで、台地部のVI層相当と思われる。
- 5層 砂礫層 砂礫を主体とする黒褐色土との混土層で湧水がある。

第2節 遺構・遺物の概要

発掘調査は第5図に示すように、東西に細長い形で、地形的にもやや違いが見られ、遺構の密集度にも大きな差が認められる。

それぞれの調査区を遺跡地内における地形から見ると、4区の東側部分は北側の傾斜がかなりきつく、高低差がかなりある。傾斜のある部分においては、表土、黒色土は薄く、地山は大小の礫を多く含んでいる。区の中央部分では北からやや西に弧を描くようにあまり深くは無いが埋没谷の存在が認められた。

黒色土の上層からは遺物の出土はあるが、下位にはほとんど認められなかった。遺構もこの黒色土を切って構築されていた。

5区は最も広く調査された区で南に向かう緩斜面であるが比較的であった。遺構は南側に集中しており、東西に長く連綿と検出された、特に南西部分では遺構の集中が顕著であった。

6区についてはちょうど遺構の切れる場所にあたり、検出数も少なかった。以下、検出された遺構および遺物について、それぞれの時代毎にその概要を記す。

旧石器時代

各調査区において試掘調査を実施したが、遺物は検出されなかった。

縄文時代

本遺跡において主体的な遺構の時期である。検出された遺構数は、住居跡が91軒で、この内3軒(5-1・38・39号、6-17号住居跡)が複数年度に調査がまたがっている。その他、掘立柱建物2棟、単独の埋甕3基、炉3基、配石4基、土坑350基、ピット等を検出した。

住居跡は5区を中心とした緩やかに南に傾斜する場所に多く広がる様相を呈す。平6～14年度にかけて調査を行った環状集落の北側部分にあたると思われる。住居は東西方向への連続性を伺わせている他、4区及び5区の北西部分は点在する状況を示している。4区の住居跡は中期後半～末葉で2軒の敷石住居も検出されている。また、5区では遺構集中部の住居は中期後半に比定されるものが多く、さらに後期の住居が重複するという様相を呈している。

住居の規模を見ると中期後半では径6m前後の比較的大型のものと、径3m前後の小型のものに大別される。それぞれは同様の分布域を有し、重複している者も多い。また、その数はほぼ同数である。

敷石住居は中期末と思われるものが4区で検出されている。南に向かう傾斜地に張り出し部を持つ形状で、いずれも、張り出し部と主体部の間に方形石組み遺構を有す。

さらに後期堀之内1式期の敷石住居は5区に2軒と6区に1軒が確認された。その他、敷石住居跡と思われるものもあるが、敷石の状況が不明瞭であった。

後期の住居は敷石住居を除くとあまり良好なものは少なかった。そうした中において、5-83号・124号住居は大型の柄鏡形の住居で掘り込みも比較的深く良好な状況で検出された。規模は主体部の径は8mを越え、長さも約11mを有す。規模、形状が似ており、時期もほぼ同時期と思われる。約30m離れて位置している。

住居集中部においては、多くの土坑も検出されている。また、M～O-17・18グリッドに位置する2棟の掘立柱建物跡は注目される。調査時には確認できなかったが整理を行う中で認定に至った。1棟は8本柱穴の亀甲形、もう1棟は8本の円(8角)形である。柱穴は深さ形ともに1m前後である。時期は後期と考えられる。

第3章 検出された遺構と遺物

土坑は中期、後期のものが主体であるが、遺構集中部のものは後期が中心と見られる。また、柱痕などが見られるものもあり、掘立柱建物と考えられるものも存在している。

その他の遺構としては埋甕、炉が見られる、埋甕は4基を検出した、9号、12号はそれぞれ住居と接して検出されたことから関連が窺えるが、レベルや埋土の違いなどから単独の埋甕とした。

その他、列石や配石が検出されているが、南に検出されている1～4号列石（長野原一本松遺跡2002）と関連するものと判断される。ピットについてはほとんど遺物が見られないこともあり、時期が未確定なものが多いが、形状、掘り込み共に不明瞭なものが目立ち極めて新しくなる可能性が高い。

なお、今回の調査で検出された陥し穴に関しては、重複関係から明らかに住居よりも新しくなり、埋土も縄文時代の遺構とは異なっている。出土遺物においても、時期を確定できるようなものが見られず、現時点では時代の判断が難しい。平安時代あるいは中世にまで下る可能性もある。

弥生時代

遺構については検出されなかった。

古墳時代

遺構・遺物は検出されなかった。

奈良・平安時代

4区および5区において2軒の住居跡が検出されている。4-21号住居跡は4区の西端、南に開く谷地部に位置する。遺存状況は悪く、東壁に付いたカマドの残骸と僅かにのこる壁を確認したのみである。出土遺物もほとんど見られなかった。5-68号住居跡は5区の北東部に単独で位置し、北東角に石組のカマドを有し羽釜や坏などが出土している。いずれも時期は11世紀前半か。その他には、この時期と判断される土坑などは確認できなかった。

中世

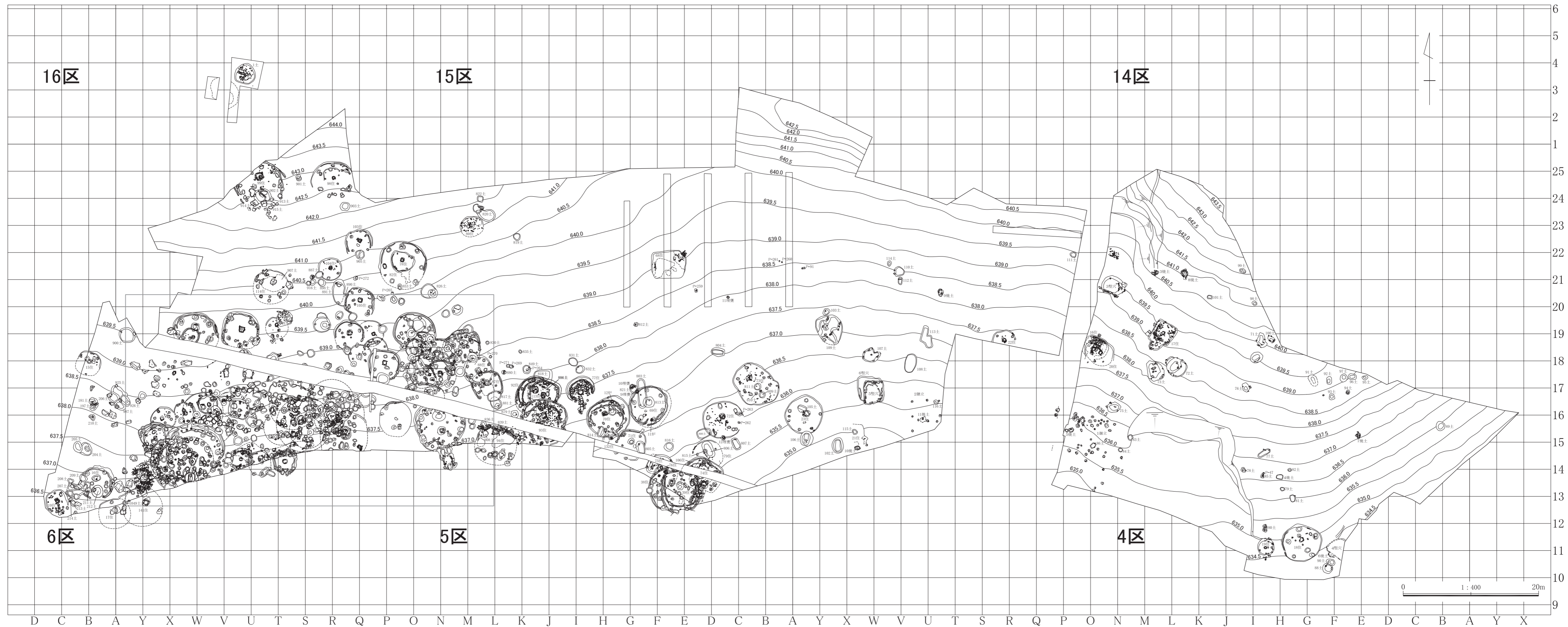
4区において2棟の掘立柱建物跡を検出、4-1号掘立柱建物は東西方向の梁に庇を有す構造か、立て替えが行われた可能性が高い。柱穴の1つより治平元寶が出土している。また、4-2号掘立柱建物は2間×2間である。いずれの建物内にもそれぞれ4-5号焼土、4-11号焼土が建物内に位置しており、囲炉裏等の可能性も考えられる。さらに、4区においては4基の竪穴状遺構が検出されている。4-3号竪穴状遺構は南壁に石垣を有す。また4-5号竪穴状遺構は6号を切って構築され、大量の炭化材、焼土が検出されている。出土遺物は割られた茶臼、磁器、鉢、筒状の銅製品などが出土している。

近世

建物跡などの遺構は検出されていない。土坑については近世あるいは近・現代に属すと思われる掘り込みが見られるが時期の確定されたものは少ない。

その他4区において焼土遺構が10基ほど検出されている。円形を基調とする不定形に広がる焼土に礫を伴うものも見られる。前述した掘立柱建物に付属する可能性のあるものも見られるが、多くは近世以降の所産と考えられる。4-9号より煙管吸い口が出土している。いわゆるヤックラ（集石遺構）が4区、5区において見られた。畑の開墾時や耕作時に出てきた石を地境に帯状に積み上げたもので、下部には比較的大型の石を置き、上にはやや小振りな石が積まれている。

最初に構築されはじめたのは江戸期に遡る可能性もあるが、明確な時期は特定できない。遺構外の遺物としては若干の陶磁器片の他、鉄製品としては火打ち金が2点出土している。また寛永通宝も2点出土している。



第5图 4·5·6区全体图



第6図 5区遺構集中部

第3節 縄文時代の遺構と遺物

1. 住居跡

平成15年度の調査において検出された縄文時代の住居跡は総数91軒である。各区毎の内訳は4区7軒、5区80軒、6区4軒となる。このうち5-1号・38・39号および6-10号住居跡はそれぞれ平成7年、平成11年、13年度の調査において南側ないしは西側の約半分の調査を行っている。また、6-15号住居跡については平成13年度にやはり西側の半分ほど調査を行い、当初土坑としてしていたが、今次の調査でほぼ中央に炉が検出されたことから住居とした。

今回の調査では東から4・5・6区部分の北側が対象とされ、その南側はすでに調査が終了した部分となる。このため前述したように複数年次にわたり調査された遺構も多く見られる。住居の他にも土坑や配石、列石なども例外ではない。

住居の時期は中期後半から後期前半に比定され、その分布を見ると4区については北側の傾斜部に2軒の敷石住居が検出されている。いずれも本遺跡における敷石住居としては比較的古期に位置づけられよう。

4-17号住居跡は奥壁寄りに板状の立石を設け、さらに北西コーナーに石棒を埋め込んで立石としている。この他4区南東側において2軒の住居が検出された。4-18号住居跡は大型で隣接する4-19号住居跡は小型の住居である。

5区については東西に長い調査区の南側に集中して検出されている。調査面積が最も広く検出した遺構数も多い。検出した住居の分布状況は弧状を呈し、環状集落の北側部分であることがわかる。遺構の重複は著しく、中期後半に環状に構築された住居群の上に後期の住居、土坑が重なって構築されている。

このため多くの住居は遺存状況が悪く、全容を把握できなかったものも多い。規模は後期の柄鏡形を呈す5-83・124号住居跡が径8mを越える他、6m前後、3m前後のものに大別される。炉は中期後半のものは方形に石を組む石囲い炉を基本とし、やや不定型な自然礫を円形ないしは楕円形に配すようである。後期のものは焼土を伴う浅い落ち込みに埋甕を据えた埋甕炉などが見られる。やや特殊な例として土器片を楕円形に立て並べた土器囲い炉(5-113号住居跡)などが注目される。この他、5-88号住居の石囲い炉の角には石棒が埋め込まれていた。

後期の敷石住居跡は5-77・74、6-10号などが挙げられる、5-77号住居跡は円形の主体部を持ち南に1列の敷石が延び、脇には大きな石が据えられていた。床面には大型土器が伏された状態で出土しており、注口土器や蓋型土器などが見られた。またミニチュアの石棒も出土している。

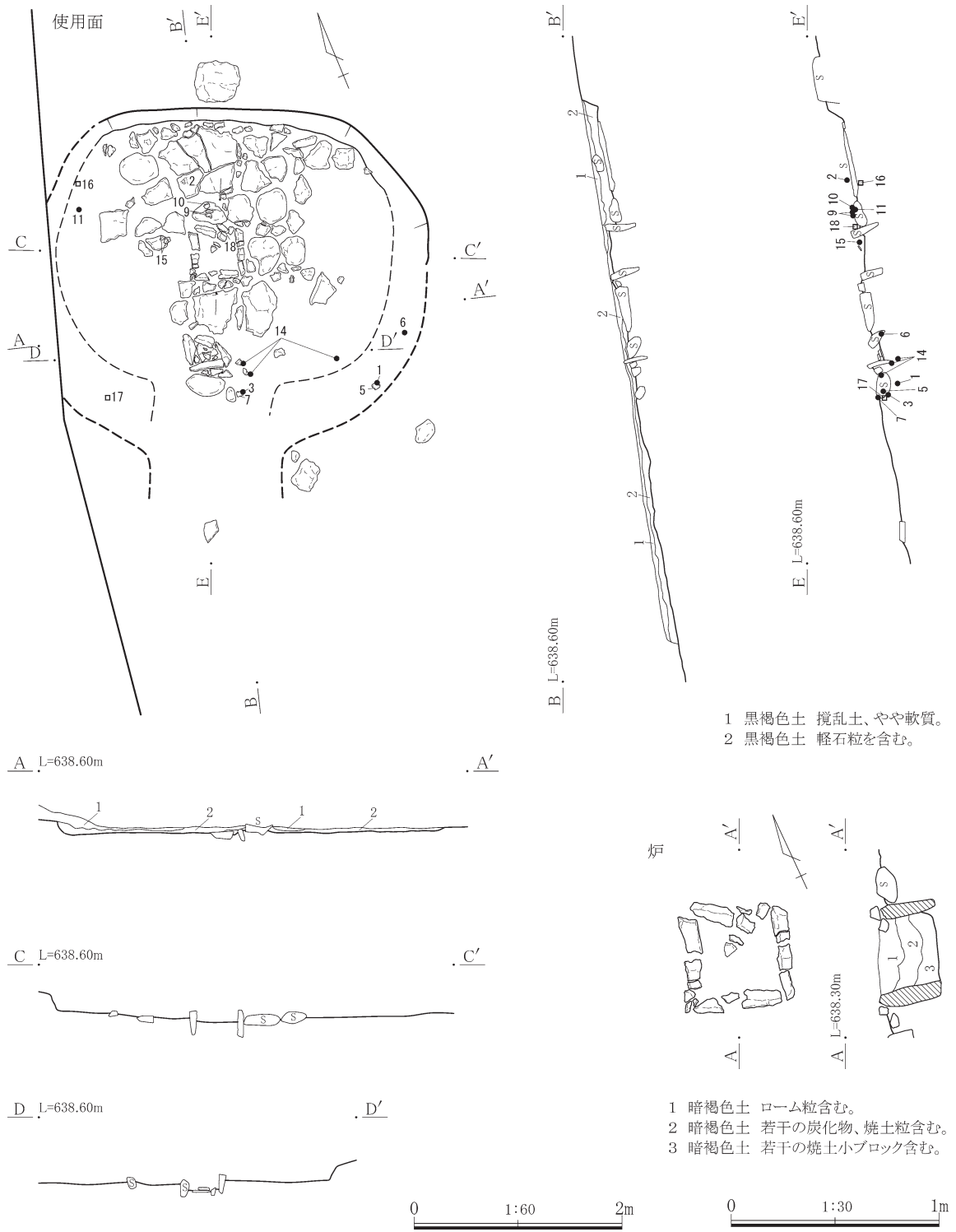
4-16号住居跡 (第7・8図: PL 3・4・112)

位置 N・O-18グリッドに位置する。 **重複** 4-20号住居跡上の西に僅かにずれて重複する。

形状 主体部は隅丸方形を呈し、南側に張り出し部が付く柄鏡形敷石住居と考えられるが、南側半分は削平されており判然としない。 **規模** (420)×(370)×15cmである。 **方位** N-23°-E

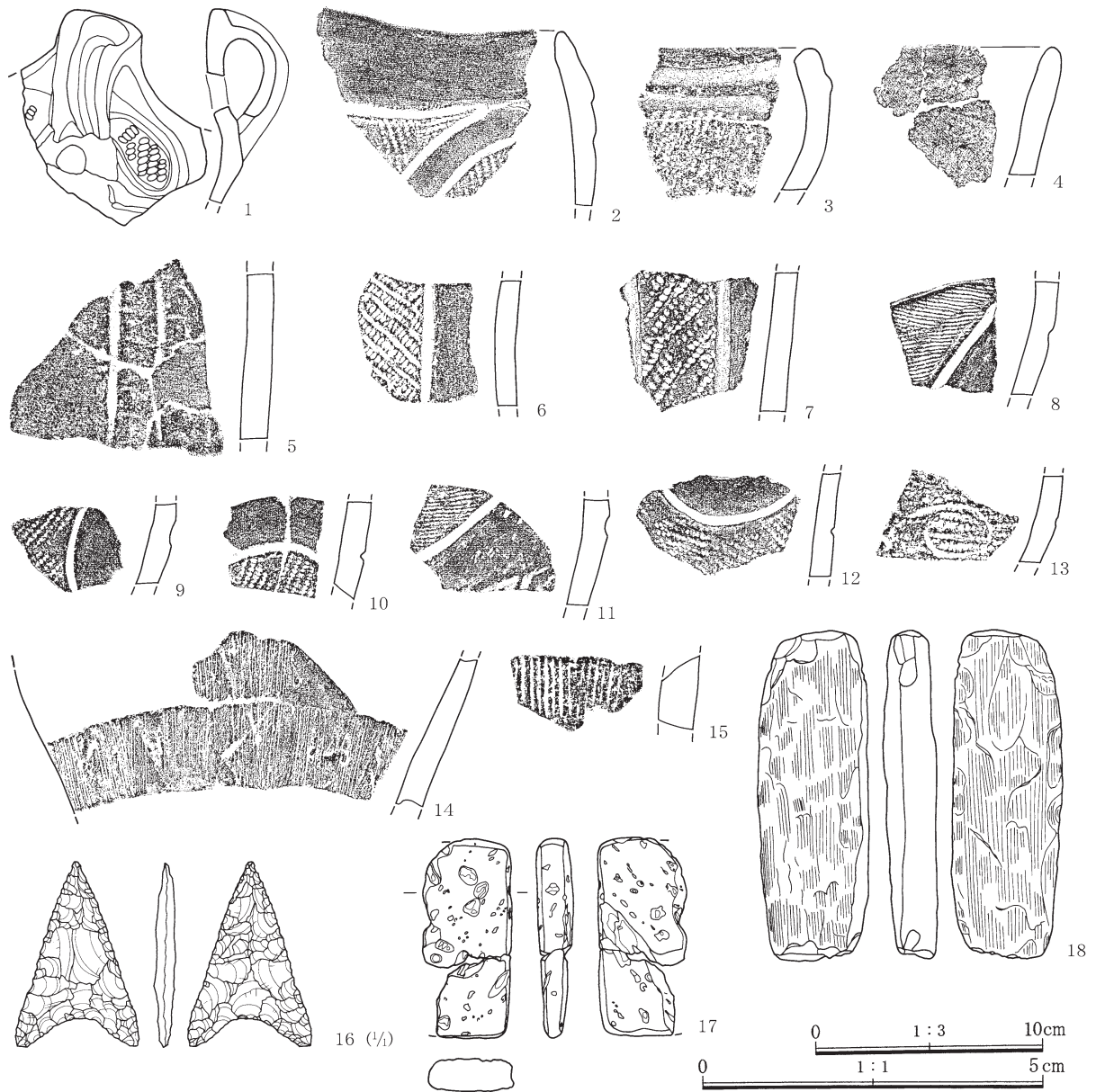
床面 炉の周囲から北側奥にかけて扇形に敷石が残る、住居は南斜面部に構築されており、床面はやや南に傾斜を持つ。炉の手前側にやや崩れた形ではあったが、礫を四角に組んだ石組み遺構が検出されている。石組み遺構の底部には平石が敷かれていた。内部には焼土などは認められなかった。

炉 主体部ほぼ中央に位置、板状の石を四角に組んだ石組炉である。規模は一辺約50cmである。炉石は被熱によりひび割れが顕著である。 **柱穴** 確認できなかった。 **埋甕** 検出されなかった。



第7図 4-16号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物



第8図 4-16号住居跡出土遺物

掘方 下部に4-20号住居跡が存在したために、掘方は不明瞭である。重複外の北西部分についても掘り込みは極めて浅い。

出土遺物 床面および炉の周辺部において若干の土器片、石器が見られた。石器は石鏃の他、長方形で板状の軽石製品が出土している。

時期・所見 南に傾斜を持つ斜面部に構築されており、張り出し部側が低くなっている。最奥部と張り出し部とでは床面で約30cmの高低差が見られる。炉および石組み遺構の北側の石が、いずれも南側に押されたように倒れ込んでおり、北側から何らかの物理的な力が作用したことが想像される。時期は出土土器から称名寺1式期と見られる。

4-17号住居跡（第9～13図：PL 4・5・112・113）

位置 K・L-18・19グリッドに位置する。 **重複** なし

形状 主体部ほぼ方形の柄鏡形敷石住居跡である。 **規模** 460×324×60cm。 **方位** N-40°-E

床面 入り口部から炉を通る、主軸線上の奥壁近くに平石が立てられていた。地面より上の部分は高さ15cm、幅約25cm、厚さは約5cmで表面は平滑に磨った痕跡が認められた。埋め込まれた部分は約25cmで、石の両面には押さえに用いられたと思われる小礫が埋められていた。さらに、住居の北西角には、長さ20cmの石棒が約3分の1を地上に出した状態で埋め込まれていた。敷石は住居の西側に認められたものの部分的である。炉の手前には石組み遺構が構築されている、長さ30cm程の川原石、平石で方形を意識しているものと思われるが、東側は地山の大型礫を利用している。また、この石組みの手前左脇には径30cm程の丸石が据えられた状態で出土している。

炉 主体部のほぼ中央に作られている。自然礫を四角に組んでいたものと考えられるが、西側の礫は抜き取られたと思われ、確認されなかった。それぞれの炉石は被熱によりひび割れが顕著で、手前側の石は一部炉の中に落ち込んだ状態で出土していた。炉内からは土器片が出土している。 **柱穴** 主体部の壁に沿って7本を検出した。奥壁に3本、手前両角の各1本が支柱穴と見られる。径はいずれも20～30cmの円ないしは長円形で、深さは25～40cmである。 **埋嚢** 検出されなかった。

掘方 床下の土坑等は見られず、いわゆる対ピットも確認されなかった。また主体部壁下に周溝が確認され、奥壁下では2重に廻らされている。

出土遺物 土器はあまり多くなく、深鉢の口縁部片等が出土している。炉および床面近くより若干出土した。石器類は埋め込まれた石棒、石皿の他に石鏃、磨石、打製石斧等が見られた。

時期・所見 本住居跡は地山中に極めて大きな礫が含まれている場所に構築されており、住居の床および壁面に露出した状態で残されていた。敷石も炉の周囲にはほとんど見られず、壁側にかなりまばらな状況で認められた。石が敷かれた面についても凹凸が顕著であった。時期は出土土器等から、加曾利E4式期と思われる。

4-18号住居跡（第14～18図：PL 5・6・113・114）

位置 F・G-10・11 **重複** 無し **形状** ほぼ円形を呈す。 **規模** 597×561×52cm。

方位 N-9°-W

床面 北および西側は比較的硬く締まった面を検出したが、南側、東側については攪乱を受けていると思われ、明確な床面は確認できなかった。一部にロームを用いた貼り床を認めたが極めて部分的で、あまり締まりはなかった。 **炉** 中央の北寄りに作られている。規模は1辺約50cmである。やや細長い礫を方形に組んだ石囲い炉であるが、東側の炉石は割られた石皿の転用である。また、炉の南西角には多孔石が据えられていた。炉の底部には炉体土器の破片が出土している。

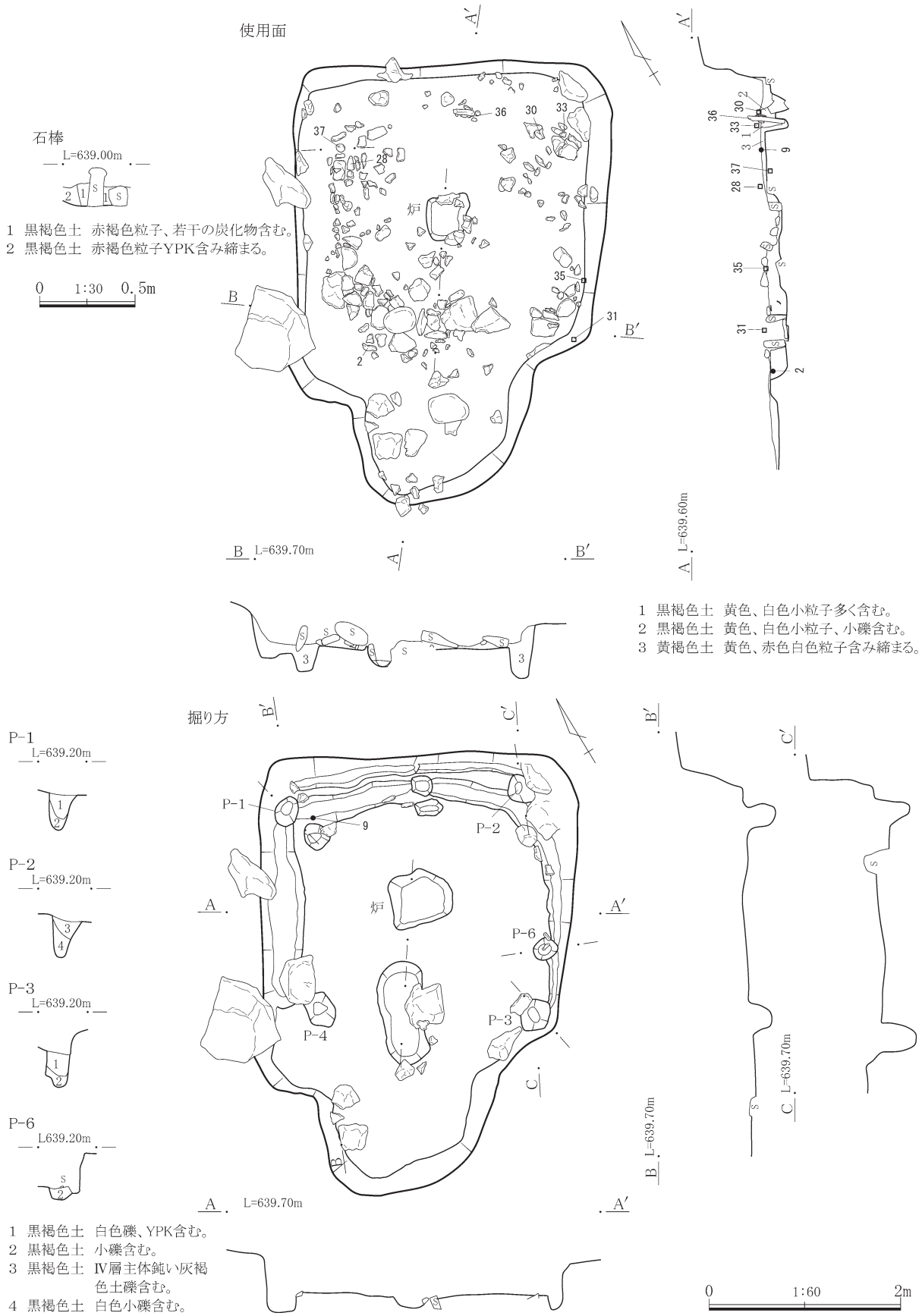
柱穴 壁際に沿って5本を検出した。径約50～80cmで、円ないしは長円形を呈し、深さは50～70cmである。

埋嚢 住居のほぼ中央に小型の深鉢胴部が検出されている。

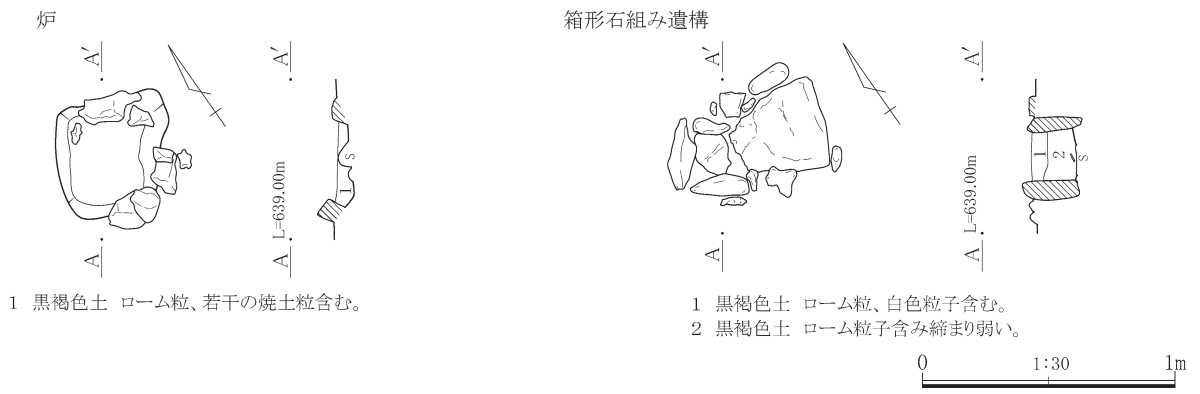
掘方 炉の南に近接して土坑が検出されている。片部分に礫が部分的に残ることや、若干の焼土が見られた事などから炉と思われ、建て替え前の炉と考えられる。

出土遺物 北西部に底部を欠いた大型の深鉢1が逆位で床に置かれた状態で出土している。その他、波状口縁を呈す深鉢などが見られ、炉の周囲に集中して出土している。石器類は小形の磨製石斧および大形の石皿

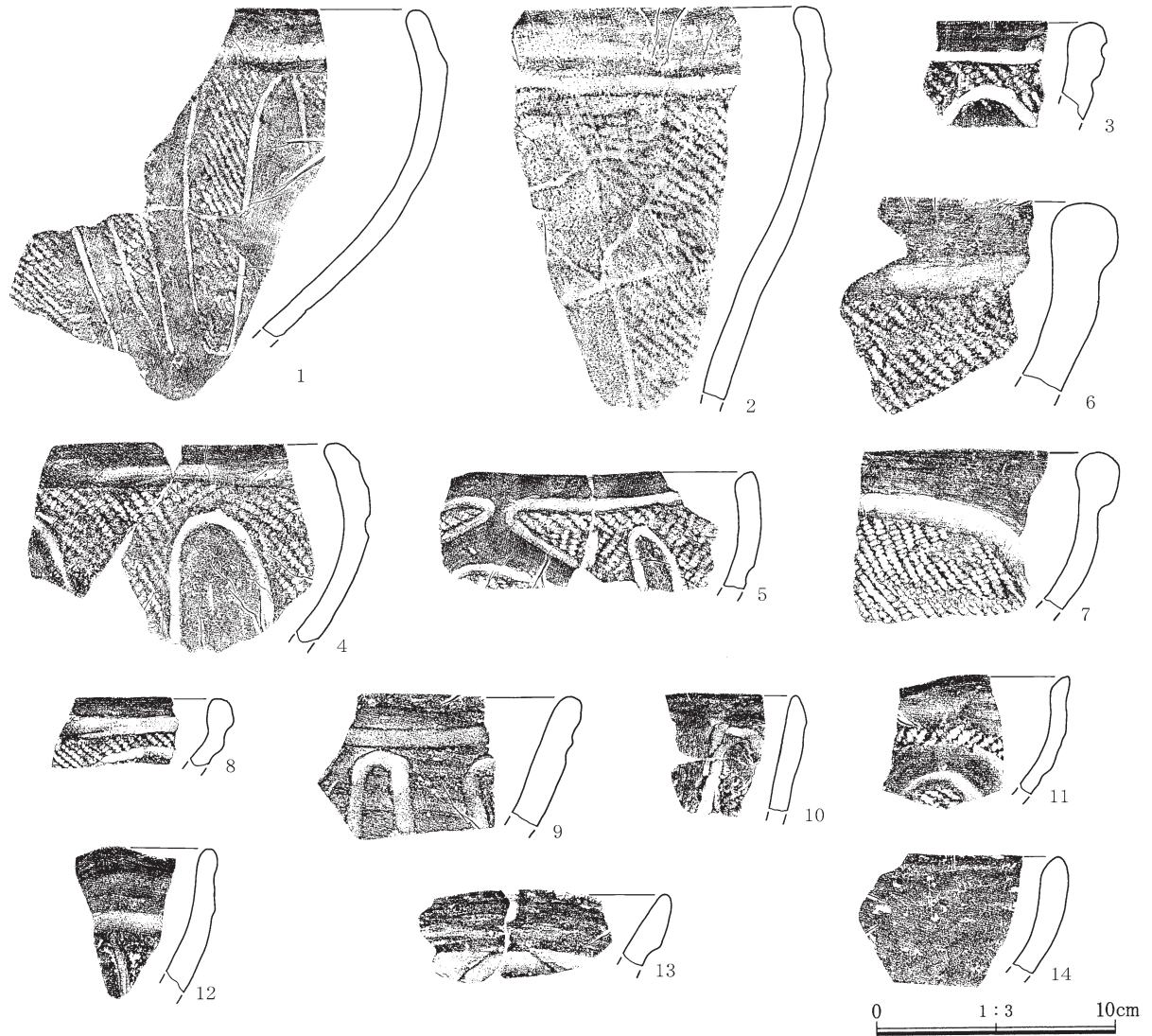
第3章 検出された遺構と遺物



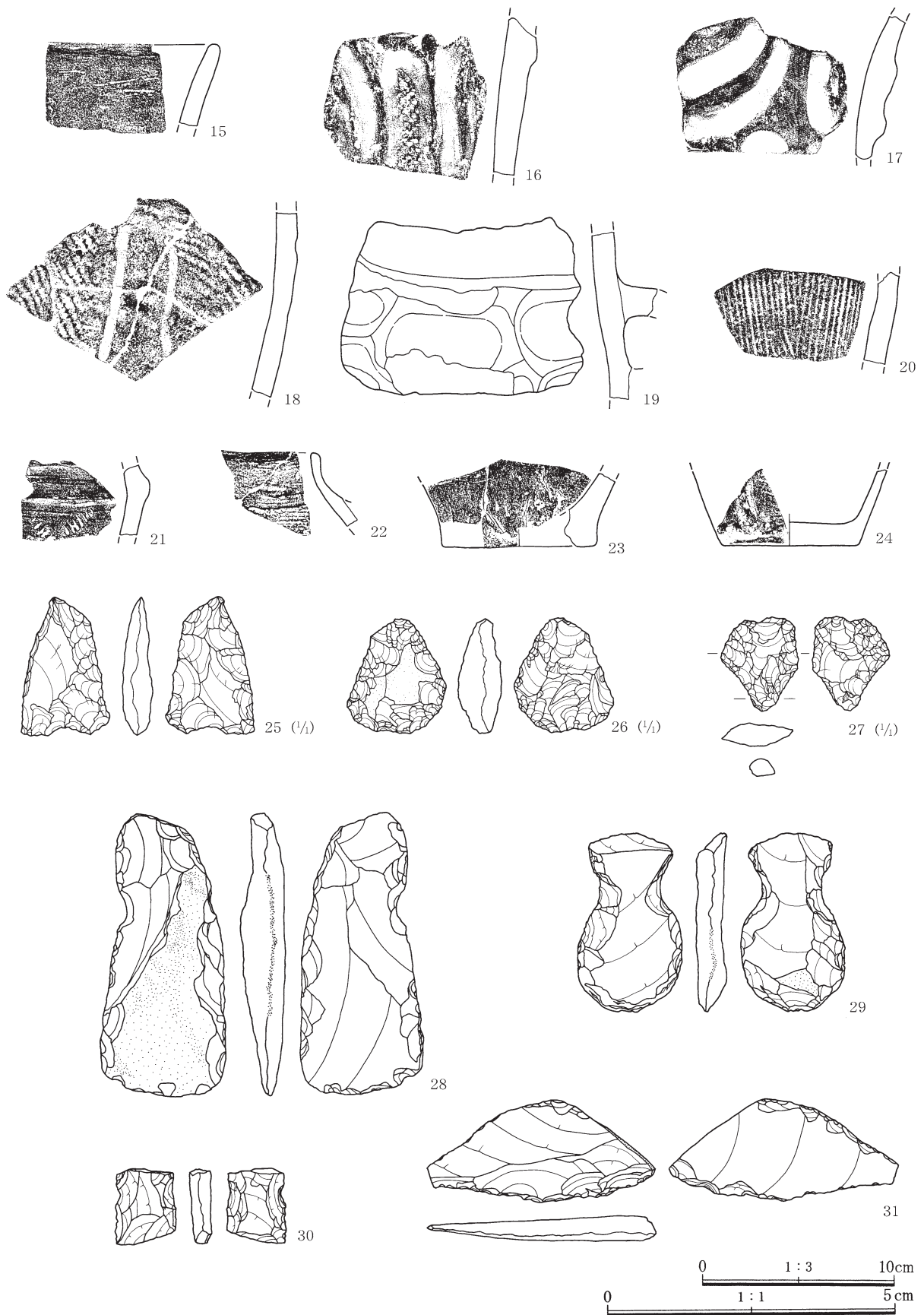
第9図 4-17号住居跡(1)



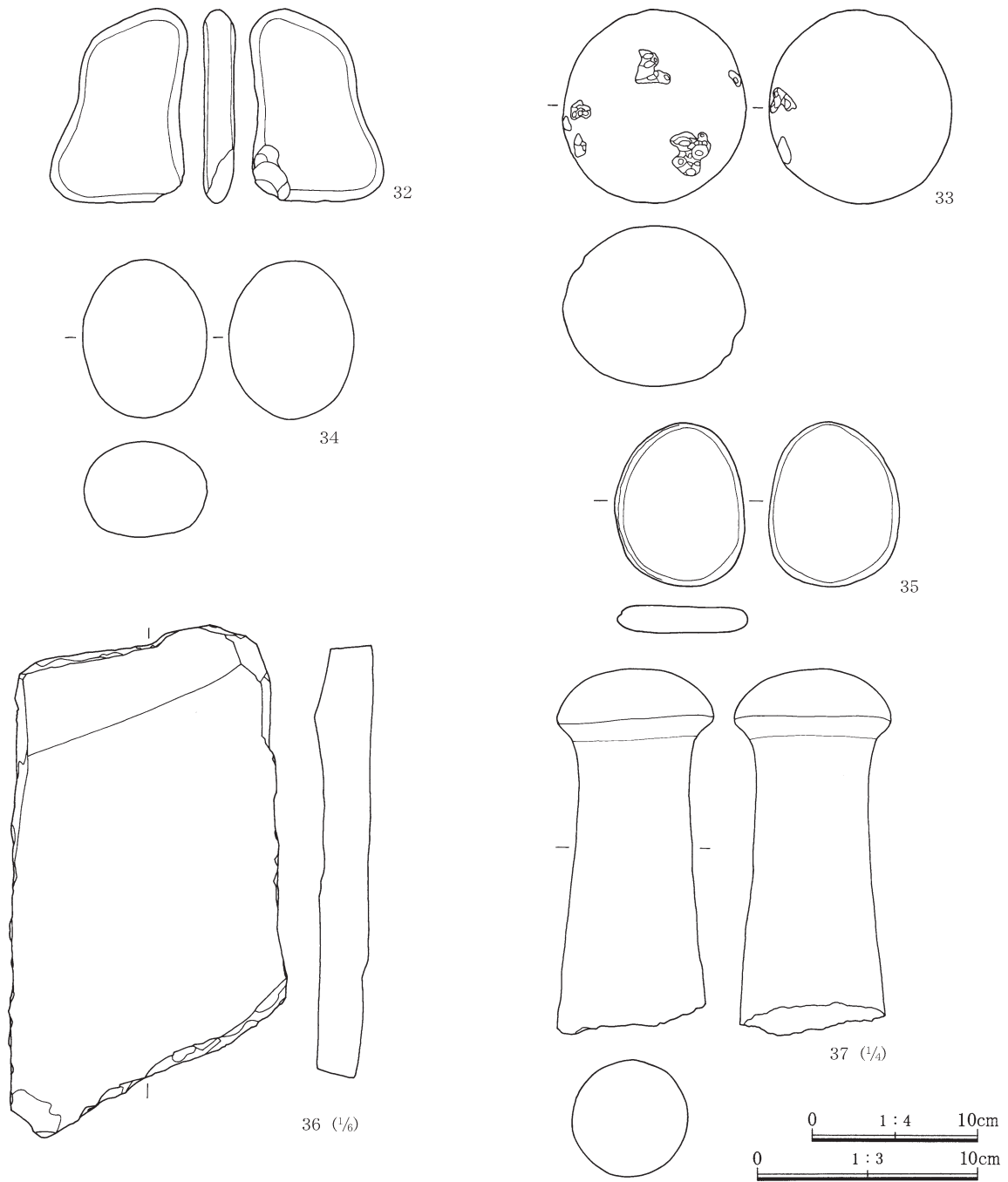
第10図 4-17号住居跡(2)



第11図 4-17号住居跡出土遺物(1)



第12図 4-17号住居跡出土遺物(2)

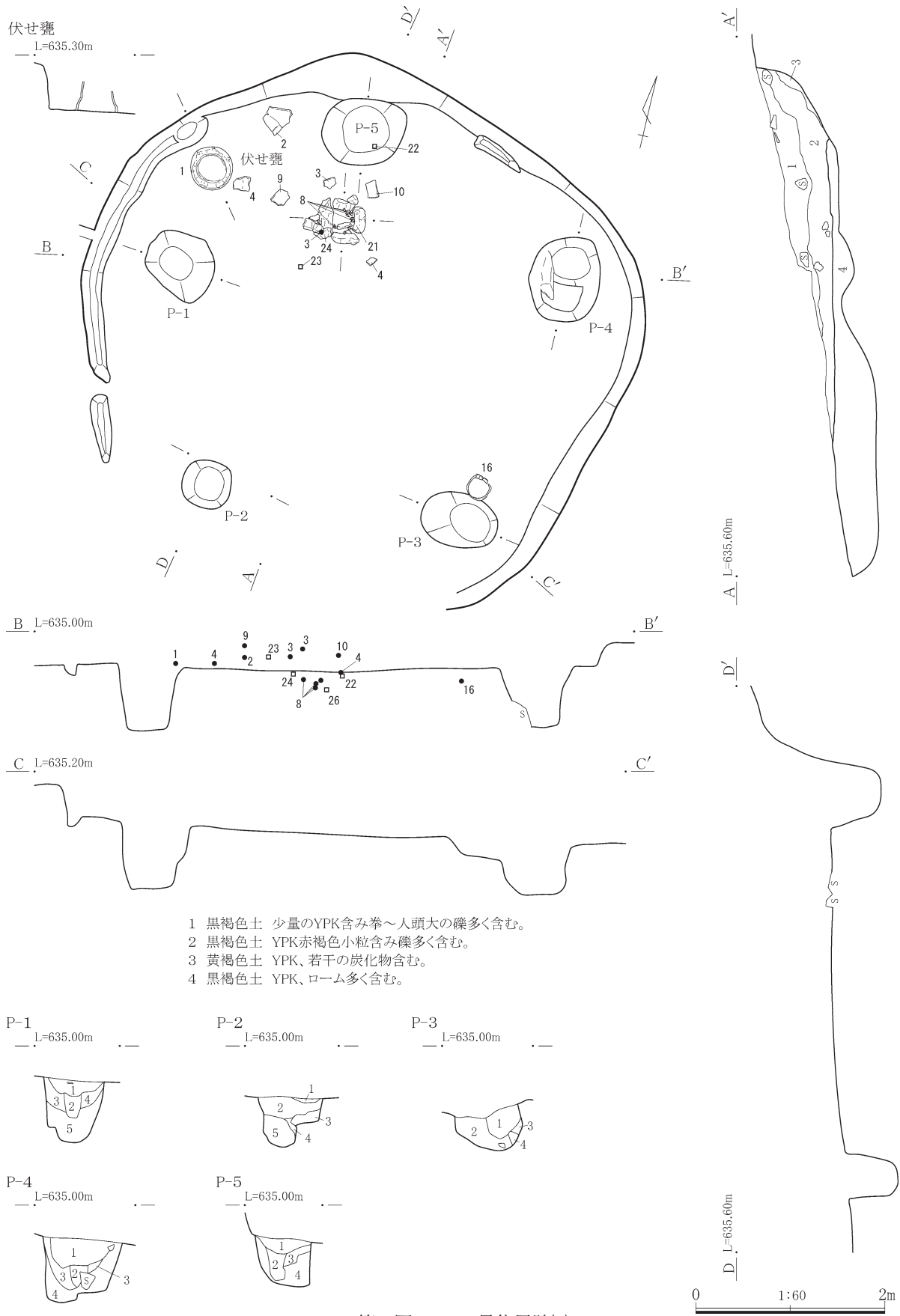


第13図 4-17号住居跡出土遺物(3)

や多孔石2点が出土している。

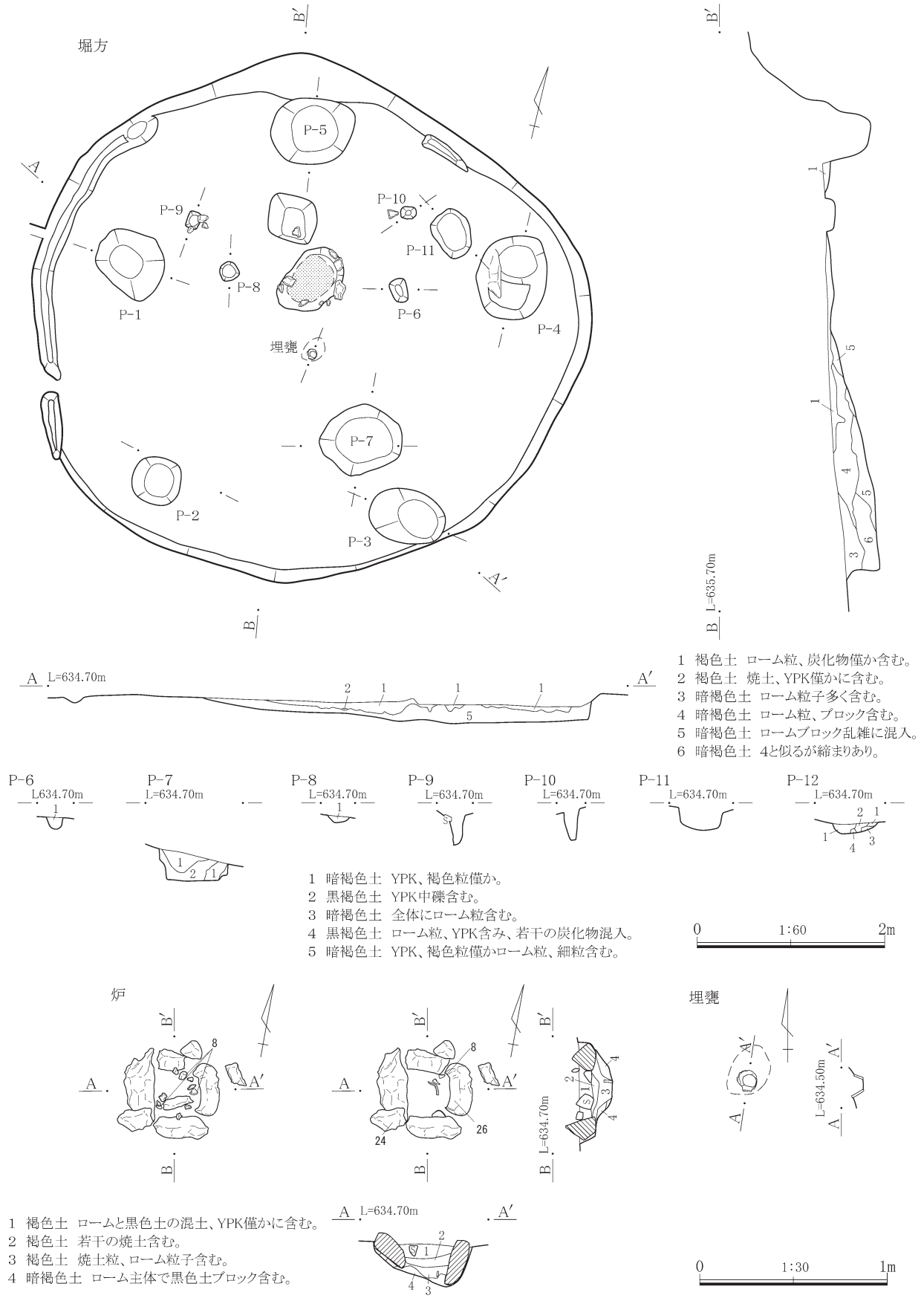
時期・所見 古い炉が検出されていることから、建て替え住居と思われる。壁は北側は明瞭に確認できたが、南側は表土からの攪乱が床面にまで及んでいたために検出されなかった。時期は出土土器から建て替え後の加曾利E3式末と思われる。

第3章 検出された遺構と遺物

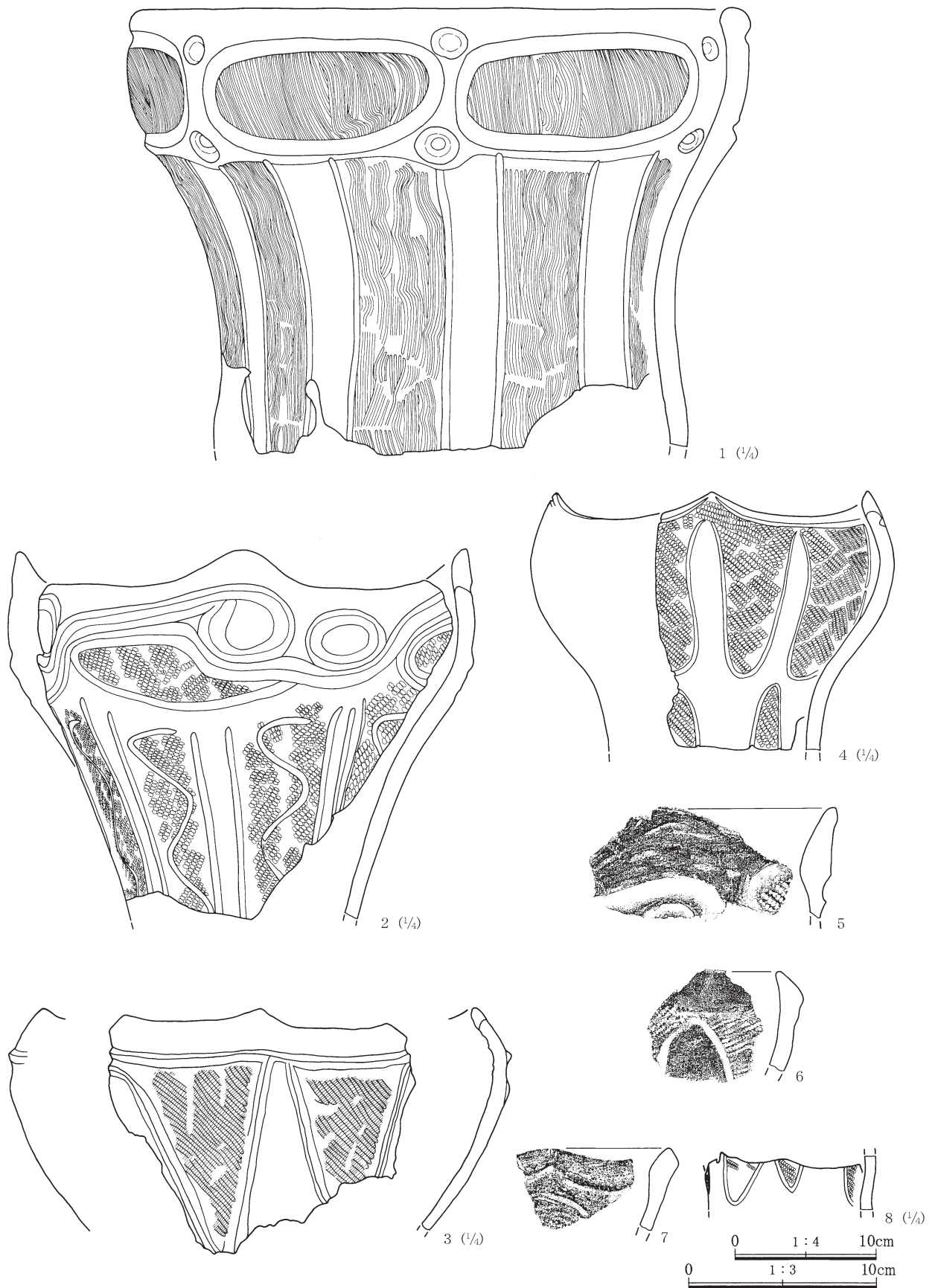


第14図 4-18号住居跡(1)

第3節 縄文時代の遺構と遺物

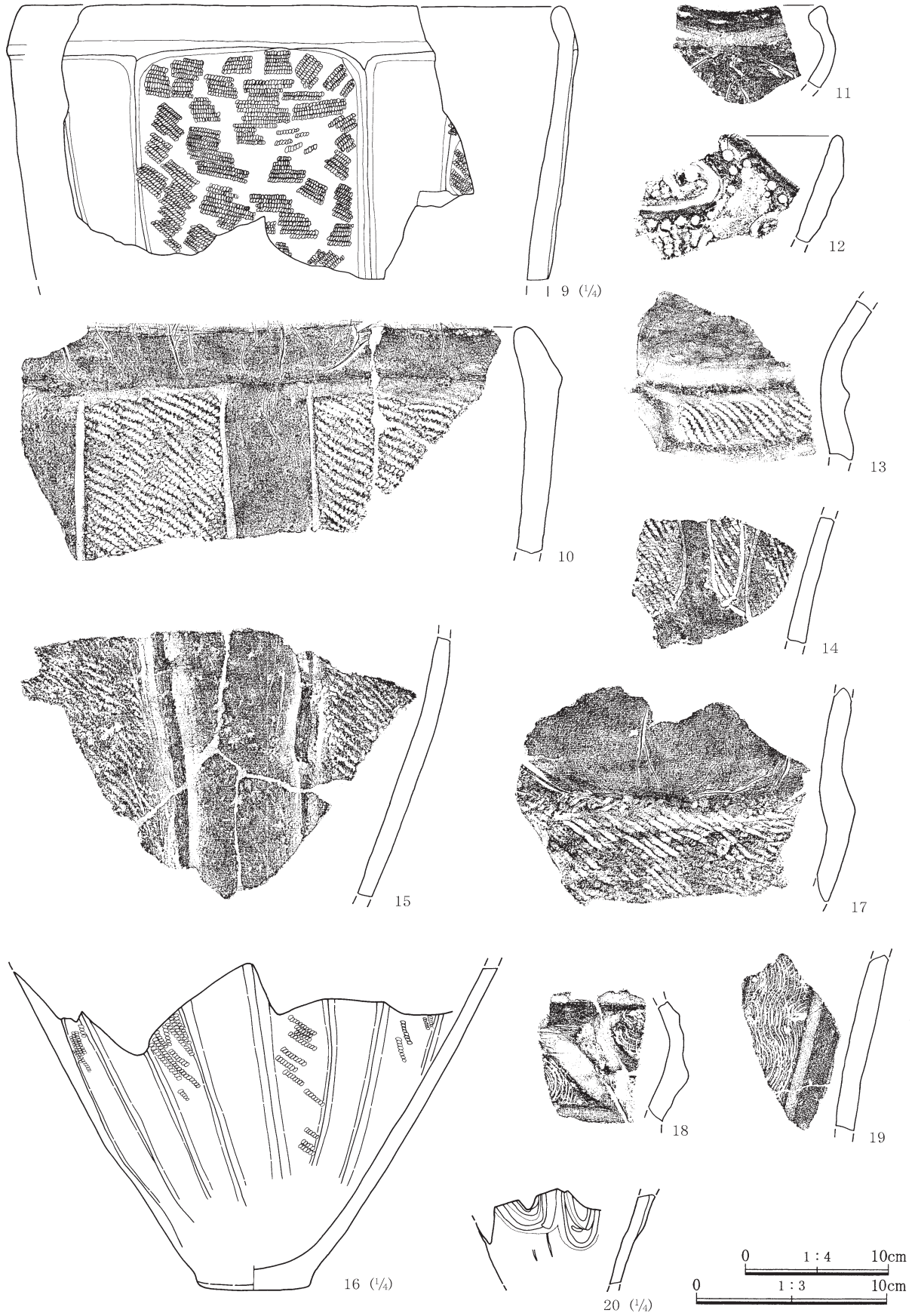


第15図 4-18号住居跡(2)



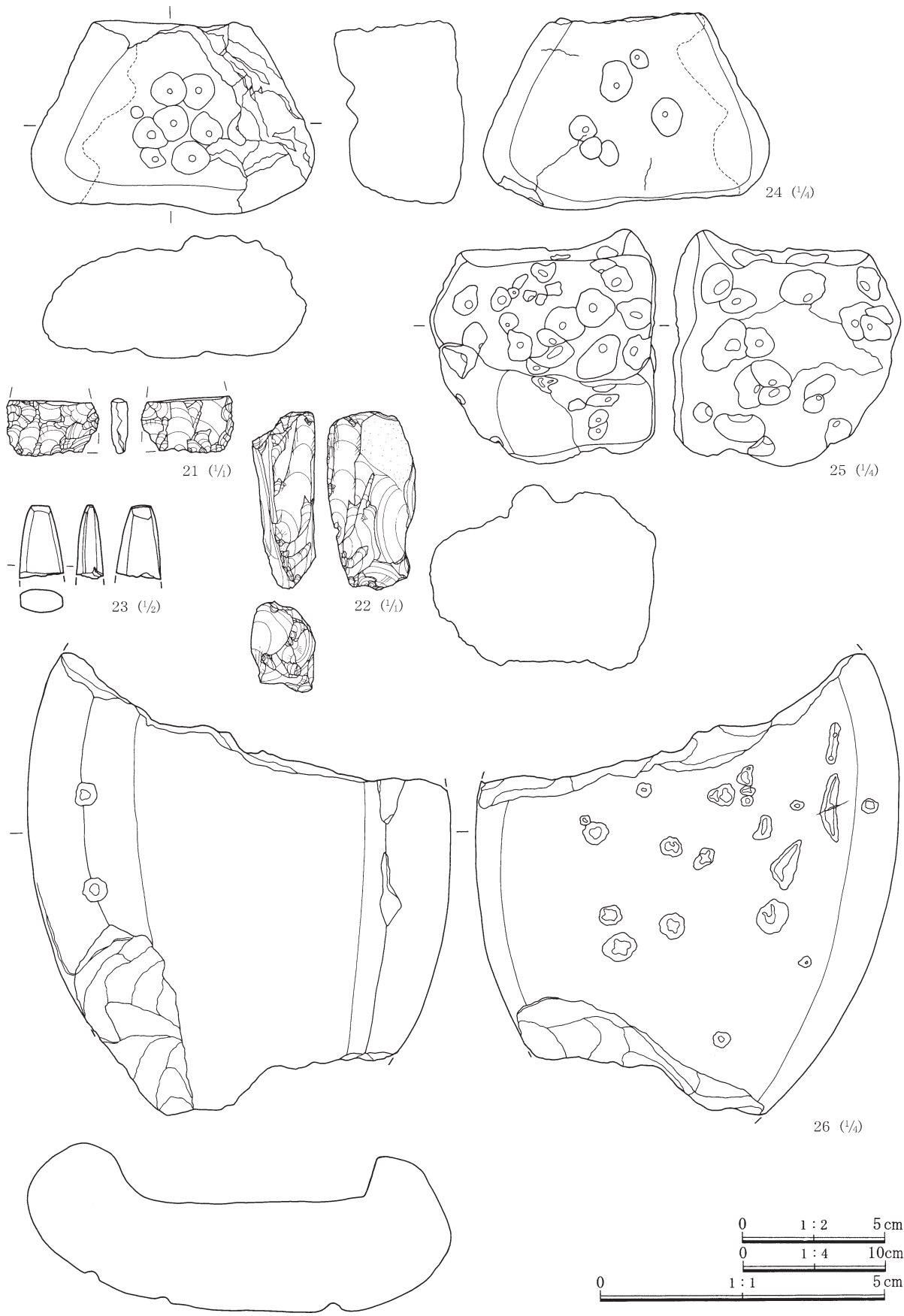
第16図 4-18号住居跡出土遺物(1)

第3節 縄文時代の遺構と遺物



第17図 4-18号住居跡出土遺物(2)

第3章 検出された遺構と遺物



第18図 4-18号住居跡出土遺物(3)

4-19号住居跡 (第19・20図：PL 6・7・114)

位置 H-10・11グリッドに位置する。 重複 無し 形状 柄鏡形か。

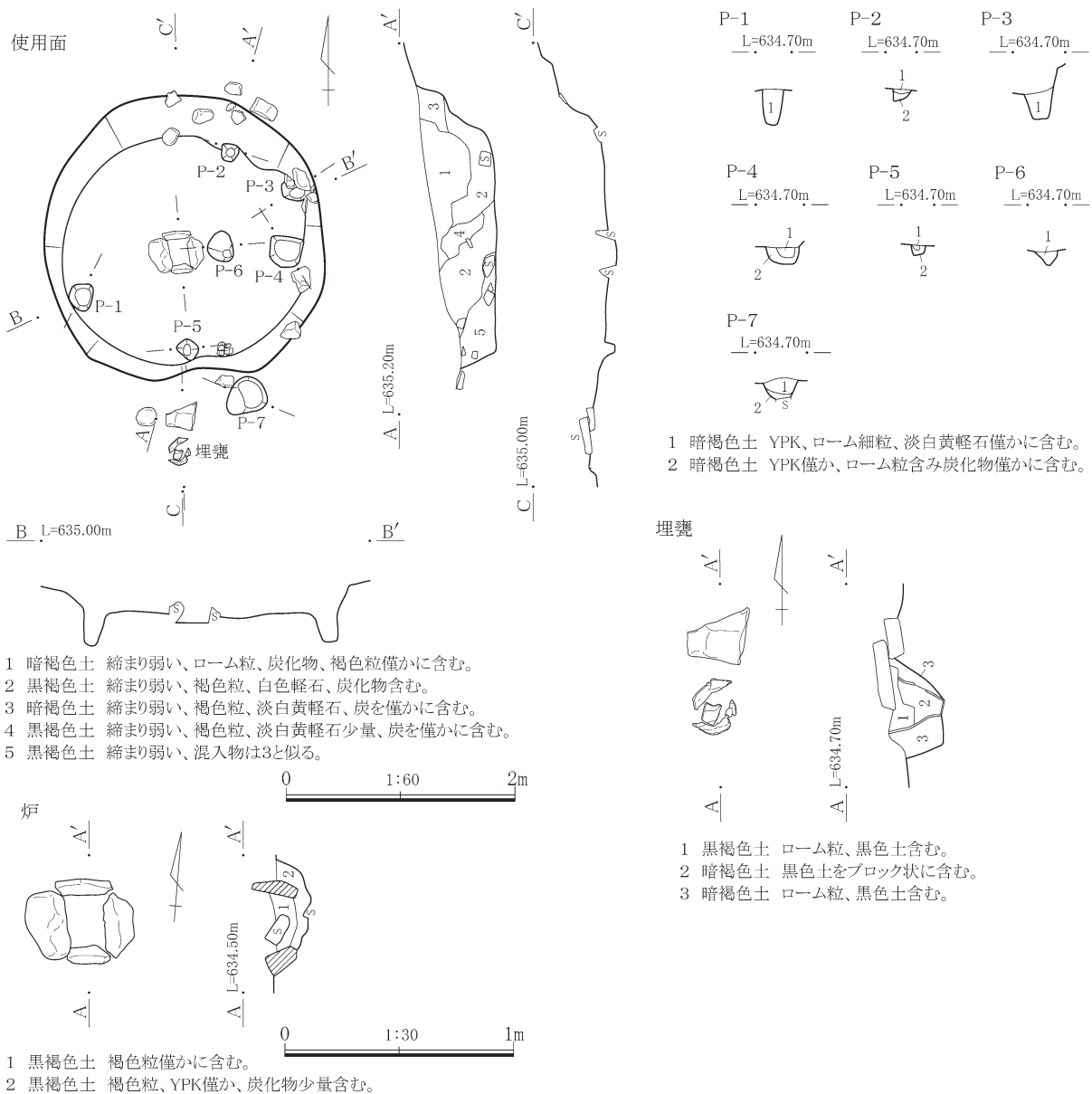
規模 (325)×245×35cm。 方位 N-2°-W 床面 やや凹凸が見られるが全体的には平坦で貼り床等の痕跡は見られず、地山が露出した状況であった。全体的に炉に向かって僅かに下がっている。

炉 中央に作られている。4個の石を組んだ石囲い炉である。東西の石は厚みを持った自然礫であるが、南北には平たい石を用いている。炉内には炉体土器あり、極めて脆弱であったために復元できず。三十稲場式の破片出土。

柱穴 壁に沿って5本を検出、北西部にも存在していたものと思われるが検出されなかった。深さは15~20cmと比較的浅い。

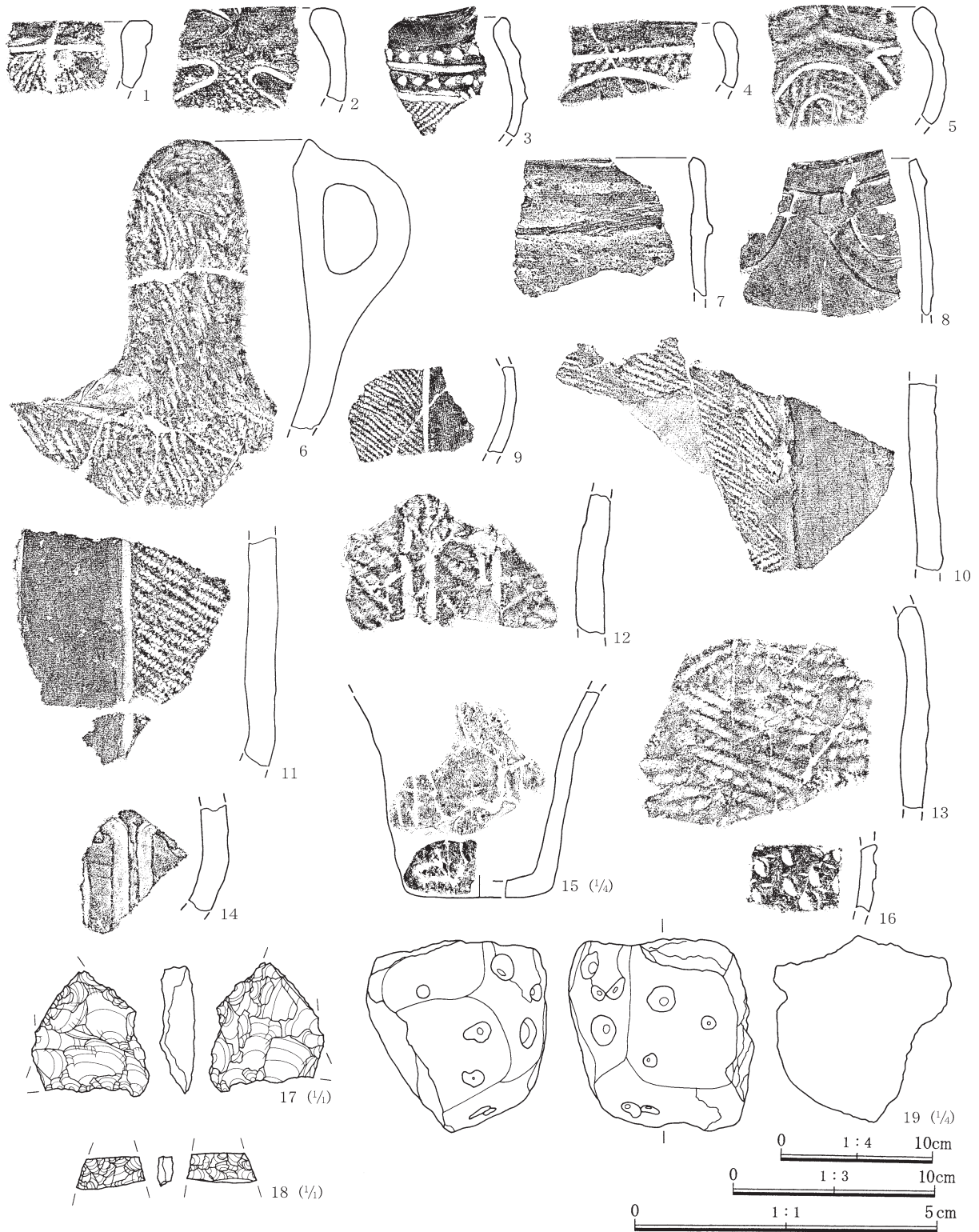
埋甕 張り出し部に深鉢胴部が埋設された状態で検出された。

掘方 床下土坑等は検出されなかった。 出土遺物 炉体土器(復元できず)、若干の土器片出土。 時期・所見 覆土中に拳大から人頭大の礫が投げ込まれた状態で出土。当初小形の円形住居と思われたが、南側に平石および埋甕が検出され、柄鏡形敷石住居の可能性もある。後期初頭(称名寺1式期)と思われる。



第19図 4-19号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物



第20図 4-19号住居跡出土遺物

4-20号住居跡 (第21・22図:P 7・L115)

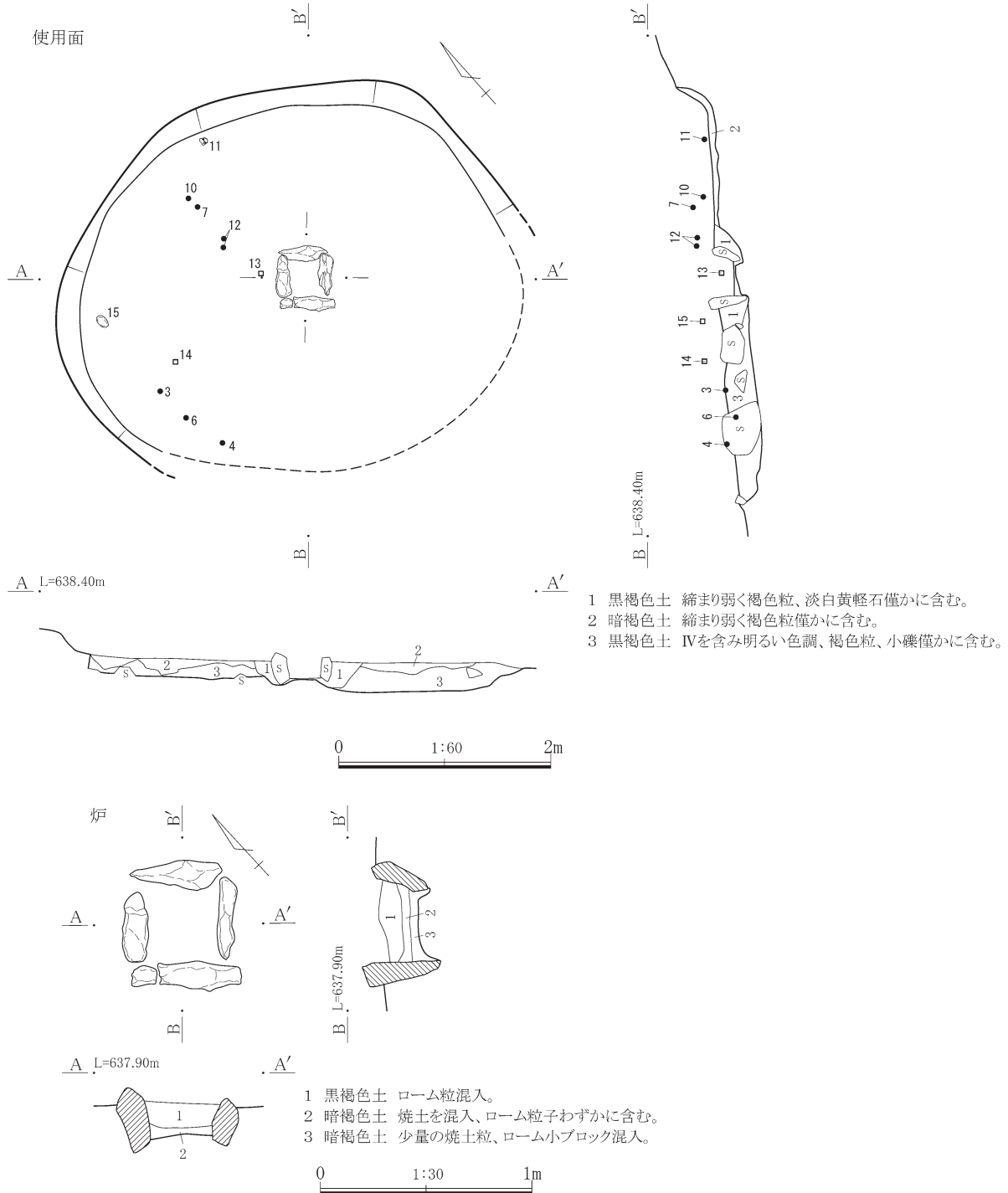
位置 N-17・18 重複 4-16号住居跡が重複、重なる状況で本址を切る。 形状 円形

規模 425×(371)×29cm。 方位 N-42°-E 床面 貼り床などは確認できなかった。地山を掘り込んだ面をそのまま床としている。地山の礫が所々露出し凹凸が顕著で、柱穴も確認できなかった。

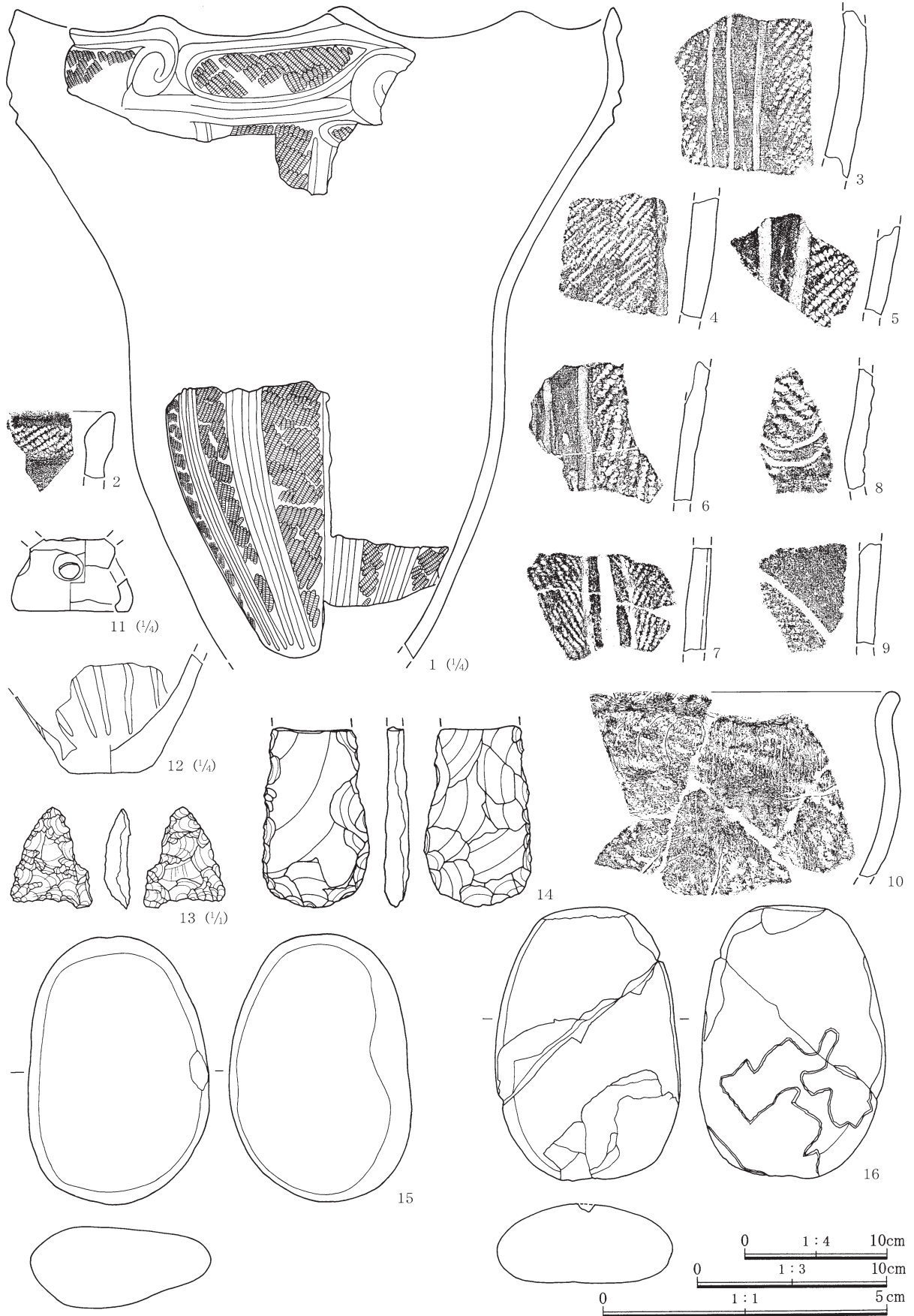
炉 ほぼ中央に作られている。やや扁平な礫を四角に組んでいる。規模は60×50cmである。

柱穴 検出できなかった。埋甕 検出されなかった。掘方 土坑、ピット等の検出は無く、露出した地山中には礫が多く見られた。出土遺物 点数は少なく、破片が点在したに過ぎない。

時期・所見 西側半分以上が4-16号住居跡の下に入っている状況で、レベル差はあまり無い。南側は削平されており、壁の立ち上がりは確認できなかった。時期は出土土器から加曾利E3式期(古)と思われる。



第21図 4-20号住居跡



第22図 4-20号住居跡出土遺物

4-22号住居跡 (第23・24図: PL 8・115)

位置 Q・R-14・15グリッドに位置する。 重複 無し、南側半分は次年度調査。

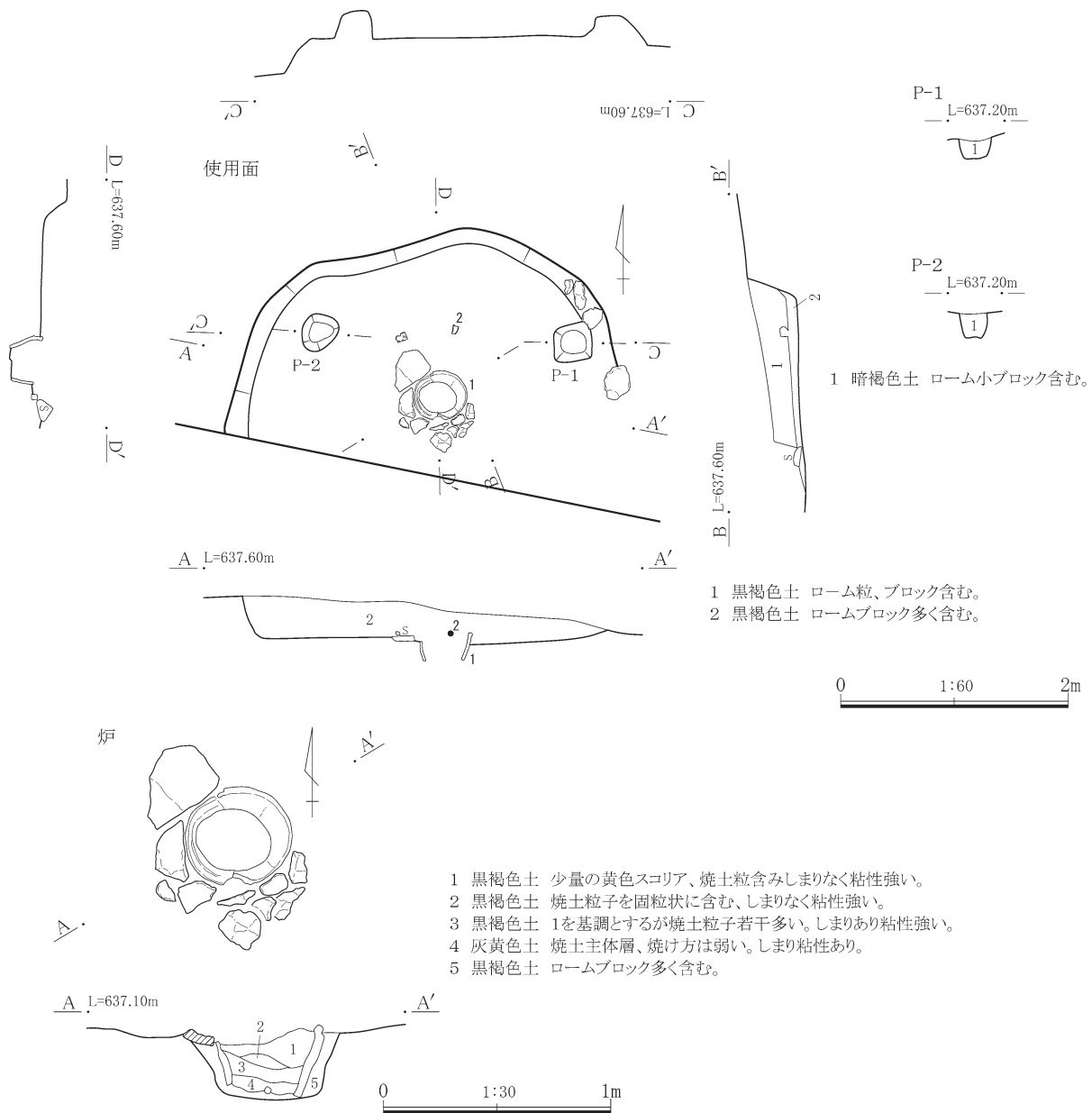
形状 円形 規模 (350)×226×33cm。 方位 — 床面 ほぼ平坦であるがやや軟質。

炉 10個程の石で囲われた埋甕炉である。深鉢の胴上半部を埋め込み炉としている。土器の埋土中には若干の炭化物が見られたが、焼土はほとんど確認されなかった。 柱穴 北壁下に2本を検出。

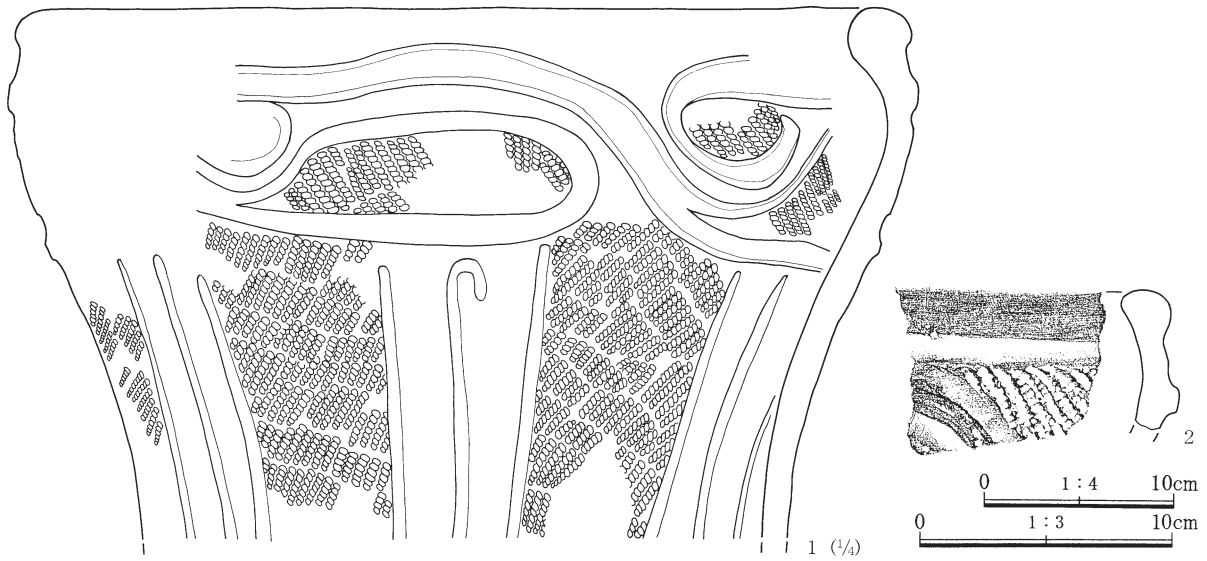
埋甕 確認されなかった。 掘方 床下の掘り込み等は確認されなかった。

出土遺物 炉に転用されていた大形土器以外にはほとんど見られず。

時期・所見 南側は未調査である。本遺跡においては極めて少ない埋甕炉である。時期は加曽利E3式期。



第23図 4-22号住居跡



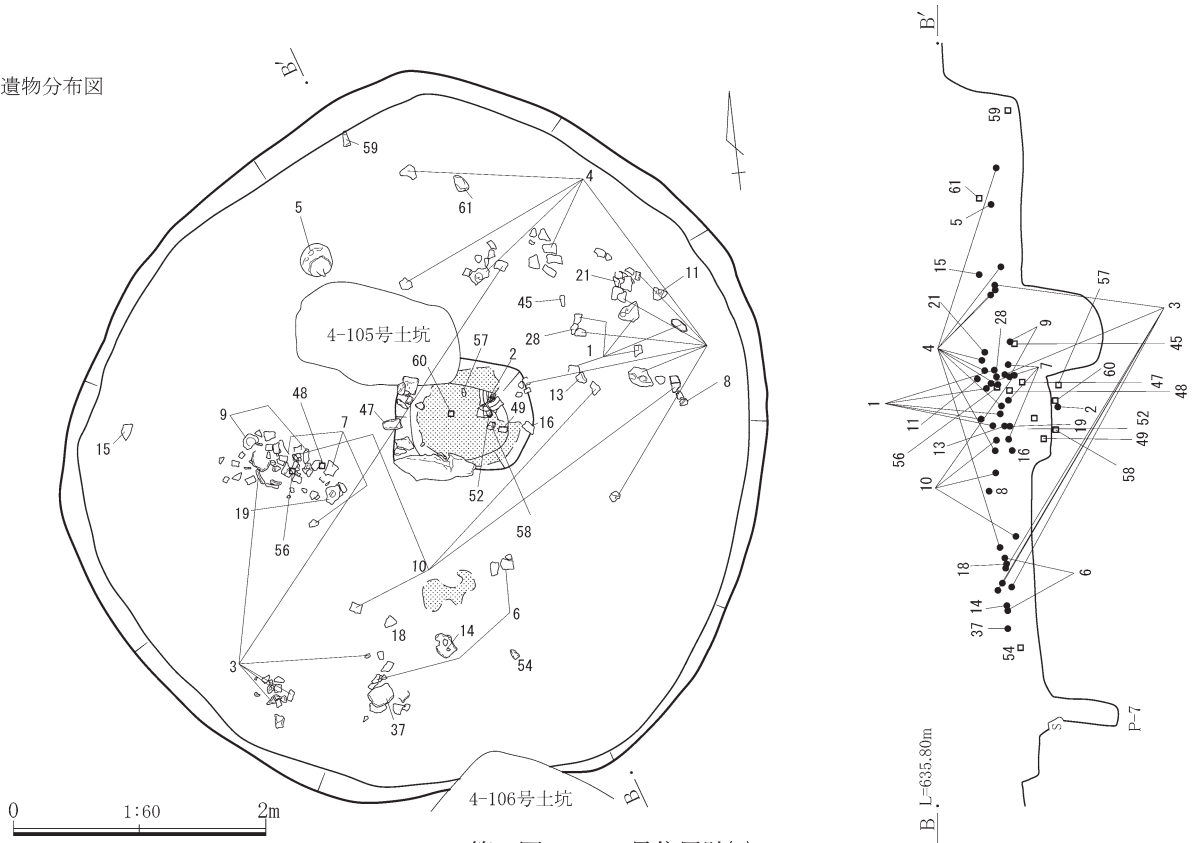
第24図 4-22号住居跡出土遺物

4-23号住居跡 (第25~32図: PL 8・9・115~117)

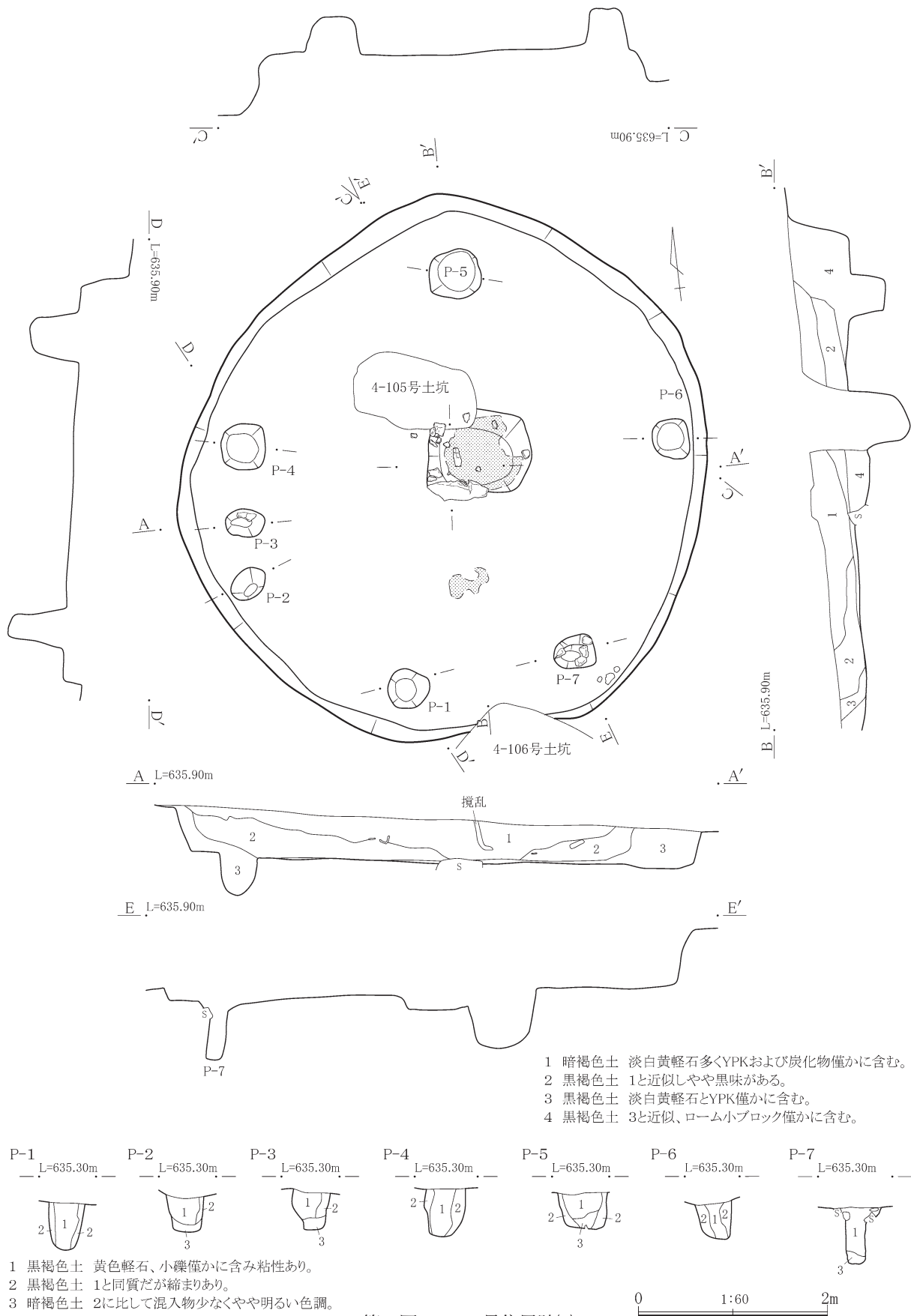
位置 Y-15・16グリッドに位置する。 **重複** 住居内に5-105号土坑が南端に5-106号土坑が重複、いずれも本址より新しいものである。 **形状** ほぼ円形を呈す。 **規模** 578×562×45cmである。

方位 N-5°-E **床面** 掘り込みが黒色土中で終わっており、ロームを用いた貼り床や硬化面なども見られなかったことから、明確な生活面は確認できなかった。 **炉** やや大形の礫を用いた石囲い炉である

遺物分布図



第25図 4-23号住居跡(1)



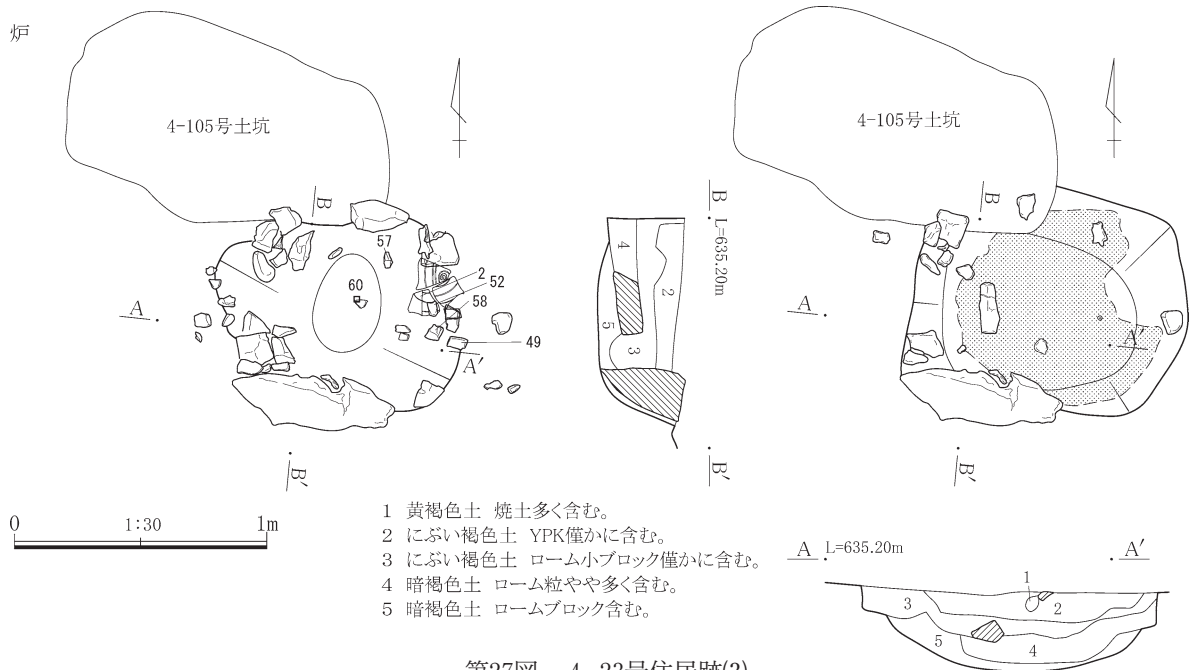
第26図 4-23号住居跡(2)

第3章 検出された遺構と遺物

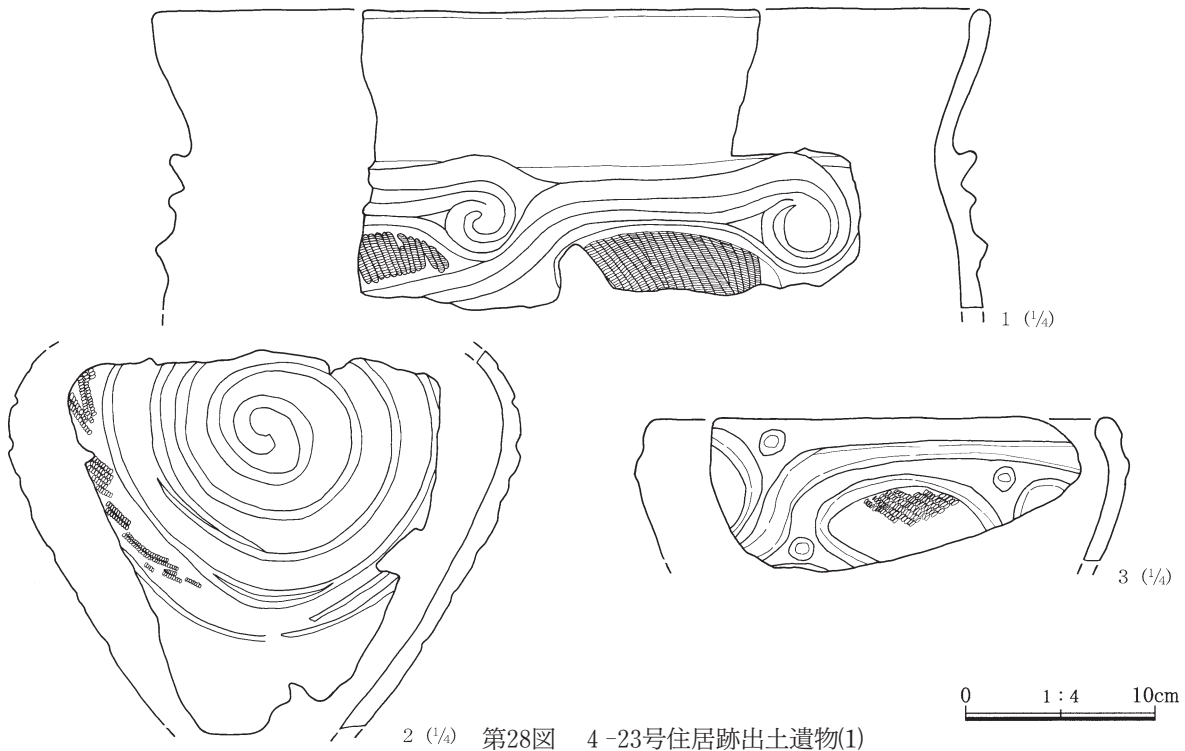
が、南側に大きな石が残っていたが他はほとんど抜き取られたものと判断される。割れた残骸が散在していた。また焼土が2層検出されていることから、作り替えが行われたものと見られる。柱穴 壁に沿って計7本を検出した。埋甕 検出されなかった。掘方 床下土坑等は検出されなかった。

出土遺物 土器、石器等が見られたが、いずれも覆土上層からのものが多かった。

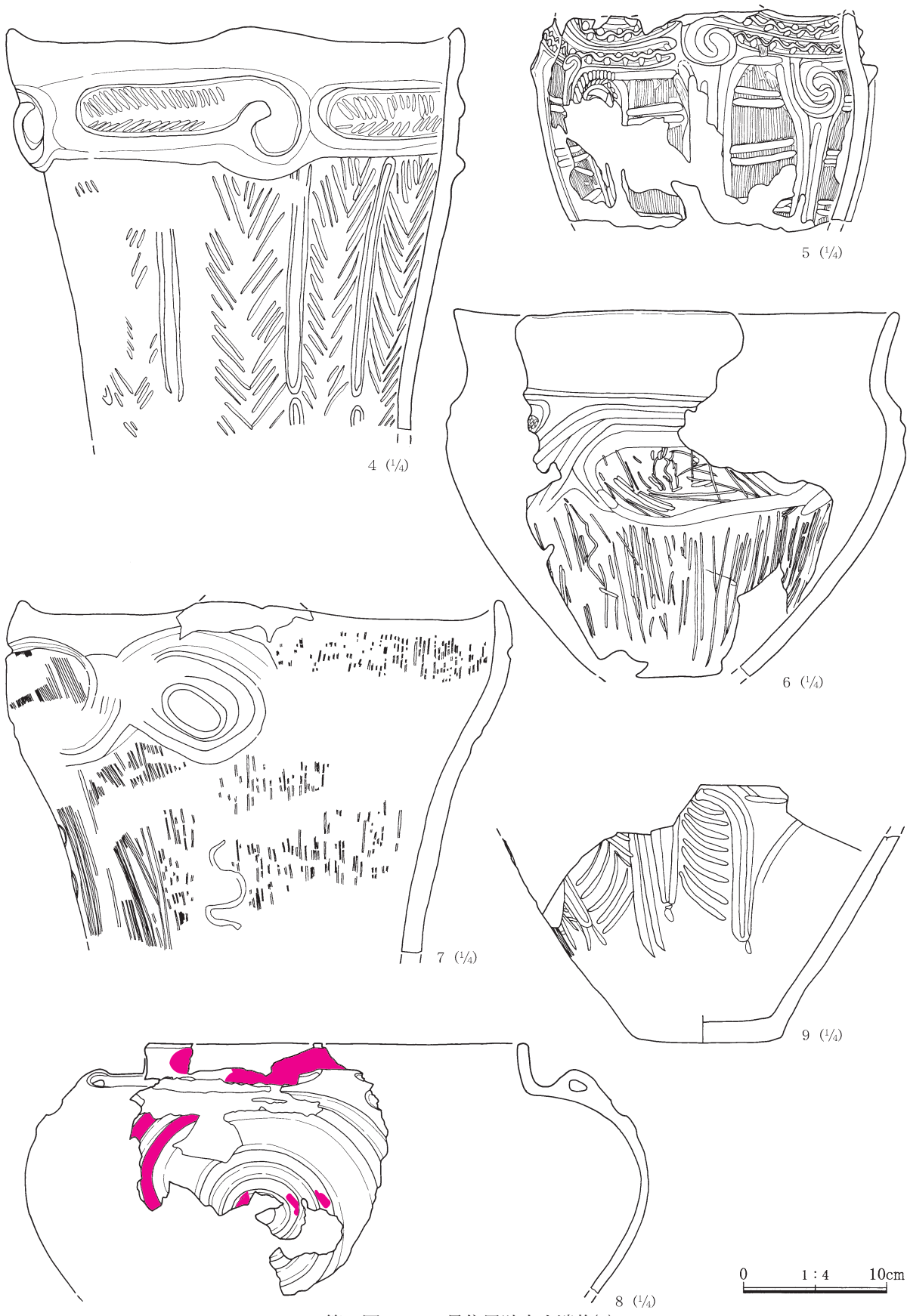
時期・所見 やや谷地部の黒色土中に作られていたために、壁、床面等に関してはやや明確でない部分がある。時期は炉内出土土器から中期末、加曾利E 4 式期と考えられる。



第27図 4-23号住居跡(3)



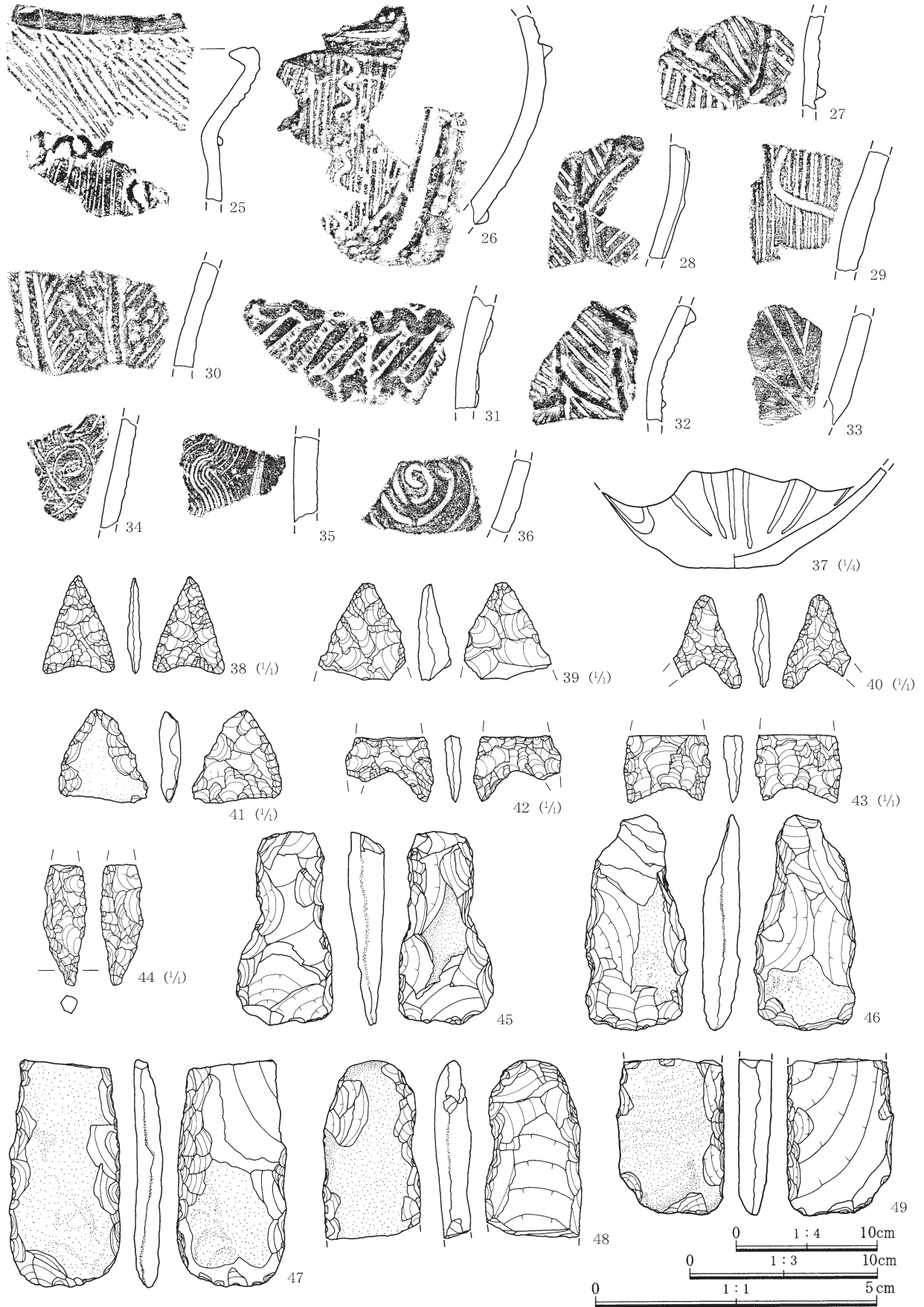
2 (1/4) 第28図 4-23号住居跡出土遺物(1)



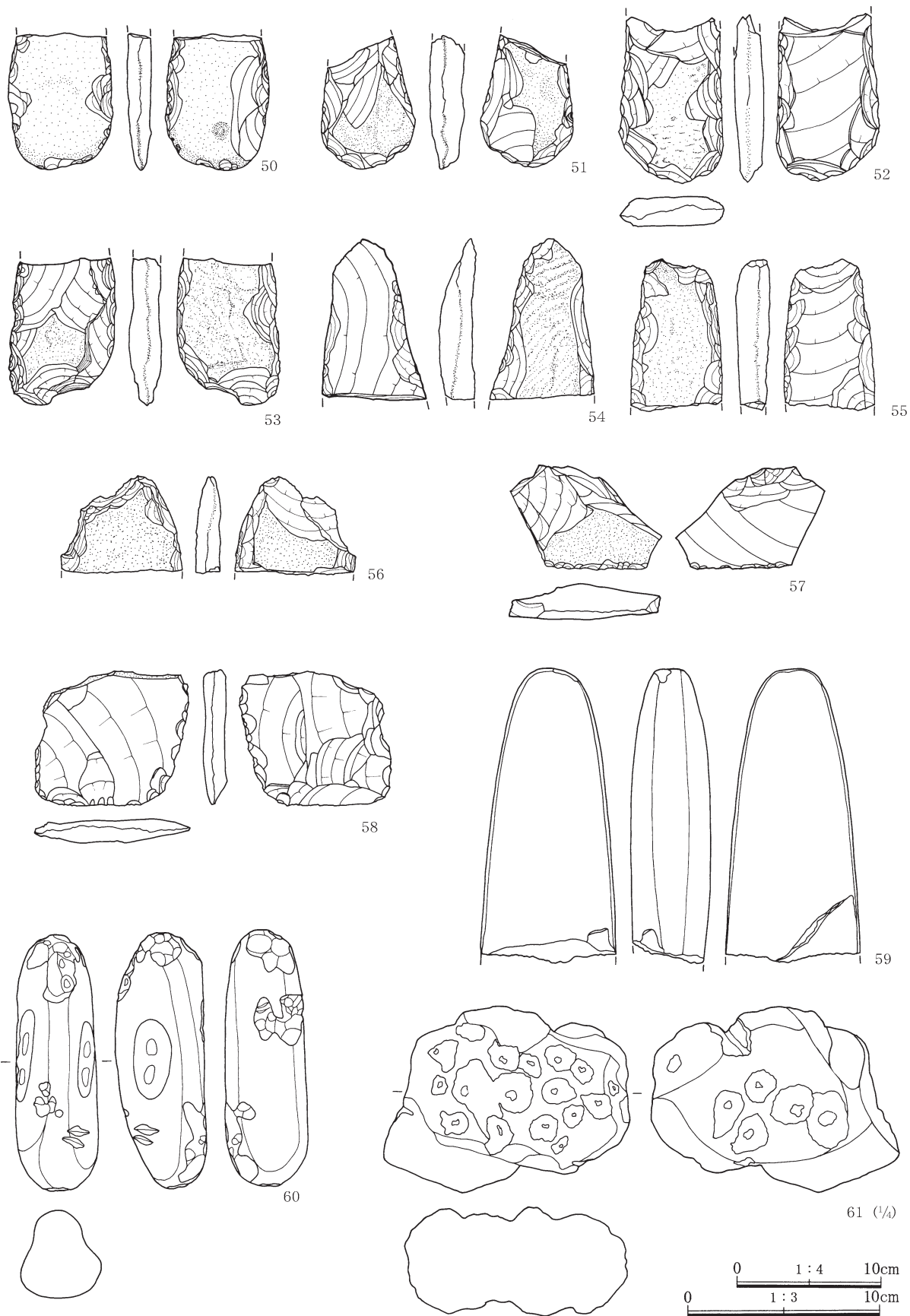
第29図 4-23号住居跡出土遺物(2)



第30図 4-23号住居跡出土遺物(3)



第31図 4-23号住居跡出土遺物(4)



第32図 4-23号住居跡出土遺物(5)

5-1号住居跡 (第33・34図：PL 9・117)

位置 S・T-13・14グリッドに位置する。 **重複** 上面に5号列石が構築される。

形状 やや南北に長い楕円形を呈す。 **規模** 390×360×40cm。 **方位** N-0°

床面 ローム地山を踏み固め平坦な硬化面としている。また周溝がほぼ全周する。

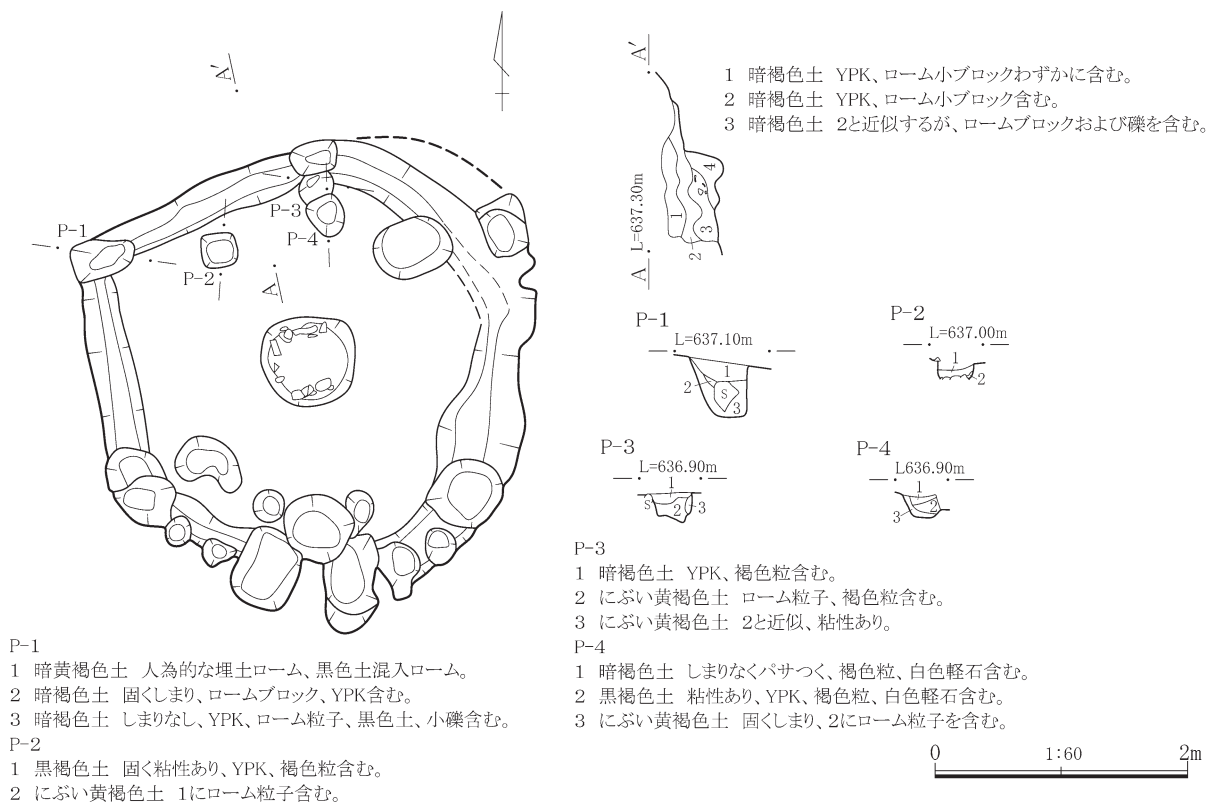
炉 ほぼ中央に作られ、ほぼ円形に礫を配した石囲炉と思われる。北側に立位の板状礫が残るが、他の炉石は抜き取られたり、炉内に転石として検出されている。炉の中央に口縁、底部を欠く深鉢が埋設されるが、明確な火床面は検出されなかった。 **柱穴** 壁際に掘り込まれている。四隅および入り口部の対ピットを含め6本と考えられる。

埋甕 蓋石を持つ。胴上半部を欠いた深鉢が正位に埋められていた。(長野原一本松遺跡2002)

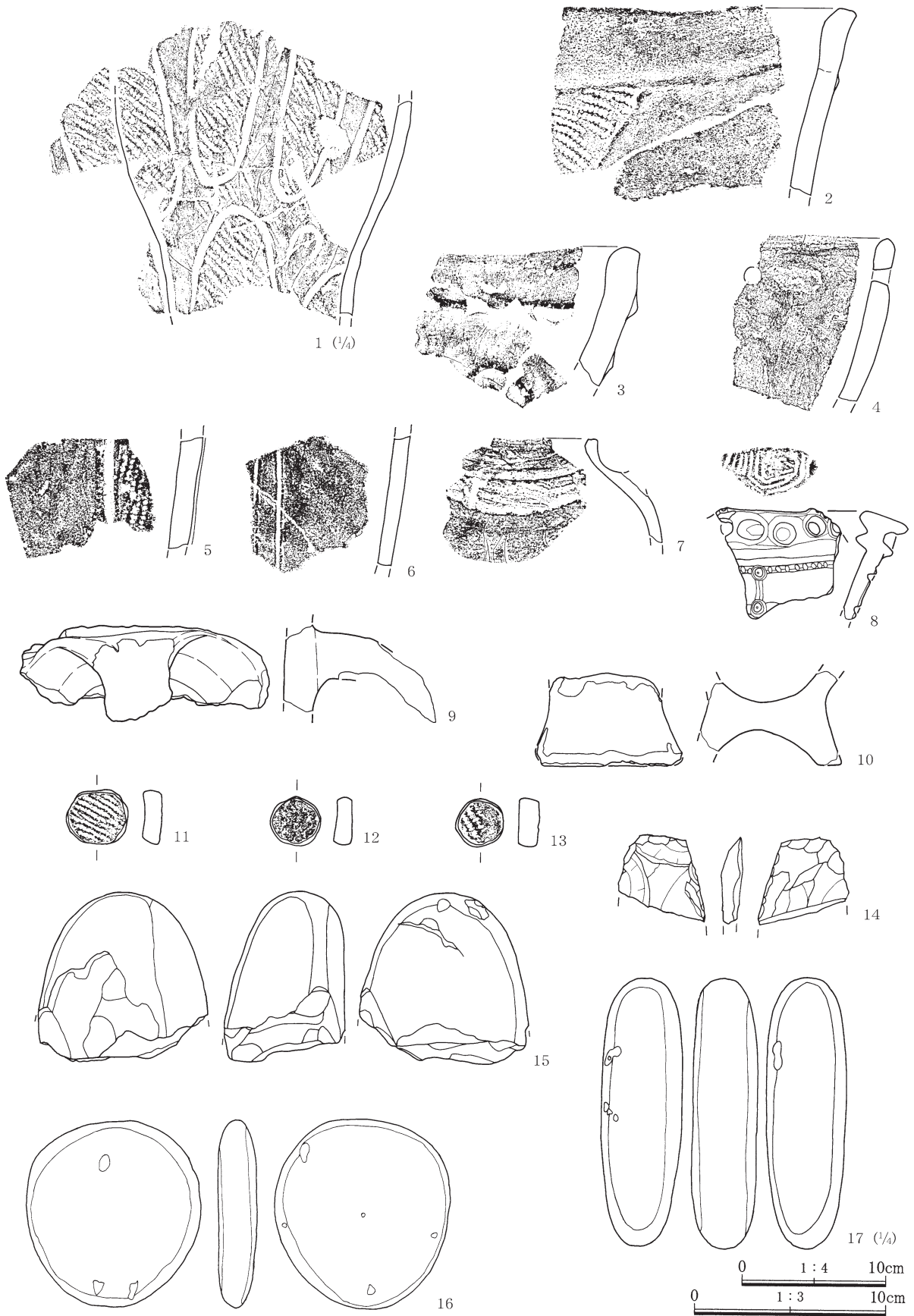
掘方 床下の遺構は確認されなかった。

出土遺物 覆土中に多くの礫が出土している。土器は炉体土器、埋甕の他は破片類が多い。10は台付き土器の脚部である。11~13は土製円盤である。出土した石器は打製石斧の欠損品および磨石である。17は棒状を呈す。

時期・所見 本址は平成8年度に調査が行われており、今回の調査では残った北側の一部が検出されたものである。時期は埋甕等から加曽利E3式末と見られるが、炉体土器はやや新しい様相を示す。



第33図 5-1号住居跡



第34図 5-1号住居跡出土遺物

5-38号住居跡（第35～37図：PL10・117）

位置 E・F-12・13グリッドに位置する。**重複** 東側を大きく5-39号住居に切られ、さらに北側にも5-76号住居跡が重複する。**形状** 円形を呈すと思われる。**規模** 推定径6.6m。

方位 不明。**床面** 西側の壁に沿った部分が残っている。比較的平坦である。

炉 5-39号住居跡の床面下に掘方が検出された。長径1m、短径0.7m程の長円形の掘り込みが認められる。深さは30cm程で壁面、下部に焼土層が検出されている。

柱穴 7本と考えられる。西側壁寄りに掘り込まれたP1～P4および5-39号住居跡の掘方調査時に検出されたP4～6が対応するものと考えられる。**埋甕** 検出されなかった。

掘方 床面下に数個の小ピットが確認されている。

出土遺物 今回の調査で確認した範囲は極僅かであったために、帰属すると思われる遺物は多くはなかった。平成11年度調査時に若干の出土遺物が見られる。長野原一本松遺跡2（2007）参照。

時期・所見 出土遺物、切り合い関係などから中期後半と判断される。

5-39号住居跡（第35～40図：PL9～11・36・117・118）

位置 D・E-12・13グリッドに位置する。**重複** 5-76号・38号住居跡を切り、東側には5-74号住居跡（敷石住居）が重複する。**形状** 円形を呈すと思われるが、周溝はやや直線的に走る部分が見られ、南側入り口部と思われる部分がやや張り出す形か。**規模** 径およそ5.8m。

方位 N-5°-E。**床面** ほぼ平坦で比較的締まっている。炉を中心にやや厚く堆積した焼土の広がりが見られる。**炉** 中央やや北寄りに作られていた。南北に長い隅丸長方形の掘方を持つ、炉石と見られる焼けて割れた礫が埋土中に点在していた。最下層に厚さ2～3cmの焼土層が認められた。

柱穴 拡張後のものは外側の周溝に沿って廻る7本と思われる。その他内部に10数本のピットが検出されているが、拡張前のものと判断できたものはない。

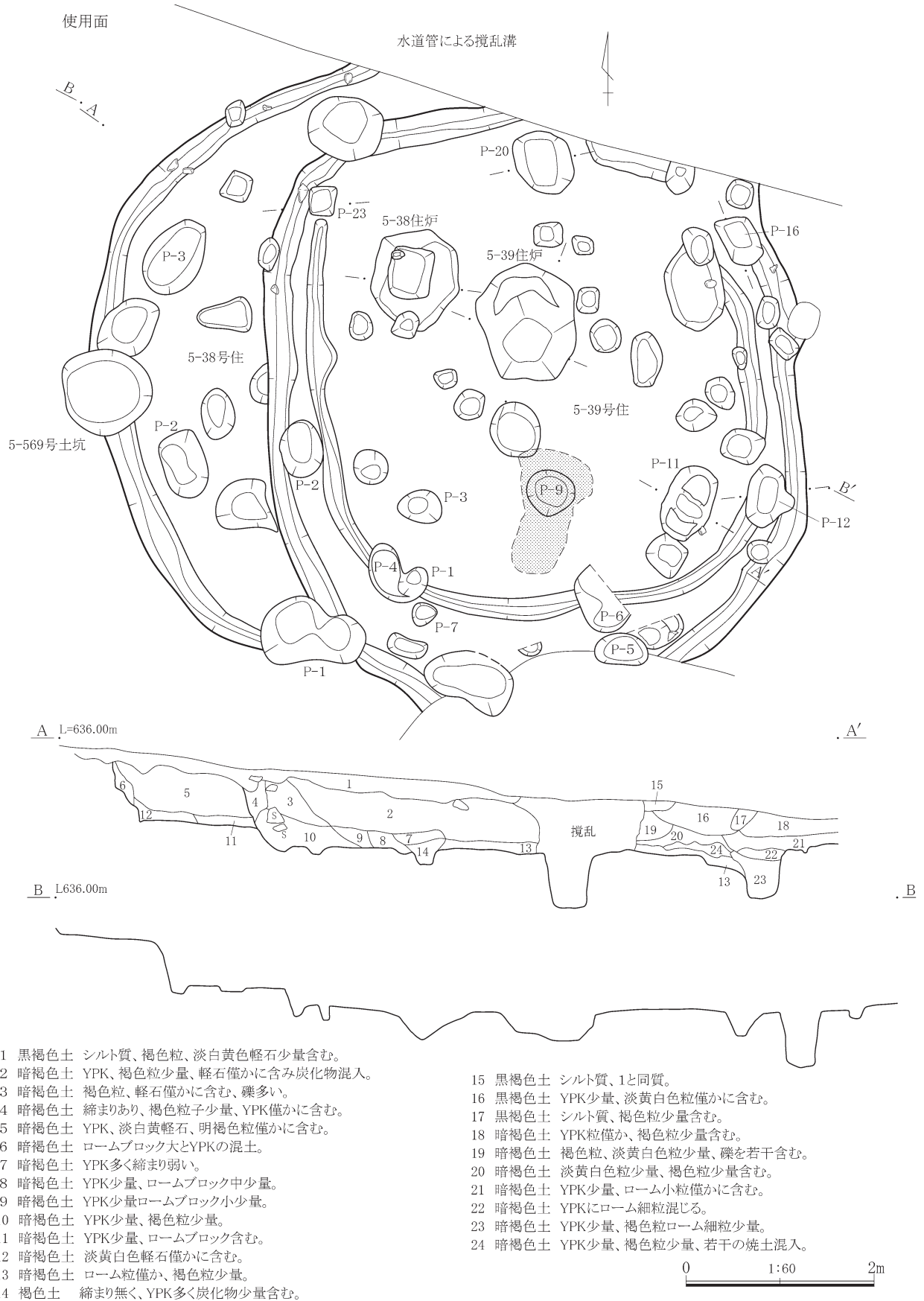
埋甕 検出されなかった。

掘方 前述したように5-38号住居跡の炉を北西部分において検出した。また炉の周囲にも小ピットが検出されている。

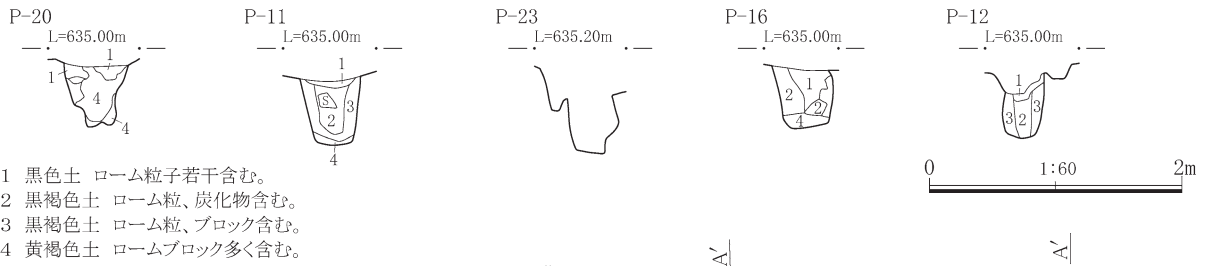
出土遺物 平成11年度の調査時には覆土上層より多くの土器、石器が出土している。今次の調査は住居の北側一部のため、土器はそれ程多くはなかったが、石器は石鏃、石錐などの小形品から、打製石斧類、磨石、石皿、多孔石などかなりの数が出土している。特殊な遺物としては、底が平らで浅い器状を呈す軽石製品がある。側面部には細い溝が廻り、紐で固定したものか。

時期・所見 平成11年度に南西部分約半分を調査しており、今次の調査でほぼ全容が明らかになった住居である。周溝が2重に廻ることから拡張が行われたものと判断される。なお、北東部の一部については、水道管敷設時に壊されている。時期は中期後半加曽利E3式期と見られる。形状がやや隅丸方形を呈す。周溝が2重に廻っていることから建て替えが考えられ、さらに南側の周溝はやや張り出すように見られることから、張り出し部を有していた可能性もある。

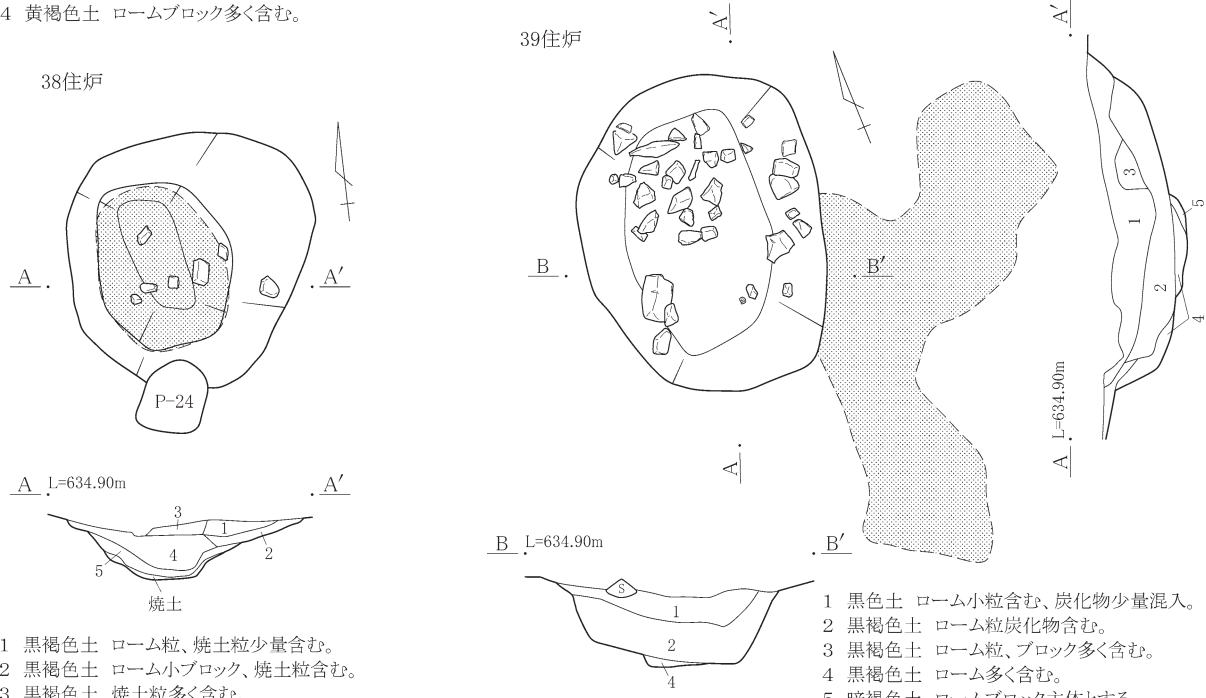
第3章 検出された遺構と遺物



第35図 5-38・39号住居跡(1)



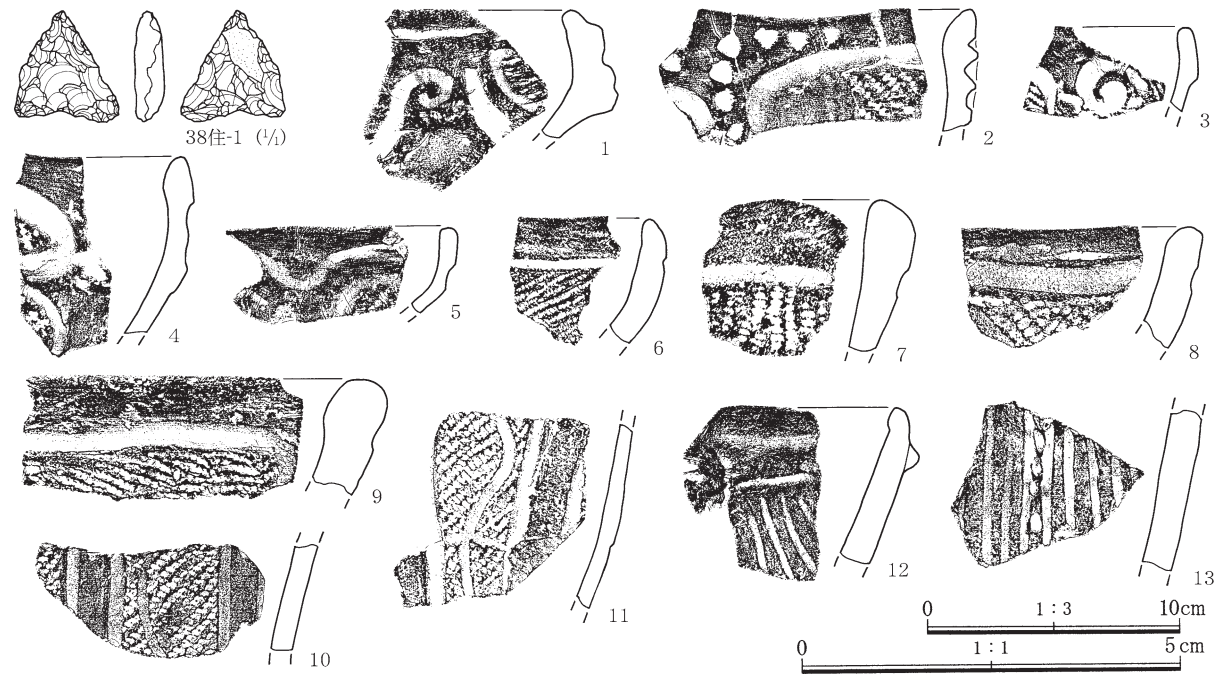
- 1 黒色土 ローム粒子若干含む。
- 2 黒褐色土 ローム粒、炭化物含む。
- 3 黒褐色土 ローム粒、ブロック含む。
- 4 黄褐色土 ロームブロック多く含む。



- 1 黒褐色土 ローム粒、焼土粒少量含む。
- 2 黒褐色土 ローム小ブロック、焼土粒含む。
- 3 黒褐色土 焼土粒多く含む。
- 4 暗赤褐色土 焼土多く、若干の炭化物含む。
- 5 暗褐色土 若干の焼土粒、ローム粒含む。

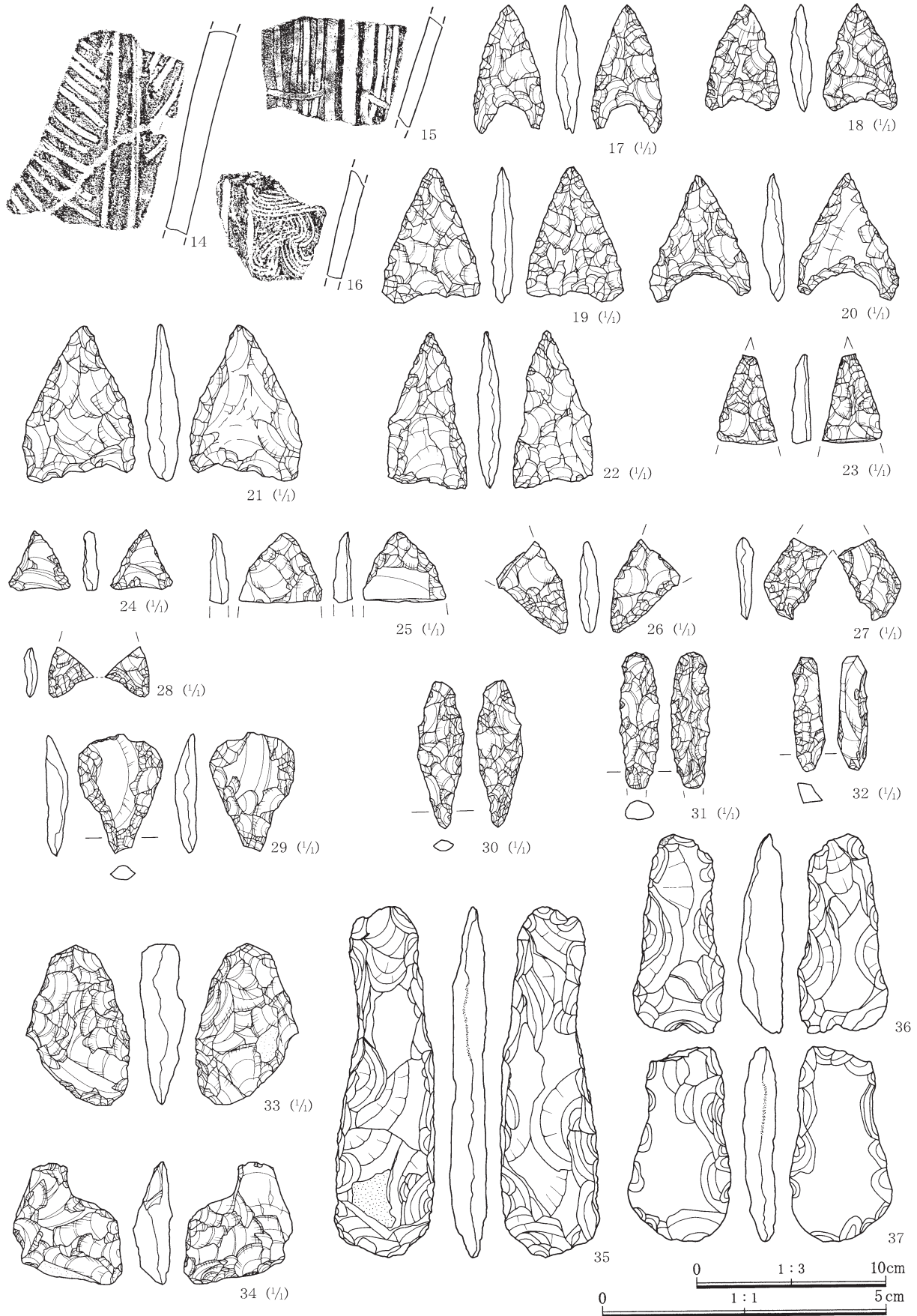
- 1 黒色土 ローム小粒含む、炭化物少量混入。
- 2 黒褐色土 ローム粒炭化物含む。
- 3 黒褐色土 ローム粒、ブロック多く含む。
- 4 黒褐色土 ローム多く含む。
- 5 暗褐色土 ロームブロック主体とする。

第36図 5-38・39号住居跡(2)



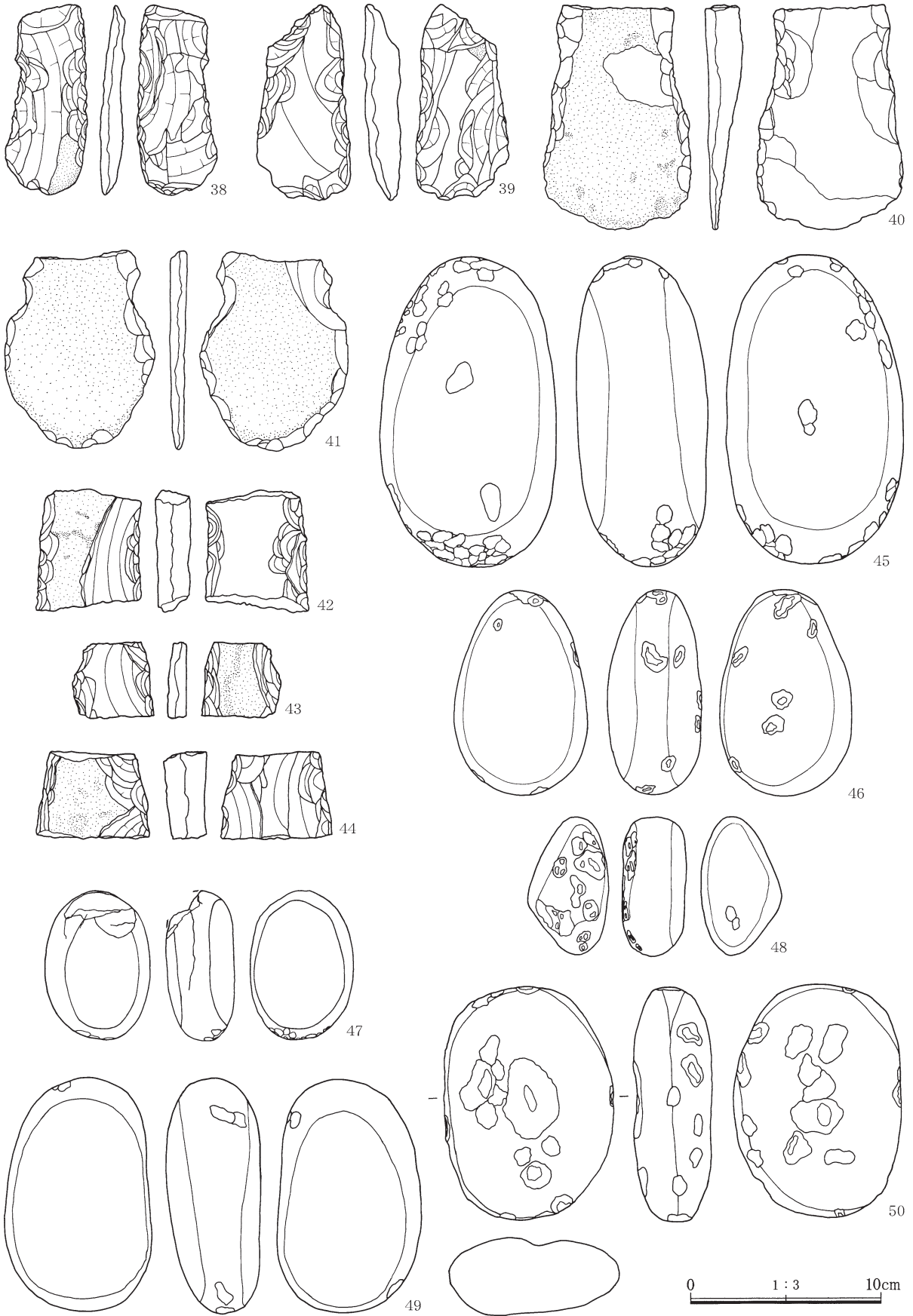
第37図 5-38・39号住居跡出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物

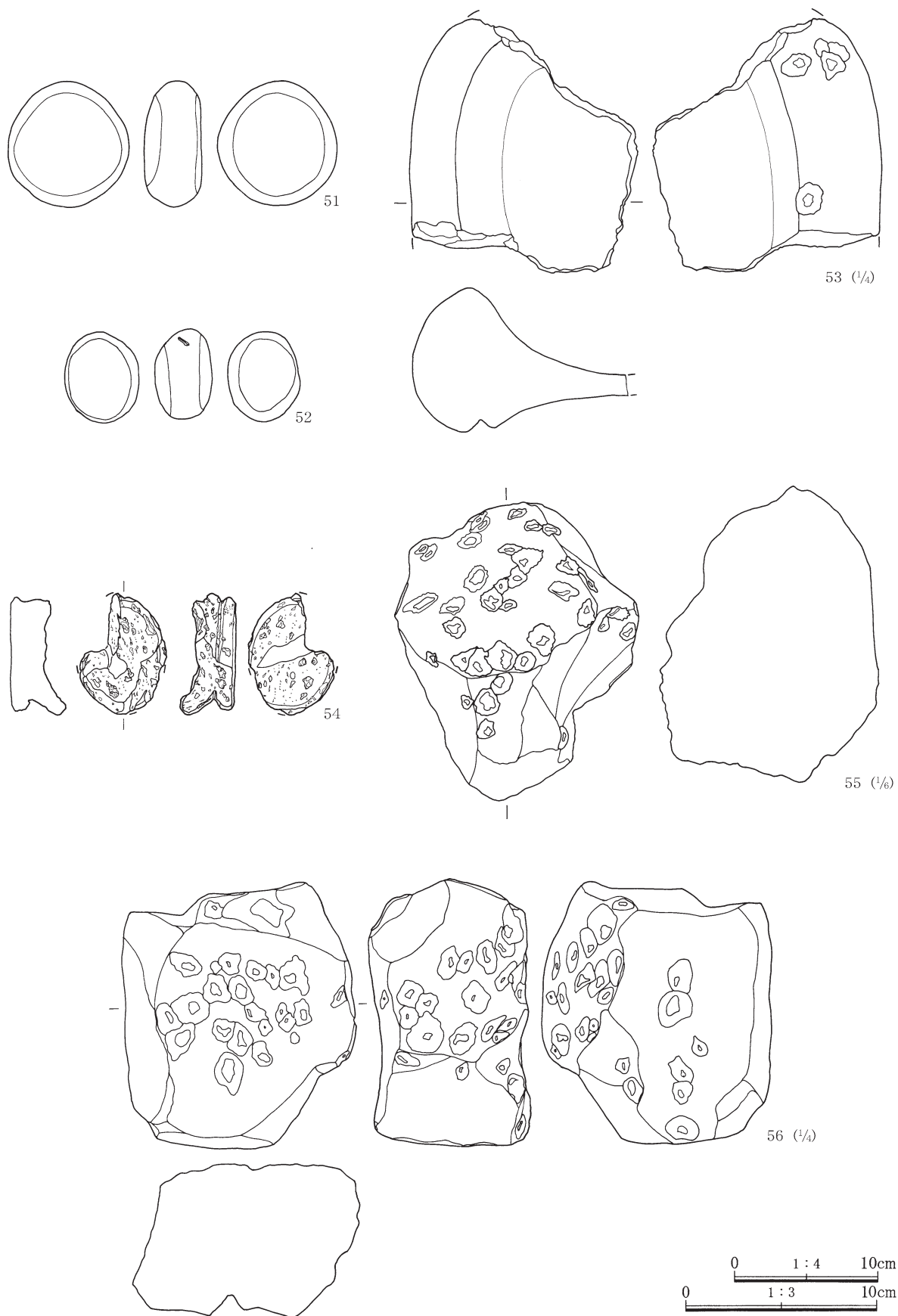


第38図 5-39号住居跡出土遺物(2)

第3節 縄文時代の遺構と遺物



第39図 5-39号住居跡出土遺物(3)



第40図 5-39号住居跡出土遺物(4)

5-69号住居跡（第41～46図：PL11・119・120）

位置 E・F-15・16グリッドに位置する。**重複** 北側に5-803号土坑（近世）、その西に5-821号土坑が重複する。この土坑には9・10号埋甕が伴っており、南側の9号埋甕は住居範囲内に検出されている。中央部には5-813号土坑が掘り込まれており炉の大部分が壊されていた。また南側の入り口部には覆土上層にはあるが、単独の5-11号炉が作られていた。**形状** 円形 **規模** 600×600×55cm。 **方位** N-6°-W **床面** 比較的平坦で締まりも良い、中央から南側部分には貼り床が見られた。1号 Pit の脇には角が丸いほぼ三角形の大形扁平礫が半分以上埋め込まれた状態で置かれていた。表面中央部分が浅く凹んでおり、使用による摩耗が観察された。**炉** 中央やや北寄りに作られていたと思われるが、5-813号土坑により失われている。**柱穴** 主柱穴は周溝内に廻る6本（P-1～6）と思われる。径は40～60cmの円ないしは長円形で深さは50～60cmである。**埋甕** 奥壁のやや西よりに検出されているが伴うものかは不明である。**掘方** 住居の手前側、大形扁平礫の周囲に厚さ数cmの黒色土混じりのロームを客土した貼床が部分的に見られた。その他小 Pit が検出されたが、床下土坑は等は見られなかった。

出土遺物 埋土中より土器、多くの石器が出土している、またやや大形の石などもかなり多く混在していた。1はキャリパー形を呈し、全面に複節縄文が施文されている。

時期・所見 炉が後世の土坑によって削られていたが、全体的には良好な状態で検出された。時期は中期後半である。

5-70号住居跡（第47～56図：PL12・121～123）

位置 G・H-15・16 **重複** 東西にややずれた形での2軒重複と見られる。5-69号住居跡の西側に接しており、南端には5-40号住居跡、5-814号土坑が重複する。**形状** ほぼ円形を呈すが、東側壁がやや外側に張り出した部分があり、古い住居の掘方と見られ、立ち上がりも緩やかになっている。**規模** 645×640×40cm。 **方位** N-20°-W **床面** 中央部分を中心に比較的締まりの良い状態で平坦であった。床面の所々に地山に含まれる大形の礫が露出した状態で検出されている。周溝が2重に廻ることから拡張が行われたものと見られる。

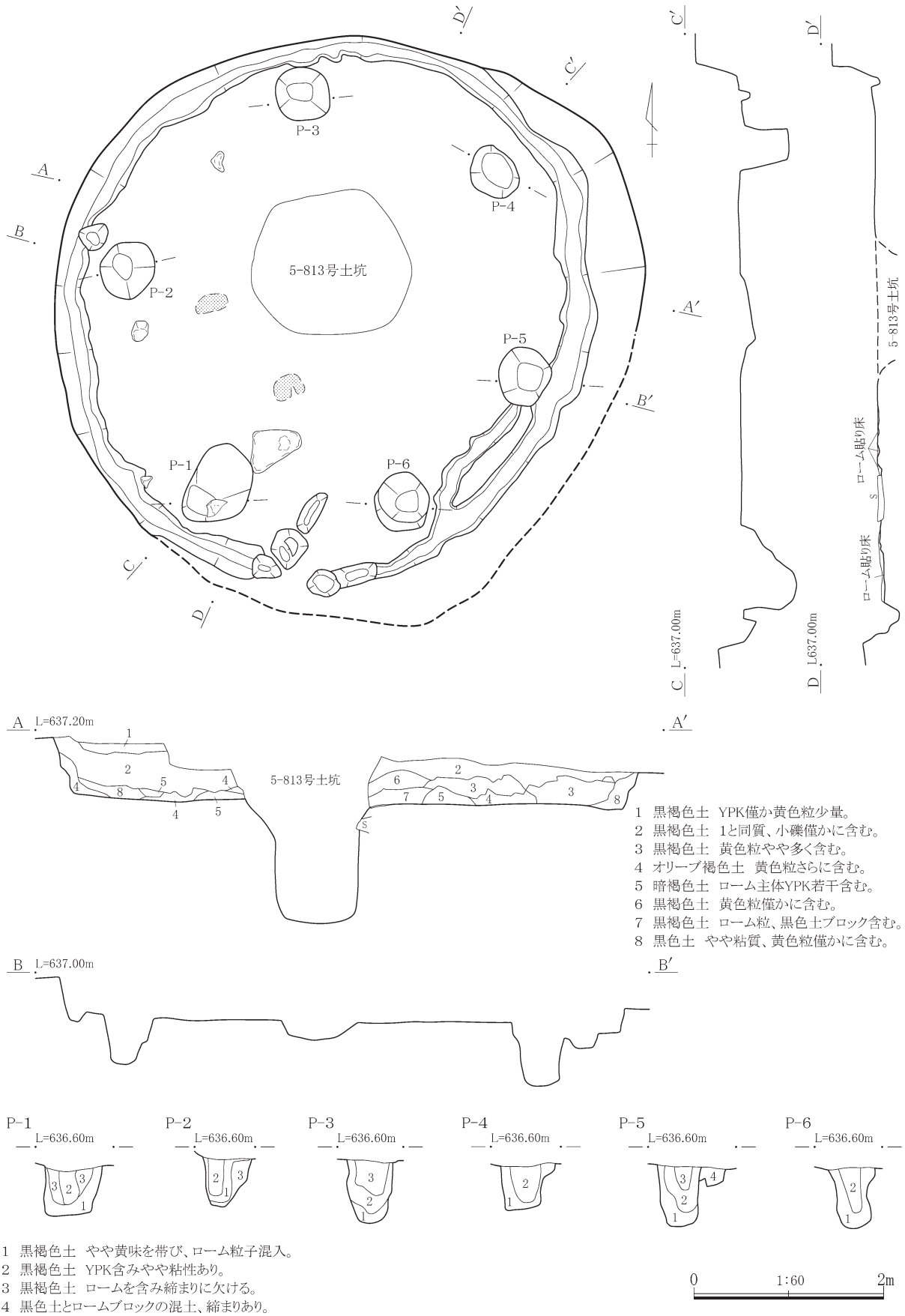
炉 新旧2基が検出された。最終時の1号炉は中央やや北寄りに構築されている。大形の礫を方形に組んでいたものと思われるが、北および東側の石は抜かれていた。また手前右側の石は地山礫を利用している。炉底は良く焼けて赤褐色を呈し、中央には深鉢の胴部が炉体土器として埋設されていた。古い2号炉は1号炉の東に検出された。北側は地山の礫を炉石として利用していたと見られる、他の石は検出されなかった。掘方径約1m、深さ35cm程である。底面に若干の焼土が見られた。

柱穴 新旧に大別されると思われる Pit が2重（一部3重）に廻る。8本ないしは9本が同時使用されていたものと判断される。**埋甕** 検出されなかった。**掘方** 2号炉は掘方時に検出された。覆土上層にローム混じりの比較的締まりの良い層が認められた。出土遺物はほとんど見られなかった。

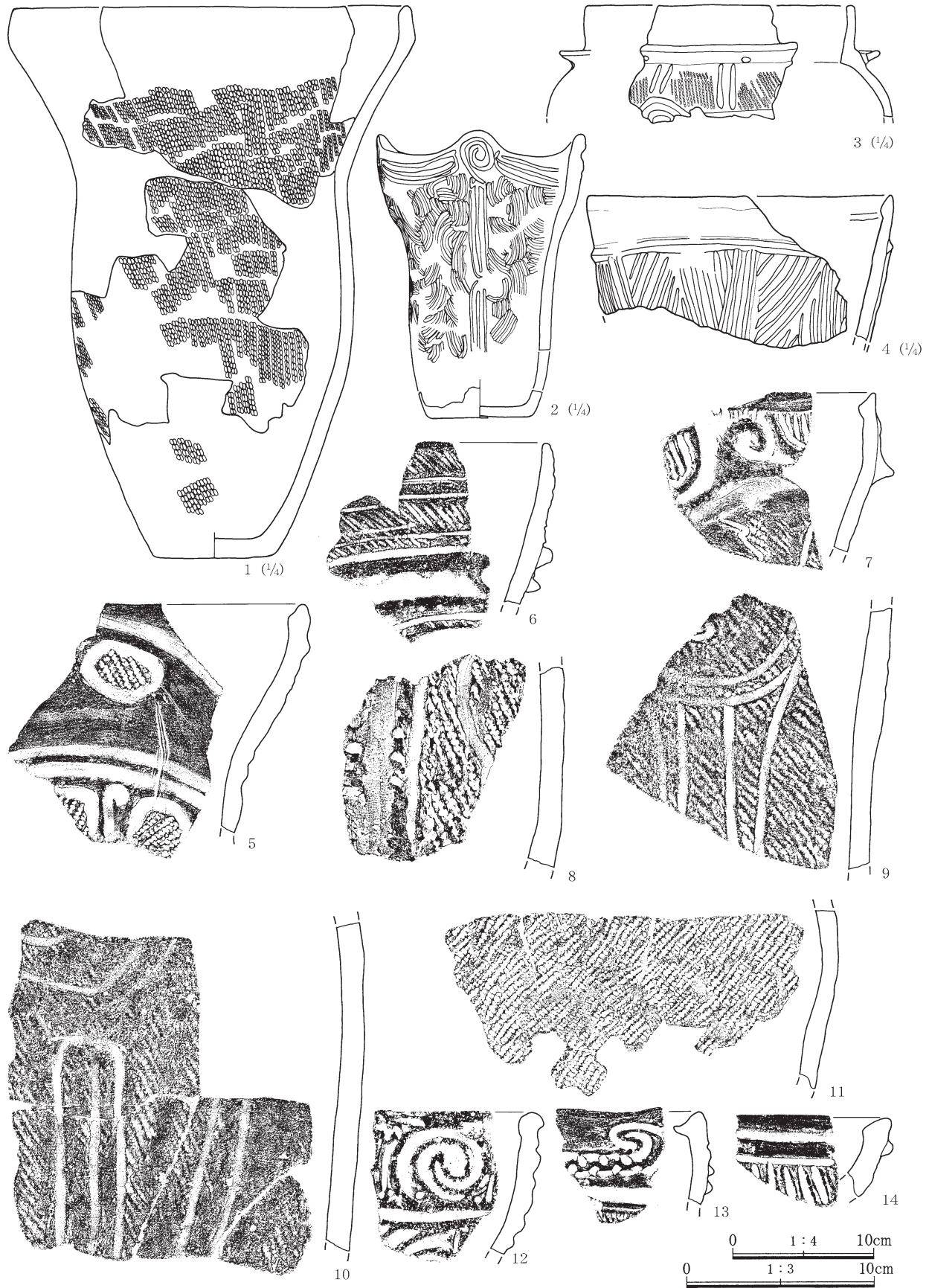
出土遺物 比較的出土遺物が多い。1は吊り手土器である。床面に潰れた状態で出土している。石器も多く、石鏃、石錐をはじめ打製石斧も多く出土している。また68は大型の砥石である、4面に溝状の使用面が見られ、極めて平滑である。

時期・所見 建て替え、あるいは重複がなされ、その後さらに拡張されたことが伺われる。重複住居である可能性が高いが番号は付さずに1軒として記載。出土遺物から中期後半と判断される、古い住居についても近接した時期と思われる。出土土器は唐草文系のものが多く見られる。中期後半。

第3章 検出された遺構と遺物



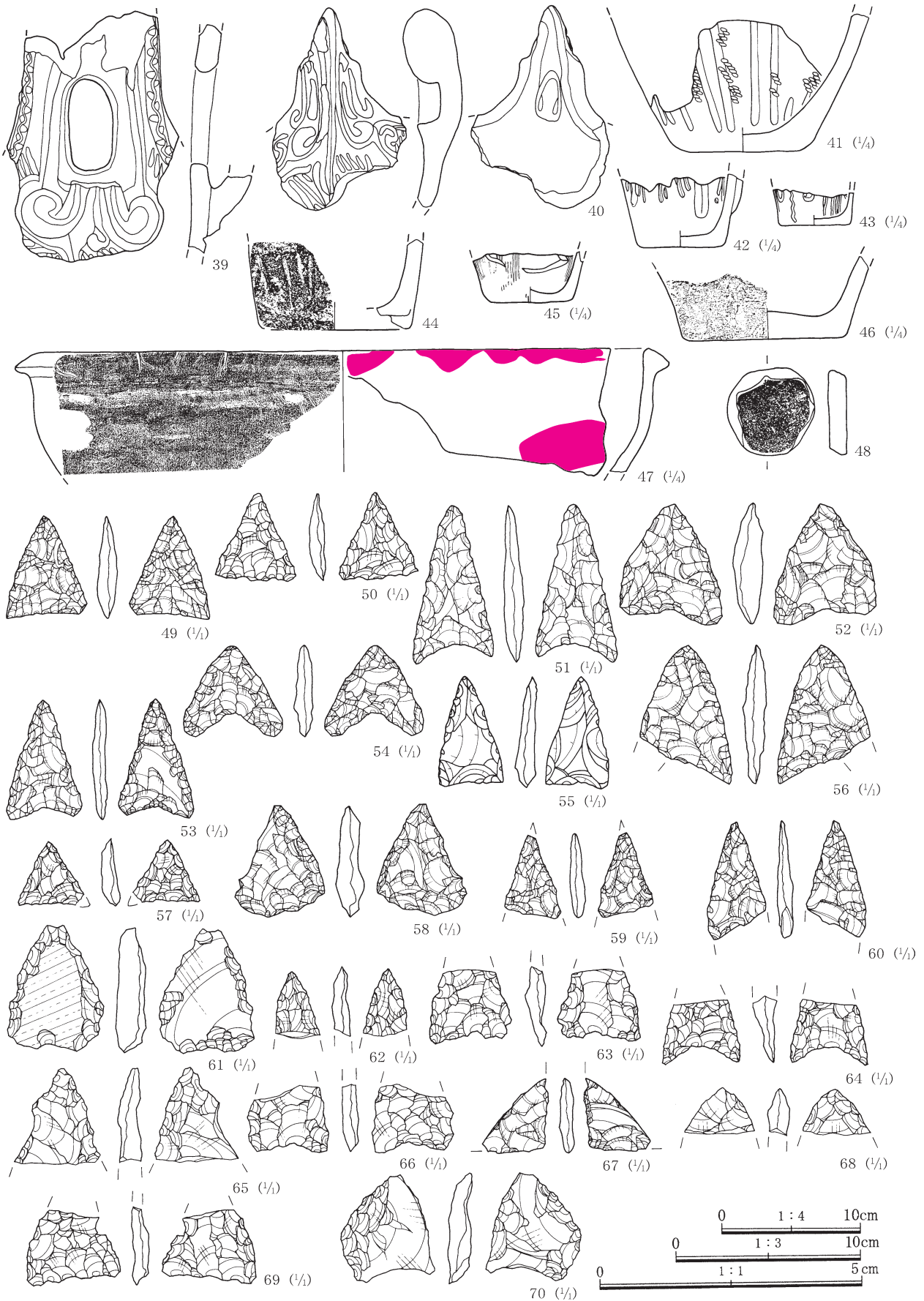
第41図 5-69号住居跡



第42図 5-69号住居跡出土遺物(1)

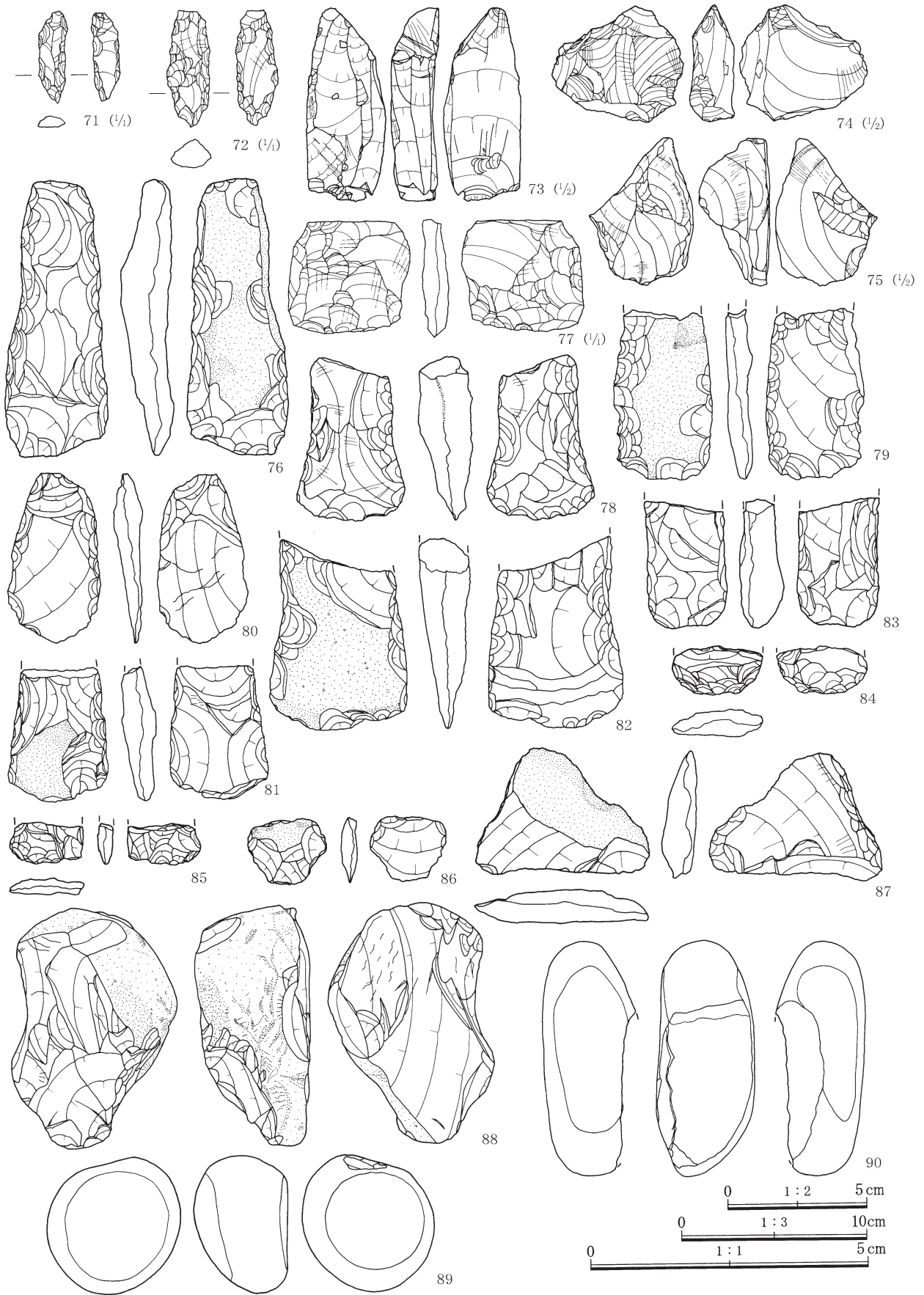


第43図 5-69号住居跡出土遺物(2)

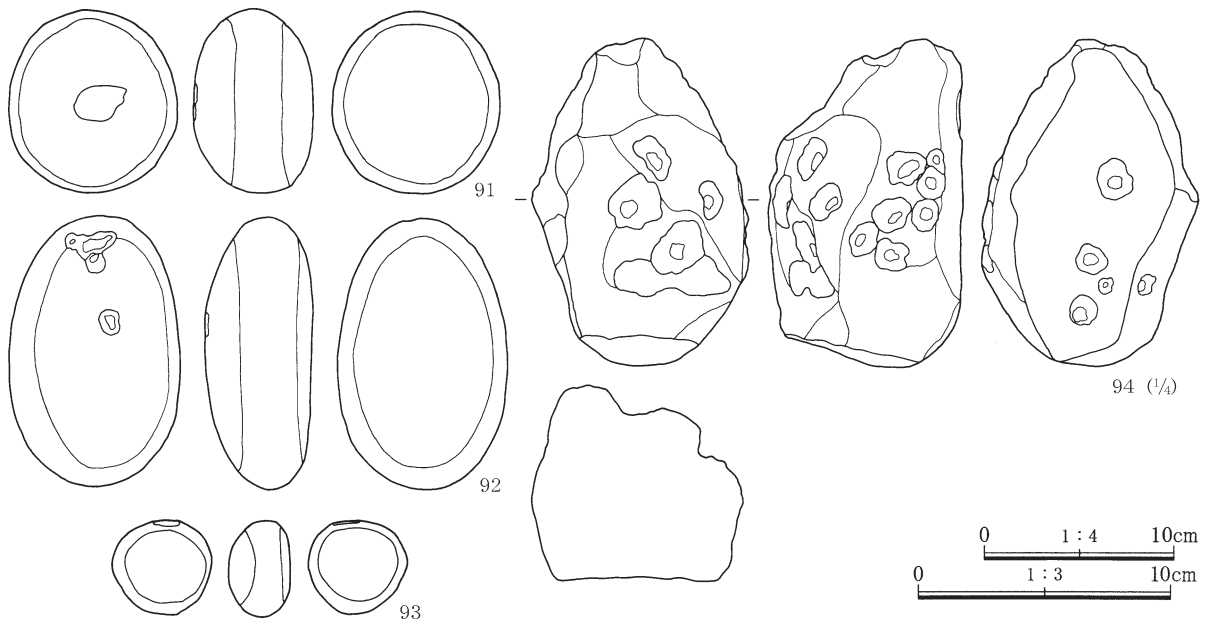


第44図 5-69号住居跡出土遺物(3)

第3章 検出された遺構と遺物



第45図 5-69号住居跡出土遺物(4)



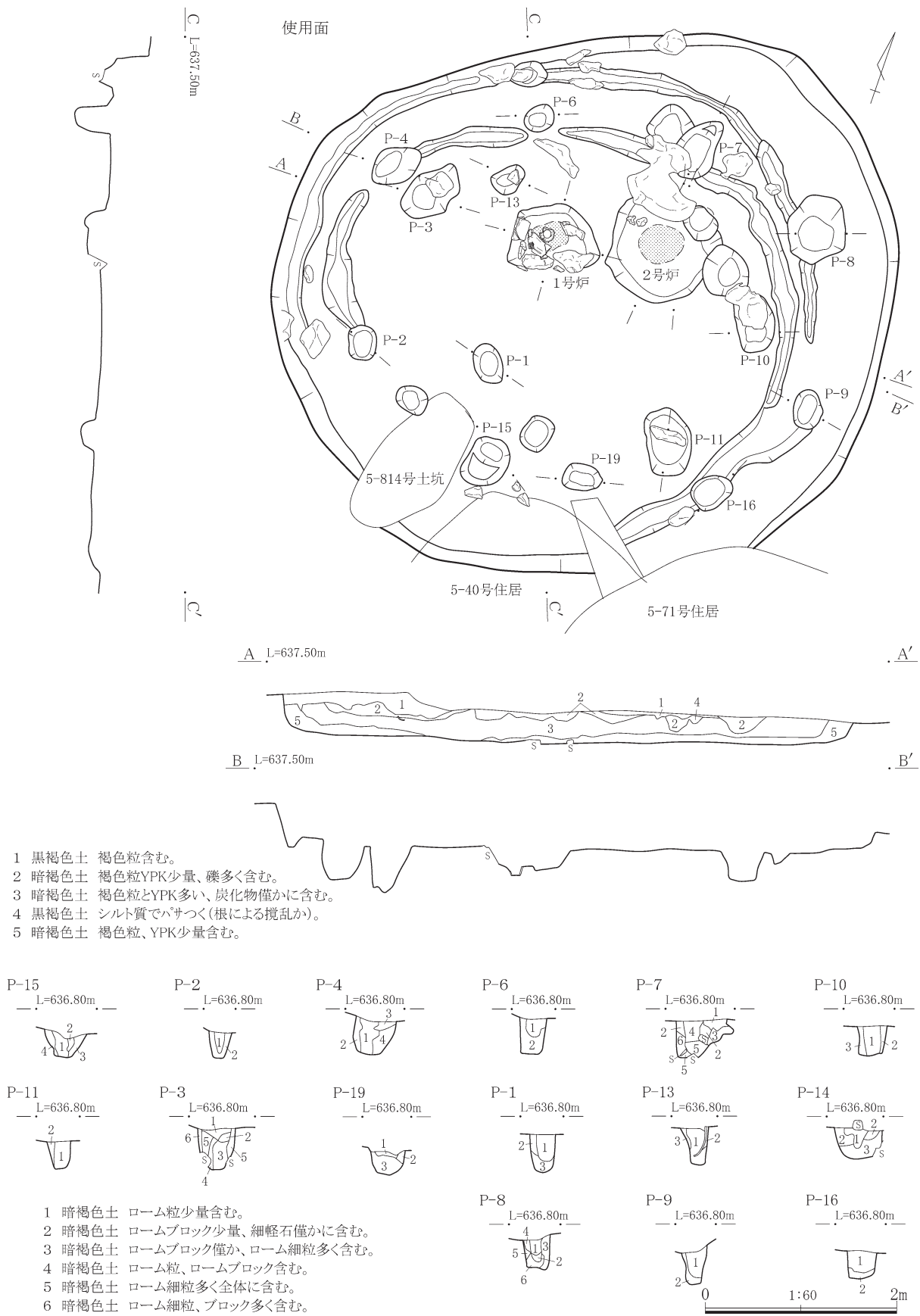
第46図 5-69号住居跡出土遺物(5)

遺物分布図

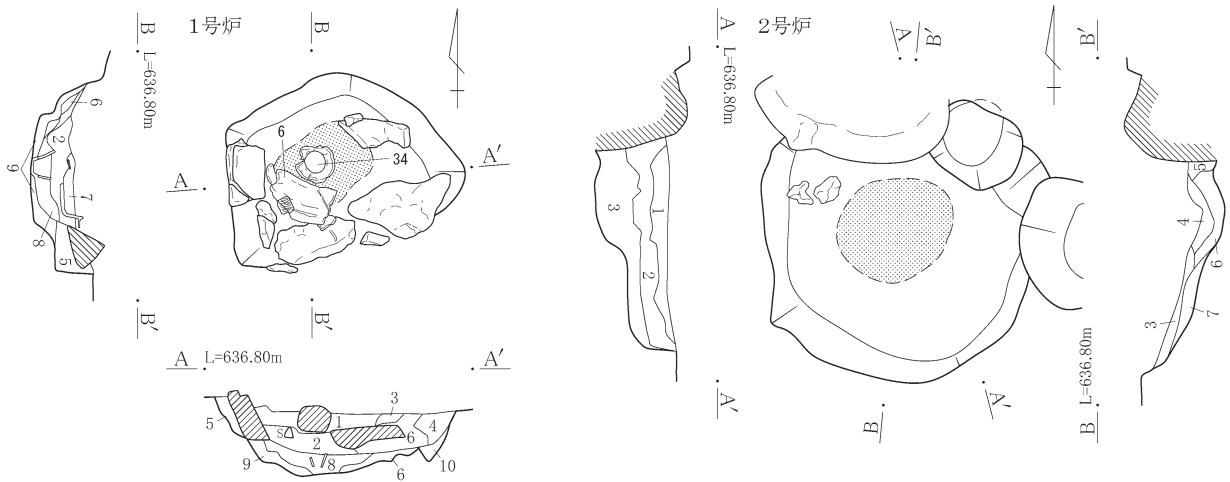


第47図 5-70号住居跡(1)

第3章 検出された遺構と遺物

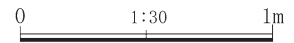


第48図 5-70号住居跡(2)

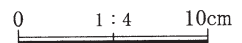
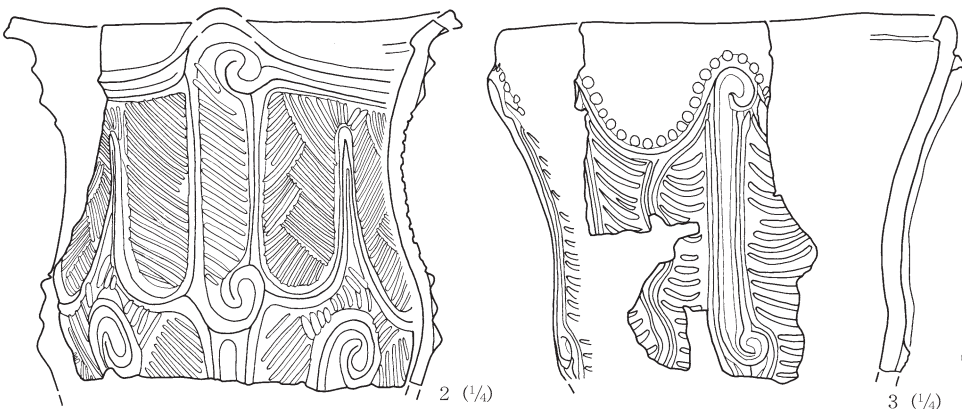
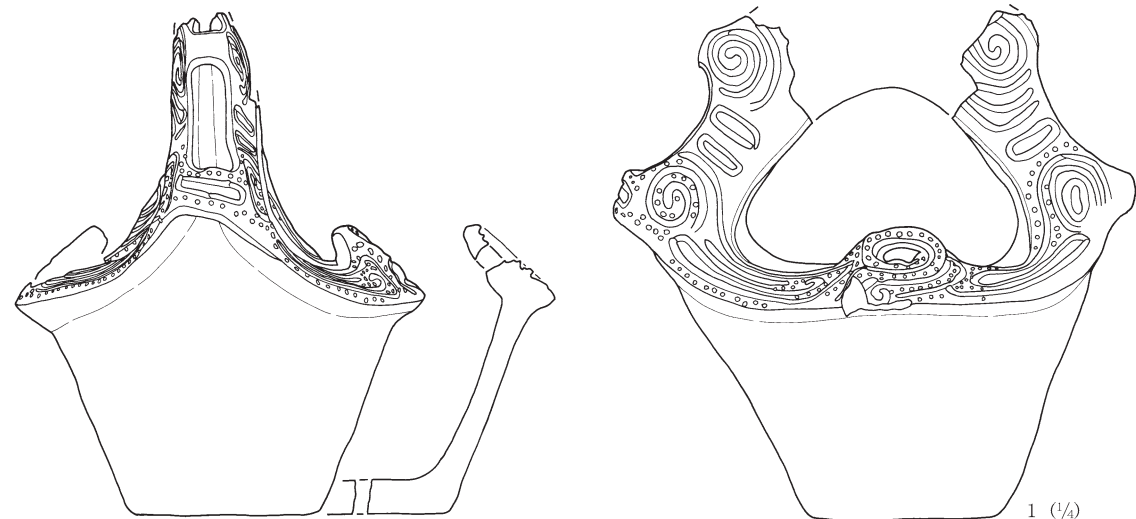


- 1 暗褐色土 淡白黄色軽石、褐色粒、炭化物僅かに含む。
- 2 暗褐色土 褐色粒と炭化物、ローム粒僅かに含む。
- 3 暗褐色土 締まりなしローム細粒僅か。
- 4 暗褐色土 ロームブロック僅か、褐色粒少量。
- 5 暗褐色土 褐色粒ローム細粒僅か。
- 6 暗褐色土 褐色粒少量、明赤褐色粒と炭化物僅か。
- 7 暗褐色土 締まりなく炭化物と褐色粒少量。
- 8 暗褐色土 白色軽石粒YPK含み締まり欠く。
- 9 暗褐色土 ローム粒混入。
- 10 明赤褐色土 焼土。

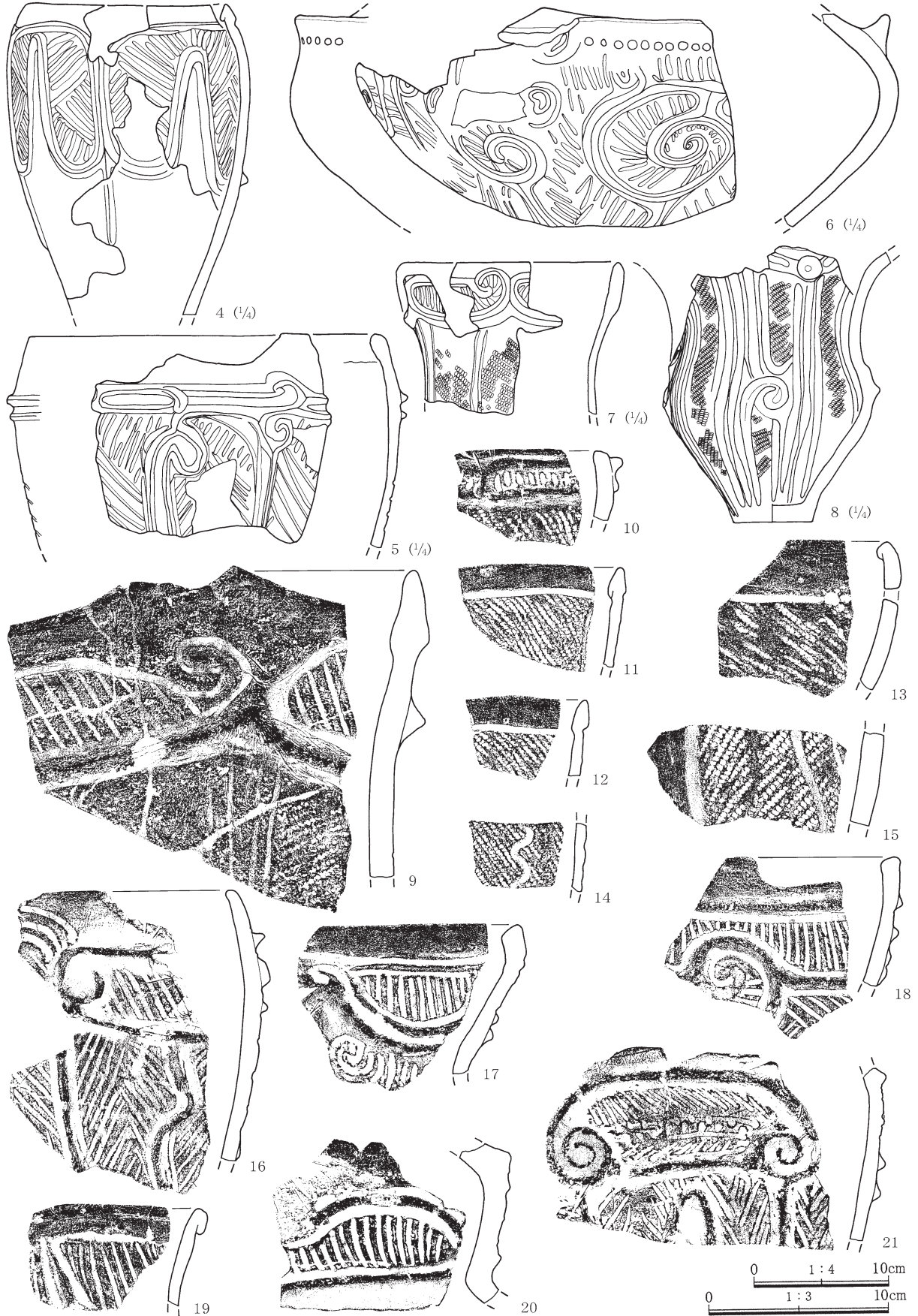
- 1 黄色土 ローム主体とする(新住居の貼り床)少量の黒色土ブロック含む
- 2 暗褐色土 若干のローム粒子、炭化物、焼土粒含む
- 3 暗赤褐色土 焼土粒子、炭化物含む
- 4 黒色土 締まりなくバサつく
- 5 黒褐色土 ローム粒子多く混入
- 6 黄褐色土 YPK多く含みロームブロック混入
- 7 赤褐色土 焼け方はあまく、黒色土小ブロック僅かに混入



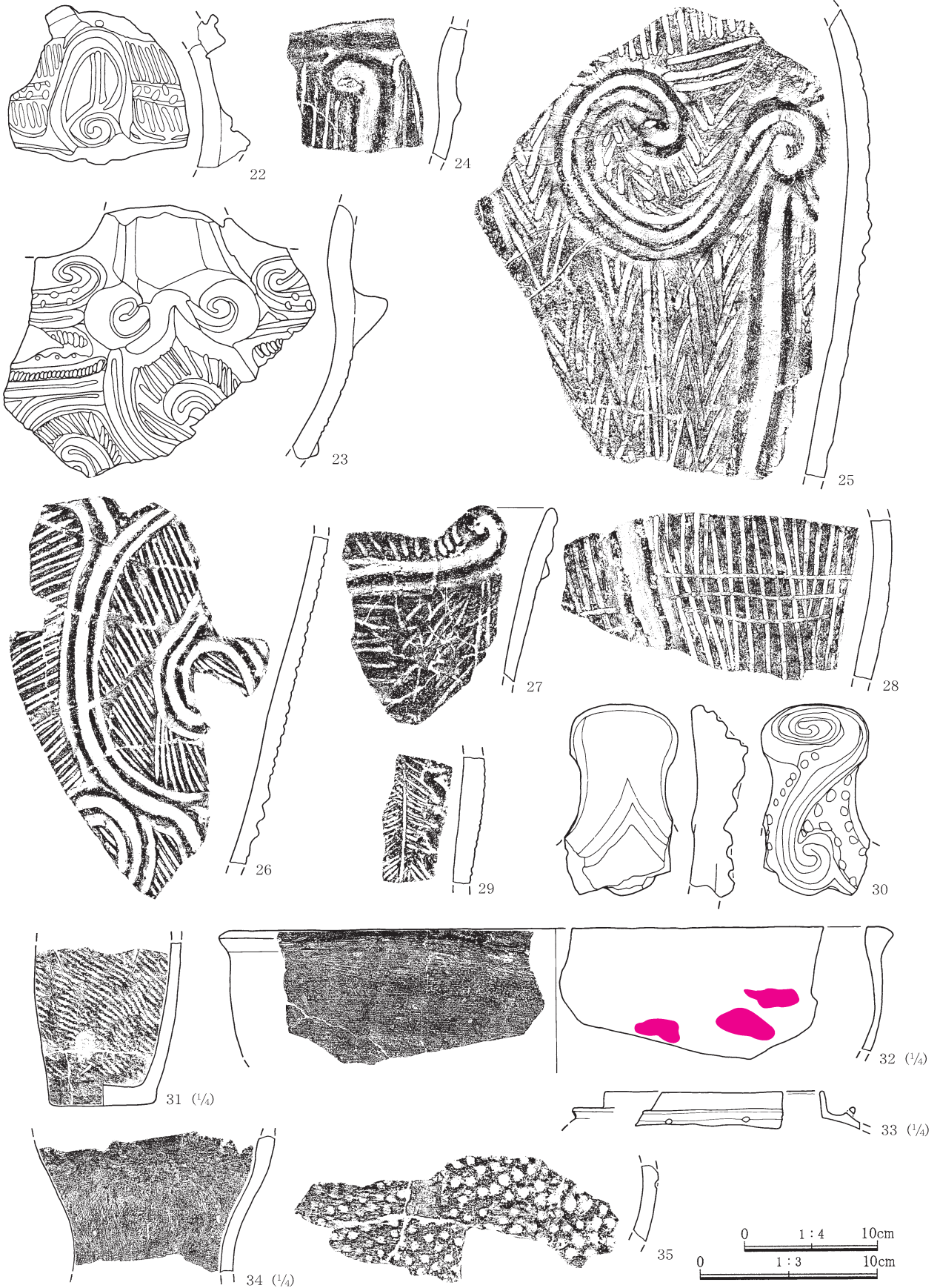
第49図 5-70号住居跡(3)



第50図 5-70号住居跡出土遺物(1)

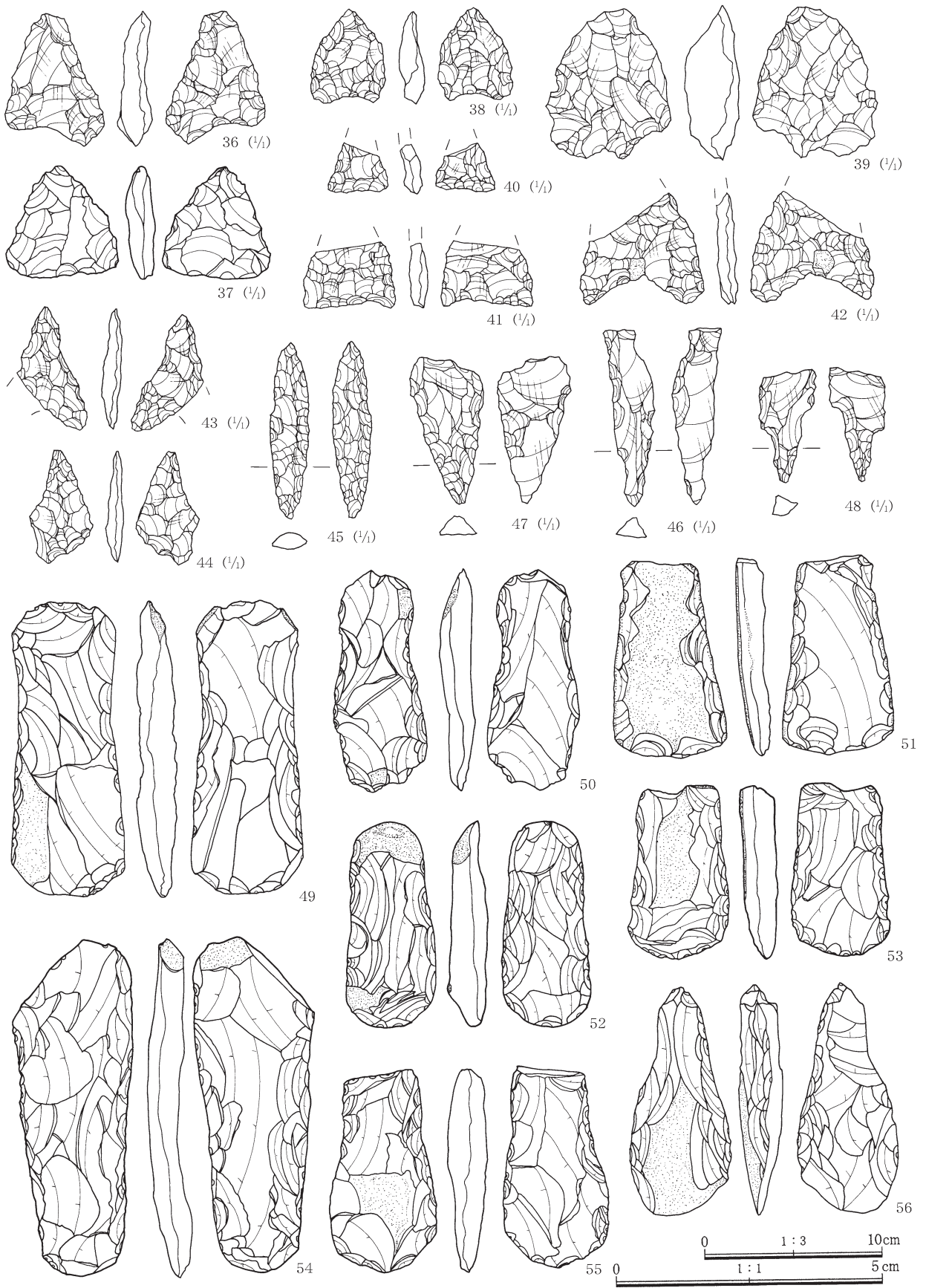


第51図 5-70号住居跡出土遺物(2)

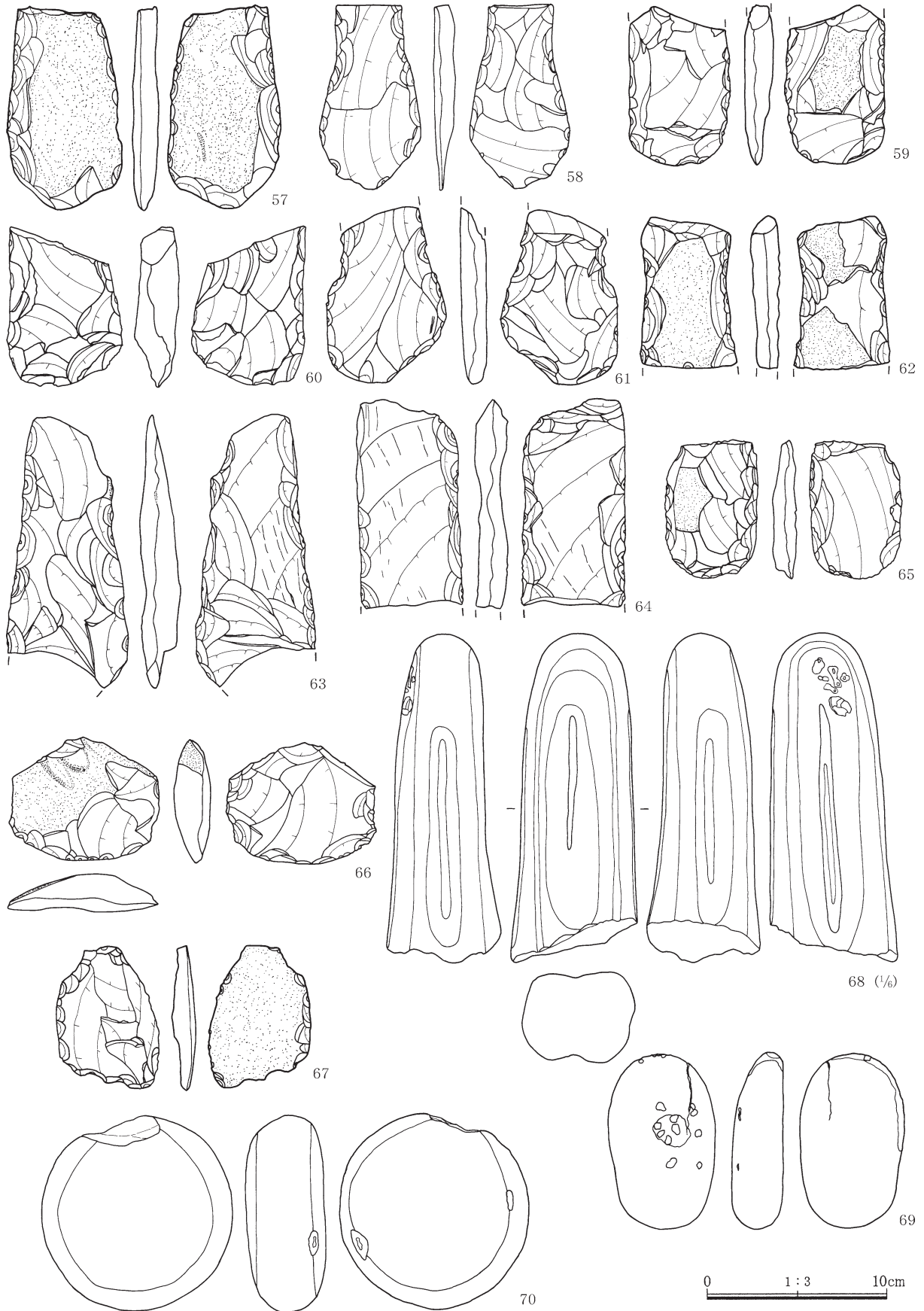


第52図 5-70号住居跡出土遺物(3)

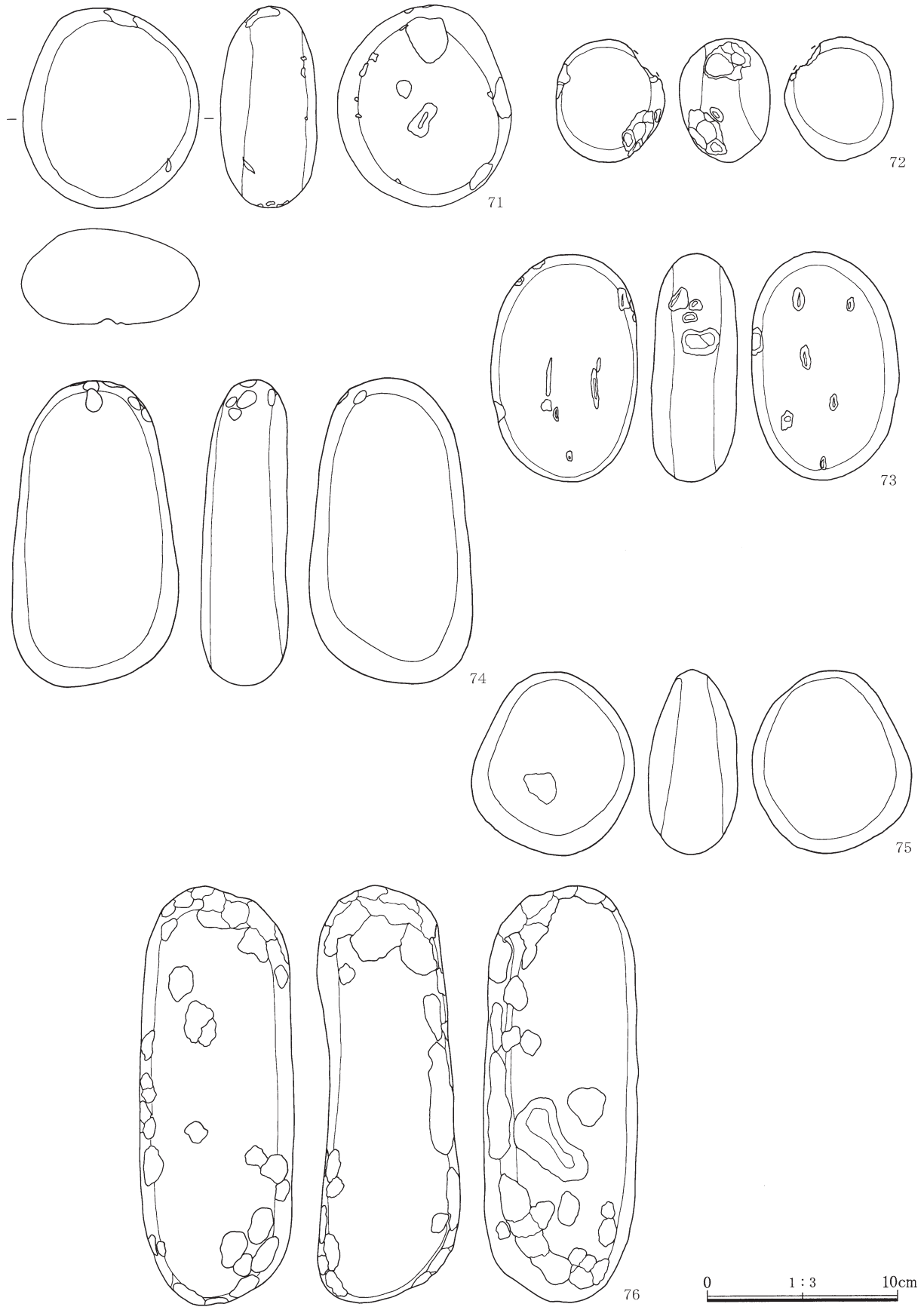
第3章 検出された遺構と遺物



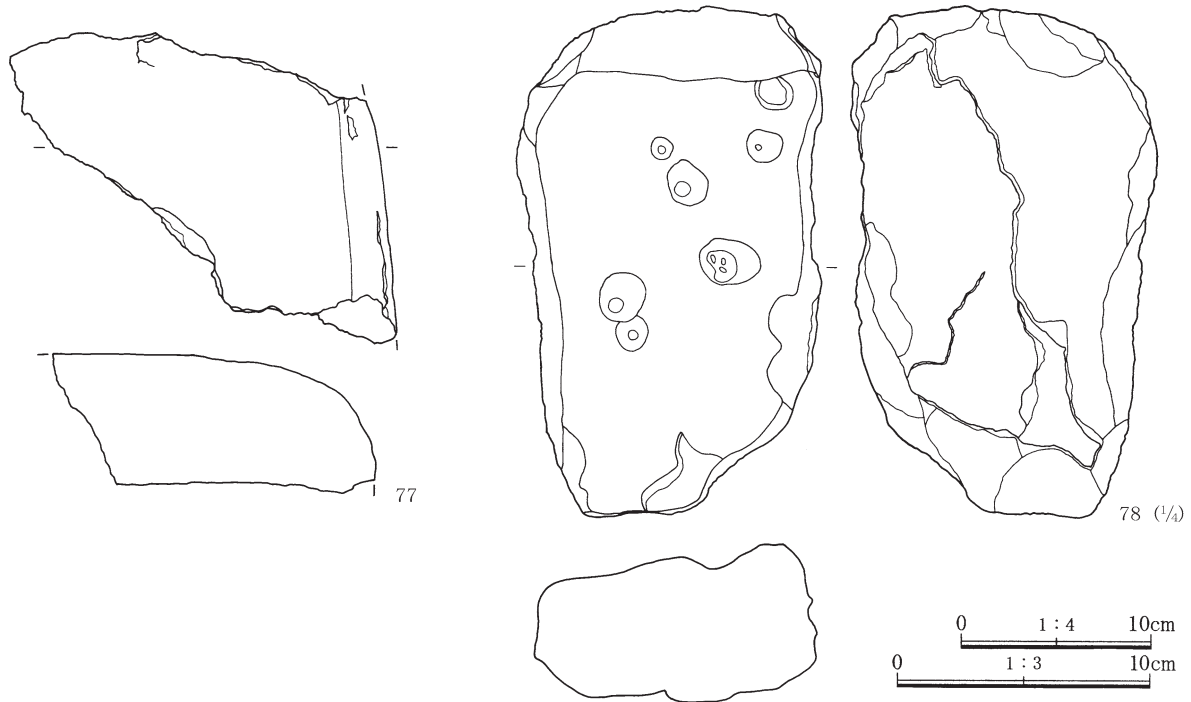
第53図 5-70号住居跡出土遺物(4)



第54図 5-70号住居跡出土遺物(5)



第55図 5-70号住居跡出土遺物(6)



第56図 5-70号住居跡出土遺物(7)

5-71号住居跡 (第57～63図：PL13・123・124)

位置 F・G-14・15グリッドに位置する。 **重複** 東側に5-805号土坑が、南側に5-40号住居跡が重複し、さらに東西に走る水道管敷設溝により南部分を壊されている。

形状 やや縦長の隅丸方形か。 **規模** 450×420×40cmである。 **方位** N-11°-E

床面 平坦で締まりも良いが、地山の小礫が所々に露出している。炉の南東脇に焼土の広がりが見られた。北壁に沿って部分的に周溝が認められた。 **炉** 住居中央のやや北寄りに検出された地床炉である。炉石は検出されず、径約90cm、深さ25cm程の円形ですり鉢状の掘り込みが見られた。覆土中より若干の土器片と角礫が出土した、下部には焼土が検出されている。

柱穴 西に2本、東に2本(1本は5-805号土坑中)の計4本が確認された、さらに南に2本存在していたものと思われるが、攪乱溝により壊されている。 **埋甕** 検出されなかった。

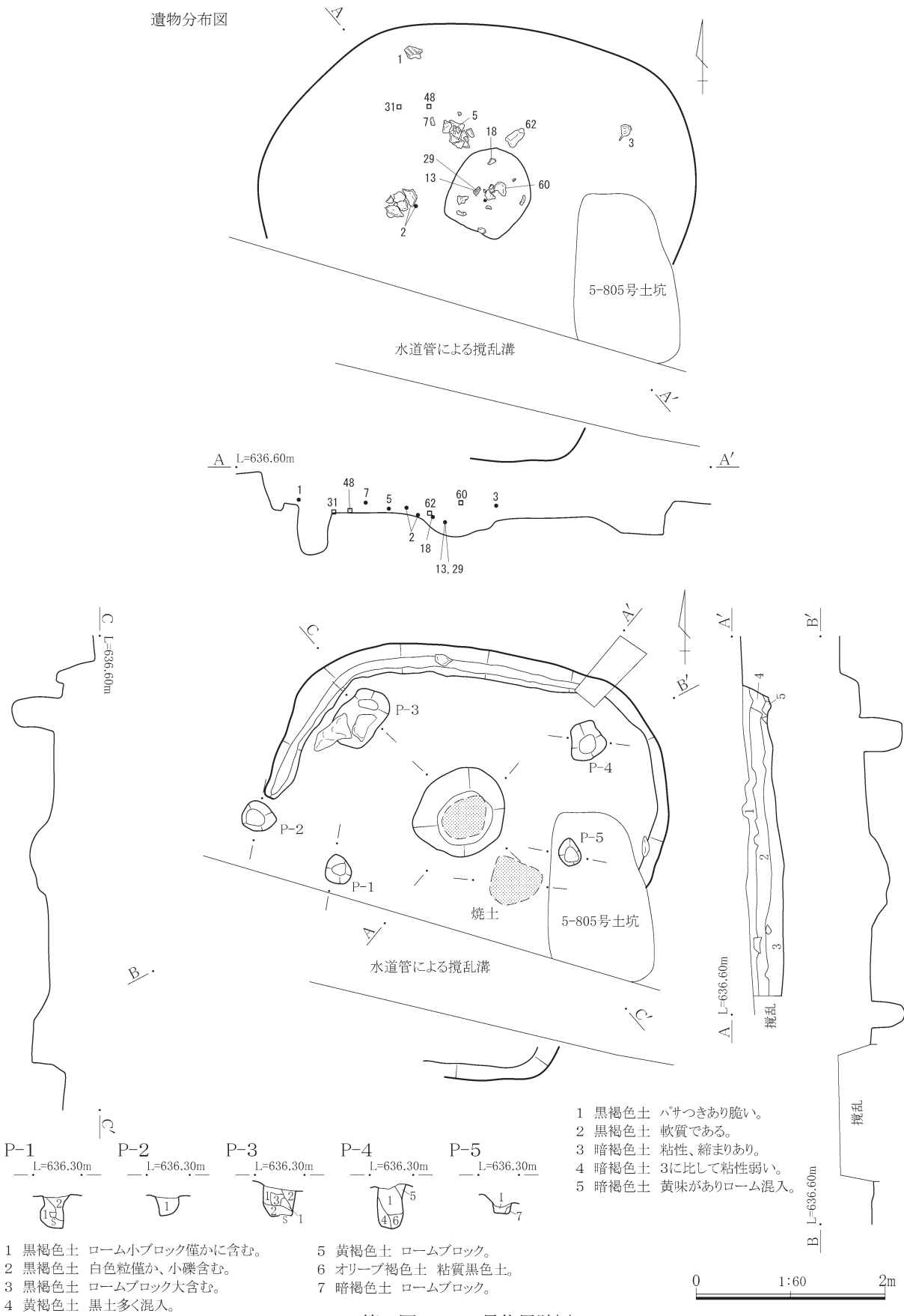
掘方 貼り床、床下土坑などは見られなかった。

出土遺物 遺物は炉内および周辺部に多く見られた。2は両耳壺、3は台付きの深鉢である。4は広口の壺形土器で赤彩が見られる。石器類は石鏃および磨石が多く、打製石斧の出土は少ない。さらには石皿や多孔石も出土している。

時期・所見 隅丸方形を呈す住居である。南側が水道管の敷設溝等でかなり壊されていた。出土遺物から時期は中期後半と考えられる。

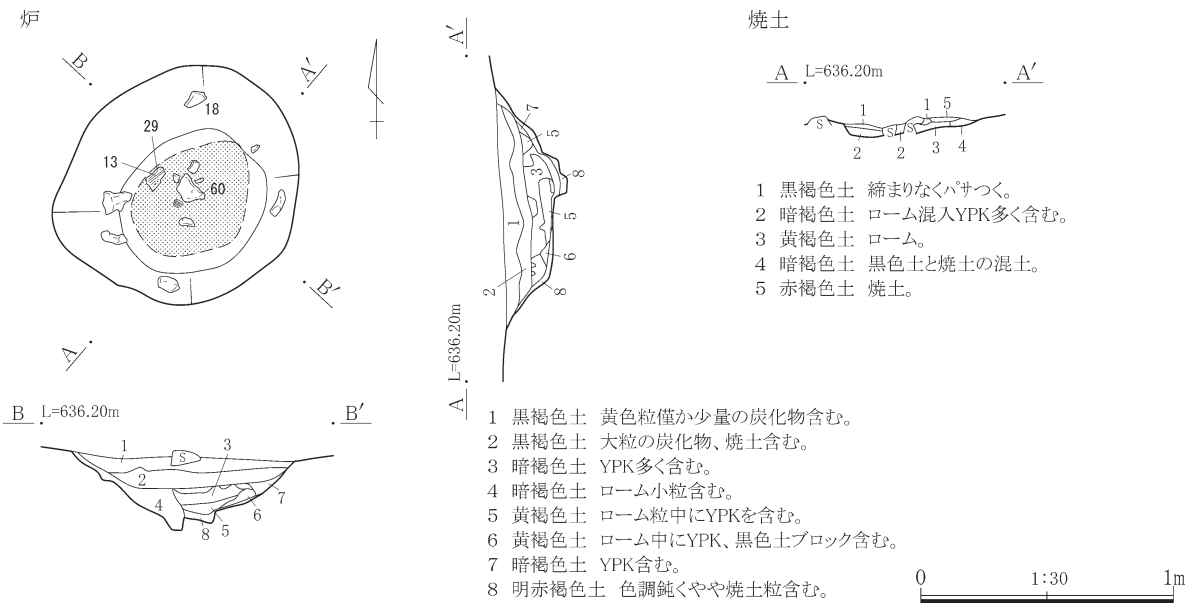
第3章 検出された遺構と遺物

遺物分布図

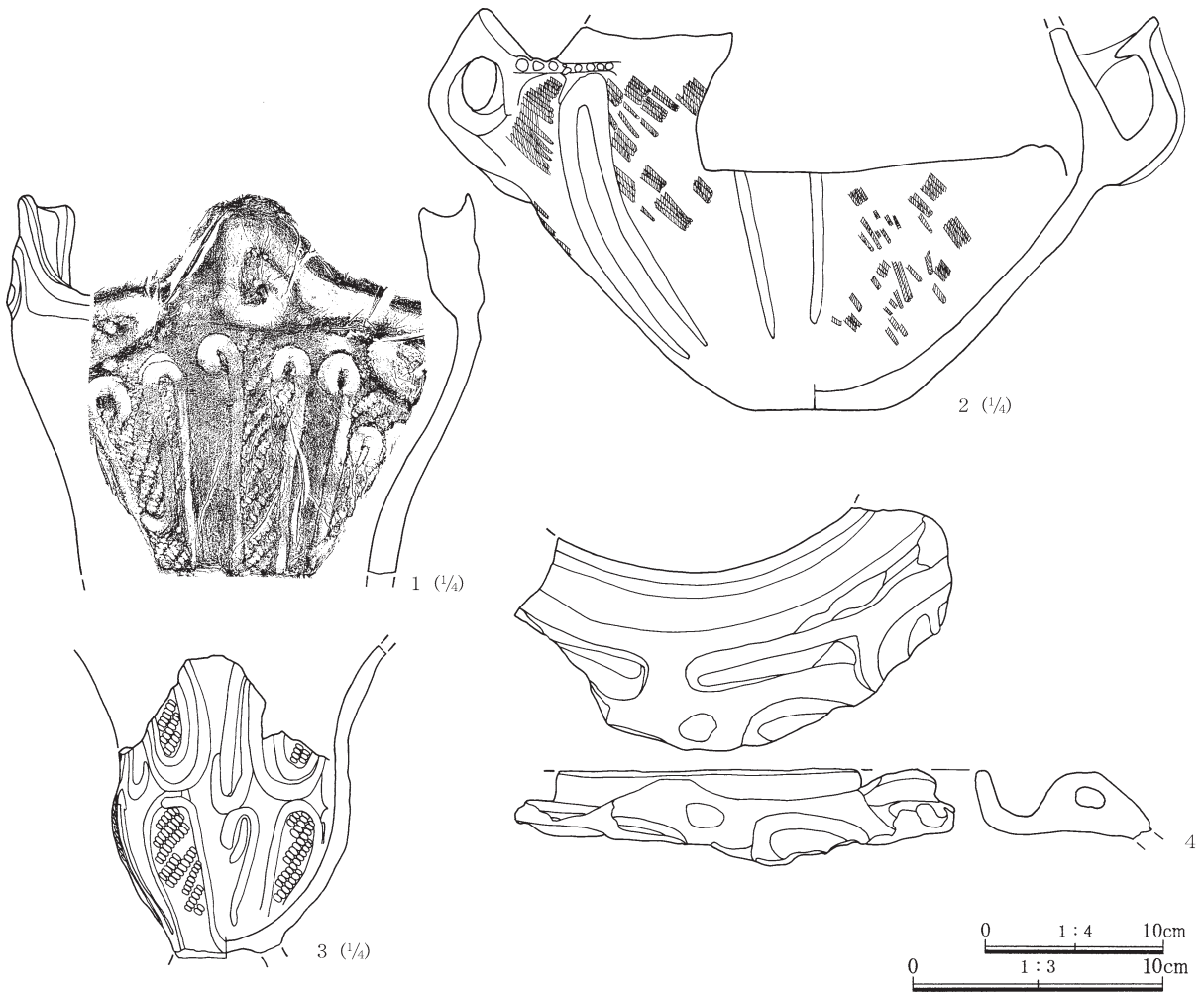


第57図 5-71号住居跡(1)

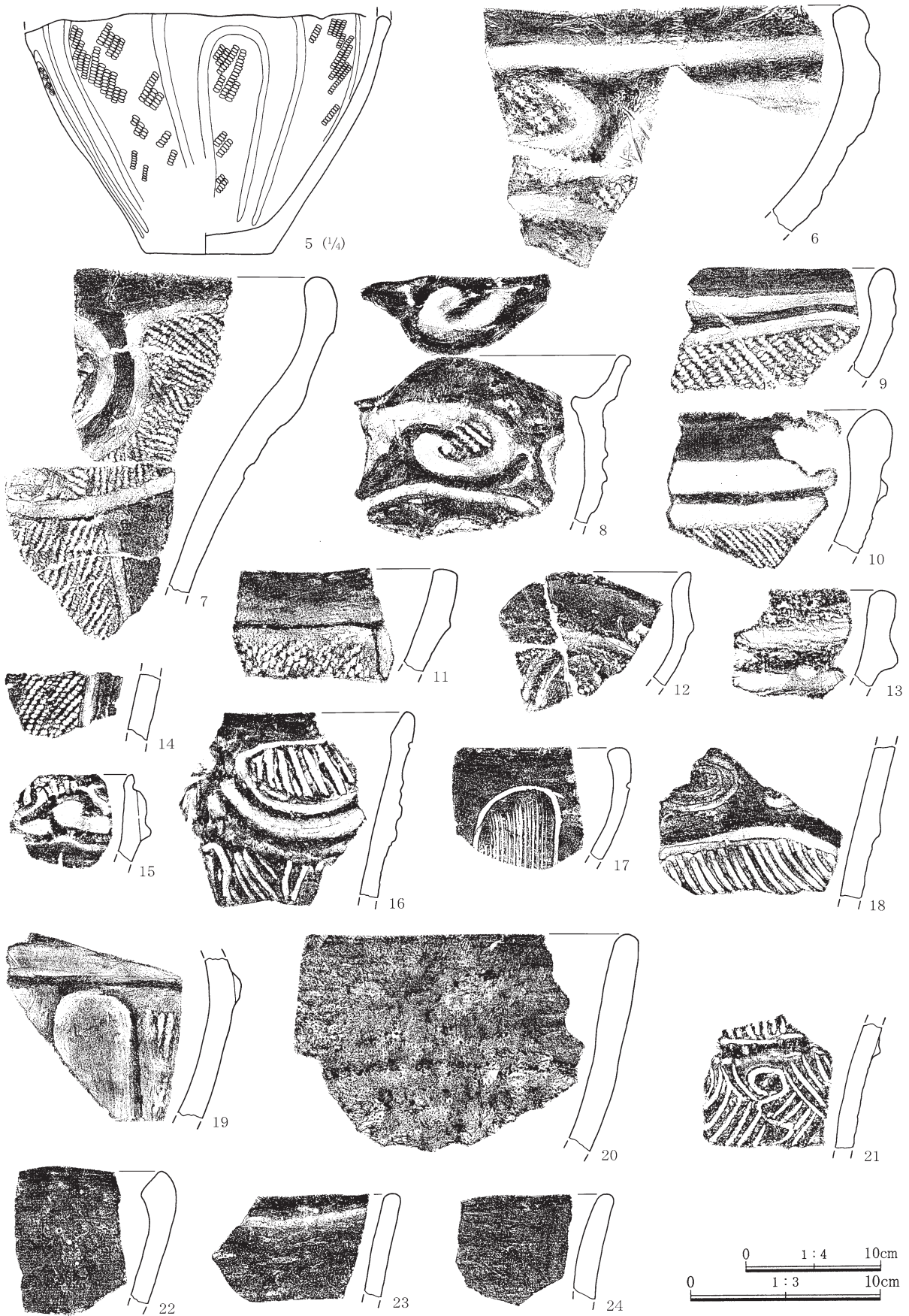
第3節 縄文時代の遺構と遺物



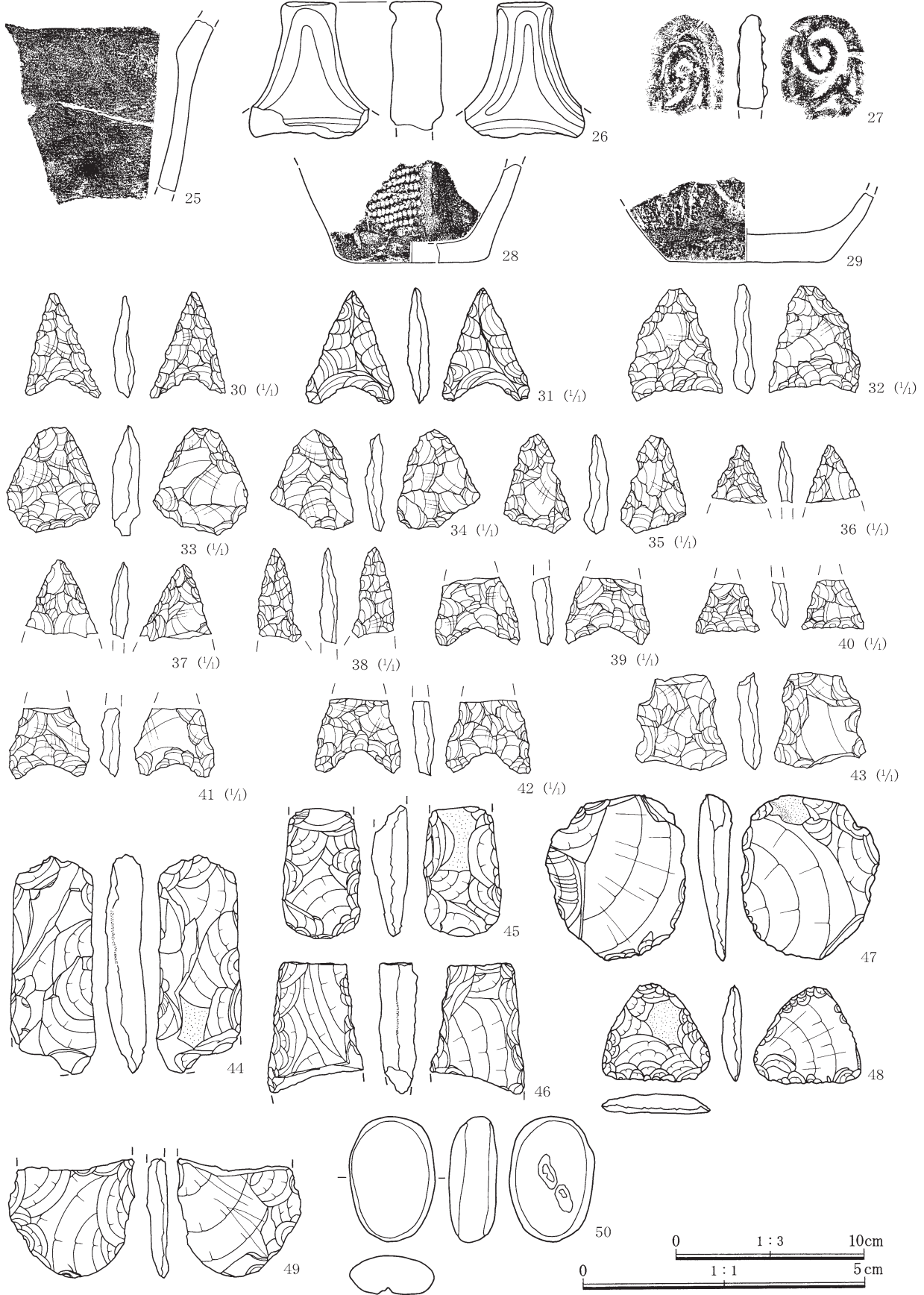
第58図 5-71号住居跡(2)



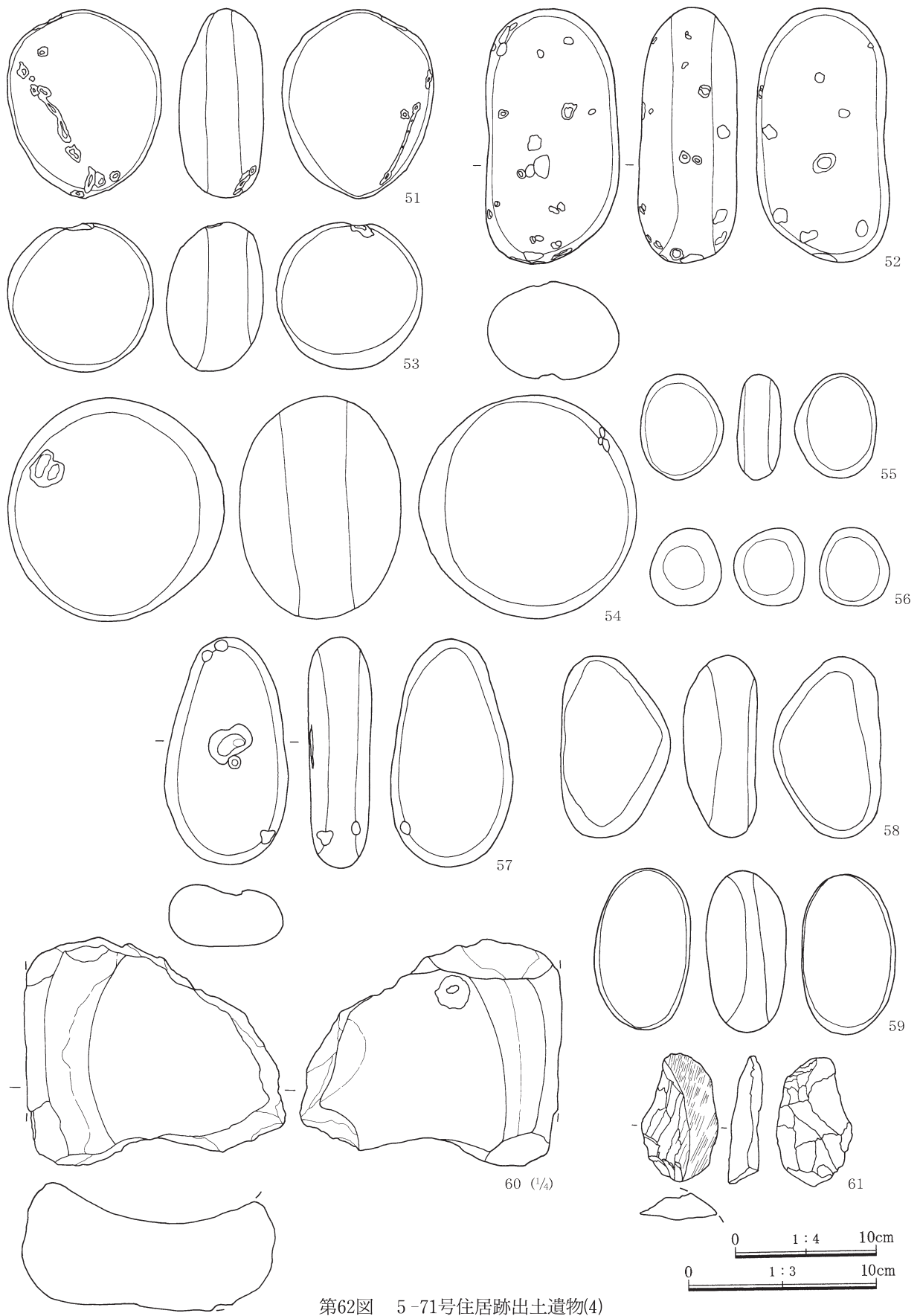
第59図 5-71号住居跡出土遺物(1)



第60図 5-71号住居跡出土遺物(2)



第61図 5-71号住居跡出土遺物(3)



第62図 5-71号住居跡出土遺物(4)



第63図 5-71号住居跡出土遺物(5)

5-72号住居跡 (第64~69図: PL13・14・124・125)

位置 B~D-15・16グリッドに位置する。 **重複** 南西端に5-808号土坑が重複する。

形状 円形を呈す。 **規模** 600×550×40cm。 **方位** N-12°-W

床面 ローム面にまでは掘り下げておらず、黒褐色土中に床面を構築、全体にやや緩やかな凹凸が見られる。縮まりは有るが硬質と言う程ではない。 **炉** 中央やや北寄りに構築されている。石を方形に組んだ石組み炉であるが、北側の石は見られなかった。 **柱穴** 壁に沿って支柱穴5本が検出されている。北側に位置する3本がやや大きく長径70cm、短径50cm程の長円形で深さが50~60cmである。

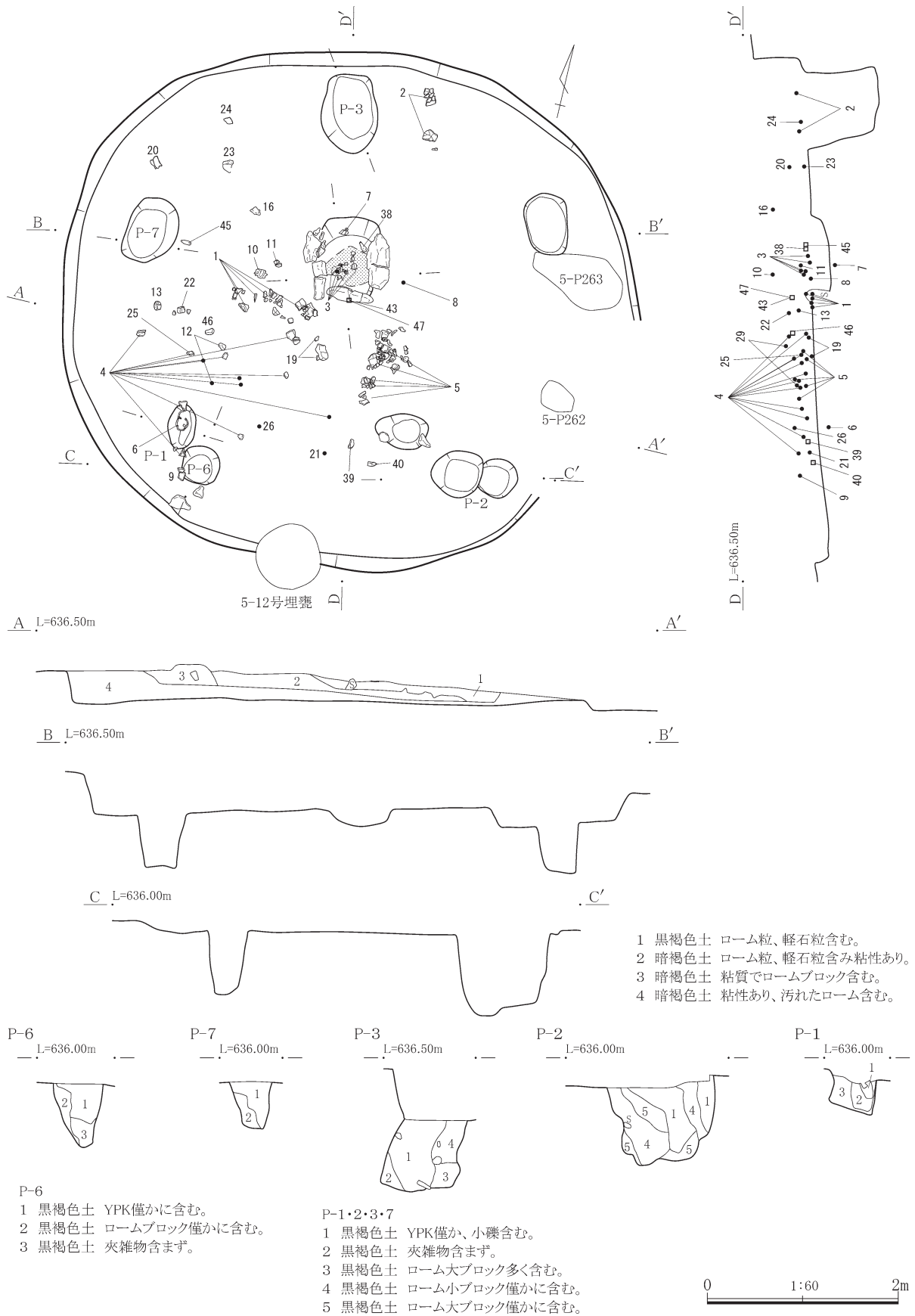
埋甕 南西の Pit 6 の中にやや小型の深鉢が正位状態で埋められていた。また南側入り口部、壁外にやや張り出して5-12号埋甕が位置している。本址に伴う可能性もあるが、レベル差があり不確定要素もある。

掘方 一部にロームブロックを混入した貼り床状の面を確認したが一部に限られる。

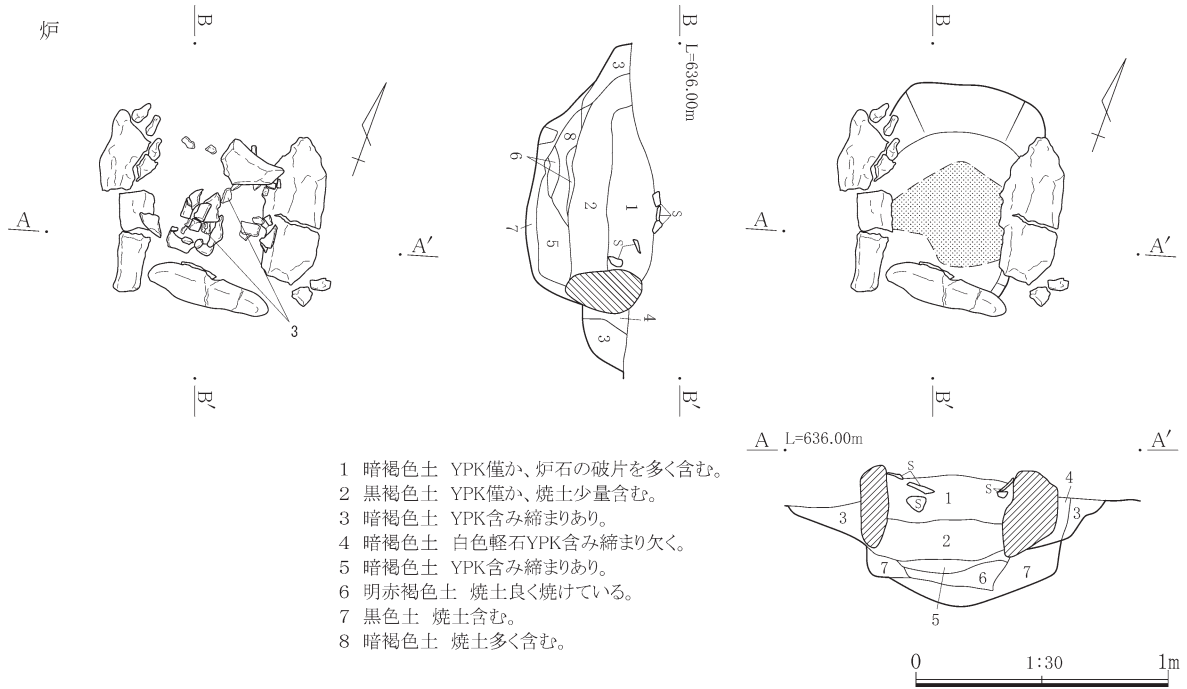
出土遺物 覆土中より多くの土器および石器が出土している。4は大きく口縁部を広げた大型の土器である。5は全面に列点状文が見られる。石器は石鏃、打製石斧および磨石類が出土している。磨石類は被熱したものが見られる。

時期・所見 南東にやや傾斜する谷地部に向かう場所に構築された住居で、掘り込み面の黒色土が厚く壁の検出が困難な住居である。床面も前述したように黒色土で構築されていた。出土遺物中には礫も多く覆土の上・中層からのものが多かった。5-12号埋甕については本址との関連が明確にし得なかった為、単独遺構として記載した。住居の時期は出土遺物から中期後半と判断された。

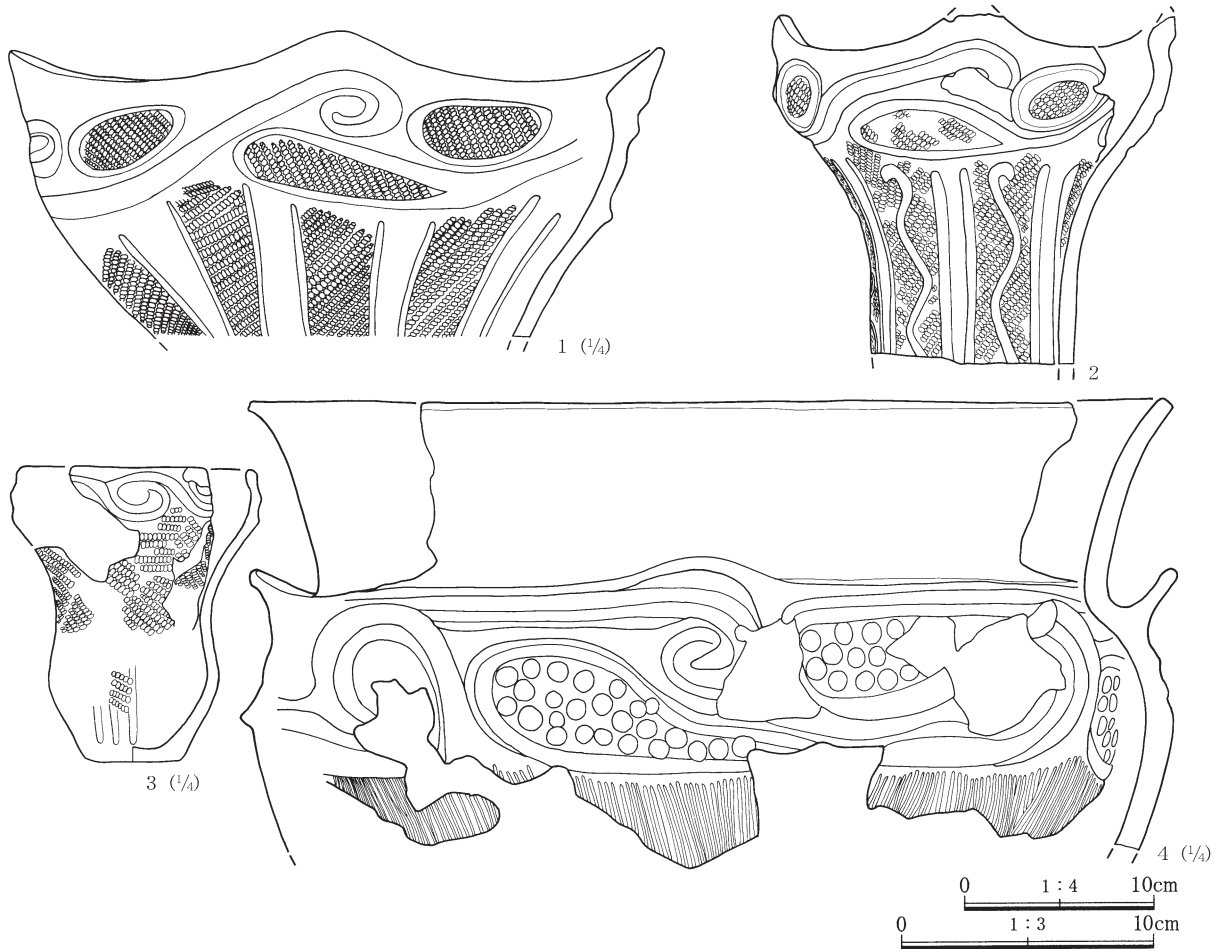
第3章 検出された遺構と遺物



第64図 5-72号住居跡(1)



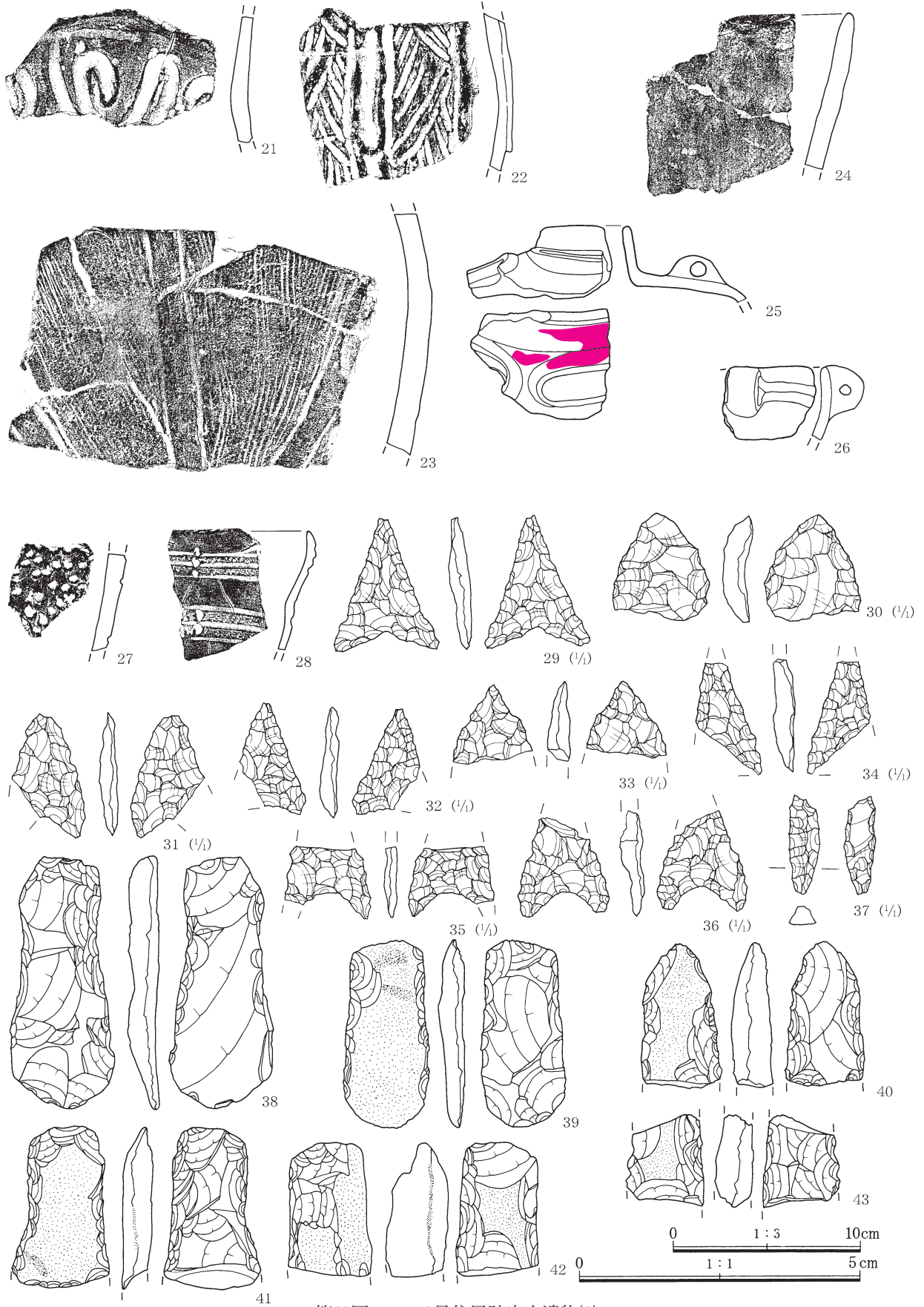
第65図 5-72号住居跡(2)



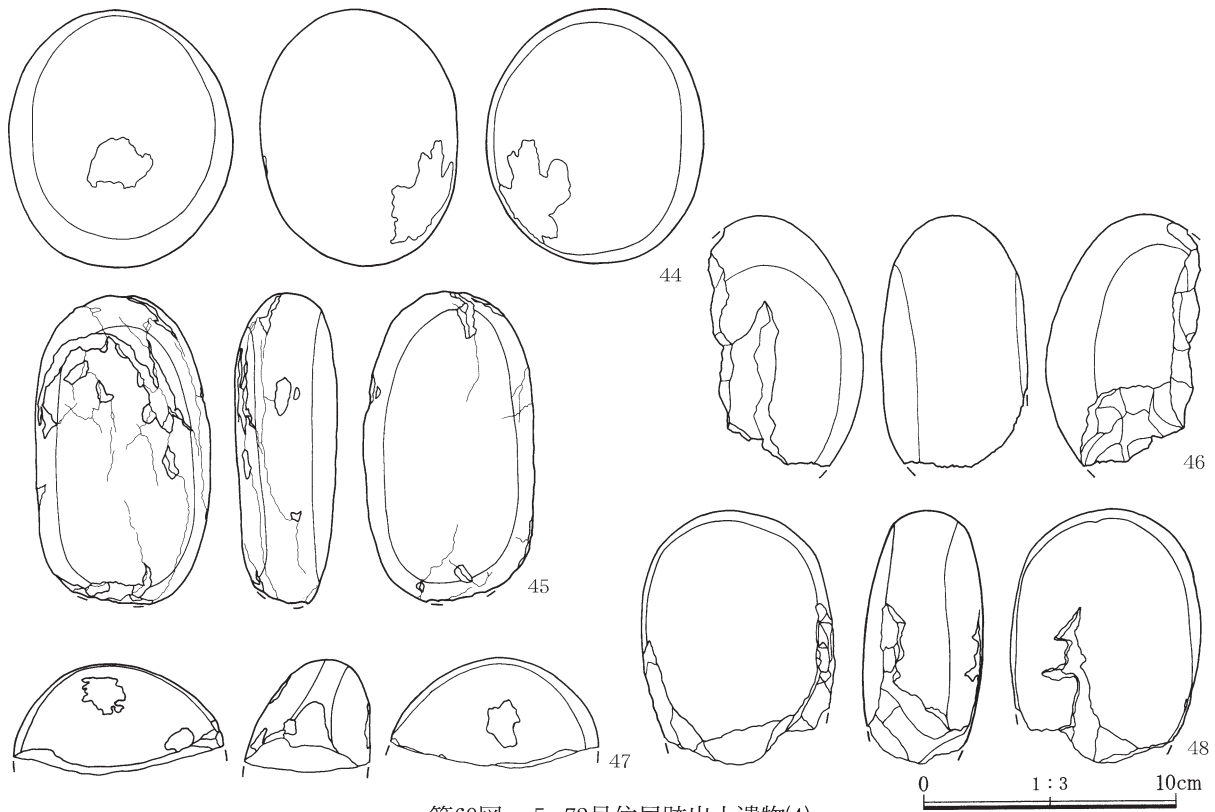
第66図 5-72号住居跡出土遺物(1)



第67図 5-72号住居跡出土遺物(2)



第68図 5-72号住居跡出土遺物(3)



第69図 5-72号住居跡出土遺物(4)

5-73号住居跡 (第70～73図：PL14・15・126・127)

位置 A～C-16・17グリッドに位置する。 重複 無し

形状 調査を進めてゆく過程で結果的に長円形となったが、南側については掘りすぎの可能性あり。

規模 (690)×540×40cm。 方位 -

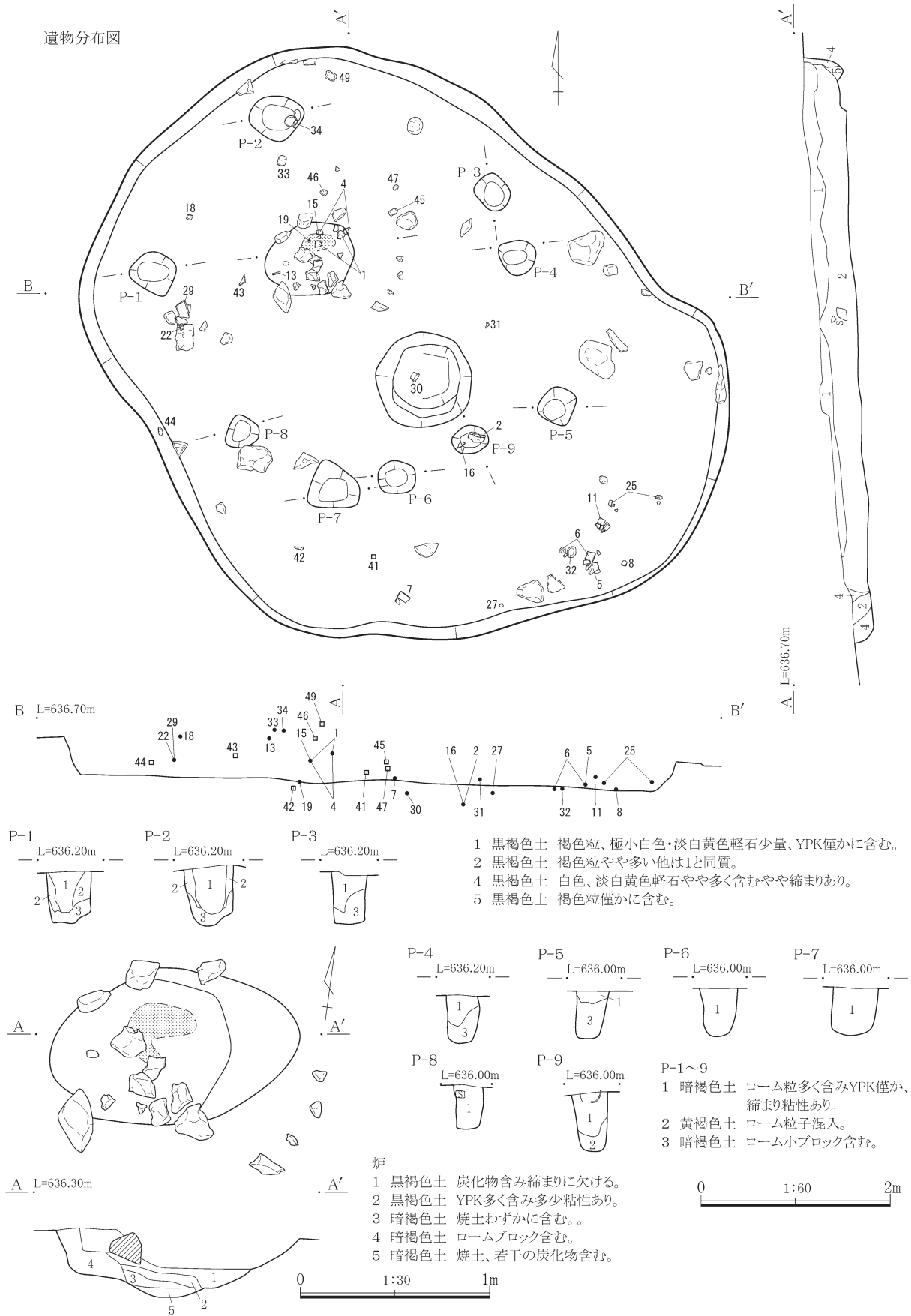
床面 本址は黒色土中に構築されており、平面形状が明確につかめない状況であった。また地山の礫が所々に露出しており凹凸が見られた。

炉 北寄りに検出された、確認時には礫が集中した状態で位置の確定ができず、掘り下げた時点で炉と確認した。炉石は部分的に残っているものも有るが、原位置をとどめず形状は明確にできなかった。最終的に長円形の掘方を検出、下層部に焼土が認められた。 柱穴 炉を中心に9本が検出されているが、支柱穴と思われるのは5ないしは6本と思われる。 埋壙 検出されなかった。

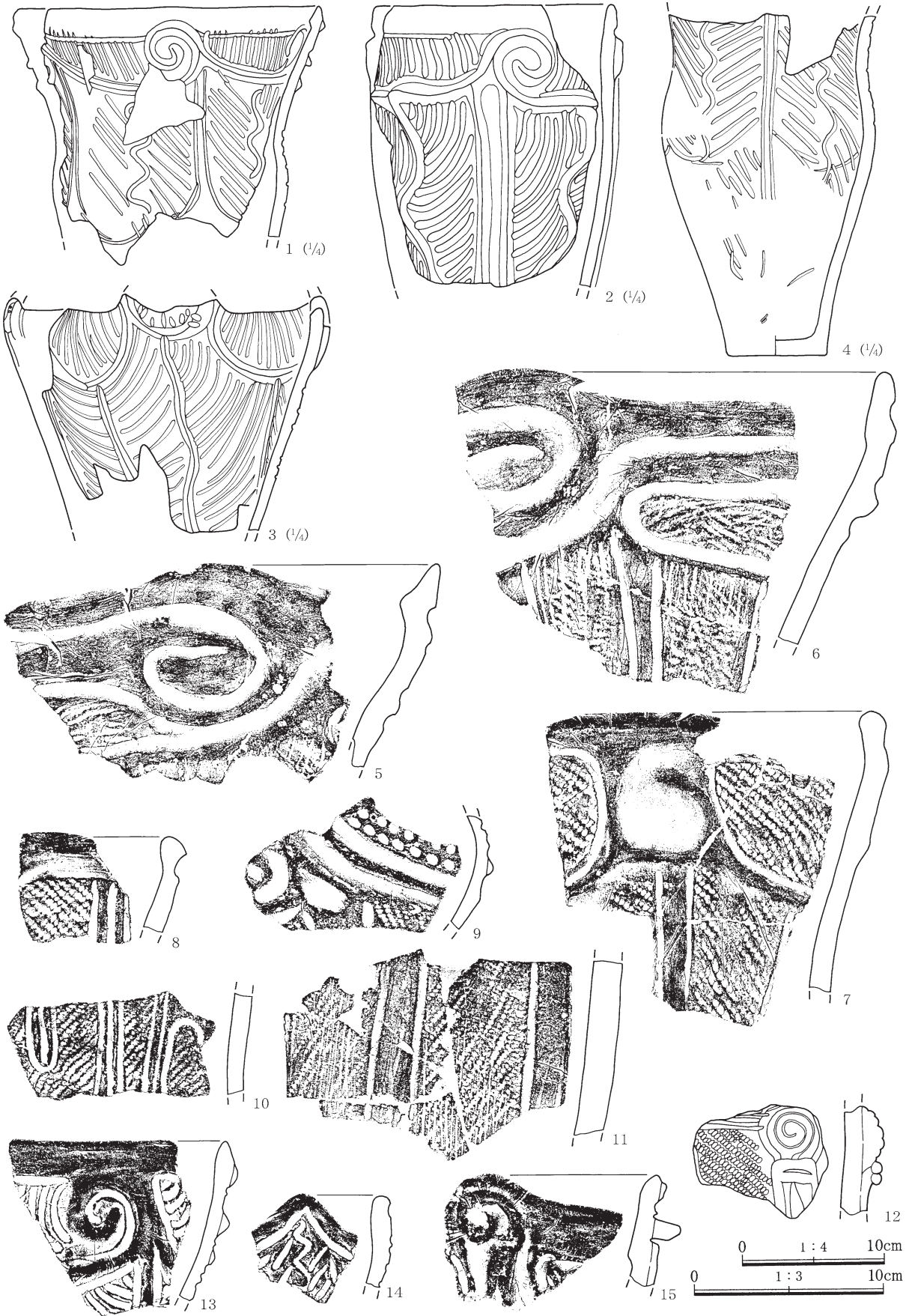
掘方 貼り床等は見られなかった。住居南側に検出されたピット中よりやや大形の土器片が出土している。

出土遺物 覆土中に多くの自然礫と混在して土器片石器等が出土、床面からの出土はあまり多くはなかった。加曽利E系および唐草文系が出土している。石器は石鏃類、小形磨製石斧が出土、43は横刃のスクレイパーである。また、42は縦型の石匙であろうか、頭部に両側から抉りを入れ、つまみ部を作出する。その他磨石、凹石が見られる。

時期・所見 確認面が黒色土中であったことから、範囲の確定が難しかった。炉の位置に対して南側が大きく張り出した形状となっており、拡張などが行われた可能性もある。出土土器から、時期は中期後半と判断される。

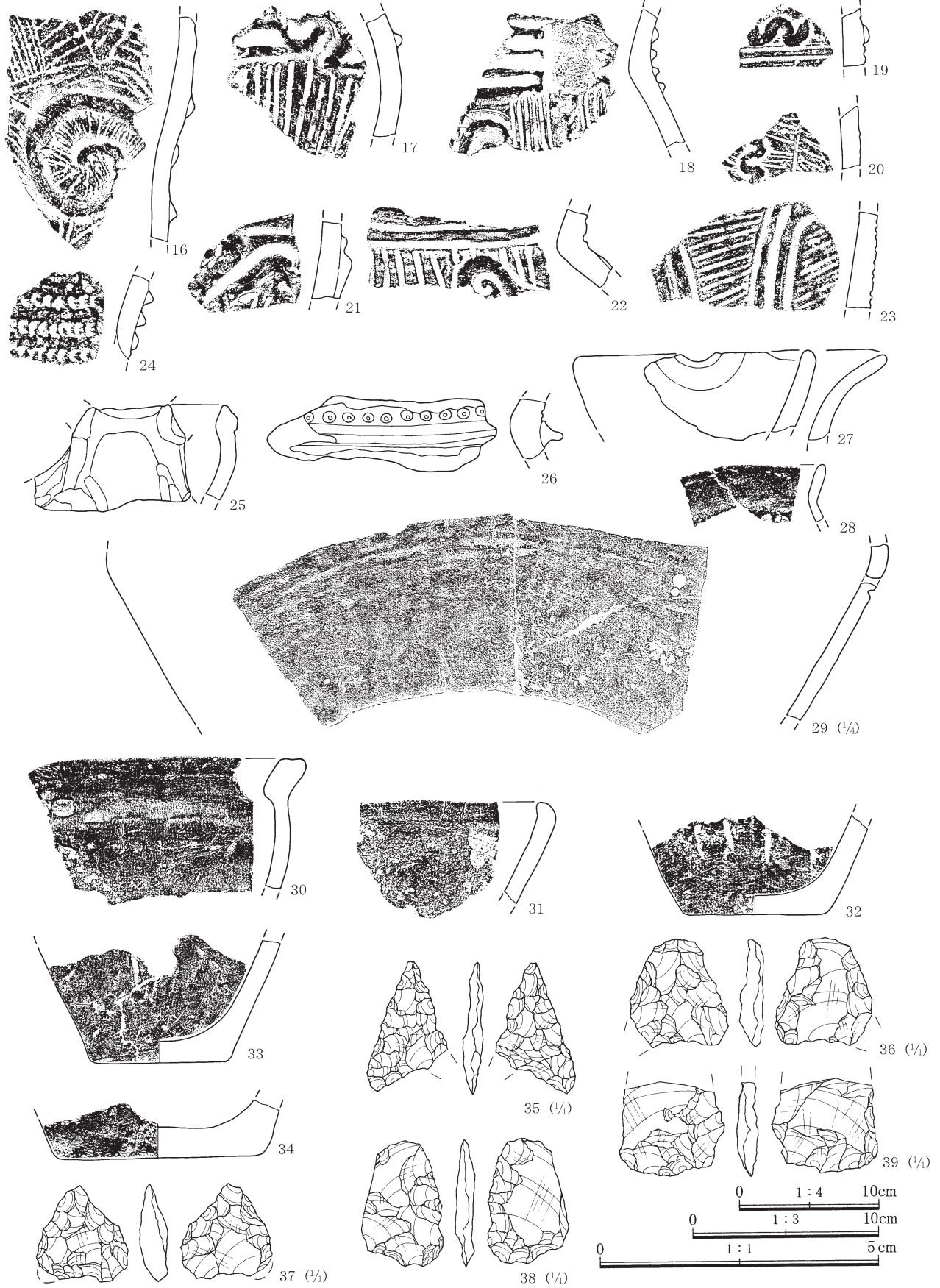


第70図 5-73号住居跡



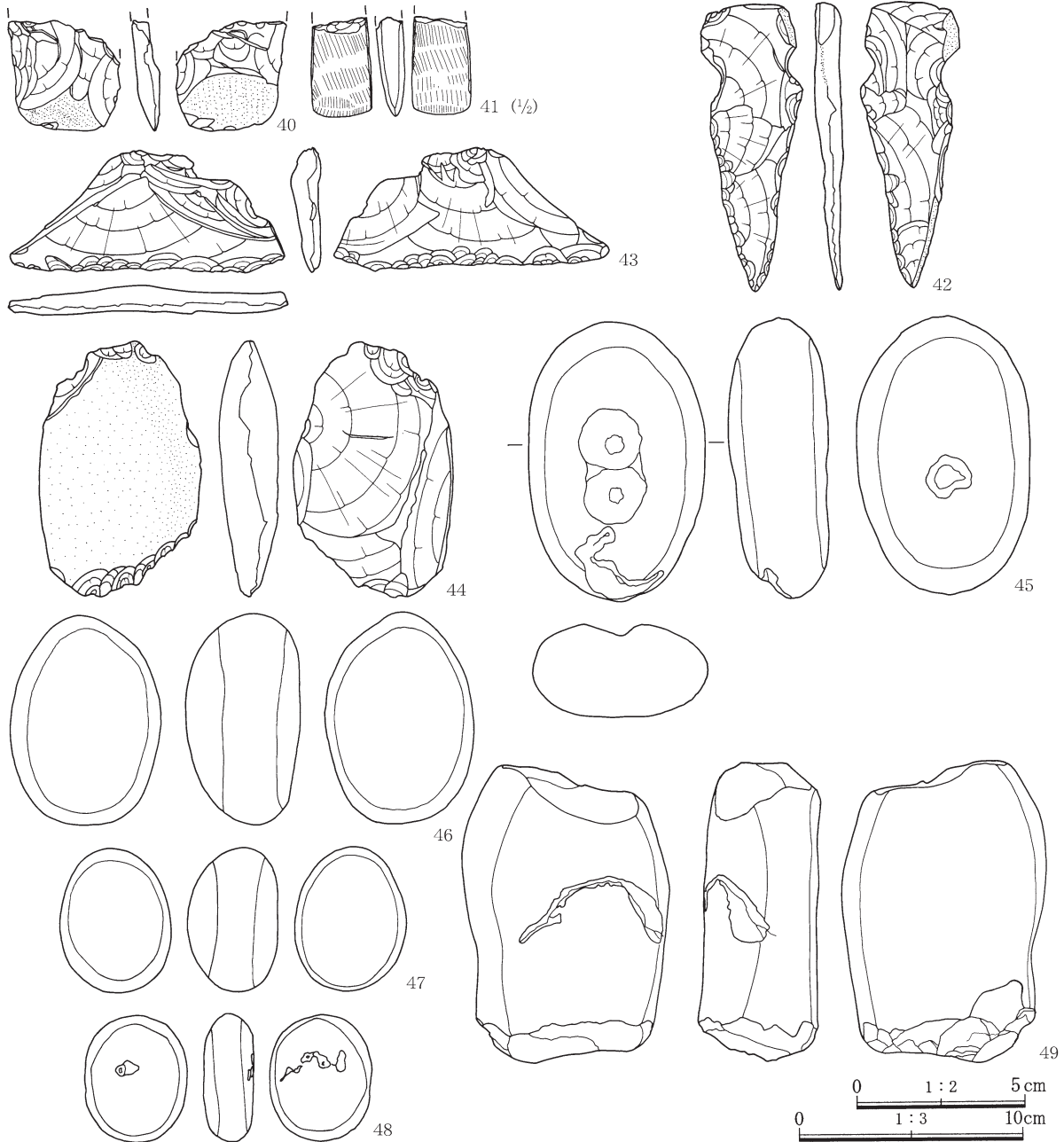
第71図 5-73号住居跡出土遺物(1)

第3節 縄文時代の遺構と遺物



第72図 5-73号住居跡出土遺物(2)

第3章 検出された遺構と遺物



第73図 5-73号住居跡出土遺物(3)

5-74号住居跡 (第74~79図: PL15・36・127・128)

位置 C~E-13・14グリッドに位置する。 **重複** 5-39号住居の北東部分に位置する。また主体部中央を水道管が東西に横断していたためにこの部分は未調査である。

形状 主体部は隅丸方形を呈す柄鏡形敷石住居である。主体部西側の立ち上がりが外側に広がる形になるが、重複住居(5-106号住居跡)が存在したものと見られる。 **規模** 残存長約6.5mで主体部は一辺がおおよそ4mである。 **方位** 炉は検出されないが軸方向はN-21°-Eである。

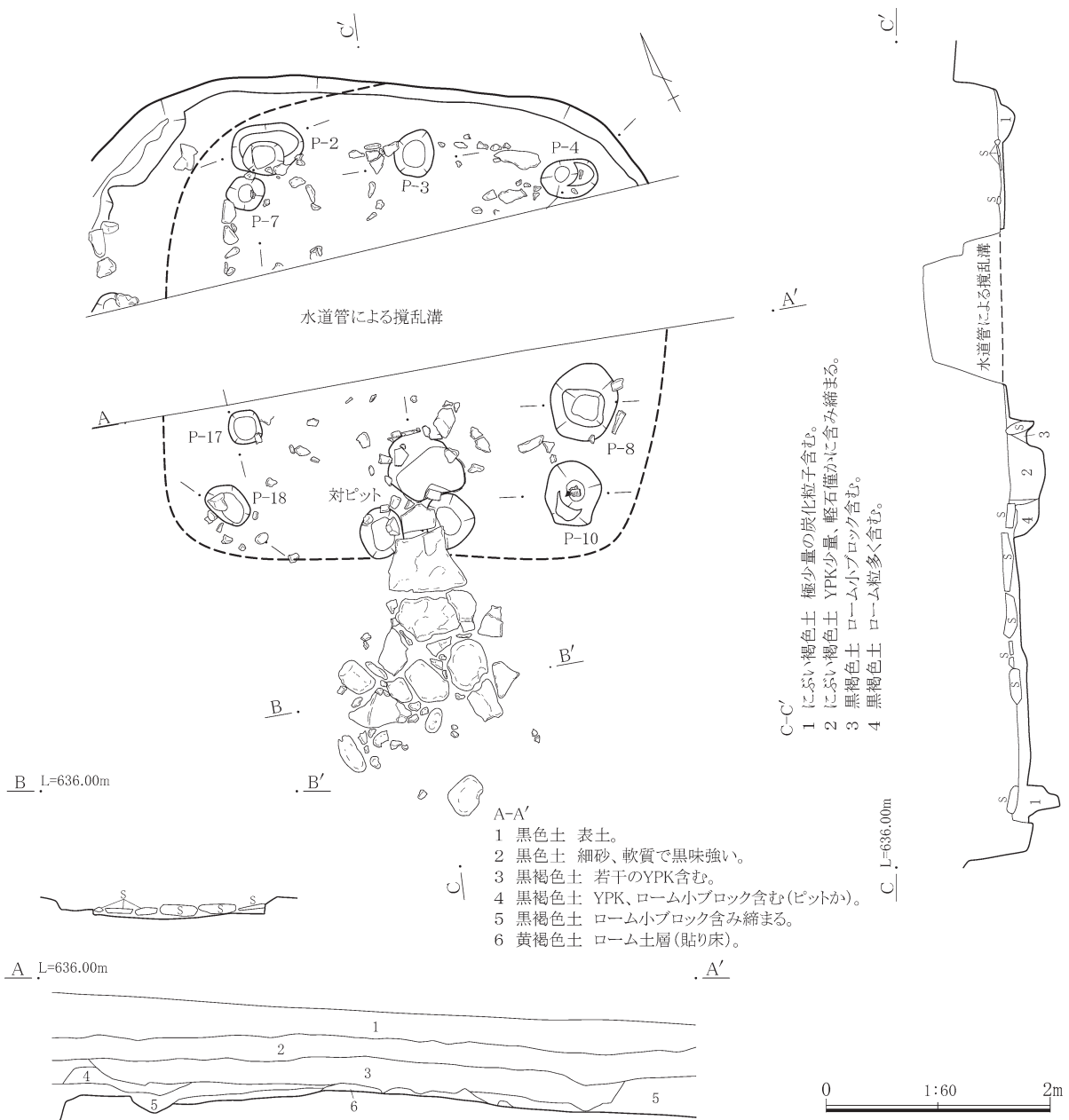
床面 主体部には顕著な敷石は見られなかったが縁辺部に小礫が方形に点在して認められた。南に延びる張り出し部には、大形でやや扁平な礫が接合部には1列に、手前側には複数の石が広がるように敷かれている。

炉 検出されなかった。水道管敷設溝部分のと未調査部にあると思われる。

柱穴 奥壁中央と左右の隅に、手前側の左右隅、連結部にいわゆる対ピットが検出されている、さらに張り出し敷石部分を囲むように数個のピットが見られる。 埋壙 検出されなかった。

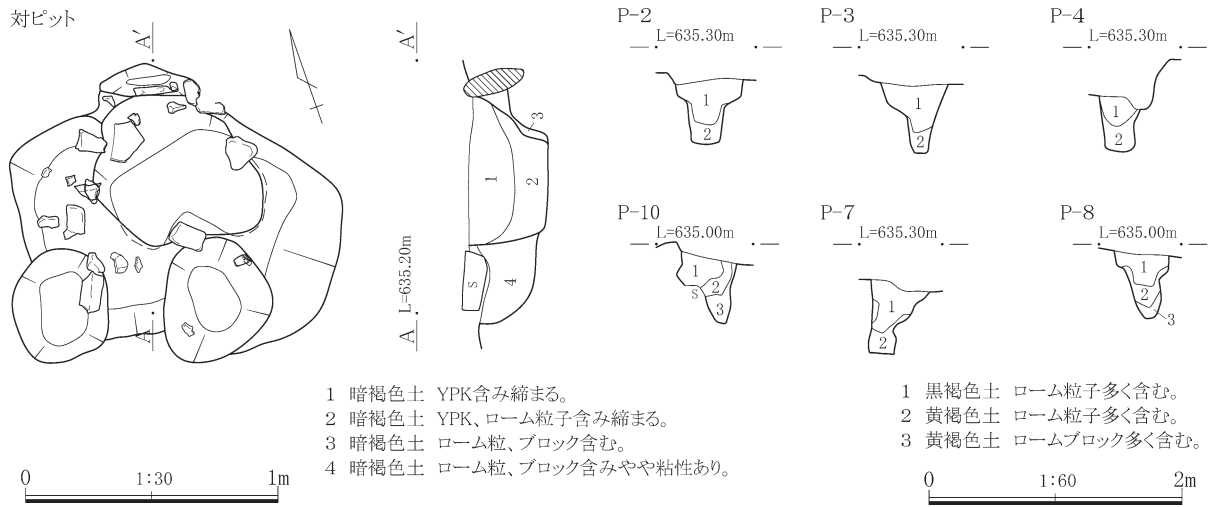
掘方 連結部下に対ピットと土坑が検出された。 出土遺物 土器は小破片のみで少ない。石器は土器に比して多かった。石鏃、石錐類や、打製石斧および磨製石斧、磨石類が見られた。また63は自然石を利用した石冠か。64・65は板状の軽石製品である。上部に紐通しの孔が空けられている。

時期・所見 住居中央部を水道管敷設溝が南北に分断する形で走り、張り出しの敷石部分と主体部の北端部分のみの検出である。敷石は張り出し部に大形の平石が見られるが、主体部には僅かの敷石が点在したに過ぎない。主体部に北および西側に僅かではあるが直線的に並んだ周礫が検出されている。掘方の形状、出土遺物の検討などから主体部西側に古い住居が存在が想定された。時期は後期初頭称名寺1式期であろう。

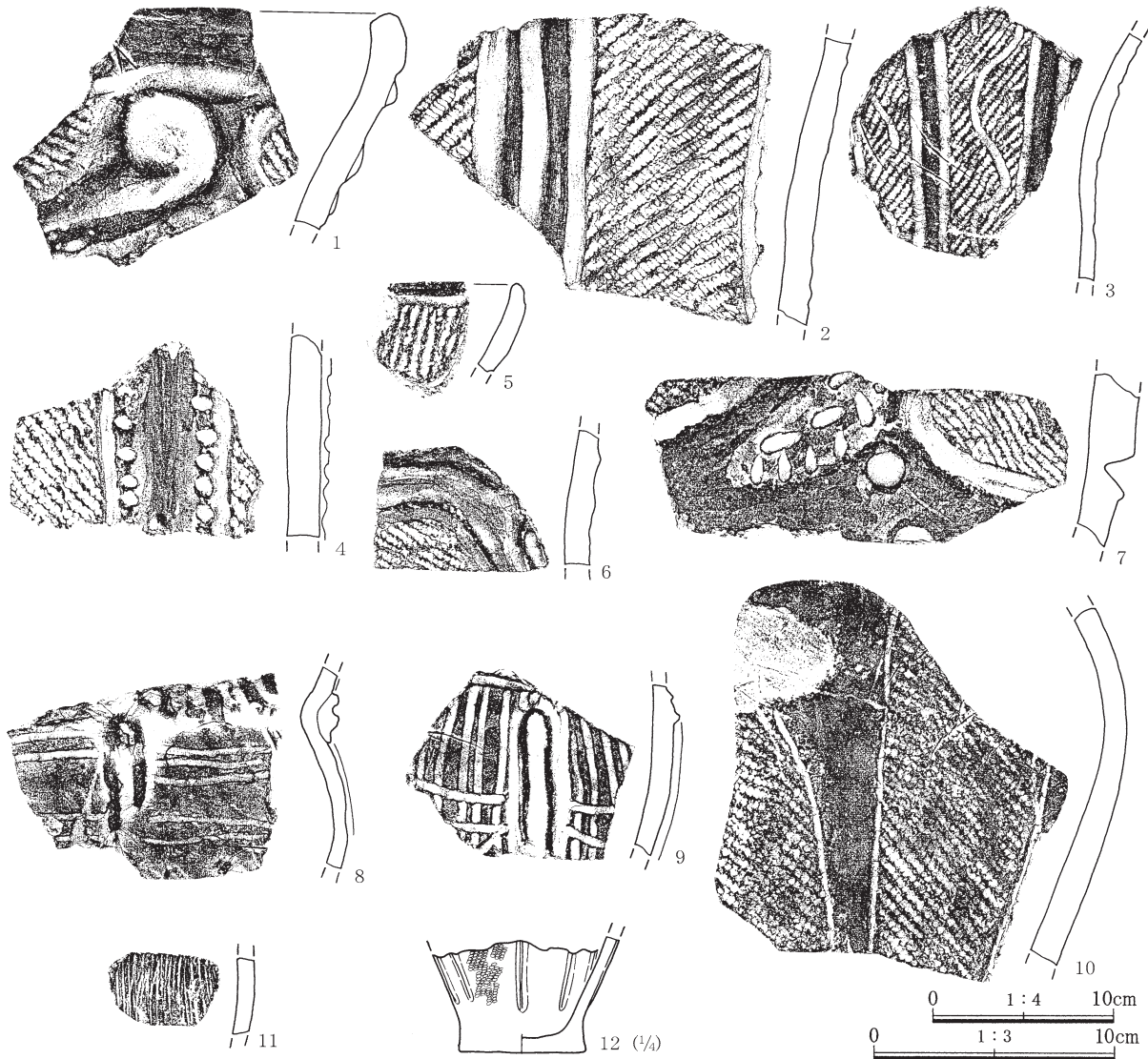


第74図 5-74号住居跡(1)

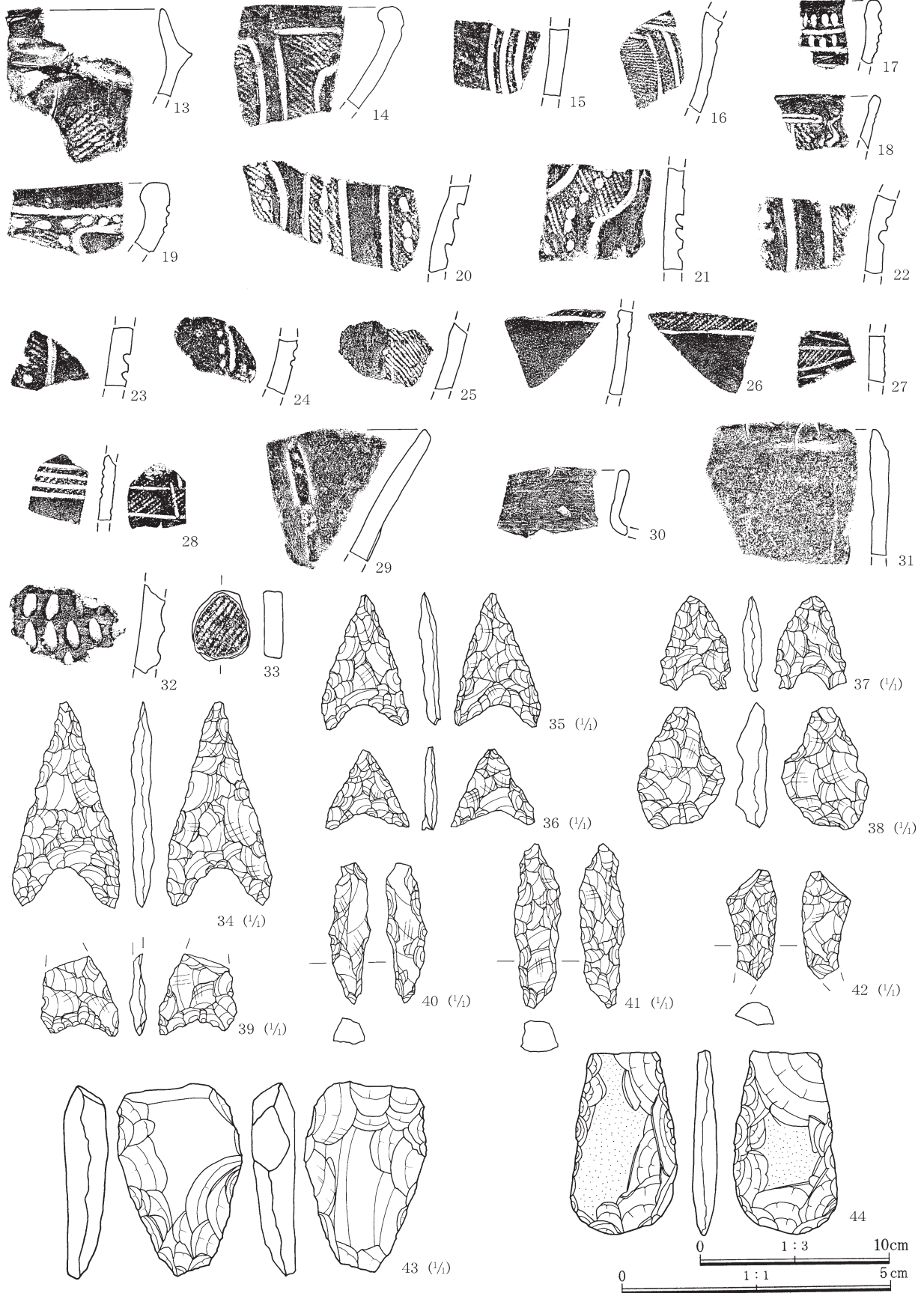
第3章 検出された遺構と遺物



第75図 5-74号住居跡(2)



第76図 5-74号住居跡出土遺物(1)

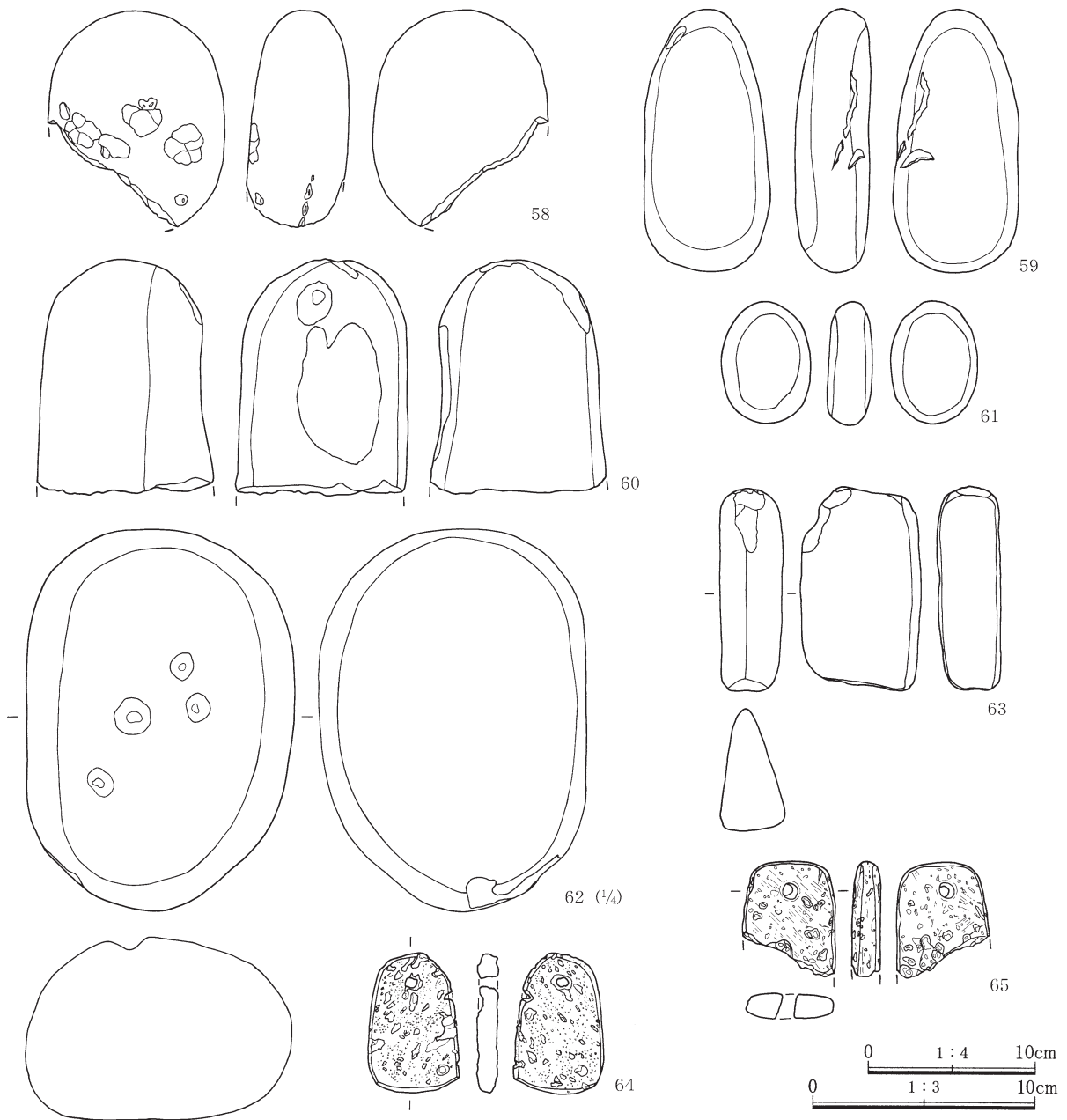


第77図 5-74号住居跡出土遺物(2)

第3章 検出された遺構と遺物



第78図 5-74号住居跡出土遺物(3)



第79図 5-74号住居跡出土遺物(4)

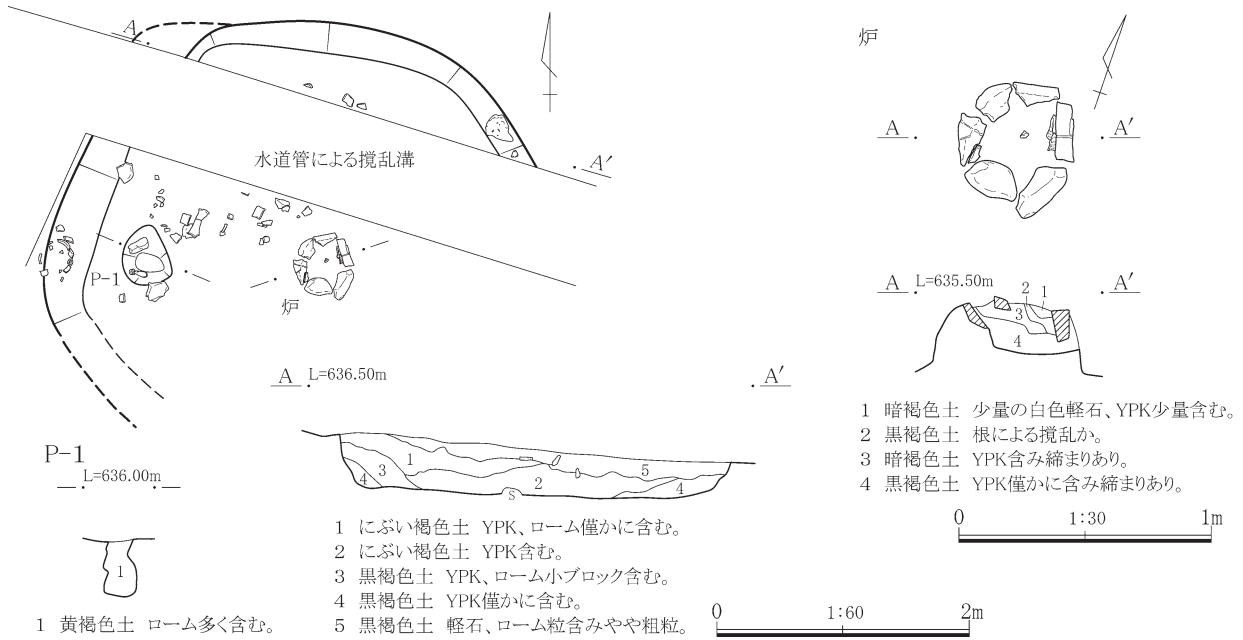
5-75号住居跡 (第80~83図: PL15・16・128)

位置 E・F-13・14グリッドに位置する。 **重複** 5-76号住居跡の西に重複し、ほぼ中央部に水道管敷設溝が走る。 **形状** ほぼ円形を呈すと思われる。 **規模** 350×(350)×36cm。 **方位** —
床面 西側については掘り込まれたローム面は比較的締まりは良く、外側に行くに従ってやや高くなっている。東側に関しては調査時点で5-76号住居を先に掘り下げてしまい明瞭な面が把握できなかった。
炉 旧5-13号炉、やや扁平な礫の横にして、六角形に組んでいる。西側の床面高に対して、炉が構築された部分は5-76号住居跡の覆土上であったため全体にやや下がっている。 **柱穴** 南西部に1本を検出しているのみである。 **埋甕** 検出されなかった。 **掘方** 東半分は5-76号住居跡の覆土となる。

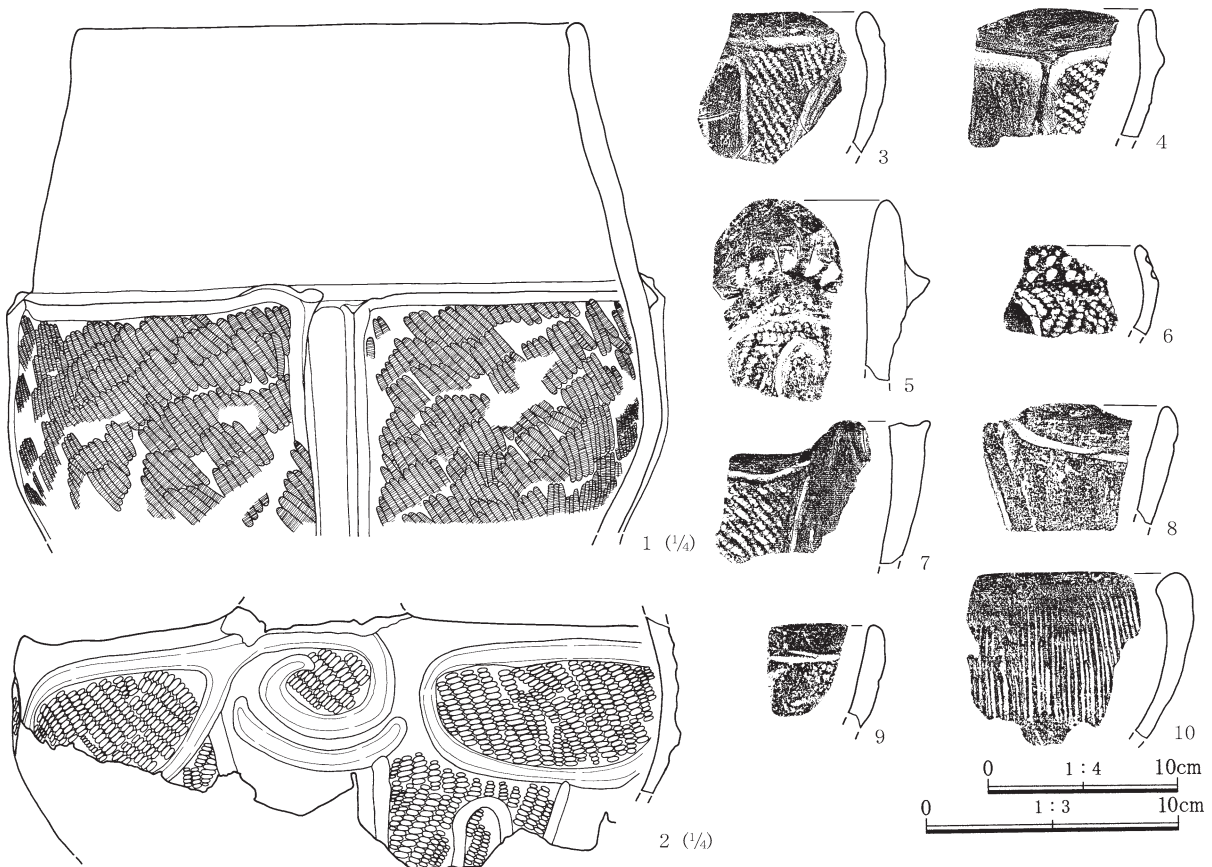
第3章 検出された遺構と遺物

出土遺物 若干の土器片および石器が出土。1は口縁部が幅広の無文である。

時期・所見 重複する5-76号住居跡の調査時に5-13号炉が検出され、その存在を確認した。また水道管敷設溝によって中央部分を大きく壊されている。時期は出土遺物から中期後半と判断される。

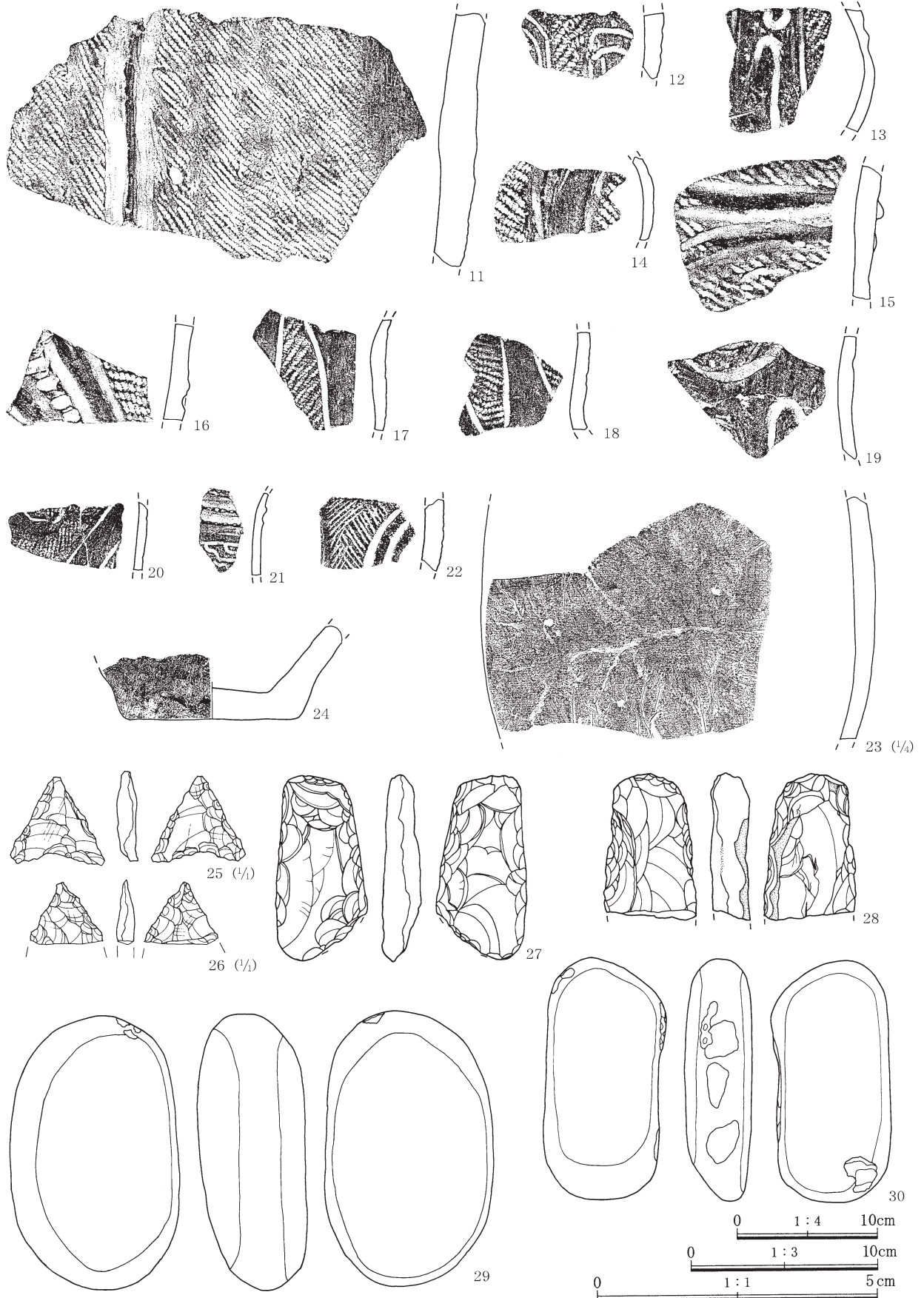


第80図 5-75号住居跡



第81図 5-75号住居跡出土遺物(1)

第3節 縄文時代の遺構と遺物



第82図 5-75号住居跡出土遺物(2)



第83図 5-75号住居跡出土遺物(3)

5-76号住居跡 (第84~87図: PL15・16・129)

位置 E-13・14グリッドに位置する。 **重複** 5-75号住居跡が北西部分に重複、本址の上に乗っている。また、5-38号住居跡の北西部に一部が重複する。さらに北側部分が水道管敷設溝によって壊されている。 **形状** 円形を呈すと思われる。 **規模** 推定径350cmで、残存する西側部分での壁高は35cmを測る。

方位 N-6°-W **床面** 凹凸が顕著で、西側が高く炉の周辺および東側が低くなる。

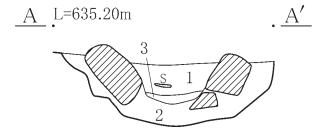
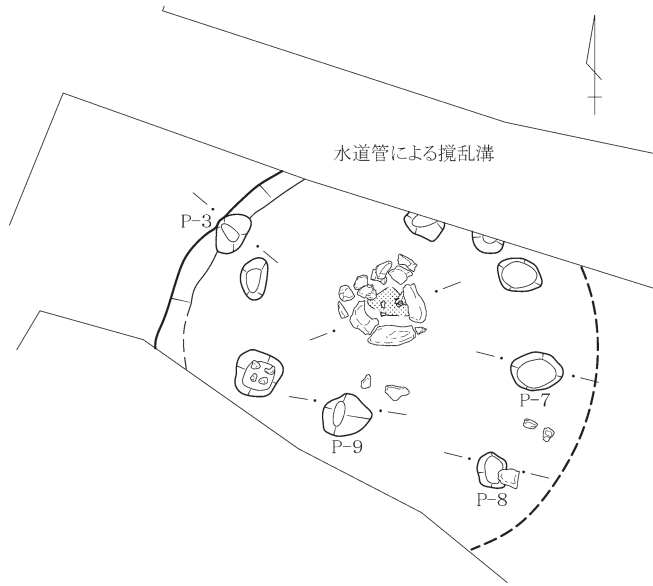
炉 住居のほぼ中央やや北に寄った位置に作られている。自然礫をほぼ四角に配置するものの、北側、西側の礫は割れ崩れており原位置を留めていない。 **柱穴** 計9本を検出した。このうち主柱穴と思われるものは、P-1・2・4・6・7・8・10の7本と見られる。いずれも径およそ30~40cmの円形ないしは楕円形を呈し、深さは25~40cmである。 **埋甕** 検出されていない。

掘方 土坑等は確認されず、東側において5-38号住居跡を検出している。

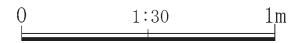
出土遺物 若干の土器片および石器が出土している。石器は石鏃、石錐、打製石斧などが見られ、31は板状の砥石であろうか。

時期・所見 5-75号住居跡の下位に作られた小型の住居である。北側は水道管敷設溝に壊されており、南側の一部については平成11年度の調査区内に入るが、壁の立ち上がりについては確認できなかった。時期は中期後半である。

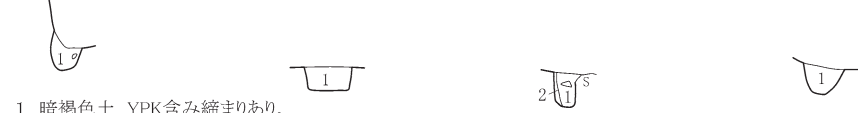
第3節 縄文時代の遺構と遺物



- 1 暗褐色土 YPK、炭化物僅か、ローム粒子含み締まりは弱い。
- 2 黒褐色土 細粒白色粒、褐色粒含み締まりあり。
- 3 赤褐色土 焼土。

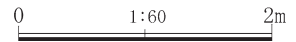


P-3 L=635.60m P-7 L=635.60m P-8 L=635.60m P-9 L=635.60m



- 1 暗褐色土 YPK含み締まりあり。
- 2 暗褐色土 ローム粒子、ブロック含み締まりあり。

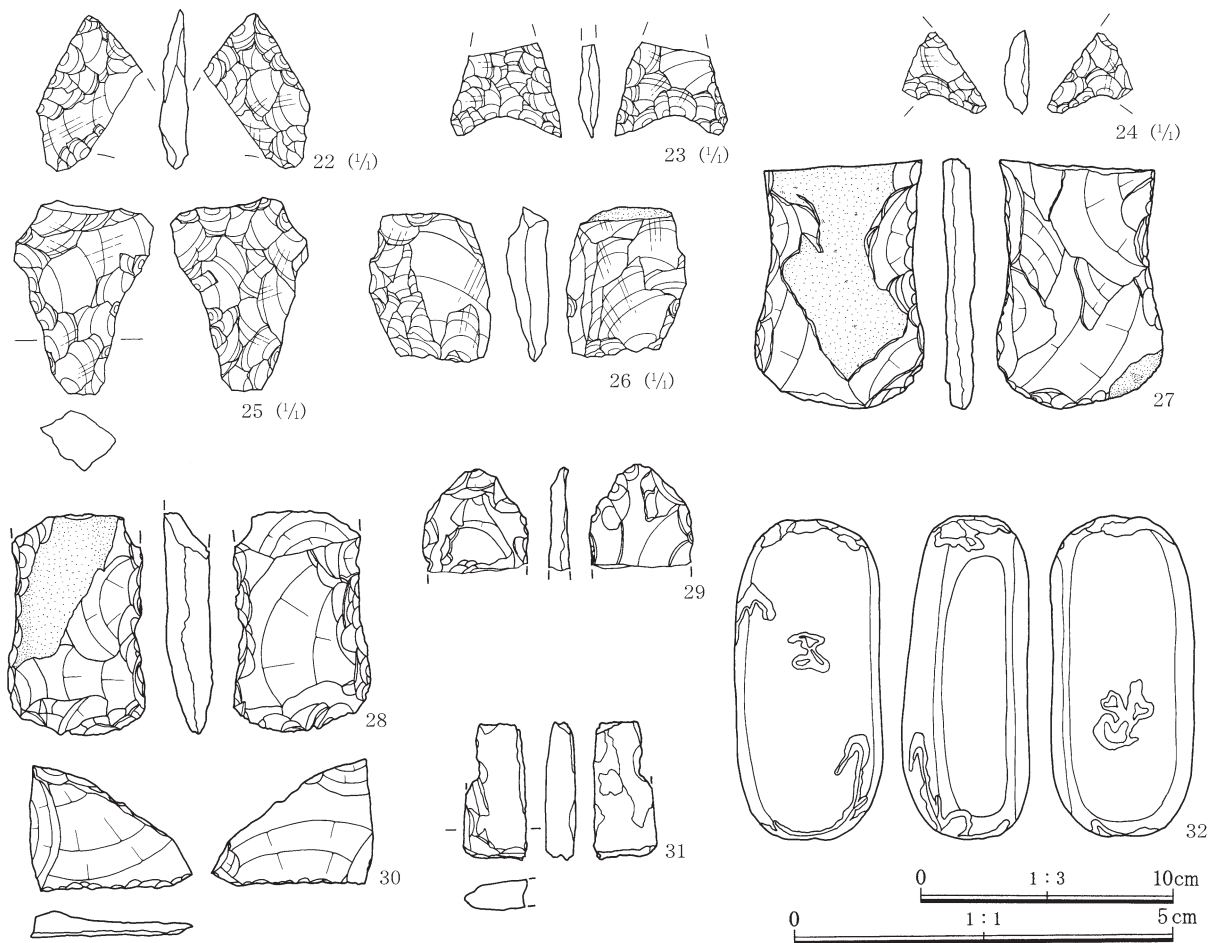
第84図 5-76号住居跡



第85図 5-76号住居跡出土遺物(1)



第86図 5-76号住居跡出土遺物(2)



第87図 5-76号住居跡出土遺物(3)

5-77号住居跡 (第88~94図: PL16・17・129・130)

位置 H・J-16・17グリッドに位置する。 **重複** 無し。

形状 柄鏡形敷石住居 **規模** 全長560cm、幅430cm、深さ40cmである。 **方位** N-4°-W

床面 主体部ほぼ全面、および張り出し部には一列に石が敷かれる。張り出し部手前側の石が最も大形で長さ80cmを測る。また張り出し部の両側には縁に置かれたものと思われる石が検出されている。

炉 主体部のほぼ中央に作られている。縦横の長さは約90cmで大形の細長い4石を方形に組んで構築している、北側の石を除き被熱の為に割れた状態である。

柱穴 主体部の内側周溝中にほぼ全周する様に15本を検出した。径は20~30cmで深さは約35~50cmである。

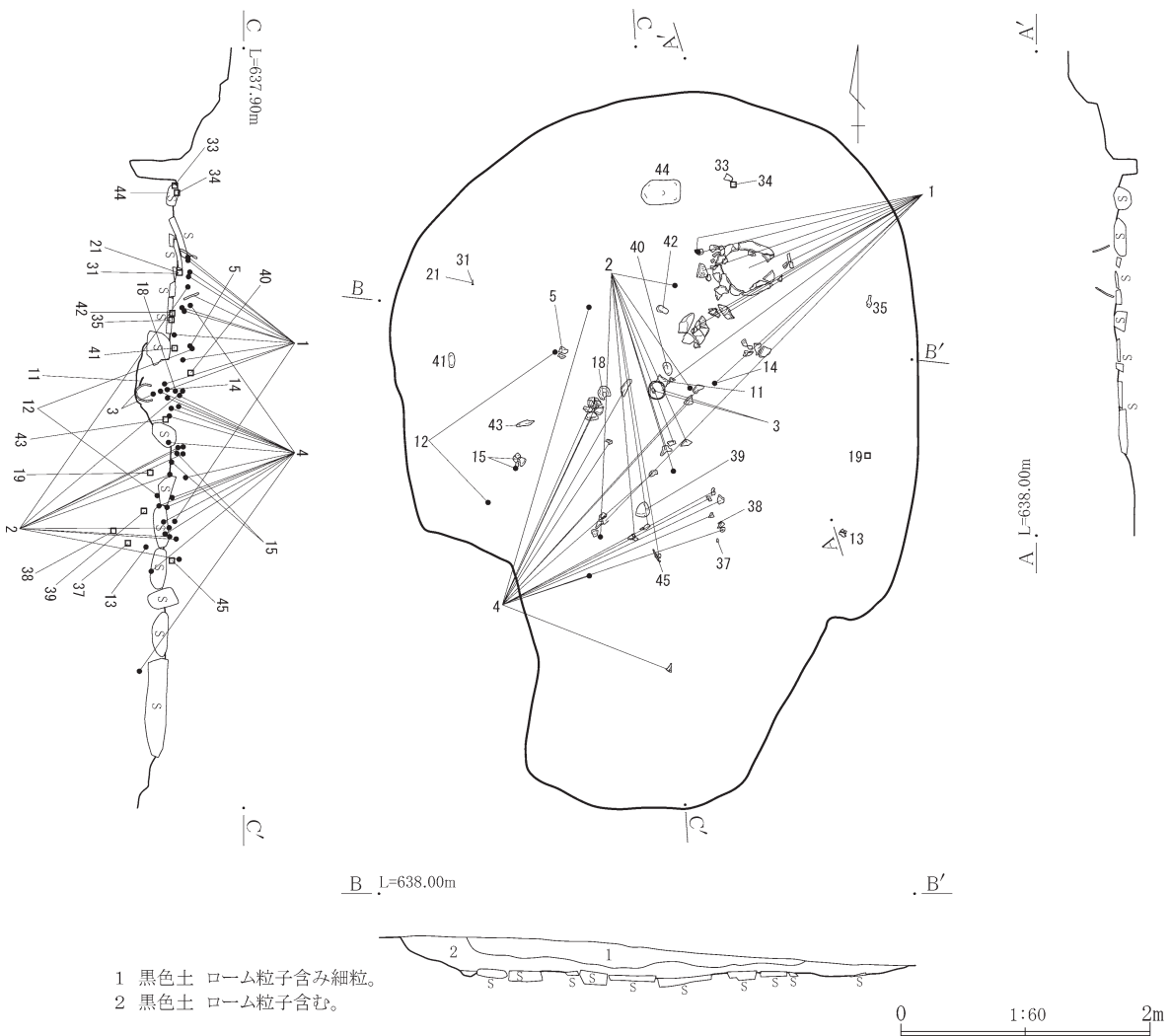
埋甕 検出されなかった。

第3章 検出された遺構と遺物

掘方 北側の柱穴に付随するように内側にピットが検出されたほか、連結部には不定形の落ち込みと、対ピットが検出されている。

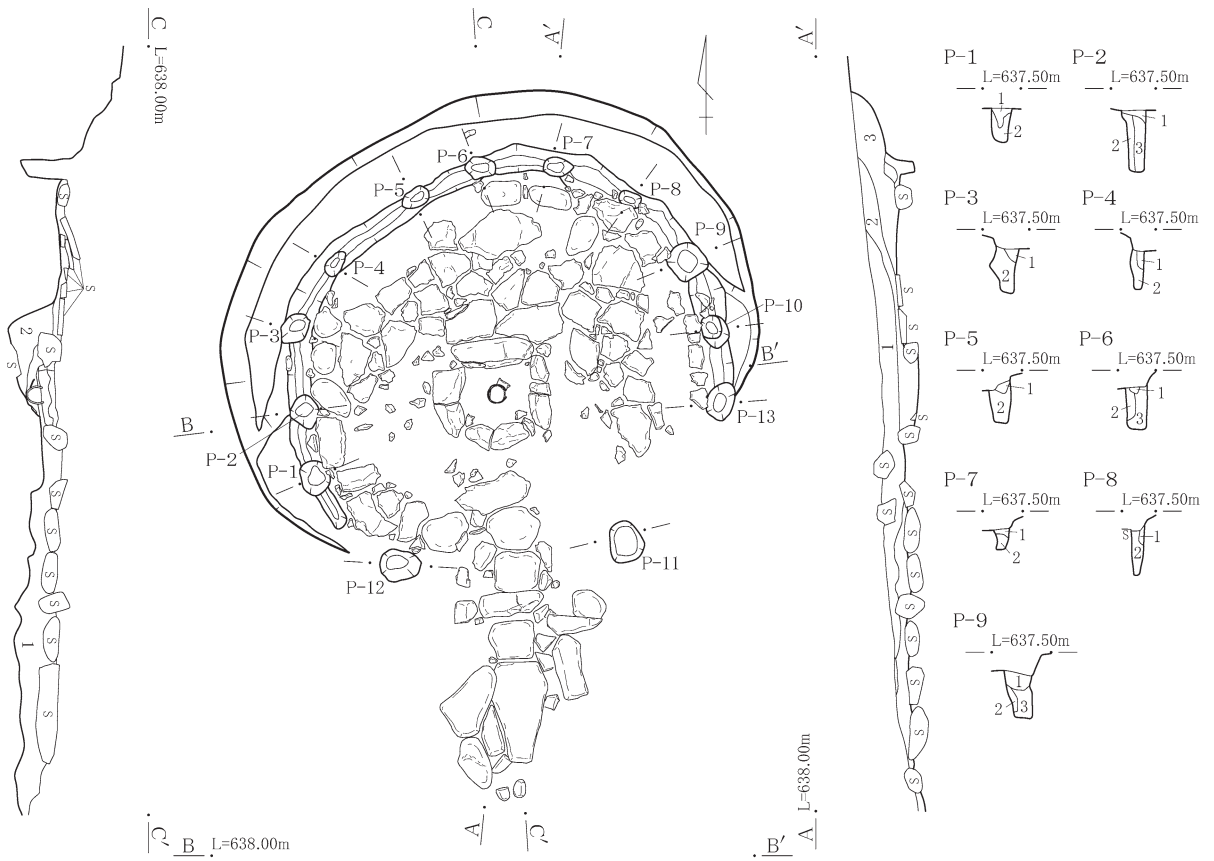
出土遺物 主体部炉の北東部に、大型の深鉢胴上半部が敷石上に伏せられた状態で出土している。その他、比較的多くの土器片、石器が炉を中心に出土している。さらにミニチュアの石棒が張り出し部と主体部の連結部で出土している。1は床面に伏した状態で出土した土器である。3は炉体土器、深鉢の胴部を利用している。15は小型の広口の土器で器面研磨され赤彩されている。16は注口土器、17の蓋とセットか。18は小形の壺形土器で算盤玉形を呈す。石器類は石鏃、スクレイパーの他小型の磨製石斧や、ミニチュアの石棒が特筆される。

時期・所見 敷石は主体部のほぼ全面に敷かれていた、張り出し部の敷石は1列で手前側は両側に大型の礫が置かれていた。また連結部に置かれた石はほぼ四角形で手前側主体部と張り出し部を仕切る石は約10cm程高く据えられている。時期は出土土器から堀之内1式期であろう。

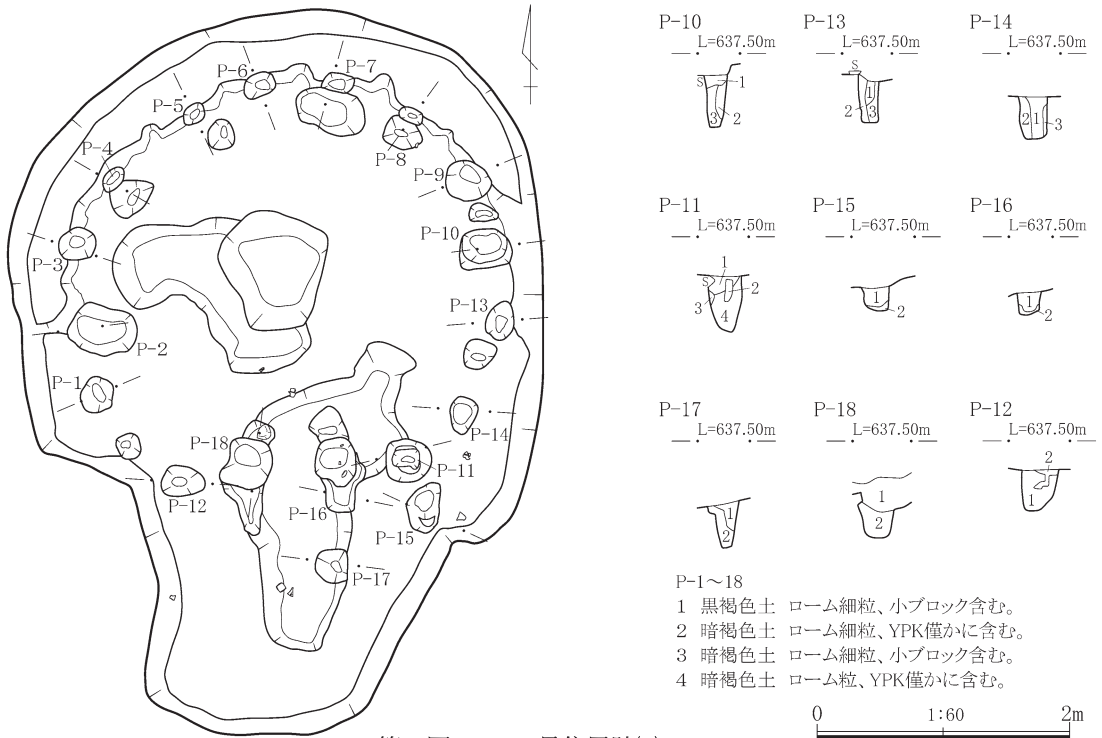


第88図 5-77号住居跡(1)

第3節 縄文時代の遺構と遺物



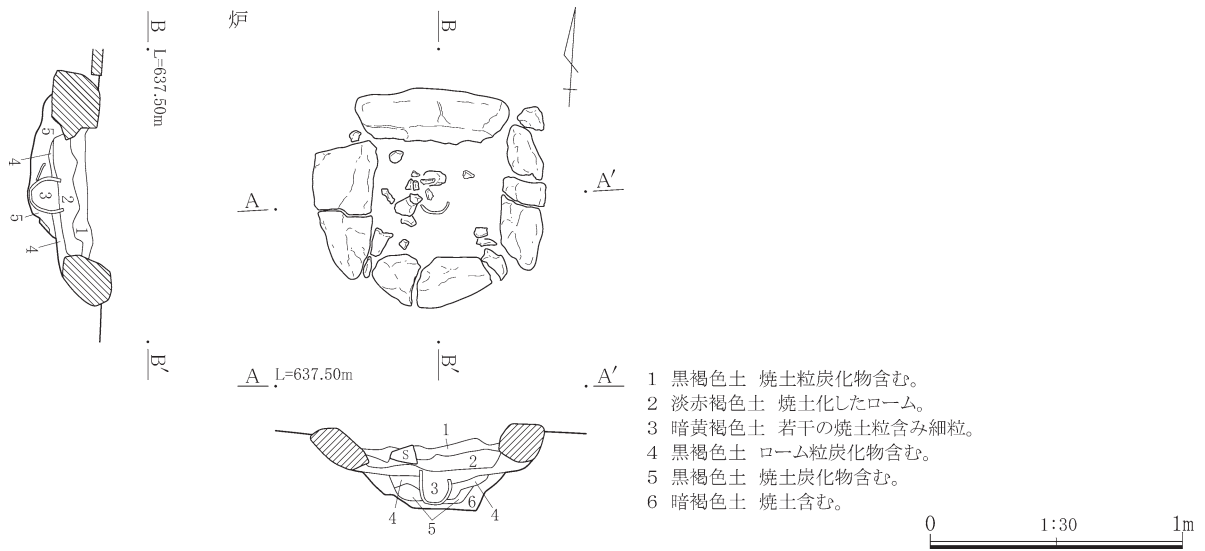
- 1 黒色土 ローム粒子含み細粒。
- 2 黒色土 ローム粒子含む。
- 3 黒褐色土 ローム粒子、少量のロームブロック含む。



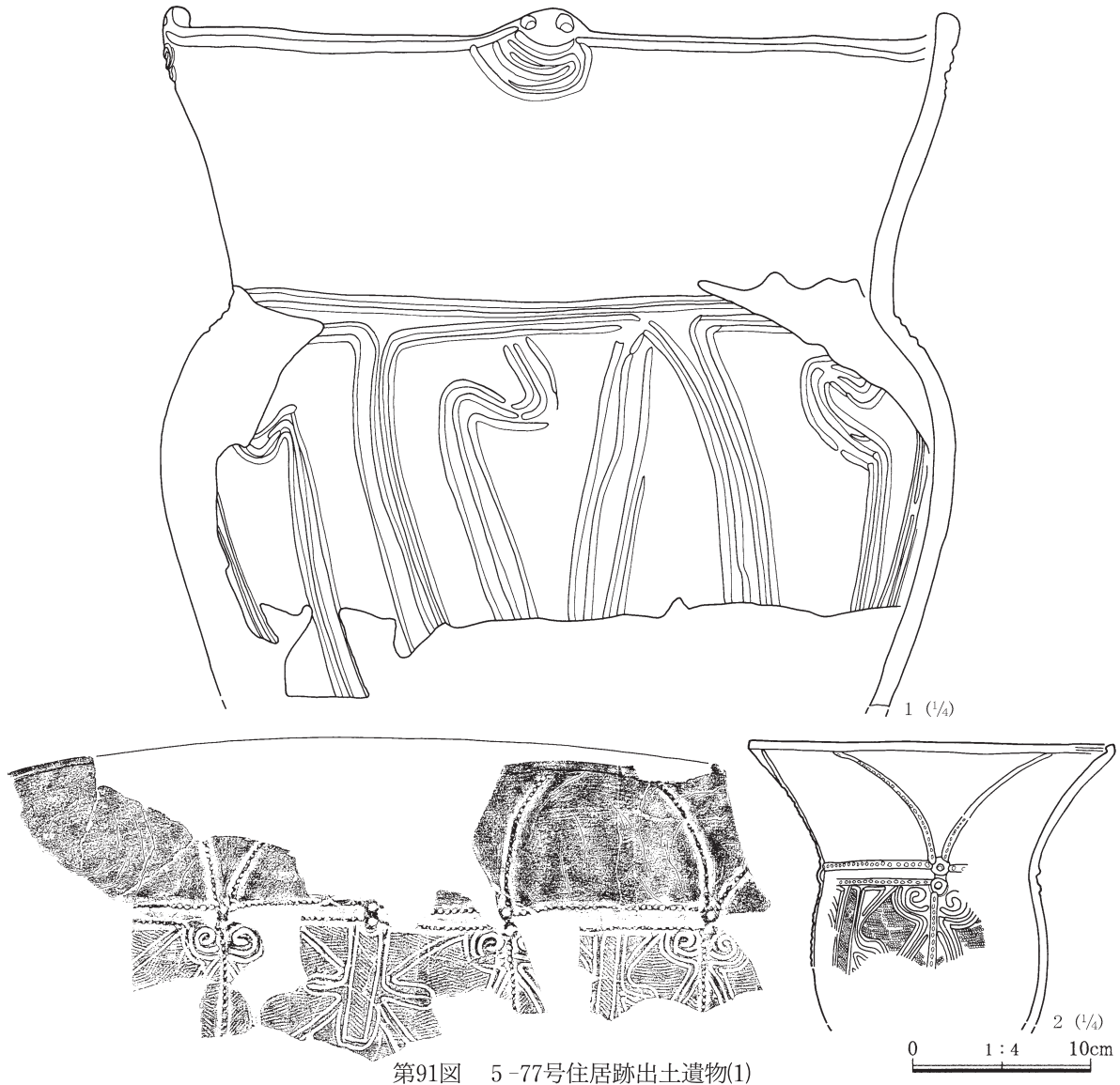
- P-1~18
- 1 黒褐色土 ローム細粒、小ブロック含む。
- 2 暗褐色土 ローム細粒、YPK僅かに含む。
- 3 暗褐色土 ローム細粒、小ブロック含む。
- 4 暗褐色土 ローム粒、YPK僅かに含む。

第89図 5-77号住居跡(2)

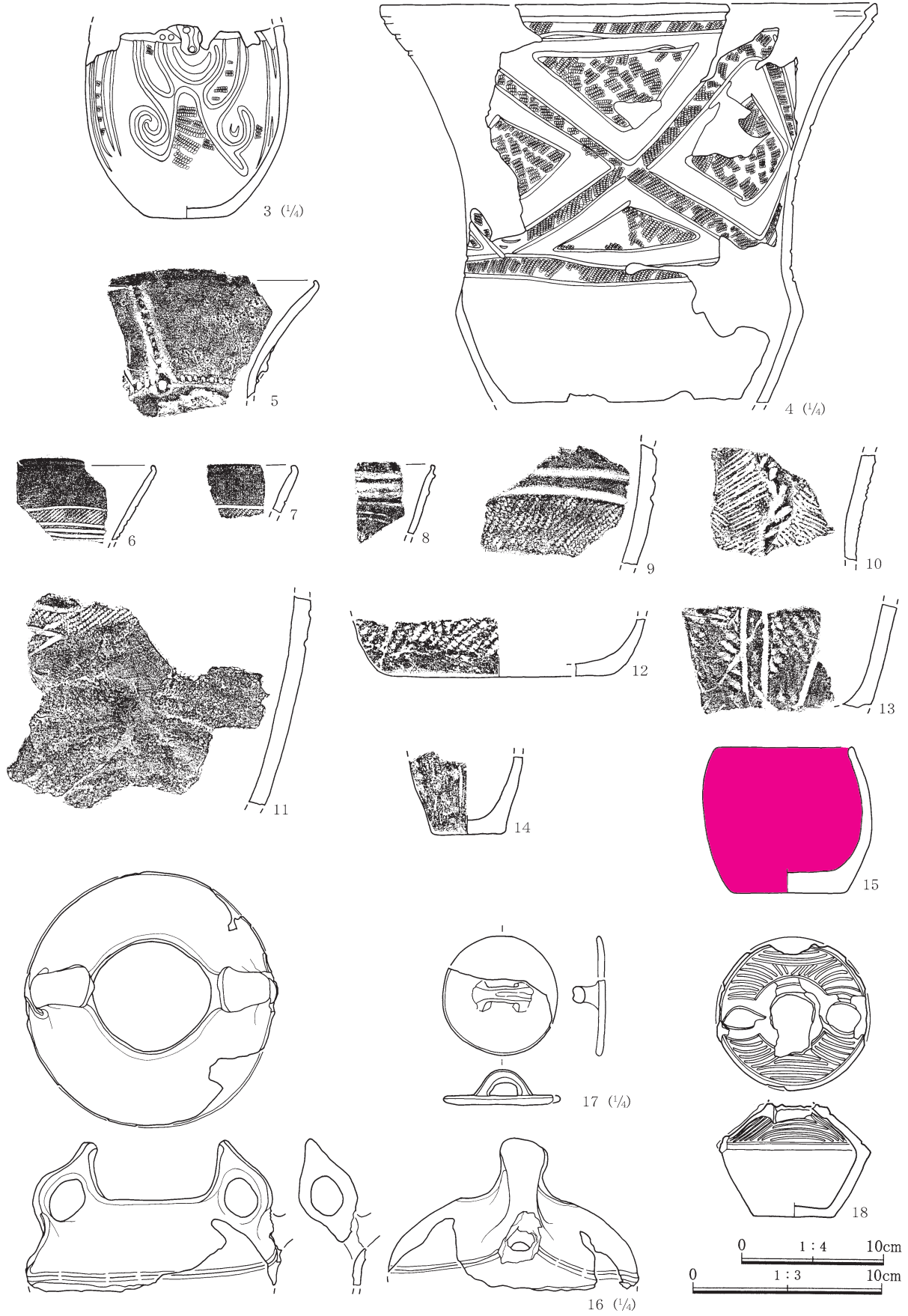
第3章 検出された遺構と遺物



第90図 5-77号住居跡(3)

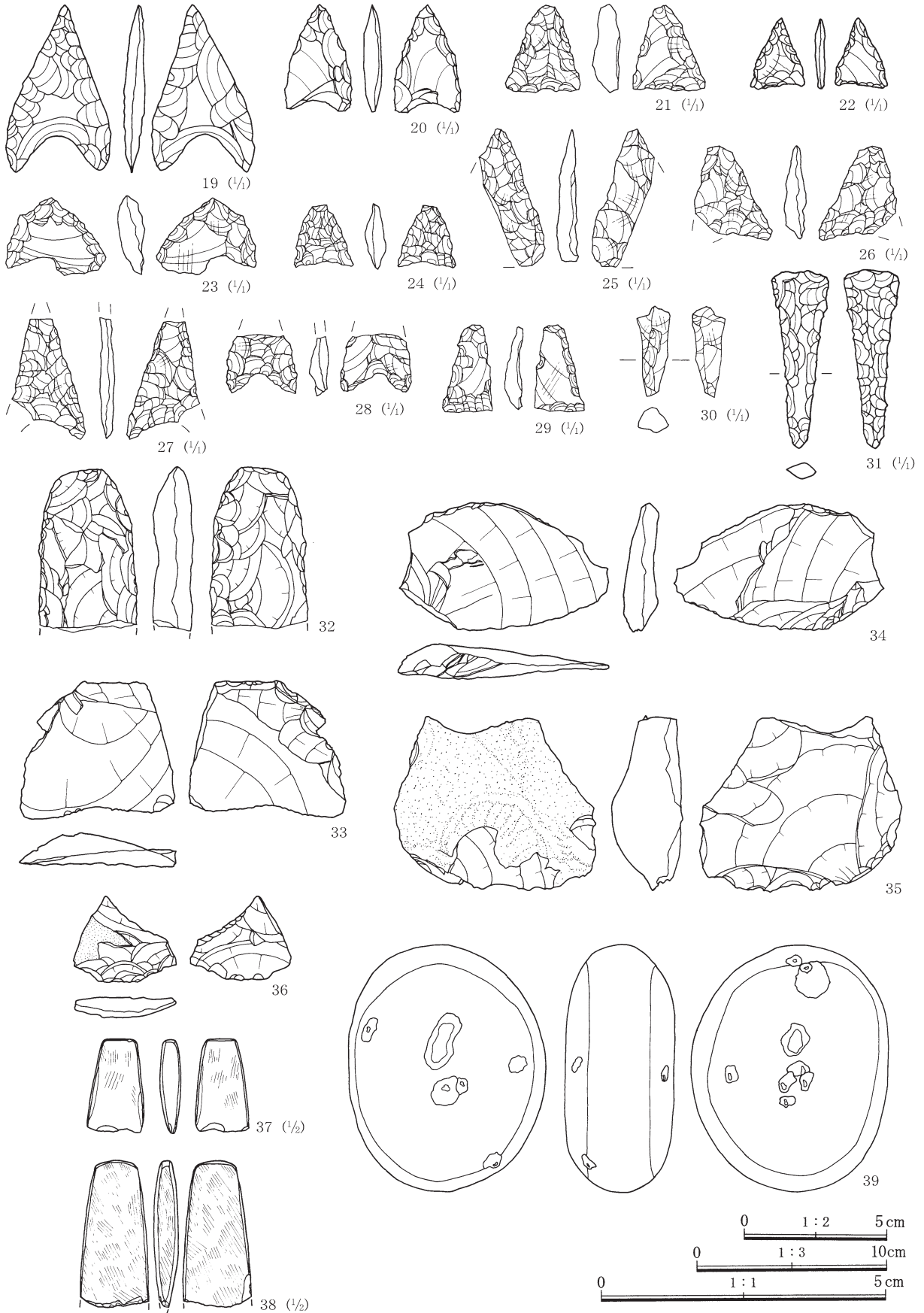


第91図 5-77号住居跡出土遺物(1)

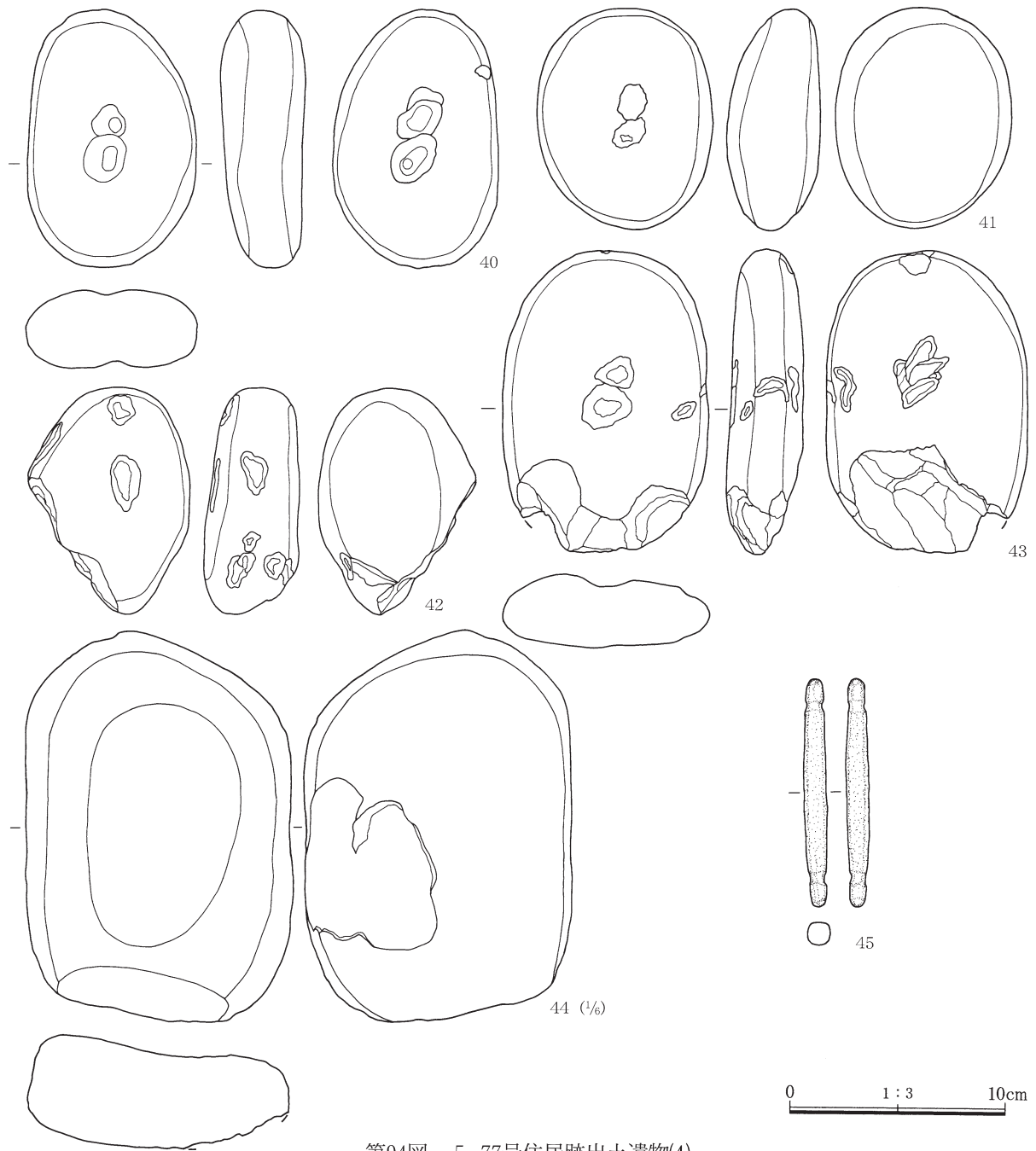


第92図 5-77号住居跡出土遺物(2)

第3章 検出された遺構と遺物



第93図 5-77号住居跡出土遺物(3)



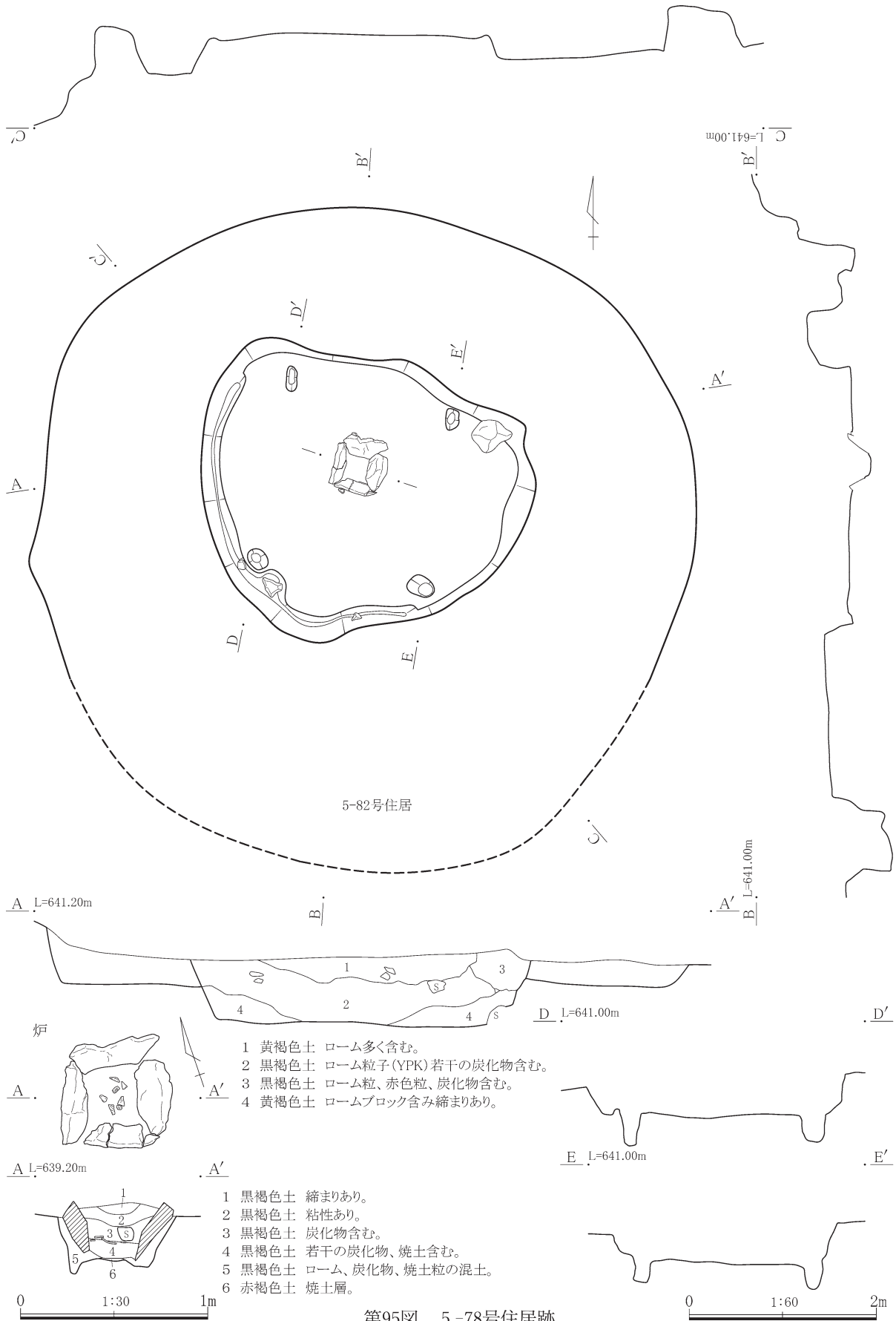
第94図 5-77号住居跡出土遺物(4)

5-78号住居跡 (第95~101図: PL18・20・131・132)

位置 O-12グリッドに位置する。重複 5-82号住居跡の中に重複する。

形状 北壁が直線的な不正円形を呈す。規模 360×290×70cm。方位 N-18°-E

床面 掘り込んだローム地山をそのまま地床とし、かなり締まっていた。周溝は西と南側の壁下に部分的に認められた。炉 ほぼ中央に作られていた。やや細長い角礫を四角に組んだ石囲い炉である。規模は東西55cm、南北60cmである。焼土は少なく、下部に深鉢の胴部片が潰れた状態で出土している。



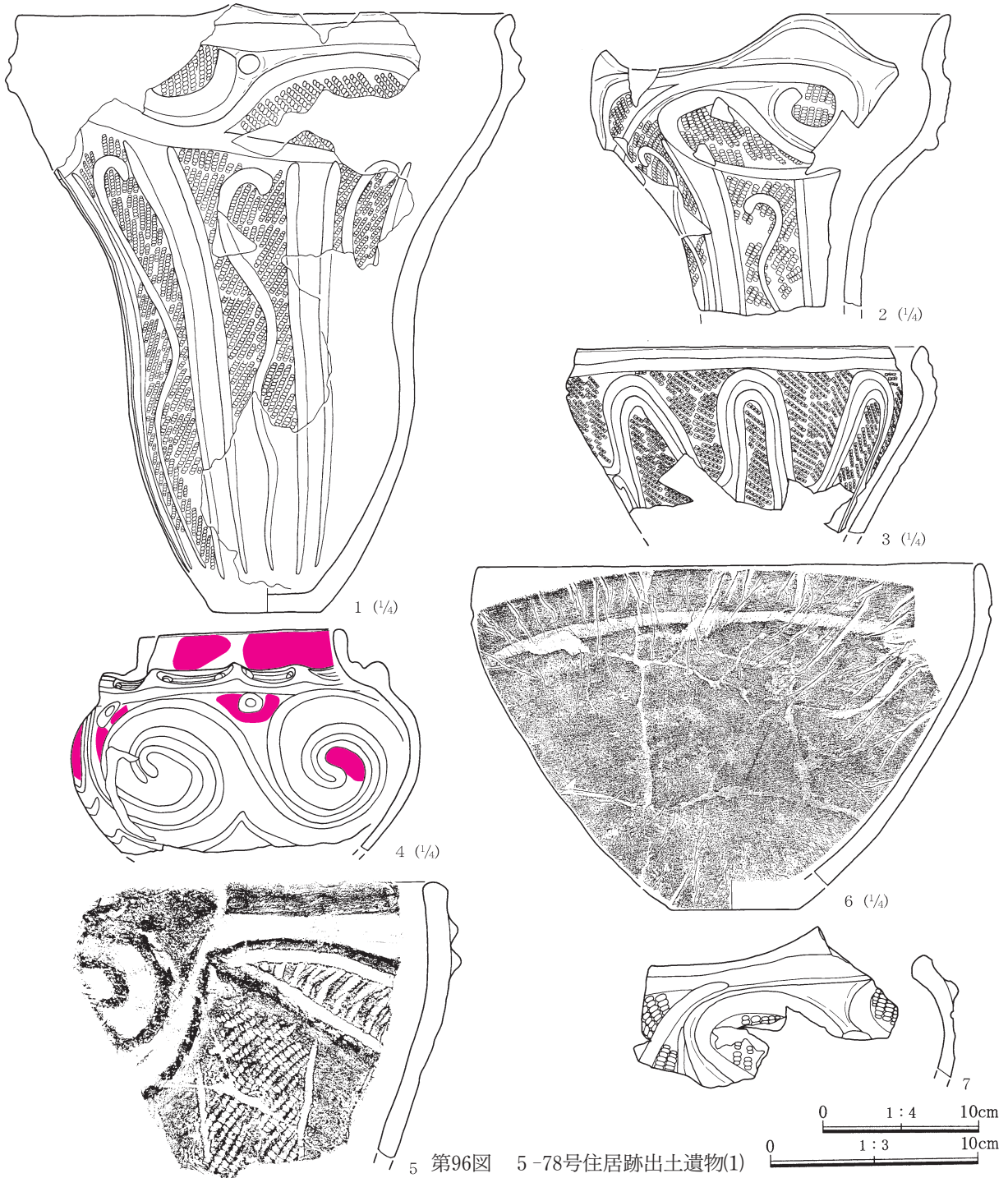
第95図 5-78号住居跡

柱穴 壁際に4本を検出した。径およそ20～25cmの長円形で深さは30～40cmである。

埋甕 検出されなかった。 掘方 土坑等は検出されなかった。

出土遺物 かなり多くの土器、石器が出土している、4は広口の壺型土器で赤彩が見られる。石器は石鏃、打製石斧類が多く見られた。88はヒスイ製の垂飾未製品である。

時期・所見 5-82号住居跡の中にすっぽりに入る形で検出された。5-82号住居跡が埋没後に本址が作られたものと判断されるが、ほとんど時間差は無いものと考えられる。覆土上層から中位にかけて大量の礫が投げ込まれた状況で検出されている。時期は出土土器から中期後半である。



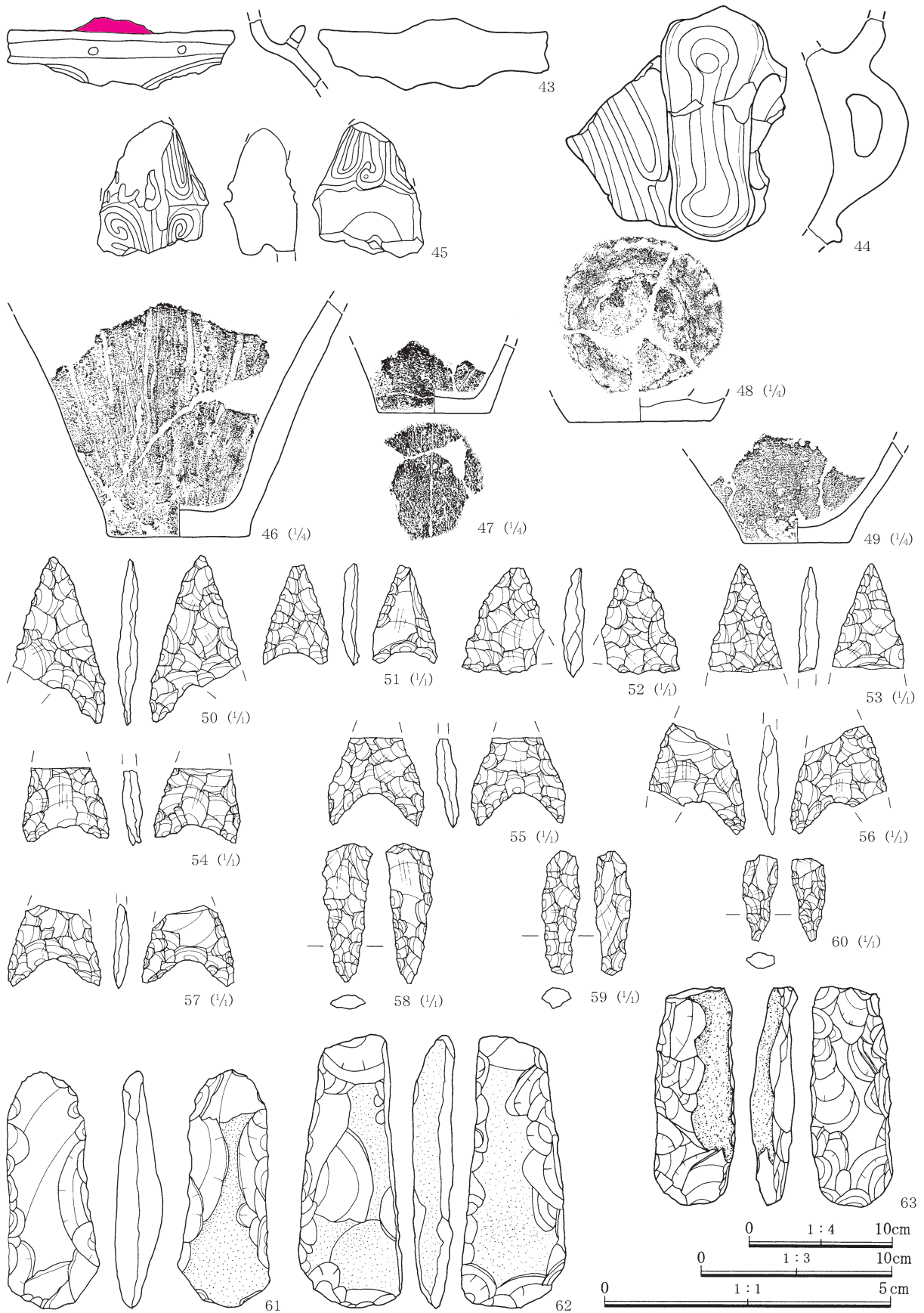
5 第96図 5-78号住居跡出土遺物(1)



第97図 5-78号住居跡出土遺物(2)



第98図 5-78号住居跡出土遺物(3)



第99図 5-78号住居跡出土遺物(4)



第100図 5-78号住居跡出土遺物(5)



第101図 5-78号住居跡出土遺物(6)

5-79号住居跡 (第102・103図：PL18・132・133)

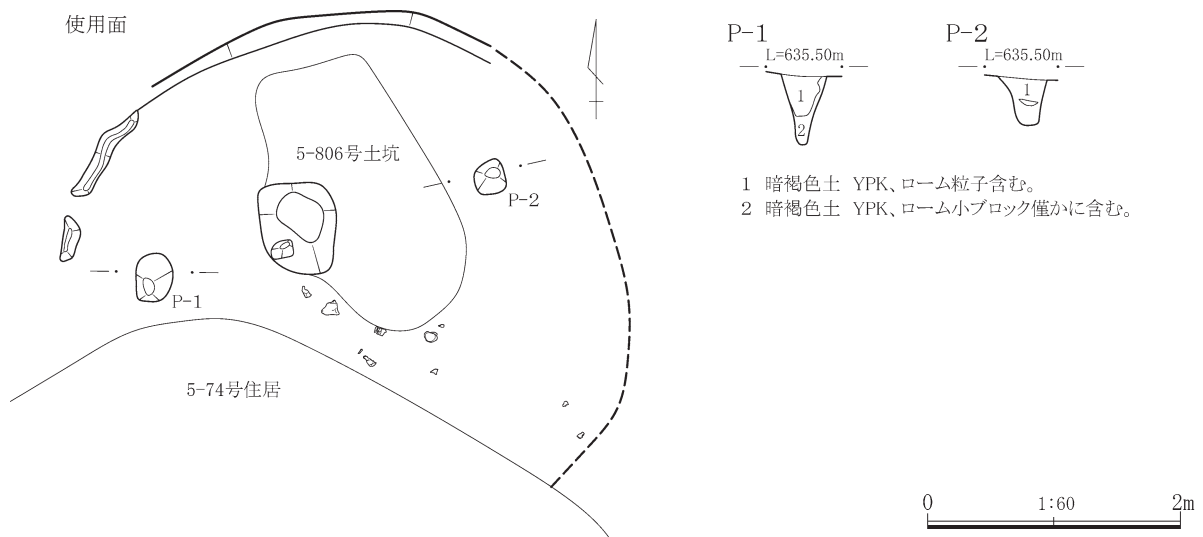
位置 C・D-14グリッドに位置する。 **重複** 中央部に5-806号土坑が重複し、5-74号住居に南側を切られている。 **形状** 円形を呈すと思われる。 **規模** 450×(450)×15cm。 **方位** -

床面 ほぼ平坦であるが締まりは見られない、南側については一部削平を受けているものと考えられる。

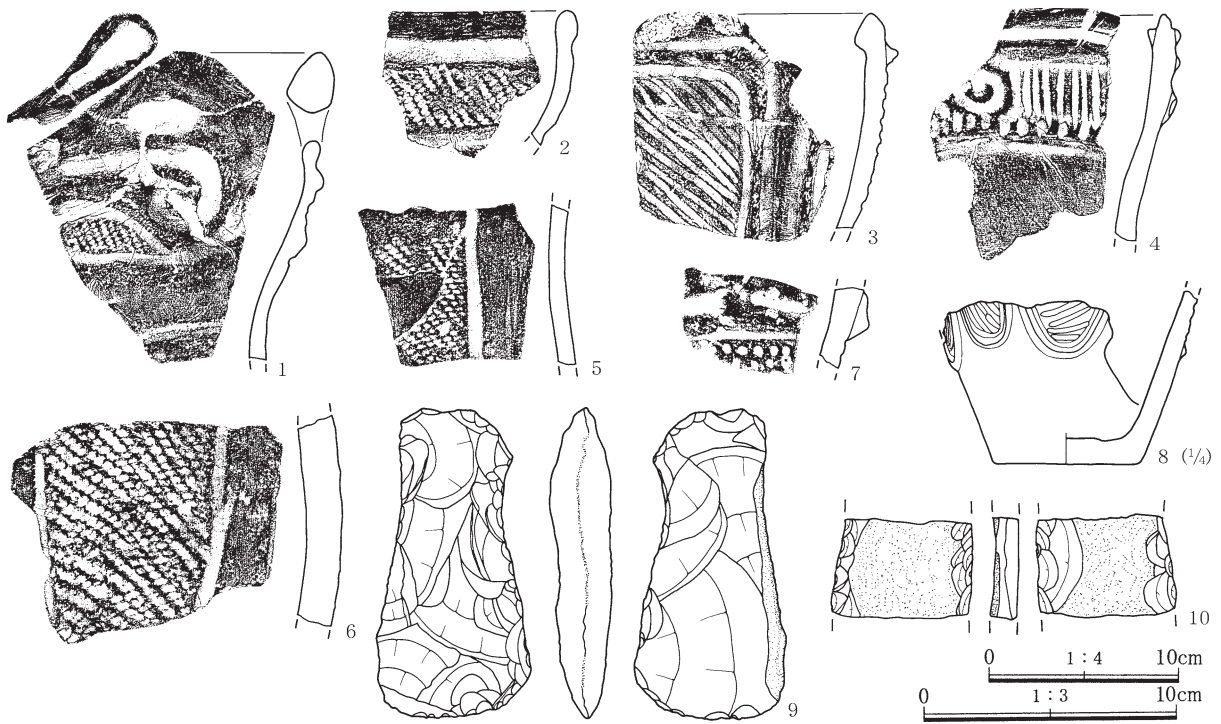
炉 5-806号土坑によって壊されているものと思われる。 **柱穴** 左右に2本を検出、径30cm程で深さは約40cmである。 **埋嚢** 検出されなかった。 **掘方** 貼り床や土坑等は見られない。

出土遺物 中央部分に小破片が点在して出土している。若干の土器片、および打製石斧が2点出土したのみである。

時期・所見 上部をかなり削平されている。壁は北側の一部が残るのみで南側は5-74号住居跡に切られている。周溝も西側に僅かに見られたのみである。炉も前述したように土坑によって壊されていると思われる。時期は中期後半と見られる。



第102図 5-79号住居跡



第103図 5-79号住居跡出土遺物

5-80号住居跡 (第104~106図: PL19・133)

位置 L・M-22・23グリッドに位置する。 重複 無し。 形状 ほぼ円形を呈す。

規模 345×(300)×25cm。 方位 — 床面 比較的平坦で僅かに南に傾斜を持つ、硬く締まった状況は見られない。 炉 ほぼ中央に検出された。径60cmで深さ20cm程掘り窪められ、下面は良く焼けている。覆土中に15cm程の角礫が検出されている。

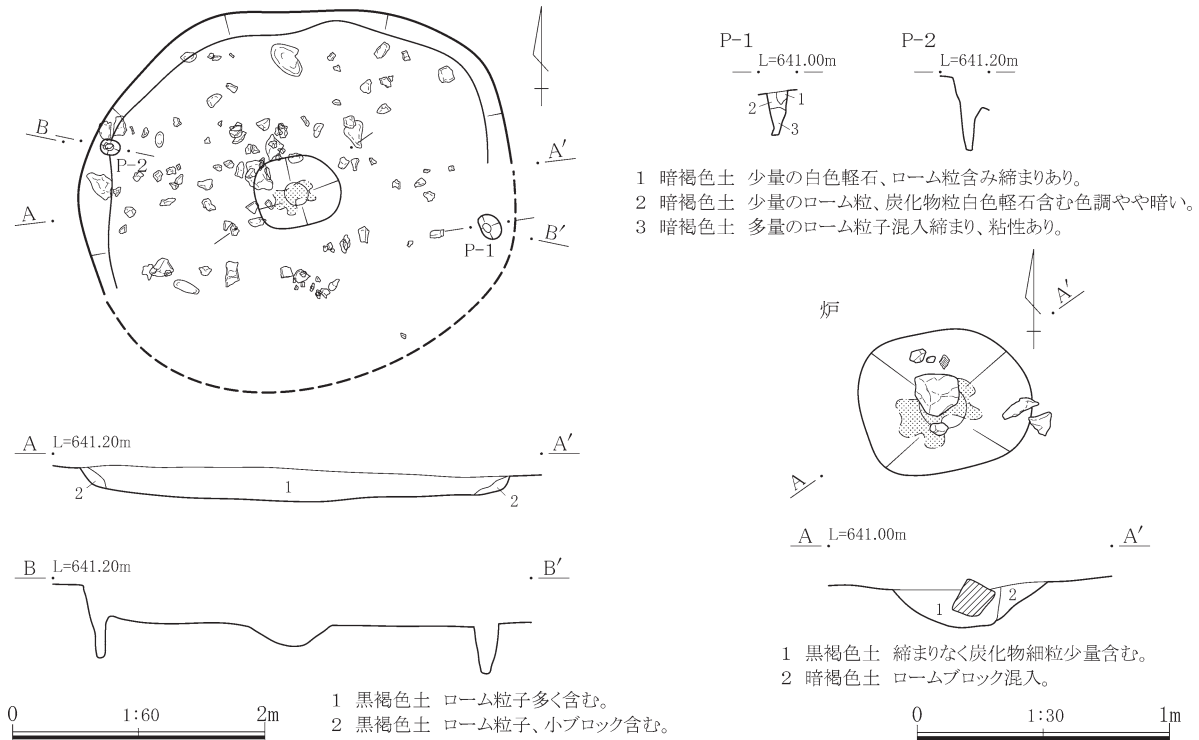
柱穴 東西の壁寄りに2本が検出された、径15~20cmで深さは40cm程である。

第3章 検出された遺構と遺物

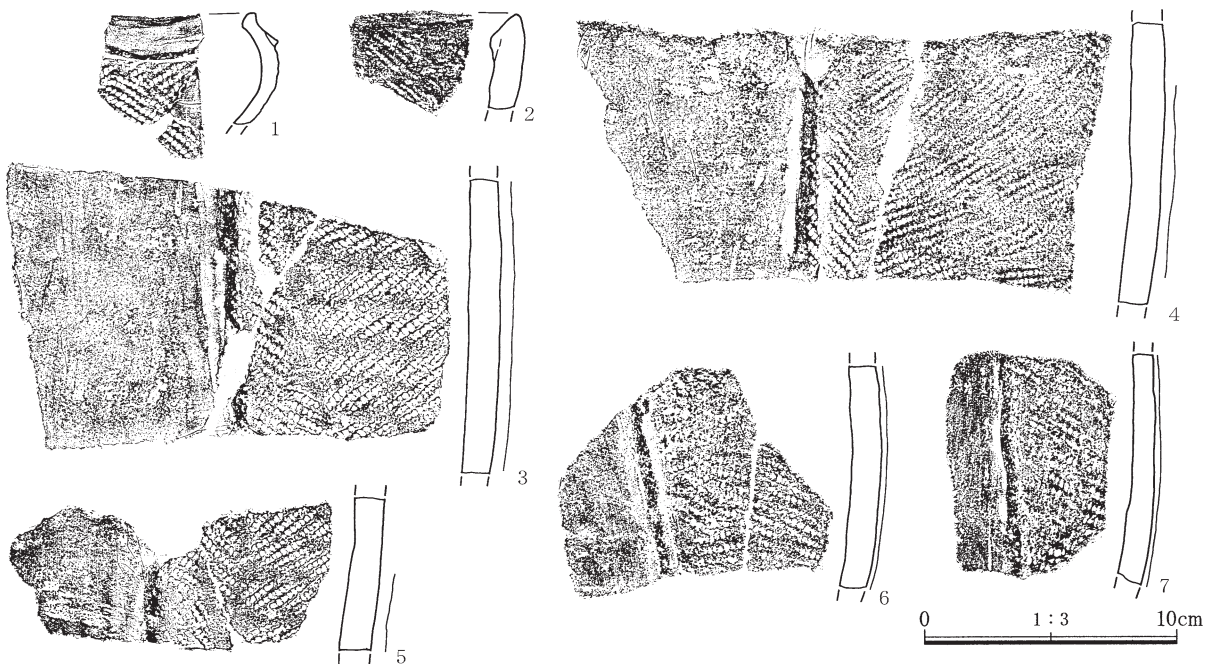
埋甕 検出されなかった。 **掘方** 土坑等は見られなかった。

出土遺物 覆土中には比較的多くの礫と若干の土器片が含まれていたが土器は小片が多かった。石器類は少なく石鏃、打製石斧、磨石と石皿19が北壁寄りの床面より出土している。

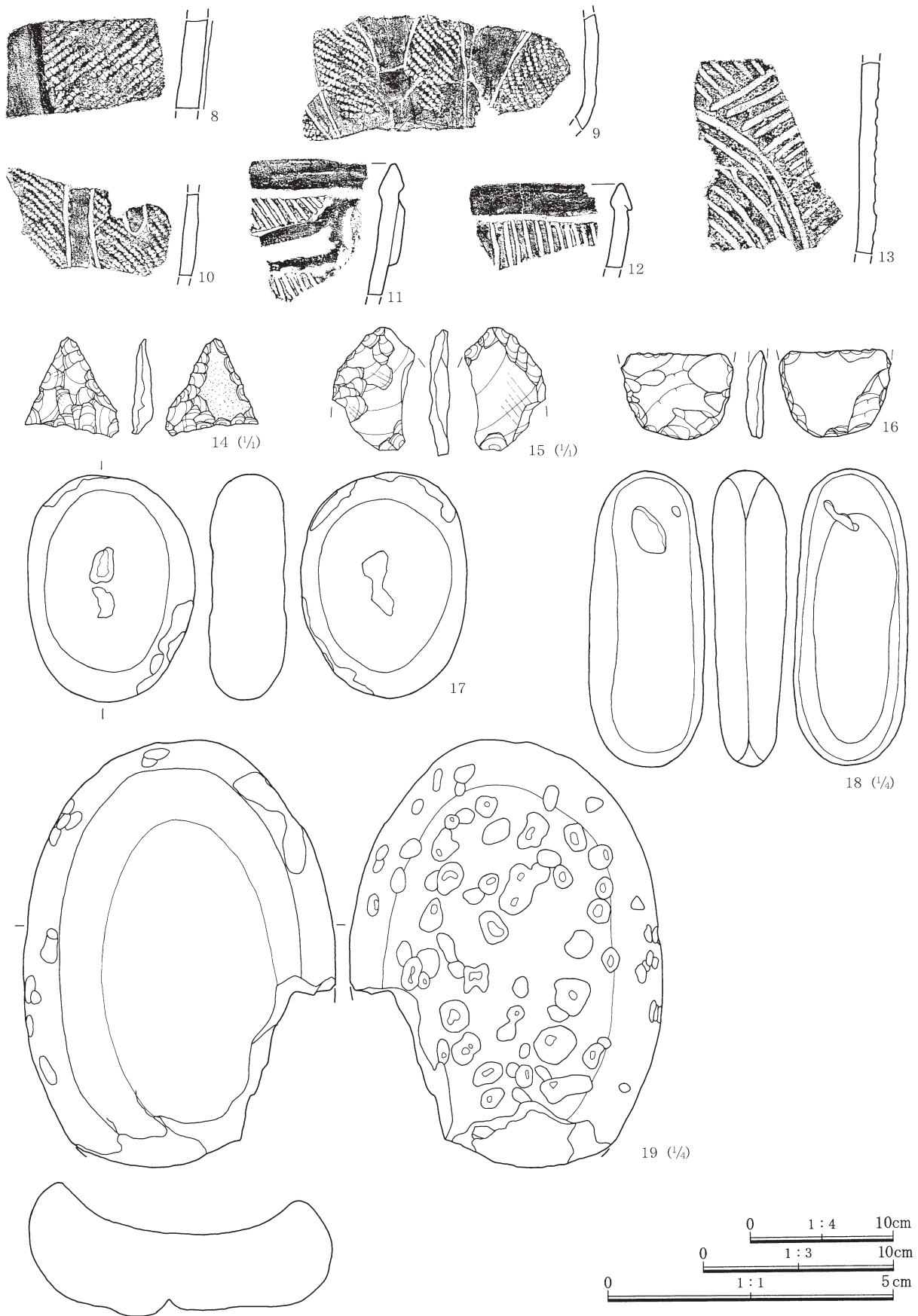
時期・所見 北よりの高い場所にやや離れて検出されている。小型の住居で2本柱穴である、南側はやや削られている。時期は中期後半か。



第104図 5-80号住居跡



第105図 5-80号住居跡出土遺物(1)



第106図 5-80号住居跡出土遺物(2)

第3章 検出された遺構と遺物

5-81号住居跡 (第107～110図：PL19・133・134)

位置 L・M-18・19グリッドに位置する。 **重複** 西側一部に5-95号住居跡が重複し、南側に大きく5-102号住居跡が重複している。 **形状** 円形と思われる。北側の壁部分のみ確認された。

規模 470×(470)×10cm。 **方位** -

床面 下位の5-102号住居跡との床面差があまり無く、明確な面として確認できなかった。

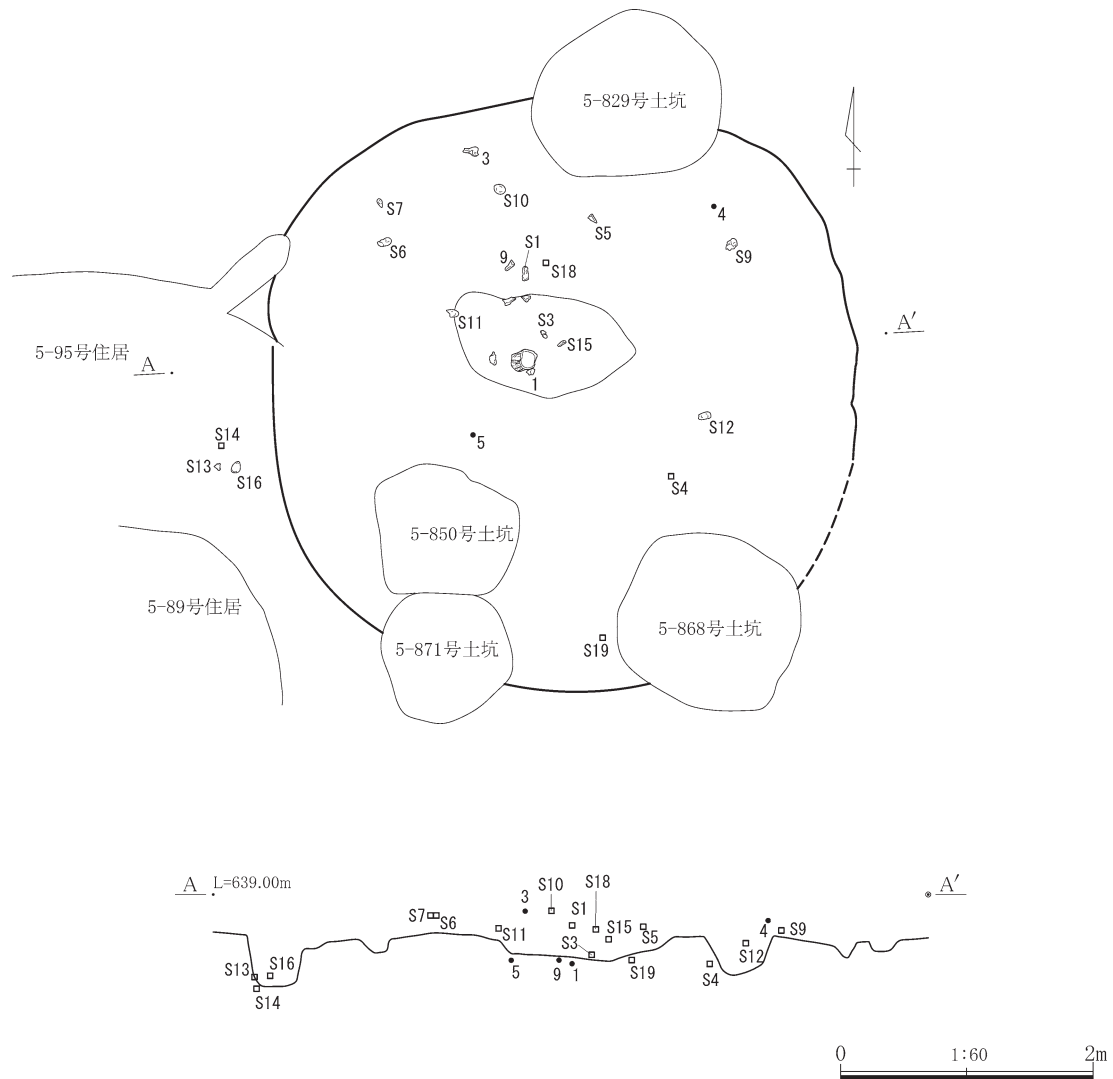
炉 ほぼ中央に検出されたが炉石等が残っておらず、長方形の掘方が検出された。下面には焼土が見られ、やや南に寄った場所に深鉢下部片が埋設土器として出土している。

柱穴 壁際に沿って6本が廻っていたものと思われるが南側2本については、土坑により壊されたものと考えられる。 **埋甕** 住居南側の入り口部に検出した。口縁部を欠く深鉢胴部片が埋設されていた。

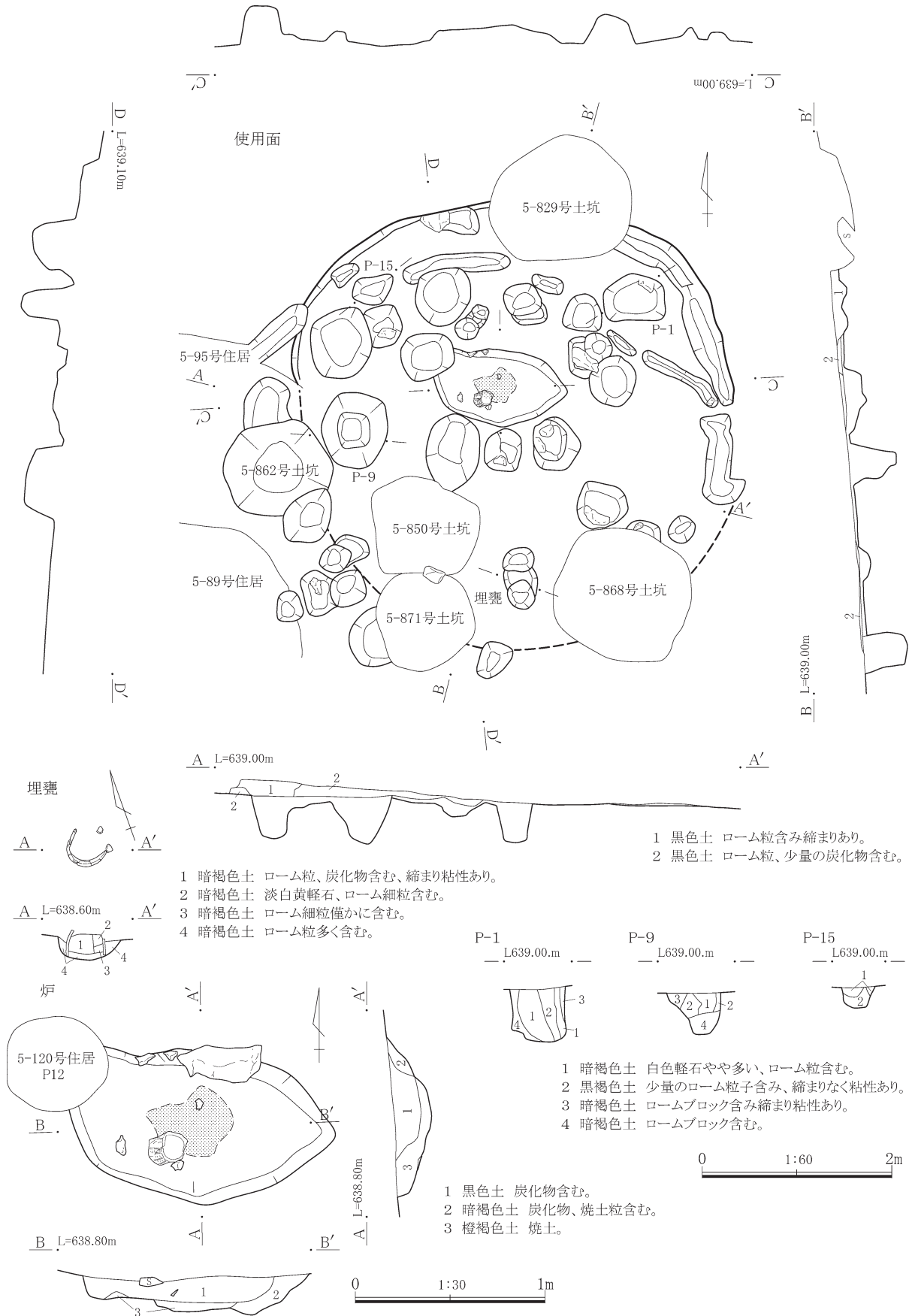
掘方 床面下に5-102号住居跡を確認した。

出土遺物 若干の土器片が出土しているが時期的に混在している。石器は比較的多く出土した。

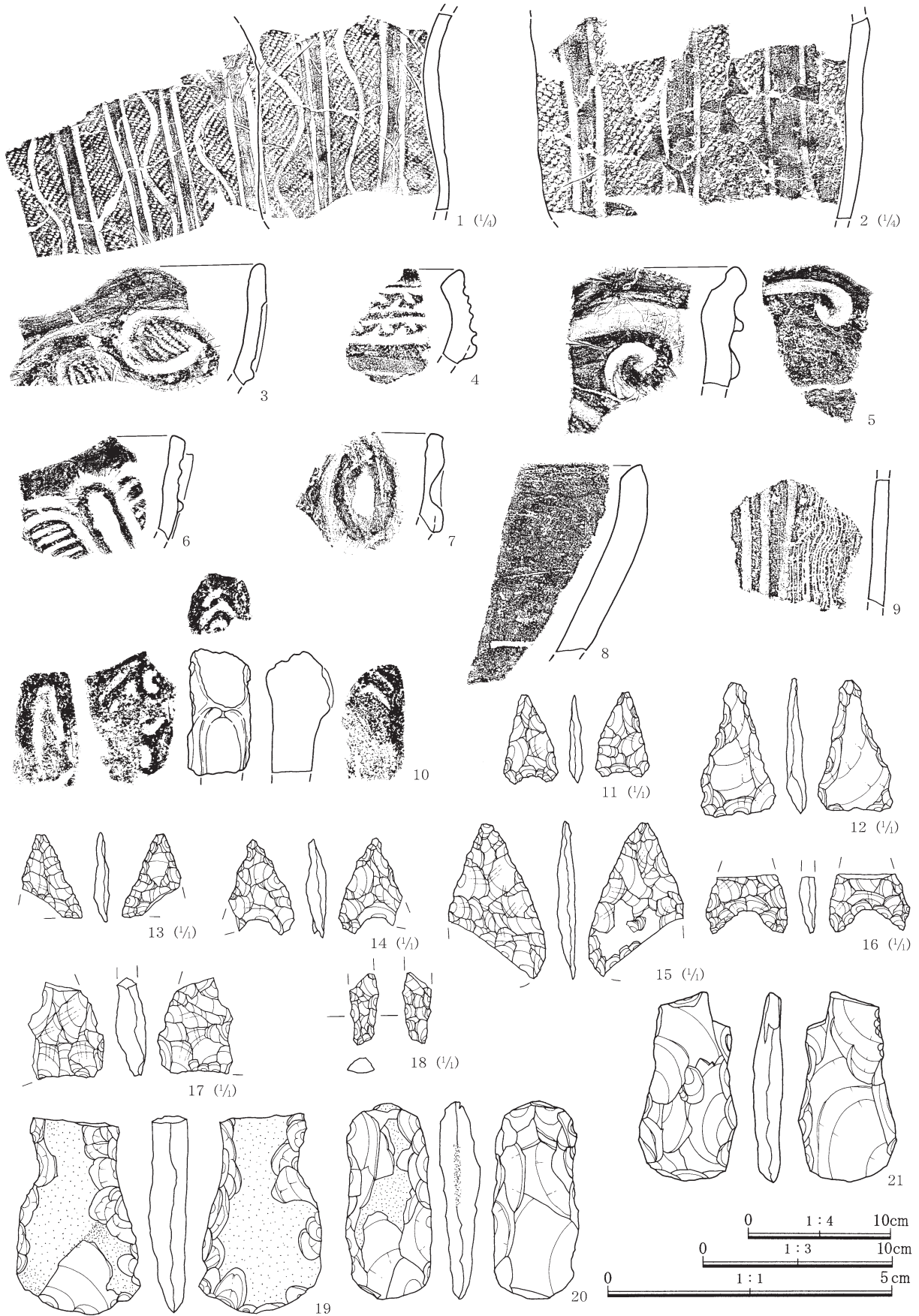
時期・所見 北側については壁の立ち上がり及び周溝を検出したが、その他の部分については5-102号住居跡により削平されており、床面等は明確にできなかった。時期は埋甕、炉体土器から中期後半と見られる。



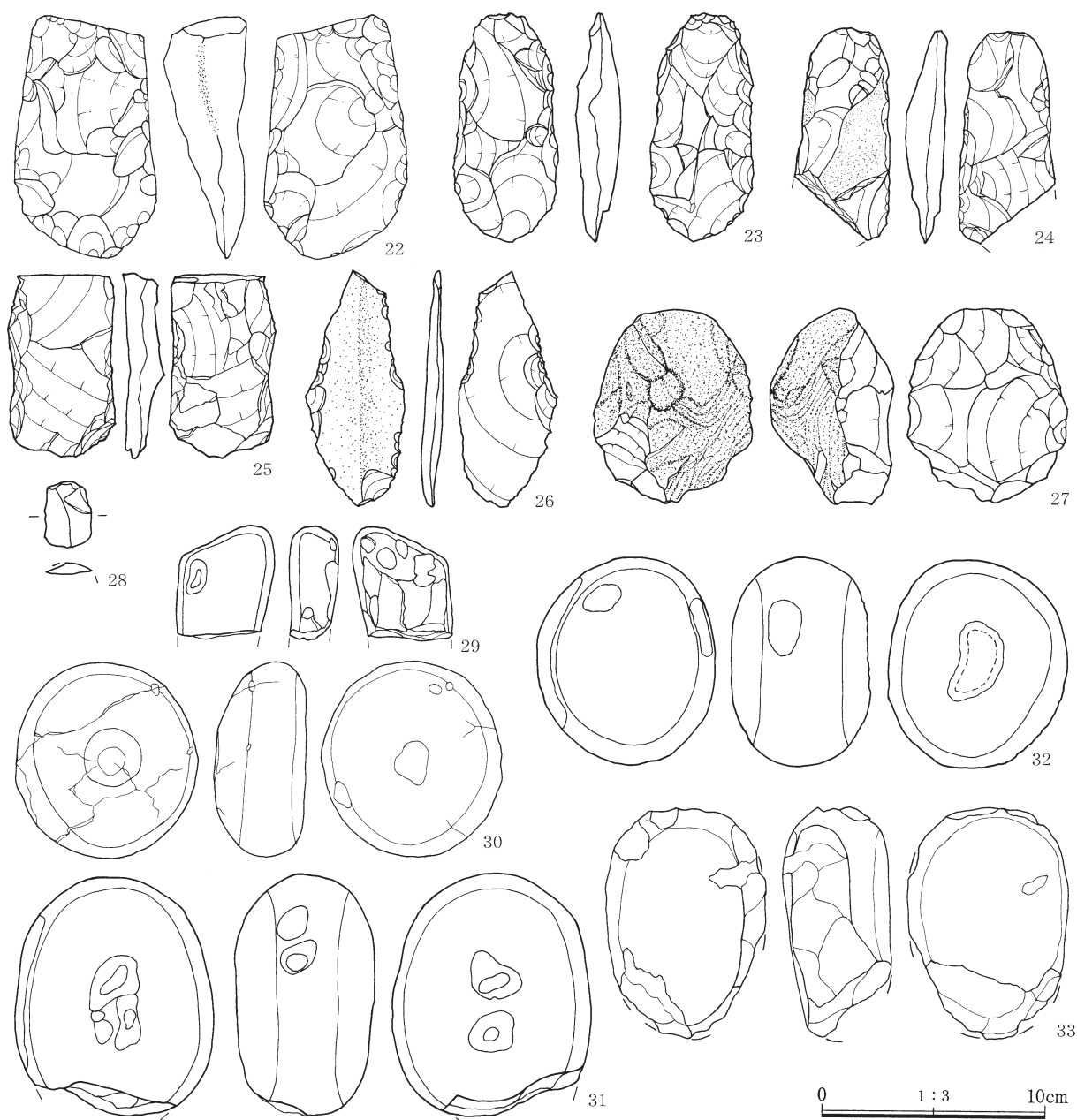
第107図 5-81号住居跡(1)



第108図 5-81号住居跡(2)



第109図 5-81号住居跡出土遺物(1)



第110図 5-81号住居跡出土遺物(2)

5-82号住居跡 (第111~114図: PL19・20・134)

位置 N~P-20~22グリッドに位置する。 **重複** 中に5-78号住居跡が重複。

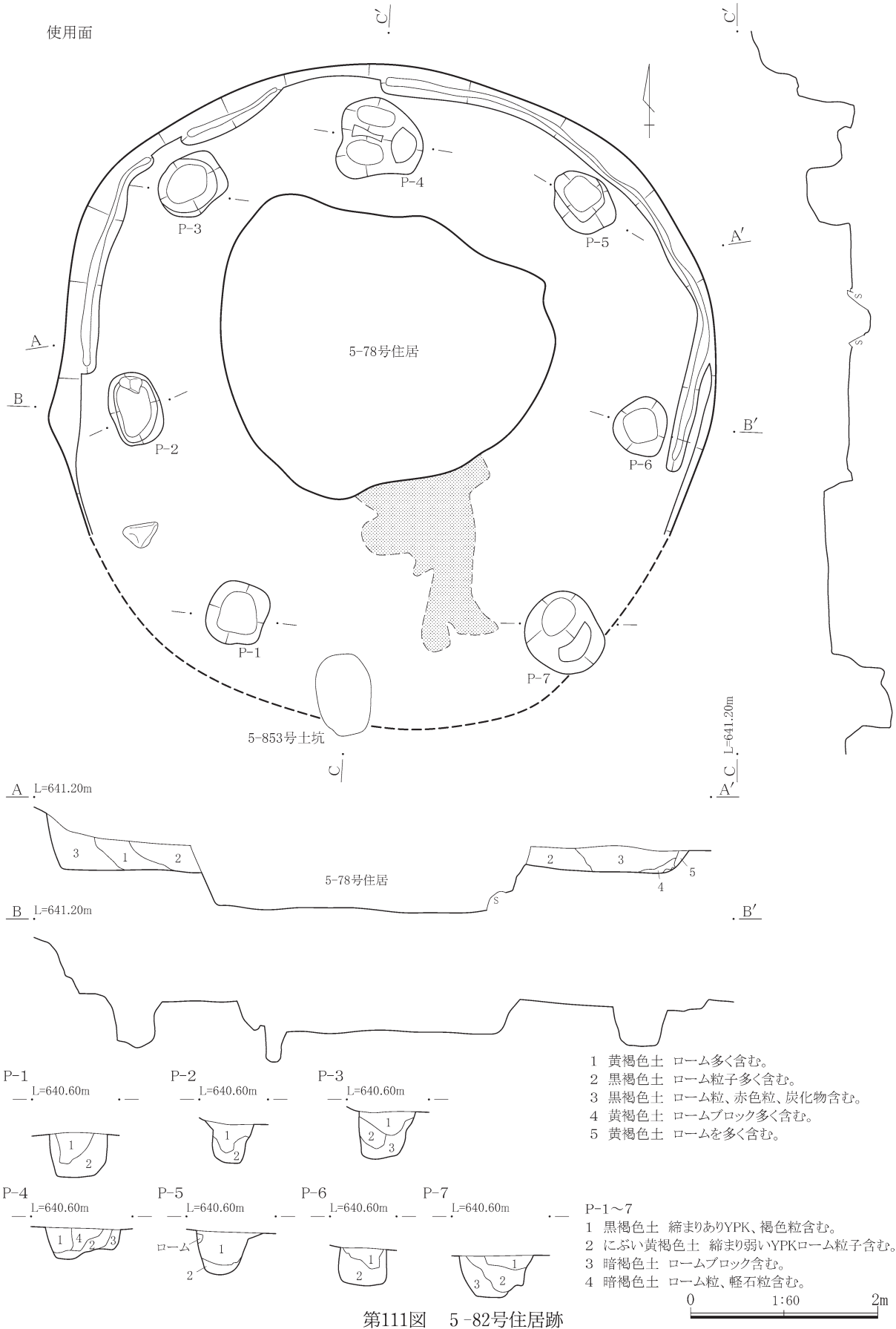
形状 円形を呈す。 **規模** (720)×690×37cm。 **方位** — **床面** 平坦で比較的締まりを持つ。5-78号住居に切られているが中央から南に向かって焼土の広がりが見出されている。北側部分に周溝がほぼ半周する。また一部貼り床が認められた。 **炉** 5-78号住居によって壊されている。

柱穴 壁に沿って7本を検出した。径70cm前後で深さは40~50cmを測る。 **埋甕** 検出されなかった。

掘方 大形の床下土坑等は検出されなかったが、住居の南側で小さな落ち込みが複数認められた。

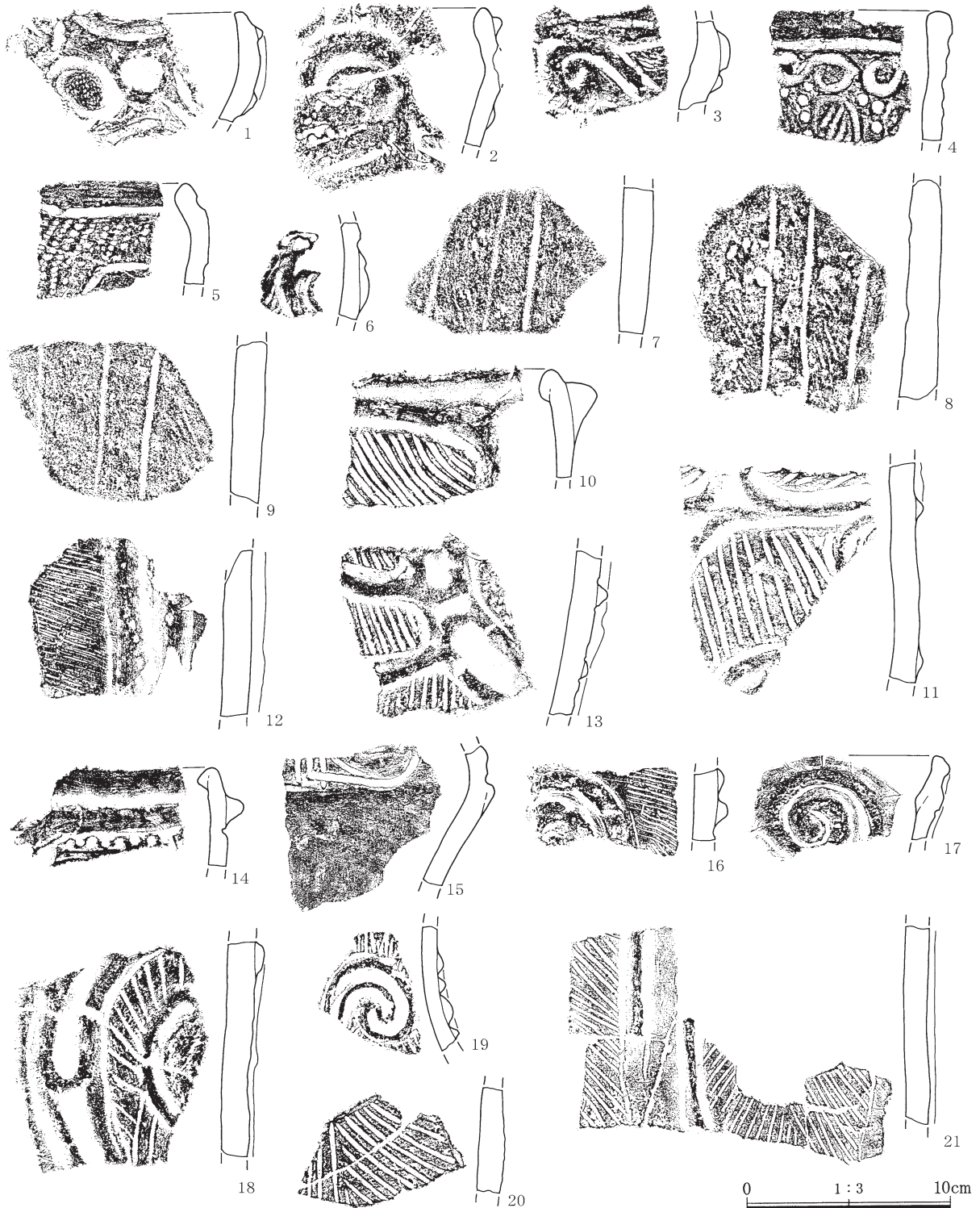
出土遺物 礫および土器片が覆土中より出土している。石器は石鏃類は見られず、打製石斧および凹石、磨石が出土している。

第3章 検出された遺構と遺物

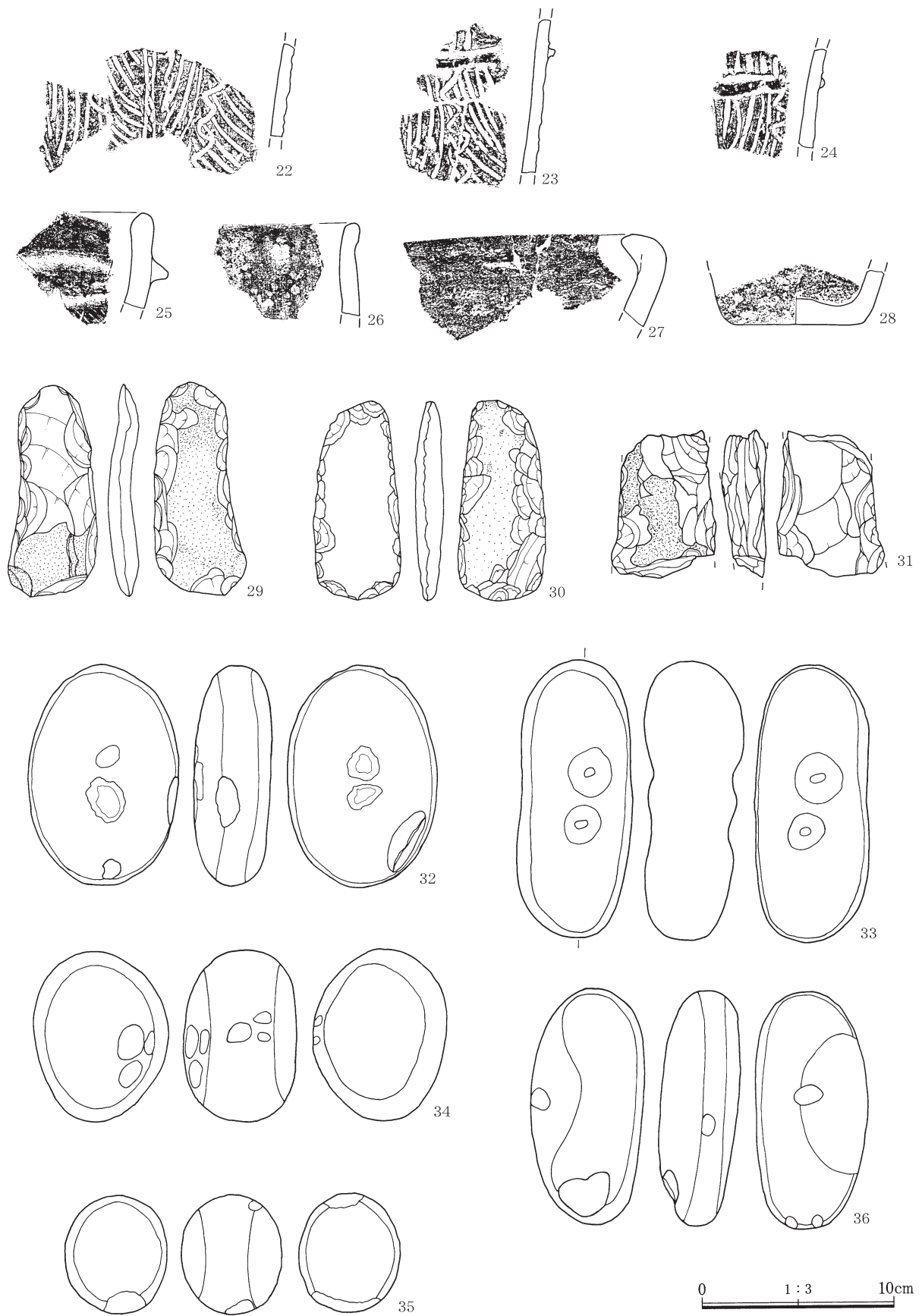


第111図 5-82号住居跡

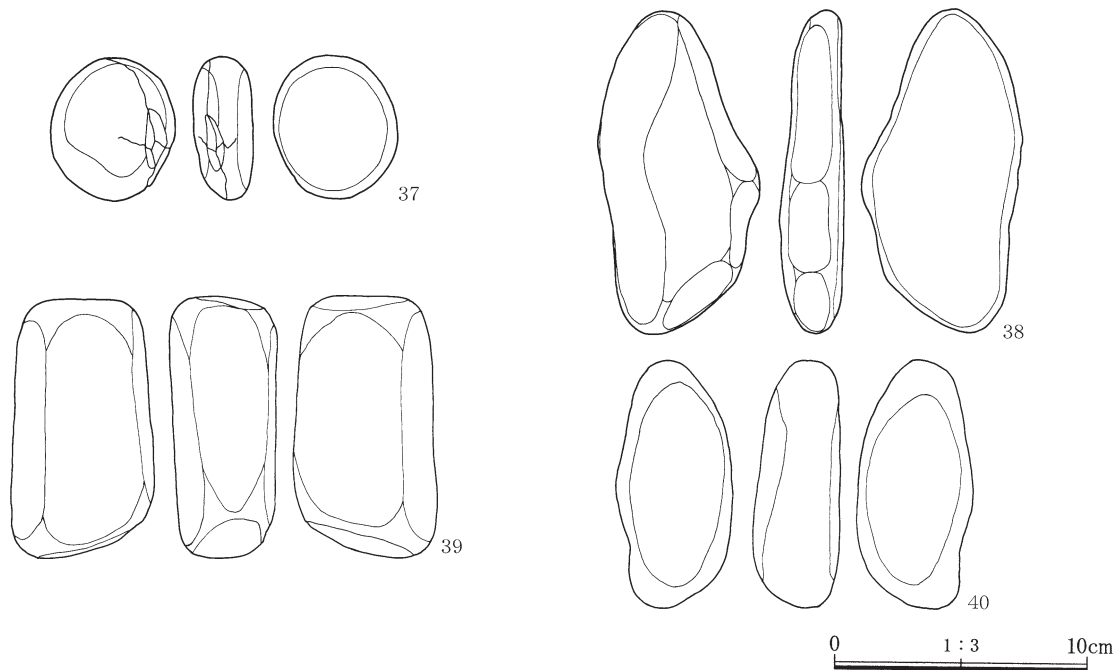
時期・所見 入れ子状態に重複する5-78号住居跡によって、炉を含む中央部分を掘削されている。このため炉を含む中央部分は失われている。規模は比較的大型であるが、南側の壁は削平されている。出土遺物は少ない。時期は中期後半である。



第112図 5-82号住居跡出土遺物(1)



第113図 5-82号住居跡出土遺物(2)



第114図 5-82号住居跡出土遺物(3)

5-83号住居跡 (第115～130図：PL20・21・134～139)

位置 M・N-14～16グリッドに位置する。 **重複** 北側の一部を水道管敷設溝によって壊されている。

形状 柄鏡型を呈し、部分的に敷石が見られる。 **規模** 760×(900)×55cm。

方位 N-16°-W。 **床面** 板状の礫が壁際に沿うように点在して検出されている。中央部分は比較的平坦であるが、あまり踏みしめられた状況ではない。

炉 ほぼ中央に作られている。やや大形の礫が円形の落ち込みの周囲に置かれており、掘り下げた際に、手前側に礫が据えられた状態で検出されている。掘り鉢状の掘り込みの下部には焼土が見られた。また覆土上層から土器片が多く出土している。

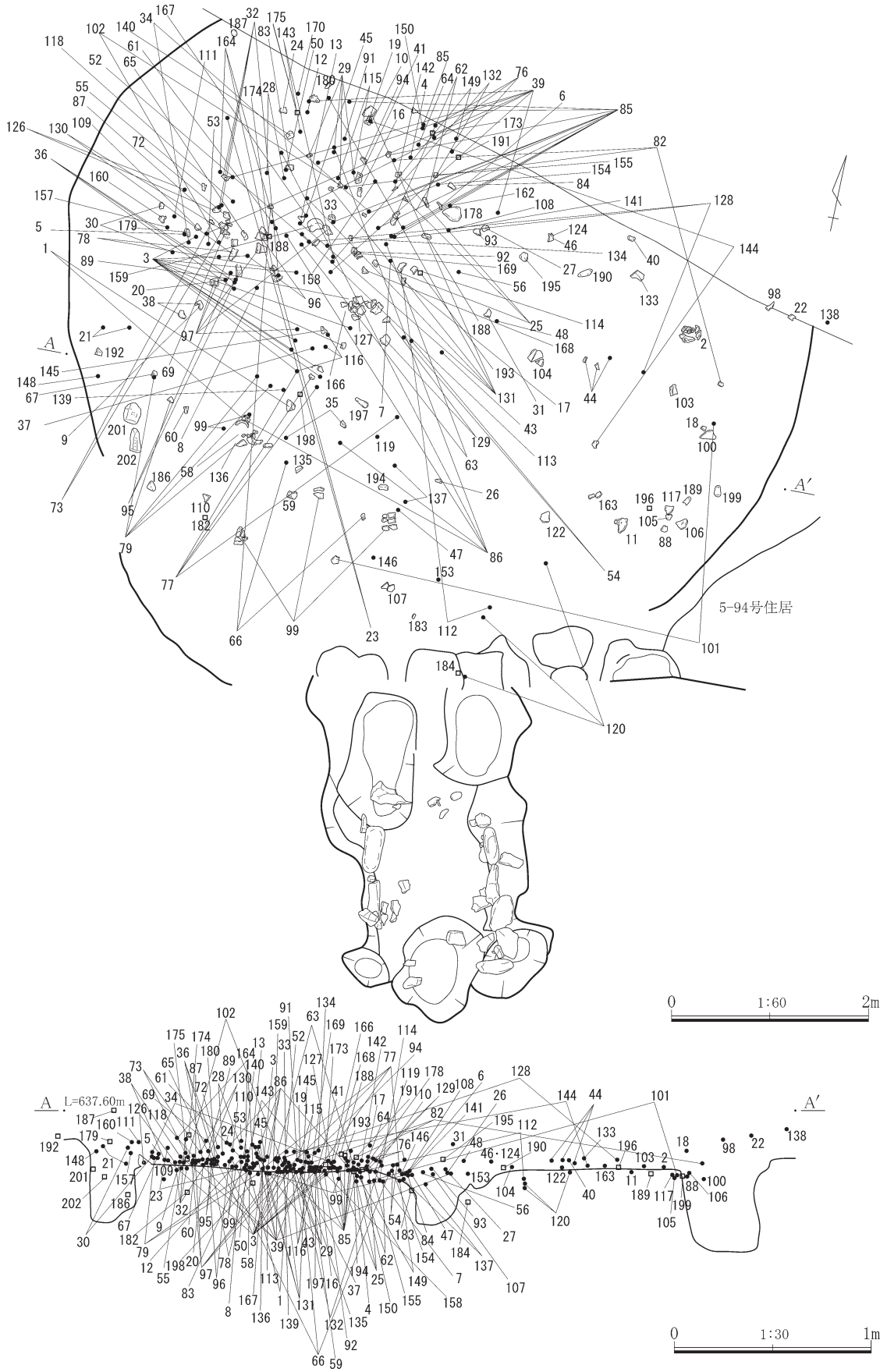
柱穴 壁下に沿って10本程確認されたが入り口部に位置するものは明確な対応関係は掴めなかった。また、壁下に検出された柱穴の中には、径が大きく、深く掘り込まれたものが2本おきに見られ支柱穴的なものと見られる。さらに炉を中心に4本の小柱穴が方形に配されており、奥にも深さ70cmの柱穴と思われる穴が検出されており、横木を支えるための柱穴と思われる。

埋甕 検出されない。 **掘方** 貼り床等は認められず、床下土坑なども検出されなかった。

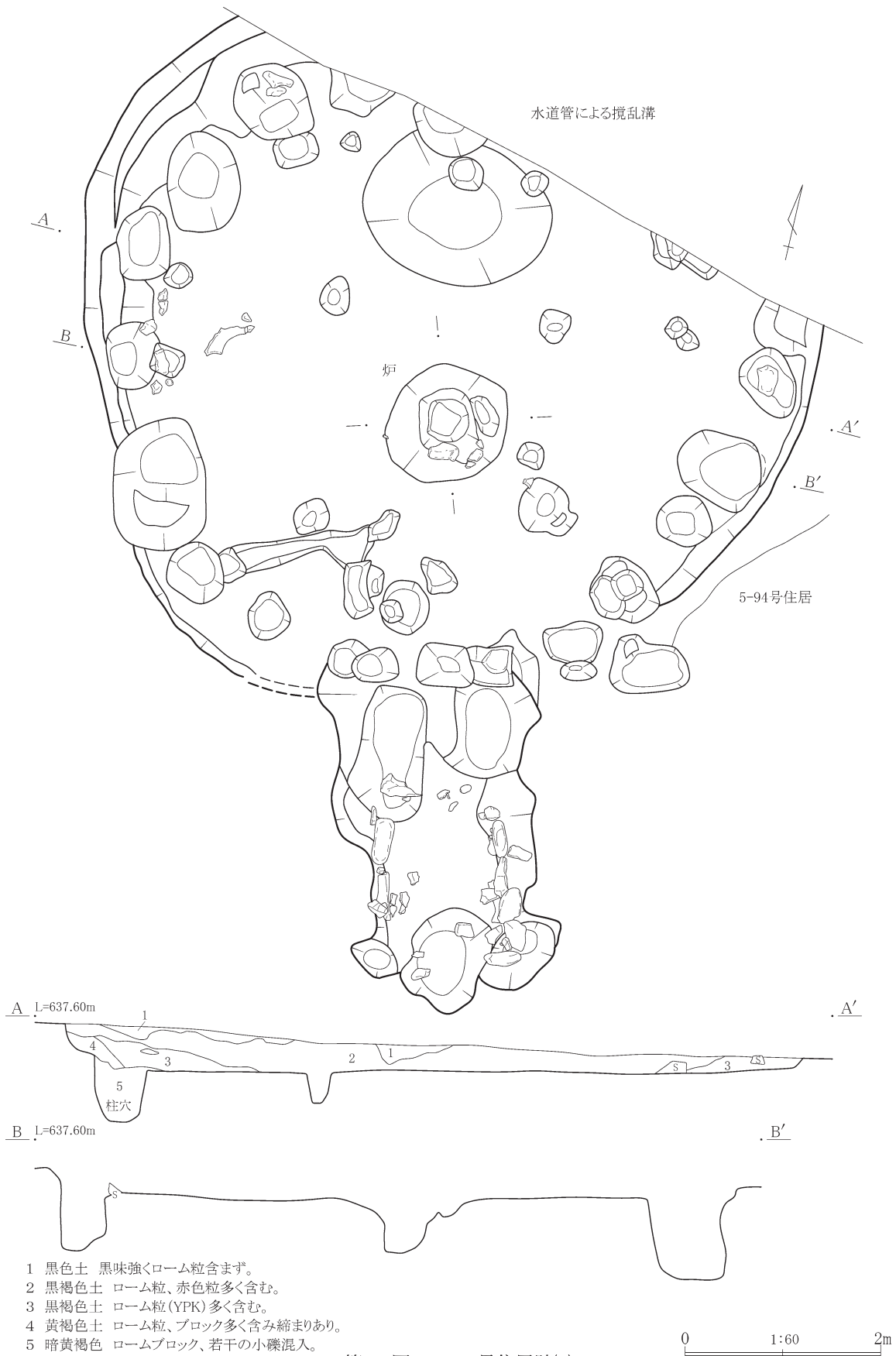
出土遺物 覆土上層から下層に掛けて多く見られた。特に住居の西側から北西部に集中して出土している。土器、石器共に多く出土した。3は蓋型土器である。沈線で対照にJ字状文描き刺突文を付している。172は土製の垂飾品で赤彩されている。石器は磨石類が多く見られ、他に石皿、多孔石さらには石冠203などが出土している。

時期・所見 柄鏡型の敷石住居である。南側の張り出し部は平成8年度に5-383号配石として調査し、長野原一本松遺跡(1)(2002)において報告されているが、本住居の張り出し部として再報告した。時期は堀之内1式期と見られる。

第3章 検出された遺構と遺物

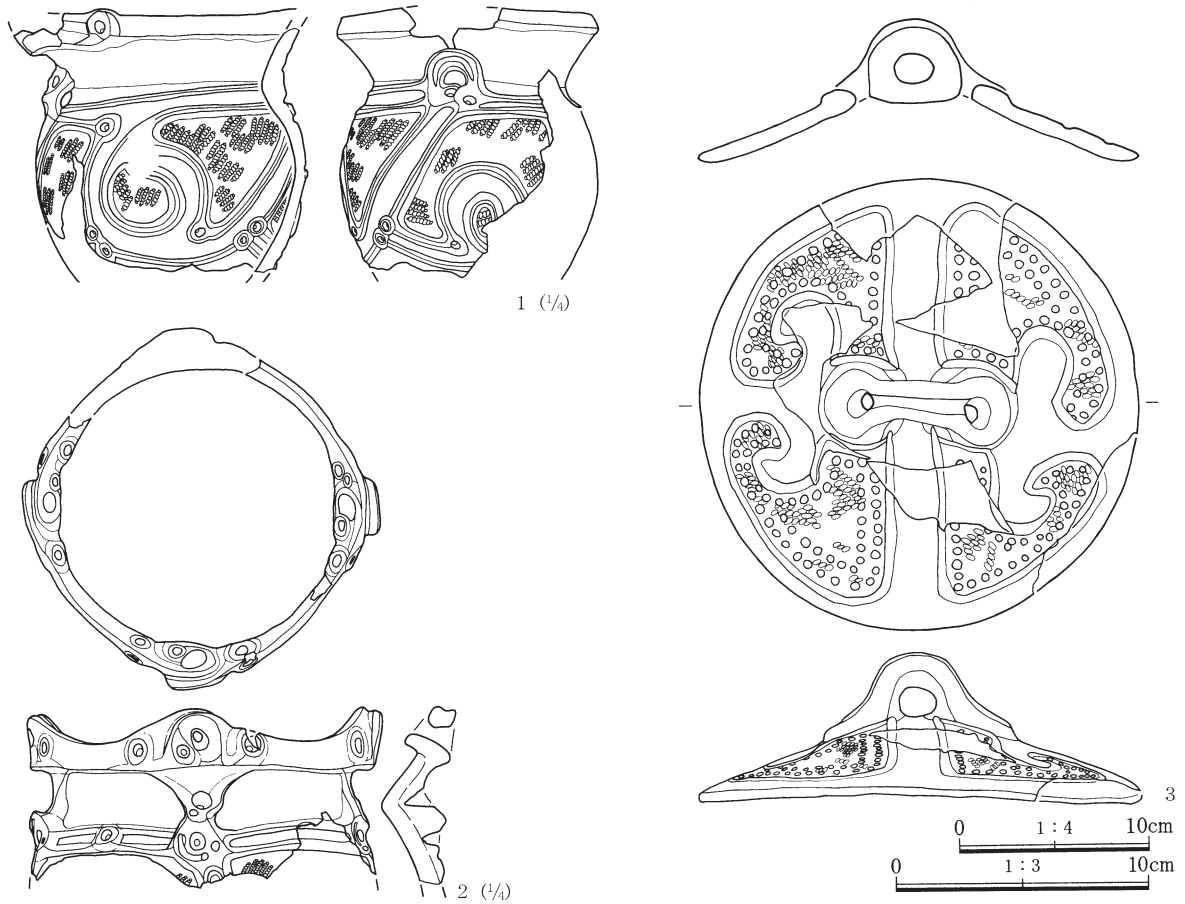
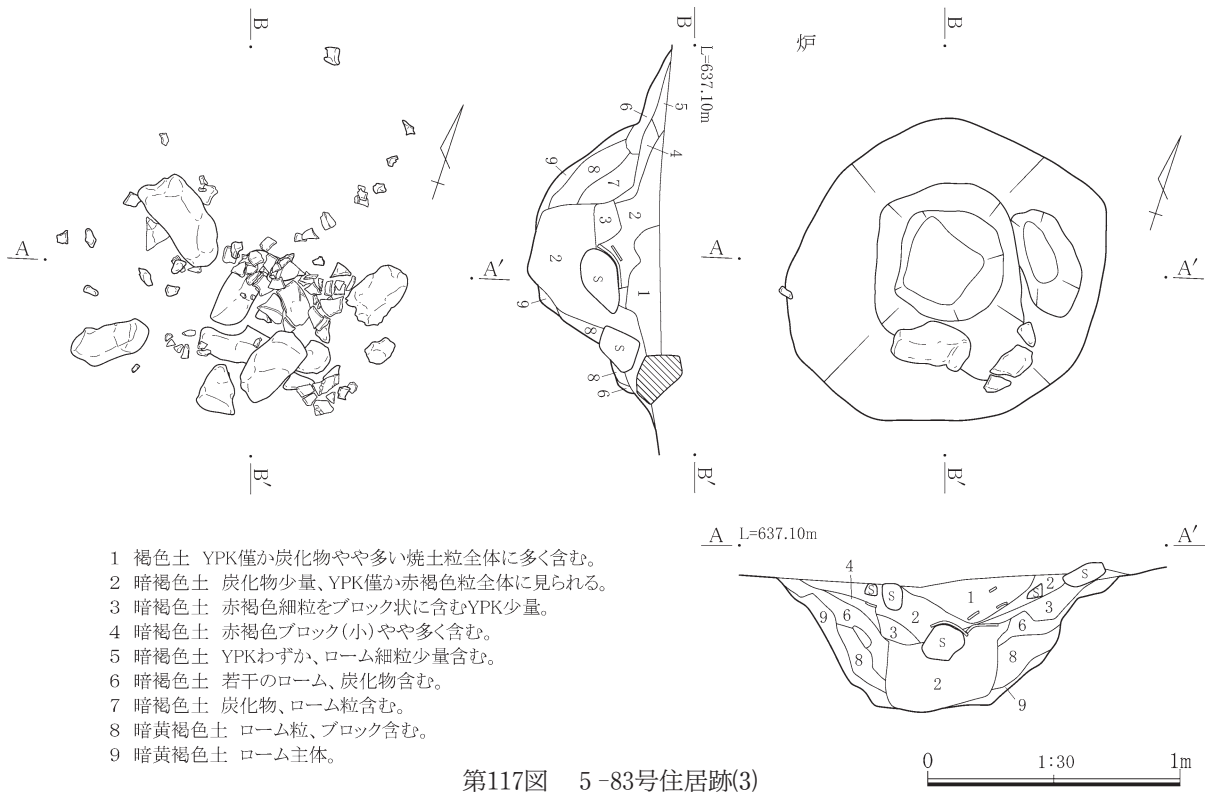


第115図 5-83号住居跡(1)



第116図 5-83号住居跡(2)

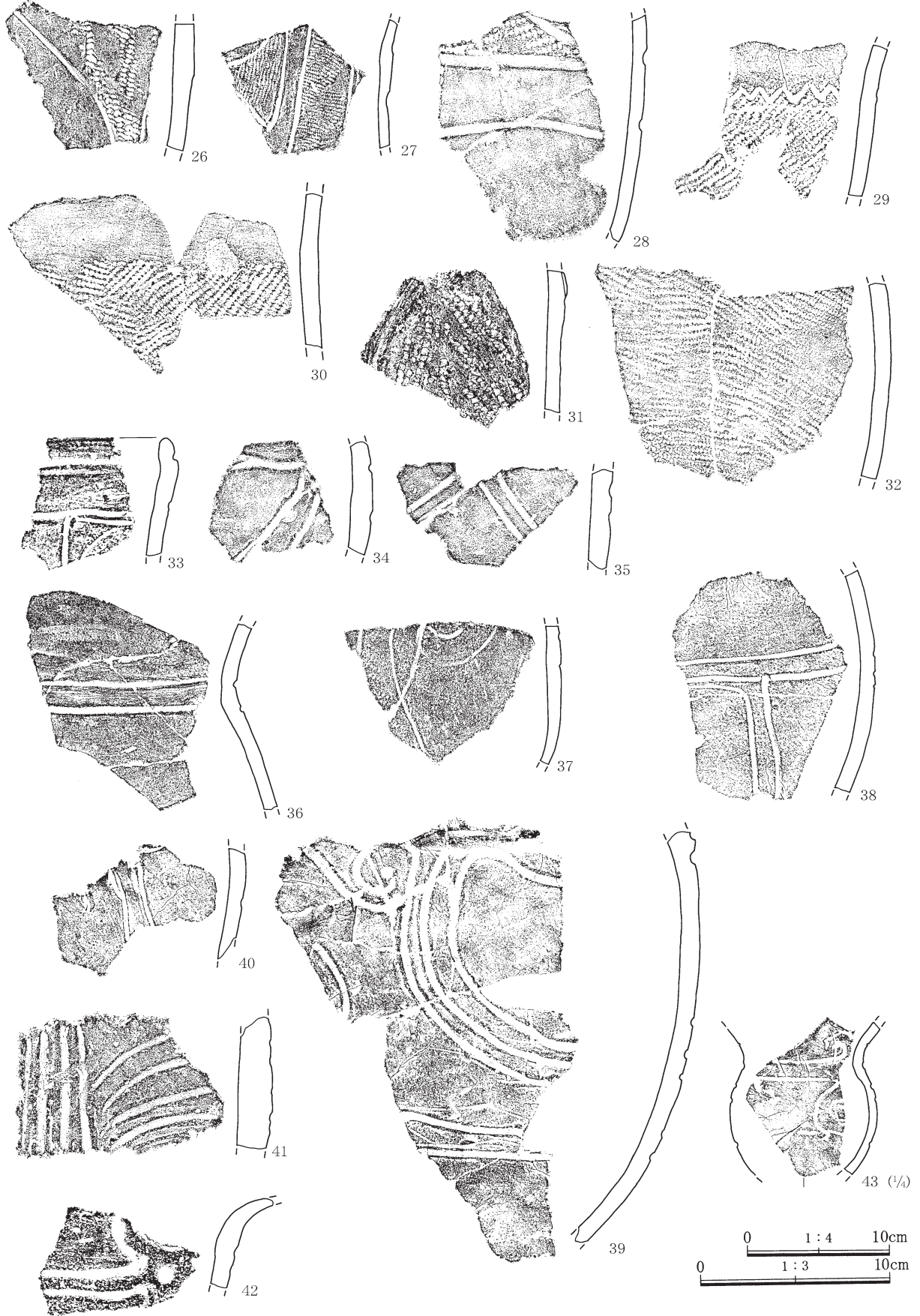
第3章 検出された遺構と遺物





第119図 5-83号住居跡出土遺物(2)

第3章 検出された遺構と遺物

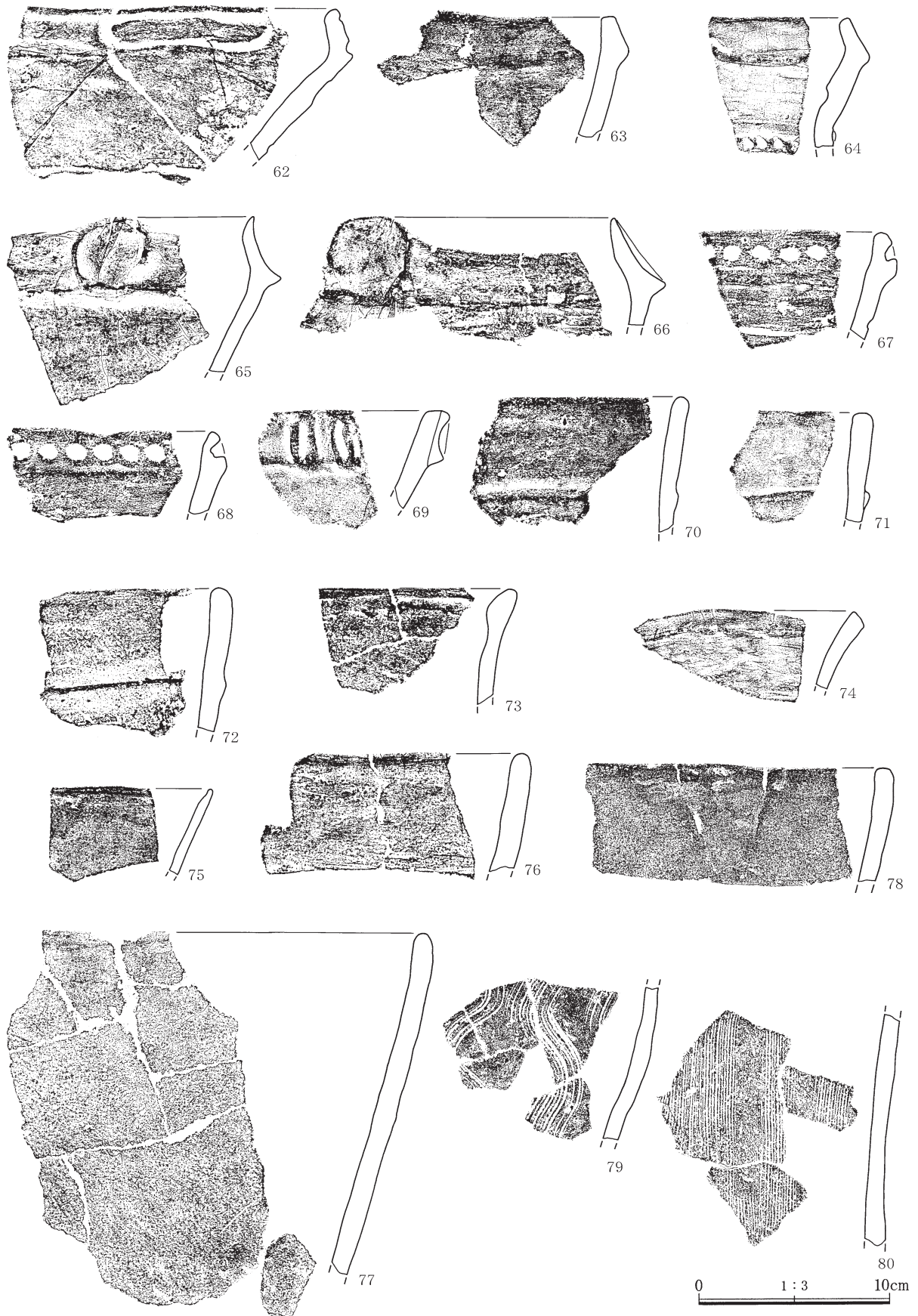


第120図 5-83号住居跡出土遺物(3)

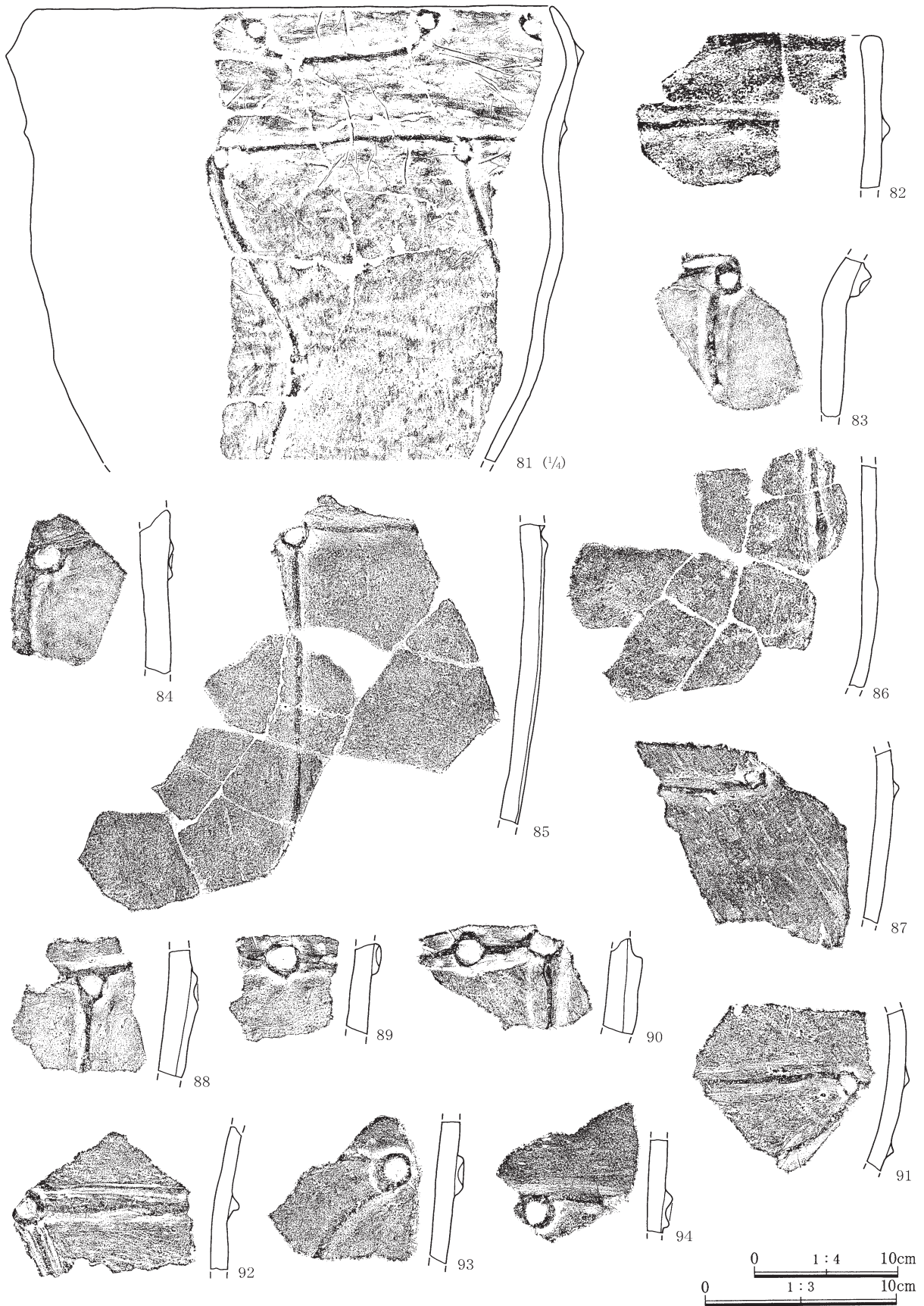


第121図 5-83号住居跡出土遺物(4)

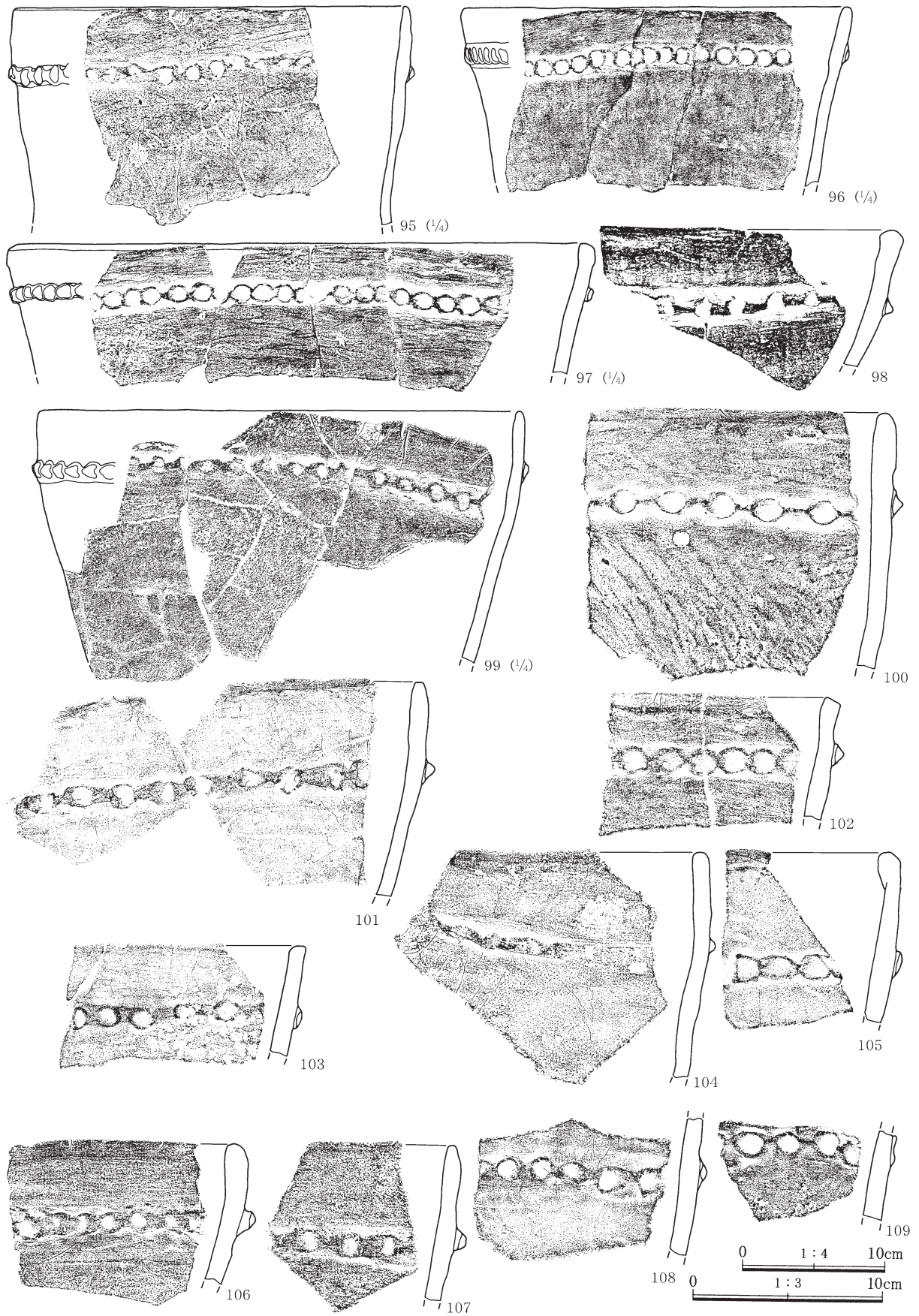
第3章 検出された遺構と遺物



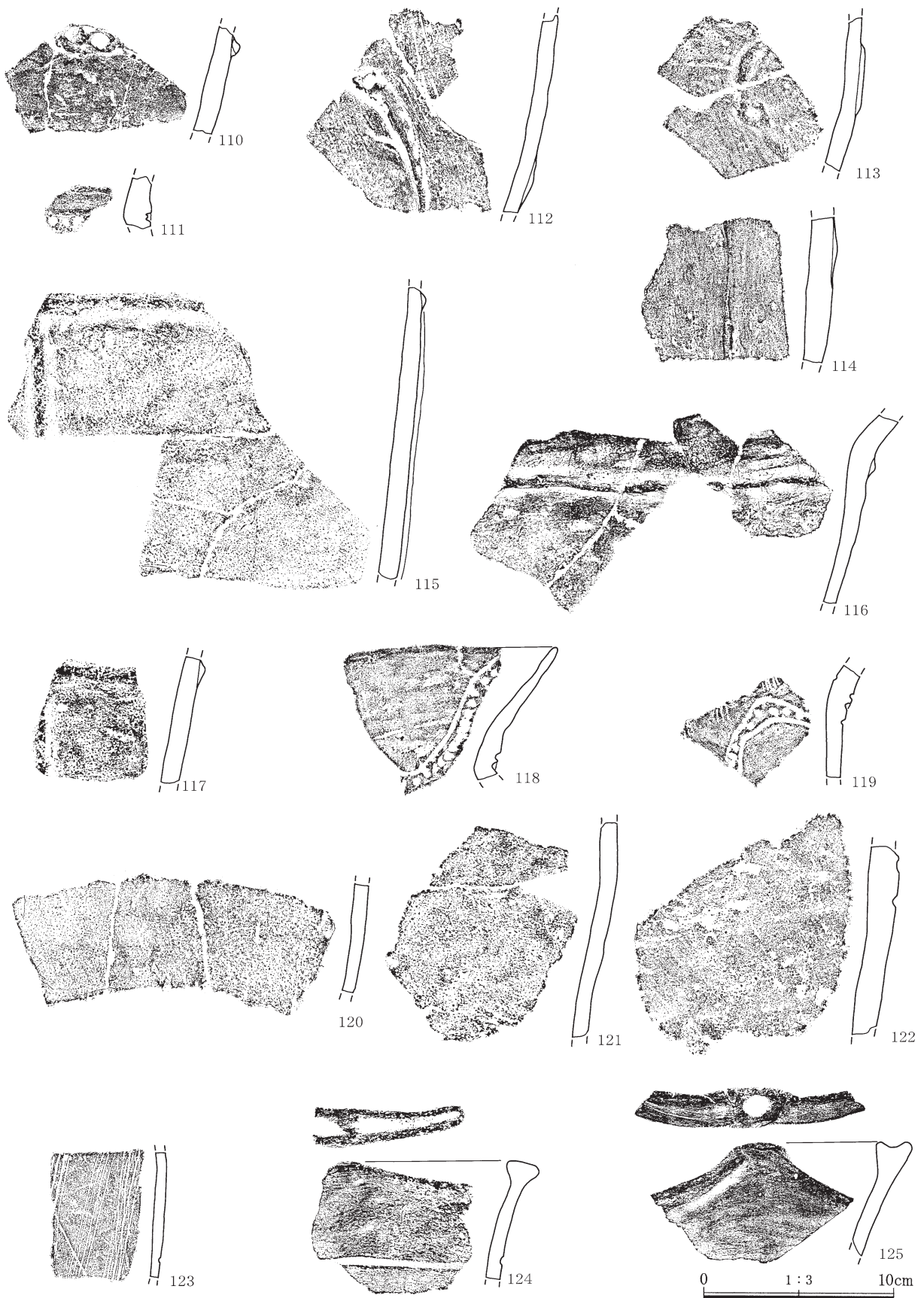
第122図 5-83号住居跡出土遺物(5)



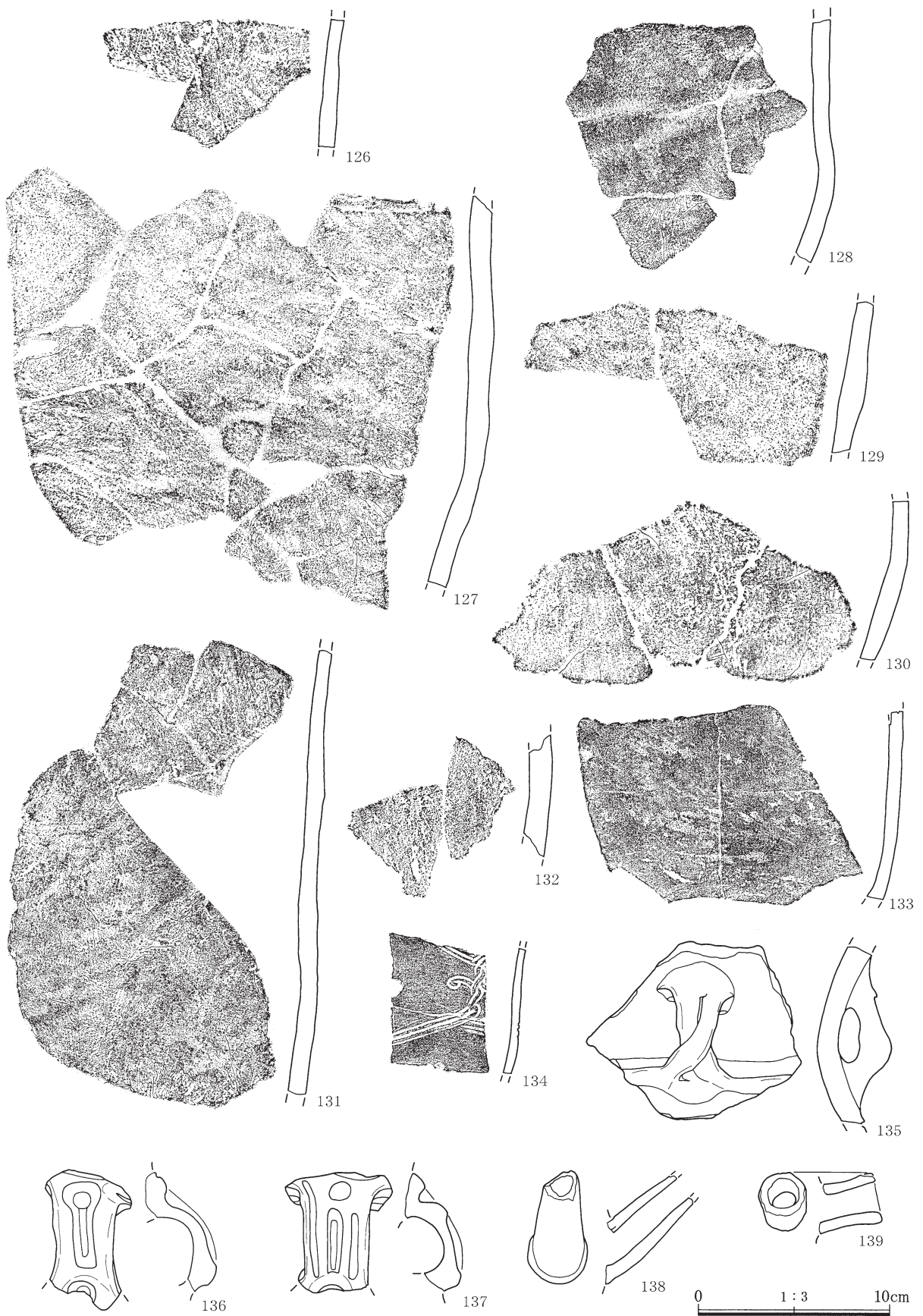
第123図 5-83号住居跡出土遺物(6)



第124図 5-83号住居跡出土遺物(7)



第125図 5-83号住居跡出土遺物(8)



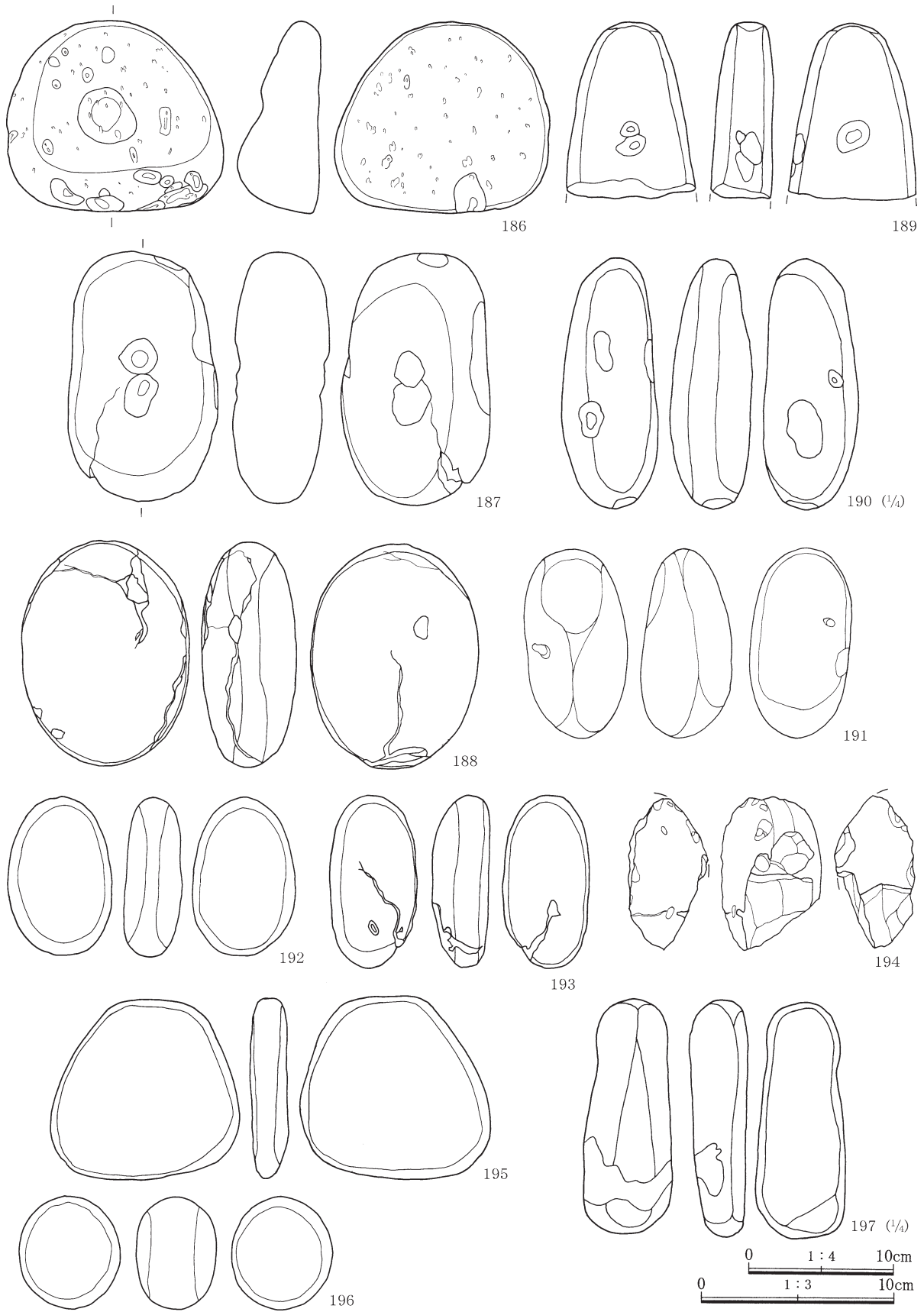
第126図 5-83号住居跡出土遺物(9)



第127図 5-83号住居跡出土遺物(10)

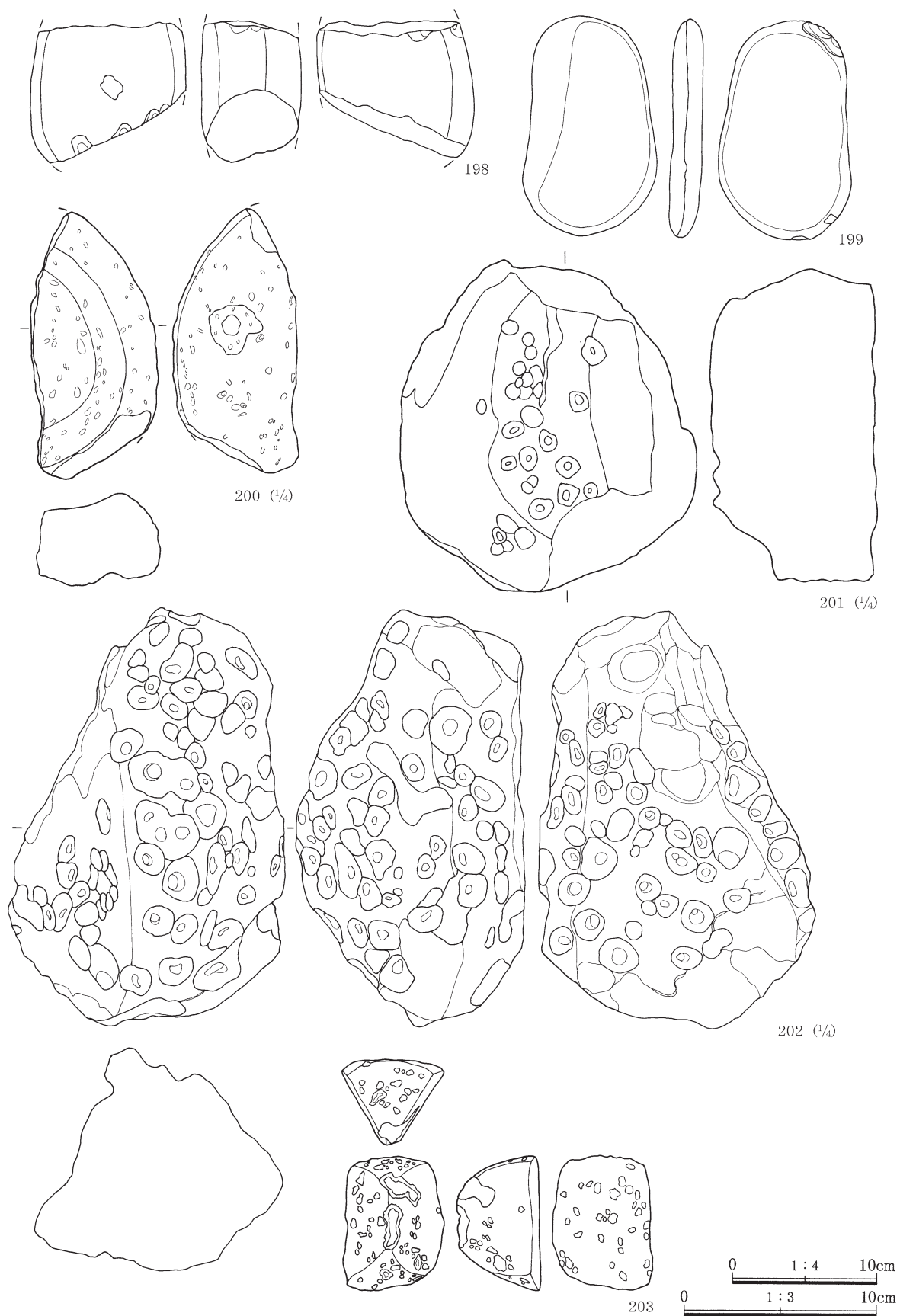


第128図 5-83号住居跡出土遺物(11)



第129図 5-83号住居跡出土遺物(12)

第3章 検出された遺構と遺物



第130図 5-83号住居跡出土遺物(13)

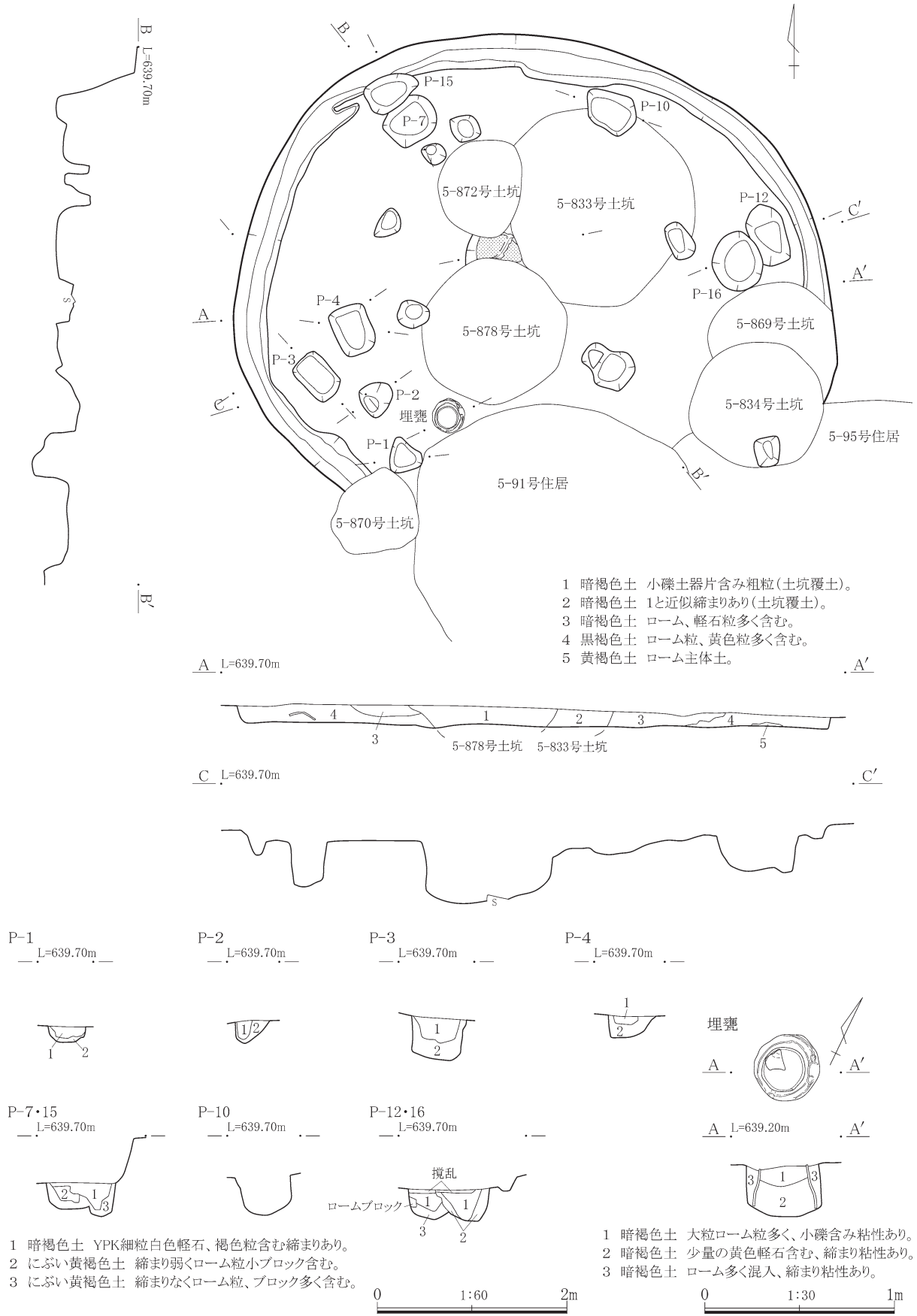
5-84号住居跡 (第131~136図: PL22・139・140)

位置 N・O-18・19グリッドに位置する。 **重複** 南に5-91・95号住居跡が重複し本址を切る。
 また、住居内には5-833・834・872・878・969号土坑が重複している。 **形状** 円形であるがやや東西に長い。 **規模** 630×(550)×40cm。 **方位** -
床面 重複により壊されていない部分については比較的平らで締まりも良い。壁に沿って幅約25cmの周溝がほぼ全周する。
炉 ほぼ中央に検出されているが、周囲を土坑により壊され、炉石は部分的にしか見られず、焼土化した炉の下部のみ残存していた。 **柱穴** 壁に沿って6ないしは7本と思われる。
埋甕 住居の南西部に深鉢7が逆位に埋設されていた。 **掘方** 床下土坑等は見られなかった。
出土遺物 遺物は住居の西半分集中して見られ、出土した土器の点数はあまり多くはなかったが、ほぼ完形の深鉢1が床面に押しつぶされた状態で住居の西壁寄りに出土。石器類は石鏃、打製石斧、磨石などが見られた。
時期・所見 南側が他の住居により壊され、また土坑5基が住居内に掘り込まれている。南部分を除く壁の立ち上がりは良好で、壁周溝も明瞭に見られる。時期は出土土器から中期後半、加曾利E3式期である。



第131図 5-84号住居跡(1)

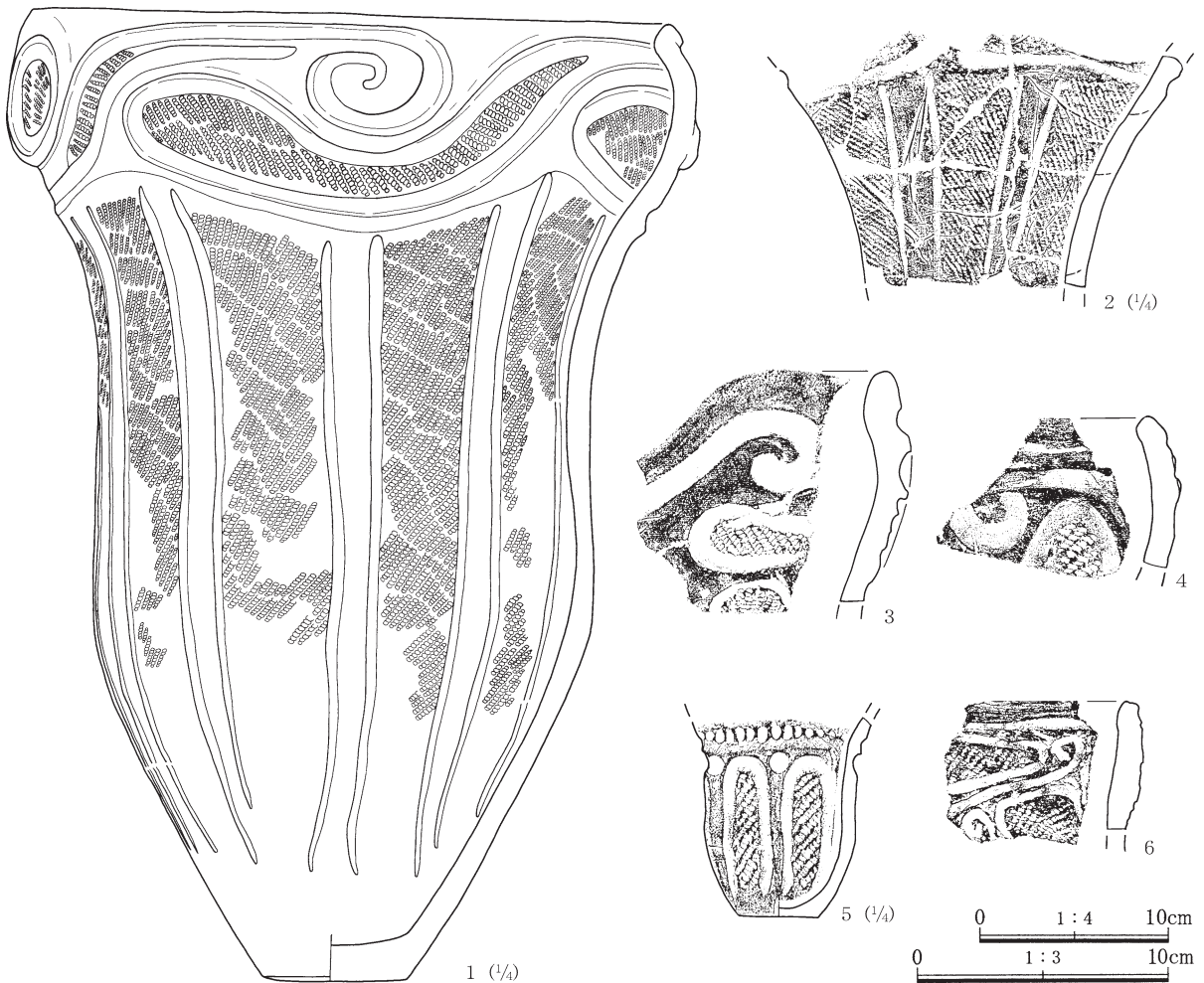
第3章 検出された遺構と遺物



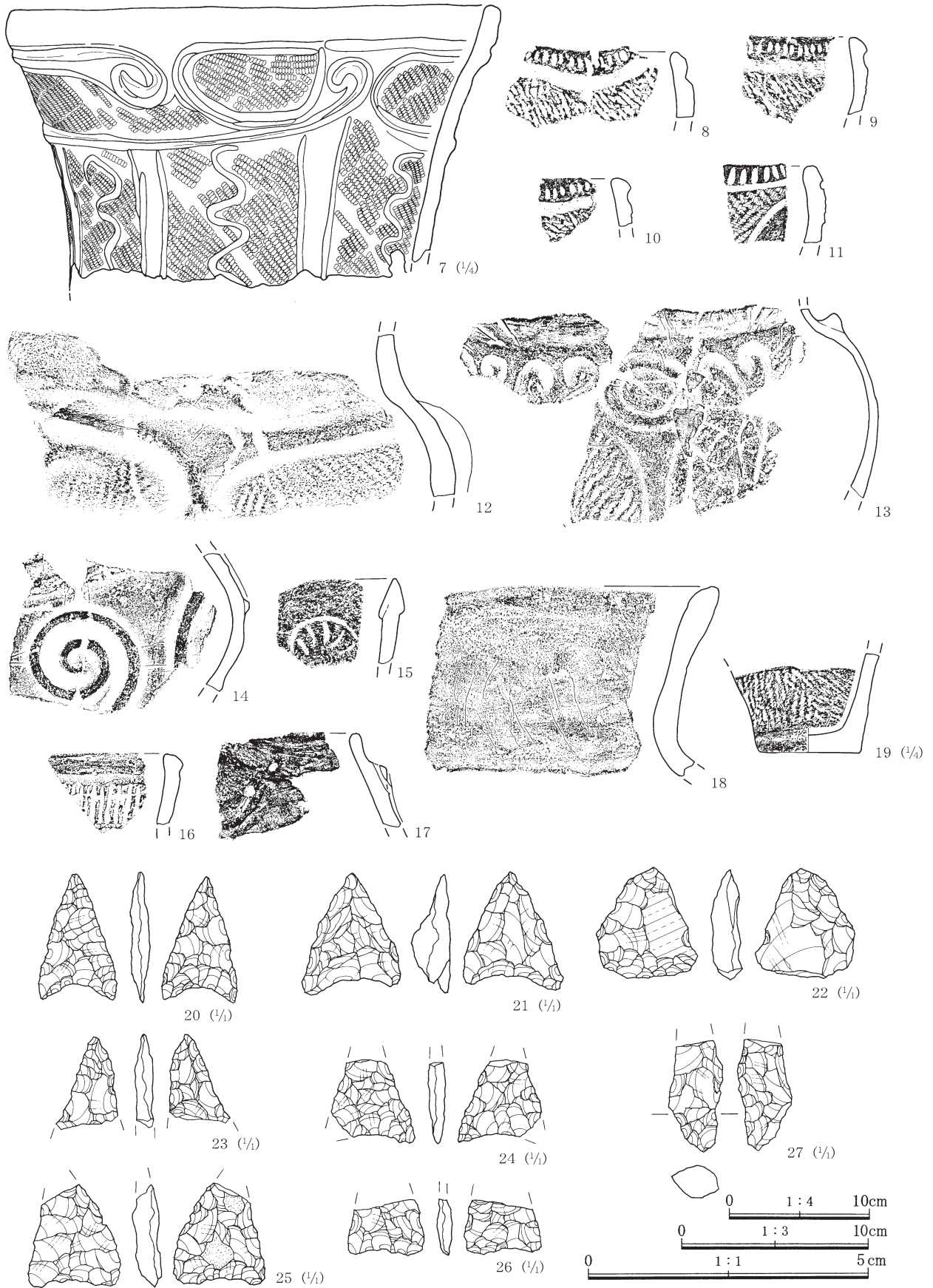
第132図 5-84号住居跡(2)



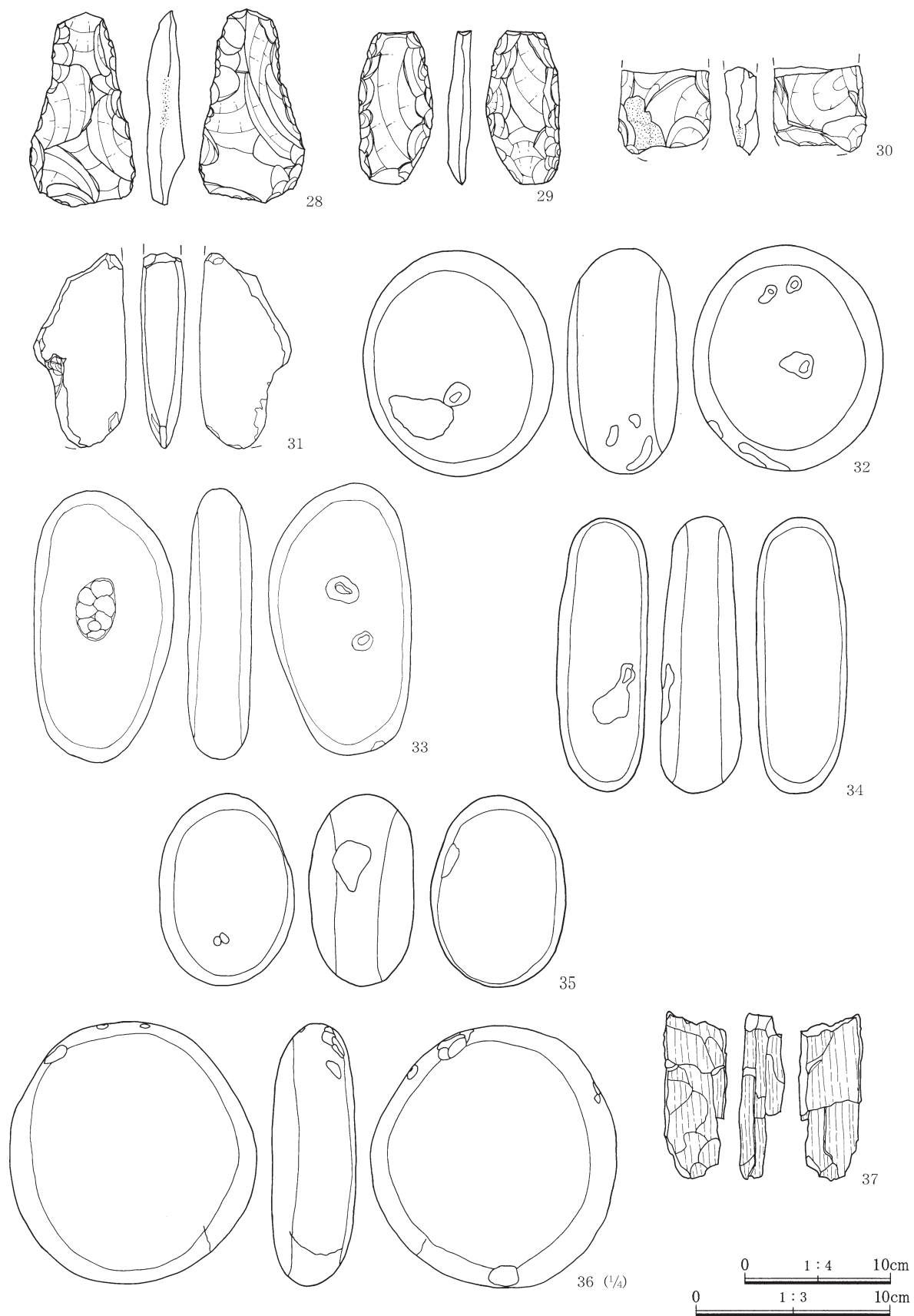
第133図 5-84号住居跡(3)



第134図 5-84号住居跡出土遺物(1)



第135図 5-84号住居跡出土遺物(2)



第136図 5-84号住居跡出土遺物(3)

第3章 検出された遺構と遺物

5-85号住居跡 (第137~140図: PL23・140・141)

位置 O・P-17・18グリッドに位置する。 **重複** 5-116号住居跡の南に重複、南壁中央部は5-840号土坑によって壊される。また、西側部分に幅40cmほどの攪乱溝が南北に走る。

形状 やや隅丸方形を呈す。 **規模** 470×430×35cm。 **方位** N-9°-E

床面 比較的硬く締まったローム地で、やや南が低くなる。周溝がほぼ全周している。

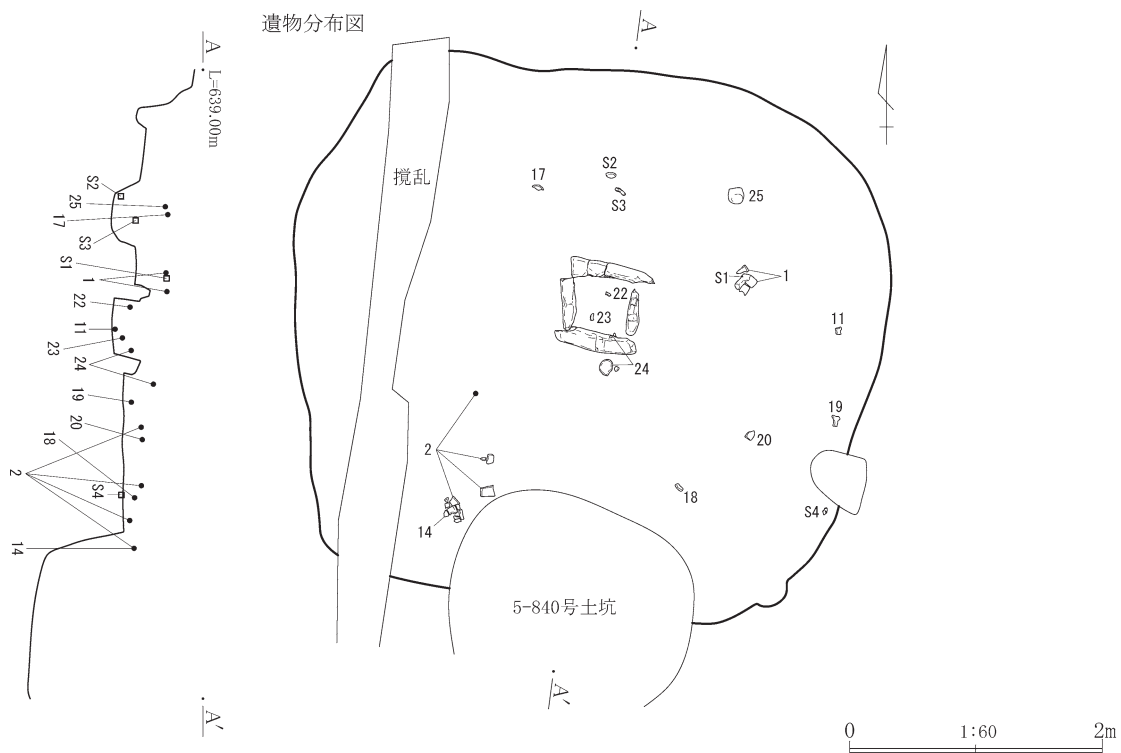
炉 中央やや北に作られている。平石の長辺部を上にし、四角に組んでいる。南北の石がやや長く、一辺約70cmである。

柱穴 ほぼ方形に配置された支柱穴4本を検出した。径約50cm、深さは40~50cmで南側の2本がやや深く掘り込まれている。炉の奥に1本検出したが、掘り込みが浅く補助的なものか。

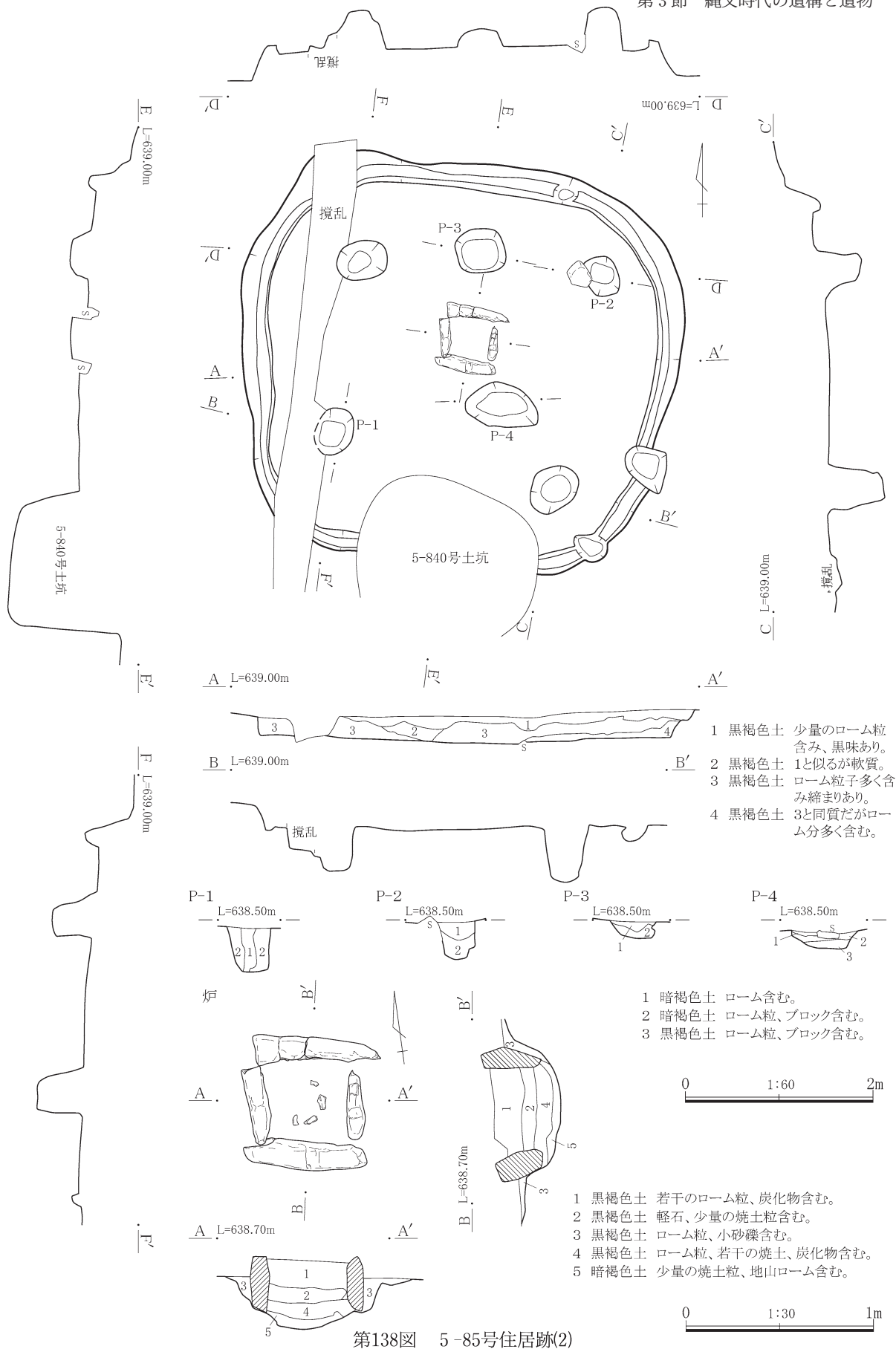
埋甕 検出されなかった。 **掘方** 土坑等の落ち込みなどは見られない。

出土遺物 出土点数は少なかった。土器の小破片と石器も石鏃や打製石斧類も見られず僅かにやや大きな黒曜石片と被熱した磨石のみである。

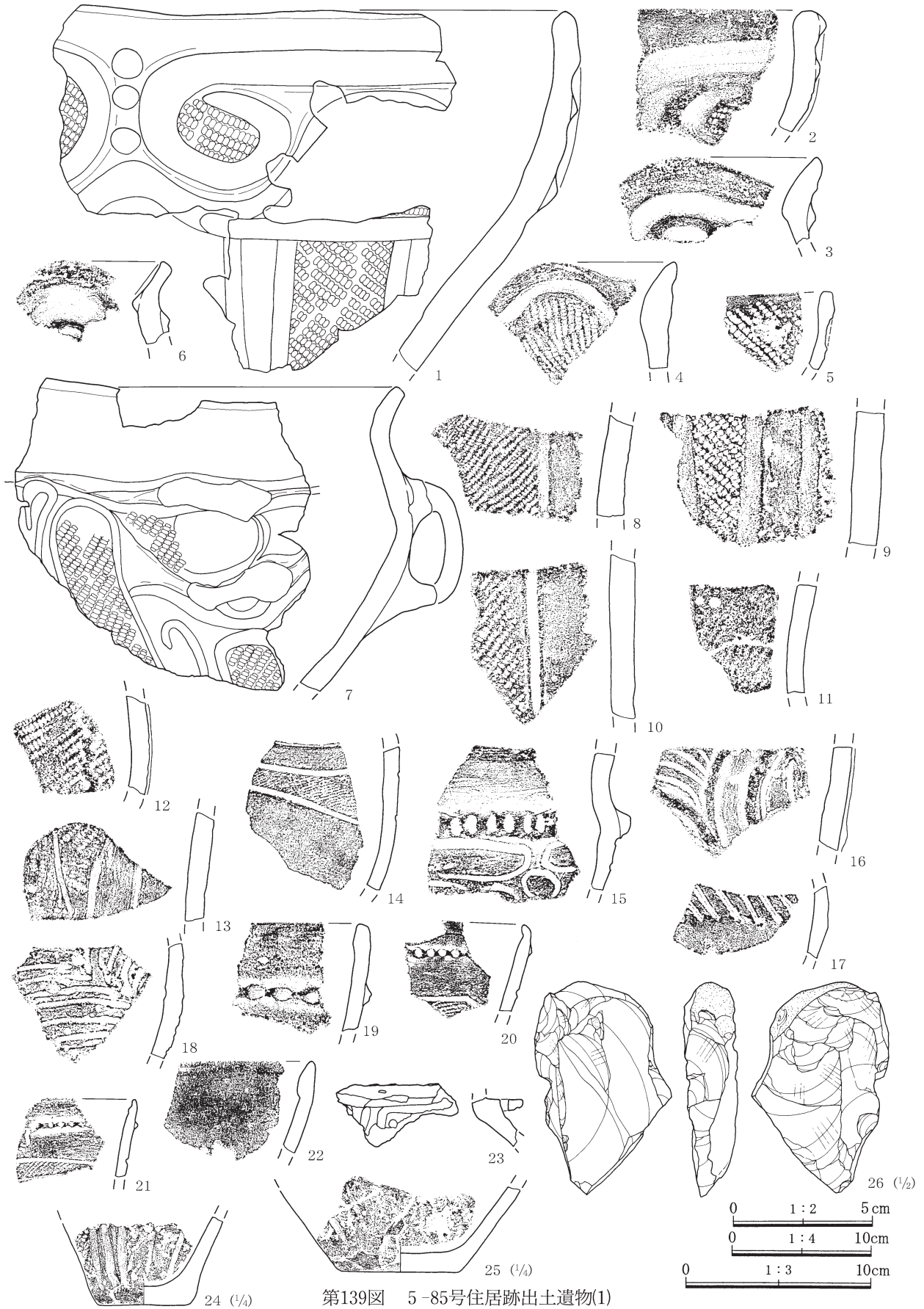
時期・所見 南側に土坑が重複し一部壊されてはいたが、全体に遺存状態は良い。形状がやや隅丸のほぼ方形を呈し、壁の立ち上がりも垂直に近く、しっかりとしていた。5-71号住居跡も本址に近い形状である。時期は出土した土器から中期後半と見られる。また、5-6号掘立柱建物の西側棟持ち柱の推定位置が本址の北東柱穴部に想定される。柱穴の周囲に浅く一回り大きな掘り込みが見られ、掘立柱建物の柱穴と推定された。調査時には礫などが出土している。



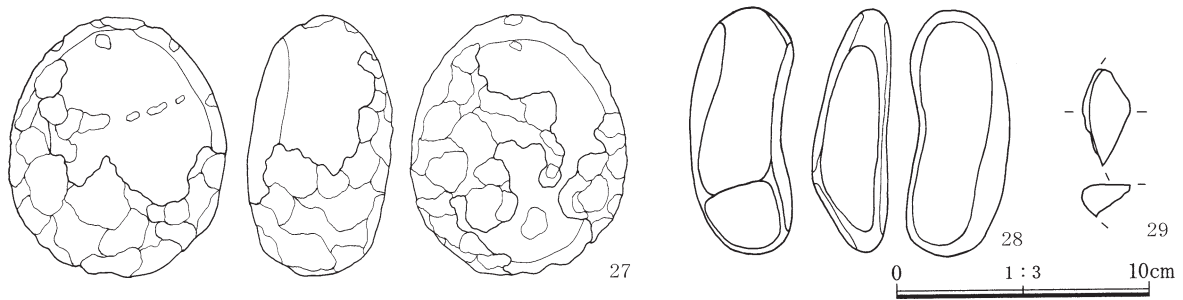
第137図 5-85号住居跡(1)



第138図 5-85号住居跡(2)



第139図 5-85号住居跡出土遺物(1)



第140図 5-85号住居跡出土遺物(2)

5-86号住居跡 (第141・142図：PL23・141)

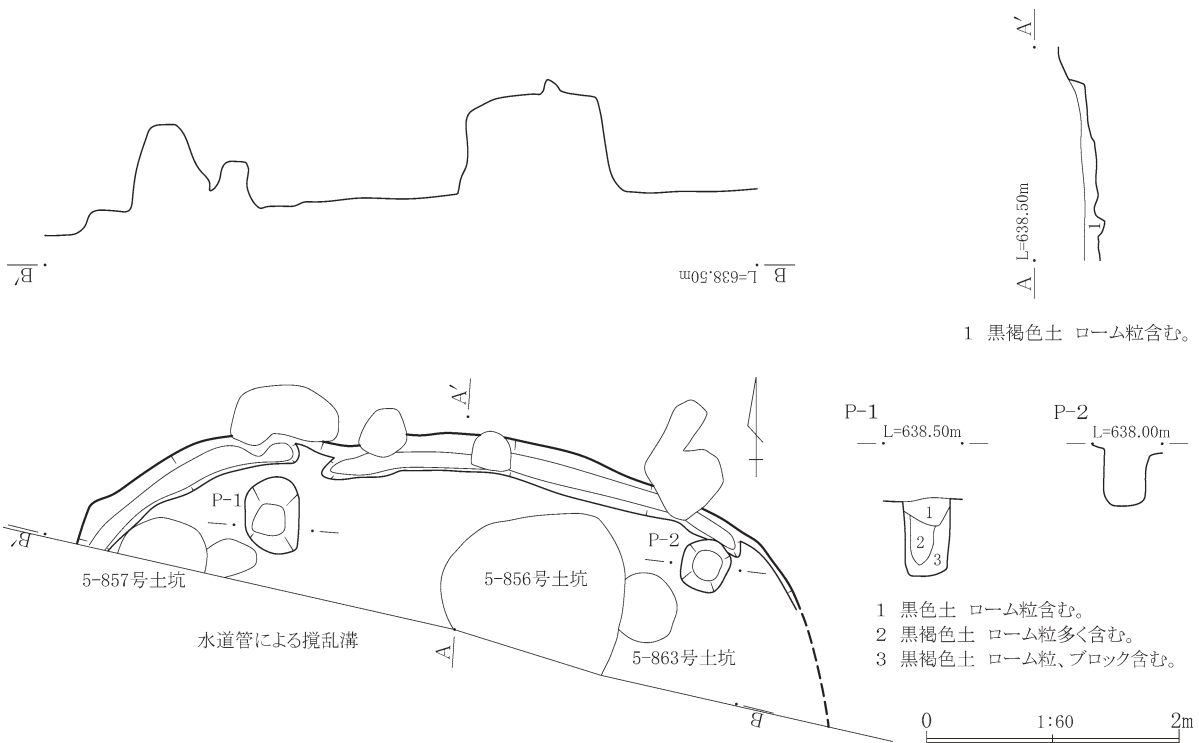
位置 N・O-16・17グリッドに位置する。**重複** 住居の中央部分を東西に横断する水道管敷設溝によって大きく壊されており、南東部は5-83号住居跡によって切られる。敷設溝の南側はかなり削平されており残りは悪い。**形状** 円形を呈すと見られる。**規模** (460)×(460)×20cm。**方位** —

床面 僅かに確認できた北部分において確認されたが、土坑等の重複もあり、凹凸が顕著である。壁周溝が検出されている。**炉** 中央を横断する水道管敷設溝中にあると思われ、確認されなかった。

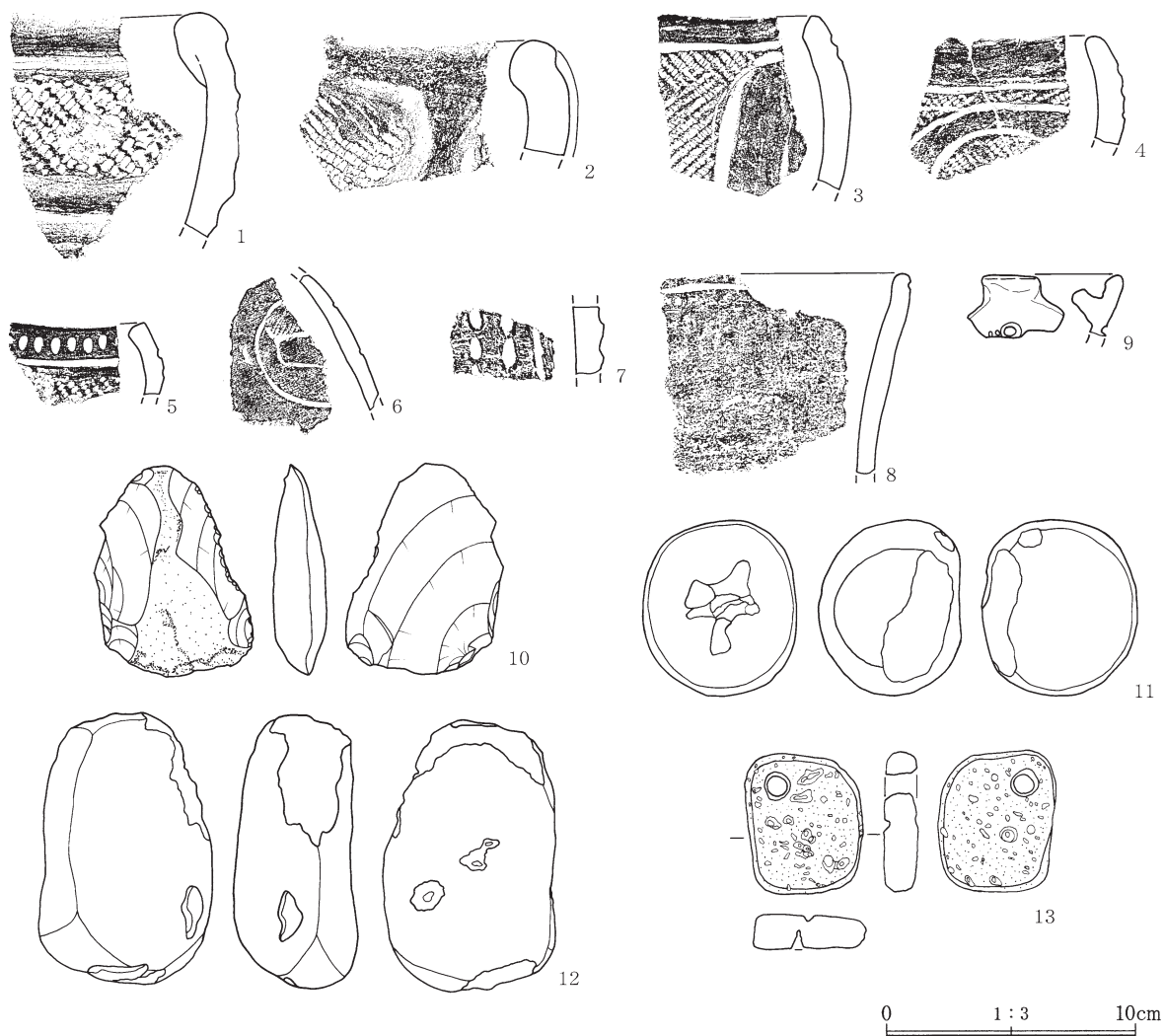
柱穴 北側壁際に2本を確認した。**埋甕** 確認されない。**掘方** 南部分において大小のピットが検出されている。

出土遺物 部分的な調査のため少ない。若干の土器、石器が出土。13は軽石製品である。板状の方形で隅に円孔を有す。

時期・所見 後世の掘り込みや削平によってかなり遺存状態が悪い。5-856・857号土坑が重複する。検出したのは北側の一部分のみである。水道管敷設溝の南側に付いても掘り込みなどは確認できなかった。時期は中期後半か。



第141図 5-86号住居跡



第142図 5-86号住居跡出土遺物

5-87号住居跡 (第143~146図: PL24・141)

位置 K・L-16・17グリッドに位置する。 **重複** 北西部分に5-88号住居跡が重複する。また、南には5-817号土坑があり一部が壊されている。 **形状** 隅丸の矩形を呈す。 **規模** 450×(450)×50cm。

方位 N-23°-W

床面 北側が5-88号住居跡によって削平されているが、他の部分については比較的平坦で、締まりもある。幅20cm程の周溝がほぼ全周している。

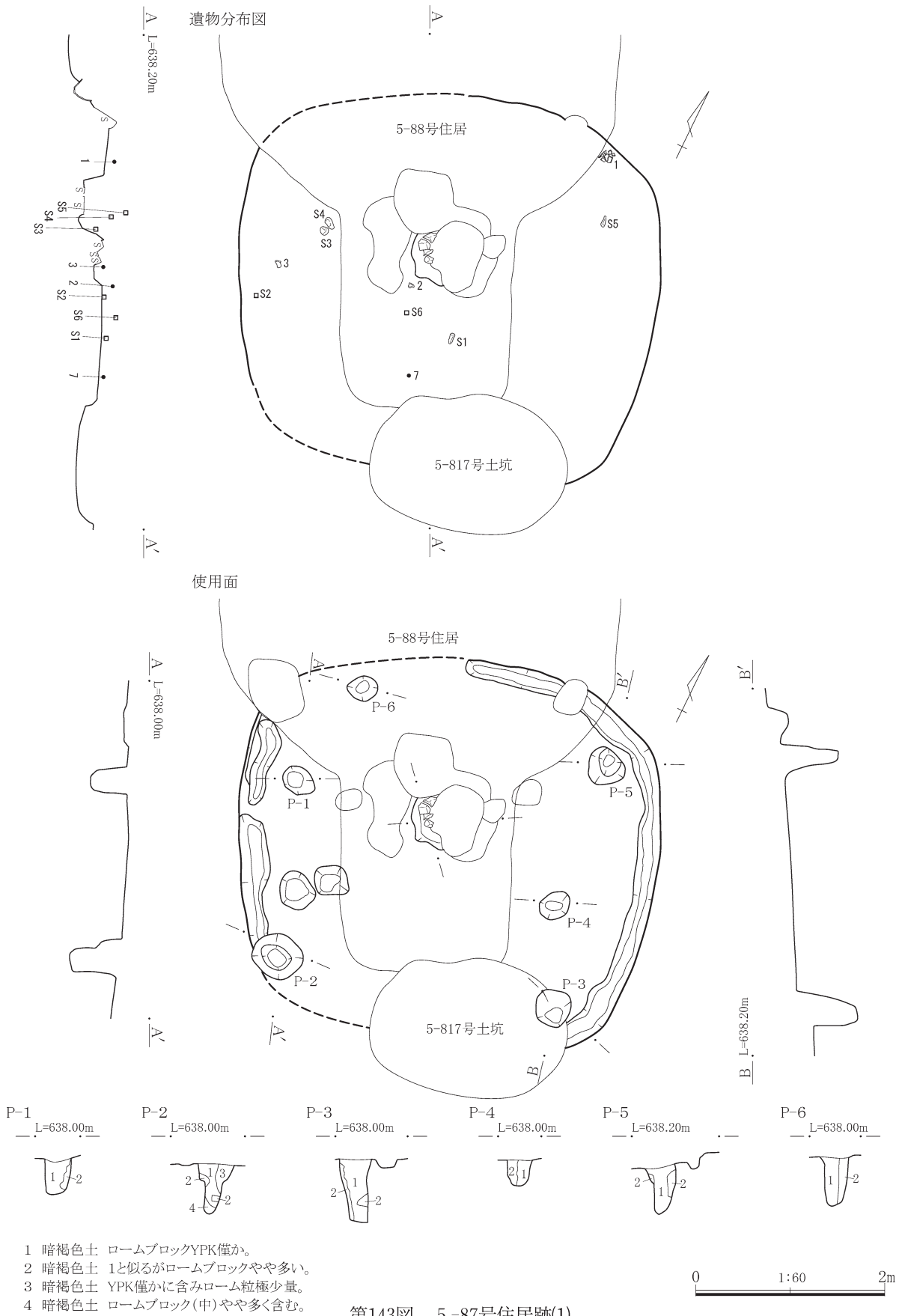
炉 住居の中央に作られているが、5-88号住居跡の入り口部の柱穴により大きく壊されていた。炉石と思われる数点の礫と焼土面が僅かに確認されている。

柱穴 隅に掘り込まれた4本と考えられる。径40~50cmで深さはおよそ60cmである。

埋甕 検出されなかった。 **掘方** 床下土坑等は見られない。

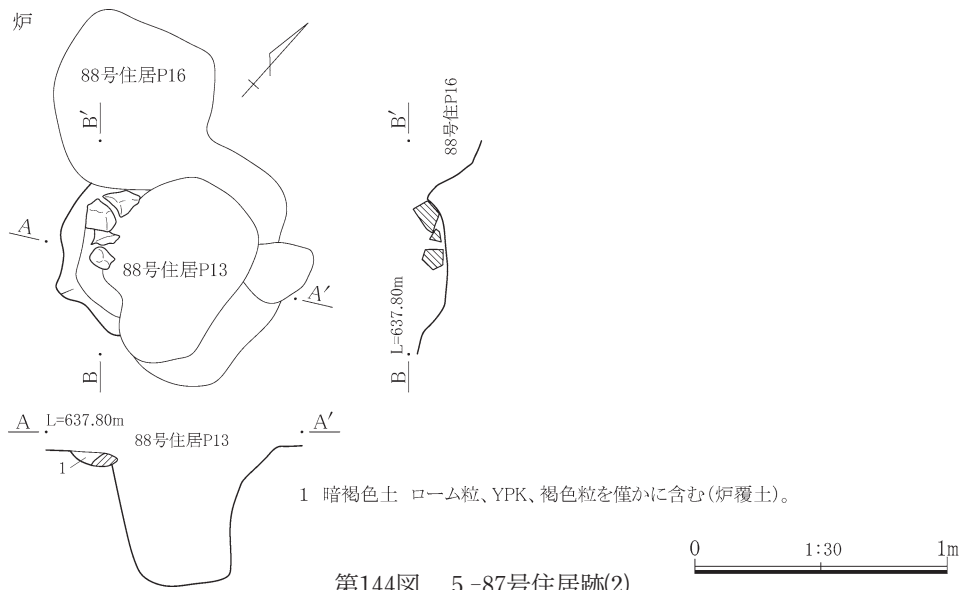
出土遺物 少なかった。若干の土器片と石鏃、磨石類である。

時期・所見 5-88号住居跡が北側から中央部分にかけて重なった状況で、炉もかなり壊れた状況であった。東西の立ち上がり部分は比較的残っており、周溝、壁の立ち上がりが検出されている。時期は中期後半。

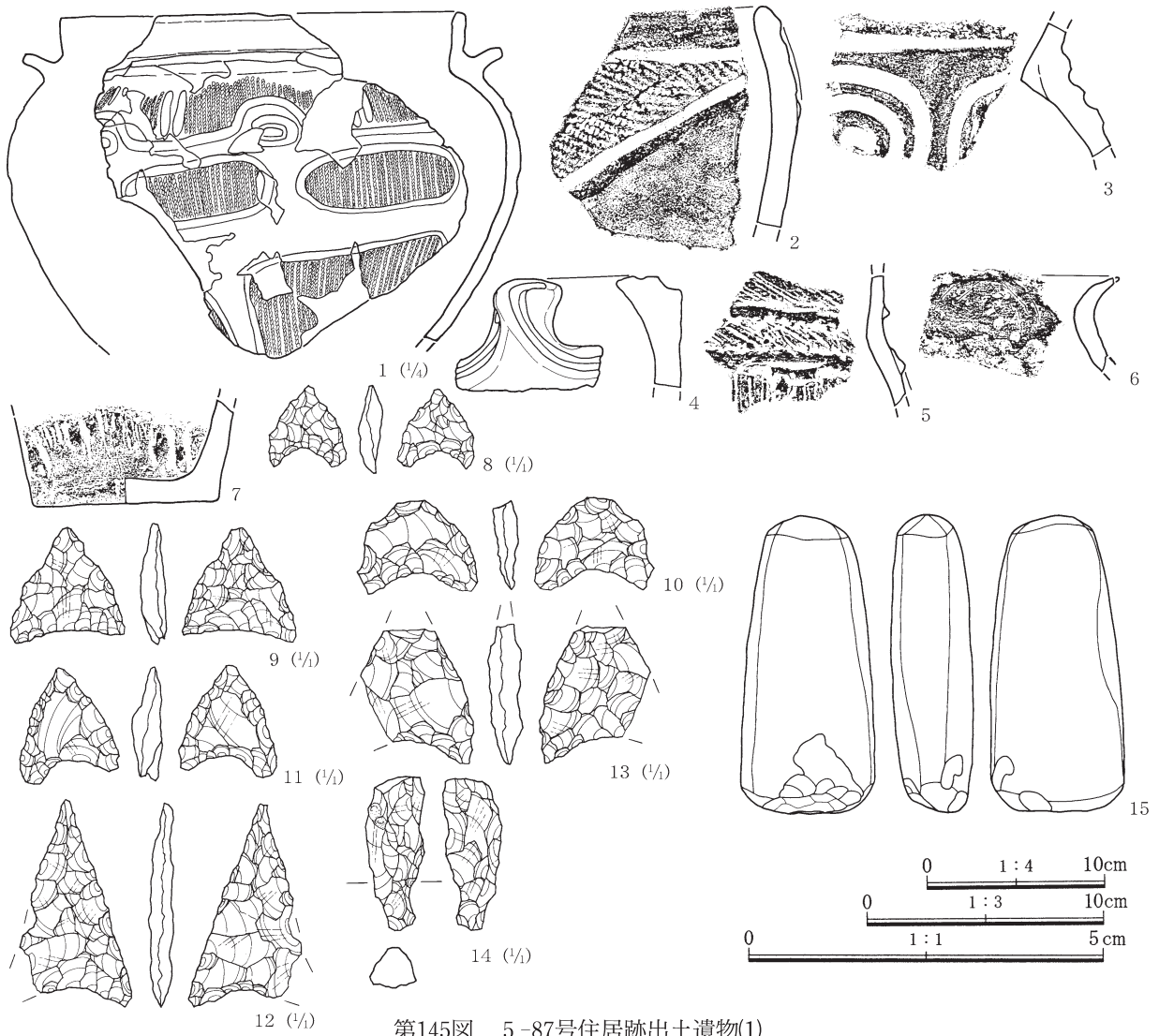


第143図 5-87号住居跡(1)

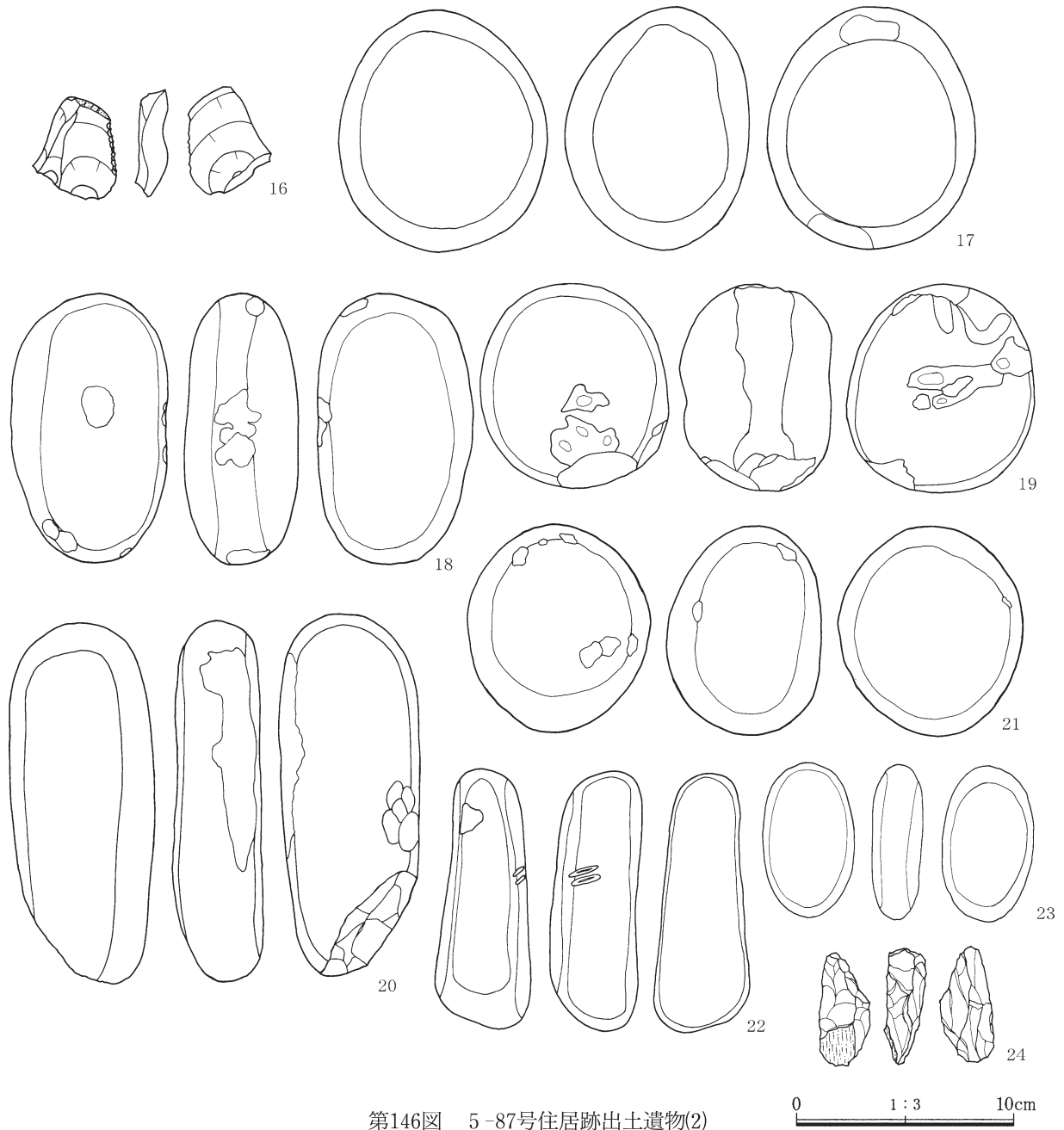
第3章 検出された遺構と遺物



第144図 5-87号住居跡(2)



第145図 5-87号住居跡出土遺物(1)



第146図 5-87号住居跡出土遺物(2)

5-88号住居跡 (第147~153図: PL25・26・141・142)

位置 L・M-17・18グリッドに位置する。 **重複** 北壁部には5-868号土坑が、西壁部分には5-859号土坑が重複する。南側のかなりの部分が5-87号住居跡の上に重複して作られている。

形状 5-87号住居跡と重複していた為に形状は確定できなかったが、柄鏡形の敷石住居と見られる。

規模 (600)×430×53cm。 **方位** N-27°-W

床面 主体部、張り出し部ともに明確な敷石はほとんど確認できなかったが、炉の周囲および張り出し部には扁平な礫が点在していた。床面は平坦でしっかりとしていた。

炉 主体部ほぼ中央に作られていた。手前にやや扁平な石を置き、左右に礫を横向きに据えた方形の石囲い炉であるが、北側に重複して土坑が掘り込まれ、炉石を含め一部が壊されていた。南側の炉石には平らな石

第3章 検出された遺構と遺物

が据えられており、南西角には石棒がやや頭を北側に傾けた状態で立てられていた。炉の中には深鉢の胴下部1が炉体土器として据えられていた。炉体土器の周辺および炉内壁には焼土層が確認されている。

柱穴 壁に沿って円く掘り込まれた8本と、接合部両脇の2本の計10本と考えられる。炉の左右に各1本ずつの掘り込みがあるがいずれもやや浅く、補助的なものか。 **埋甕** 検出されなかった。

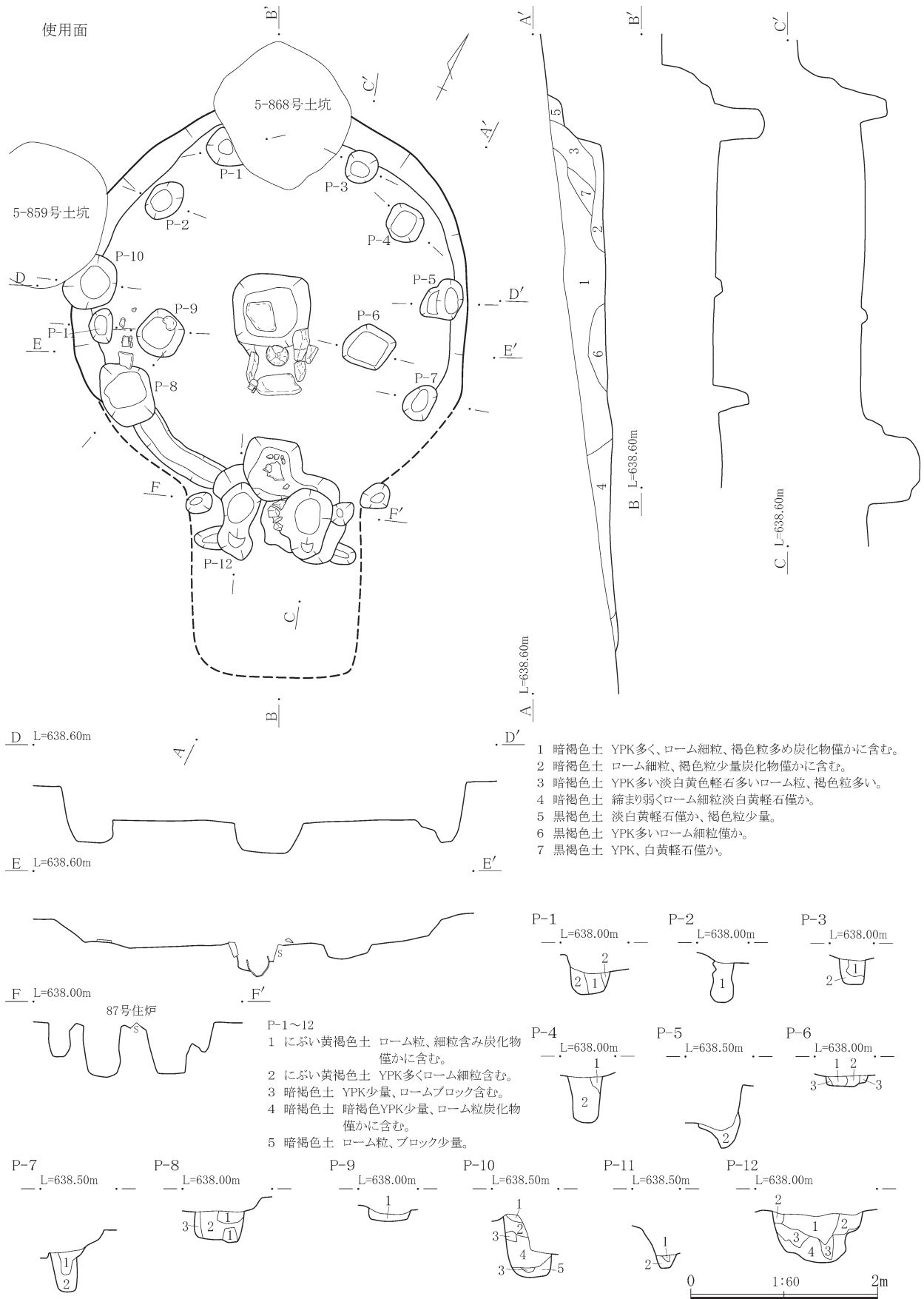
掘方 主体部と張り出し部接合部にいわゆる対ピットが検出されている。これらの北に接するP16については一辺約60cm、深さ約25cmで底に平らな石が敷かれた状態で出土していることからいわゆる箱形石組み遺構と判断される。炉の北側に不定型な掘方を持った土坑が検出され、底には数個の礫が見られた。住居よりは古いと思われるが性格は不明である。

出土遺物 あまり多くはなかったが、注目される遺物としては蓋型土器がある。石器類は石棒47の他に若干の打製石斧、磨石、多孔石が見られる。磨石類については、ほとんどが被熱しており注目される。

時期・所見 柄鏡形の敷石住居である。張り出し部が他の住居内上に作られていたために、形状については確定できなかった。炉に緑泥片岩製の石棒が据えらる。時期は炉体土器から堀之内1式期と判断される。

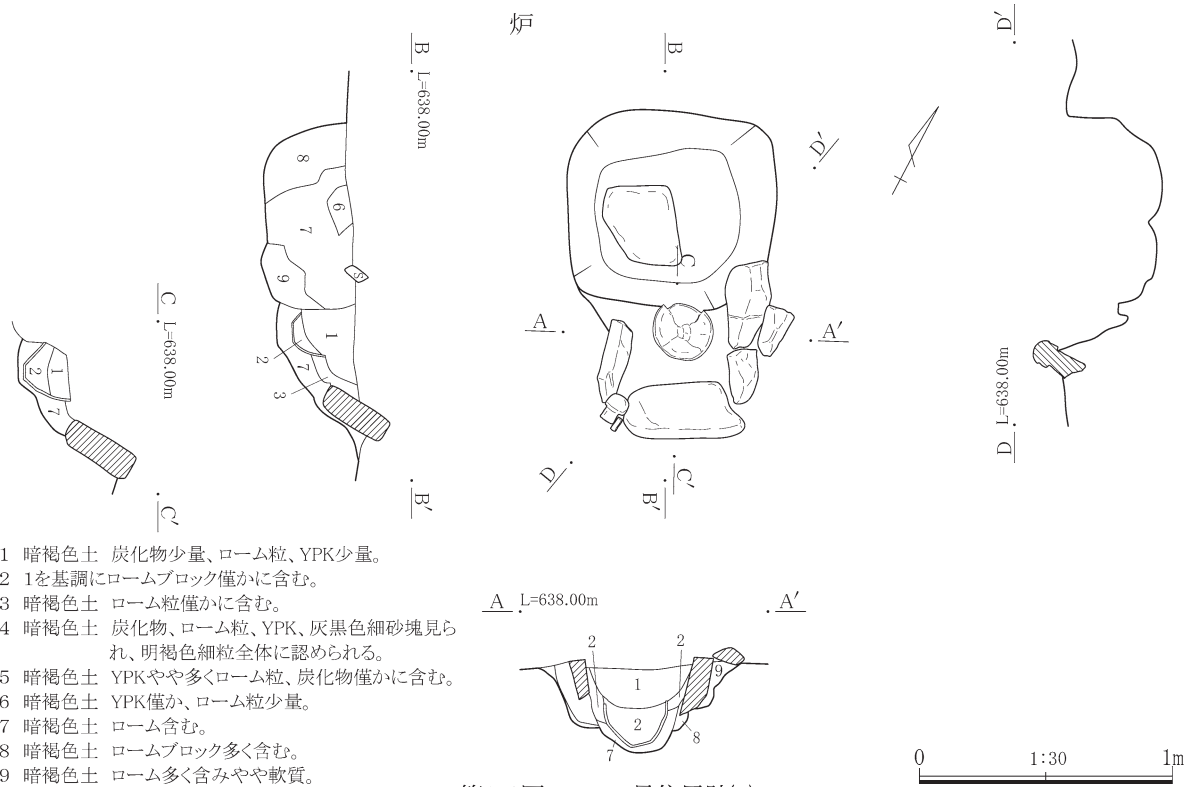


第147図 5-88号住居跡(1)



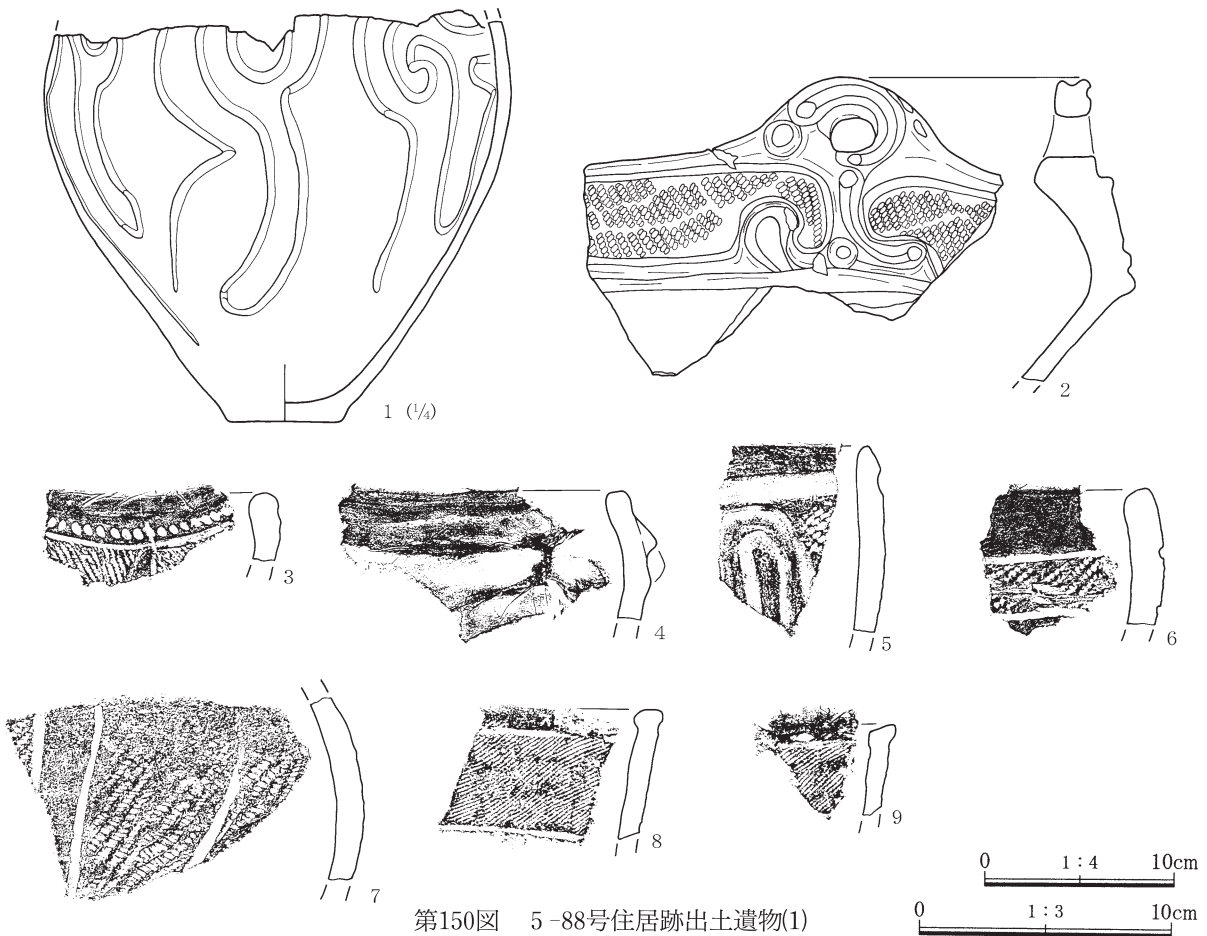
第148図 5-88号住居跡(2)

第3章 検出された遺構と遺物

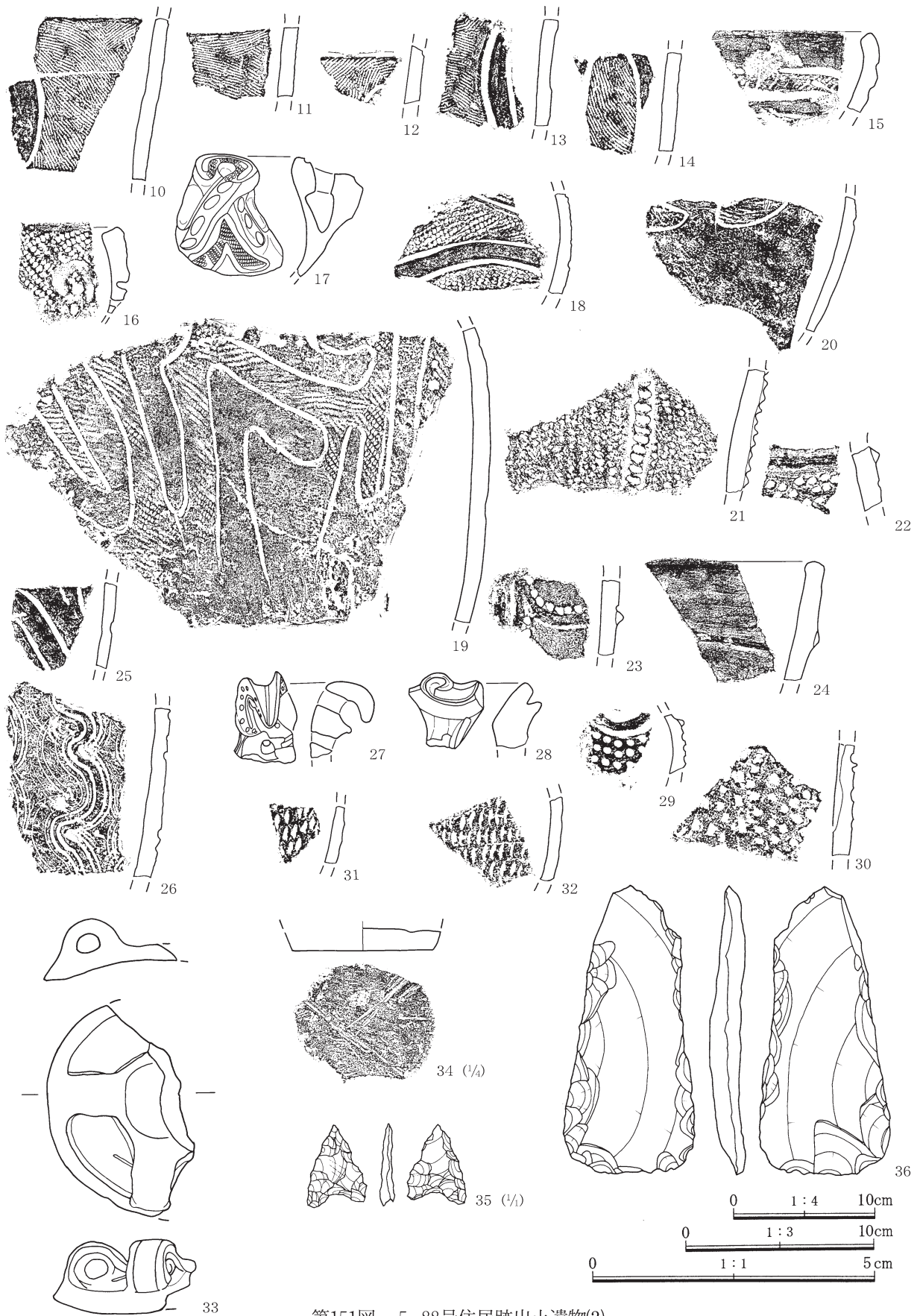


- 1 暗褐色土 炭化物少量、ローム粒、YPK少量。
- 2 1を基調にロームブロック僅かに含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒僅かに含む。
- 4 暗褐色土 炭化物、ローム粒、YPK、灰黒色細砂塊見られ、明褐色細粒全体に認められる。
- 5 暗褐色土 YPKやや多くローム粒、炭化物僅かに含む。
- 6 暗褐色土 YPK僅か、ローム粒少量。
- 7 暗褐色土 ローム含む。
- 8 暗褐色土 ロームブロック多く含む。
- 9 暗褐色土 ローム多く含みやや軟質。

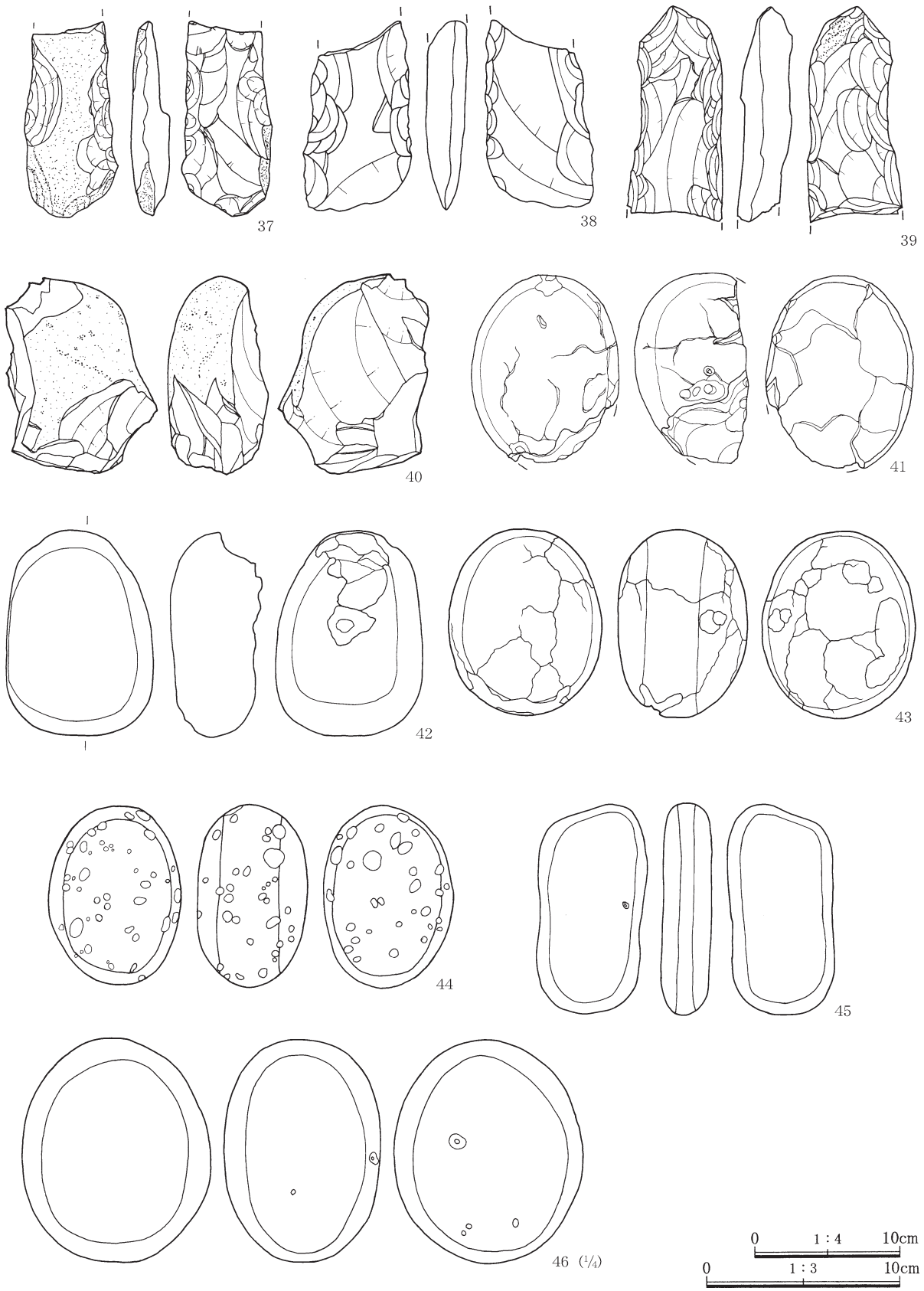
第149図 5-88号住居跡(3)



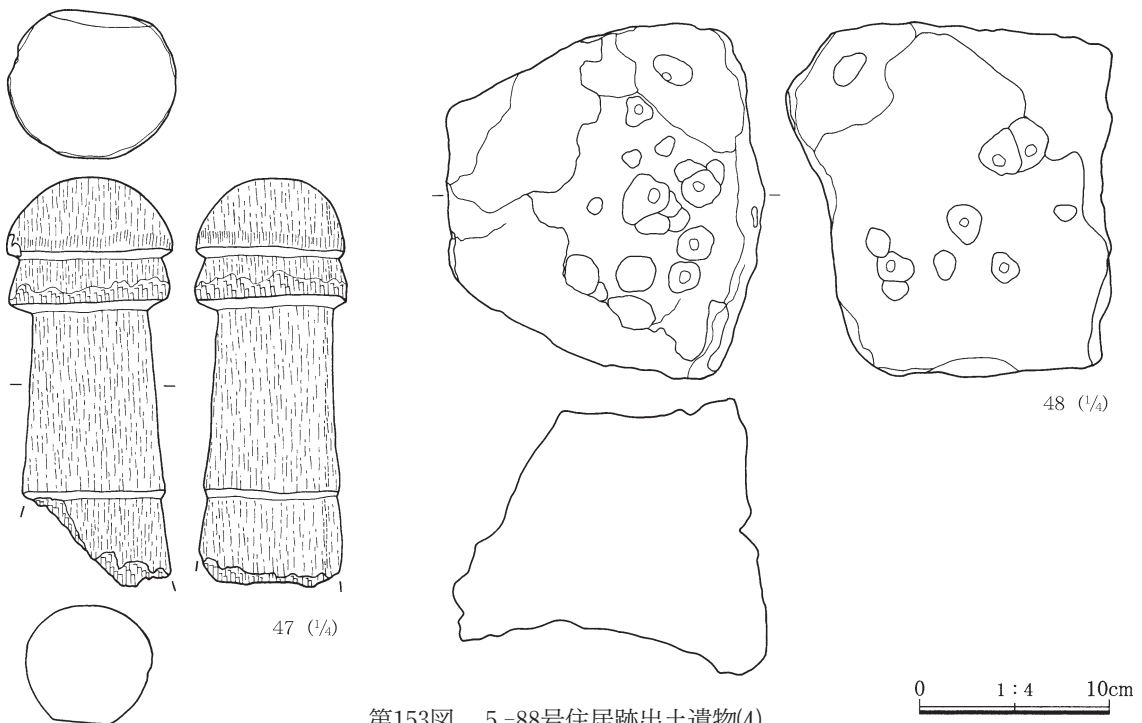
第150図 5-88号住居跡出土遺物(1)



第151図 5-88号住居跡出土遺物(2)



第152図 5-88号住居跡出土遺物(3)



第153図 5-88号住居跡出土遺物(4)

5-89号住居跡 (第154・155図：PL26・142・143)

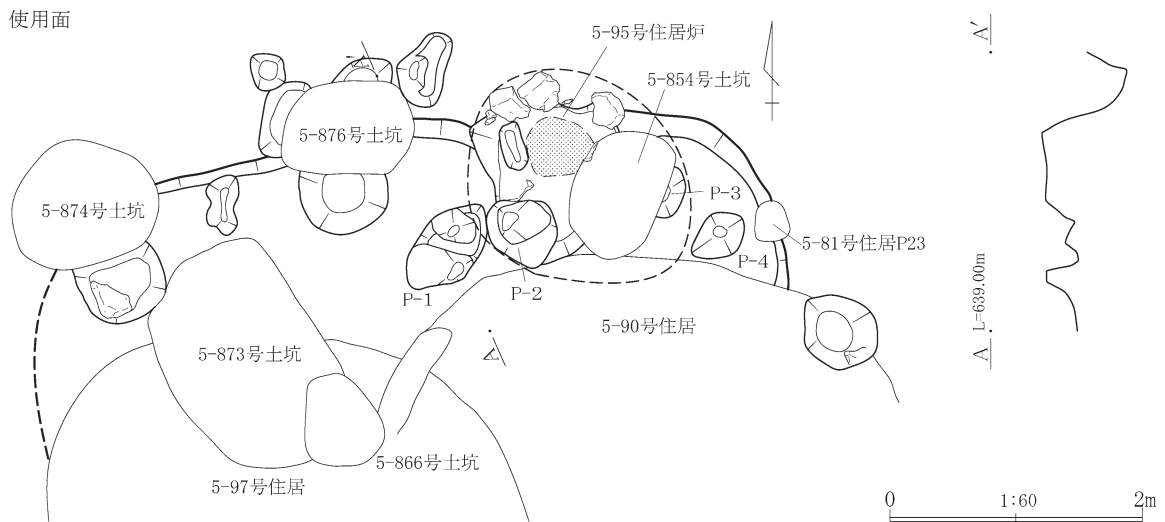
位置 M・N-17・18グリッドに位置する。 **重複** 北側部分に重なって5-95号住居跡、南側は5-90・97号住居跡が重複し削平されており、さらに南側は5-86号住居跡によって切られている。

形状 検出した北側の掘り込みラインはやや直線的であるが、おそらく円形を呈すものと考えられる。

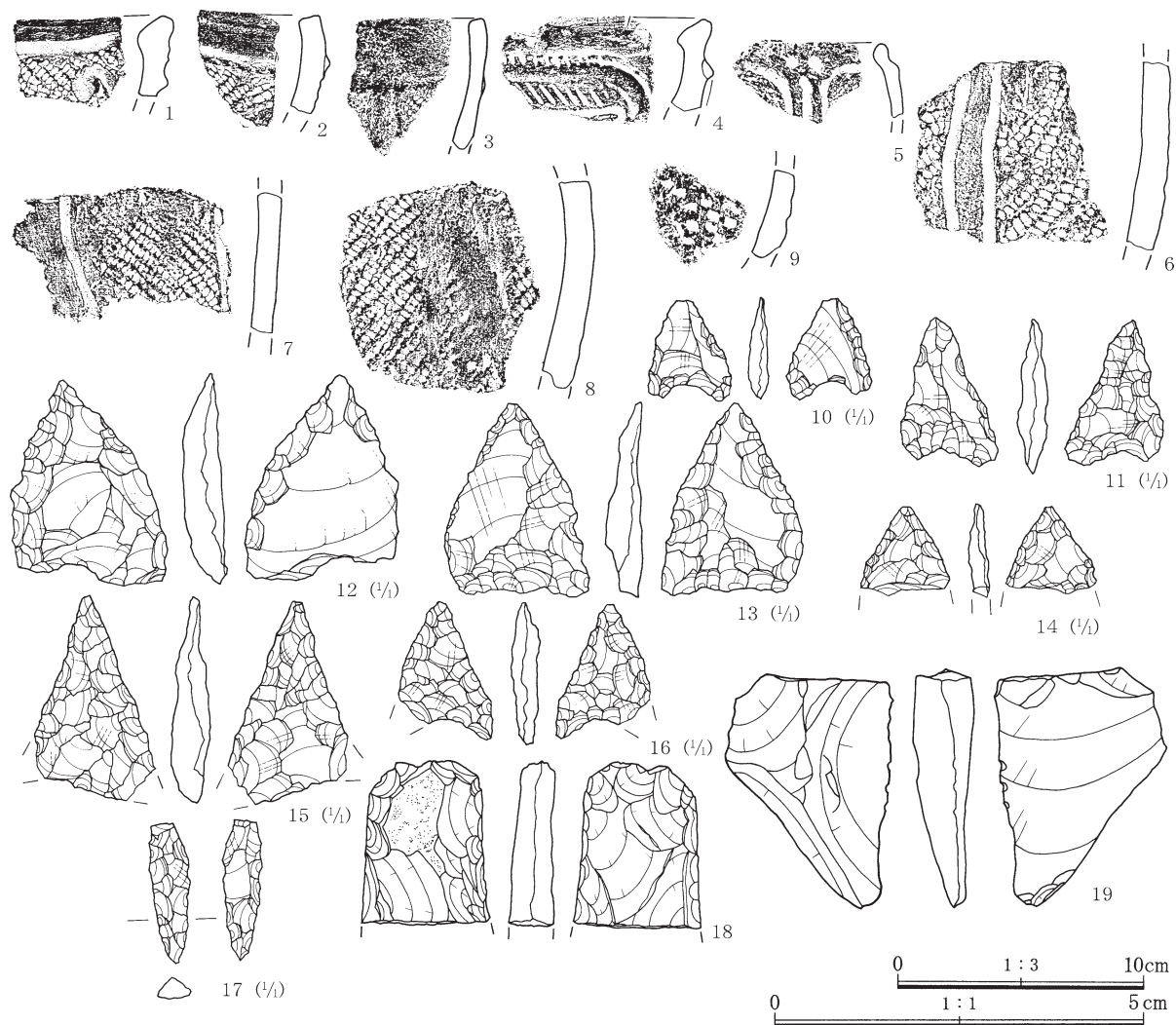
規模 推定径660cm。 **方位** — **床面** 大部分は他の住居によって削られている。僅かに残存する北側では比較的平らでやや硬化した部分も認められた。 **炉** 検出されなかった。 **柱穴** 北壁際に3本を検出、他は推定ラインの内側に沿って3本を認定した。 **埋甕** 検出されなかった。

掘方 床面下の土坑等は見られなかった。 **出土遺物** 本址に帰属すると判断されたものは少なかった。

時期・所見 複数の住居によって削平された部分が多く、全容は明確にできなかった。時期は中期後半か。



第154図 5-89号住居跡



第155図 5-89号住居跡出土遺物

5-90号住居跡 (第156~159図: PL26・143)

位置 M・N-17グリッドに位置する。 **重複** 西側で5-97号住居跡と重複しこれを切っている。

形状 円形と思われる。 **規模** (430)×(430)×20cm。 **方位** N-10°-E

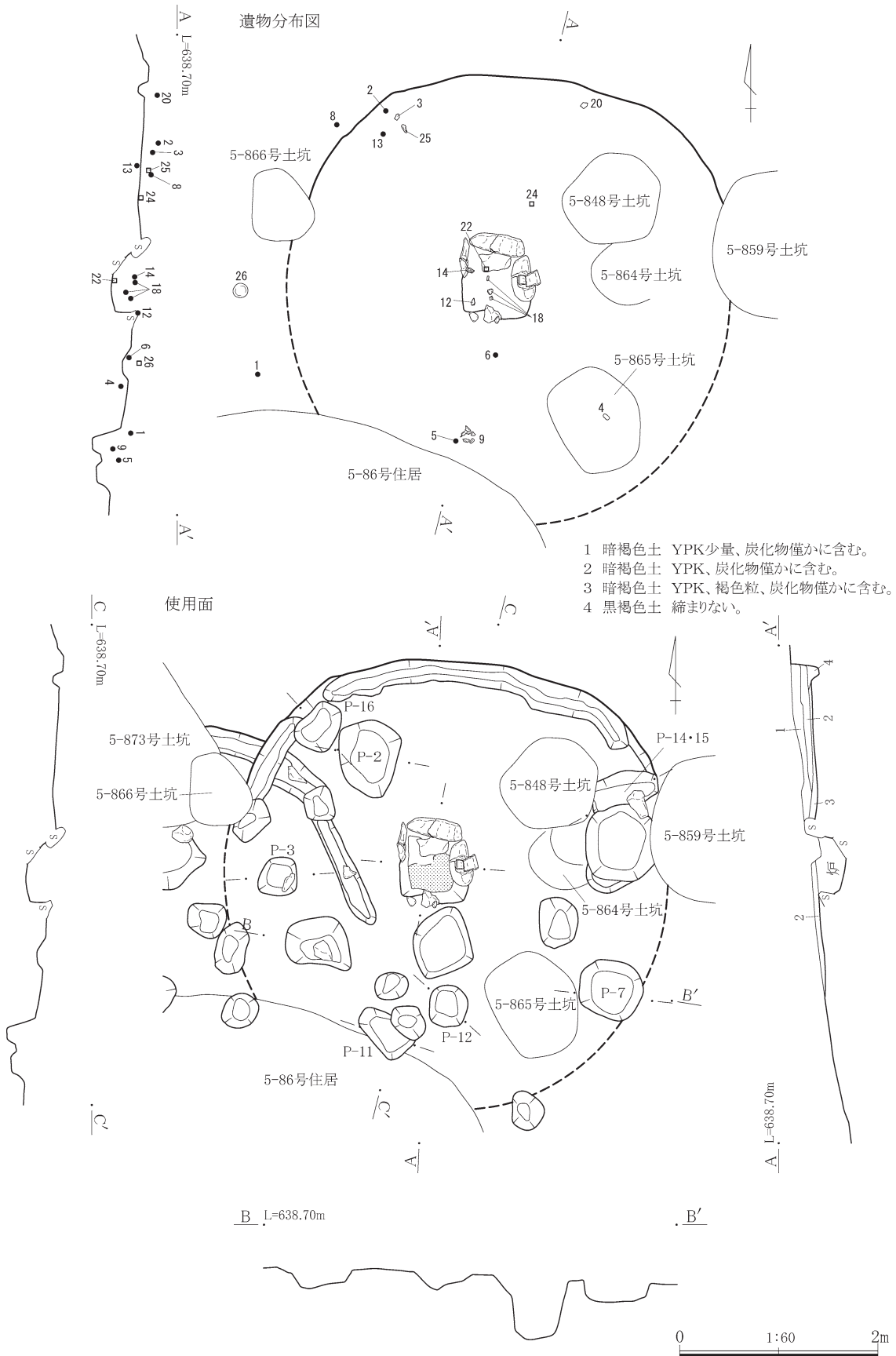
床面 住居内に多くの土坑、重複する住居の柱穴などの掘り込みが多く、遺存部分は少ないが面は平坦で比較的締まりを有す。北壁下に周溝が検出されている。南側については壁及び一部床面も削平を受けている。

炉 ほぼ中央に作られている。四角に石を配した石囲い炉であると見られるが、一部南側の石は上位に構築された5-95号住居跡の柱穴等の掘り込みにより壊されている。残った炉石は被熱によってひび割れが著しく、掘方は方形で下面には焼土を検出。炉体土器は見られない。 **柱穴** 6本か。

埋甕 検出されない。 **掘方** 床下土坑等は見られず。

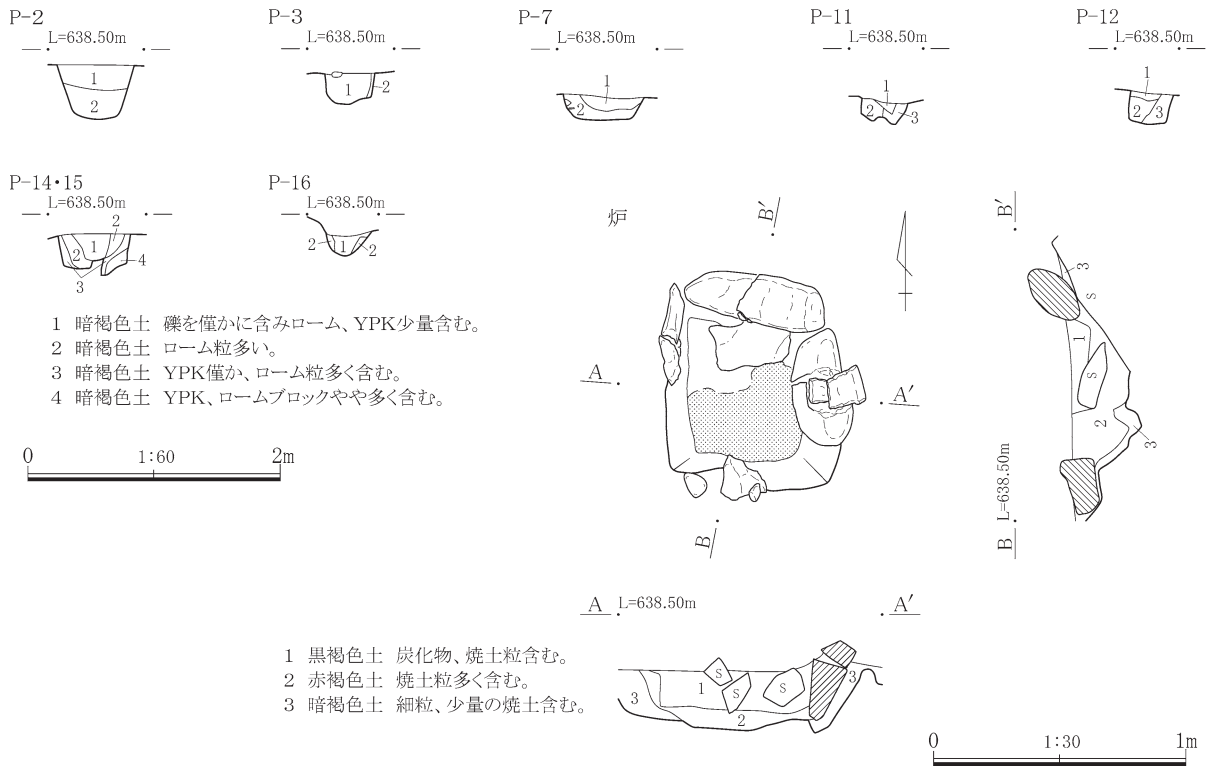
出土遺物 重複もあり全体に出土遺物は少なかったが、柱穴内より比較的大型の土器片が出土している。

時期・所見 調査の初期段階では遺物集中範囲として調査を進め、最終的に本址の確定に至った状況である。このため遺物についてはあらためてその帰属認定を進めた。時期は出土土器から中期後半と考えられる。

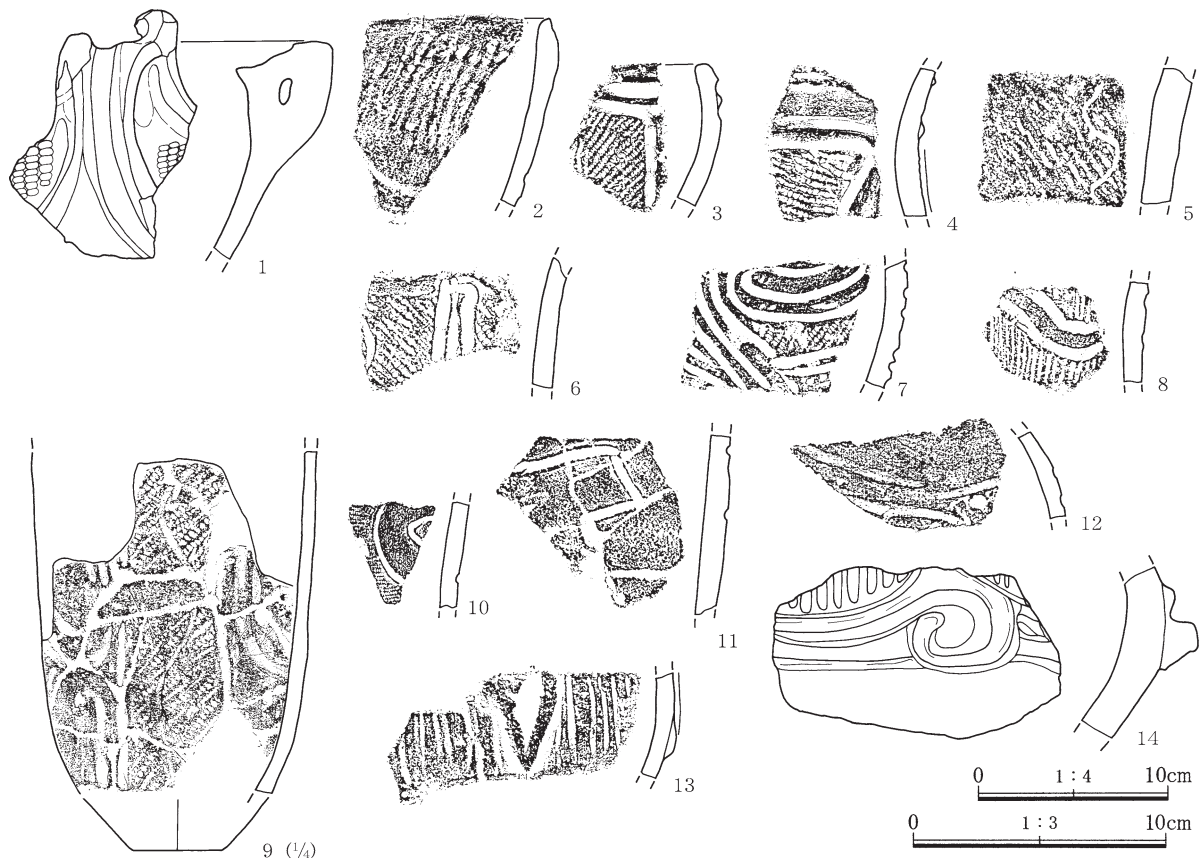


第156図 5-90号住居跡(1)

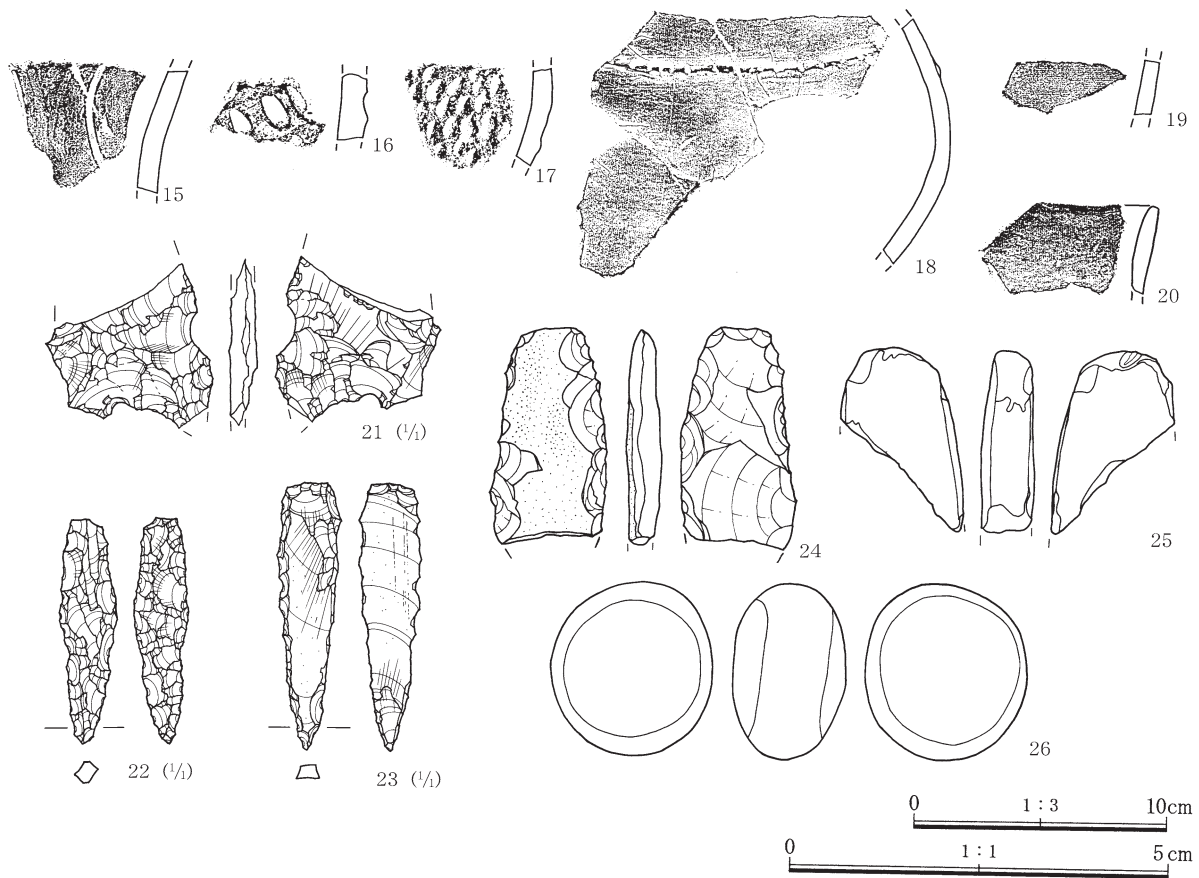
第3章 検出された遺構と遺物



第157図 5-90号住居跡(2)



第158図 5-90号住居跡出土遺物(1)



第159図 5-90号住居跡出土遺物(2)

5-91号住居跡 (第160・161図：PL27・143)

位置 N・O-18グリッドに位置する。 **重複** 東側上部を5-95号住居跡に切られる。さらに5-874～877号土坑が重複して掘り込まれていた。

形状 やや小型で円形を呈すと思われる。 **規模** (300)×(300)×30cm。 **方位** -

床面 遺存部分については平坦で比較的硬化な面として確認された。北壁下に部分的に途切れる周溝を検出している。 **炉** ほぼ中央に作られていたものと考えられるが、5-875号土坑により本体部分をほとんど壊されている。僅かに底部の焼土面を確認したに過ぎない。

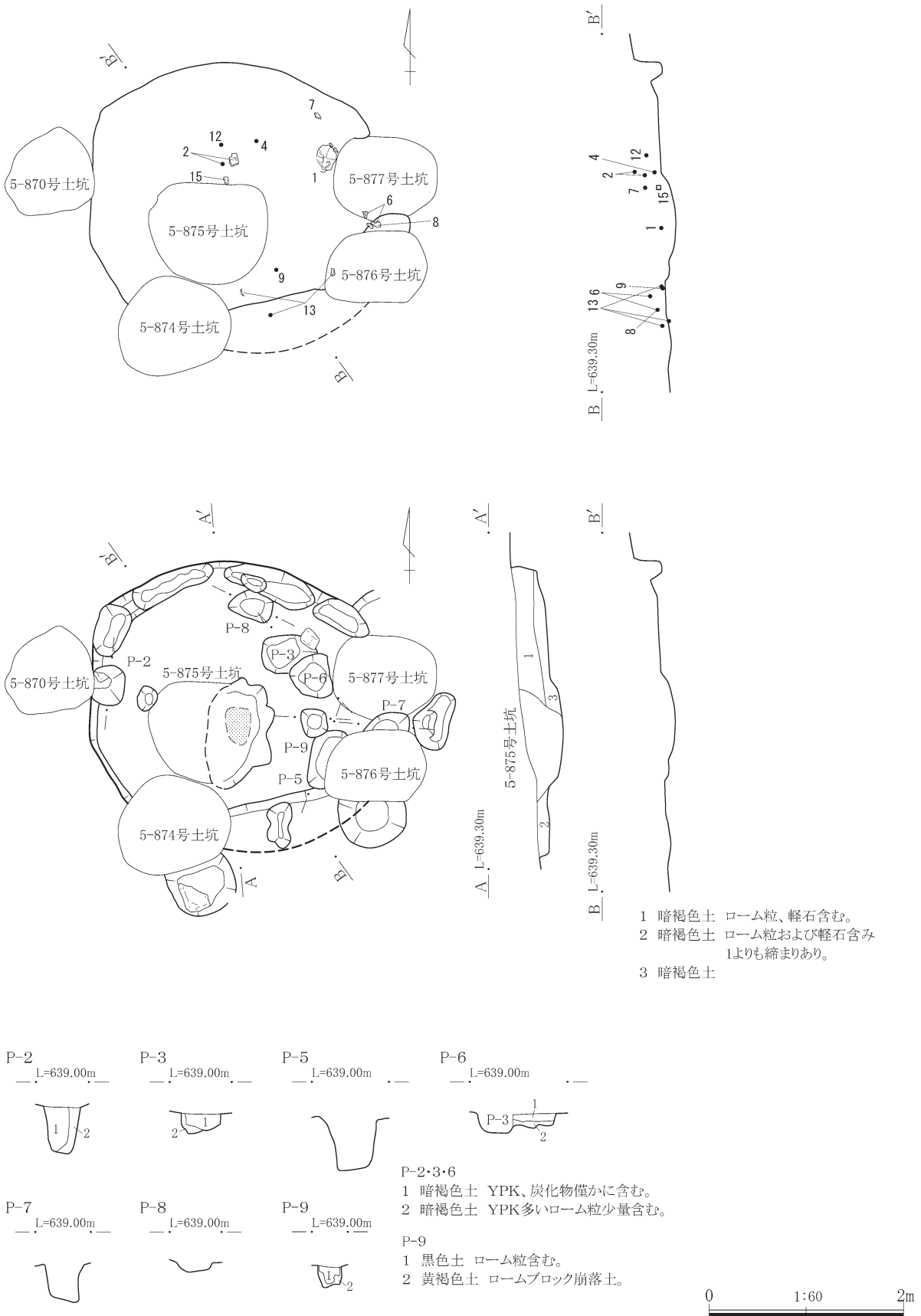
柱穴 西壁際に掘り込まれたP-2および東側に検出されたP-7の2を支柱穴と考える。 **埋甕** 検出されない。

掘方 床下の掘り込みはほとんど認められなかった。

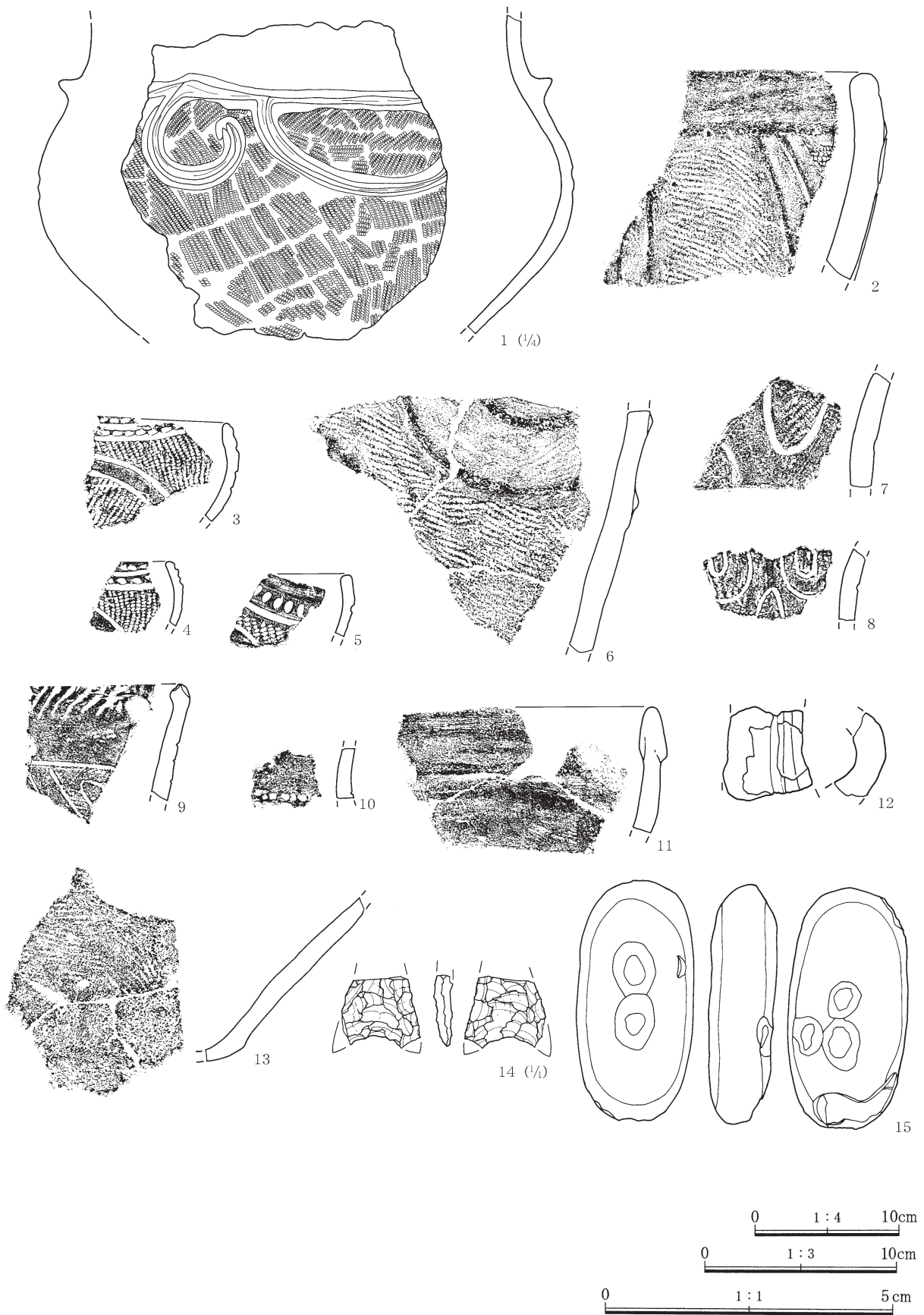
出土遺物 出土土器および石器は少なかった。1は広口の深鉢で住居の東よりの床面上で出土している。石器は石鏃および凹石各1点のみである。

時期・所見 小型の住居である。住居や土坑の重複により、残りはあまり良くなかった。時期は中期後半と考えられる。

第3章 検出された遺構と遺物



第160図 5-91号住居跡



第161図 5-91号住居跡出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

5-92号住居跡 (第162~167図: PL27・143~145)

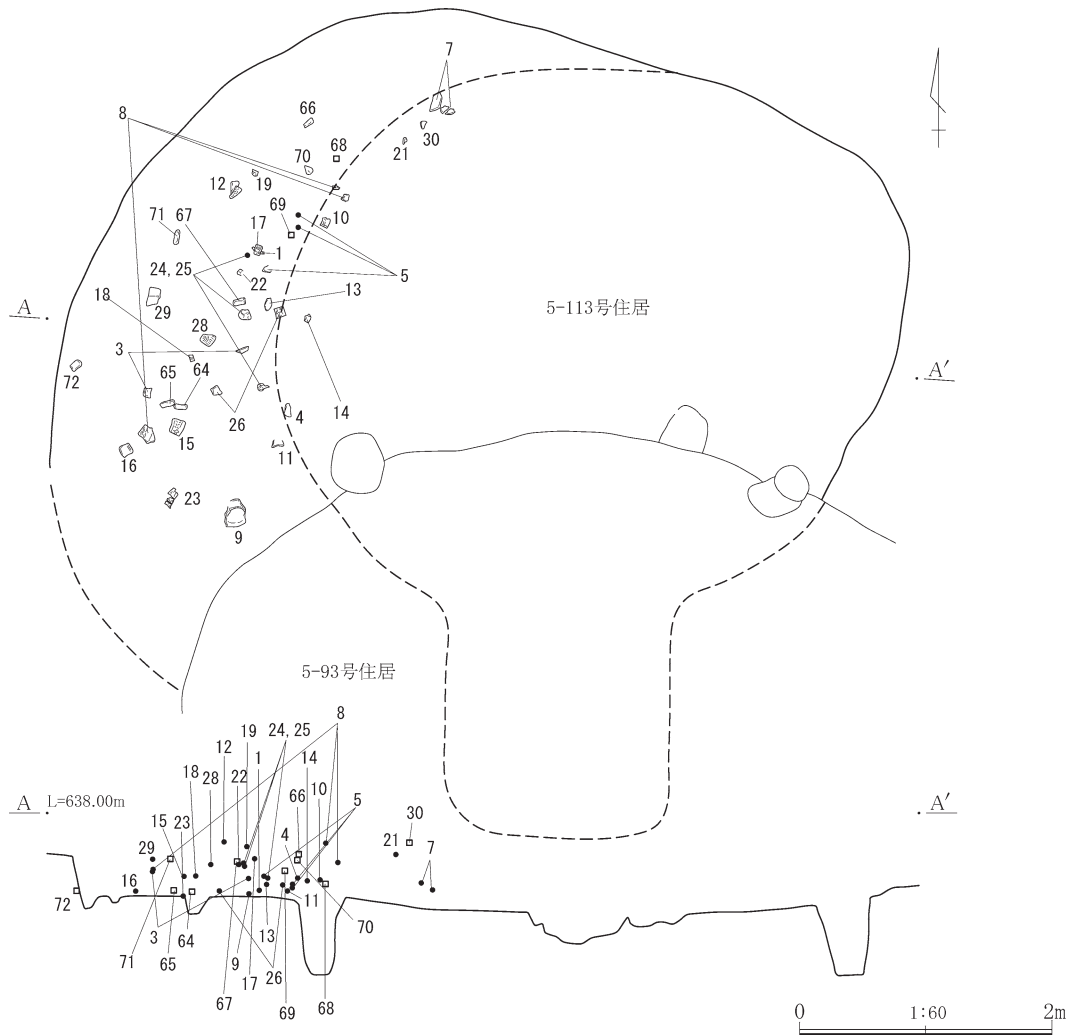
位置 J・K-16・17グリッドに位置する。 **重複** 東側を大きく5-113号住居跡に切られ、南側は5-93号住居跡に切られる。 **形状** 円形を呈すと思われる。 **規模** (600)×(600)×40cm

方位 N-0° **床面** 残存する西側の一部では比較的平坦な面を確認した。周溝が2重一部3重に廻っている。 **炉** 位置的にはやや北寄りに作られていた。重複する5-113号住居跡内にあり上部を削平されていた。残存する掘方下部と、落ち込んだ炉石、焼土を検出したが出土遺物は見られなかった。

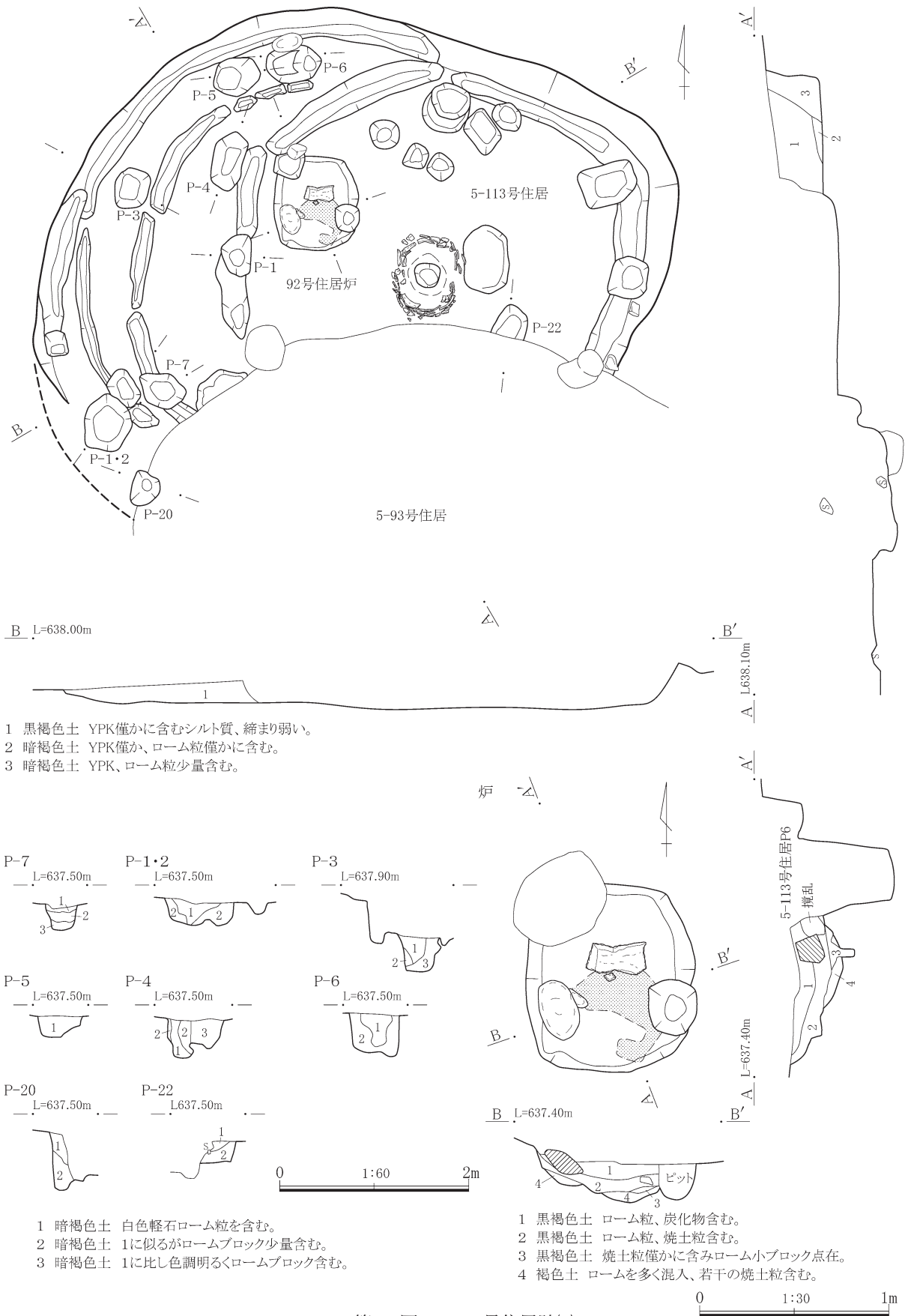
柱穴 拡張された痕跡が認められる。内側周溝内に3本を、外側に5(6)本を検出した。手前側は5-93号住居跡により削平されていた。 **埋葬** 検出されなかった。 **掘方** 床面下に土坑等は見られなかった。

出土遺物 出土遺物はあまり多くはなかった。石器類は石鏃が多く、石冠72や軽石製品73が見られる。

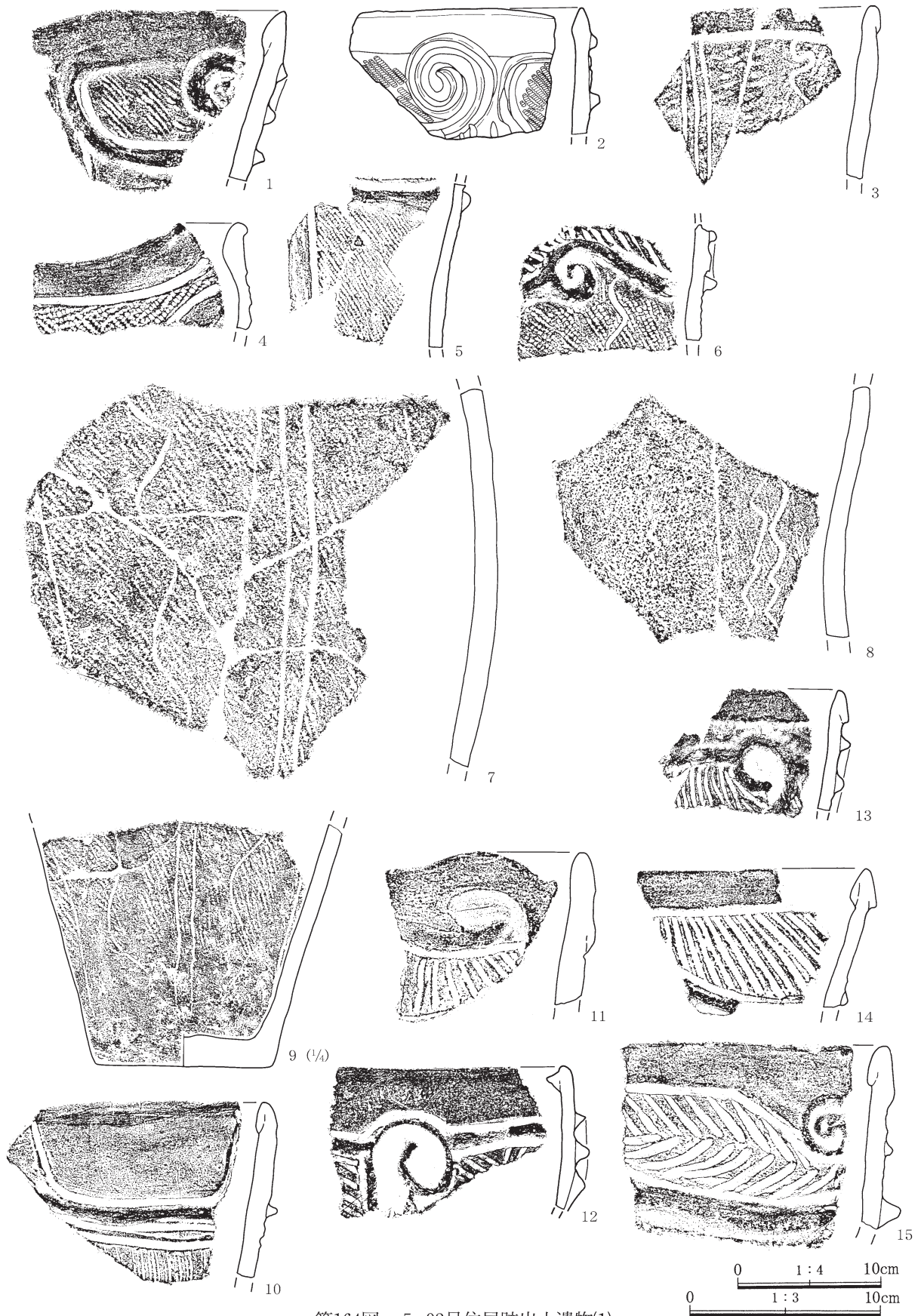
時期・所見 東および南側が重複する住居に切られており、検出されたのは全体の3分の1ほどである。炉は重複する5-113号住居跡の床面下から検出されている。西側壁の形状、炉の位置などから推定して、比較的大型の住居であったと思われる。周溝が2重廻ることから拡張されたものと判断される。時期は出土土器から加曾利E3式期と考えられる。



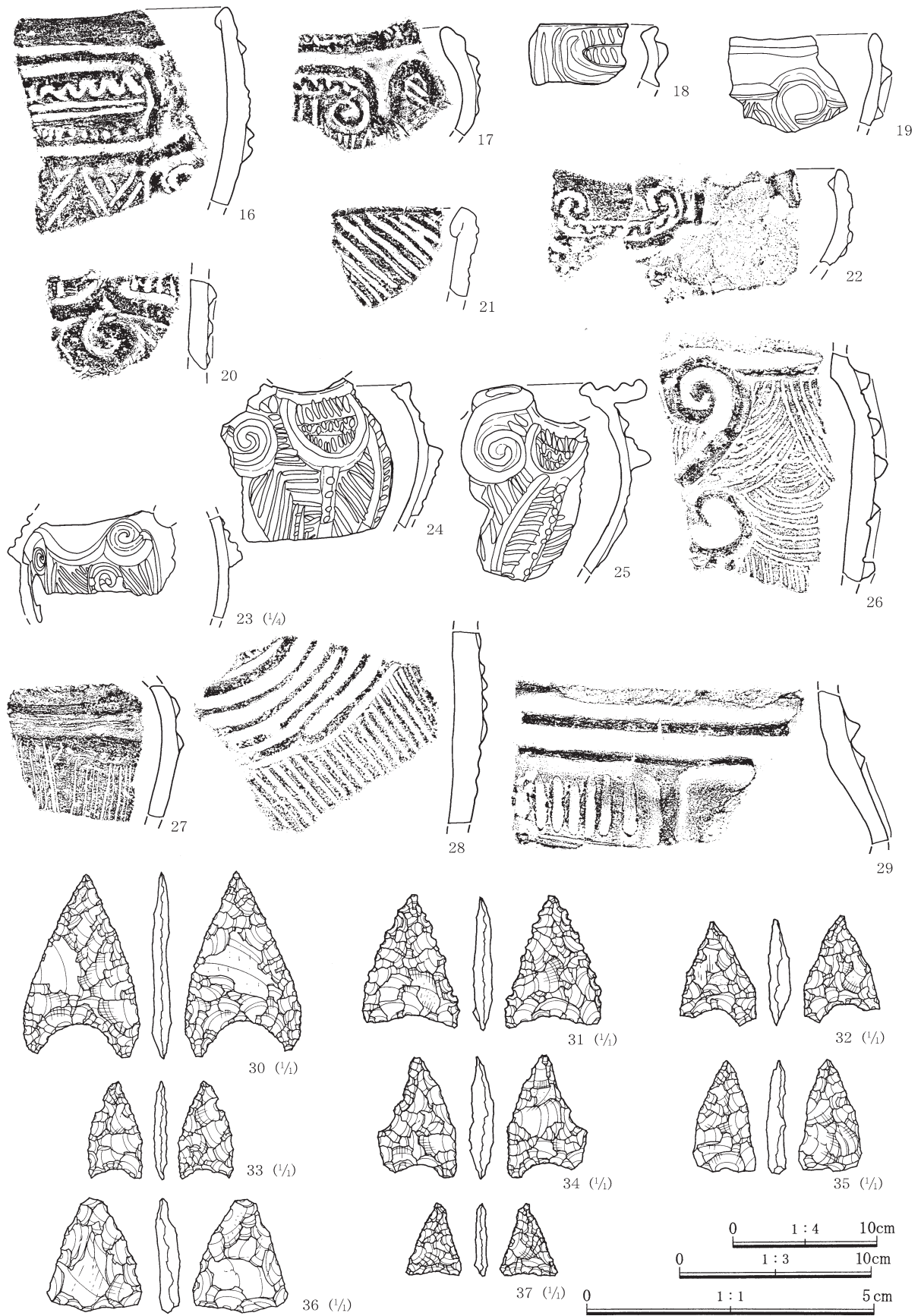
第162図 5-92号住居跡(1)



第163図 5-92号住居跡(2)

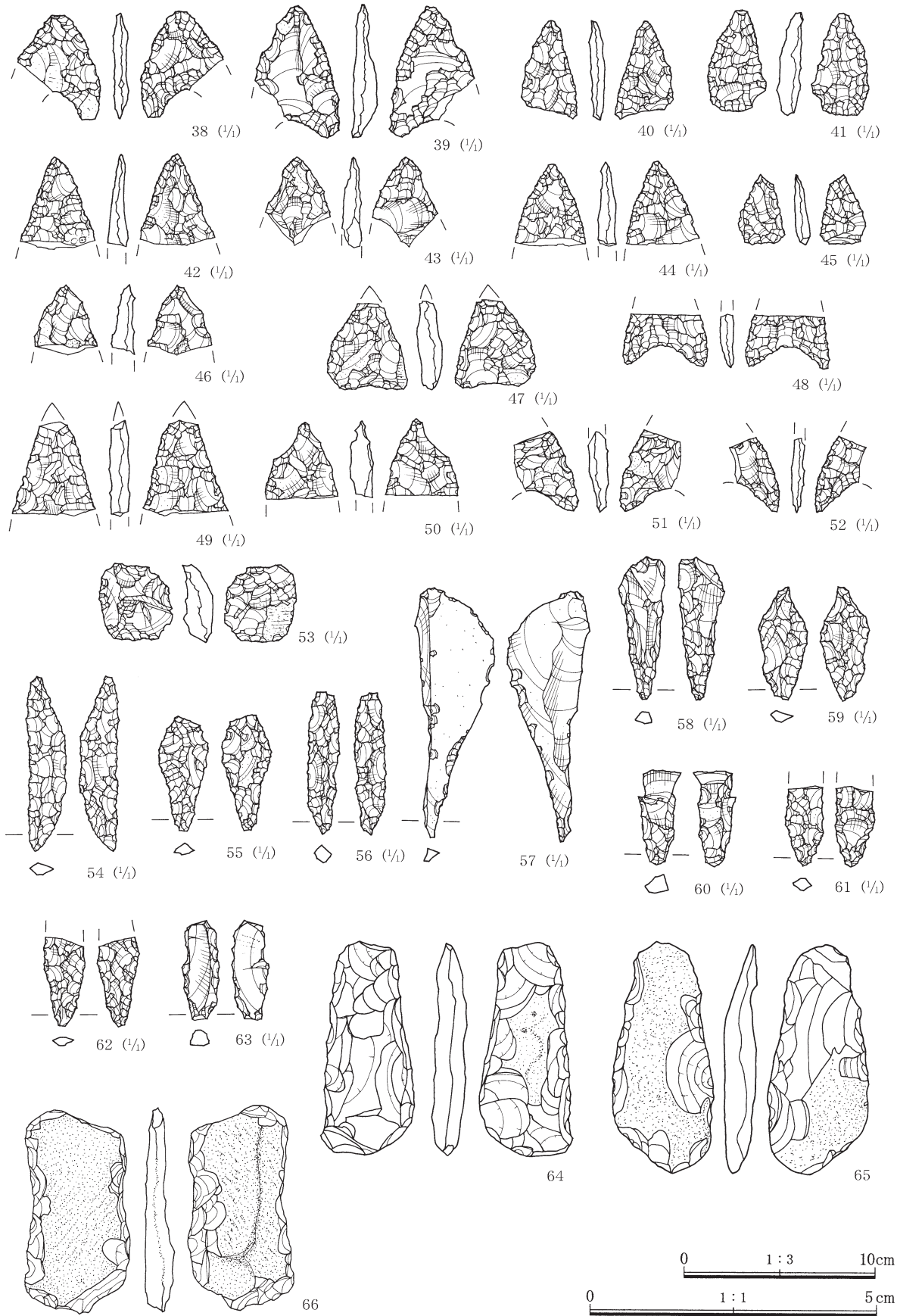


第164図 5-92号住居跡出土遺物(1)

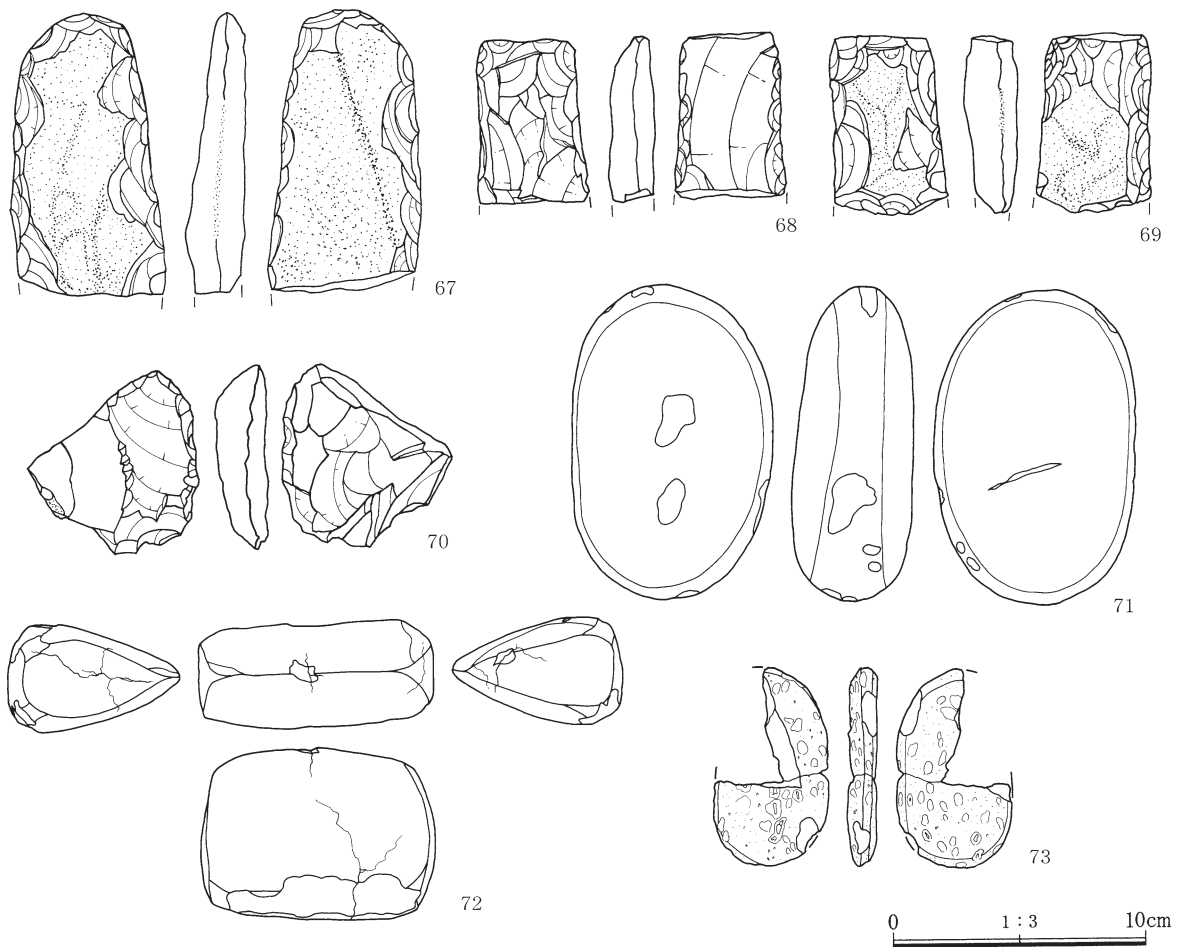


第165図 5-92号住居跡出土遺物(2)

第3章 検出された遺構と遺物



第166図 5-92号住居跡出土遺物(3)



第167図 5-92号住居跡出土遺物(4)

5-93号住居跡 (第168~177図: PL28・29・145~147)

位置 I・J-15・16グリッドに位置する。 **重複** 北側部分で5-92号住居跡を切り、5-113号住居跡に一部切られている。さらに両住居の重複部分に土坑が見られる。住居の南部分に幅1.5m程の水道敷設溝が東西に横断している。 **形状** ほぼ円形を呈すがやや南北に長くなる。

規模 700×680×40cm。 **方位** N-0°

床面 中央部分についてはかなり踏みしめられておりしっかりとしていた。攪乱溝の南側に関してはかなりの凹凸が見られた。炉の周囲はより硬くなっており一部には焼土が出土している。また、周溝が2重に廻っている。

炉 扁平でかなり大きな礫を四角に組んだ石囲い炉である。北と西側の石は無く、中に落ち込んだ状態で検出された。底面は赤褐色に変色し焼土化が著しい。

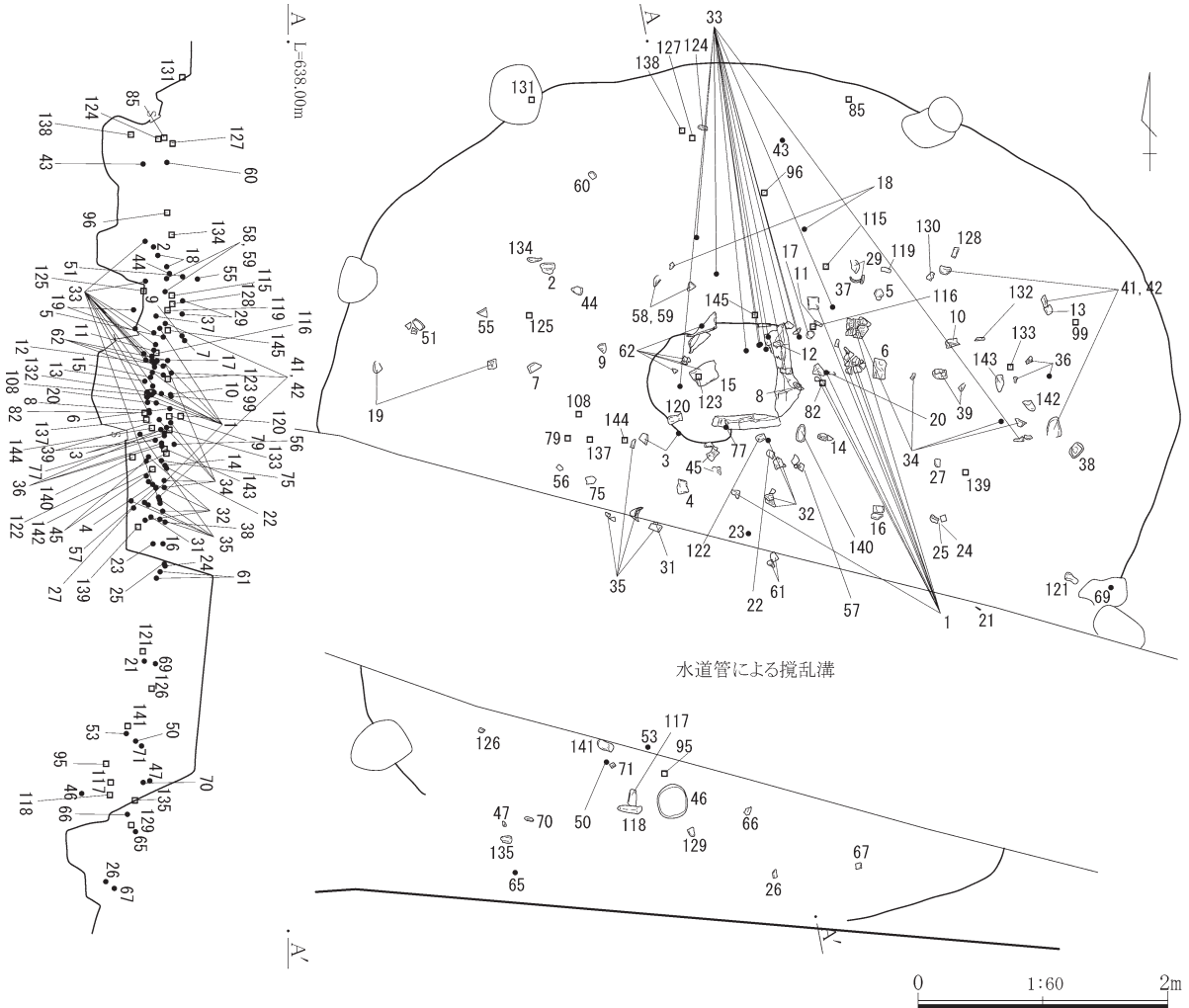
柱穴 拡張後の柱穴と思われるものが現状では7本検出したが、攪乱溝の部分にも在ったものと思われる。

埋甕 入り口部左側に2基が南北に並んで検出されている。北側が正位、南側は逆位に埋められていた。南側の埋甕については平成8年度の調査で検出された。(長野原一本松遺跡2002において5-211号土坑で報告されている) **掘方** 床下土坑等は確認されなかった。

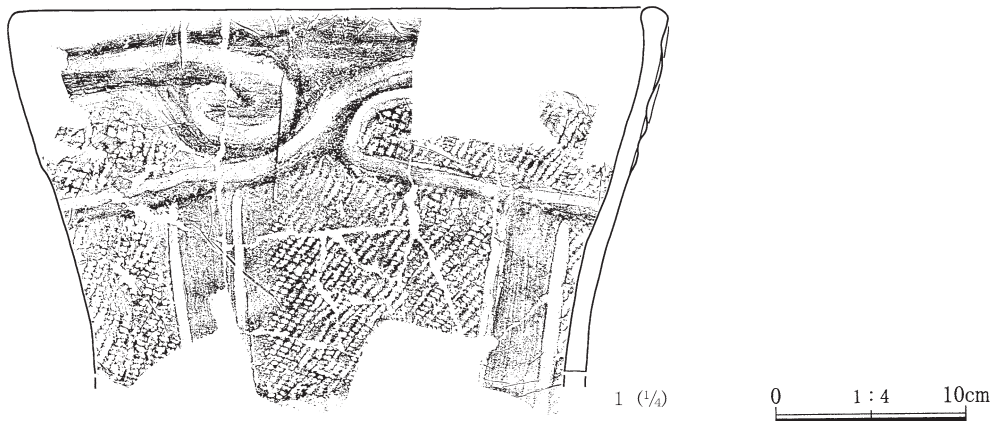
出土遺物 遺構確認時より多くの土器片および石器、石片等が確認されている。石器の出土数は多く特に石鏃類が目立つ。

第3章 検出された遺構と遺物

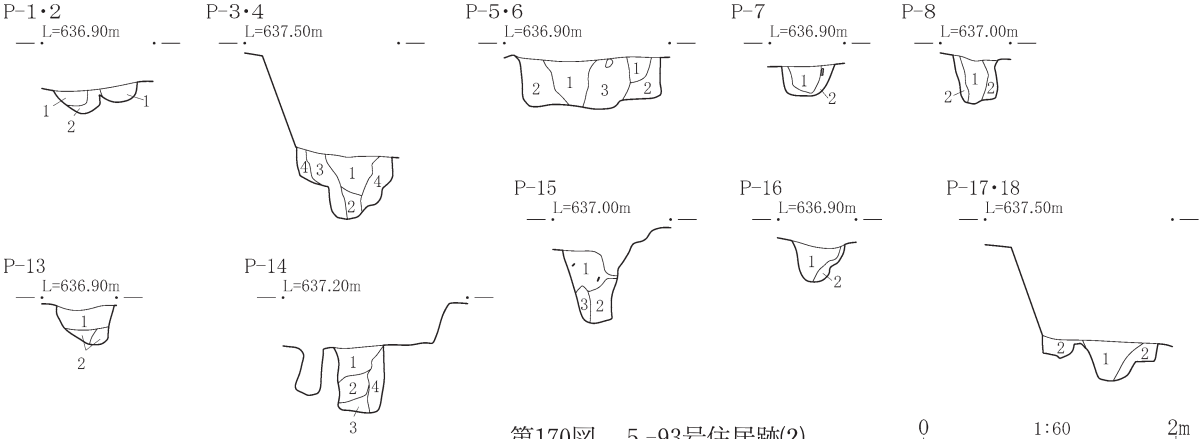
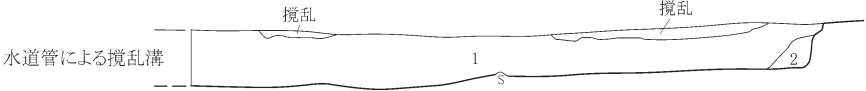
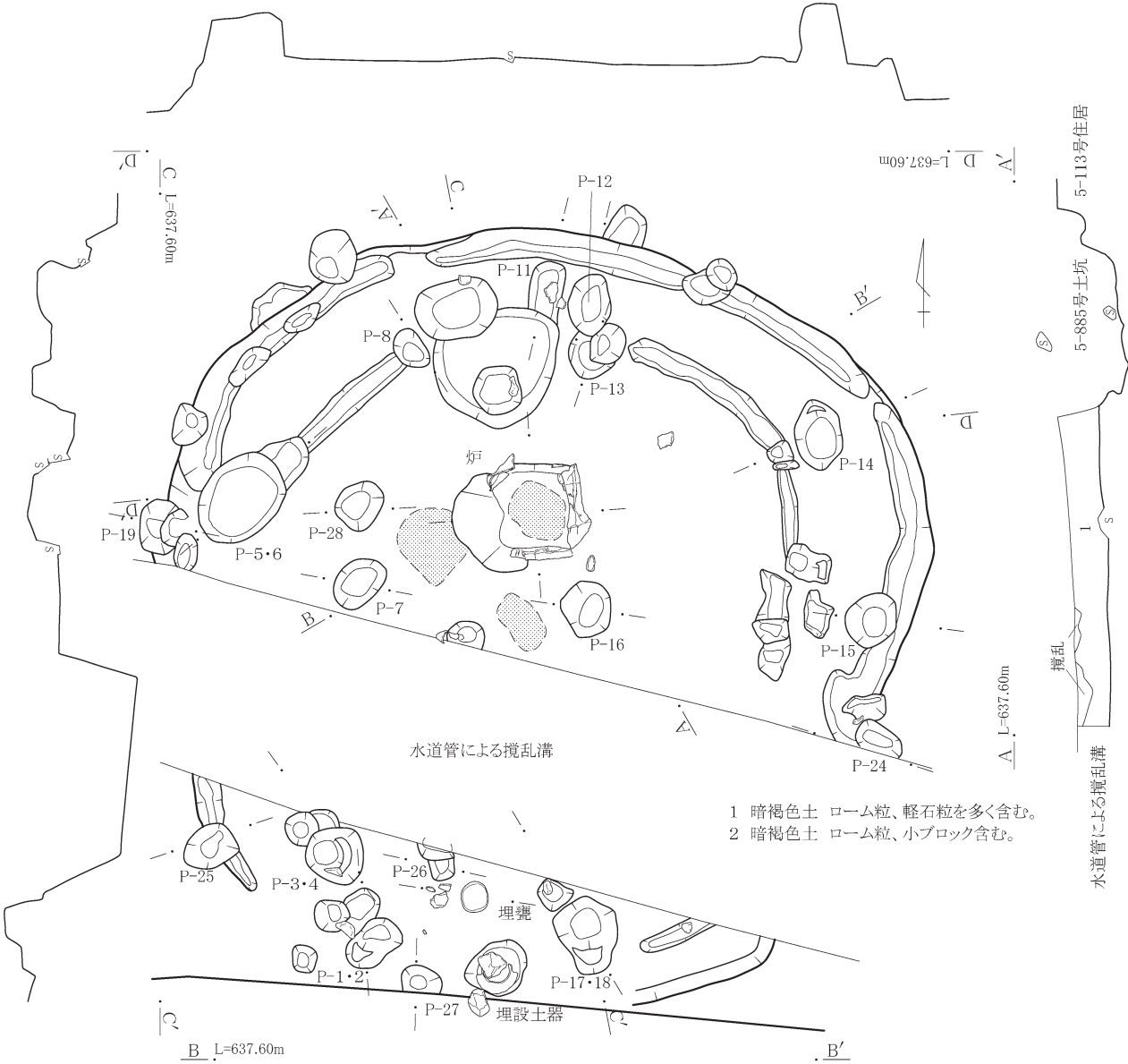
時期・所見 比較的大型の住居で水道管敷設溝による攪乱を受けてはいるが、遺存状態は比較的良好である。
 本址は周溝が2重に廻っていることから、拡張されたものと思われる。埋甕等から時期は中期後半、加曽利E3式期と判断される。



第168図 5-93号住居跡(1)



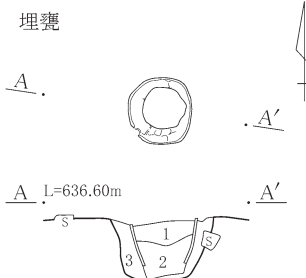
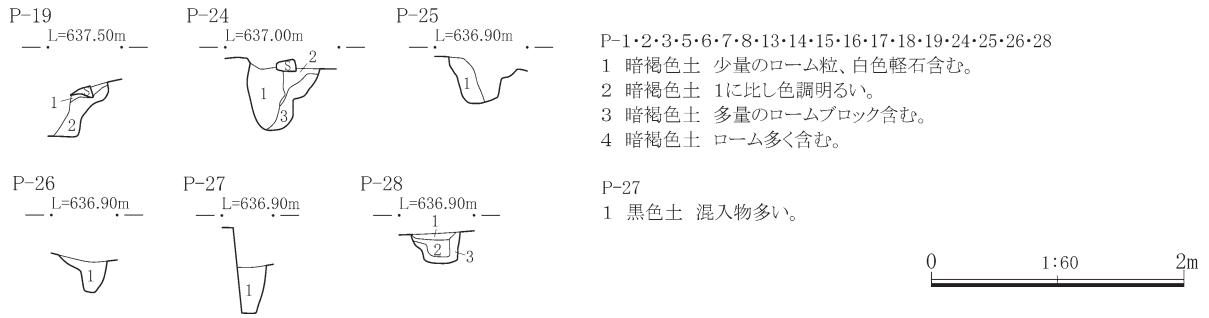
第169図 5-93号住居跡出土遺物(1)



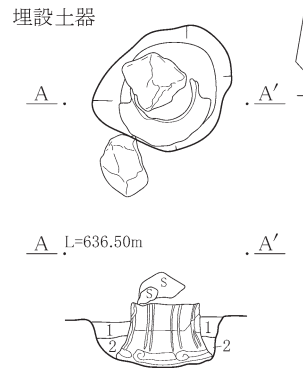
第170図 5-93号住居跡(2)

0 1:60 2m

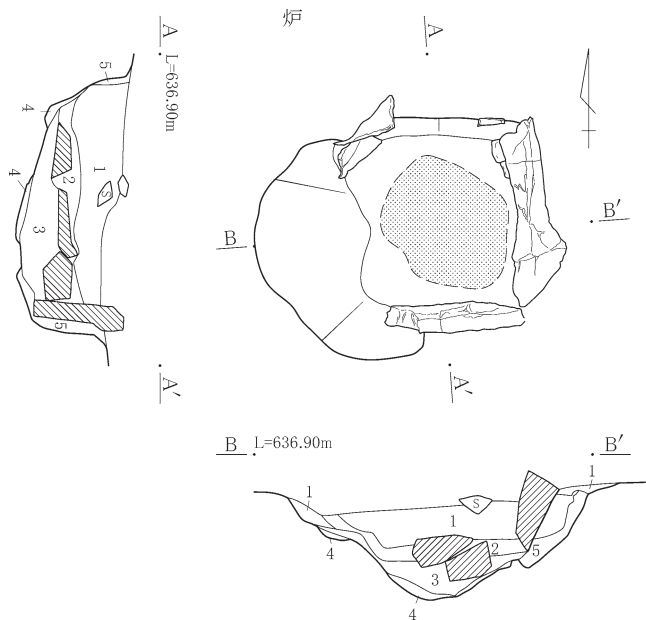
第3章 検出された遺構と遺物



- 1 黒褐色土 ローム粒少量。
- 2 黒褐色土 炭化物含む、1よりローム多く含む。
- 3 黒褐色土 ロームブロック多く含む。

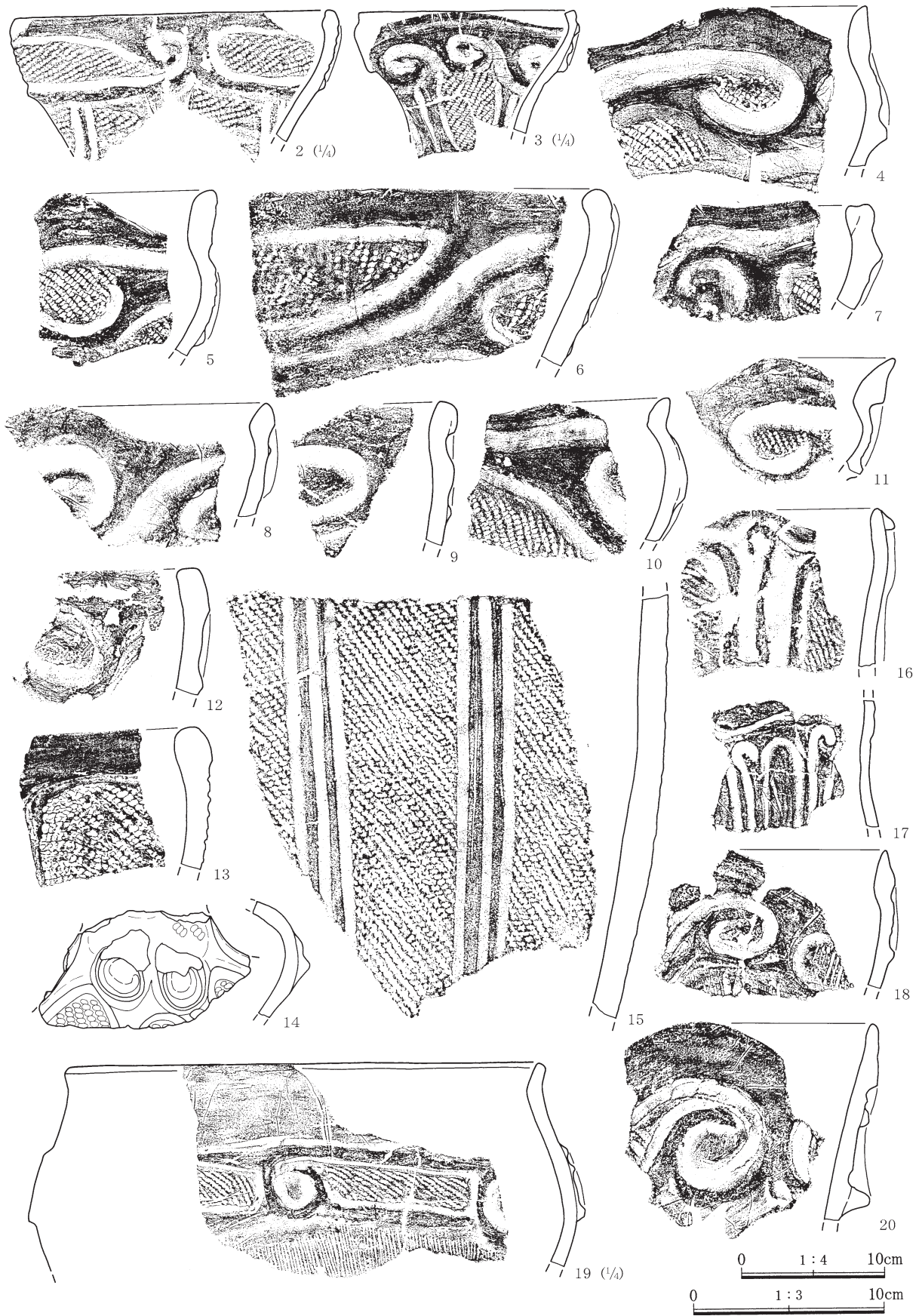


- 5-211号土坑(2002)
- 1 暗褐色土 ローム粒を少量含む。
- 2 暗褐色土 炭化物、ローム粒を少量含む。色調が暗い。

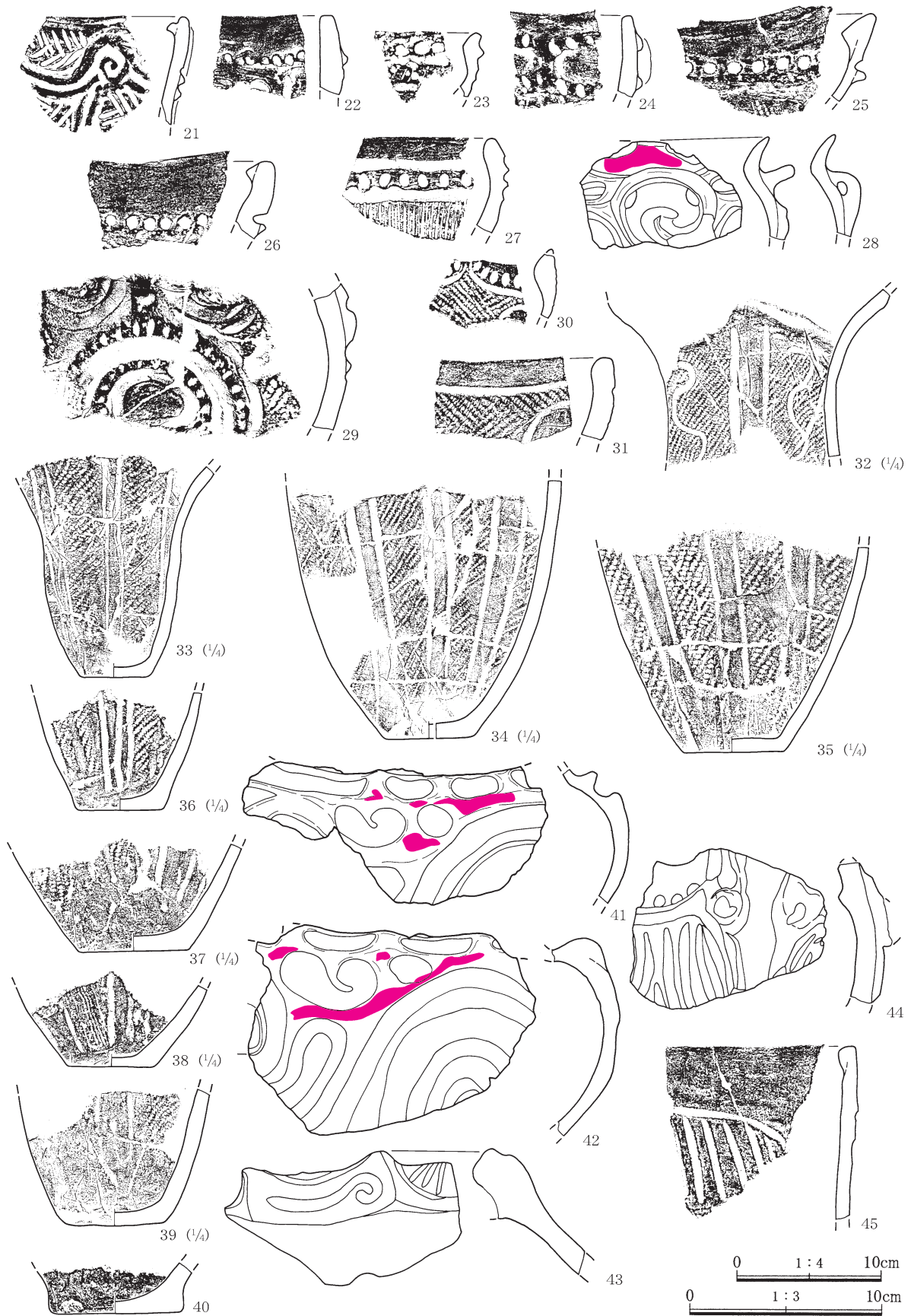


- 1 黒褐色土 炭化物、焼土粒含む。
- 2 黒褐色土 焼土小ブロック、炭化物含む。
- 3 赤褐色土 焼土ブロック多く含む。
- 4 暗褐色土 ロームブロック多く含む、若干の焼土混入。
- 5 暗褐色土 ロームブロック、黒色土ブロック混入。

第171図 5-93号住居跡(3)



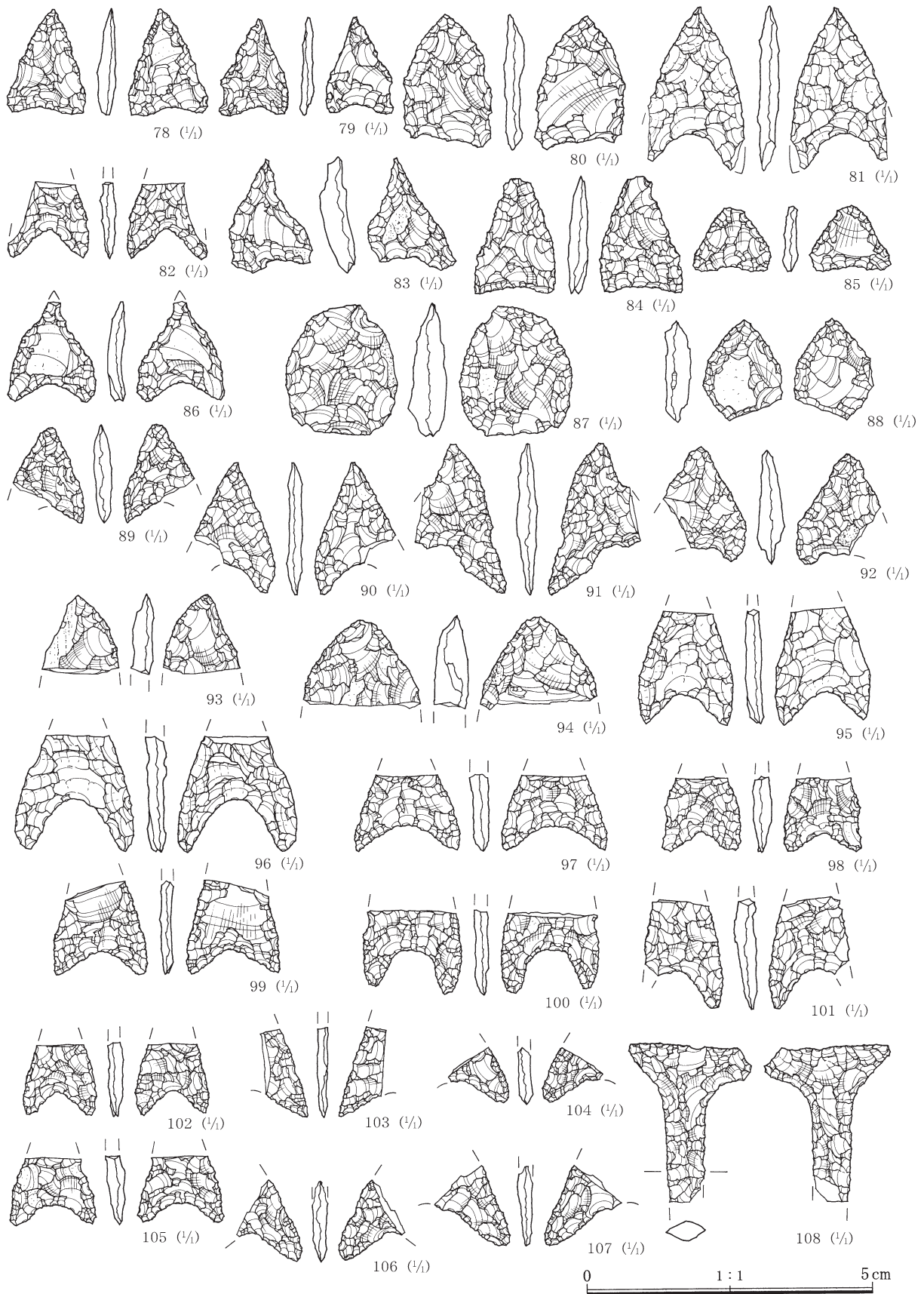
第172図 5-93号住居跡出土遺物(2)



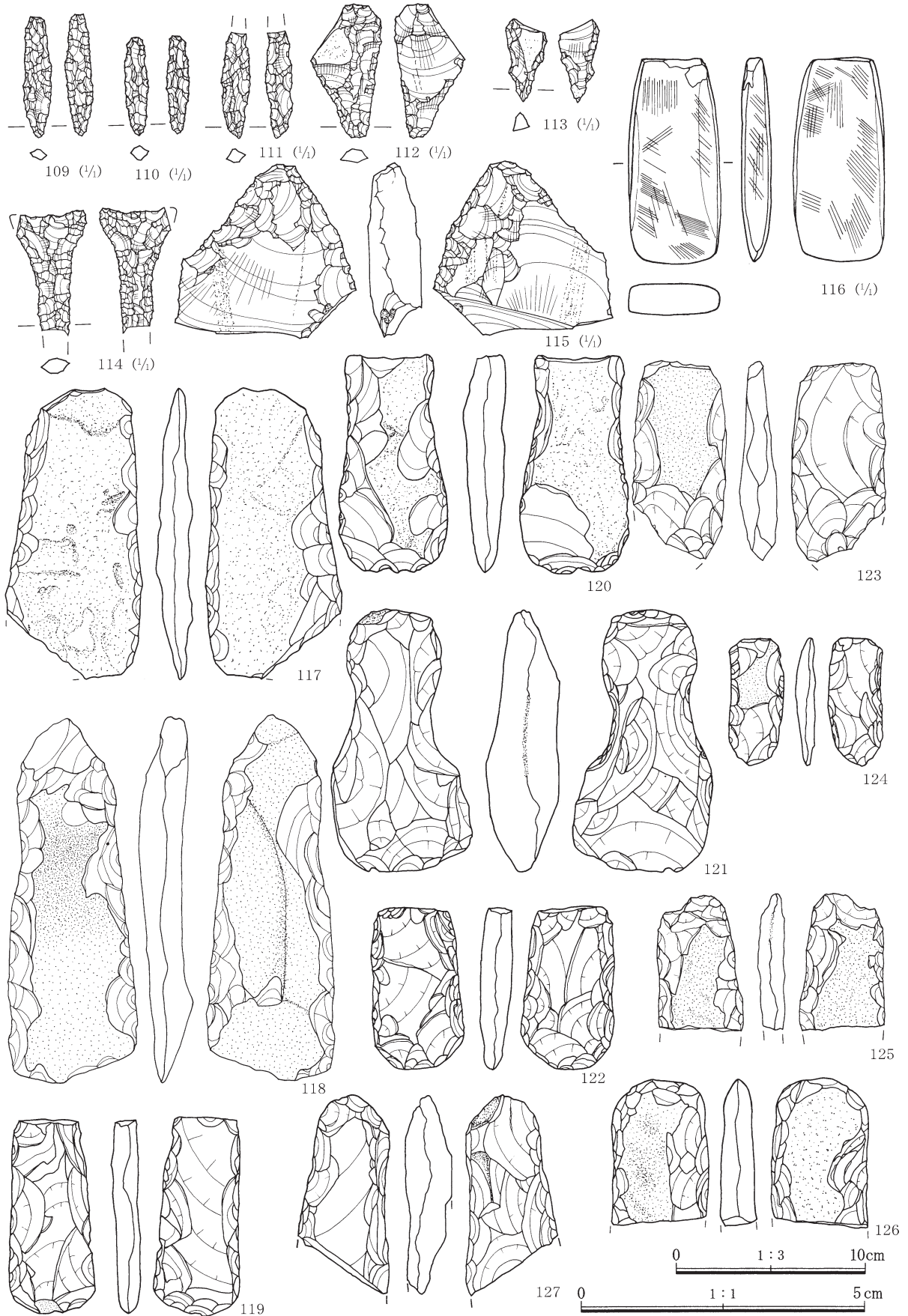
第173図 5-93号住居跡出土遺物(3)



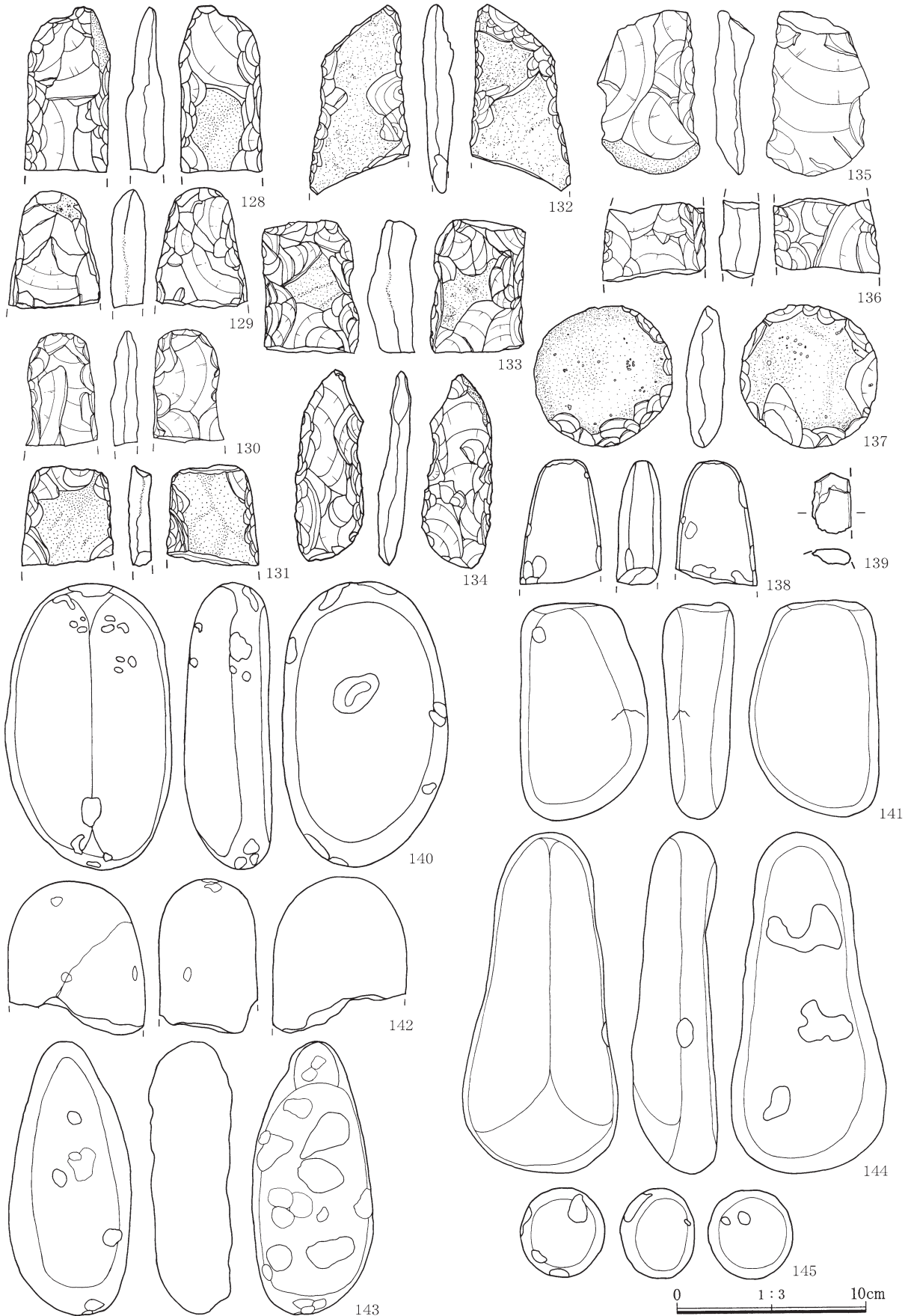
第174図 5-93号住居跡出土遺物(4)



第175図 5-93号住居跡出土遺物(5)



第176図 5-93号住居跡出土遺物(6)



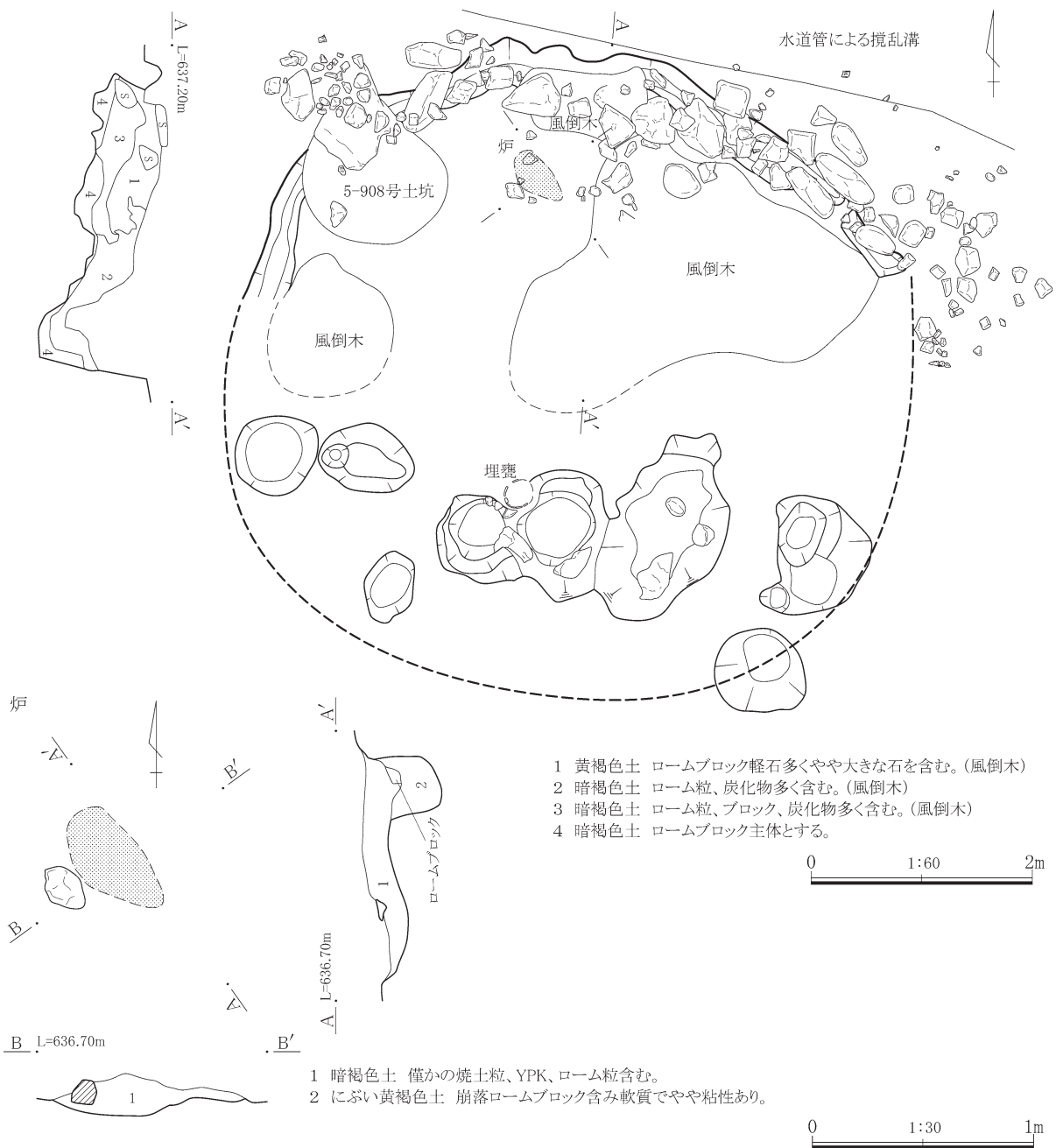
第177図 5-93号住居跡出土遺物(7)

5-94号住居跡 (第178~181図: PL29・148)

位置 K・L-15・16グリッドに位置する。 **重複** 5-836・908号土坑が、さらに北東部分は風倒木による攪乱を受けている。南半分は平成8年度に調査を実施しているが、住居としては未認定である。

形状 円形と思われる。 **規模** (600)×(600)×— **方位** —

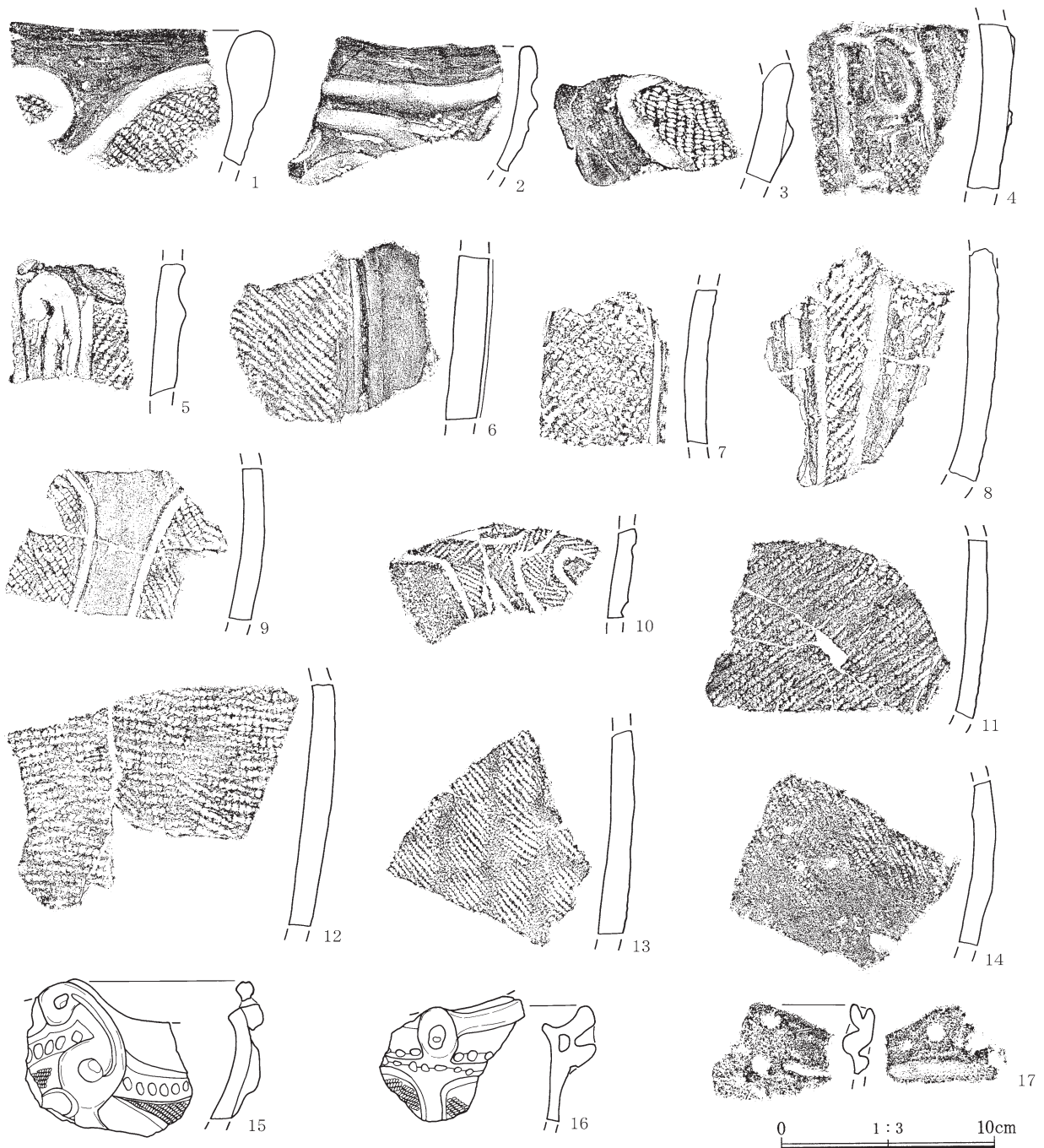
床面 風倒木痕と思われる土坑により床面は極めて荒れており凹凸が顕著であった。壁下に沿って周溝がほぼ半周する。 **炉** 明確なものは検出されなかったが、北壁に寄った場所に礫を伴った焼土の広がり認め、炉の下部構造の様相を呈しているが、位置的にやや北に寄りすぎており未確定要素がある。



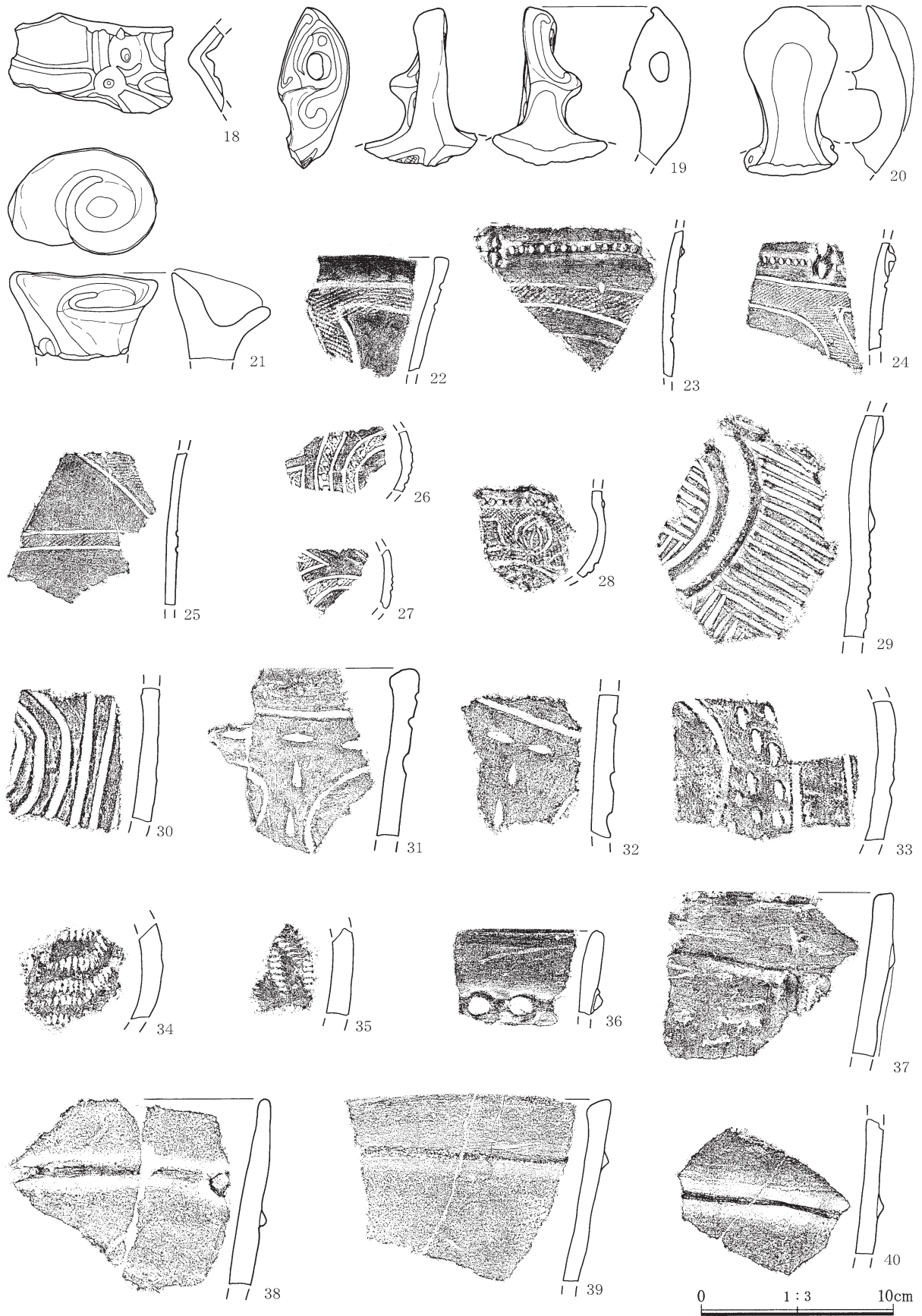
第178図 5-94号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物

柱穴 今次の調査では明確なものは北側に検出した1本のみであるが平成8年度に実施した南側では壁に沿って4基程の柱穴と思われる掘り込みが確認されている。 **埋甕** 入り口部には隣接する土坑に伴って埋甕が検出されている。(平成8年度調査・長野原一本松遺跡2002) **掘方** 最終的に極めて凹凸が著しい面となったが、明確な土坑等は見られない。 **出土遺物** 覆土中より若干の土器片および石鏃等出土。 **時期・所見** 住居壁に沿って北側に礫が弧状に検出されている。平成8年度に南側部分を調査しており、住居との認定には至っていなかったが、5-310・348・352号土坑(長野原一本松遺跡2002)は本址の柱穴の可能性が高い。また5-309号土坑(長野原一本松遺跡2002)に伴って出土した埋甕は本住居に帰属するものと考えられる。時期は中期後半と見られる。

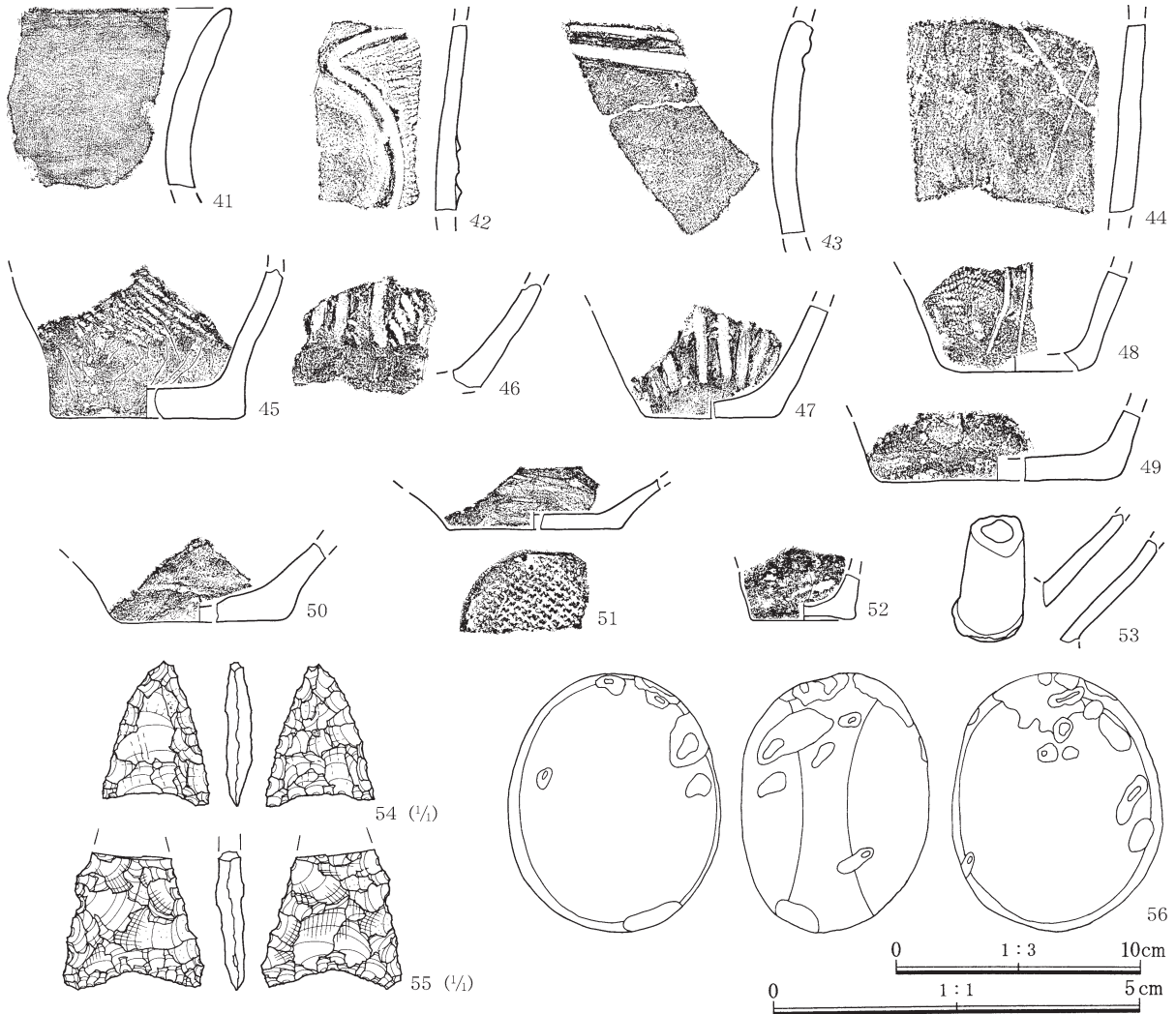


第179図 5-94号住居跡出土遺物(1)



第180図 5-94号住居跡出土遺物(2)

第3章 検出された遺構と遺物



第181図 5-94号住居跡出土遺物(3)

5-95号住居跡 (第182・183図：PL29・149)

位置 M・N-17・18グリッドに位置する。 **重複** 西側で5-84・91号住居跡、東側で81・102号住居跡、南側では5-89・90・97号住居跡の上に重複、これらの上に構築されている。

形状 調査時には重複する住居と同時に掘り下げてしまい、南側はほとんど失われているが、柄鏡形敷石住居である可能性が高い。 **規模** 主体部の推定径580cmを測る。 **方位** N-20°-W

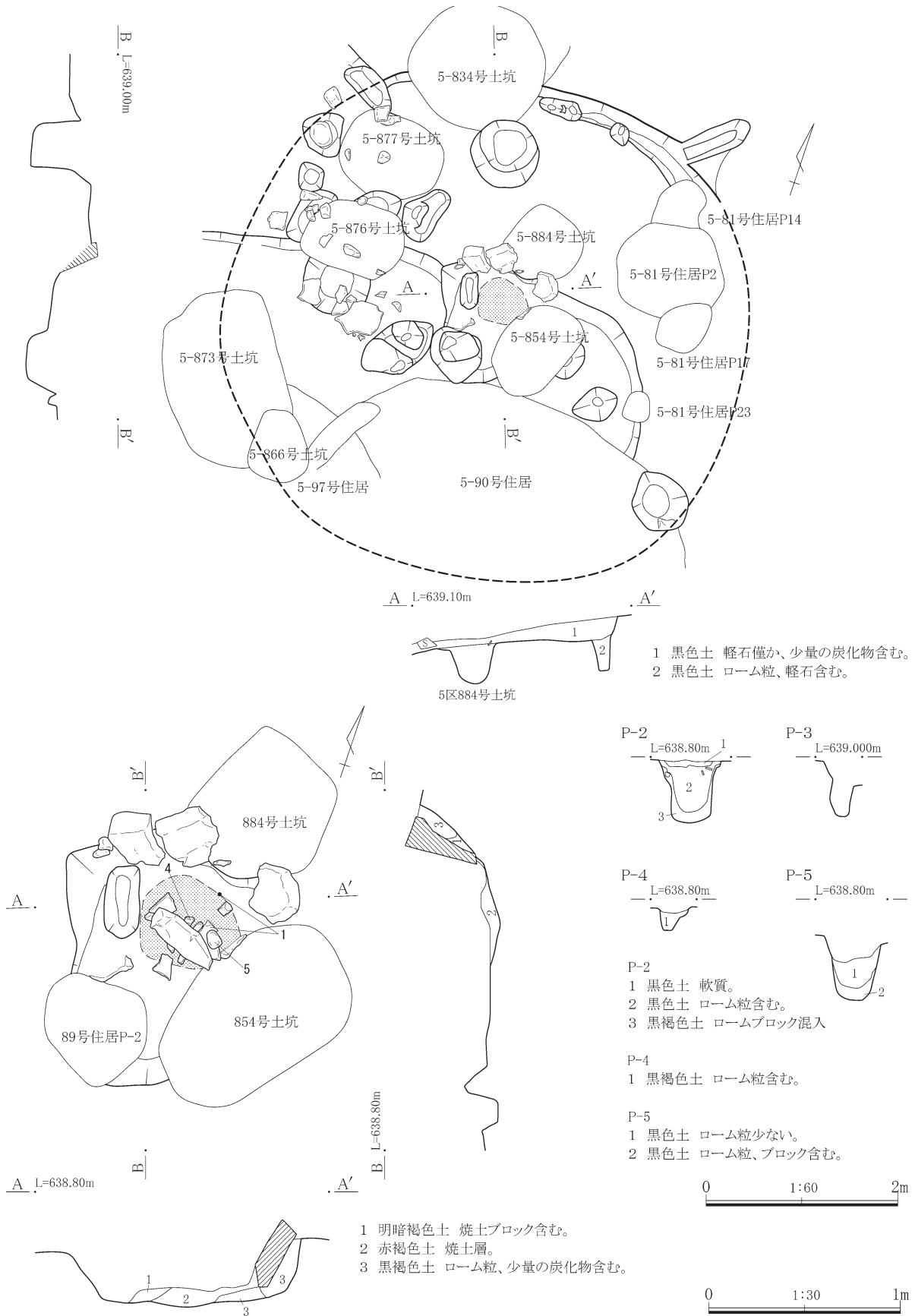
床面 部分的に残った部分については凹凸が顕著で、平坦面はほとんど見られなかった。

炉 推定範囲のほぼ中央に検出された。中に礫が詰まった状態で検出された。比較的大きな角礫を据えた石囲い炉であるが、北側の石以外は抜かれていた。

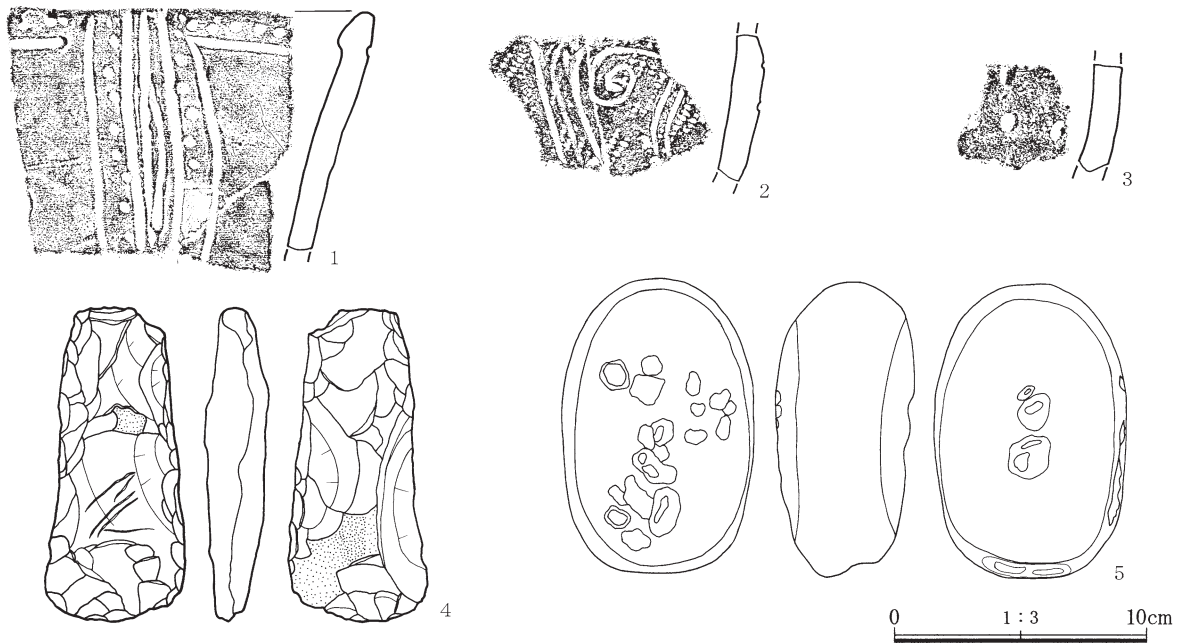
柱穴 推定される外形内側に沿って5本を検出した、それ以外については住居、土坑等により削平されたものと思われる。 **埋葬** 検出されなかった。 **掘方** 土坑等は検出されなかった。

出土遺物 北側において若干の土器、石器類が出土しているものの点数は少ない。南側は下位に重複する住居出土の遺物と混乱が認められる。

時期・所見 住居内に比較的大型の扁平な礫が散在して出土しており、柄鏡形敷石住居である可能性が高い。炉内出土の土器から時期は堀之内1式期か。なお、本址を含めた5-86・89・90・91・97号住居跡の位置には5-6・7号掘立柱建物が構築されている。



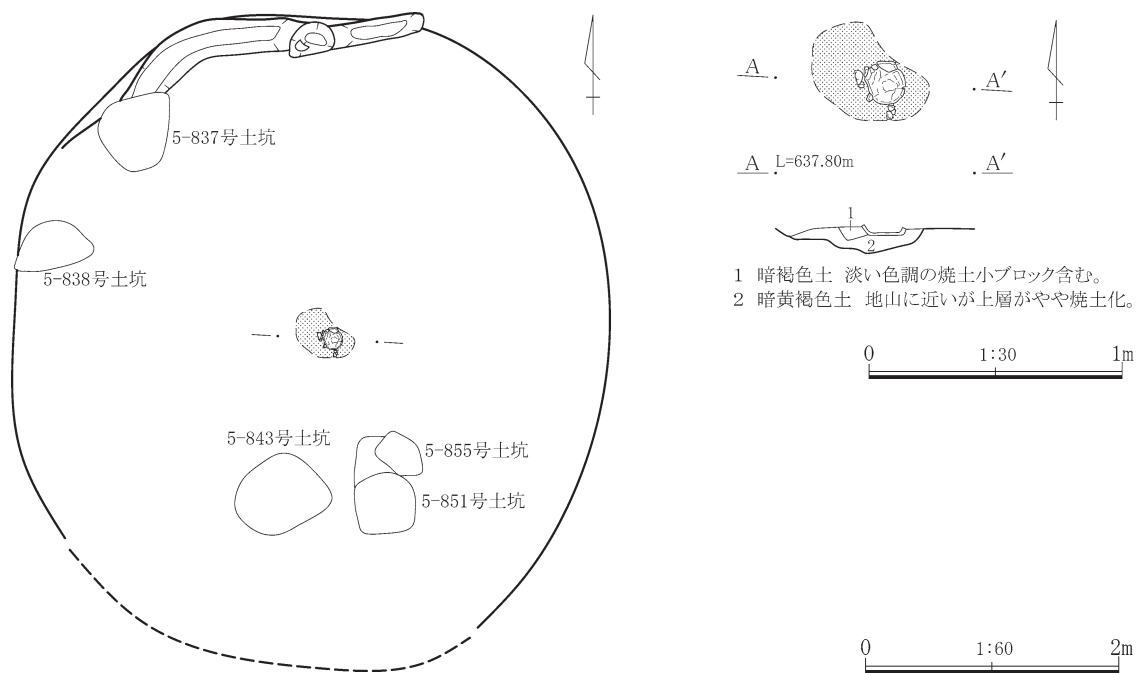
第182図 5-95号住居跡



第183図 5-95号住居跡出土遺物

5-96号住居跡 (第184・185図: PL29・30・149)

位置 O・P-15・16グリッドに位置する。 **重複** 東側が5-83号住居と僅かに重複か。全体に大きく削平されている。 **形状** 円形と思われる。 **規模** (600)×(600)×- **方位** -
床面 削平されており、明確な使用面は確認されなかった。
炉 ほぼ中央に炉体土器と見られる深鉢の底部片が焼土を伴って検出された。炉石等は検出されなかった。



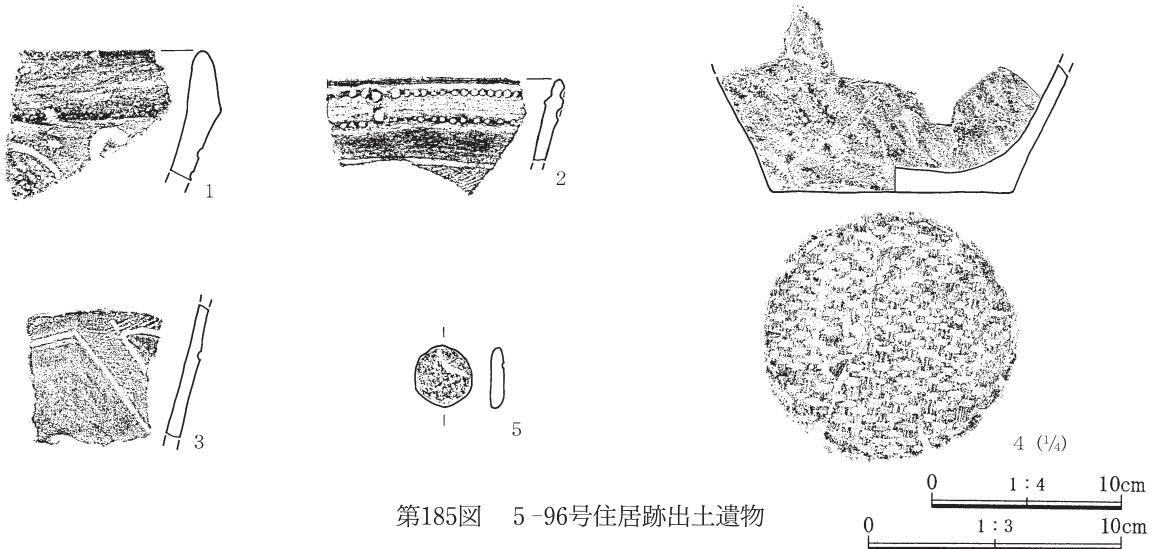
第184図 5-96号住居跡

柱穴 炉を中心に多数のピットが検出されているが、明らかに柱穴と判断されたものは無い。

埋甕 検出されなかった。 **掘方** 凹凸が顕著である。

出土遺物 炉体土器の他は若干の破片類が出土したのみである。4は炉体土器、5は土製円盤である。石器の出土は見られなかった。

時期・所見 壁を含め床面もほとんど削平された状態であった、僅かに北側の周溝の下部と炉の痕跡および炉体土器を確認したのみである。特に南側は30cm以上下がっている。時期は後期前半か。



第185図 5-96号住居跡出土遺物

5-97号住居跡 (第186・187図: PL30・149)

位置 N・O-17グリッドに位置する。 **重複** 東側を5-90号に南を5-86号住居跡に切られている。さらに、北側には5-842・866・867・873号土坑が重複し大きく本址を壊している。

形状 円形を呈すと思われる。 **規模** (360)×(360)×10cm。 **方位** -

床面 中央部分は比較的状态は良好であるが、北側は複数の土坑によりかなり壊されている。周溝が東西に検出されている。

炉 ほぼ中央に検出された。炉石は1石検出された他には見られなかった。径70cmで深さ10cm程の掘方を検出、下面には焼土が認められた。

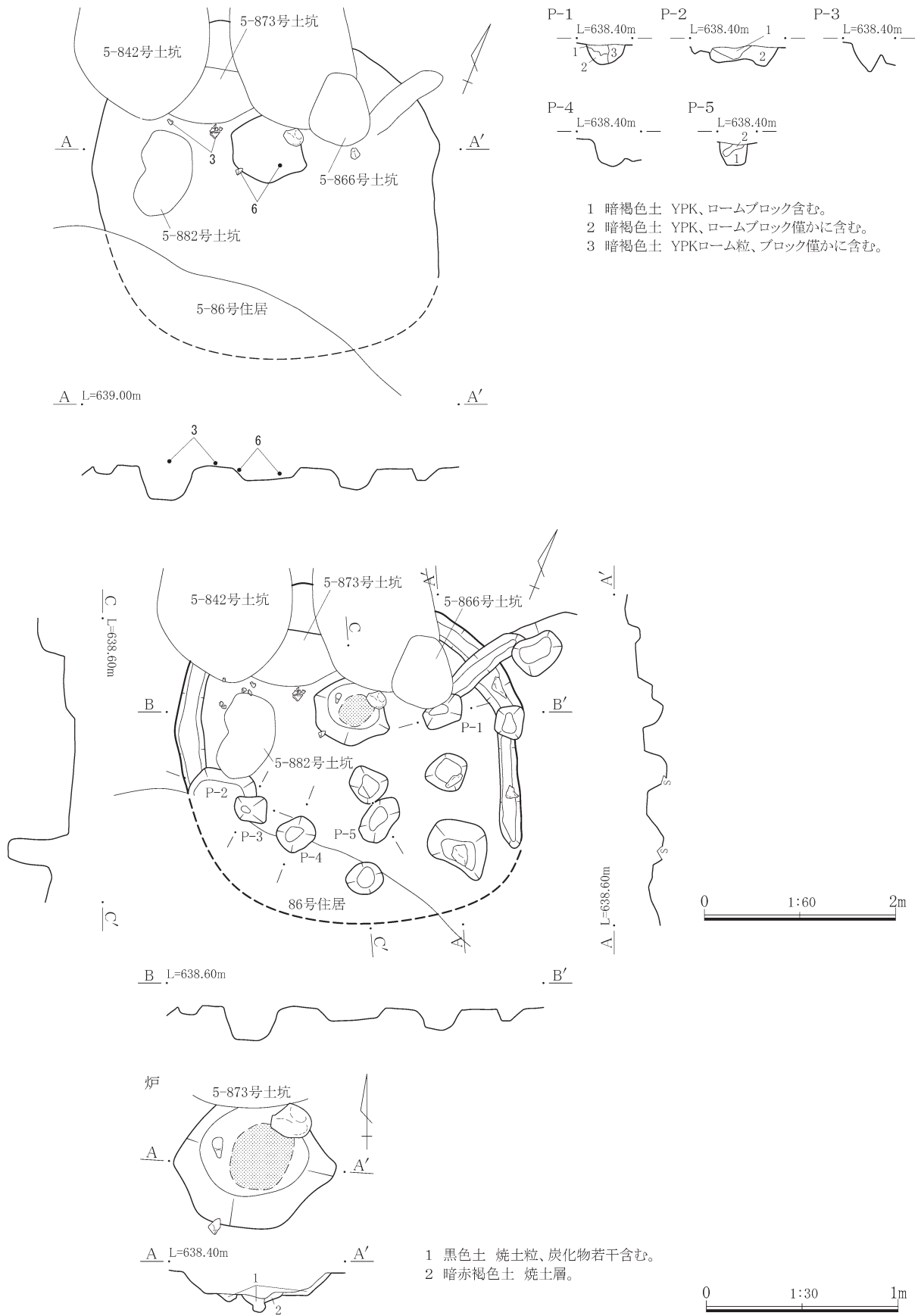
柱穴 南部分に6本を確認したが、対応関係ははっきりと掴めなかった。また北側については重複により検出できなかった。 **埋甕** 検出されなかった。

掘方 土坑等は見られなかった。

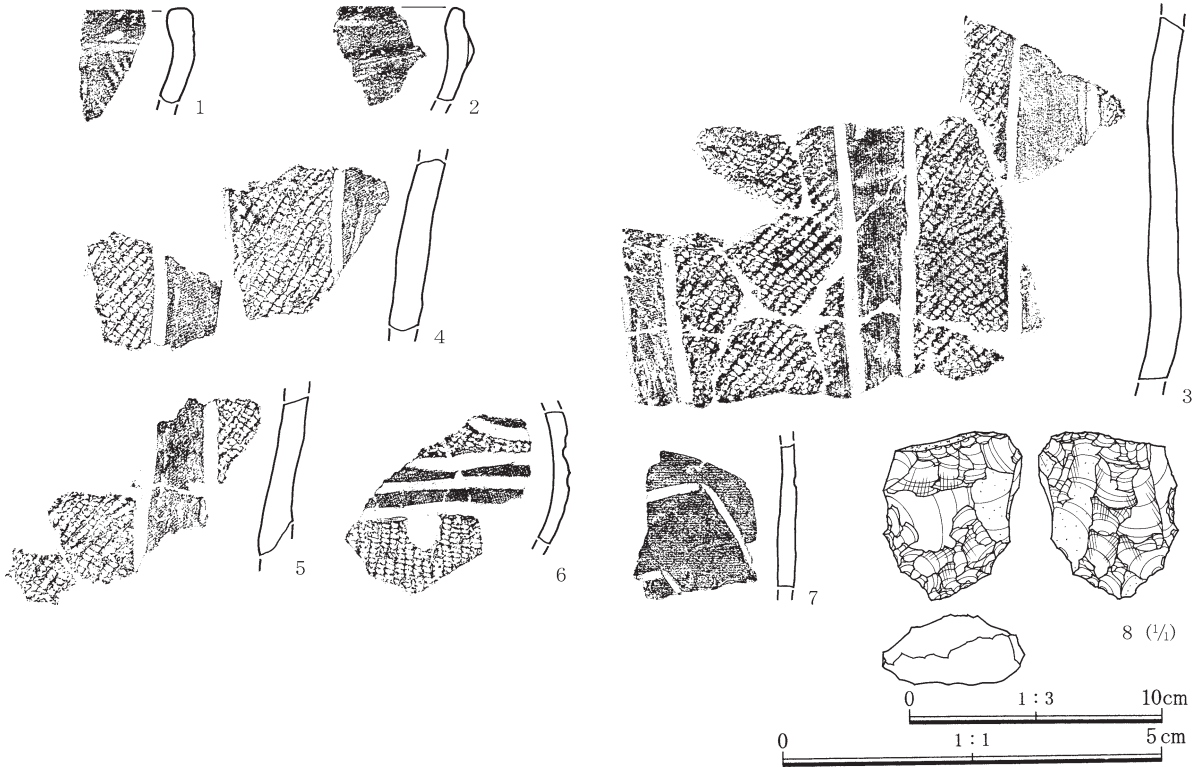
出土遺物 少なかった。僅かに土器小片が見られたのもである。

時期・所見 北側部分には複数の土坑が重複しており、立ち上がりは明瞭ではないが、床面についてはかなり硬質な状況で、比較的良好と言える。かなり小型の住居である。時期は出土土器からおそらく中期後半と判断される。

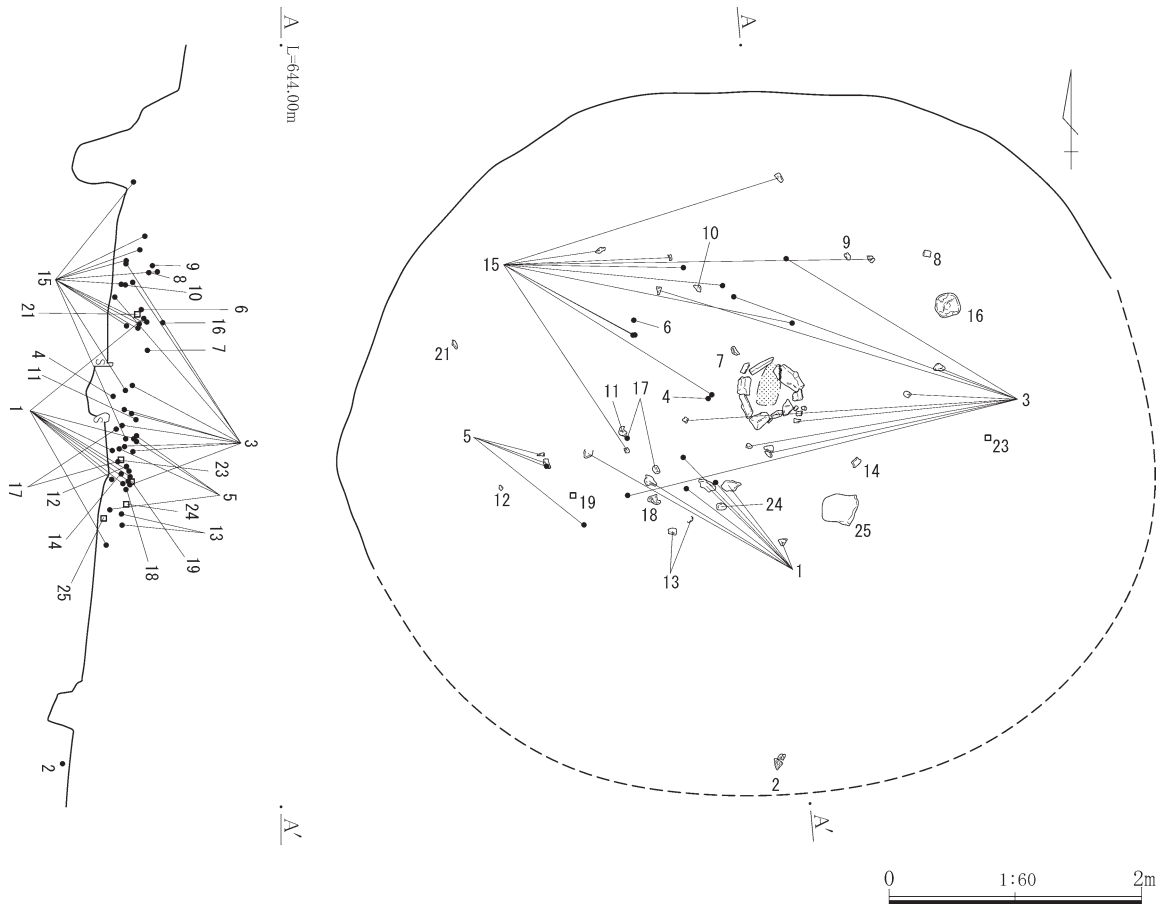
第3章 検出された遺構と遺物



第186図 5-97号住居跡

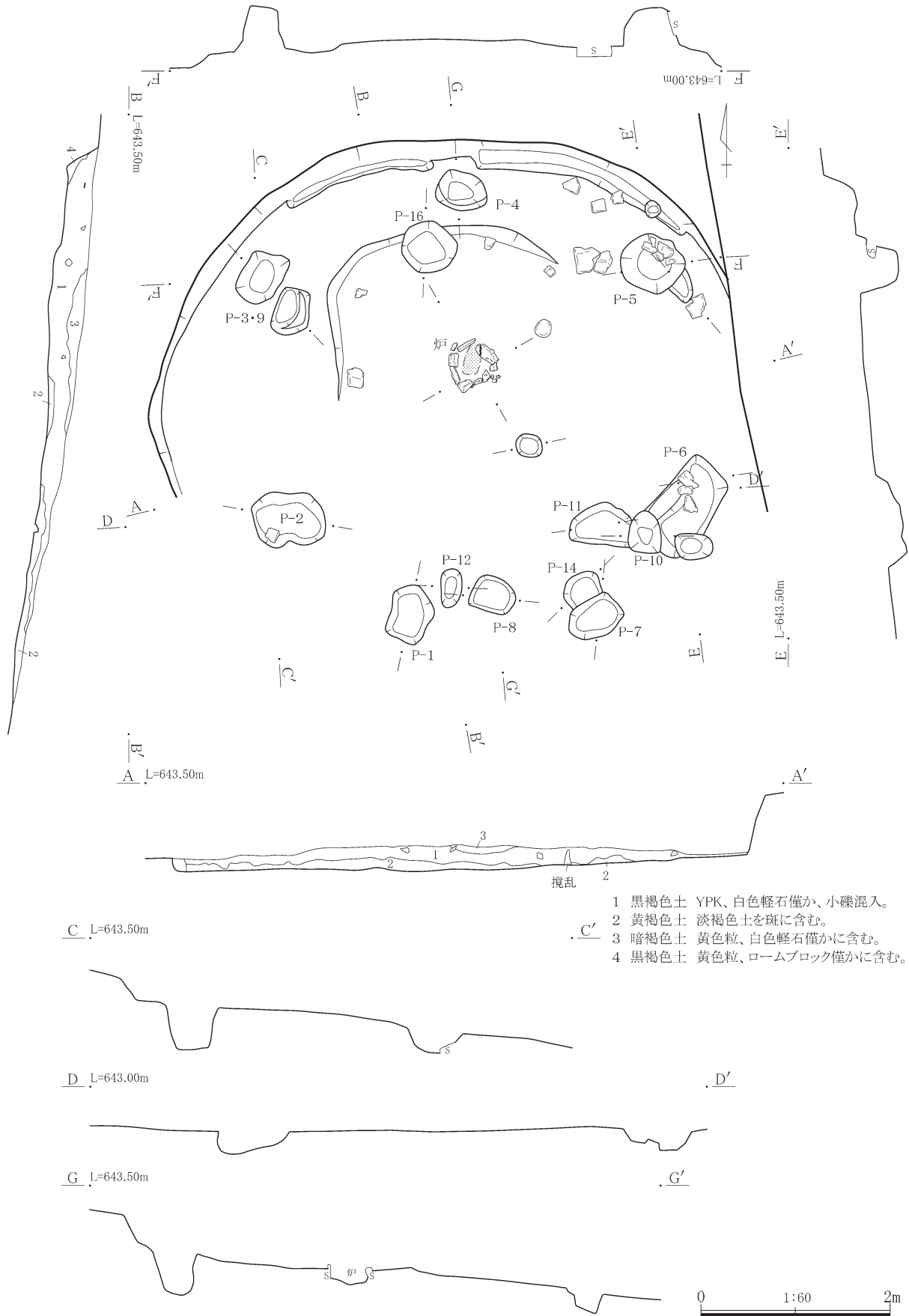


第187図 5-97号住居跡出土遺物

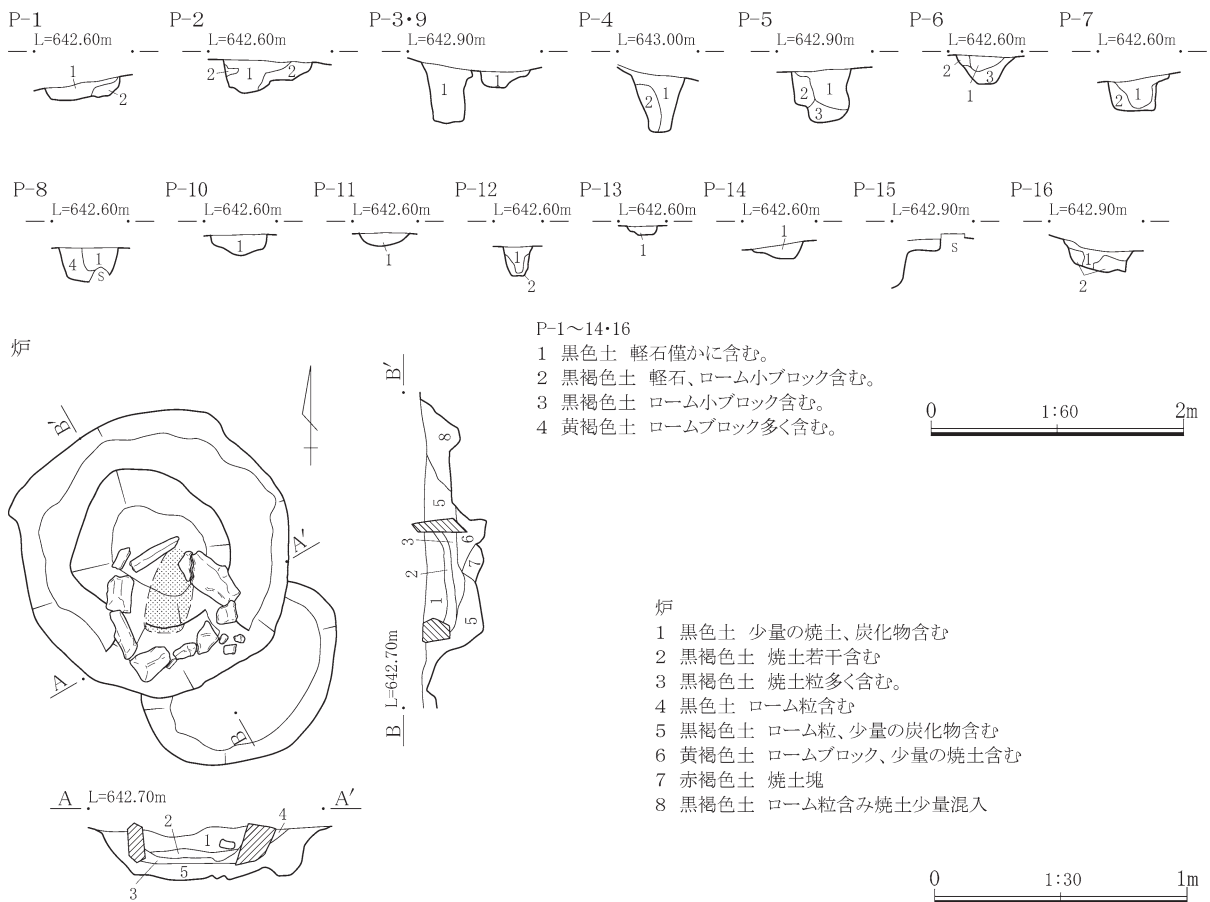


第188図 5-98号住居跡(1)

第3章 検出された遺構と遺物



第189図 5-98号住居跡(2)



第190図 5-98号住居跡(3)

5-98号住居跡 (第188～192図：PL30・149・150)

位置 Q・R-24・25 重複 東端が僅かに調査区外に入る。

形状 円形を呈すと思われる。南側の壁は削られている。 規模 (550)×600×25cm。

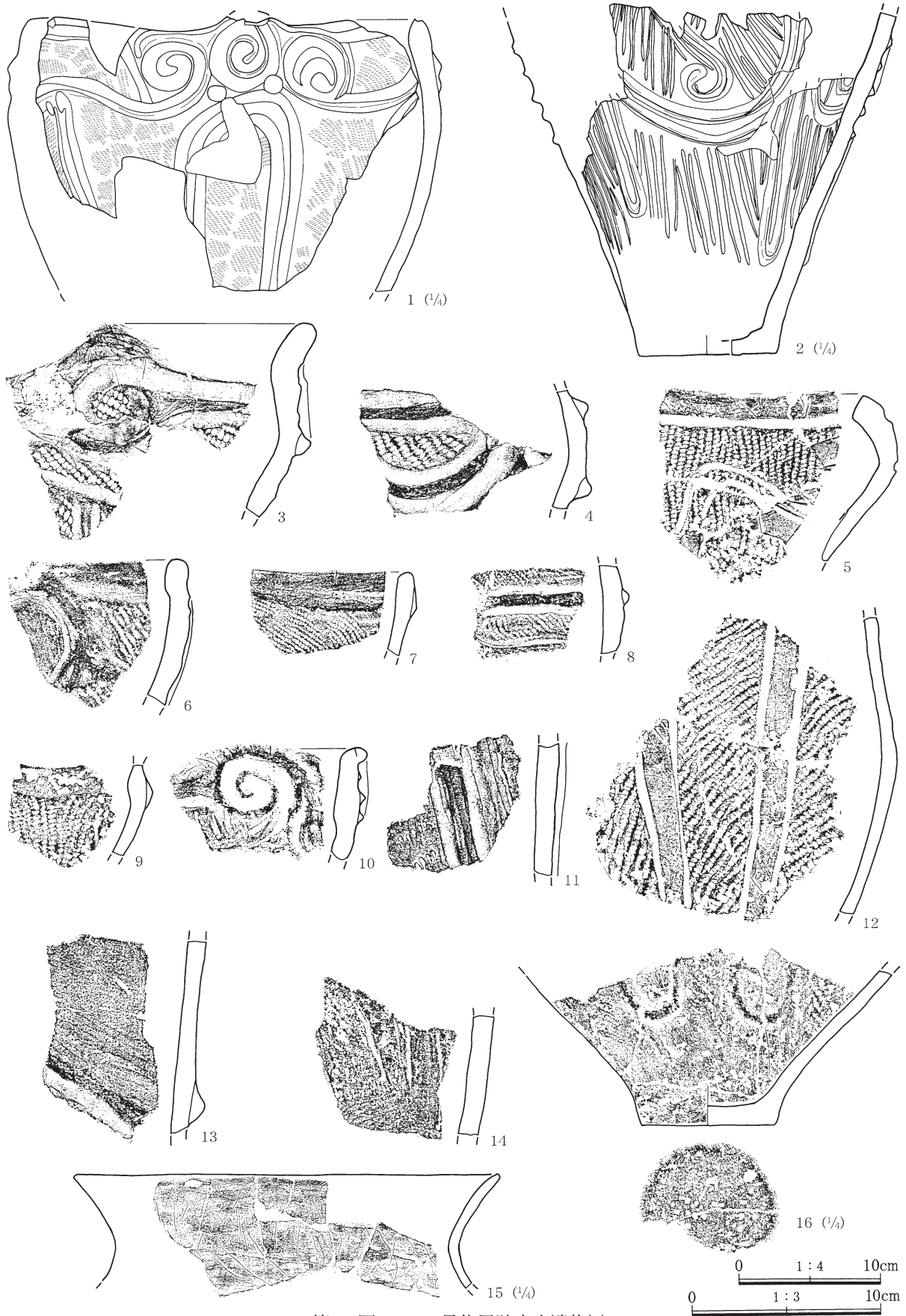
方位 N-29°-W 床面 北側がやや高くなっており、炉と北壁間に約10cm程の弧状に段差が見られ、全体に南に緩く傾斜を持つ。炉の周囲は平坦で、貼り床等は見られなかった。

炉 ほぼ中央に検出された。自然の角礫10個程で方形に組まれた石囲い炉である。規模は一辺が約60cmである。 柱穴 壁内に沿って7本を検出した。長径50cm程の長円形を呈し、深さは約50～20cmである。南側に位置する柱穴が浅くなっているが、上位部分が削平を受けたものと考えられる。

埋甕 検出されなかった。 掘方 特に床下土坑等は検出されなかった。

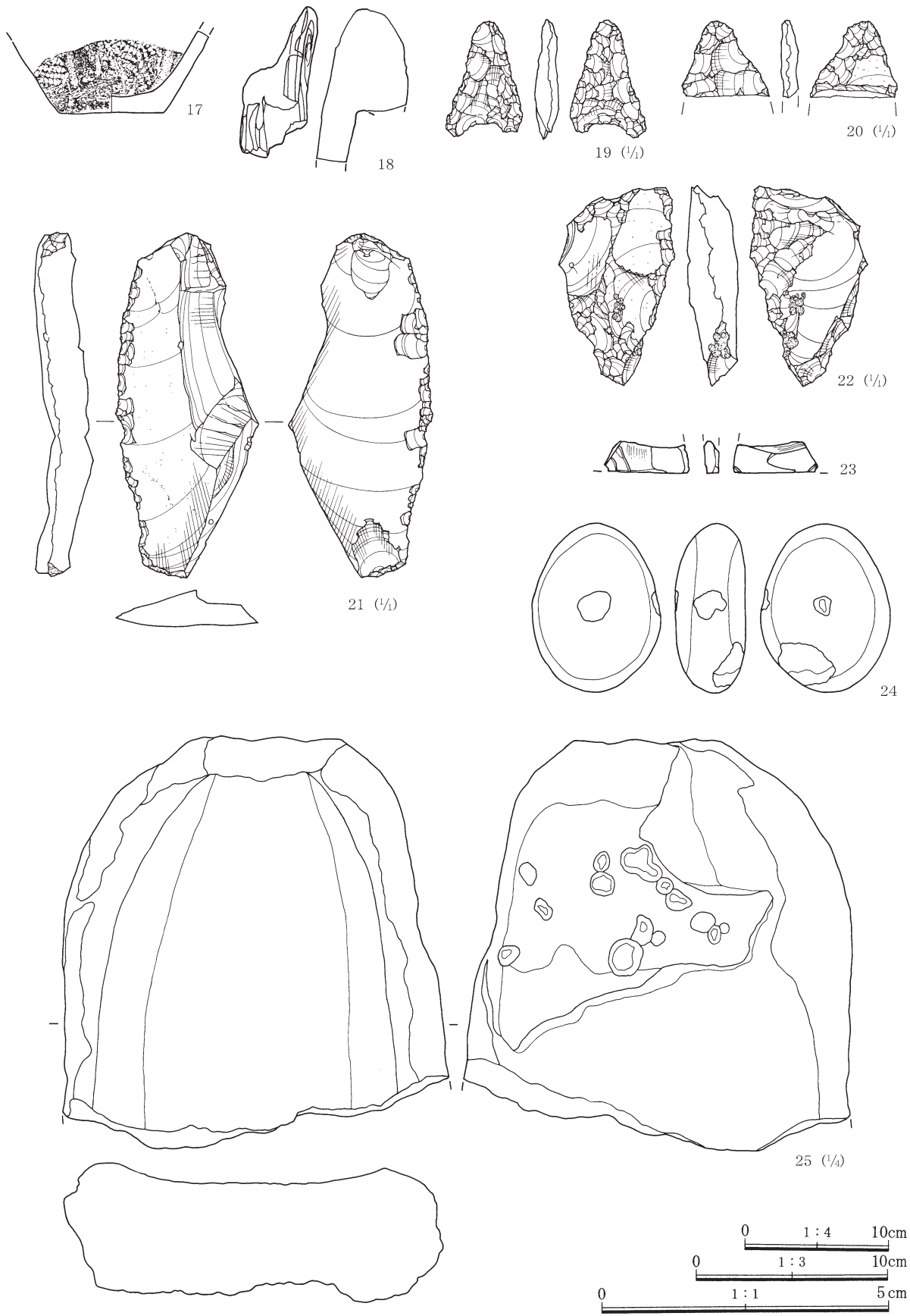
出土遺物 点数はあまり多くはない、遺物は炉の周囲に集中して出土している。1は炉の前面に破片が点在、石器は石鏃の他に黒曜石製スクレイパー21が見られる。また石皿25は炉の手前に置かれた状態で出土している。

時期・所見 5-99号住居跡と並んで調査区内の最も高い場所に作られた住居である。比較的大型の住居であるが全体に上部を削平されている。特に南側が顕著である。住居規模に比して炉が小さく、住居内に段差を持つことや柱穴の配置などから拡張された可能性もある。



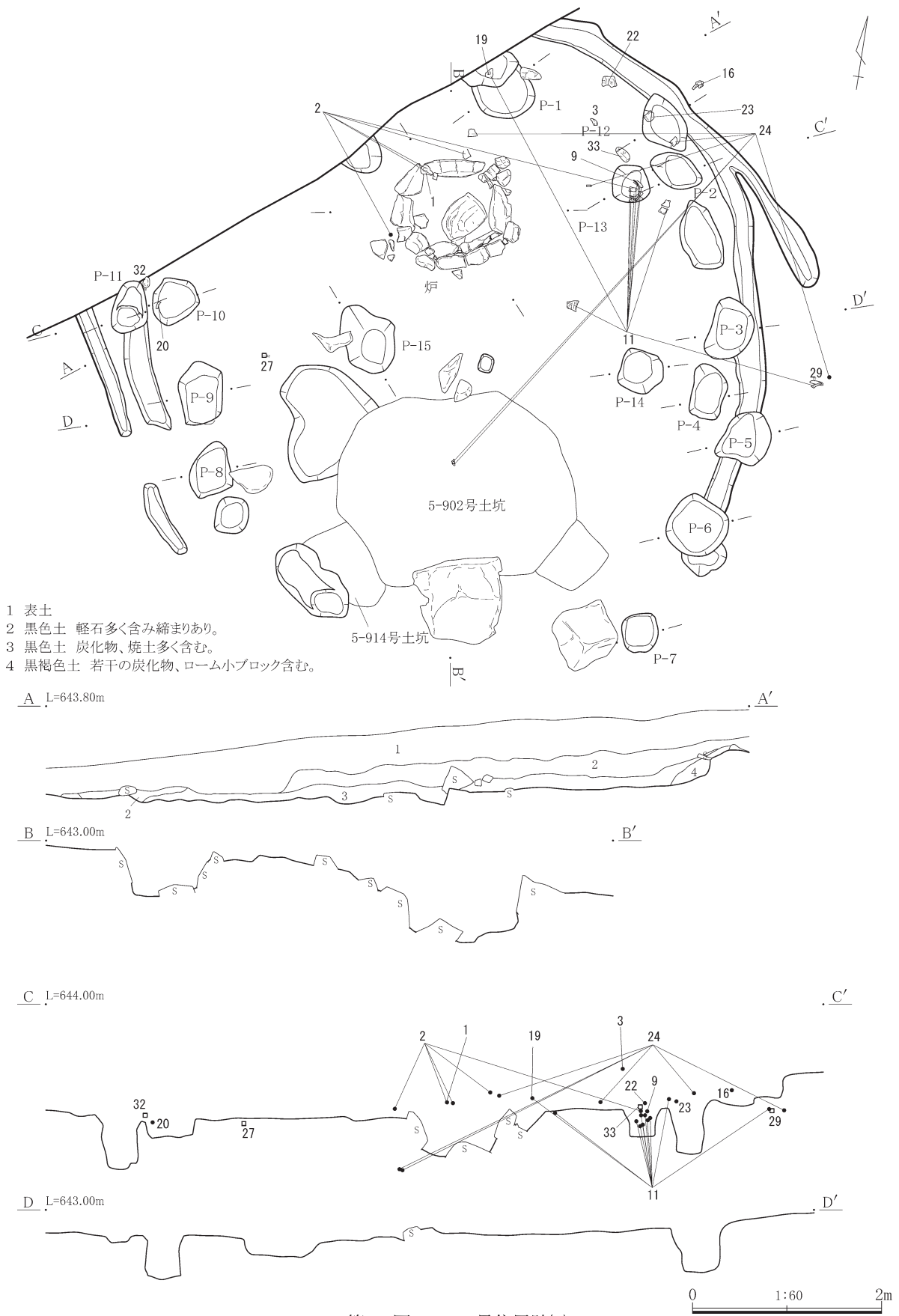
第191図 5-98号住居跡出土遺物(1)

第3節 縄文時代の遺構と遺物



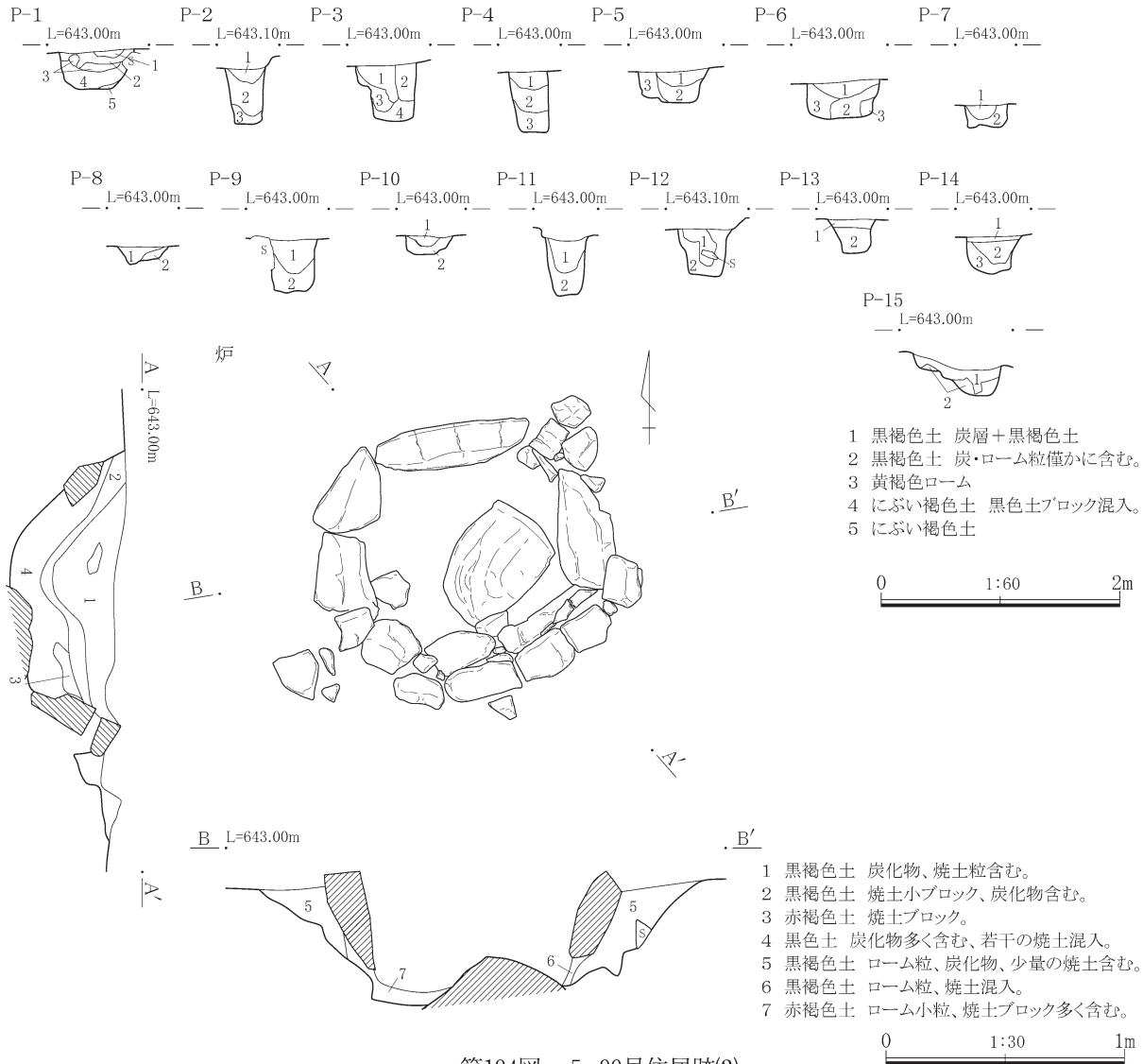
第192図 5-98号住居跡出土遺物(2)

第3章 検出された遺構と遺物



第193図 5-99号住居跡(1)

第3節 縄文時代の遺構と遺物



第194図 5-99号住居跡(2)

5-99号住居跡 (第193~197図: PL31・150・151)

位置 S・T-23~25、U-23・24グリッドに位置する。 **重複** 南部分に5-902・913~915・917号土坑が重複する。北西部分の一部は調査区外に在り未調査である。

形状 円形ないしは柄鏡形か。 **規模** 725×700×72cm。 **方位** N-8°-W

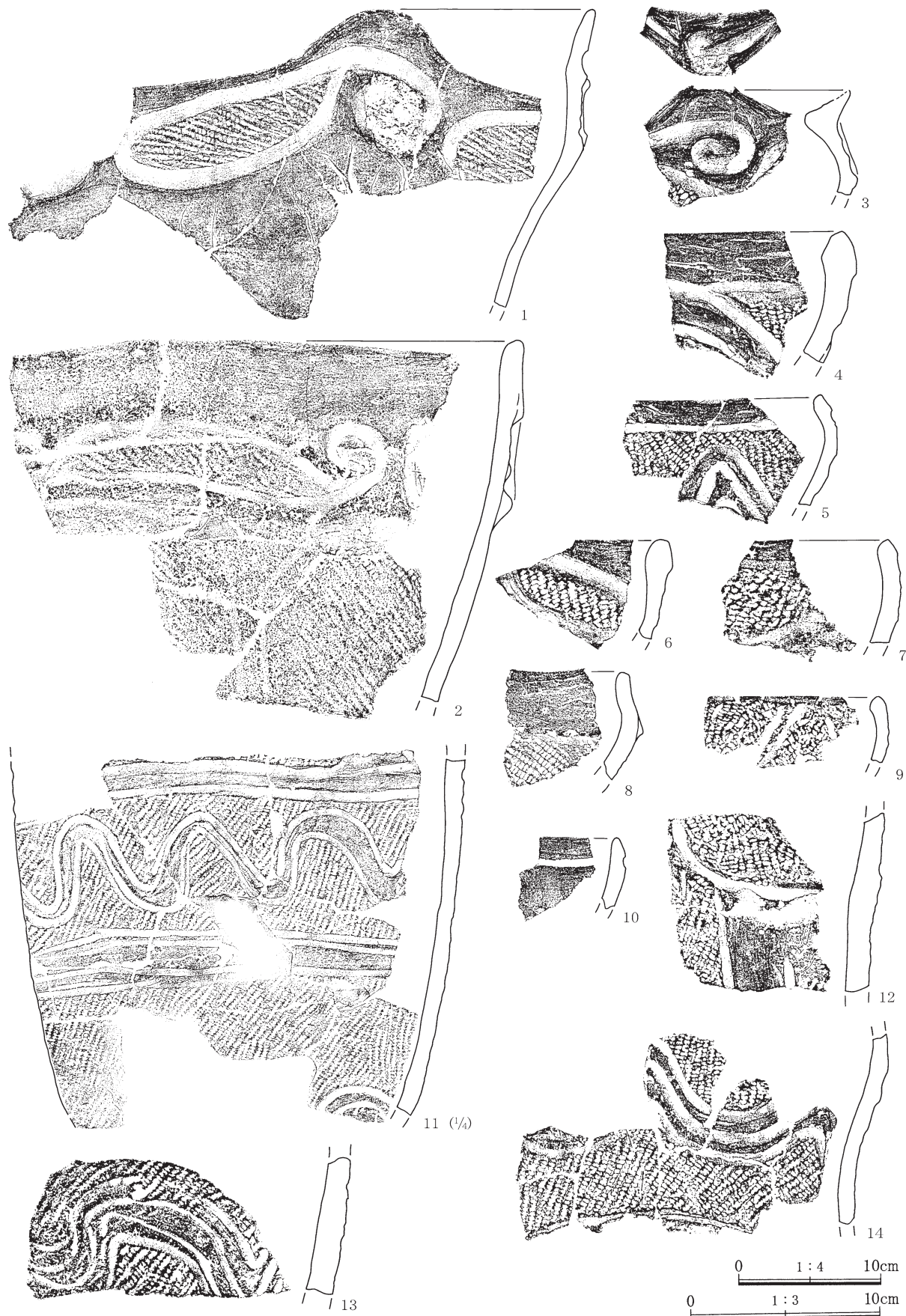
床面 凹凸が目立つ。特に南側は土坑等の重複もあり、やや荒れている。また南側を除き周溝が廻る。地山に含まれる大型の礫が所々露出している。 **炉** 中央やや北寄りに作られている。検出時には中に礫が投げ込まれた状況であった。炉石は大形の自然礫を、ほぼ方形に組んだ石囲い炉である。一辺およそ130cmとかなり大きく掘り込みも深い。また底面には地山の大きな礫の頭が露出していた。

柱穴 周溝に沿って12本を検出した。 **埋甕** 検出されなかった。

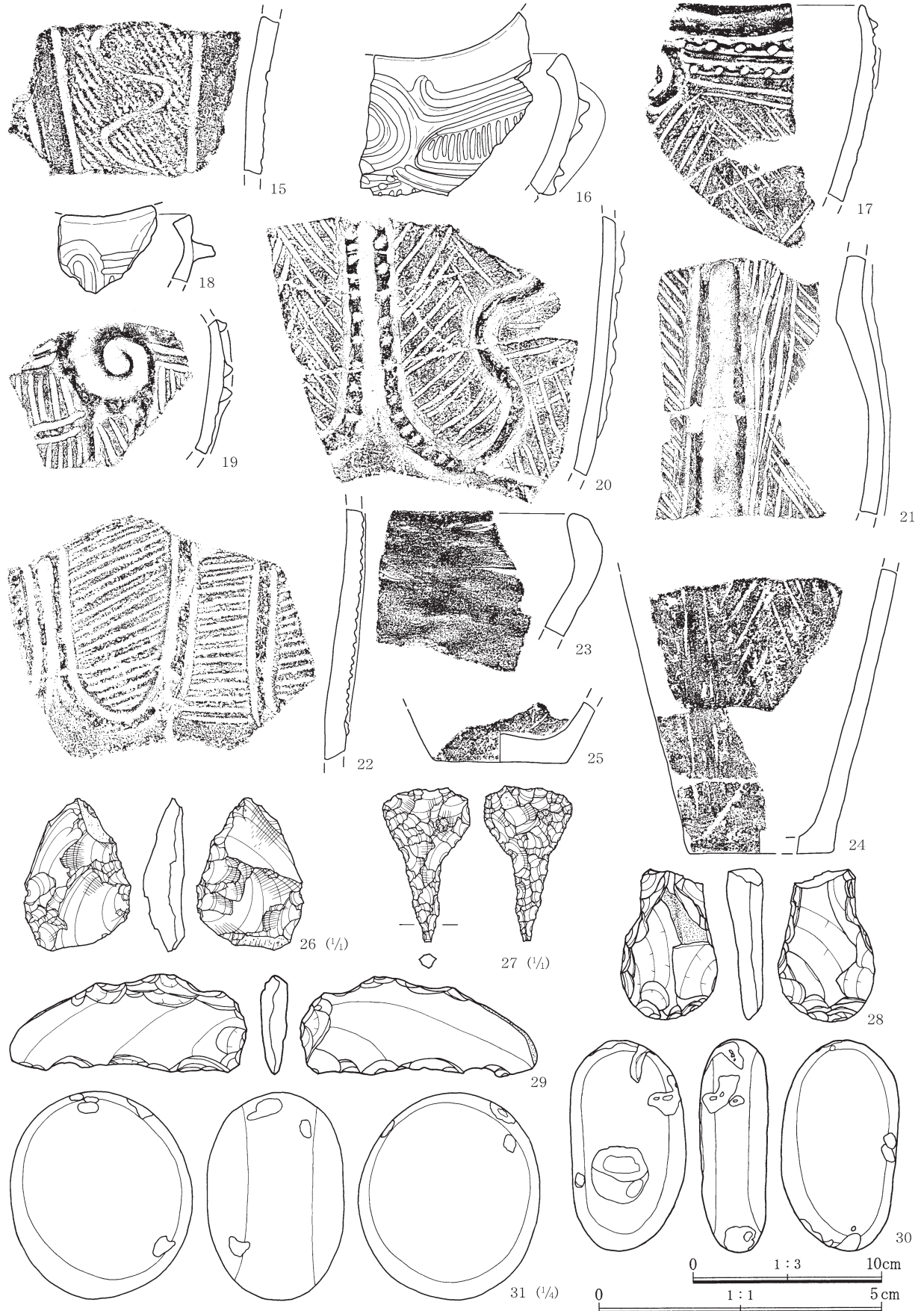
掘方 掘り込みはほとんど見られなかった。

出土遺物 炉の周辺および東寄りに集中して出土が見られたが、点数は少ない。

時期・所見 北西部分が一部未調査である。比較的大型の住居で調査区内では最も高い場所に作られている。炉は大きく、掘り込みも深く作られている。時期は加曽利E3式期と思われる。

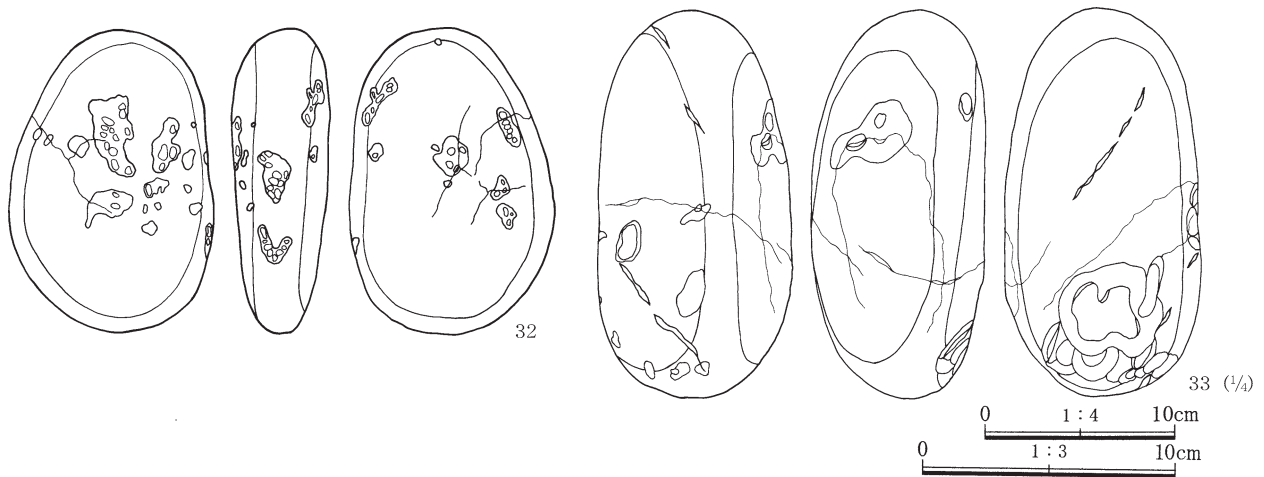


第195図 5-99号住居跡出土遺物(1)



第196図 5-99号住居跡出土遺物(2)

第3章 検出された遺構と遺物



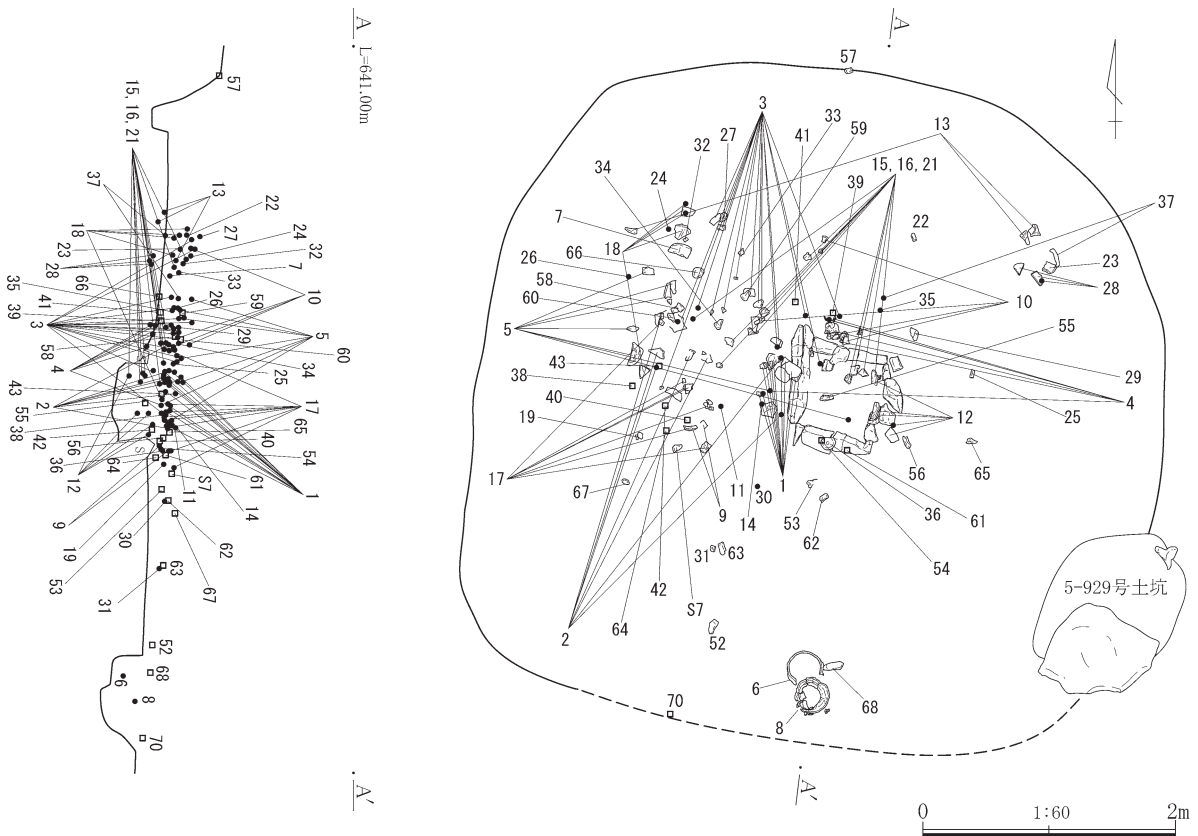
第197図 5-99号住居跡出土遺物(3)

5-100号住居跡 (第198~206図: PL32・33・151~153)

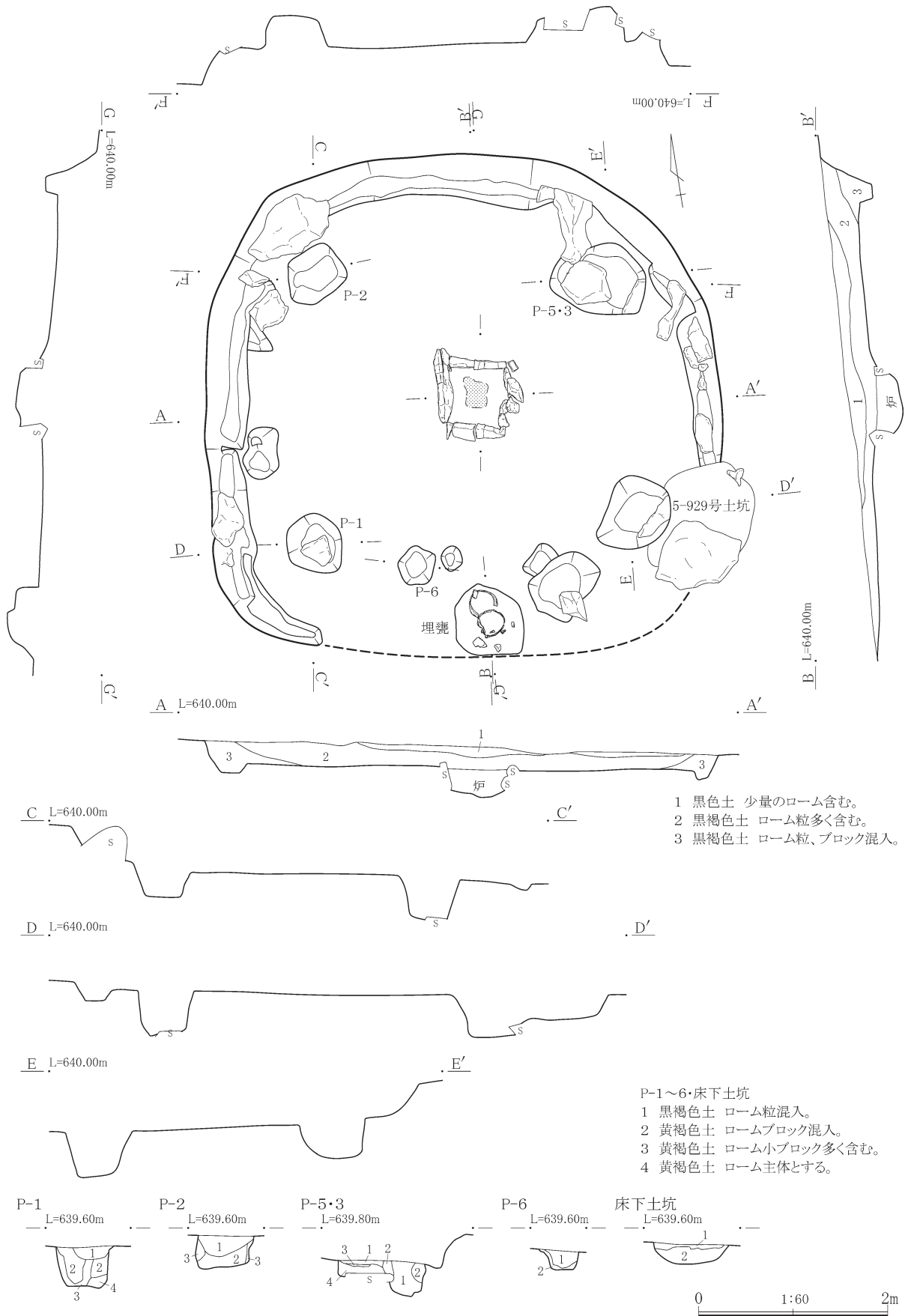
位置 T~V-18・19グリッドに位置する。 重複 南東部に5-929号土坑が重複する。

形状 やや丸みを呈す隅丸方形。 規模 550×(540)×30cm。 方位 N-11°-E

床面 掘り込まれた地山に大型の礫が含まれており、壁際に露出した状態で残されている。炉の周辺は平坦で良く踏みしめられている。 炉 ほぼ中央に位置している。地山に含まれる大型角礫を四角に組んでいる。炉石は火を受け、ひび割れが顕著である。 柱穴 4本主柱穴と思われる、径は50~60cmで深さは約50cmである。 埋甕 炉の南側、入り口部に南北に2個体が一部重なるように並んで検出された。いずれ

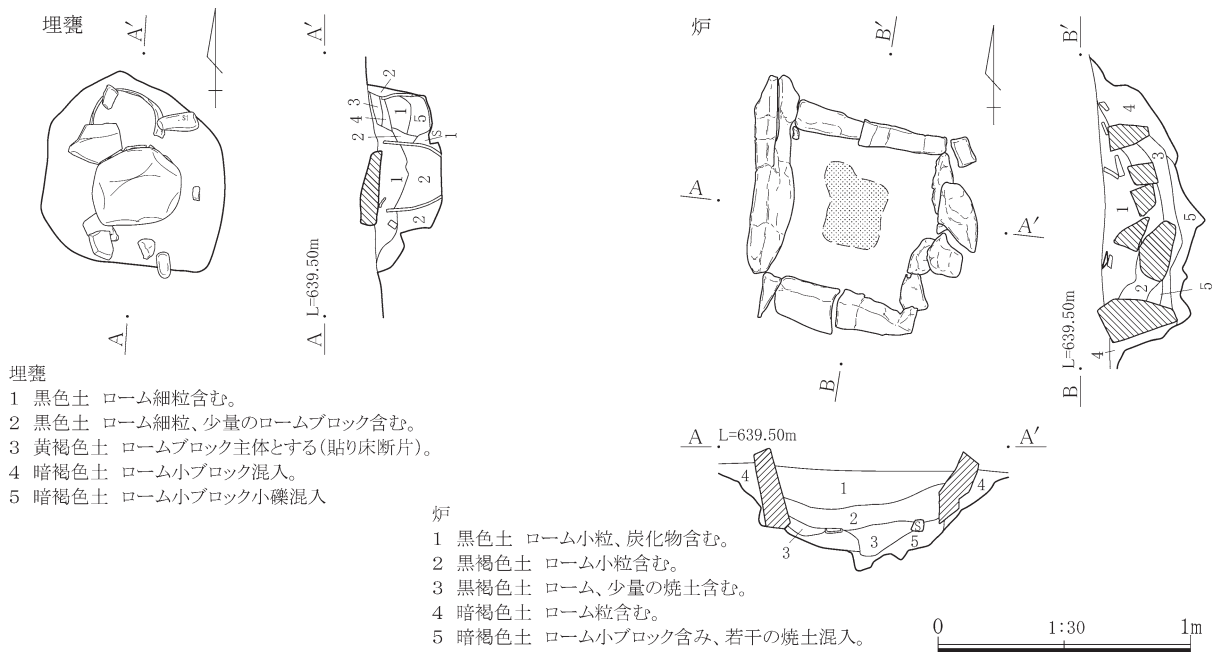


第198図 5-100号住居跡(1)



第199図 5-100号住居跡(2)

第3章 検出された遺構と遺物

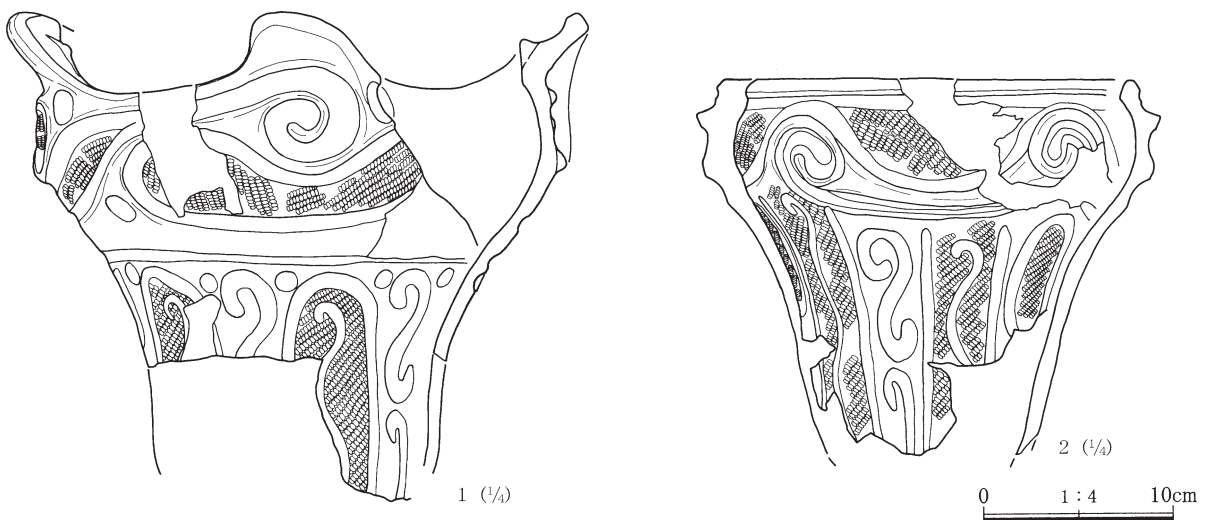


第200図 5-100号住居跡(3)

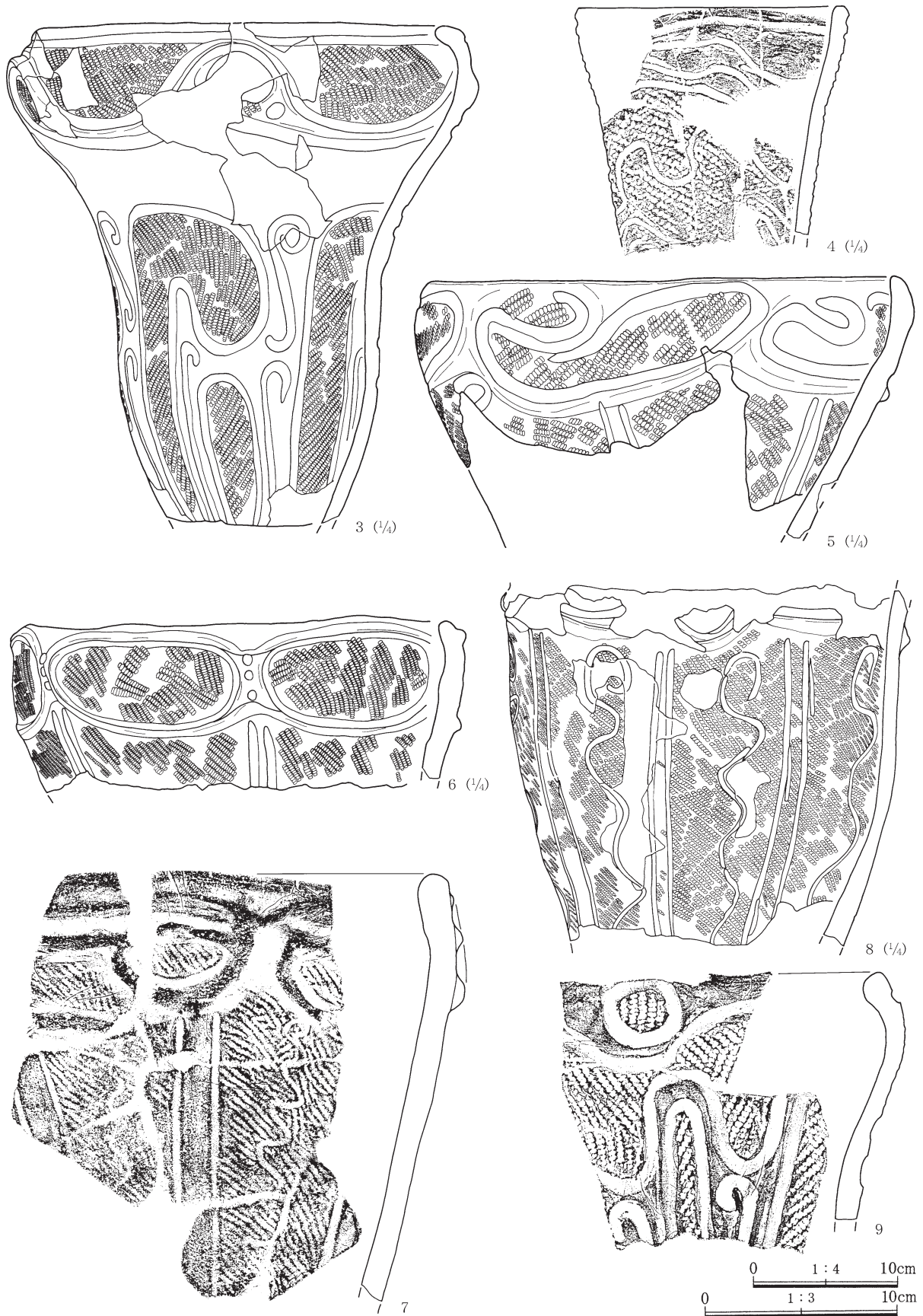
も口縁、底部を欠いた深鉢の胴部で、正位に埋められていた。南側の埋甕には蓋石として平らな石が上に置かれていた。掘方 住居南側の埋甕を挟んで、浅い小ピットが検出された他には見られない。

出土遺物 土器片等が多く見られた、特に炉の北西部分に集中して出土。また、クルミと見られる炭化種実が出土している。石器類は石鏃、石錐などの他に打製石斧が多く見られる。さらに軽石製品69や垂飾品の未製70と思われるものが出土している。

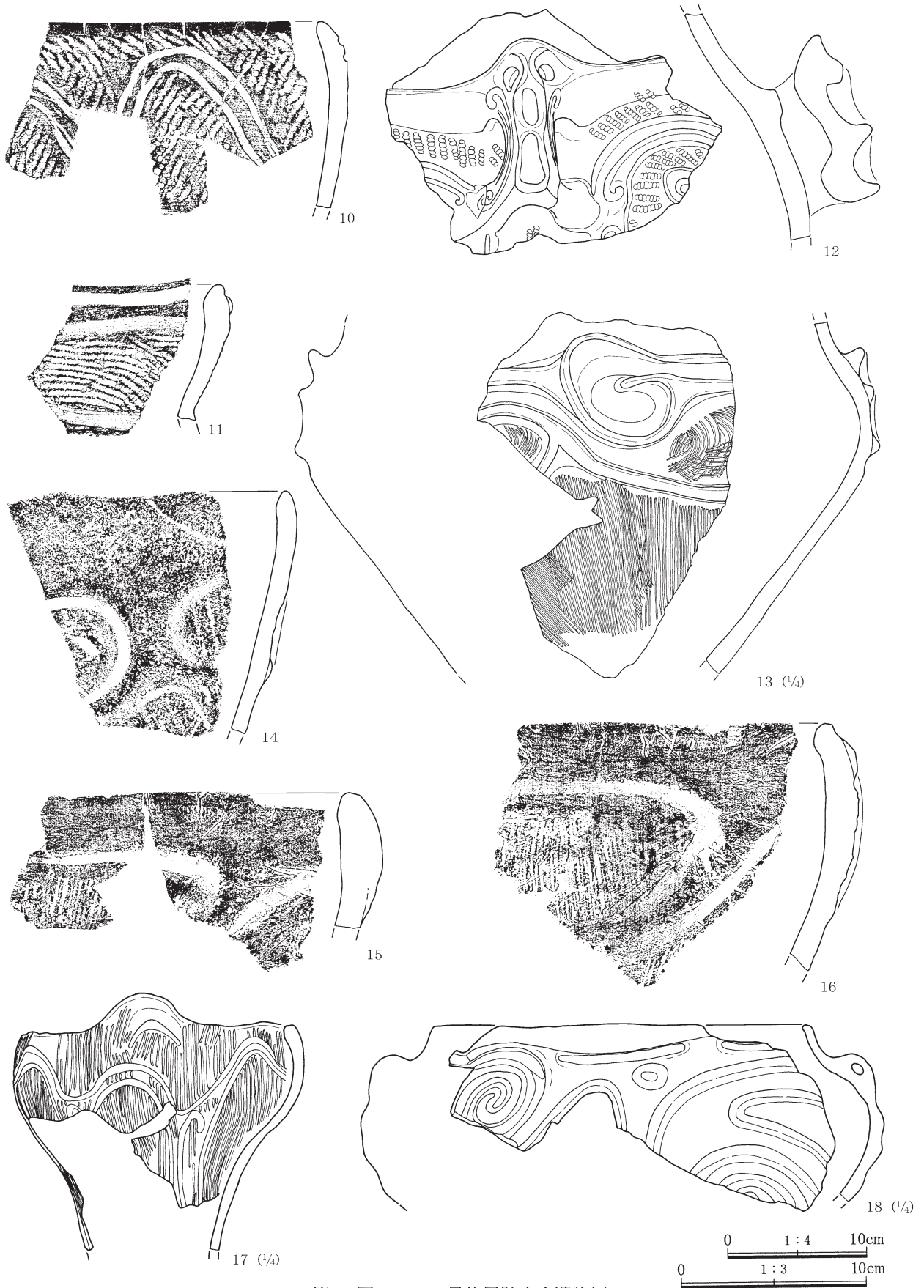
時期・所見 遺存状態は比較的良好であった。南側の入り口部に2個の埋甕が接した状態で検出されている。上に蓋石と思われる平らな石が出土している。時期は加曾利E3式期である。



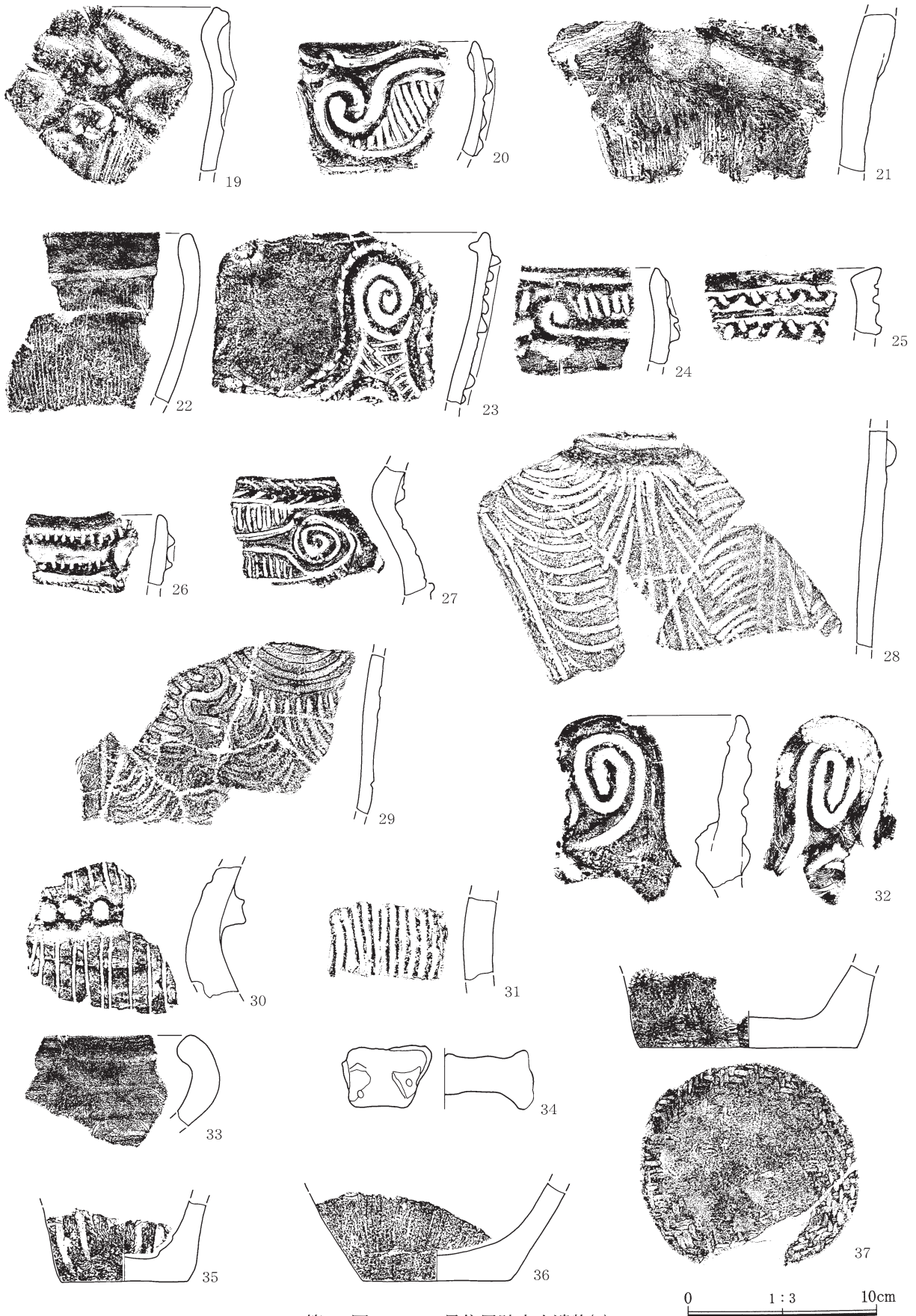
第201図 5-100号住居跡出土遺物(1)



第202図 5-100号住居跡出土遺物(2)



第203図 5-100号住居跡出土遺物(3)

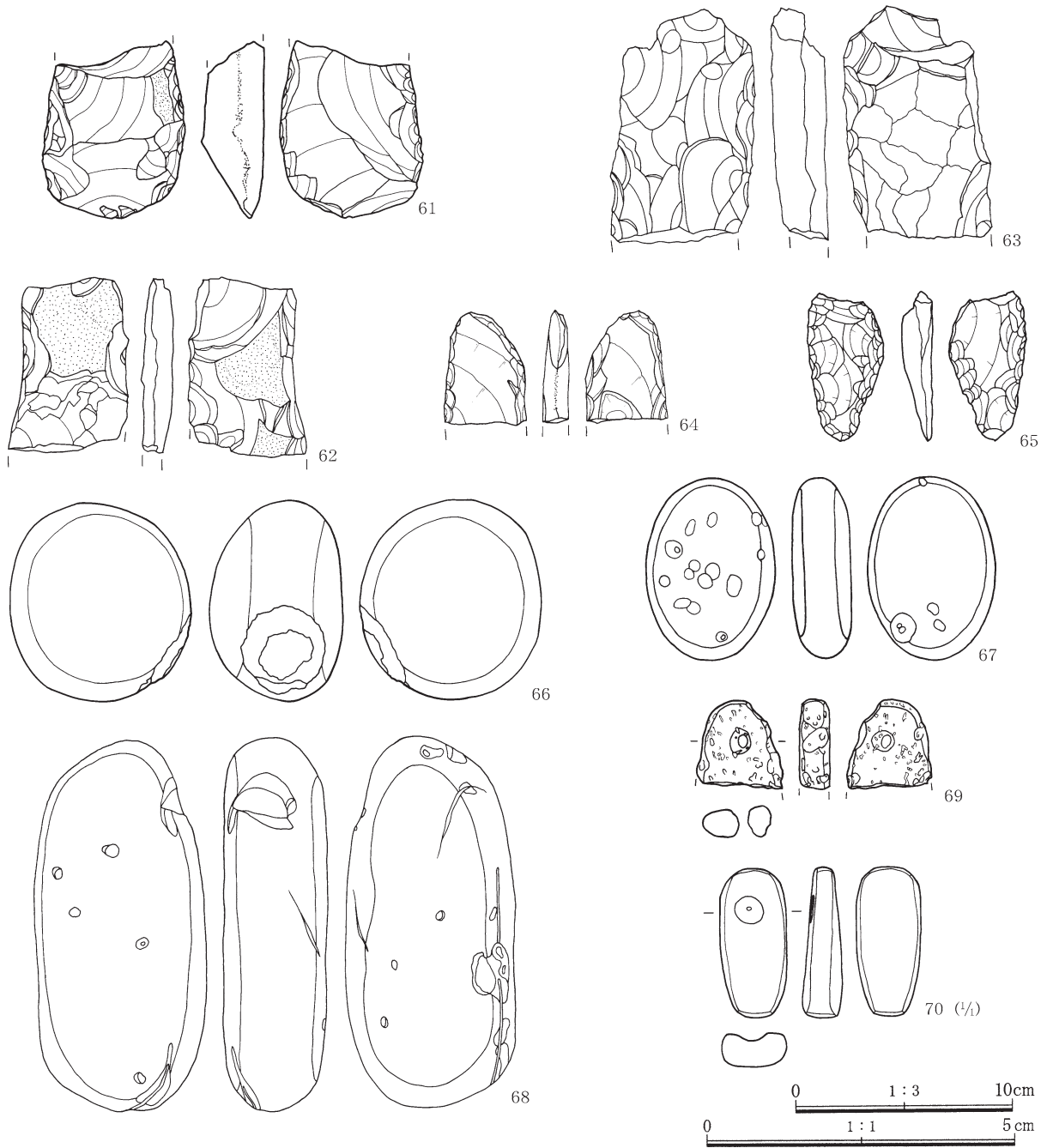


第204図 5-100号住居跡出土遺物(4)

第3章 検出された遺構と遺物



第205図 5-100号住居跡出土遺物(5)



第206図 5-100号住居跡出土遺物(6)

第3章 検出された遺構と遺物

5-101号住居跡 (第207~212図: PL33・34・153・154)

位置 5区の西端、V・W-18・19グリッドに位置する。 **重複** 住居内にすっぽりと収まる形で小型の5-107号住居跡が本址を切って作られている。さらに南側には水道敷設溝が東西に走っている。

形状 円形と思われる。 **規模** 700×(700)×40cm。 **方位** N-0°。

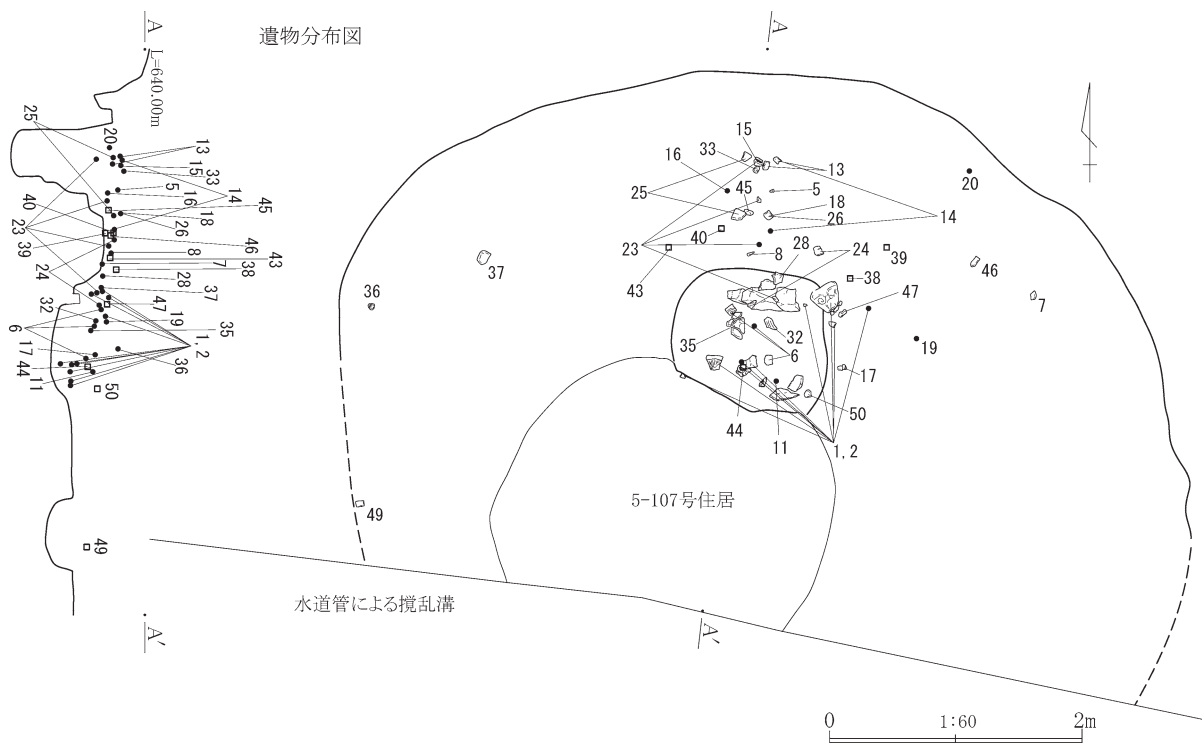
床面 比較的平坦で縮まりを持つ。やや南に傾斜を持つ。また、住居の北東隅に焼土の広がりを見られた。

炉 中央やや北寄りに作られている。一辺ほぼ1mの正方形を呈す掘方と、北側に炉石が検出されている、他の石は抜き取られたものと思われる。底部中央には炉体土器として、口縁部および底部を欠いた小形の深鉢10が据えられており、周囲には焼土が検出されている。炉の南側一部は、5-107号住居跡により壊されている。

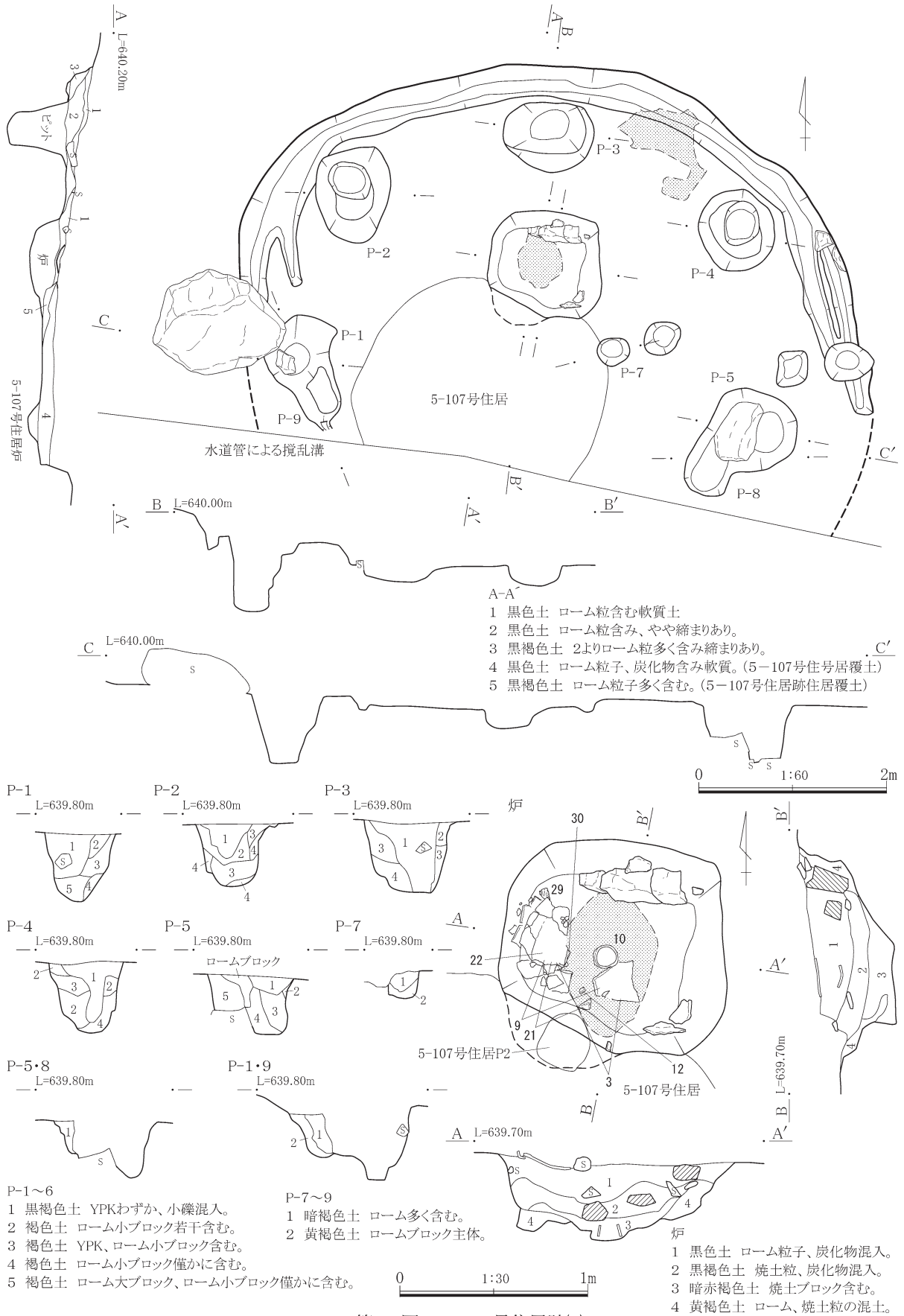
柱穴 北半の壁に沿って径80cm、深さ60~70cmの長円形を呈す柱穴5本が検出された。南側については不明である。 **埋嚢** 検出されなかった。 **掘方** 貼り床や、床下土坑などは見られない。

出土遺物 炉を中心に土器片、石器が集中して出土している。1は炉内および周辺に破片が点在していた。9は大型の鉢形土器である。炉内より出土している。石器類は石鏃、石錐、打製石斧等が出土しているが磨石類は見られない。

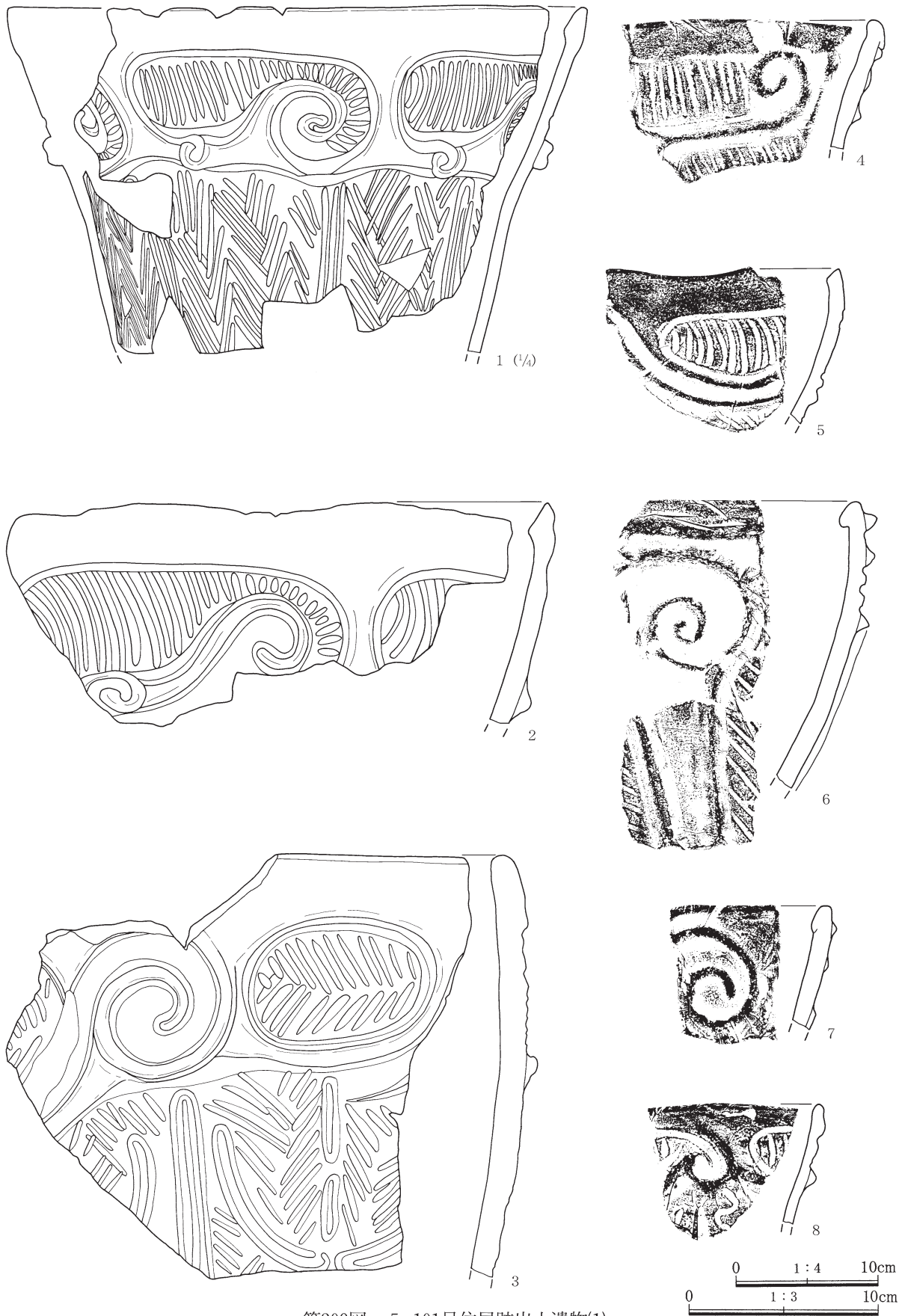
時期・所見 径7mを測る比較的大型の住居であるが、南側については他の住居や水道管敷設溝により詳細は不明である。西壁に掛かって地山の大型礫が住居内に露出している。前述したように、ほぼ中央に小型の5-107号住居跡が入れ子状態で作られており、5-78・82号住居跡と同様である。出土した土器のほとんどが信州系であるという特徴が見られる。時期は曾利3式期。



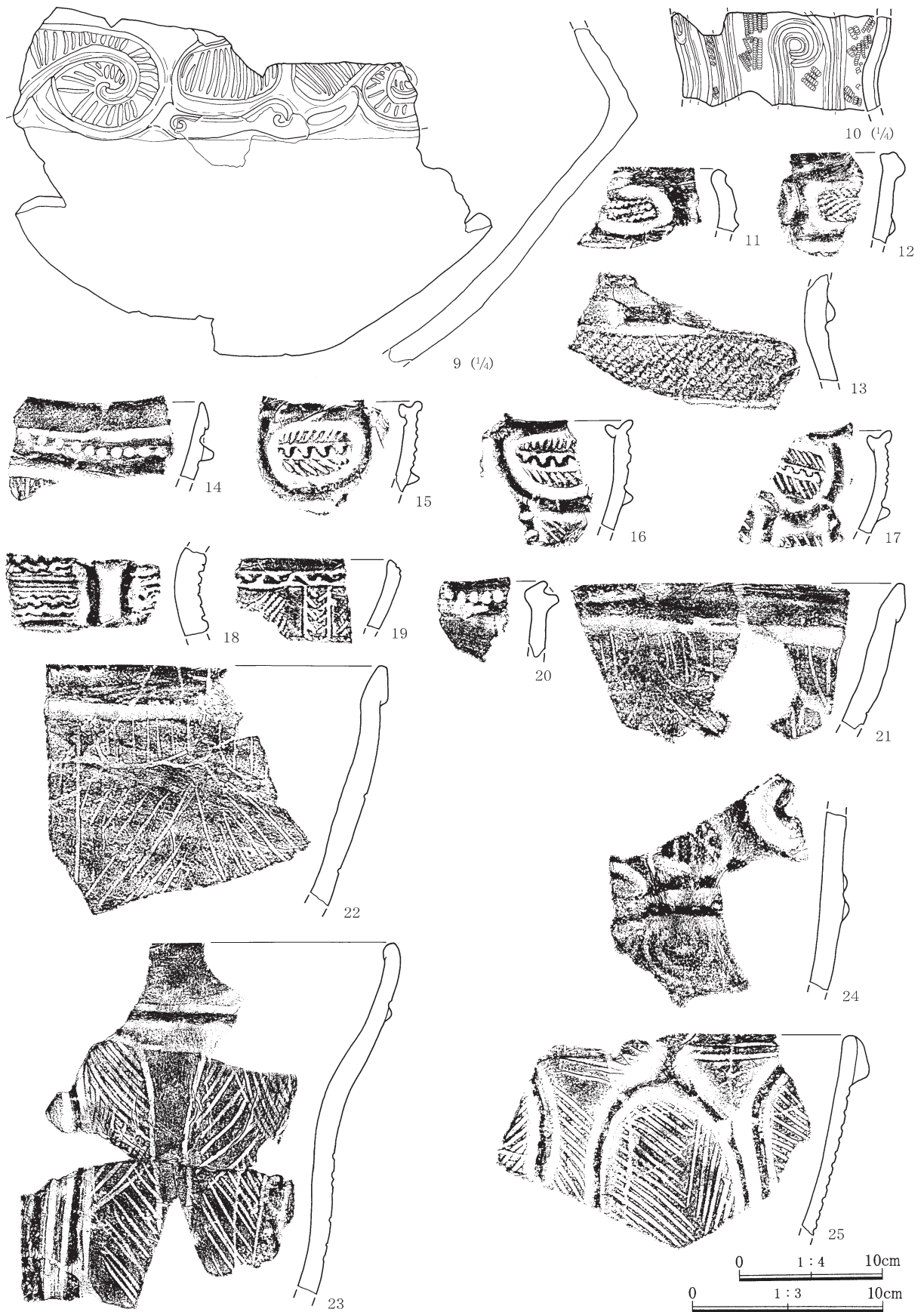
第207図 5-101号住居跡(1)



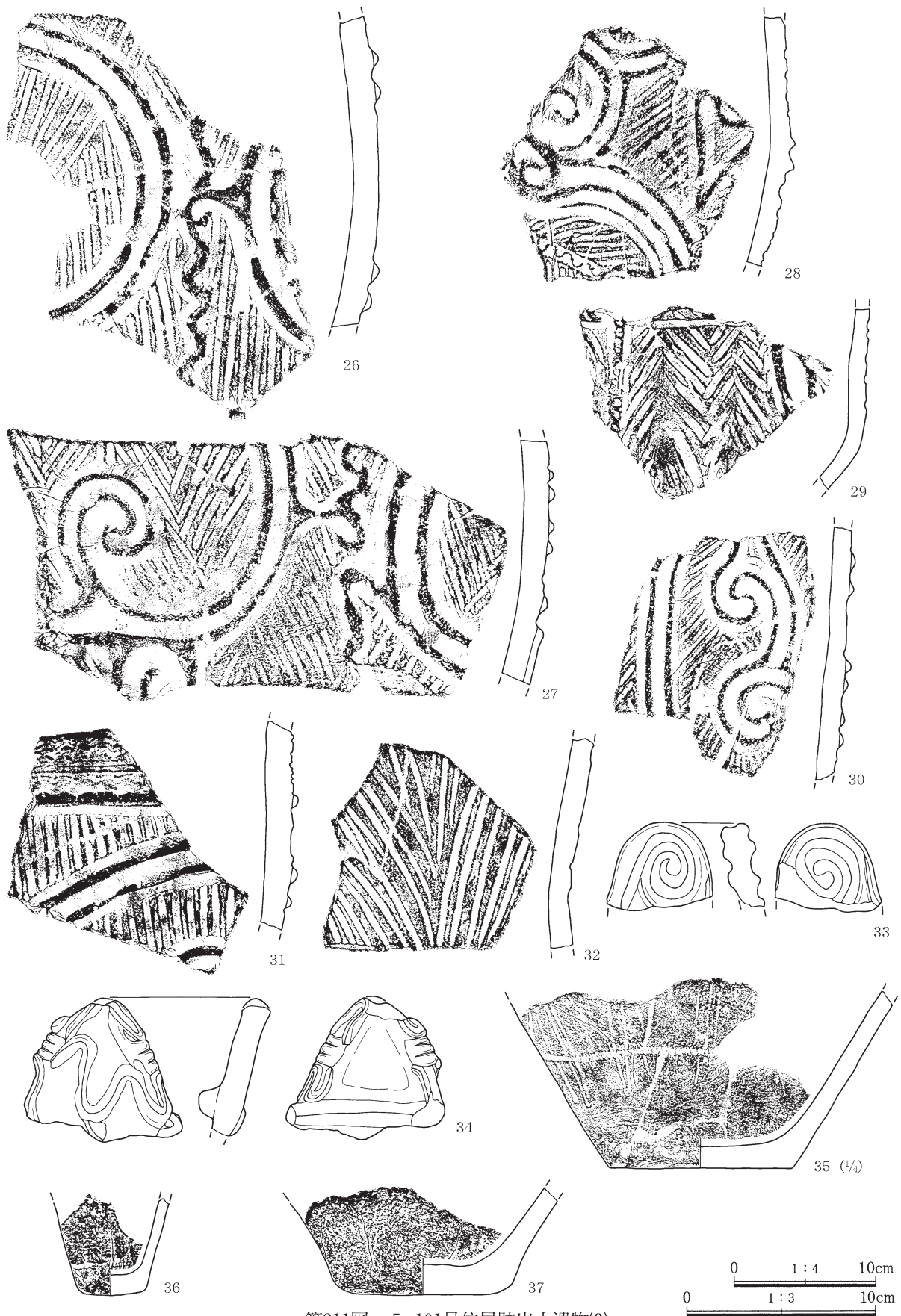
第208図 5-101号住居跡(2)



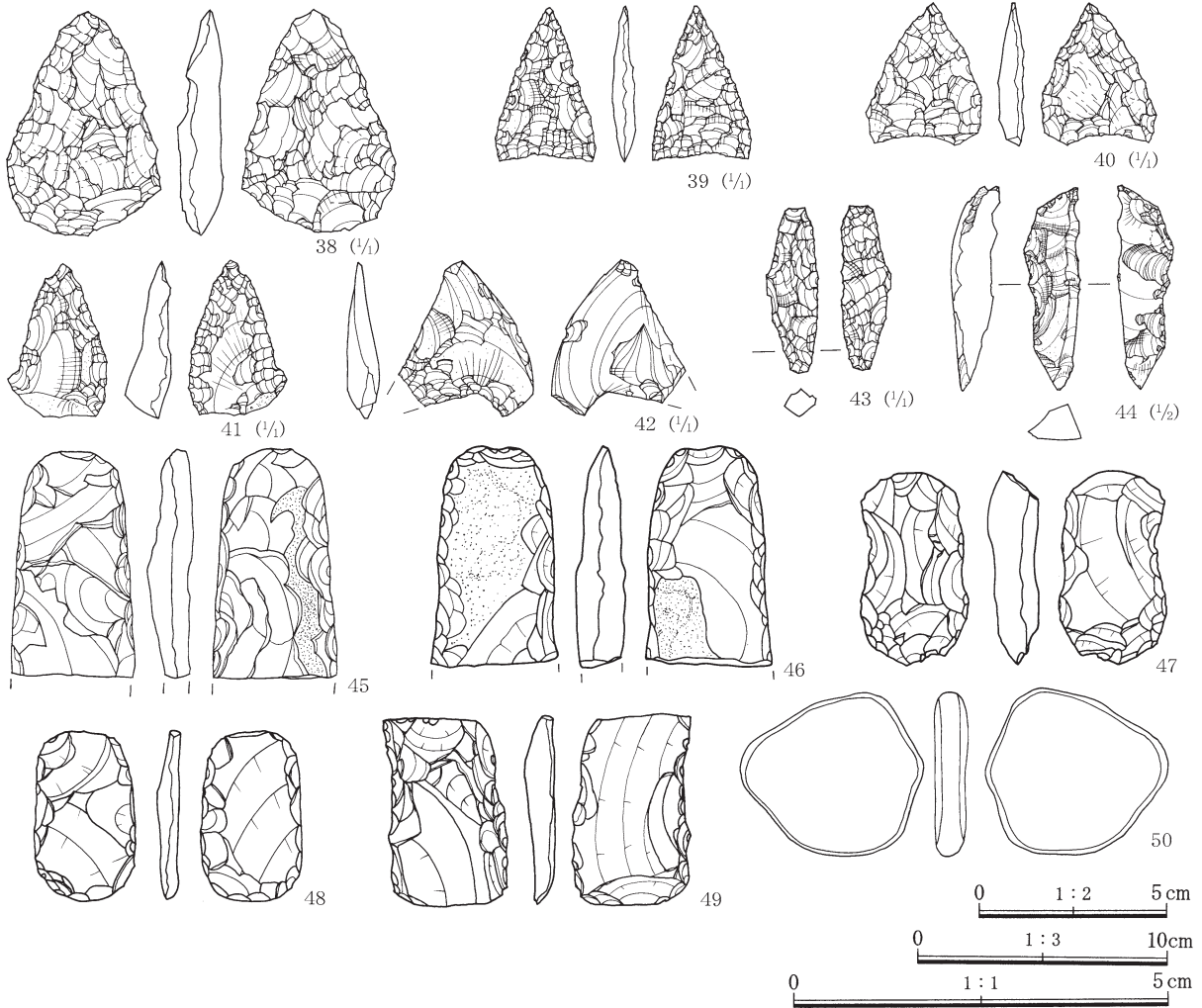
第209図 5-101号住居跡出土遺物(1)



第210図 5-101号住居跡出土遺物(2)



第211図 5-101号住居跡出土遺物(3)



第212図 5-101号住居跡出土遺物(4)

5-102号住居跡 (第213・214図：PL34・154・155)

位置 L・M-18・19グリッドに位置する。 **重複** 5-81号住居跡にほぼ重なるように作られている。

さらに、西側については5-95号住居跡と一部重複する。 **形状** 円形と見られる。

規模 (560)×(550)×— **方位** 不明。

床面 使用面としての床は確認できなかった。かなり凹凸が著しい。北壁側の周溝が途切れ途切れにはあるが確認されている。 **炉** ほぼ中央の下面に焼土を伴った、長径80cm、短径60cmの落ち込みが検出されており、炉と考えられる。炉石、炉体土器などは見られない。上部をかなり削平された状況であった。

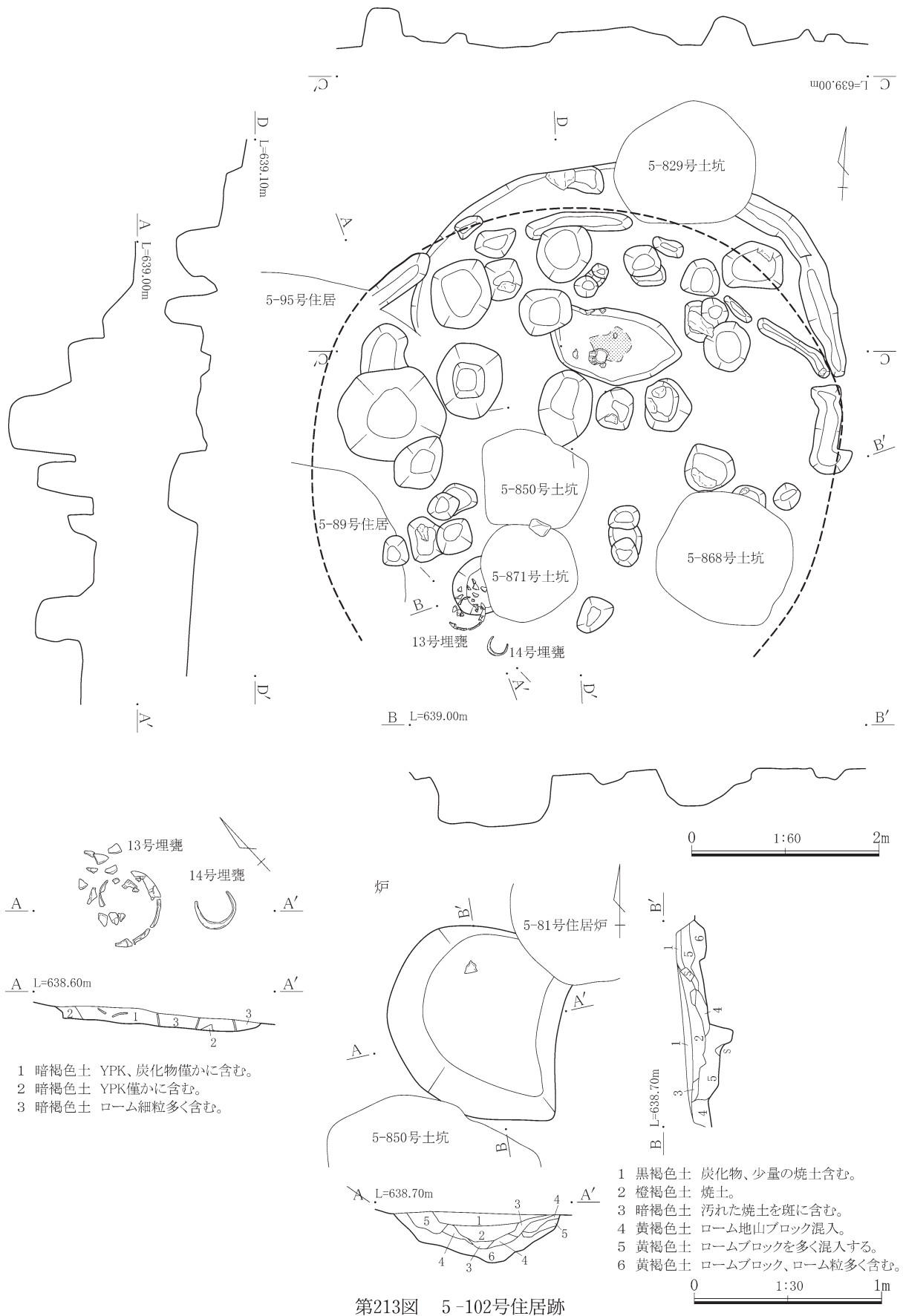
柱穴 6ないしは7本と考えられるが、南側について失われているものもあるため確定は難しい。

埋甕 中央やや南寄りに1基、南西部に並んで大小2基(5-13・14号埋甕)の計3基が検出された。いずれも深鉢の胴部である。 **掘方** いくつかのピット等が検出されているが重複する住居の柱穴に相当するものも含まれていると考えられた。

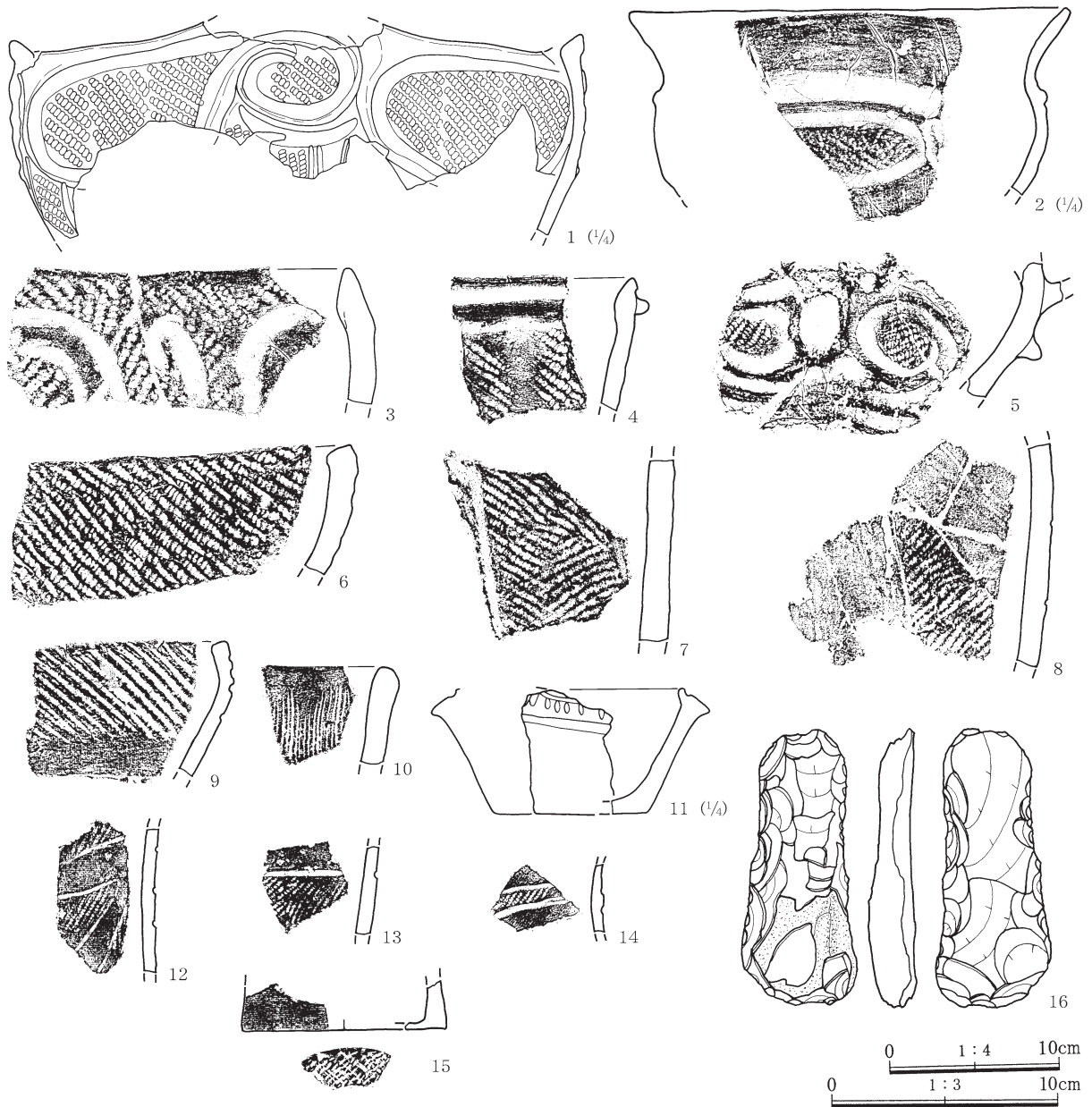
出土遺物 重複により著しく削平を受けていたため、本址に帰属すると考えられる遺物は少なかった。超した中で1は入り口部に検出された埋甕である。

時期・所見 重複する5-81号住居跡により床面部分を含む上部をかなり削平された状況である。炉についても掘方の下部が確認された状況である。時期は中期後半と見られる。

第3章 検出された遺構と遺物



第213図 5-102号住居跡



第214図 5-102号住居跡出土遺物

5-103号住居跡 (第215・216図：PL34・155)

位置 P・Q-21・22グリッドに位置する。 **重複** 入り口部に5-905号土坑が重複する。

形状 やや丸みを呈す隅丸方形。 **規模** 410×(400)×15cm。 **方位** N-5°-W

床面 僅かに凹凸が見られ、緩やかな南傾斜を持つ。炉の手前左に焼土が検出されている。

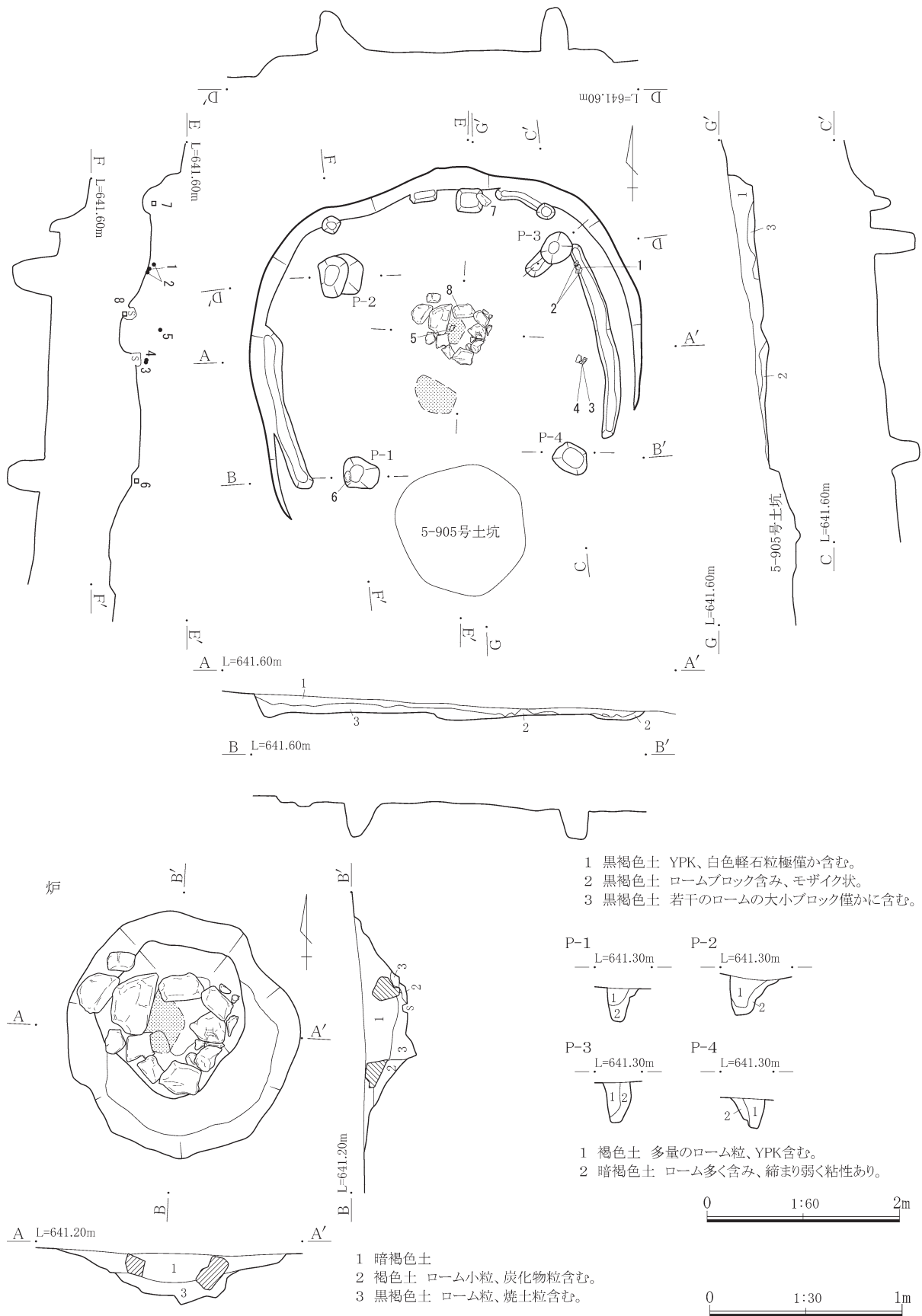
炉 ほぼ中央に作られている、やや乱雑に自然角礫を三角形に配す。炉の前面に小範囲に焼土が検出されている。

柱穴 4本の支柱穴を四隅に持つ。また、北壁際の柱穴延長上に小ピットが検出されている。周溝は東西の壁際に部分的に見られる。 **埋甕** 検出されなかった。 **掘方** 貼り床、床下土坑等は見られない。

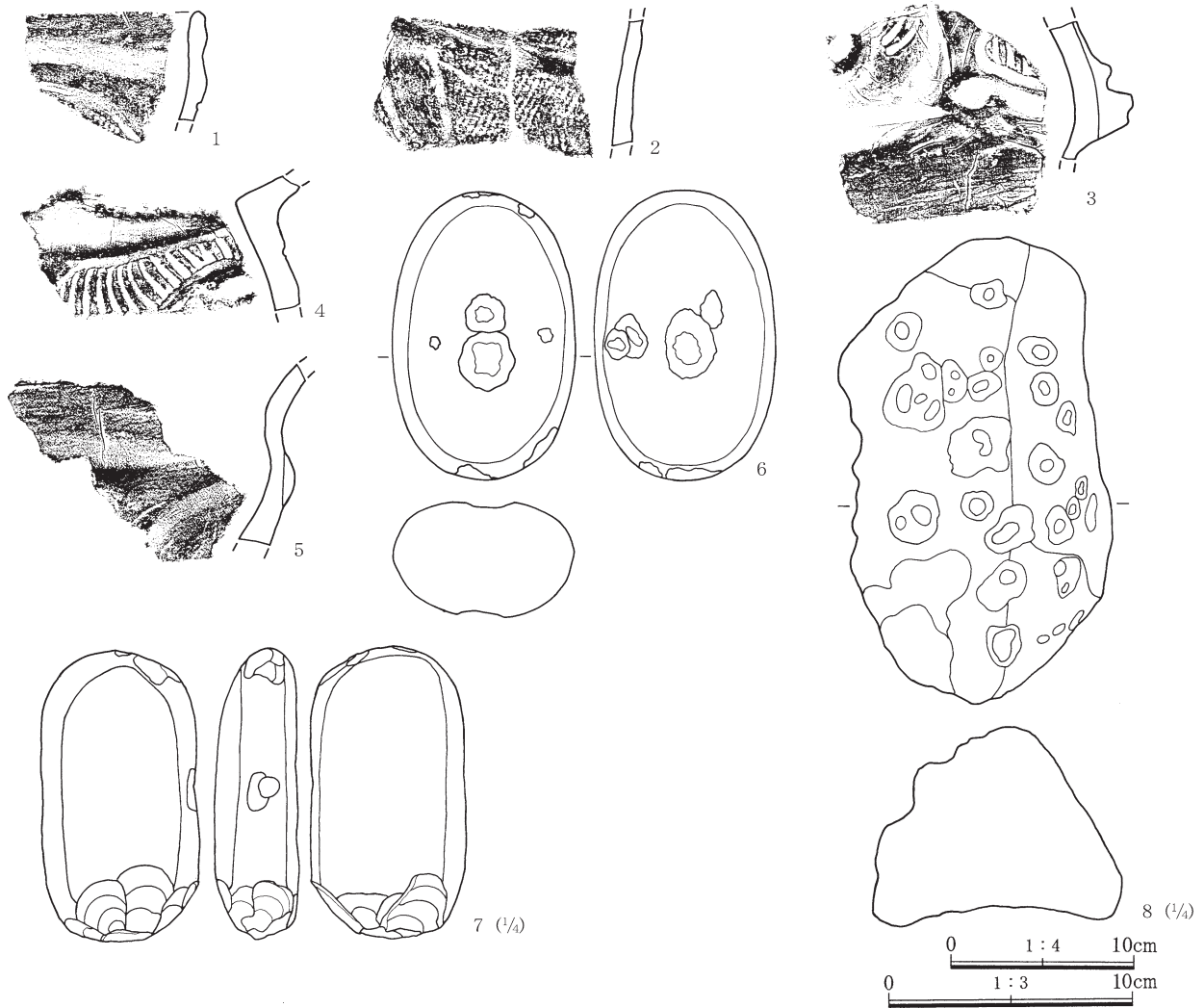
出土遺物 数点の土器片および磨石、多孔石8が出土している。多孔石は炉石に転用されていた。

時期・所見 小形の住居である。南側は削平を受ける。東側、西側壁下に周溝が見られる。時期は中期後半。

第3章 検出された遺構と遺物



第215図 5-103号住居跡



第216図 5-103号住居跡出土遺物

5-104号住居跡 (第217・218図：PL34・35・155)

位置 Q・R-21グリッドに位置する。 **重複** 南西部に5-887号土坑が重複する。

形状 丸みを持った隅丸方形。 **規模** 340×340×25cm。 **方位** N-0°

床面 比較的平坦で、やや南に傾斜を持つ。周溝は確認されなかった。

炉 ほぼ中央に作られる。自然角礫5個を方形に配し、炉石は火を受けひび割れが見られる。

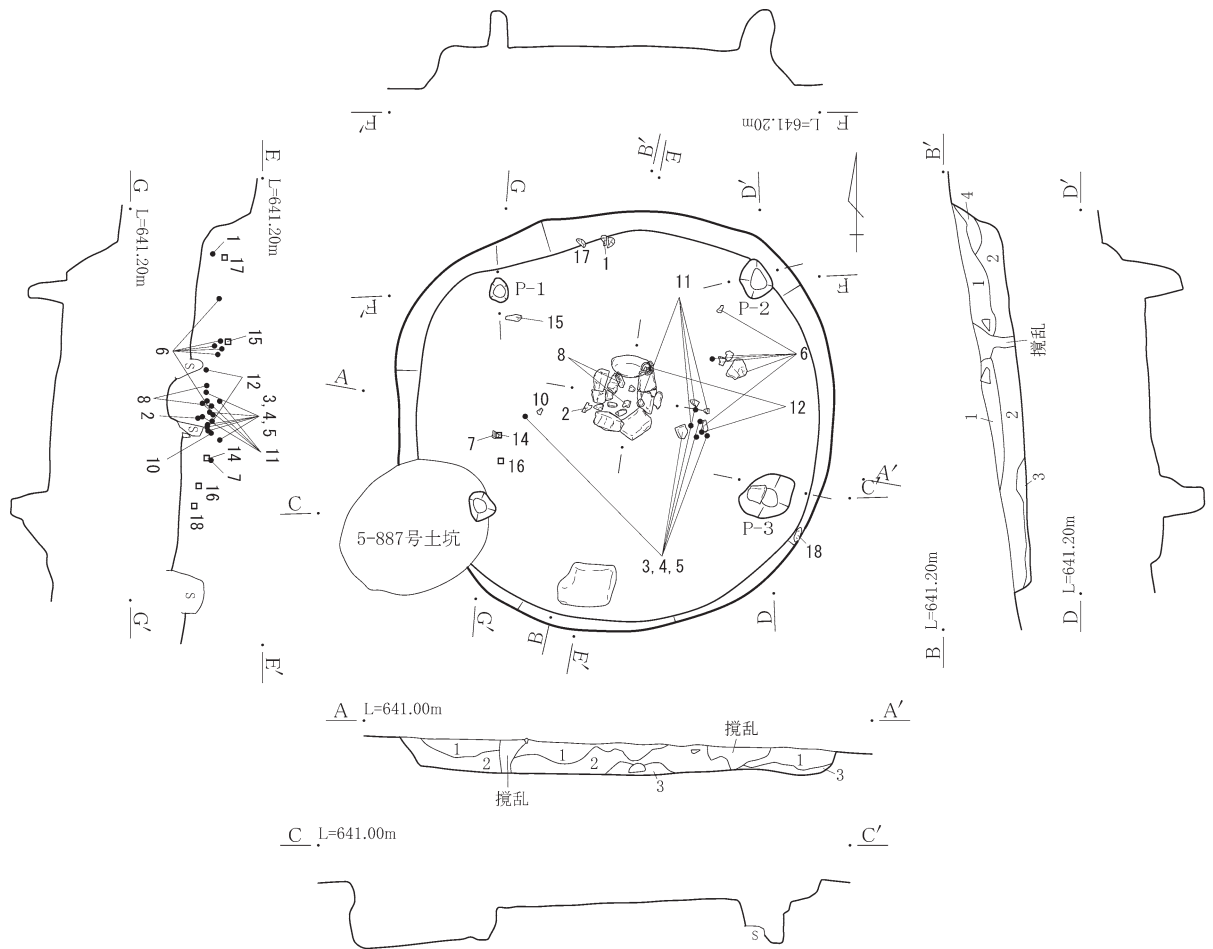
柱穴 4本を検出。径20~40cmで、深さはいずれも30cm前後である。 **埋甕** 検出されなかった。

掘方 貼り床、床下土坑等は検出されなかった。

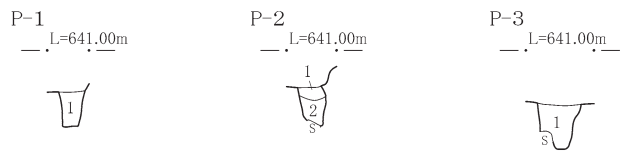
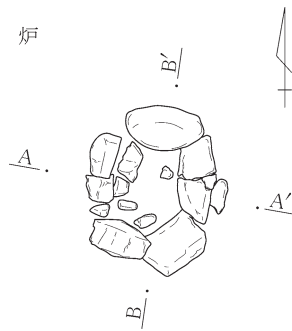
出土遺物 土器は小破片のみである。炉を中心に出土しているが床面よりやや浮いて出土したものが多かった。石器も少なく石鏃、打製石斧、磨石が見られた。

時期・所見 小形の住居である。南側入り口部分に地山中の大型礫が床面上に露出した状態で検出されている。時期は中期後半である。

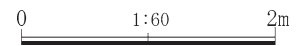
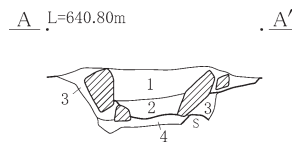
第3章 検出された遺構と遺物



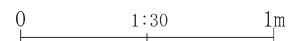
- 1 黒褐色土 白色粒、褐色粒、炭化物粒僅かに含む。
- 2 黒褐色土 白色粒、褐色粒、炭化物粒含み、褐色土ブロック状に含み明るい。
- 3 黒褐色土 褐色土を斑に含む。
- 4 黒褐色土 褐色土小ブロック含み、やや砂質。



- 1 暗褐色土 多量のローム粒含みやや粘性あり。
- 2 暗褐色土 ロームブロック多く含み締まり、粘性あり。

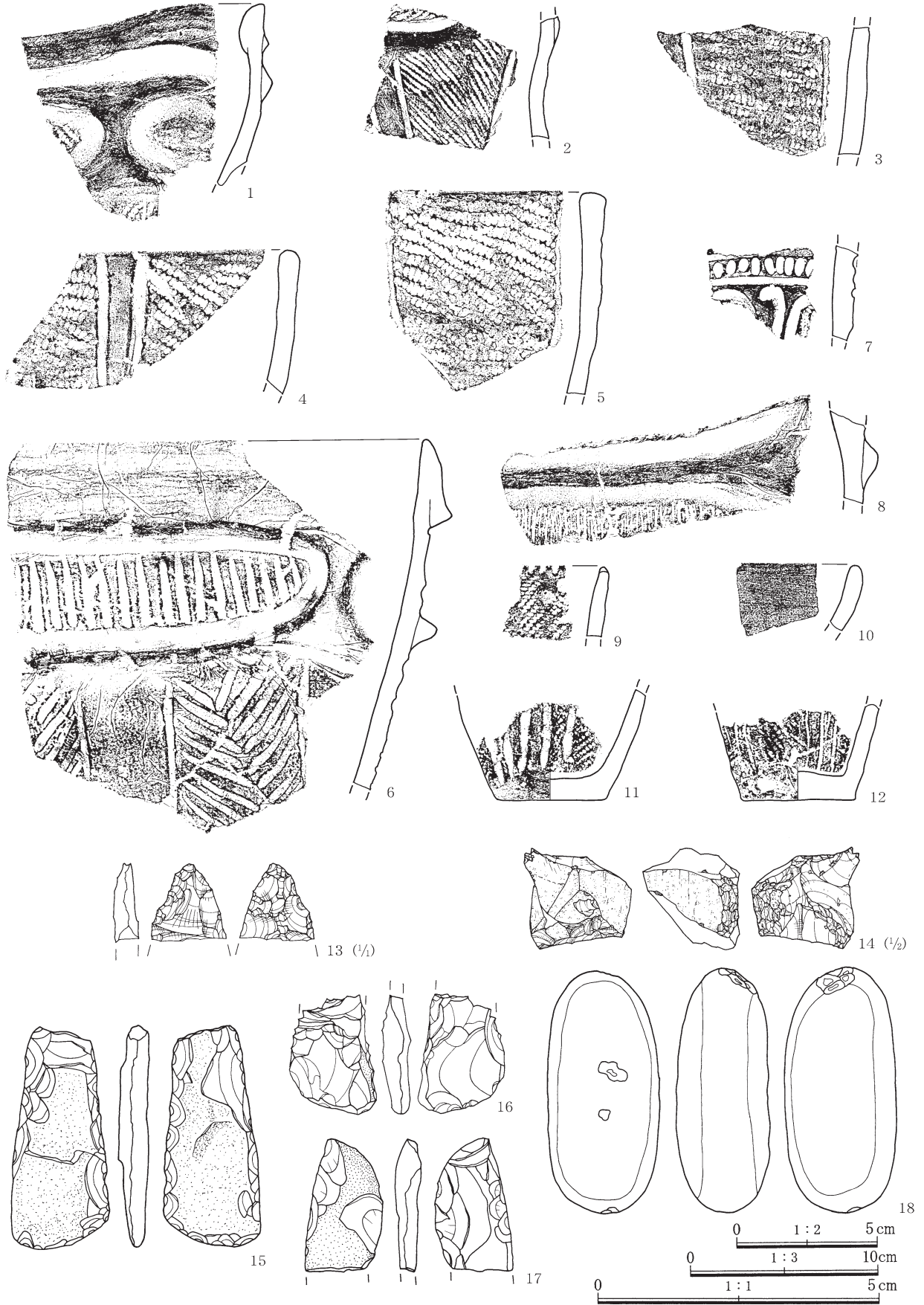


- 1 暗褐色土 褐色の焼土多量に含み、締まり粘性あり。
- 2 暗褐色土 1に似るがローム多く含む。
- 3 黒色土 少量のローム含む。
- 4 黒褐色土 ローム粒、若干のロームブロック含む



第217図 5-104号住居跡

第3節 縄文時代の遺構と遺物



第218図 5-104号住居跡出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

5-105号住居跡 (第219~223図: PL35・36・156)

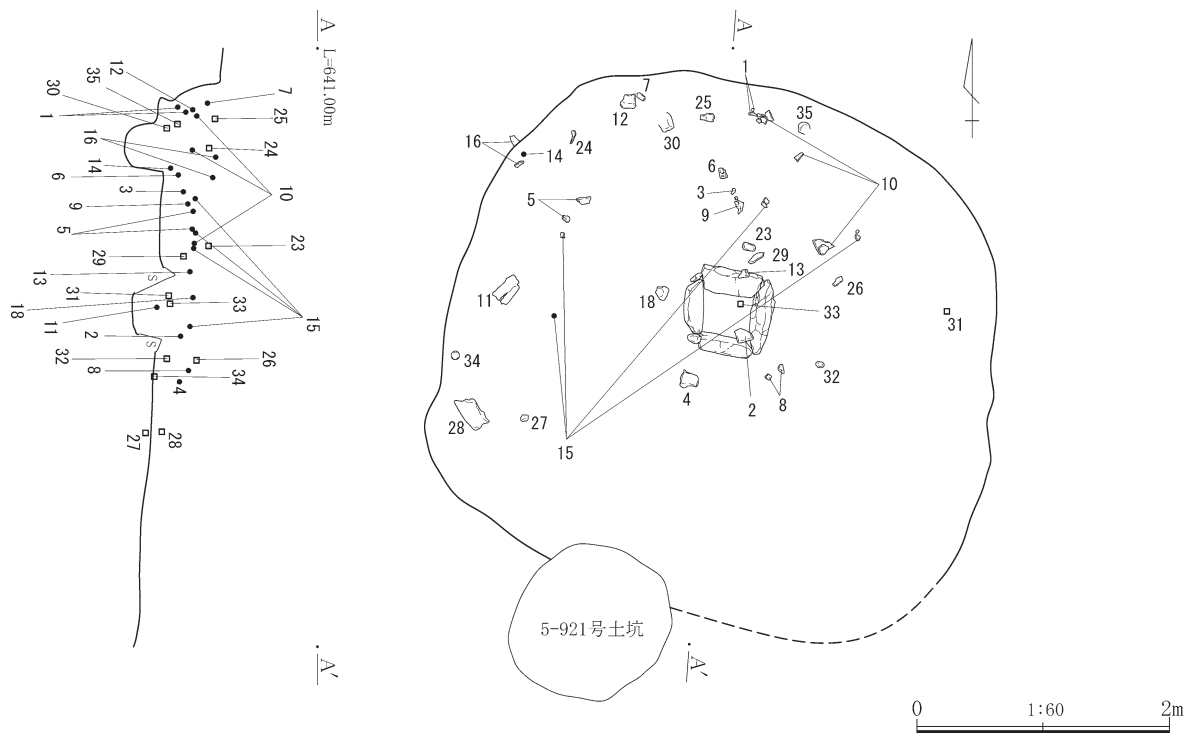
位置 P・Q-19・20グリッドに位置する。 **重複** 西側に5-890号土坑が、南には5-921号土坑が重複する。 **形状** 隅丸方形を呈すが南側がやや広がる。 **規模** 430×420×38cm。 **方位** N-9°-E **床面** 平坦で炉の手前を中心比較的締まっていた。周溝がほぼ全周して見られたが、部分的に途切れている。 **炉** 中央やや北側に検出された。大形の礫4個を四角に組んで作られる。規模は一辺約45cmである。

柱穴 柱穴は5(6)本を検出した、径40~50cmの円形または長円形で深さは30cm前後である。

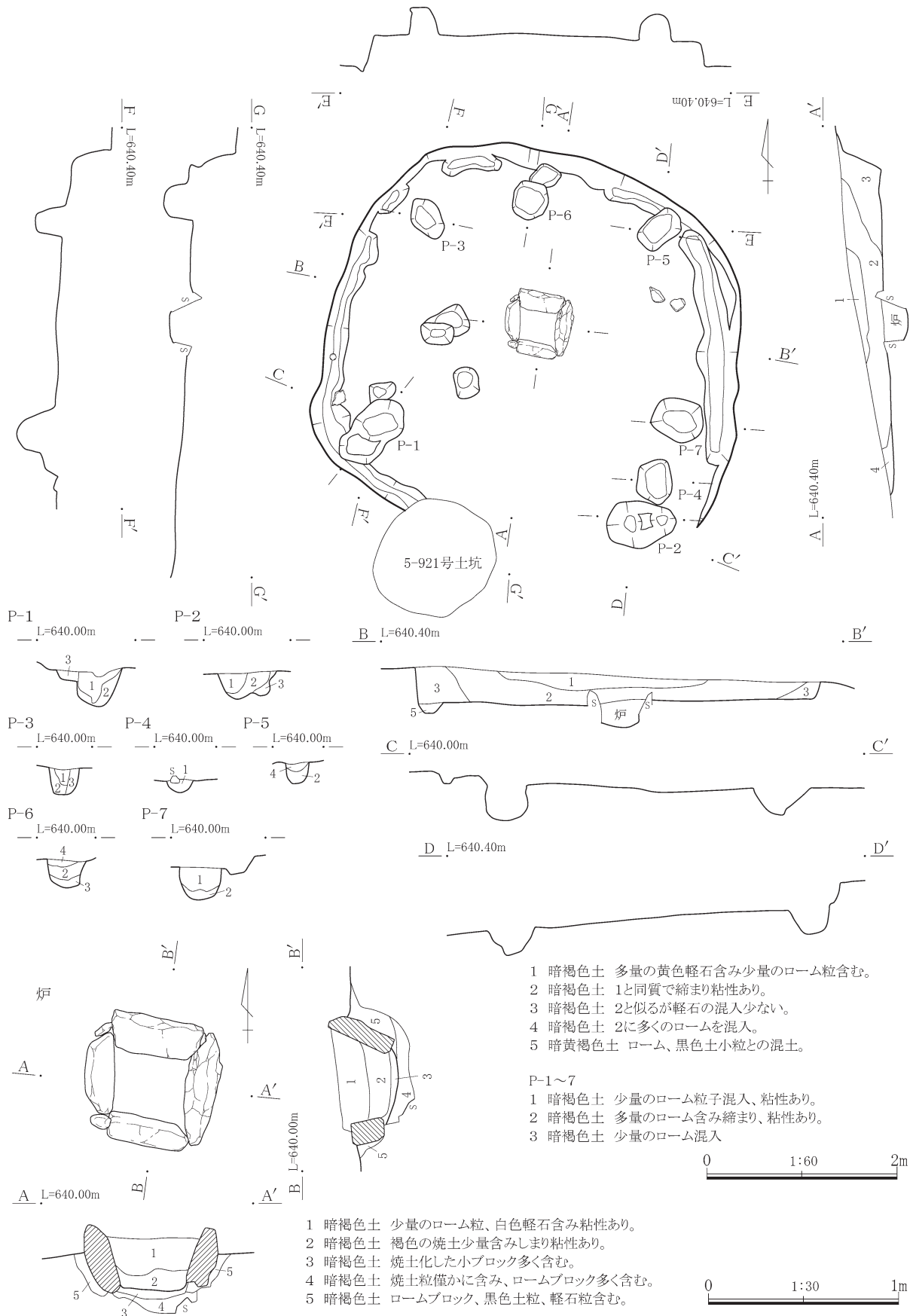
埋嚢 検出されなかった。 **掘方** 貼り床、床下土坑等は見られなかった。

出土遺物 遺物は住居の北側に比較的多く出土している、南側は削平されたためと思われる。あまり大きな破片は見られなかった。石器は石鏃3点、石錐1点、打製石斧4点、磨製石斧2点、スクレイパー1点、磨石類5点である。このうち磨製石斧27・28は刃部の破損品であるが、周辺部を敲打、さらに研磨し二次的用途に供したものと思われる。

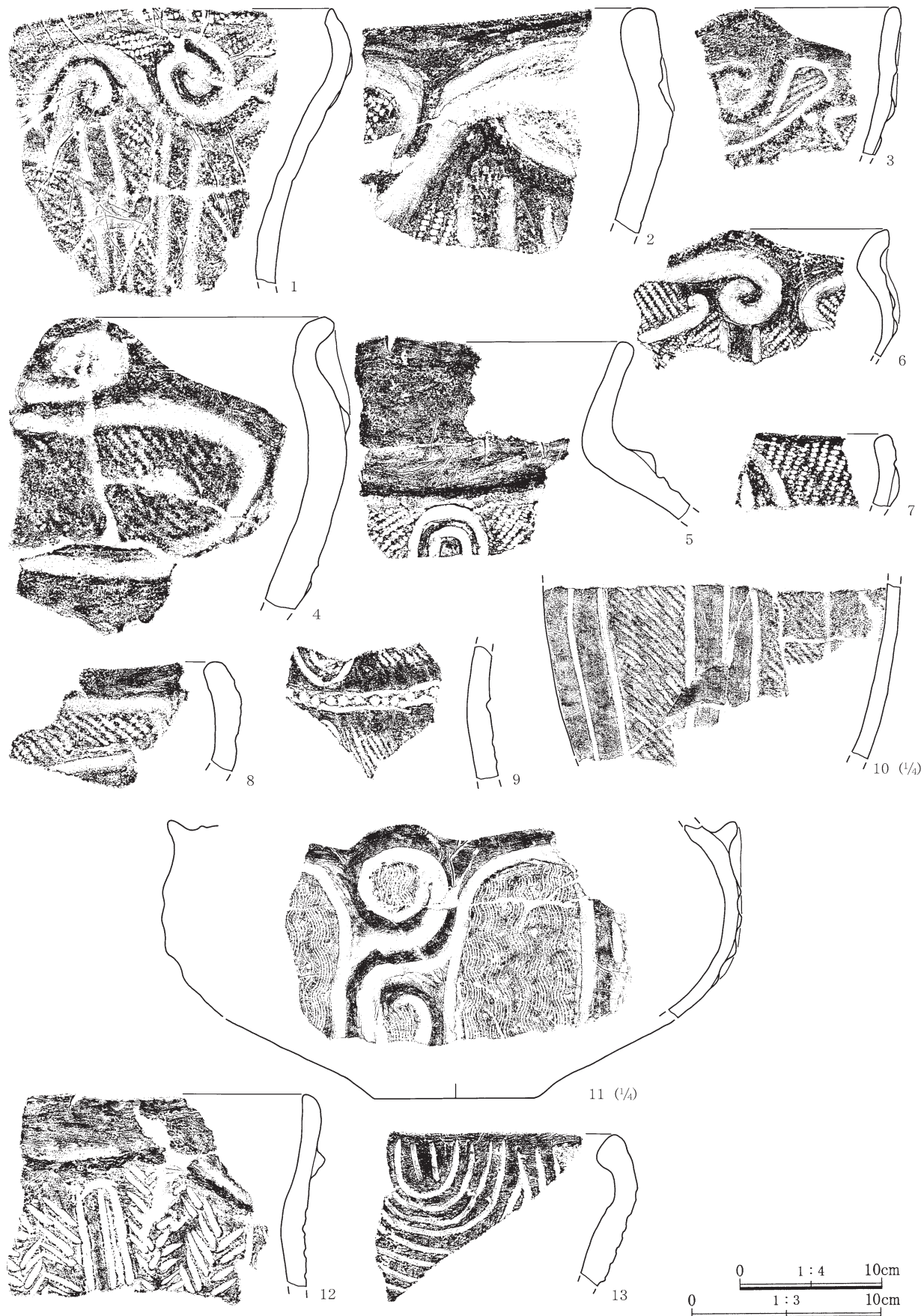
時期・所見 比較的遺存状態は良好である。土器の出土は少ないが、石器については組成的にまとまっている。時期は中期後半である。



第219図 5-105号住居跡(1)

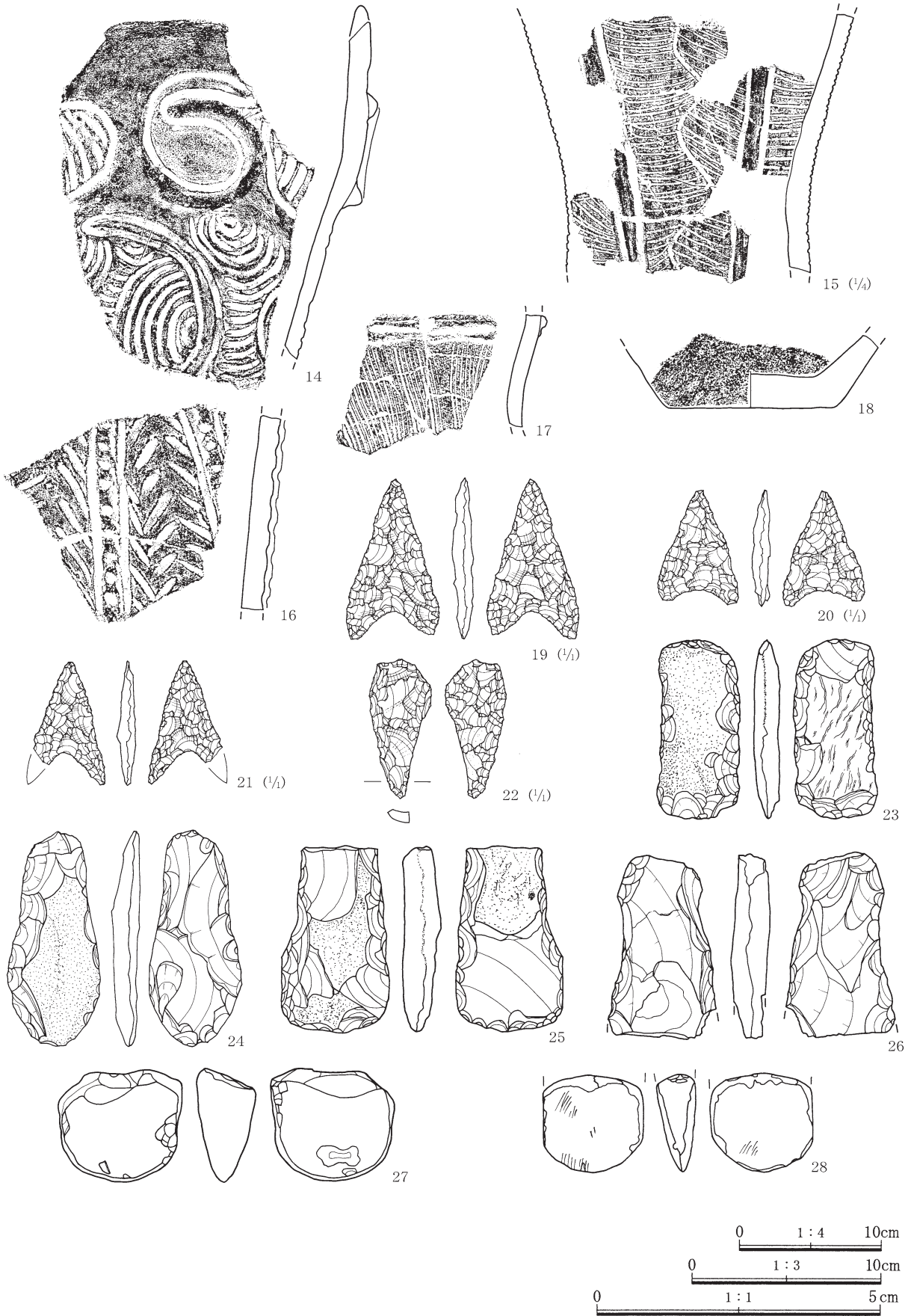


第220図 5-105号住居跡(2)

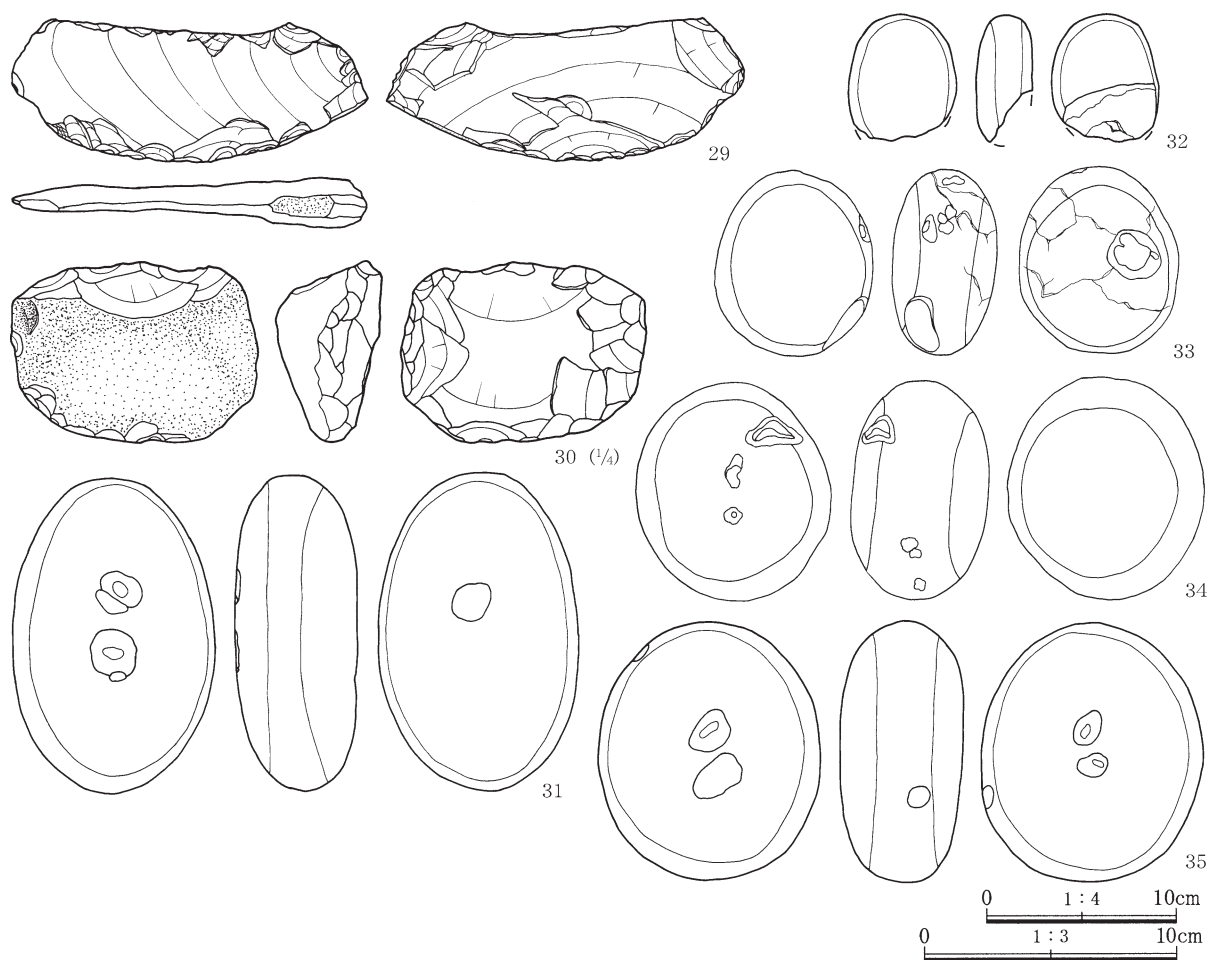


第221図 5-105号住居跡出土遺物(1)

第3節 縄文時代の遺構と遺物



第222図 5-105号住居跡出土遺物(2)



第223図 5-105号住居跡出土遺物(3)

5-106号住居跡 (第224図：PL36・157)

位置 D・E-13・14グリッドに位置する。 **重複** 上に5-74号敷石住居跡が作られている。また南西部分は5-39号住居跡と重複する。 **形状** 検出されたコーナー部分の形状から、隅丸方形を呈すと思われる。 **規模** 推定(4.6)×(4.6)×30cm。 **方位** 不明

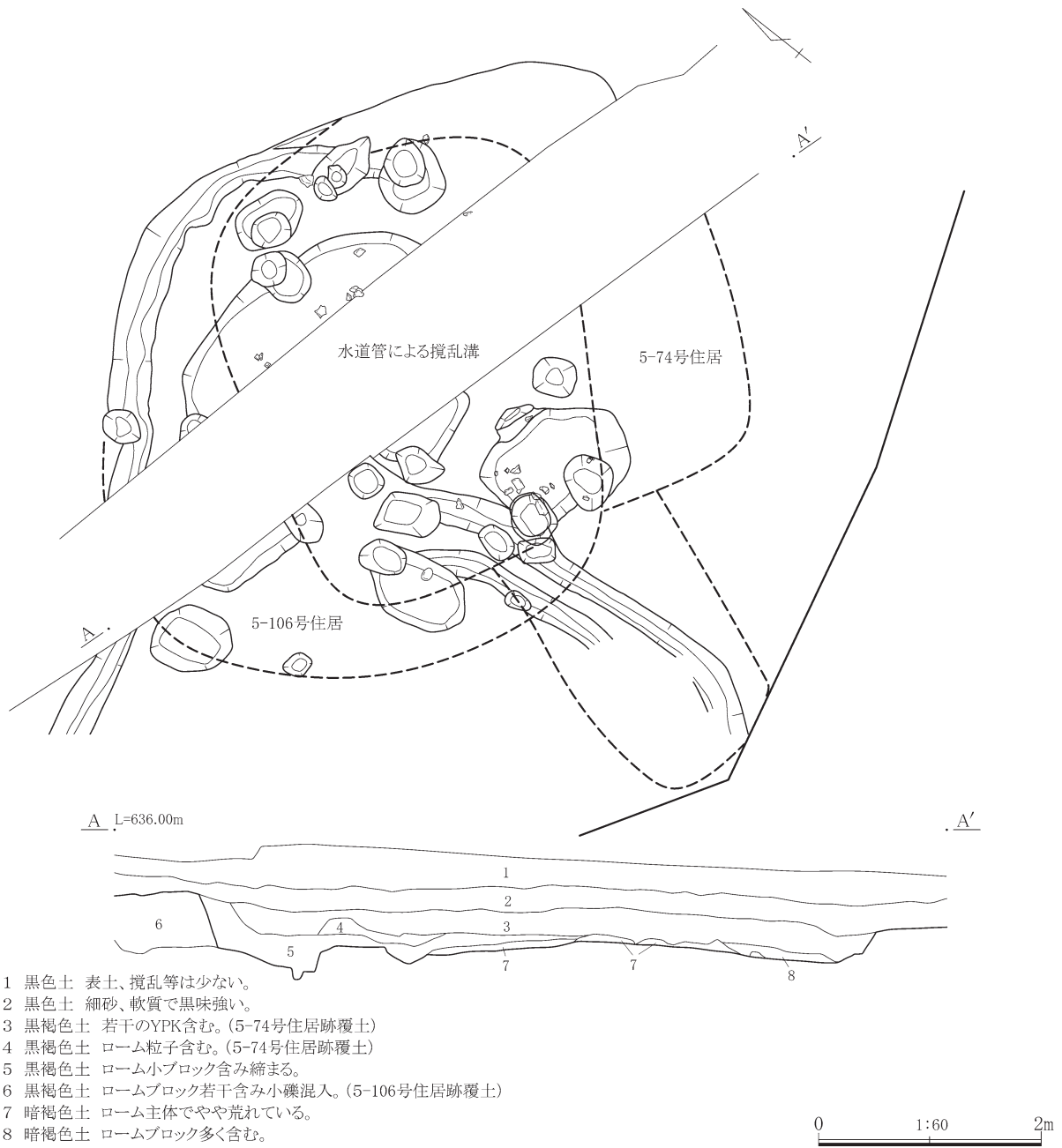
床面 明確な生活面は認められなかった。 **炉** 推定範囲のほぼ中央に、若干の焼土を混入した径1m程の土坑が検出されており炉と推定されるが、北側の半分以上を水道管敷設溝に壊されていた。

柱穴 5-74号住居跡の下位より検出されたものを含め5本と考えられる。 **埋甕** 検出されなかった。

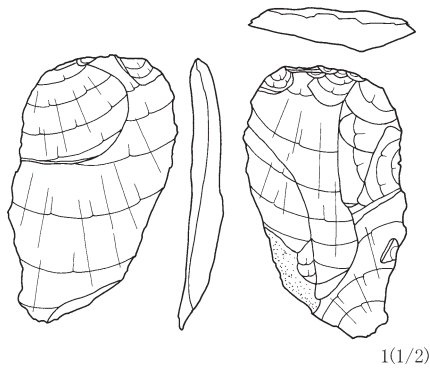
掘方 内側に段を有し、一段低くなった部分が確認された。

出土遺物 確認された部分が極わずかであったため、本址に帰属すると思われる遺物はほとんど見られなかった。掘方時に中期後半の土器片が見られたが図示し得なかった。石器についてもほとんど見られず僅かにスクレイパー1点のみである。

時期・所見 重複により壊された部分が多く、全容は不明である。5-74号住居跡の北西に張り出した住居の立ち上がりおよび周溝が検出されたことから存在を確認した。東側には5-74号住、南は5-38・39号住が重複し、さらに中央部分は水道管敷設溝により壊されているために全容は不明である。時期は出土土器から中期後半と見られる。



- 1 黒色土 表土、攪乱等は少ない。
- 2 黒色土 細砂、軟質で黒味強い。
- 3 黒褐色土 若干のYPK含む。(5-74号住居跡覆土)
- 4 黒褐色土 ローム粒子含む。(5-74号住居跡覆土)
- 5 黒褐色土 ローム小ブロック含み締まる。
- 6 黒褐色土 ロームブロック若干含み小礫混入。(5-106号住居跡覆土)
- 7 暗褐色土 ローム主体でやや荒れている。
- 8 暗褐色土 ロームブロック多く含む。



0 1:2 5cm

第224図 5-106号住居跡・出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

5-107号住居跡 (第225・226図：PL36・157)

位置 V・W-18・19グリッドに位置する。 **重複** 5-101号住居跡内にすっぽりと収まる形で重複している。また、南側は水道管敷設溝によって壊されている。 **形状** 円形を呈す。 **規模** 270×(270)×15cm。 **方位** N-12°-E

床面 平坦で比較的締まりがあり、壁際に周溝がほぼ全周している。

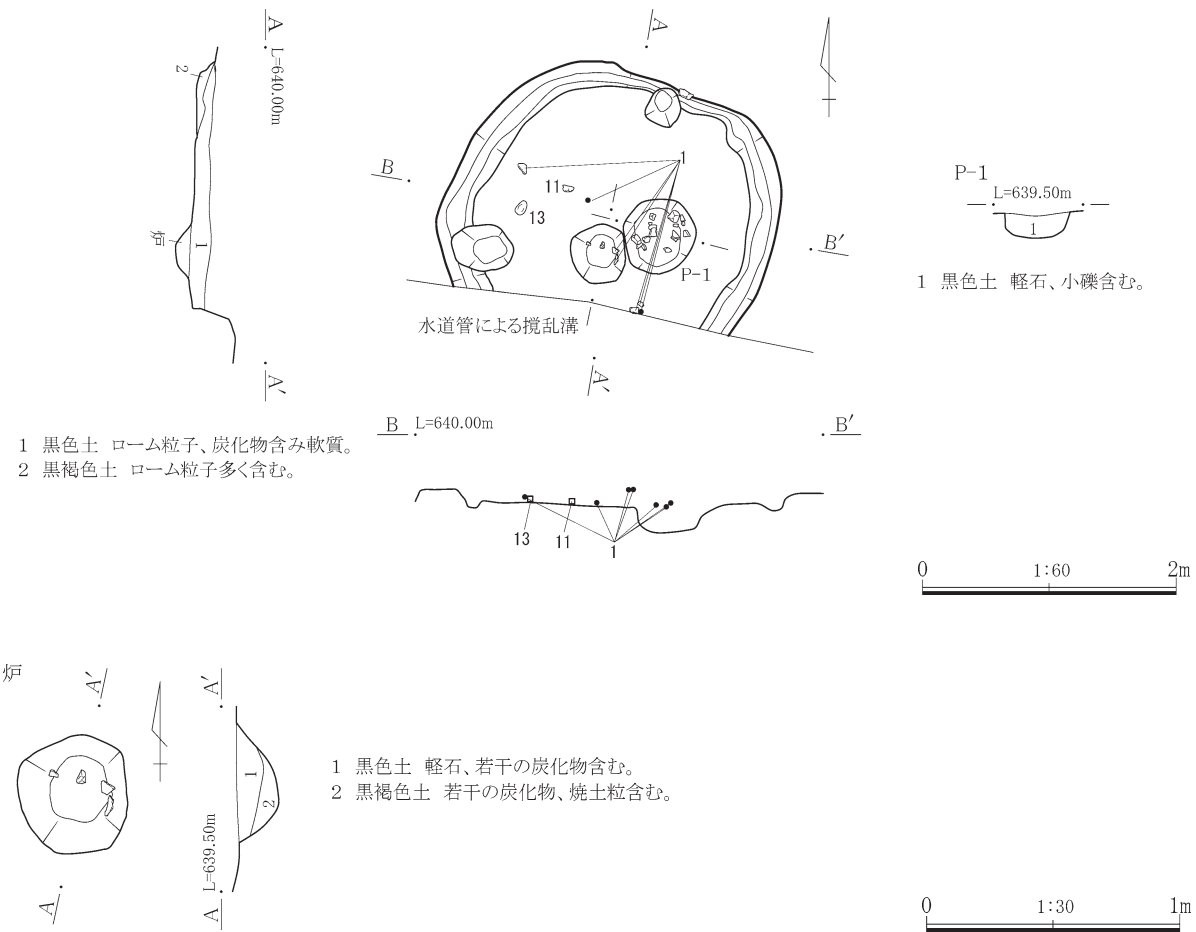
炉 中央からやや南に寄った場所に作られている。径約40cm、深さ20cmの掘り鉢状の掘り込みが検出され、炉と判断された。底の部分に若干の焼土、炭化物を含む層を認めた。直ぐ横にP-1が検出されているが本址に伴うものかどうかは確定できなかった。

柱穴 炉以外に3カ所の掘り込みが検出されているが、炉の右脇の落ち込みは位置および形態から柱穴とは判断できず、西壁および北壁に検出された2本が想定される。 **埋甕** 検出されなかった。

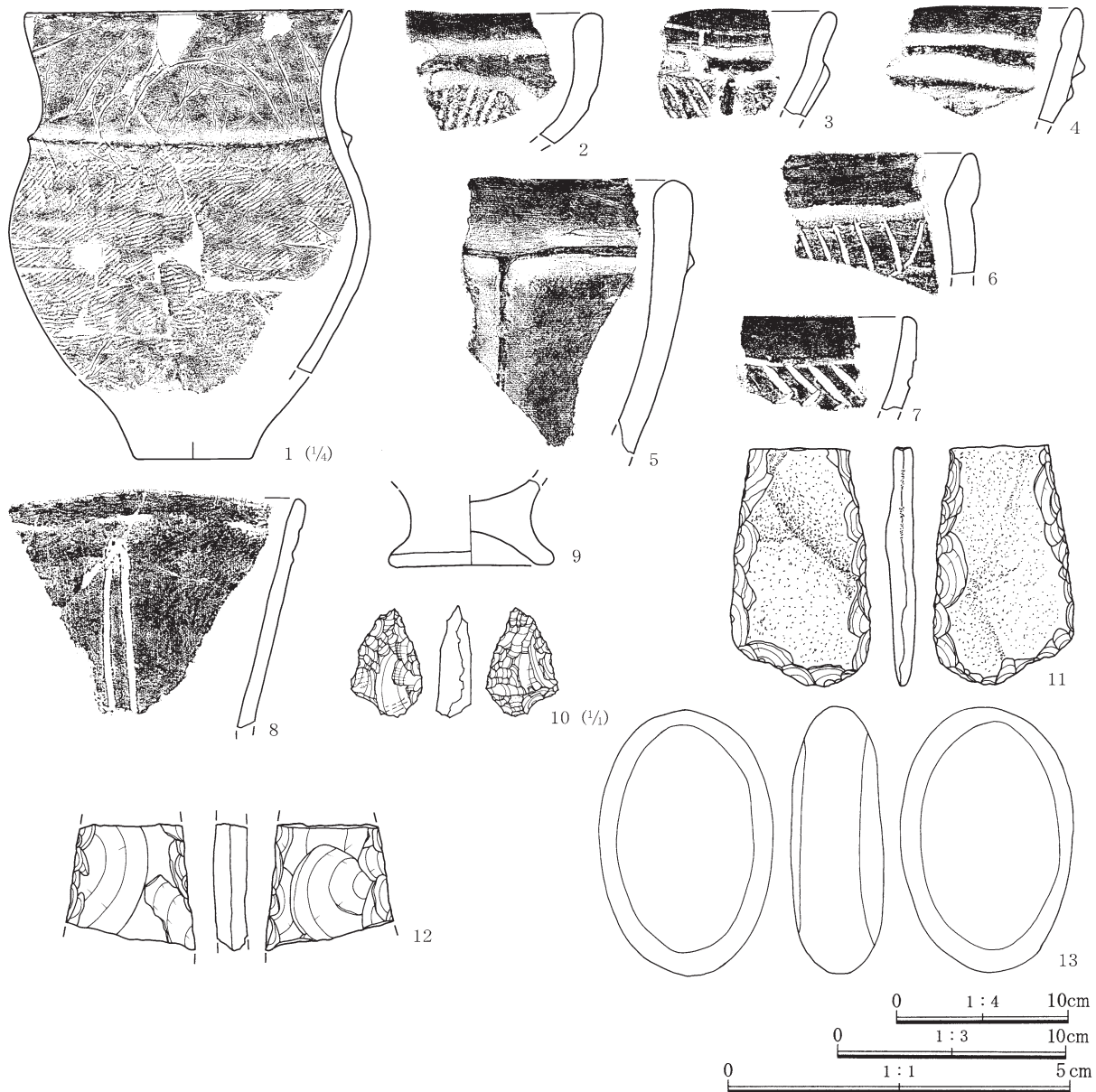
掘方 特に土坑等は検出されなかった。

出土遺物 若干の土器および石器が出土している。1は床面に点在していた破片が接合したものである。石器類は少なかった、石鏃、打製石斧および磨石である。

時期・所見 5-101号住居のほぼ中央に重複した小型の住居である。周溝もほぼ全周し、床面も比較的踏みしめられた状態であった。時期は後期初頭か。



第225図 5-107号住居跡



第226図 5-107号住居跡出土遺物

5-108号住居跡 (第227・228図：PL37・157)

位置 P-18・19グリッドに位置する。 **重複** 5-109号住居跡に西側を、5-116号住居跡が南に重複する。さらに東側には5-888号土坑が重複している。 **形状** ほぼ円形と思われる。

規模 400×(400)×30cm。 **方位** N-26°-W **床面** 平坦であるが締まりはあまりない。

炉 川原石を方形に配した石組み炉であるが北側の炉石は石皿の転用である。

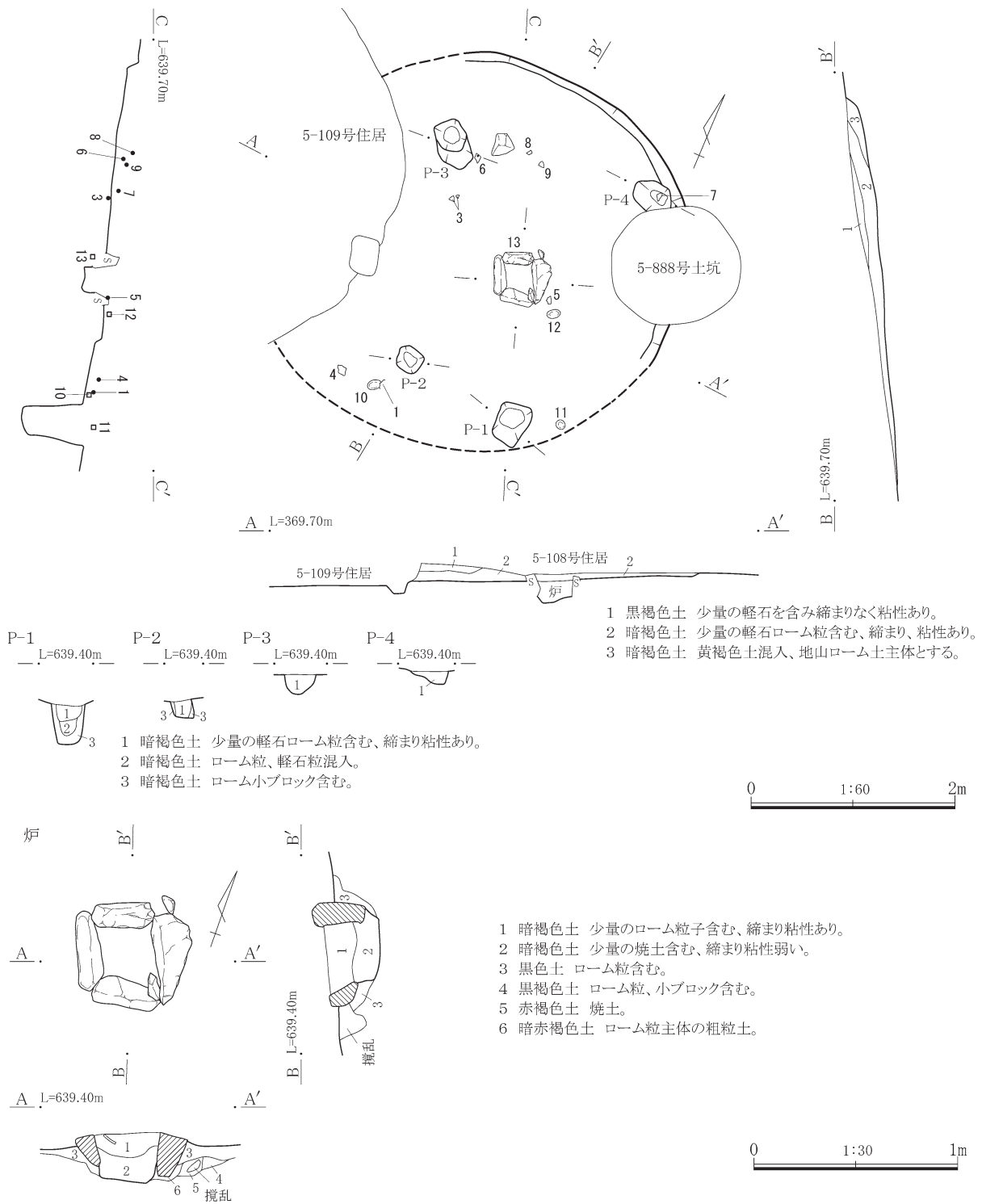
柱穴 5本を検出。径は30cm前後であるが、深さにばらつきが見られた。 **埋甕** 検出されなかった。

掘方 特に掘り込みは無かった。

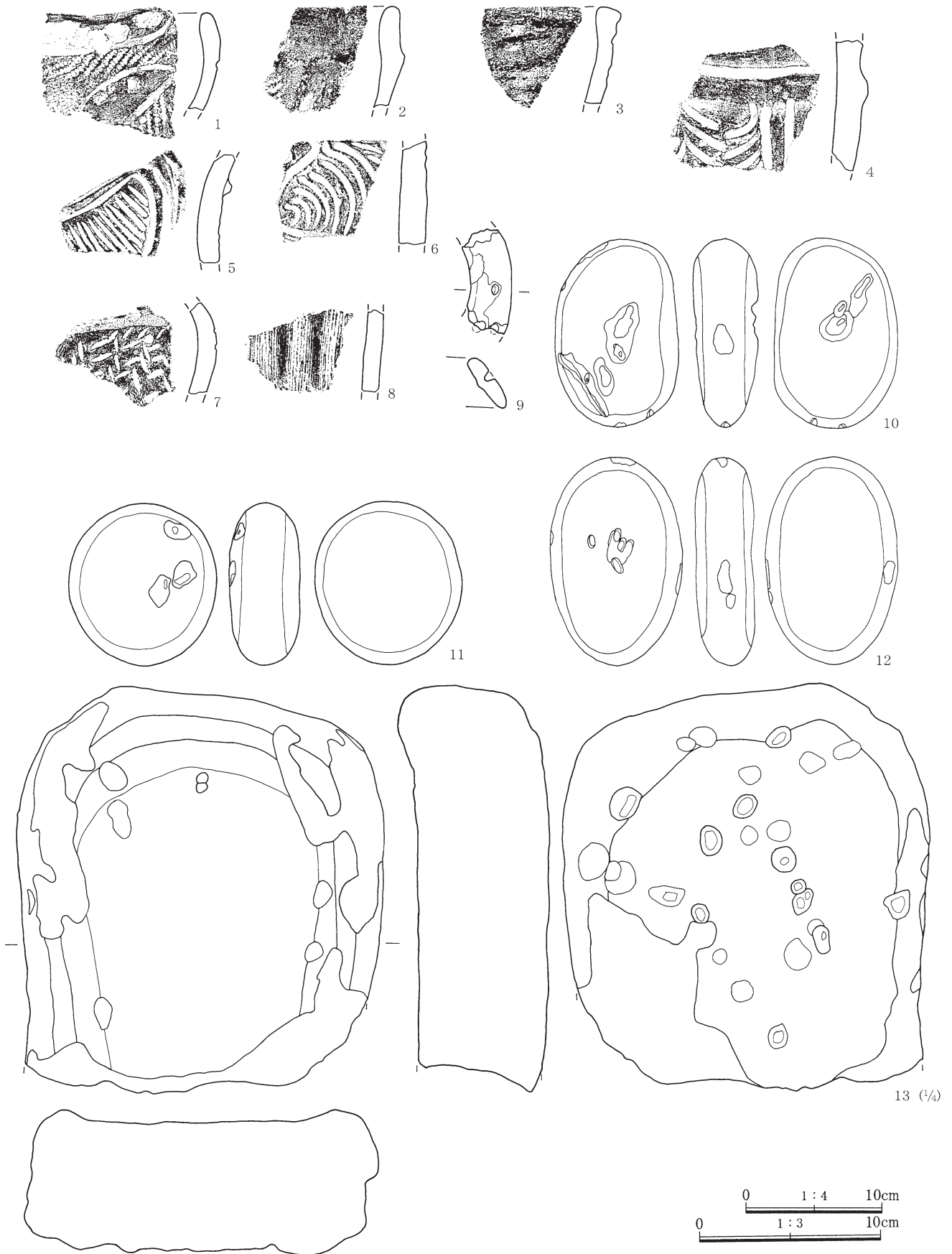
出土遺物 炉の周辺に若干の小破片類が出土。注目されるものに、白色顔料が塗彩された貝輪状土製品9の破片が出土している。石器類は、石鏃や打製石斧は見られず、磨石3点および炉石に転用されていた石皿が1点である。

時期・所見 上面を削平されており確認した掘り込みは浅い、周溝なども見られなかった。検出した床面も南に向かって傾斜が見られることから、かなり削られていると考えられる。時期は出土土器から中期後半と考えられる。

第3章 検出された遺構と遺物



第227図 5-108号住居跡



第228図 5-108号住居跡出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

5-109号住居跡 (第229~232図: PL37・38・158)

位置 P・Q-18・19グリッドに位置する。 **重複** 南側に5-110号住居跡が東側に5-108号住居跡が重複する。 **形状** 円形を呈すものと考えられる。 **規模** 450×(450)×30cm。

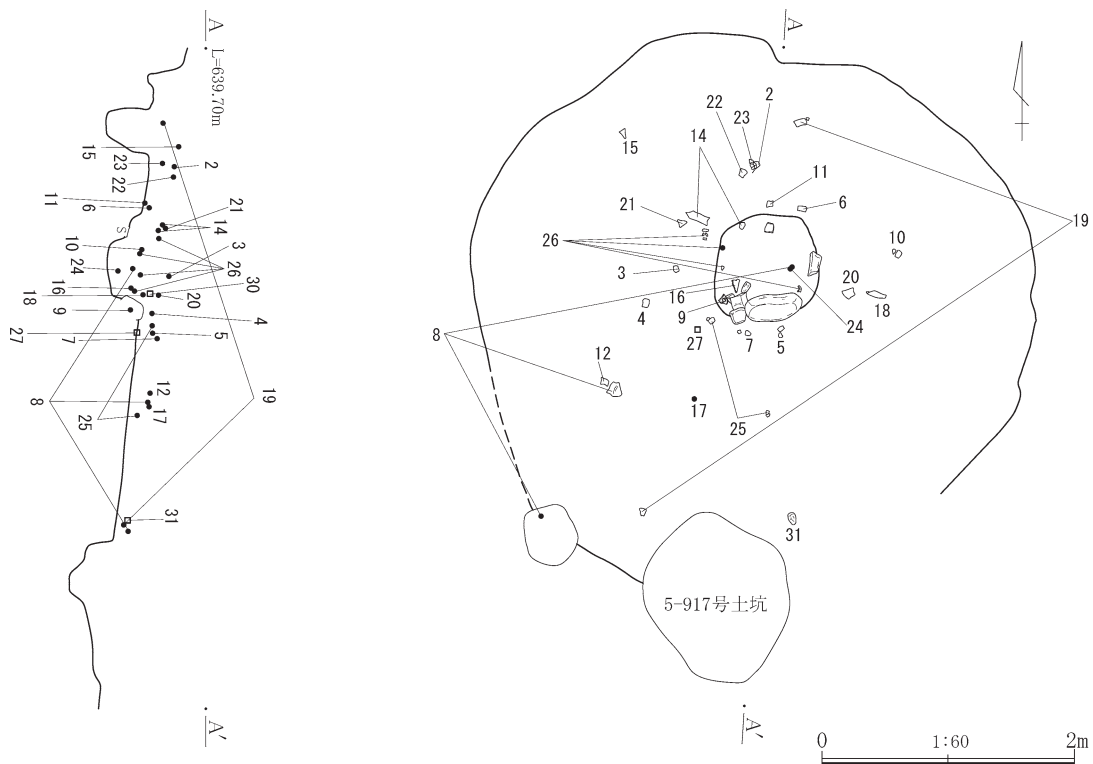
方位 N-3°-W **床面** ほぼ平坦であるが、やや南に傾斜を持つ。全体にあまり硬くはないが、炉の周辺部については比較的締まりは良い。また、幅約20cm、深さ10~15cmの周溝が北側の壁に沿って半周程掘られている。

炉 住居の中央やや北に位置する。おそらく方形に組まれた石組み炉であったと考えられるが、南側の長さ45cm程の石のみ検出された。他の石は抜かれたものと判断される。

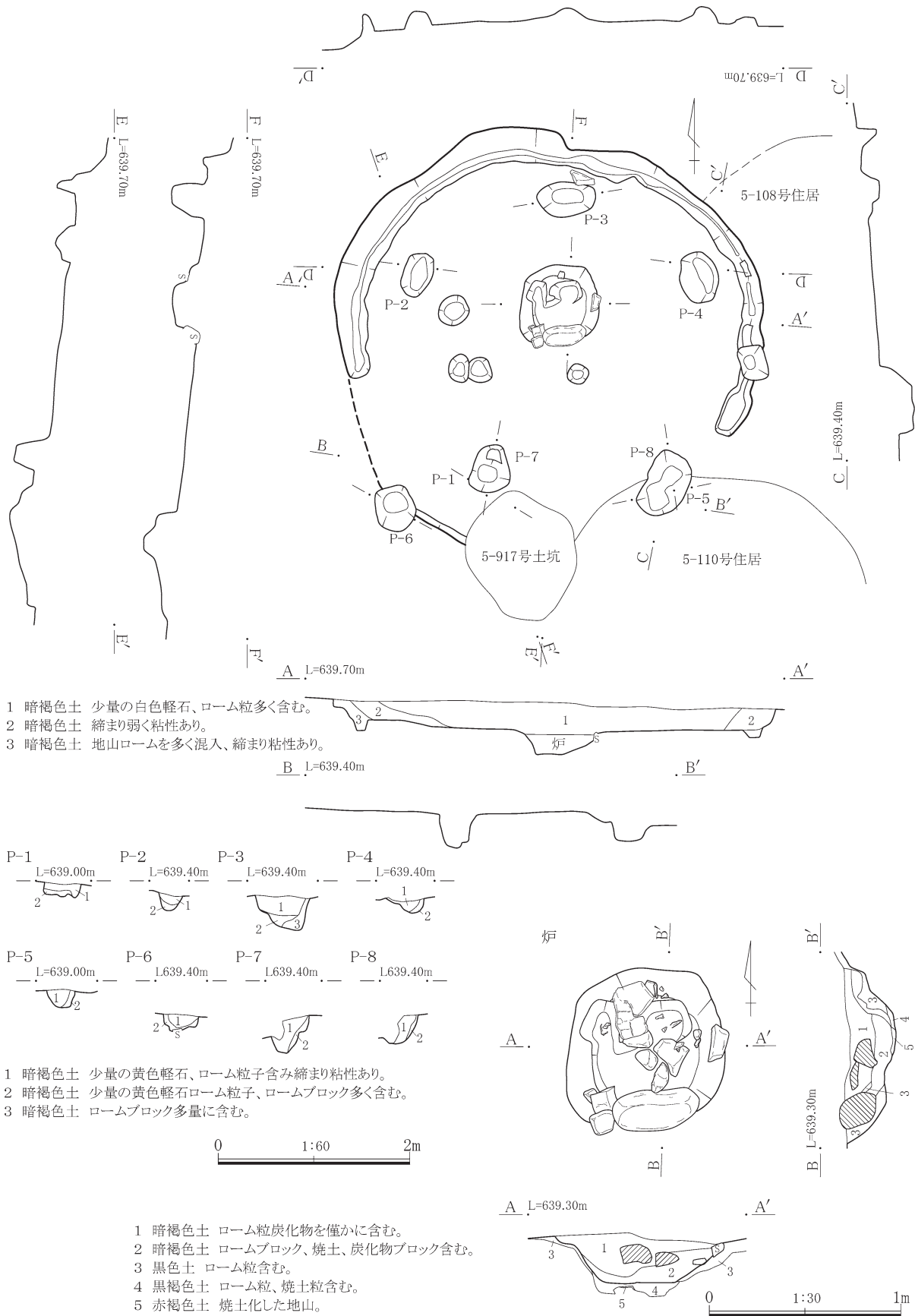
柱穴 壁に沿って5本が検出された、手前の2本がやや内側に配された5角形である。いずれも平面形は長円形で、深さは20~30cmである。 **埋嚢** 検出されなかった。 **掘方** 貼り床、床下の土坑等は検出されなかった。

出土遺物 遺物は住居中央部に比較的集中して見られた。小破片のみで大きなものは見られなかった。石器も数点のみの出土であった。黒曜石製の石鏃、石錐および打製石斧、磨石である。

時期・所見 遺構が重複している南側を除けばかなり遺存状態は良好と言える。掘り込みはさほど深くはないが、北側にほぼ半周する周溝や、配置が確認される柱穴の存在は住居の構造を示していると考えられる。炉に関しても、炉石などは原位置を留めてはいないが焼土の状況などから構造を復元可能である。時期は中期後半と判断される。



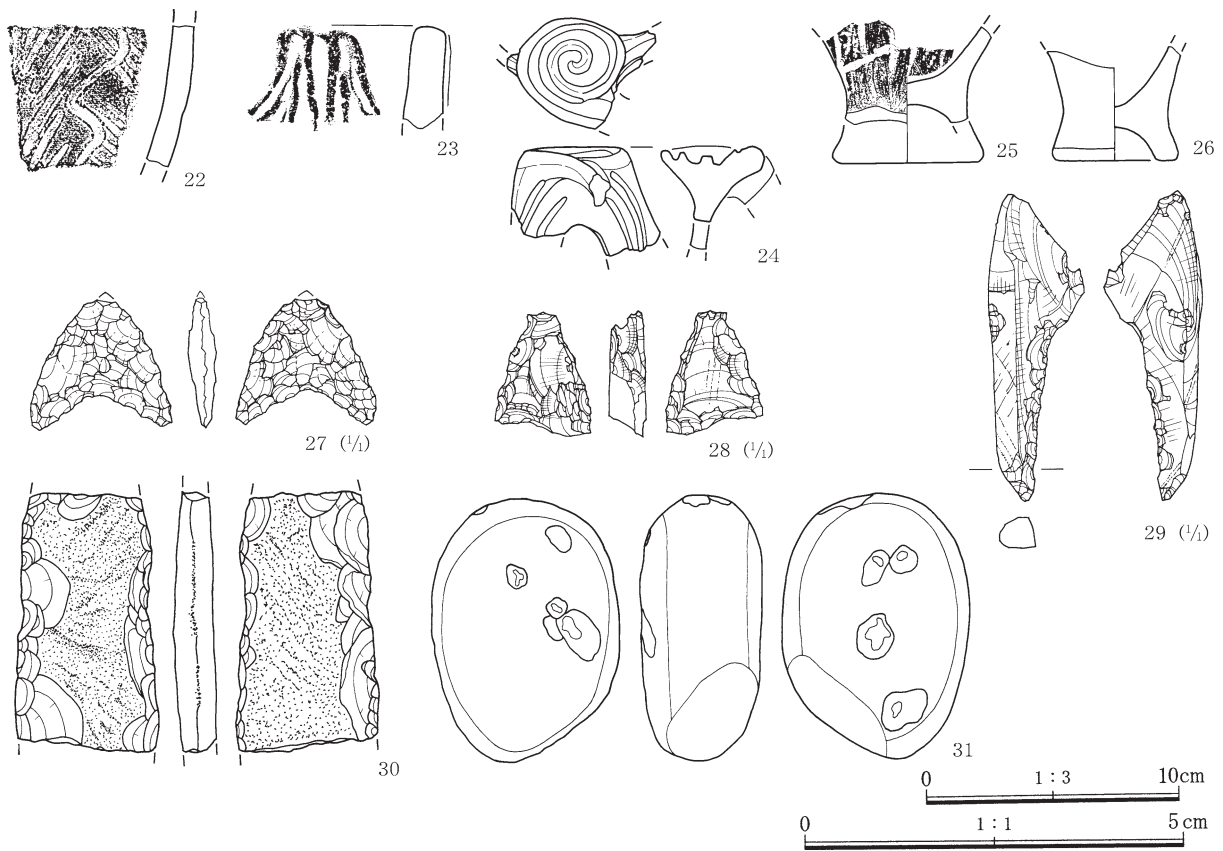
第229図 5-109号住居跡(1)



第230図 5-109号住居跡(2)



第231図 5-109号住居跡出土遺物(1)



第232図 5-109号住居跡出土遺物(2)

5-110号住居跡 (第233・234図：PL38・158)

位置 P・Q-18グリッドに位置する。 **重複** 北側は5-109号、東側には5-85号、5-116号住居跡が重複する。また、中央には5-897号土坑が重複している。

形状 円形を呈すと思われる。 **規模** 350×(350)×15cm。 **方位** -

床面 比較的平坦であるが硬さはあまり無い。

炉 ほぼ中央に構築されているが、後世の5-897号土坑により大部分は壊され、掘方の北側が僅かに確認されたのみである。炉石等も検出されていない。

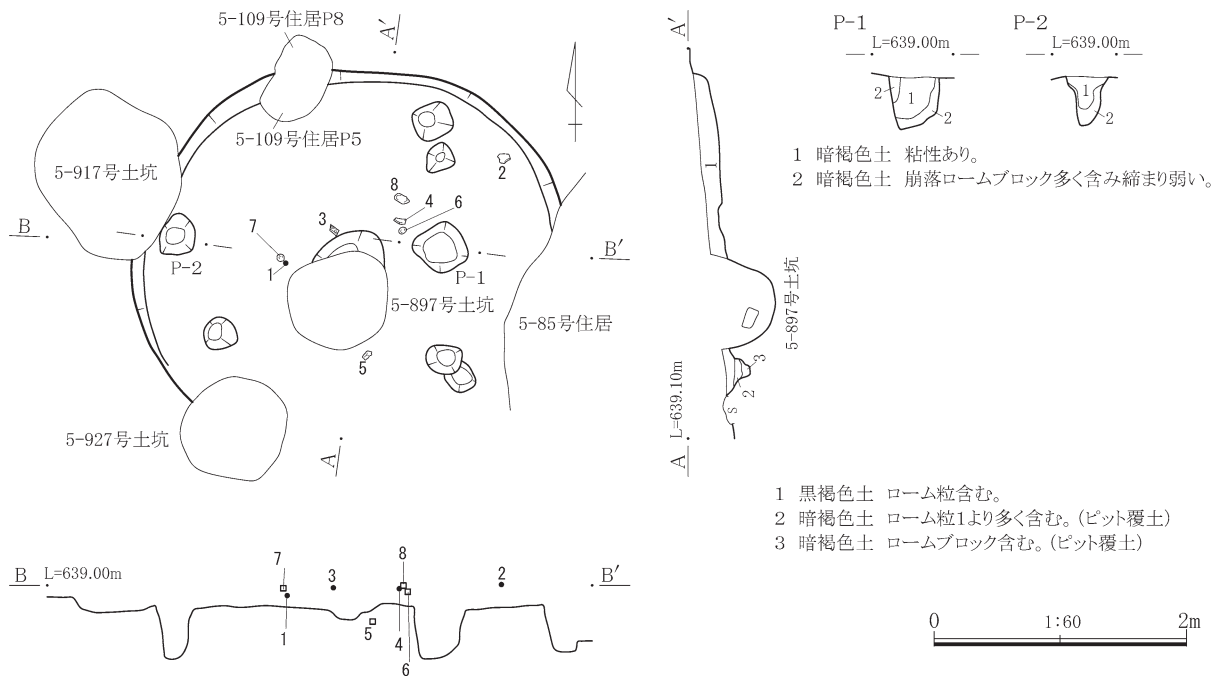
柱穴 生活面において、炉を挟み2本が検出されているが、東側の柱穴はかなり炉に近い位置にある。さらに、掘方面では数本のピットを検出したが、明確な対応関係は掴めなかった。2本柱穴と判断されるが3ないしは4本の可能性もある。 **埋甕** 検出されない。

掘方 前述したピット5本の他には土坑等は見られなかった。

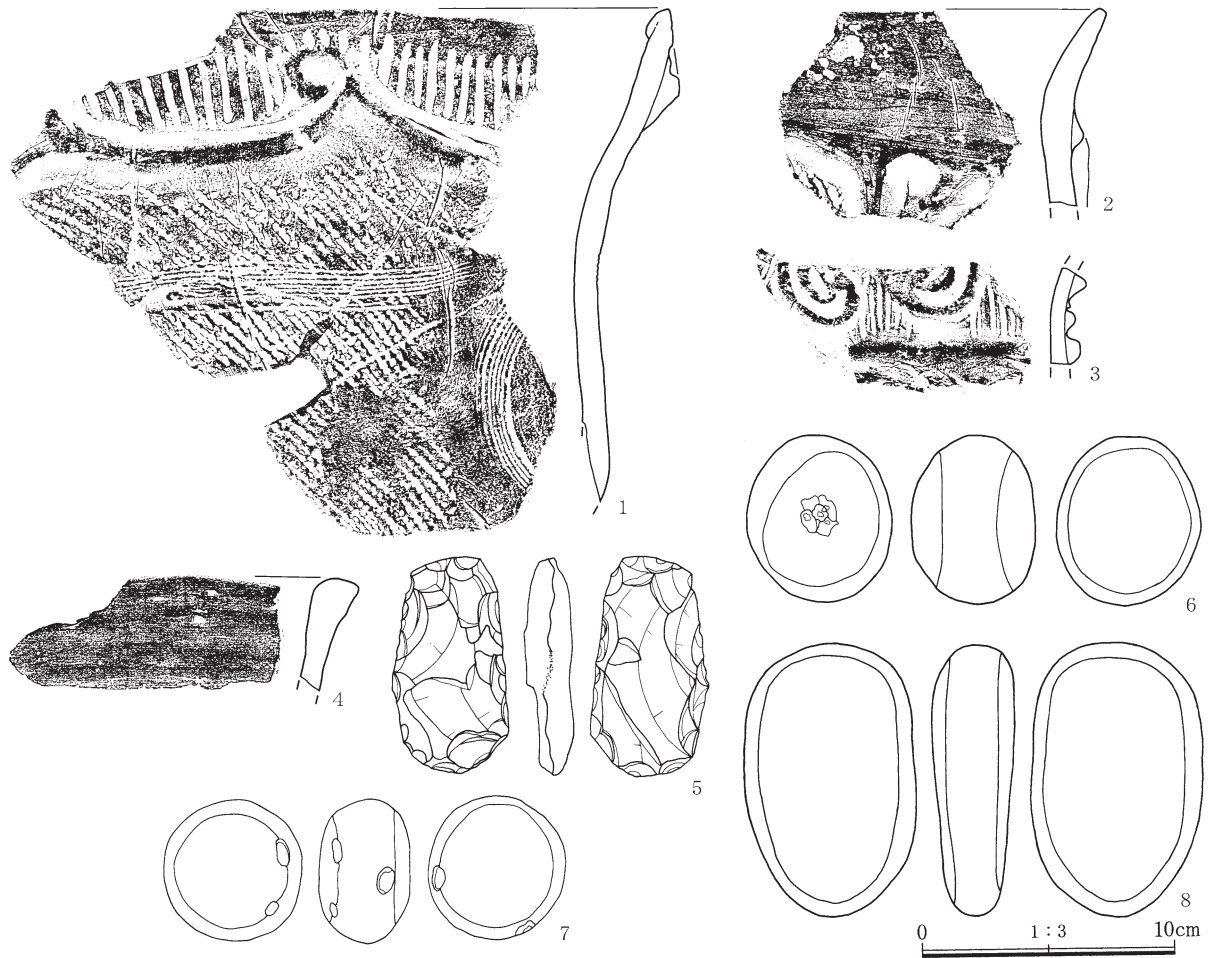
出土遺物 出土状態はほぼ全域から土器等が出土しているが、量的には少ない。石器は打製石斧および磨石が出土している。

時期・所見 掘り込みは浅く、重複もあり遺存状況は良くない。炉は浅い掘り込みの地床炉と見られるが、重複により大部分を失っている。時期は中期後半と判断される。

第3章 検出された遺構と遺物



第233図 5-110号住居跡



第234図 5-110号住居跡出土遺物

5-111号住居跡（第235～238図：PL38・39・158・159）

位置 P～R-15グリッドに位置する。 **重複** 中央に5-442号配石と、配石下に検出された5-1106号土坑、さらに北西部分には5-443号配石、5-952号土坑が重複し本址を切る。

形状 やや隅丸な円形を呈すと思われ、敷石住居であった可能性がある。 **規模** (600)×(600)×-

方位 — **床面** 前述したように配石や土坑により壊された部分が多く、凹凸も著しく、生活面の確認はできなかった。北東および北西にわずかに壁の立ち上がりを認める。

炉 ほぼ中央に2基を検出、西側の炉は一石の炉石を伴うがいずれも後世の土坑によってかなり壊されている状況であった。

柱穴 多くのピットが確認され明確な対応関係は掴めなかったが、8～10本が壁に沿って廻るものと推定される。 **埋嚢** 検出されない。 **掘方** 不明である。

出土遺物 住居の範囲内において比較的多くの土器片等が出土しているが、本址に帰属するかは不明な点が多い、重複する住居や土坑の遺物も多く混入しているものと考えられる。1は大型の深鉢で2分の1ほど残存する。他は後期前半期の小片である。石器に関しても同様で、帰属認定が難しい。石鏃、磨製石斧、磨石等が見られる。

時期・所見 重複が著しく状態は良くない。床に扁平な石が部分的に敷かれており、敷石住居である可能性が高い。なお南に並んで検出されている5-974・988号土坑は対ピットと考えられる。出土遺物は炉の周囲に点在する。炉が2基検出されている事から、建て替えないしは拡張が想定される。時期は後期前半と考えられる。

5-112号住居跡（第235・236・239・240図：PL39・159・160）

位置 Q・R-16グリッドに位置する。 **重複** 南側部分に5-111号住居跡が重複、さらに北西部分には5-135号住居跡が重複する。その他住居内には10基以上の土坑が存在する。

形状 北側の周溝の形状から隅丸方形を呈すものと思われる。 **規模** (450)×(450)×-

方位 — **床面** 北側に一部、弧状に走る周溝を検出した。床面は多くの土坑によって削られており、ほとんど状況を観察できない。 **炉** 土坑によって壊されてしまったものと考えられる。

柱穴 多くの土坑が重複しており、判断は難しいがコーナーに位置する4本か。

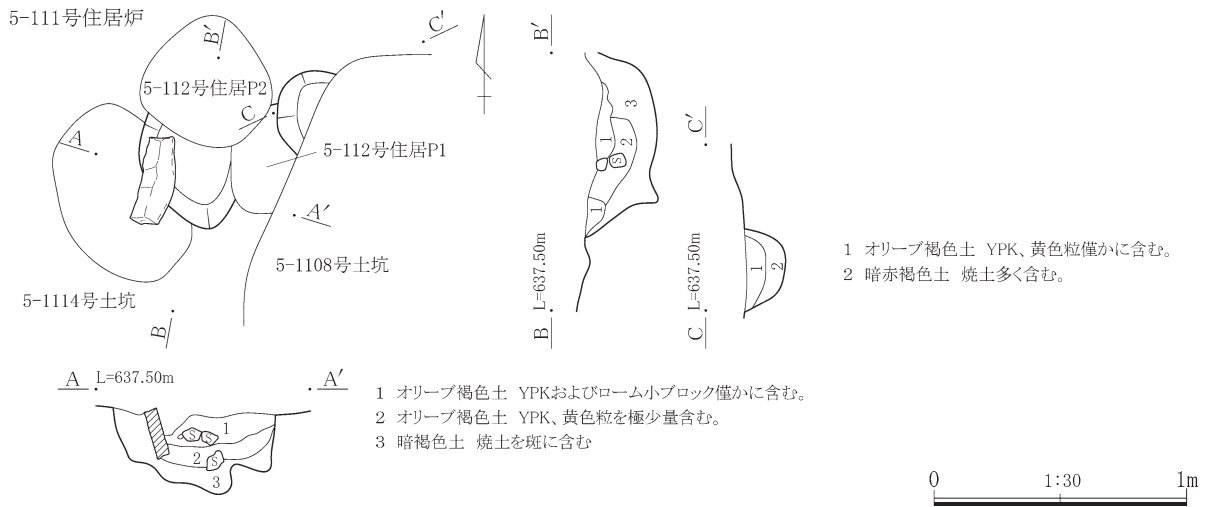
埋嚢 検出されない。 **掘方** 不明。

出土遺物 本址に帰属すると判断されるものは極めて少ない。想定範囲内において出土したものを図示しておくが、明確な帰属認定はできなかった。石器は少なく石鏃1点、大型石簿の破片1点および多孔石が1点のみであった。

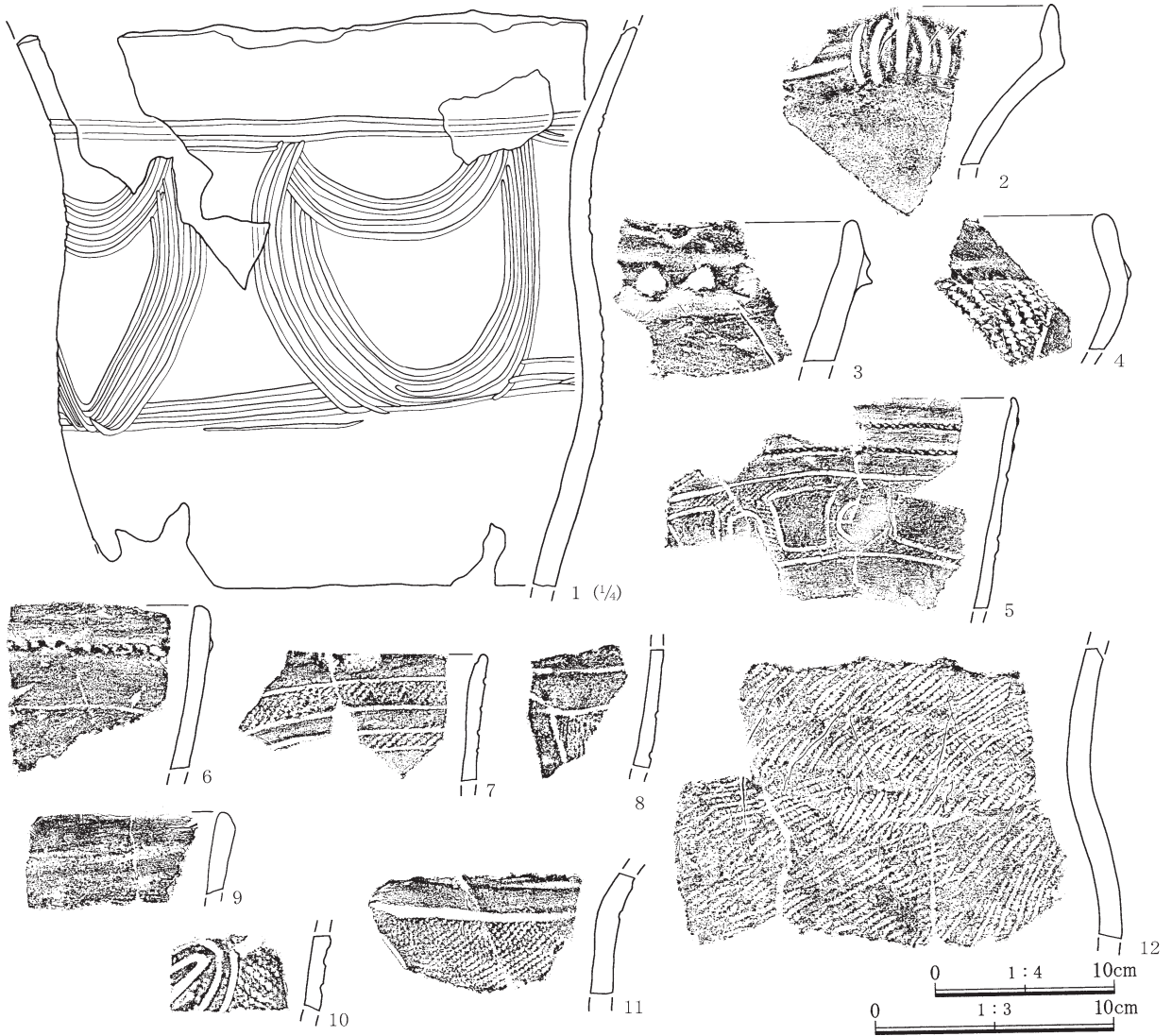
時期・所見 多くの土坑が重複しており、極めて残りの悪い住居である。わずかに確認された周溝から住居と判断した。5-111号住居跡に南側を切られていると考えられる。

第3章 検出された遺構と遺物





第236図 5-111・112号住居跡(2)

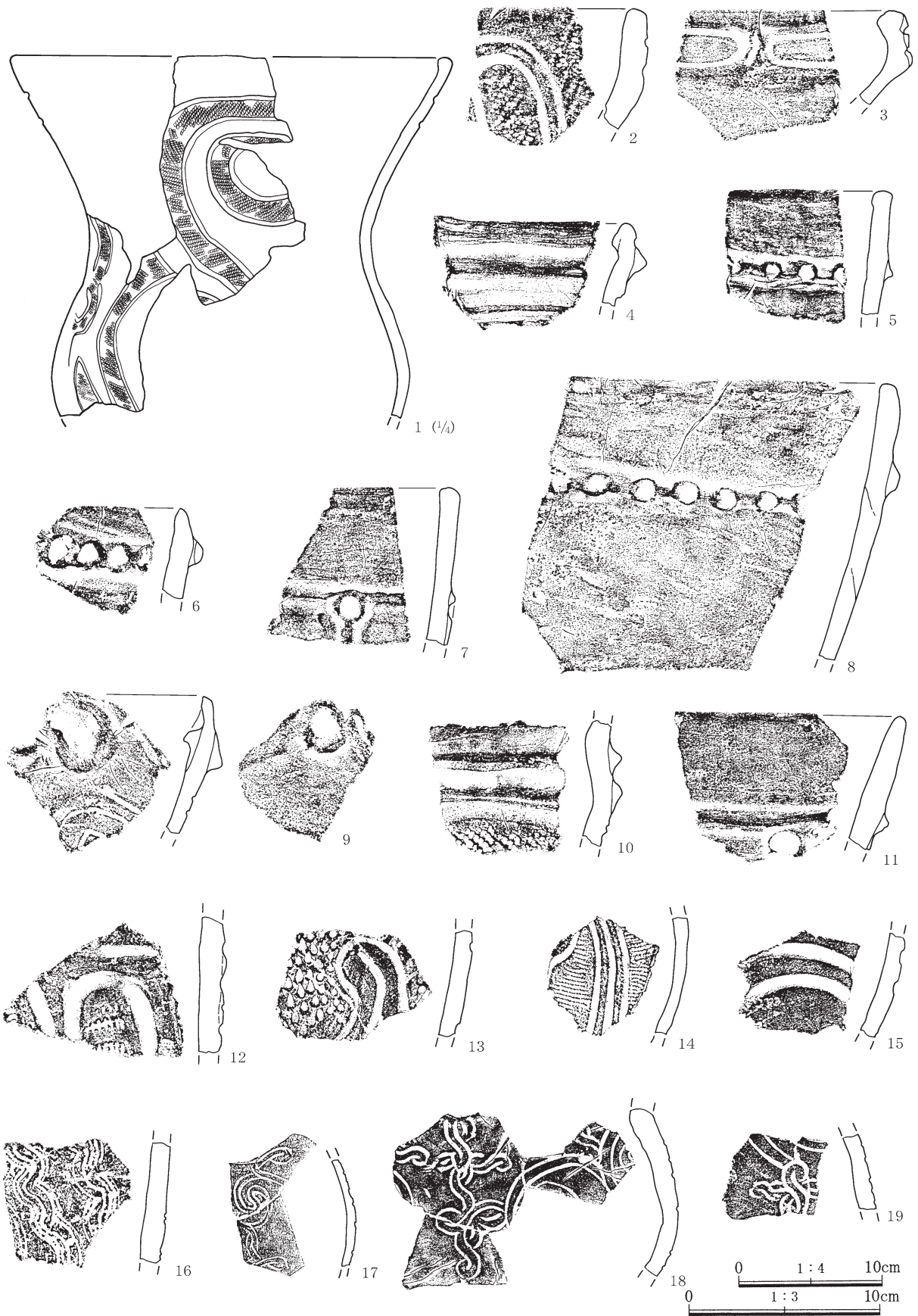


第237図 5-111号住居跡出土遺物(1)

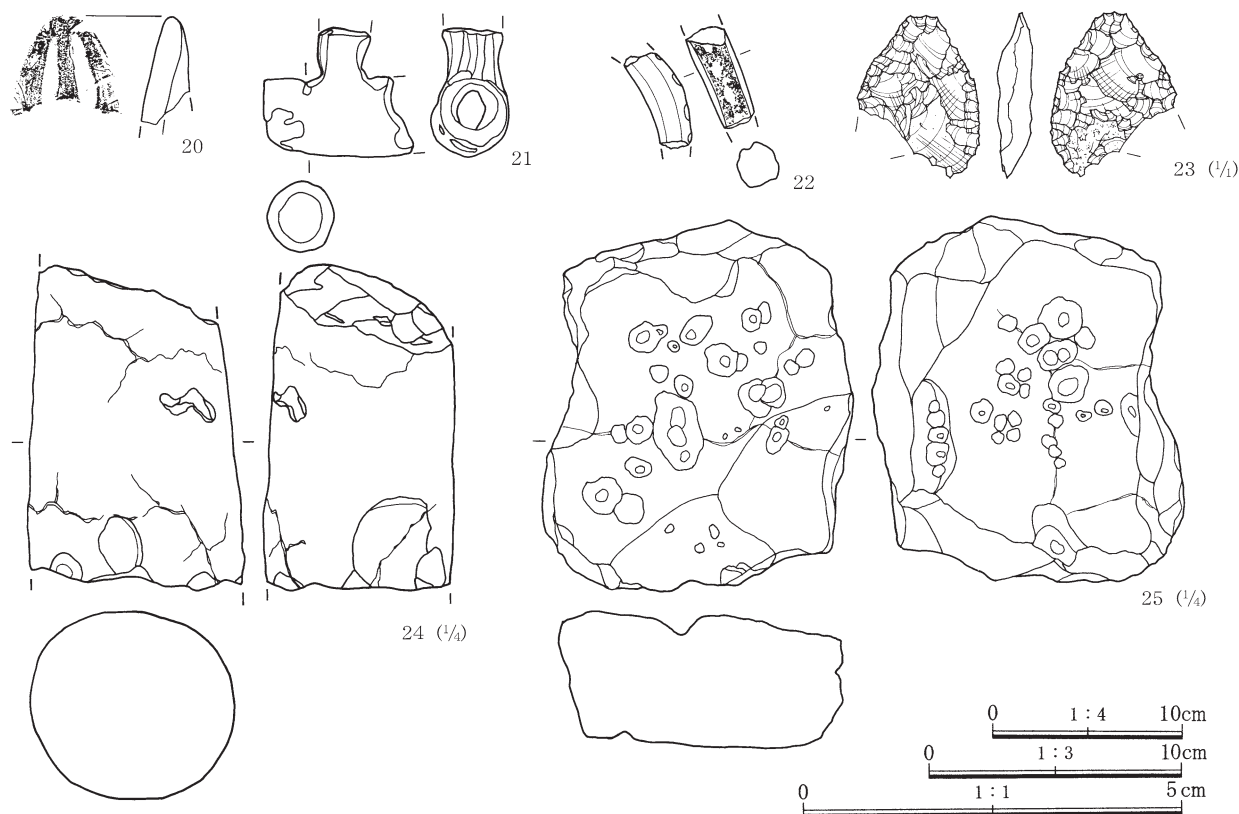
第3章 検出された遺構と遺物



第238図 5-111号住居跡出土遺物(2)



第239図 5-112号住居跡出土遺物(1)



第240図 5-112号住居跡出土遺物(2)

5-113号住居跡 (第241~251図：PL39・40・160~163)

位置 K・L-16・17グリッドに位置する。 **重複** 5-92号住居跡の東側および5-93号住居跡を切つて構築される。 **形状** 柄鏡型を呈すものと思われるが、張り出し部の形状については不明である。検出した周溝が部分的に途切れ、やや直線的に掘られていることから、床面の形状は六角形を呈していたことも考えられる。 **規模** 500×(300)×50cm。 **方位** N-5°-E

床面 地山ローム面を固めて床としている。全体的に良く締まり、炉の周囲がやや落ち込んでいる。前述したように、壁際に幅20~30cmの周溝が部分的に途切れているがほぼ全周している。

炉 新旧2基を検出、新しい炉(1号炉)は一部に石を用いるものの、他は土器の口縁部片を楕円形に2・3重に立て並べた土器囲い炉である。長径80cm、短径60cmを測る。火床面は良く焼けており中央にはピット状の掘り込みが見られた。古い炉(2号炉)は1号炉の東側に一部重なって検出された。75cm×65cmの隅丸方形の土坑として検出された。覆土中に多量の焼土粒、ロームブロックが含まれており人為的に埋められたものと判断される。

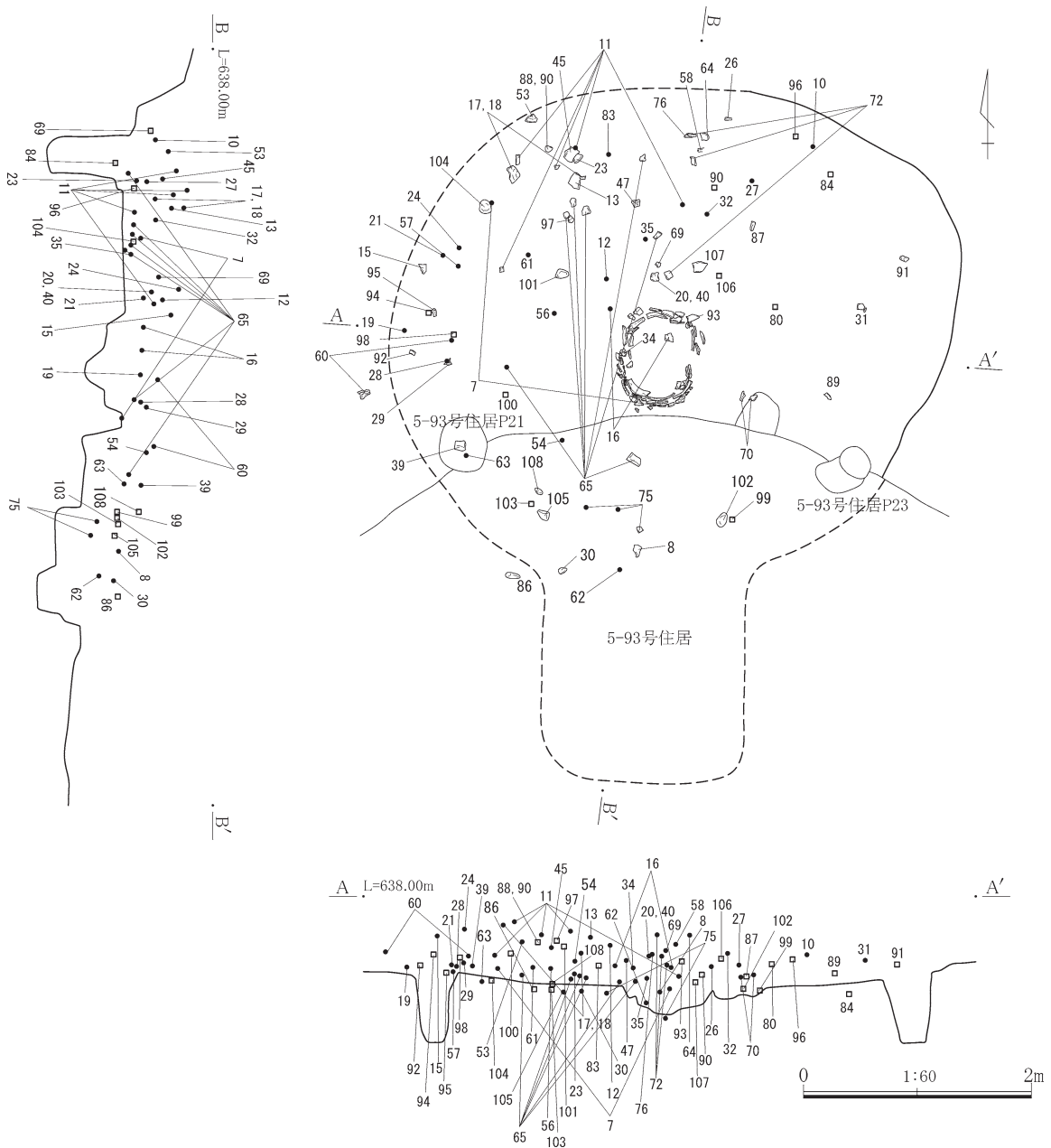
柱穴 壁溝に沿って9本を検出した。5-93住P8、5-93住P21、P1、P6、P4、P2、P3、5-93住P23、5-93住P3である。周溝の途切れた部分に掘り込まれていることも注目される。なお、入り口部および張り出し部については、5-93号住居の覆土中にあったことから確認できなかった。

埋蔵 検出されなかった。 **掘方** 本住居の西側に重複する5-92号住居跡の炉が主体部の西寄りにおい

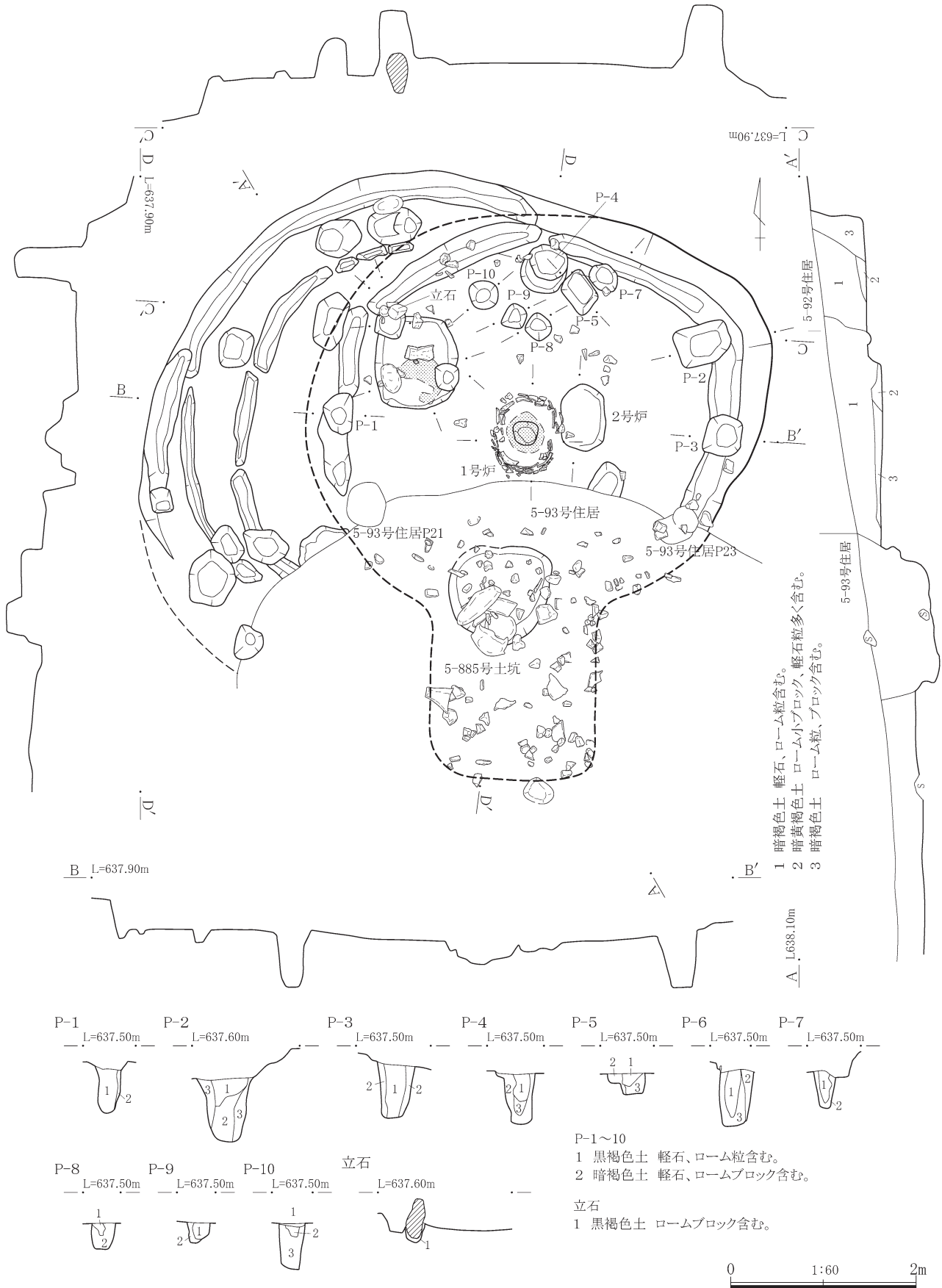
て検出されている、断面の観察から人為的に埋めているものと判断された。

出土遺物 比較的多くの遺物が見られ、分布を見ると住居の西側寄りに集中する傾向が窺える。特に炉材として用いられた土器片は時期認定の上でも注目される。石器は石鏃、打製石斧、磨石類が多く見られるが、本遺跡ではあまり出土例のない石匙や卵形の軽石製品が注目される。また北西に位置する柱穴脇に、高さ25cm程の川原石の立石が据えられていた。

時期・所見 本址は新旧2基の炉が検出されたことから西側に拡張されたものと見られる。拡張後の炉は古い炉の左側に構築されており、土器片を楕円形に立て並べた土器囲い炉で、本遺跡では初出のものである。時期は炉に使用された土器などから加曾利E4式期と判断される。

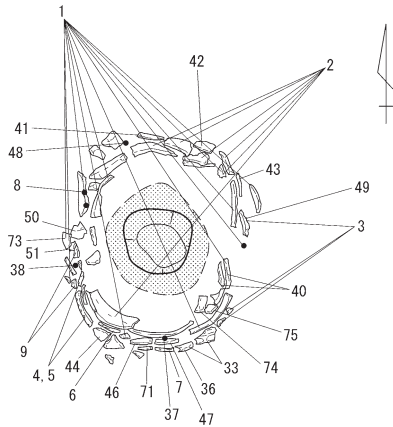


第241図 5-113号住居跡(1)

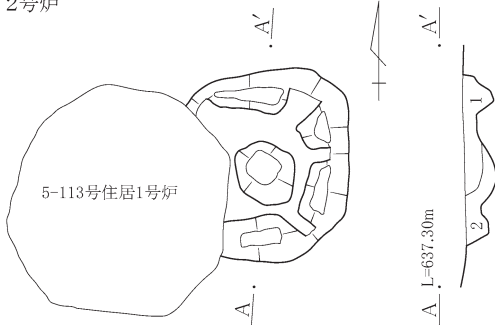


第242図 5-113号住居跡(2)

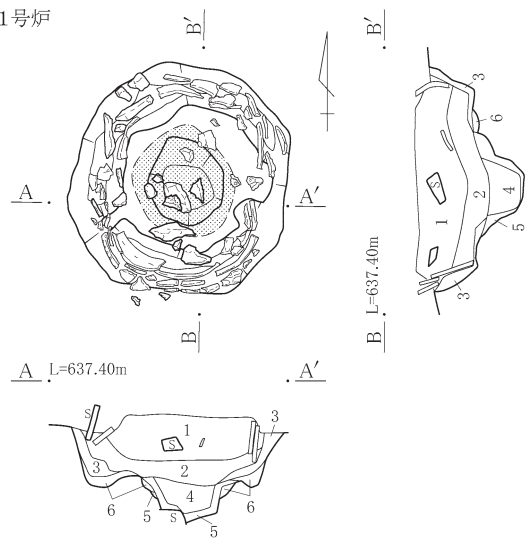
遺物分布図



2号炉



1号炉

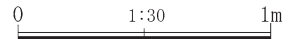


1号炉A-A' B-B'

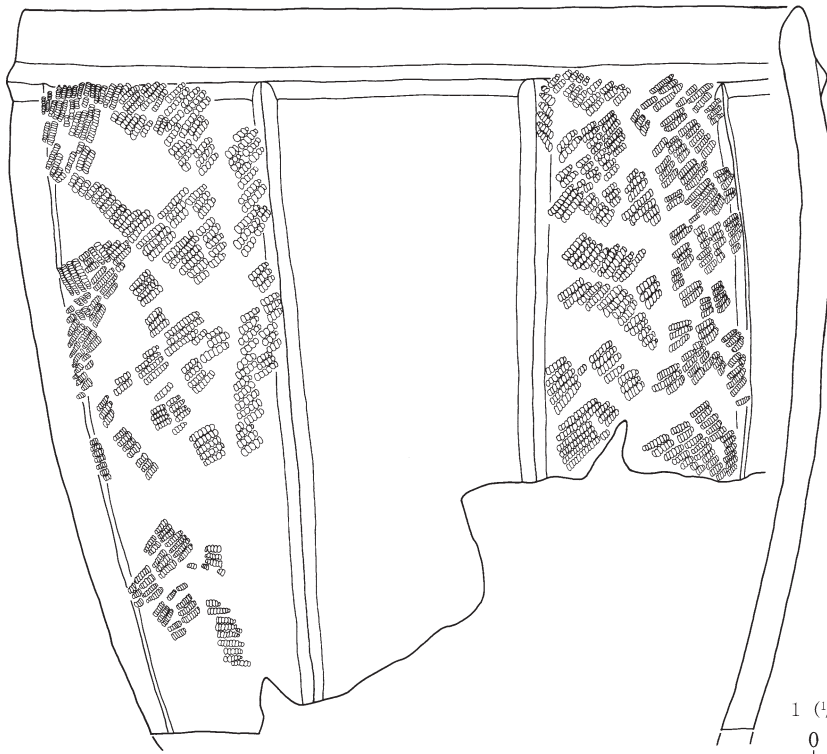
- 1 暗褐色土 多量の白色パミス含み、締まり粘性あり。
- 2 暗褐色土 焼土多量に含み締まり粘性あり。
- 3 暗褐色土 多量の焼土粒子白色軽石含む、締まり弱く粘性あり。
- 4 暗褐色土 多量の焼土粒子含む、締まりなく粘性あり。
- 5 暗赤褐色土 焼土化した地山。
- 6 暗褐色土 焼土粒、黒色土小ブロックの混入。

2号炉A-A'

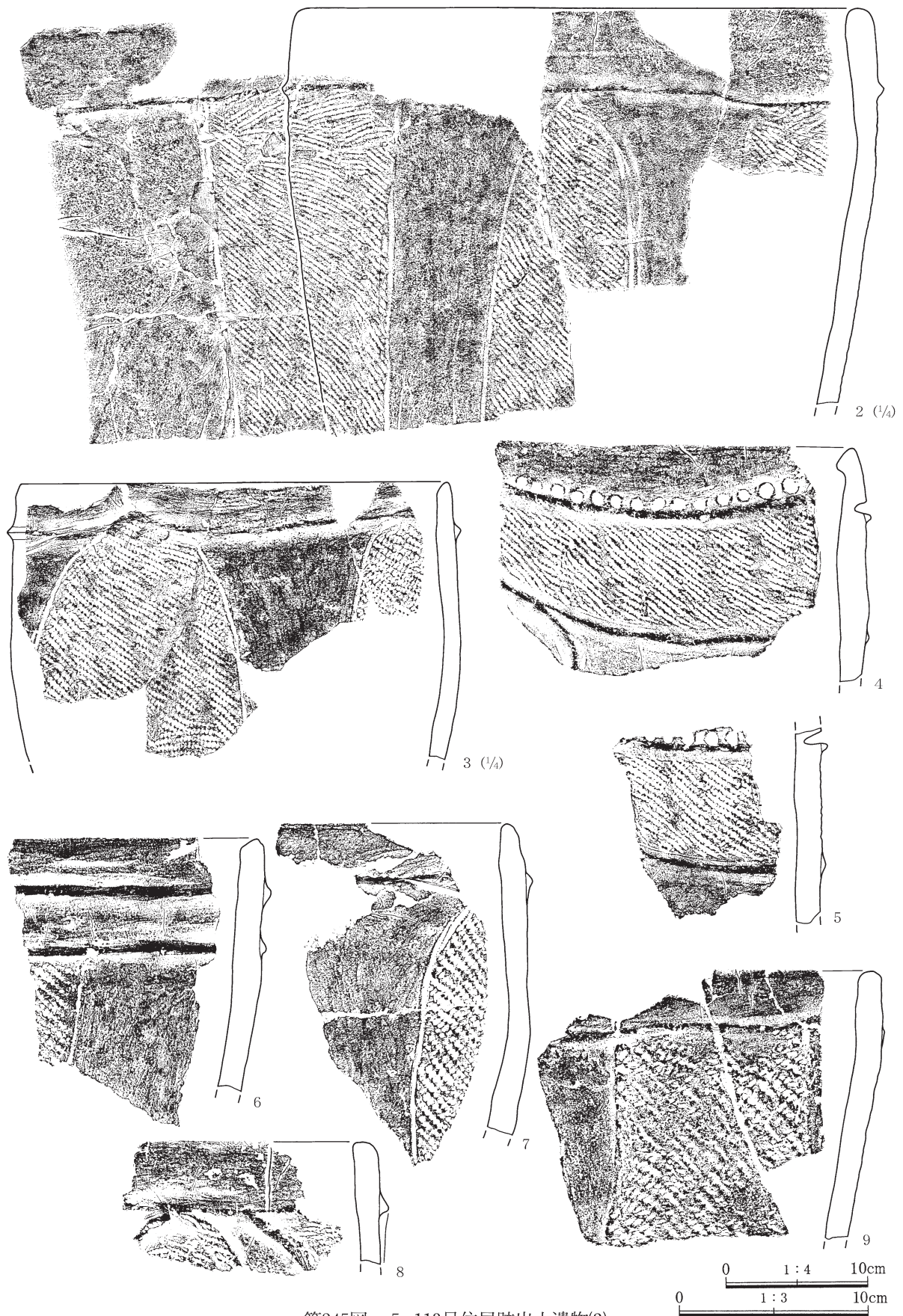
- 1 暗褐色土 多量の焼土粒子含み、締まり弱く粘性あり。
- 2 暗褐色土 1を基調とするがローム多く混入。



第243図 5-113号住居跡(3)



第244図 5-113号住居跡出土遺物(1)

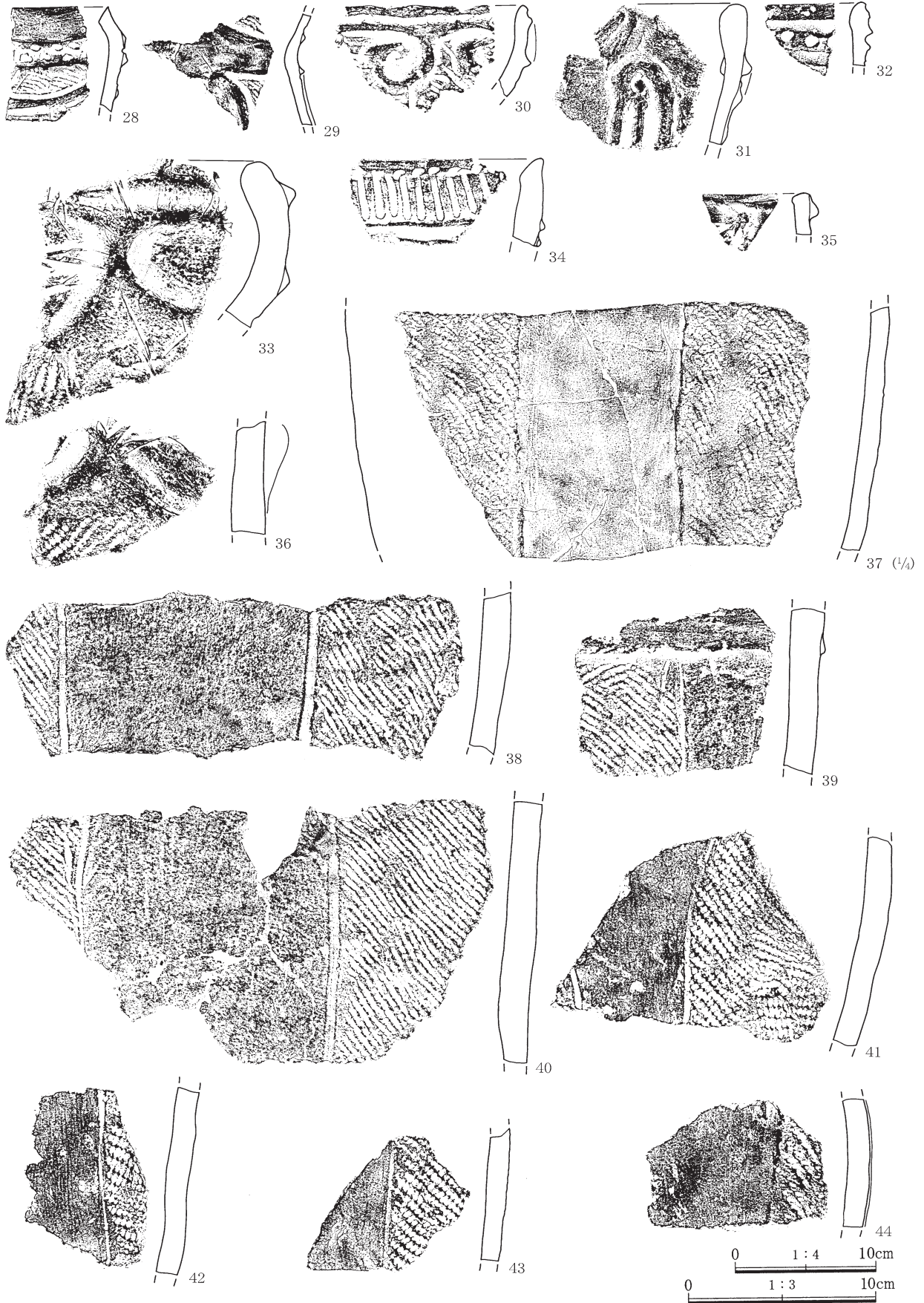


第245図 5-113号住居跡出土遺物(2)



第246図 5-113号住居跡出土遺物(3)

第3章 検出された遺構と遺物

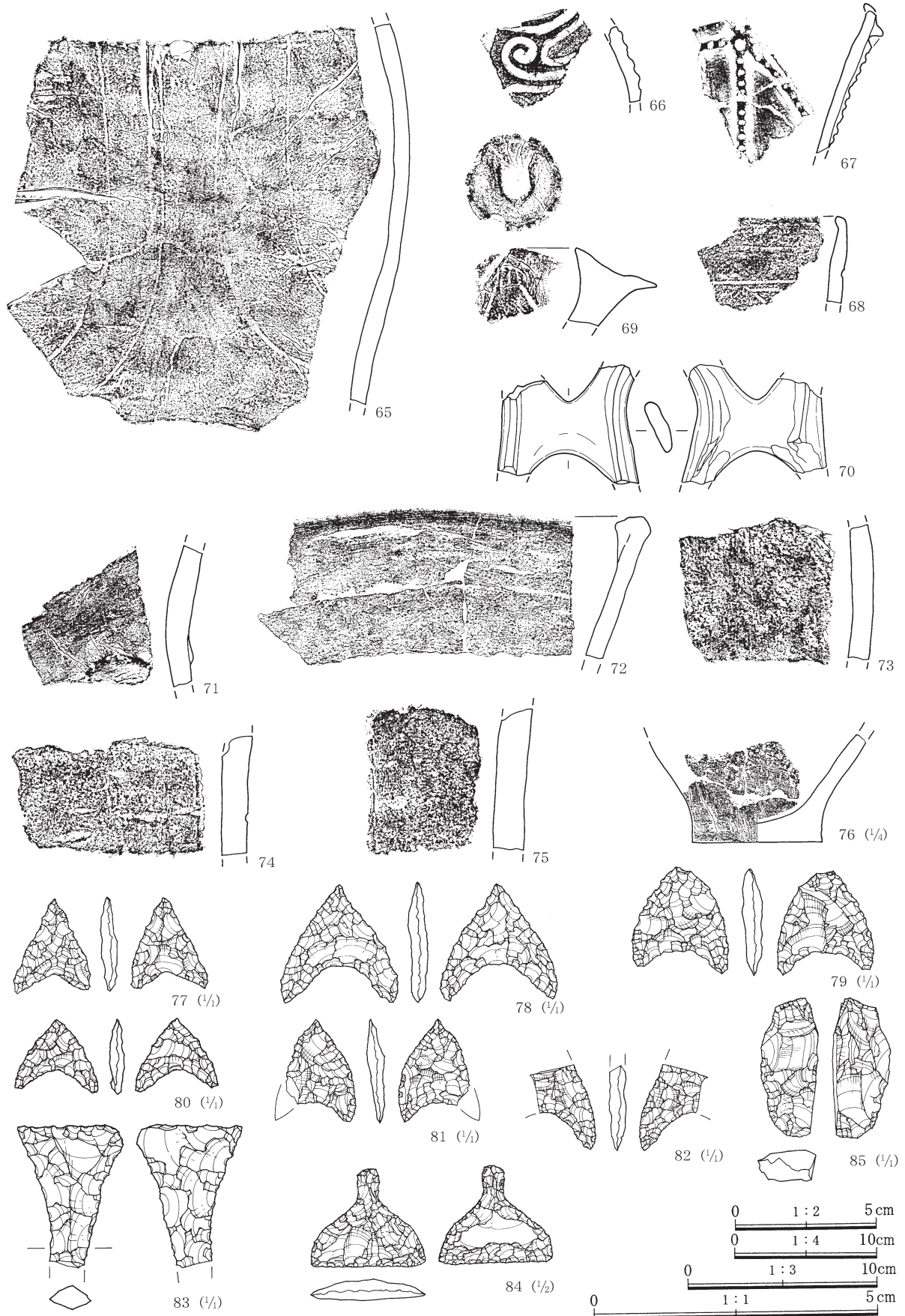


第247図 5-113号住居跡出土遺物(4)

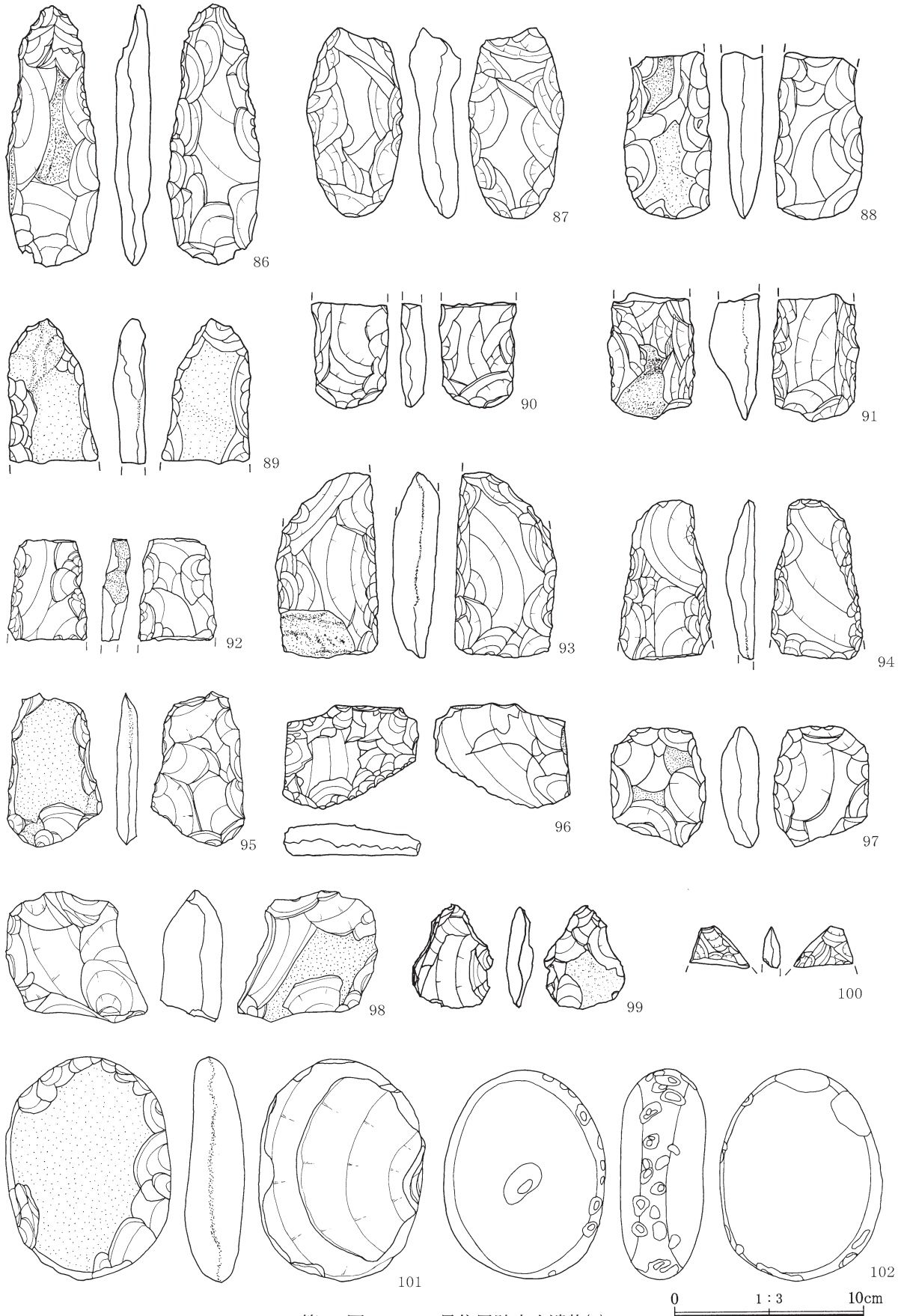
第3節 縄文時代の遺構と遺物



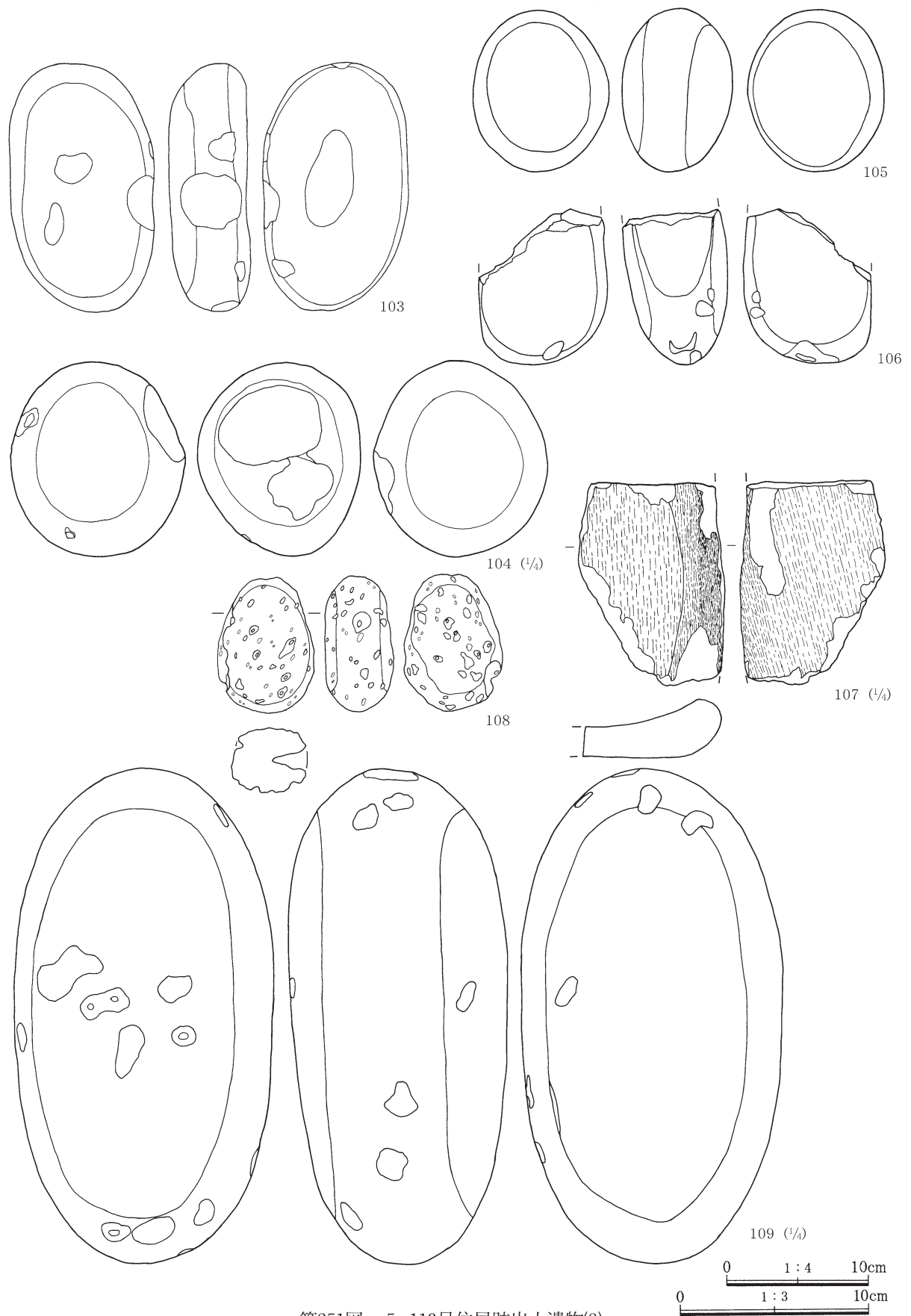
第248図 5-113号住居跡出土遺物(5)



第249図 5-113号住居跡出土遺物(6)



第250図 5-113号住居跡出土遺物(7)



第251図 5-113号住居跡出土遺物(8)

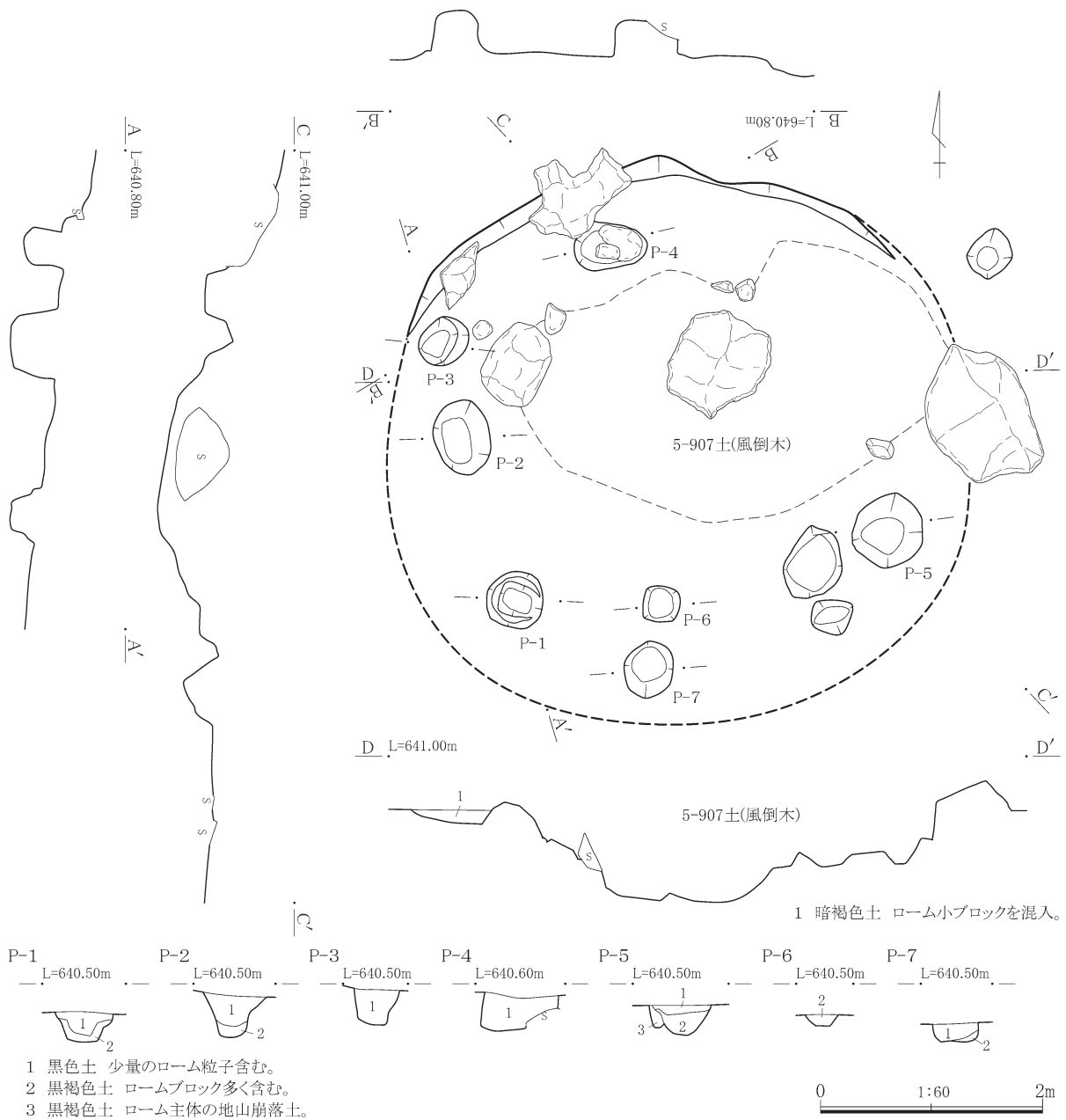
5-114号住居跡 (第252・253図: PL40・163)

位置 S・T-20・21グリッドに位置する。 **重複** 中央部分は5-907号土坑(風倒木)により壊されている。 **形状** 円形か。 **規模** 推定径5.2m。 **方位** -

床面 土坑(風倒木)に大きく壊されており状態は極めて悪く、残った部分についても凹凸が顕著で、南側についても削平が著しい。 **炉** 5-907号土坑(風倒木)によって壊されている。 **柱穴** 風倒木を取り囲むように検出された、壊されたものを含め、5本から7本と推定される。 **埋甕** 検出されない。 **掘方** 不明である。

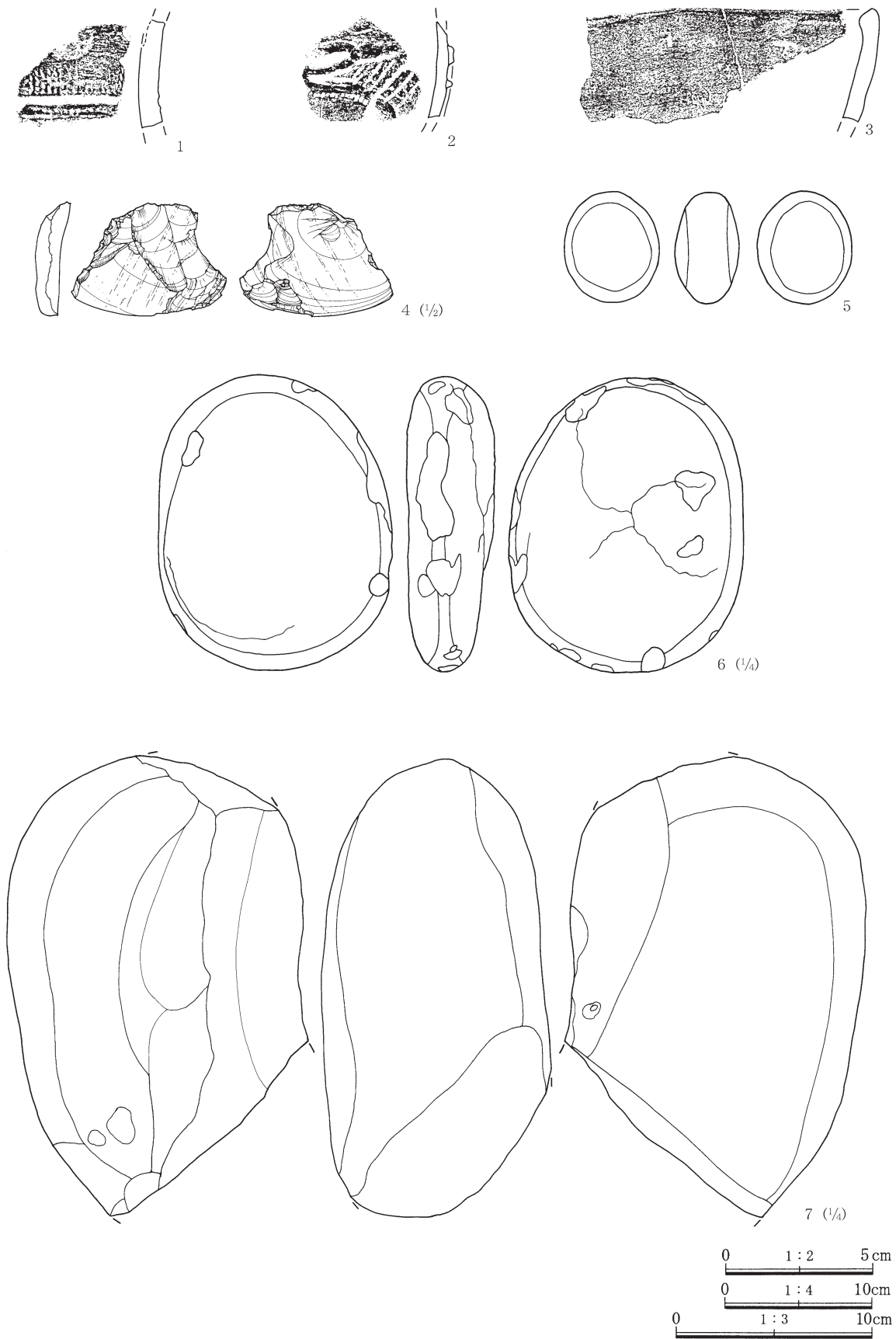
出土遺物 風倒木覆土中よりわずかに出土。少数の土器片、石器はスクレイパーおよび磨石等である。

時期・所見 弧状に残る北壁部分を除き、中央部分は風倒木により大きく壊されさらに南側は削平されている。時期は中期後半か。



第252図 5-114号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物



第253図 5-114号住居跡出土遺物

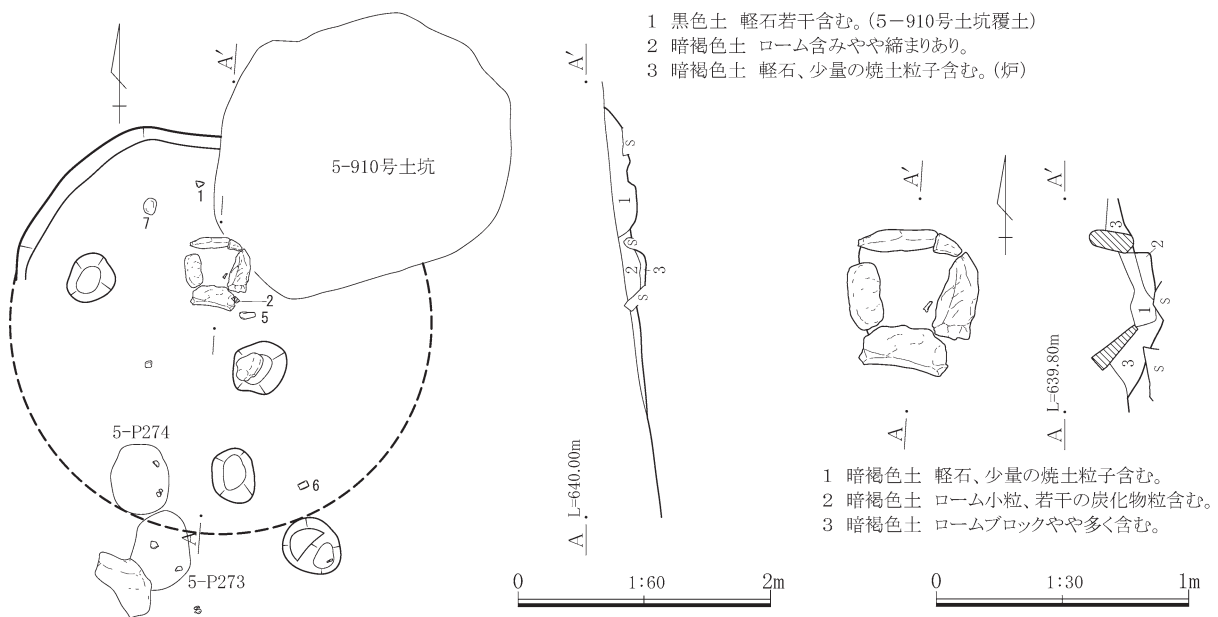
5-115号住居跡 (第254・255図: PL40・163)

位置 S・T-18・19グリッドに位置する。 **重複** 北東部を5-910号土坑(風倒木)により壊されている。
形状 円形か。 **規模** 推定径3.0m。 **方位** N-5°-E

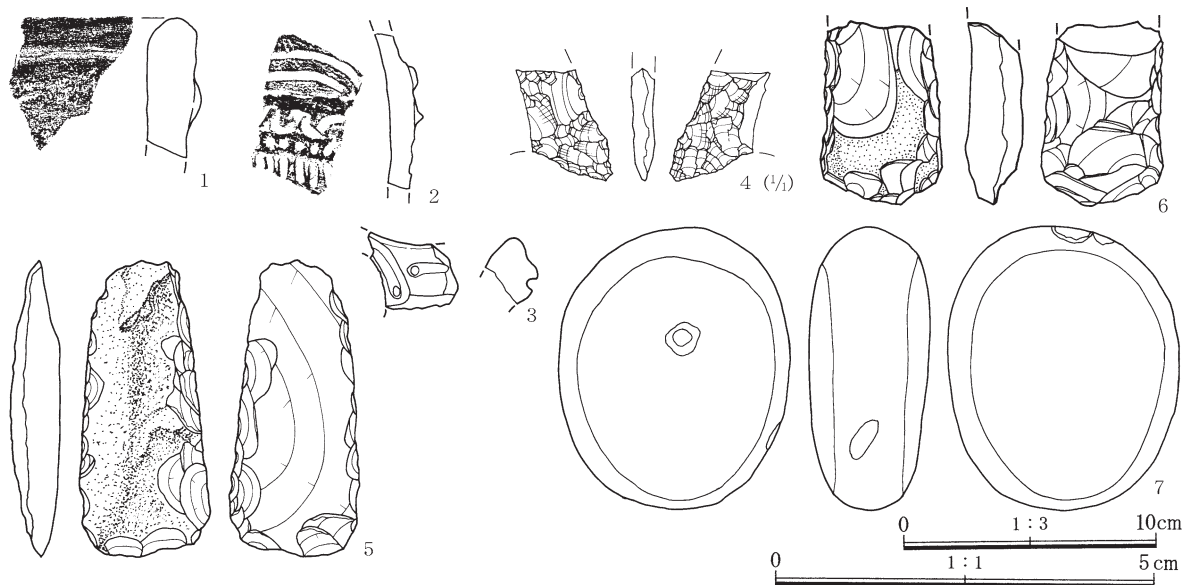
床面 残存部分については比較的平坦であるが、硬さは乏しい。 **炉** 板状の礫を四角に組んだ石囲い炉である。55×50cmのほぼ方形を呈す。内部に若干の焼土を認める。 **柱穴** 炉の左および手前部分に5本のピットが検出されたが、明確な対応関係は掴めなかった。風倒木により1本が壊されているものと考えられることから、2ないしは3本の可能性がある。 **埋甕** 検出されない。 **掘方** 不明。

出土遺物 炉の前面にわずかに土器片等が見られた。石器も少なく石鏃1点、打製石斧2点、磨石が1点である。

時期・所見 小型の住居である。炉を検出したが、大部分風倒木や削平により遺存状態は悪い。



第254図 5-115号住居跡



第255図 5-115号住居跡出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

5-116号住居跡 (第256・257図：PL40・163)

位置 P-18グリッドに位置する。 **重複** 南側に5-85・110号住居跡が重複しており南側のおよそ半分は壊されている。 **形状** 円形か。 **規模** (350)×(350)×15cm。 **方位** -

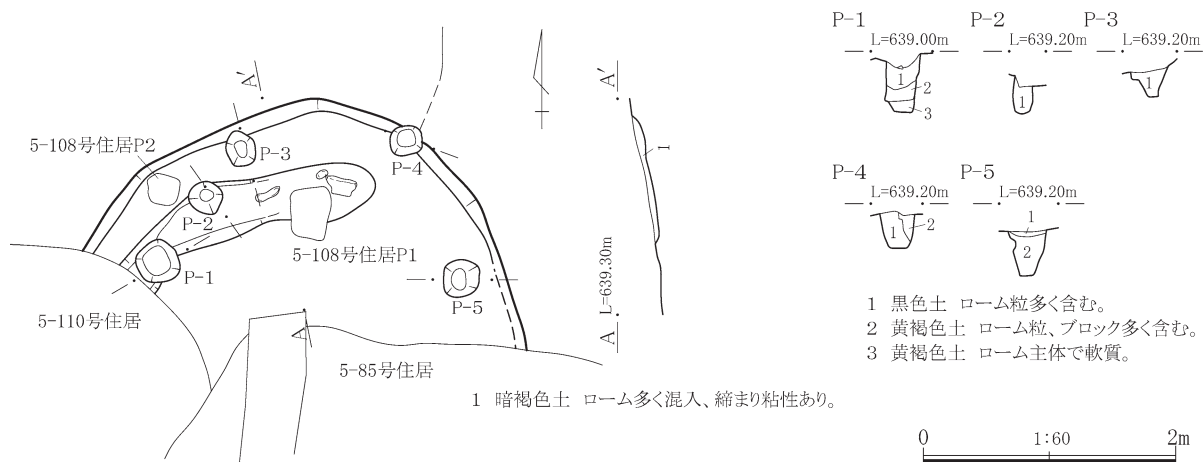
床面 やや凹凸が見られるものの比較的締まりがよい。北側部分に幅広の周溝状の溝が検出されている。

炉 検出されなかった。 **柱穴** 壁に沿って径約20cm深さ30~40cmの柱穴5本が廻る。

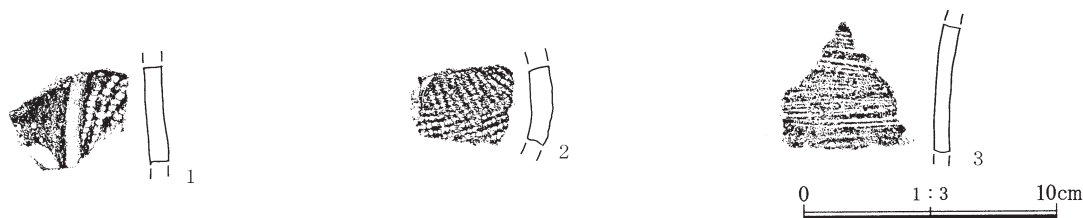
埋甕 検出されなかった。 **掘方** 不明。

出土遺物 わずかに土器片が出土しているのみである。

時期・所見 小型の住居で、南側が大きく失われ、削平も受けており遺存状態が悪い。時期は出土した土器から中期後半か。



第256図 5-116号住居跡



第257図 5-116号住居跡出土遺物

5-117号住居跡 (第258・259図：PL40・41・163)

位置 W・X-17グリッドに位置する。 **重複** 無し。

形状 不明 (平地式か)。 **規模** 不明。 **方位** N-0°

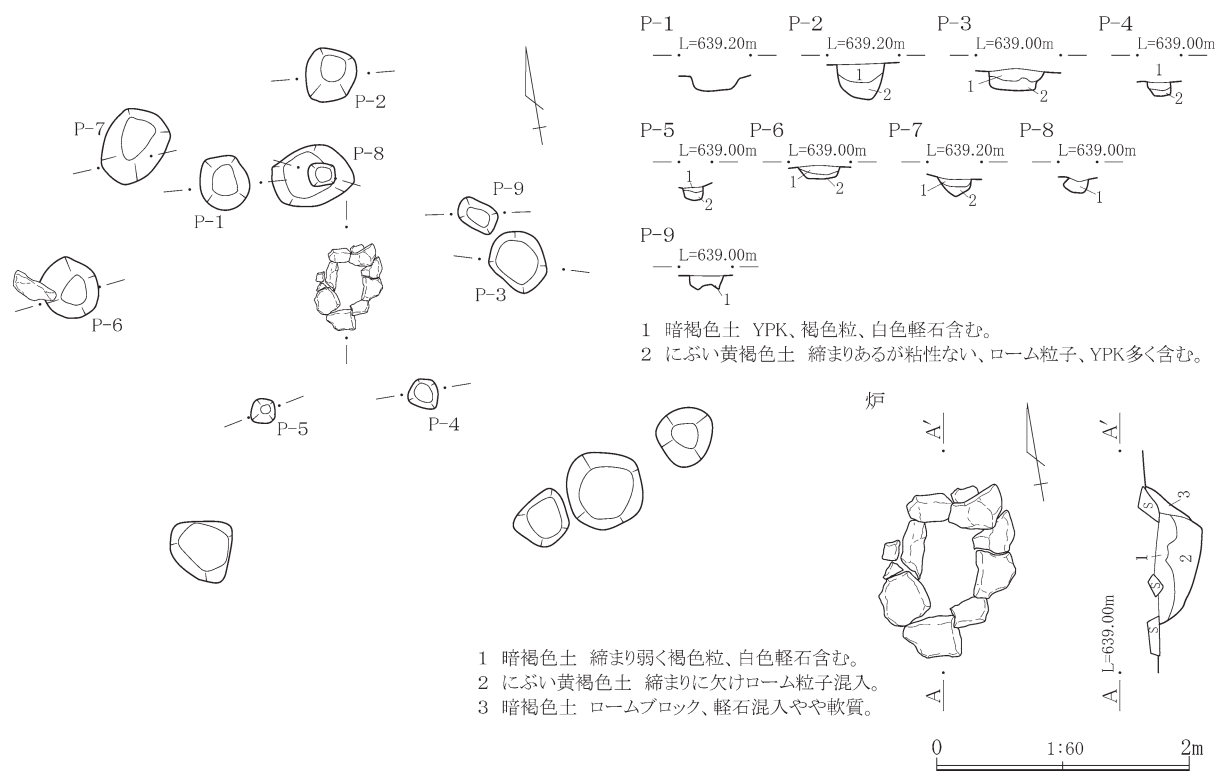
床面 平坦で、炉の周囲はやや硬く締まった部分が見られる。 **炉** 自然礫をほぼ楕円形に組む。内部はかなり深く掘りこまれる。内部に焼土はほとんど見られず。 **柱穴** 炉の周囲に9本が見られるが、企画性に乏しくいずれも比較的掘り込みが浅い。外側に位置する6本か。

埋甕 検出されない。 **掘方** 貼り床等は見られない。

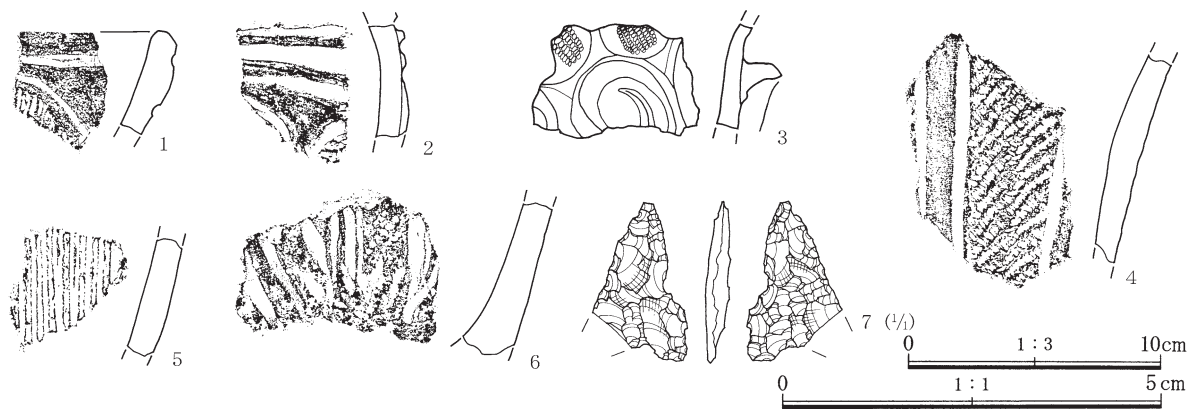
出土遺物 若干の土器小片が出土している。石器は黒曜石製の石鏃が1点のみである。

時期・所見 掘り込みは確認されなかった、また周溝なども見られない。炉の周囲はかなり踏み締められた様子が伺えた。平地式住居の可能性はある。時期は中期後半か。

第3節 縄文時代の遺構と遺物



第258図 5-117号住居跡



第259図 5-117号住居跡出土遺物

5-118号住居跡 (第260~262図: PL41・164)

位置 W・X-15・16グリッドに位置する。 **重複** 東側に5-119号、南側は5-128・129号住居跡に切られる。 **形状** 円形か。 **規模** 380×(360)×12cm。 **方位** N-29°-W

床面 細かな凹凸が在るが比較的平坦、中央より南はわずかに下がる。全体に締まりがある。

炉 ほぼ中央に作られ、細長い石を四角に組んだ石囲い炉である。南および西側は石がほぼ原位置を留めるが、他の石は割れて内側に崩落した状態で出土している。残存する石も熱を受けひび割れが顕著である。

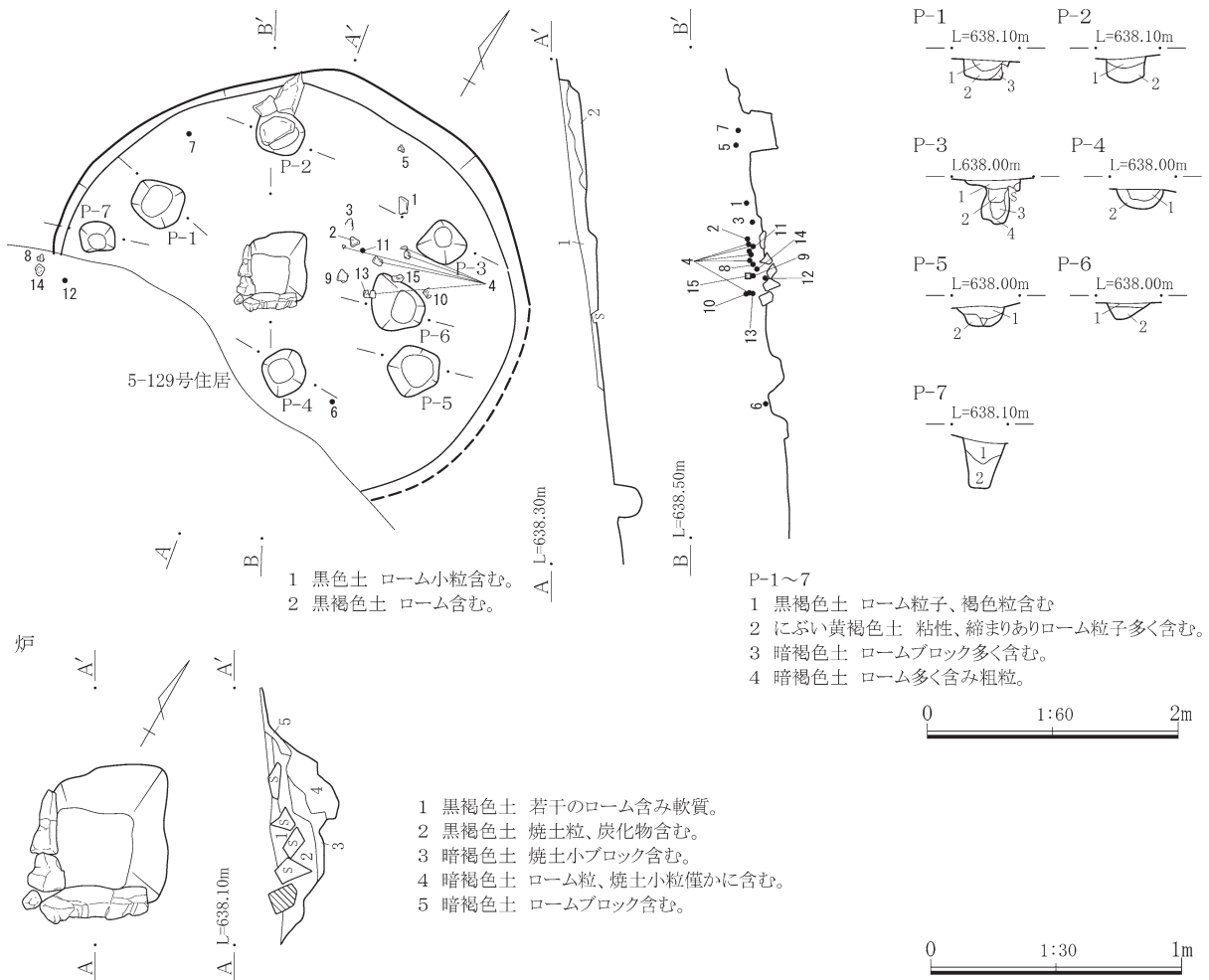
柱穴 7本の柱穴を確認しているが、外側に廻る5ないしは6本が本来の柱穴と判断される。南側は5-129号住居跡により削られている。

第3章 検出された遺構と遺物

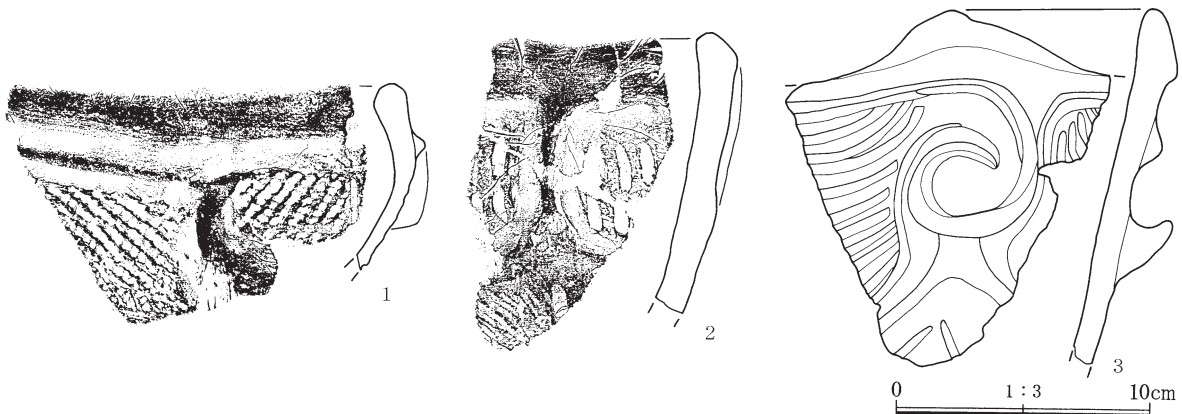
埋甕 検出されない。 **掘方** 特に土坑等の検出は無かった。

出土遺物 若干の土器片及び石器、石片が炉の周辺において出土。石器は打製石斧が1点のみである。

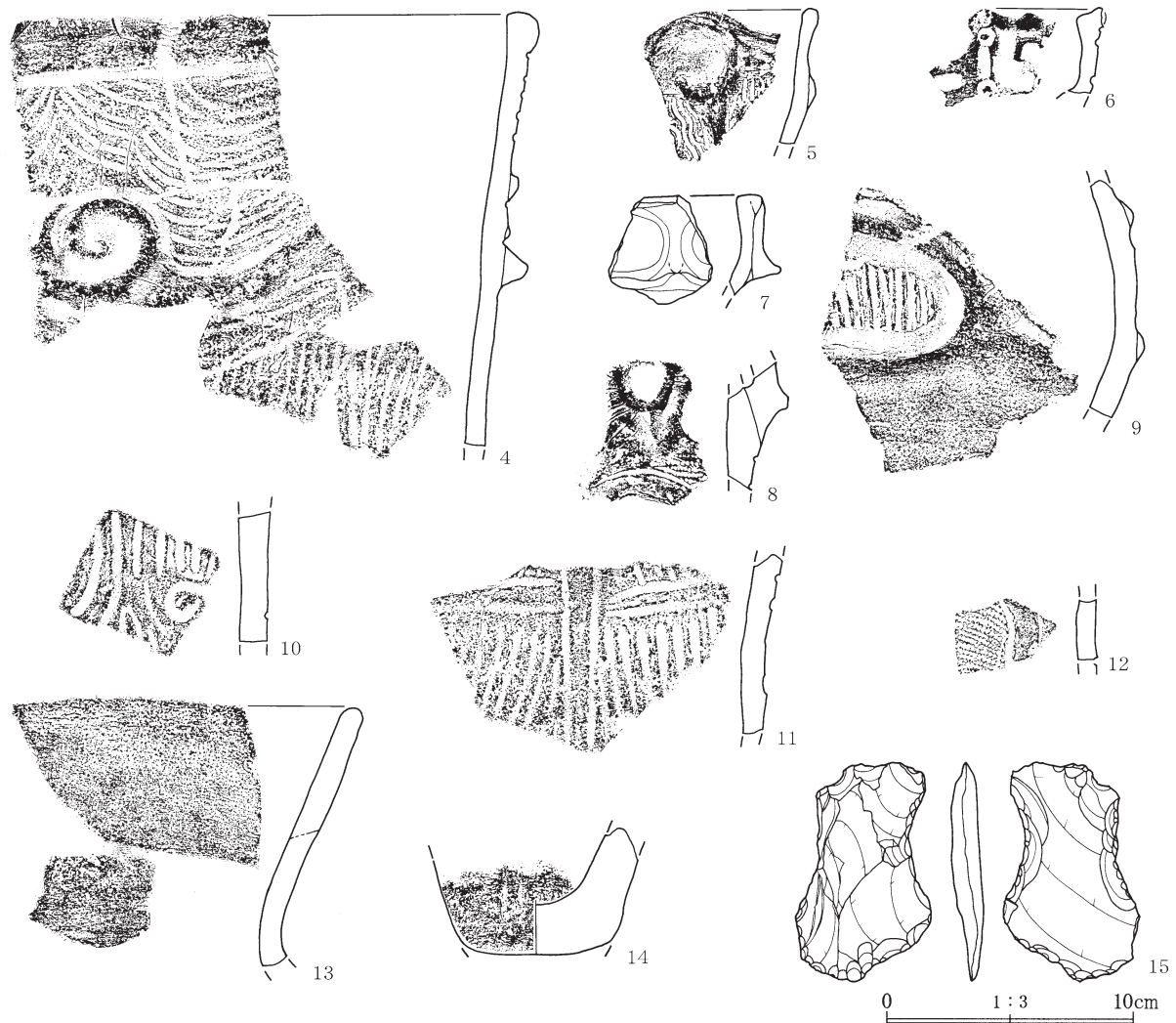
時期・所見 南側が他の住居により削られ、上面も削平された状況で遺存状態はあまり良くない。時期は出土土器から中期後半と見られる。



第260図 5-118号住居跡



第261図 5-118号住居跡出土遺物(1)



第262図 5-118号住居跡出土遺物(2)

5-119号住居跡 (第263~265図: PL41・164)

位置 W-15・16グリッドに位置する。**重複** 東側に5-119号住居跡が、西側には5-118号住居跡が重複する。**形状** ほぼ円形を呈すものと思われる。**規模** 320×(320)×12cm。

方位 不明。**床面** 全体に凹凸が見られるが締まりは良い。**炉** ほぼ中央に南北に長い掘り込みを有す地床炉である。中央に深鉢の下部を炉体土器として埋める。

柱穴 入り口部に並んだ2穴と壁に沿って配された3本の計5本が支柱穴と思われる。

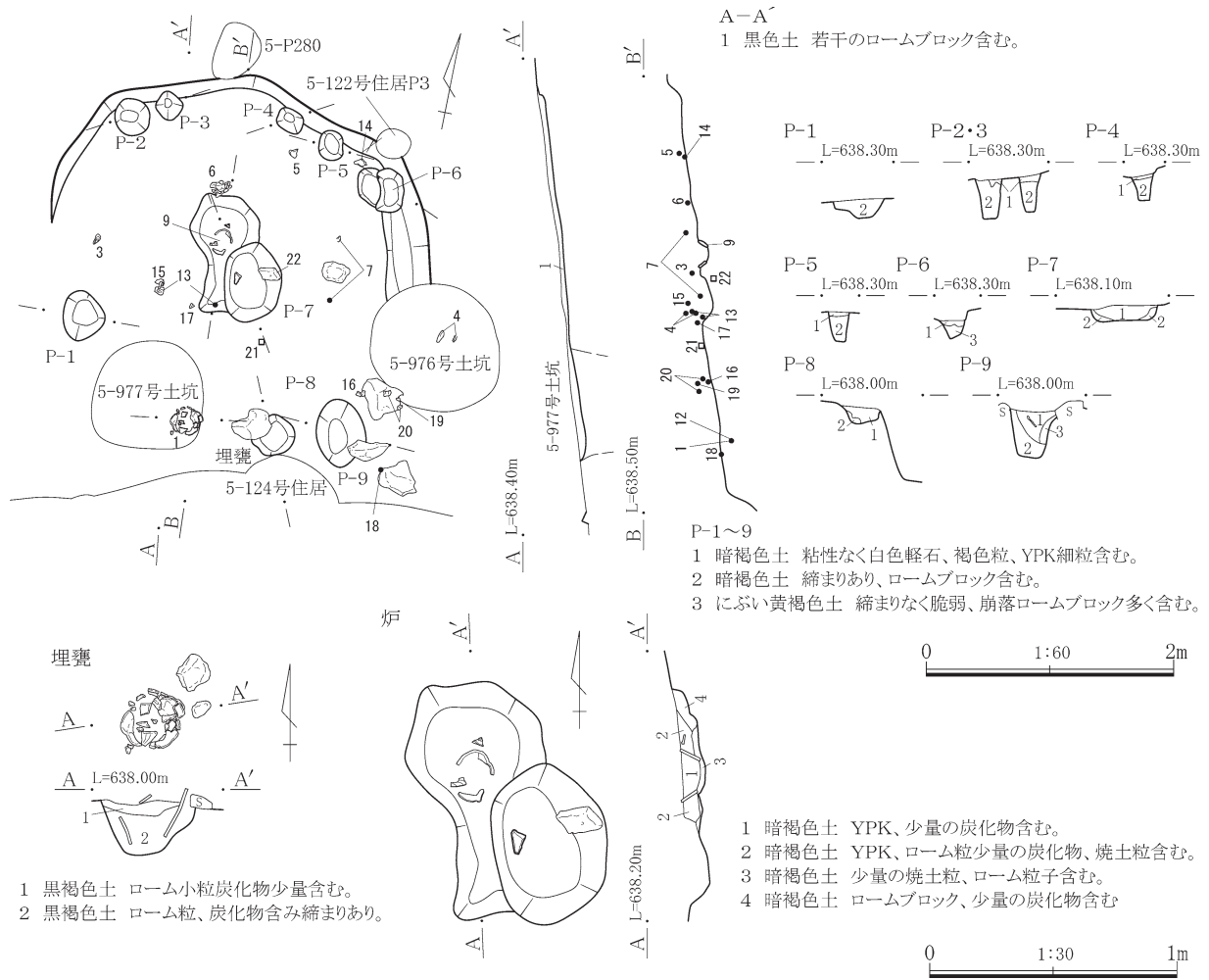
埋甕 入り口部左側に検出されている。5-977号土坑内に位置する、深鉢の胴下半部を正位に埋める、破片類が中に落ち込んだ状態で確認された。東側に2個の礫が見られる。

掘方 本址よりも古い5-977号土坑が南西部に検出されているが伴うものかは不明である。

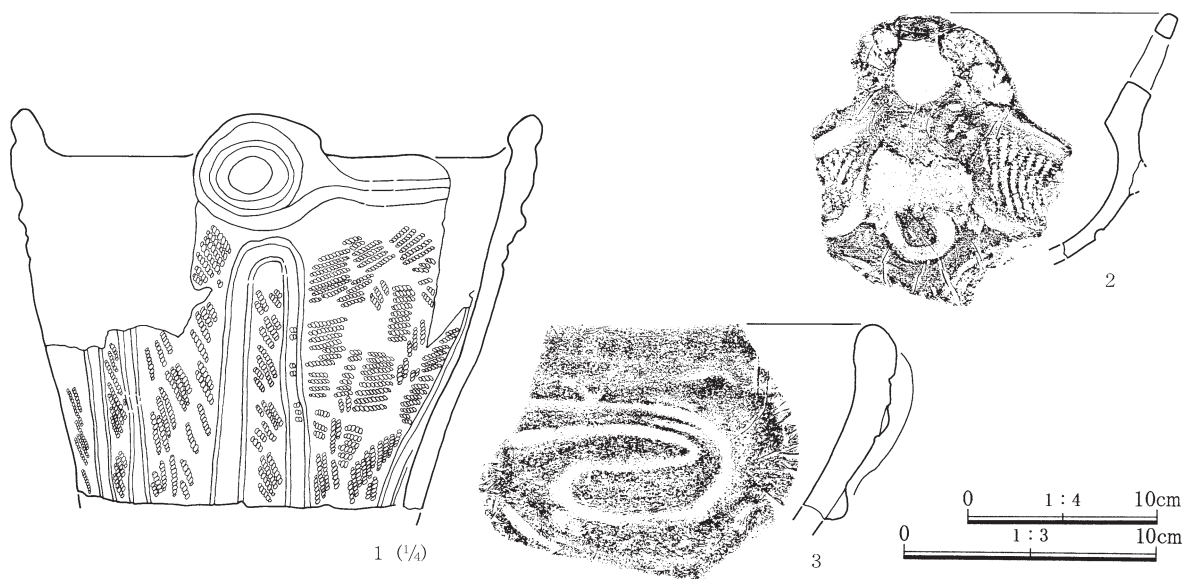
出土遺物 土器片類は点在した状態で出土、1は埋甕。石器は僅かにスクレイパーと石皿片の2点である。

時期・所見 比較的小型の住居である。南側は5-118号住居と重複することもあり削平状況にある。時期は炉体土器、埋甕から中期後半加曾利E3式期と思われる。

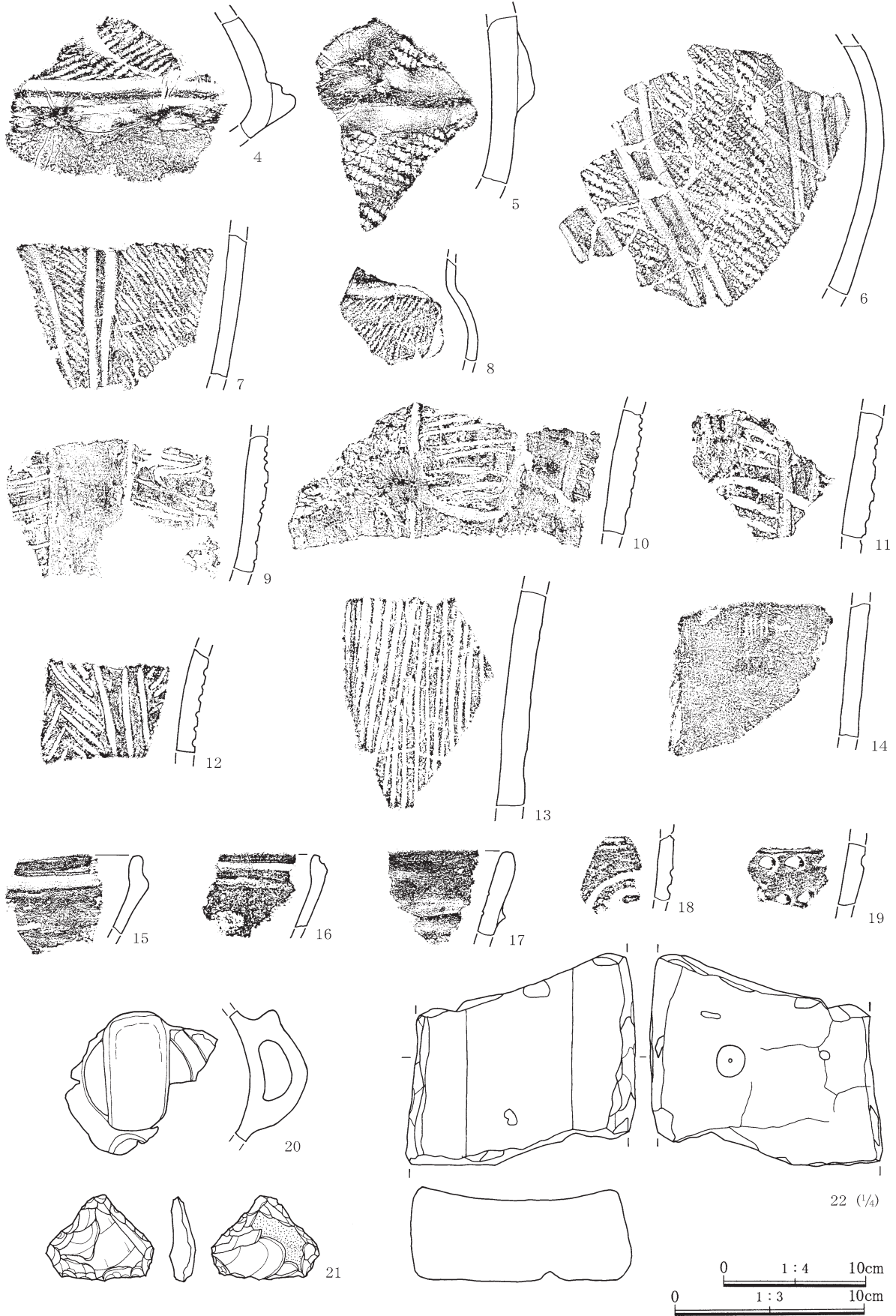
第3章 検出された遺構と遺物



第263図 5-119号住居跡



第264図 5-119号住居跡出土遺物(1)



第265図 5-119号住居跡出土遺物(2)

第3章 検出された遺構と遺物

5-120号住居跡 (第267~271図: PL42・43・164~166)

位置 V-16グリッドに位置する。 **重複** 5-122号住居跡内に構築されている、南部分に5-1000・1035号土坑が重複する。 **形状** 円形を呈す。 **規模** 290×270×25cm。 **方位** N-6°-W

床面 壁の立ち上がりは緩やかで、床面はやや凹凸を持つ。炉の周囲を中心に締まりが見られる。西側には重複する5-122号住居跡の炉の残骸が検出されている。

炉 ほぼ中央に作られている。礫をコ状に配した石囲い炉である。本来は四角で在った可能性が高い。規模は約50cm四方形である。

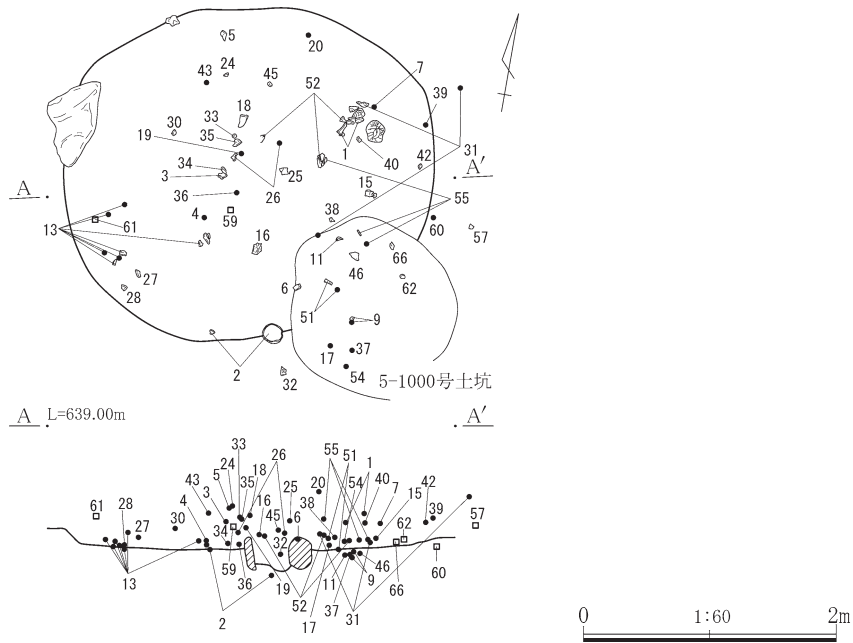
柱穴 北よりの壁際に2本を検出した。南側、土坑により壊されたと思われる1本を含め3本柱穴か。

埋甕 入り口部にあり5-1035号土坑内に検出された。蓋状の扁平な石の下に小型深鉢が正位状態で埋められる。

掘方 埋甕が覆土中に構築された5-1035号土坑および炉の西には5-122号住居跡の炉が検出された。

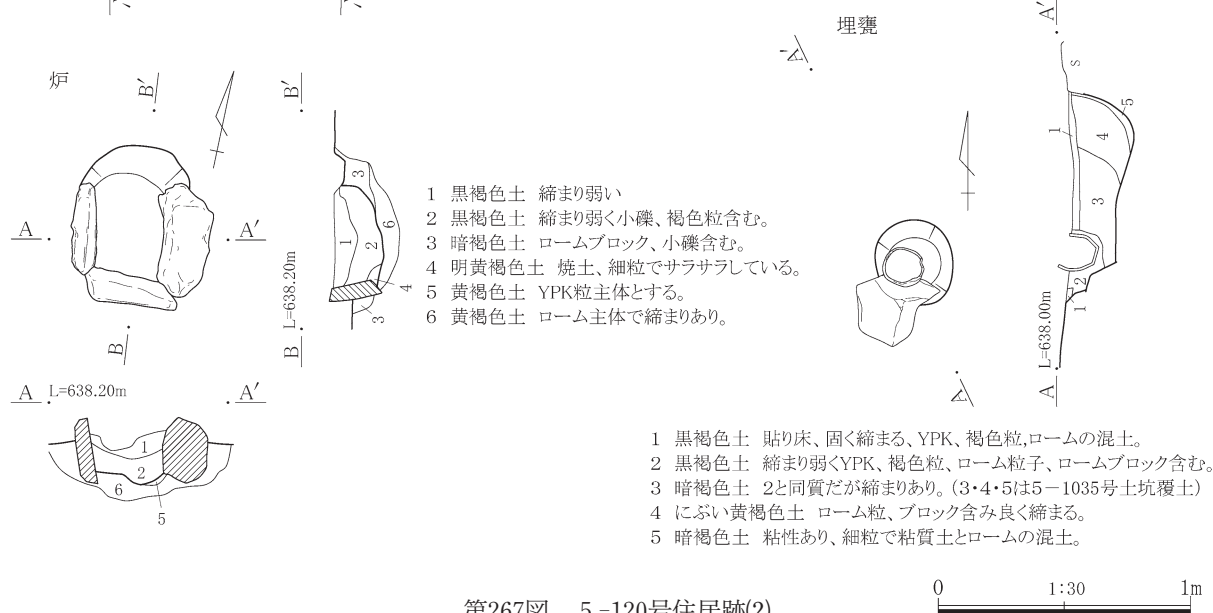
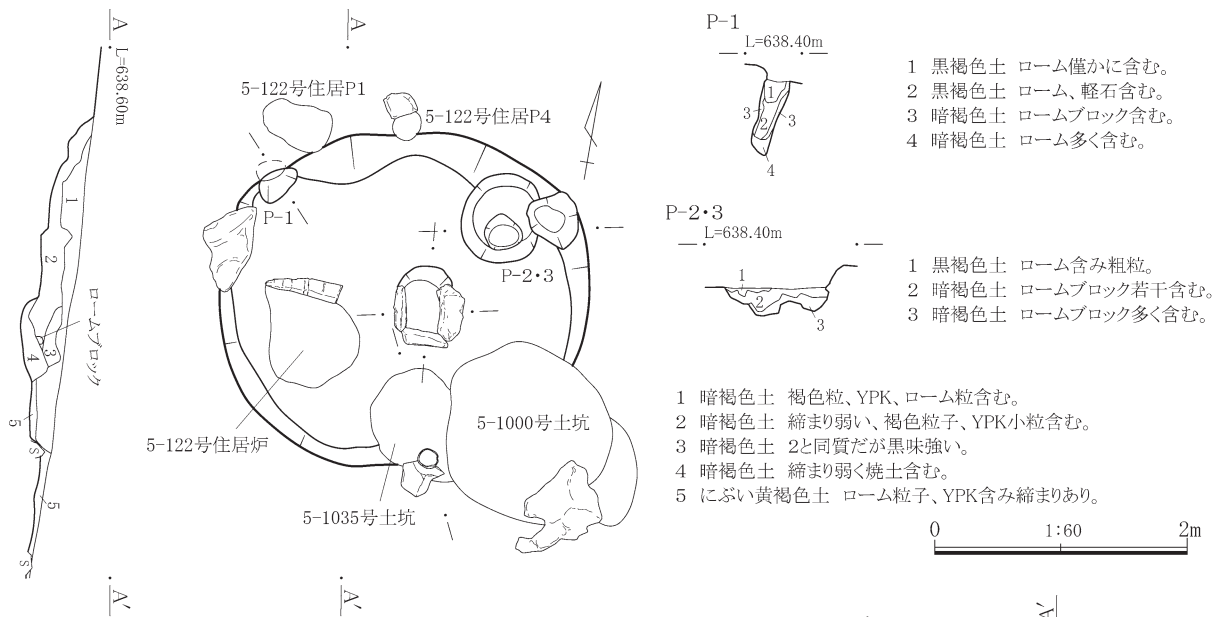
出土遺物 覆土上層から下層にかけて多くの土器、石器が出土している。1は床面2は入り口部に埋設されていた埋甕である。石器類はそれ程多くはなかった。鍬2点、打製石斧、磨製石斧が各1点、その他磨石類である。

時期・所見 極めて小型の住居跡で、5-122号住居跡の中に収まる形で作られていた。入り口部に検出された5-1035号土坑は上面に厚さ3cmほどのローム貼り床層が見られることから本址に伴うものと考えられる。埋甕はこの土坑の南端部に埋められていた。出土遺物は1および2以外は破片類が多かった。埋甕から時期は中期末葉と考えられる。

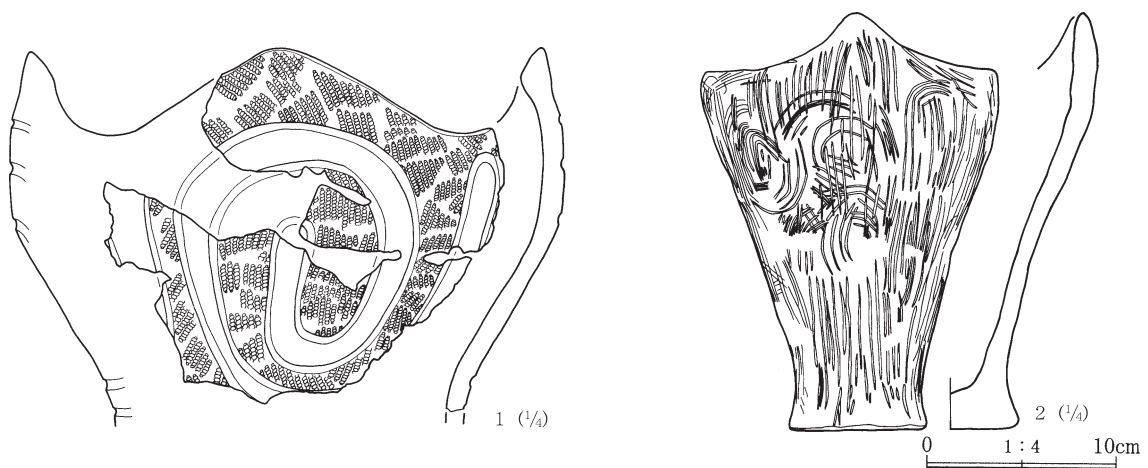


第266図 5-120号住居跡(1)

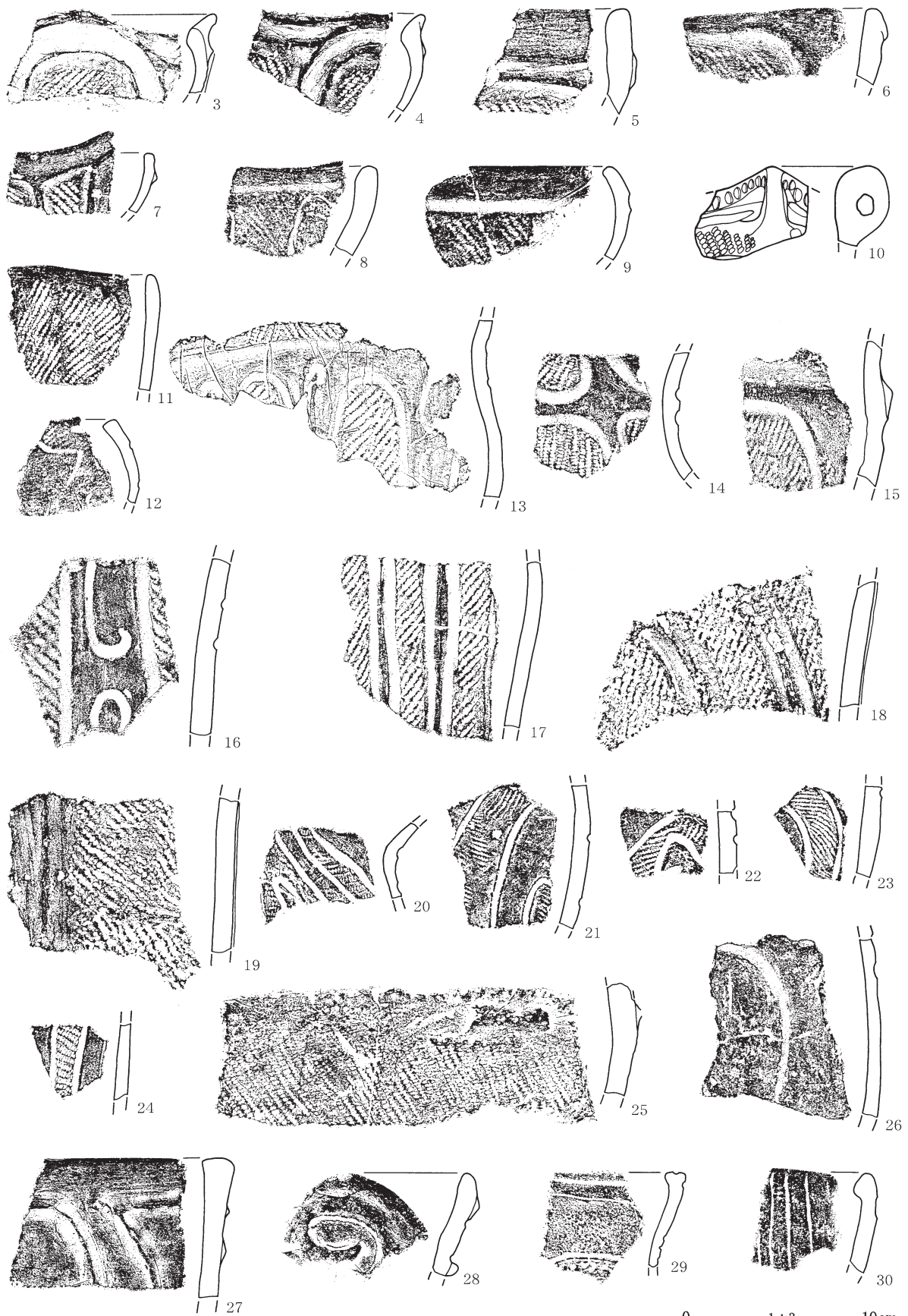
第3節 縄文時代の遺構と遺物



第267図 5-120号住居跡(2)



第268図 5-120号住居跡出土遺物(1)

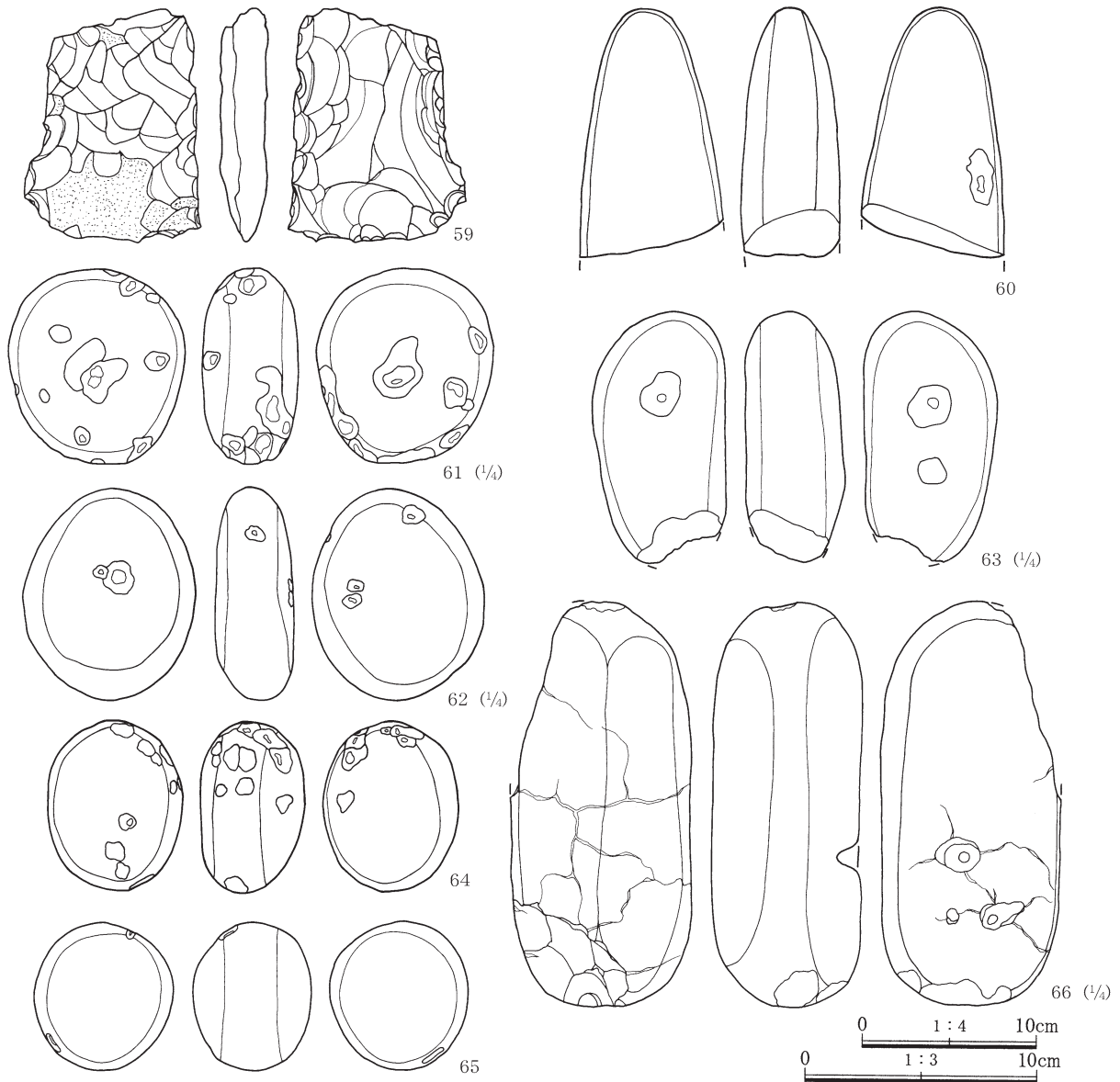


第269図 5-120号住居跡出土遺物(2)



第270図 5-120号住居跡出土遺物(3)

第3章 検出された遺構と遺物



第271図 5-120号住居跡出土遺物(4)

5-121号住居跡 (第272・273図：PL43・166)

位置 Q・R-15・16グリッドに位置する。 **重複** 東側は5-111・112号住居が、西側には5-131・139号住居が重複する。また5-443号配石がある他10基以上の土坑が重複する。

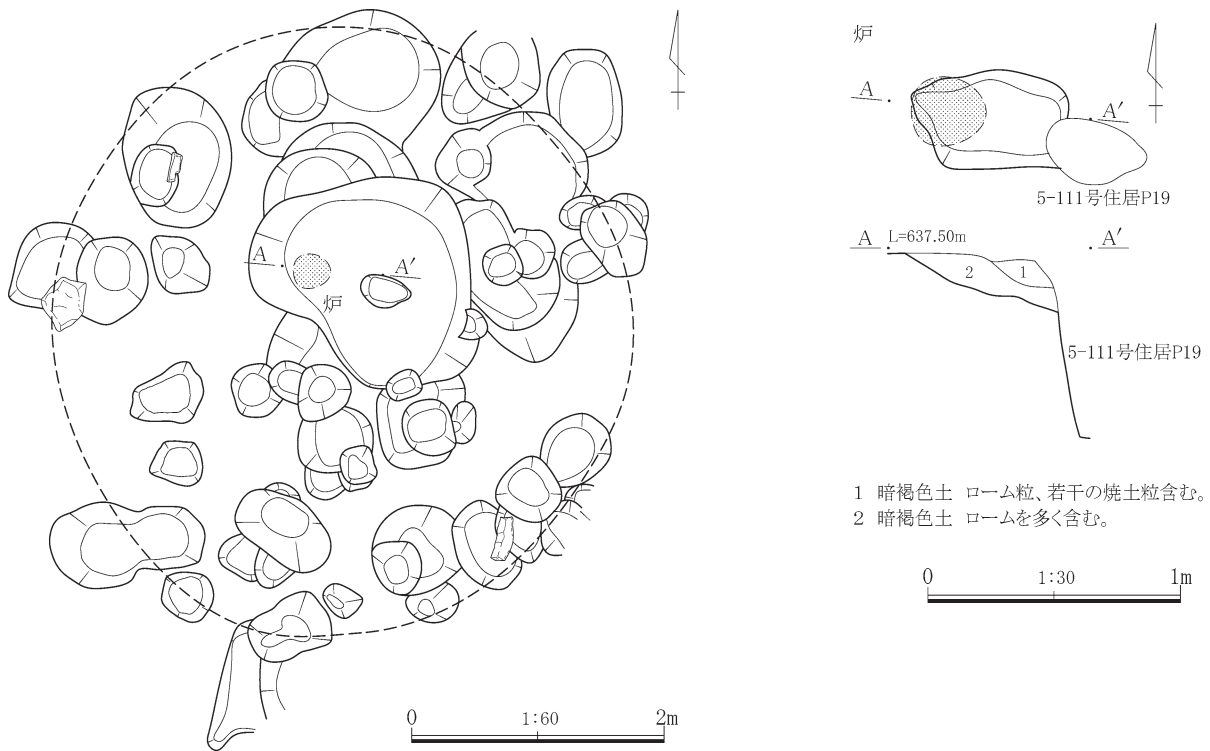
形状 円形と思われる。 **規模** 推定径4.7m。 **方位** -

床面 床面は確認できず。 **炉** ほぼ中央に位置、5-952号土坑に大きく壊されていた。炉石は無く、下部の焼土痕と掘方の一部を検出した。 **柱穴** 明確なものは確認できなかったが、推定規模内に円形に位置する土坑が対応する可能性がある。 **埋甕** 検出されなかった。 **掘方** 不明。

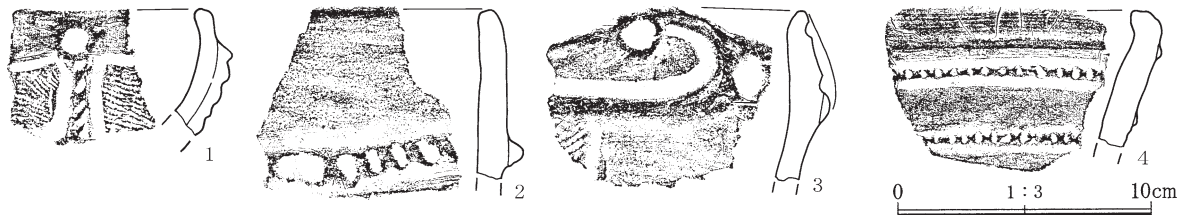
出土遺物 本址に帰属すると判断されるものは極めて少ない。

時期・所見 炉としたものは当初5-5号焼土として調査を行ったが、検討後炉の掘方を検出したことや、円形に配置する土坑が柱穴に相当するものとして住居とした。いずれにしる極めて残りが悪く詳細は不明である。

第3節 縄文時代の遺構と遺物



第272図 5-111号住居跡



第273図 5-121号住居跡出土遺物

5-122号住居跡 (第274・275図：PL43・166)

位置 V・W-15・16グリッドに位置する。 **重複** 住居内に収まる形で北東部分に5-120号住居跡が、西には5-119号、東には137号住居跡が重複する。 **形状** 円形を呈すと思われる。

規模 (560)×(560)×10cm。 **方位** N-0°

床面 他の遺構によりほとんどの部分が壊されており、残存部は極僅かであるがしっかりと締まっている。

炉 中央やや北に寄った位置に構築されていた、5-120号住居内に位置し、上面は削られ、炉石も北側の1つを残して抜かれたものと考えらる。本来は四角の石組み炉であったと想定される。セクションの観察から人為的な埋め戻しは見られない。

柱穴 南側部分については重複により検出できなかったが、北および西側部分については4本を検出した。

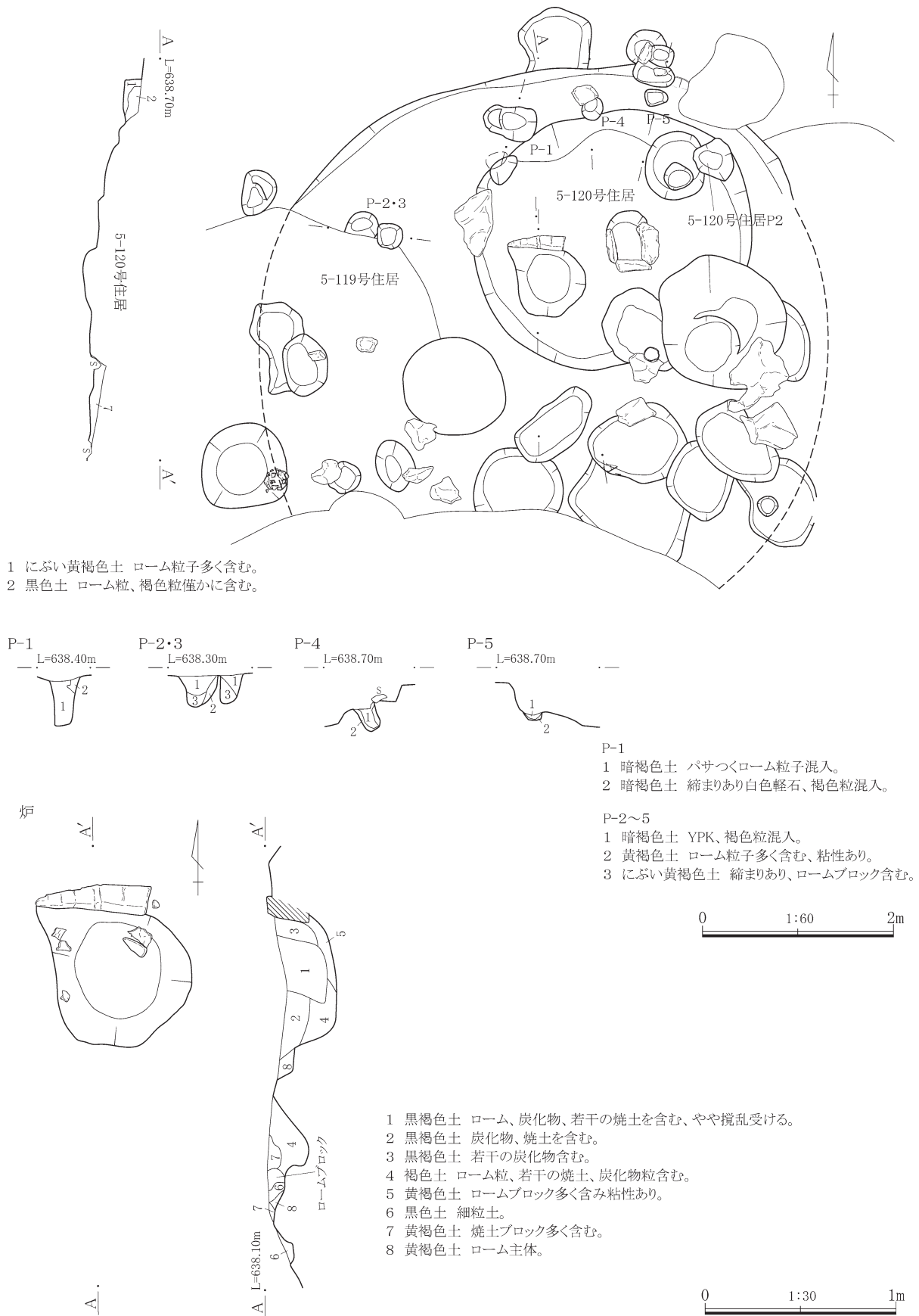
埋甕 検出されなかった。 **掘方** 明確な遺構は認められない。

出土遺物 重複を免れたわずかな範囲、および炉内より若干の土器、石器が出土している。土器は小片のみで、石器も石鏃、打製石斧、磨製石斧が各1点である。

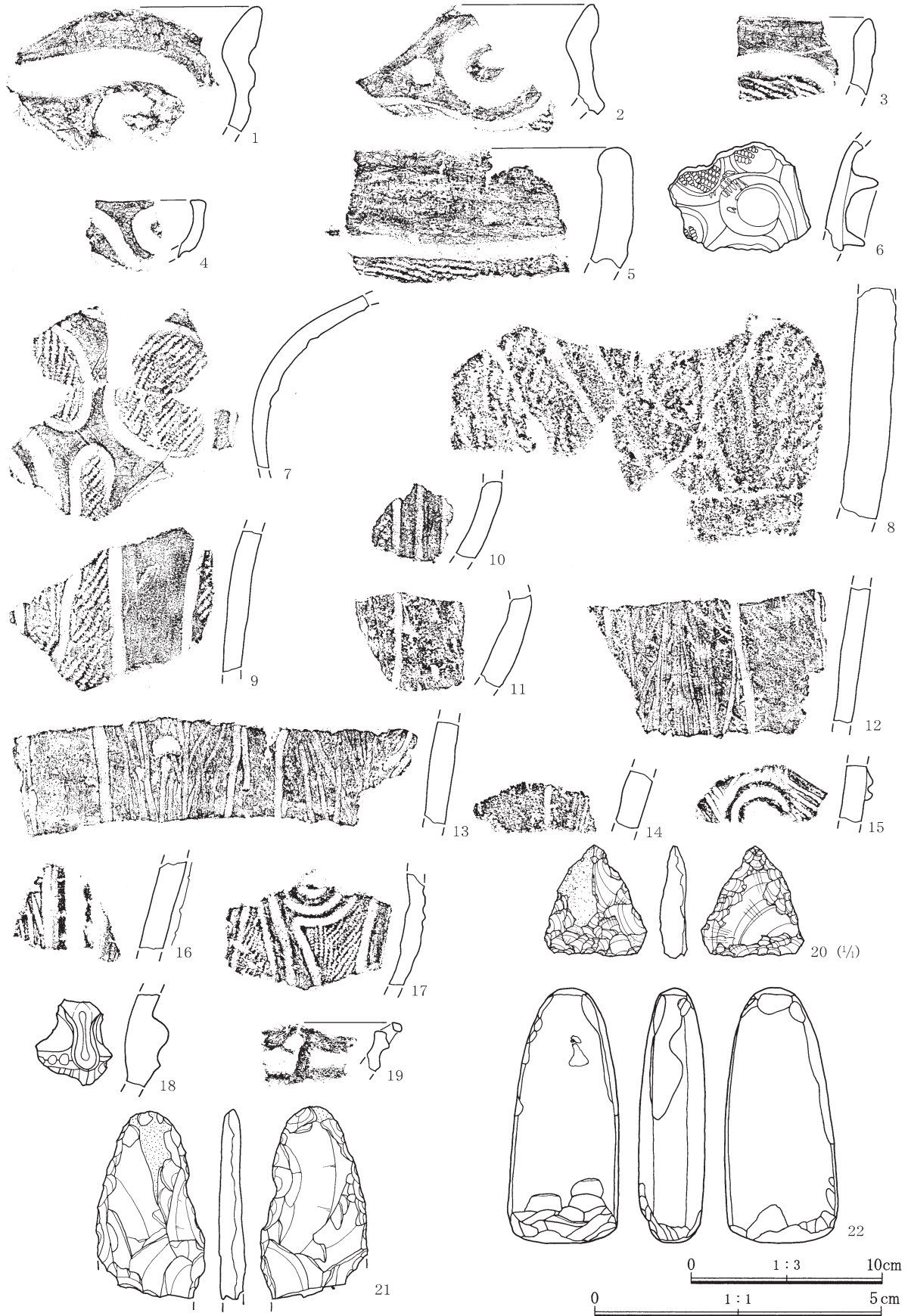
時期・所見 重複が著しく遺存状態は悪い。特に南側については床面もほとんど残っていない状況である。

炉に関しても上部が5-120号住居跡に削られていた。時期は中期後半、加曾利E3式期と思われる。

第3章 検出された遺構と遺物



第274図 5-122号住居跡



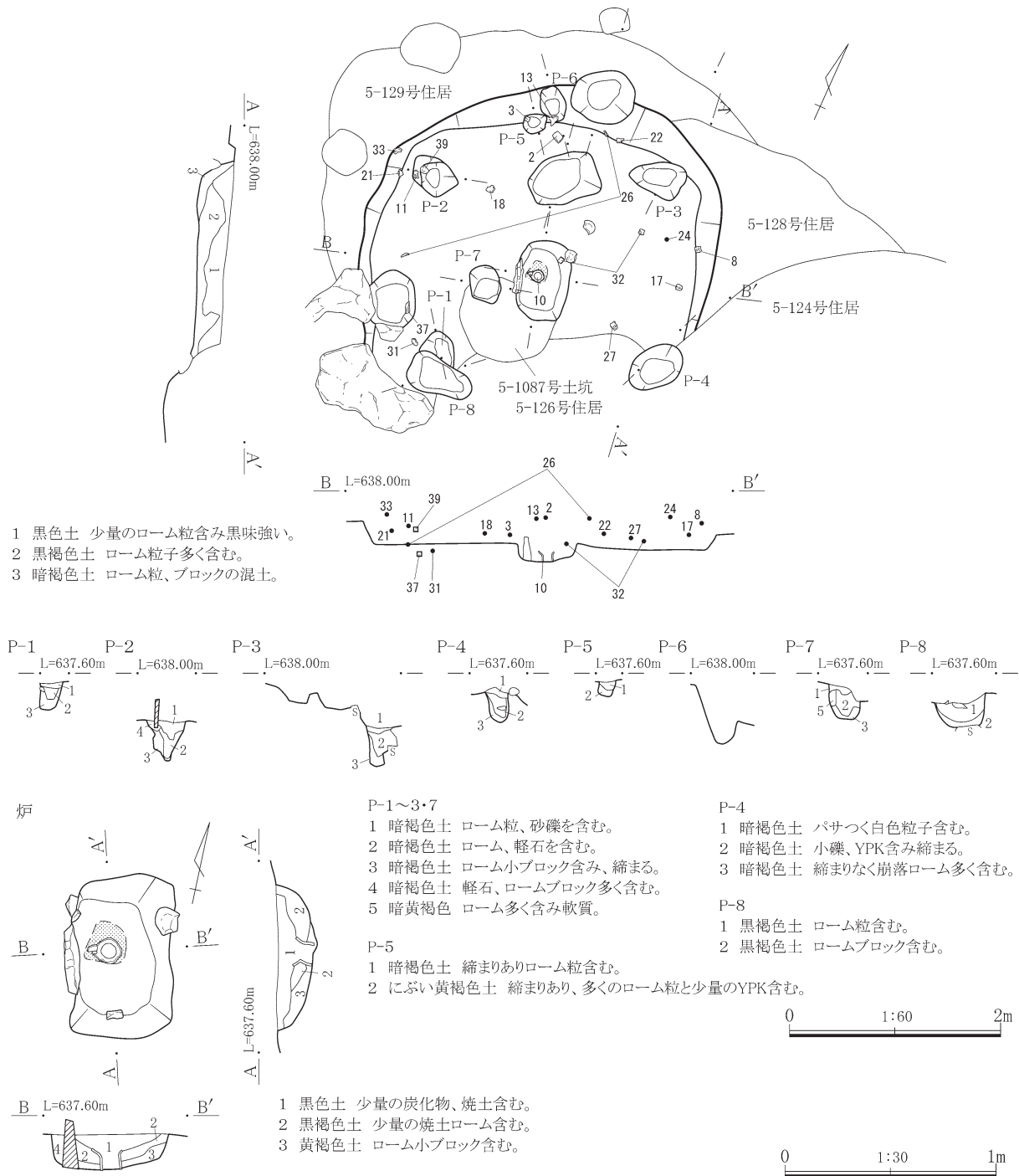
第275図 5-122号住居跡出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

5-123号住居跡 (第276~279図: PL43・44・47・167)

位置 X-14・15グリッドに位置する。 **重複** 5-128・129号住居跡を切って構築されており、南側は一部5-126号住居跡掛かる。 **形状** ほぼ円形。 **規模** 340×(340)×30cm。 **方位** N-15°-W
床面 平坦で比較的締まりがある。浅い周溝がほぼ全周する。

炉 ほぼ中央に作られる。長方形の掘方を持ち扁平な石を炉石としているが、西側の1枚のみが残る他北東隅には円礫が据えられている。火床面には炉体土器が埋められている。



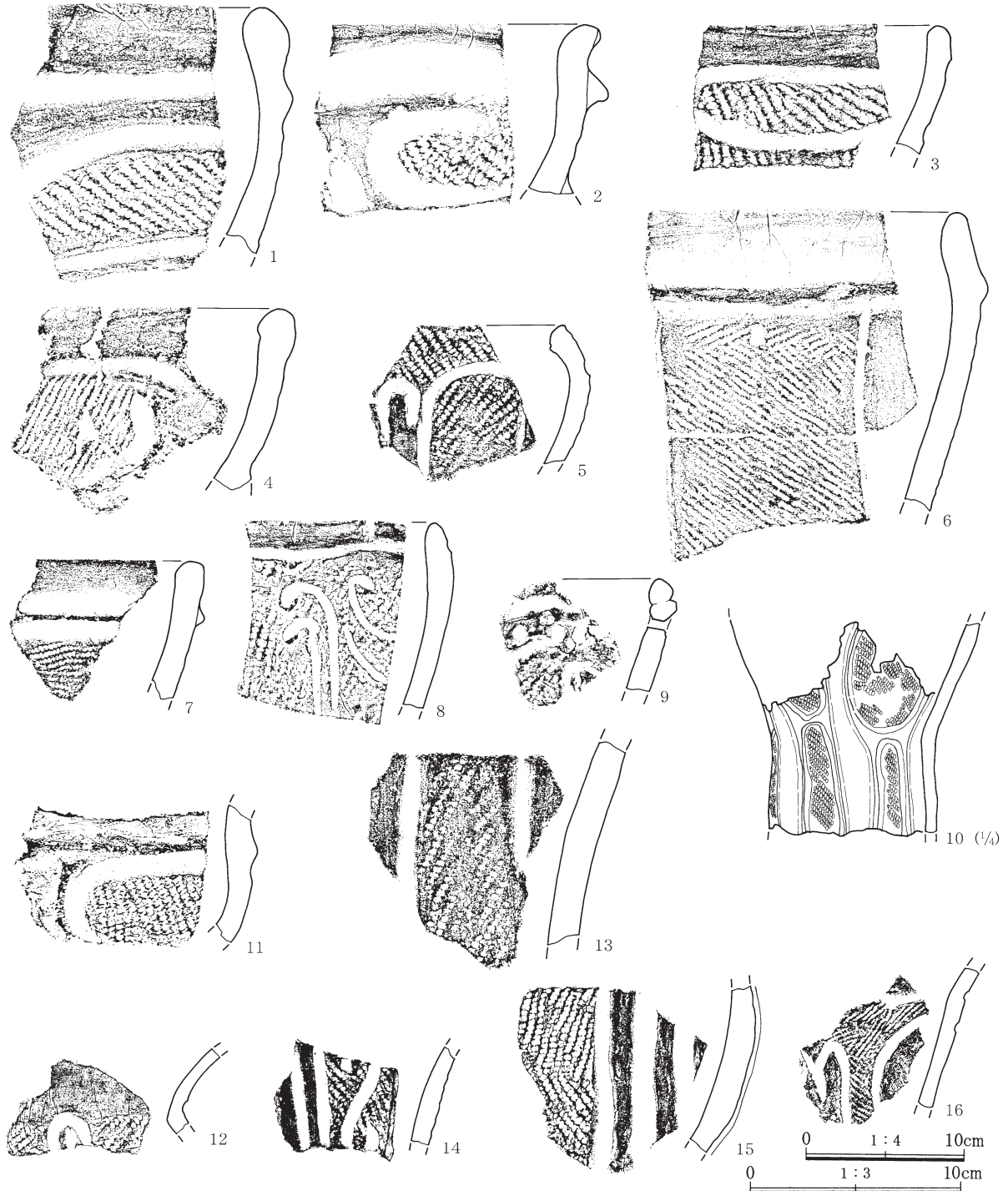
第276図 5-123号住居跡

柱穴 壁に沿って6本を検出、径は40～60cmの長円形で深さは25～30cmである。北西の柱穴P-2には扁平な石を2枚差し込んで柱の押さえとしている。

埋甕 検出されない。 掘方 貼り床や床下土坑などは見られない。

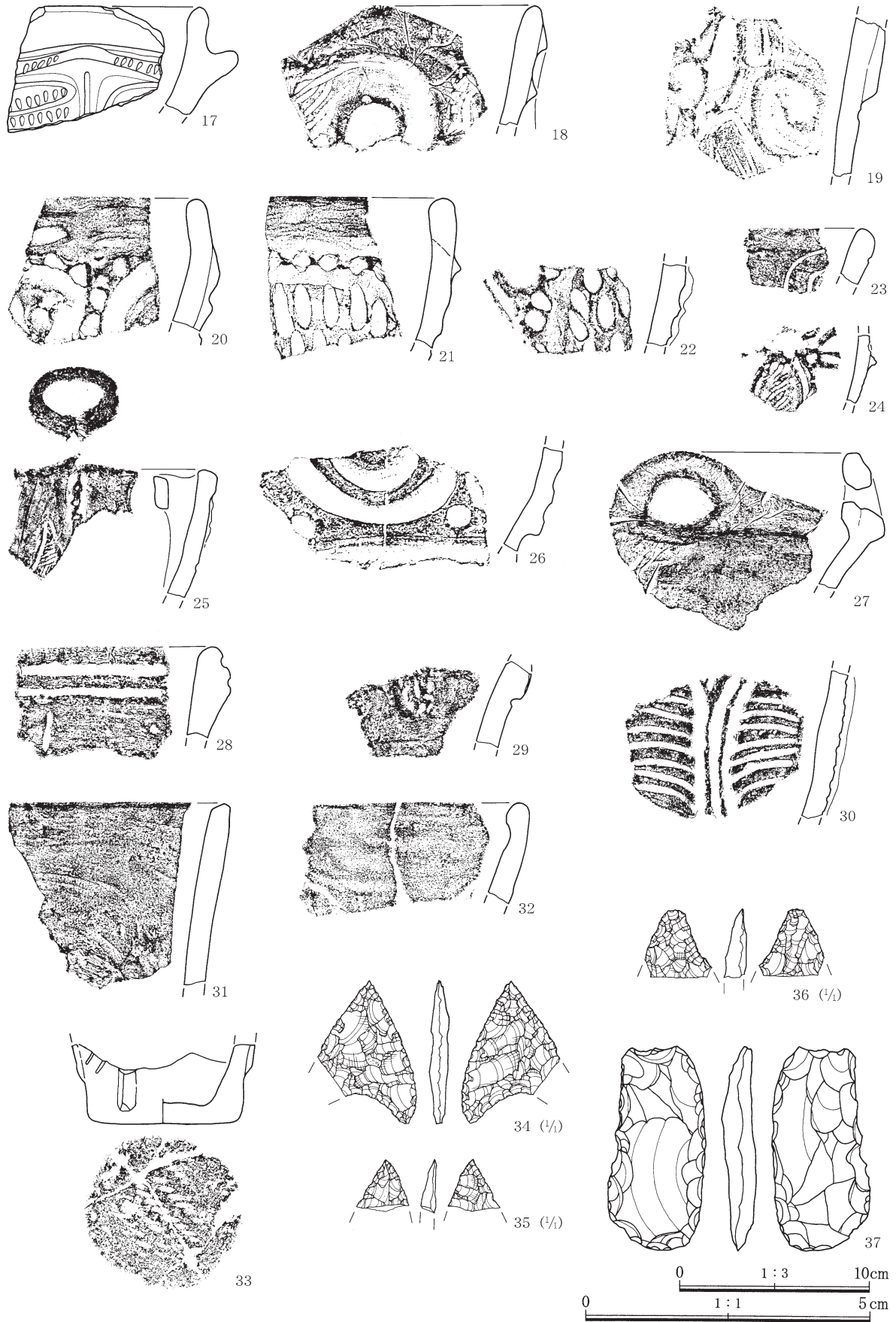
出土遺物 あまり多くはないが破片類を中心にほぼ全面より出土している。10は炉体土器である。石器は石鏃、打製石斧、磨石類が出土している。

時期・所見 小型の住居である。時期は炉体土器から加曾利E3式期新と思われる。

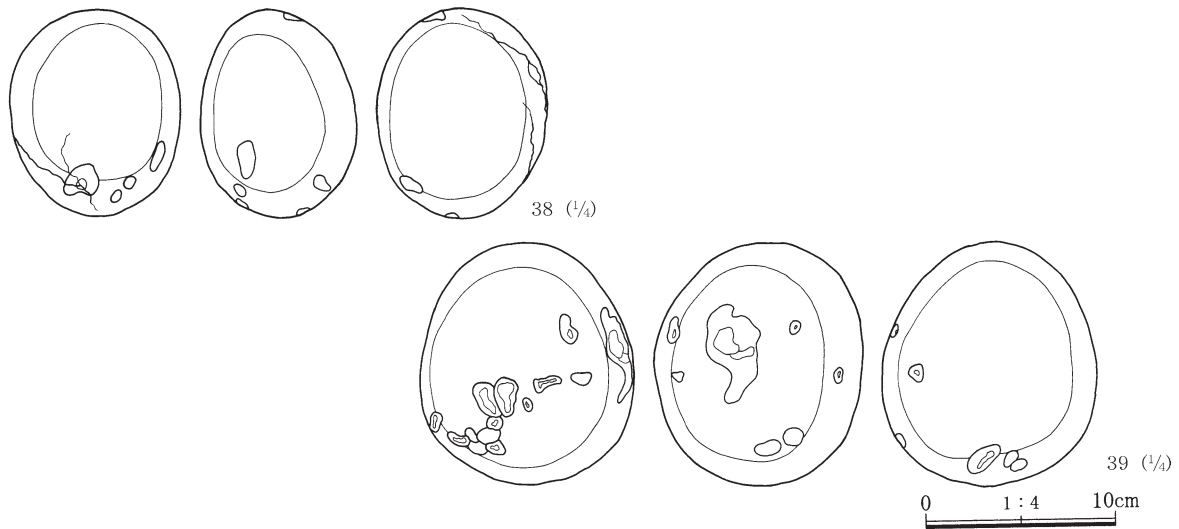


第277図 5-123号住居跡出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



第278図 5-123号住居跡出土遺物(2)



第279図 5-123号住居跡出土遺物(3)

5-124号住居跡 (第280～300図：PL44～46・168～176)

位置 V～X-13～15グリッドに位置する。**重複** 西側は5-126・128・144号住居跡、北側は5-120・142号住居跡と重複、これらを切って構築されている。**形状** 柄鏡形の大型敷石住居跡である。

規模 860×(900)×60cm。**方位** N-0°**床面** 部分的に平石が敷かれている。おもに奥壁寄りの部分に沿って点在する。さらにその外周には大型の礫が列石状に検出された。

炉 地床炉である。3カ所の浅い凹みを有す地床炉が接して確認された。このうち本址の炉と思われるのは北に並んで検出された2基の炉体土器を持つものと考えられる。手前の埋設土器は一部上に敷石が載っていることから、拡張前の5-145号住居跡のものと考えられた。**柱穴** 壁の内側に沿って配列されている。径50～80cmで深さは60～1mを測る。さらに平成8年度に調査を行った南側で検出されている配石に関して、5-144・145・116号配石などは掘り込みも深く本址の柱穴である可能性が高い。

埋甕 検出されなかった。**掘方** 入れ子状に5-144号住居跡が確認された。またその下部には5-143号住居も検出されている。

出土遺物 覆土上層から下層にかけて極めて多くの土器、石器が出土している。1は炉体土器である。石器類は石鏃、打製石斧、磨製石斧、磨石類が見られるが、磨石の数が極めて多い。その他には石皿、石冠、軽石製品があり。重さ40kgを越える多孔石なども出土している。

時期・所見 今次の調査で検出された最も大型の住居である。柄鏡形を呈す敷石住居と考えられる。緩い南傾斜地に作られ、主軸方向を北にとり、入り口部分の南端は平成6年度調査区域に入る。平成6年度に調査された5-4号列石の西端は本住居の主体部と張り出し部の接合部に繋がるものと思われる。中に収まっている5-145号住居は拡張前の住居と考えられる。張り出し部をほぼ共有する形で、主体部が大きく拡張されている。また、掘方調査時に、張り出し部下部に5-1113号土坑が検出されている。長軸を住居と一にした大型の長円形を呈す土坑である。下部より長さ1mを越える大型の礫が出土しており、土層もほぼ水平に堆積していることから、人為的に礫を埋めたものと考えられる。西側にさらに古い5-144号住居跡も本址の掘方時に確認されている。

第3章 検出された遺構と遺物



第280図 5-124号住居跡(1)

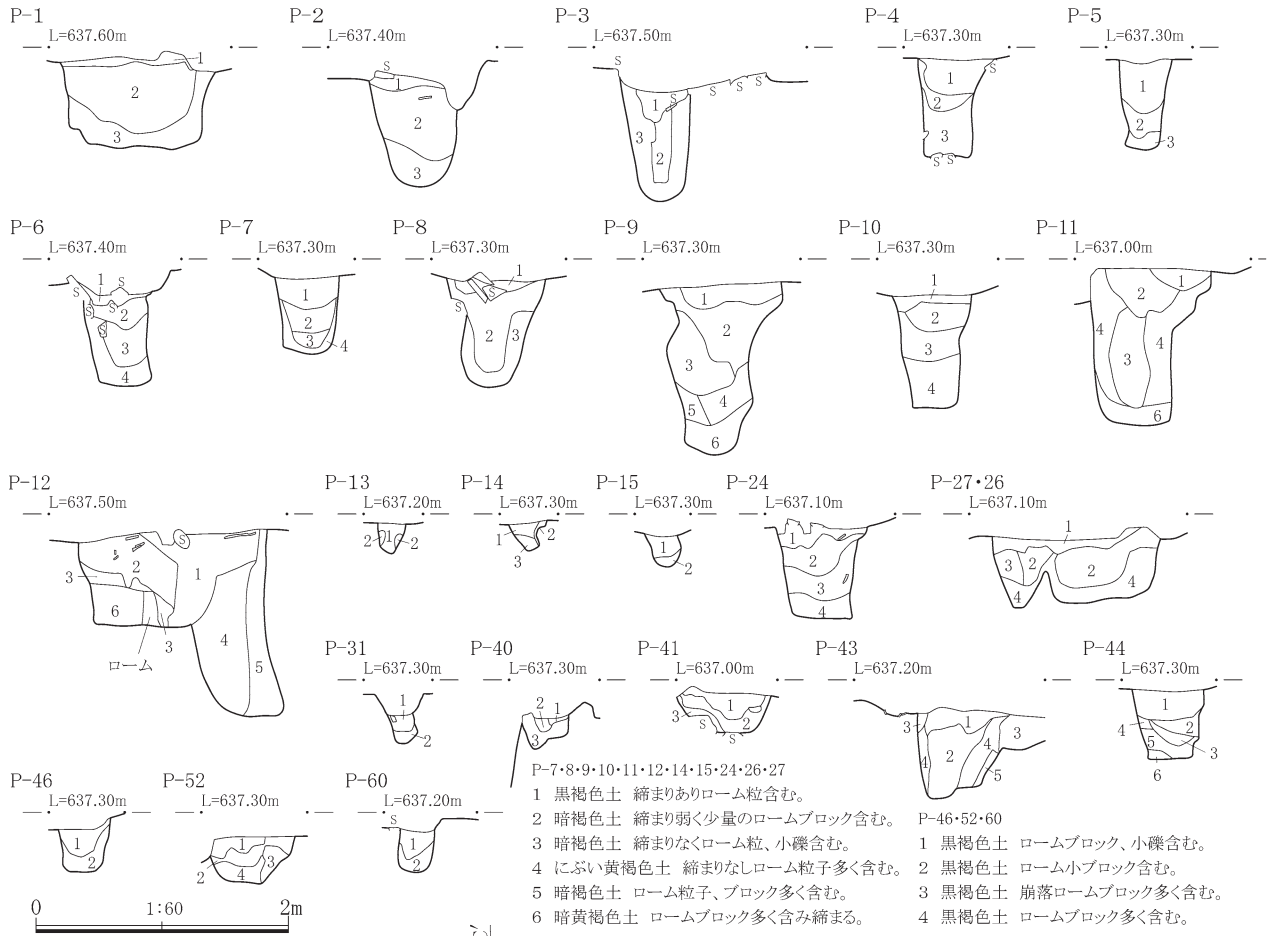


- 1 暗褐色土 小礫、ローム粒、ブロックの混土。
- 2 暗褐色土 1に似るがローム分多く含みやや締まりがある。



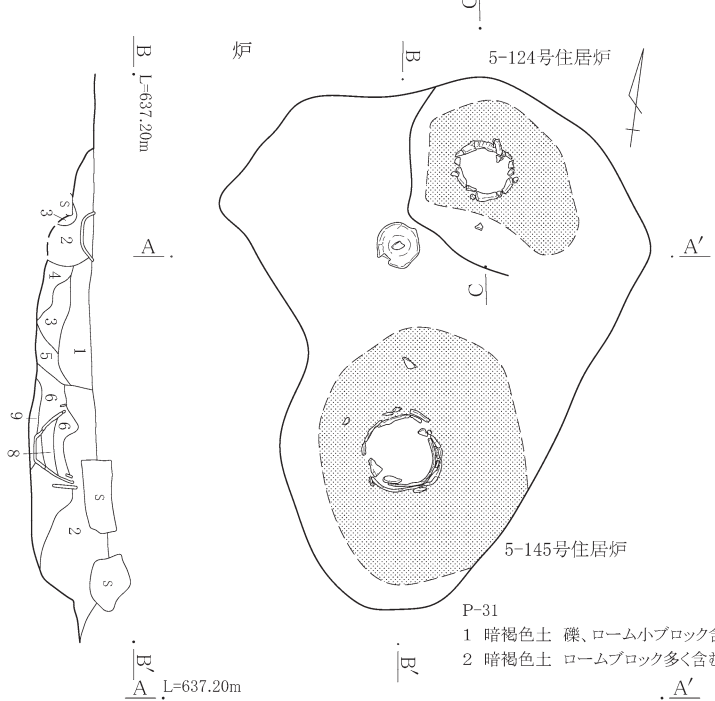
第281図 5-124号住居跡(2)

第3節 縄文時代の遺構と遺物



- P-7・8・9・10・11・12・14・15・24・26・27
- 1 黒褐色土 締まりありローム粒含む。
 - 2 暗褐色土 締まり弱く少量のロームブロック含む。
 - 3 暗褐色土 締まりなくローム粒、小礫含む。
 - 4 にぶい黄褐色土 締まりなしローム粒子多く含む。
 - 5 暗褐色土 ローム粒子、ブロック多く含む。
 - 6 暗黄褐色土 ロームブロック多く含む締まる。

- P-46・52・60
- 1 黒褐色土 ロームブロック、小礫含む。
 - 2 黒褐色土 ローム小ブロック含む。
 - 3 黒褐色土 崩落ロームブロック多く含む。
 - 4 黒褐色土 ロームブロック多く含む。

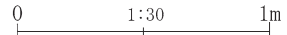


- P-1~6 A-A'
- 1 黒褐色土 床面、固くしまる。
 - 2 暗褐色土 しまり欠く、礫、ブロック粒含む。
 - 3 暗褐色土 粘性あり、ロームブロック、粒子含む。
 - 4 にぶい黄褐色土 粘性あり、ローム粒子や粘土含む。

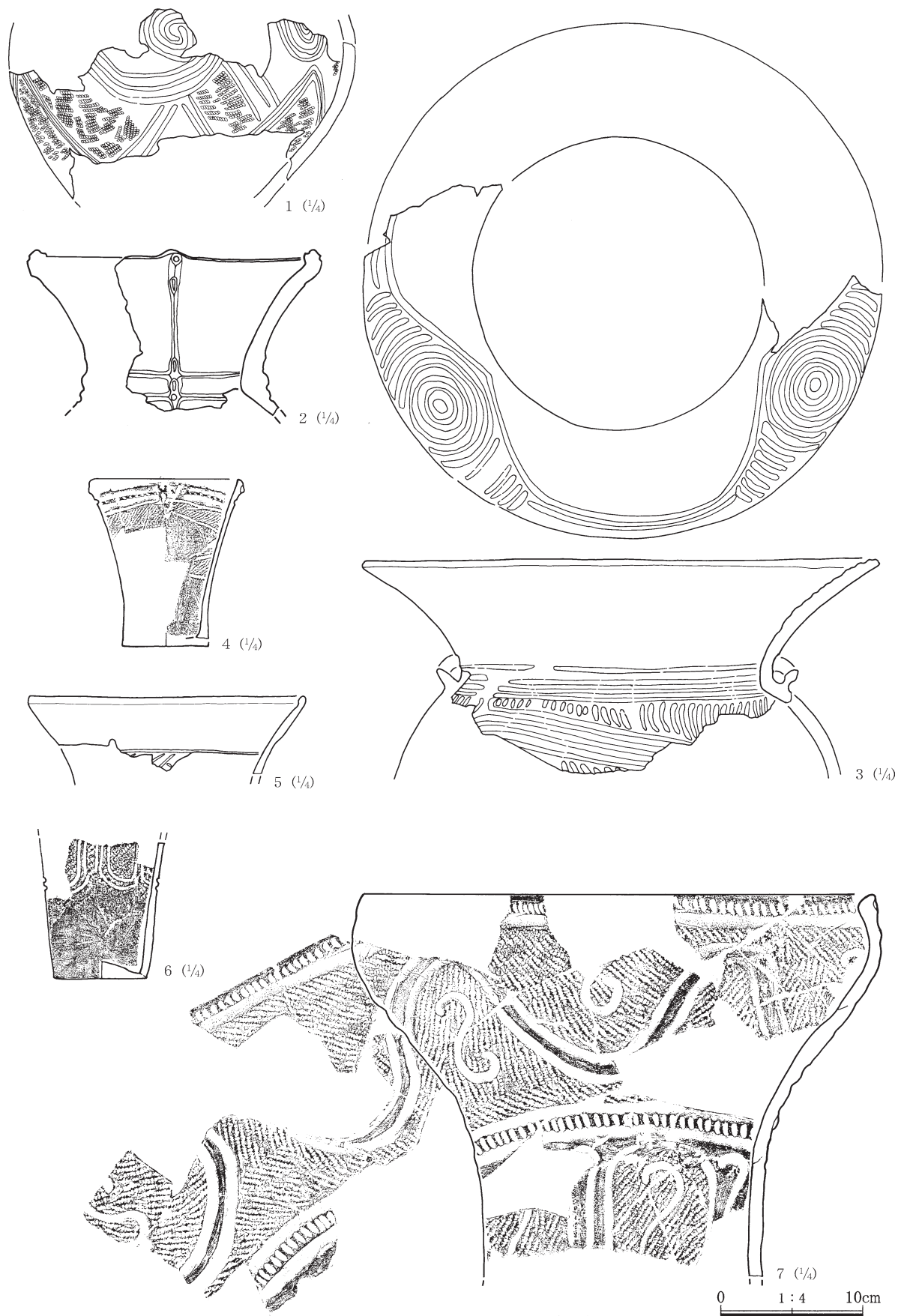
- 炉C-C'
- 1 黒褐色土 微量の焼土、炭化物含む軟質。
 - 2 黒褐色土 炭化物、少量の焼土含む。
 - 3 黒褐色土 炭化物、焼土ブロック含む。

- P-40・41・43・44
- 1 黒褐色土 ロームブロック粒を含む。
 - 2 黒褐色土 ロームブロック、ローム粒混入。
 - 3 にぶい黄褐色土 ローム、小礫、黒褐色土の混土。
 - 4 にぶい黄褐色土 良く締まり、ロームブロック、粘土含む。
 - 5 黄褐色土 ローム多く含む締まりあり。

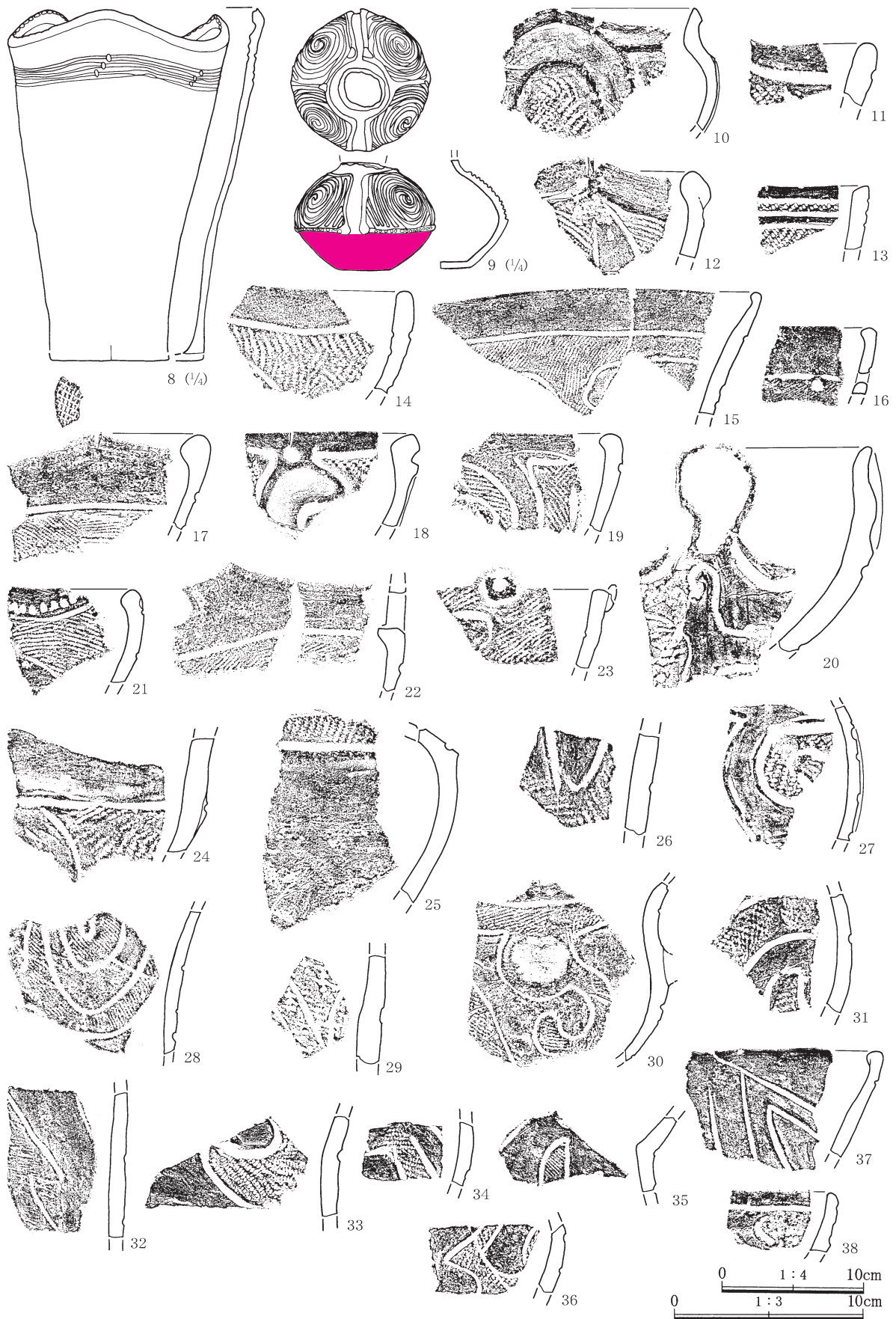
- 炉
- 1 黒色土 ローム粒子含む軟質。
 - 2 黒褐色土 ローム粒、炭化物、若干の焼土粒含む。
 - 3 暗橙褐色土 焼土層。
 - 4 暗赤褐色土 焼土多く含む、締まりあり。
 - 5 暗赤褐色土 焼土ブロック多く含む。
 - 6 暗赤褐色土 焼土主体とし、夾雑物少ない。
 - 7 黄褐色土 地山ロームブロック多く含む。
 - 8 暗赤褐色土 焼土細粒多く含む。
 - 9 黄褐色土 ローム主体とし、若干の焼土ブロック含む。



第282図 5-124号住居跡(3)



第283図 5-124号住居跡出土遺物(1)



第284図 5-124号住居跡出土遺物(2)



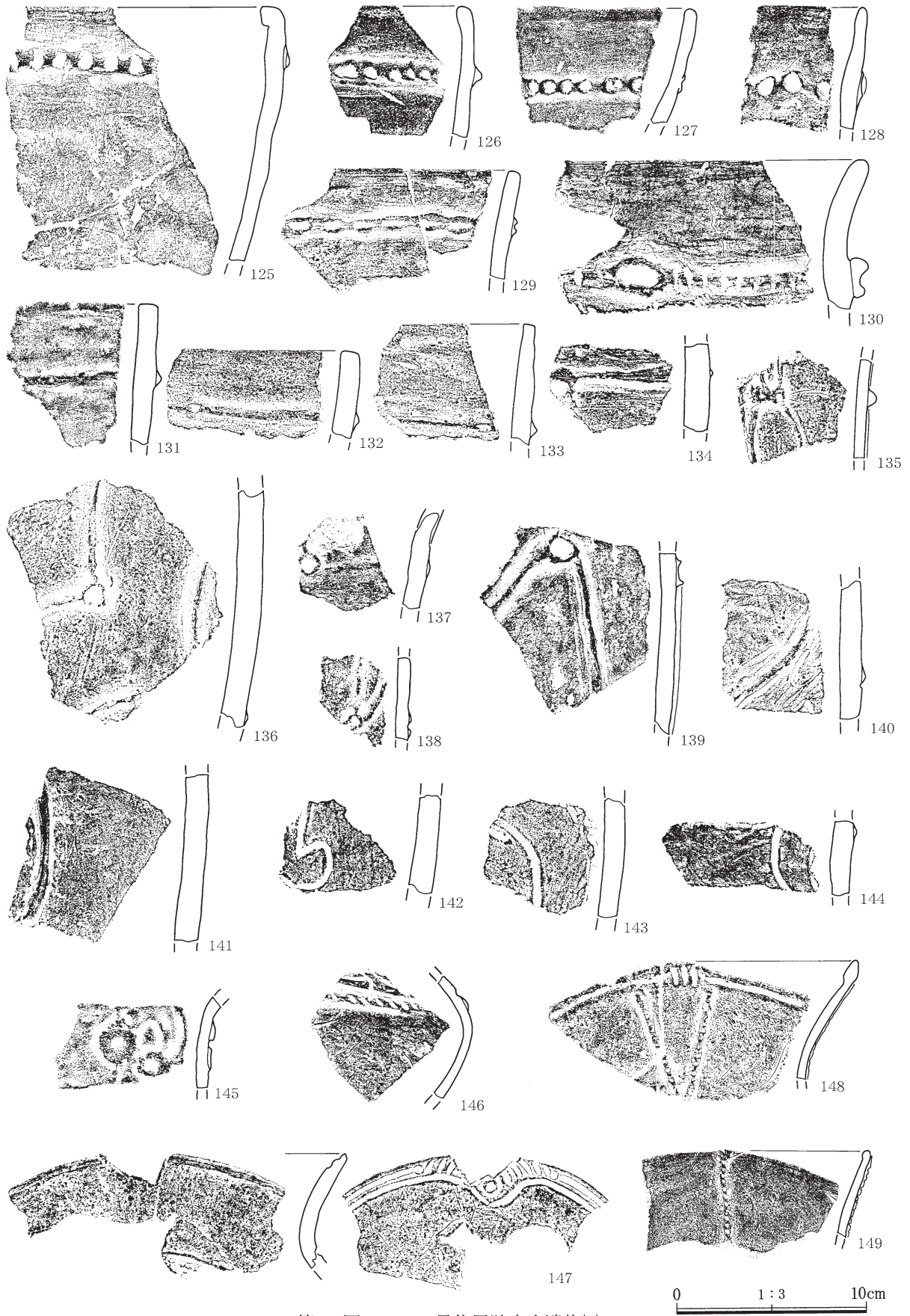
第285図 5-124号住居跡出土遺物(3)



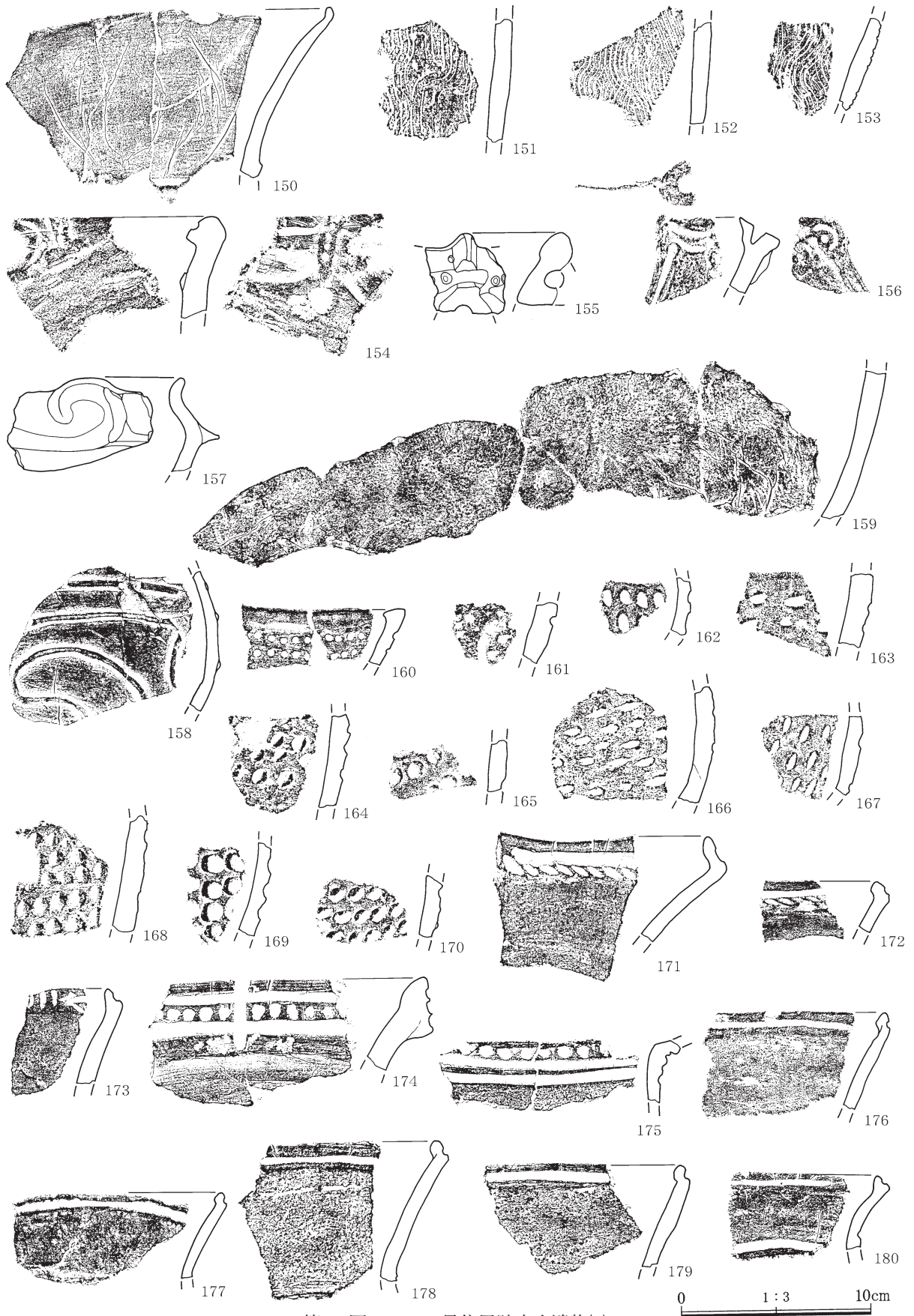
第286図 5-124号住居跡出土遺物(4)



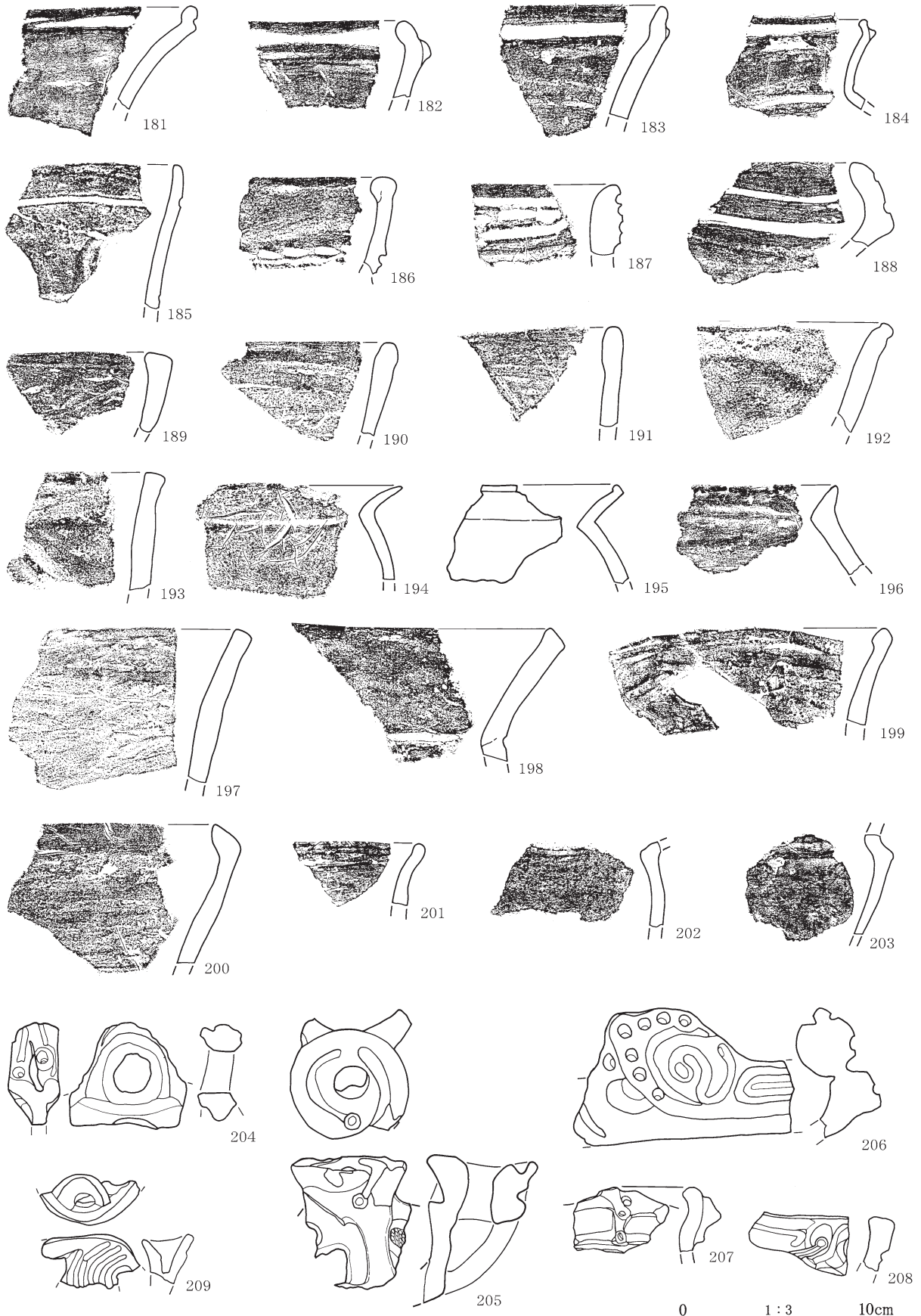
第287図 5-124号住居跡出土遺物(5)



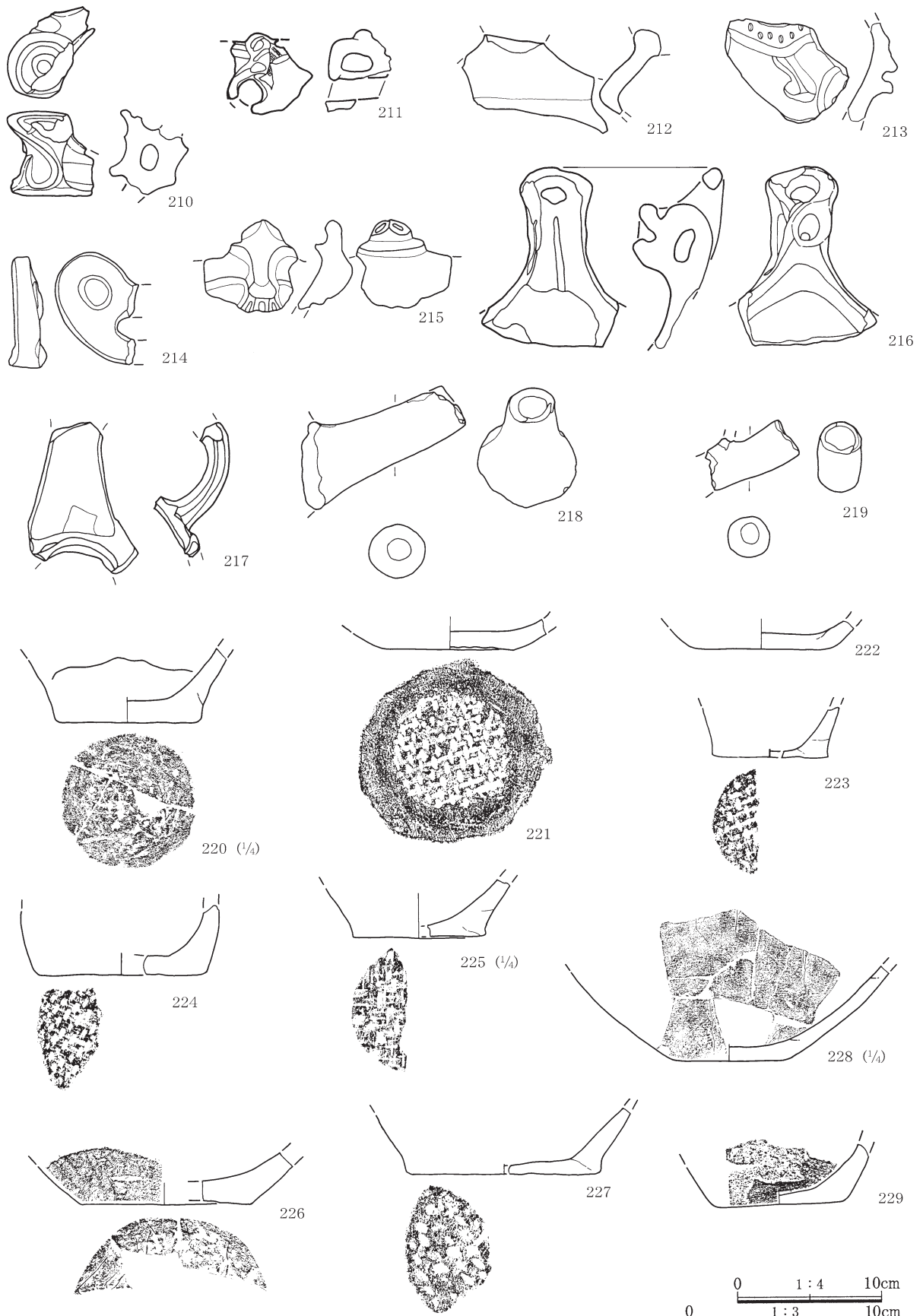
第288図 5-124号住居跡出土遺物(6)



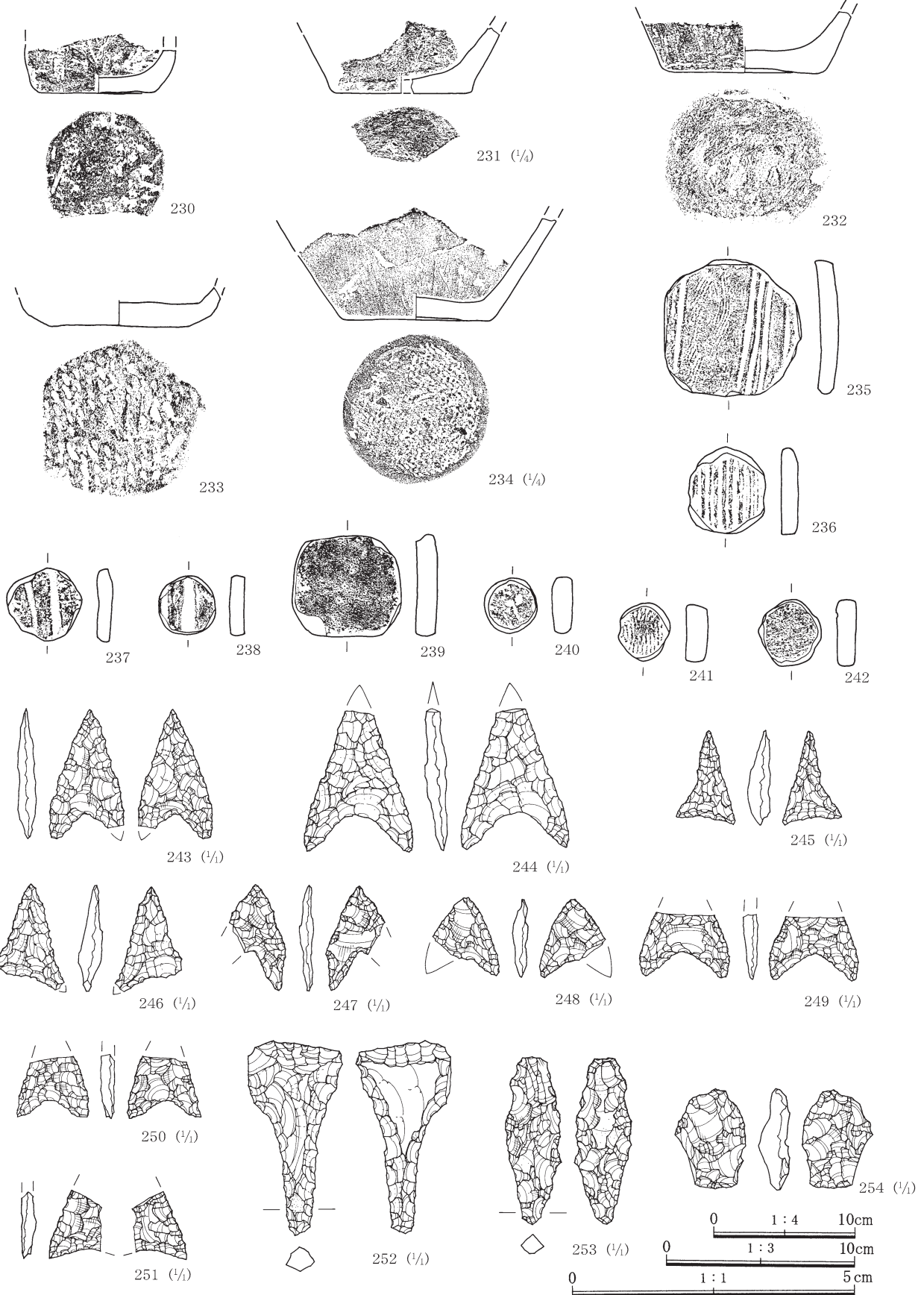
第289図 5-124号住居跡出土遺物(7)



第290図 5-124号住居跡出土遺物(8)

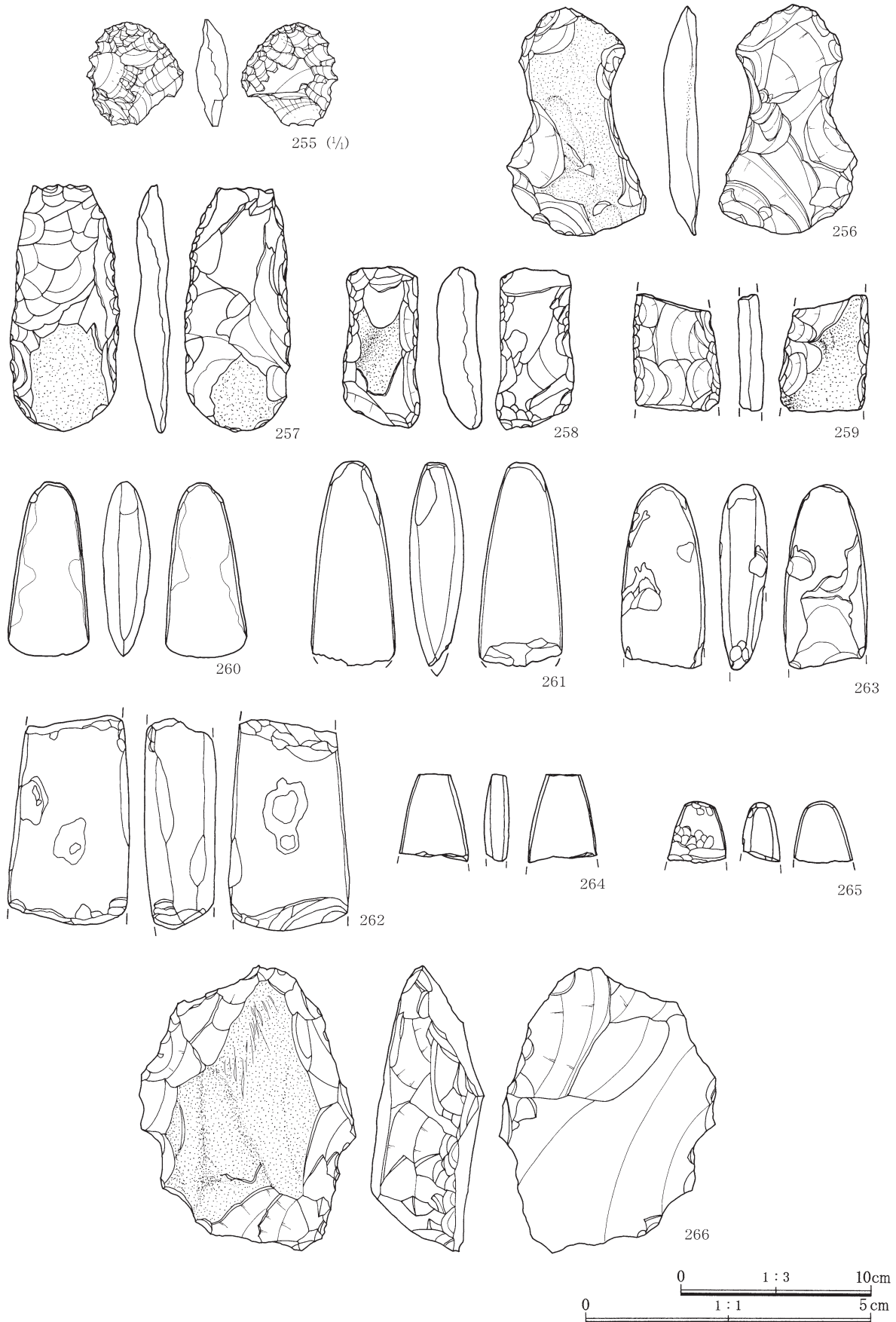


第291図 5-124号住居跡出土遺物(9)



第292図 5-124号住居跡出土遺物(10)

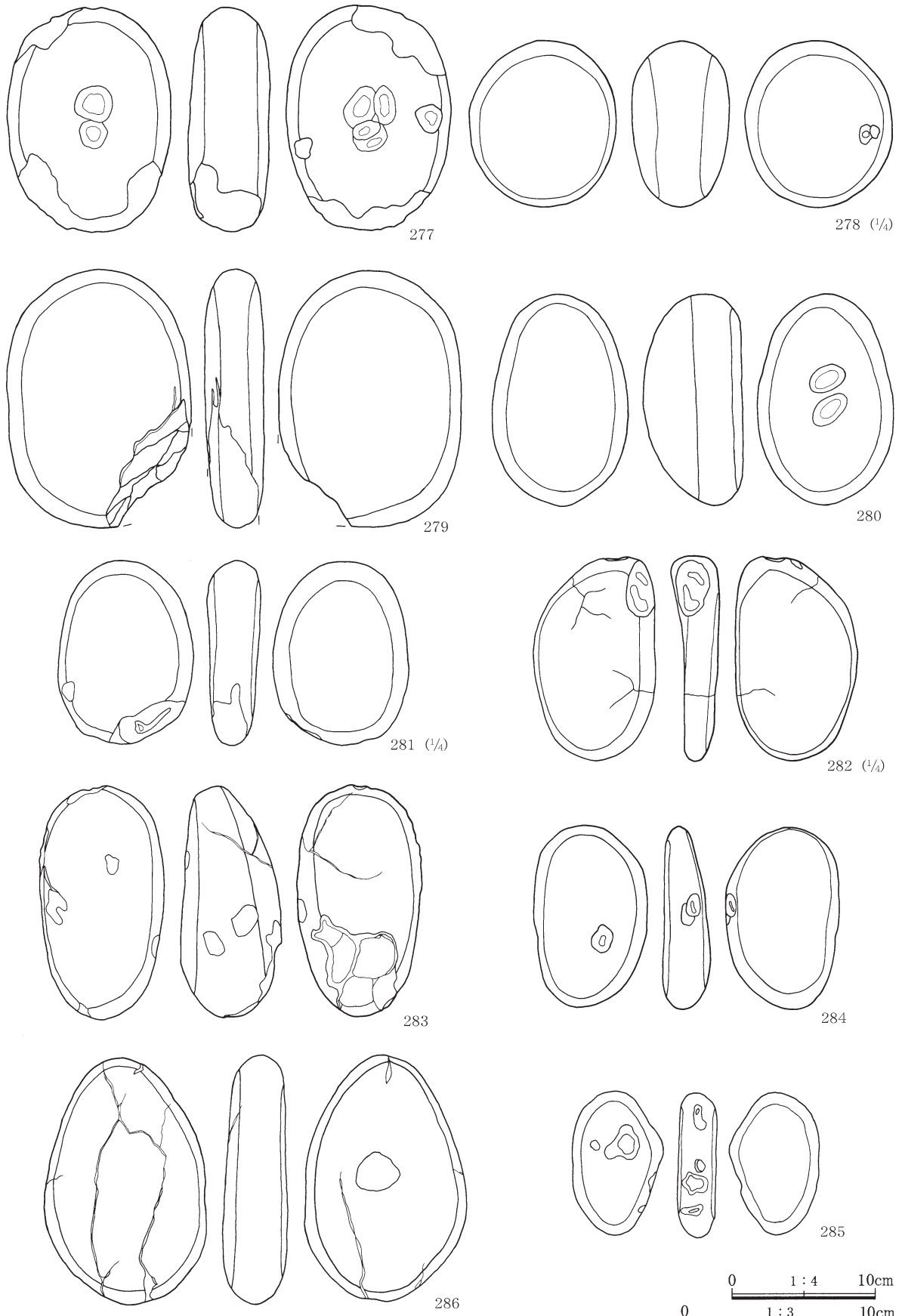
第3章 検出された遺構と遺物



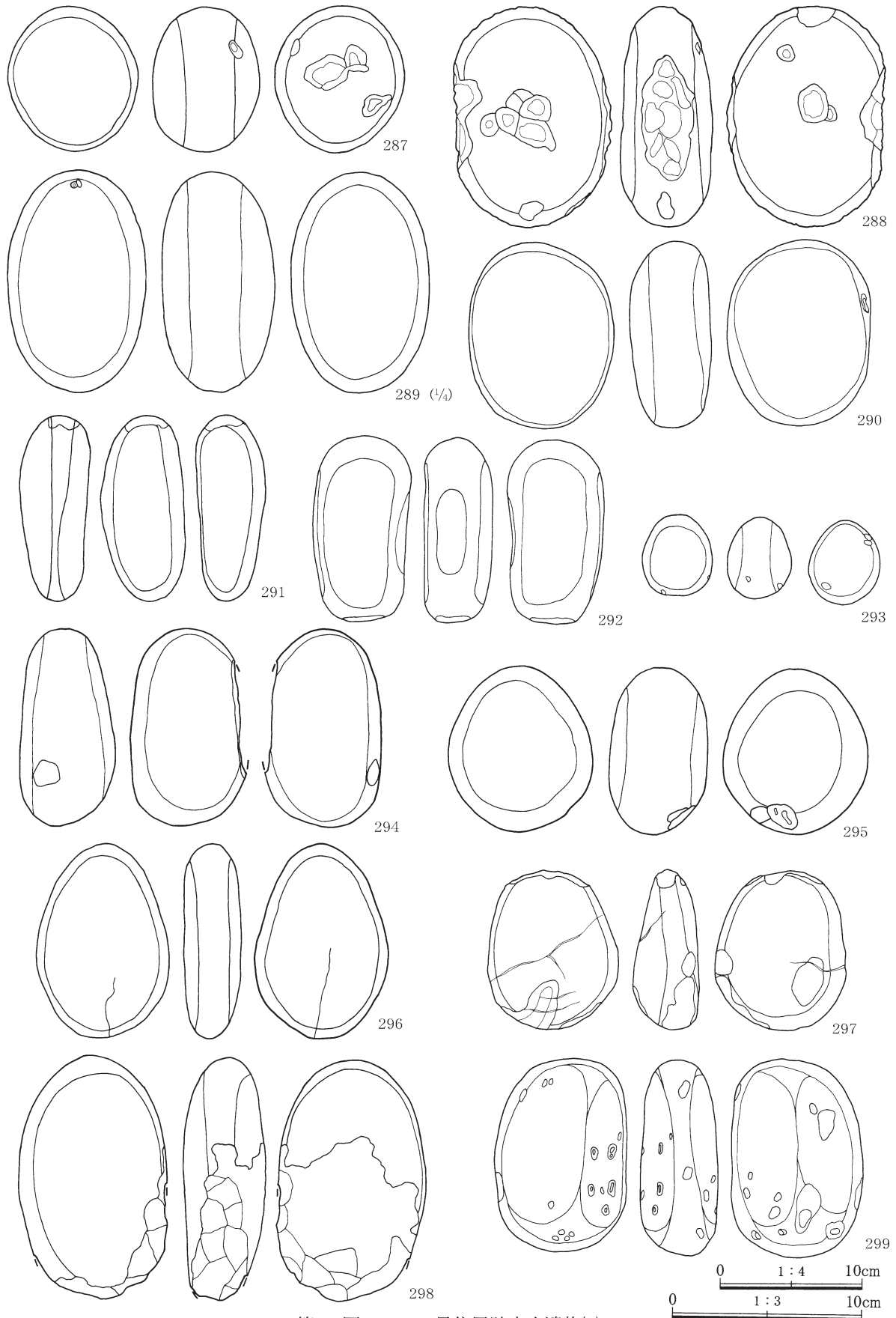
第293図 5-124号住居跡出土遺物(1)



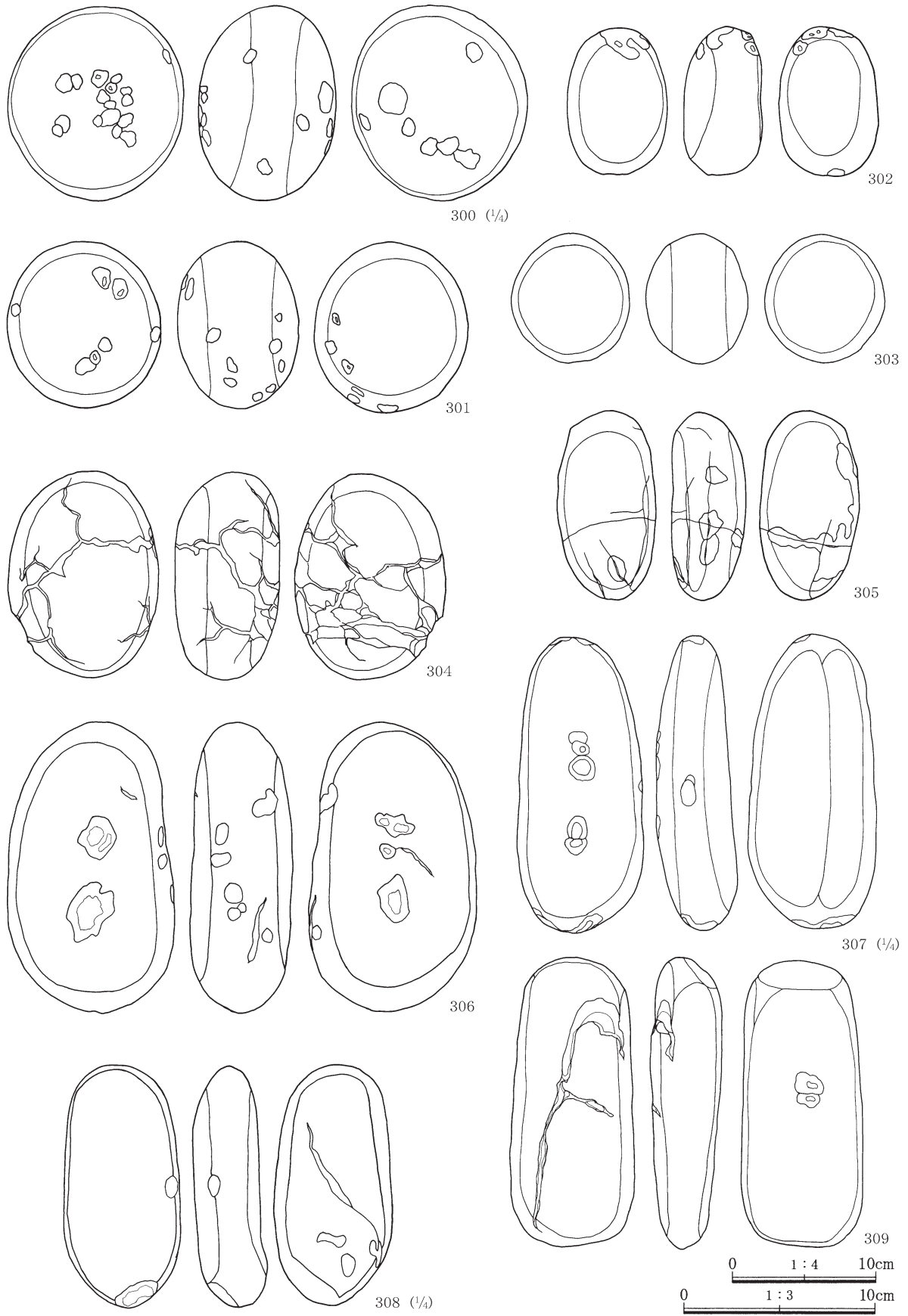
第294図 5-124号住居跡出土遺物(12)



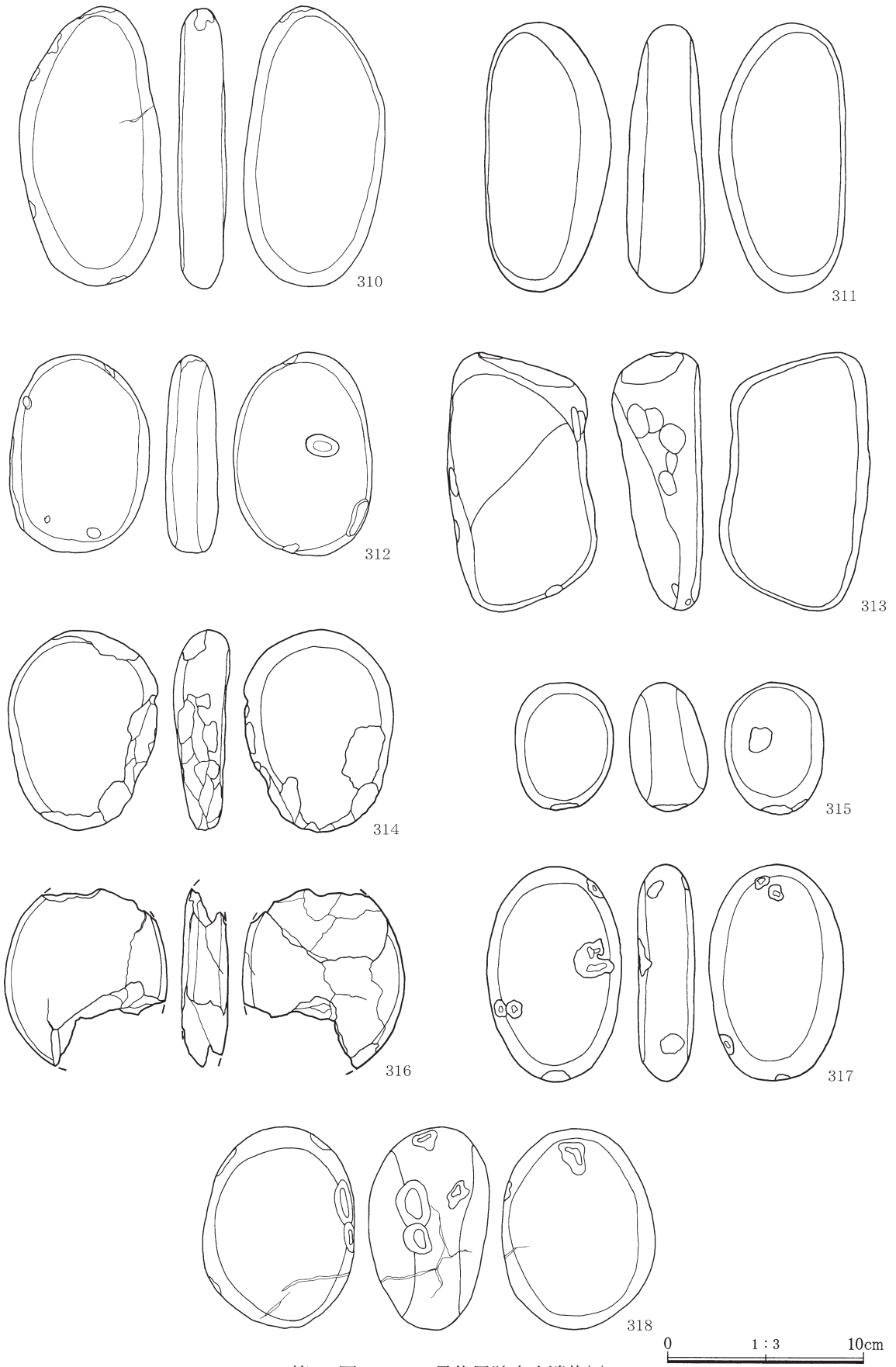
第295図 5-124号住居跡出土遺物(13)



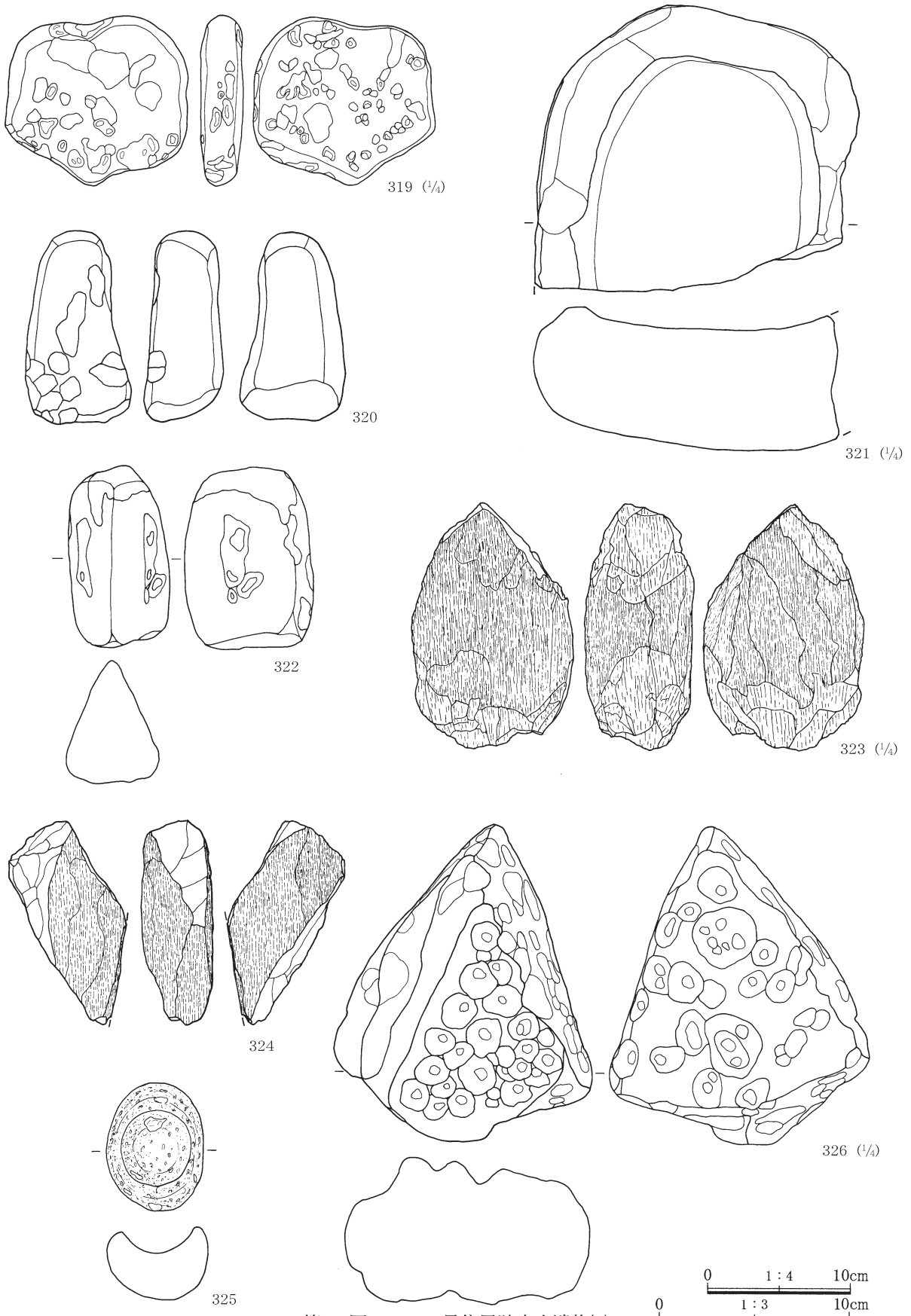
第296図 5-124号住居跡出土遺物(14)



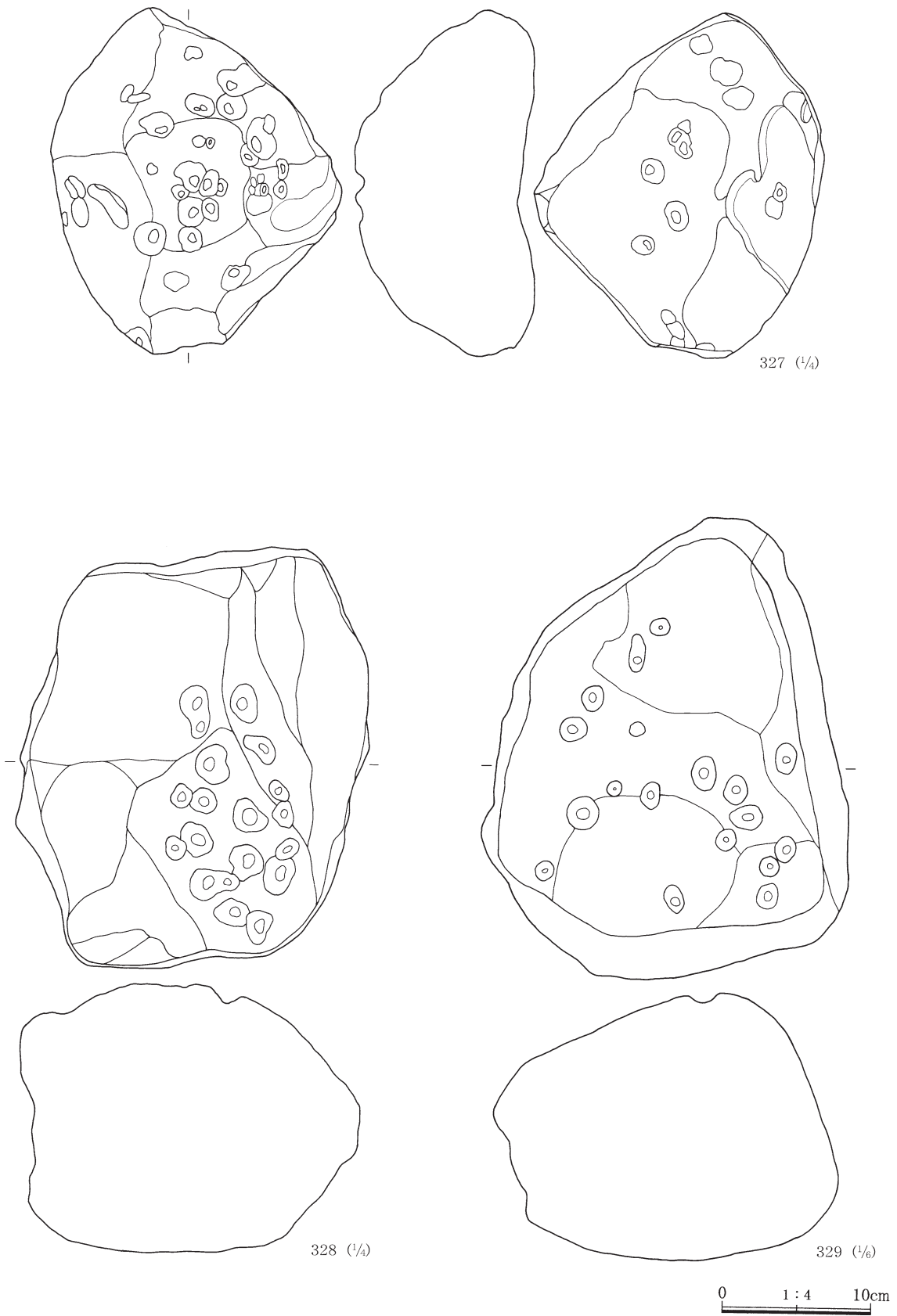
第297図 5-124号住居跡出土遺物(15)



第298図 5-124号住居跡出土遺物(16)



第299図 5-124号住居跡出土遺物(17)



第300図 5-124号住居跡出土遺物(18)

第3章 検出された遺構と遺物

5-125号住居跡 (第301~307図: PL46・47・176・177)

位置 U-15・16グリッドに位置する。 **重複** 北西に位置する5-127・137号住居跡を切って作られている。また、住居内の西側部分には5-1075・1083号土坑が重複する。

形状 およそ円形であるが南と西側がやや直線的となる。 **規模** 310×290×45cm。

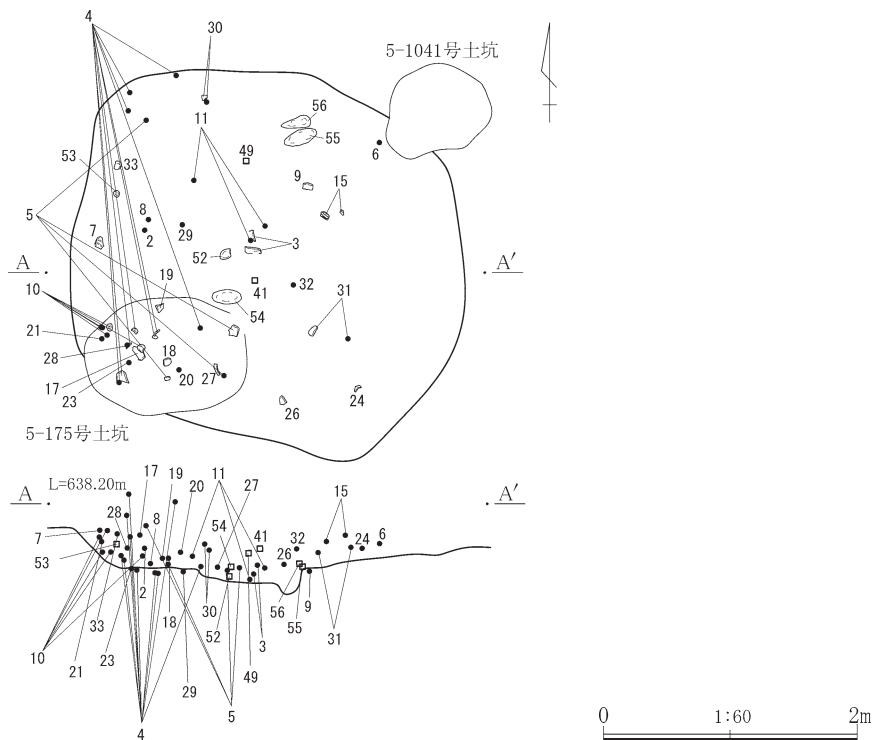
方位 N-5°-E **床面** やや南に傾斜を有し、炉を中心にやや凹み、炉の周囲は比較的しっかりと締まっている状況が窺えた。

炉 住居のほぼ中央に作られていた。円形の掘り込み内に炉石と思われる石が落ち込んだ状態で点在していた。底部は平らで焼土は少ない。 **柱穴** 壁に沿って8本が検出されている。

埋甕 検出されない。 **掘方** 床下土坑等は見られない。

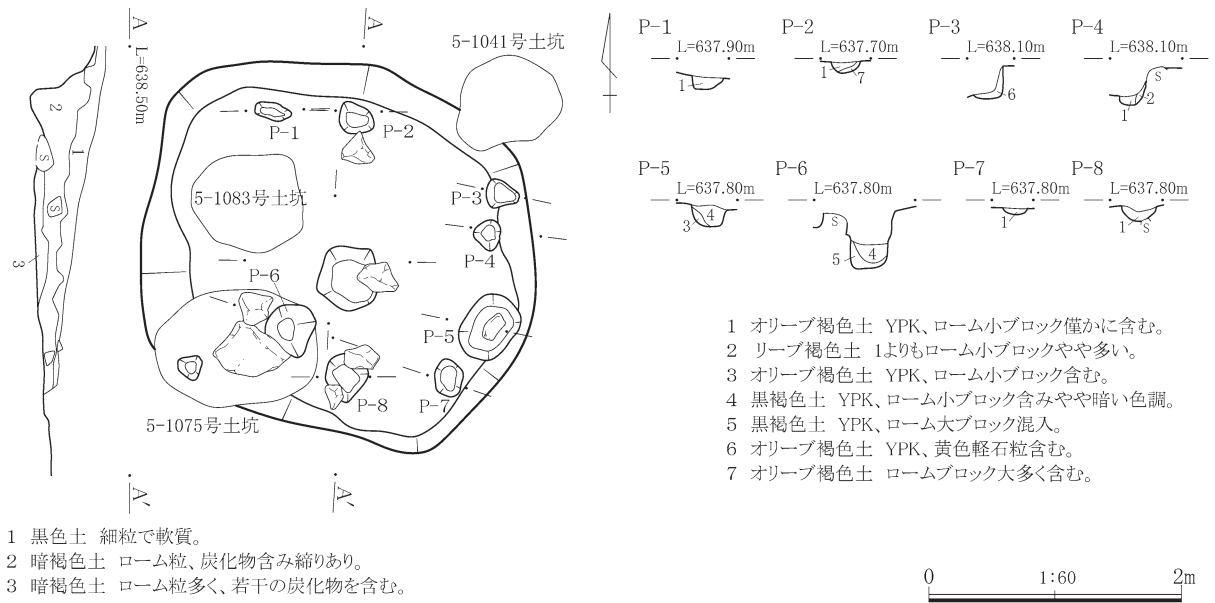
出土遺物 覆土中よりかなり多くの土器片石器等が見られた。他時期の遺構との重複もあり、出土した土器の時期にはばらつきが見られる、器形を復元できるようなものはほとんどなく、破片が中心である。石器は石鏃、石錐を初めとし、打製石斧、磨石が出土している。

時期・所見 径が3m程のかなり小型の住居跡である。北側については壁の立ち上がりもかなり明瞭に検出されたが、南側は削平されておりやや不明瞭である。時期は出土した土器から中期末から後期初頭と考えられる。



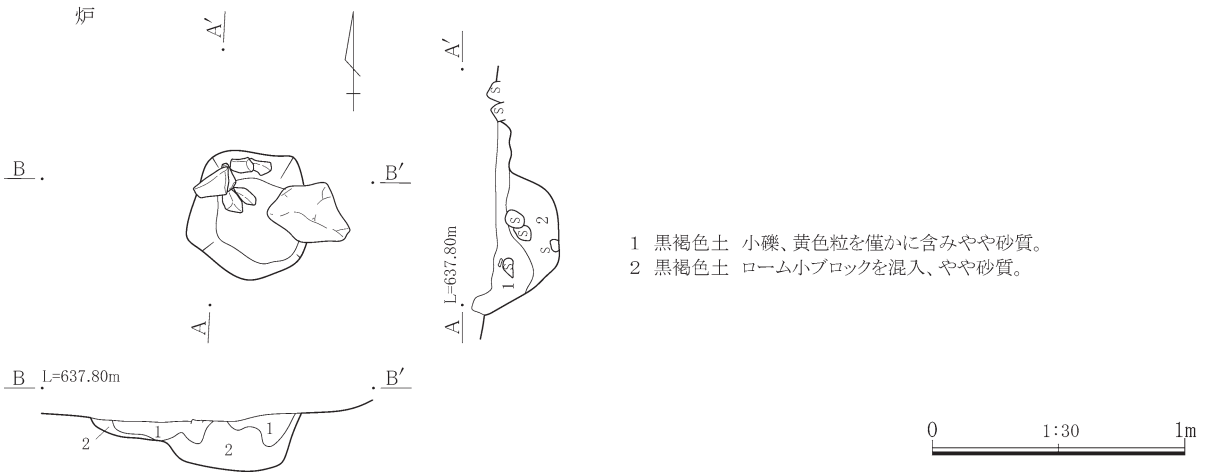
第301図 5-125号住居跡(1)

第3節 縄文時代の遺構と遺物

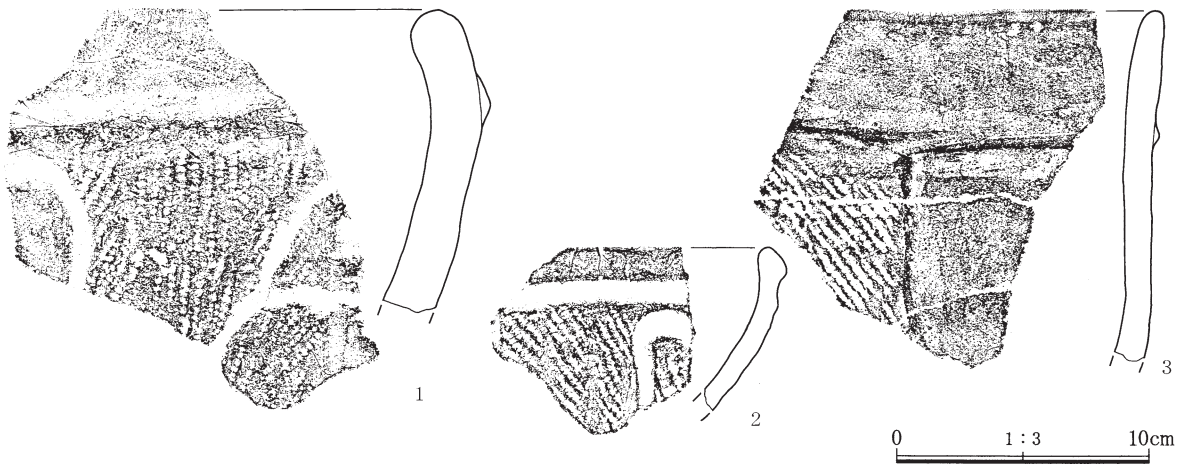


- 1 黒色土 細粒で軟質。
- 2 暗褐色土 ローム粒、炭化物含み縮りあり。
- 3 暗褐色土 ローム粒多く、若干の炭化物を含む。

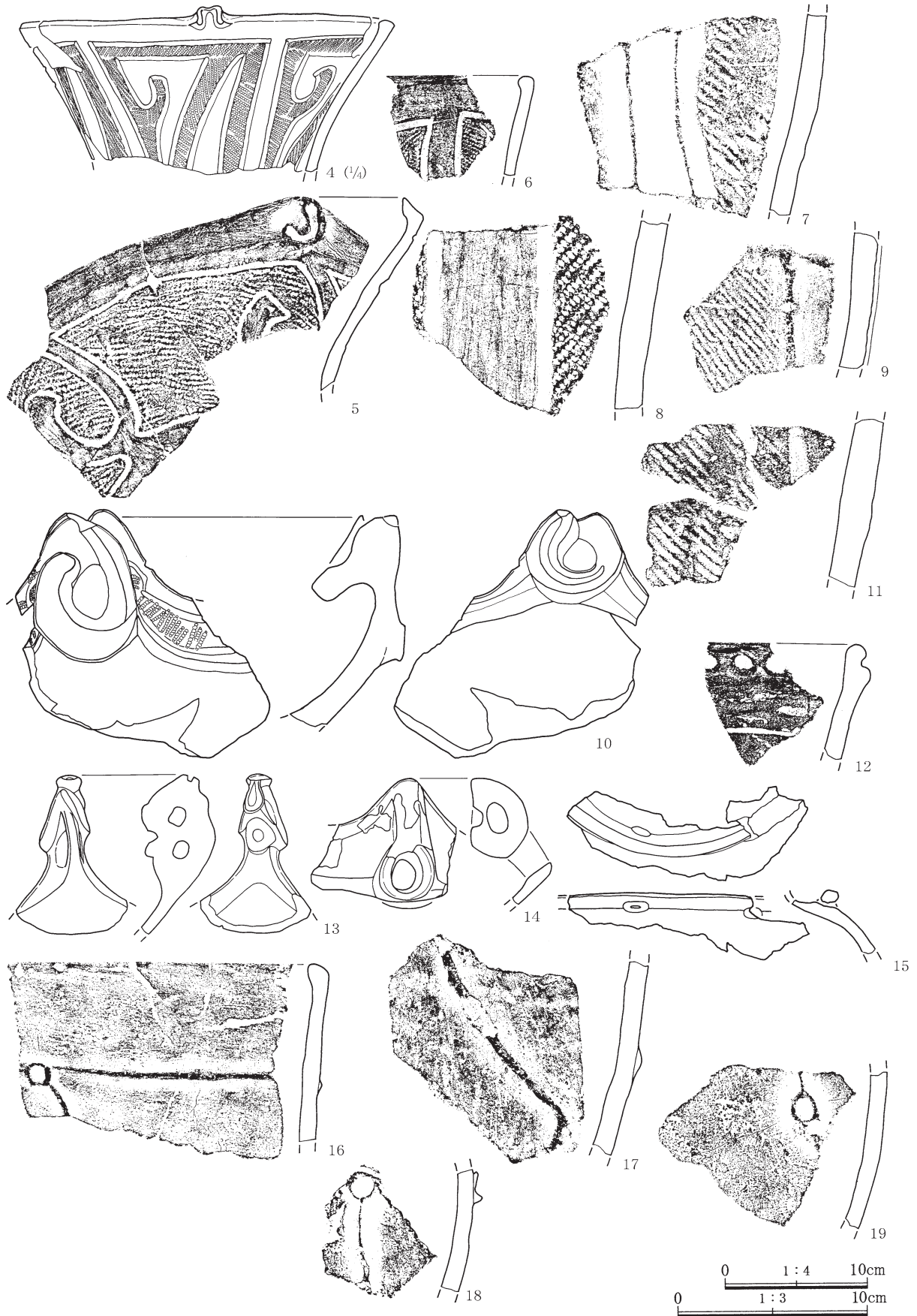
- 1 オリーブ褐色土 YPK、ローム小ブロック僅かに含む。
- 2 リーブ褐色土 1よりもローム小ブロックやや多い。
- 3 オリーブ褐色土 YPK、ローム小ブロック含む。
- 4 黒褐色土 YPK、ローム小ブロック含みややや暗い色調。
- 5 黒褐色土 YPK、ローム大ブロック混入。
- 6 オリーブ褐色土 YPK、黄色軽石粒含む。
- 7 オリーブ褐色土 ロームブロック多く含む。



第302図 5-125号住居跡(2)



第303図 5-125号住居跡出土遺物(1)

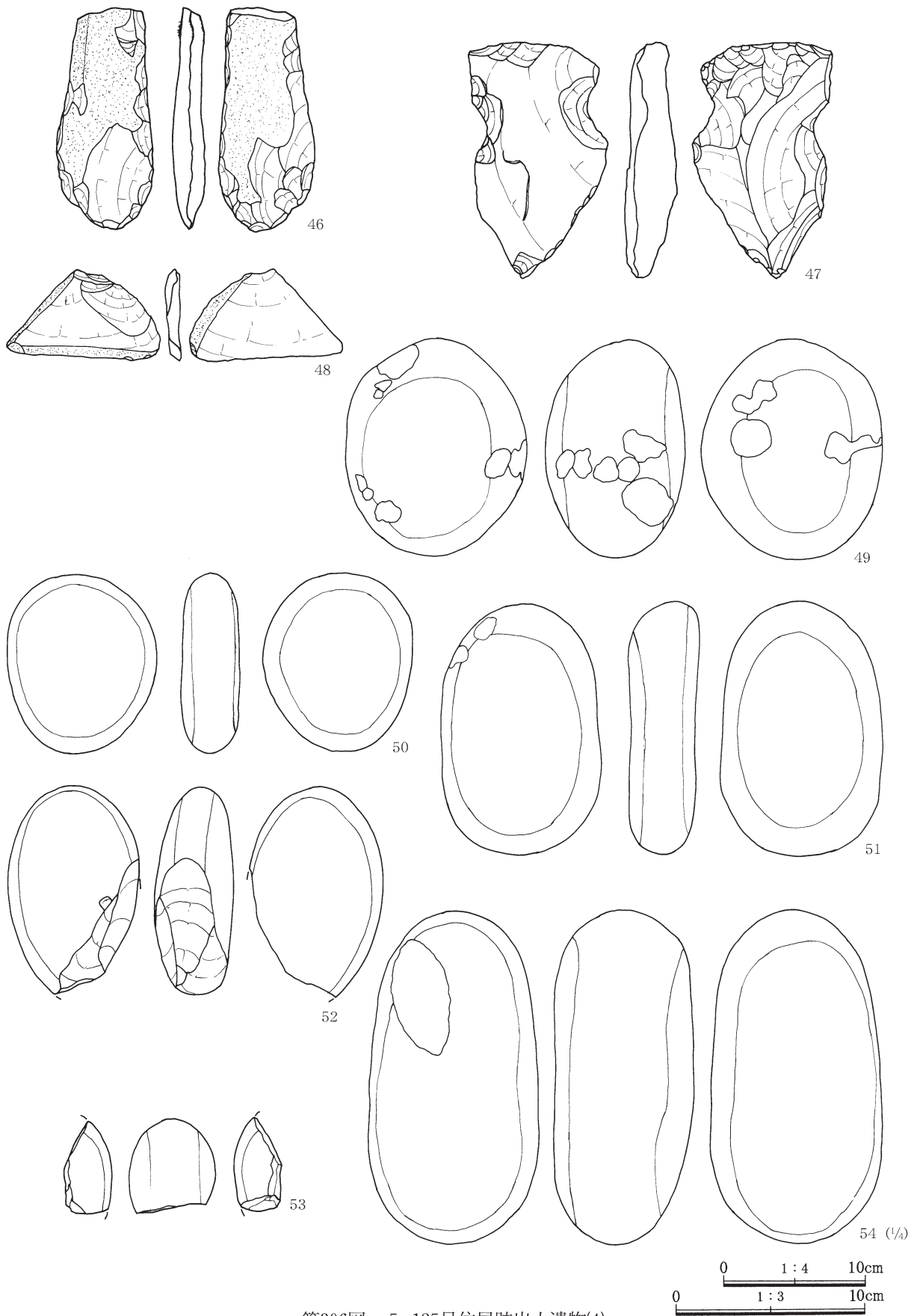


第304図 5-125号住居跡出土遺物(2)

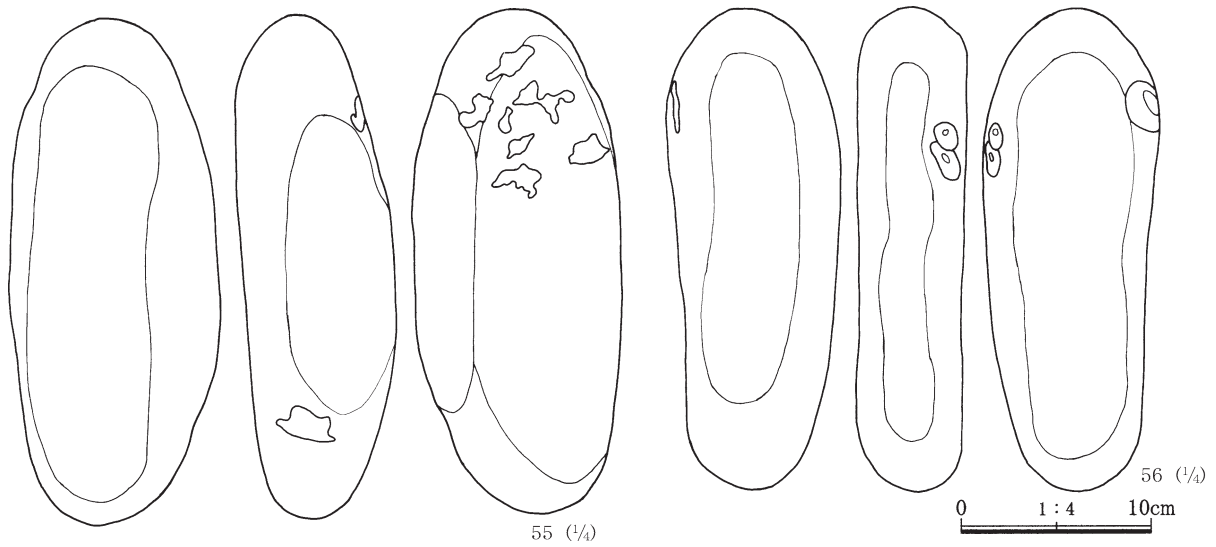


第305図 5-125号住居跡出土遺物(3)

第3章 検出された遺構と遺物



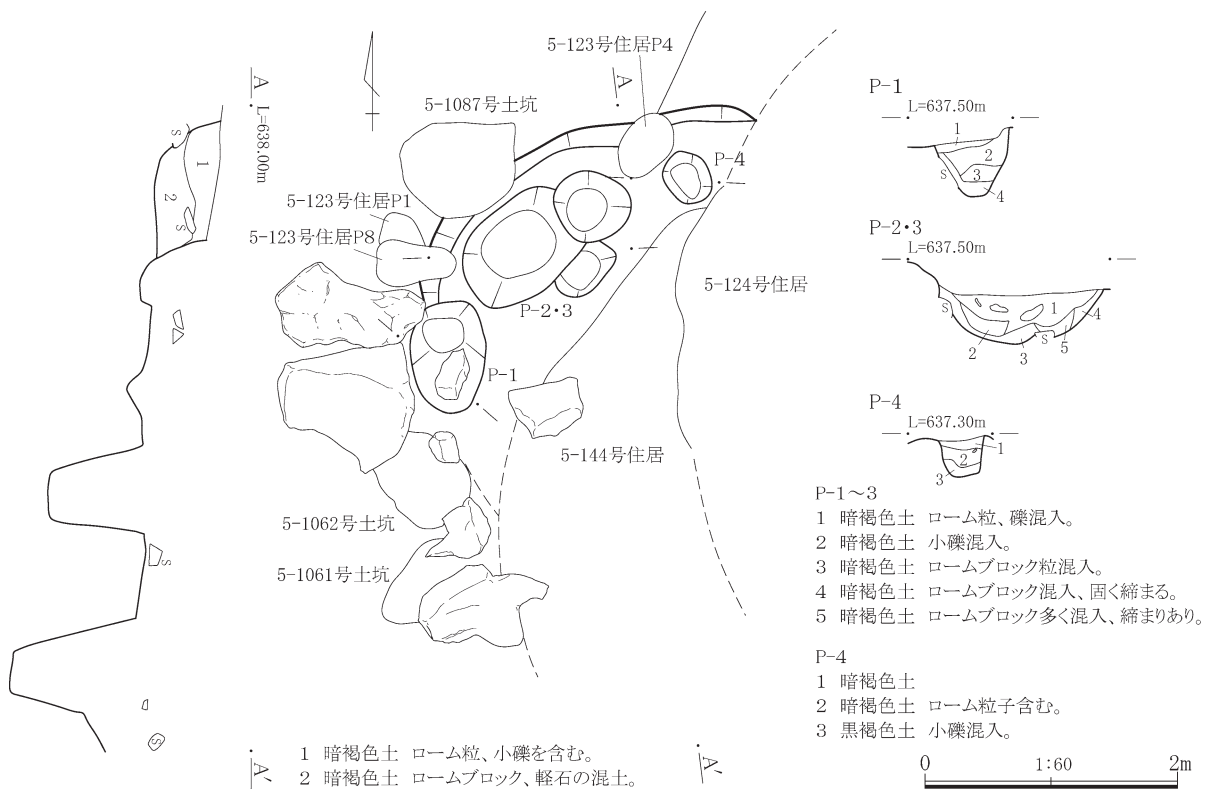
第306図 5-125号住居跡出土遺物(4)



第307図 5-125号住居跡出土遺物(5)

5-126号住居跡 (第308・309図：PL47・178)

位置 X-14・15グリッドに位置する。 **重複** 東側は5-124・144号住居跡に大きく切られる。
形状 円形を呈すと思われる。 **規模** 推定径4.0m。 **方位** 不明。
床面 明確な面は確認できなかった。 **炉** 検出されなかった。
柱穴 西壁下に沿ってピットが計5本ほど検出されている。P-1およびP-4は柱穴の可能性がある。
埋甕 検出されなかった。 **掘方** 不明。

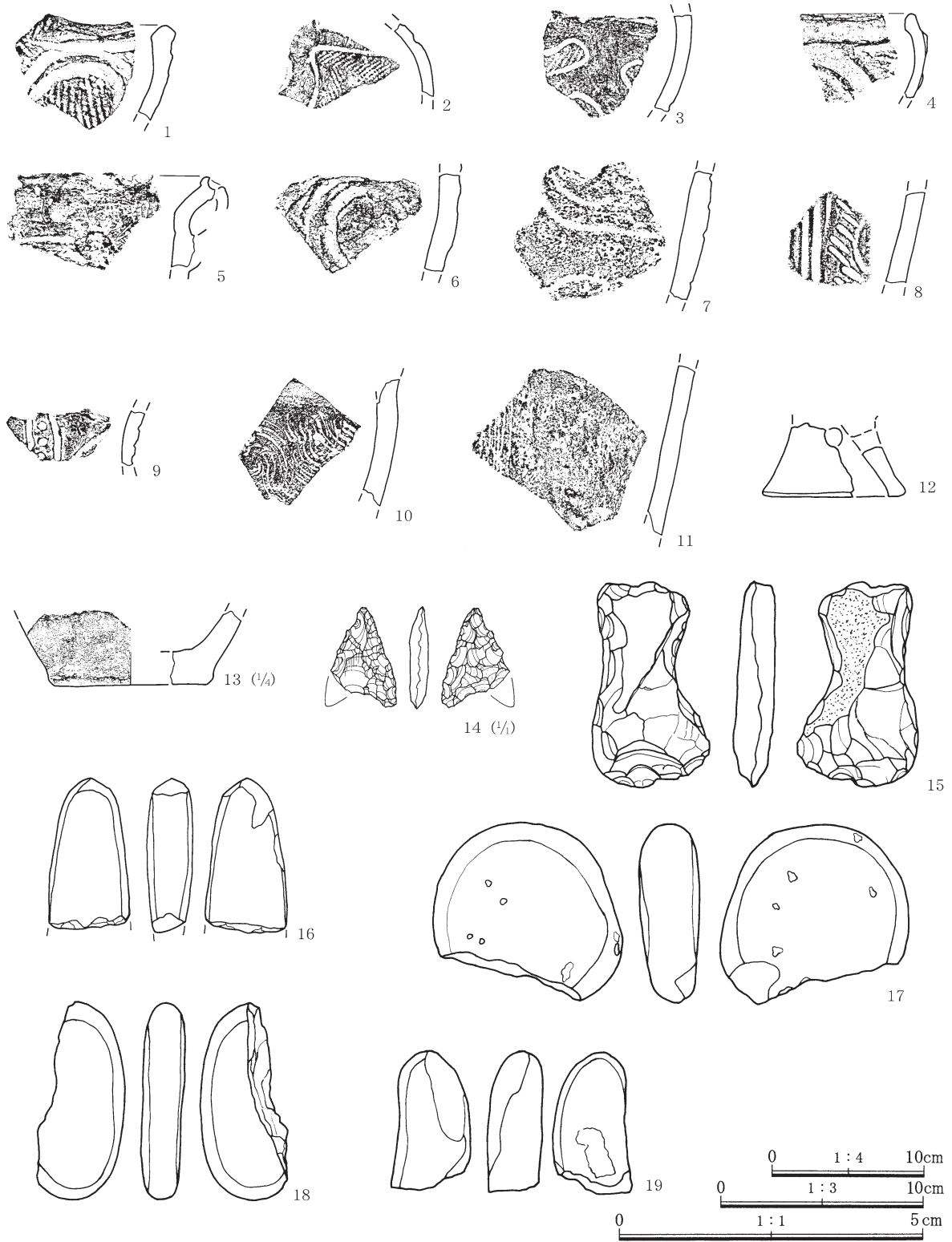


第308図 5-126号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物

出土遺物 確認された範囲が僅かであったこともあり少なかった。土器は小破片のみ、石器も石鏃、打製石斧、磨製石斧、磨石など数は少ない。

時期・所見 西側の弧状に残ったわずかな部分のみの検出である。時期は中期後半か。



第309図 5-126号住居跡出土遺物

5-127号住居跡 (第310~312図: PL47・178)

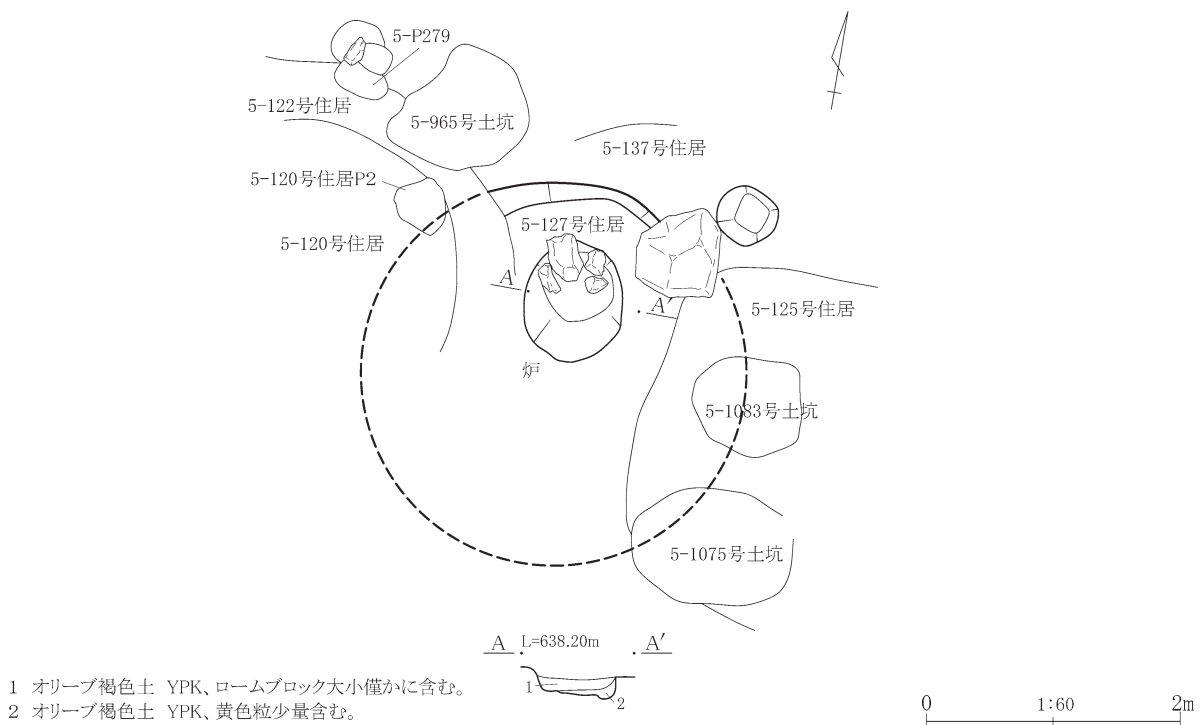
位置 U・V-16グリッドに位置する。 **重複** 東を5-125号、西を5-122号住居跡に切られ南側には5-142号住居跡が重複しており残りは極めて悪い。

形状 円形か。 **規模** 推定径3.0m。 **方位** 不明。 **床面** わずかに残った範囲では地山の礫が露出した部分もあり凹凸が見られる。 **炉** 5-1086号土坑が本址の炉である可能性がある。大型の礫が落ち込んだ状況で掘り込みは浅く焼土もほとんど見られなかった。 **柱穴** 検出されない。

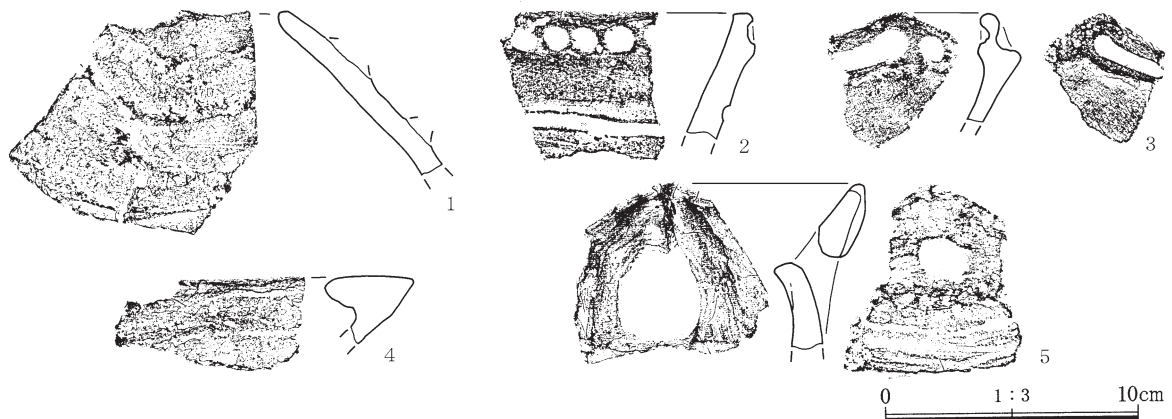
埋甕 検出されない。 **掘方** 床面下に遺構は見られず。

出土遺物 わずかに土器の小片が見られたのみである。石器については検出されなかった。

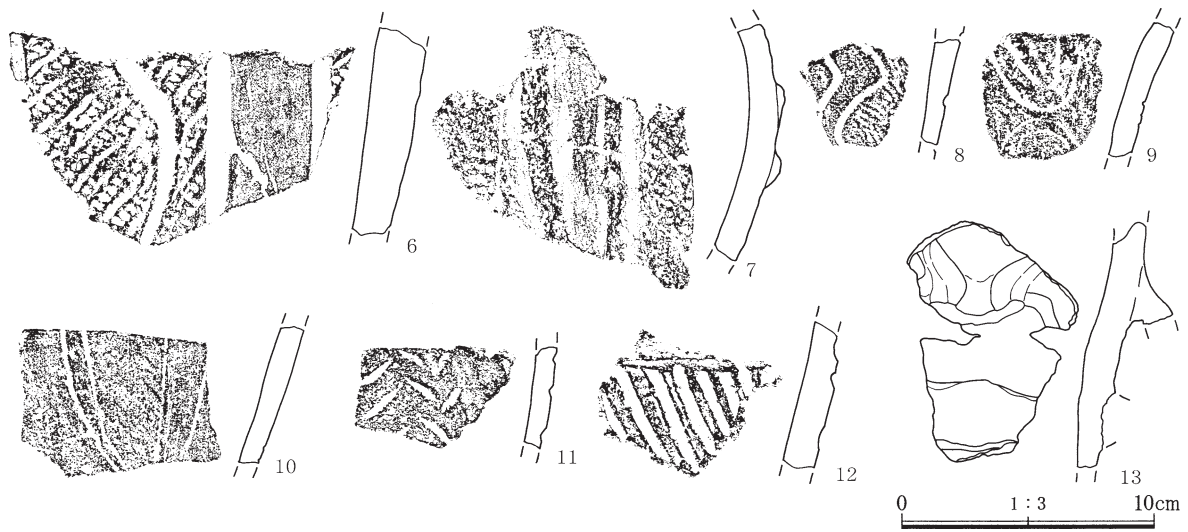
時期・所見 前述したように、そのほとんどが他の遺構によって壊されており、検出されたのは北側壁のわずかな立ち上がり部分と炉と思われる掘り込みのみである。遺存状態が極めて悪い。時期は中期後半か。



第310図 5-127号住居跡



第311図 5-127号住居跡出土遺物(1)



第312図 5-127号住居跡出土遺物(2)

5-128号住居跡 (第313・314図：PL47・178)

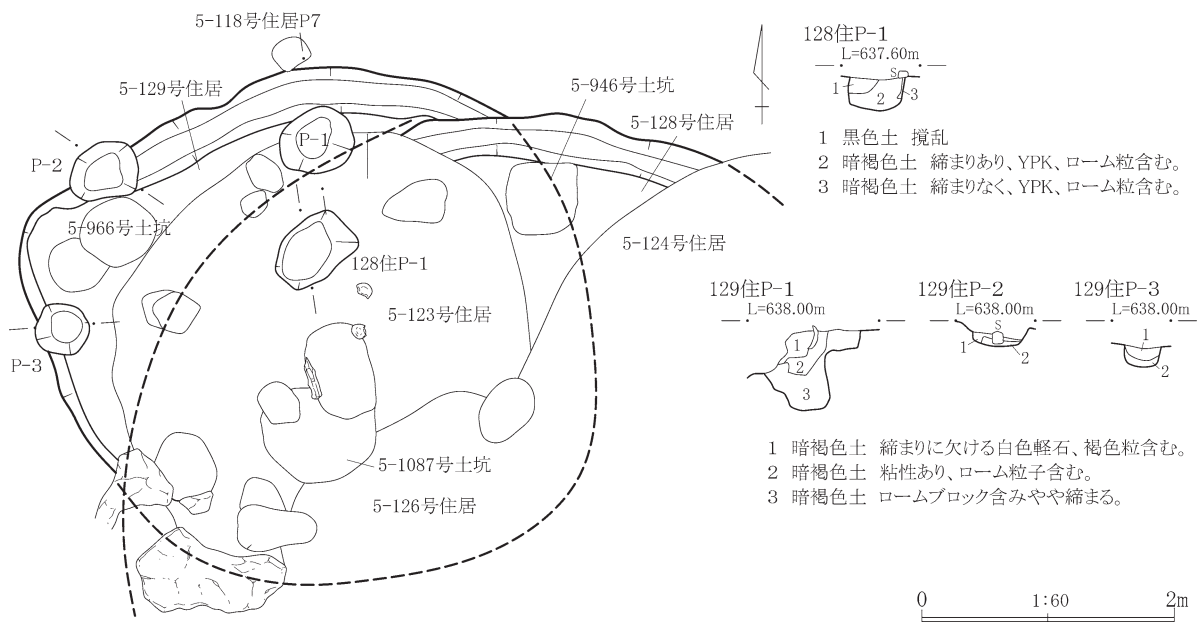
位置 W・X-15グリッドに位置する。 **重複** 5-123号と124号住居跡に挟まれた扇状の部分のみを検出した。 **形状** 円形か。 **規模** 不明。 **方位** 不明。

床面 比較的平坦である。 **炉** 検出されない。 **柱穴** 検出されない。

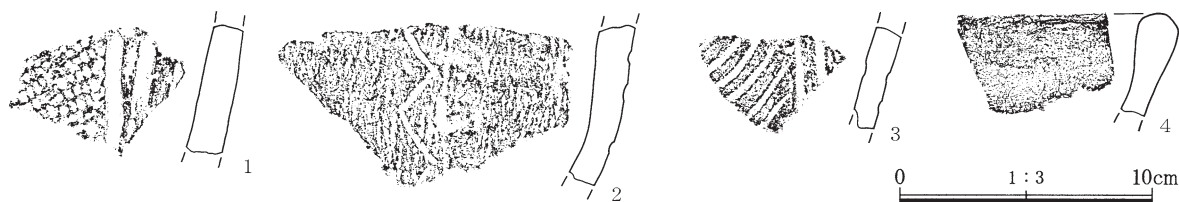
埋甕 検出されない。 **掘方** 床下の遺構は見られない。

出土遺物 わずかに土器片が見られるがいずれも小片である。石器については見られなかった。

時期・所見 僅かに検出した部分に位置する5-946号土坑は本址の柱穴の可能性がある。また周溝は比較的しっかりと掘り込まれている。弧状に残る部分から規模を推定すると径は6mを超える大型住居であった可能性がある。いずれにしても全容はほとんど不明である。時期は中期後半か。



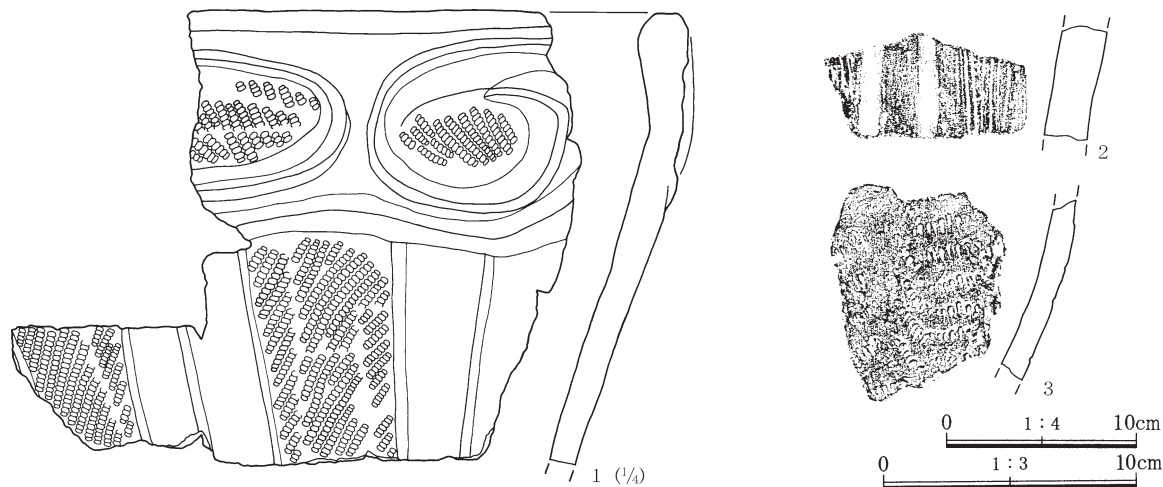
第313図 5-128・129号住居跡



第314図 5-128号住居跡出土遺物

5-129号住居跡 (第313・315図：PL47・178)

位置 X・Y-15グリッドに位置する。 **重複** 中に5-123号住居跡がすっぽりと収まる形に重複しており、遺存状態は悪い。 **形状** 円形あるいは隅丸方形か。 **規模** 径約4m。 **方位** 不明。
床面 大部分を5-123号住居跡により削られているために不明である。北側の壁下に周溝が廻る。
炉 検出されなかった。 **柱穴** 北西隅および北側に2本を確認したのみである。
埋甕 検出されなかった。 **掘方** 不明。
出土遺物 覆土中にわずかに土器片と、P-1の覆土に土器片が落ち込んだ状態で出土している。石器は見られなかった。
時期・所見 北側の外辺部分のみを確認した、ほとんど壊されており全容は不明である。時期は出土土器から中期後半加曽利E3式期と思われる。

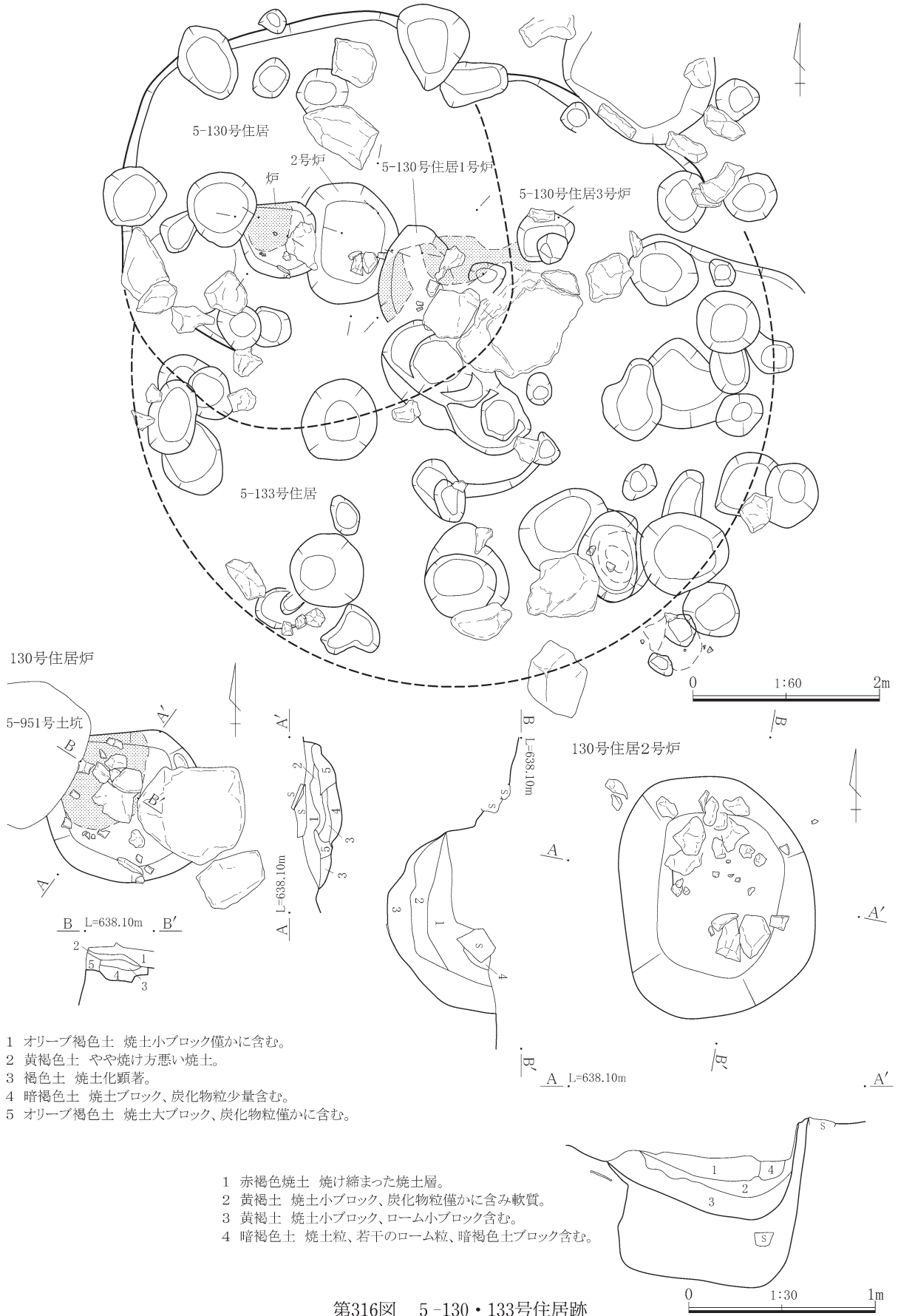


第315図 5-129号住居跡出土遺物

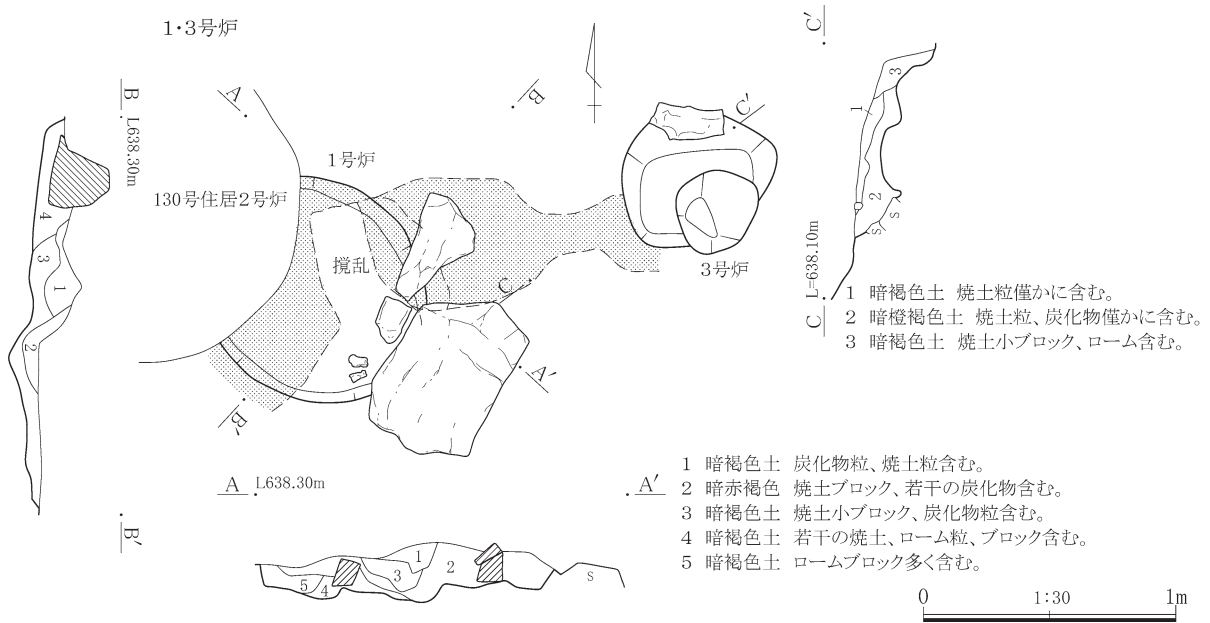
5-130号住居跡 (第316・318図：PL48・178)

位置 S・T-16・17グリッドに位置する。 **重複** 北東部分に5-133号住居跡が重複し、さらに10基程の土坑が重複しており遺存状態は極めて悪い。
形状 円形か。 **規模** 不明。 **方位** 不明。 **床面** 全体に削平を受け、凹凸が著しい。
炉 中央やや西に寄った位置に検出、礫の集まりと焼土層が確認された。炉は5-1097号土坑の覆土上層部に作られている。また東に近接して検出された5-133号住居跡2号炉は、その位置から本住居の炉になる可能性がある。この2号炉も5-1111号土坑の上に構築されていた。2基の炉が確認されていることから、住居の建て替えあるいは拡張が想定される。 **柱穴** 壁に沿って検出された6ないしは7本か。

第3章 検出された遺構と遺物



第316図 5-130・133号住居跡

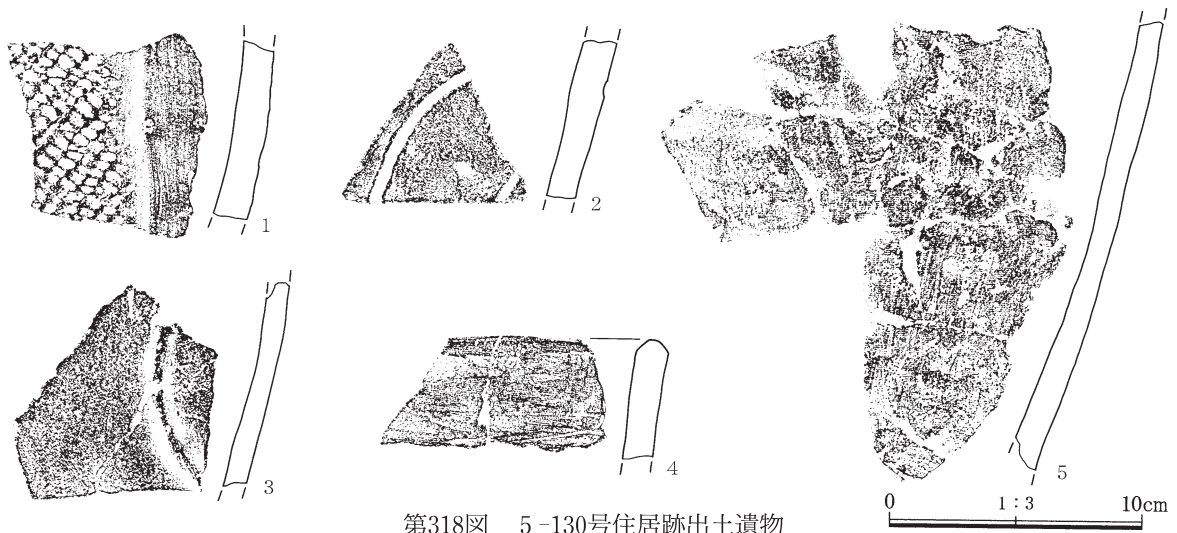


第317図 5-133号住居跡

埋甕 検出されなかった。 掘方 不明。

出土遺物 覆土、グリッドより多くの土器片が出土しているが本址に帰属するものは少ないと思われる。

時期・所見 重複が著しく遺存状態は極めて悪い。5-133号住居と大きく重複しており、切り合い関係も不確定である。時期は中期後半か。



第318図 5-130号住居跡出土遺物

5-131号住居跡 (第319~321図: PL48・179)

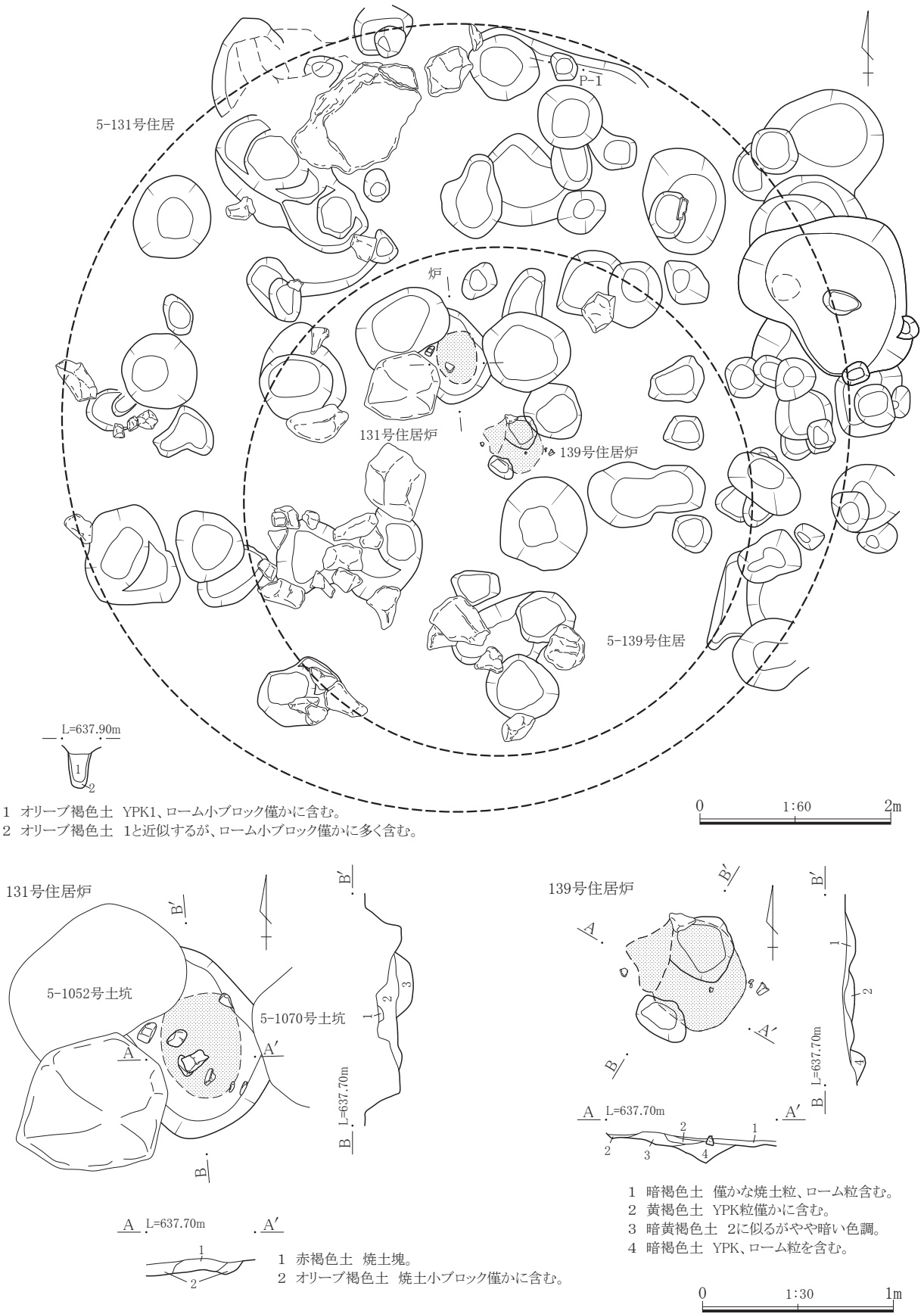
位置 R・S-15・16グリッドに位置する。 重複 北側に5-133号が、西には5-138号が、さらにほぼ重なる状態で5-139号住居跡が重複している。壁の立ち上がりは僅かに北側においてその一部分を確認したに過ぎなかった。 形状 円形と考えられる。 規模 (800)×(800)×— 方位 不明。

床面 土坑等の重複もあり生活面としての床面の確認はできなかった。

炉 土坑により部分的に壊されてはいたが、南北方向の長円形で浅い落ち込みと焼土が検出されている。

柱穴 推定範囲に沿って円形に廻る11本程の柱穴(土坑)が検出されている。

第3章 検出された遺構と遺物

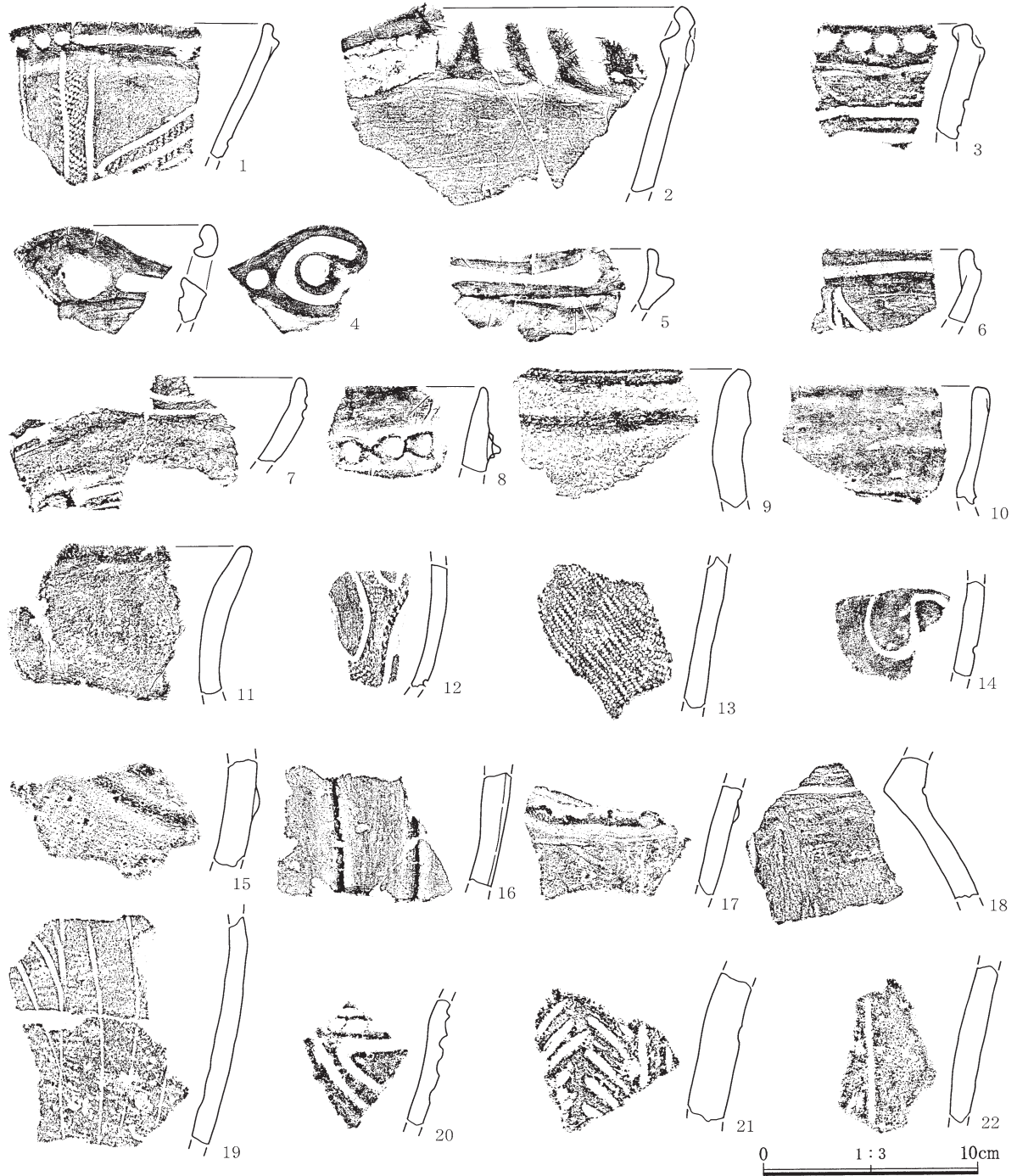


第319図 5-131・139号住居跡

埋甕 検出されなかった。 掘方 不明。

出土遺物 覆土中より土器片等多く出土しているが本址に帰属するものは少ないと考えられる。

時期・所見 重複が多く残りは極めて悪い、炉の存在とほぼ全周する柱穴の位置から範囲を推定、柱穴と思われる土坑の規模や配列から、かなり大型の住居が想定される。時期は後期前半か。



第320図 5-131号住居跡出土遺物(1)

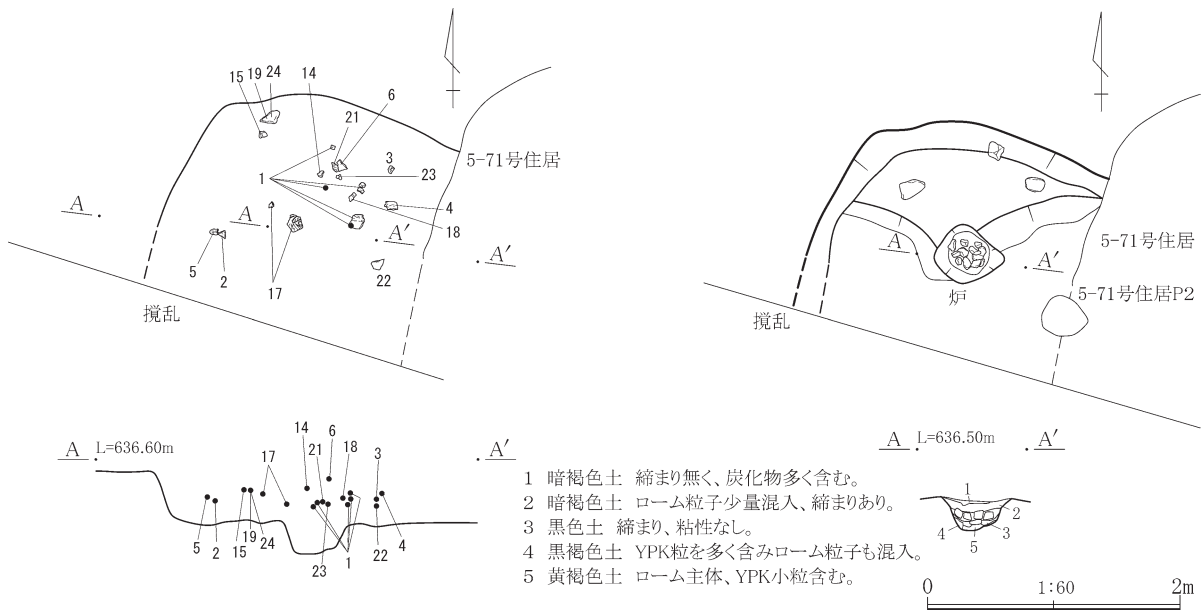
第3章 検出された遺構と遺物



第321図 5-131号住居跡出土遺物(2)

5-132号住居跡 (第322~324図: PL48・179・180)

位置 G-15グリッドに位置する。 **重複** 5-70号住居跡の南端部に重複しこれを切って構築されている。また東側は5-71号住居跡によって切られる。さらに、南側については壁の立ち上がり等は明確にできなかったが、水道管敷設時の工事によって一部壊されているものと思われる。 **形状** やや小型の円形を呈すものと思われる。 **規模** 径およそ2.5m、壁高は最大で25cmを測る。 **方位** 不明。



第322図 5-132号住居跡

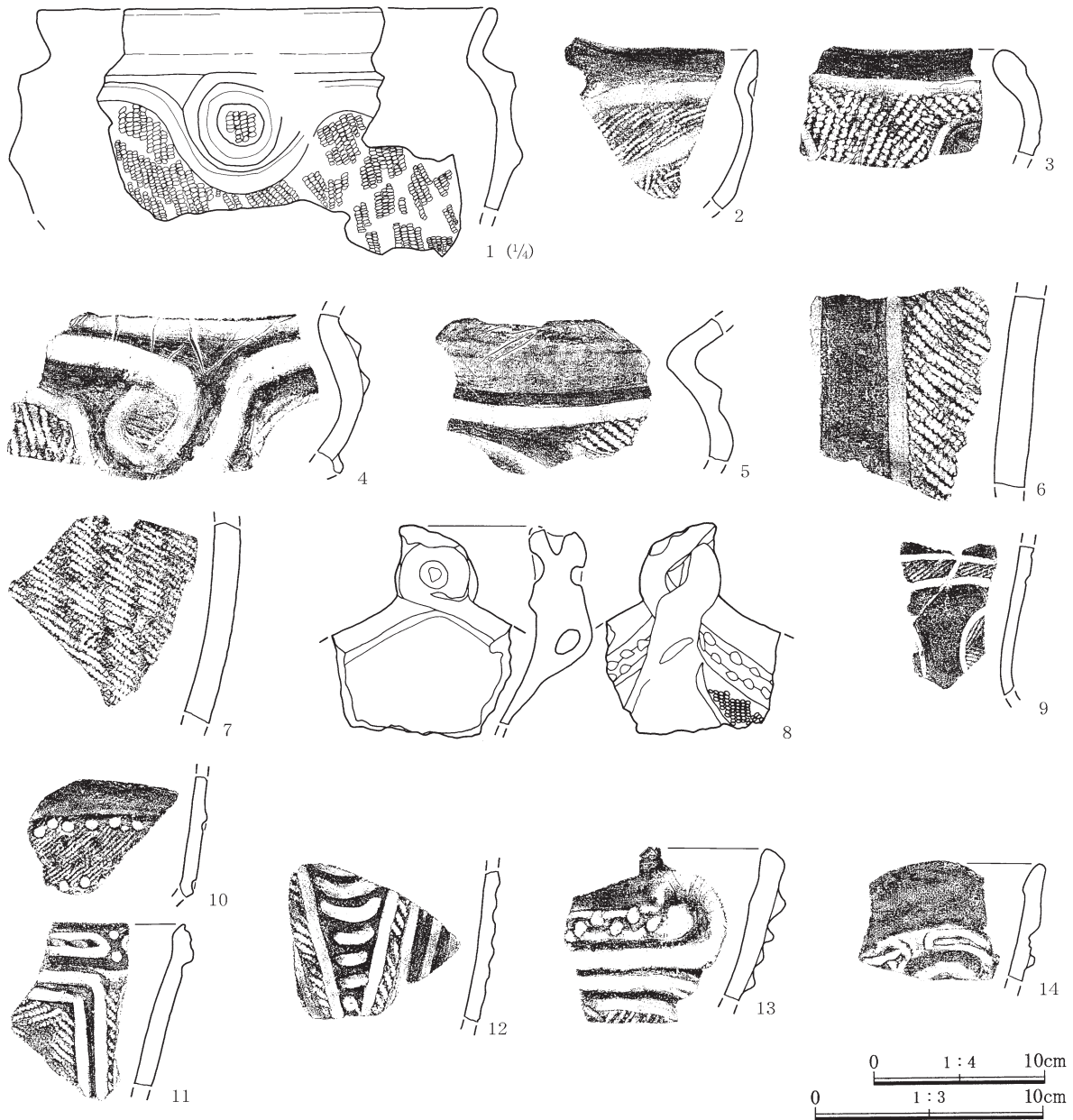
床面 北側からやや南に緩く傾斜を持つが、攪乱によるものか、南側が一段低くなっている。また炉の周辺部から炭化材が出土している。 **炉** ほぼ中央に径50cm程の落ち込みが検出されており、炉と判断された。中にはこぶし大の礫が10個ほど詰まった状態で検出されている。下層に若干の焼土が見られた。

柱穴 南東部に1本検出されているが、付随するものかは不明である。

埋甕 検出されない。 **掘方** 特に土坑等は見られなかった。

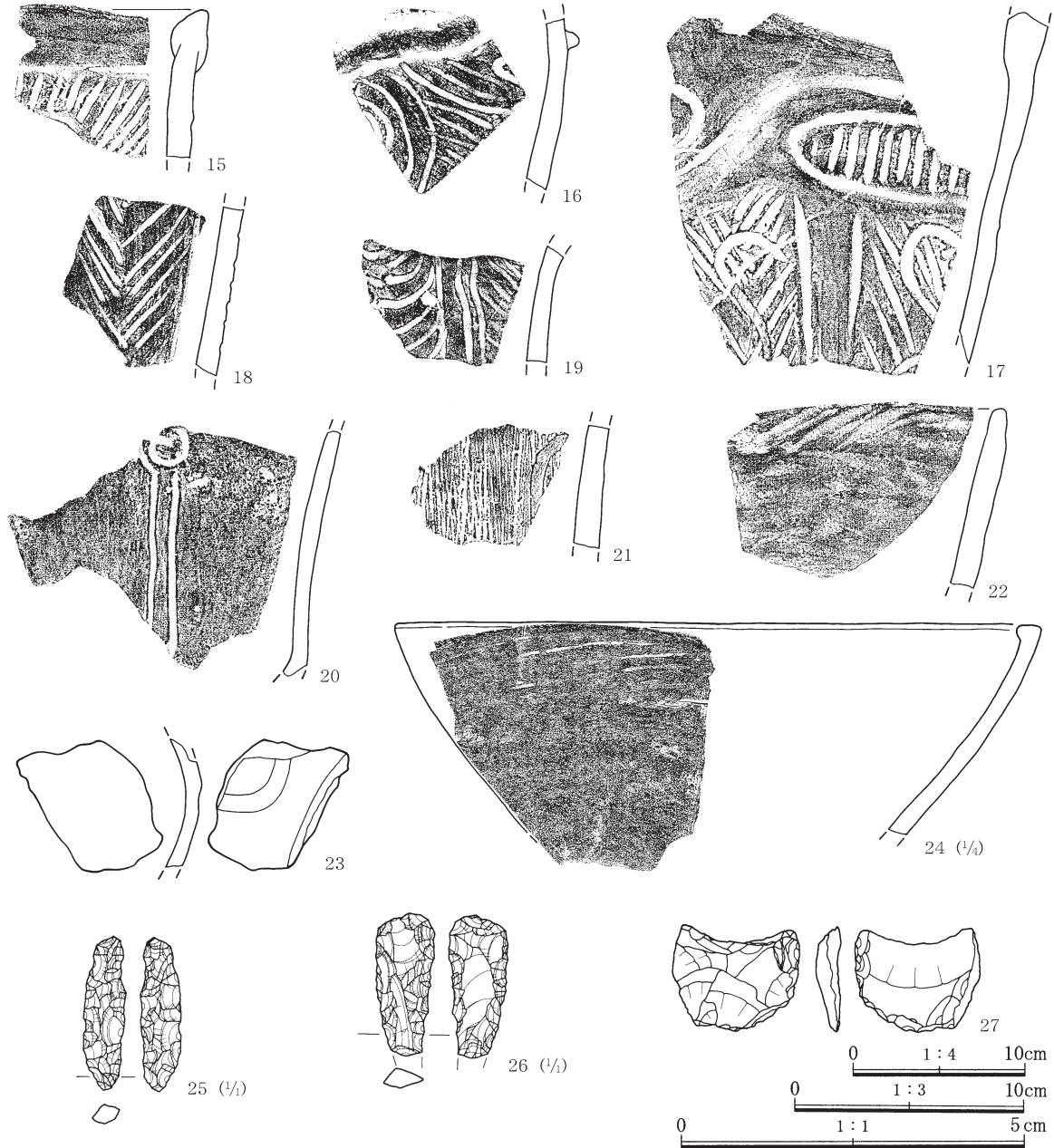
出土遺物 比較的覆土上層から土器片、石器等が出土しているが、器形を復元できるようなものは見られない。石器は石錐2点、スクレイパーが1点である。

時期・所見 遺存状態はあまり良くなく、炉以外の施設も認められなかった。覆土上層中より炭化材片が出土している。時期は出土遺物から中期後半と判断される。



第323図 5-132号住居跡出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



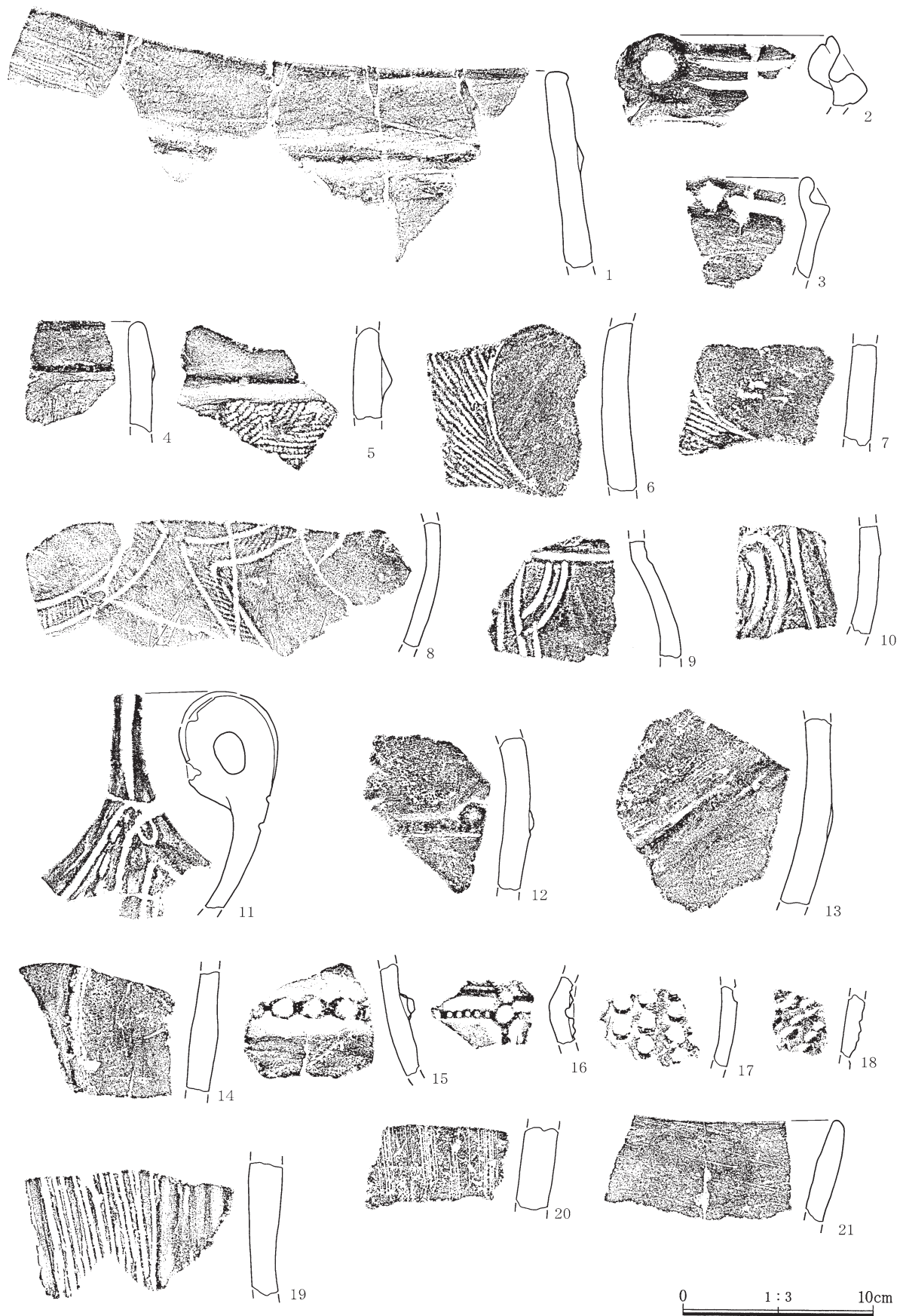
第324図 5-132号住居跡出土遺物(2)

5-133号住居跡 (第316・325・326図：PL49・50・180)

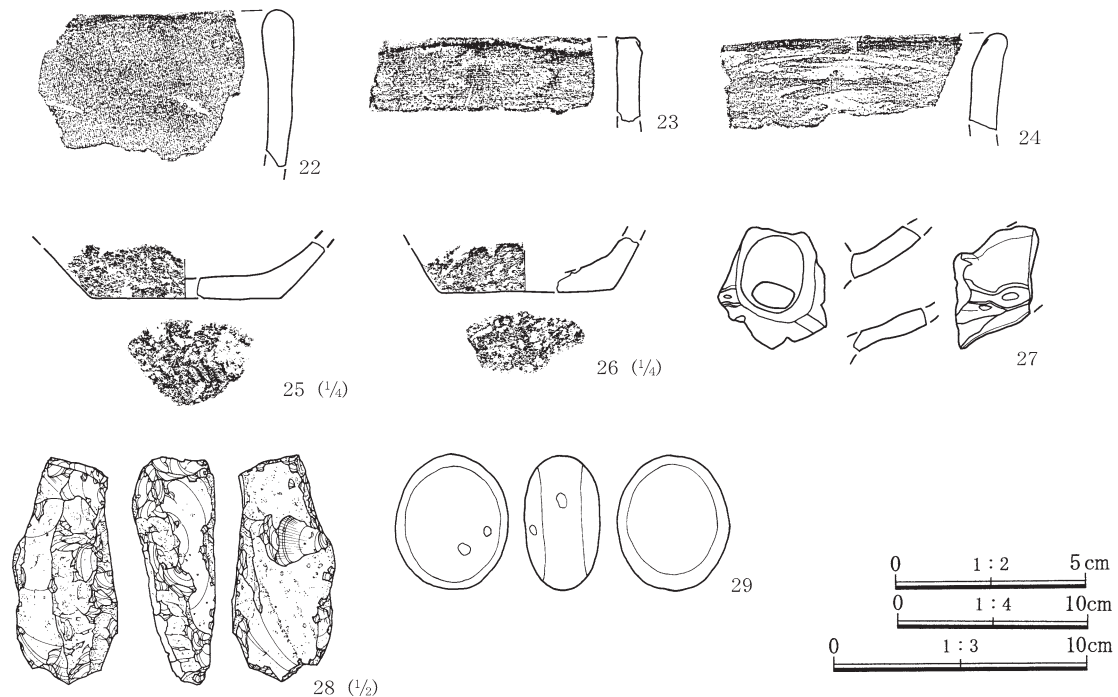
位置 R～T-15～17グリッドに位置する。 **重複** 5-130号とほぼ重なり、南側は5-138・139号住居跡と重複する。 **形状** 円形か。 **規模** 推定径8m。 **方位** 不明。

床面 重複が著しく生活面は確認できなかった。 **炉** ほぼ中央に浅い落ち込みに伴う焼土の広がりや一部の炉石を認め1～3号炉とした。このうち2号炉については5-130号住居跡に帰属する可能性が高い。いずれも炉の下位部分であろう。 **柱穴** 推定外周にほぼ沿った形で10基程を確認、径60～80cm、深さは50cm以上を測る。 **埋甕** 検出されなかった。 **掘方** 不明。

出土遺物 土器片等見られるが本址に帰属するものは少ない。石器は黒曜石の石核と小形磨石のみである。 **時期・所見** 複数の住居および土坑による重複が顕著で遺存状態は極めて悪い。炉の残骸が2カ所確認されていることから建て替えが想定されるが詳細は不明である。



第325図 5-133号住居跡出土遺物(1)



第326図 5-133号住居跡出土遺物(2)

5-134号住居跡 (第327~331図: PL50・51・181)

位置 U-14グリッドに位置する。 **重複** 東側に5-140号住居跡が接し、西壁部分には5-996・1005号土坑が重複する。また本址の北側部分には5-9号列石の西端部が掛かる。南側の一部は平成6年度に調査を行った範囲に入るが、その時点では張り出し部と判断されるような遺構は検出されていない。

形状 北および東側はやや直線的で西壁の南が折れて内側に入る形から矩形を呈すものと思われる。柄鏡形の可能性がある。 **規模** 300×(300)×40cm。 **方位** N-0°

床面 平坦で締まりがある。壁に沿って幅20~30cmの周溝がほぼ全周する。床の外縁部に平石が点在していた。

炉 ほぼ中央に石囲い炉が検出された。炉石は北および南側は残るが、東側の一部、西側は検出されなかった。大きさは一辺約50cmである。

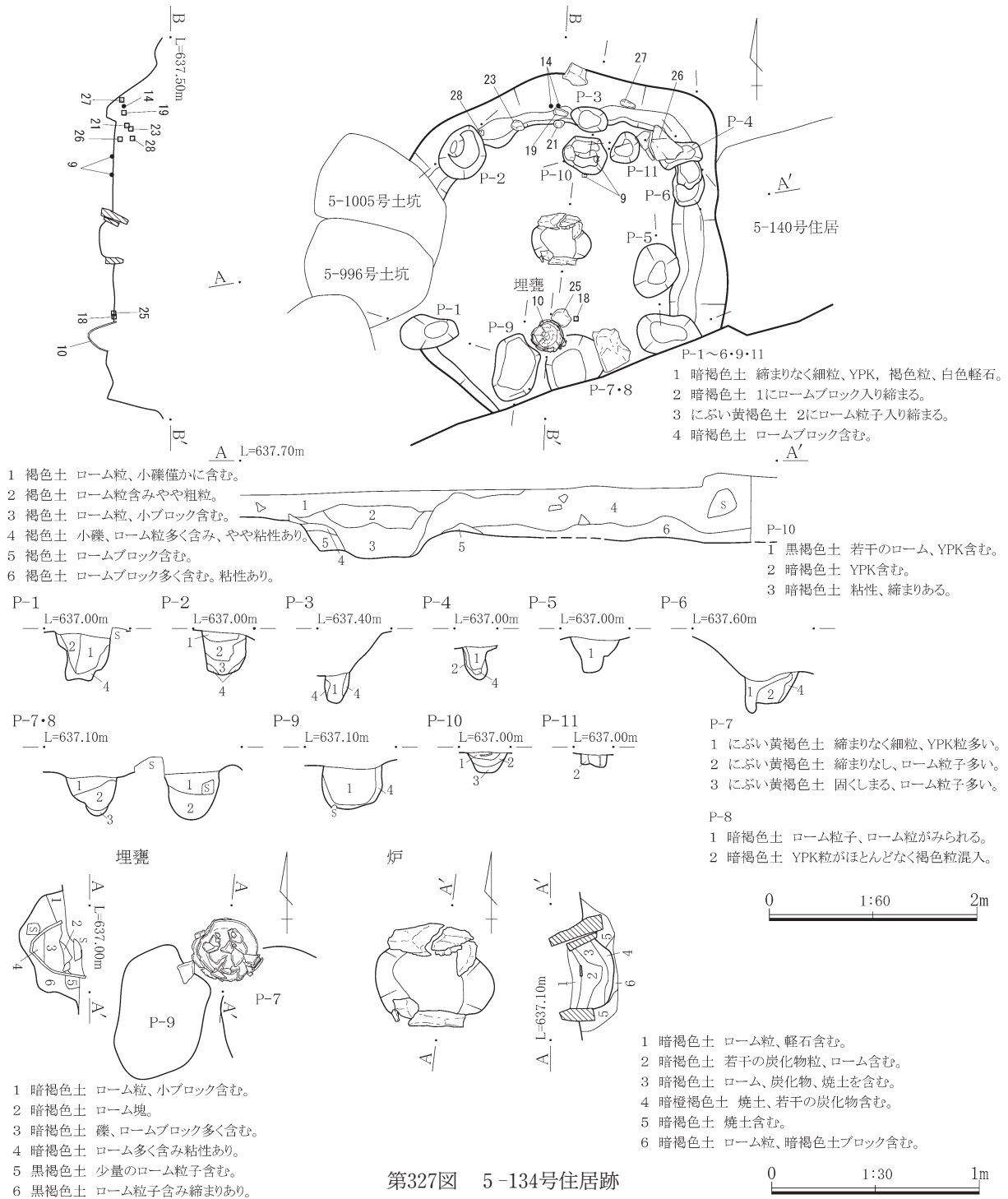
柱穴 壁に沿って8本を検出、入り口部に近接する2本はいわゆる対ピットと考えられる。

埋甕 炉の南、対ピットの北に検出された。口縁部分を欠いた深鉢を正位に埋めている。中には数個の礫が入っていた。 **掘方** 床下の土坑等は見られなかった。

出土遺物 5-9号列石が載っていたこともあり、覆土には比較的大きな礫が含まれていた。その他土器の出土点数はあまり多くはない。石器は石鏃、磨製石斧、磨石の他に板状の台石が見られる。また円盤形の軽石製品が出土している。

時期・所見 若干の平石が見られることや、入り口部には対ピットが検出されていることから、柄鏡形の敷石住居跡と考えられる。調査区外となる張り出し部については平成8年度に調査が行われているが、関連するような遺構は認められなかった。

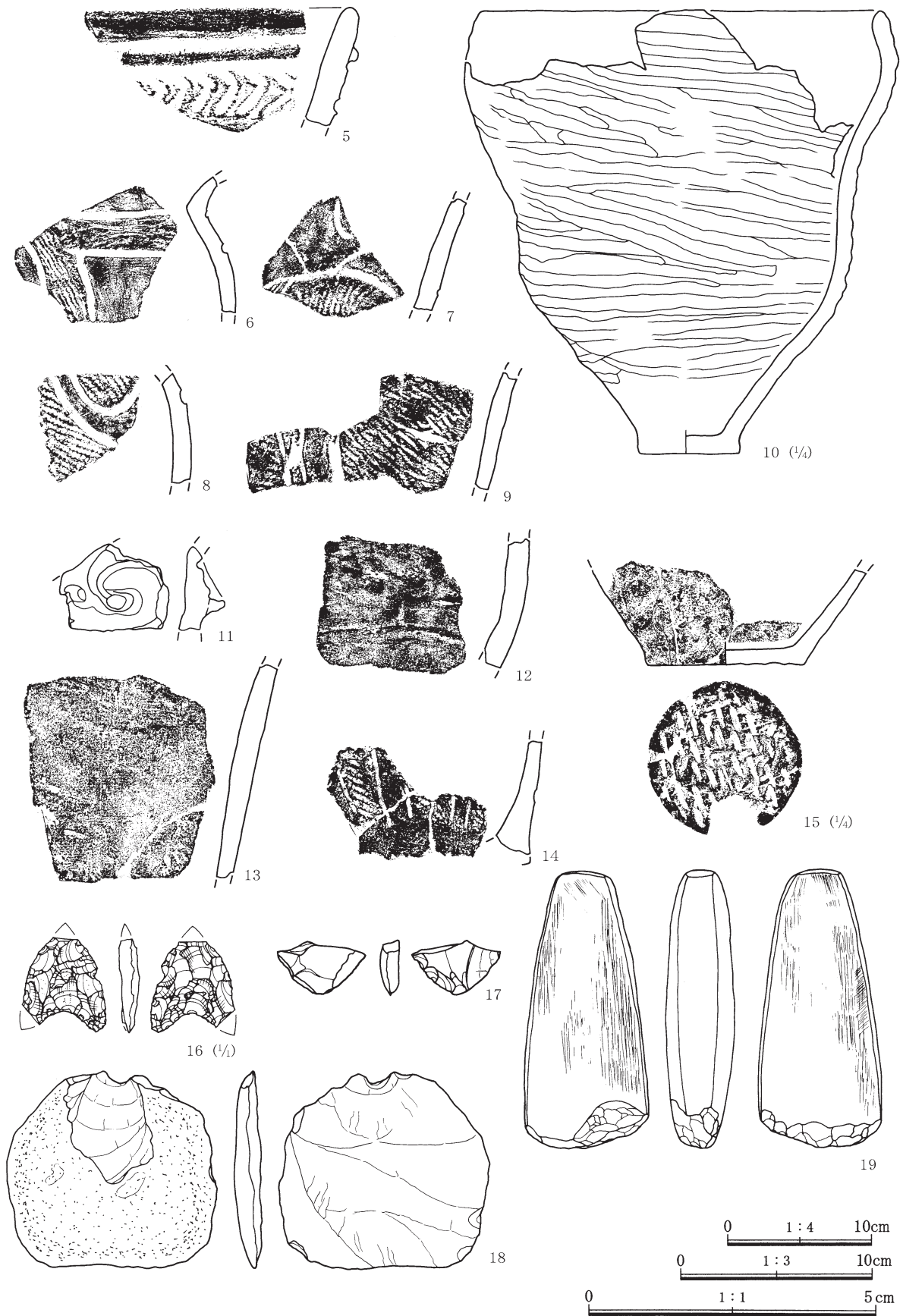
第3節 縄文時代の遺構と遺物



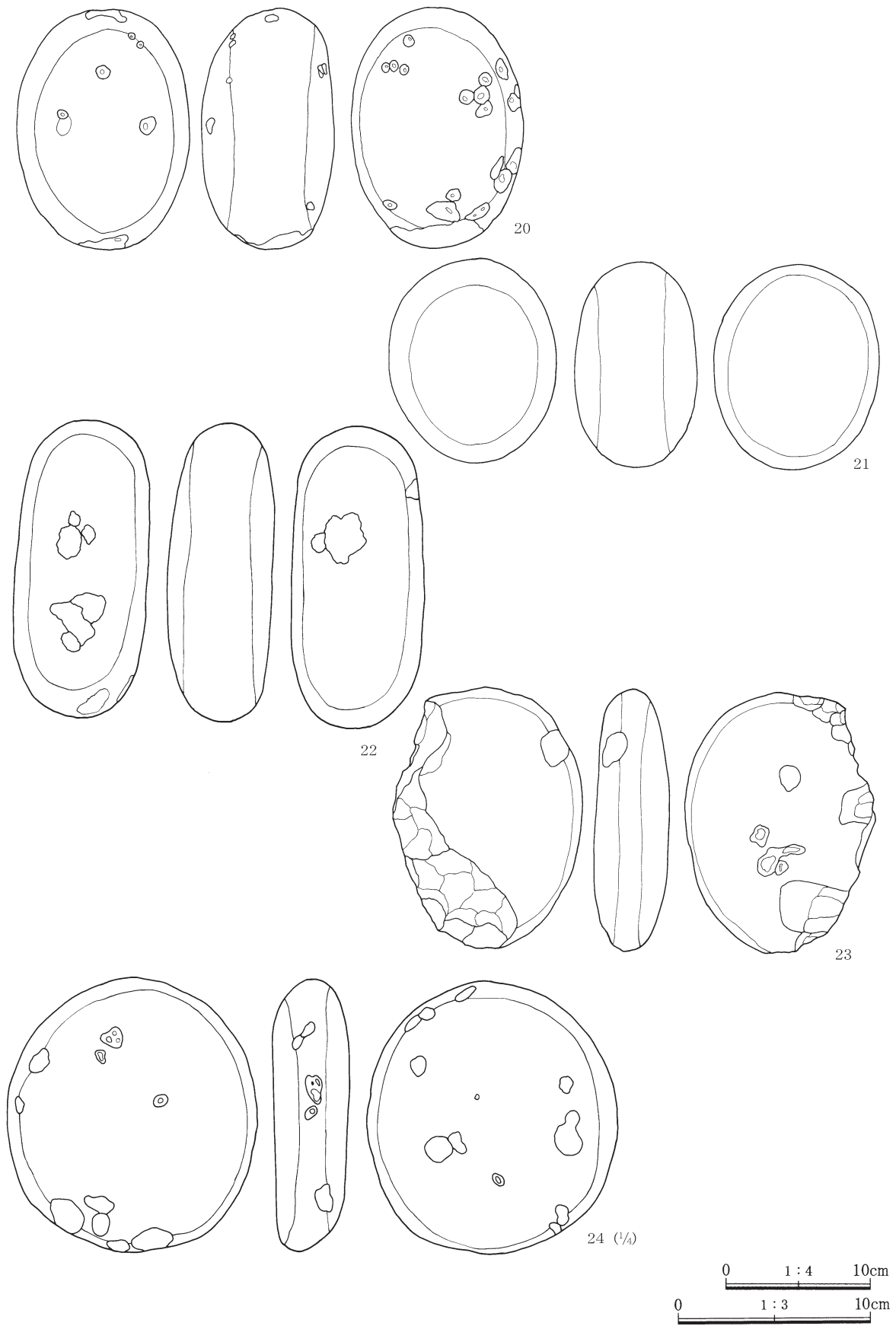
第327図 5-134号住居跡



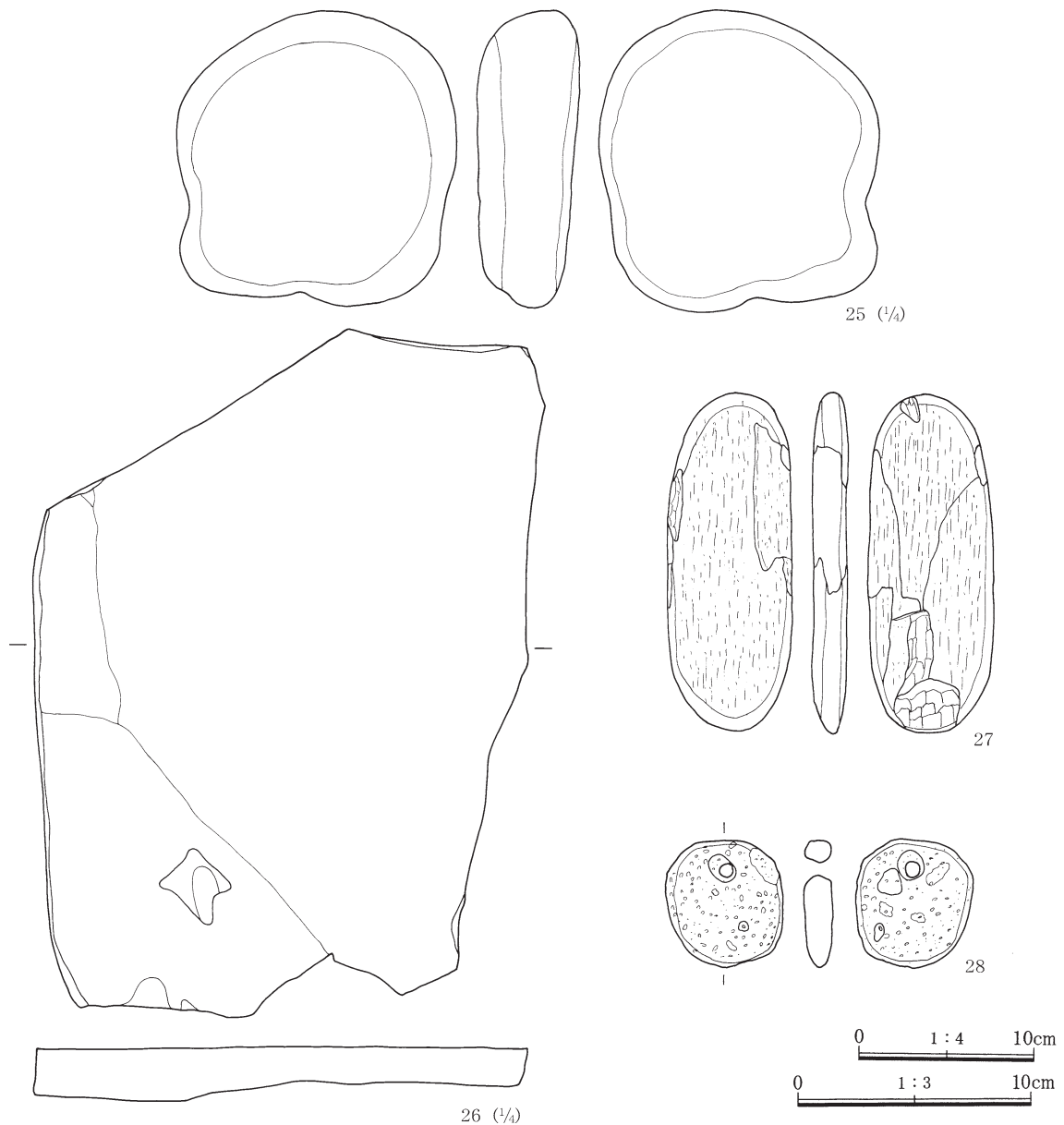
第328図 5-134号住居跡出土遺物(1)



第329図 5-134号住居跡出土遺物(2)



第330図 5-134号住居跡出土遺物(3)



第331図 5-134号住居跡出土遺物(4)

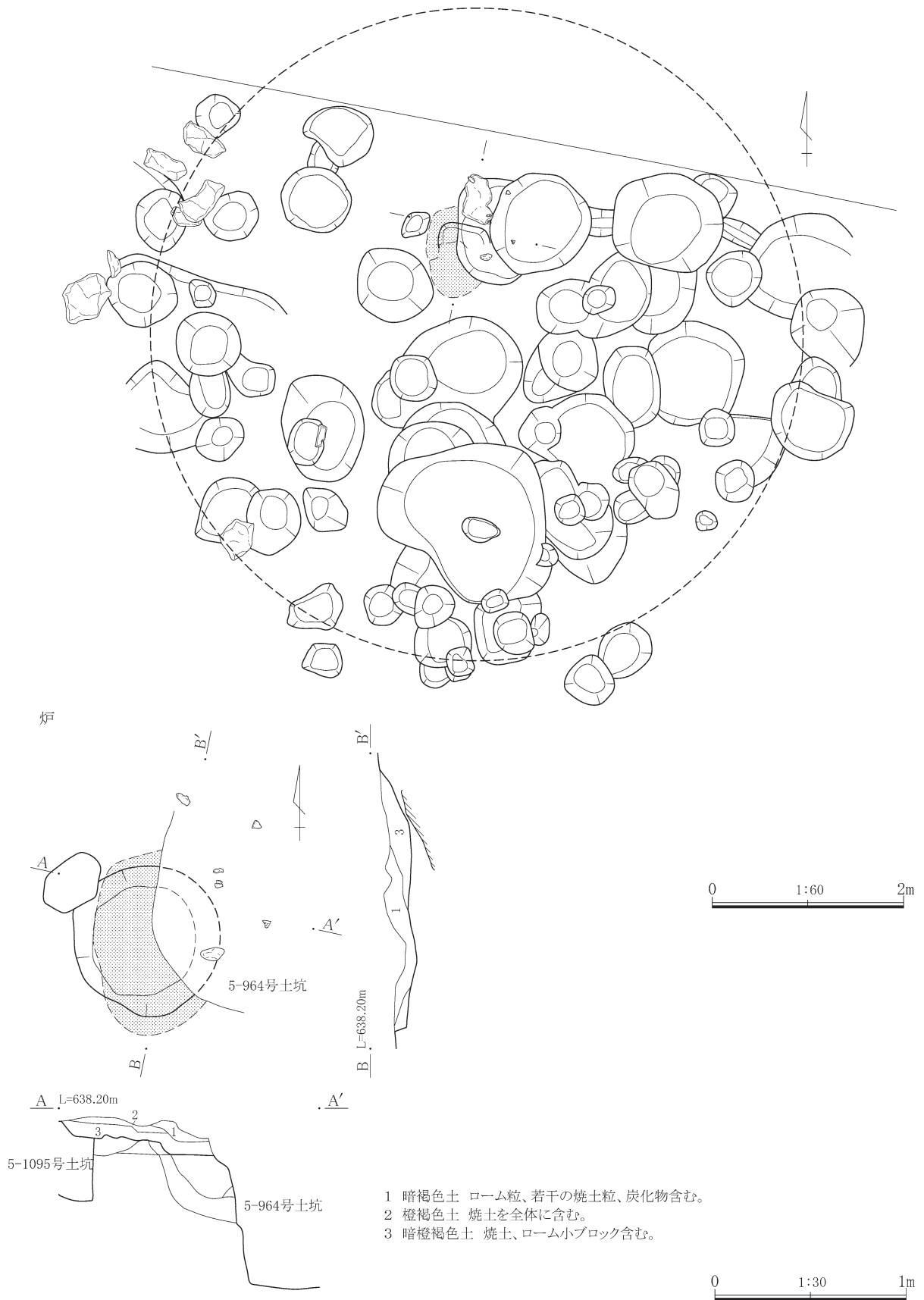
5-135号住居跡 (第332・333図：PL51・182)

位置 Q・R-16グリッドに位置する。 **重複** 東側に大きく5-112・133号住居跡さらには10基程の土坑が重複。 **形状** 円形か。 **規模** 推定径6.7m。 **方位** 不明。

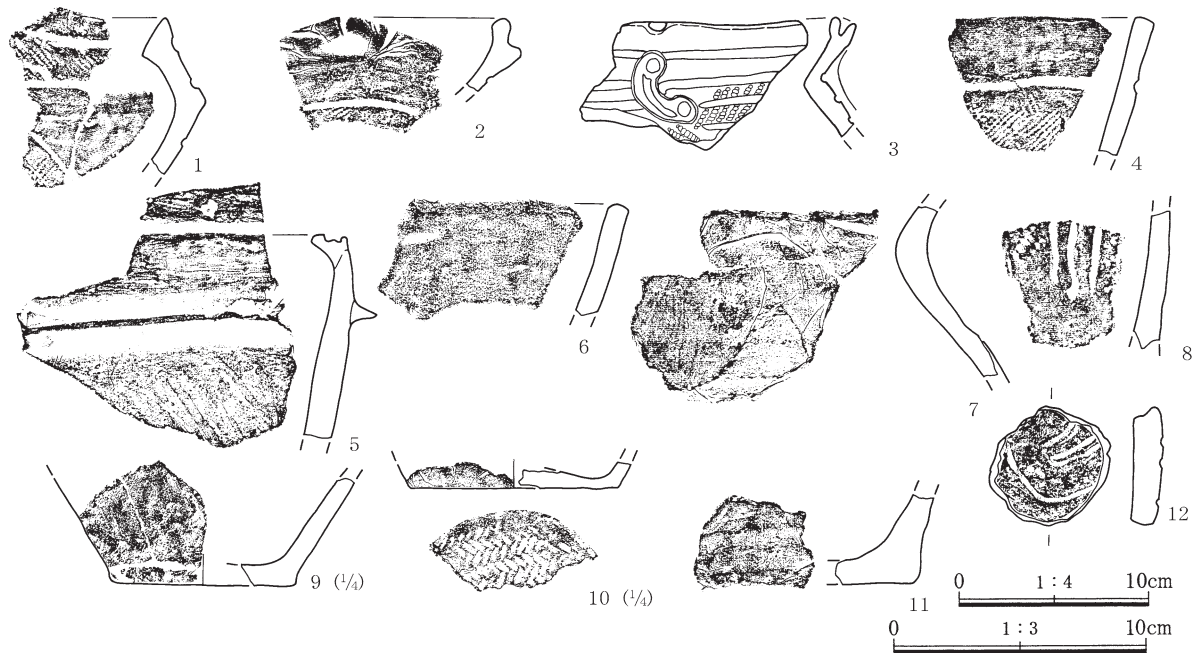
床面 生活面は確認されなかった。 **炉** 5-112号住居跡、5-964号土坑により部分的に壊されていた。やや不定形な焼土層の広がりが検出されている。5-964号土坑上層に出土した扁平な礫が炉石であった可能性もある。 **柱穴** 炉を取り巻いて多くの土坑やピットが存在するが、明確なものは確定できなかった。

埋甕 検出されなかった。 **掘方** 不明。 **出土遺物** 土器の小破片のみである。

時期・所見 重複が著しく極めて残りが悪い。炉と思われる焼土を確認したことから住居と判断した。遺存状態の極めて悪い住居である。時期は後期前半か。



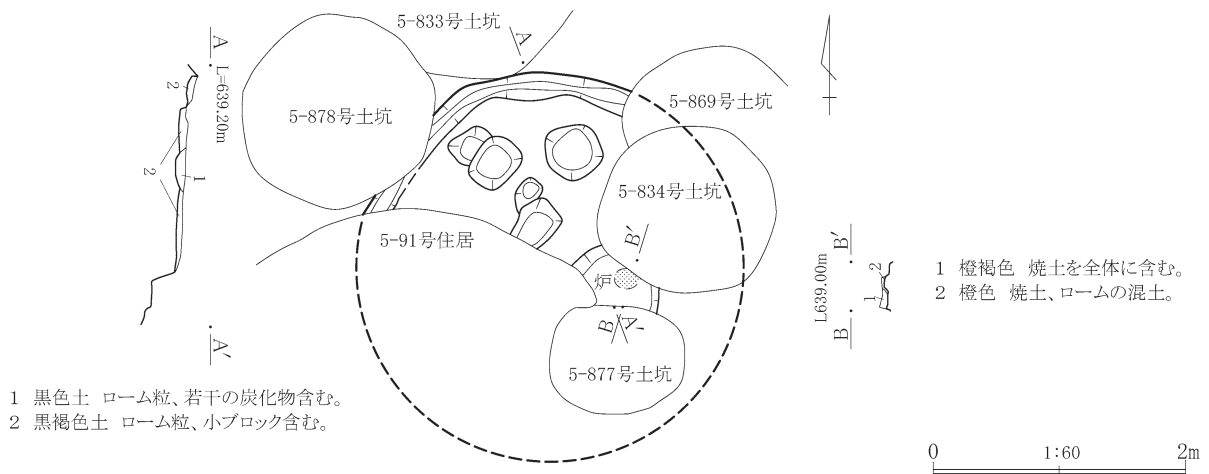
第332図 5-135号住居跡



第333図 5-135号住居跡出土遺物

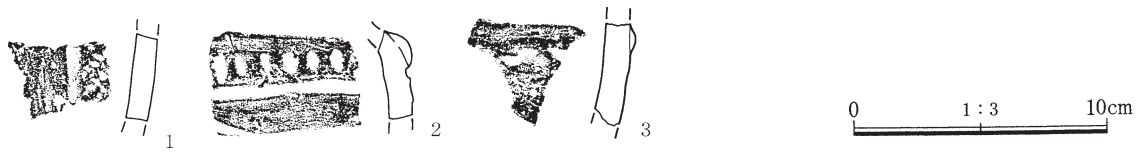
5-136号住居跡 (第334・335図：PL52・182)

位置 N-18グリッドに位置する。 **重複** 南側を5-91・95号住居跡に切られ、5-84号住居跡が上に作られる。 **形状** 円形か。 **規模** 推定径(3.5)m。 **方位** -
床面 一部分のみ検出、北西部分に周溝を検出、床はやや凹凸を持つ。 **炉** 僅かに残骸が中央やや南東寄りに検出された、炉石等は見られず落ち込みと下面に若干の焼土が残る。 **柱穴** 1本のみ検出。 **埋甕** 検出されない。 **掘方** 貼り床等は見られず。 **出土遺物** 土器片が僅かに3点のみである。
時期・所見 小型の住居である。後世の住居および土坑により大部分を壊されていた。遺構上部も削られており、北西側の約4分の1程が確認されたのみである。時期は中期後半か。



- 1 黒色土 ローム粒、若干の炭化物含む。
- 2 黒褐色土 ローム粒、小ブロック含む。

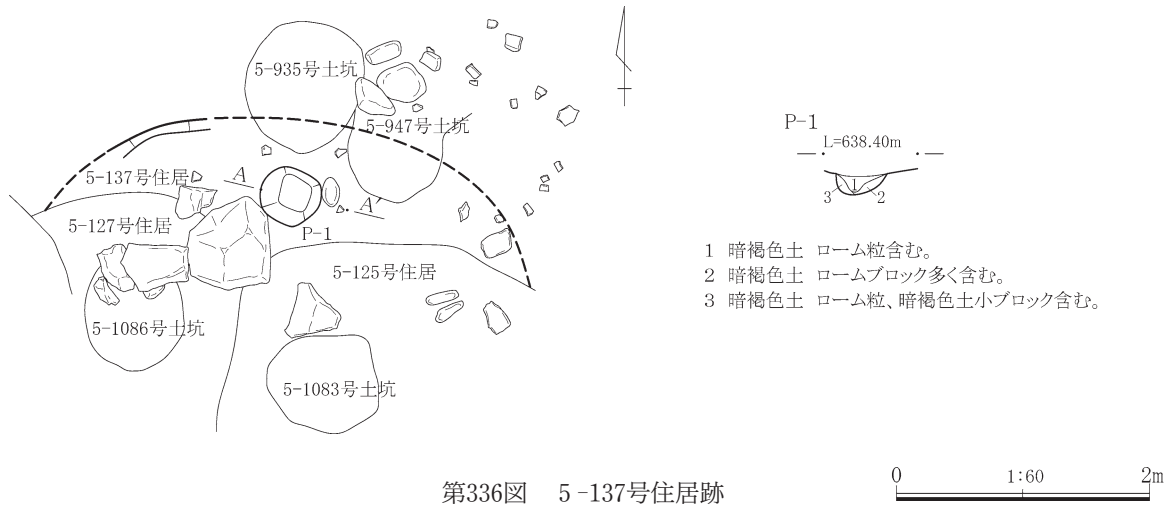
第334図 5-136号住居跡



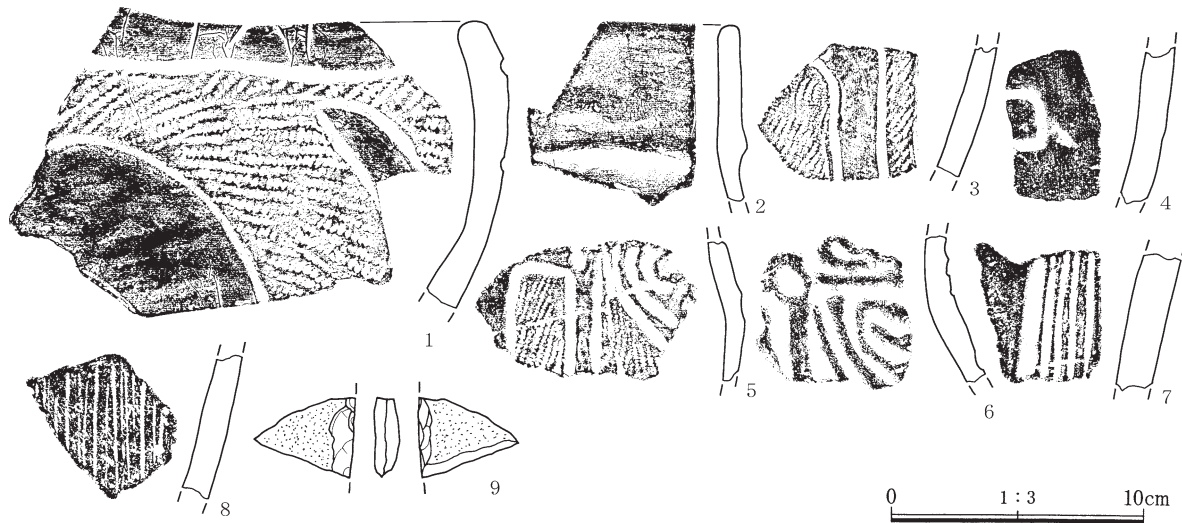
第335図 5-136号住居跡出土遺物

5-137号住居跡 (第336・337図：PL52・182)

位置 U・V-16グリッドに位置する。 **重複** 南側ほとんどを5-125・127号住居跡に壊されている。
形状 円形か。 **規模** 不明。 **方位** 不明。 **床面** 検出された範囲ではあまり締まりは見られず。
炉 検出されない。 **柱穴** 1本が検出されている。 **埋甕** 検出されない。 **掘方** 不明。
出土遺物 若干の土器片、石片が出土している。
時期・所見 部分的に残る住居で全容は不明である。残った扇形部分のみ調査した。時期は出土土器から後期初頭か。



- 1 暗褐色土 ローム粒含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック多く含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒、暗褐色土小ブロック含む。



第337図 5-137号住居跡出土遺物

5-138号住居跡 (第338・339図：PL52・182)

位置 S・T-15・16グリッドに位置する。**重複** 東側で5-133・139号土坑とさらに数基の土坑が重複する。**形状** 円形と思われる。**規模** 推定径5.6m。**方位** 不明。

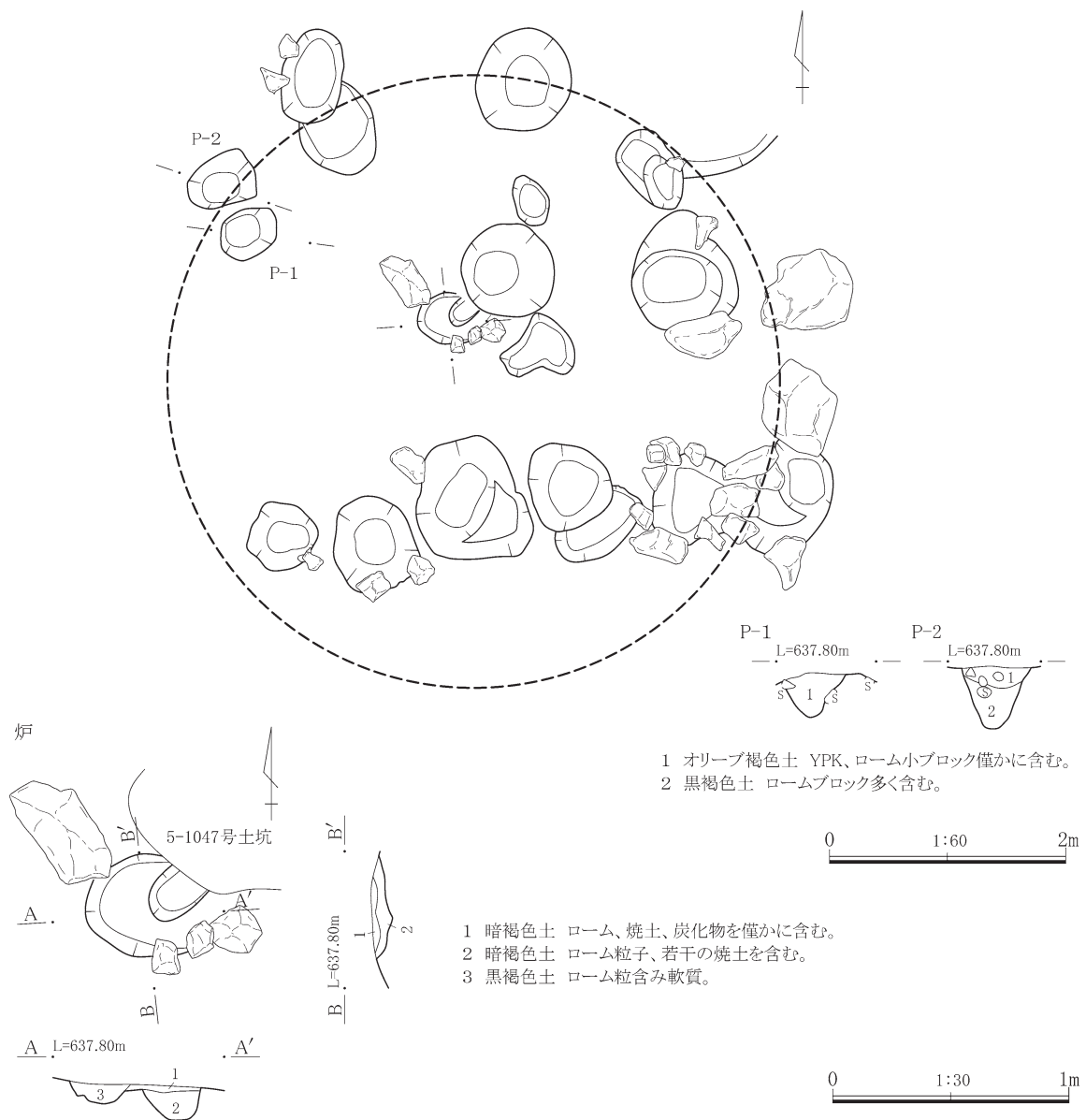
床面 重複による攪乱が顕著で、生活面は確認できなかった。

炉 ほぼ中央に作られているものと考えられる。脇に礫を伴った径60cmほどの落ち込みと焼土が検出されている。**柱穴** 推定円内に廻る6本または7本と思われる。

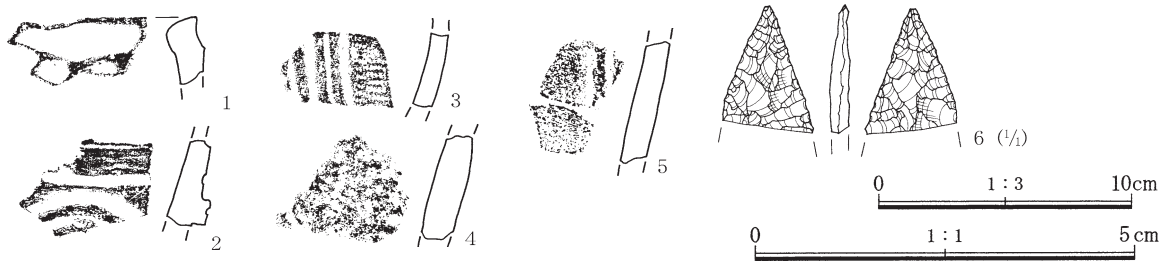
埋甕 検出されない。**掘方** 不明。

出土遺物 土器の小片および石器類が見られたがあまり多くはない。

時期・所見 壁の立ち上がりは確認できず、柱穴の位置および炉が確認されたことから住居跡と判断。時期は後期前半か。



第338図 5-138号住居跡



第339図 5-138号住居跡出土遺物

5-139号住居跡 (第319・340・341図：PL52・182・183)

位置 R・S-15・16グリッドに位置する。**重複** 北側に5-133号住居跡、西側には5-138号住居跡が重複する。5-131号住居跡にほぼ重なっている。また多くの土坑が住居内に掘り込まれている。

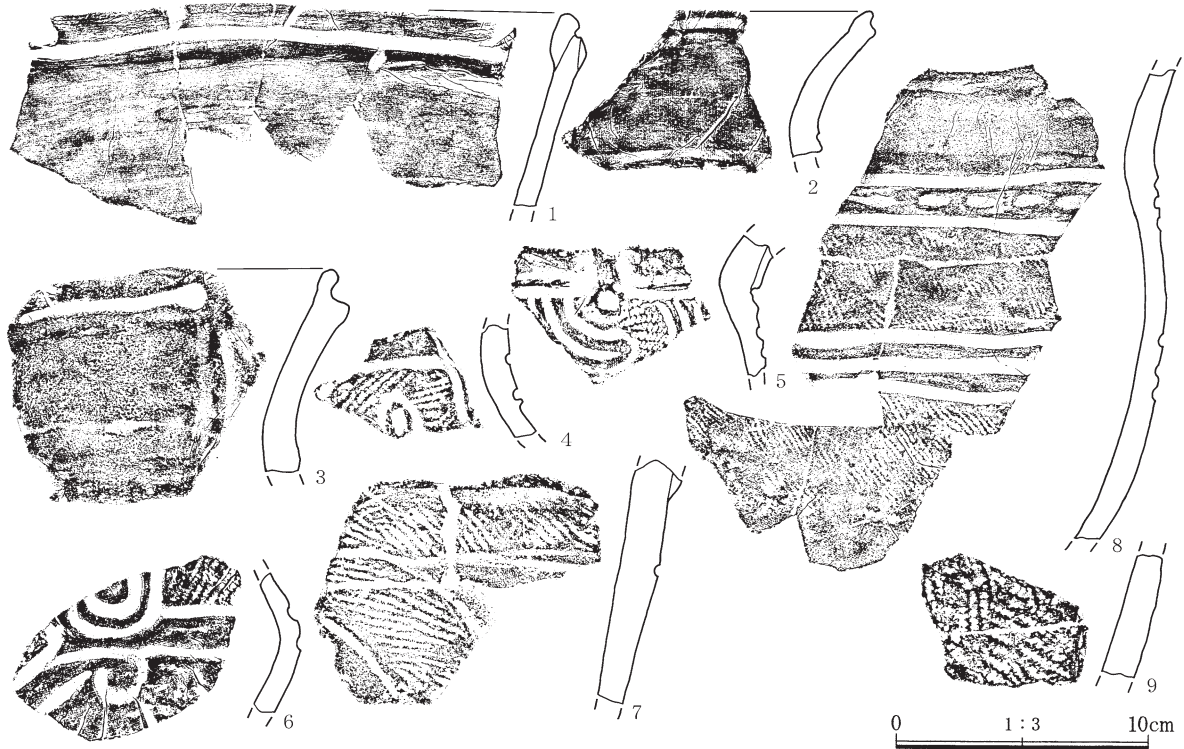
形状 円形と思われる。**規模** 推定径5.0m。**方位** 不明。**床面** 重複により全く検出できなかった。**炉** ほぼ中央と推定される位置に検出されたがほとんど壊されている状況で全容は不明である。

柱穴 6～8本と思われるが明確な対応関係は掴めなかった。

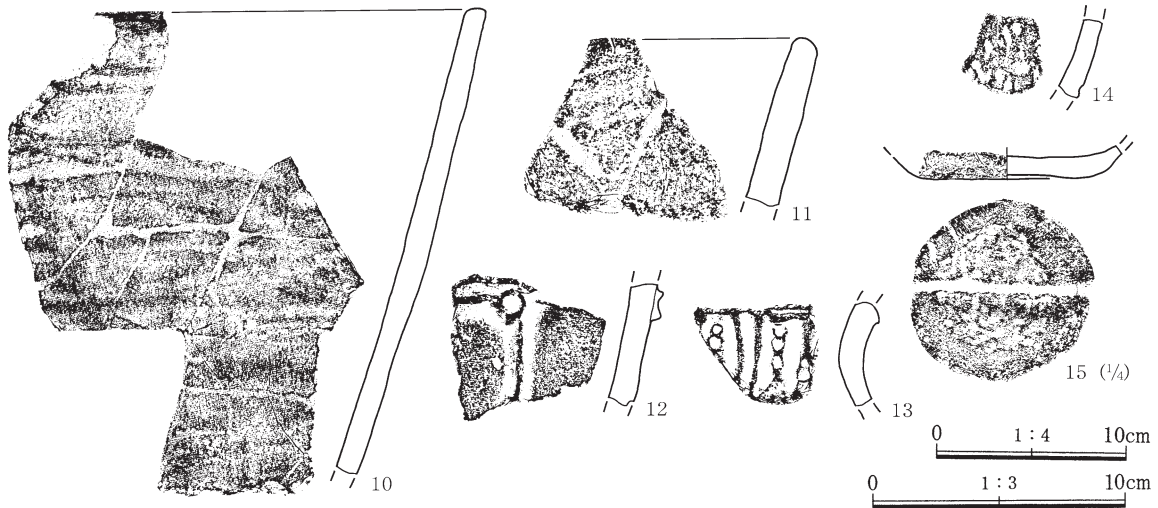
埋甕 検出されなかった。**掘方** 不明。

出土遺物 あまり多くはない。全域で若干の土器片が出土しているが破片のみである。石器は見られなかった。

時期・所見 他の住居や土坑によりかなり壊れた状況であった。炉の検出および柱穴と想定されるピットの配置から住居跡と判断した。時期は後期前半か。



第340図 5-139号住居跡出土遺物(1)



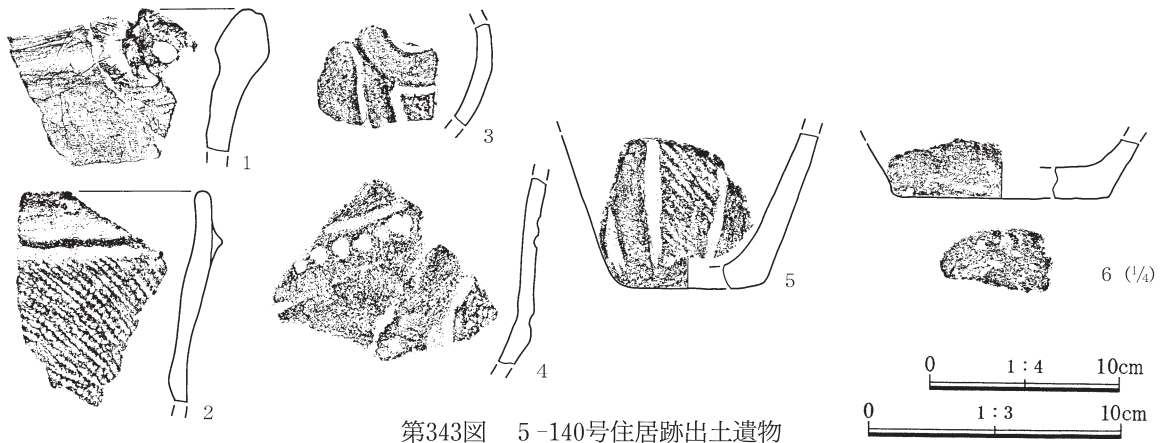
第341図 5-139号住居跡出土遺物(2)

5-140号住居跡 (第342・343図：PL52・183)

位置 T-14グリッドに位置する。**重複** 西側に5-134号住居跡が接している。**形状** やや矩形を呈すか。**規模** 260×(180)×10cm。**方位** 不明。**床面** 比較的平坦だが踏みしめは弱い。**炉** 検出されなかった。**柱穴** 検出されなかった。**埋甕** 検出されなかった。**掘方** 貼り床、床下土坑などは検出されない。**出土遺物** わずかに土器、石器が出土している。**時期・所見** 調査区南端部において弧状の落ち込みを確認したことから住居と判断した。柱穴は見られなかったが床面様の平坦面が存在することから住居跡とした。南側は平成6年度の調査区内で、5-156号配石(長野原一本松遺跡(1)2002)としたものが位置的には炉になる可能性があるが、判然としない。時期は後期か。



第342図 5-140号住居跡



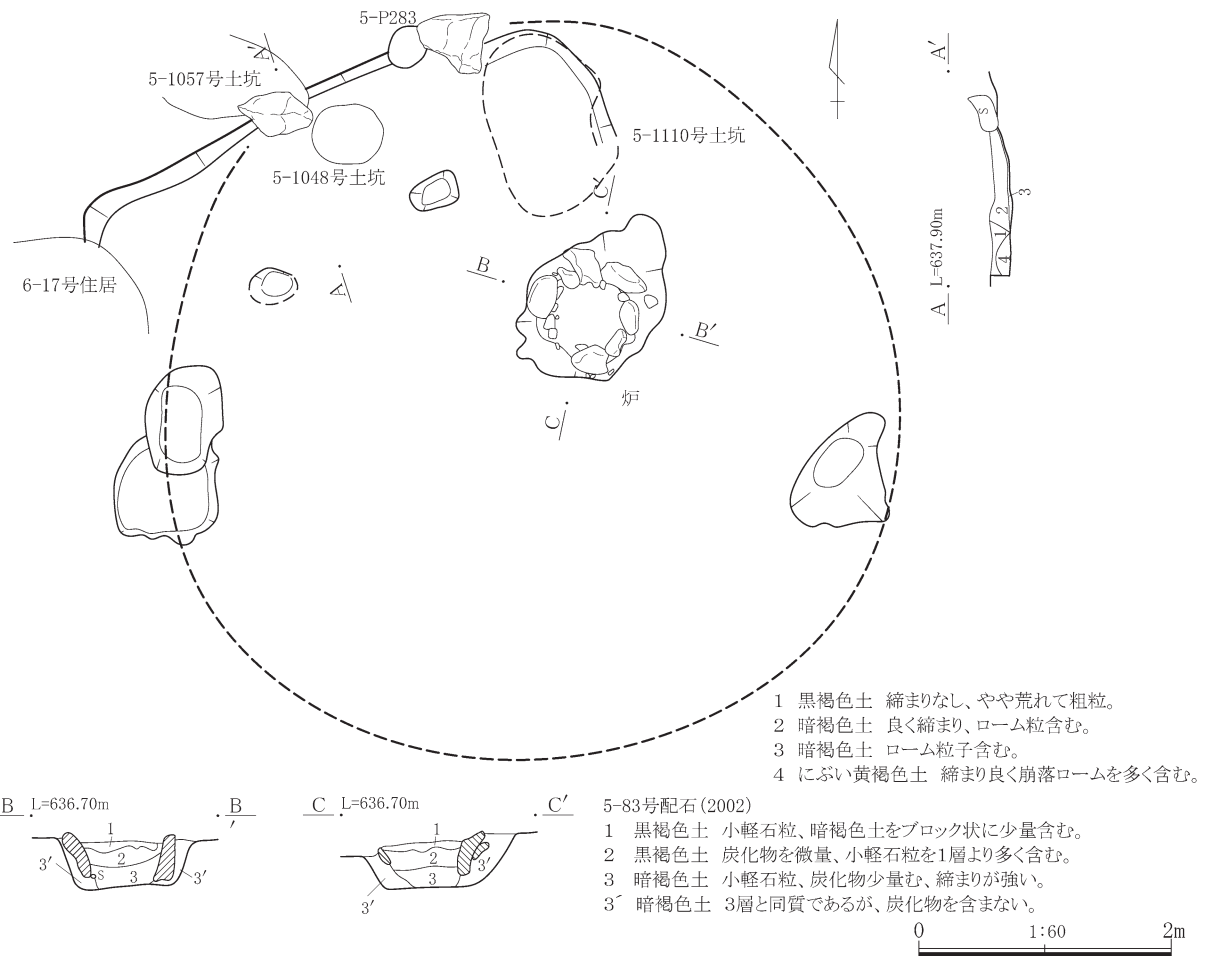
第343図 5-140号住居跡出土遺物

5-141号住居跡 (第344・345図: PL52・183)

位置 Y・X-12・13グリッドに位置する。**重複** 調査区の南端に検出。西側が6-17号住居跡と接し、東部分に本址を切って5-1110号土坑が重複する。

形状 円形か。**規模** 推定径6.0m。**方位** -

床面 検出した部分については平坦で、比較的締まりがある。



第344図 5-141号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物

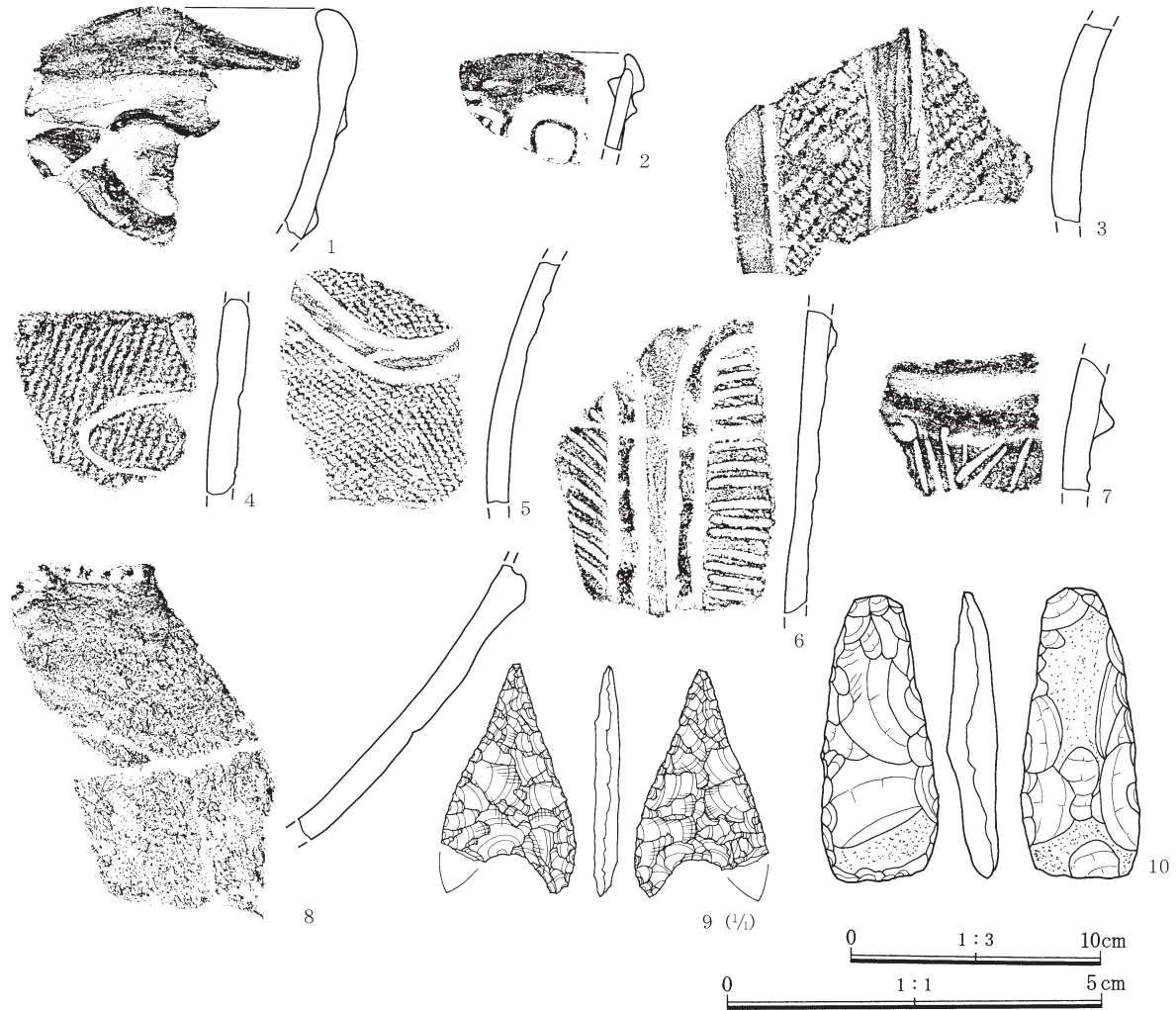
炉 今次の調査区の南側、平成6・7年度調査で検出されている円形に礫を配した5-83号配石（長野原一本松遺跡（1）2002）が炉になる可能性が高い。

柱穴 奥壁に1本、西に5-1049号土坑とした1本を検出。さらに南側の平成6・7年度の調査区において検出された5-71号配石の掘り込みが相当するものと見られる。

埋甕 検出されない。 **掘方** 無し。

出土遺物 若干の土器片と石器が出土している。石器は石鏃と打製石斧の2点のみである。

時期・所見 検出したのは北側の僅かな弧状部分のみである。時期は中期後半か。



第345図 5-141号住居跡出土遺物

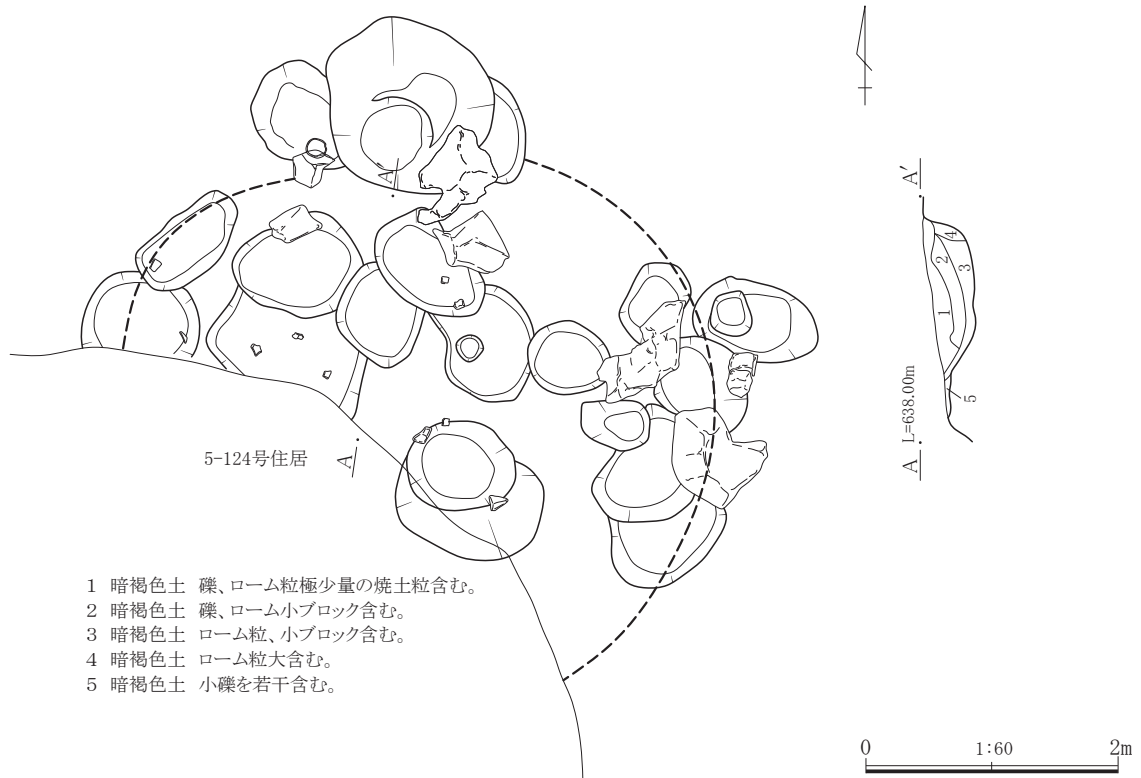
5-142号住居跡（第346・347図：PL53・183）

位置 V-15グリッドに位置する。 **重複** 南側を5-124号住居跡に切られている。さらに数基の土坑が重複しており極めて状態が悪い。 **形状** 円形を呈すものと思われる。 **規模** 推定径4.6m。 **方位** 不明。 **床面** 大部分が削平されており、生活面は確認できなかった。 **炉** 検出されなかったが炉が推定される位置に検出された5-1080号土坑とした掘り込み埋土中に若干の焼土を認めた。

柱穴 明確なものは検出されなかった。 **埋甕** 検出されなかった。 **掘方** 不明。

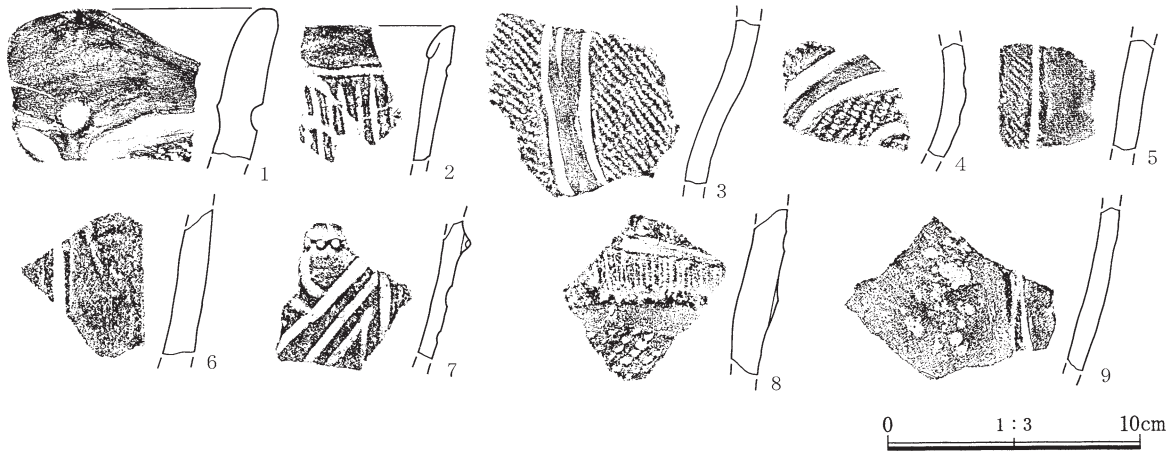
出土遺物 ごく少量の土器片が出土。石器は見られなかった。

時期・所見 半円形に落ち込んだ部分と若干の遺物を認めたことから住居としたが、明確な炉も見られなかったことからやや疑問も残る。時期は中期後半か。



- 1 暗褐色土 礫、ローム粒極少量の焼土粒含む。
- 2 暗褐色土 礫、ローム小ブロック含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒、小ブロック含む。
- 4 暗褐色土 ローム粒大含む。
- 5 暗褐色土 小礫を若干含む。

第346図 5-142号住居跡

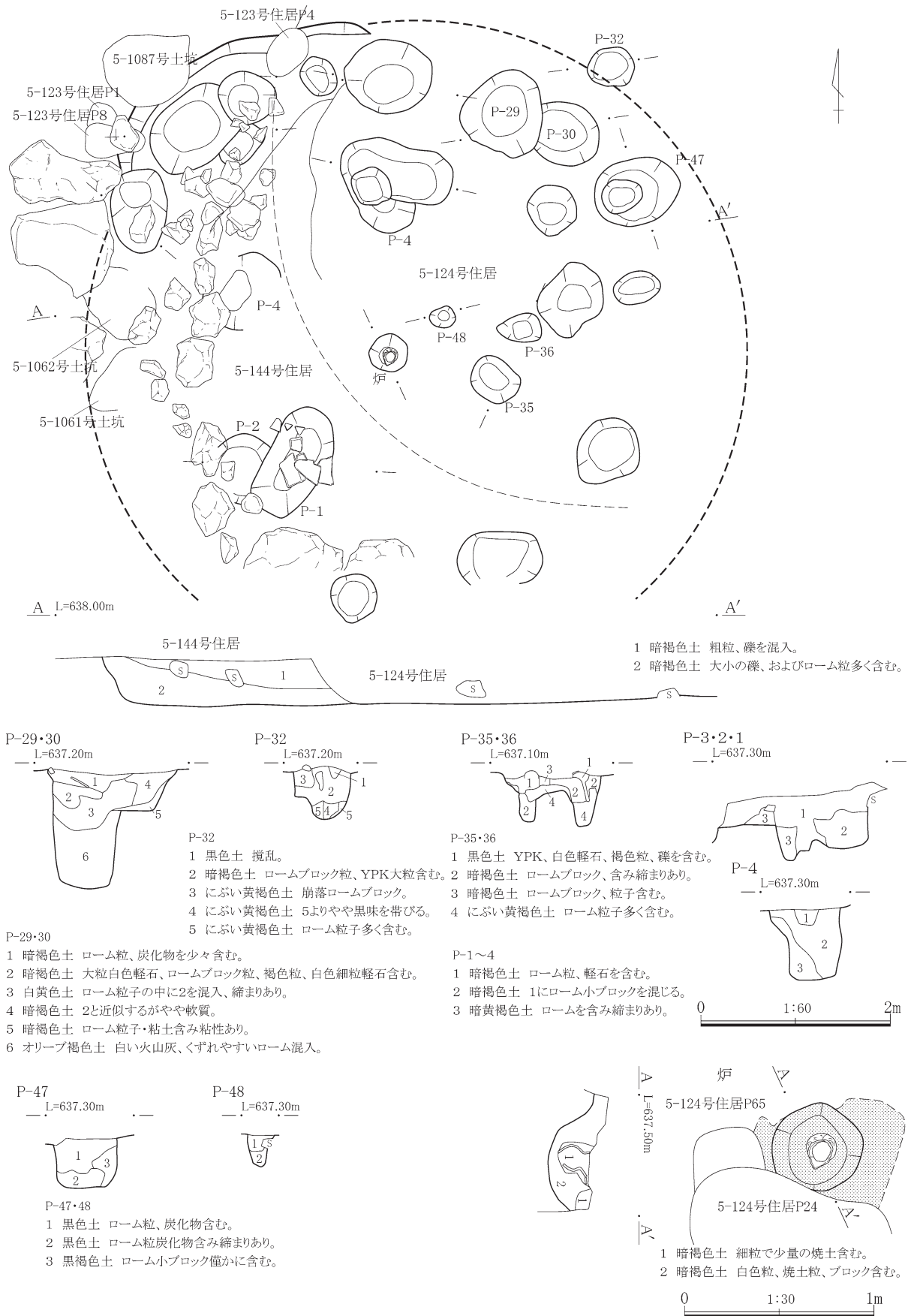


第347図 5-142号住居跡出土遺物

5-144号住居跡 (第348～352図：PL53・184・185)

位置 W・X-13・14グリッドに位置する。重複 東側を5-124号住居跡に大きく壊されている。また、5-126号住居跡を大きく切っている。形状 柄鏡形の敷石住居か。規模 推定径6.0m。方位 不明。床面 部分的に平坦な石が敷かれている。その他部分的には平坦面を検出したが踏みしめられた様

第3章 検出された遺構と遺物



第348図 5-144号住居跡

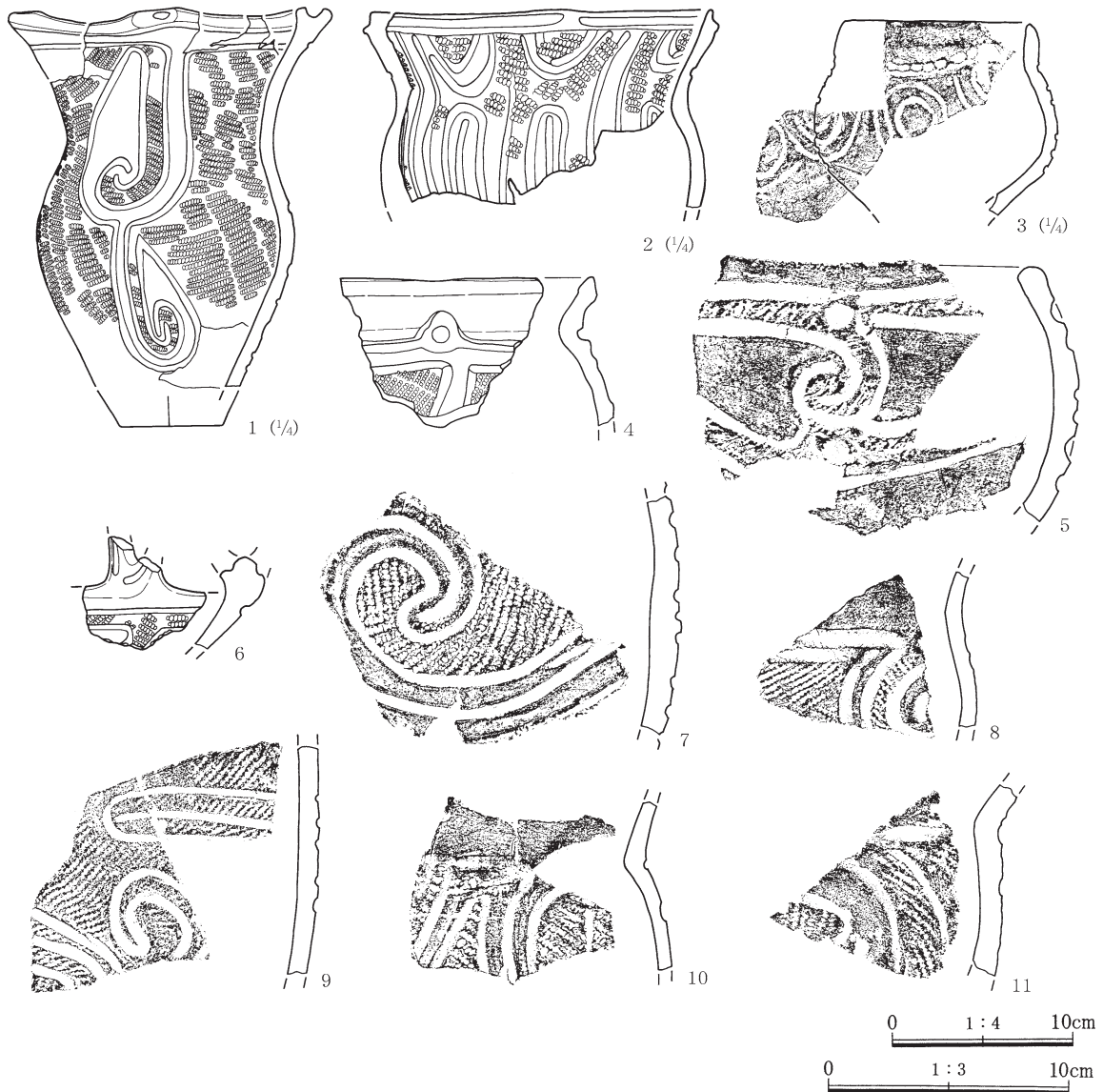
子は見られない。 炉 推定される住居範囲のほぼ中央部から焼土を伴う埋設土器を検出、炉と考えられる。5-124号住居構築時に上部を削られたものと思われる。

柱穴 西側壁に沿って4本を確認、東側は5-124号住居内に位置する5基ほどが本址の柱穴と判断される。

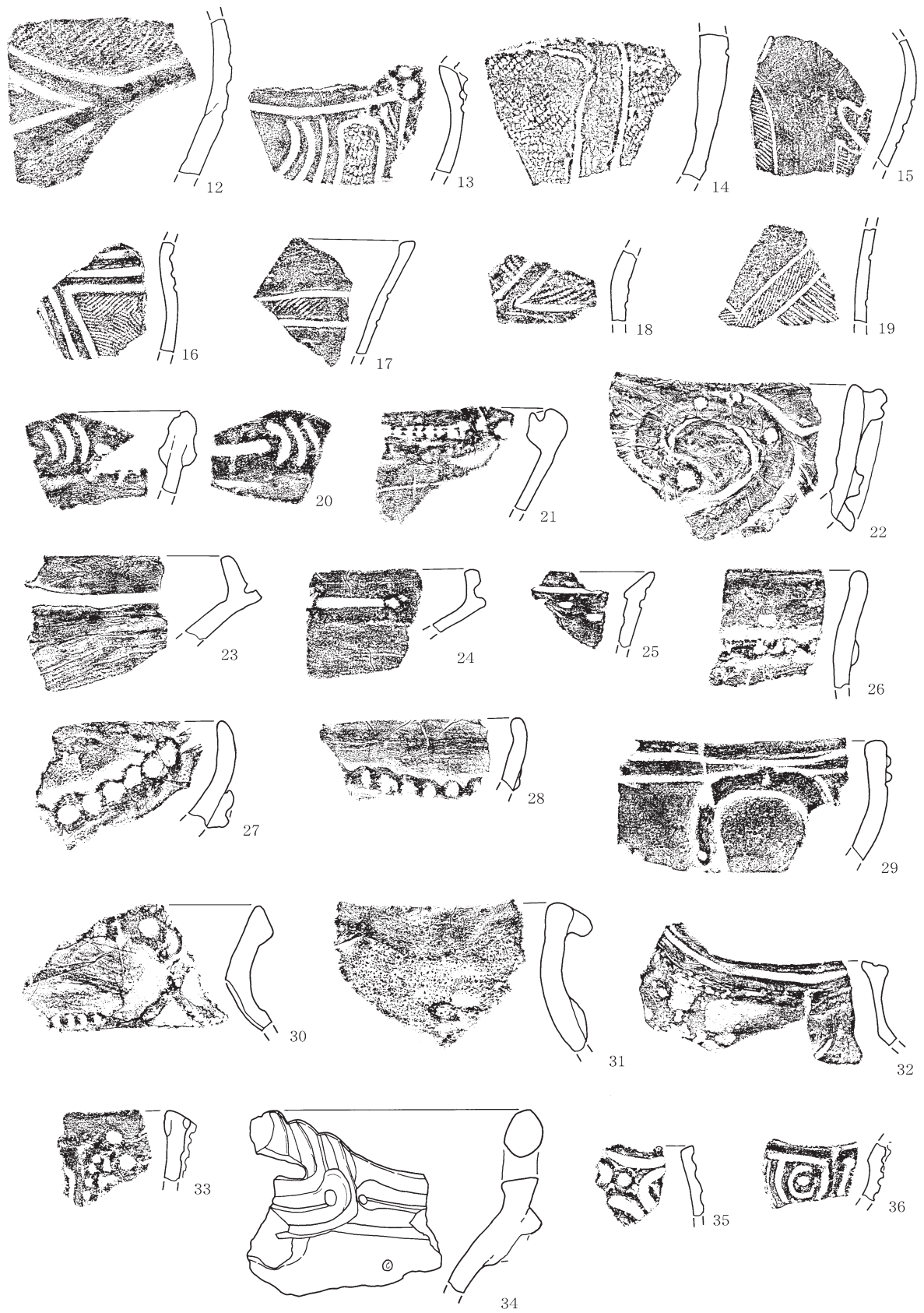
埋甕 検出されなかった。 掘方 入り口部に比較的大型の土坑が検出されているが本址に帰属するものかどうかは不明。

出土遺物 1は炉の埋設土器である。あまり大きな土器片は見られなかった。注目されるものとしては、白色顔料を塗彩された土製腕輪片54がある。石器に関しては磨石類が出土しているが点数は少ない。

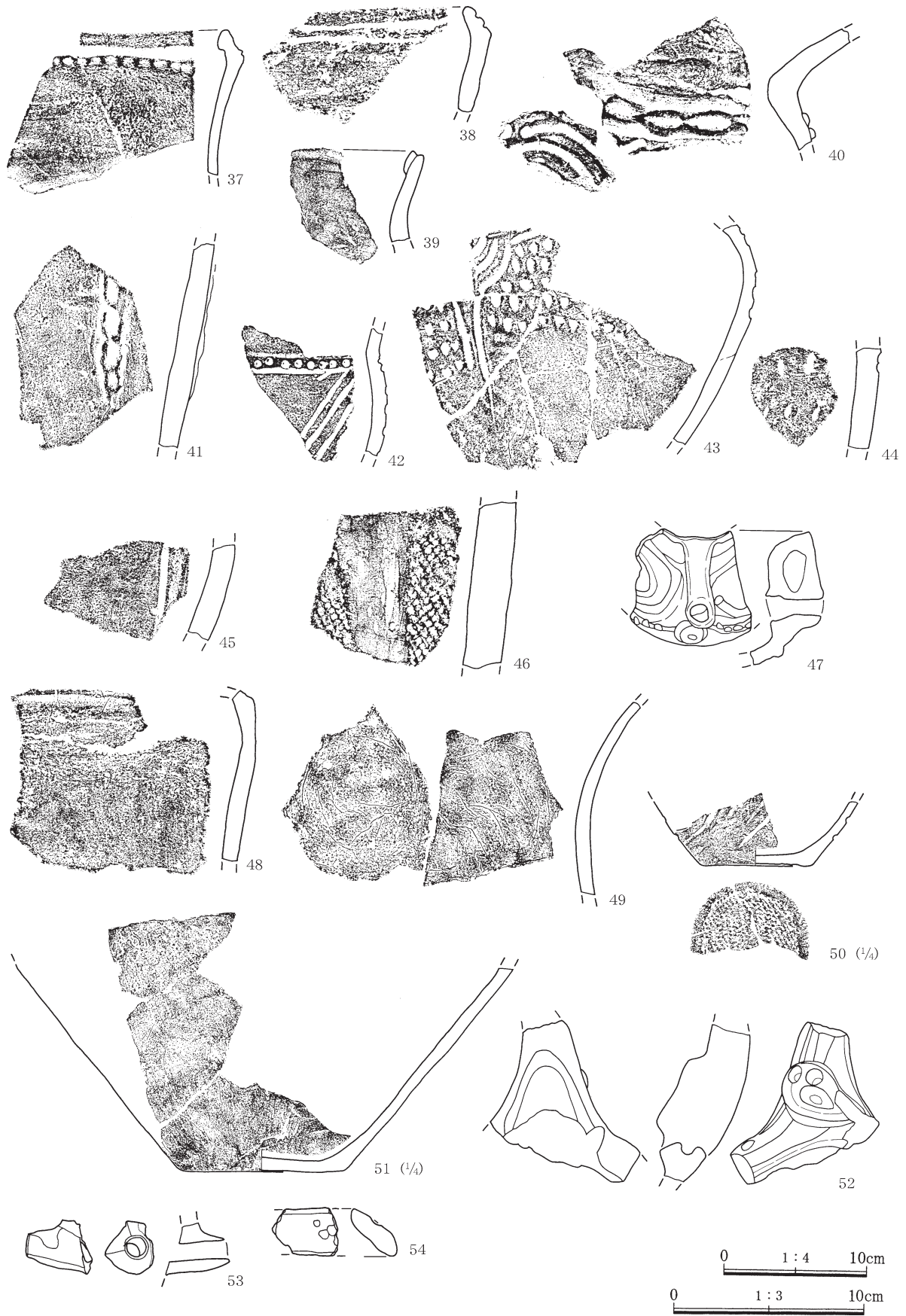
時期・所見 壁に沿って比較的大型の礫が弧状に配列されている。東側は5-124号住居跡に大きく切られているため遺存状態は悪い。検出された範囲は西側の極僅かであるが、5-124号住居の前出として極めて似た構造であったと推定される。西壁に沿って弧状に礫が廻る。時期は炉体土器から後期初頭である。



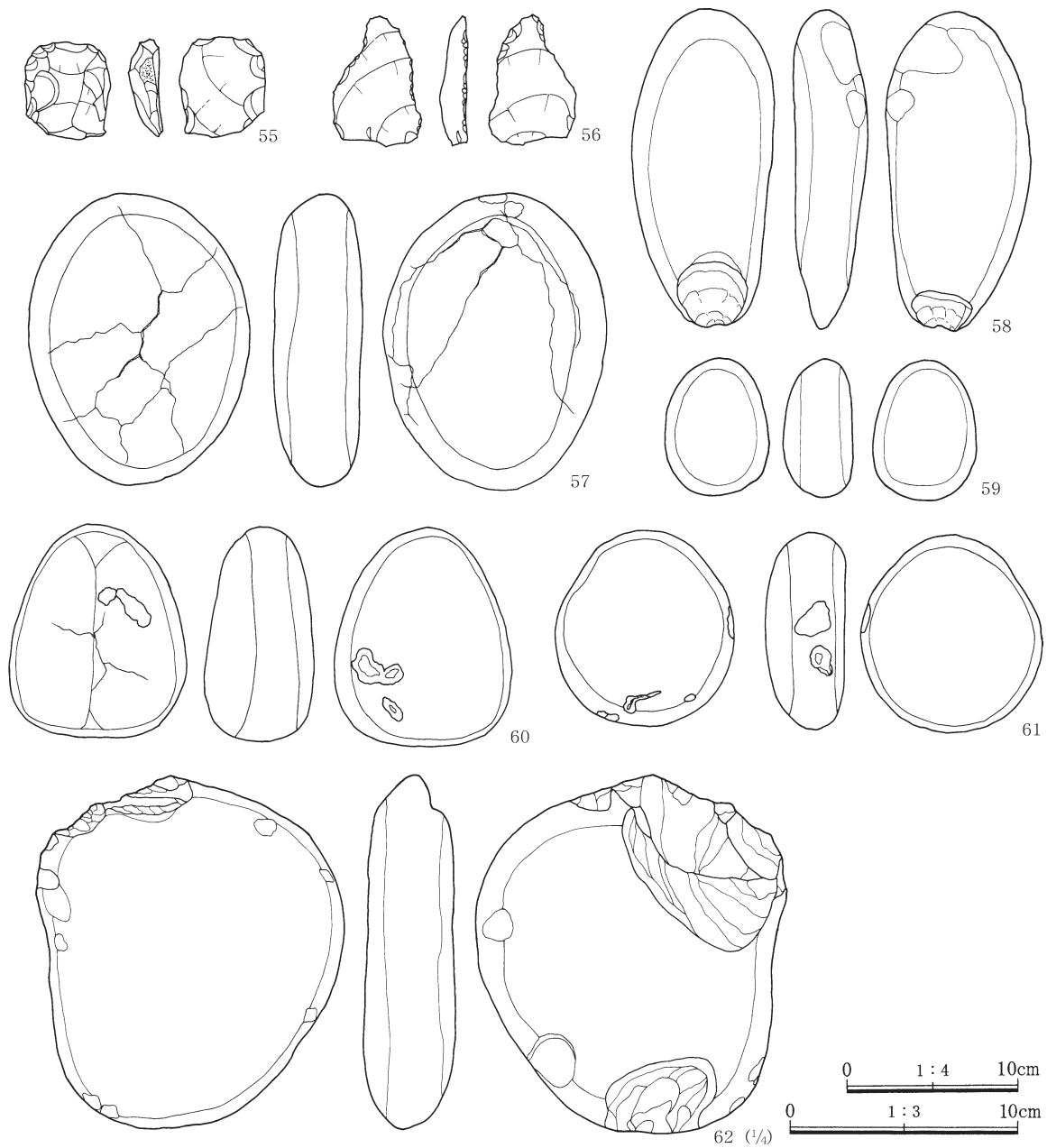
第349図 5-144号住居跡出土遺物(1)



第350図 5-144号住居跡出土遺物(2)



第351図 5-14号住居跡出土遺物(3)



第352図 5-144号住居跡出土遺物(4)

5-145号住居跡 (第353・354図：PL53・185)

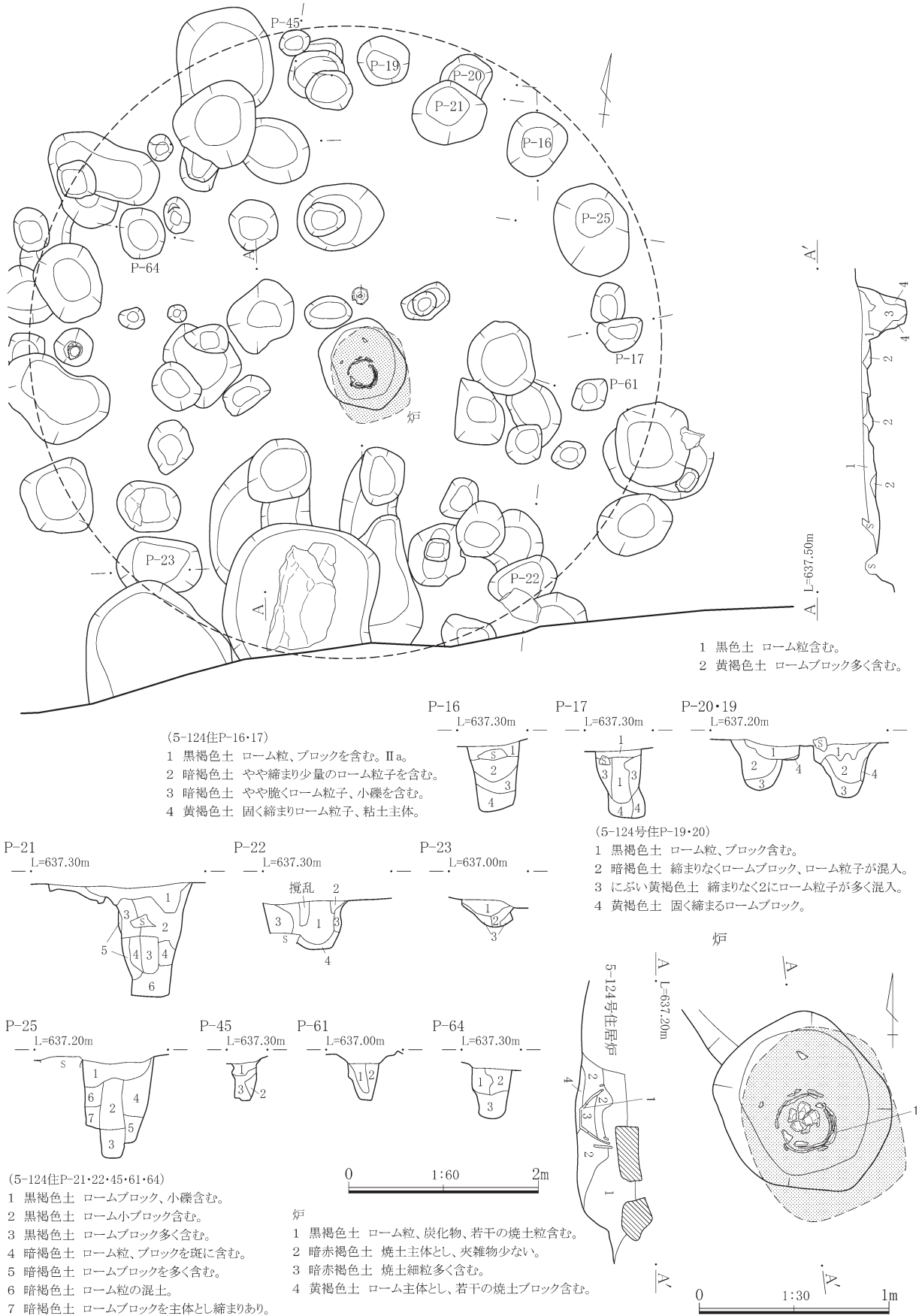
位置 V・W-13・14グリッドに位置する。 **重複** 5-124号住居跡の中に収まる形で検出された。5-124号住居跡の拡張前の住居と考えられる。 **形状** 柄鏡形と思われる。

規模 600×(650)×-cm。 **方位** N-0° **床面** 敷石等は確認されず、凹凸があり、明確な面としては確認できなかった。

炉 5-124号住居の炉を調査している時点で、手前に古い埋設土器を伴う炉が検出されたことから、本址の確認に至った。炉は浅い落ち込みと焼土、深鉢の胴部を利用した埋設土器を検出した。

柱穴 外縁に沿って掘り込まれた10数基を確認した。 **埋壺** 検出されなかった。

掘方 張り出し部分に1mを越える巨礫が落ち込んだ土坑が検出されている。

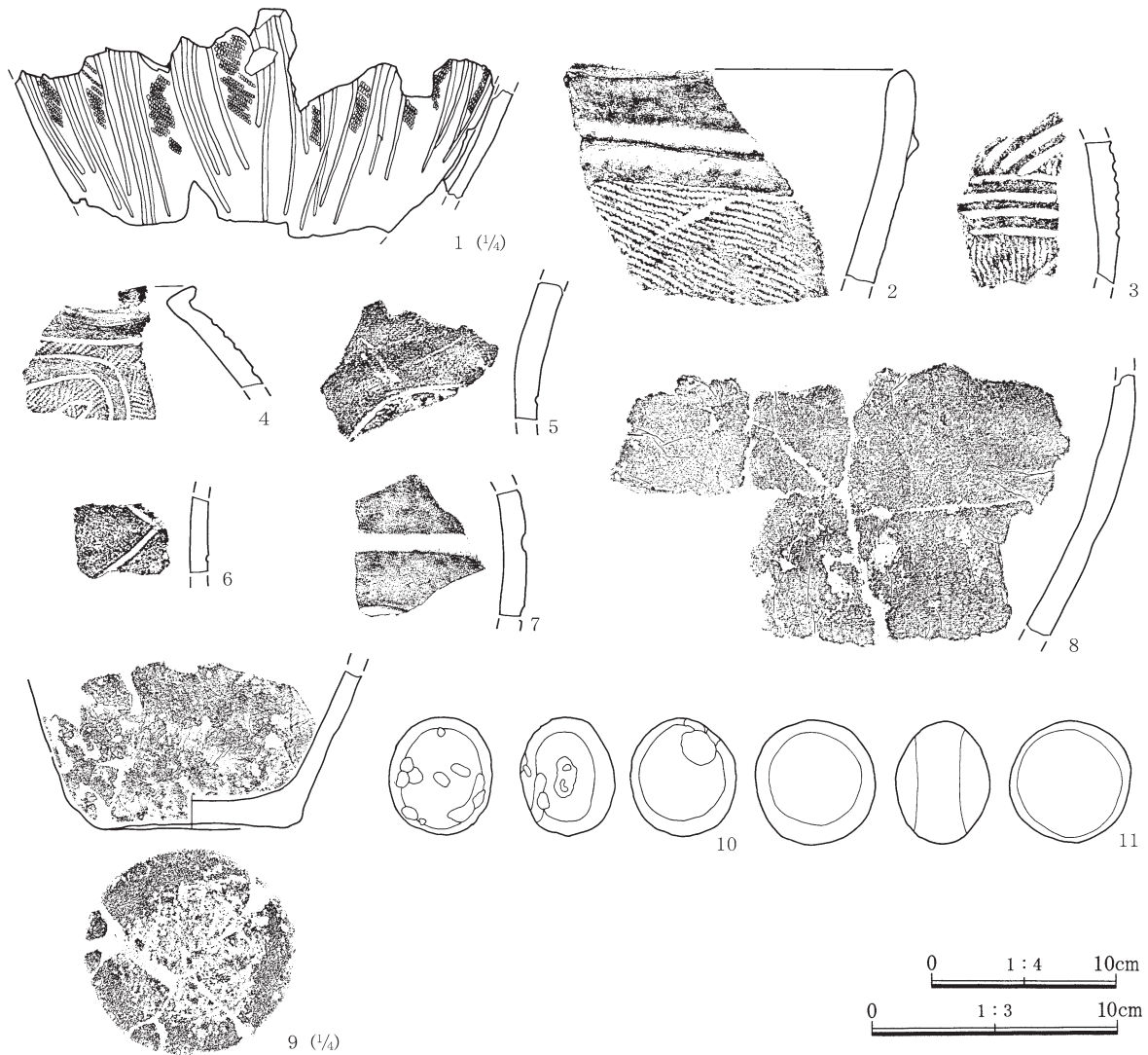


第353図 5-145号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物

出土遺物 5-124号住居の下位にありほとんどを削平された状況であった。このため本址に帰属すると判断された遺物は少ない。炉の埋設土器1の他は小片である。石器も小型の磨石2点のみである。

時期・所見 5-124号住居跡の中に入れ子状態で確認されており。拡張前の住居と判断される。炉は主体部中央やや南寄りに検出された。掘り込みに伴った埋設土器と周囲に焼土が見られる。形状は5-124号住居跡に近似していたものと思われるが、規模はやや小さかったと判断される。重複というよりは拡張と捉えることができる。時期は埋設土器から後期前半、堀之内1式期と判断される。



第354図 5-145号住居跡出土遺物

6-10号住居跡 (第355~358図: PL54・186)

位置 B・C-12・13グリッド、6区調査区の南西隅に位置する。 **重複** 無し。 **形状** 柄鏡形住居 **規模** (380)×335×15cm。 **方位** N-17°-W **床面** 部分的な敷石住居である。炉から張り出し部に向かって平石が敷かれている。張り出し部には両側に大振りの礫が据えられており、南側は一部壊されているものと思われる。 **炉** 主体部のほぼ中央に作られている。確認時、周辺及び内部に寄せ集められた状態でやや大型の礫が検出されており、住居廃棄時に炉を埋めるような行為が行われた可能性を示唆している。 **柱穴** 北側の壁際に3本、南側の張り出し部との境に横に並んで5本を検出した。深さは20~30cmでP-3を除き径は30~40cmである。 **埋甕** 検出されなかった。 **掘方** 炉の右脇に径約90cm、深さ15cm程の土坑が検出されたが用途等は不明である。

出土遺物 小破片のみである。石器は打製石斧および礫器である。

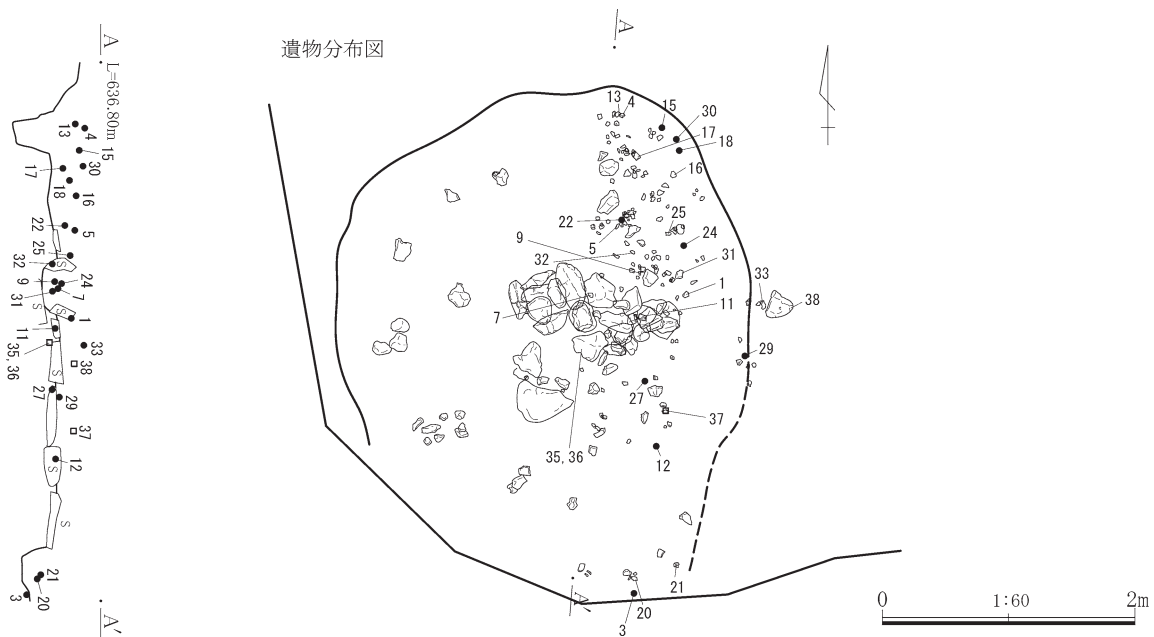
時期・所見 平成12年度に西側の半分を調査しており今次の調査で全容が明らかとなった。敷石は炉から張り出し部に向かって1列に敷かれており、主体部との境に置かれた両側の礫が目される。

6-15号住居跡 (第359・360図: PL55・186)

位置 A・B-17・18グリッドに位置する。 **重複** 西側は平12年度に調査を実施、炉の右脇に近世と思われる長方形の土坑が重複する。 **形状** 小型円形を呈す。 **規模** (350)×(350)×20cm。

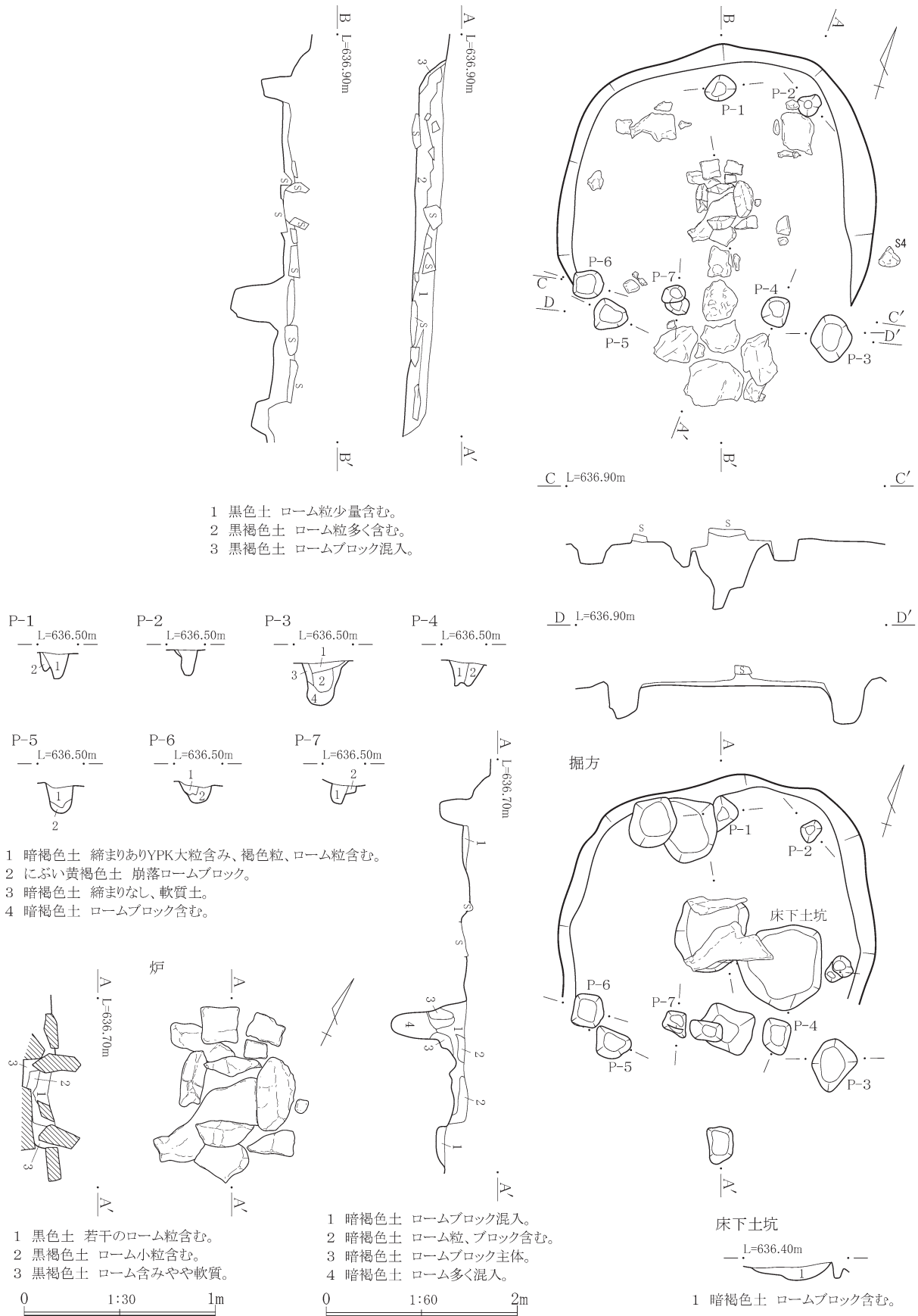
方位 — **床面** やや凹凸があり僅かに南に傾斜を持つ、比較的締まりが見られる。 **炉** ほぼ中央に径50cmで深さ20cm程に掘り下げた地床炉である。北西部分が後世の掘り込みにより、一部壊されている。 **柱穴** 壁際に径15~20cmの小ピットが数基検出される。 **埋甕** 検出されなかった。 **掘方** 貼り床や土坑等は見られない。 **出土遺物** 数片の土器と打製石斧が1点である。

時期・所見 西側半分は平成12年度に土坑として調査。今次の調査で炉が検出されたことから住居とした。壁は北側が残るが、南に関しては削平されている。小型の住居で出土遺物は少ない、時期は中期後半か。

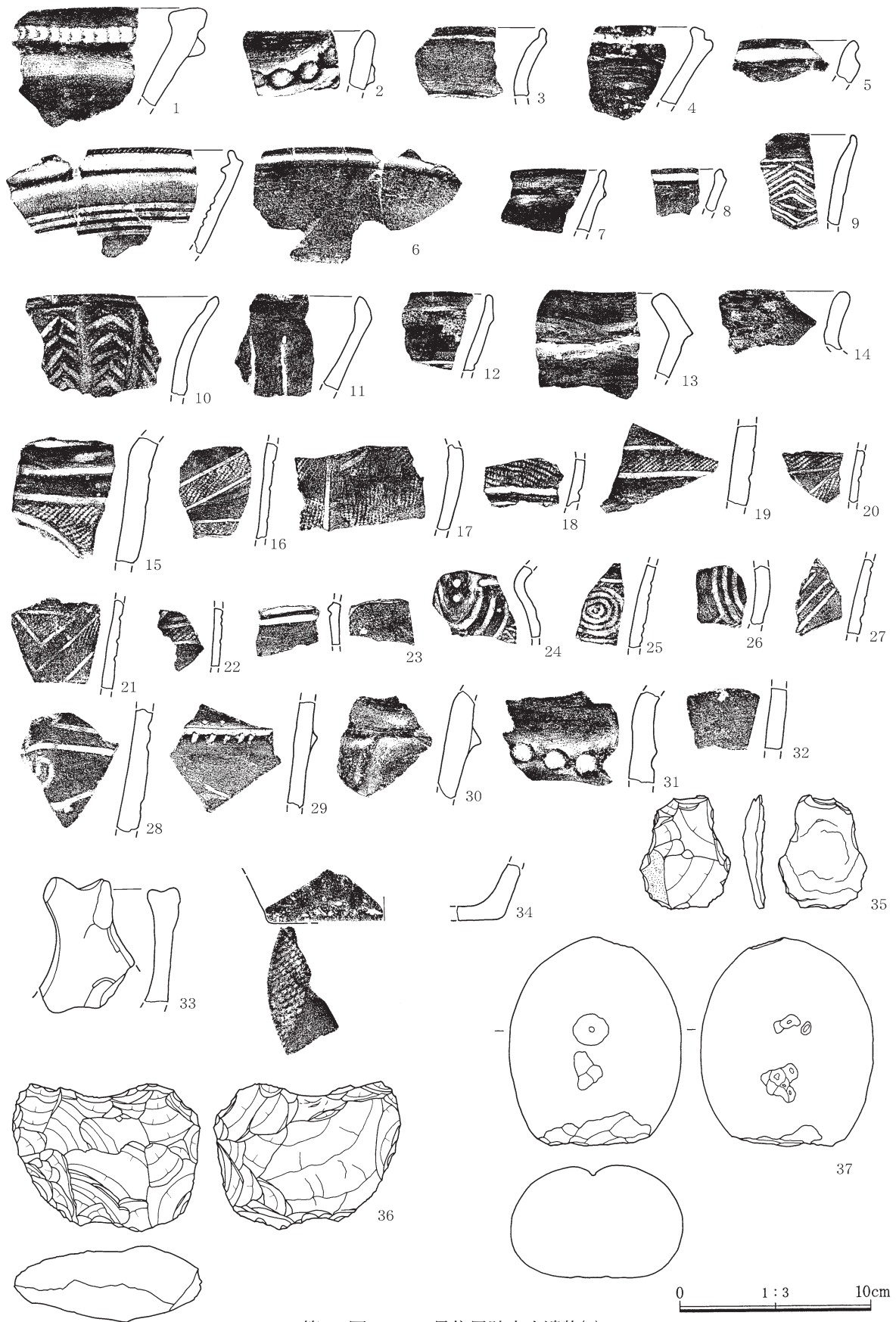


第355図 6-10号住居跡(1)

第3章 検出された遺構と遺物

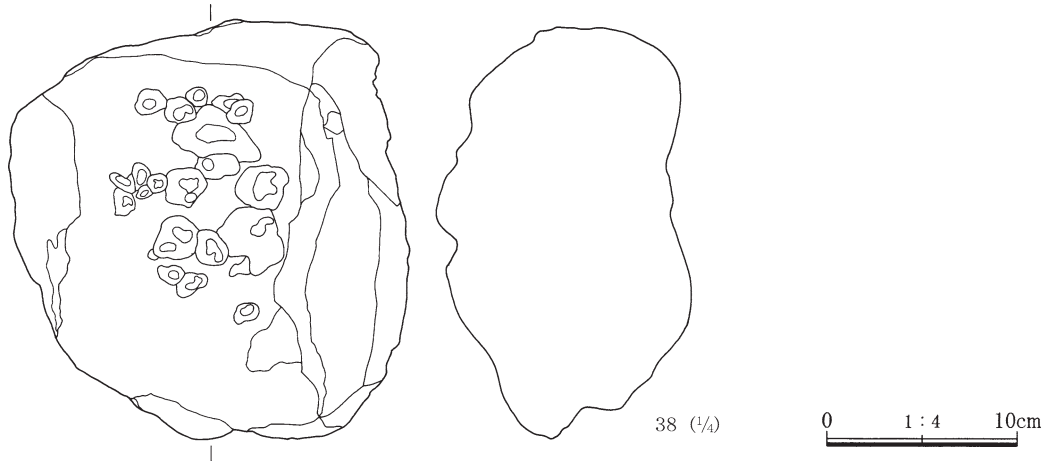


第356図 6-10号住居跡(2)

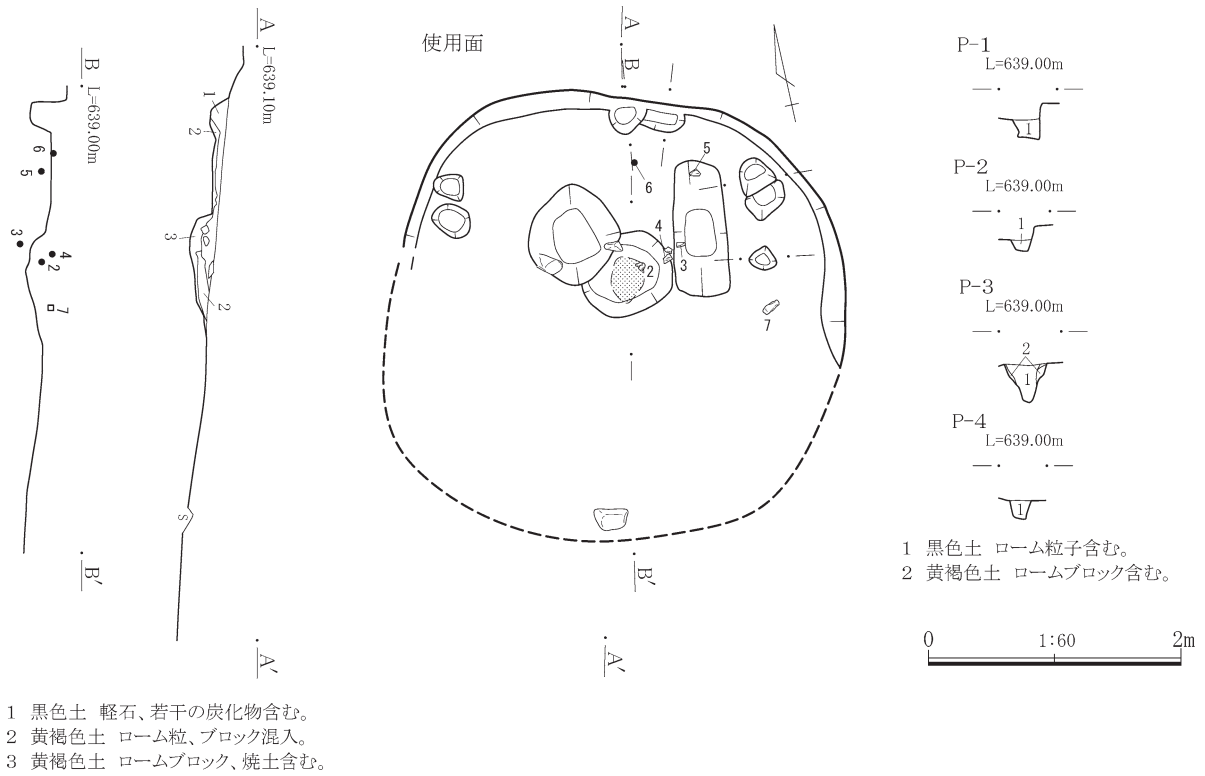


第357図 6-10号住居跡出土遺物(1)

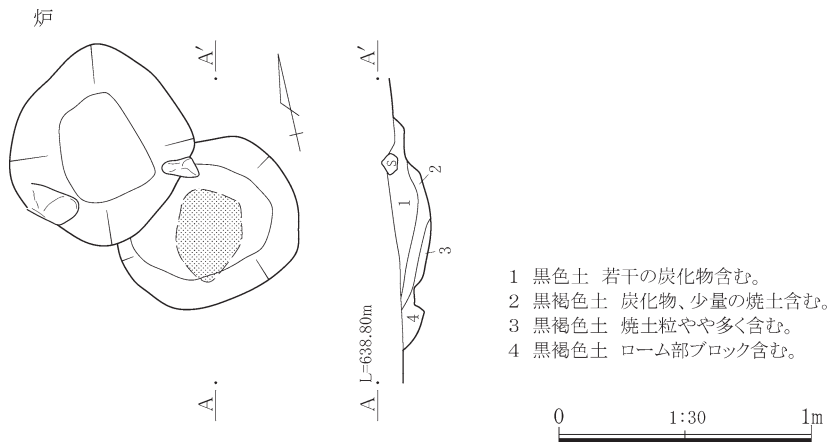
第3章 検出された遺構と遺物



第358図 6-10号住居跡出土遺物(2)

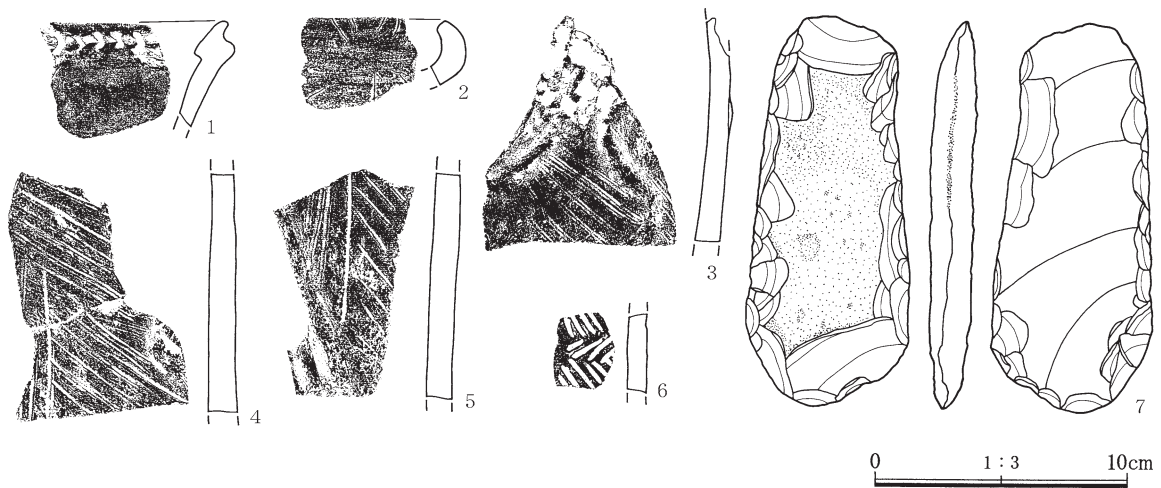


- 1 黒色土 軽石、若干の炭化物含む。
- 2 黄褐色土 ローム粒、ブロック混入。
- 3 黄褐色土 ロームブロック、焼土含む。



- 1 黒色土 若干の炭化物含む。
- 2 黒褐色土 炭化物、少量の焼土含む。
- 3 黒褐色土 焼土粒やや多く含む。
- 4 黒褐色土 ローム部ブロック含む。

第359図 6-15号住居跡



第360図 6-15号住居跡出土遺物

6-16号住居跡 (第361～367図：PL56・186～188)

位置 A・B-12～14グリッドに位置する。 **重複** 住居の南寄りに6-211・212号土坑が、西側には6-207・209号土坑が一部重複。 **形状** 円形。 **規模** 径約5m。

方位 — **床面** 土坑の重複により残る部分は少ないが、残存部分は比較的平らで締まりもある。

炉 中央やや北寄りに作られている、隅丸方形の掘り込みと西側に炉石片と思われる礫が見られる。炉体土器と見られる深鉢がやや南寄りに出土している。 **柱穴** 支柱穴は4本か、南西に位置すると思われる柱穴は、6-211号土坑内に位置していたものと思われる。 **埋甕** 検出されなかった。

掘方 やや凹凸が見られたが土坑等は検出されなかった。

出土遺物 比較的多くの土器や石器が出土。1は炉に埋設されていたものである。石器は石鏃、打製石斧、磨石の他、石棒、多孔石が見られる。

時期・所見 6区の東端に検出された、住居南側の覆土上層に大型の礫が散在しており、平成6年度の調査時に確認された5-1号列石の西側の延長かとも考えられる。また住居覆土中に2カ所の炭化物を含む焼土範囲が検出されているが性格は不明、住居よりも後出の所産と考えられる。遺物は中央にやや集中して出土している。時期は炉体土器から中期後半と考えられる。

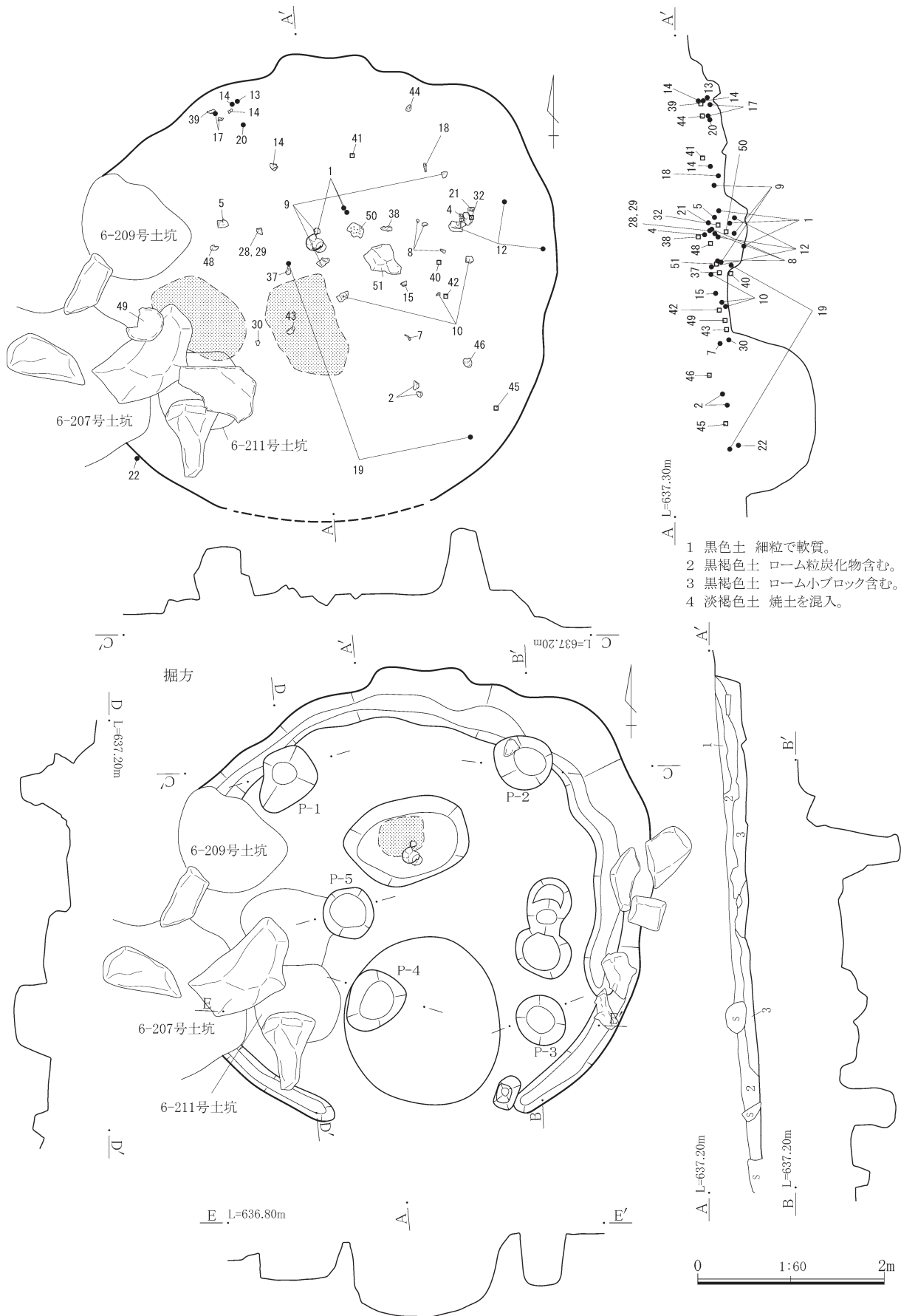
6-17号住居跡 (第368・369図：PL56・188)

位置 A-12グリッドに位置する。 **重複** 北側一部分のみの検出である。調査区の南端に弧状の落ち込みを検出。 **形状** 円形か。 **規模** 径不明、深さ15cm。 **方位** — **床面** ほぼ平坦である。周溝等は見られない。 **炉** 検出されない。 **柱穴** 北壁に1基を検出。

埋甕 検出されない。 **掘方** 特に掘り込みは見られない。

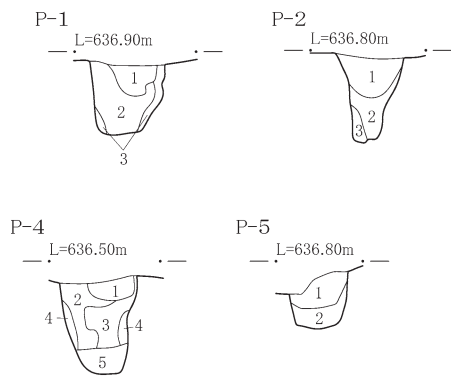
出土遺物 土器、石器ともに少ない。

時期・所見 北側のごく一部分を検出したのみである。南側に付いては平成6・7年度調査時において明確な遺構は検出されていない。但し5-14号配石(長野原一本松遺跡(1)2002)としたものが炉の痕跡である可能性がある。



第361図 6-16号住居跡(1)

第3節 縄文時代の遺構と遺物



P-1・2・5

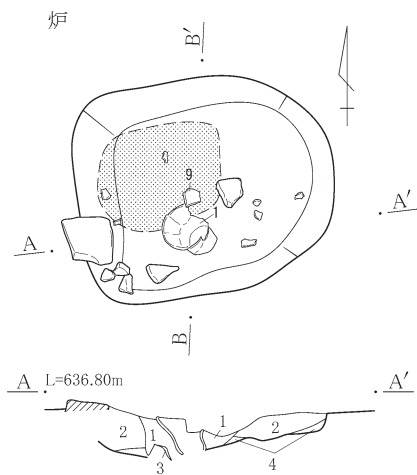
- 1 暗褐色土 YPK、褐色粒、白色軽石含み縮まりあり。
- 2 暗褐色土 1にローム粒子を含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロック、粘性土含む。

P-3

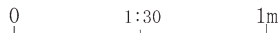
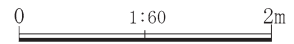
- 1 暗褐色土 YPK、褐色粒、白色粒。
- 2 暗褐色土 1にローム粒を含む。
- 3 黒褐色土 ローム粒、褐色粒含む。
- 4 暗褐色土 白色、褐色粒、小礫、YPK粒(縮まり弱い)。
- 5 暗黄褐色土 ローム粒子、粘土(粘性あり)。
- 6 黄褐色土 ロームブロック含み良く締まる。

P-4

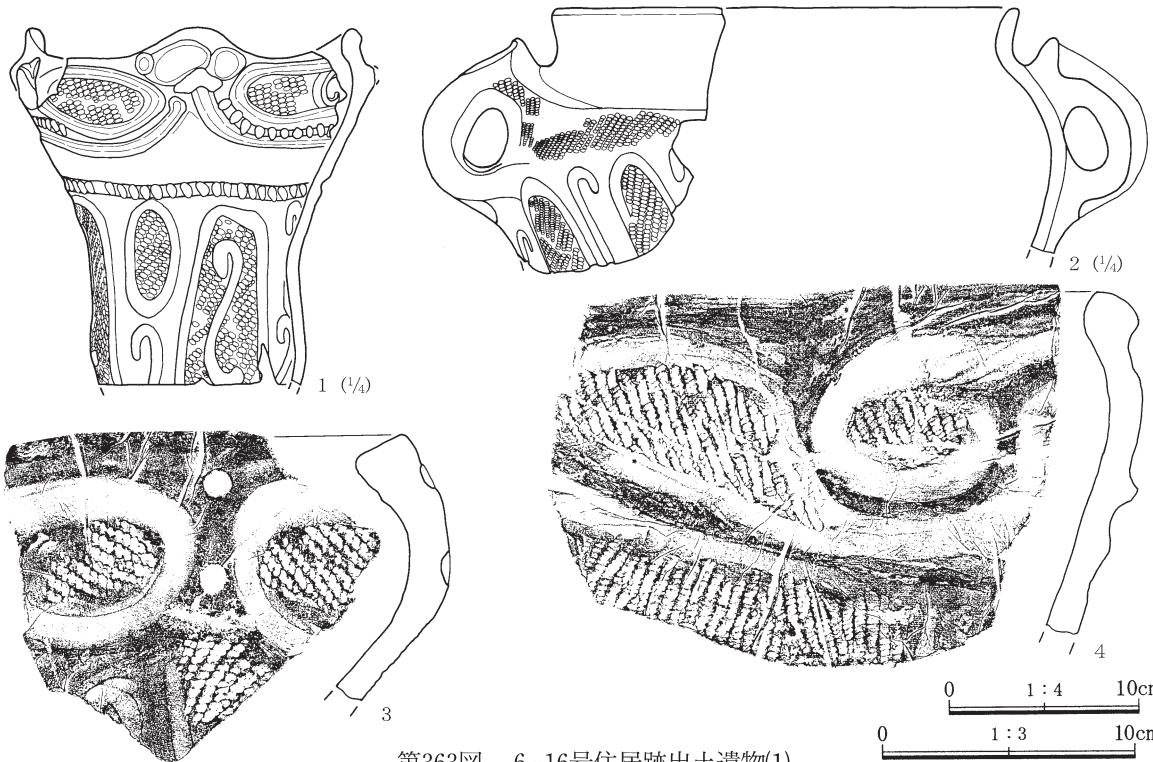
- 1 暗褐色土 焼土を含み細粒で黒い、縮まり弱い。
- 2 褐色土 ローム粒子を含み粘性あり。
- 3 暗褐色土 2より黒味あり。
- 4 暗褐色土 全体に細粒。
- 5 ロームブロックを含む軟質土。



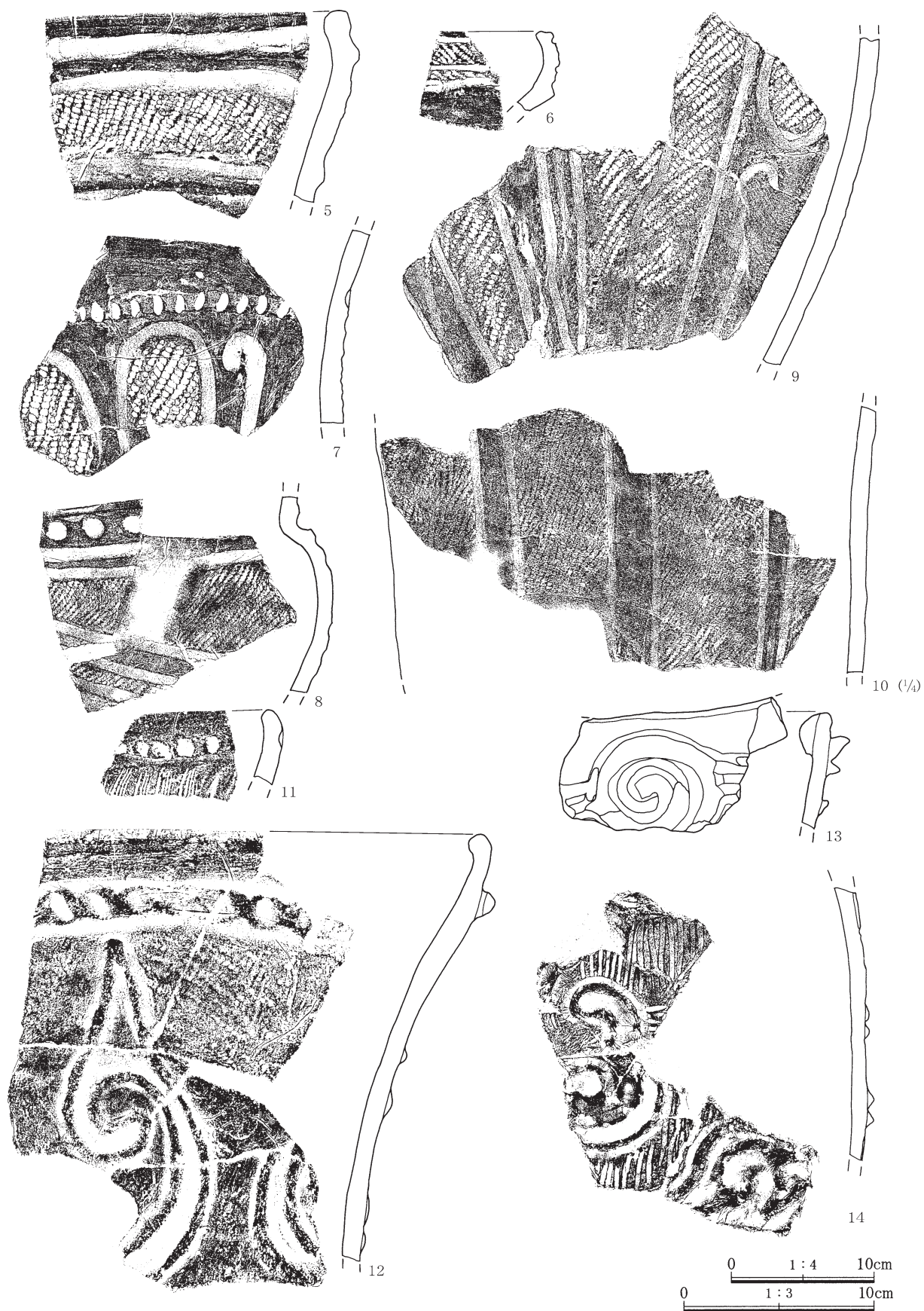
- 1 黒褐色土 ローム粒、炭化物粒若干の焼土を含む。
- 2 黒褐色土 1と似るが縮まりあり。
- 3 赤褐色土 焼土。
- 4 黄褐色土 地山ロームを主体とする。



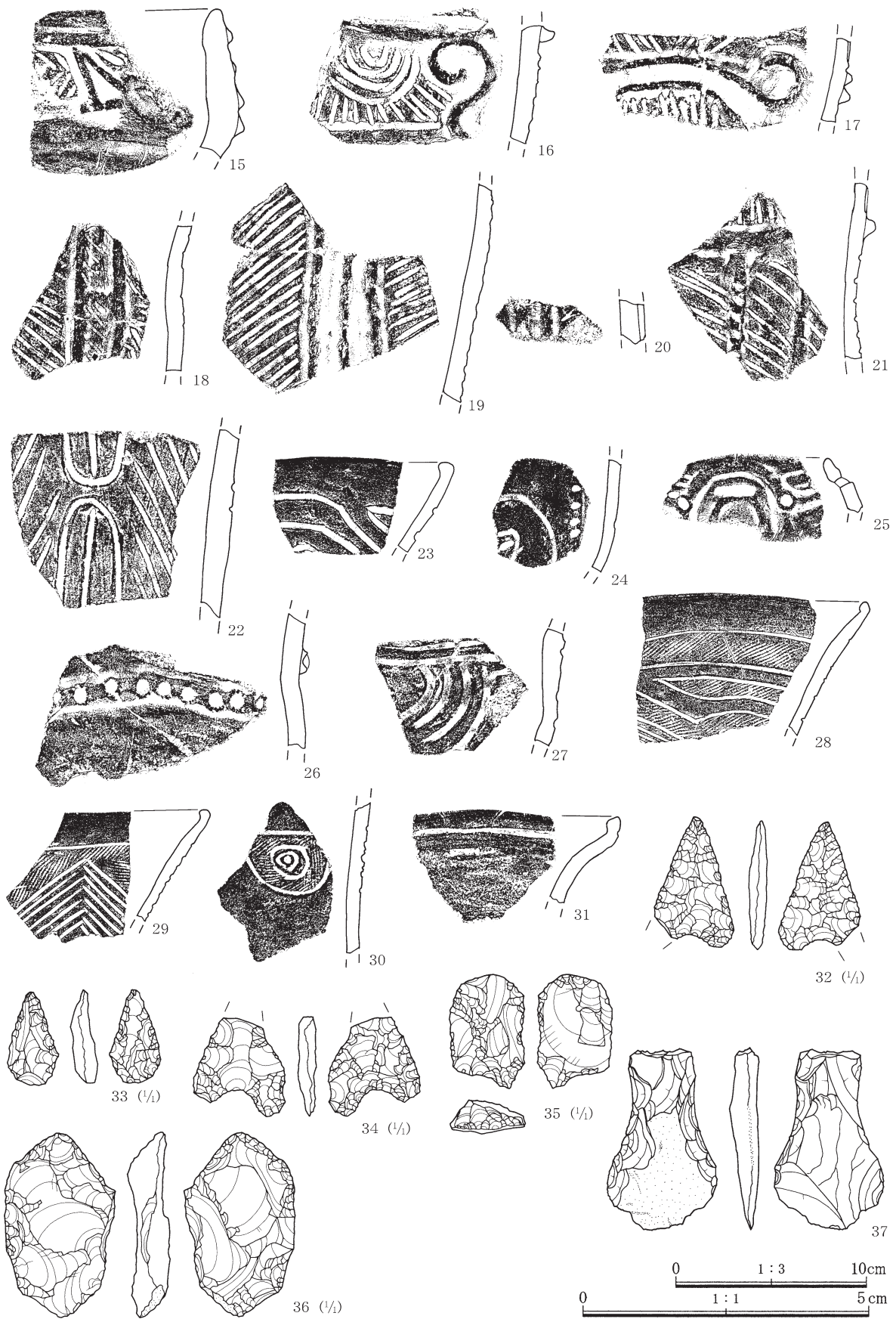
第362図 6-16号住居跡(2)



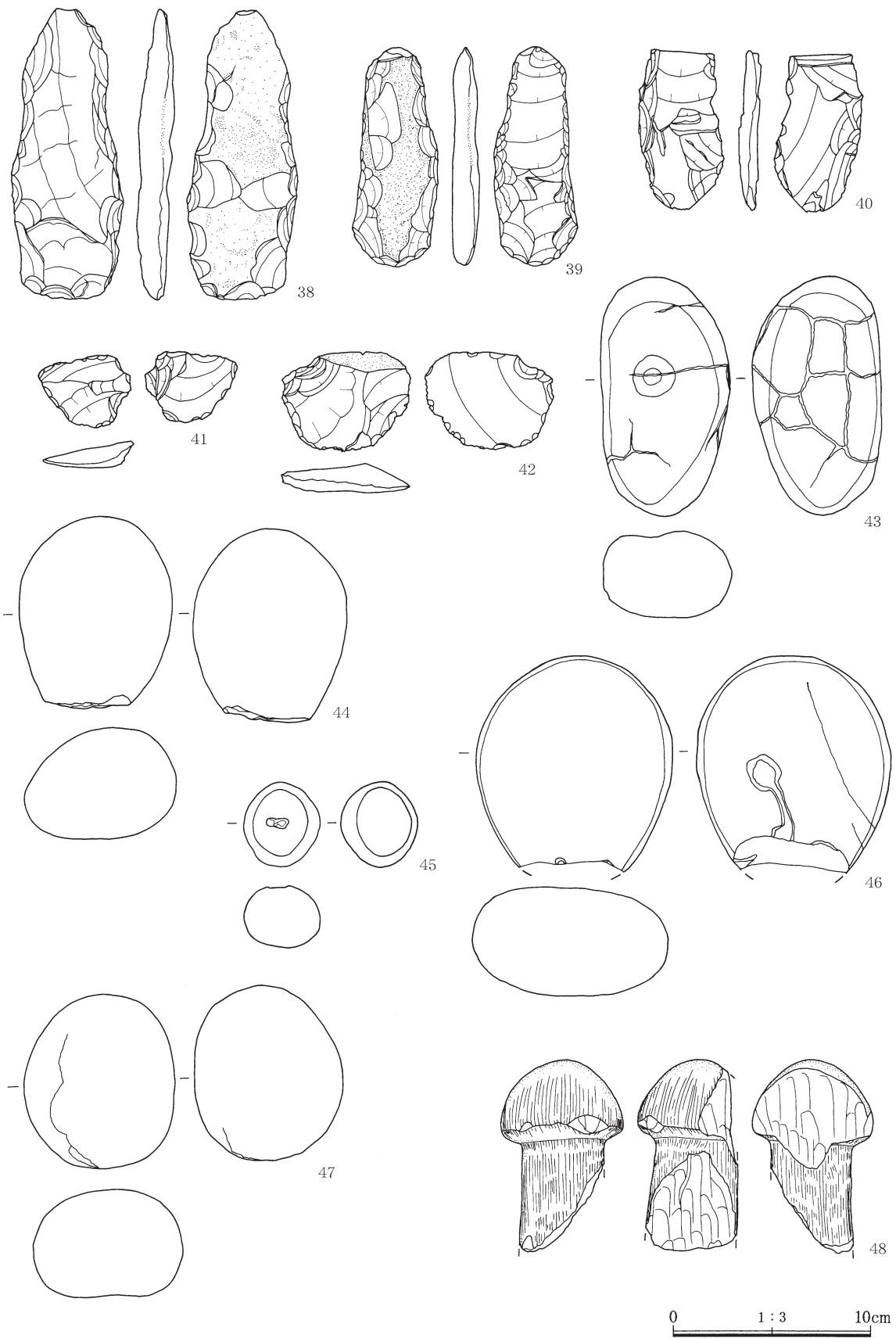
第363図 6-16号住居跡出土遺物(1)



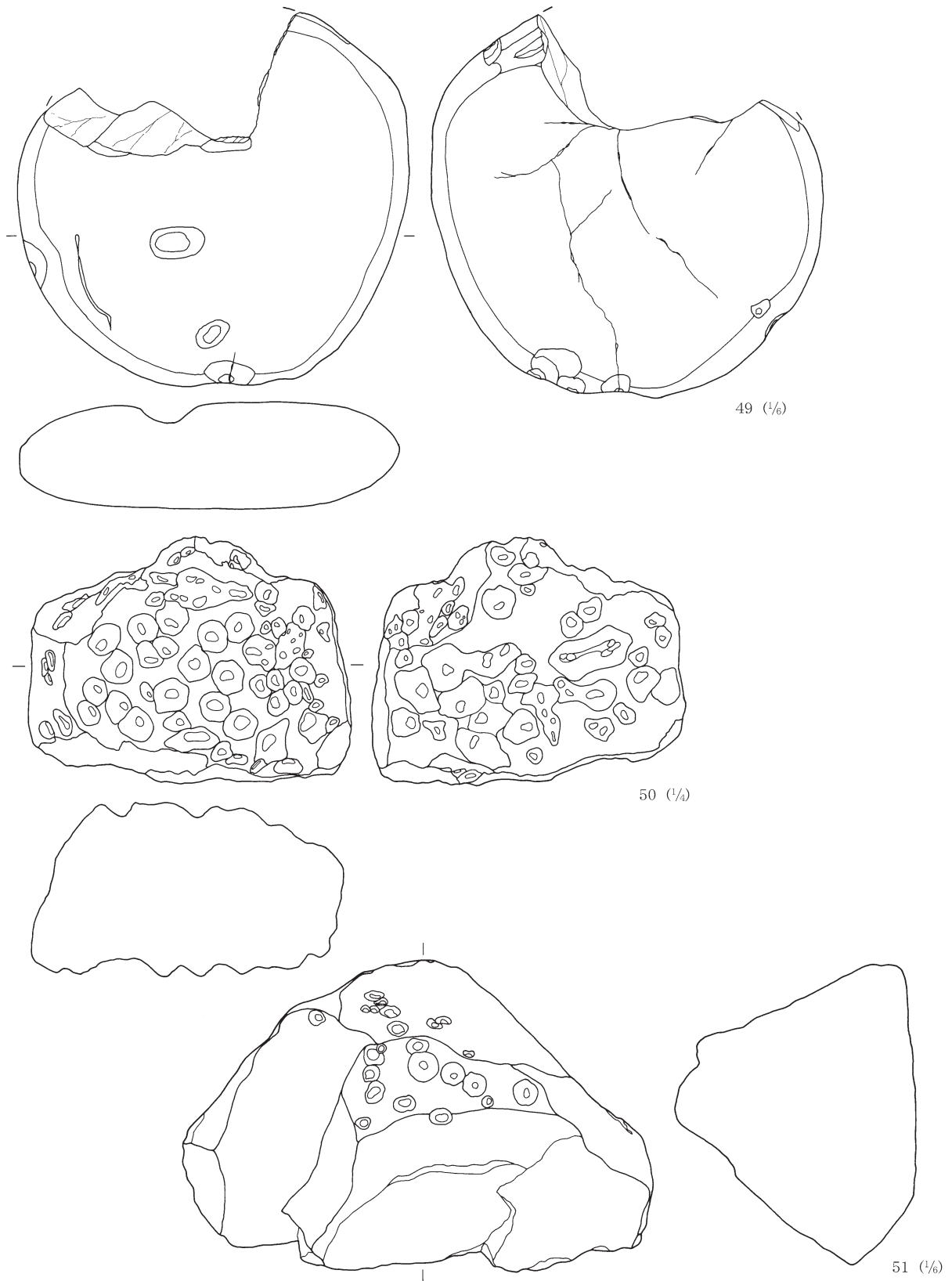
第364図 6-16号住居跡出土遺物(2)



第365図 6-16号住居跡出土遺物(3)



第366図 6-16号住居跡出土遺物(4)



49 (1/6)

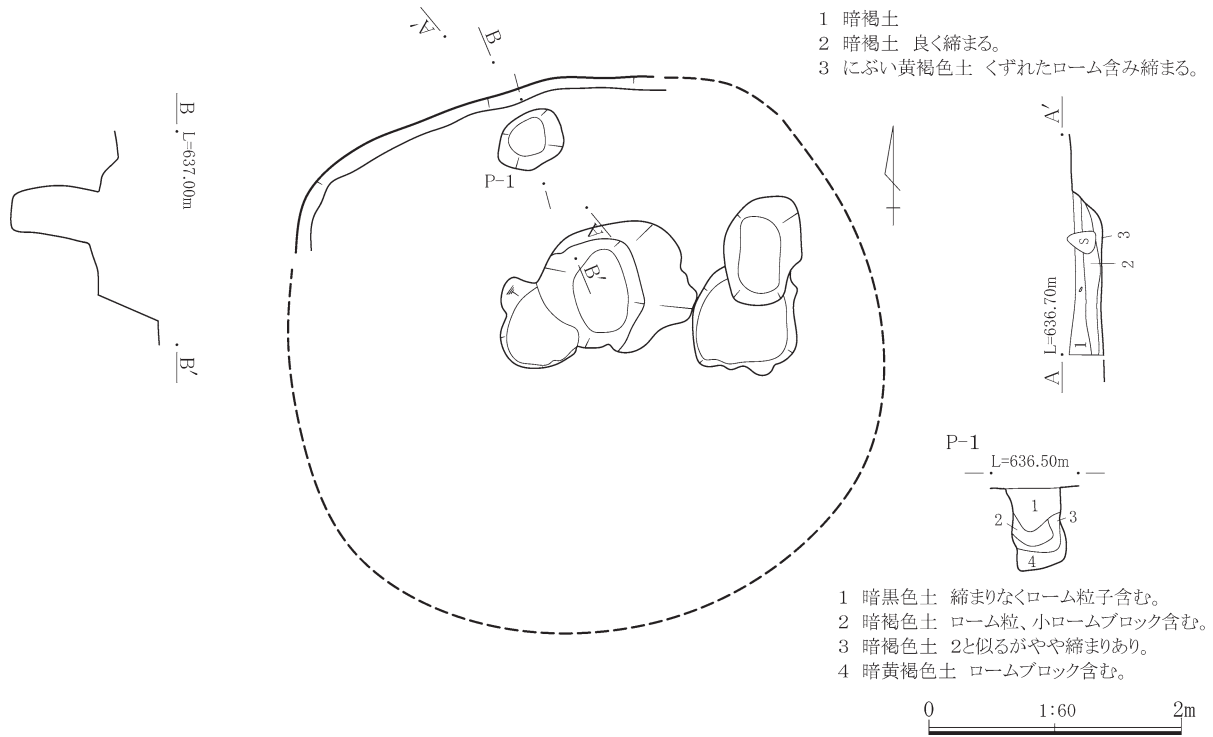
50 (1/4)

51 (1/6)

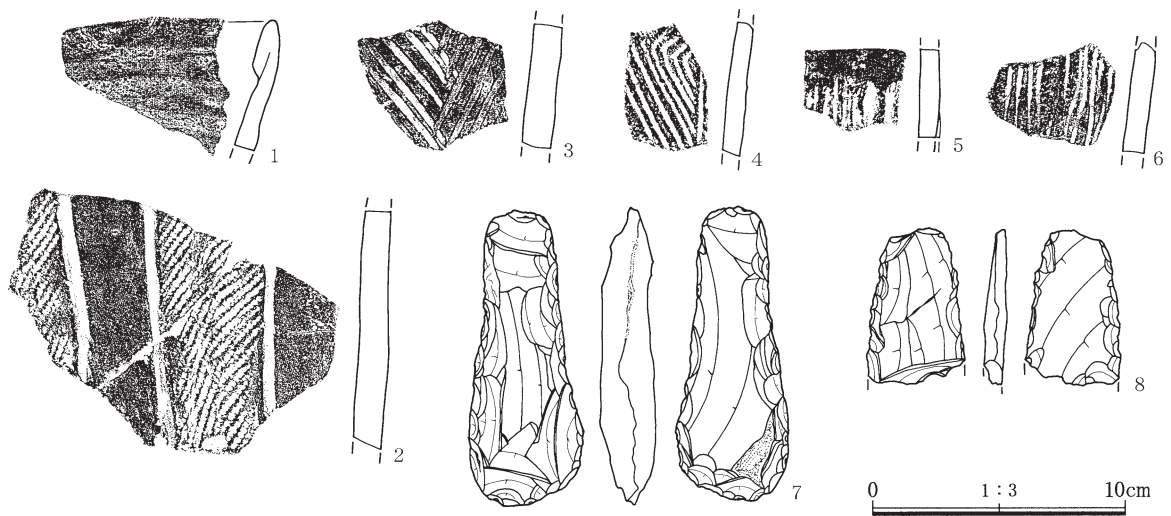
第367図 6-16号住居跡出土遺物(5)

0 1:4 10cm

第3章 検出された遺構と遺物



第368図 6-17号住居跡



第369図 6-17号住居跡出土遺物

2. 掘立柱建物跡

5区において検出した掘立柱建物跡は2棟である、これらは調査時点では掘立柱建物と認定できず、遺構整理時に掘立柱建物と確定されたものである。いずれも径1m程で、深さは0.8～1m以上の掘り込みを持つ柱穴が矩形、ないしは円形に並ぶ。これらの掘立柱建物跡の柱穴は、当初は、個々に番号を付した土坑として調査を行っている。以下に土坑番号と柱穴番号の対照表および計測値の一覧表を上げておく。

5-6号掘立柱建物跡（第370図：PL2）

位置 M～O-17・18グリッドに位置する。 **重複** 5-89・90・91・95・97号住居跡と重複。これらを切って構築される。 **形状** 亀甲形か、西側に張り出す棟持ち柱は5-85号住居跡の覆土中に掘り込まれていたものと思われるが、確認できなかった。 **規模** 東西(9.8)m、南北3.5mである。

床面 不明。 **炉** 不明。 **埋甕** 無し。 **出土遺物** 各土坑の項を参照。

時期・所見 径約1mの柱穴6本が長方形に並び東側に張り出す棟持ち柱と思われる土坑が検出されており、西側にも在ったものと考えられるが、5-85号住居の覆土中であつたために調査時には確認できなかった。柱穴P1は上層より大型の礫が出土している。なお、柱穴P5は円形柱穴列の柱穴とほぼ同位置に重複して掘り込まれていたが、円形柱穴列のほうが新しいことが断面により確認されている。

5-6号掘立柱建物跡柱穴計測表

土坑番号	5-870土	5-877土	5-862土	5-871土	5-848土	5-866土	5-852土	位置推定
柱穴番号	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8
径	94cm	106cm	110cm	105cm	95cm	73cm	90cm	5-85住
深さ	80cm	87cm	98cm	55cm	82cm	76cm	55cm	内北東部

5-7号掘立柱建物跡（第371・372図：PL2・58・189）

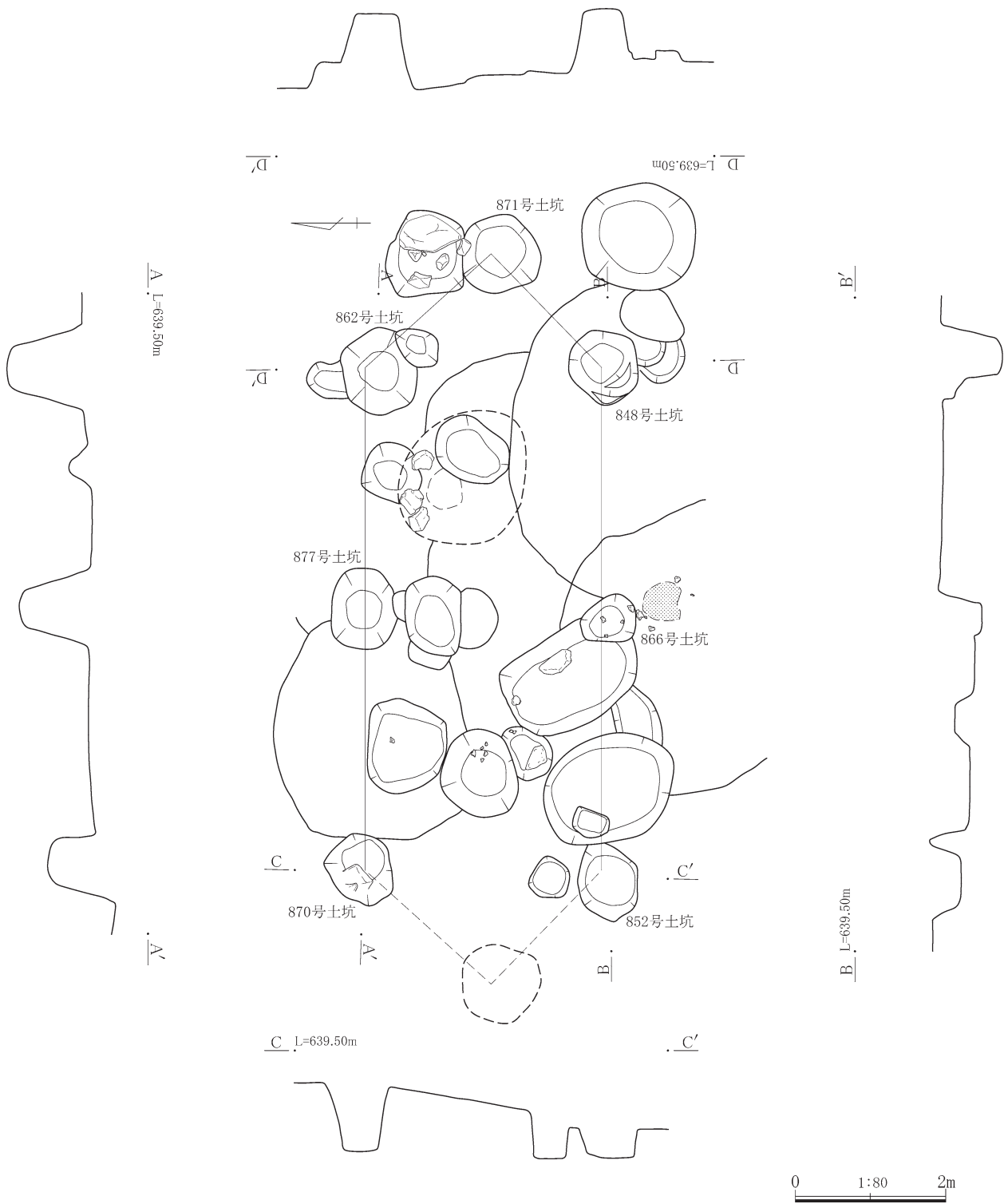
位置 M～O-16～18グリッドに位置する。 **重複** 5-86・89・90・91・95・97号住居跡と重複。

形状 八角形か。 **規模** 柱穴の中心部径で約6.5mの円形（八角形）。 **床面** 不明。 **炉** ほぼ中央に位置する5-1号焼土が可能性あり。炉の下部部分と思われる。深鉢の胴部が入れ子状態で検出されている。焼土はレンズ状に見られ厚いところでは10cmを測る。 **埋甕** 無し。 **出土遺物** それぞれの柱穴より礫および土器片が出土している。柱穴P3とP4から出土した土器が接合。

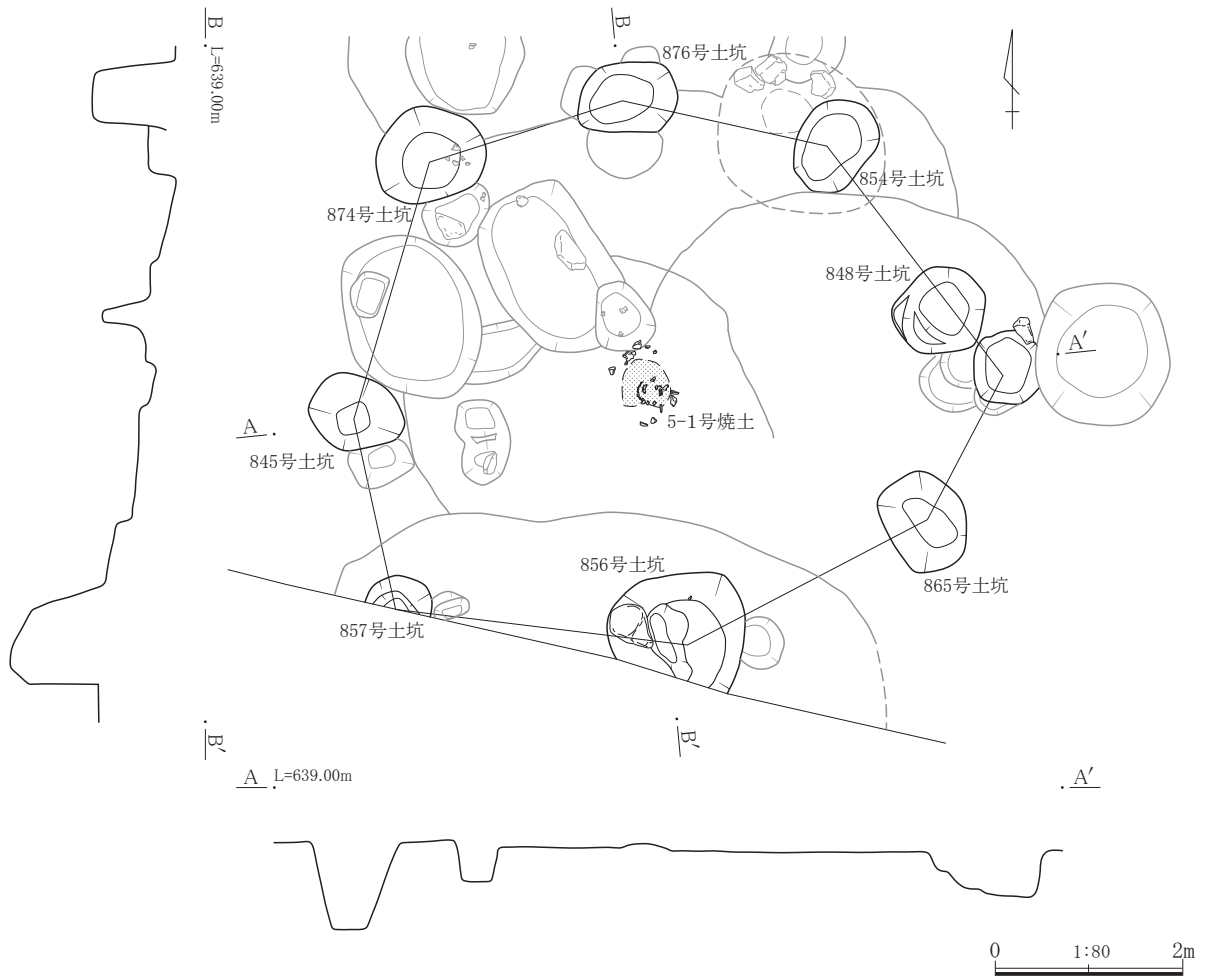
時期・所見 柱穴は径1～1.5mで深さは現状で70～100cmである。数軒の住居跡が重なって検出された場所に確認されたため、調査時には認定できなかった。柱痕の確認されたものは少なかったが柱穴P4は根巻き石を思わせるようにドーナツ状に石が出土している。ほぼ中央に位置する5-1号焼土が本址に関連する可能性がある。同焼土からは炉体土器として据えられていたと思われる土器が出土している。本址から南東へ約20m程の位置に検出されている5-1号円形柱穴列（平成8・11年度調査、長野原一本松遺跡（2）2007にて報告）とほぼ同規模である。なお、柱穴P8は重複土坑の可能性はある。5-1号焼土出土の炉体土器の時期は堀之内1式である。

5-7号掘立柱建物跡柱穴計測表

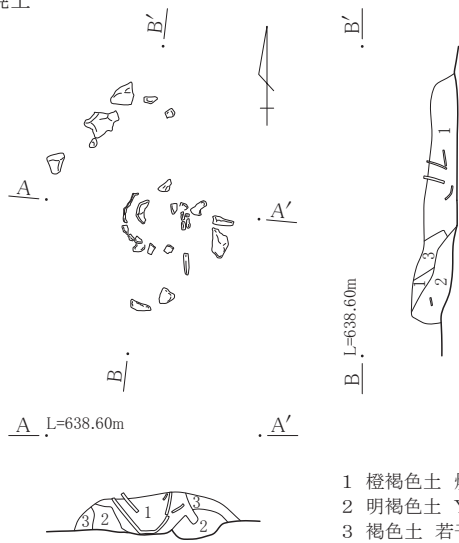
土坑番号	5-857土	5-845土	5-874土	5-876土	5-854土	5-90住	5-865土	5-856土
柱穴番号	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8
径	(71) cm	85cm	116cm	104cm	104cm	95cm	105cm	145cm
深さ	(65) cm	97cm	92cm	77cm	70cm	82cm	78cm	105cm



第370図 5-6号掘立柱建物跡

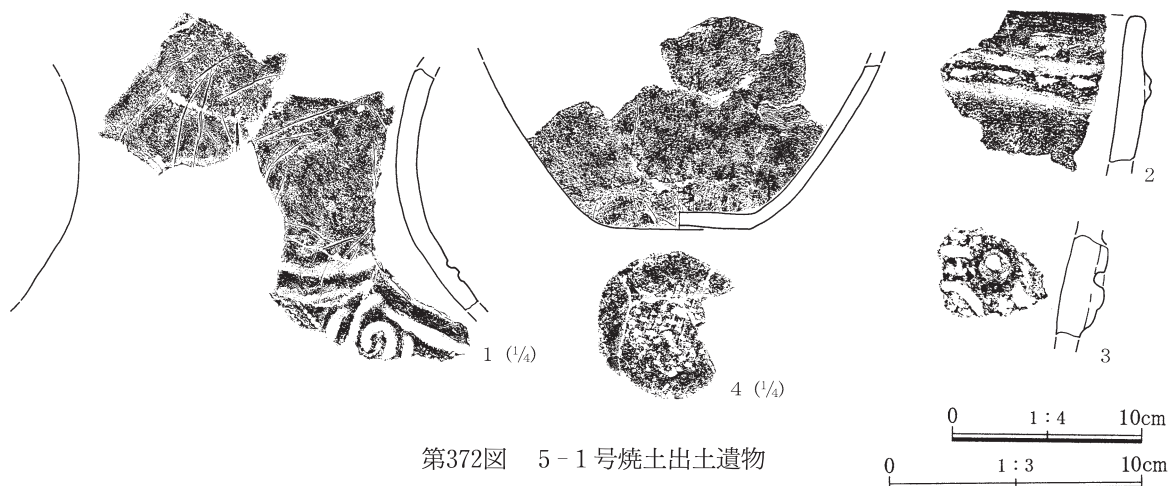


1号焼土



- 1 橙褐色土 焼土粒、YPK僅か、暗褐色土少量含む。
- 2 明褐色土 YPK僅か、暗褐色土1よりやや多く含む。
- 3 褐色土 若干の焼土、YPK僅かに含む。

第371図 5-7号掘立柱建物跡



第372図 5-1号焼土出土遺物

3. 埋甕

5区において6基を検出、この内5-13および14号埋甕は共に5-102号住居跡に帰属するものとした。

5-9号埋甕 (第373・374図：PL57・189)

5-69号住居跡の北壁に接して検出されており、同住居との関連が想定されたが、土層や高さなどの点から別遺構として掲載する。径60cm、深さ50cm程の掘方を持ち、底からやや浮いた状態で置かれていた。礫などは見られなかった。時期は中期後半。

5-10号埋甕 (第373・374図：PL57・189)

5-821号土坑内に検出、全周せず残りもあまり良くない。埋甕としたが土坑内出土の土器か。

5-11号埋甕 (第373・374図：PL57・189)

調査区の北側C-20グリッドに位置する。遺構集中部から離れて検出されている。逆位状態で、口縁、底部を欠くが全周している。

5-12号埋甕 (第373・375図：PL57・189)

5-72号住居跡の南壁に接して検出された。住居に伴う可能性が強いが、5-9号埋甕同様断面の状況、出土高などの点から別遺構として記載した。口縁部を下に埋められている。時期は中期後半。

4. 炉

住居などに伴わず、単独のいわゆる屋外炉で周辺に出土遺物もほとんど見られず、また柱穴なども検出されない。調査では5-11~13号の3基を検出したがこのうち5-13号炉に関しては5-75号住居跡の炉と判断された。なお、検出された2基はいずれも住居の埋没後、あるいは埋没途中の覆土中に作られている。

5-11号炉 (第373・375図：PL58・189)

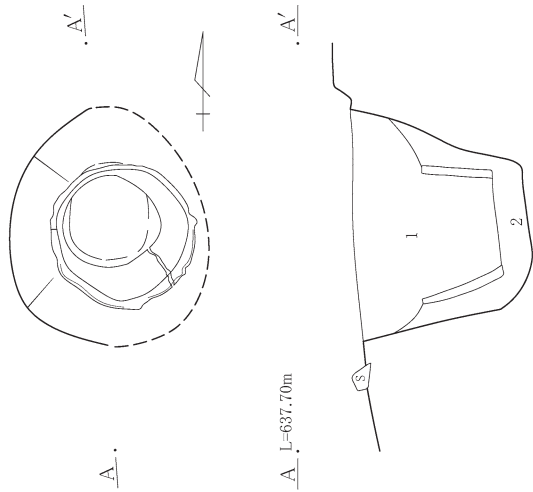
F-15グリッド、5-69号住居跡の入り口部に位置する。住居の埋没後に作られたものと判断される。やや扁平な礫をやや乱雑ではあるが、炉状に組んでいる。埋土中にはほとんど焼土は認められなかった。土器口縁部1および石鏃2が出土している。

5-12号炉 (第373図：PL58)

G-16グリッドに位置する。5-70号住居跡の北東部覆土中に作られる。住居埋没途中に屋外炉として構築か。炉石に煤の付着は見られたが、焼土がほとんど観察されない事などから長期の使用は認められない。

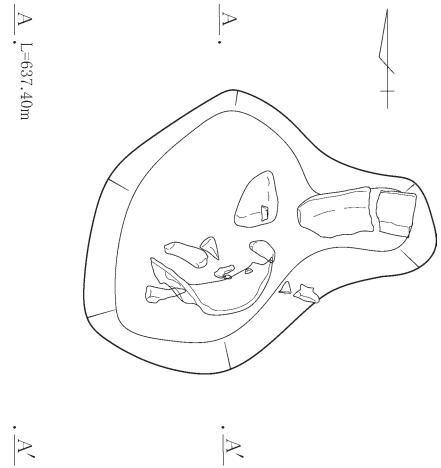
第3節 縄文時代の遺構と遺物

5-9号埋甕



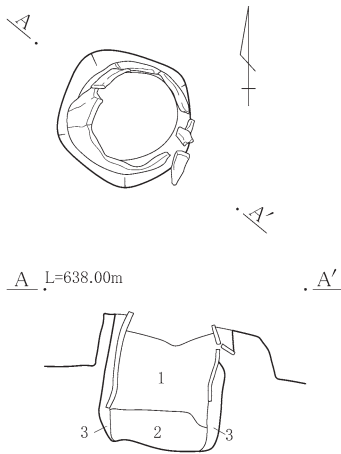
- 1 黒褐色土 YPK含み縮まりあり。
- 2 黒褐色土 少量のYPK含み縮まりに欠ける。

5-10号埋甕



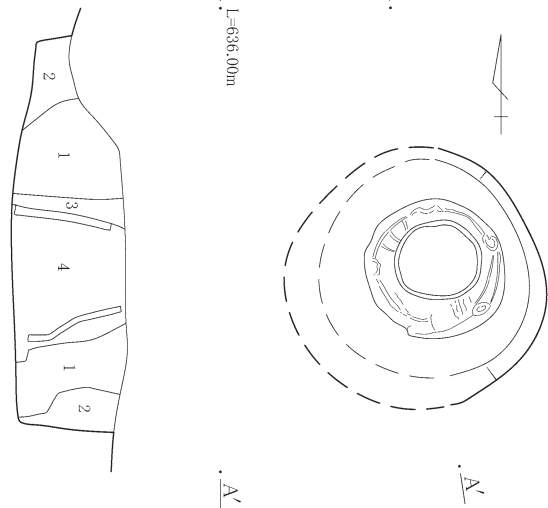
- 1 黒褐色土 縮まりなくばさつく、YPK含む。
- 2 黒褐色土 YPK少量、縮まりあり。
- 3 黒褐色土 少量のYPK含み粘性あり。

5-11号埋甕



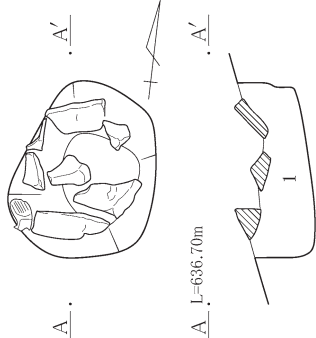
- 1 黒褐色土 ローム若干粒含む。
- 2 黒褐色土 1よりローム粒多く含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒多く含む粗粒。

5-12号埋甕



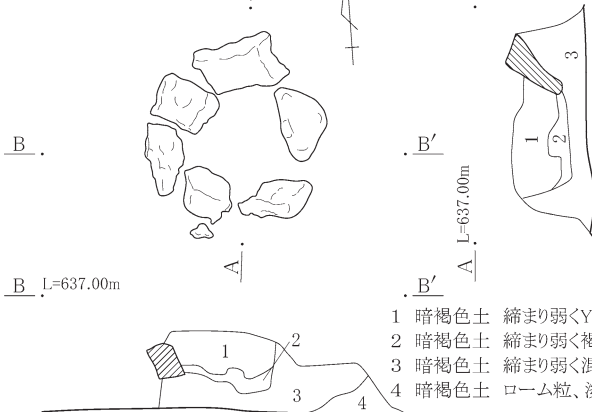
- 1 暗褐色土 YPK含み縮まりあり。
- 2 暗褐色土 白色軽石、YPK含み縮まりに欠ける。
- 3 暗褐色土 縮まりない。
- 4 暗褐色土 縮まりなく僅かなYPK、白色軽石含む。

5-11号炉



- 1 暗褐色土 ローム粒含みやや軟質。

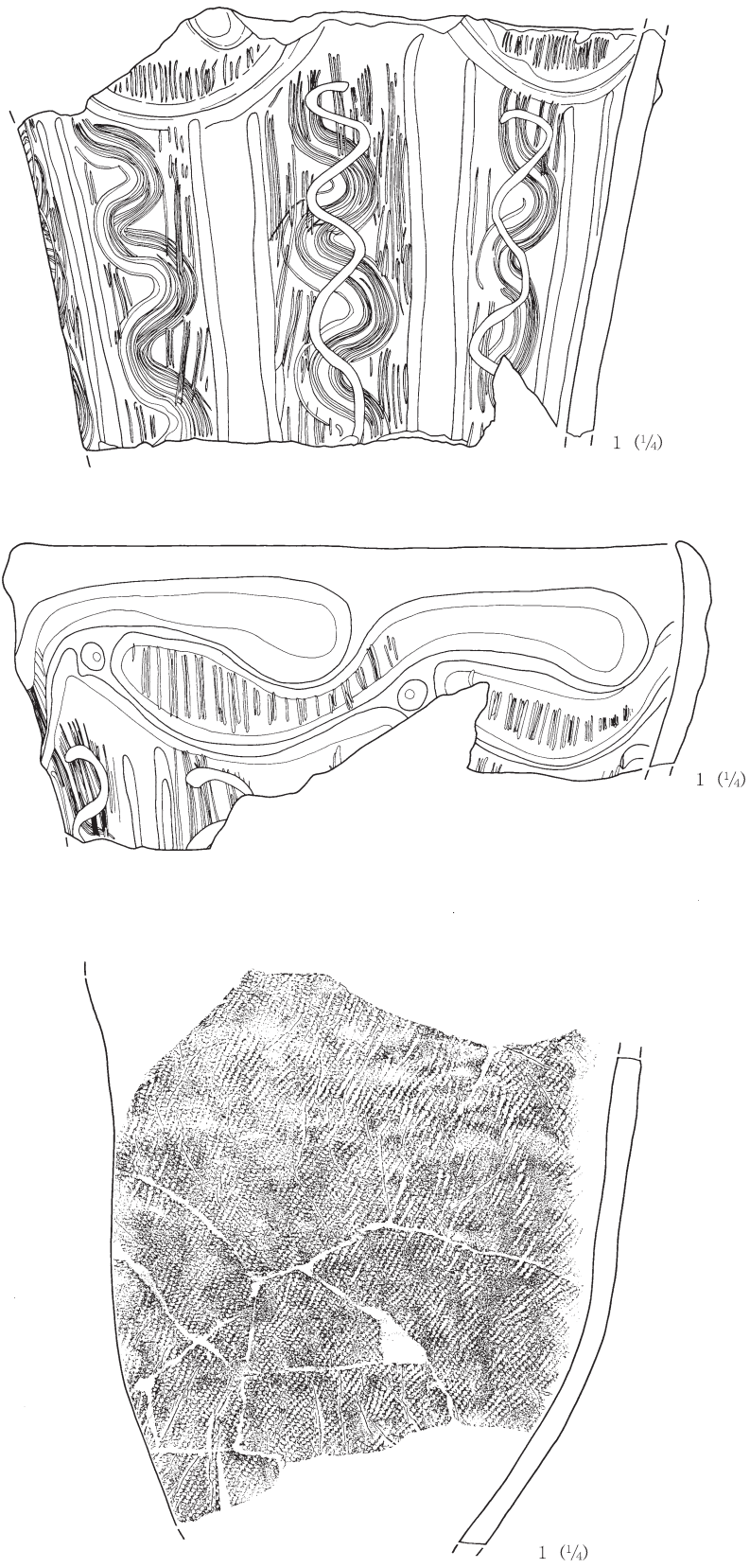
5-12号炉



- 1 暗褐色土 縮まり弱くYPK褐色粒多く含む。
- 2 暗褐色土 縮まり弱く褐色粒僅か淡白黄軽石含む。
- 3 暗褐色土 縮まり弱く混入物ほとんど含まず。
- 4 暗褐色土 ローム粒、淡白黄軽石やや含む。

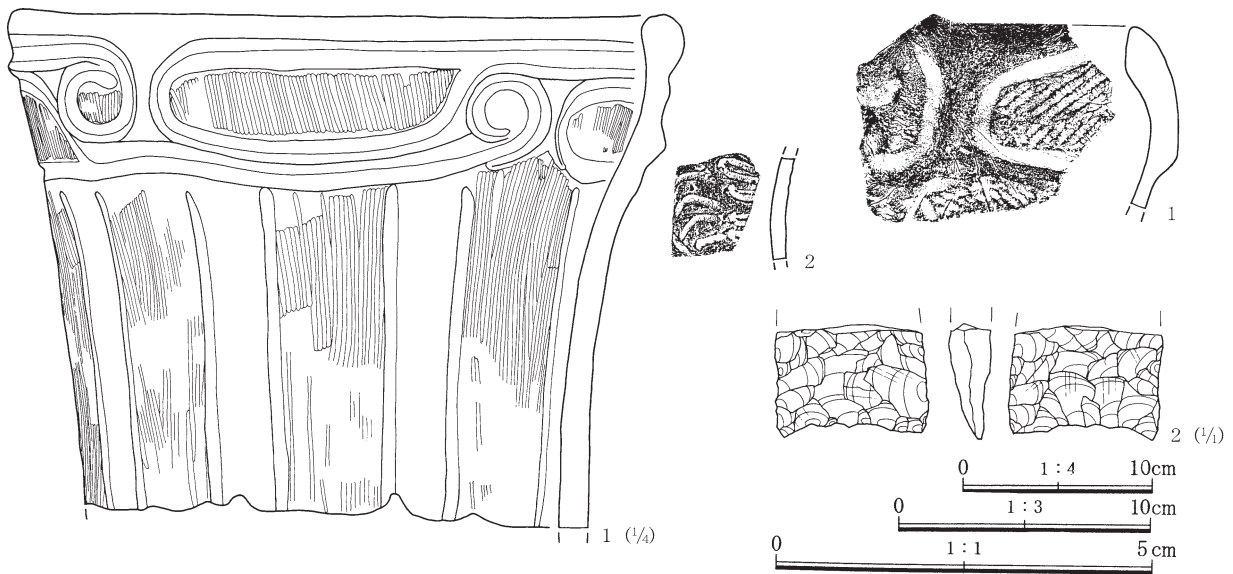
第373図 5-9～12号埋甕・5-11・12号炉

0 1:20 50cm



0 1:4 10cm

第374図 5-9~11号埋甕出土遺物



第375図 5-12号埋甕・5-11号炉出土遺物

5. 列石・配石

5-9号列石 (第376図: PL59)

R~U-14グリッドに位置、列石下には5-1・134・140号住居がある。長さは約10mを検出。70~90cmもの大型の垂角礫が東西に延びる。平成6年度の調査時に南側の一部を5-5号列石として確認している。

5-441号配石 (第377図: PL58・59)

位置 P・Q-14グリッドに位置する。不定形で規模は100×90cm、長さ60cm程の大型礫を囲んで10数個の礫が廻る。配石下に土坑等は検出されなかった。

5-442号配石 (第377・378図: PL59・189)

Q-15グリッドに位置する。5-111号住居内に検出。2基の重複か。楕円形で規模は200×100cm。

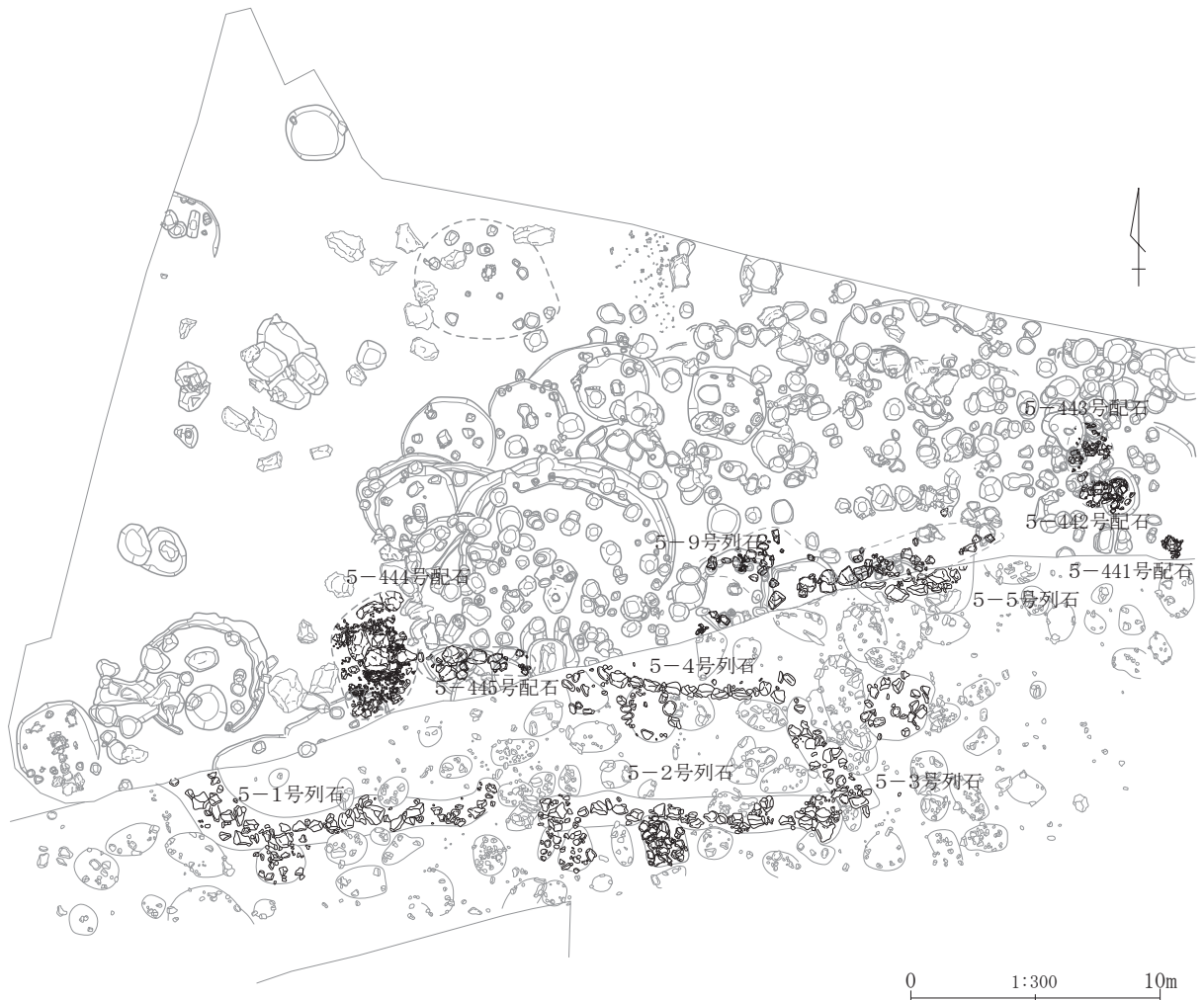
東半分は5-1106号土坑に重なり、立て並べられた礫は土坑の内側に沿っていることから、一体の遺構と判断される。また西側にも同様な形状のものが看取される。土坑は東側の配石の下に掘り込まれたものと考えられ、ローム混土層が上位に見られることから、人為的に埋められた事が窺われる。土坑のほぼ中央に倒れていた長さ80cm程の大型棒状礫は、おそらく墓標の意味を持つ立石であろう。配石の構造は、中央に立てた立石の廻りに平らな石を配し、囲むように礫を楕円形に立て並べている。時期は後期前半と思われる。

5-443号配石 (第377・378図: PL59・189)

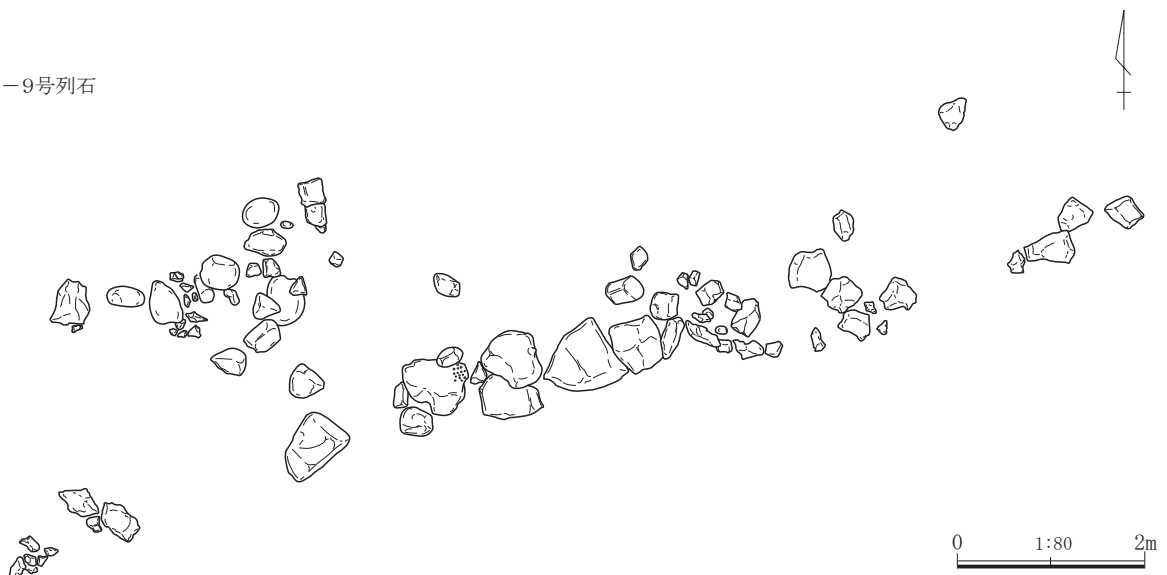
Q-15グリッドに位置する。5-111号住居跡内の北西部に検出された。比較的大型の礫がやや不規則に並び、規模は長さ1.7m、幅は1m程である。出土遺物は石の間から土器片等が出土している。5-9号列石の東側延長上に位置しており、列石端部の可能性あり。

5-444号配石 (第377・378図: PL59・189)

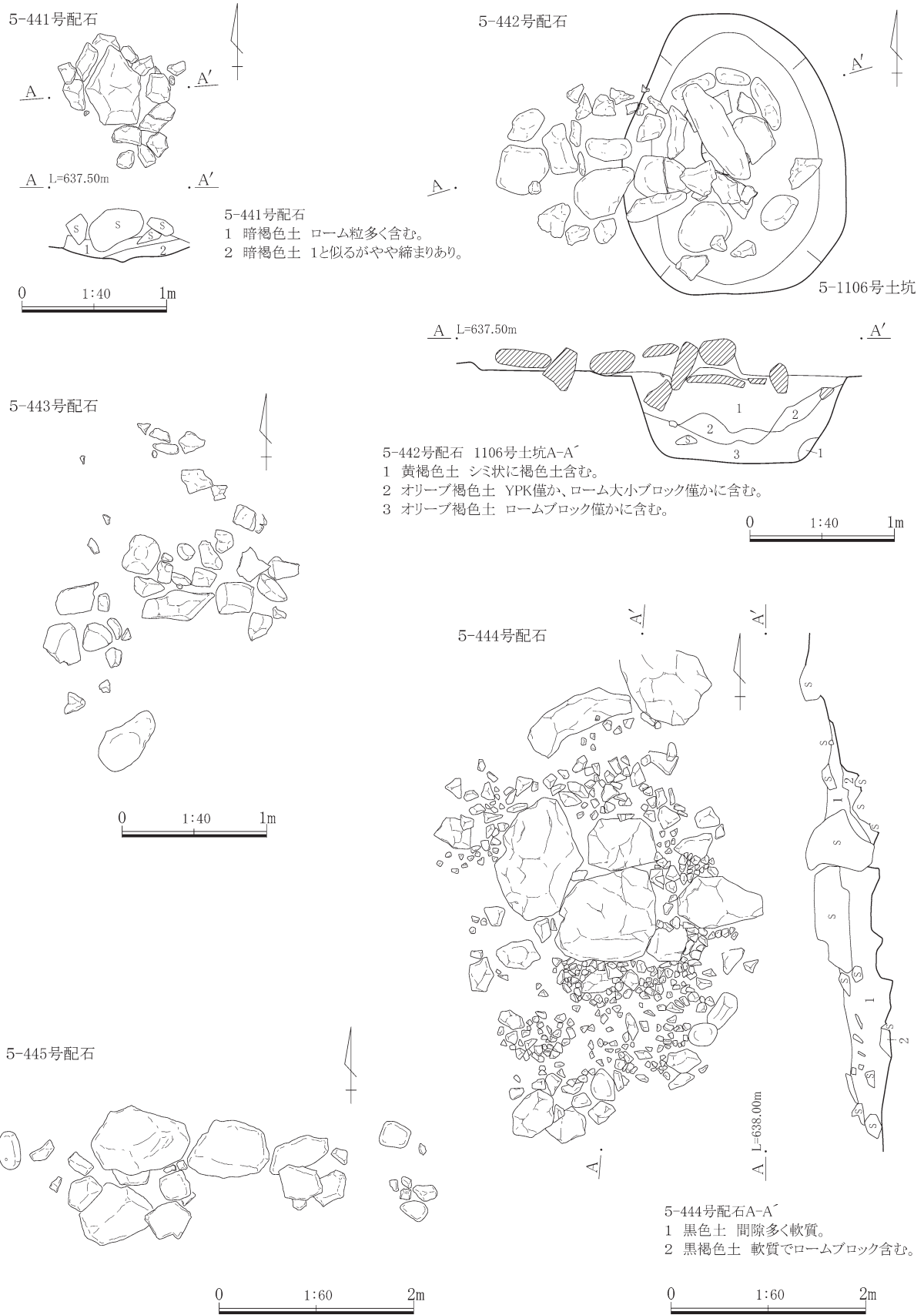
X・Y-13・14グリッドに位置する。1mを超える数個の大型礫の周囲に小振りの礫が集積、東側に5-445号配石が接する。長円形で規模は500×300cmを測る。南側の一部は5-141号住居跡の上に載る。



5-9号列石



第376図 配石・列石全体図・5-9号列石



第377図 5-441~445号配石

5-445号配石 (第377・378図：PL59・189)

W・X-13グリッドに位置する。1 mもの大型礫を含み列状を呈す。配石としたが、5-124号住居跡の接合部分から西に延び、平成6年度に検出されている5-4号列石(長野原一本松遺跡(1)2002)と対になる。



第378図 5-442～445号配石出土遺物

6. 土坑（第379～488図：PL60～104・190～216）

検出した土坑は総数392基（欠番含む）で、その内訳は4区46基、5区312基、6区34基である。

4区

調査区の北側に比較的集中して検出されている。等高線に沿って数基が横並びに検出されているものも見られる。また、土層の観察から明らかに風倒木と判断されたものも見られる（4-71・72・73号土坑）。また時期については、埋土の状況から近世以降に比定されるものと判断されたものもある。明らかに縄文時代の土坑とされたものは比較的少なく、また遺物も極めて少なかったが、4-110号土坑は押しつぶされた深鉢の上に礫が載った状態で出土している。

区の南西側は低くなり、南に開く谷地となっており、この谷頭部分に検出された4-102・105号土坑は平面長円形で底面の形状が長方形となり、深さが1m以上あり、本遺跡で多く確認されているいわゆる陥し穴である。平成13年度に本区の南側を調査した際にもこの谷地部分において数基が検出されている。

5区

本区における土坑は調査区の南西部分に特に集中して検出されている。その分布集中範囲は幅およそ10mで長さが50mの帯状を呈す。この部分は土坑のみならず住居の重複も極めて顕著である。

調査時には確認できなかったが、深さが1m近い柱穴も多く見られ、整理時に掘立柱建物と認定された遺構も多い（5-6・7号掘立柱建物跡）。また径1.2～1.5mで掘り込みのしっかりした土坑が規則的に配されており、類似した用途のもとに掘り込まれた可能性が指摘される。5-976・977・1000・1013号土坑等断面に柱痕が確認されたものも数多く見受けられ、建物跡の存在が想定される。

また、5区の住居集中部北側でも多くの土坑が検出されているが、形状が円形で径は1m前後、比較的掘り込みが浅く、底がやや丸みを呈すものが多く見られる。これらは礫や土器片を多く混入することが特徴的で、時期はいずれも住居よりも後出のものが大部分である。

いわゆる陥し穴は5-804・807号土坑が相当する。いずれも4区との境谷地に面した場所に検出された。

検出された土坑は規模や形状は様々で、出土遺物も皆無のものもあれば多いものもある。また5-899・900号土坑のように比較的大きく底が平坦で、炉は確認されないものの形状的には住居と見られるものがあり、出土遺物も比較的多い。5-891号土坑は南北に軸を持つ長円形の土坑で大型の土器片が礫を伴って出土している。

主な出土遺物では5-813号土坑は住居（5-69号住居跡）の中央に深さ1.8mもの深さに掘り込まれており、全体の半分ほどの大型深鉢が出土している。また5-909号土坑からは大型の黒曜石が2点出土しており注目される。区の南西部の最も遺構集中部では多くの土坑を確認したが、いずれも掘り込み面や平面形状の不明なものも多く、土坑として掲載してはいるものの、住居の柱穴である可能性のものも少なく無いと考える。

6区

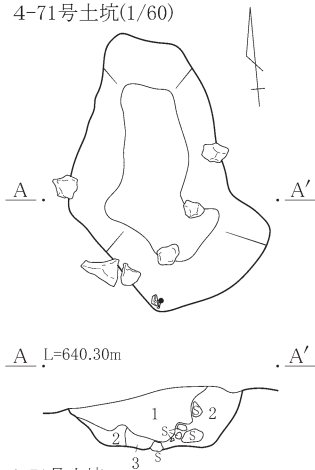
調査区内に地山の大きな礫が至る所で露出し、遺構の状況は良くなかった。掘り込まれた土坑に関しても礫と接していたりしており形状も不定型であった。人為的と判断されたものは少なく、浅いものが多い。

15区

1基のみ検出、径は3mを測る。多くの礫が出土しているが土器の出土は見られない。立ち上がりも不鮮明で時期的にやや下る可能性がある。

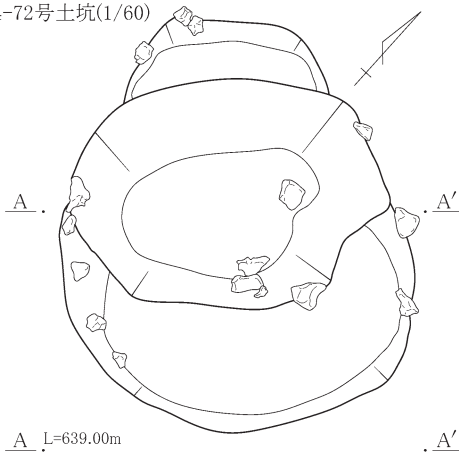
第3章 検出された遺構と遺物

4-71号土坑(1/60)



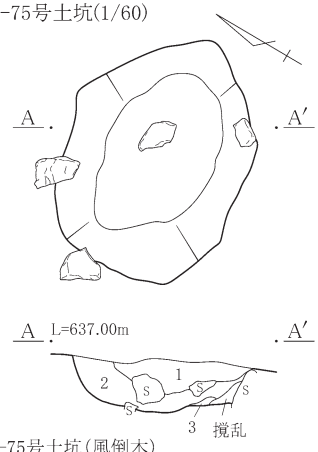
- 4-71号土坑
 1 黒褐色土 II層主体、礫含む。
 2 黒褐色土 やや砂質、大きめの礫を含む。
 3 黒褐色土 にぶい褐色砂質土。

4-72号土坑(1/60)



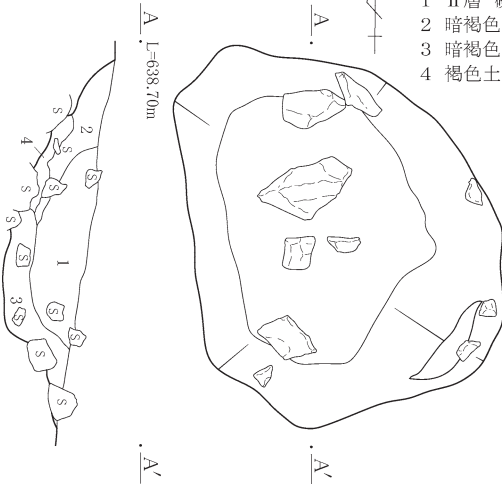
- 4-72号土坑(風倒木)
 1 II層 礫含む。
 2 暗褐色土 砂質で中形礫含みや赤味あり。
 3 暗褐色土 粘質土、III層主体、黒土小ブロック僅かに含む。
 4 褐色土 中、大形礫含む。

4-75号土坑(1/60)



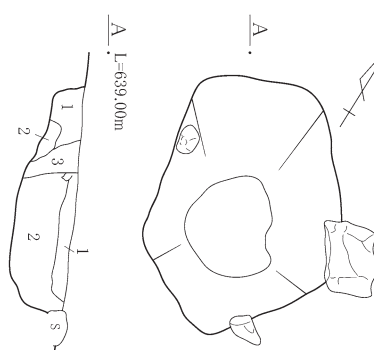
- 4-75号土坑(風倒木)
 1 II層とIV層の混土、大形礫混入。
 2 II層主体とする。
 3 II層、IV層をブロック状に含む縮まりない。

4-73号土坑(1/60)



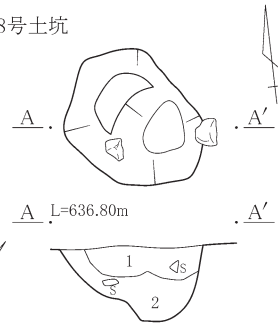
- 4-73号土坑(風倒木)
 1 暗褐色土 II層主体、根による攪乱顕著。
 2 暗褐色土 II層主体。
 3 暗褐色土 大形礫混入。
 4 暗褐色土 IV層主体とする。

4-76号土坑



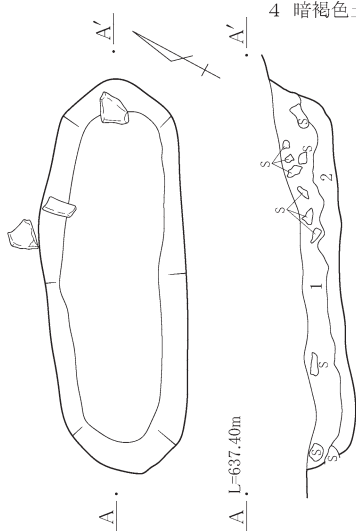
- 4-76号土坑
 1 黒褐色土 縮まり弱く褐色粒僅かに含む。
 2 黒褐色土 1にYPK、小軽石含む。
 3 黒褐色土 縮まり弱い、根による攪乱。

4-78号土坑



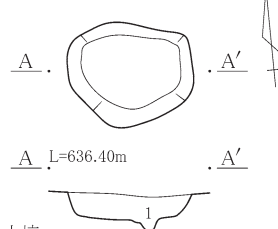
- 4-78号土坑
 1 黒褐色土 縮まり弱い。
 2 暗褐色土 縮まり弱い、黒褐色土ブロック含む。

4-77号土坑



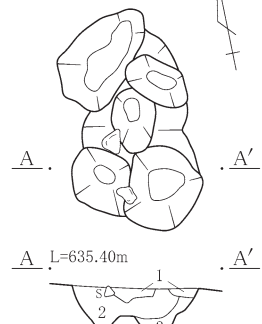
- 4-77号土坑
 1 黒褐色土 YPK僅か、縮まり弱く黄褐色、赤褐色粒含む。
 2 褐色土 YPK僅かに含む。

4-79号土坑



- 4-79号土坑
 1 黒褐色土 YPK僅か、褐色、黄褐色、白色粒を含む。

4-80号土坑



- 4-80号土坑
 1 黒褐色土 縮まり弱い黄褐色粒僅かに含む。
 2 黒褐色土 縮まり弱い、YPK僅かに含む。
 3 黒褐色土 縮まり弱い、ローム細粒僅かに含む。

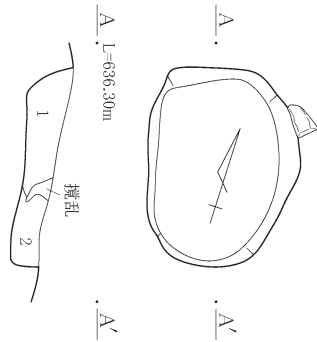
0 1:40 1m

0 1:60 2m

第379図 4-71~73・75~80号土坑

第3節 縄文時代の遺構と遺物

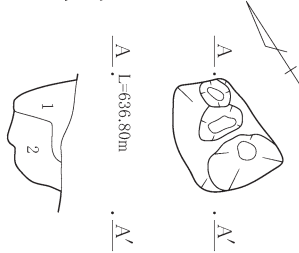
4-81号土坑



4-81号土坑

- 1 黒褐色土 縮まり弱い、黄褐色粒、YPK僅かに含む。
- 2 暗褐色土 1と近似。

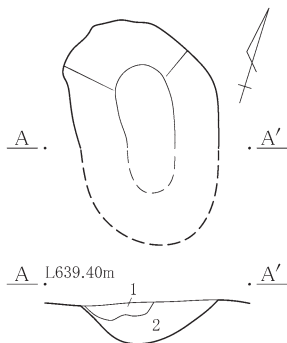
4-85号土坑



4-85号土坑

- 1 黒褐色土 黄色粒僅かに含み縮まりなし。
- 2 黒褐色土 縮まり弱くロームブロック、細砂含む。

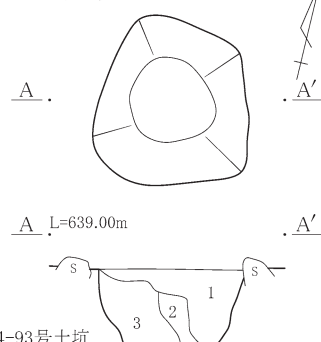
4-91号土坑(1/60)



4-91号土坑(風倒木か)

- 1 暗褐色土 縮まりなく礫多く含む。
- 2 黒褐色土 1と近似、礫をより多く混入。

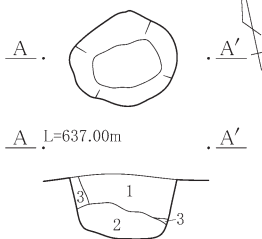
4-93号土坑



4-93号土坑

- 1 黒褐色土
- 2 黒褐色土 縮まり弱い。
- 3 黒褐色土 褐色粒、極小白色軽石混入。

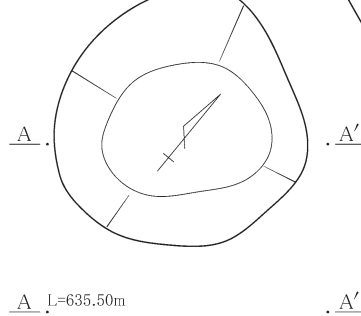
4-82号土坑



4-82号土坑

- 1 黒褐色土 縮まりなく砂質。
- 2 暗褐色土 縮まりありYPK、小白軽石少量含む。
- 3 褐色土 地山土含む。

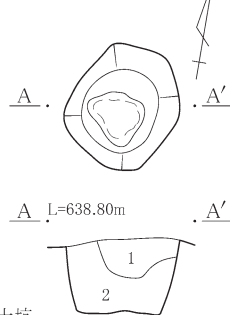
4-89号土坑



4-89号土坑

- 1 褐色土 褐色粒含む。
- 2 褐色土 ローム粒含む。
- 3 褐色土 ローム粒多く含む。

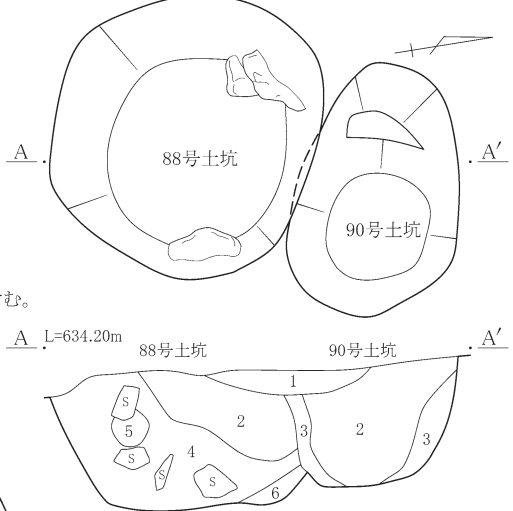
4-94号土坑



4-94号土坑

- 1 黒褐色土 褐色粒、YPK僅かに含む。
- 2 褐色土 縮まり弱く褐色粒、YPK僅かに含む。

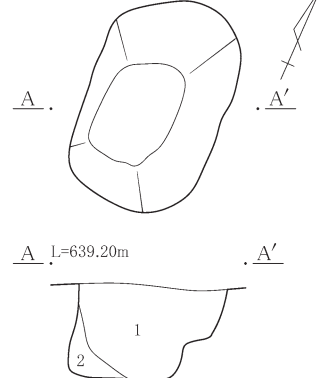
4-88・90号土坑



4-88・90号土坑

- 1 III層主体
- 2 1と同質だが黒味あり小礫僅かに含む。
- 3 III層にロームブロック混じる。
- 4 III層にロームブロック含む。
- 5 黄褐色土 ロームブロック。
- 6 黒褐色土 ややしilt質、YPK含む。

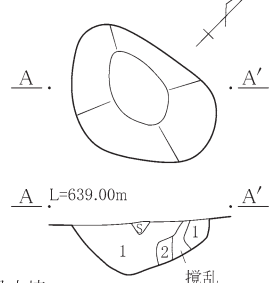
4-92号土坑



4-92号土坑

- 1 黒褐色土 下部は縮まり弱く褐色粒、炭化物多く含む。
- 2 黒褐色土 褐色粒やや多く含みYPK僅かに混入。

4-95号土坑



4-95号土坑

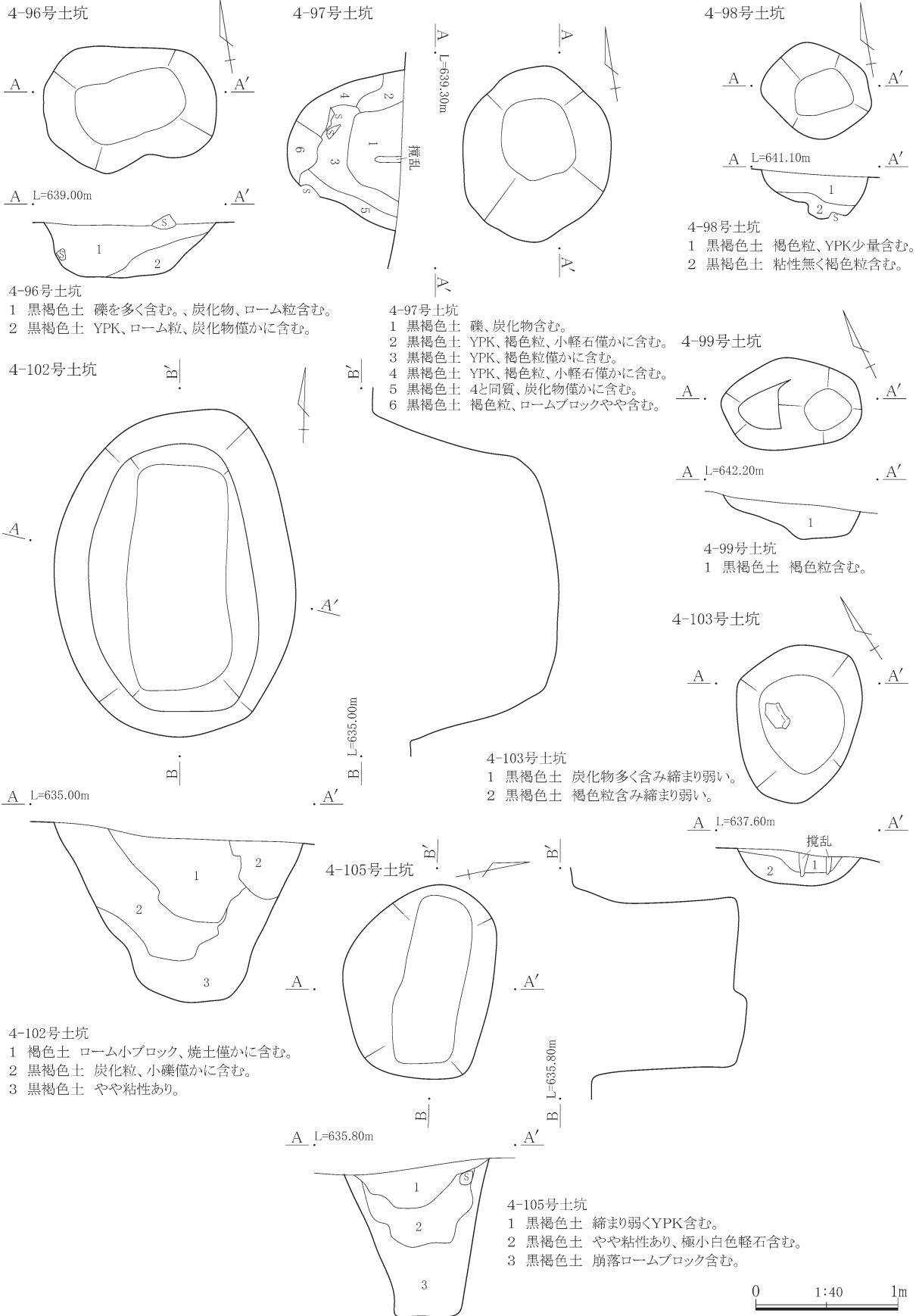
- 1 黒褐色土 褐色、黄色粒僅かに含む。
- 2 黒褐色土 ローム小ブロック僅かに含む。

0 1:40 1m

0 1:60 2m

第380図 4-81・82・85・88~95号土坑

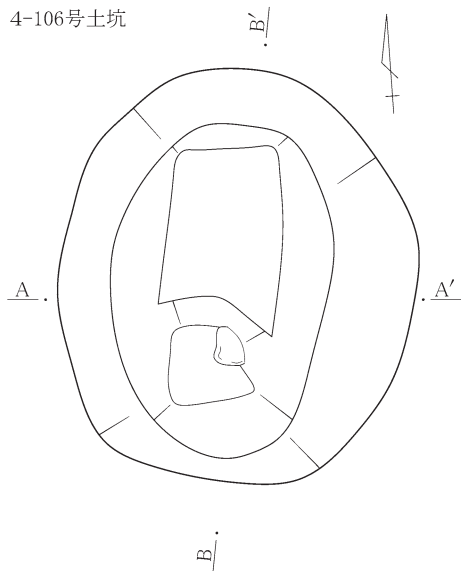
第3章 検出された遺構と遺物



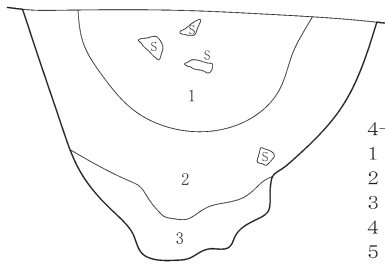
第381図 4-96~99・102・103・105号土坑

第3節 縄文時代の遺構と遺物

4-106号土坑



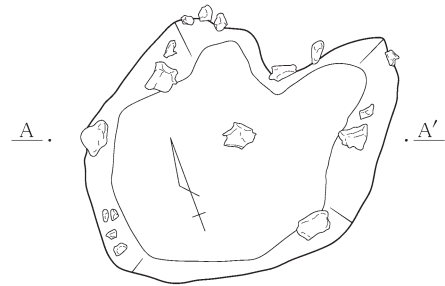
A L=635.30m . A'



4-106号土坑

- 1 黒褐色土 縮まりなくYPK含む。
- 2 黒褐色土 やや粘性あり、極小白軽石含む。
- 3 黒褐色土 縮まりに欠け、崩落ロームブロック混入。

4-107号土坑(1/60)



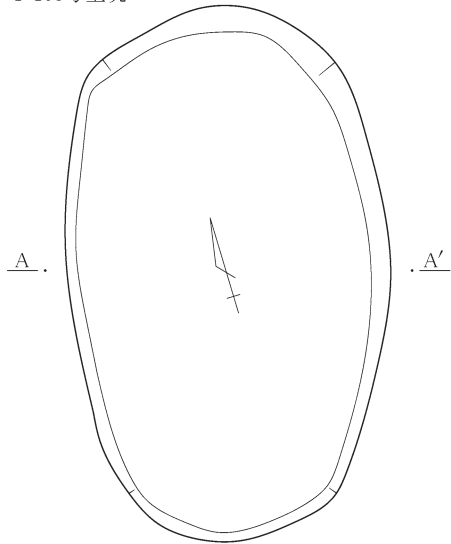
A L=636.80m . A'



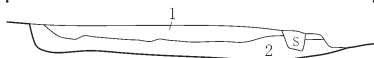
4-109号土坑(風倒木)

- 1 黒褐色土 褐色粒含む。
- 2 黒褐色土 褐色粒やや多く含む。
- 3 暗褐色土 2にローム細粒含み、礫を混入。
- 4 黒褐色土 礫多く混入し褐色粒、色軽石含む。
- 5 暗褐色土 礫多く含む。
- 6 黒褐色土 淡白黄軽石、褐色粒含む。
- 7 黒褐色土 6に近似するが混入粒子やや少ない。
- 8 暗褐色土 縮まりなく小礫多く含む。

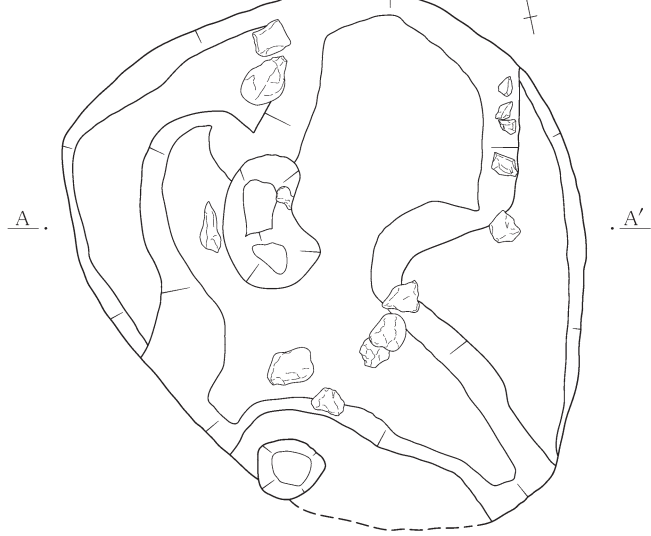
4-108号土坑



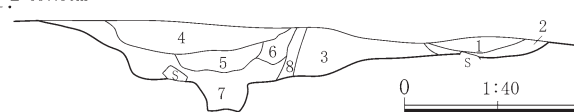
A L=636.50m . A'



4-109号土坑(1/60)



A L=637.30m . A'



4-108号土坑

- 1 黒褐色土 縮まり弱く礫混入。
- 2 黒褐色土 礫含み褐色粒混入。

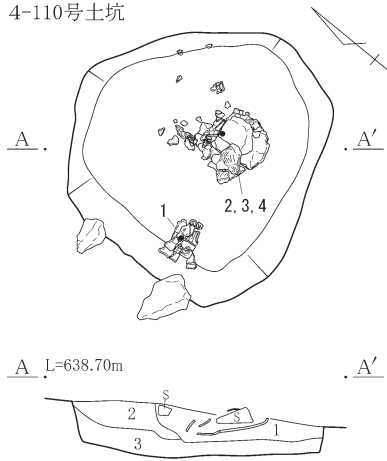
0 1:40 1m

0 1:60 2m

第382図 4-106~109号土坑

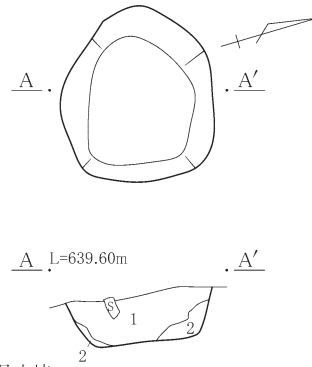
第3章 検出された遺構と遺物

4-110号土坑



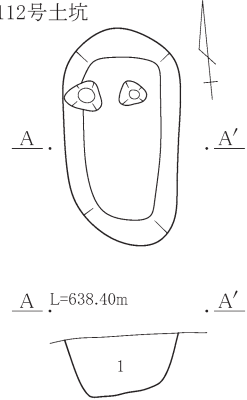
- 4-110号土坑
 1 黒褐色土 褐色粒、淡白黄軽石含む。
 2 黒褐色土 褐色粒僅かに含む。
 3 黒褐色土 褐色粒多く、淡白黄軽石少ない。

4-111号土坑



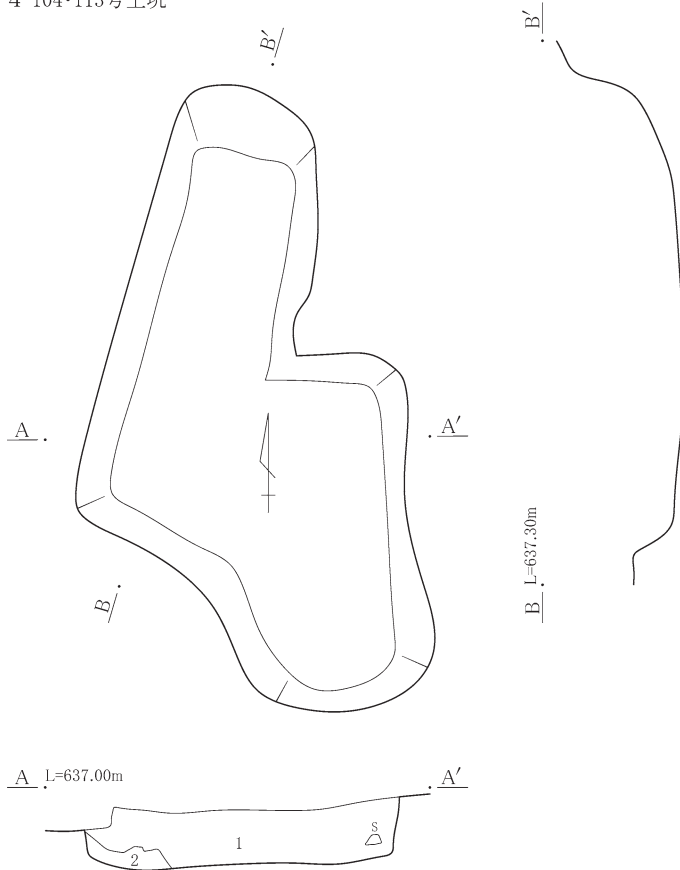
- 4-111号土坑
 1 黒褐色土 締まりなくYPK含む。
 2 黒褐色土 極小白色軽石含みややや粘性あり。

4-112号土坑



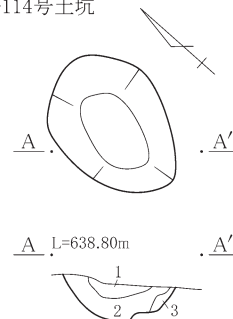
- 4-112号土坑
 1 黒色土 細粒で粘性なく、礫多く含む。

4-104・113号土坑



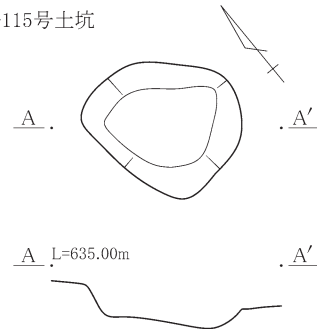
- 4-104号土坑 (4-113号土坑と重複)
 1 黒褐色土 締まり弱く攪乱顕著。
 2 III層主体、攪乱顕著。

4-114号土坑

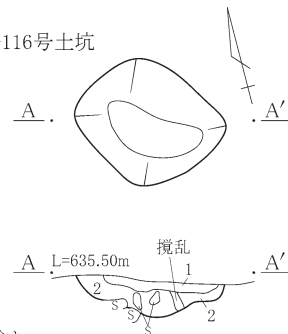


- 4-114号土坑
 1 黒褐色土 締まりない。
 2 黒褐色土 褐色粒子含む。
 3 黒褐色土 褐色粒僅かに含む。

4-115号土坑

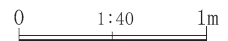


4-116号土坑

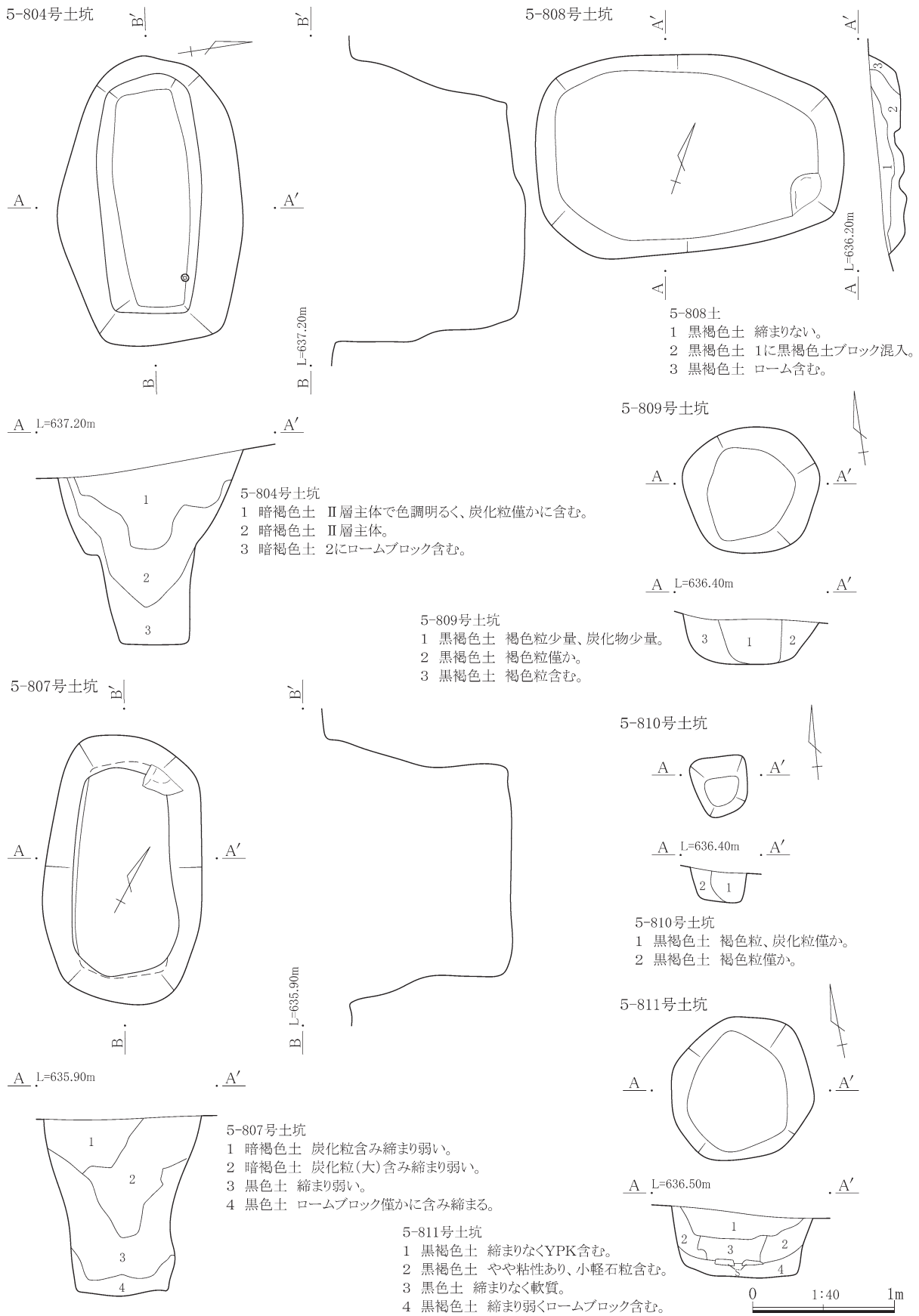


- 4-116号土坑
 1 黒褐色土 締まりに欠ける。
 2 黒褐色土 褐色粒、礫多く含む。

第383図 4-104・110~116号土坑



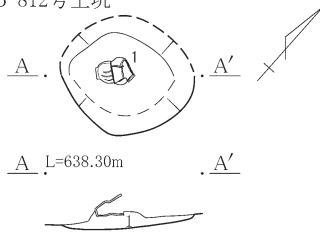
第3節 縄文時代の遺構と遺物



第384図 5-804・807～811号土坑

第3章 検出された遺構と遺物

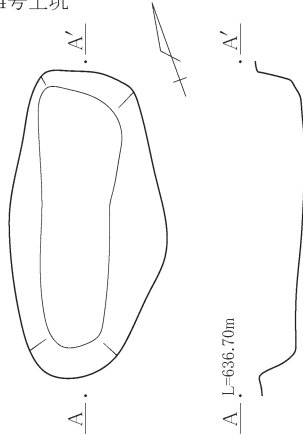
5-812号土坑



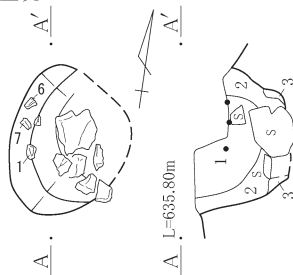
5-812号土坑

1 黒褐色土 YPK、褐色粒、小軽石僅かに含む。

5-814号土坑



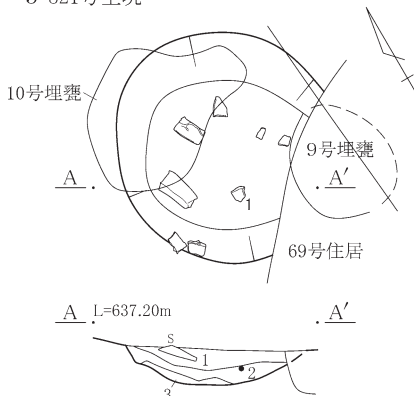
5-815号土坑



5-815号土坑

1 暗褐色土 淡白黄色軽石僅か、明褐色粒、炭化物少量含む。
2 暗褐色土 褐色粒、明赤褐色粒僅かに含む。
3 暗褐色土 ロームブロック多く含む。

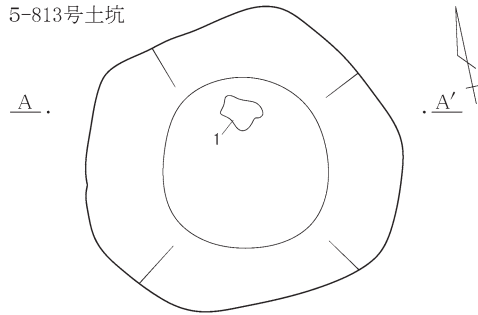
5-821号土坑



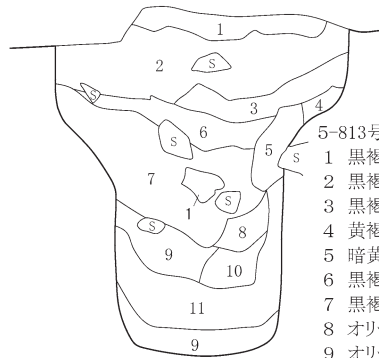
5-821号土坑

1 黒褐色土 少量のローム粒子含む。
2 黄褐色土 ローム粒子多く含む。
3 黄褐色土 ローム土やや多く含む。

5-813号土坑



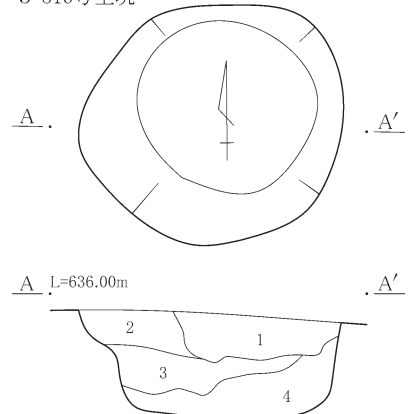
5-813号土坑



5-813号土坑

1 黒褐色土 YPK、礫を多く含む。
2 黒褐色土 礫を多く含む。
3 黒褐色土 YPK僅かに含む。
4 黄褐色土 ローム小ブロック多く含む。
5 暗黄褐色土 ローム小ブロック含む。
6 黒褐色土 ローム粒多く含む。
7 黒褐色土 黄色粒僅か、粘性なし。
8 オリーブ褐色土 黄色粒さらに含む。
9 オリーブ褐色土 ロームブロック大含む。
10 暗褐色土 ローム主体、中礫含む。
11 黄褐色土 ローム主体で黒色土ブロック少量含む。

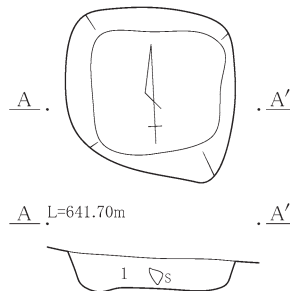
5-816号土坑



5-816号土坑

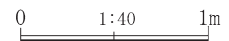
1 にぶい褐色土 YPK、ロームブロック僅か。
2 にぶい褐色土 1と近似、ロームブロックやや少ない。
3 黒褐色土 混入物は2と似る。
4 黒褐色土 ロームブロックやや少ない。

5-822号土坑



5-822号土坑

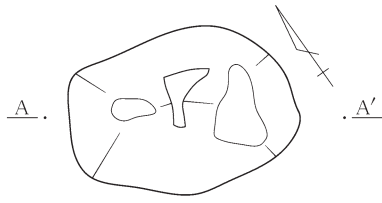
1 黒褐色土 シルト質粘性なし。



第385図 5-812~816・821・822号土坑

第3節 縄文時代の遺構と遺物

5-823号土坑

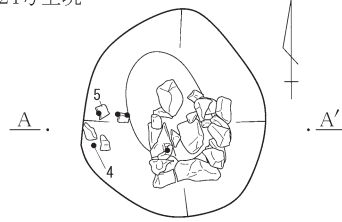


A L=640.80m A'

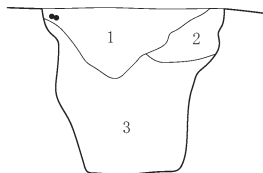


5-823号土坑
1 黒色土 軟質土、ロームブロック混在。(風倒木か)

5-824号土坑

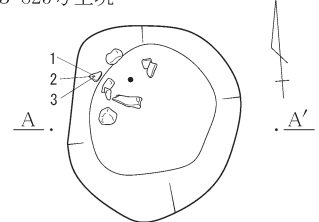


A L=640.00m A'

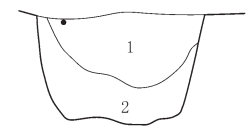


5-824号土坑
1 黒褐色土 ローム粒子含み縮まりあり。
2 黒褐色土 1より軟質で黒味あり。
3 黒褐色土 ローム粒、小ブロック含む。

5-825号土坑

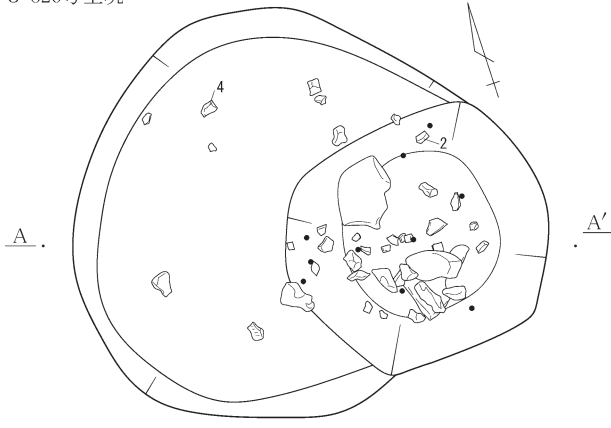


A L=640.00m A'

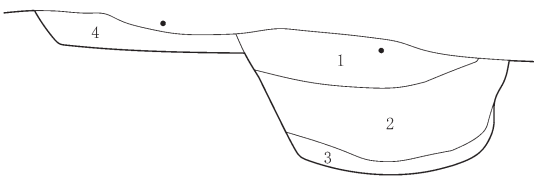


5-825号土坑
1 黒色土 ローム粒、赤褐色粒子含む。
2 黒褐色土 ローム粒子多く含む。

5-826号土坑

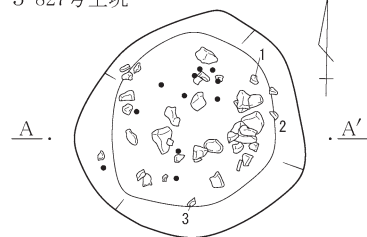


A L=640.20m A'

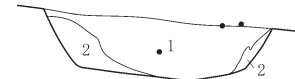


5-826号土坑
1 黒色土 ローム粒、赤色粒子含む。
2 黒色土 1と似るがやや軟質。
3 黒色土 ローム粒、若干のロームブロック含む。
4 黒色土 ローム粒赤色粒子含み縮まりあり。

5-827号土坑

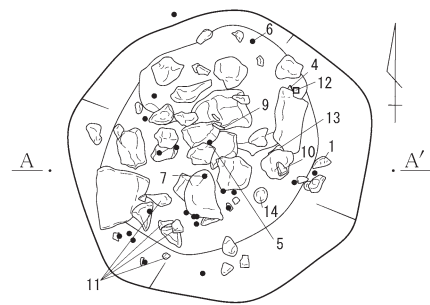


A L=649.60m A'

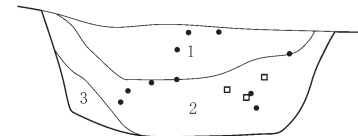


5-827号土坑
1 黒褐色土 ローム粒子含み縮まる。
2 黒褐色土 ローム粒子(YPK)若干含む。

5-828号土坑



A L=639.50m A'

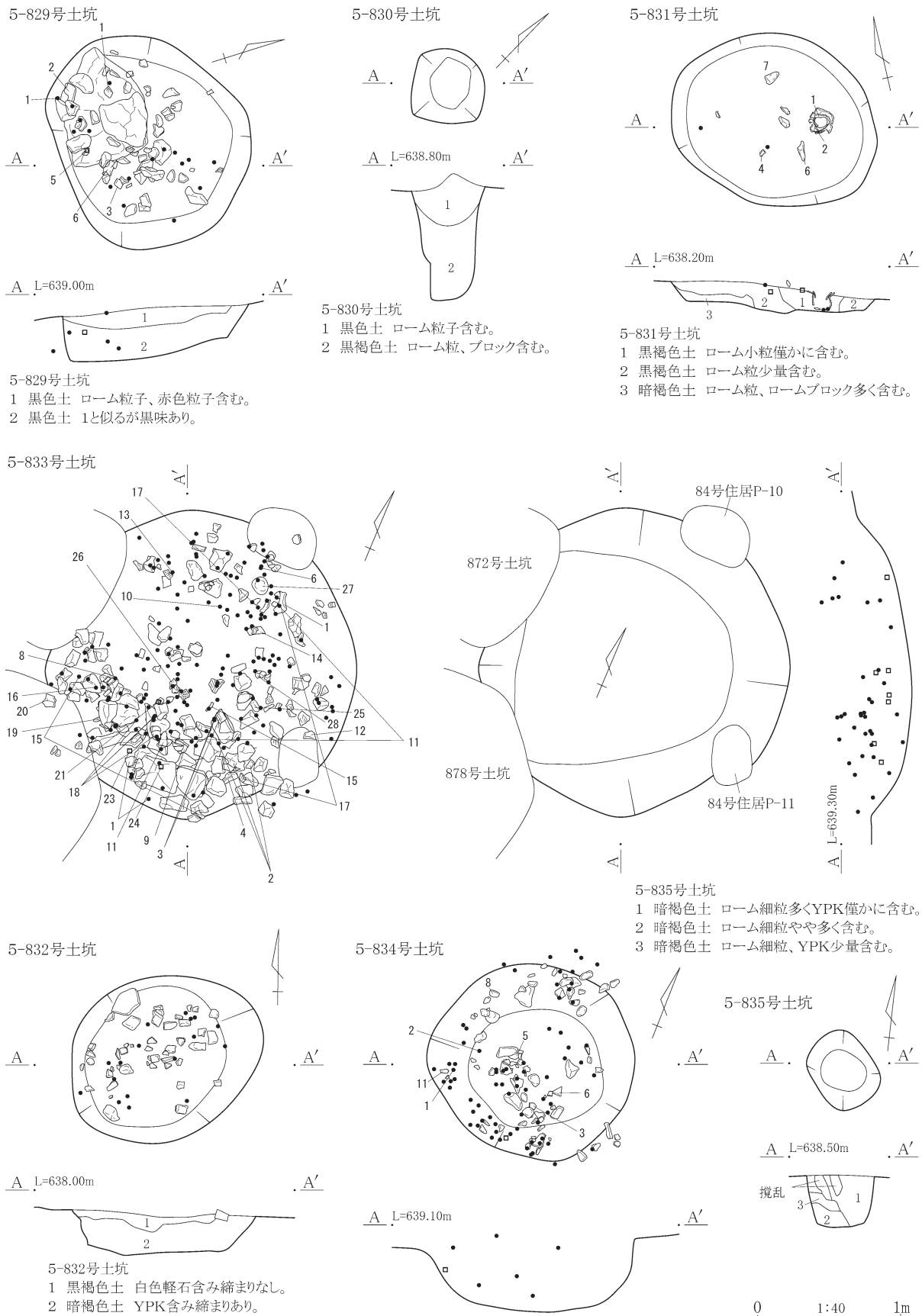


5-828号土坑
1 黒色土 ローム粒子含む。
2 黒色土 1より軟質。
3 黒褐色土 ローム小ブロック含む。

0 1:40 1m

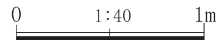
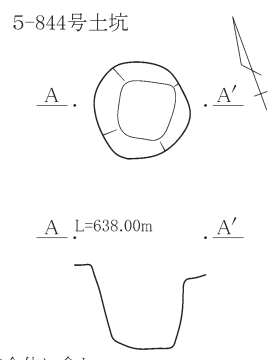
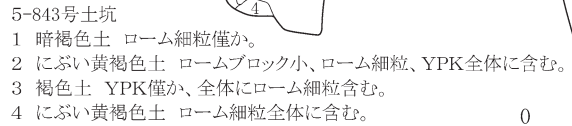
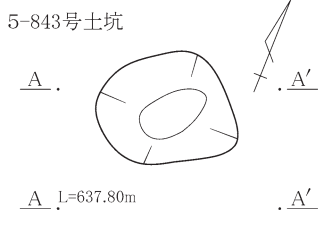
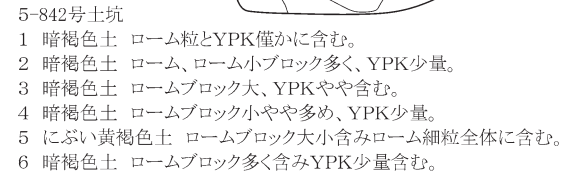
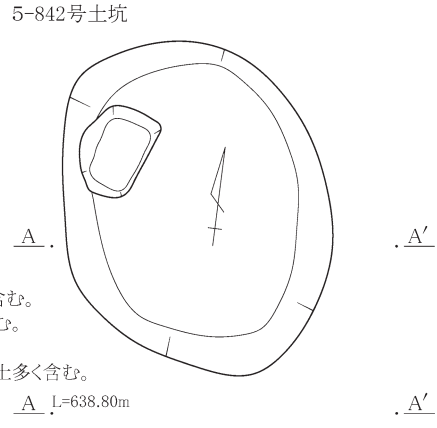
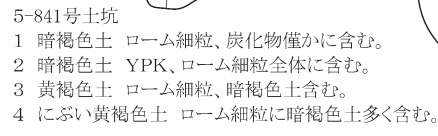
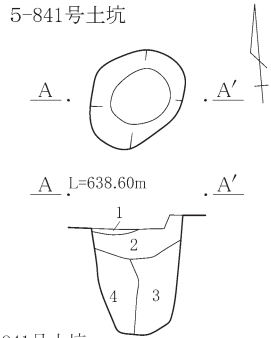
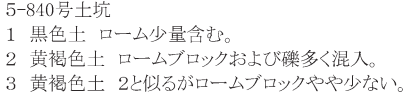
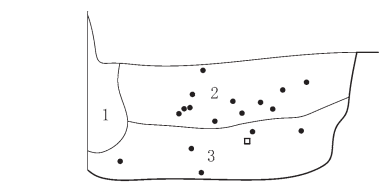
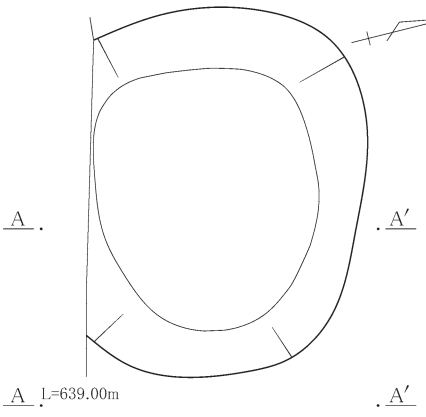
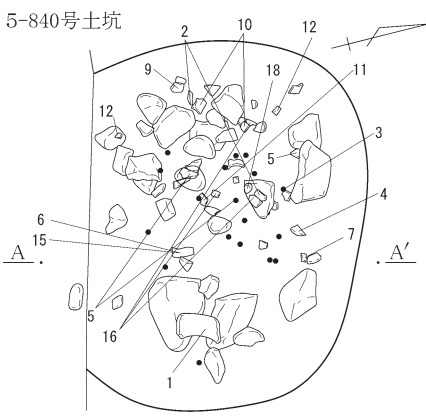
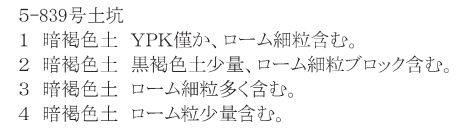
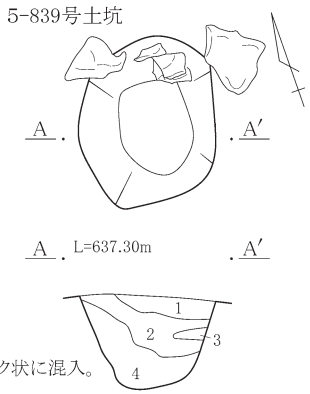
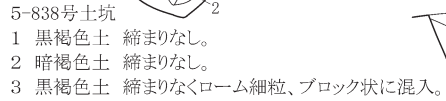
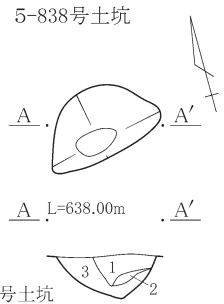
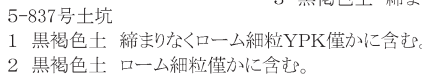
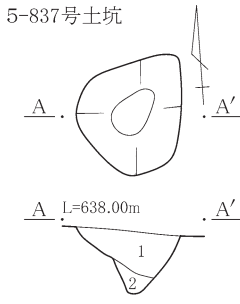
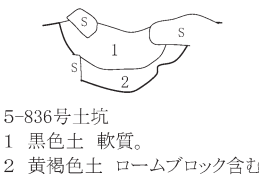
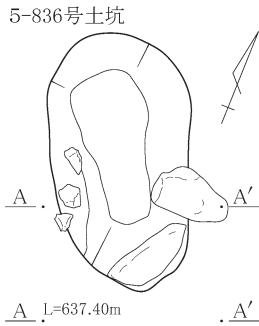
第386図 5-823～828号土坑

第3章 検出された遺構と遺物



第387図 5-829~835号土坑

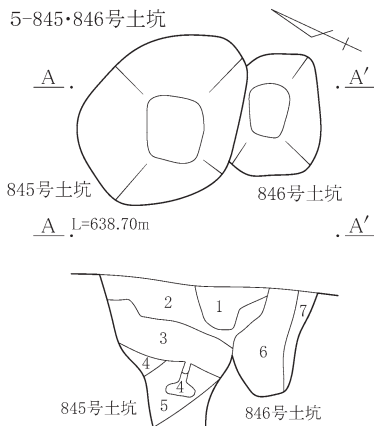
第3節 縄文時代の遺構と遺物



第388図 5-836~844号土坑

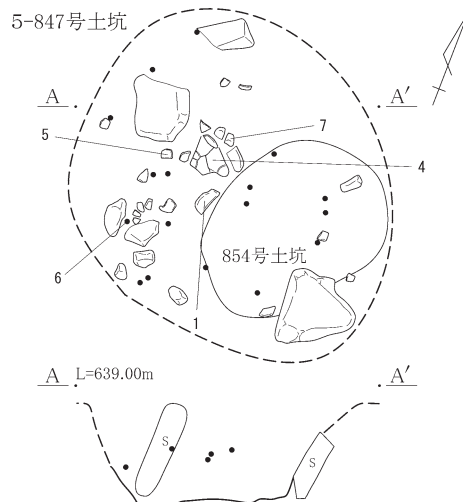
第3章 検出された遺構と遺物

5-845・846号土坑

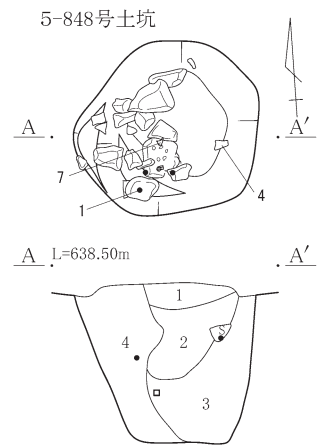


- 5-845・846号土坑
 1 暗褐色土 ローム粒、YPK少量含む。
 2 暗褐色土 ロームブロック、ローム粒多く含む。
 3 暗褐色土 ローム粒、YPK僅かに含む。
 4 にぶい黄褐色土 暗褐色土とローム細粒の混土。
 5 にぶい黄褐色土 ロームブロック、YPK少量。
 6 暗褐色土 ローム粒少量、YPK、炭化物僅かに含む。
 7 暗褐色土 ロームブロック、ローム粒僅かに含む。

5-847号土坑

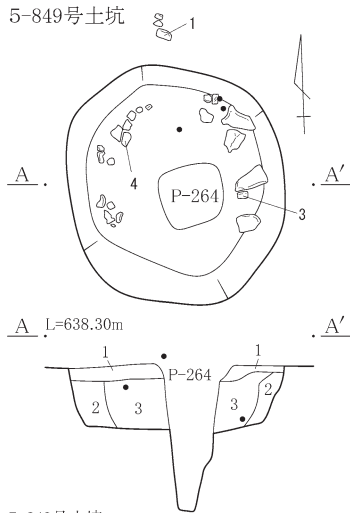


5-848号土坑



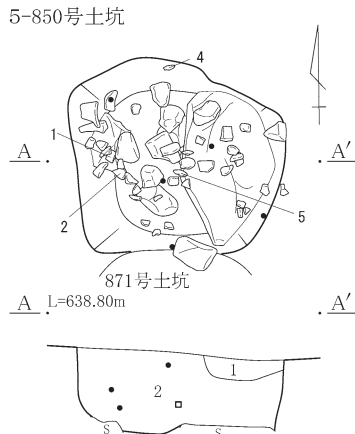
- 5-848号土坑
 1 暗褐色土 ローム粒、炭化物少量含む。
 2 暗褐色土 ローム粒、YPK少量含む。
 3 暗褐色土 ローム粒、YPK含む。
 4 暗褐色土 3にロームブロック含む。

5-849号土坑



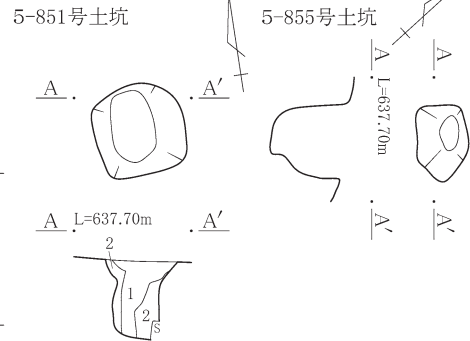
- 5-849号土坑
 1 黒褐色土 褐色粒、淡白黄軽石少量含む。
 2 暗褐色土 褐色粒、淡白黄軽石より多い。
 3 暗褐色土 YPK、褐色土粒、炭化物僅かに含み礫を混入。

5-850号土坑



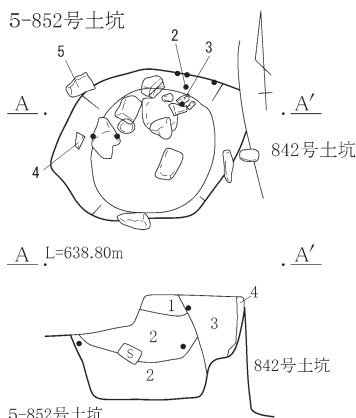
- 5-850号土坑
 1 黒色土 少量のローム粒含む。
 2 暗黒褐色土 多量のローム粒含み、土器片、礫混入。

5-851号土坑



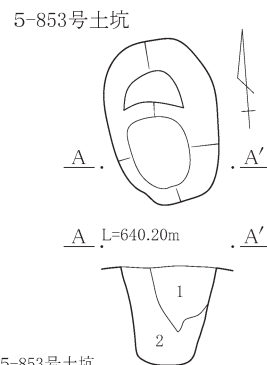
- 5-851号土坑
 1 にぶい黄褐色土 黒褐色土細粒含む。
 2 暗黄褐色土 YPK僅かに含む。
 3 暗褐色土 ロームブロック含む。

5-852号土坑



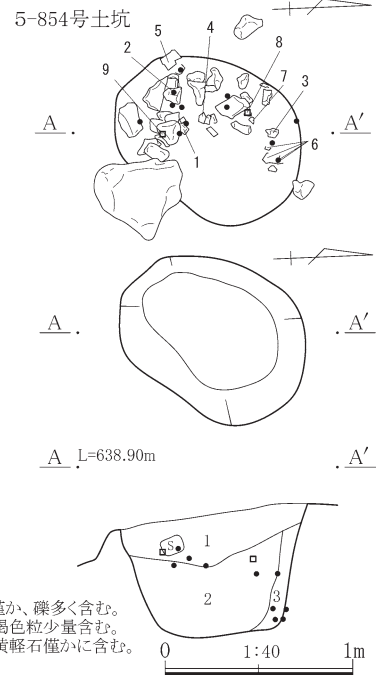
- 5-852号土坑
 1 暗褐色土 YPK僅かに含む。
 2 暗褐色土 YPK、ローム粒、炭化物僅かに含む。
 3 黒褐色土 縮まり弱くローム細粒少量含む。
 4 黒褐色土 縮まり弱くローム細粒目立つ。

5-853号土坑



- 5-853号土坑
 1 暗褐色土 ローム粒少量、淡白黄軽石、YPK僅かに含む。
 2 暗褐色土 YPK僅かローム粒、細粒やや多い。

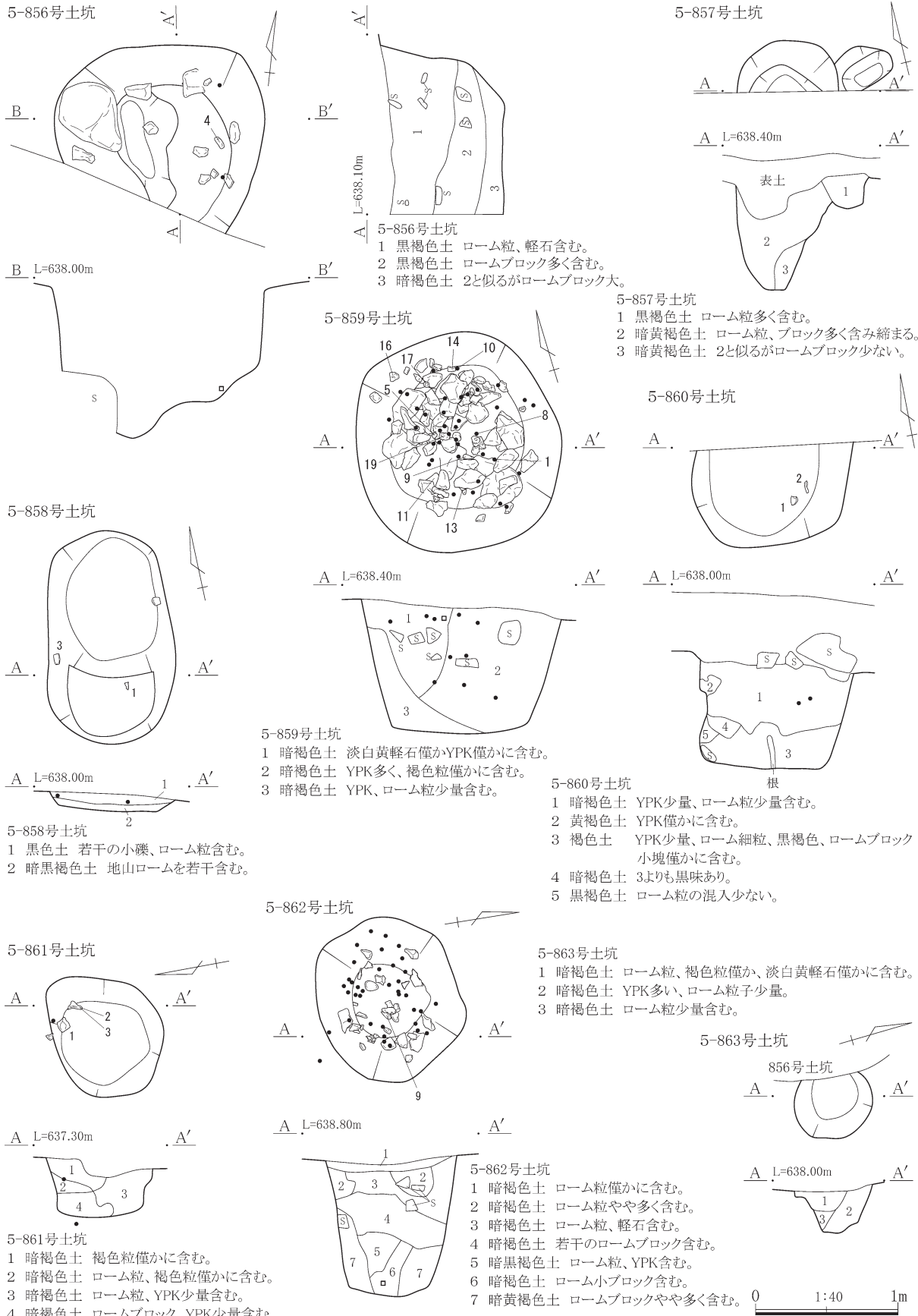
5-854号土坑



- 5-854号土坑
 1 暗褐色土 ローム粒、炭化物僅か、礫多く含む。
 2 暗褐色土 YPK少量、礫含み褐色粒少量含む。
 3 暗褐色土 YPK、褐色粒淡白黄軽石僅かに含む。

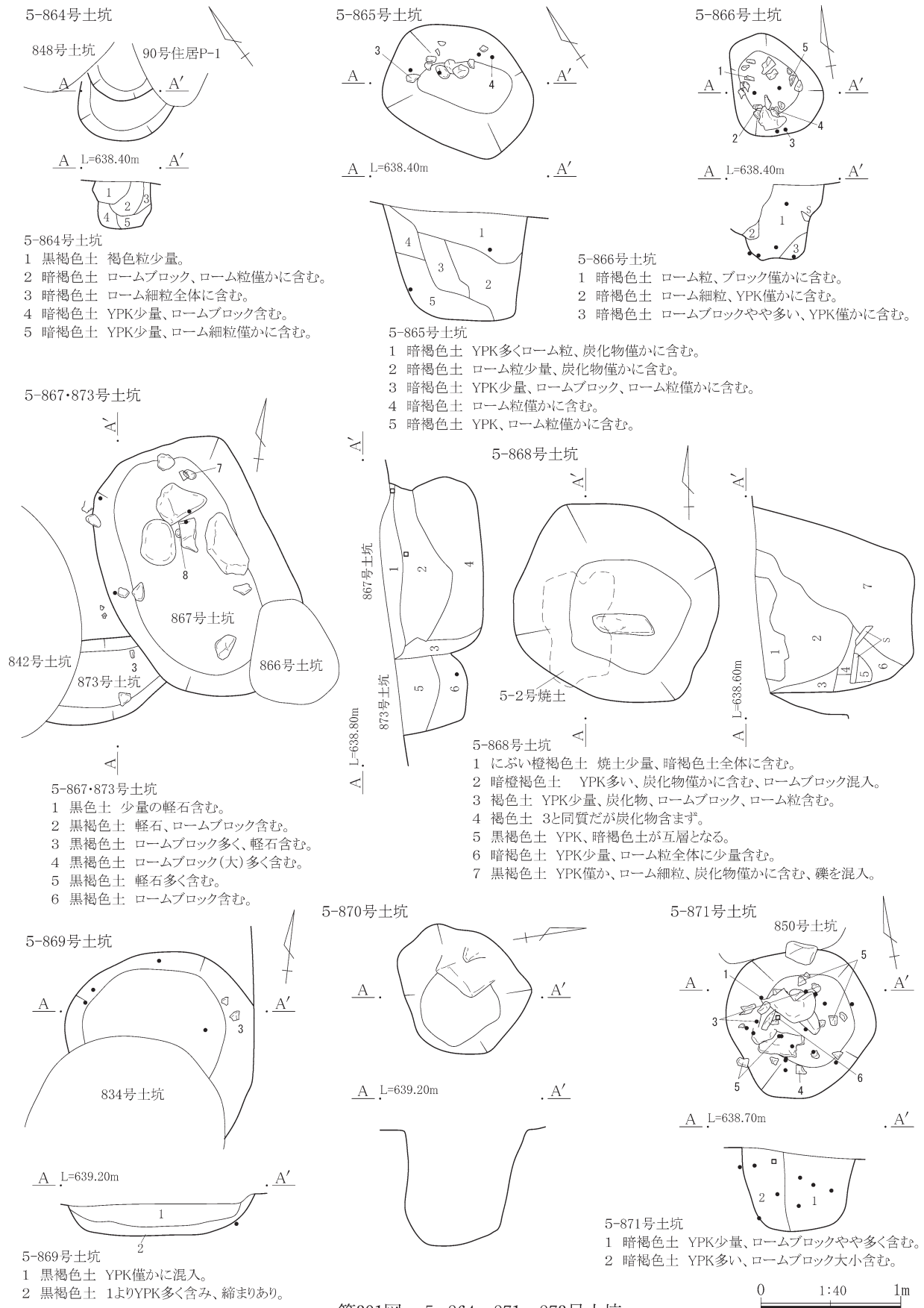
第389図 5-845～855号土坑

第3節 縄文時代の遺構と遺物



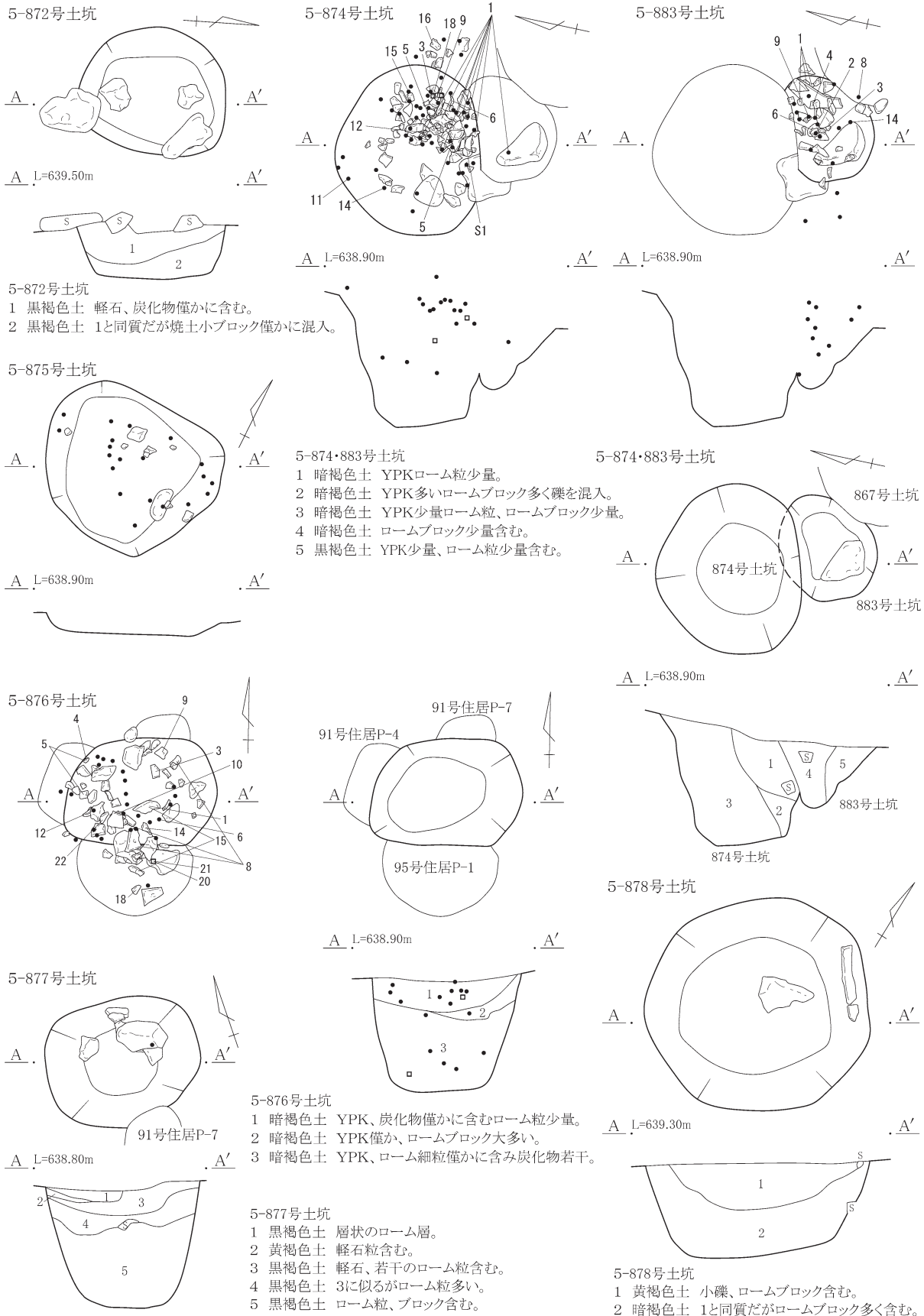
第390図 5-856～863号土坑

第3章 検出された遺構と遺物



第391図 5-864～871・873号土坑

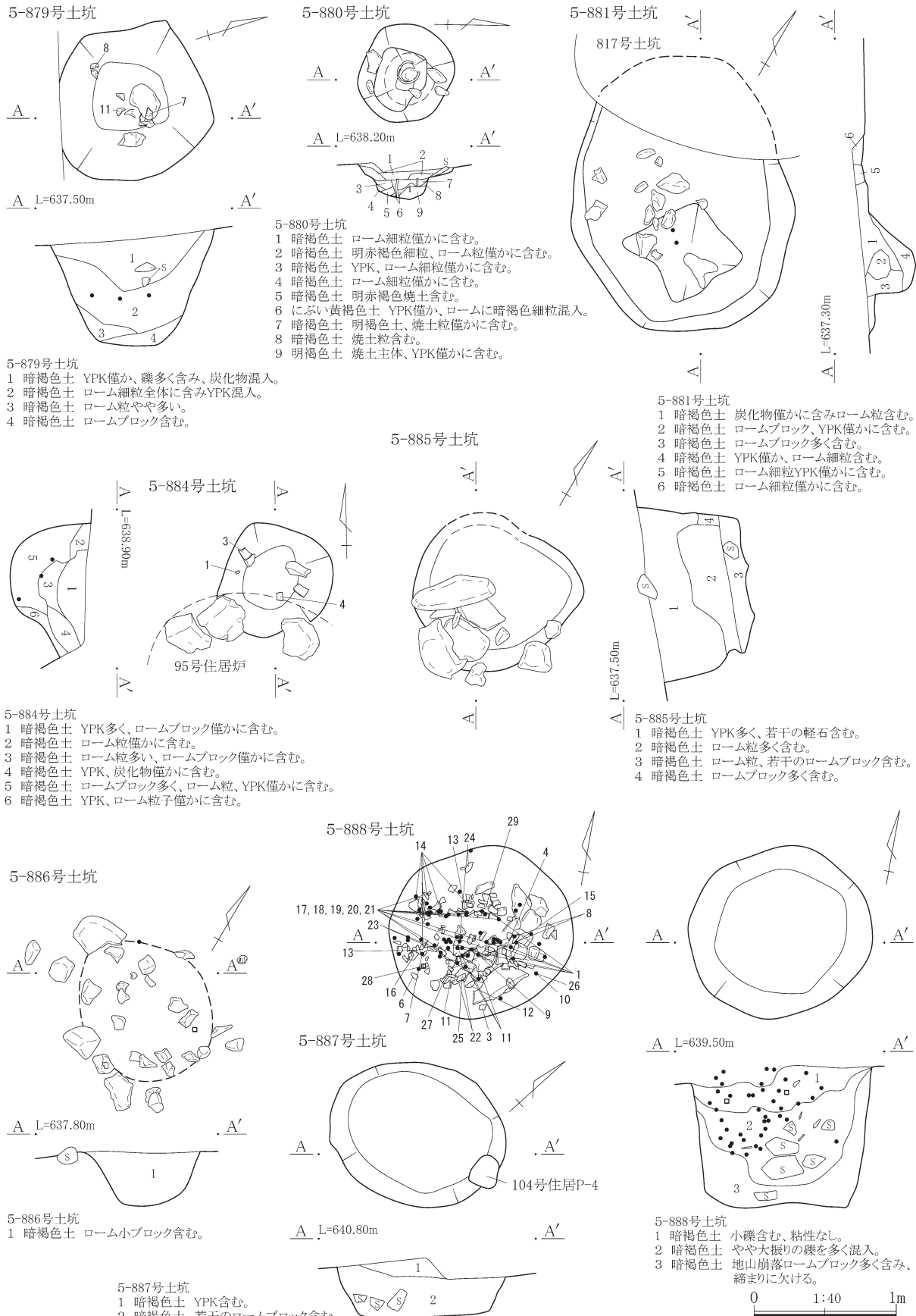
第3節 縄文時代の遺構と遺物



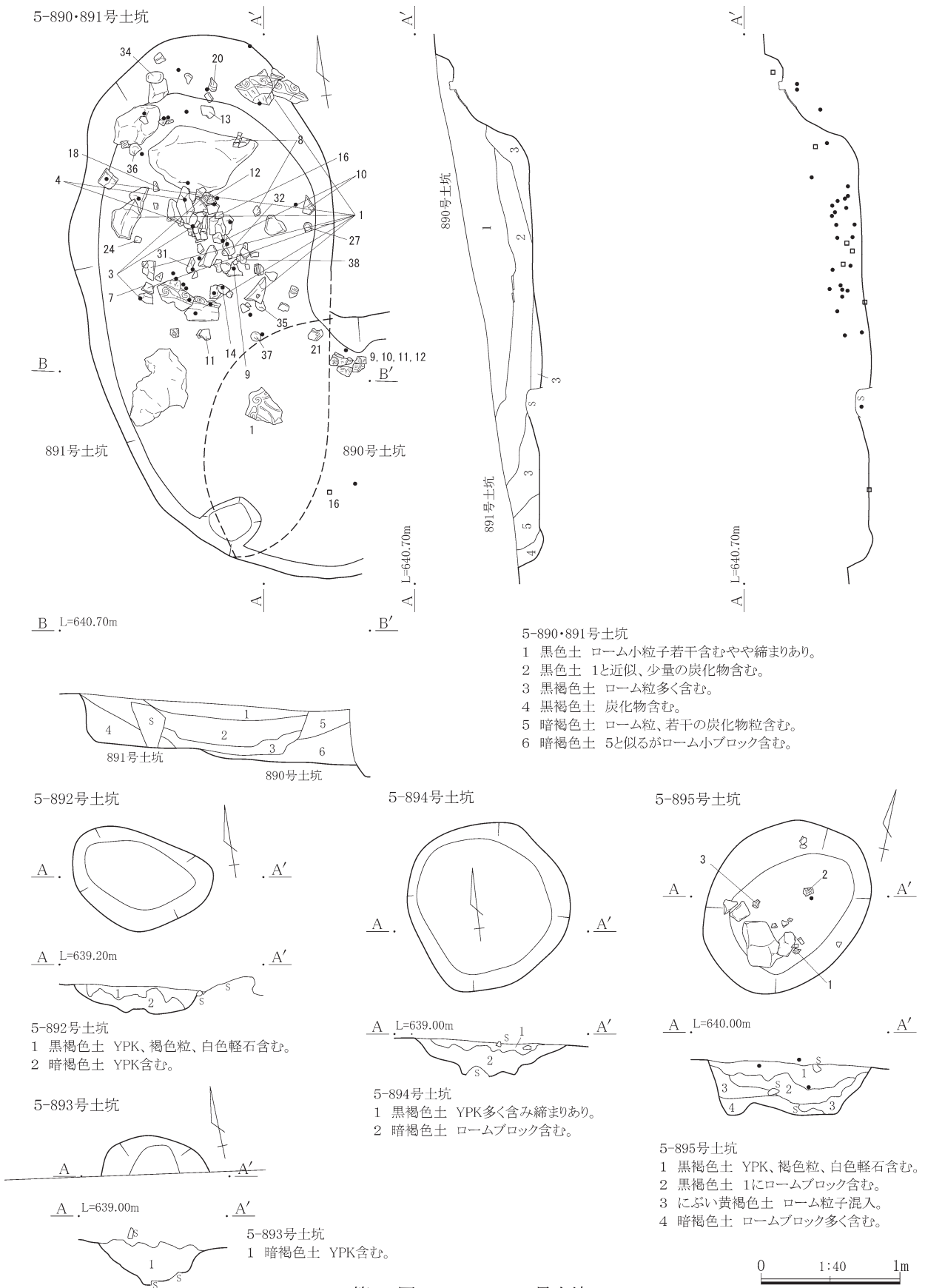
第392図 5-872・874～878・883号土坑

0 1:40 1m

第3章 検出された遺構と遺物



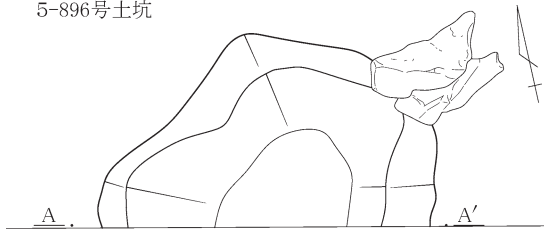
第393図 5-879~881・884~888号土坑



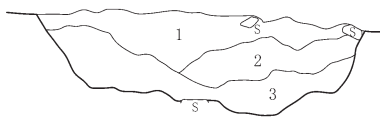
第394図 5-890～895号土坑

第3章 検出された遺構と遺物

5-896号土坑

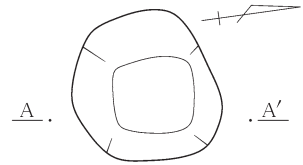


A L=639.30m A'

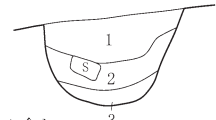


- 5-896号土坑
 1 暗褐色土 褐色粒含む。
 2 にぶい黄褐色土 ローム粒含む。
 3 暗褐色土 ロームブロック含む。

5-897号土坑

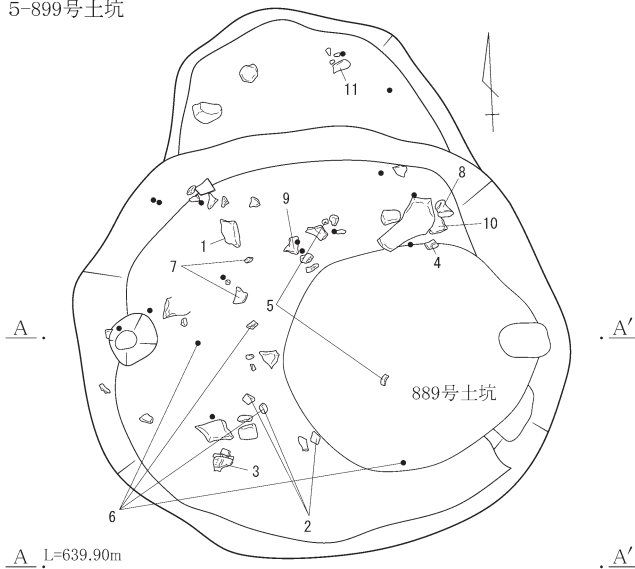


A L=639.10m A'



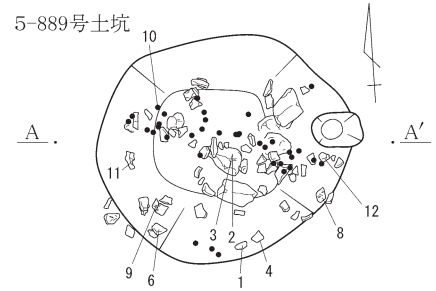
- 5-897号土坑
 1 黒色土
 2 黒褐色土 ローム含む。
 3 黒褐色土 ロームブロック含む。

5-899号土坑

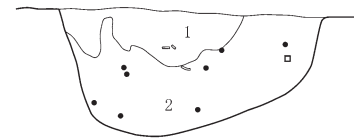


A L=639.90m A'

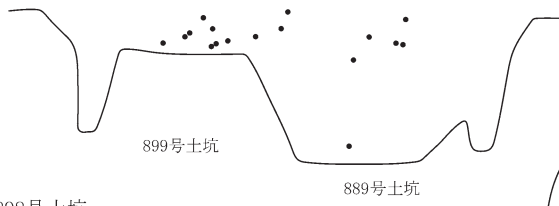
5-889号土坑



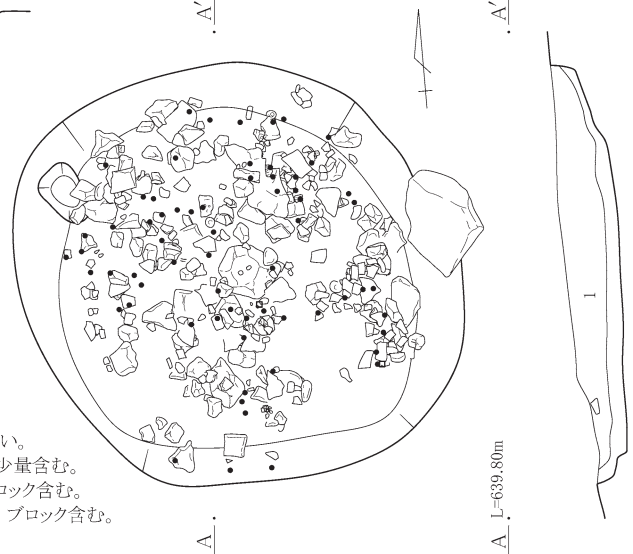
A L=639.80m A'



- 5-889号土坑
 1 暗褐色土 YPK多く含み締まり、粘性あり。
 2 暗褐色土 1と似るが褐色土含む。

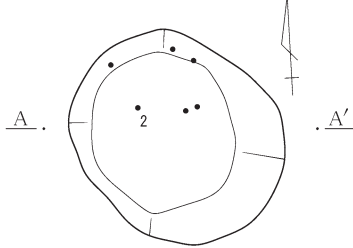


5-900号土坑

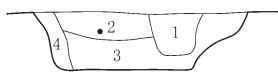


5-900号土坑
 1 暗褐色土 ローム粒、軽石含み締まりあり。

5-898号土坑



A L=640.70m A'



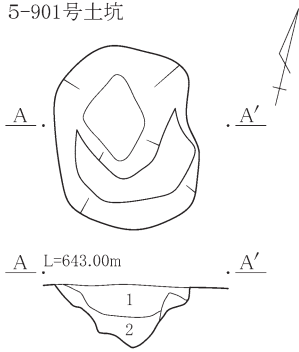
- 5-898号土坑
 1 黒色土 軟質で黒味強い。
 2 黒褐色土 ローム粒子少量含む。
 3 黒褐色土 ローム小ブロック含む。
 4 黒褐色土 ローム粒子、ブロック含む。

A L=639.80m

0 1:40 1m

第395図 5-889・896~900号土坑

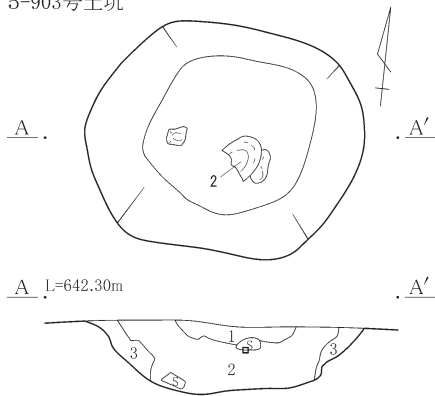
5-901号土坑



5-901号土坑

- 1 オリーブ褐色土 YPK少量、よごれた感じ。
- 2 暗黒褐色土 モザイク状。小礫僅かに混入。

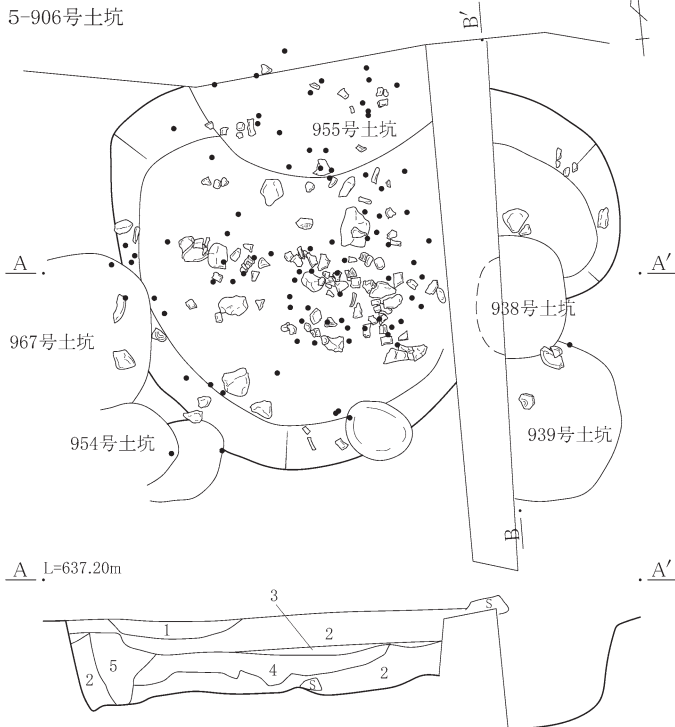
5-903号土坑



5-903号土坑

- 1 暗褐色土 YPK少量、根による攪乱。
- 2 黒褐色土 小礫混入。
- 3 暗褐色土 モザイク状。小礫混入。

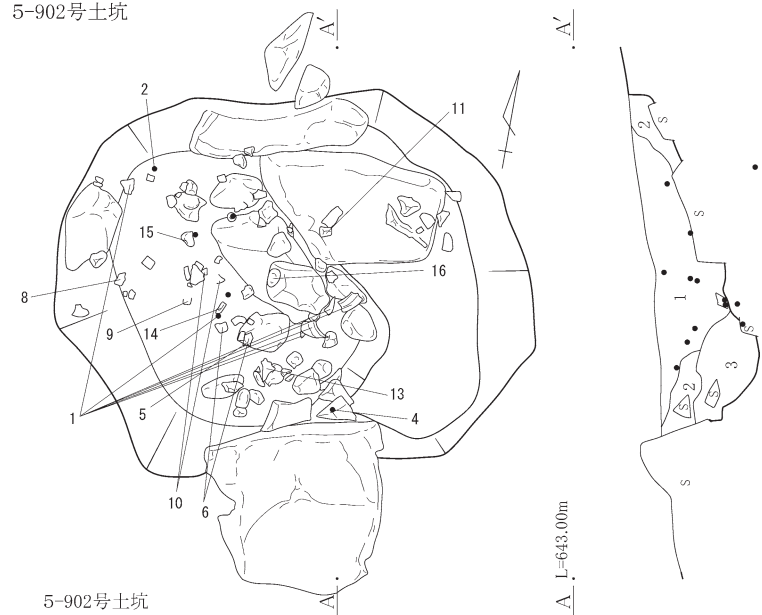
5-906号土坑



5-906号土坑

- 1 黒色土 攪乱。
- 2 黒褐色土 ローム小粒子含み土器多く含む。
- 3 オリーブ褐色土 YPK僅か、炭化物極少量含む。
- 4 にぶい黄褐色土 1と近似。
- 5 暗褐色土 ロームブロック大含み締まる。

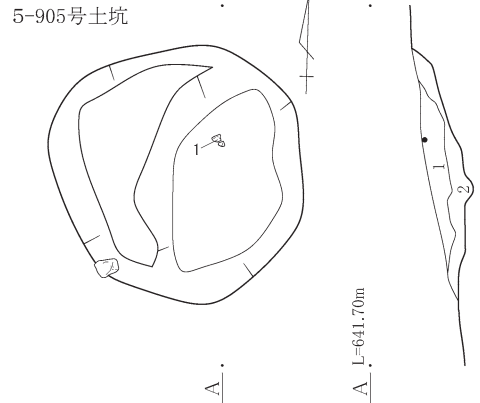
5-902号土坑



5-902号土坑

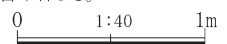
- 1 暗褐色土 ローム粒含み軟質。
- 2 暗褐色土 ロームブロック僅かに含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロック多く含む。

5-905号土坑



5-905号土坑

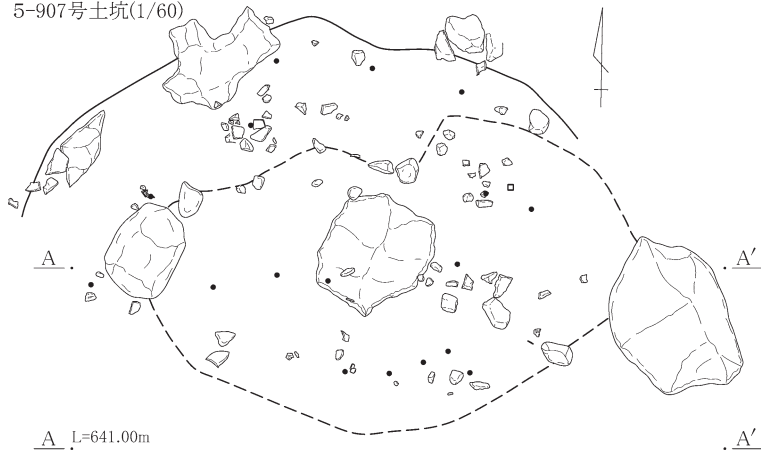
- 1 暗褐色土 ローム粒多く含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック含む。



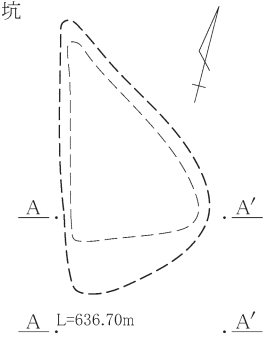
第396図 5-901~903・905・906号土坑

第3章 検出された遺構と遺物

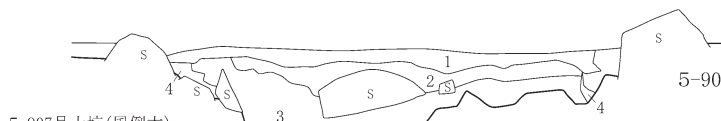
5-907号土坑(1/60)



5-908号土坑



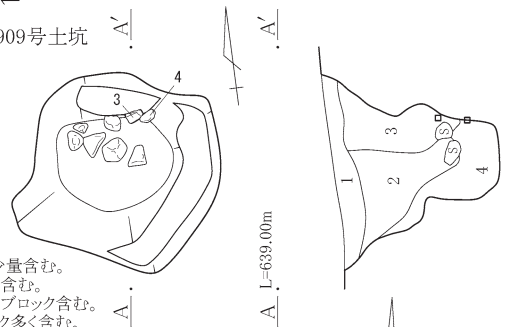
- 5-908号土坑
 1 黒褐色土 黒味強い。
 2 黒褐色土 ローム粒多く含む。
 3 黒褐色土 ローム粒、軽石含む、黒色土ブロック混入。



5-907号土坑(風倒木)

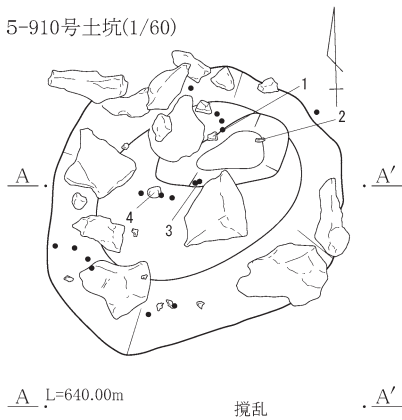
- 1 黒色土 若干のローム含む。
 2 黄褐色土 ロームブロック多く含む、大形礫混入。
 3 黒褐色土 少量のロームブロック含む。
 4 暗黄褐色土 ロームブロック主体とする。

5-909号土坑



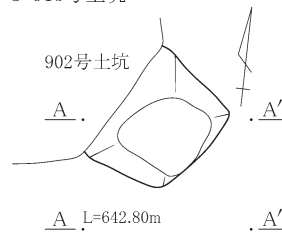
- 5-909号土坑
 1 黒色土 細粒でローム粒少量含む。
 2 黒褐色土 ローム粒子多く含む。
 3 黒褐色土 ローム粒子、小ブロック含む。
 4 黒褐色土 ローム小ブロック多く含む。

5-910号土坑(1/60)



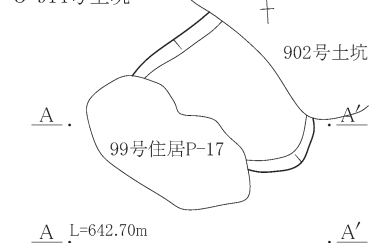
- 5-910号土坑
 1 黄褐色ローム
 2 黒色土 ローム小ブロック20%。
 3 黒色土 ロームをシミ状に等量含む。

5-913号土坑



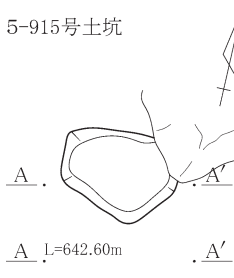
- 5-913号土坑
 1 黒褐色土 ローム小ブロック、炭化粒僅かに含む。
 2 にぶい褐色土 ローム小ブロック、大粒の炭化物粒僅かに含む。
 3 暗褐色土 2と近似、炭化物粒やや小さい。

5-914号土坑



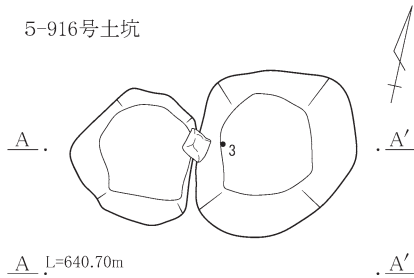
- 5-914号土坑
 1 黒褐色土 ロームブロック大含む。
 2 にぶい褐色土 ローム小ブロック、炭化物粒含む。
 3 黒褐色土 YPK含み黒味あり。

5-915号土坑

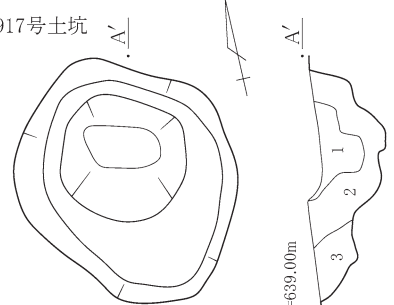


- 5-915号土坑
 1 にぶい褐色土 YPK僅か、ローム粒少量含む。

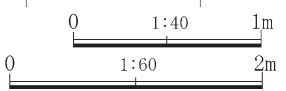
5-916号土坑



5-917号土坑



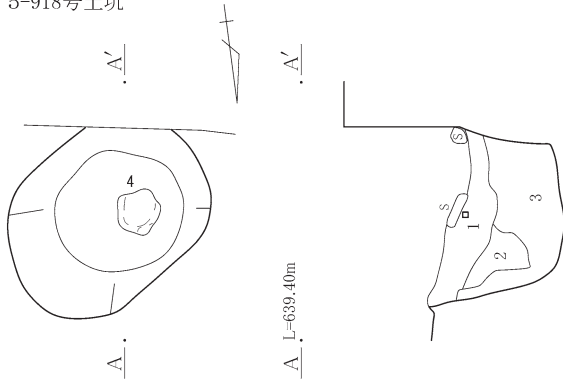
- 5-917号土坑
 1 暗褐色土 ローム粒僅かに含む。
 2 暗褐色土 ローム小ブロック含む。
 3 暗褐色土 2と近似、縮まりあり。



第397図 5-907~910・913~917号土坑

第3節 縄文時代の遺構と遺物

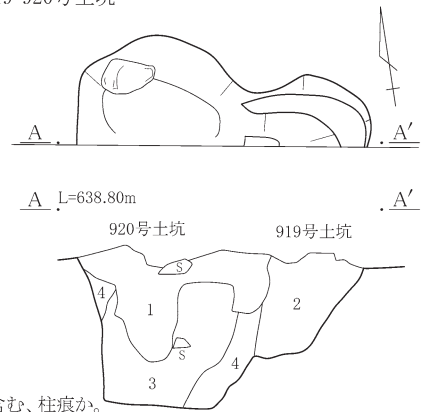
5-918号土坑



5-918号土坑

- 1 黒色土 ローム粒子含む。
- 2 暗褐色土 1と同質だがローム粒子小さい。
- 3 黒褐色土 ローム粒子多く含む。

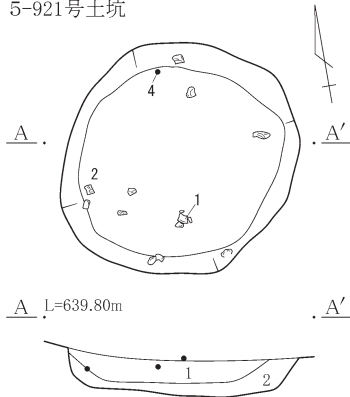
5-919・920号土坑



5-919・920号土坑

- 1 黒褐色土 礫を含む、柱痕か。
- 2 黒褐色土 黄色粒僅か、小礫僅かに含む。
- 3 黒褐色土 YPK僅か、ロームブロック大僅かに含む。
- 4 黒褐色土 YPK含み黒味強い。

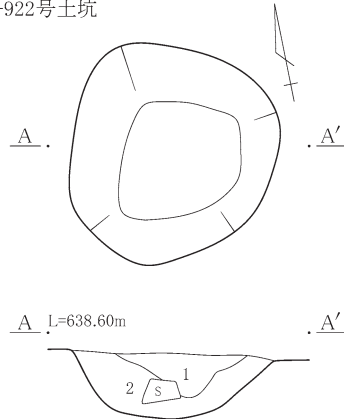
5-921号土坑



5-921号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒多く含む。
- 2 暗褐色土 ローム小ブロック僅かに含む。

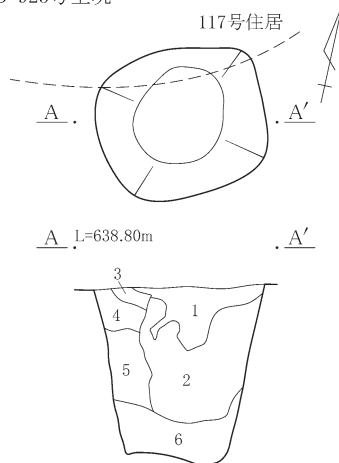
5-922号土坑



5-922号土坑

- 1 暗褐色土 ローム小ブロック含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック多く、礫を含む。

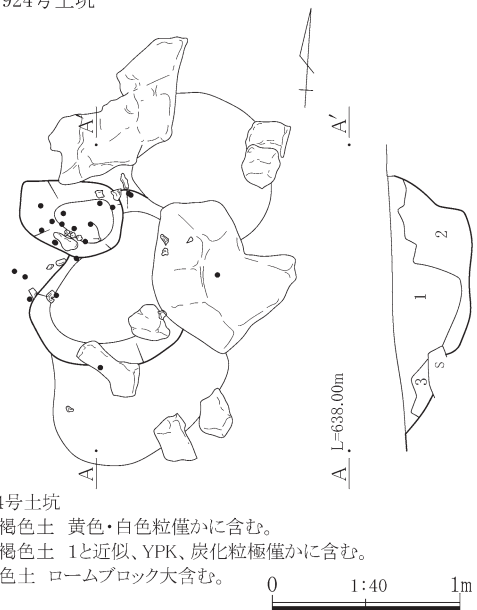
5-923号土坑



5-923号土坑

- 1 黒褐色土 黄色粒僅か、礫僅かに含む。
- 2 黒褐色土 白色粒、ロームブロック大僅かに含み締まる。
- 3 黒褐色土 ロームブロック小僅かに含む。
- 4 黒褐色土 3に小礫を混入。
- 5 黒褐色土 ロームブロック大、YPK僅かに含む。
- 6 黄褐色土 汚れた感じのローム混土。

5-924号土坑



5-924号土坑

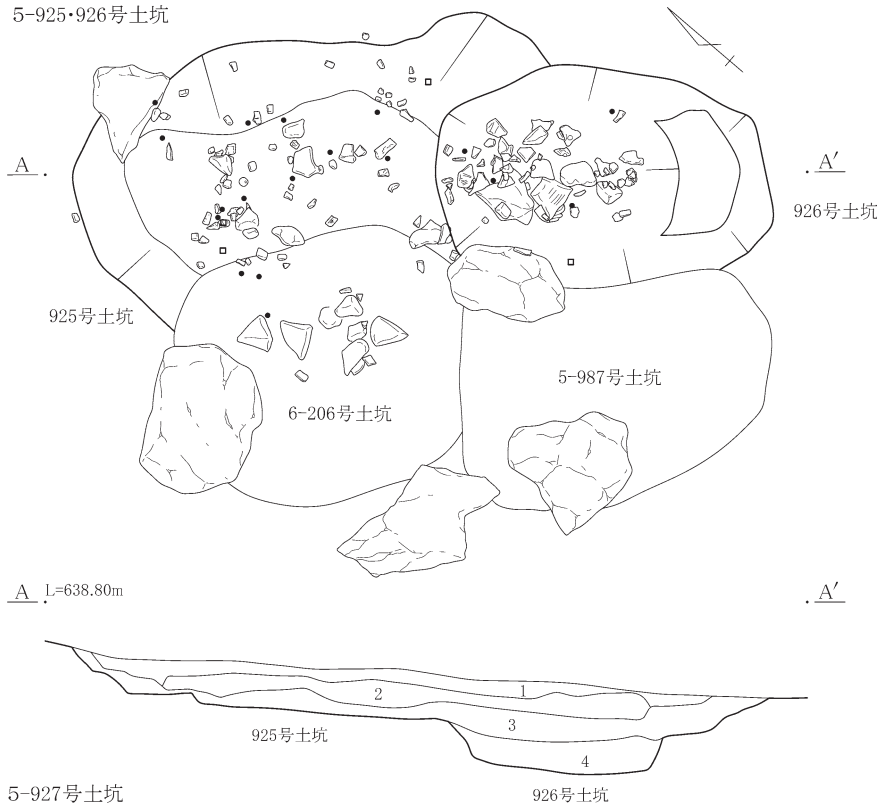
- 1 黒褐色土 黄色・白色粒僅かに含む。
- 2 黒褐色土 1と近似、YPK、炭化粒極僅かに含む。
- 3 褐色土 ロームブロック大含む。

0 1:40 1m

第398図 5-918～924号土坑

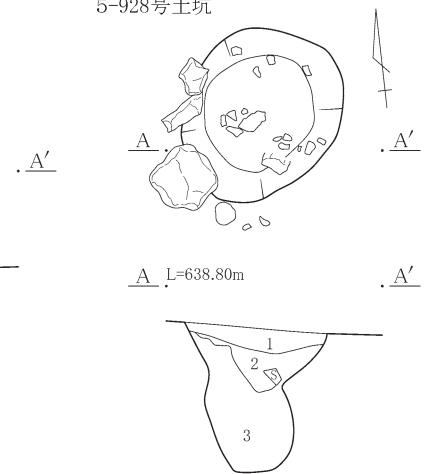
第3章 検出された遺構と遺物

5-925・926号土坑



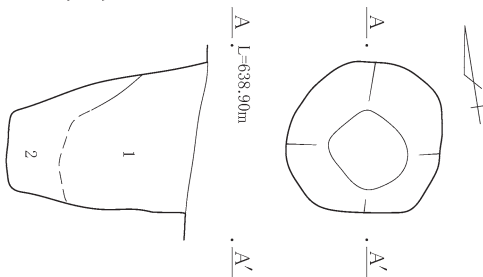
- 5-925・926号土坑
- 1 黒褐色土 ローム粒含む。
 - 2 暗褐色土 ロームブロック含む。
 - 3 暗褐色土 2と近似、明るい色調。
 - 4 黒褐色土 YPK含む。(5-926号土坑)

5-928号土坑



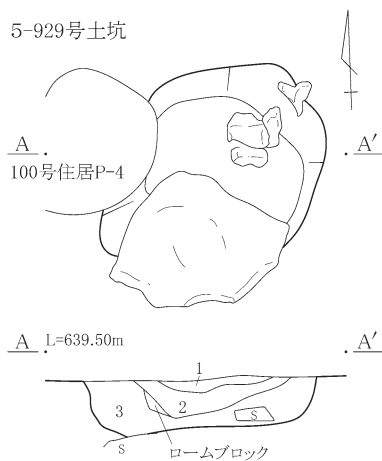
- 5-928号土坑
- 1 暗褐色土 ローム粒多く含む。
 - 2 暗褐色土 ロームブロック、礫を含む。
 - 3 暗褐色土 小礫含み粗粒。

5-927号土坑



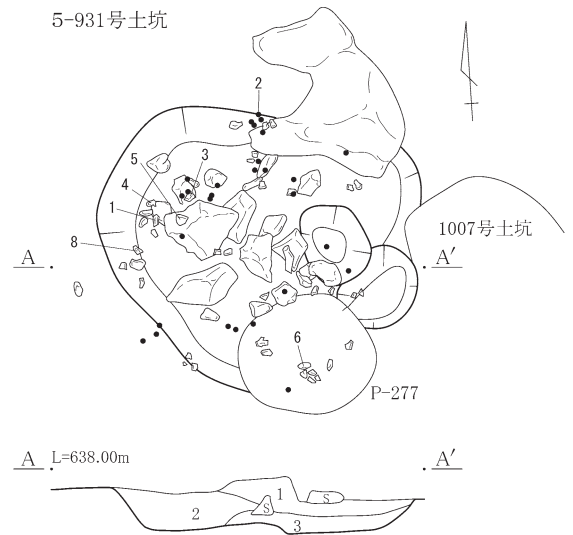
- 5-927号土坑
- 1 黒褐色土 ロームブロック小含む。
 - 2 オリーブ褐色土 大形礫混入し、締めりあり。

5-929号土坑



- 5-929号土坑
- 1 黒褐色土 粗粒で、ローム含む。
 - 2 暗褐色土 1と似るがロームやや多い。
 - 3 黒褐色土 ロームブロック多く含む。

5-931号土坑

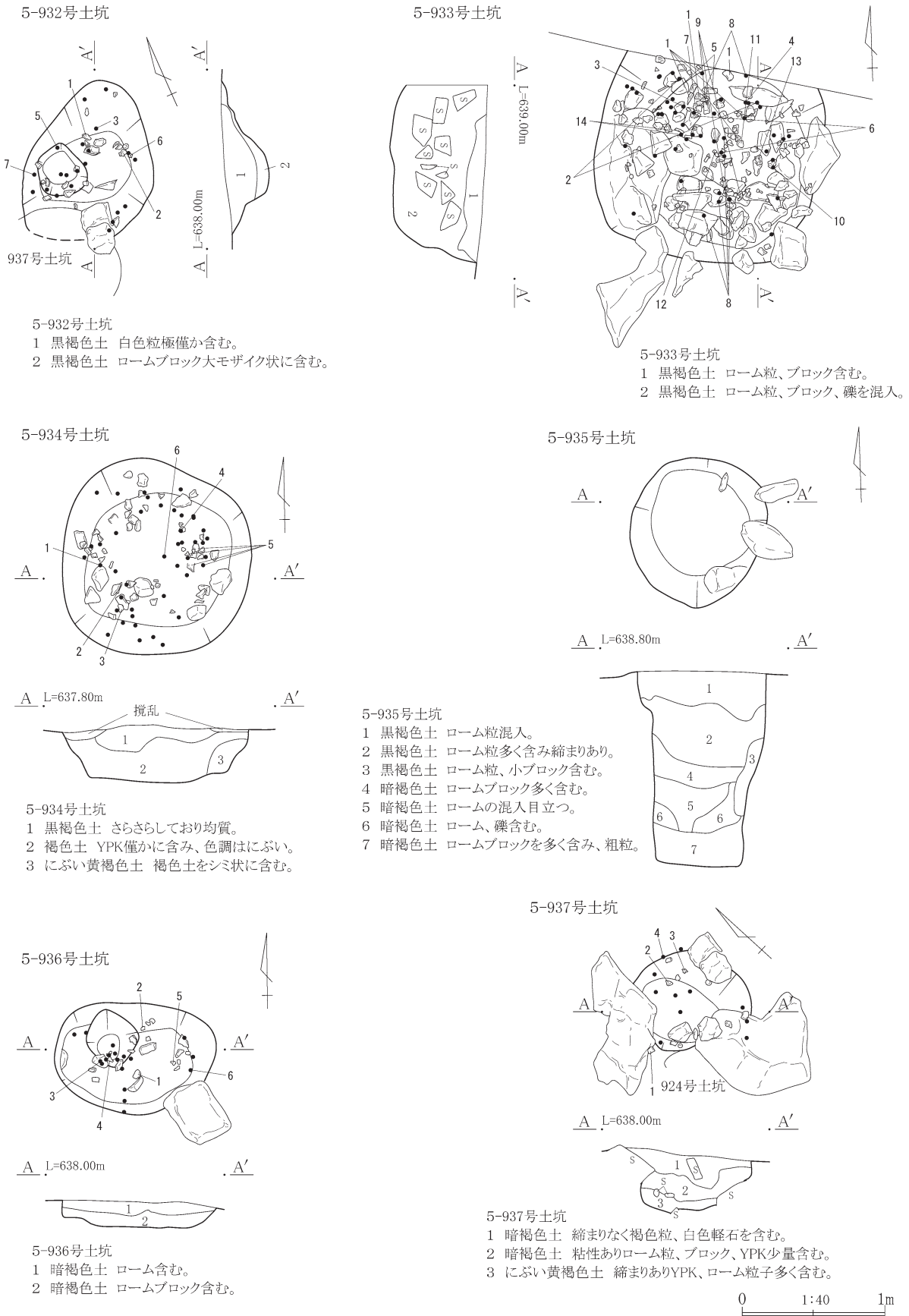


- 5-931号土坑
- 1 黒褐色土 YPK、ローム少量含む。
 - 2 黒褐色土 ローム含む。
 - 3 暗褐色土 ロームブロック多く含む。



第399図 5-925～929・931号土坑

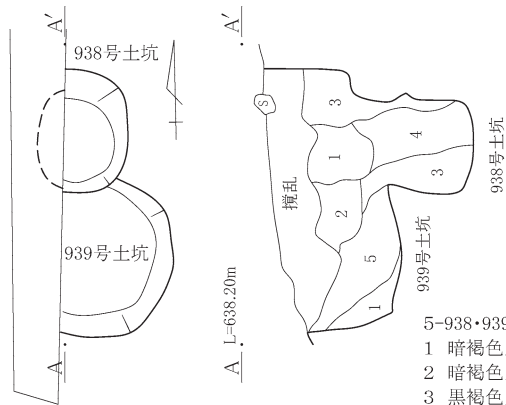
第3節 縄文時代の遺構と遺物



第400図 5-932~937号土坑

第3章 検出された遺構と遺物

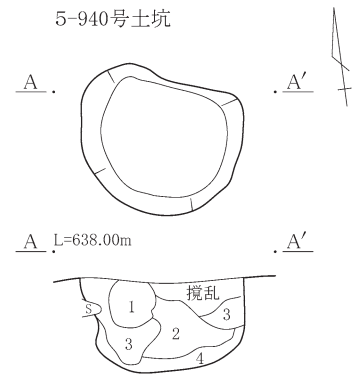
5-938・939号土坑



5-938・939号土坑

- 1 暗褐色土 ロームブロック混入。
- 2 暗褐色土 ロームブロック多く含む。
- 3 黒褐色土 ロームを斑に含み締まりあり。
- 4 黒褐色土 ロームブロック含みやや黒味あり。
- 5 黒褐色土 ロームブロック大を混入。

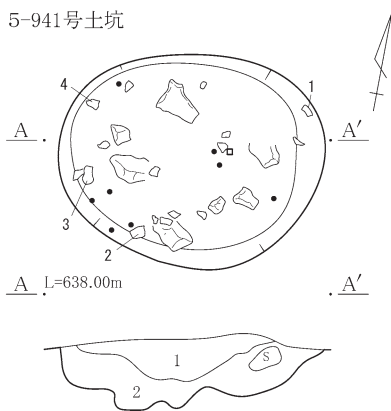
5-940号土坑



5-940号土坑

- 1 黒色土 ローム粒、小ブロック含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック含む。
- 3 黒褐色土 ロームブロックを含み軟質。
- 4 暗黄褐色土 ロームブロックを主体とする。

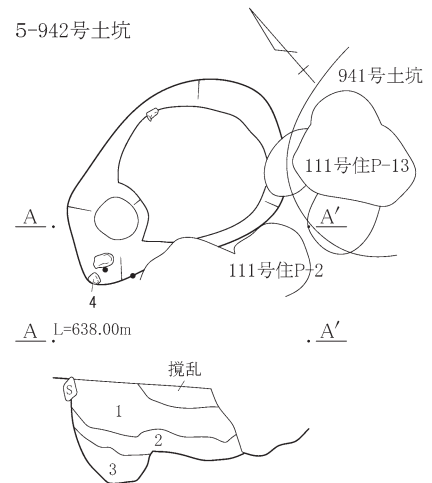
5-941号土坑



5-941号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒子多く含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒、ブロック含む。

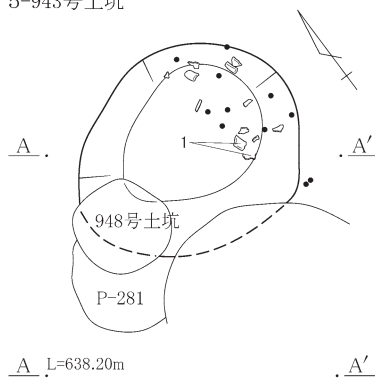
5-942号土坑



5-942号土坑

- 1 暗褐色土 ロームブロック含む。
- 2 ロームブロックを多く含む。
- 3 暗褐色土 1と似るがロームブロックやや多い。

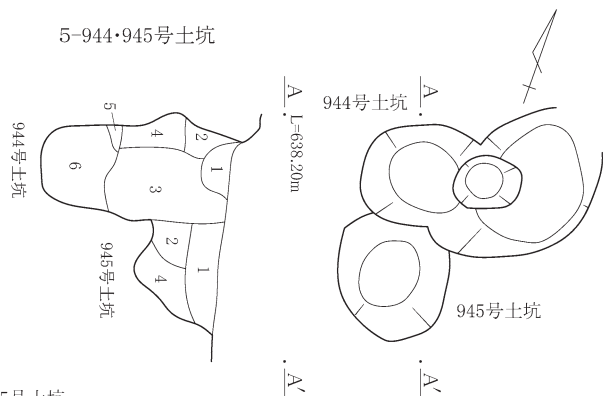
5-943号土坑



5-943号土坑

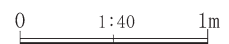
- 1 黒褐色土 締まりなくローム粒、ブロック、YPK含む。
- 2 にぶい黄褐色土 締まりあり、ローム粒子、YPK含む。
- 3 黒褐色土 1より粘質で黒味あり。
- 4 黒褐色土 崩落ローム径1cm程のYPK含む。
- 5 にぶい黄褐色土 ローム混じりのYPK主体土で脆弱。
- 6 黒褐色土 粘性あり、ロームブロック、YPK含む。

5-944・945号土坑



5-944・945号土坑

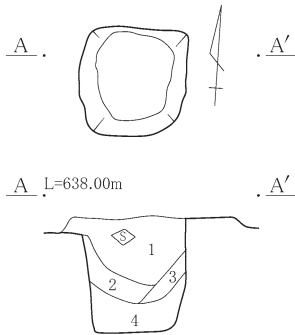
- 1 黒褐色土 締まりなくローム粒、ブロック、YPK含む。
- 2 にぶい黄褐色土 締まりあり、ローム粒子、YPK含む。
- 3 黒褐色土 1より粘質で黒味あり。
- 4 黒褐色土 崩落ローム多く含む。
- 5 にぶい黄褐色土 ローム混じりで脆弱。
- 6 黒褐色土 粘性あり、ロームブロック、YPK含む。



第401図 5-938～945号土坑

第3節 縄文時代の遺構と遺物

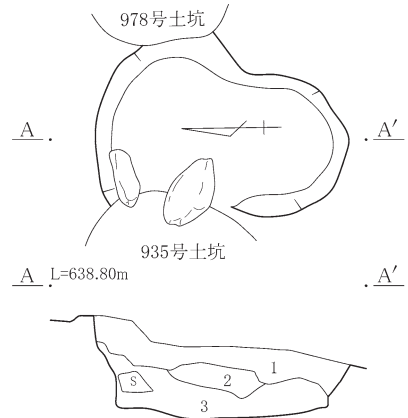
5-946号土坑



5-946号土坑

- 1 黒色土 少量のローム、炭化物含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒、炭化物多く含む。
- 3 暗褐色土 2と近似するが縮まりあり。
- 4 暗褐色土 ローム粒、小ブロック、小礫多く含む。

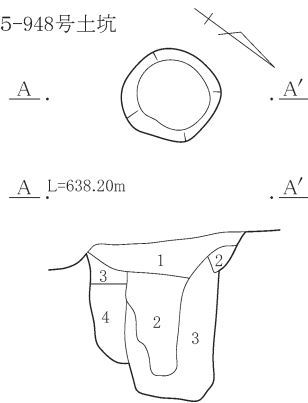
5-947号土坑



5-947号土坑

- 1 黒褐色土 YPK僅かに含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック僅かに含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒、ブロックを含む。

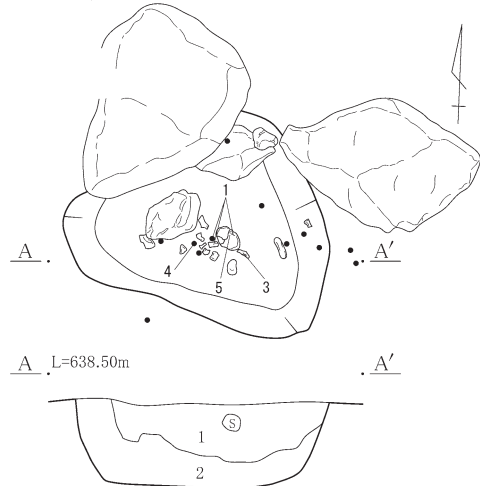
5-948号土坑



5-948号土坑

- 1 黒褐色土 YPK、ローム粒僅かに含む。
- 2 黒褐色土 若干のロームブロック含む。
- 3 黒褐色土 ロームブロック含みやや軟質。
- 4 暗褐色土 YPK、ローム小ブロック含む。

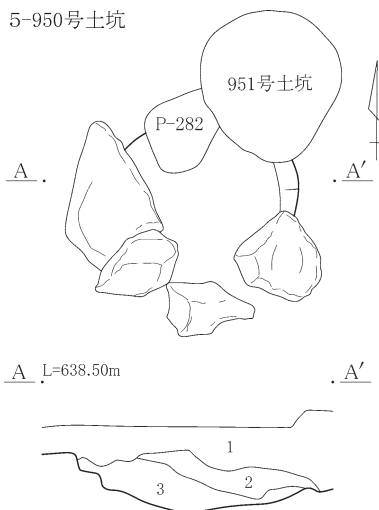
5-949号土坑



5-949号土坑

- 1 黒褐色土 均質、根による攪乱か。
- 2 オリーブ褐色土 均質YPK極少量含む。

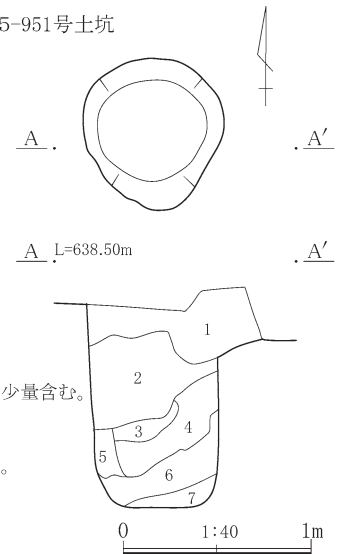
5-950号土坑



5-950号土坑

- 1 黒褐色土 YPK僅かに含む。
- 2 暗褐色土 YPK、ローム粒僅かに含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロックを含む。

5-951号土坑



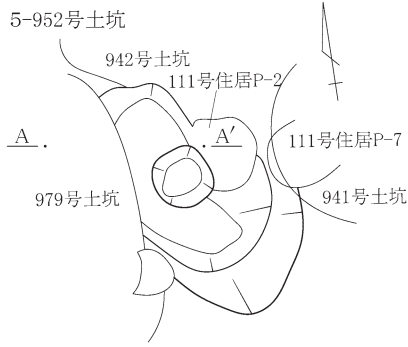
5-951号土坑 A-A'

- 1 オリーブ褐色土 YPK、ローム小ブロック少量含む。
- 2 黒褐色土 YPK、ローム粒僅かに含む。
- 3 黒褐色土 若干のロームブロック含む。
- 4 黒褐色土 ロームブロック含みやや軟質。
- 5 暗褐色土 YPK、ローム小ブロック含む。
- 6 暗褐色土 ロームブロック含む。
- 7 暗褐色土 6と似るが粘性あり。

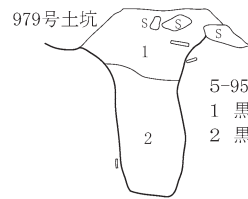
第402図 5-946～951号土坑

第3章 検出された遺構と遺物

5-952号土坑

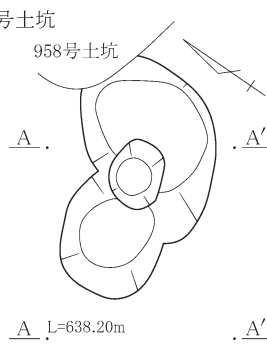


A L=638.00m A'

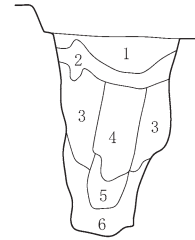


5-952号土坑
1 黒褐色土 YPK、ローム粒僅かに含む。
2 黒褐色土 1と似るがローム粒やや多く含む。

5-953号土坑

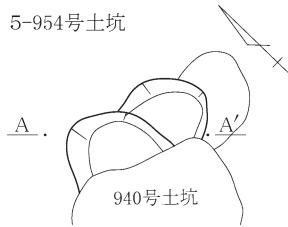


A L=638.20m A'



5-953号土坑
1 黒褐色土 YPK、ローム粒僅かに含む。
2 暗褐色土 ローム粒含む。
3 暗褐色土 若干のロームブロック含む。
4 暗褐色土 ローム粒、ブロックを含みや軟質。
5 暗褐色土 ロームブロック含む。
6 黒褐色土 ロームブロック多く含む。

5-954号土坑

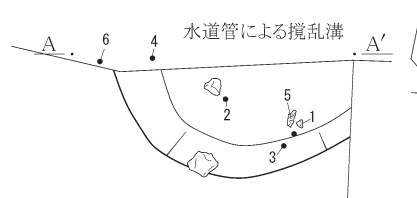


A L=638.00m A'

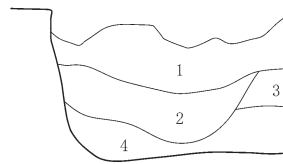


5-954号土坑
1 黒褐色土 ローム粒含む。
2 黒褐色土 ロームブロック多く含む。

5-955号土坑

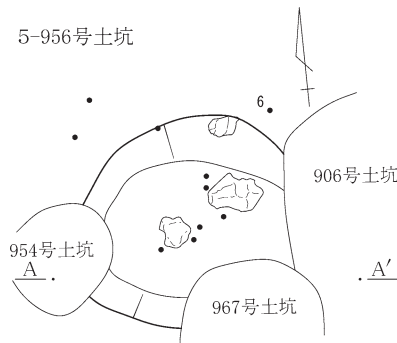


A L=638.30m A'



5-955号土坑
1 黒褐色土 ローム粒含む。
2 暗褐色土 ロームブロック含み軟質。
3 黒褐色土 ローム粒、ブロック含み粗粒。
4 暗褐色土 ロームブロック目立つ。

5-956号土坑

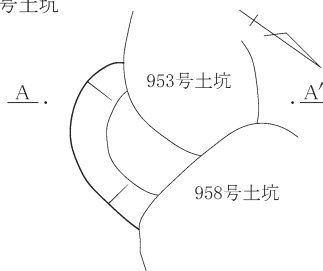


A L=637.10m A'

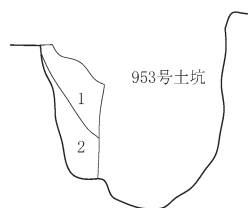


5-956号土坑
1 黒褐色土 やや攪乱されている。
2 黒褐色土 ローム粒、小ブロック含む。
3 黒褐色土 ロームを混在、ブロック状を呈す。
4 暗褐色土 ロームブロック多く含む。

5-957号土坑



A L=638.20m A'

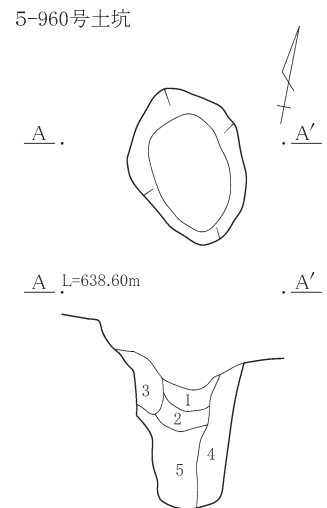
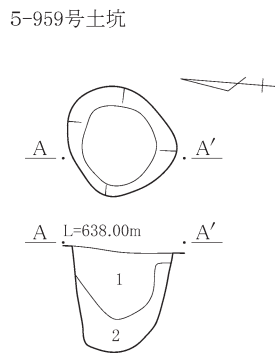
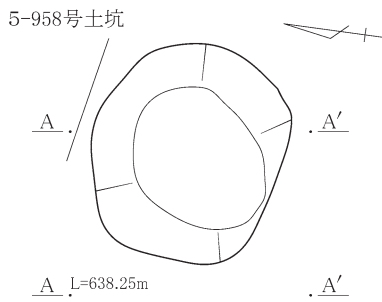


5-957号土坑
1 黒褐色土 ローム粒多く含む。
2 黒褐色土 ロームブロック含む。

0 1:40 1m

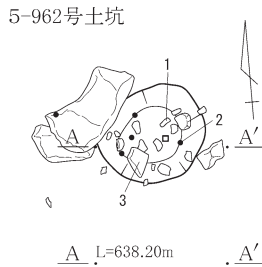
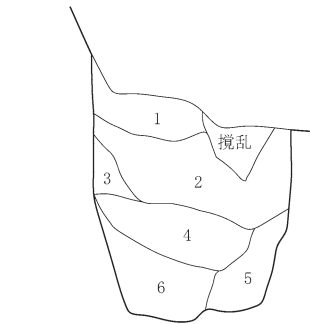
第403図 5-952~957号土坑

第3節 縄文時代の遺構と遺物

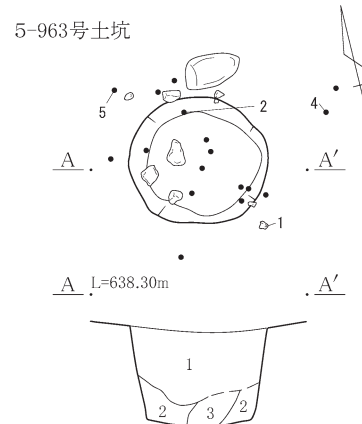


- 5-959号土坑
 1 暗褐色土 ローム粒多く含む。
 2 暗褐色土 ローム粒、ブロックを含む。

- 5-960号土坑
 1 暗褐色土 ローム粒、YPK含む。
 2 暗褐色土 ローム粒含む。
 3 暗褐色土 ローム粒、ブロックを含む。
 4 暗黄褐色土 ローム粒多く混入。
 5 暗褐色土 ローム粒、ブロックを多く含む。

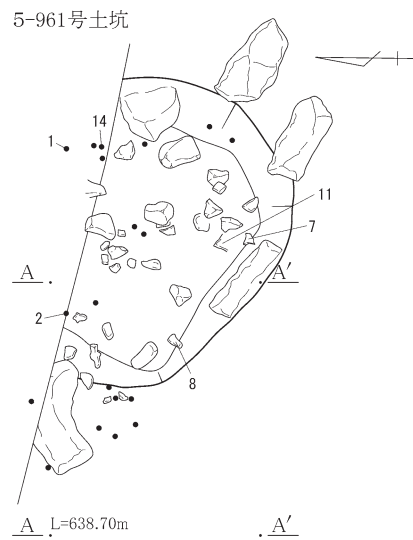


- 5-962号土坑
 1 黒褐色土
 2 暗褐色土 ローム粒多く含む。

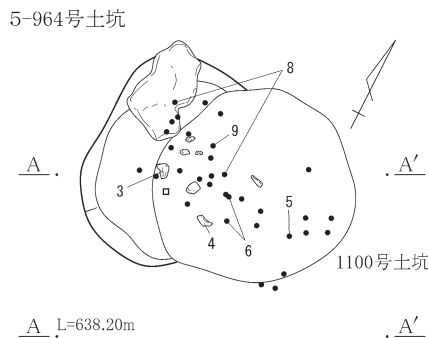


- 5-963号土坑
 1 黒褐色土 YPK、ローム粒僅かに含む。
 2 黒褐色土
 3 黒褐色土 ローム多く含む。

- 5-958号土坑
 1 黒褐色土 ローム粒多く含む。
 2 黒褐色土 ローム粒、ブロック含む。
 3 暗褐色土 ローム粒、ブロック多く含む。
 4 暗褐色土 ローム粒多く含み軟質。
 5 暗褐色土 ロームブロック含む。
 6 暗褐色土 5と近似やや縮まりあり。

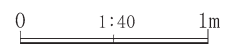


- 5-961号
 1 黒褐色土 ローム粒多く含む。
 2 黒褐色土 ローム粒、ブロック含む。
 3 暗褐色土 ローム粒、ブロック多く含む。
 4 暗褐色土 ローム粒多く含み軟質。
 5 暗褐色土 ロームブロック多く含む。



964号土坑

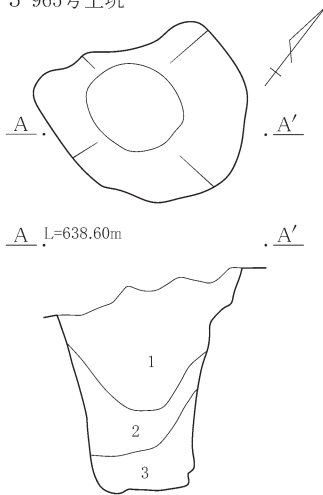
1100号土坑



第404図 5-958~964号土坑

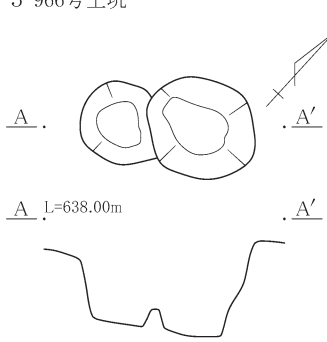
第3章 検出された遺構と遺物

5-965号土坑

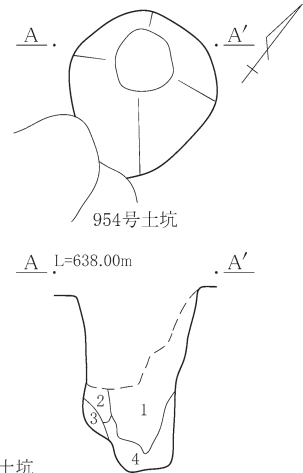


- 5-965号土坑
 1 黒褐色土 締まりなくローム粒、ブロック、YPK含む。
 2 にぶい黄褐色土 締まりあり、ローム粒子含む。
 3 黒褐色土 崩落ロームブロック、YPK含む。

5-966号土坑

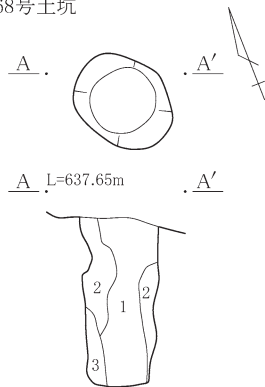


5-967号土坑



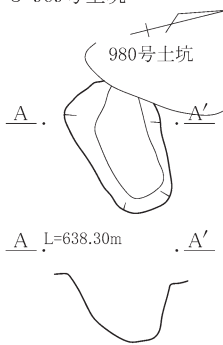
- 5-967号土坑
 1 黒褐色土 ローム粒含む。
 2 暗褐色土 ローム粒、黒色土ブロック混入。
 3 暗褐色土 ロームブロック多く含む。
 4 暗褐色土 3と同質だが締まりあり。

5-968号土坑

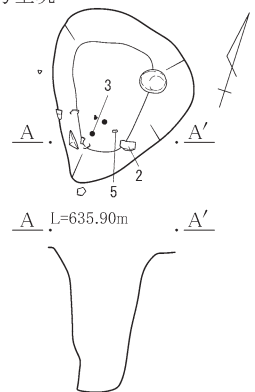


- 5-968号土坑
 1 オリーブ褐色土 YPK少量、ロームブロック少量。
 2 黄褐色土 ロームブロック主体締まりなし。
 3 暗褐色土 ロームブロック多く含む。

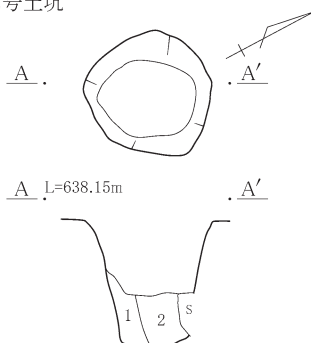
5-969号土坑



5-970号土坑

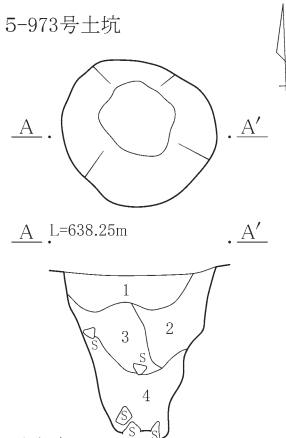


5-972号土坑



- 5-972号土坑
 1 暗褐色土
 2 暗褐色土 ロームブロック含む。

5-973号土坑



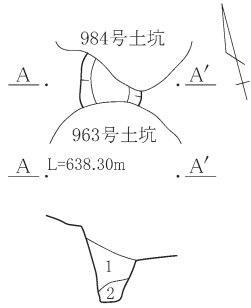
- 5-973号土坑
 1 暗褐色土 ローム粒含む。
 2 暗褐色土 ローム粒、若干のブロック含む。
 3 暗褐色土 ロームブロック混入。
 4 暗褐色土 3よりもロームを多く含む。

0 1:40 1m

第405図 5-965~970・972・973号土坑

第3節 縄文時代の遺構と遺物

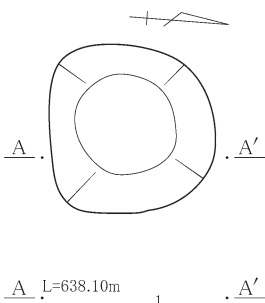
5-975号土坑



5-975号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック含む。

5-977号土坑



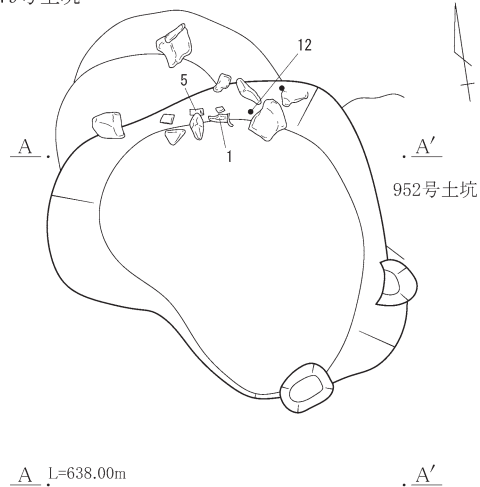
5-976号土坑

- 1 黒褐色土 縮まりなくローム粒、ブロック、YPK含む。(柱痕)
- 2 にぶい黄褐色土 縮まりあり、ローム粒子、YPK含む。
- 3 黒褐色土 1より粘質で黒味あり。
- 4 黒褐色土 崩落ローム径1cm程のYPK含む。
- 5 にぶい黄褐色土 ローム混じりのYPK主体土で脆弱。
- 6 黒褐色土 粘性あり、ロームブロック、YPK含む。
- 7 鈍い黄褐色土 YPK混じりのロームブロック。

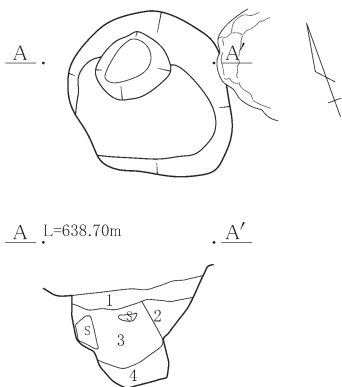
5-977号土坑

- 1 暗褐色土 粘性なしYPK褐色粒、白色軽石含む。
- 2 暗褐色土 1より粘性あり、ローム粒、YPK、炭化物含む。(柱痕か)
- 3 黒褐色土 やや粘性あり、ロームブロックYPK褐色粒、白色軽石含む。
- 4 にぶい黄褐色土 固く縮まる、ロームブロック多く含む。
- 5 暗褐色土 粘性あり、YPK、少量のローム粒子含む。
- 6 暗褐色土 粘性あり、ロームブロック含む。

5-979号土坑



5-978号土坑



5-978号土坑

- 1 暗褐色土 YPK、ローム粒僅かに含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロックを僅かに含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロック含む。
- 4 暗褐色土 3と近似やや黄味を帯びる。

5-979号土坑

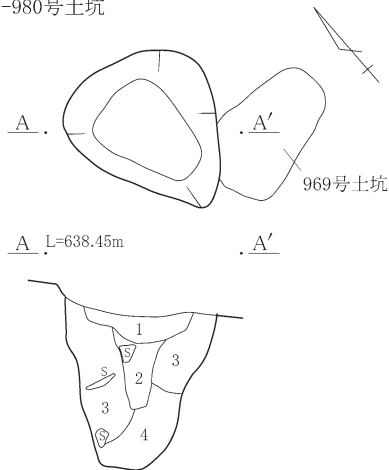
- 1 暗褐色土 YPK、ローム粒僅かに含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロックを僅かに含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロック含む。
- 4 暗褐色土 3と近似やや黄味を帯びる。

0 1:40 1m

第406図 5-975~979号土坑

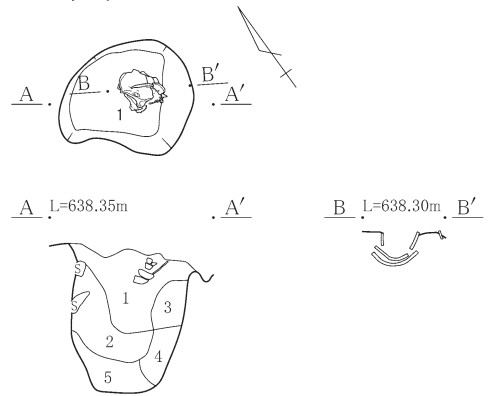
第3章 検出された遺構と遺物

5-980号土坑



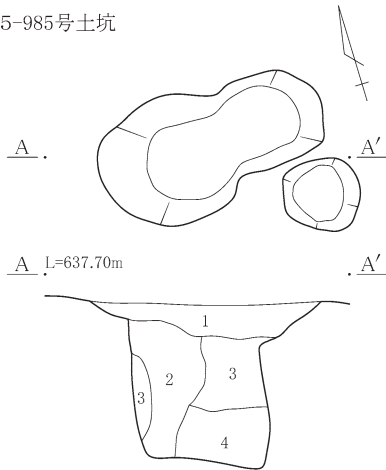
- 5-980号土坑
 1 暗褐色土 ローム粒含む。
 2 暗褐色土 ローム粒、ブロック含む。
 3 暗褐色土 ロームブロック多く含む。
 4 暗褐色土 3と近似するがロームブロック多い。

5-984号土坑



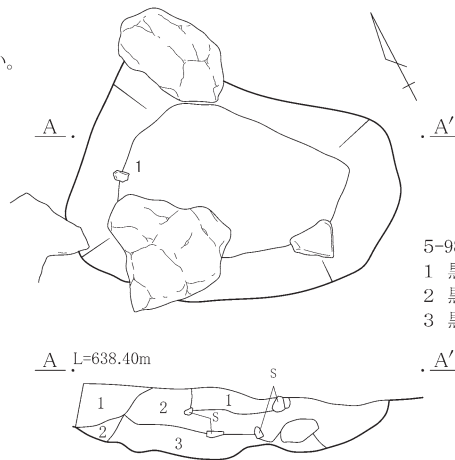
- 5-984号土坑
 1 暗褐色土 ローム粒多く含む。
 2 オリーブ褐色土 YPK、ローム粒少量含む。
 3 暗褐色土 ロームブロック含む。
 4 暗褐色土 ロームブロックの混土。
 5 黄褐色土 汚れた感じのローム主体。

5-985号土坑



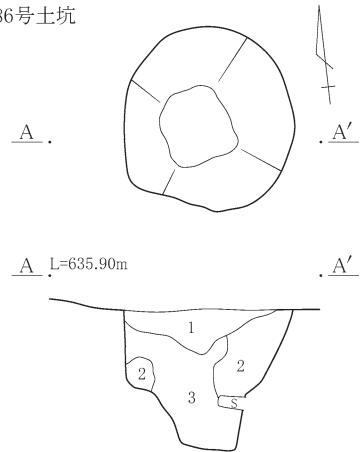
- 5-985号土坑
 1 暗褐色土 YPK、ローム粒含む。
 2 暗褐色土 ローム粒、小ブロック含む。
 3 暗褐色土 2と近似するがややロームブロック多い。
 4 黄褐色土 ロームブロック多く含む軟質。

5-987号土坑



- 5-987号土坑(風倒木)
 1 黒褐色土 ローム粒含む。
 2 黒褐色土 ローム粒子小ブロック含む。
 3 黒褐色土 ロームブロック含む黒味あり。

5-986号土坑

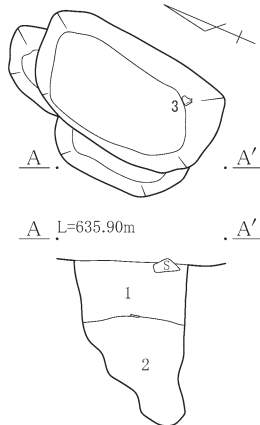


- 5-986号土坑
 1 暗褐色土 YPK、ローム粒含む。
 2 暗褐色土 ローム粒、小ブロック含む。
 3 暗褐色土 ロームブロック多く含む。

第407図 5-980・984~987号土坑

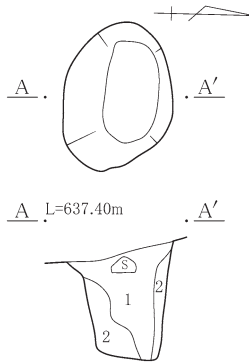
0 1:40 1m

5-988号土坑



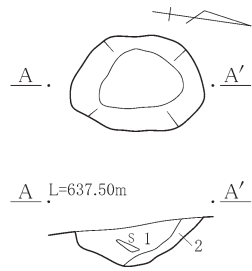
5-988号土坑
1 黒褐色土 ローム粒混入。
2 オリーブ褐色土 少量のYPK、ローム粒含む。

5-989号土坑



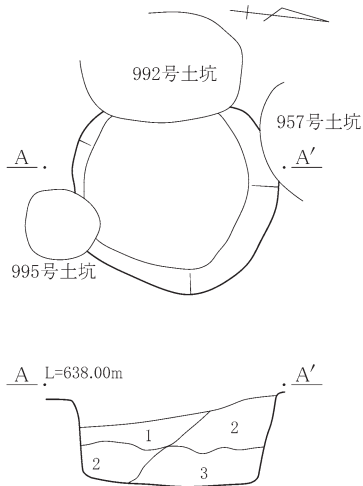
5-989号土坑
1 黒褐色土 ローム粒、小ブロック含む。
2 暗褐色土 ロームブロック含む。

5-990号土坑



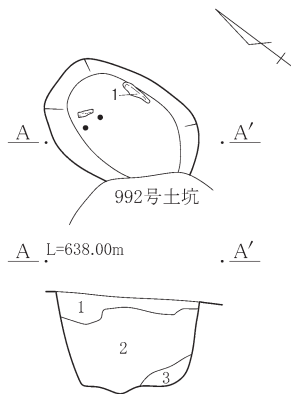
5-990号土坑
1 暗褐色土 ローム粒含む。
2 黒褐色土 ロームブロック含む。

5-991号土坑



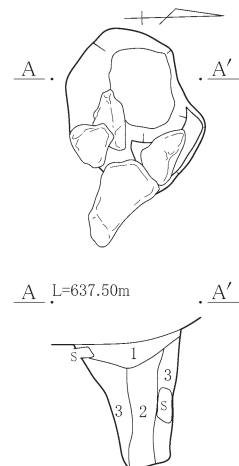
5-991号土坑
1 暗褐色土 ローム粒含む。
2 暗褐色土 ローム粒、小ブロック含む。
3 暗黄褐色土 ロームブロック多く含む。

5-992号土坑



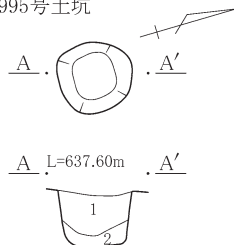
5-992号土坑
1 暗褐色土 ローム粒含む。
2 暗褐色土 YPK、ローム粒少量含む。
3 黒褐色土 若干のロームブロック含む。

5-993号土坑



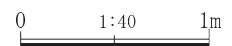
5-993号土坑
1 オリーブ褐色土 YPK、ローム粒少量含む。
2 暗褐色土 ロームブロック含む。(柱痕)
3 黒褐色土 ローム粒含みやや黒味を呈す。

5-995号土坑



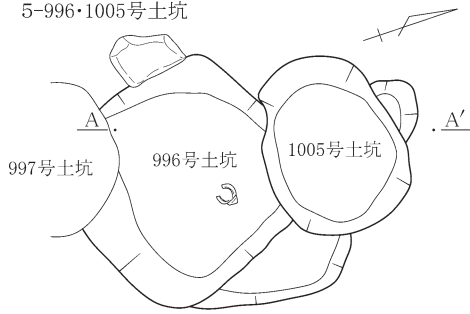
5-995号土坑
1 暗褐色土 ローム粒含む。
2 暗褐色土 ローム粒、ブロック含む。

第408図 5-988~993・995号土坑

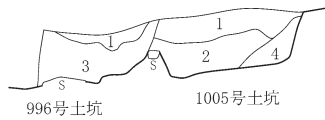


第3章 検出された遺構と遺物

5-996・1005号土坑



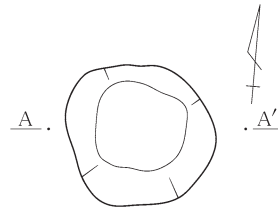
A L=637.30m A'



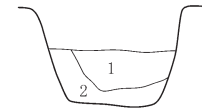
5-996・1005号土坑

- 1 オリーブ褐色土 YPK、ローム粒少量含む。
- 2 オリーブ褐色土 若干のロームブロック含む。
- 3 オリーブ褐色土 ロームブロック含む。
- 4 暗褐色土 少量のローム粒含む。

5-997号土坑



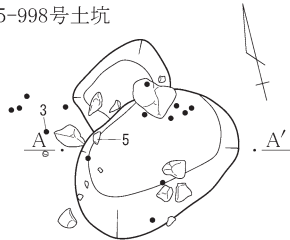
A L=637.20m A'



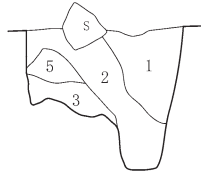
5-997号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック多く含む。

5-998号土坑



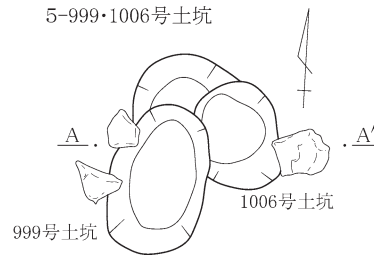
A L=638.00m A'



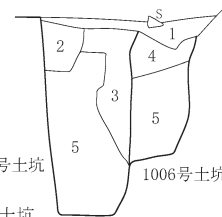
5-998号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒、ブロック含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック斑に含む。
- 3 暗褐色土 締まりあり。
- 4 暗褐色土 ロームブロック多く含む。

5-999・1006号土坑



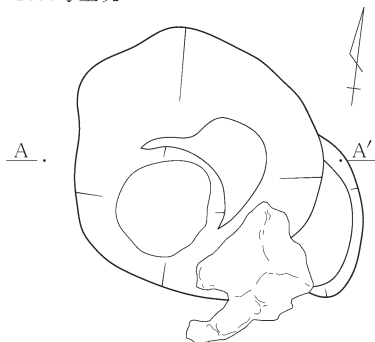
A L=638.00m A'



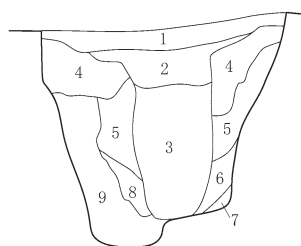
5-999・1006号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒、小ブロック含む。
- 3 暗褐色土 2と似るがローム分多い。
- 4 暗褐色土 ロームブロック大含む。
- 5 暗褐色土 ロームブロック含み締まりあり。

5-1000号土坑



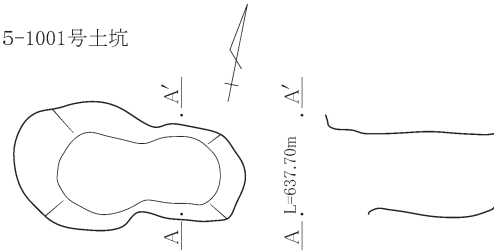
A L=638.15m A'



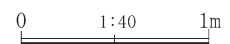
5-1000号土坑

- 1 暗褐色土 粘性なしYPK褐色粒、白色軽石含む。
- 2 黒褐色土 やや粘性あり、ロームブロックYPK褐色粒、白色軽石含む。
- 3 暗褐色土 2より粘性あり、ローム粒、YPK、炭化物含む。
- 4 にぶい黄褐色土 固く締まる、ロームブロック多く含む。
- 5 暗褐色土 粘性あり、YPK、少量のローム粒子含む。
- 6 暗褐色土 粘性あり、ロームブロック含む。
- 7 暗褐色土 固く締まりローム粒子含む。
- 8 暗褐色土 固く締まりローム粒子含む、粘性あり。
- 9 にぶい黄褐色土 粘性あり、崩落ロームブロック含む。

5-1001号土坑



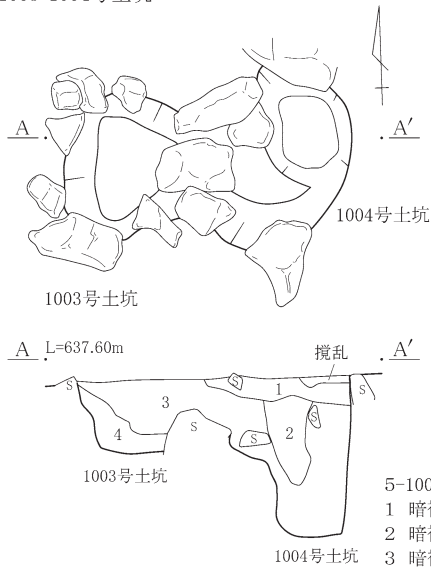
A L=637.70m A'



第409図 5-996~1001・1005・1006号土坑

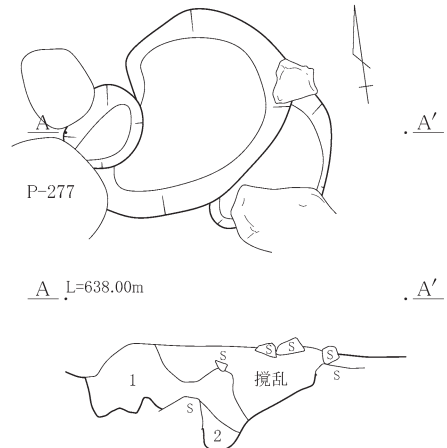
第3節 縄文時代の遺構と遺物

5-1003・1004号土坑



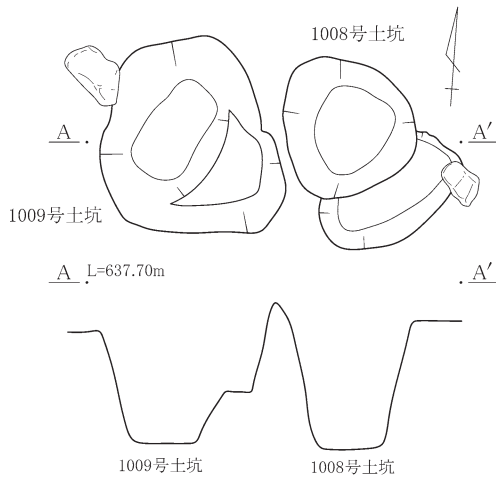
- 5-1003・1004号土坑
- 1 暗褐色土 ローム粒、YPK含む。
 - 2 暗褐色土 ローム粒、小ブロック含む。
 - 3 暗褐色土 ロームブロック多く含む。
 - 4 暗黄褐色土 ロームブロックを含み縮まりあり。

5-1007号土坑

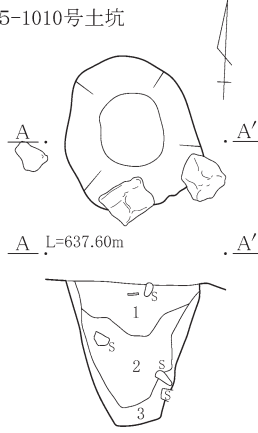


- 5-1007号土坑
- 1 暗褐色土 ローム粒、若干のブロック含む。
 - 2 暗黄褐色土 ロームブロック多く含む。

5-1009・1008号土坑

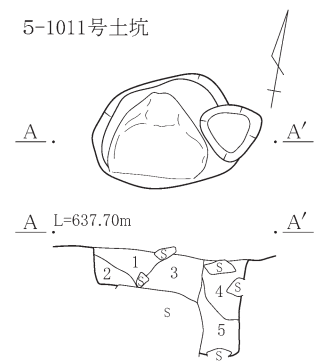


5-1010号土坑



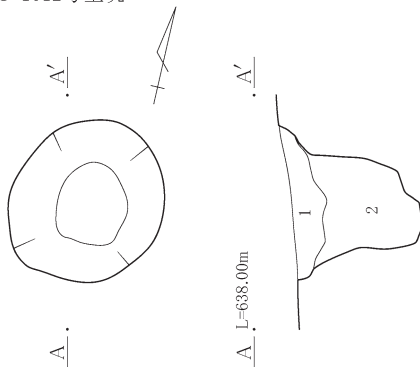
- 5-1010号土坑
- 1 暗褐色土 ローム粒含む。
 - 2 オリーブ褐色土 YPK、ローム粒若干含む。
 - 3 暗褐色土 ロームブロック多く含む。

5-1011号土坑



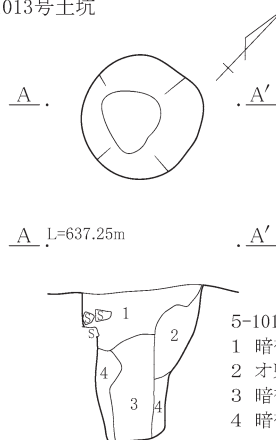
- 5-1011号土坑
- 1 暗褐色土 ローム粒含む。
 - 2 暗褐色土 ロームブロック含む。
 - 3 オリーブ褐色土 ロームブロック多く含む。
 - 4 暗褐色土 ローム粒、小ブロック含む。
 - 5 暗褐色土 ロームブロック含む。

5-1012号土坑



- 5-1012号土坑
- 1 暗褐色土 ローム粒含む。
 - 2 暗褐色土 ロームブロック含む。

5-1013号土坑



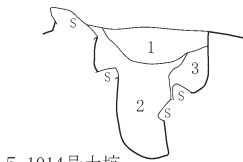
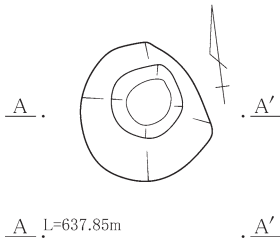
- 5-1013号土坑
- 1 暗褐色土 ローム粒含み軟質。
 - 2 オリーブ褐色土 ローム粒、小ブロック含む。
 - 3 暗褐色土 ローム粒含みやや黒味を呈す。
 - 4 暗褐色土 ロームブロック多く含む。

0 1:40 1m

第410図 5-1003・1004・1007～1013号土坑

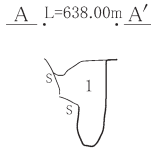
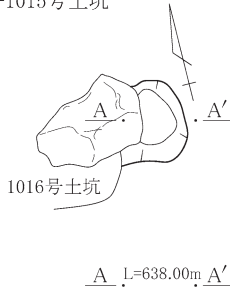
第3章 検出された遺構と遺物

5-1014号土坑



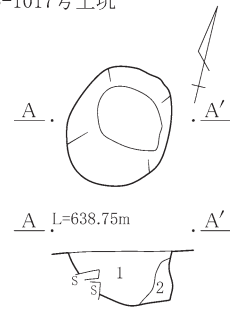
- 5-1014号土坑
 1 暗褐色土 ローム粒、若干のブロック含む。
 2 暗褐色土 ロームブロック含む。
 3 褐色土 ロームブロック含み明るい色調。

5-1015号土坑



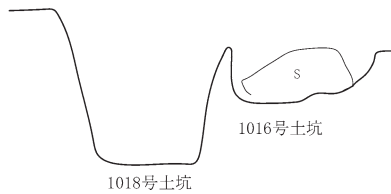
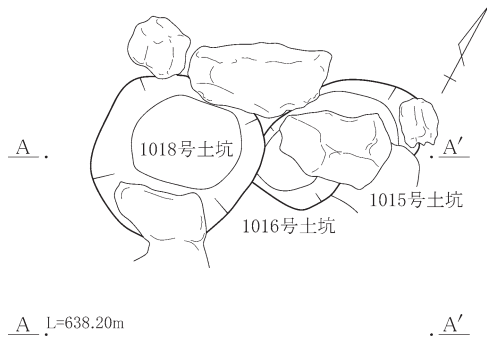
- 5-1015号土坑
 1 暗褐色土 YPK、若干のローム粒含む。

5-1017号土坑

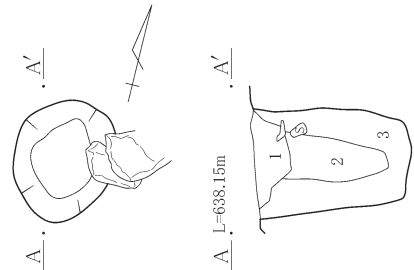


- 5-1017号土坑
 1 暗褐色土 ロームブロック僅かに含む。
 2 暗褐色土 ロームブロック塊主体とする。

5-1016・1018号土坑

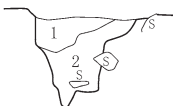
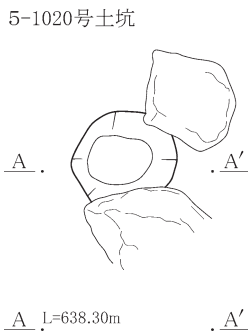


5-1019号土坑



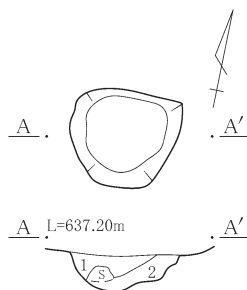
- 5-1019号土坑
 1 暗褐色土 ローム粒含む。
 2 暗褐色土 ローム粒含みやや軟質。
 3 暗褐色土 ロームブロック含む。

5-1020号土坑



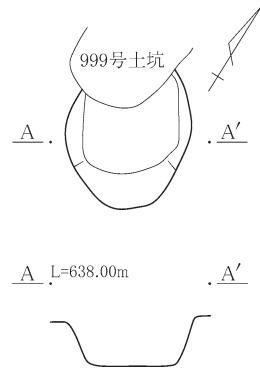
- 5-1020号土坑
 1 暗褐色土 ローム粒含み軟質。
 2 暗褐色土 ローム粒、小ブロック含む。

5-1021号土坑



- 5-1021号土坑
 1 暗褐色土 ローム粒含む。
 2 暗褐色土 ローム粒およびブロックを含む。

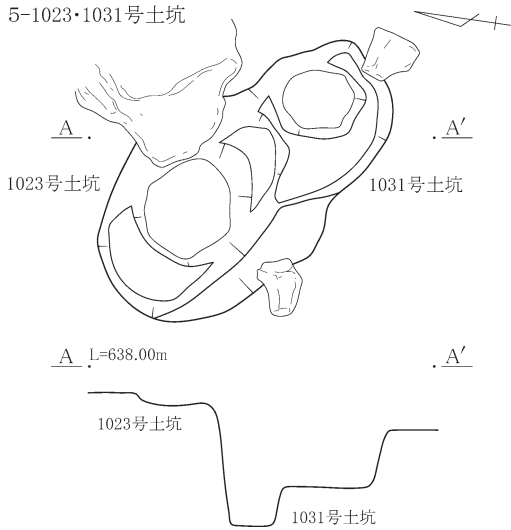
5-1022号土坑



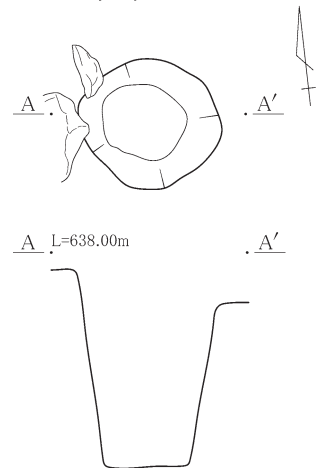
第411図 5-1014~1022号土坑

第3節 縄文時代の遺構と遺物

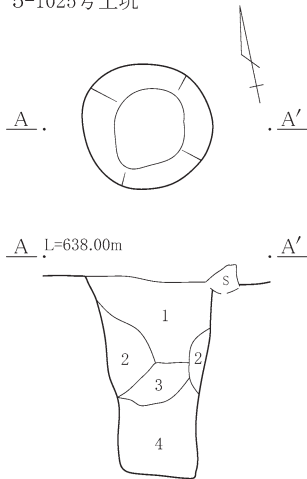
5-1023・1031号土坑



5-1024号土坑

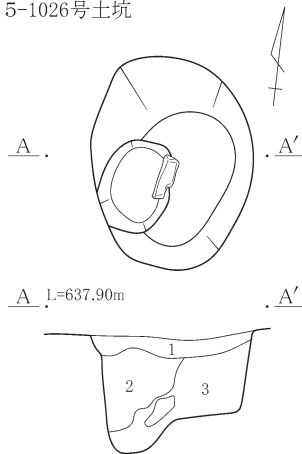


5-1025号土坑



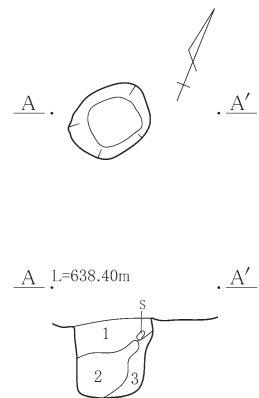
- 5-1025号土坑
 1 暗褐色土 ローム粒含む。
 2 暗褐色土 ロームブロック含む。
 3 暗褐色土 ロームブロック多く含む縮まり無し。
 4 暗黄褐色土 ロームブロック多く含む縮まりあり。

5-1026号土坑



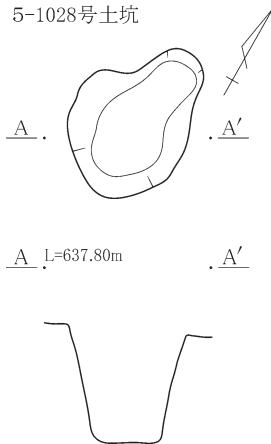
- 5-1026号土坑
 1 暗褐色土
 2 暗褐色土 ローム粒多く含む。
 3 暗褐色土 ローム粒ブロック含む。

5-1027号土坑

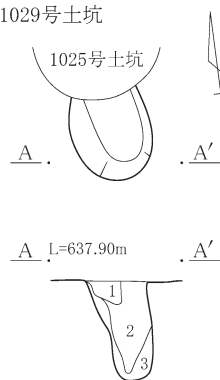


- 5-1027号土坑
 1 暗褐色土
 2 暗黄褐色土
 3 暗褐色土 ローム粒多く含む。

5-1028号土坑

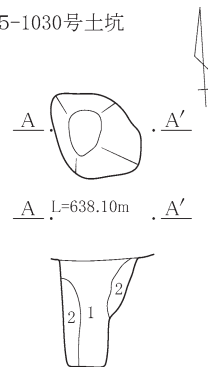


5-1029号土坑



- 5-1029号土坑
 1 暗褐色土
 2 暗褐色土 ローム小ブロック含む。
 3 暗褐色土 ローム多く含む。

5-1030号土坑



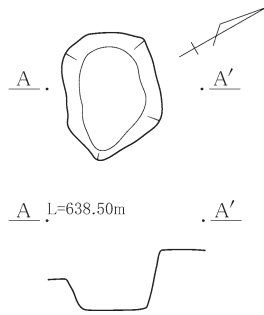
- 5-1030号土坑
 1 暗褐色土 ローム粒多く含む。
 2 暗褐色土 ロームブロック含む。

0 1:40 1m

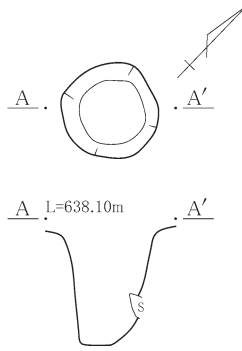
第412図 5-1023~1031号土坑

第3章 検出された遺構と遺物

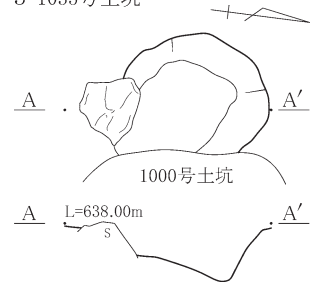
5-1032号土坑



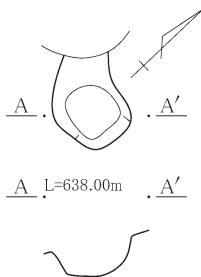
5-1034号土坑



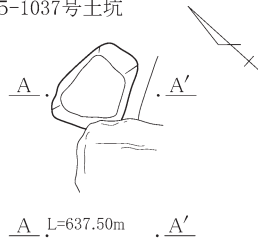
5-1035号土坑



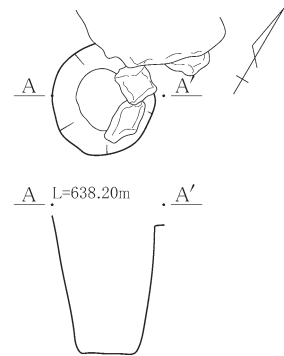
5-1036号土坑



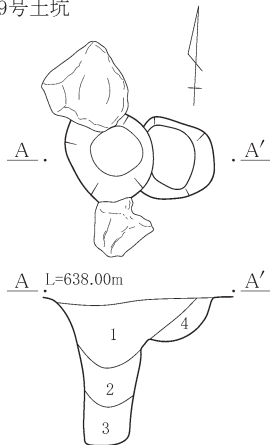
5-1037号土坑



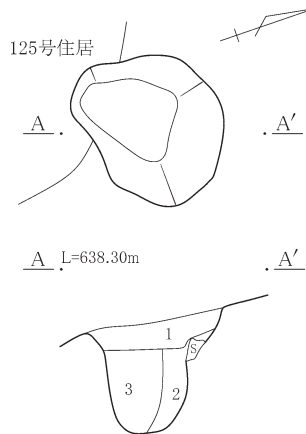
5-1038号土坑



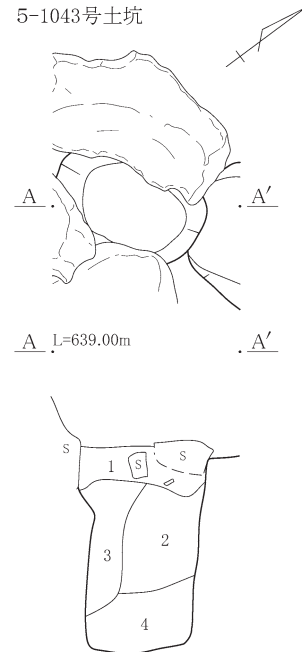
5-1039号土坑



5-1041号土坑



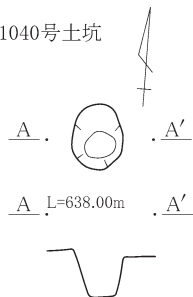
5-1043号土坑



5-1039号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒、小ブロック含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒、ブロック含みややや黒味を帯びる。
- 4 暗褐色土 ロームブロック含む。

5-1040号土坑



5-1041号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒含み軟質。
- 2 暗褐色土 ロームブロック多く含む。
- 3 暗褐色土 2と近似するが黒味がある。

5-1043号土坑

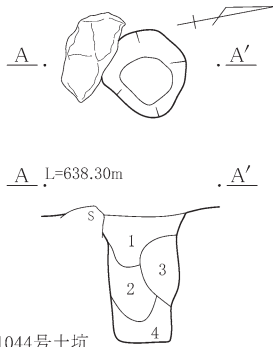
- 1 暗褐色土 礫を含み粗粒。
- 2 暗褐色土 ローム粒、小ブロック含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒多く含みや軟質。
- 4 暗黄褐色土 ロームブロック含む。

0 1:40 1m

第413図 5-1032・1034~1041・1043号土坑

第3節 縄文時代の遺構と遺物

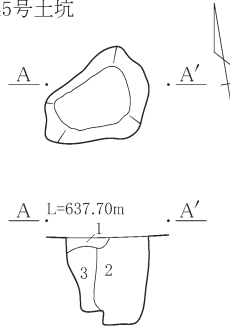
5-1044号土坑



5-1044号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒含む。
- 2 黒褐色土 ロームを含みやや粗粒。
- 3 暗黒褐色土 ローム粒多く含む。
- 4 暗褐色土 ロームブロック若干混入。

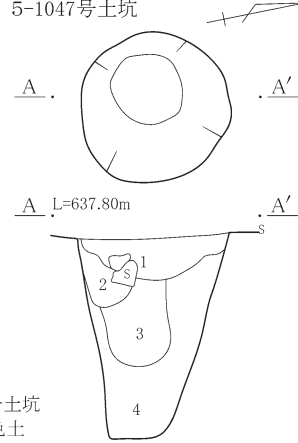
5-1045号土坑



5-1045号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒子含み軟質。
- 2 暗褐色土 ローム粒、小ブロック含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒、ブロック多く含む。

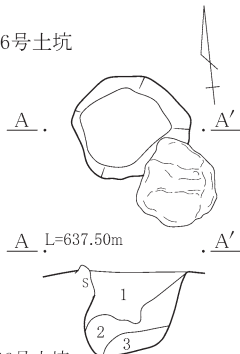
5-1047号土坑



5-1047号土坑

- 1 黒褐色土
- 2 暗褐色土 ローム粒多く含み軟質。
- 3 暗褐色土 ロームブロック含む。
- 4 暗褐色土 3と近似するがロームブロック多く含む。

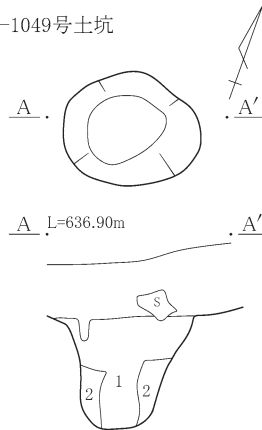
5-1046号土坑



5-1046号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒子含み軟質。
- 2 暗褐色土 ローム粒、小ブロック含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒、ブロック多く含む。

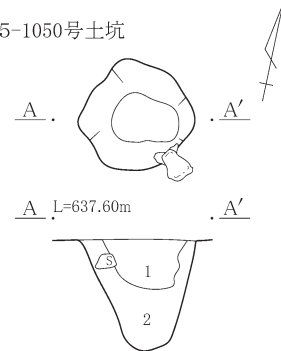
5-1049号土坑



5-1049号土坑

- 1 暗褐色土
- 2 暗褐色土 ローム粒多く含む。

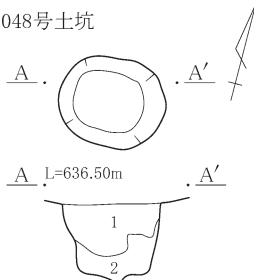
5-1050号土坑



5-1050号土坑

- 1 暗褐色土
- 2 黒褐色土 ロームブロック含む。

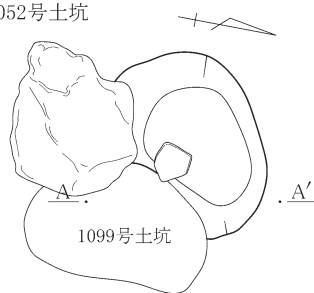
5-1048号土坑



5-1048号土坑

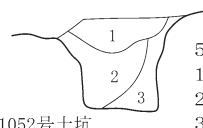
- 1 黒褐色土
- 2 黒褐色土 ロームブロックを斑に混入。

5-1052号土坑



1099号土坑

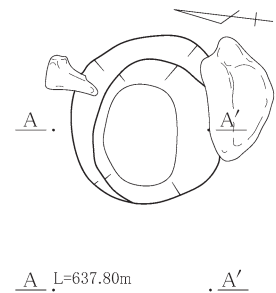
A L=637.80m A'



5-1052号土坑

- 1 暗褐色土
- 2 黒褐色土 ローム粒、軽石含む。
- 3 黒褐色土 ローム粒、小ブロック含む。

5-1054号土坑

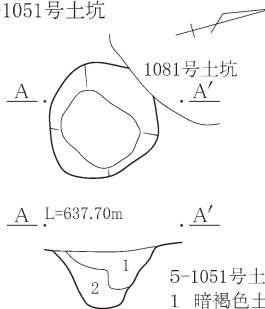


A L=637.80m A'

5-1054号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒、ブロック含む。
- 2 暗褐色土 やや黒味を帯び軟質。
- 3 暗褐色土 ロームブロック含む。

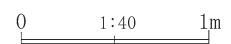
5-1051号土坑



A L=637.70m A'

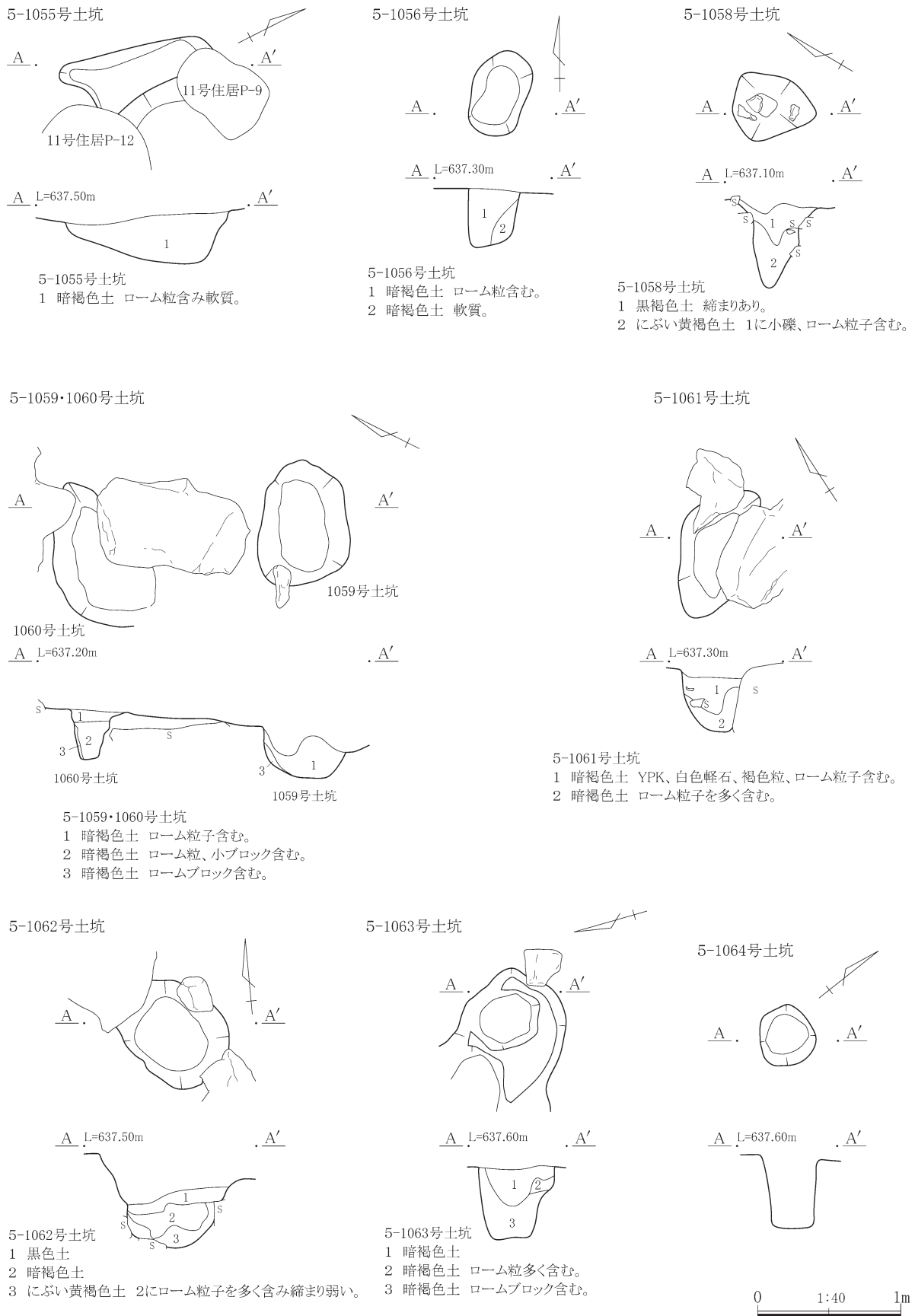
5-1051号土坑

- 1 暗褐色土 軟質。
- 2 暗褐色土 ローム粒含む。

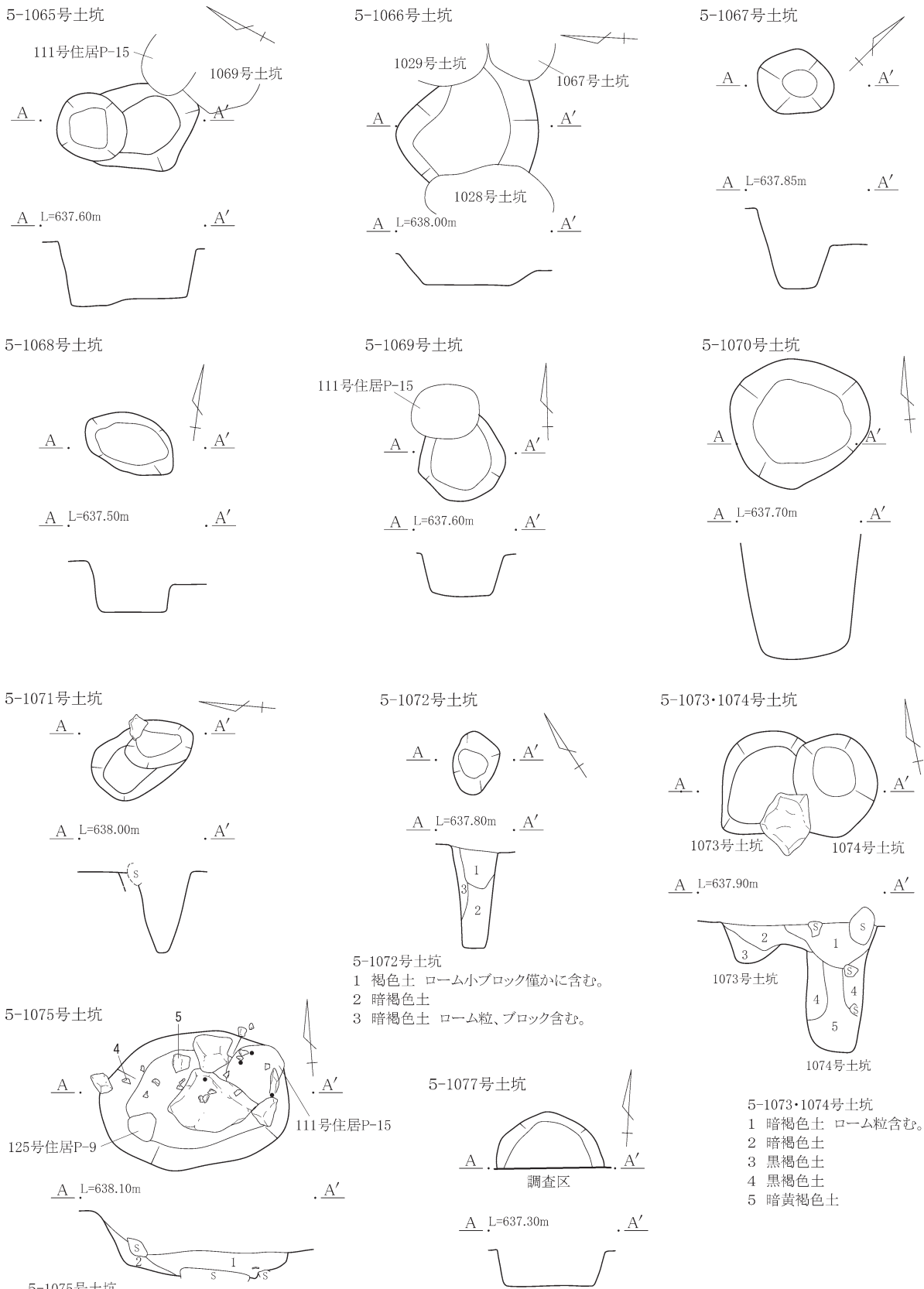


第414図 5-1044~1052・1054号土坑

第3章 検出された遺構と遺物



第415図 5-1055・1056・1058～1064号土坑

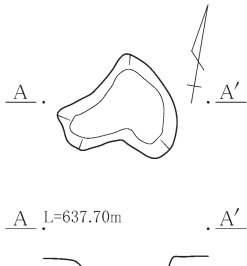


第416図 5-1065～1075・1077号土坑

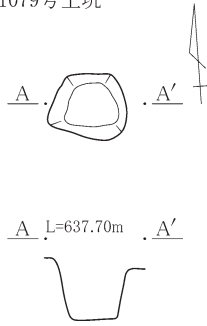
0 1:40 1m

第3章 検出された遺構と遺物

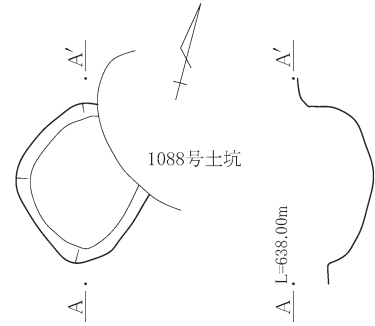
5-1078号土坑



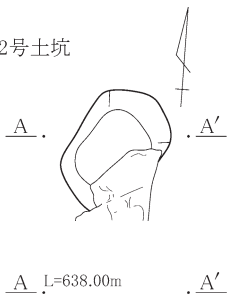
5-1079号土坑



5-1080号土坑

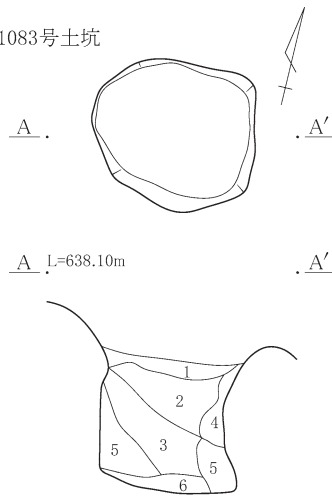


5-1082号土坑



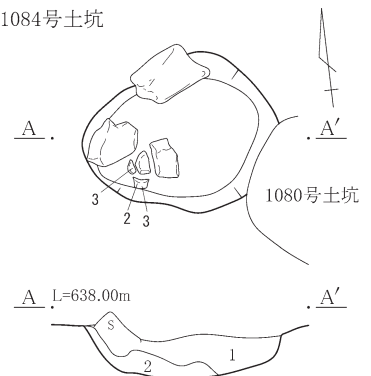
- 5-1082号土坑
 1 黒褐色土 ローム粒含む。
 2 暗褐色土 ロームブロック含む。

5-1083号土坑



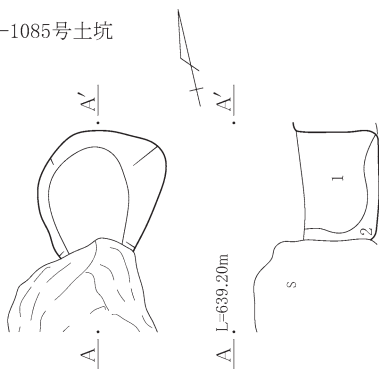
- 5-1083号土坑
 1 黒色土 ローム含む。
 2 暗褐色土 ローム粒多く含む。
 3 暗褐色土
 4 暗褐色土 ロームブロック含む。
 5 暗褐色土 崩落ローム若干含む。
 6 暗褐色土 5と近似、粘性あり。

5-1084号土坑



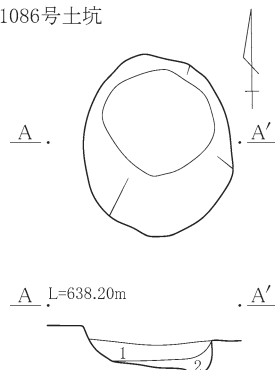
- 5-1084号土坑
 1 黒褐色土 ローム粒若干含む。
 2 オリーブ褐色土

5-1085号土坑



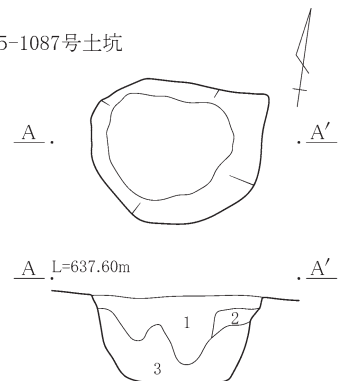
- 5-1085号土坑
 1 黒褐色土
 2 オリーブ褐色土 ロームブロックを少量含む。

5-1086号土坑



- 5-1086号土坑
 1 オリーブ褐色土 ローム粒少量含む。
 2 オリーブ褐色土 ロームブロック混入。

5-1087号土坑



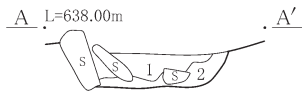
- 5-1087号土坑
 1 暗褐色土 ローム粒若干含む。
 2 暗褐色土 縮まり無し。
 3 暗黄褐色土

0 1:40 1m

第417図 5-1078~1080・1082~1087号土坑

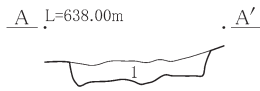
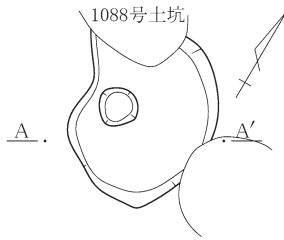
第3節 縄文時代の遺構と遺物

5-1088号土坑



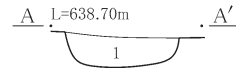
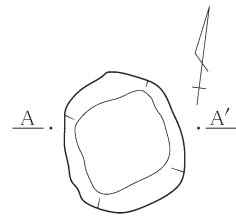
5-1088号土坑
1 暗褐色土
2 暗黄褐色土

5-1089号土坑



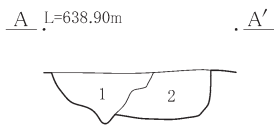
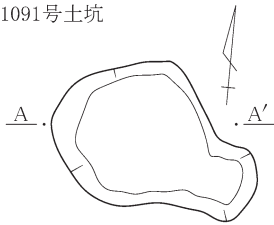
5-1089号土坑
1 暗褐色土 粗粒。

5-1090号土坑



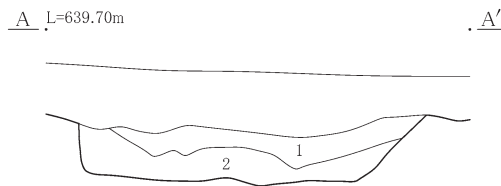
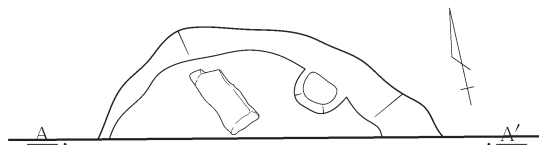
5-1090号土坑
1 暗褐色土 ローム粒含む。

5-1091号土坑



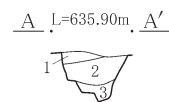
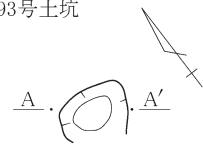
5-1091号土坑
1 暗黄褐色土
2 暗褐色土

5-1092号土坑



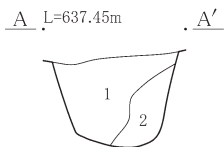
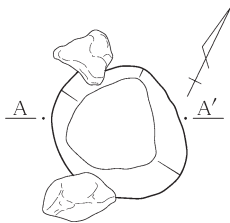
5-1092号土坑
1 暗褐色土 ローム粒若干含む。
2 暗黒褐色土 若干のロームブロック含む。

5-1093号土坑



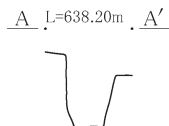
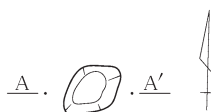
5-1093号土坑
1 暗褐色土 ローム粒含み軟質。
2 暗褐色土
3 暗黄褐色土

5-1094号土坑

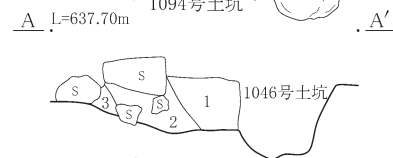
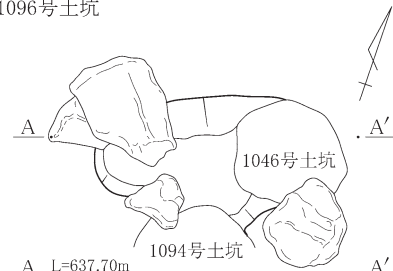


5-1094号土坑
1 暗褐色土 ローム粒、小ブロック含む。
2 暗褐色土 ロームブロック含む。

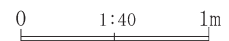
5-1095号土坑



5-1096号土坑



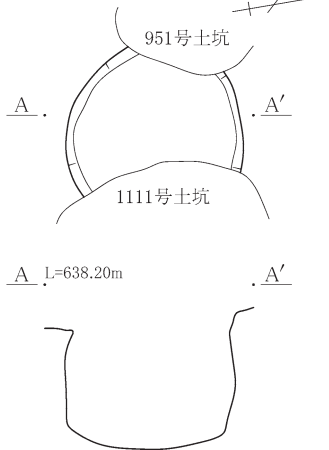
5-1096号土坑
1 暗褐色土
2 暗黄褐色土
3 黄褐色土



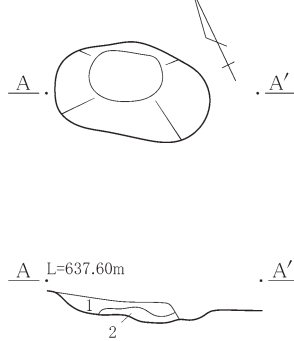
第418図 5-1088~1096号土坑

第3章 検出された遺構と遺物

5-1097号土坑



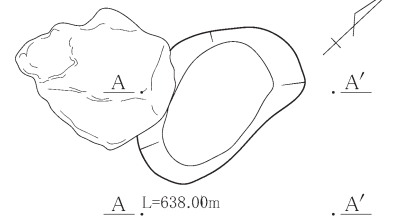
5-1098号土坑



5-1098号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒、YPK少量含む。
- 2 暗褐色土 ローム大ブロックシミ状に含む。

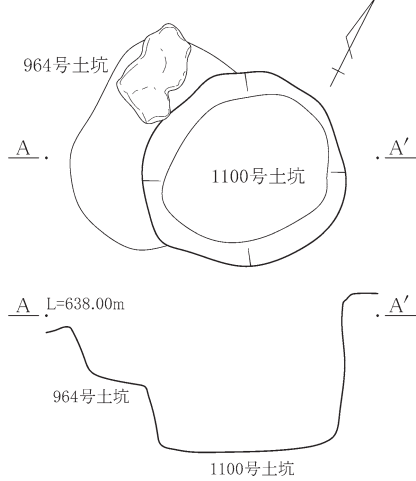
5-1099号土坑



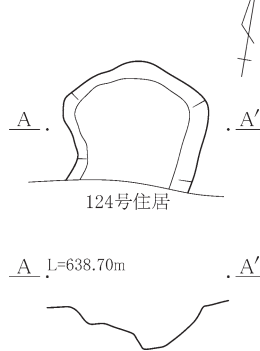
5-1099号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒多く含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒、ブロックを含む。
- 4 暗褐色土 ローム粒、ブロック多く含む。

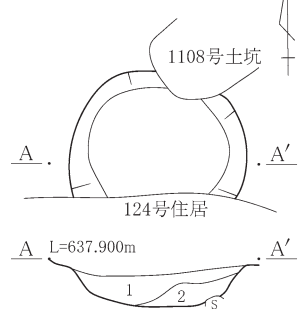
5-1100号土坑



5-1101号土坑



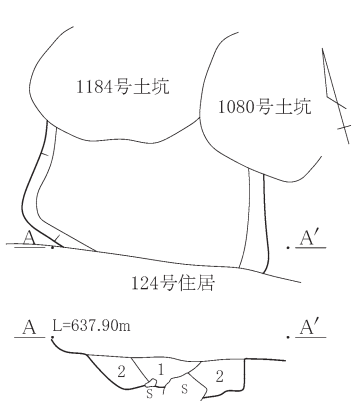
5-1002号土坑



5-1102号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒含みや軟質。
- 2 暗褐色土 ロームブロックを混入。

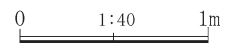
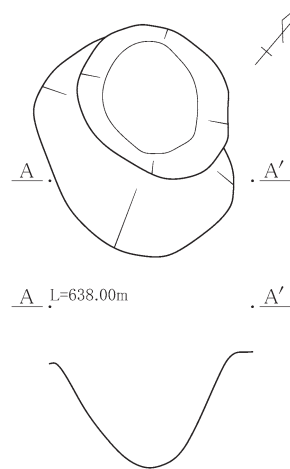
5-1103号土坑



5-1103号土坑

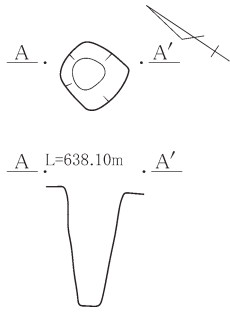
- 1 黒色土 少量の白色軽石含む。
- 2 黒褐色土 ローム粒含む。

5-1104号土坑

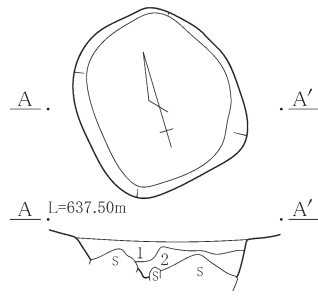


第419図 5-1097~1104号土坑

5-1105号土坑

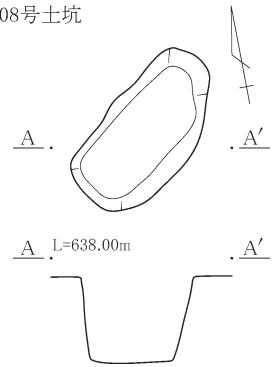


5-1107号土坑

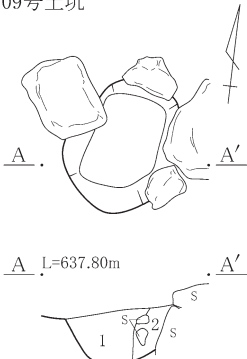


5-1107号土坑
 1 暗褐色土 ローム粒多く含む。
 2 暗褐色土 やや汚れたローム含む。

5-1108号土坑

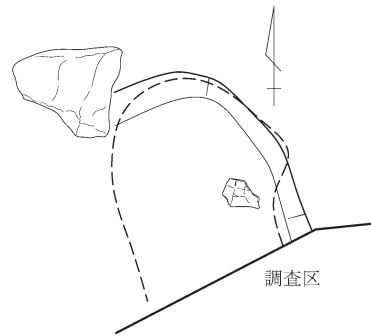


5-1109号土坑

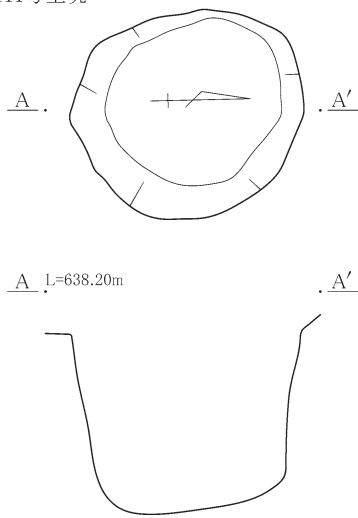


5-1109号土坑
 1 暗褐色土 礫を含む。
 2 暗褐色土 YPK、大型礫含む。

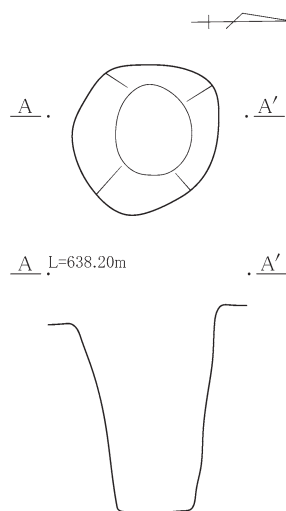
5-1110号土坑



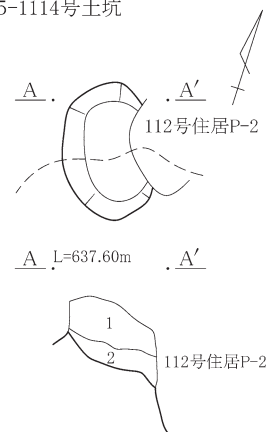
5-1111号土坑



5-1112号土坑



5-1114号土坑

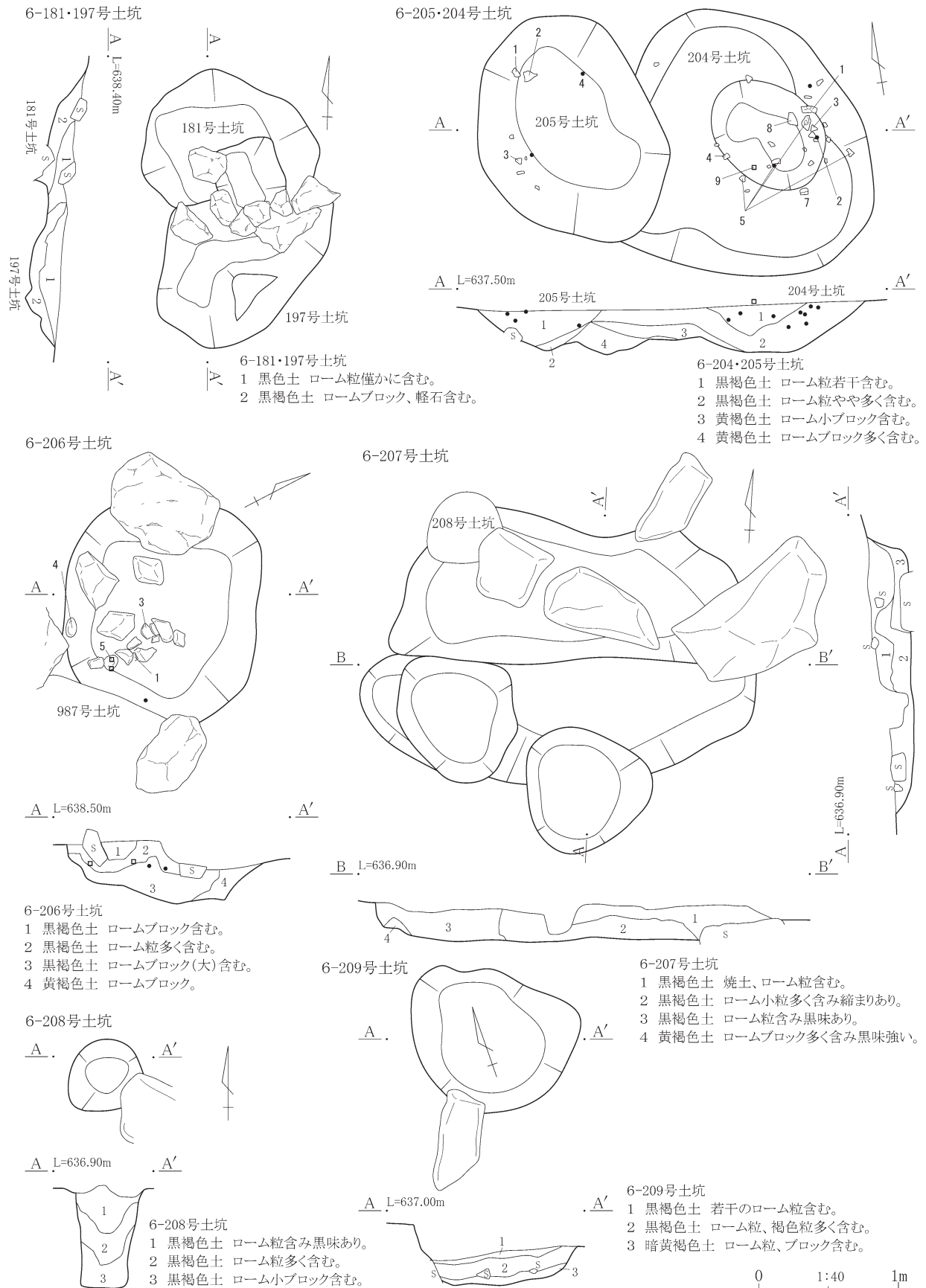


5-1114号土坑
 1 黒褐色土 ローム粒主体で締まりあり。
 2 黒褐色土 黒色土ブロック含む。

0 1:40 1m

第420図 5-1105・1107～1112・1114号土坑

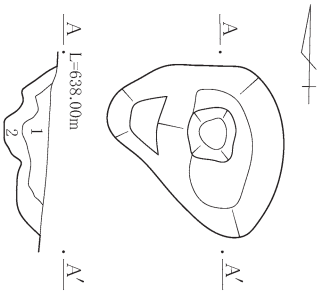
第3章 検出された遺構と遺物



第421図 6-181・197・204～209号土坑

第3節 縄文時代の遺構と遺物

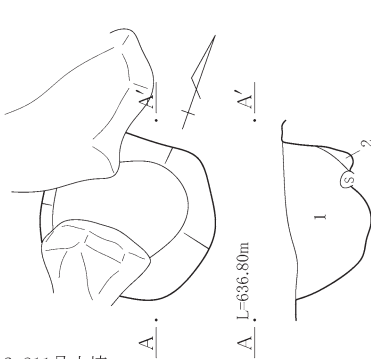
6-210号土坑



6-210号土坑

- 1 黒色土 ローム粒僅かに含む。
- 2 黒褐色土 ロームブロック、軽石含む。

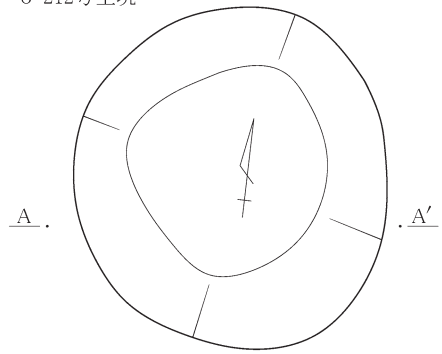
6-211号土坑



6-211号土坑

- 1 黒褐色土 縮まりあり、YPK、褐色粒含む。
- 2 暗褐色土 細粒で縮まりあり、崩落ローム含む。

6-212号土坑

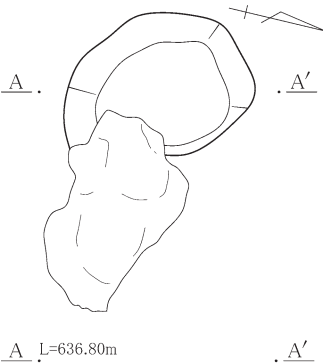


6-212号土坑

6-212号土坑

- 1 黒色土
- 2 暗褐色土 YPK、白色軽石、褐色粒、小礫、炭化物含む。
- 3 暗褐色土 2にローム粒子を含む。
- 4 暗褐色土 1と近似、縮まりあり。
- 5 暗黄褐色土 良く縮まる。

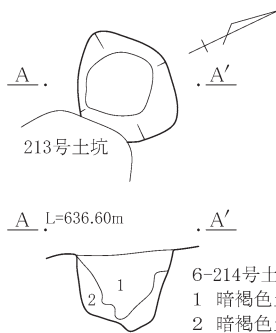
6-213号土坑



6-213号土坑

- 1 黒色土
- 2 黄褐色土 ローム粒子、ブロック含む。

6-214号土坑



6-214号土坑

- 1 暗褐色土 縮まり弱く、ローム粒子若干含む。
- 2 暗褐色土 縮まり弱く、ローム粒子多く含む。

15-1号土坑

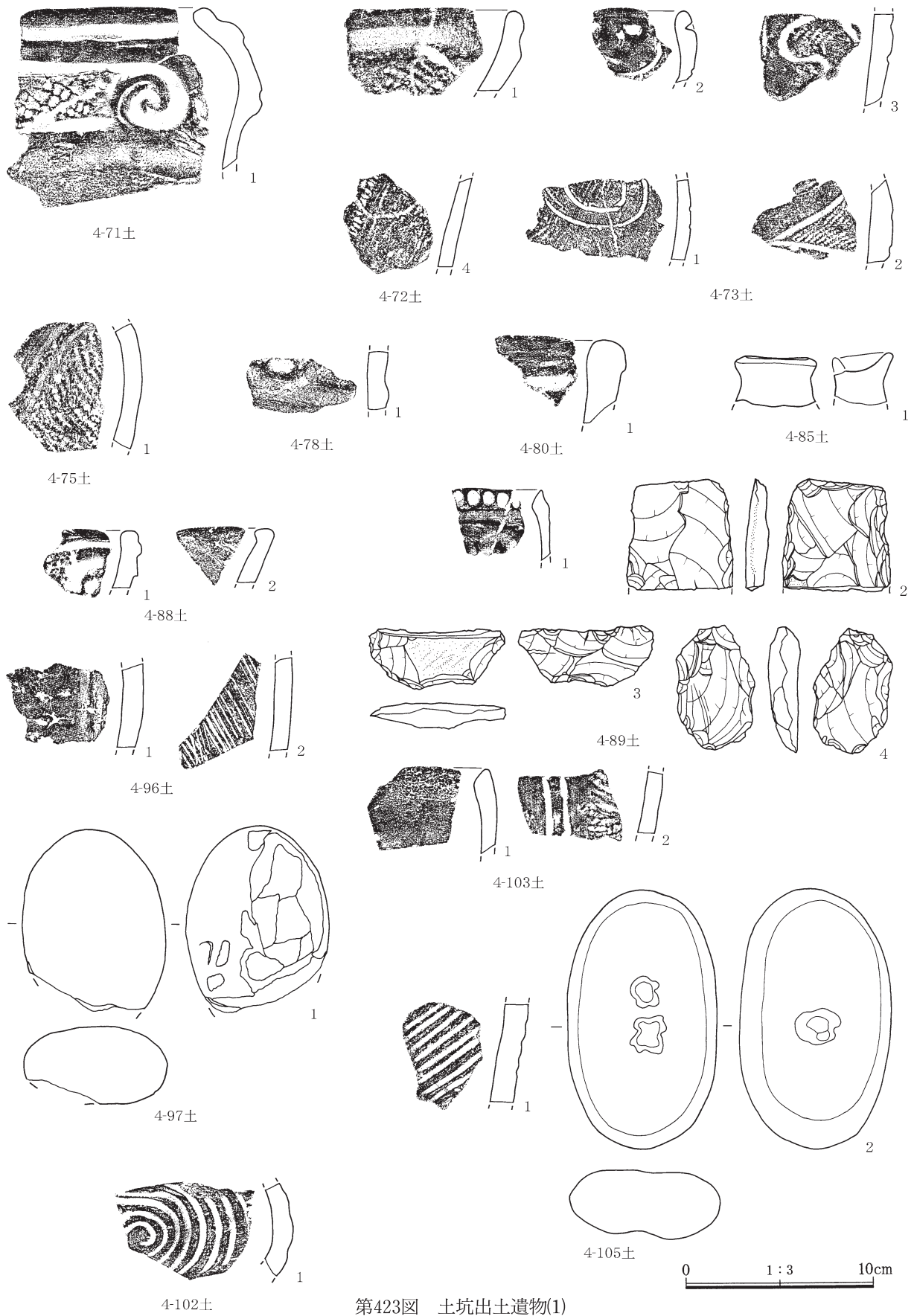


15-1号土坑

- 1 黒色土 YPK、白色粒微量、礫(大)含む。
- 2 黒色土 褐色土をモザイク状に含みやや縮まる。

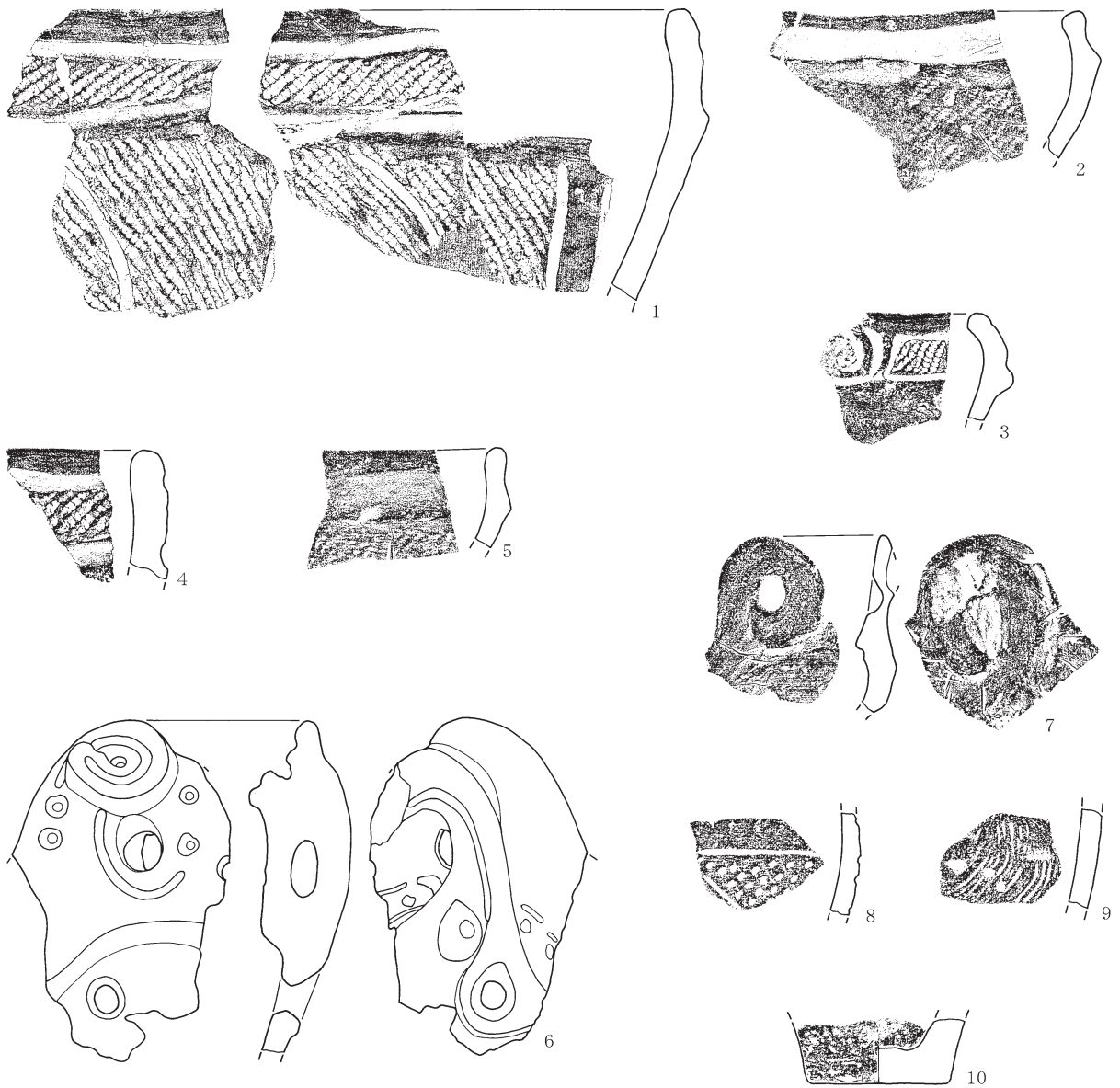
0 1:40 1m

第422図 6-210~214・15-1号土坑



第423図 土坑出土遺物(1)

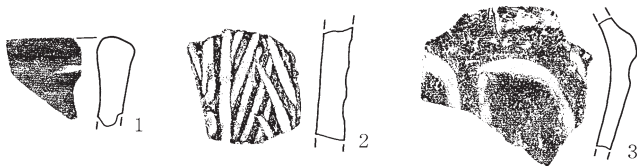
第3節 縄文時代の遺構と遺物



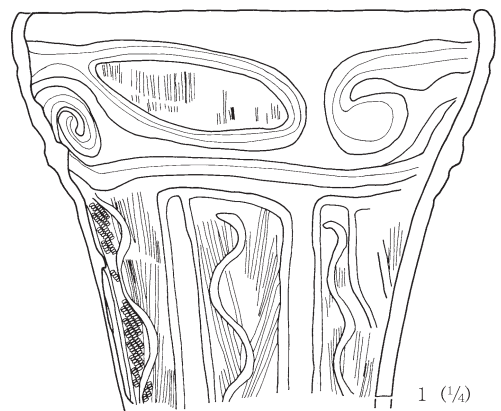
4-106土



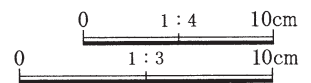
4-108土



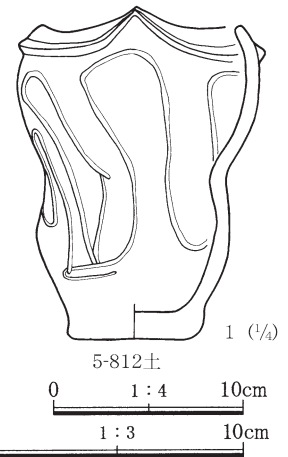
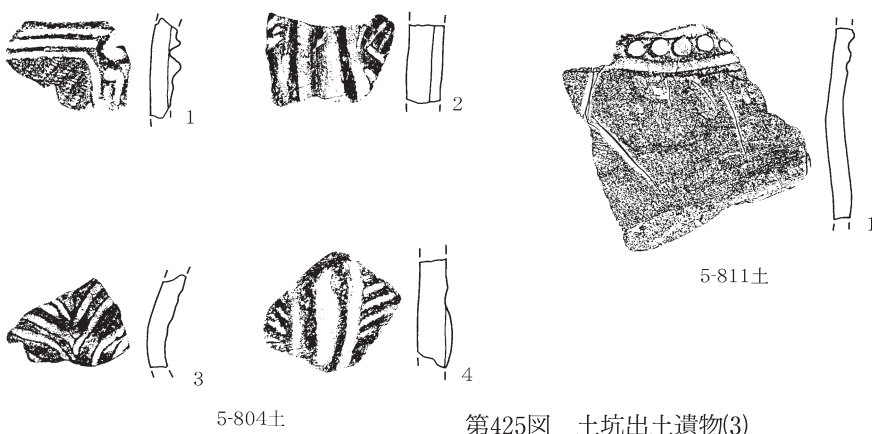
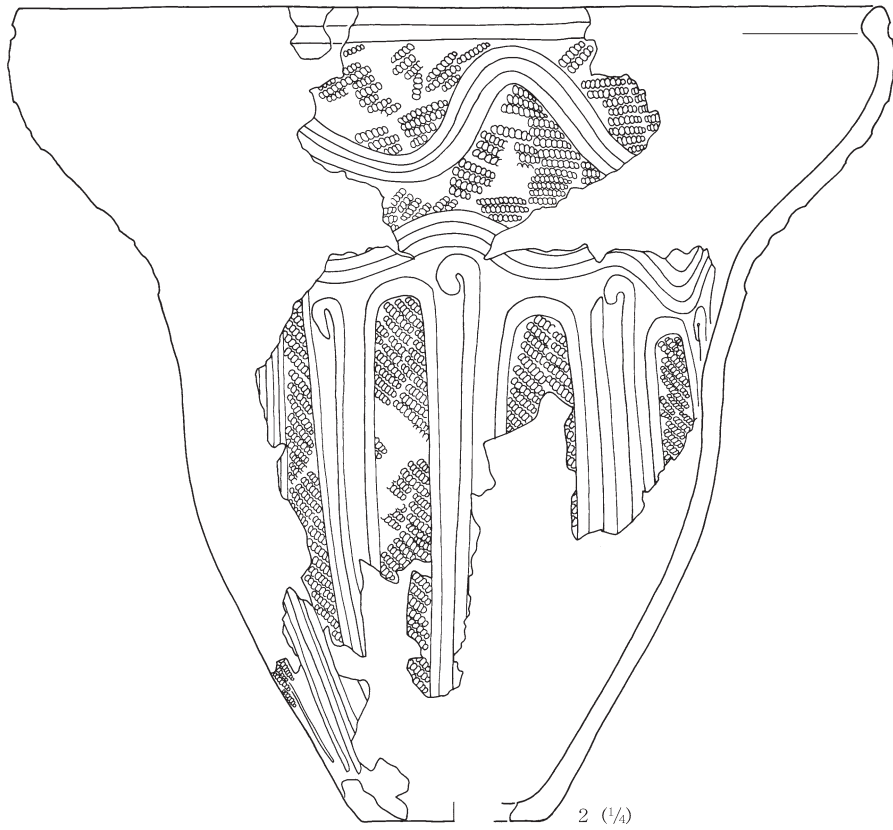
4-109土



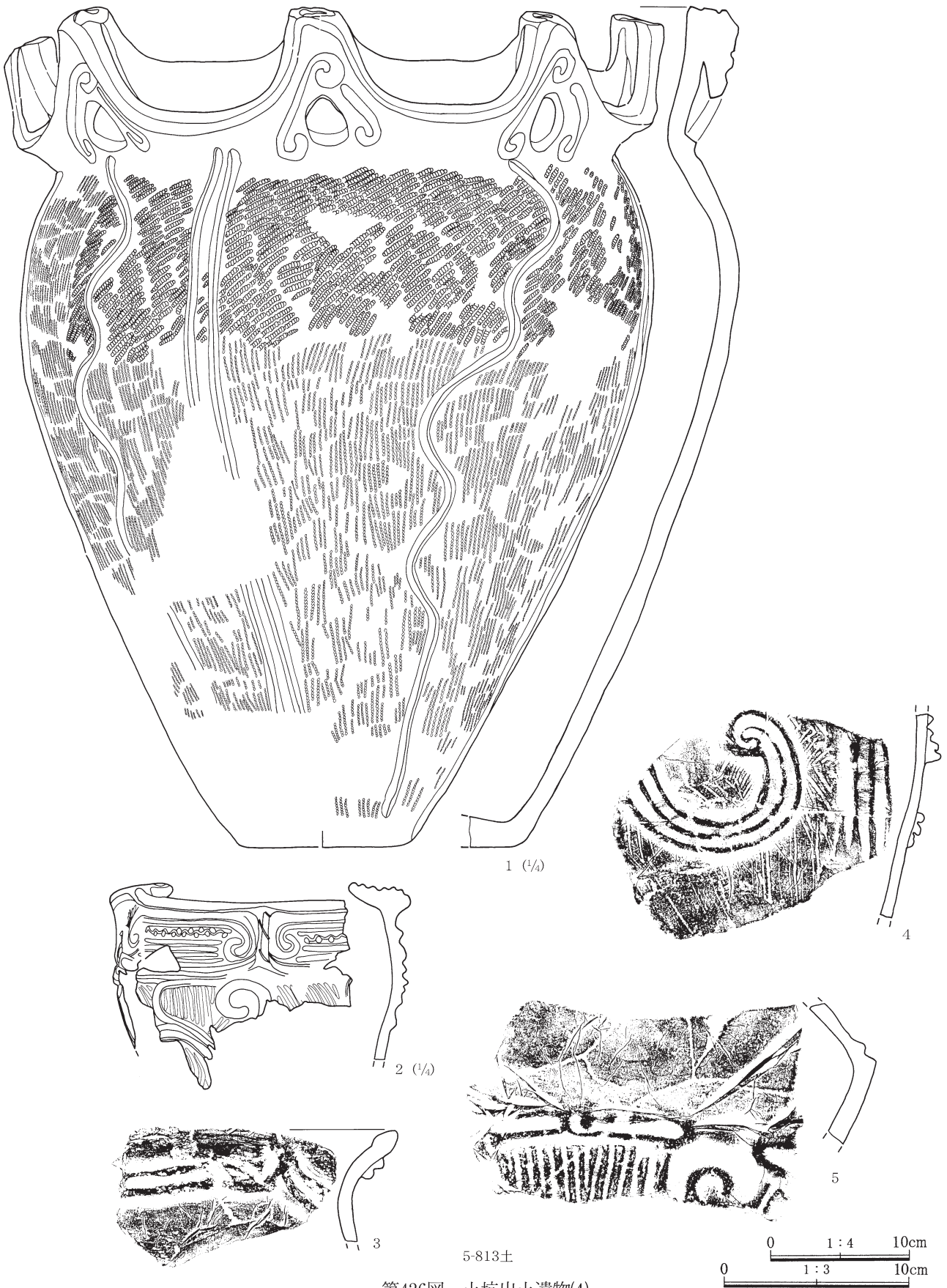
4-110土



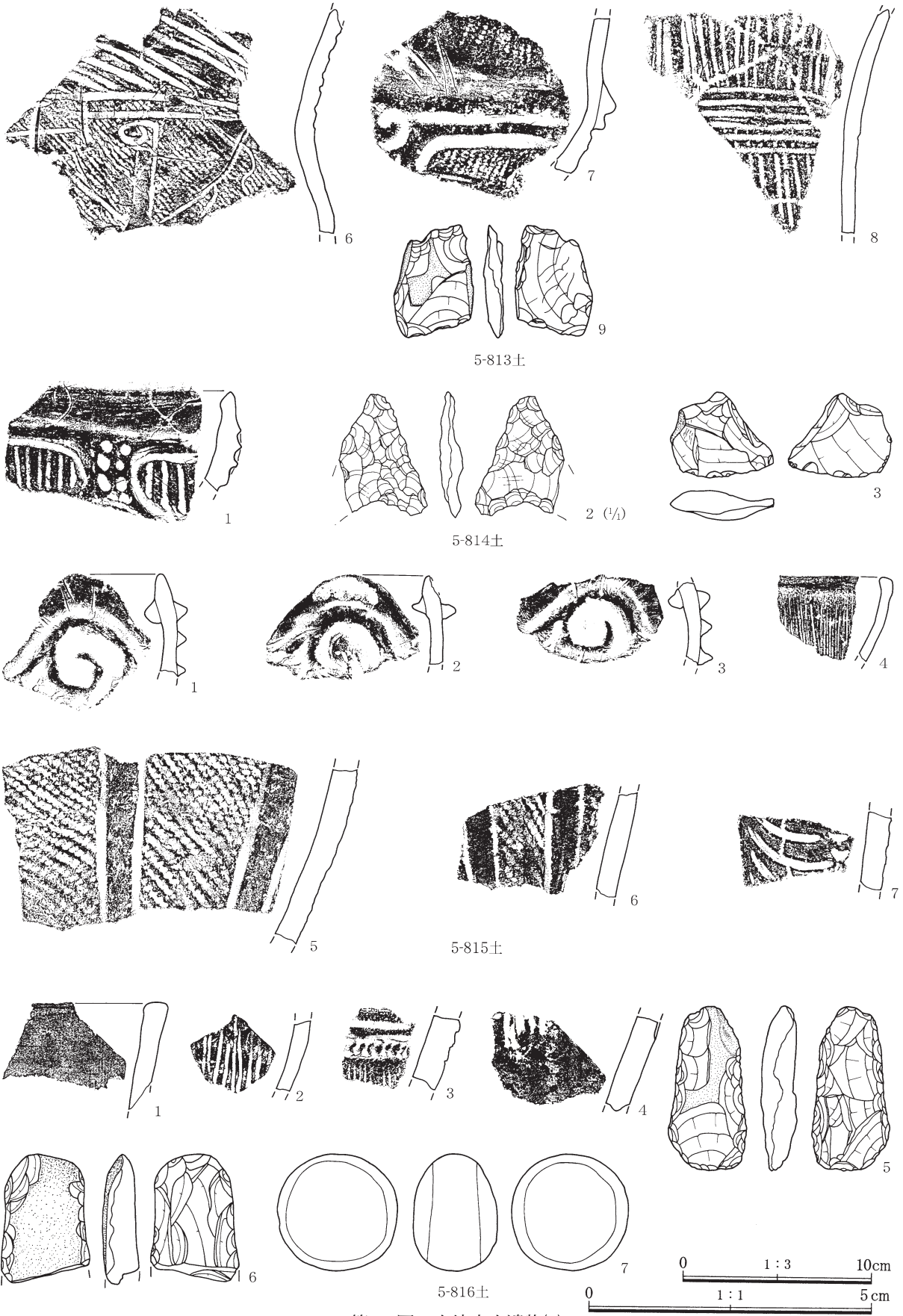
第424図 土坑出土遺物(2)



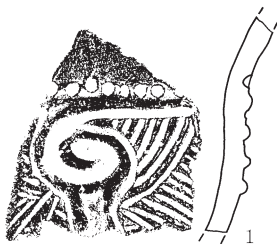
第425図 土坑出土遺物(3)



第426図 土坑出土遺物(4)



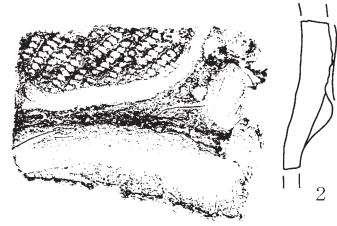
第427図 土坑出土遺物(5)



5-821土



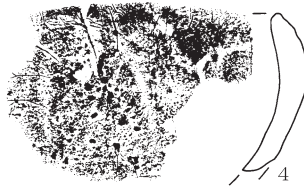
1



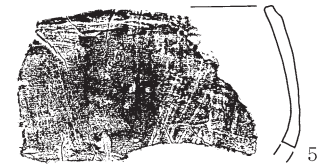
2



3



4

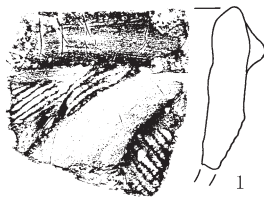


5

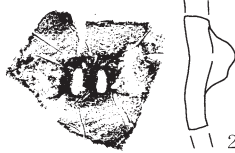


6

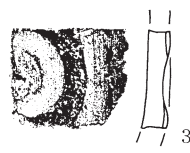
5-824土



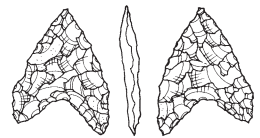
1



2



3



4 (1/2)

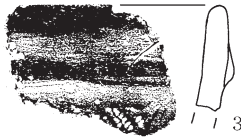
5-825土



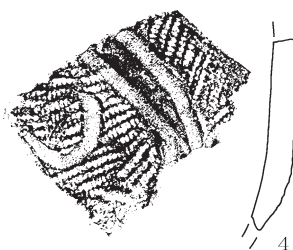
1



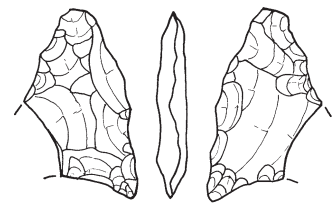
2



3

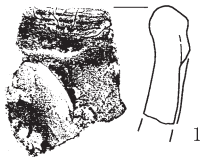


4



5 (1/2)

5-826土



1

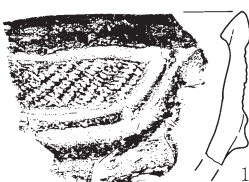


2



3

5-827土



1



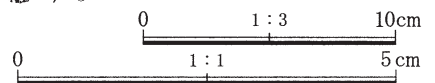
2

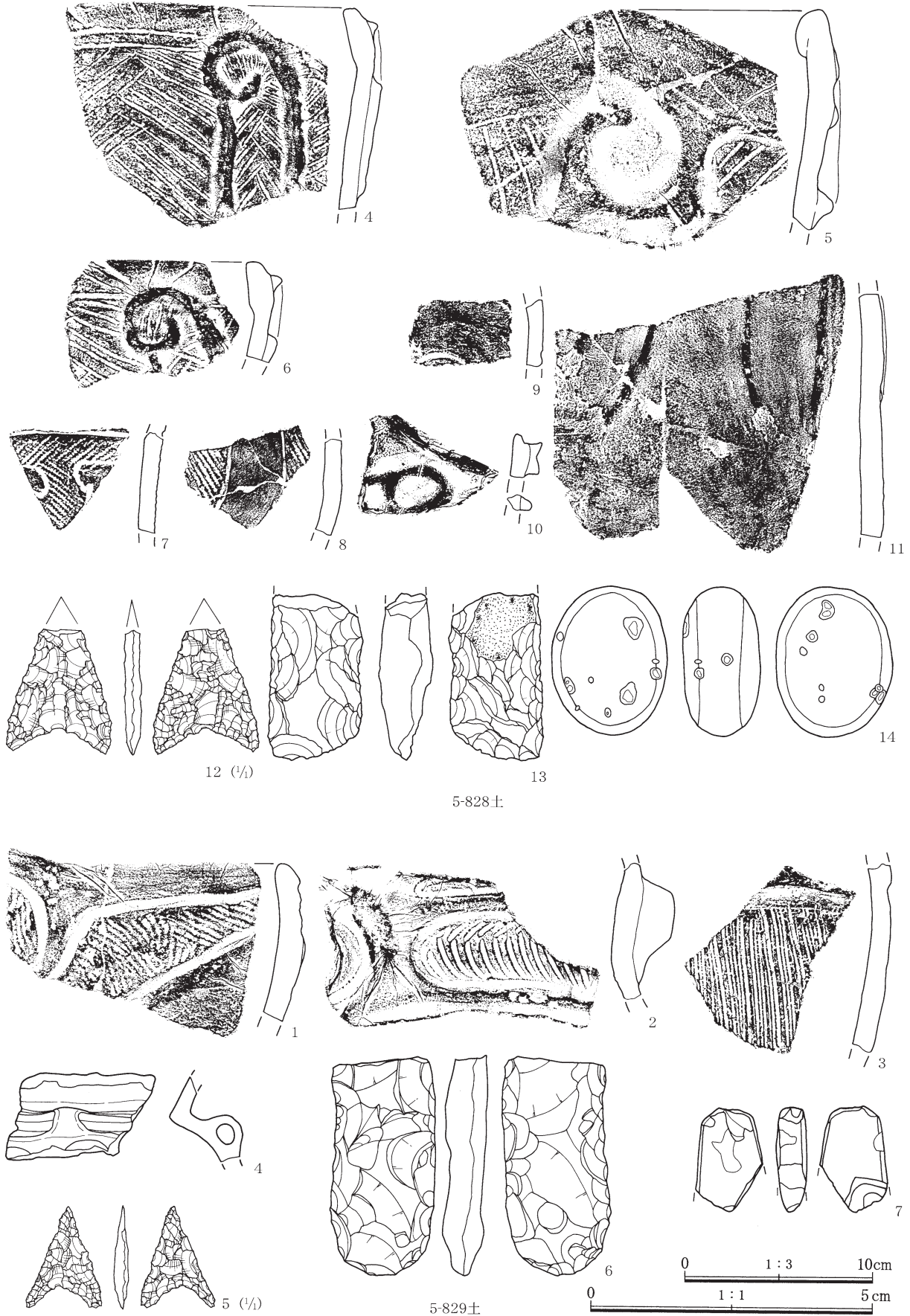


3

5-828土

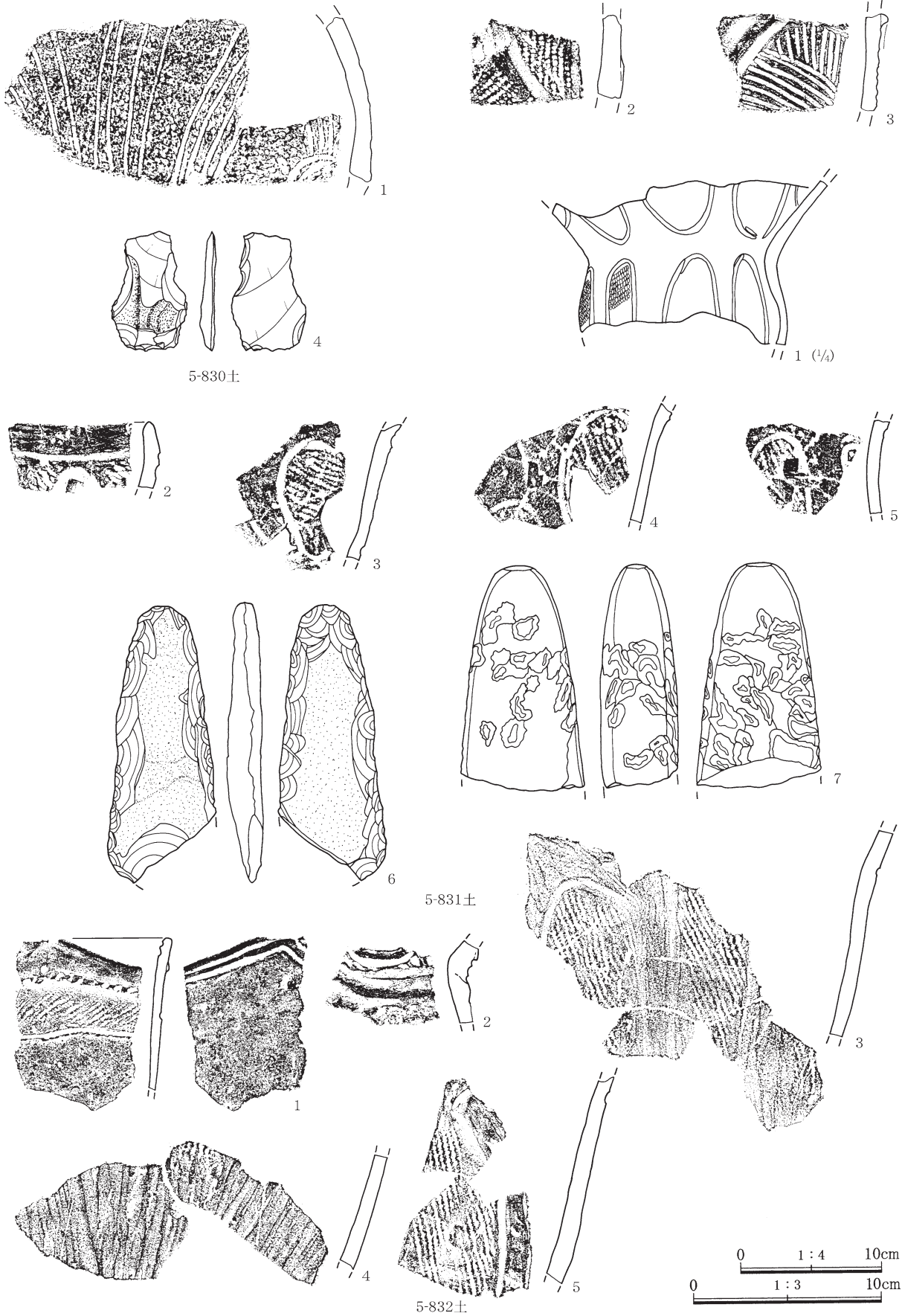
第428図 土坑出土遺物(6)





第429図 土坑出土遺物(7)

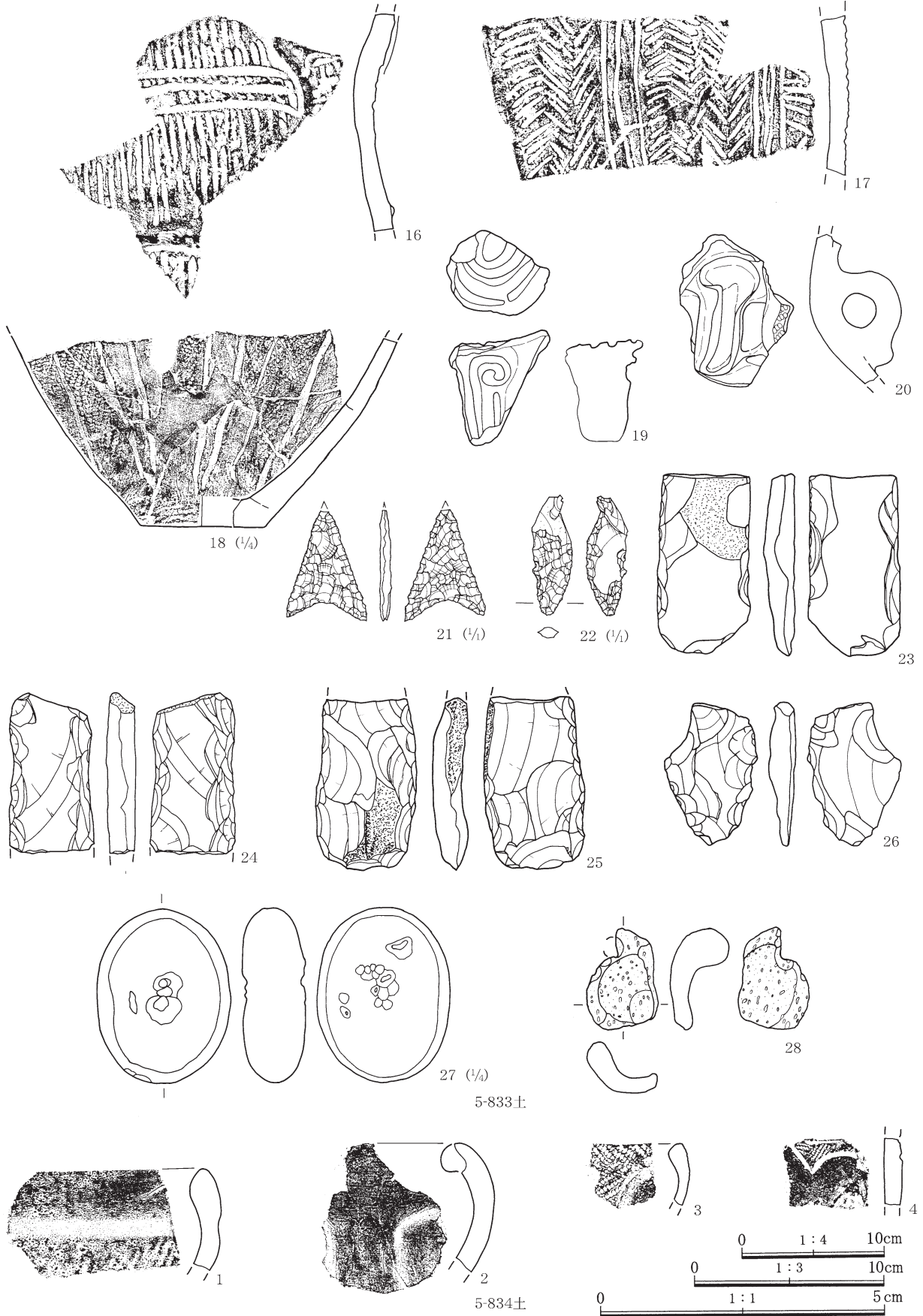
第3節 縄文時代の遺構と遺物



第430図 土坑出土遺物(8)

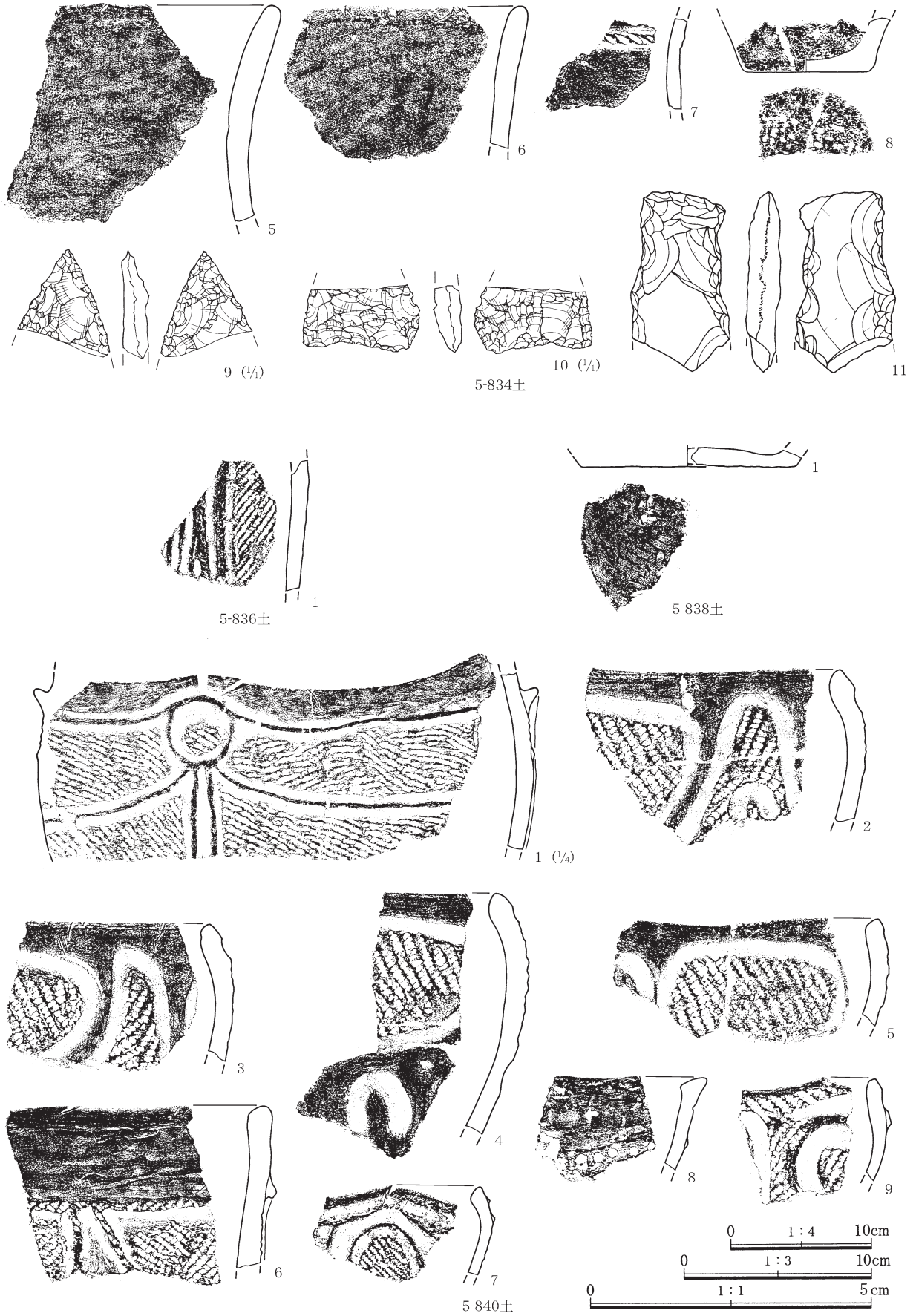


第431図 土坑出土遺物(9)



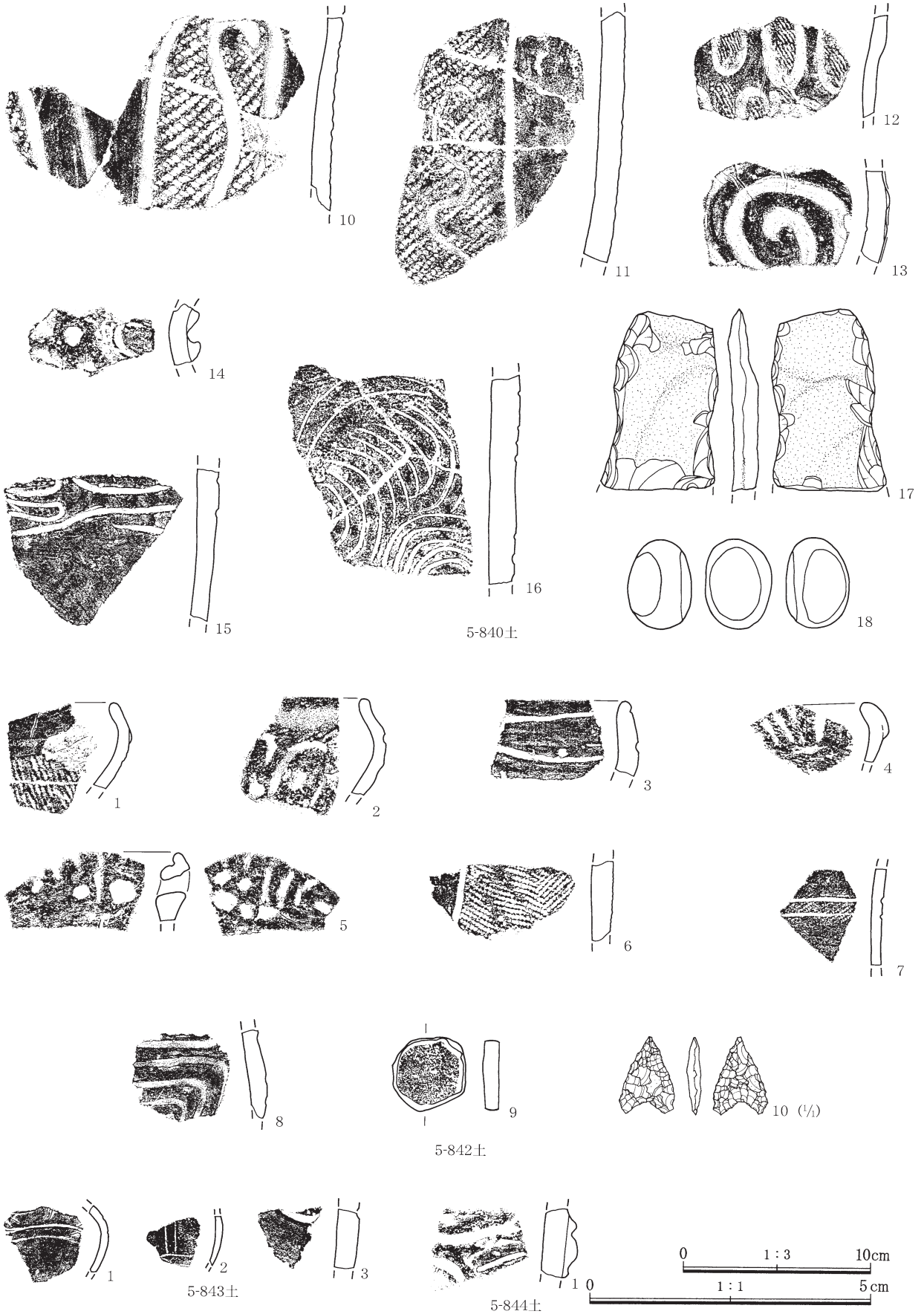
第432図 土坑出土遺物(10)

第3章 検出された遺構と遺物



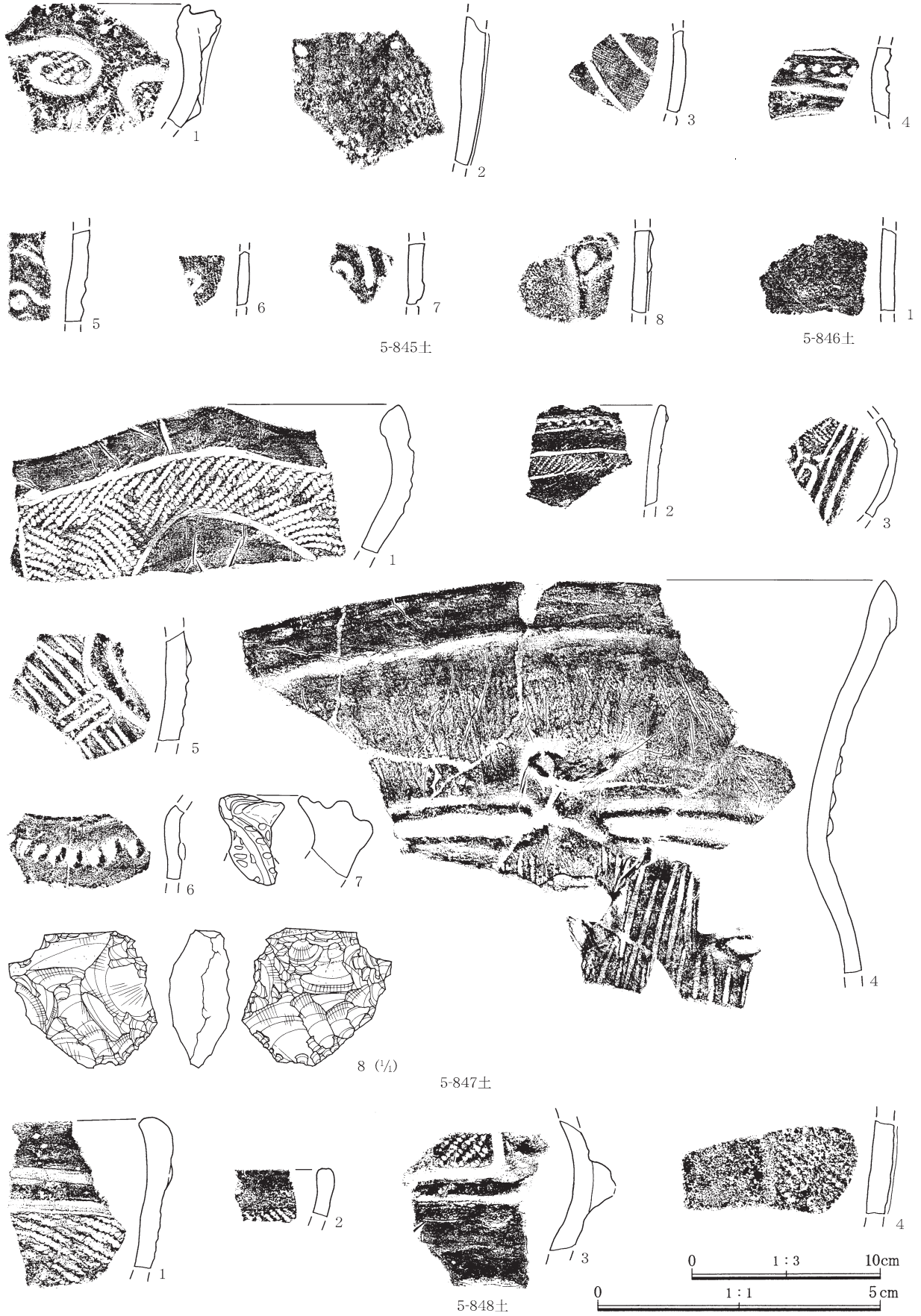
第433図 土坑出土遺物(11)

第3節 縄文時代の遺構と遺物



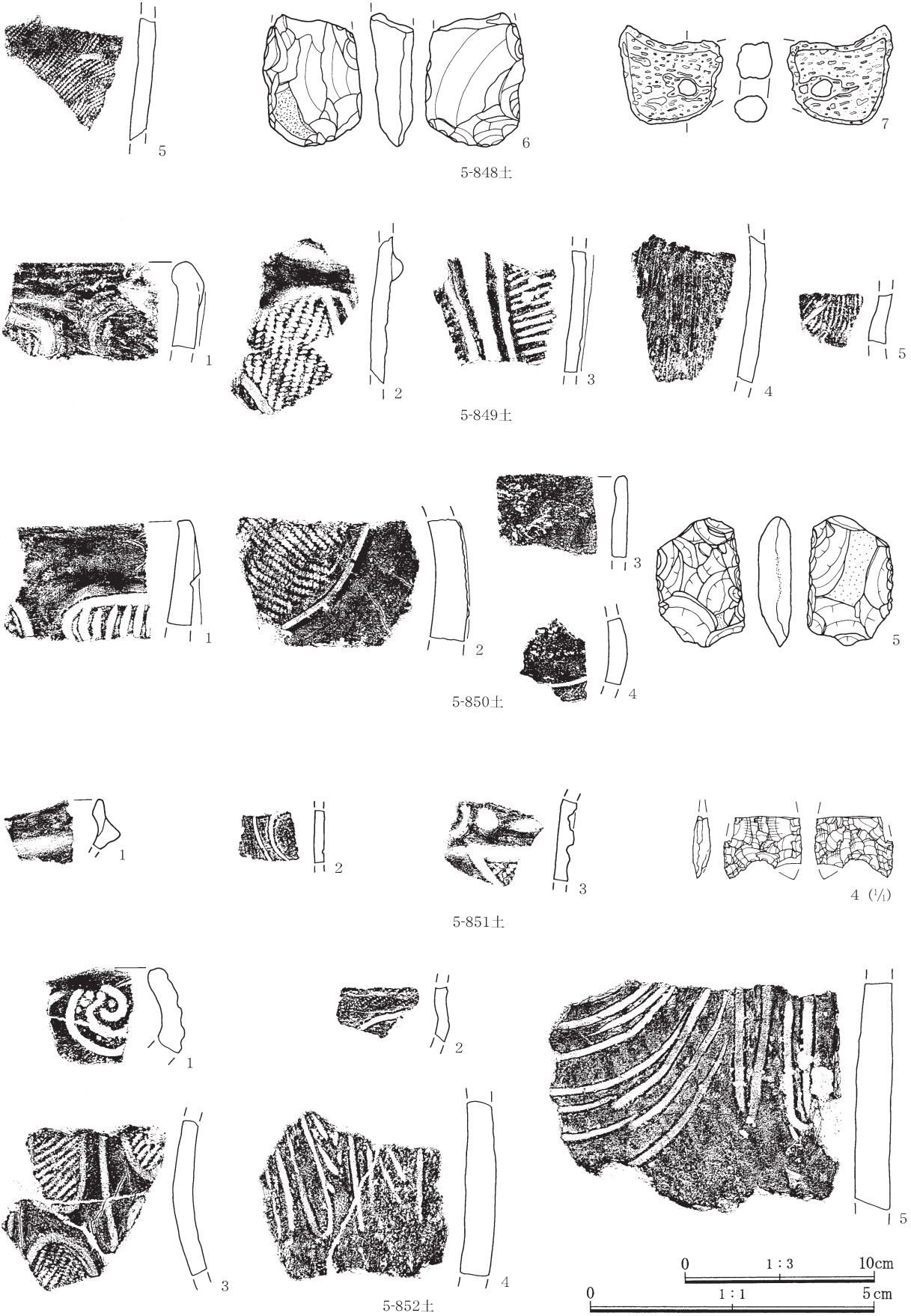
第434図 土坑出土遺物(12)

第3章 検出された遺構と遺物



第435図 土坑出土遺物(13)

第3節 縄文時代の遺構と遺物

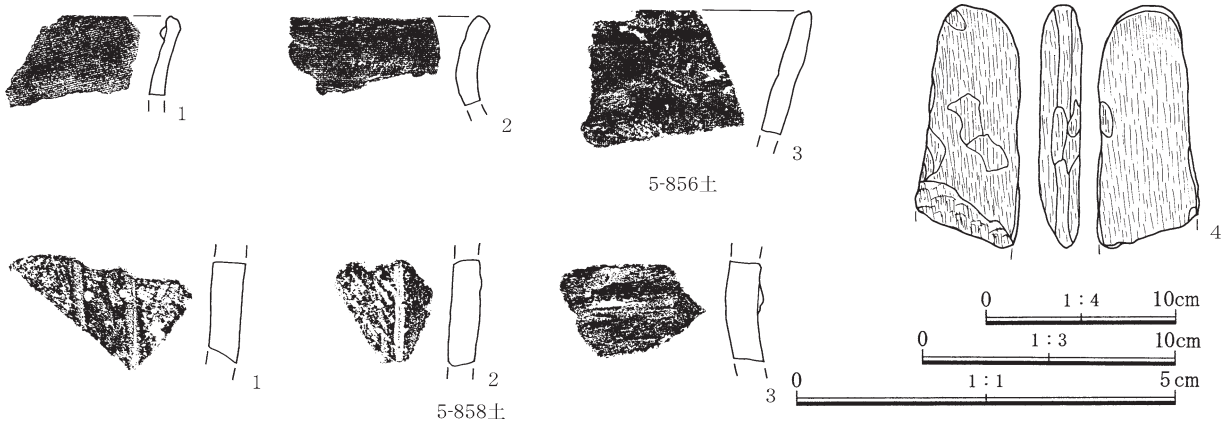
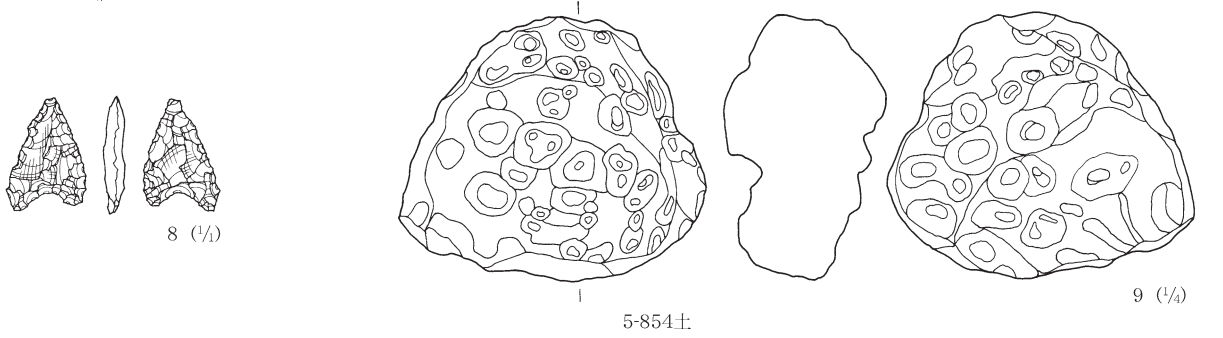
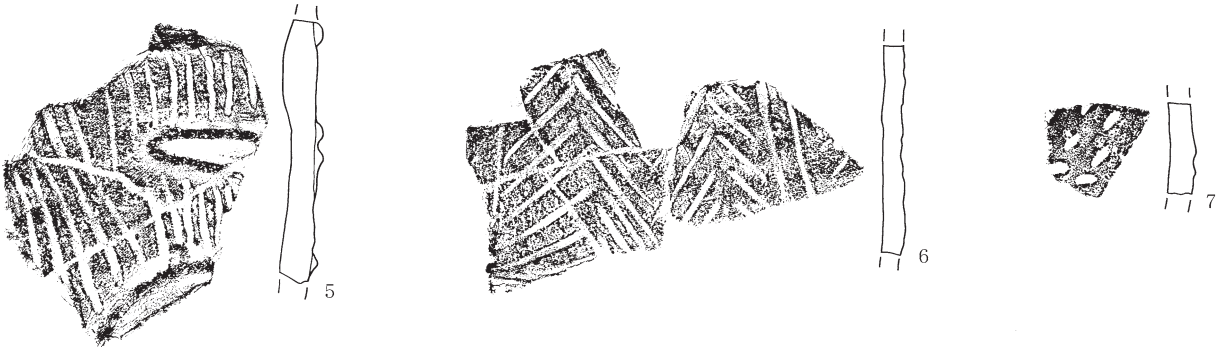
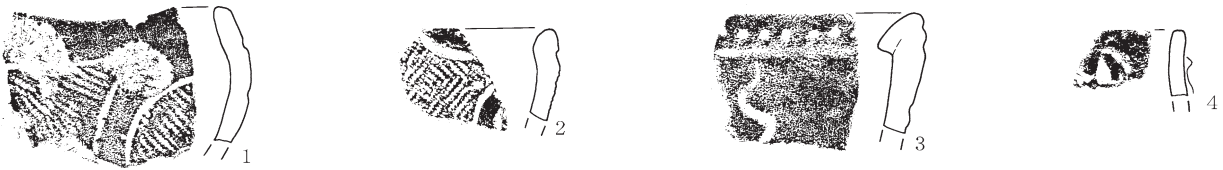


第436図 土坑出土遺物(14)

第3章 検出された遺構と遺物



5-852土



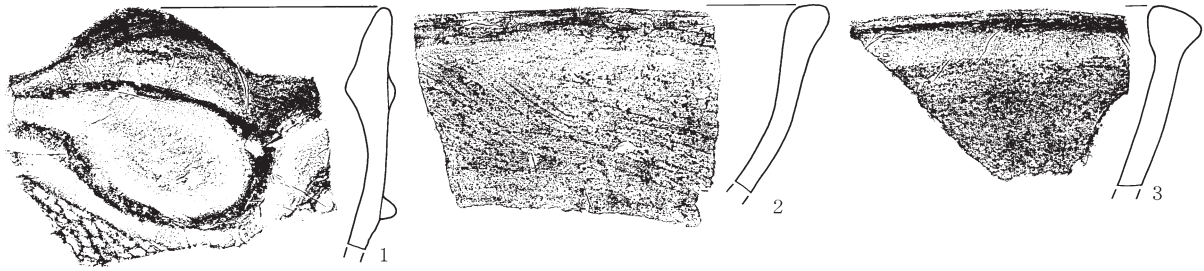
5-858土

第437図 土坑出土遺物(15)

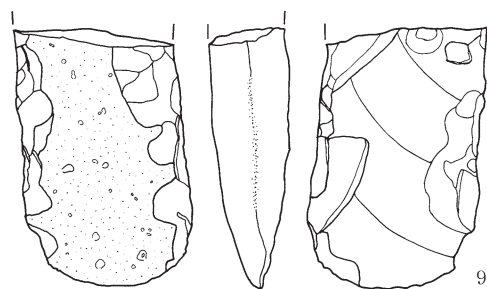
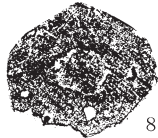
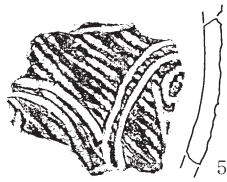
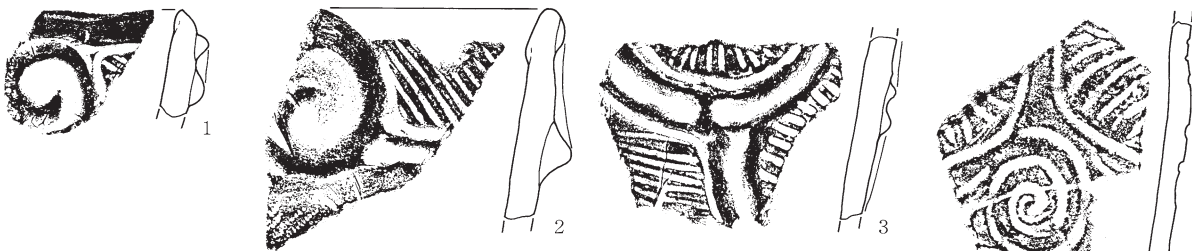
第3節 縄文時代の遺構と遺物



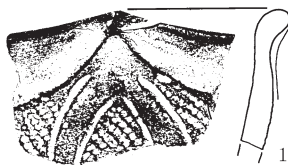
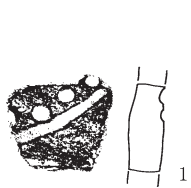
5-860土
第438図 土坑出土遺物(16)



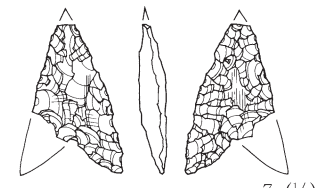
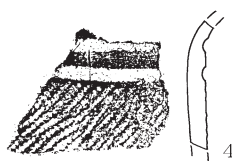
5-861土



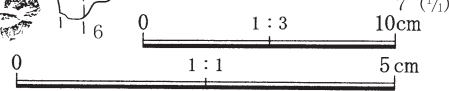
5-862土



5-864土



5-865土

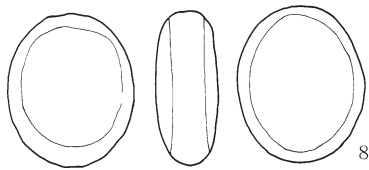
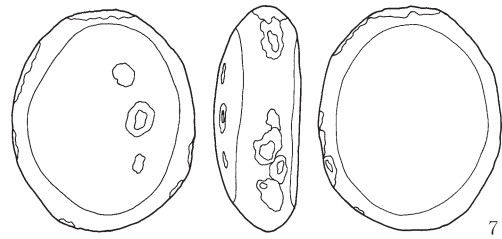
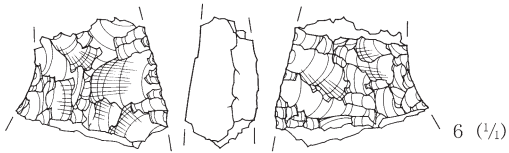
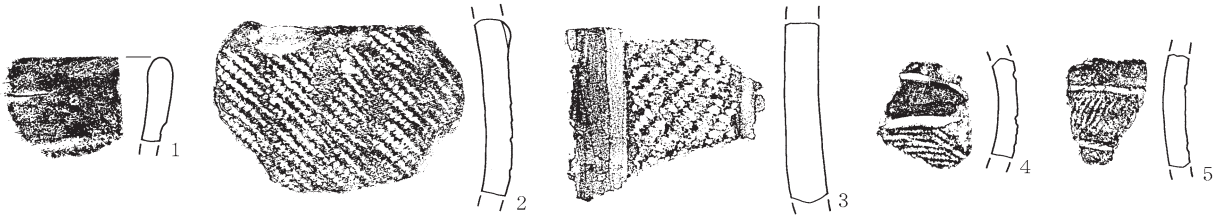


第439図 土坑出土遺物(17)

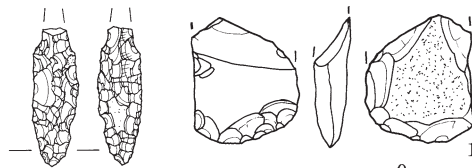
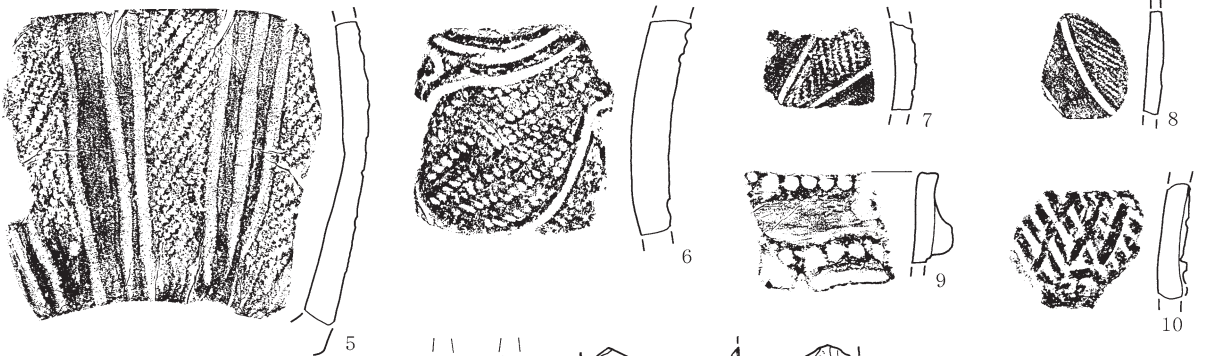
第3節 縄文時代の遺構と遺物



5-866土

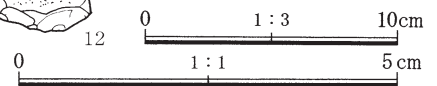


5-867土

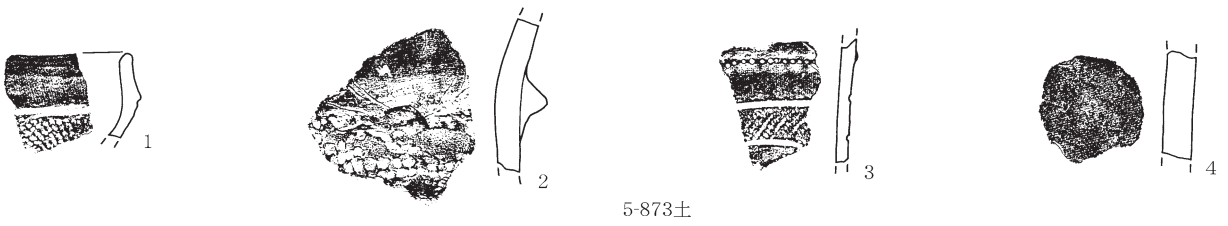
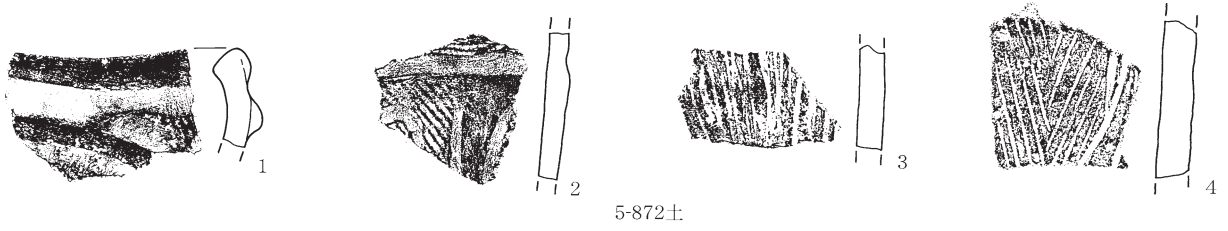
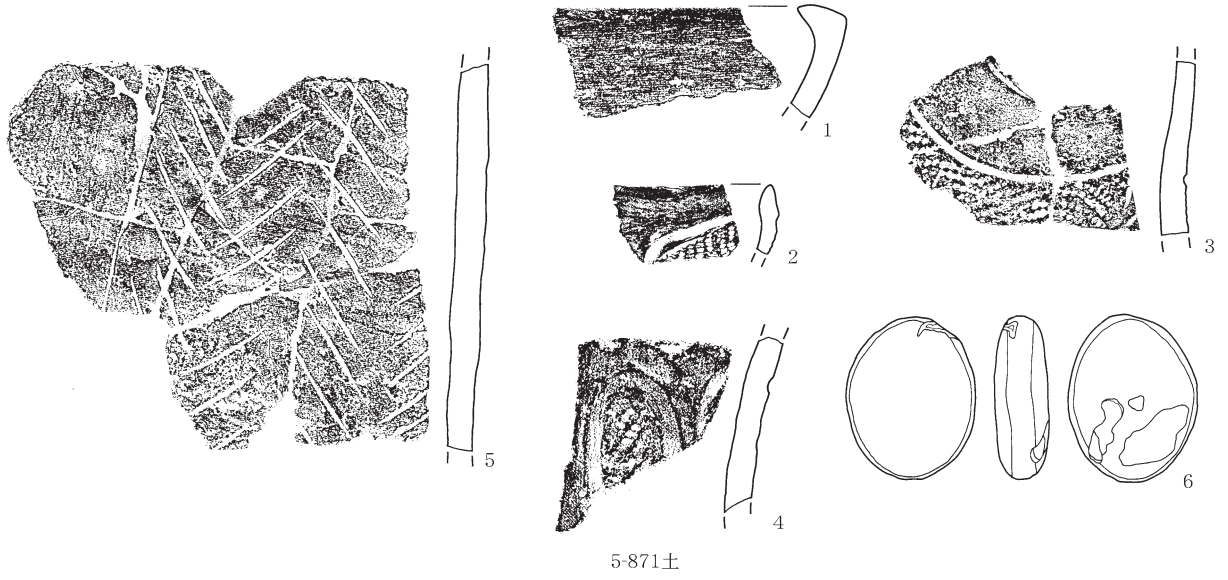
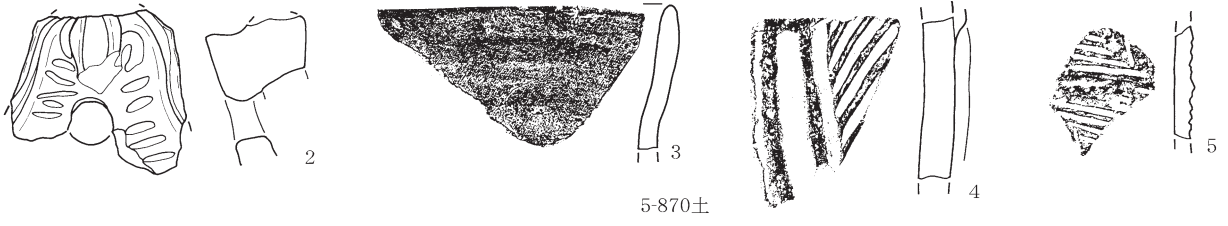
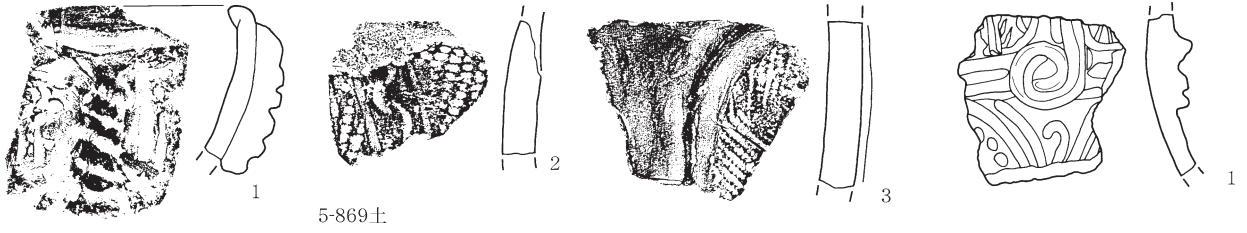


11 (1/4)

5-868土



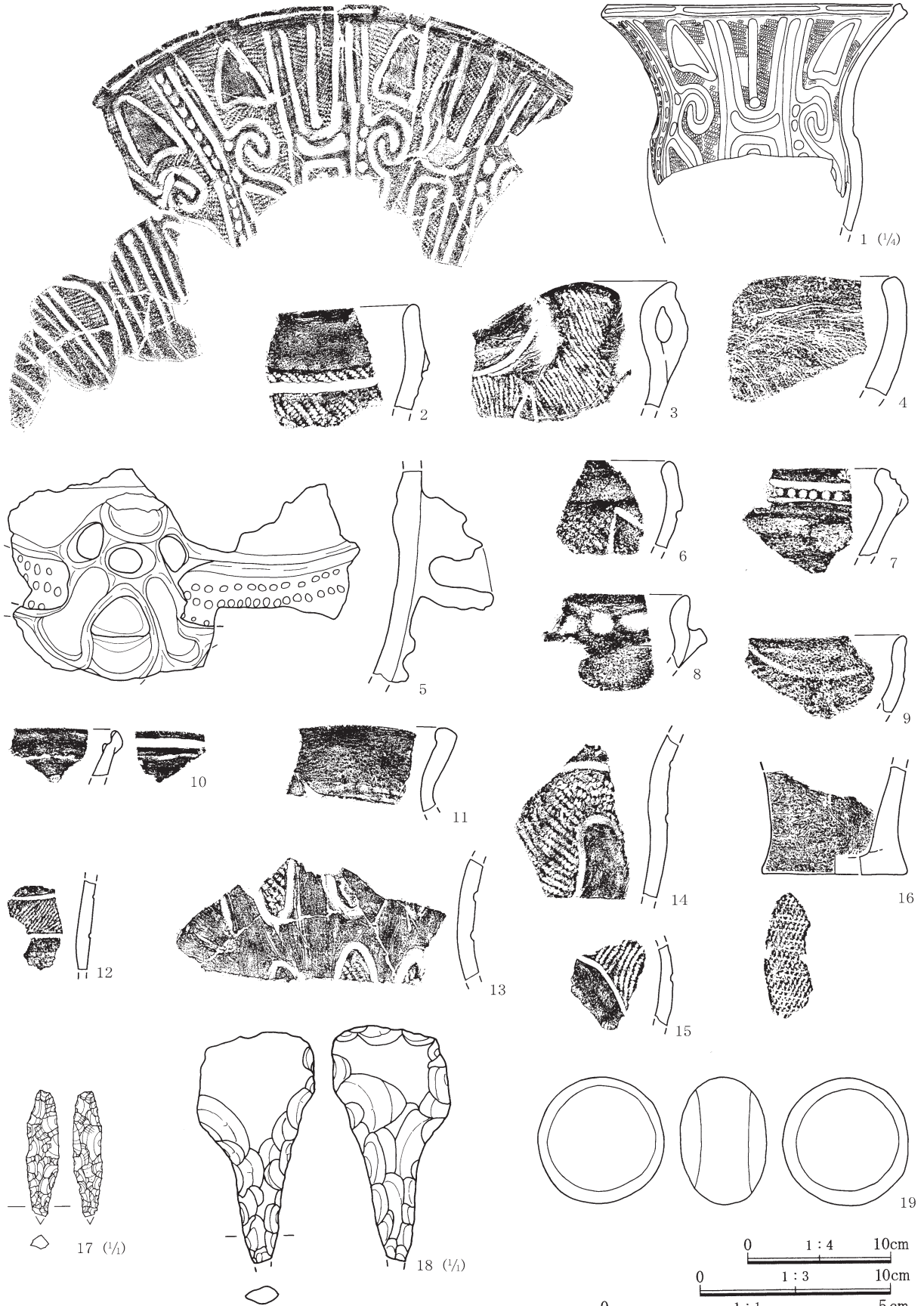
第440図 土坑出土遺物(18)



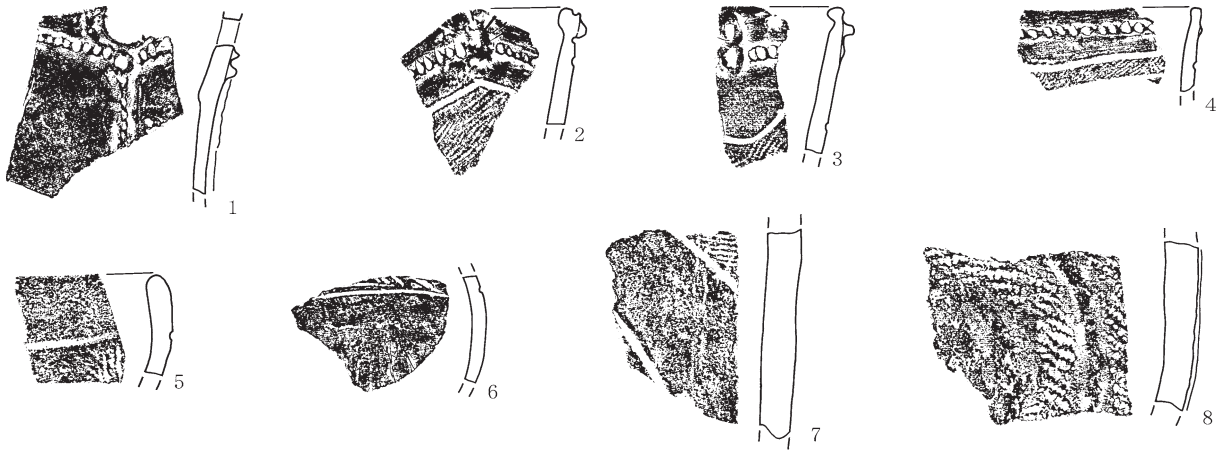
0 1:3 10cm

第441図 土坑出土遺物(19)

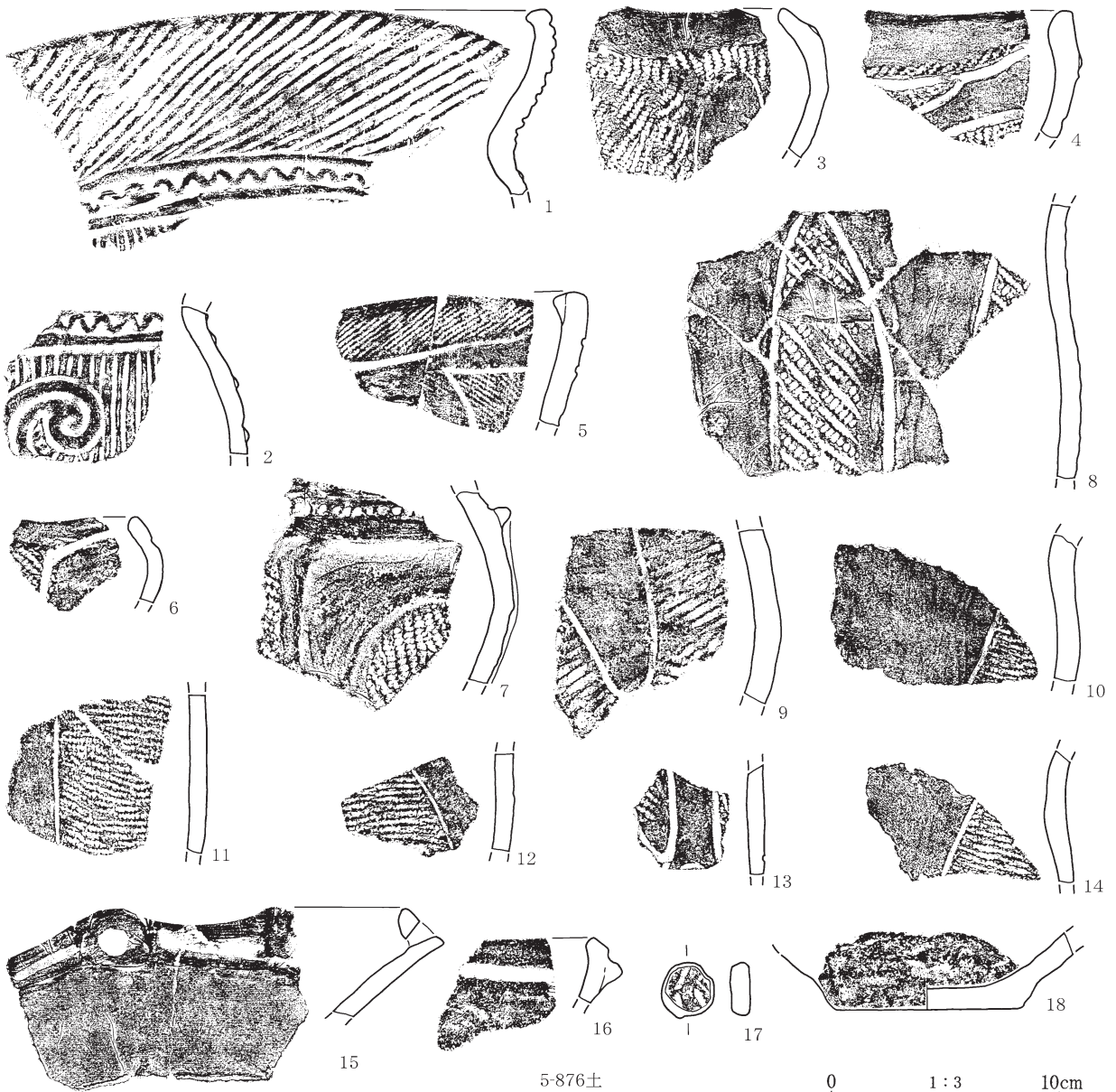
第3節 縄文時代の遺構と遺物



5-874土
第442図 土坑出土遺物(20)



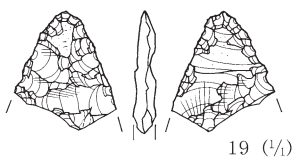
5-875土



5-876土

第443図 土坑出土遺物(2)

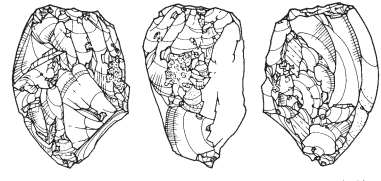
第3節 縄文時代の遺構と遺物



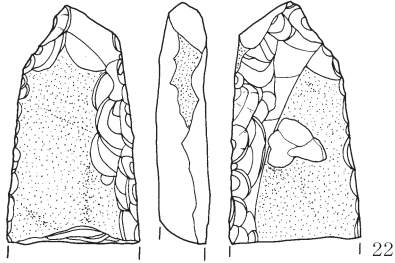
19 (1/4)



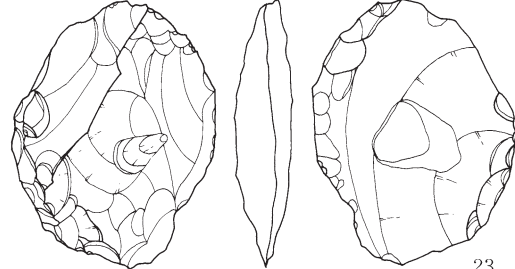
20 (1/2)



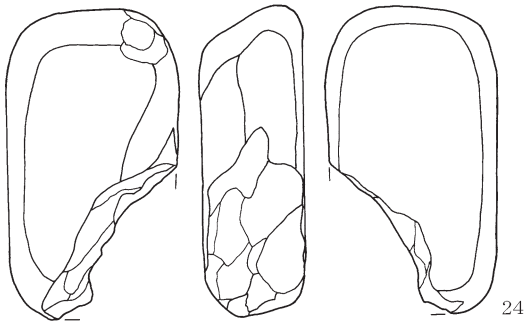
21 (1/2)



22

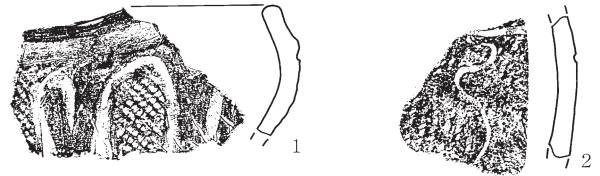


23



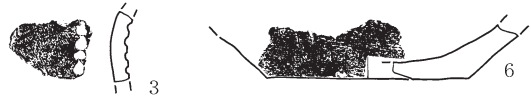
24

5-876土



1

2

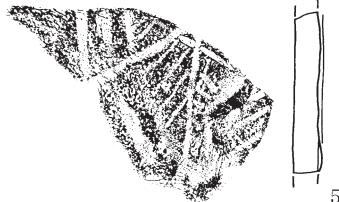


3

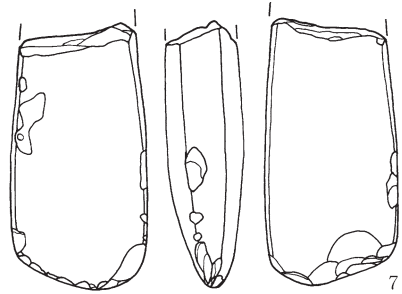
6



4

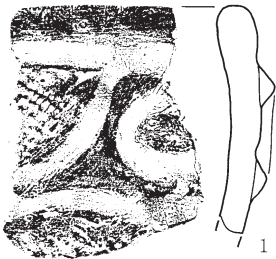


5

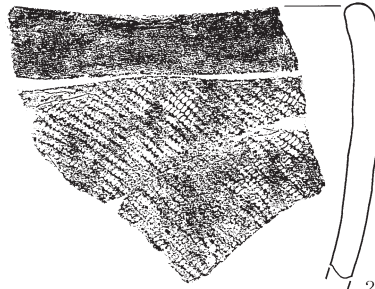


7

5-877土

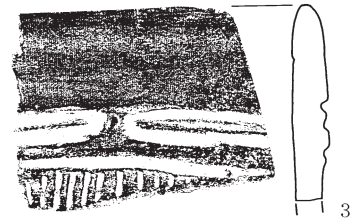


1

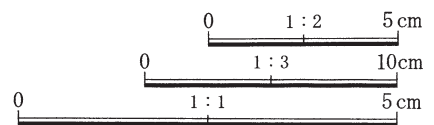


2

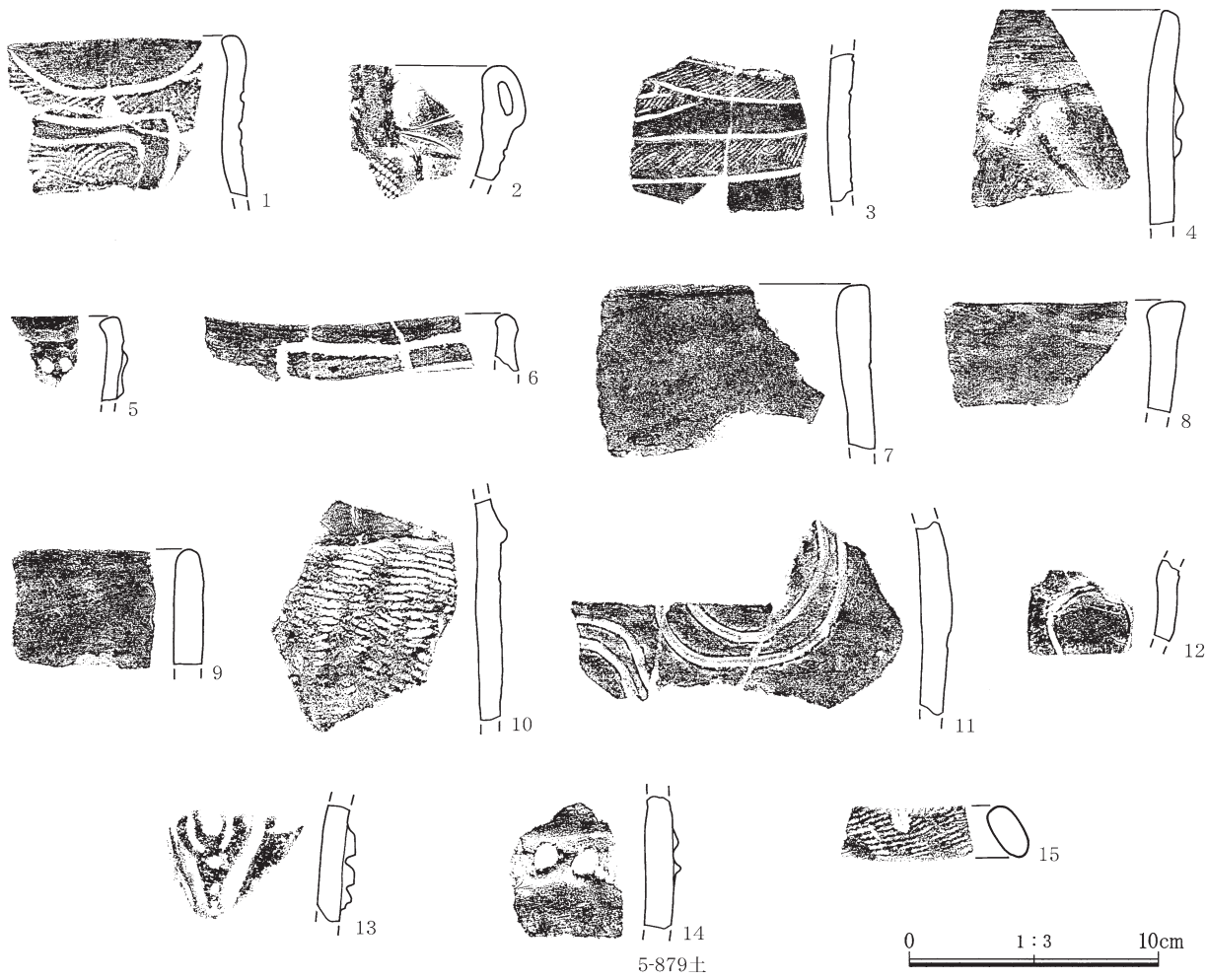
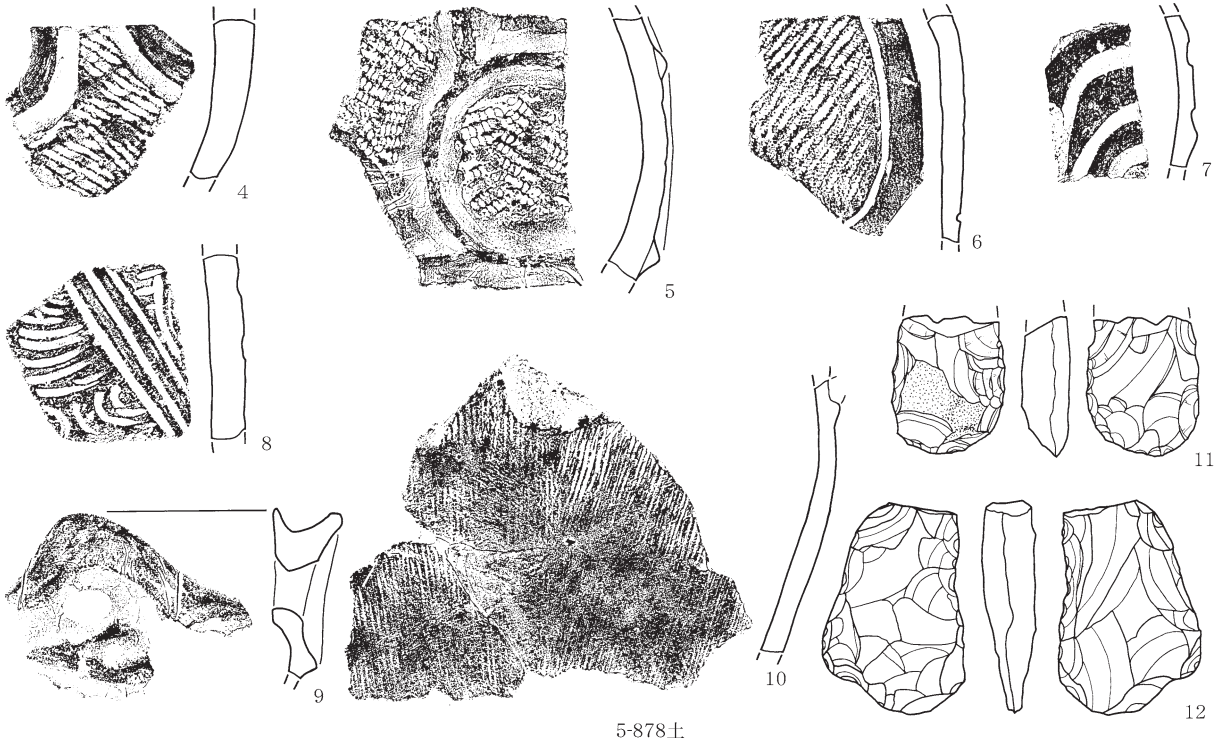
5-878土



3

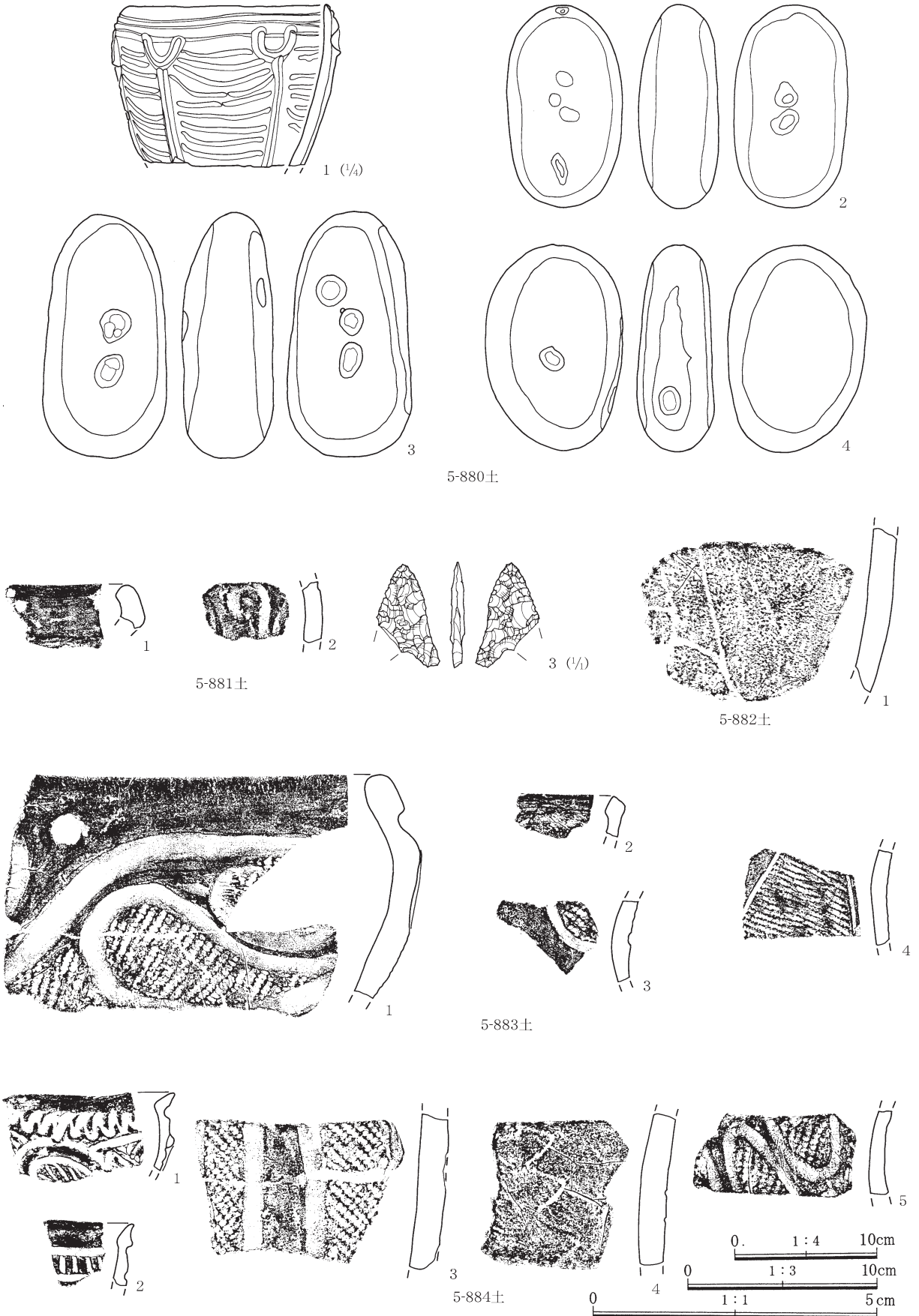


第444図 土坑出土遺物(22)



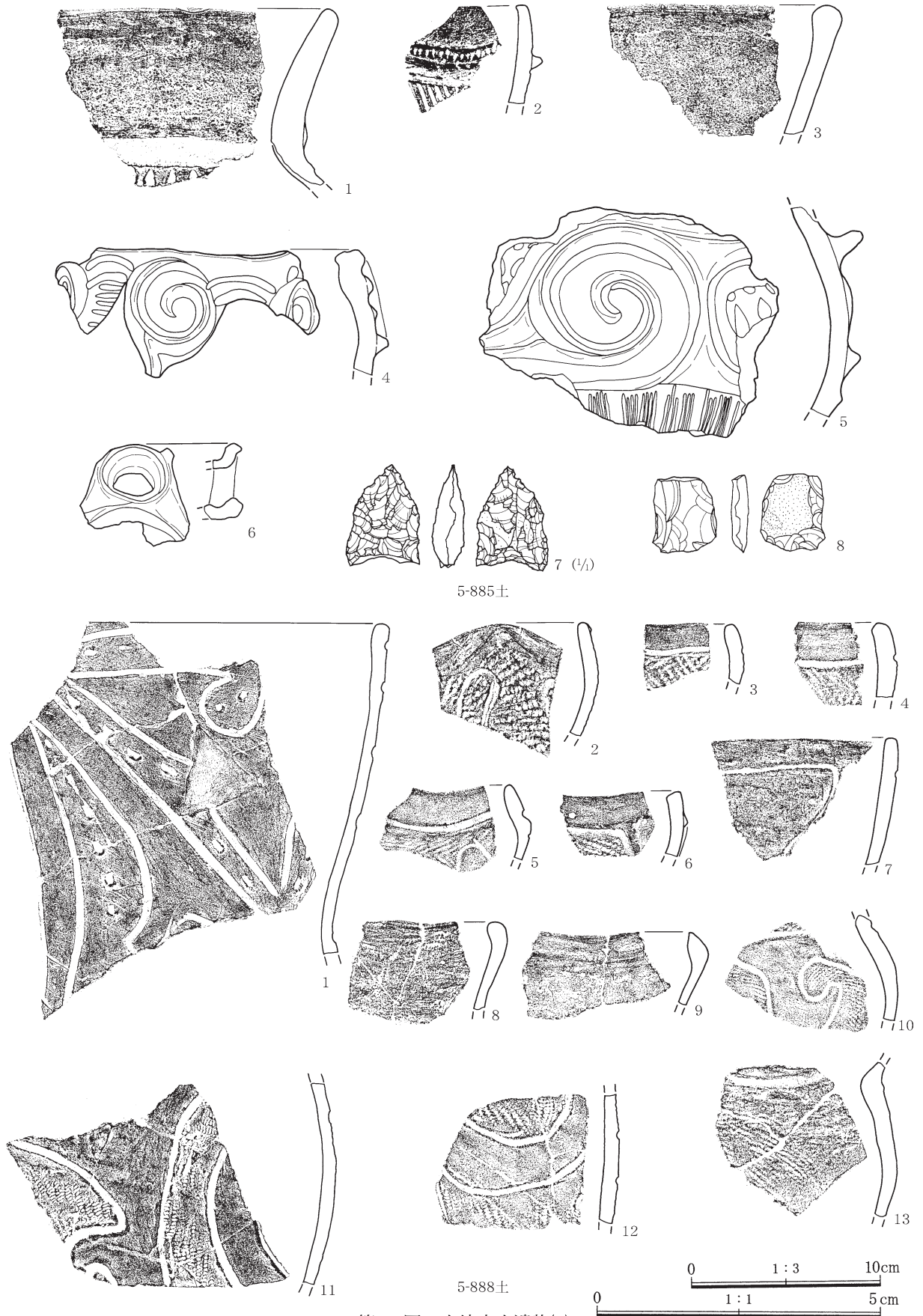
第445図 土坑出土遺物(23)

第3節 縄文時代の遺構と遺物

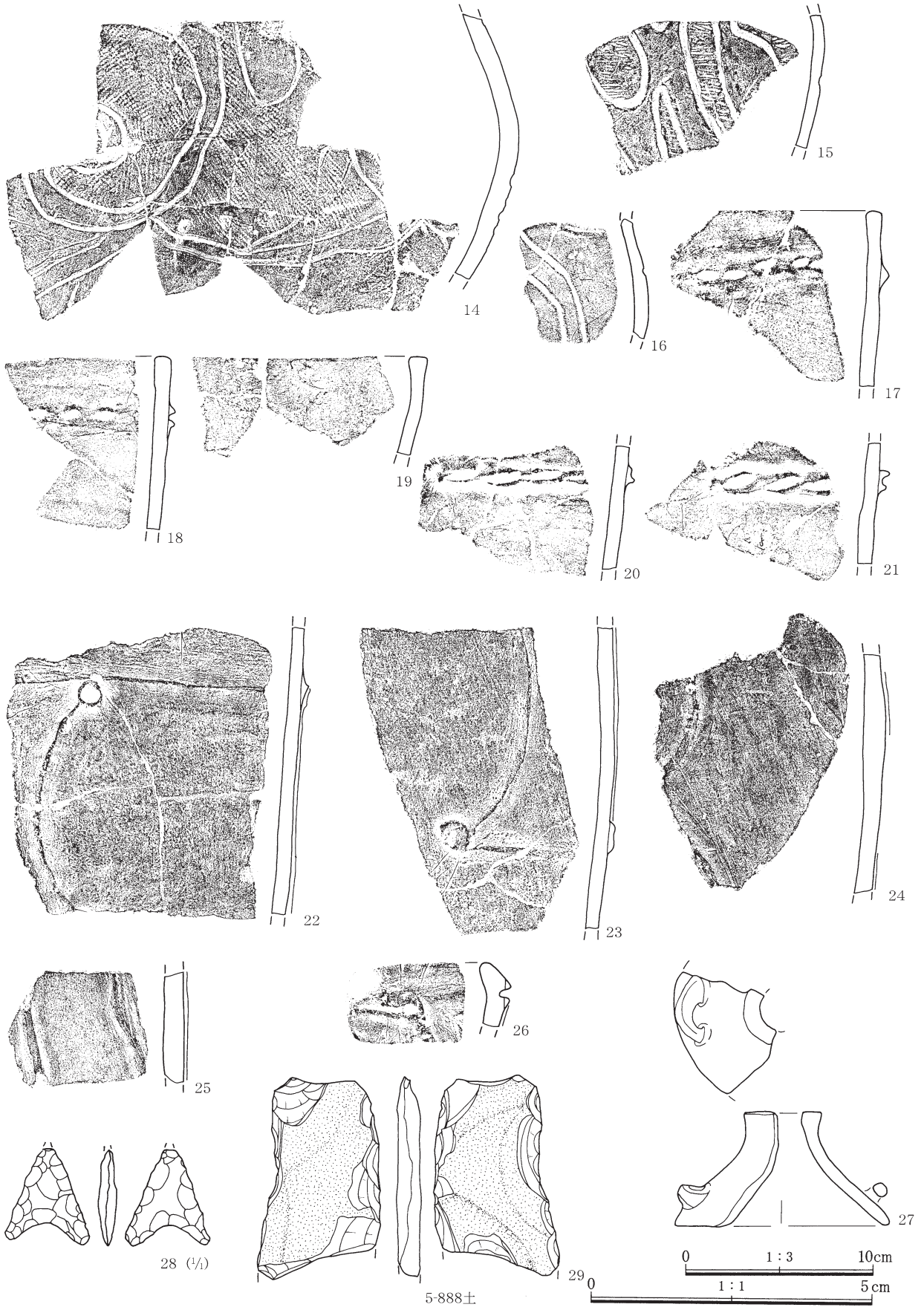


第446図 土坑出土遺物(24)

第3章 検出された遺構と遺物

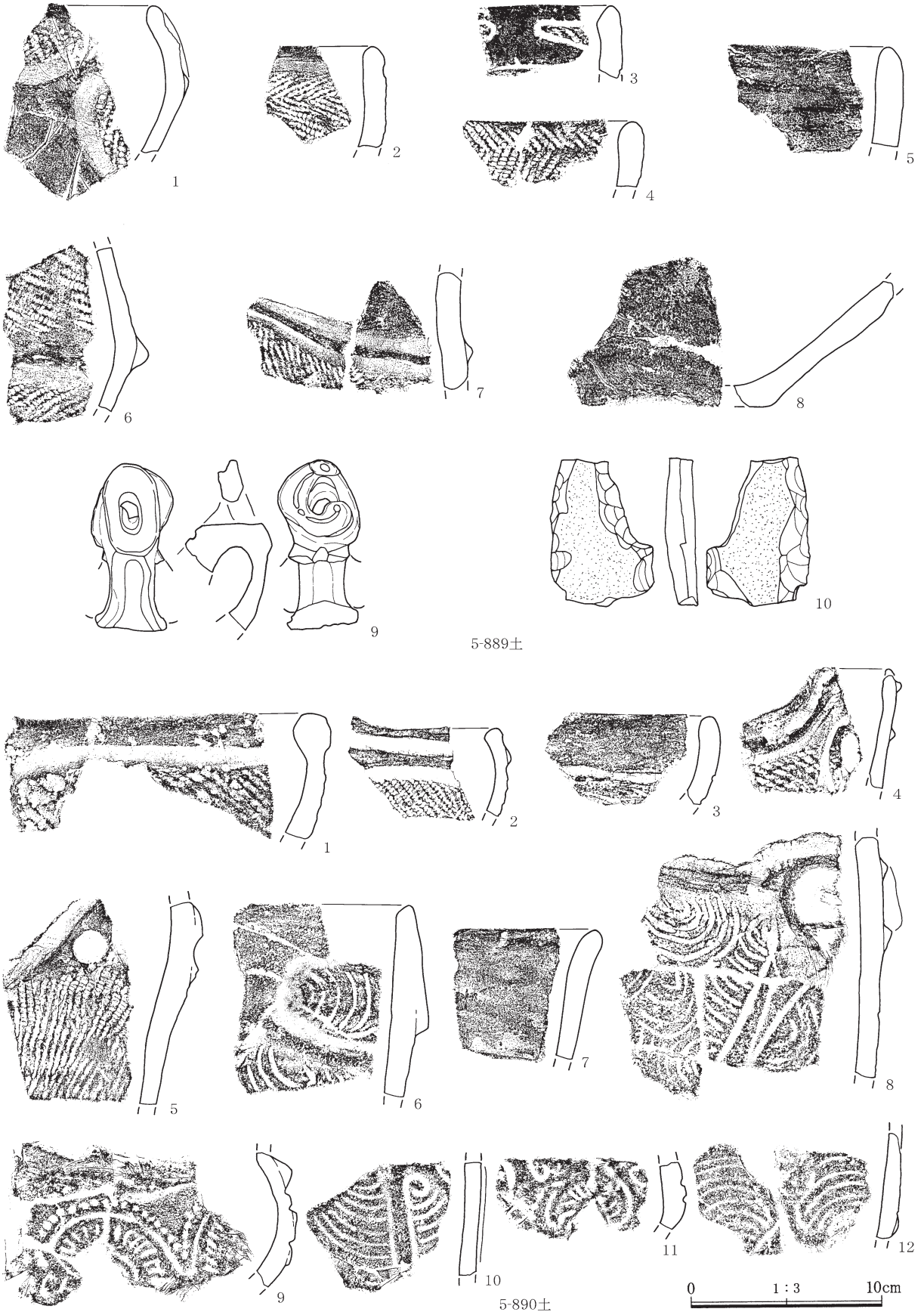


第447図 土坑出土遺物(25)



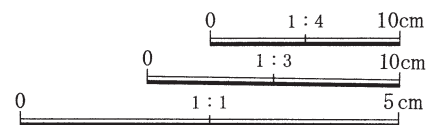
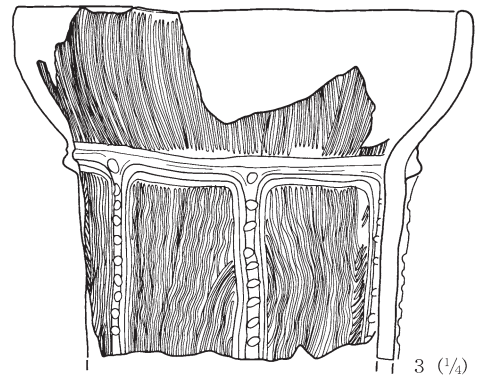
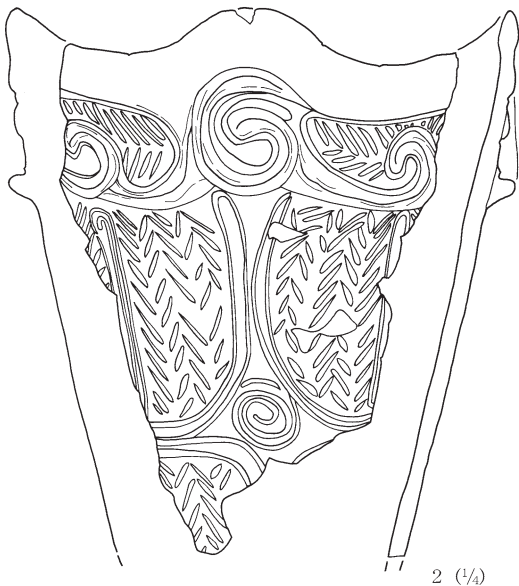
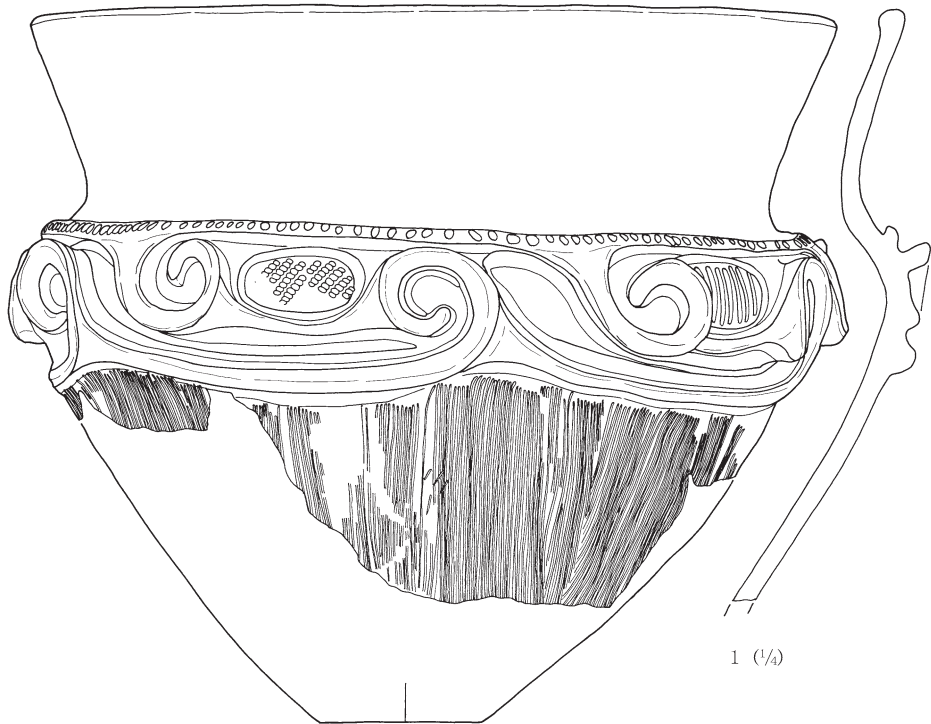
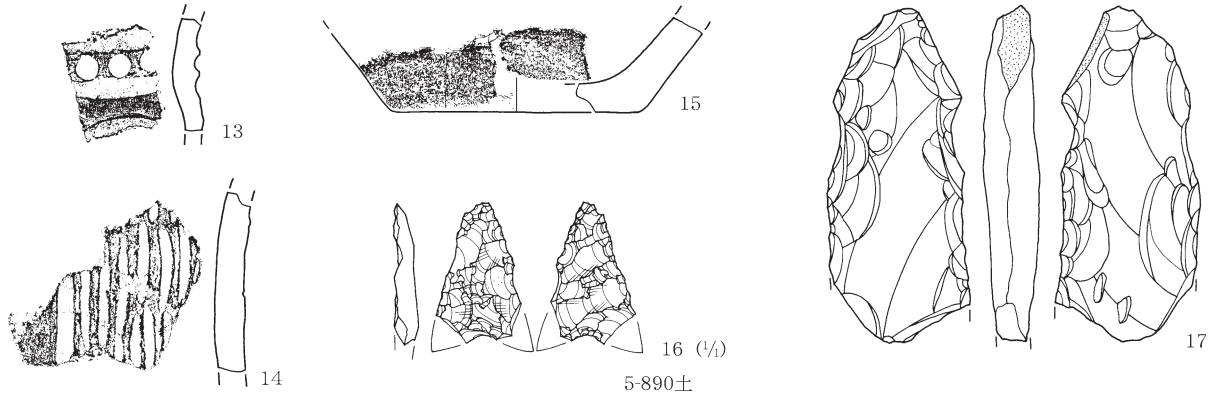
第448図 土坑出土遺物(26)

第3章 検出された遺構と遺物



第449図 土坑出土遺物(27)

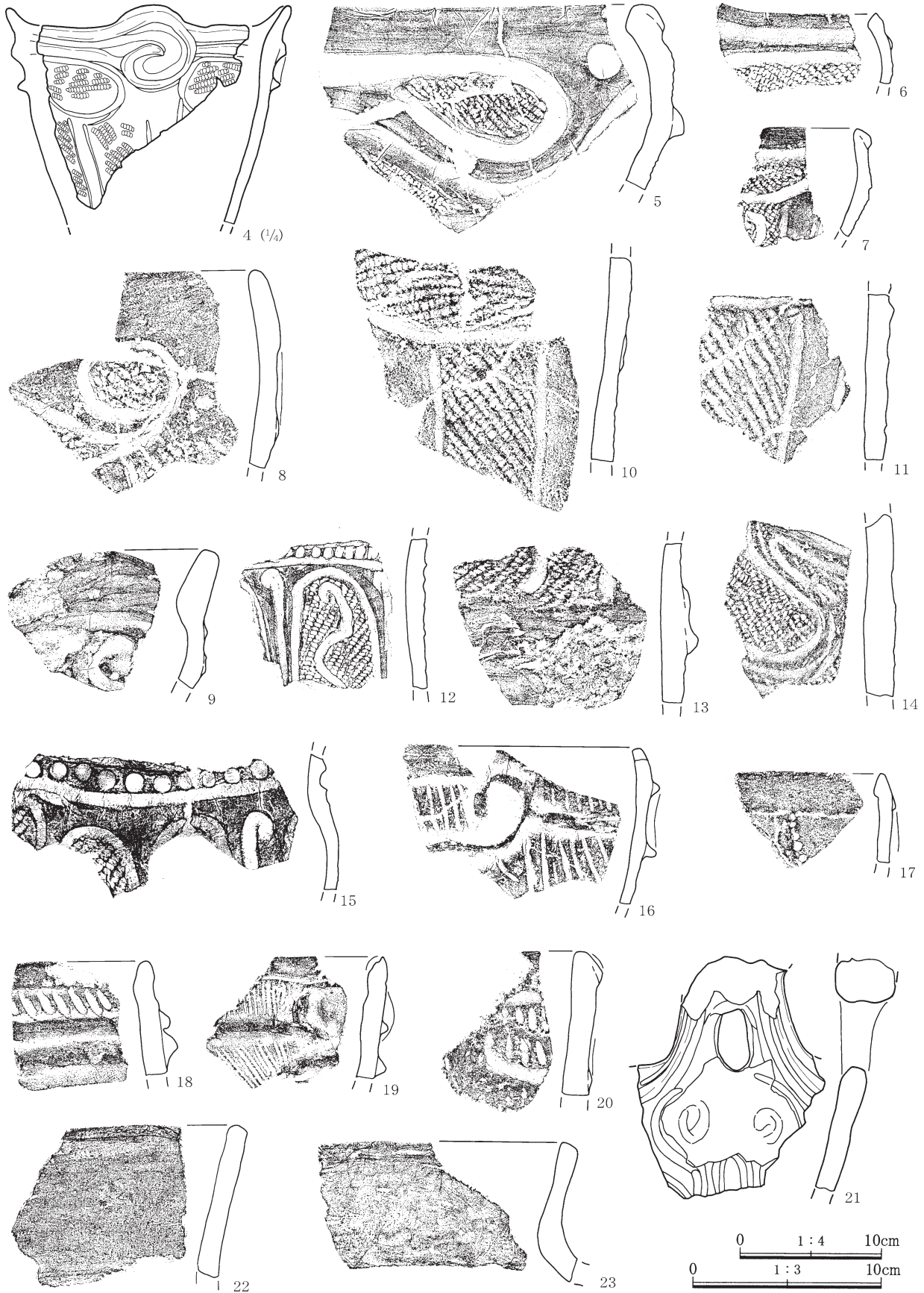
第3節 縄文時代の遺構と遺物



2 (1/4)

5-891土

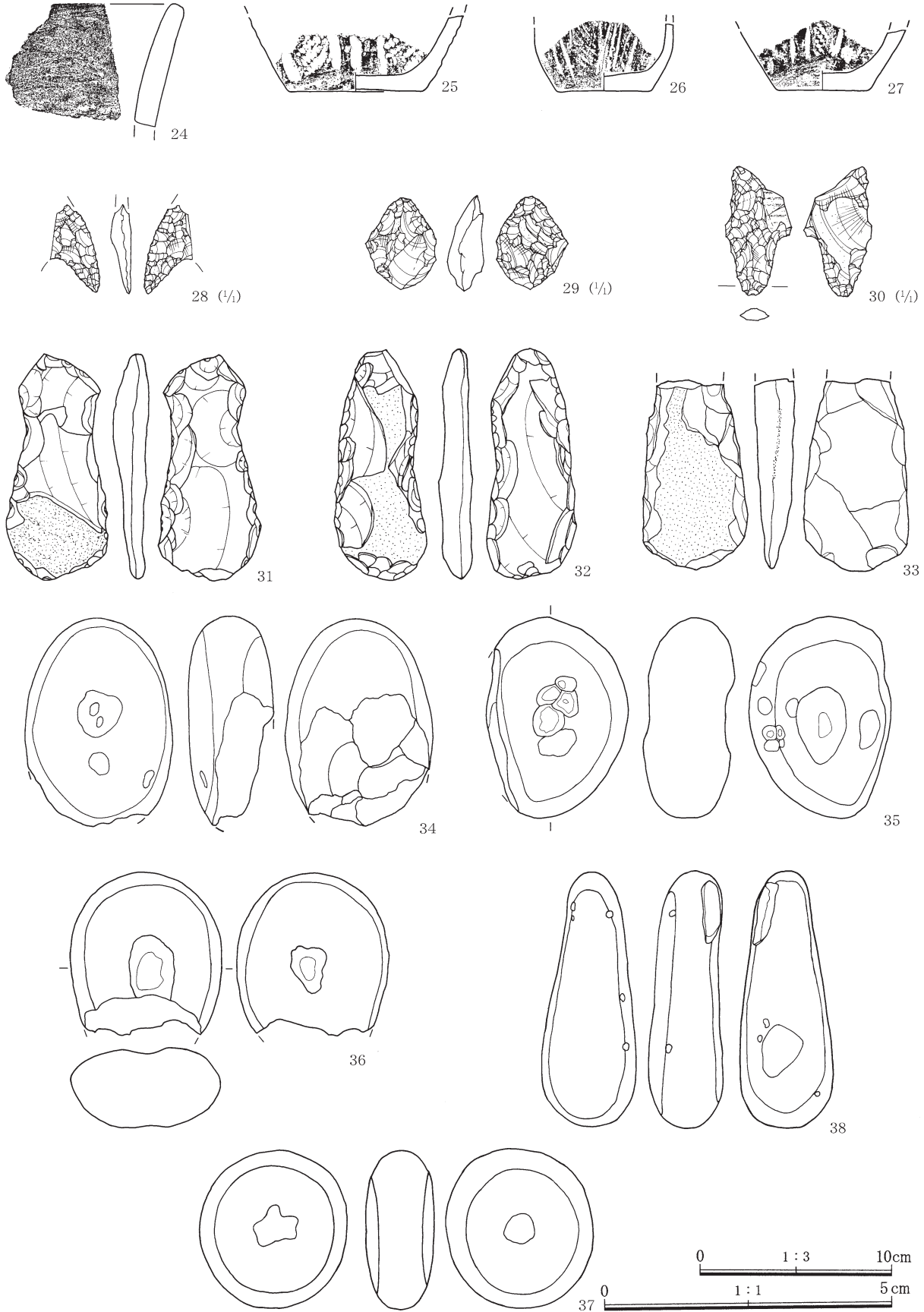
第450図 土坑出土遺物(28)



5-891土

第451図 土坑出土遺物(29)

第3節 縄文時代の遺構と遺物



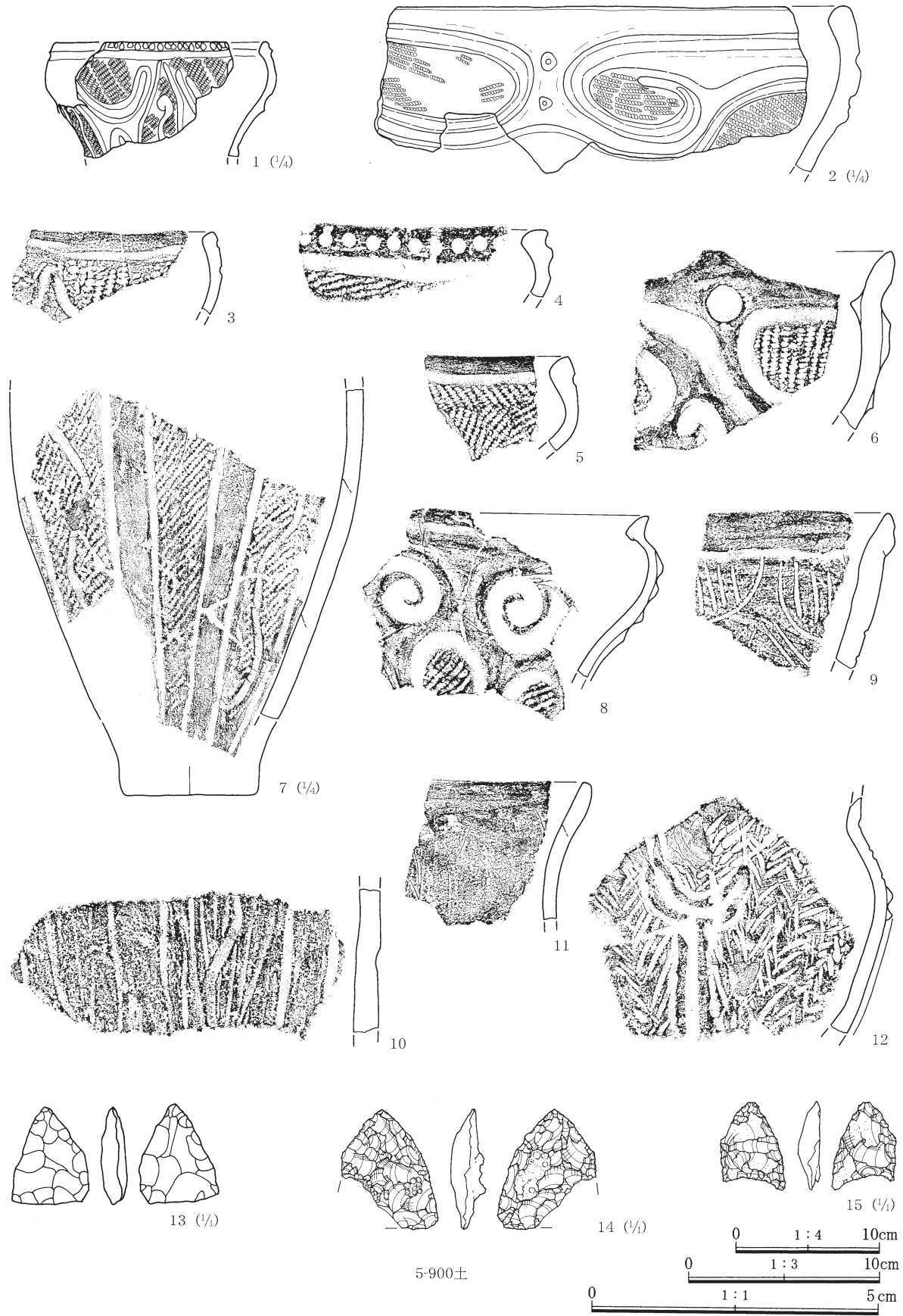
5-891土

第452図 土坑出土遺物(30)

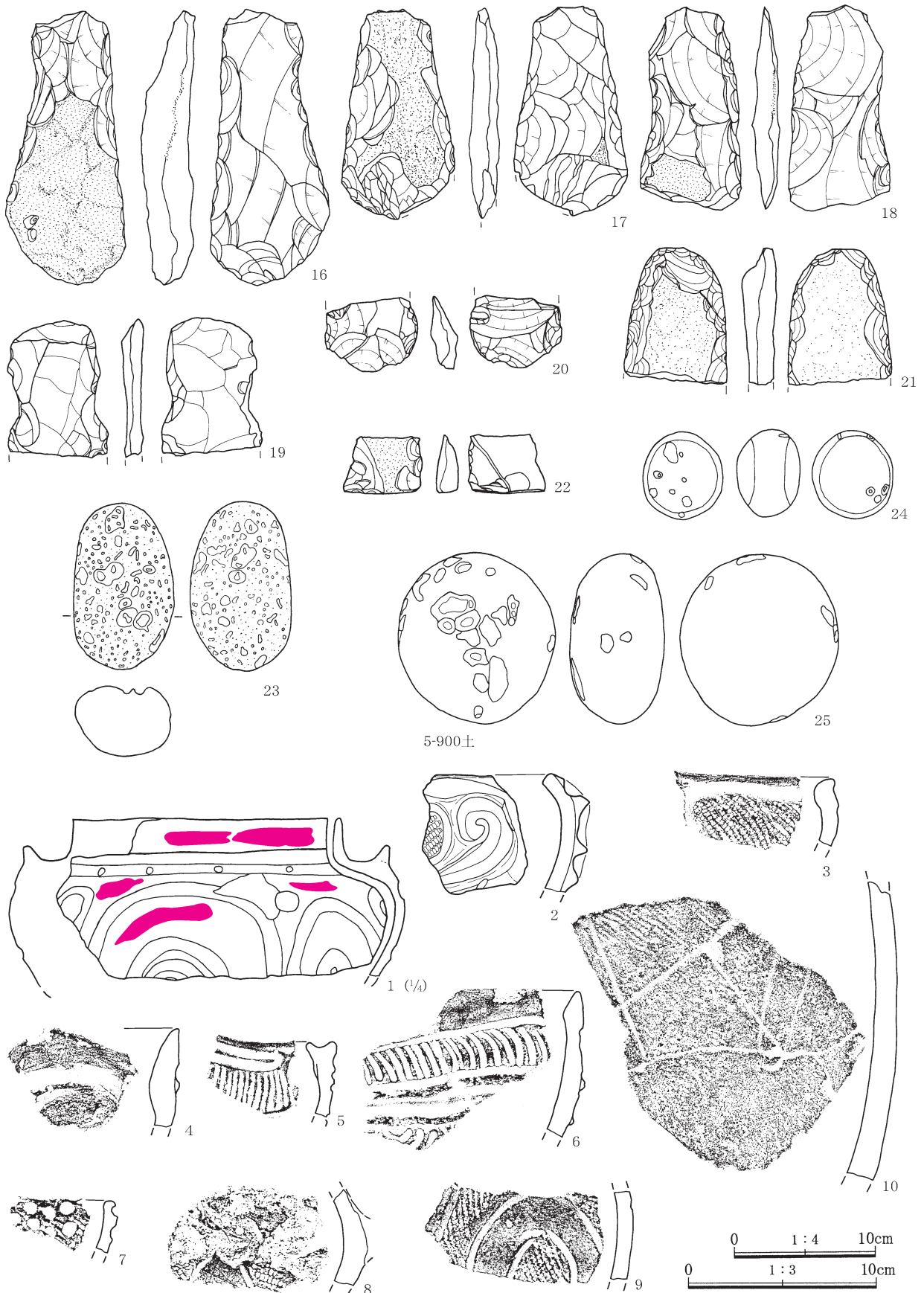
第3章 検出された遺構と遺物



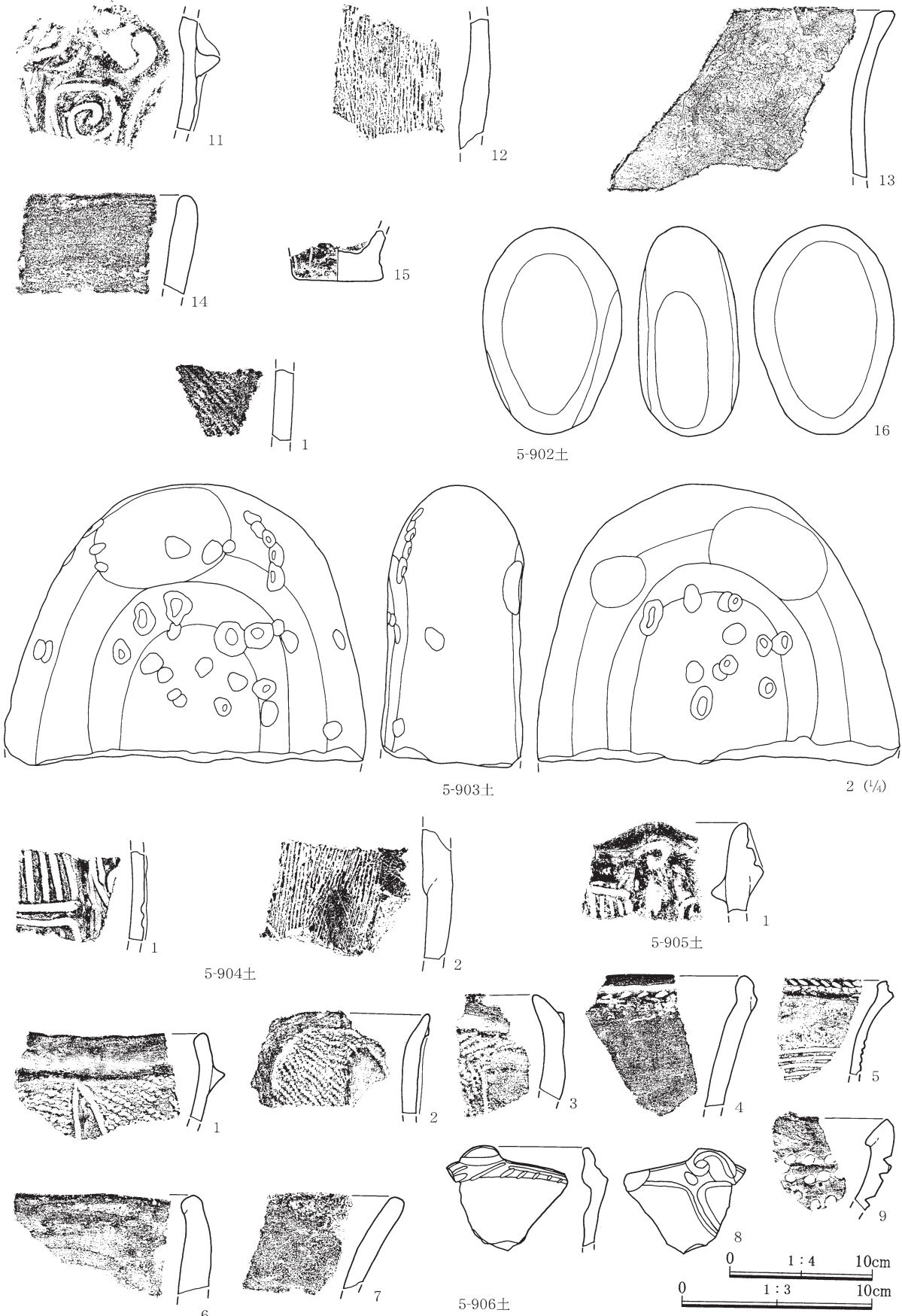
第453図 土坑出土遺物(31)



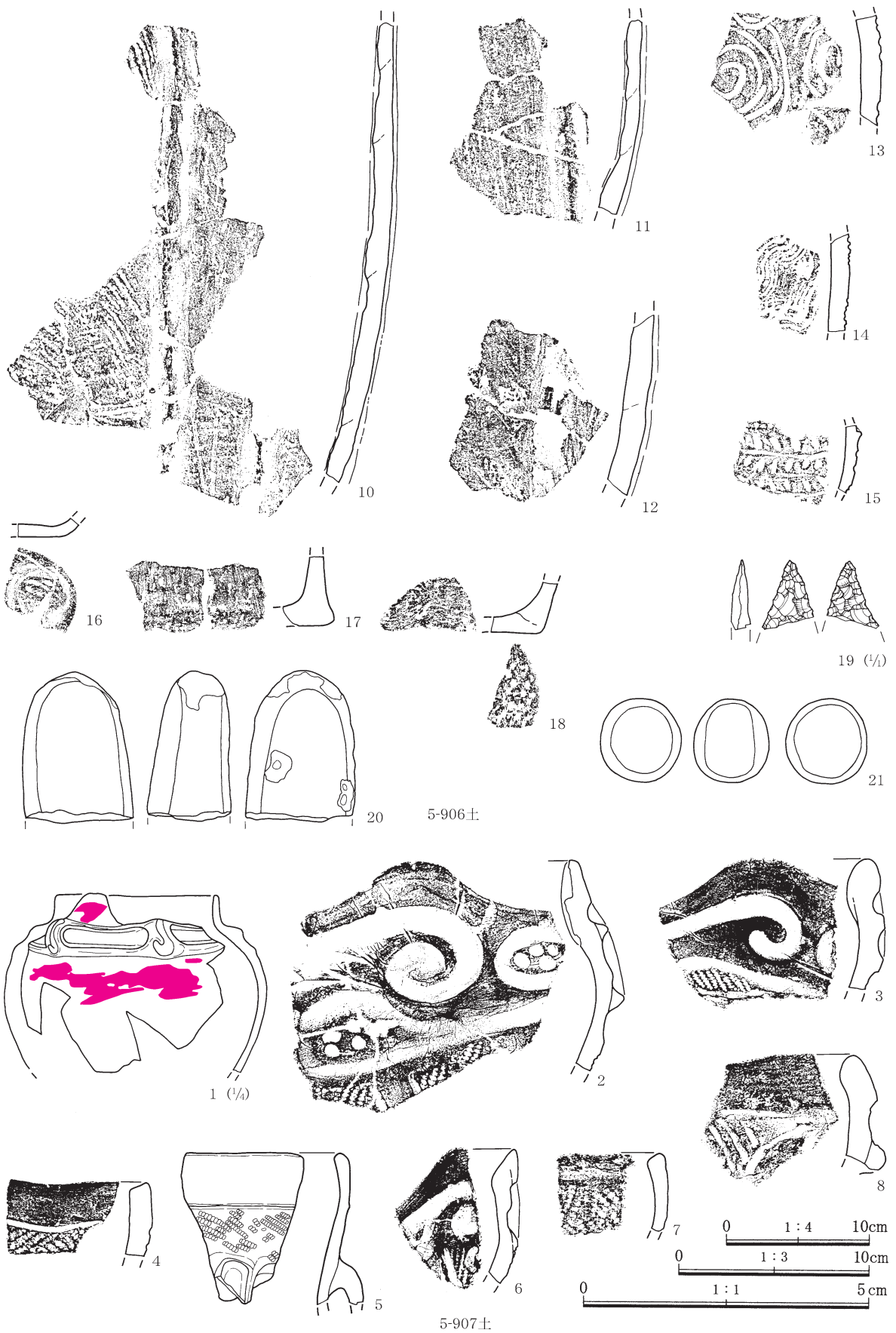
第454図 土坑出土遺物(32)



第455図 土坑出土遺物(33)



第456図 土坑出土遺物(34)

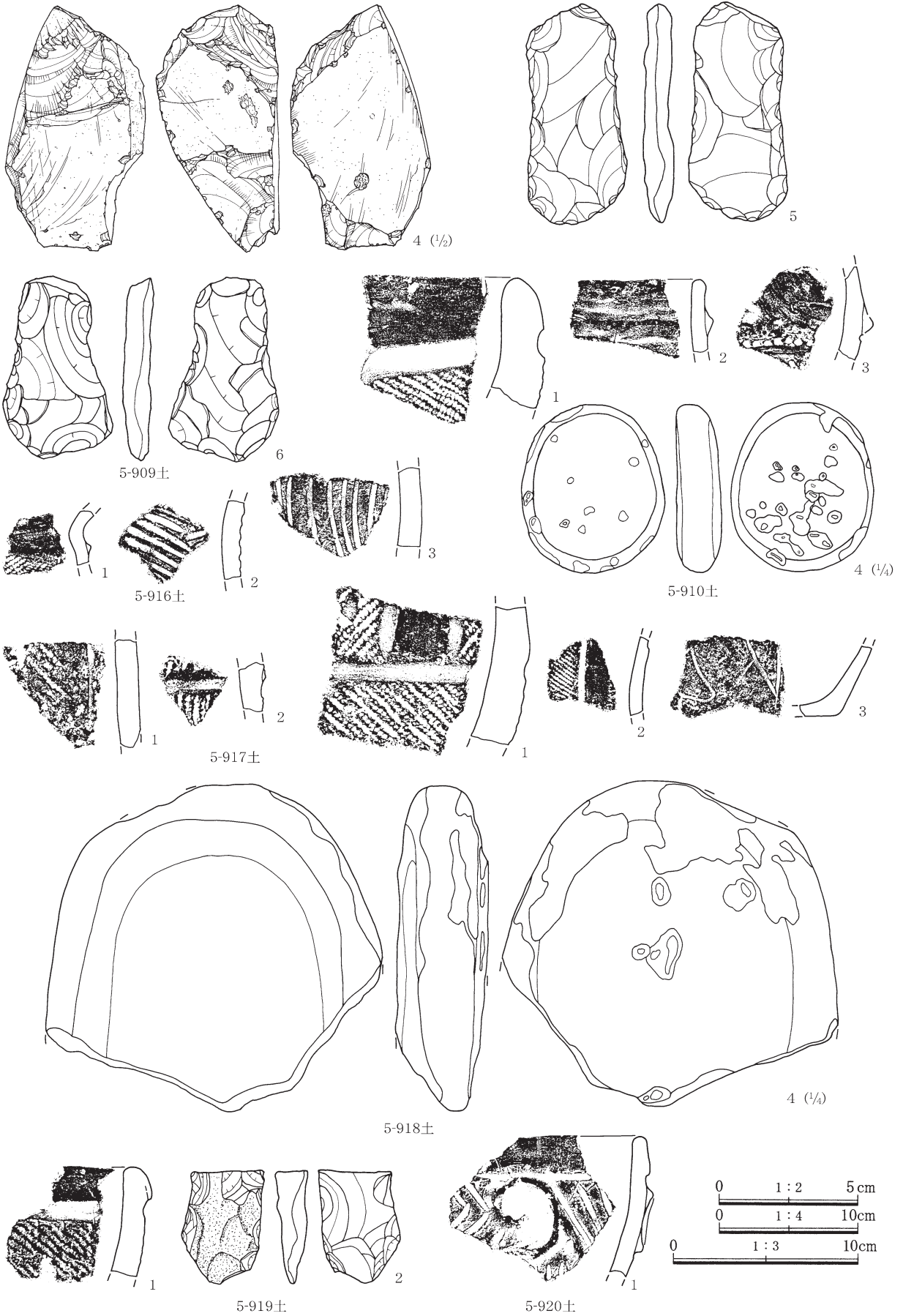


第457図 土坑出土遺物(35)



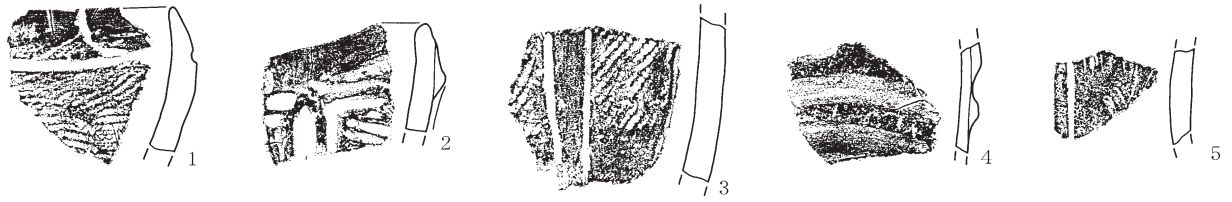
第458図 土坑出土遺物(36)

第3章 検出された遺構と遺物

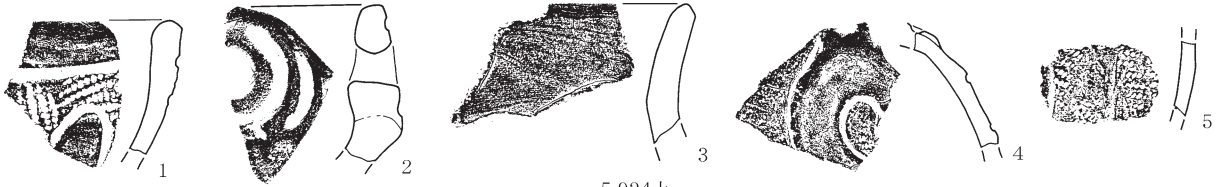


第459図 土坑出土遺物(37)

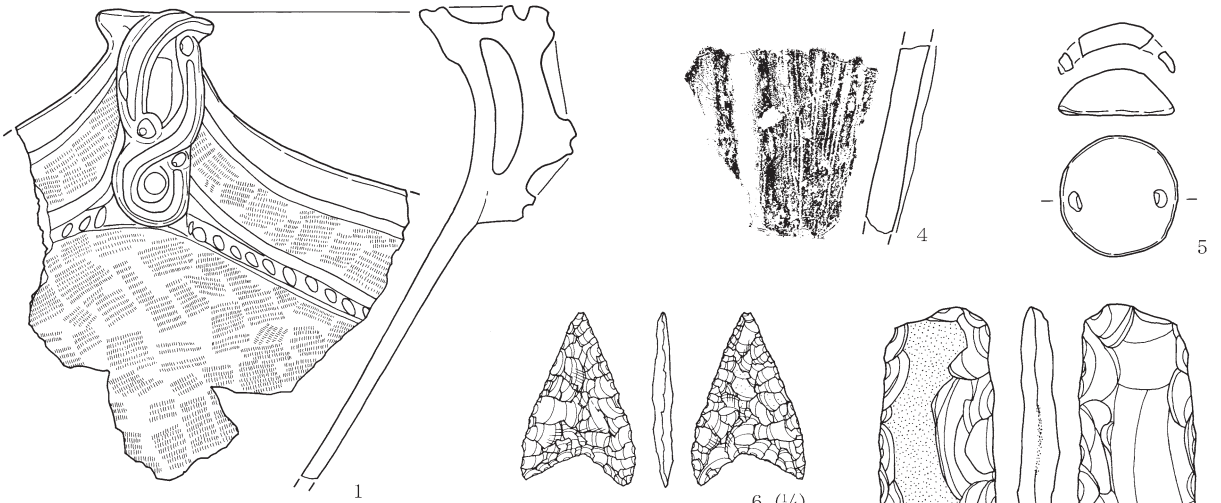
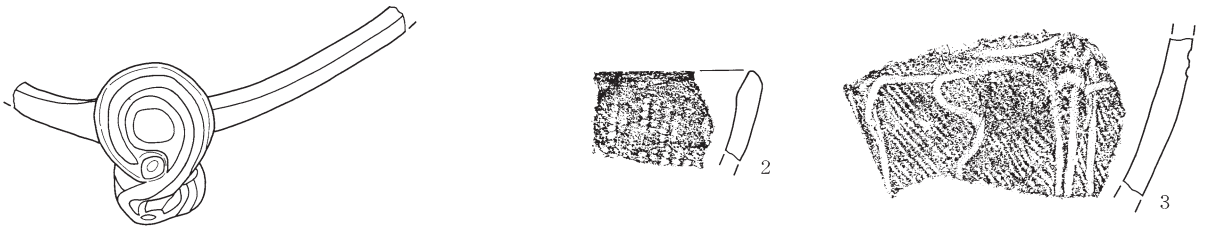
第3節 縄文時代の遺構と遺物



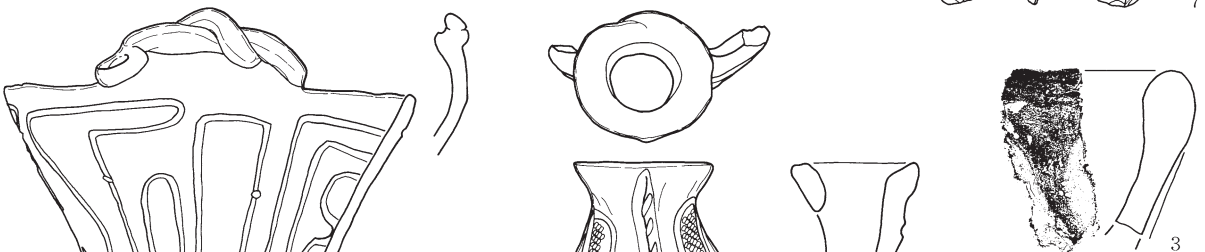
5-921土



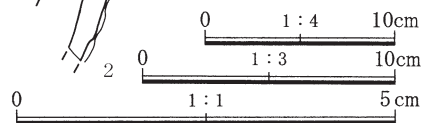
5-924土



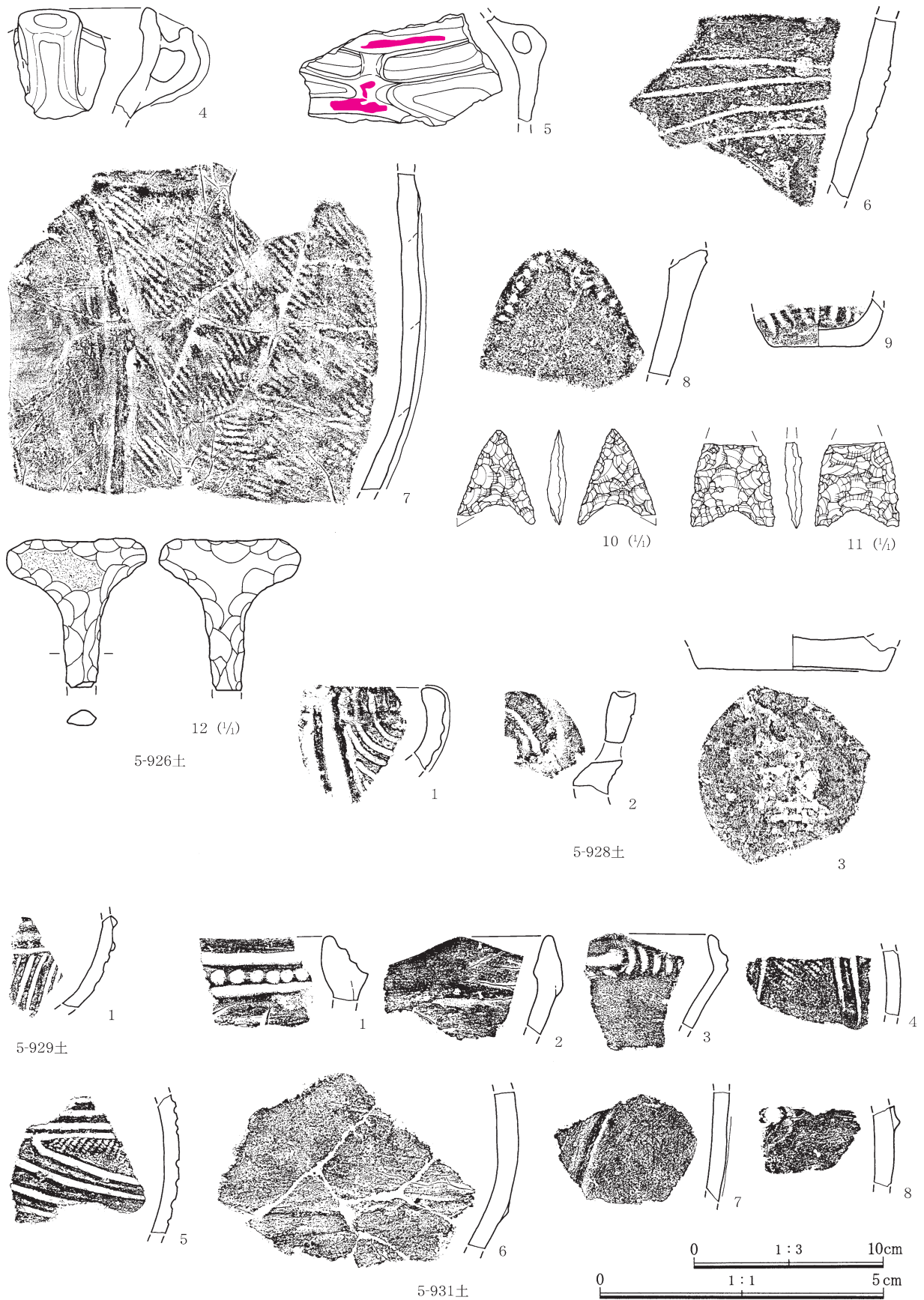
5-925土



5-926土



第460図 土坑出土遺物(38)

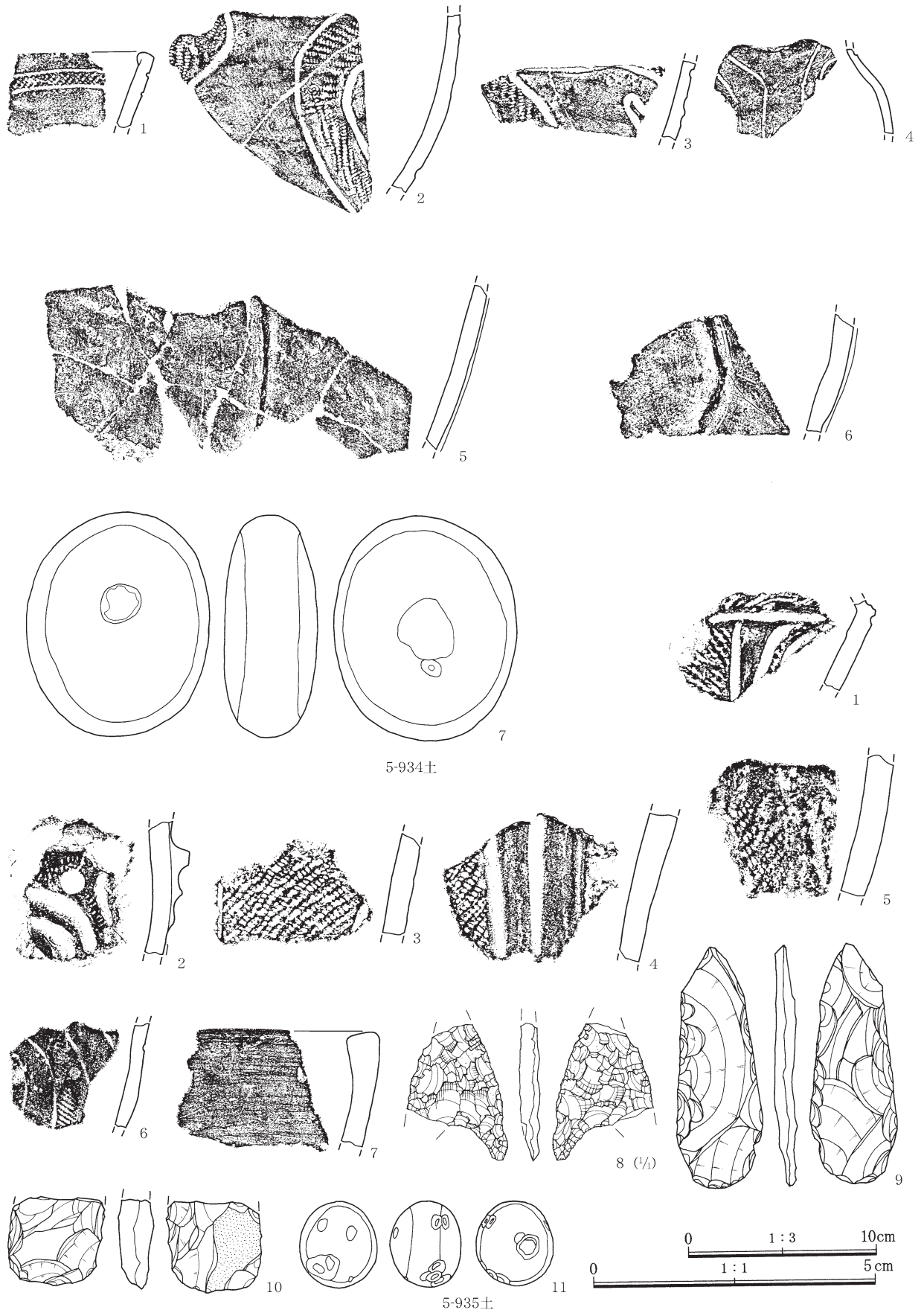


第461図 土坑出土遺物(39)

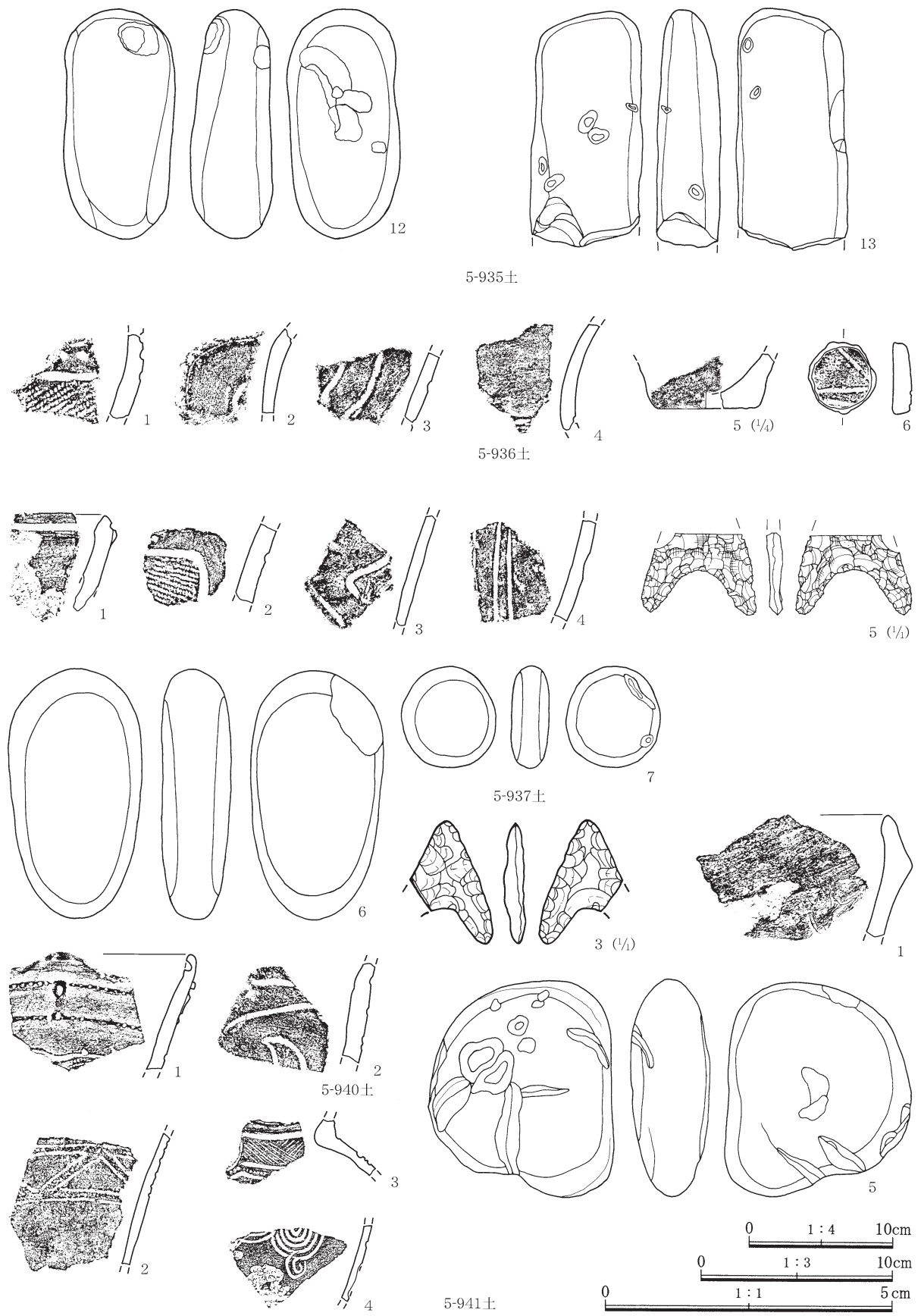


第462図 土坑出土遺物(40)

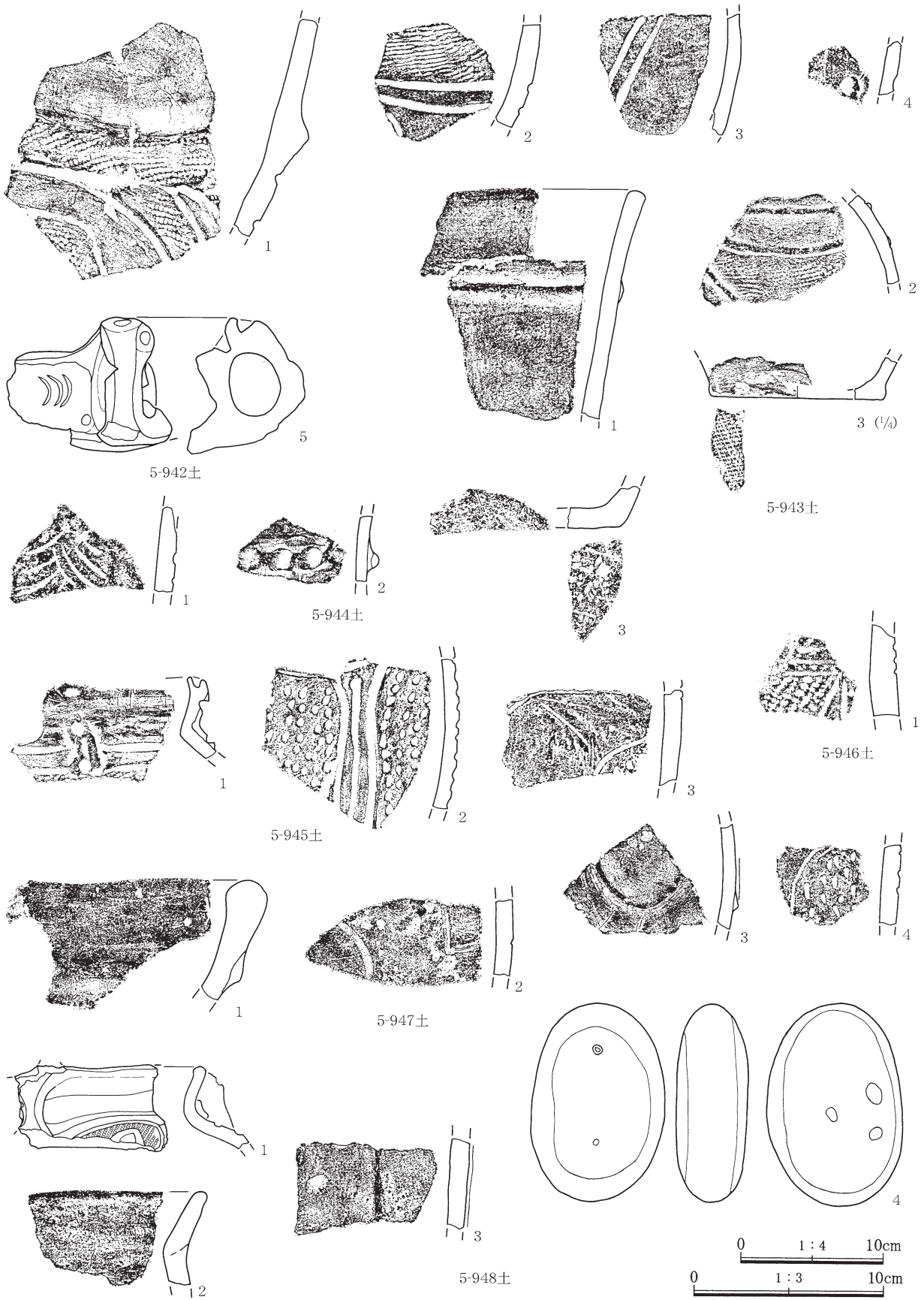
第3章 検出された遺構と遺物



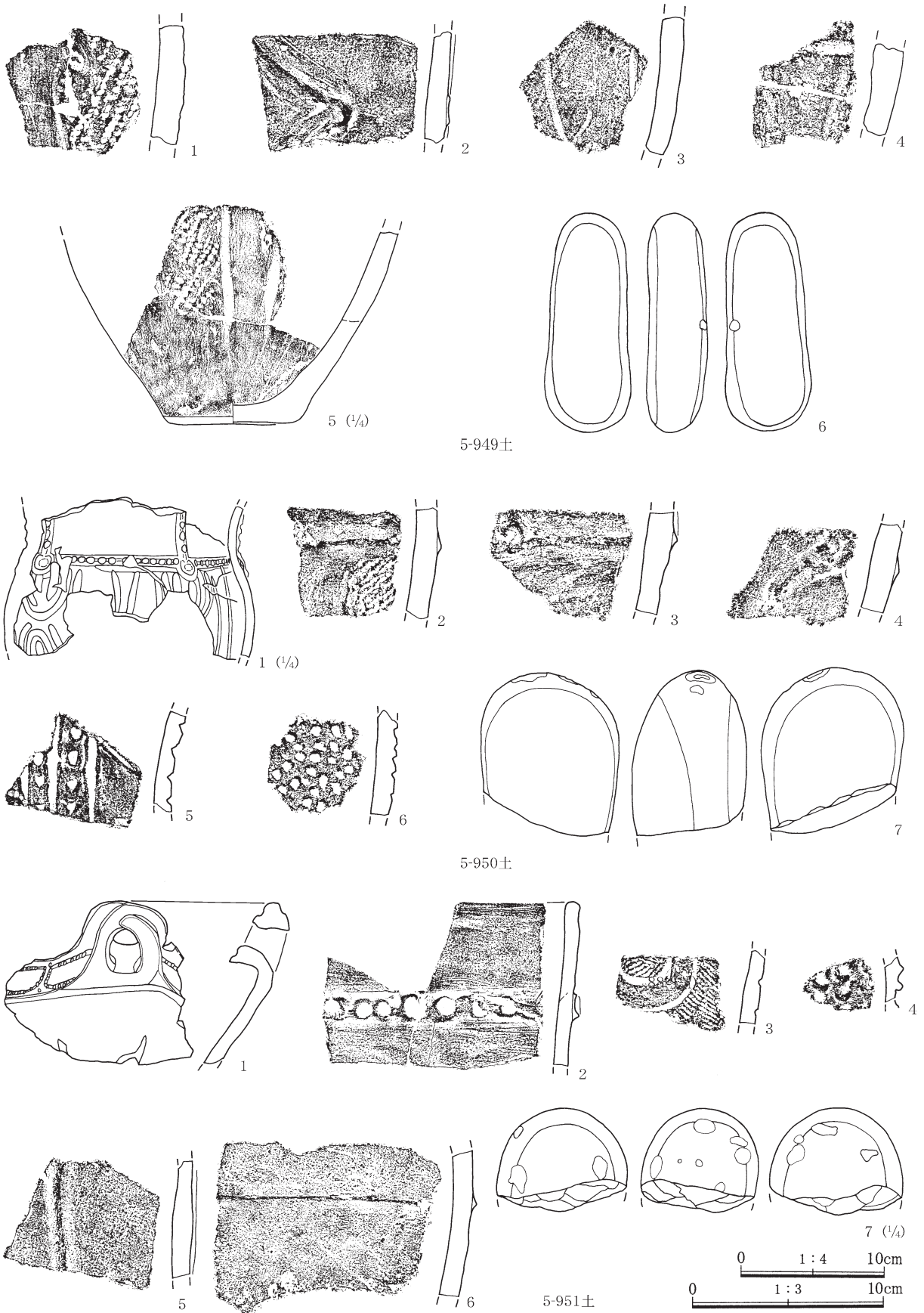
第463図 土坑出土遺物(41)



第464図 土坑出土遺物(42)

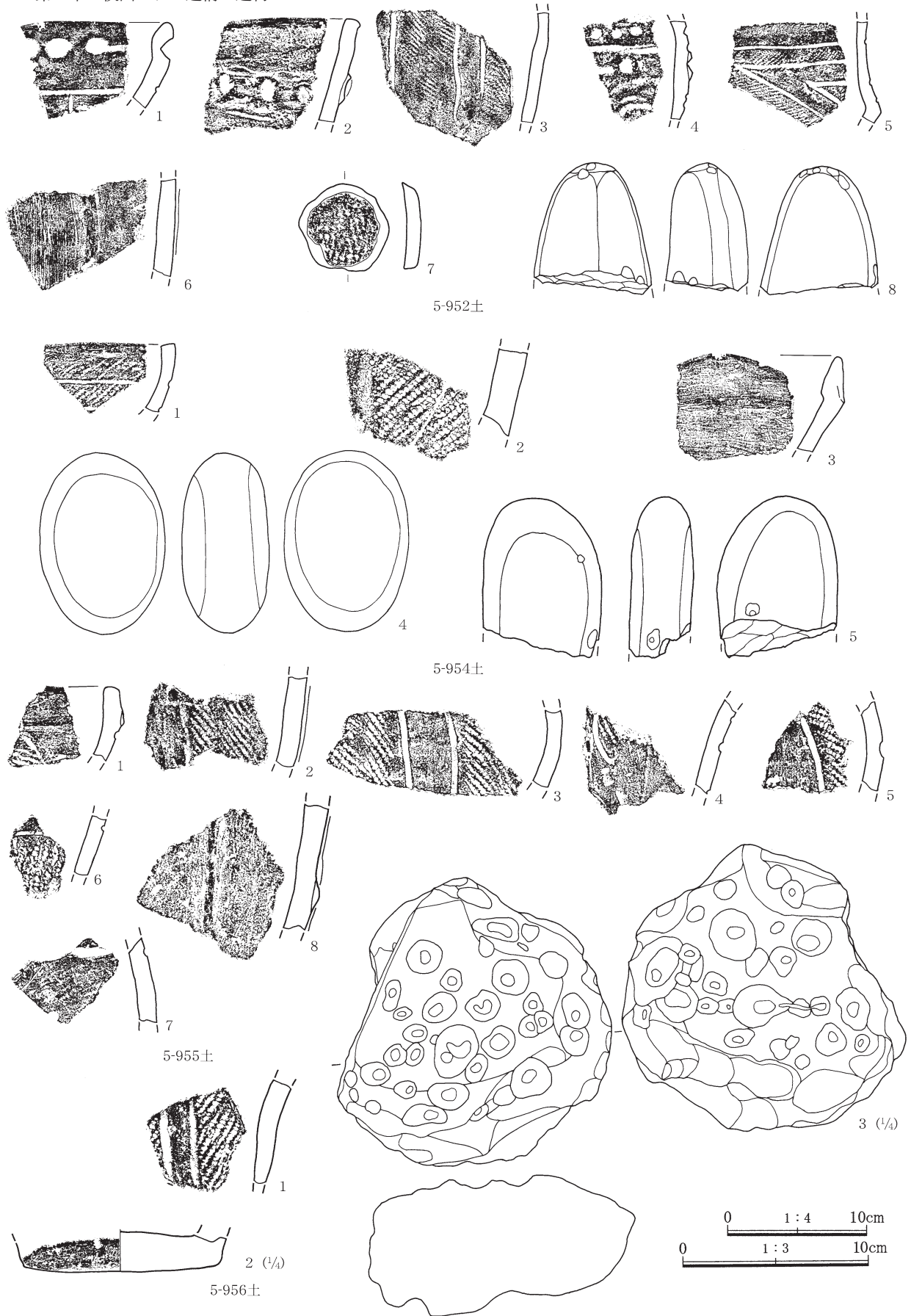


第465図 土坑出土遺物(43)

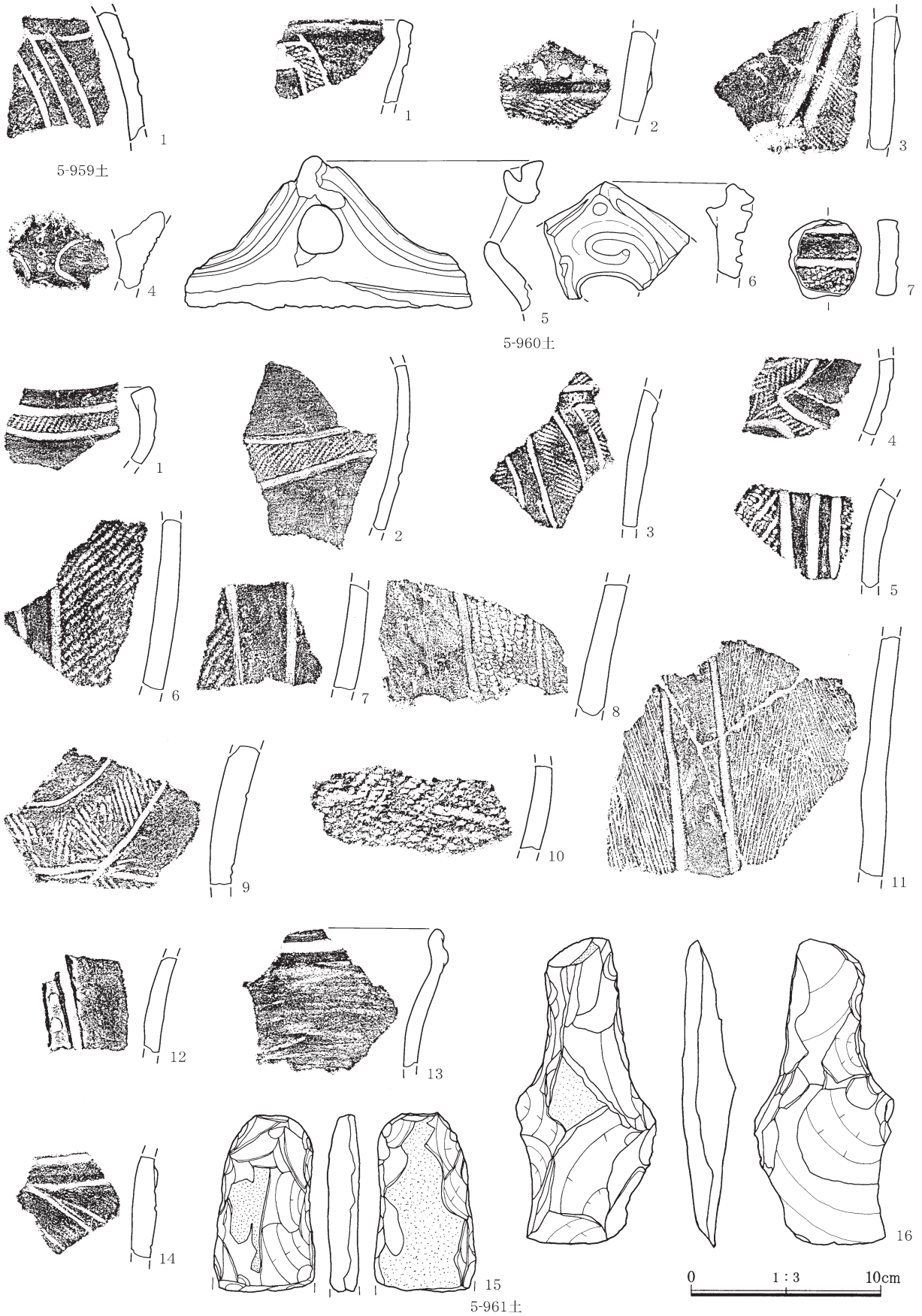


第466図 土坑出土遺物(4)

第3章 検出された遺構と遺物



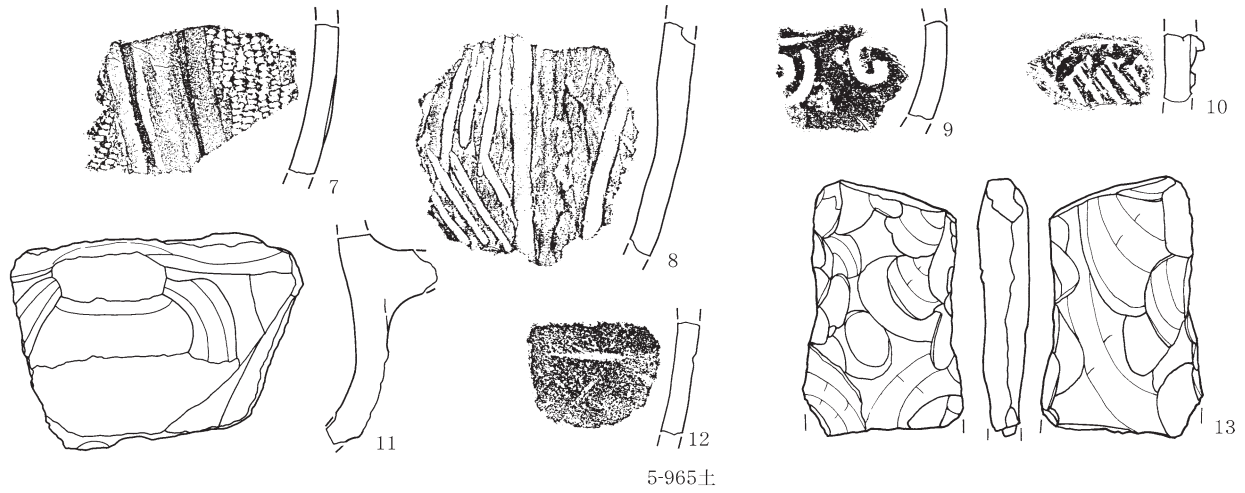
第467図 土坑出土遺物(45)



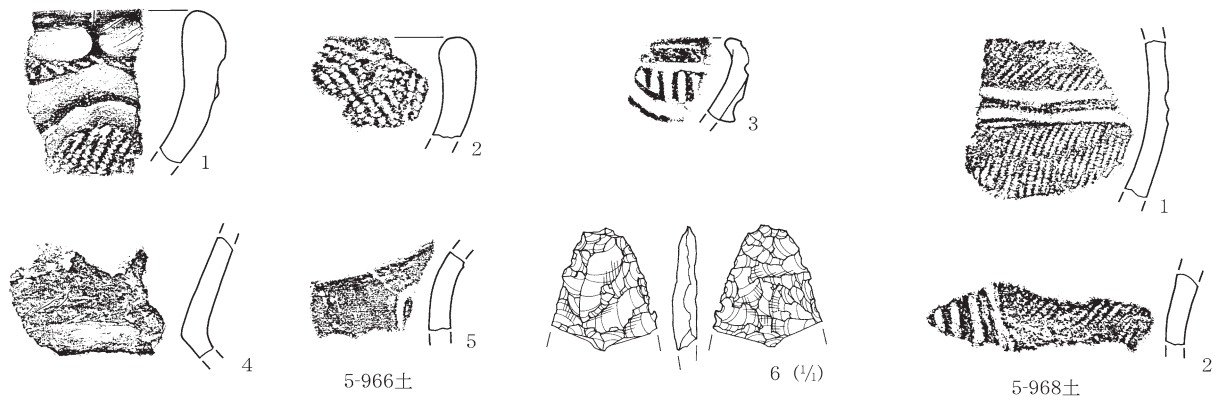
第468図 土坑出土遺物(46)



第469図 土坑出土遺物(47)



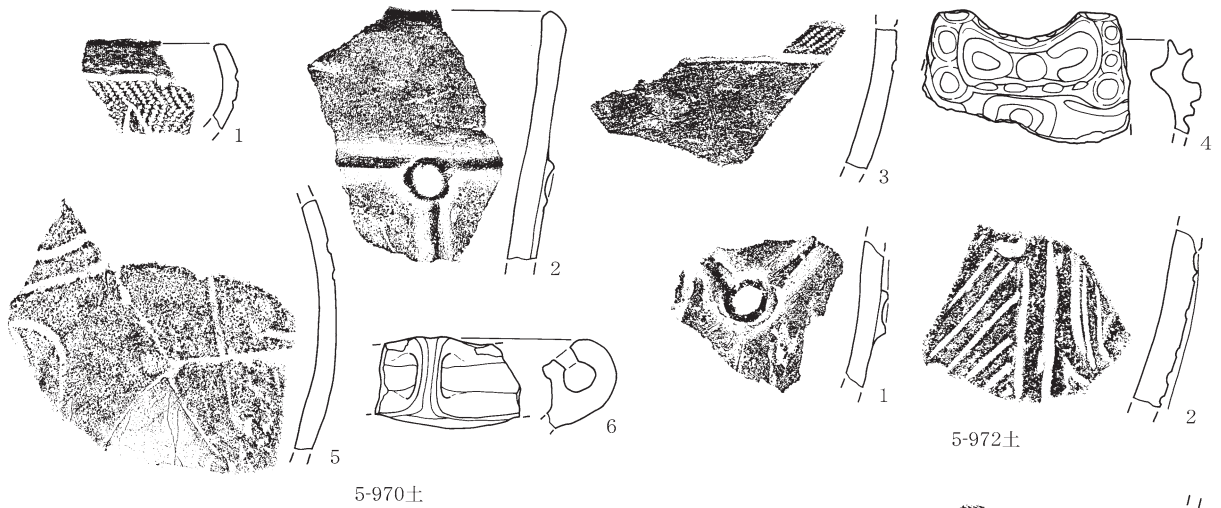
5-965土



5-966土

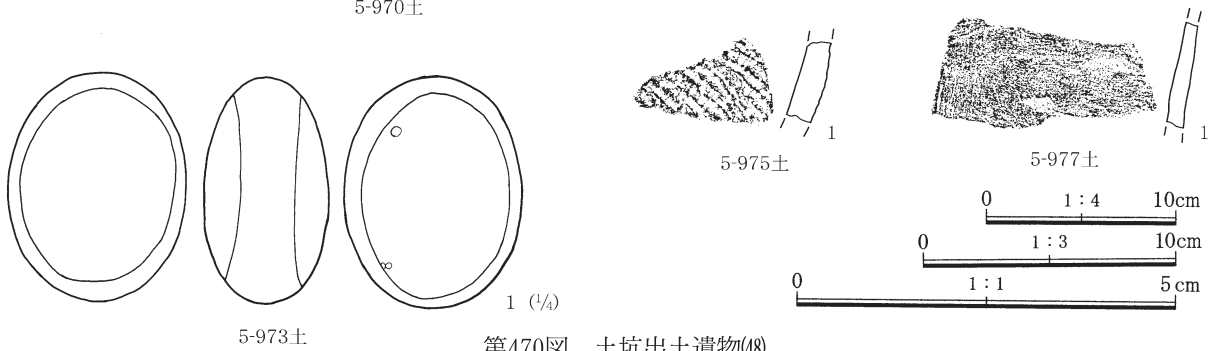
6 (1/4)

5-968土



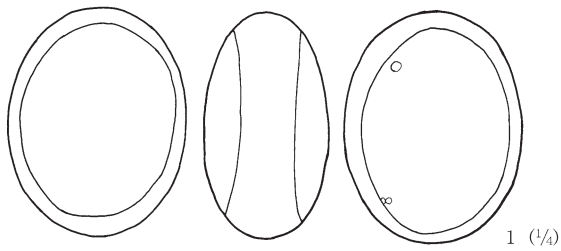
5-970土

5-972土



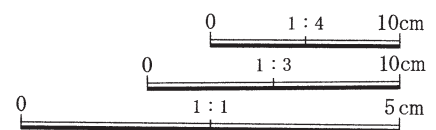
5-975土

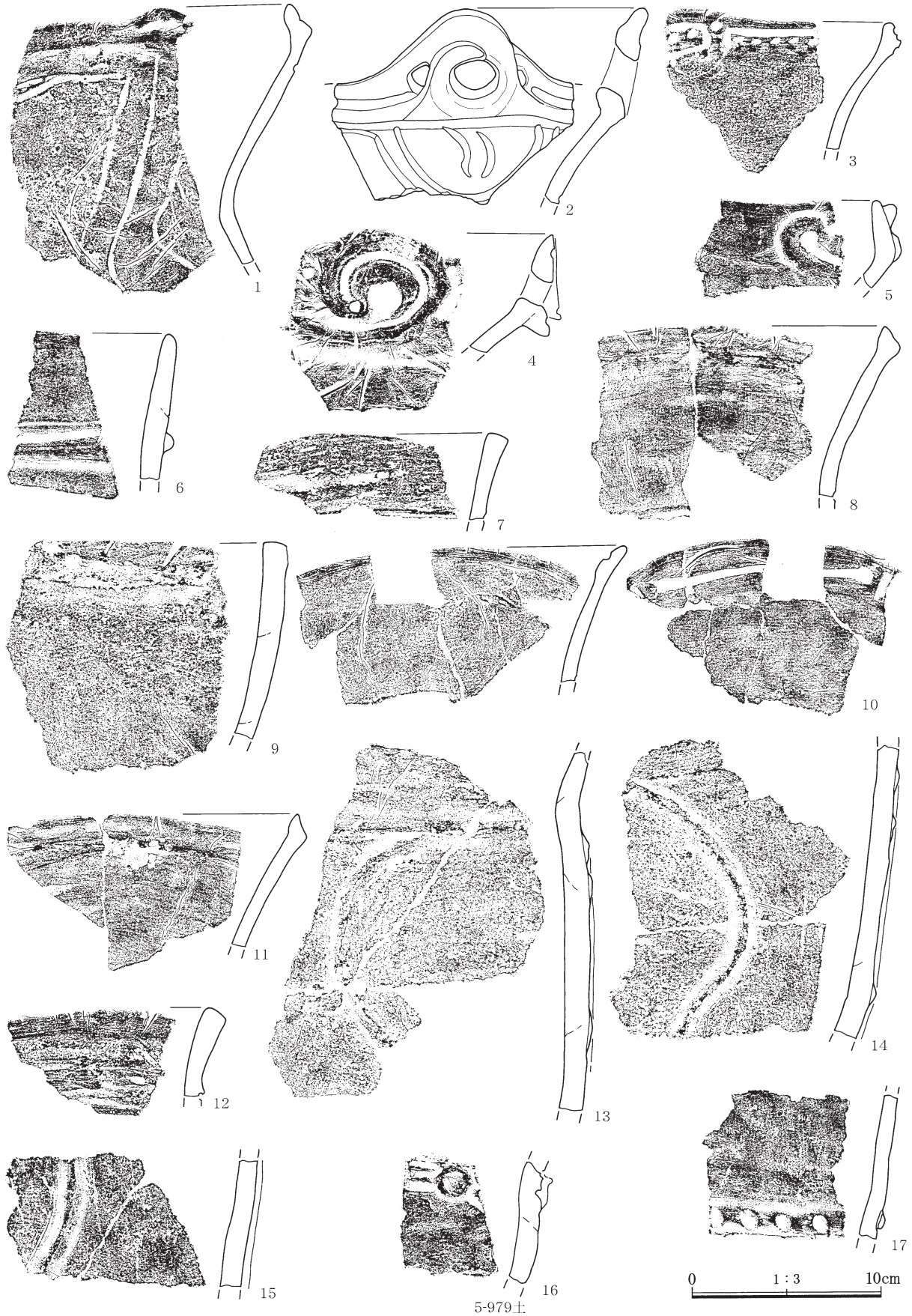
5-977土



5-973土

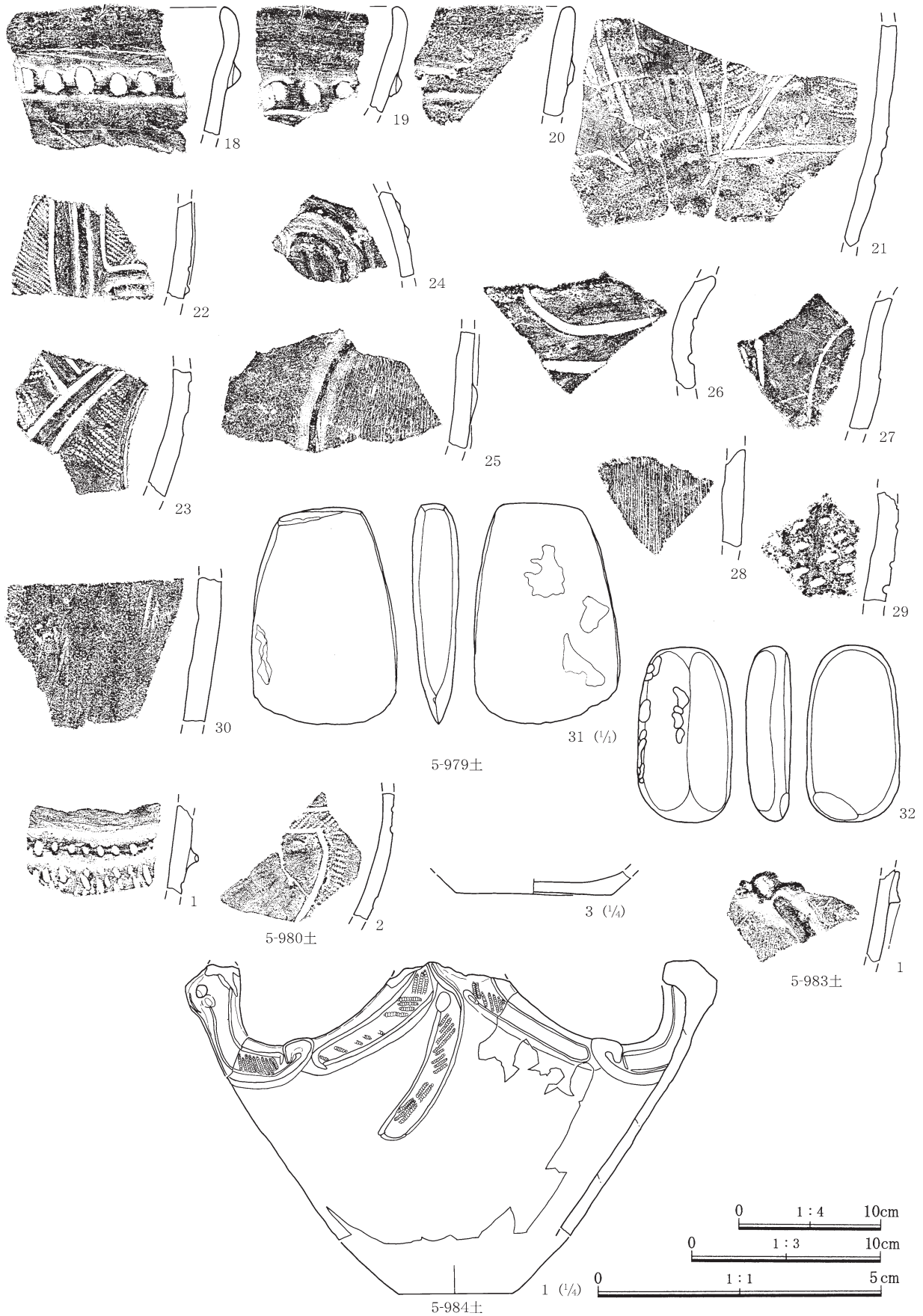
第470図 土坑出土遺物(48)



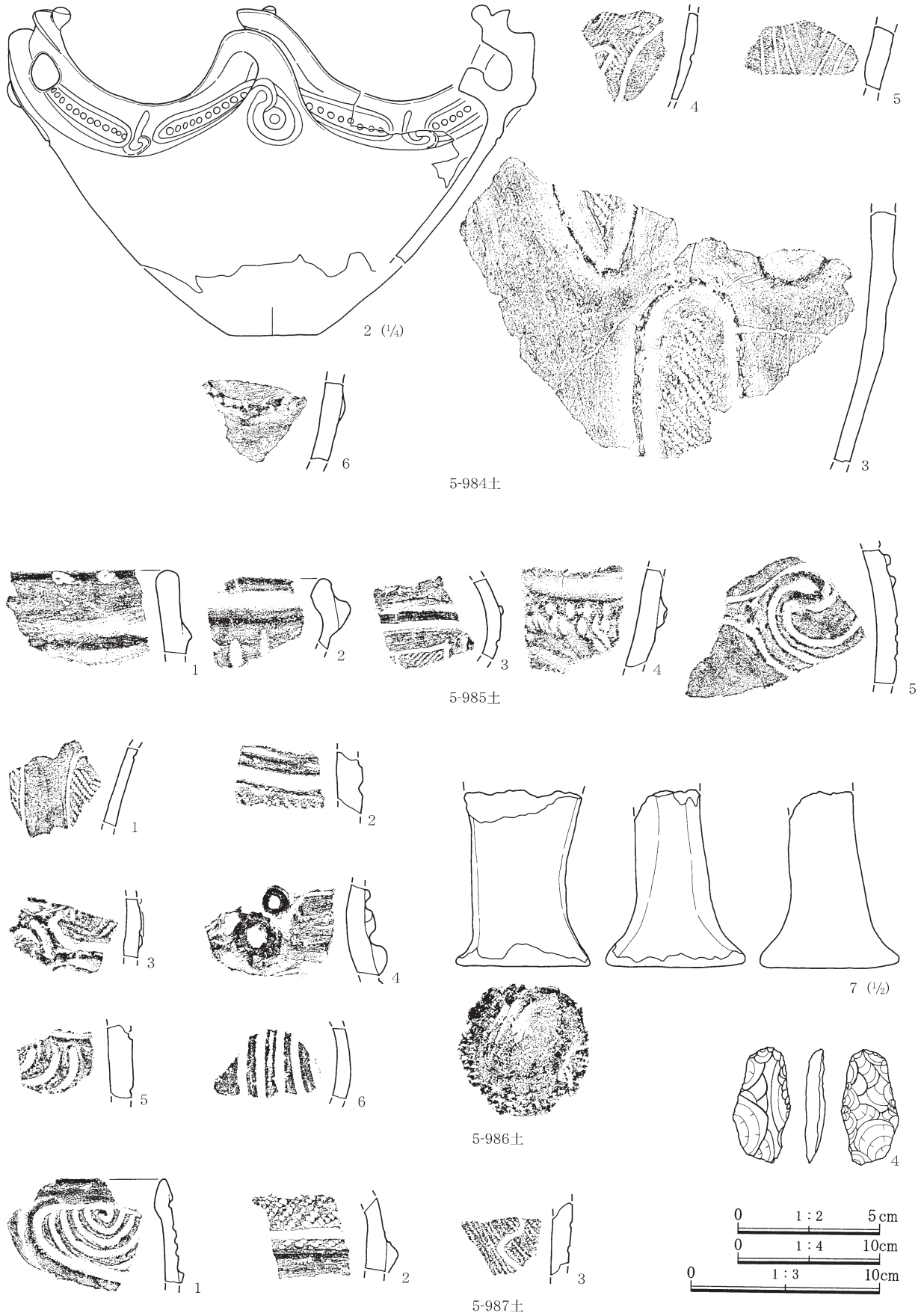


5-979土

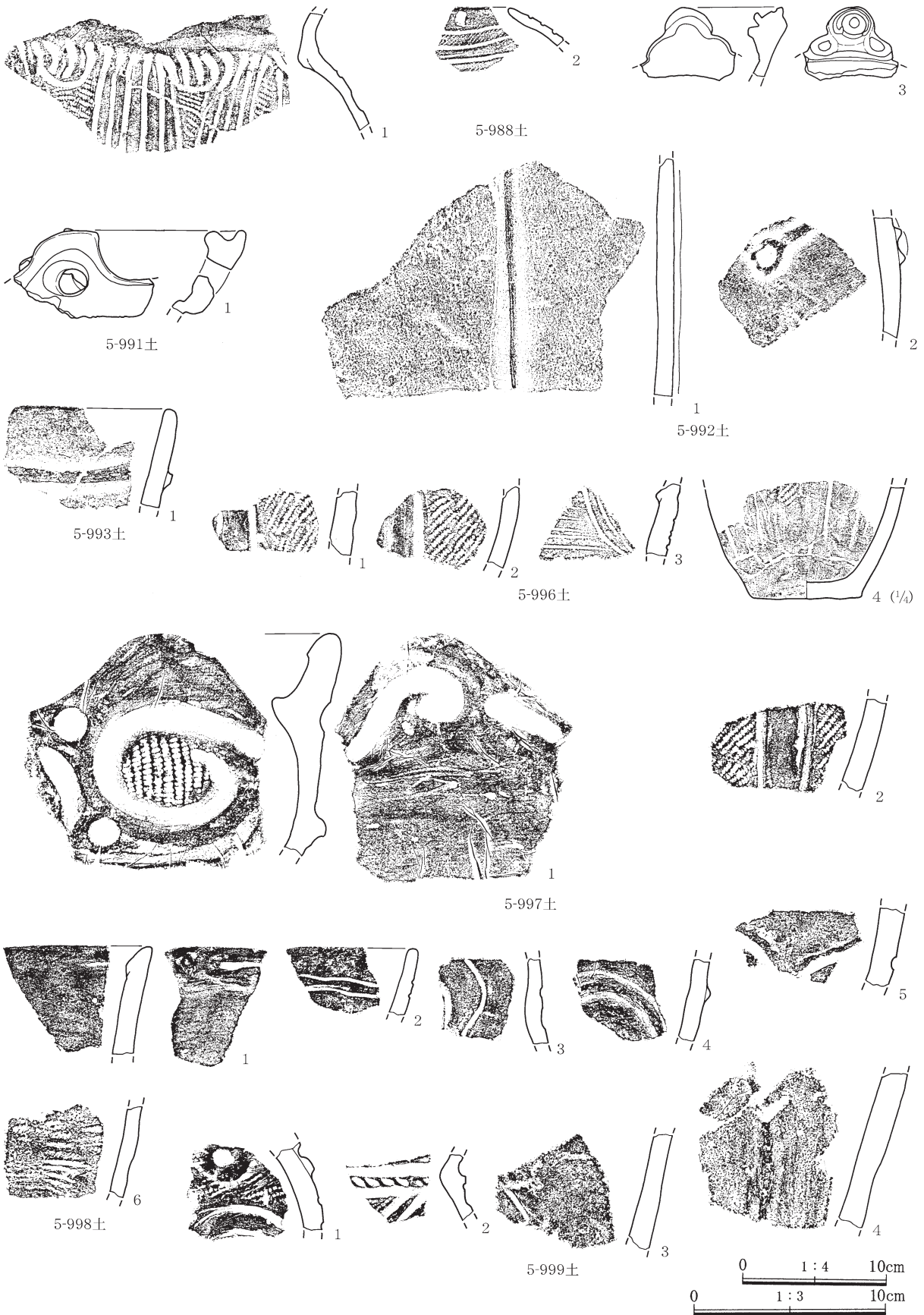
第471図 土坑出土遺物(49)



第472図 土坑出土遺物(50)



第473図 土坑出土遺物(5)



第474図 土坑出土遺物(52)

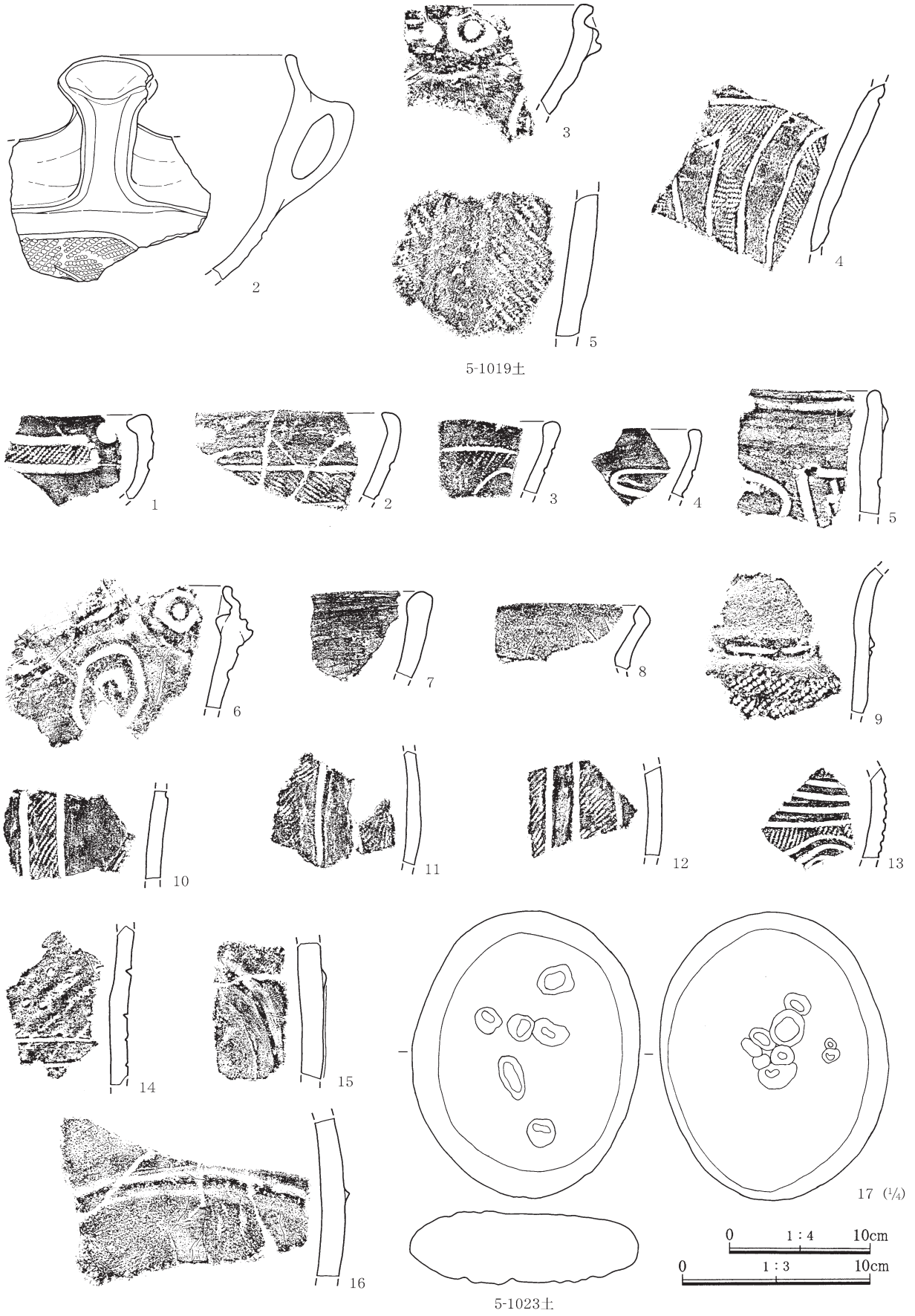
第3章 検出された遺構と遺物



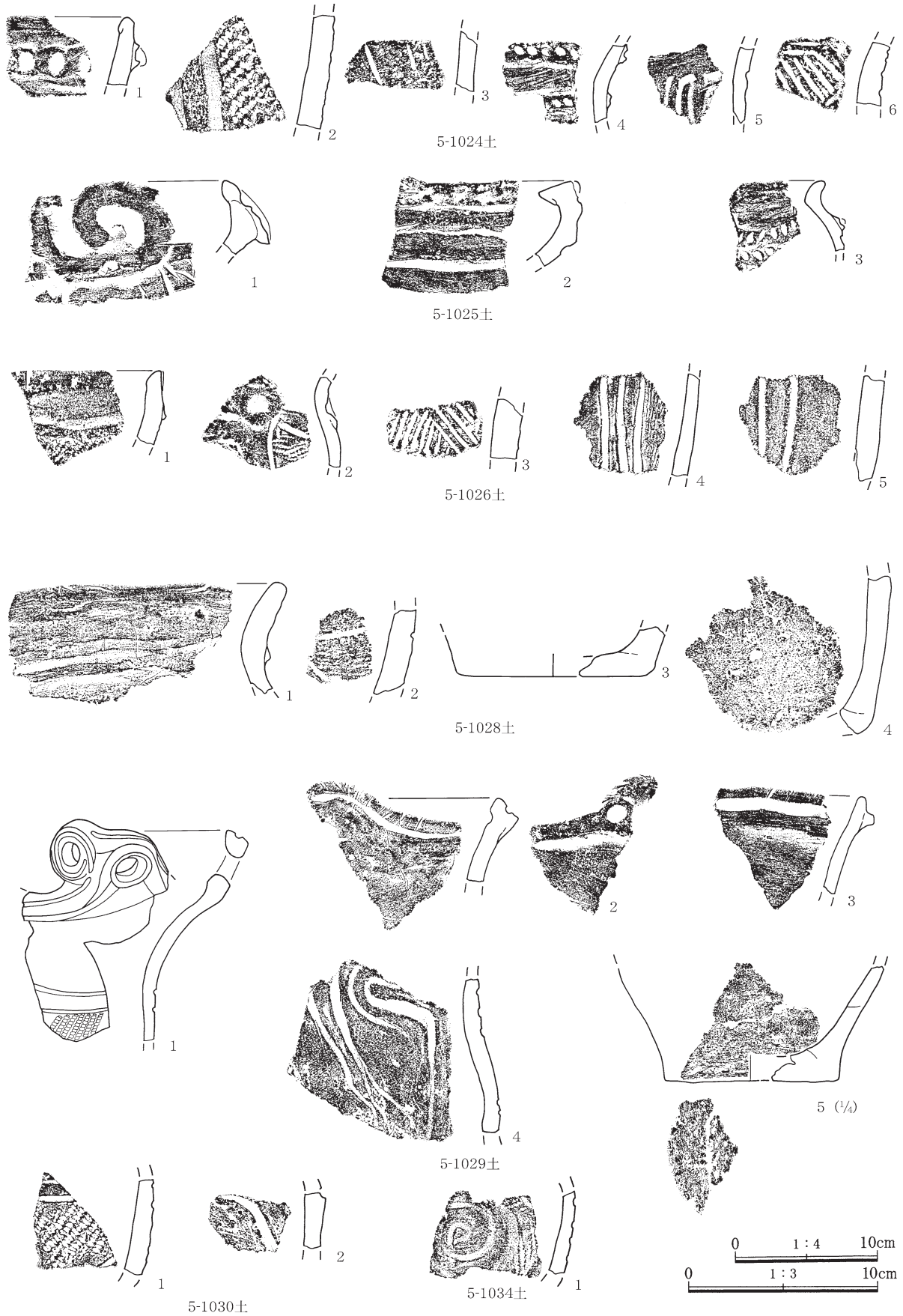
第475図 土坑出土遺物(53)



第476図 土坑出土遺物(54)



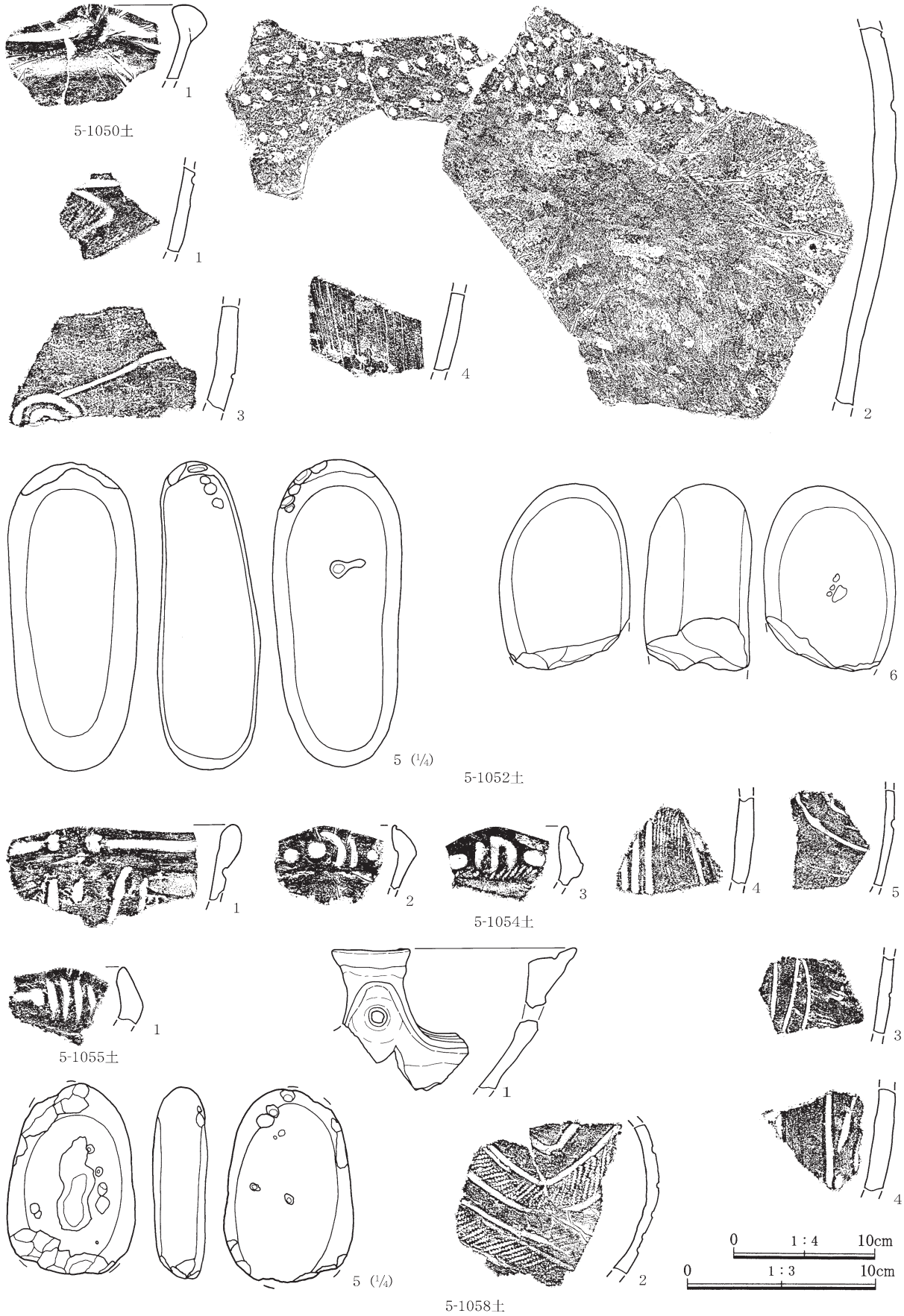
第477図 土坑出土遺物(55)



第478図 土坑出土遺物(56)

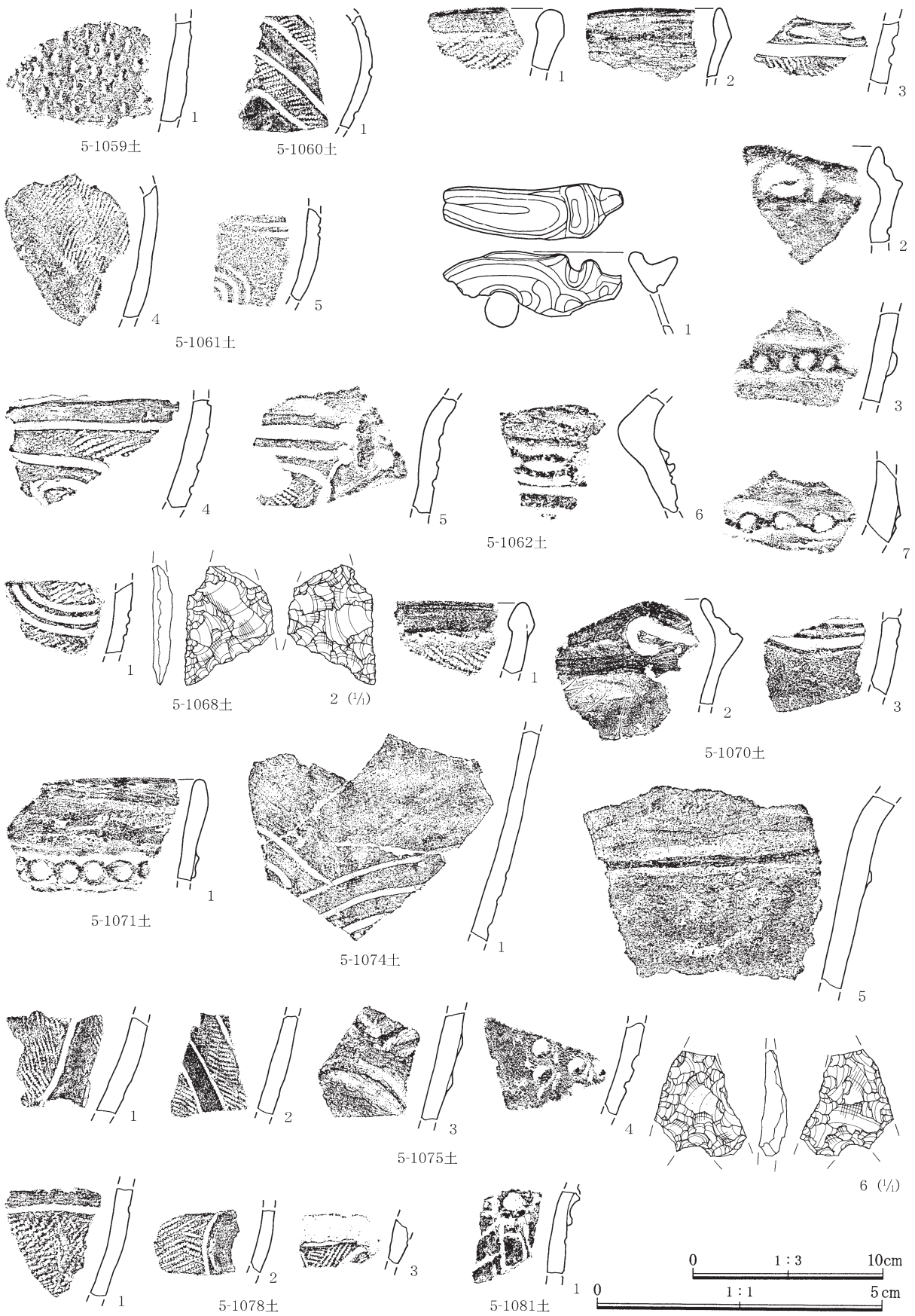


第479図 土坑出土遺物(57)



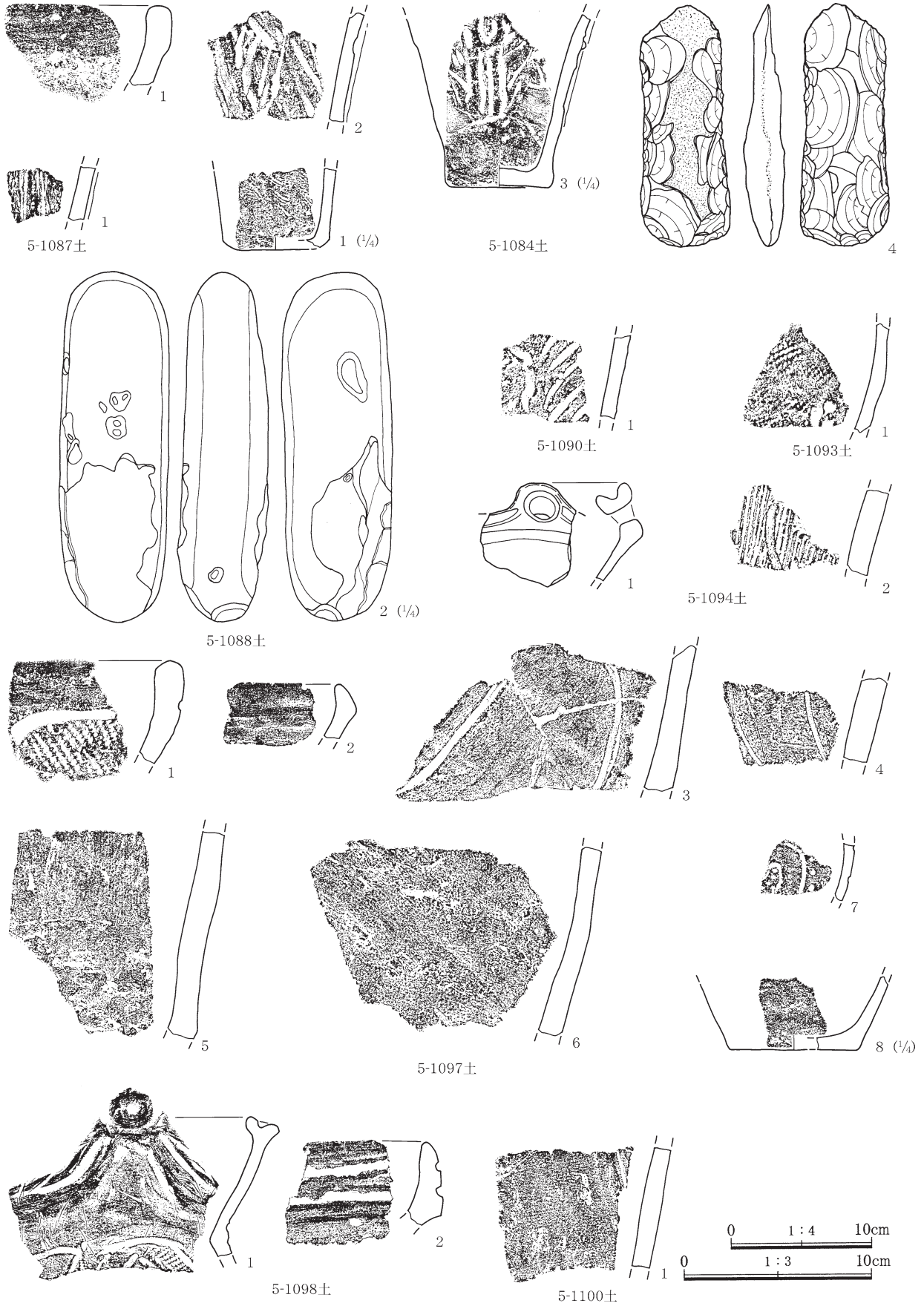
第480図 土坑出土遺物(58)

第3章 検出された遺構と遺物



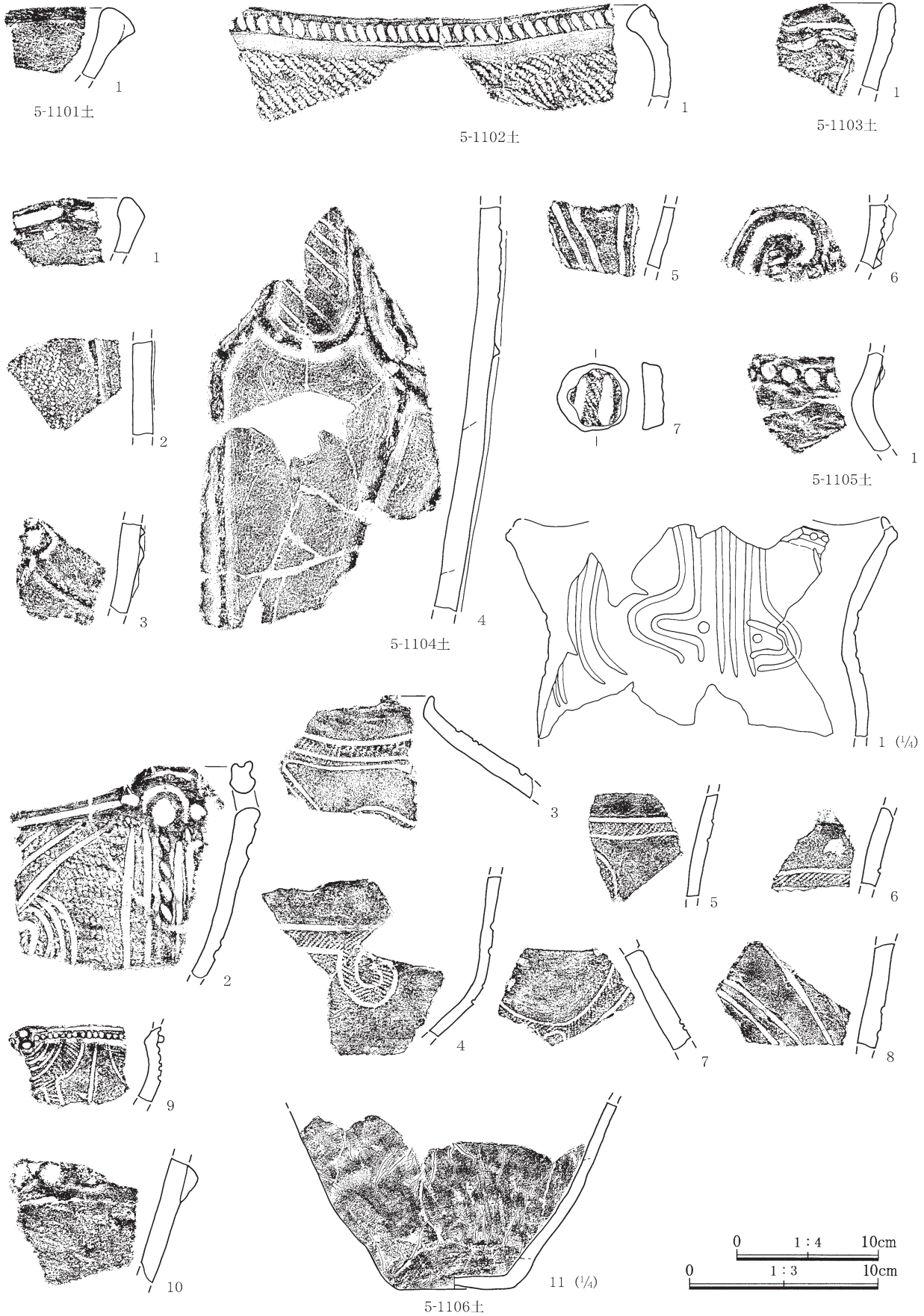
第481図 土坑出土遺物(59)

第3節 縄文時代の遺構と遺物

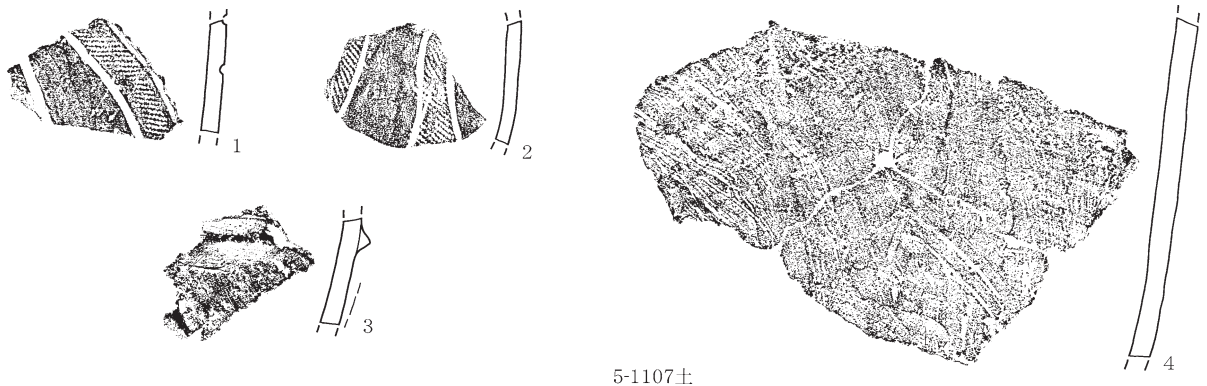


第482図 土坑出土遺物(60)

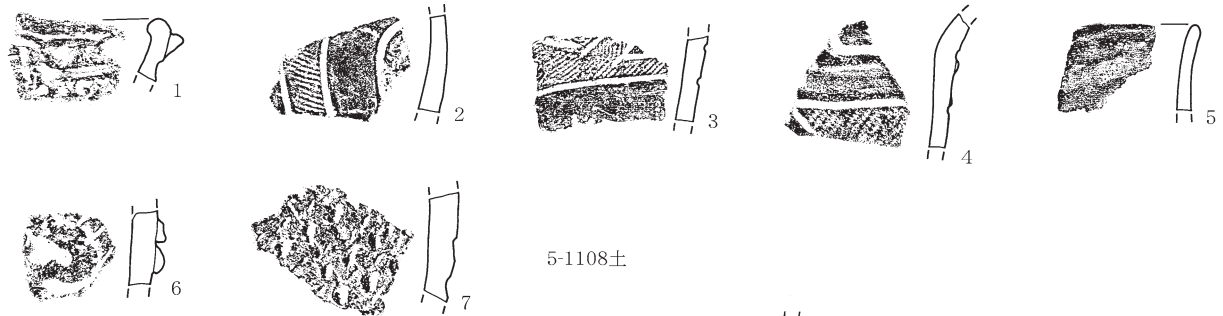
第3章 検出された遺構と遺物



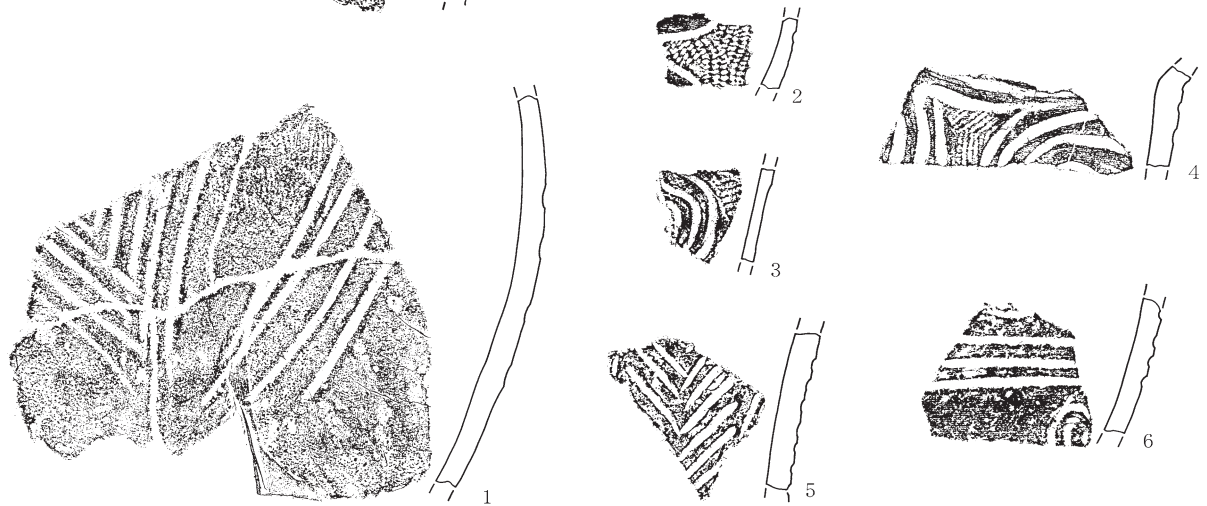
第483図 土坑出土遺物(6)



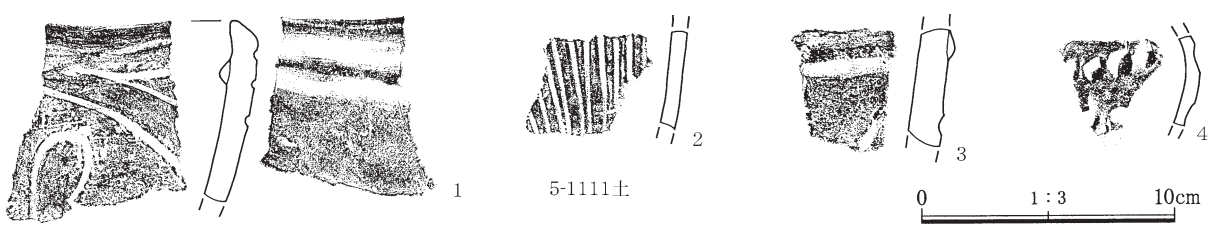
5-1107土



5-1108土



5-1110土



5-1111土

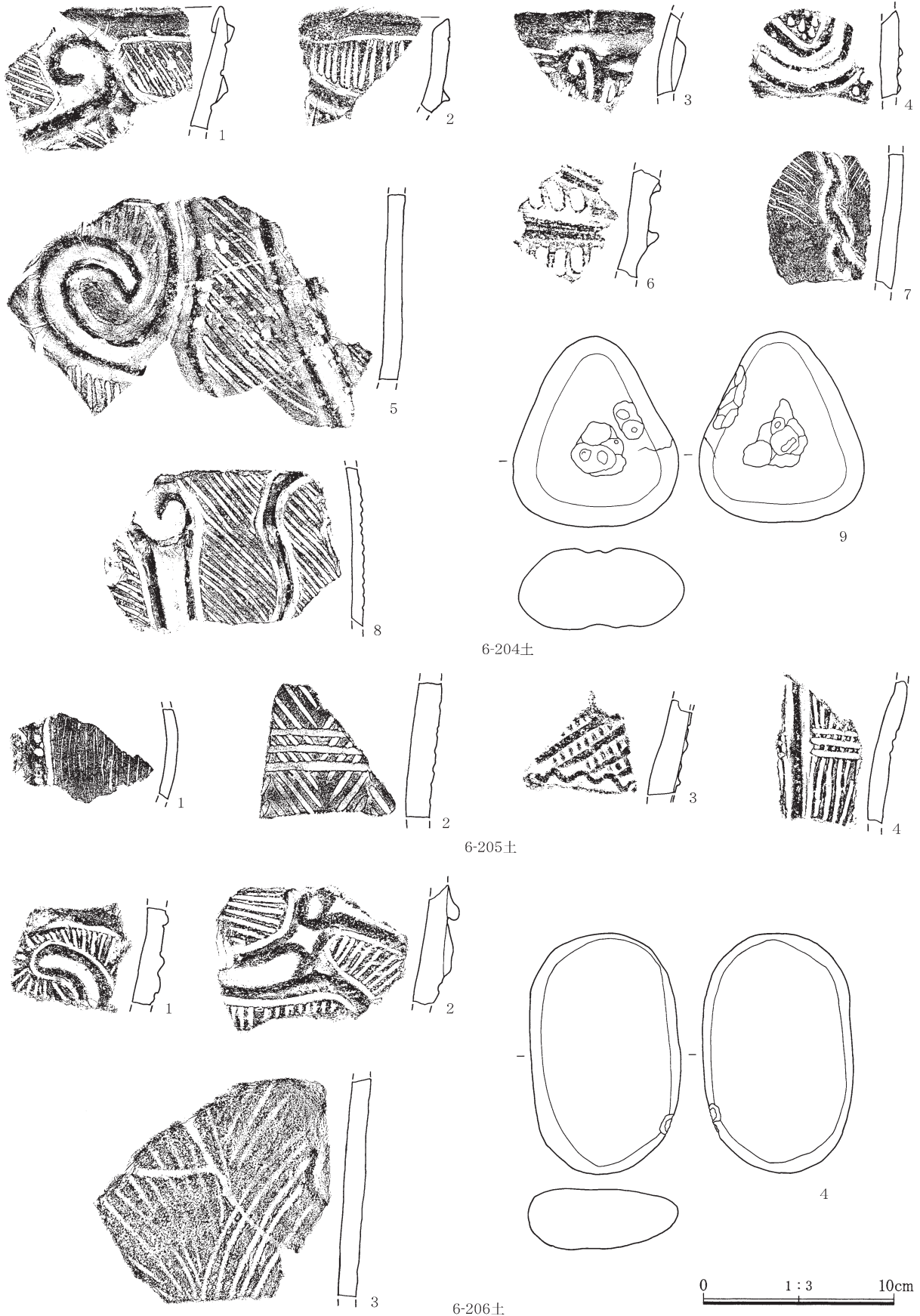
0 1:3 10cm

第484図 土坑出土遺物(62)



第485図 土坑出土遺物(63)

第3節 縄文時代の遺構と遺物

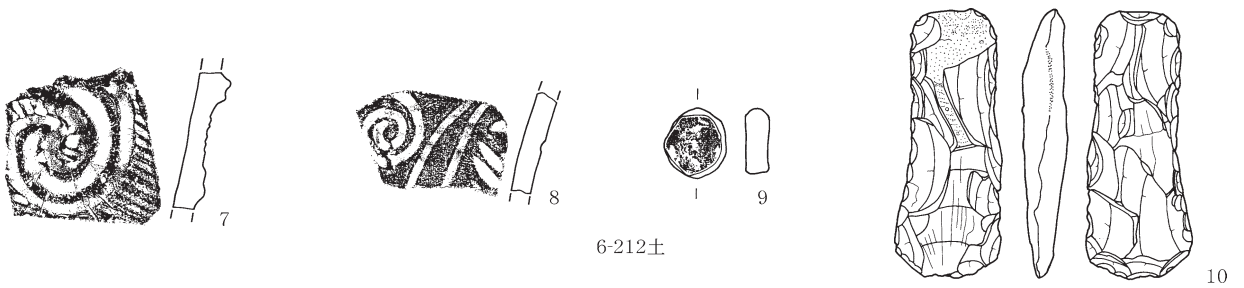
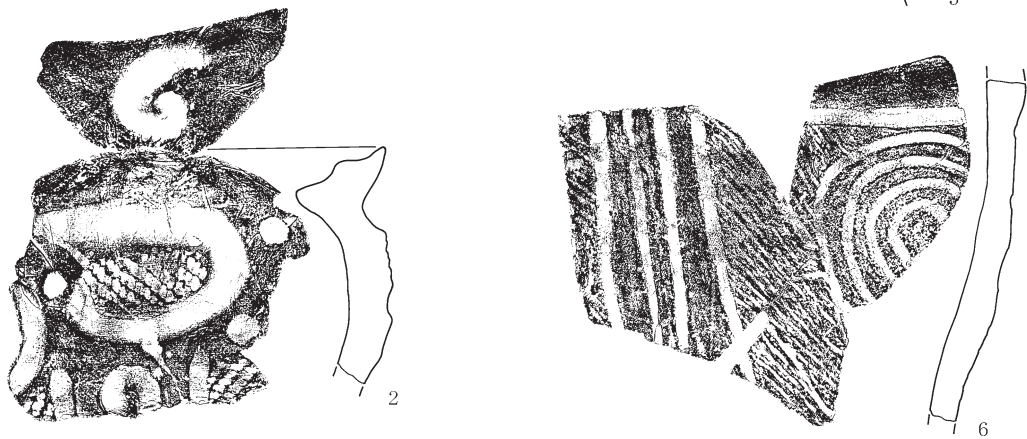
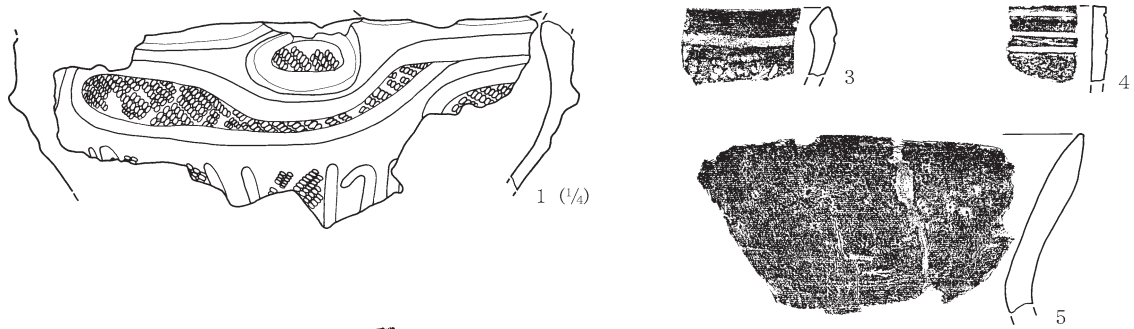
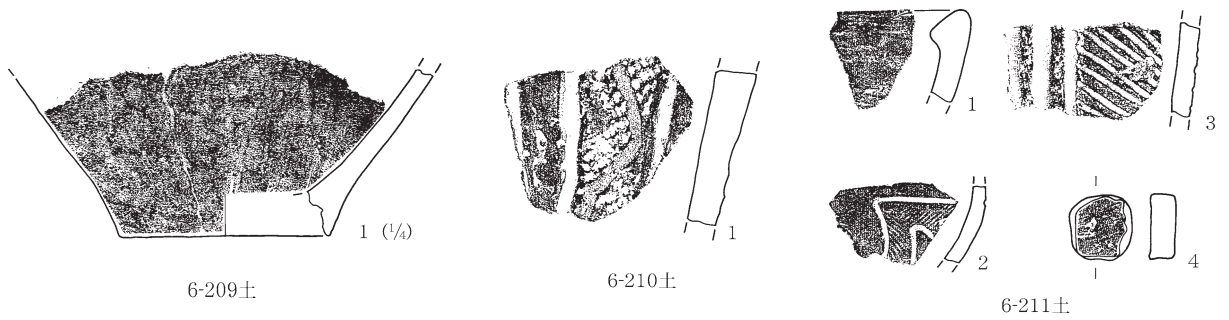


第486図 土坑出土遺物(64)



第487図 土坑出土遺物(65)

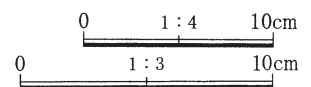
第3節 縄文時代の遺構と遺物



6-212土



6-213土



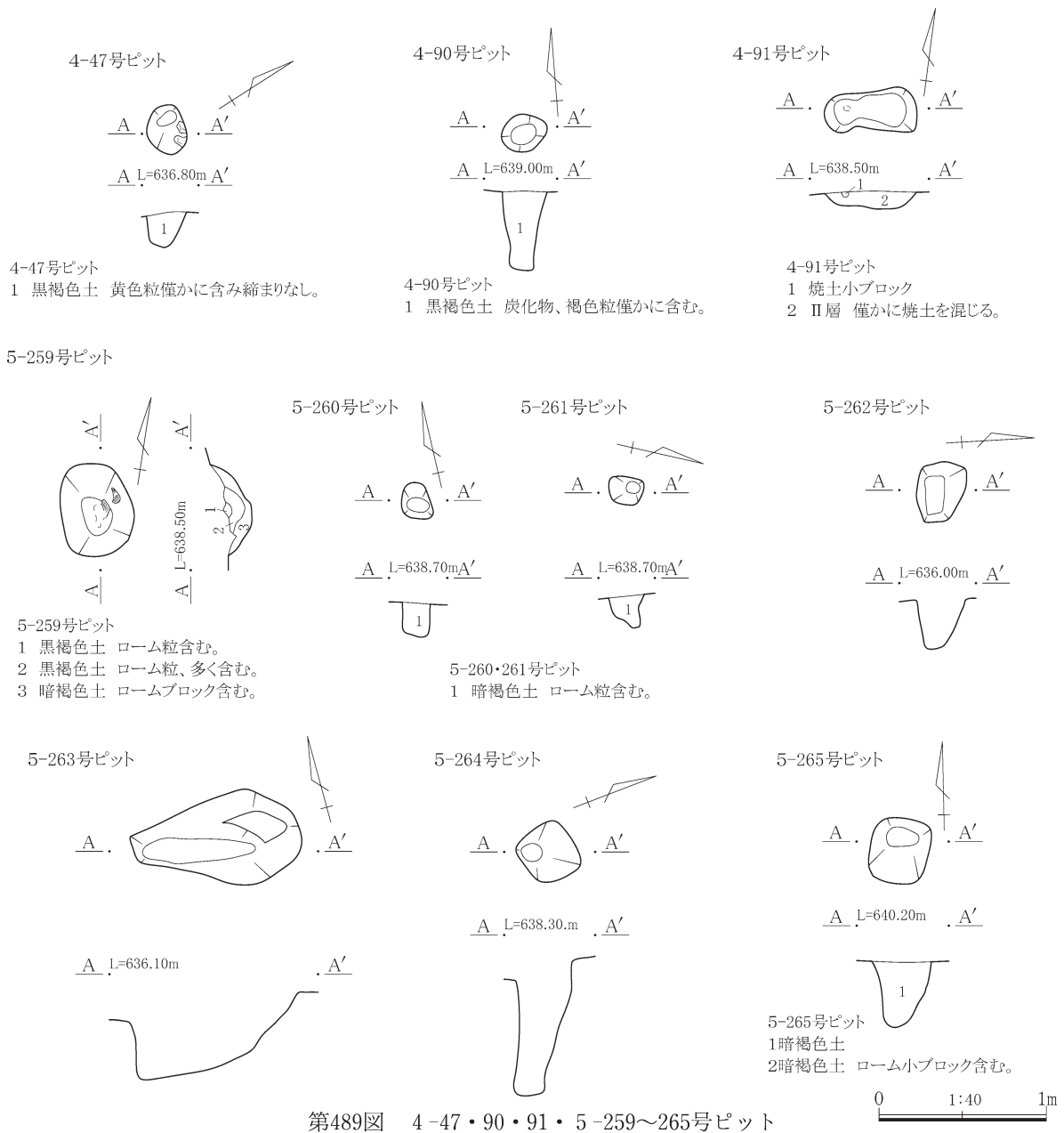
第488図 土坑出土遺物(66)

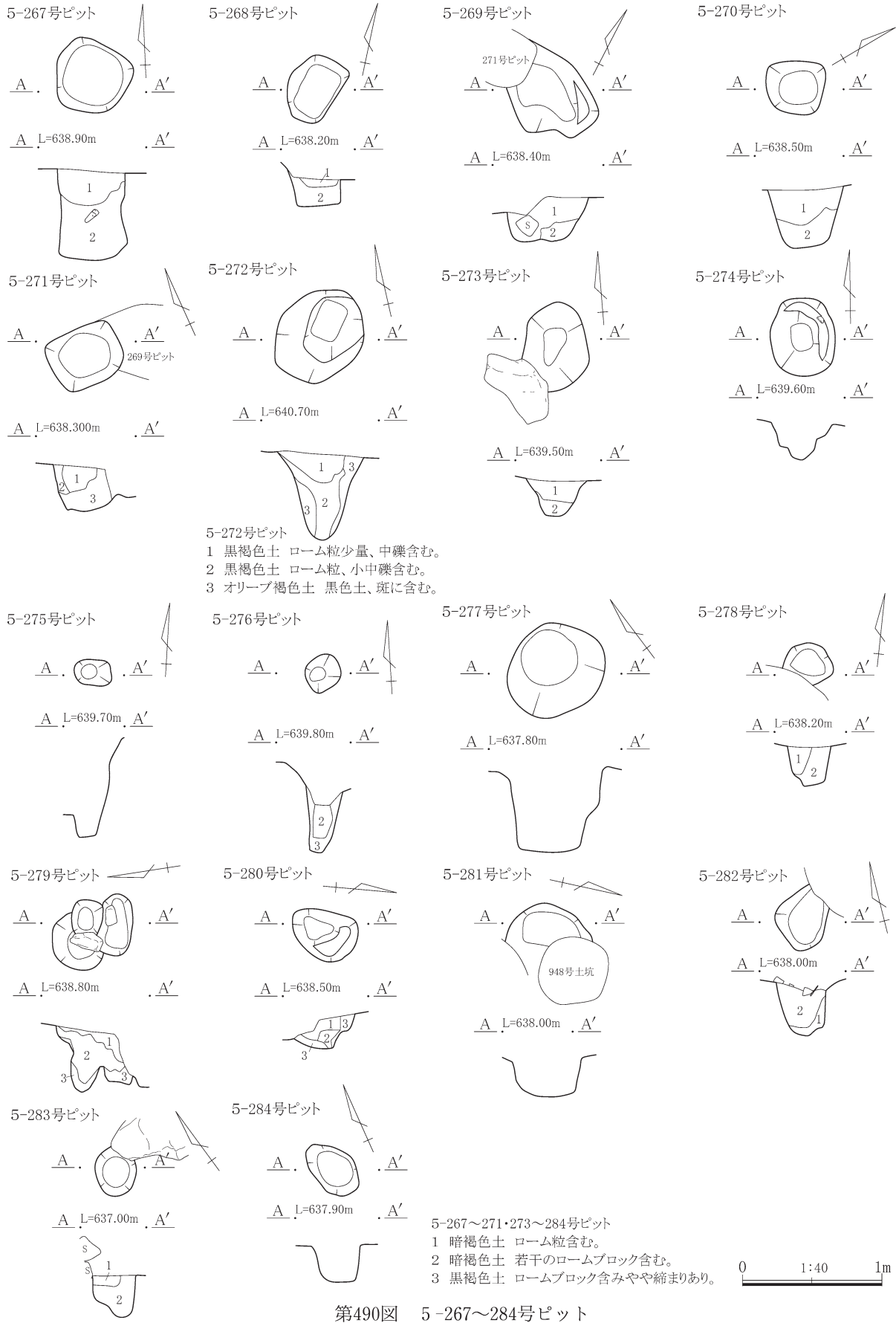
7. ピット (第489・490図：PL105)

土坑のうち規模の小さなものをピットとして調査した。おおよそ径50cm以下のものをピットとしたが、中にはこれを越えるものもある。時期は近世から縄文まで全時代を通してのものと思われるが、出土遺物もほとんど見られず、ここでは一括して報告する。

4区ではN～Pグリッドに位置する多くのピットを検出、これらは東西あるいは南北方向にほぼ直線的に並んでいるものが多く検出され、これらピットの配置から4-1号掘立柱建物および4-2号掘立柱建物の検出に至っており、これらの周囲に検出されたピットを除き記載する。時期的には中世あるいは近世と判断される。

5区については調査区に点在する状況で、25基を検出、時期は縄文時代と考えられるものが多いが、出土遺物はほとんど見られなかった。一部には人為的でないものも含まれている可能性がある。





第490図 5-267～284号ピット

8. 遺構外出土遺物

(1) 土器・土製品 (第491図～505図：PL217～223)

平成15年度における遺構外出土の土器点数2万点を数える。本項では各区毎に分け、細別、記載を行う。今回の調査では遺構の重複が顕著で遺物についても、遺構外出土として扱わざるを得ない状況が多く見られた。また各区の比較では出土点数に時期的あるいは時期的な差異も見られた。

図示した遺物は各時期の比較的特徴を備えたものを取り上げた。また他地域からの搬入品と考えられるものなどでもできる限り示すよう努めた。しかしながら紙面的にも量的にも全体の遺物量に比較すればごく一部に過ぎない。今後、残った調査部分の整理を進めてゆく中で詳細な検討を行って行きたい。本書では下記の分類に従って概述したい。

出土した土器は、中期後半から後期前半がほとんどを占めている。当然のことながら遺構に関しても、この時期と判断されるものが中心である。検出した住居の時期は、中期後半加曾利E3(曾利IV)式期に集中し、後期初頭から前半の称名寺式期から堀之内2式期に比定されるものが検出された。

最も出土量の多かった時期である加曾利E3式の土器は、各調査区において見られる。中期末の加曾利E4式期の土器も比較的出土しているものの、前代に比べると減少している。

後期に入ると初頭の称名寺式期の遺構も散見され、次第にその出土量を増しているように見える。前半の堀之内式期の土器は増加傾向がさらに強くなっている。特に遺構の集中している5区南西側調査区では極めて多く見られる。この調査区内では西端に堀之内2式期の敷石住居跡があり、その東に連続して検出された中期後半台の住居群跡を切って、多くの土坑が掘り込まれている。

6区は調査面積も少なかったが、遺構に関して居住域の西端にあたり、遺構外の出土遺物も少量である。時期は中期は少なく大部分が後期に比定されるものである。

出土した土器は中期後半から後期前半に位置付けられるもので、中期中葉以前のもの、また後期後半以降のものはほとんど検出されなかった。

土器に関しては、いわゆる曾利・唐草文系土器が多く含まれ、地理的に近接する甲信地域との関連を強く窺わせている。さらに新潟、北陸系の土器も見ることができ、極めて活発な交流があったものと考えられる。以下、各区毎に下記の大別分類に沿って概観しておきたい。

第I群 中期中葉・後半

- | | |
|--------------------|-------------------------|
| 1類 焼町 | 2類 加曾利E1(曾利I) |
| 3類 加曾利E2(曾利II) | 4類 加曾利E3(曾利III・IV・唐草文系) |
| 5類 加曾利E4(曾利V・唐草文系) | 6類 無文 |
| 7類 底部 | 8類 土製円盤・土製品 |

第II群 後期初頭～中葉

- | | |
|---------|---------|
| 1類 称名寺1 | 2類 称名寺2 |
| 3類 堀之内1 | 4類 堀之内2 |
| 5類 無文 | 6類 底部 |

7類 注口土器

8類 把手

9類 土製円盤・その他

第III群 後期中葉～後半

1類 加曾利B1

第IV群 晩期

4区 (第491～495図：PL217～219)

第491図は第I群の土器である。1・2は1類いわゆる焼町土器、同一個体と思われる。本例のみの出土である。沈線による重弧状文を上下から描き、中には刺突文を配す。3～10は4類、加曾利E3式に位置づけられる一群で最も出土点数が多いものである。口縁部に隆帯による楕円文、渦巻き文を基調とする文様帯を持つ。胴部には縦位区画の磨り消し文様。9は文様を構成する隆帯が強く肥厚し器形も内湾する。古く位置づけられる。7・8は口縁部に波状小突起を有すもので、類例は多い。突起上面に鈎状の凹線を有す。11～13は口縁部に横位沈線廻り楕円を画す文様構成か。14は口縁部に刺突を有す。15は口縁部に幅広の無文部を持ち以下沈線文様。16は口縁部の隆帯渦巻き文下に縦位の磨り消し縄文帯。第492図17～32は5類に分類される。口縁部に横位沈線あるいは隆帯等が見られ以下縄文地に∩状の沈線文様描く。41も同類に位置づけられるが、縦位の矩形1文様描く。18・21は横位区画の沈線等は見られず、∩文描き縄文充填する。19は口縁部に横位刺突文が見られる。23はほぼ器形を復元できたもので、台付き土器である。口縁部は4単位の波状を呈し、口縁部に横位刺突文付し沈線で画す、胴部は上下に方向の∩縄文を沈線で描き縄文を施文。34は口縁部片短沈線文が見られる。45・36は同一個体片である。縦位平行沈線文間に櫛歯状の刺突文見られる。42～48も4類とされる一群である。46は両耳壺取手部である。38～40、44～48は4類の胴部片であるが、38・39・44・45はやや古く位置づけられようか。37は無文土器で横位沈線廻る。

49は5類の胴部片沈線で描かれた∩状文が上下対に描かれる。区画内には縄文LRが施文される。

第493図50～54は曾利・唐草文系、50は下2本ずつの平行隆帯で口縁部文様帯を構成、上下の隆帯を繋ぐ様に付された隆帯は下端が渦巻様となる。間には斜位の集合沈線が見られる。51・52は胴部片、51は上端部が渦巻きとなる2本の垂下隆帯、地文にはハの字状の沈線文。52は2本の隆帯を横位、縦位に貼り付け矩形区画文を構成、横位隆帯間には刺突文を付し、垂下隆帯の上端が渦巻き文を描く。地文には羽状の沈線文。53は2本単位の垂下隆帯で器面を6分割し、各区画内に上位には左下がり、下位には右下がりに方向を変えた集合斜沈線を施文。曾利4か。54は縦方向の沈線で器面を12に分割後、間を斜位の集合沈線で埋め、矢羽根状の文様を表出。54は上端欠け口面の面取りが施されている。55は圧痕隆帯文。

第494図は曾利・唐草文系であるが、57は無文で時期不明である。56は隆帯により横楕円文による区画文を描く。以下胴部は縦位の集合条線を地文とし、併行沈線による幅狭の垂下無文帯。胴下位は無文である。

42・47・48・56は4区の北側部分から南西方向に走る落ち込み黒色土中に礫と共にまとまって出土している。58・59は広口の甕型土器である。58は隆帯による横楕円区画文、区画内に円形文を充填する。また隆帯の交差部にも円形押し文を付す。以下胴部には縦位の条線文。

59は頸部縮まり口縁部無文で外傾して立ち上がる。隆帯による横楕円文基調の文様帯、区画内は集合線による弧状文、刺突文、以下縦位集合条線。

60は2本単位の沈線により連結した文様を横位に描き中を櫛状の工具による列点状の刺突文で埋めてい

第3章 検出された遺構と遺物

る。61～63は隆帯による渦巻き文様で飾り、地文に集合沈線を持つものである。63は口縁部波状に渦巻き文が付される。

第495図64～68・72・73は唐草文土器、沈線による渦巻き文、重弧状文で器面を埋める。

70・77はII群3類に位置づけられる70は凹圧横位隆帯、77は口縁部に環状突起、円形文有す。75・76はI群4類曾利系土器、横位沈線および縦位の渦巻き文、波状文描き地には斜位の集合沈線見える。78は4類、口縁下に2条の刻み隆帯廻る。79は注口土器注口部。80はIV群、晩期末か。口縁部緩やかな波状を呈し、口縁部は直立頸部に沈線が廻り以下胴部には斜めの集合条線。

5区(第496～504図:PL219～223)

第496図1～3・7および第497図23～25はI群4類の口縁部、第496図10・15・17および第497図33は胴部片。1は隆帯による楕円文を描き縄文充填。4～6・8～13は5類に比定される。横位の隆帯または沈線下に縄文施文、 \cap 状の磨り消し文様持つものも見られる。14・16・20は沈線による胴部磨り消し文様描く。22は口縁部に刻みを有す。

24は口縁部から肥厚沈線による縄文帯垂下。25は太い沈線による縦S字文描き、縦位の沈線。26から30は口縁部片、26・27は5類か。29は \cap 状文内に縄文充填される。30は口縁下に刺突文見られる。31・32は胴部片。33は4類の胴下半部である。縦位の磨り消し縄文。34は4類曾利系、口縁部文様は隆帯による渦巻き文構成か。胴部にも沈線による渦巻き文描き、矢羽根状に集合短沈線文付す。

第498図35～39はII群1類に比定される一群である。磨り消し縄文による区画文様描く。

40は4類で楕円文様描く。

42・43はII群2類、同一個体片と見られる。曲線文様内に刺突文付す。第498図44～499図はI群曾利、唐草文系土器である。45～49は口縁部に隆帯による渦巻き楕円文様描き縄文以外の施文を行う。50は2本隆帯で文様を描き斜位の沈線文を地文とする。55・56は隆帯による渦巻き文。58は口縁部に斜めに集合沈線配し胴部は隆帯文様か。60～63は唐草文系、隆帯による渦巻き文、斜位縦位の沈線で地文を埋める。63～73は縦位の隆帯と矢羽根状の集合沈線文。74～76は粘土紐状の隆帯、76は横位2本単位の隆帯、斜位の集合沈線の上に斜格子状に粘土紐を貼付。77～79は口縁部突起。渦巻きを基調とする文様描く。第500図～504図はII群3・4類である。

80～111は沈線による区画文様描き間隙を縄文で埋めている。112～124は三十稻場式である。112・113は口縁部、渦巻き隆帯に刺突文。他は刺突文施文がされる122・123等は刺突文の片側が瘤状に盛り上がる。124は細かい刺突文が施文。125～177は口縁部をまとめた。126～146は口縁部が内屈し横位沈線、肥厚部には円形文対向するC状文が見られる。第502図147～162は口縁部に刻みを持つ隆帯が貼り付けられている一群である。147・148の様に1条のものや149・151・162のように2条以上廻らしこれらを縦に繋ぐ隆帯が付されたものが見られる。隆帯下は磨り消しの矩形文様を持つものと無文がある。器形による差異と見られ155・157・162は口縁が大きく開く器形を呈すものと見られる。

163や164は隆帯は見られず横位の沈線文が多段施文されている。164は口縁部に突起状の円形文。165～172は口縁部に横位凹圧隆帯が見られる一群であるが169・170・173は隆帯の交点に円形文が付される。また172は刻みを付す。第503図174～179は4類の口縁部片である。174・175は横位矢羽根状文、177～179は無文で口縁部に沈線が廻る。180・184は内外面に文様有す。181～183は複数単位の沈線による文様描くが縄文の見られないものである。185～190は矩形磨り消し文様。191～196は渦巻き文斜格子文等が描かれる。194は黒色土

器。

199はI群土器である、短頸の壺型土器。

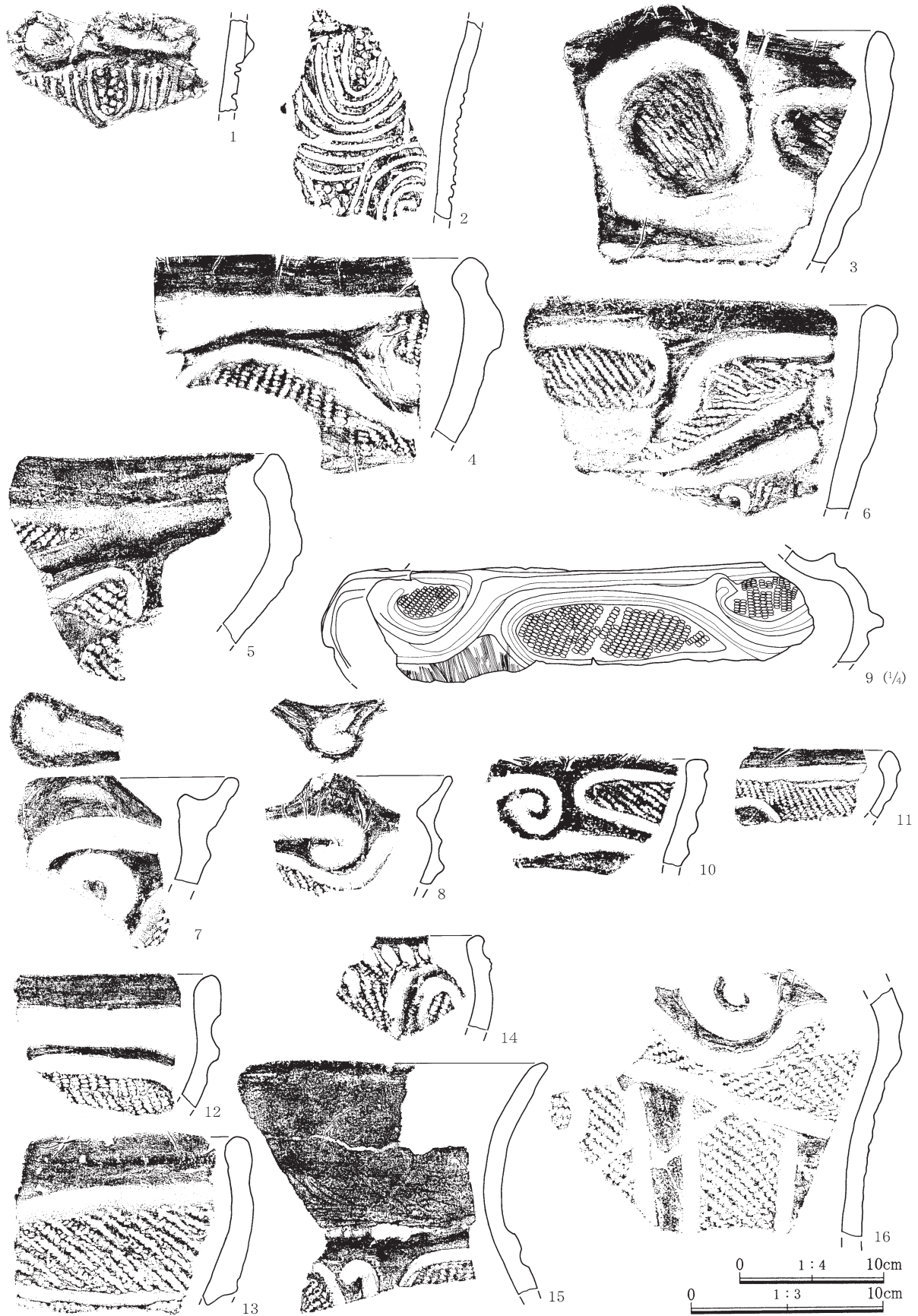
504図202は小形の土器である。沈線による渦巻き基調の文様描く、II群か。203は取手部片。205は脚台部片。206は注口土器の注口部である。207～221は土製円盤をまとめた。時期は文様等からI群およびII群にわたるものと思われる。大きさは最大径4.5cm、最小2.5cmである。222は鼓型の耳栓である。両面に刺突文、沈線による渦巻き文描く。223は土製の腕輪である。断面は上端部やや細く内側に傾斜を持つ。224は土偶である。胴から腰にかけての部分と見られる。厚さは1.8cmでやや反りを有す。文様は腰の部分は2本の横位沈線間に格子状、裏は異方向斜めに沈線が廻り、胴部には臍の表現、背面は紐をかがったような表現が見られる。

6区（第505図：PL223）

9・10は加曾利E3式期か、21はI群曾利式、20・21も該期に相当か。他は総てII群に位置づけられる。1は口縁部内屈し、口縁に沿って沈線が付され、沈線下位に列点状文、口縁がやや波状に高まる部分に弧状の短沈線文。2は口唇部に刻み有し、口縁部内面には隆帯。内面、外面に横位の沈線廻る。外面下位には横位縄文帯。炭化物の付着あり。3は口唇部内傾、口縁下部に横位の隆帯。4は口縁部に横位隆帯で画す無文帯。6は内面に円形文、重弧状文描く。7は口縁下に横位沈線、以下縄文施文。8は沈線により円形文および垂下文様の磨り消し縄文。11は縦位横位の沈線文様。12は口縁突起部片、上端部8字状文、内面に刺突文列文。13は縄文地に沈線による斜行文。14は沈線による重菱形文、外側に縄文帯。15は口縁部表裏に2本の刻み隆帯が廻る。外面には8字貼付文。以下は沈線により三角形基調の磨り消し縄文施文。22は三十稻場か、刺突文。23は横位沈線間に刺突文。24は注口土器の胴部か、薄手で器面平滑。25は弧状の棒状部に渦巻き状の隆帯が付く。渦巻き内、棒状部に連続刺突文。口縁部に付く環状の突起文か。26は土製円盤である。

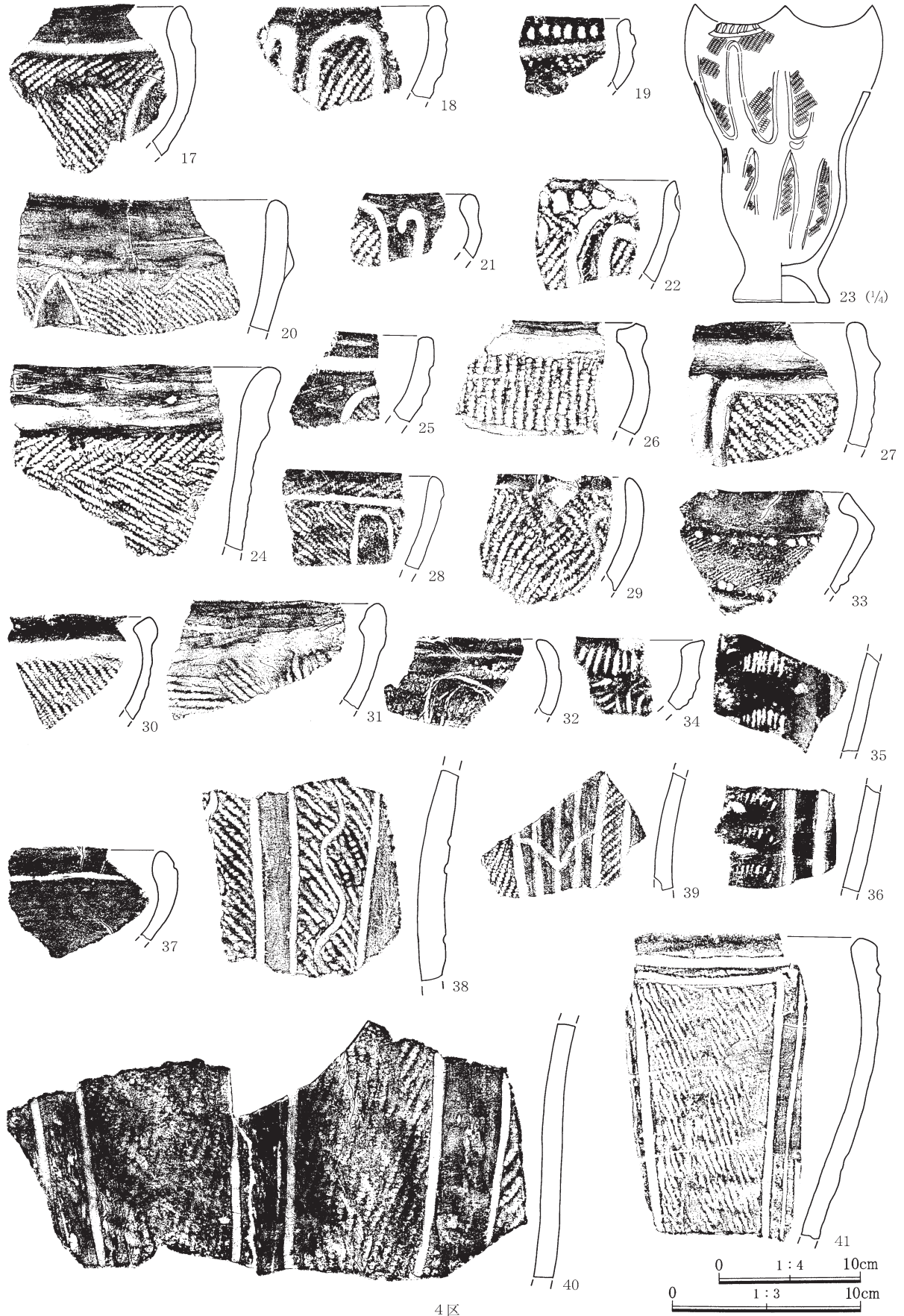
以上、遺構外出土の土器、土製品について概述したが、時期的な広がりはあまりなく、時期は中期後半および後期前半が主体で全体の9割以上を占めている。加曾利E3～加曾利E4式、および称名寺1・2式～堀之内1・2式である。また、搬入されたと思われる北陸、新潟地域の土器も散見されており交流を窺い知る資料である。

今回報告した資料は、長野原一本松遺跡における遺構外出土土器のほんの一部であり、今後、最終的なまとめを行ってゆく予定であり、より詳細な分類をふまえながら遺跡の性格等を明らかにしたいと考えている。

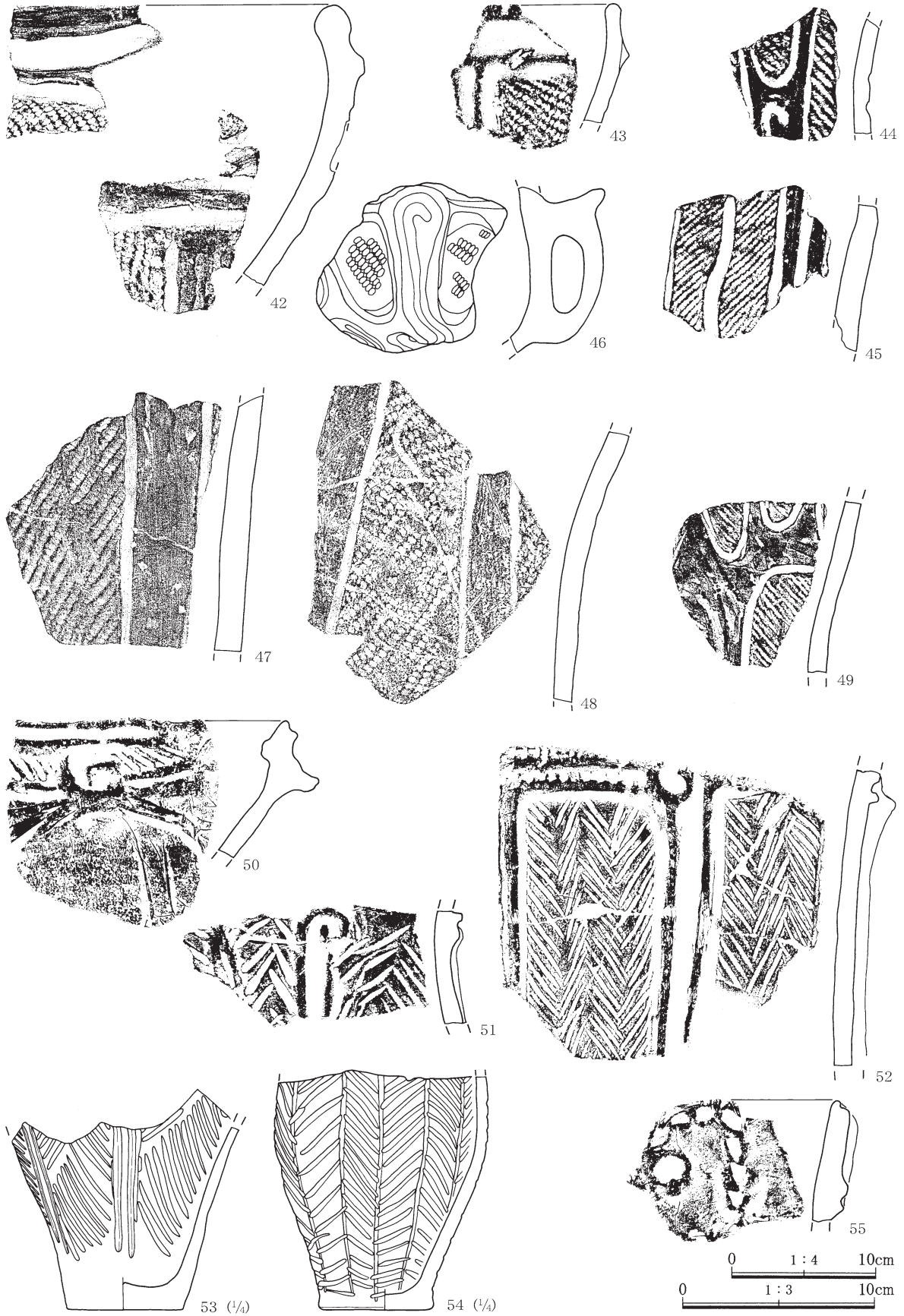


4区

第491図 遺構外出土土器(1)

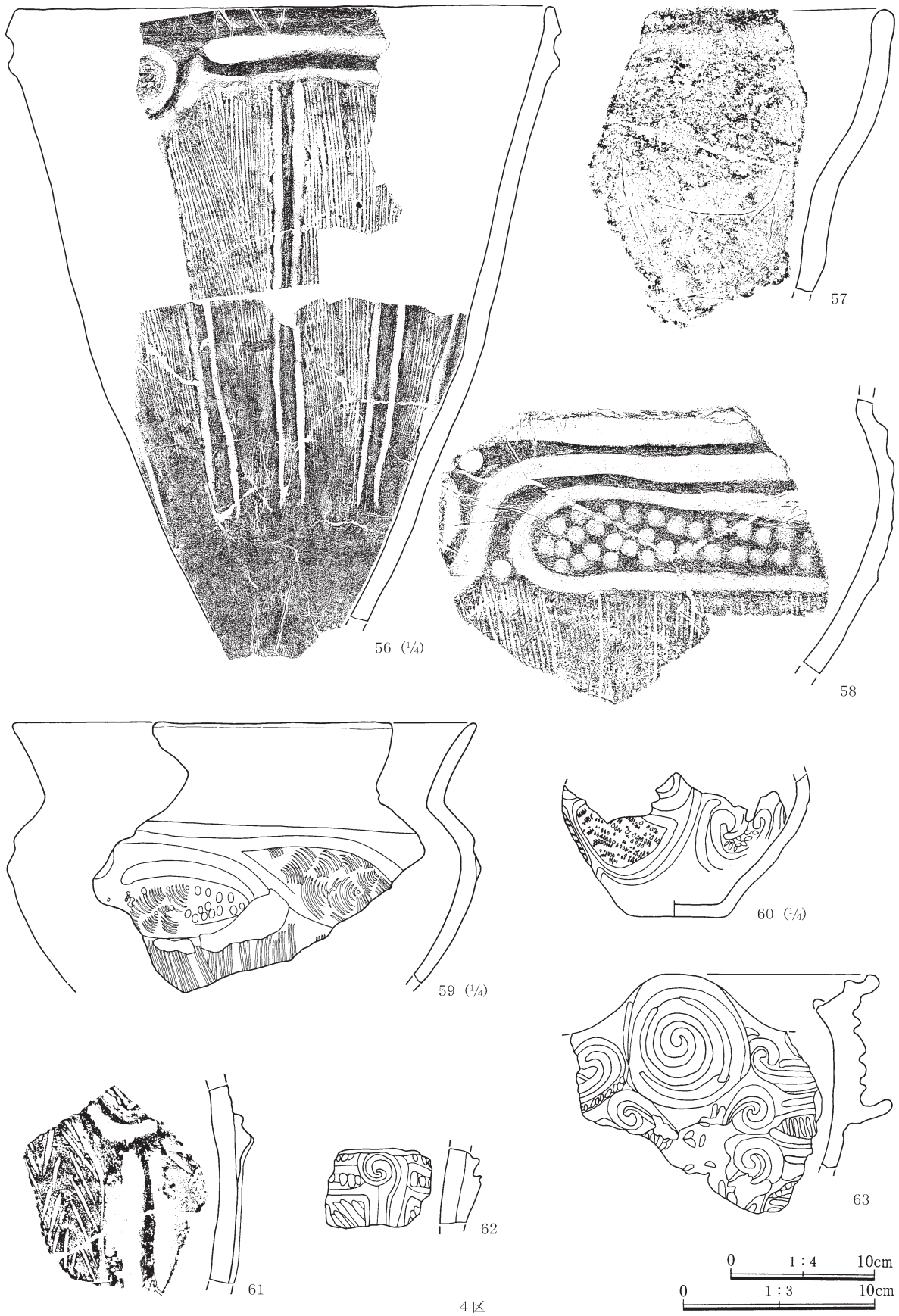


4区
第492図 遺構外出土土器(2)

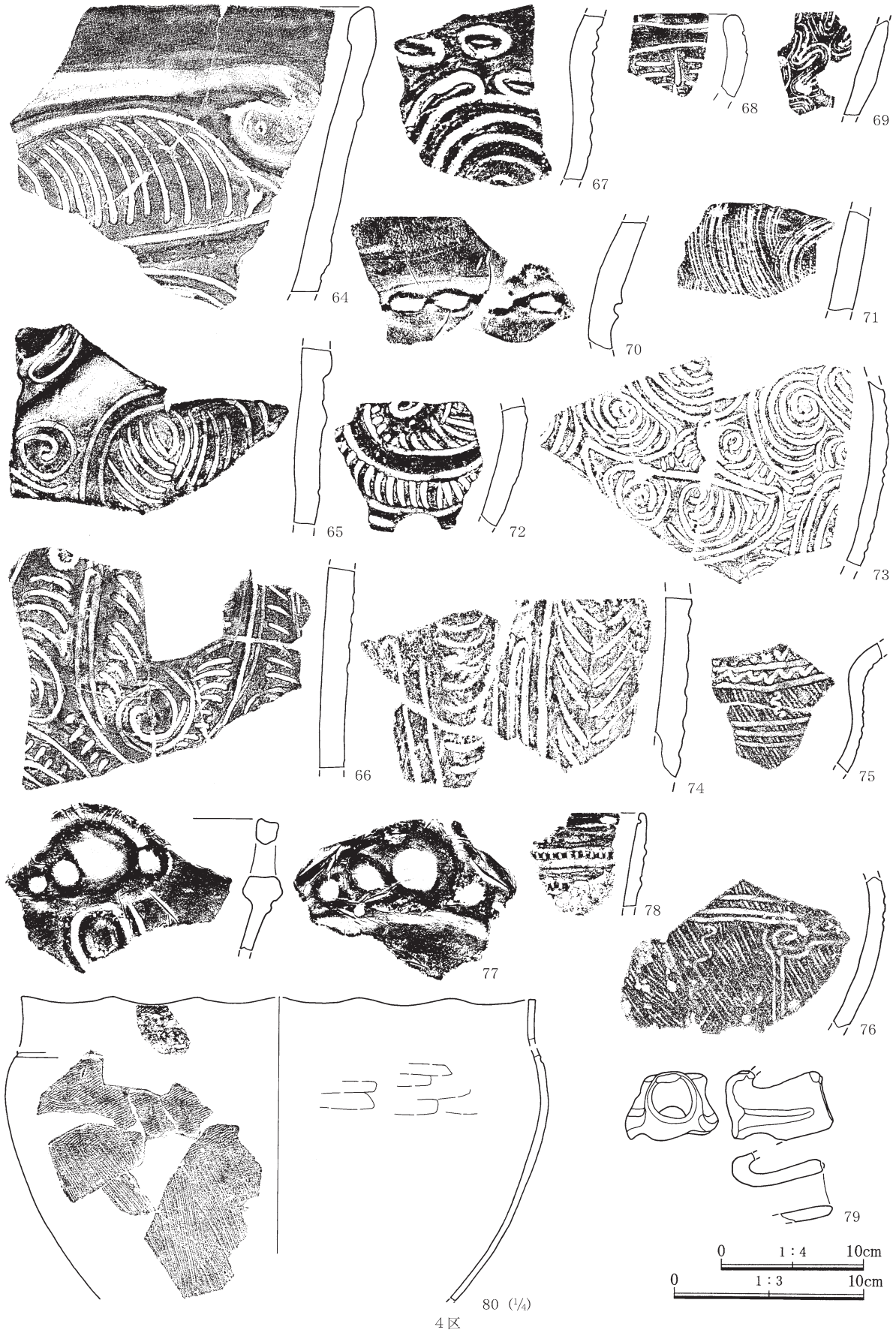


4区

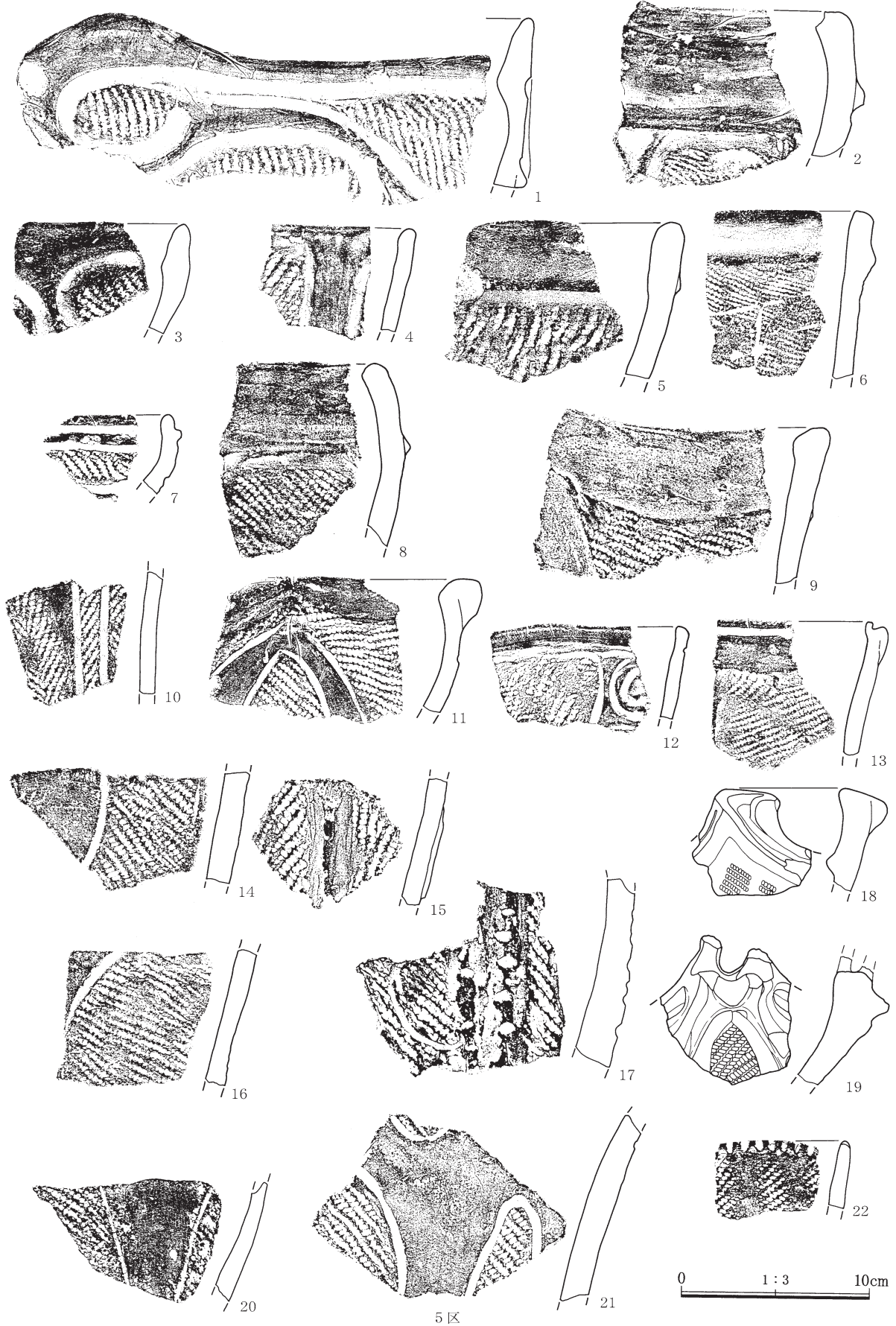
第493図 遺構外出土土器(3)



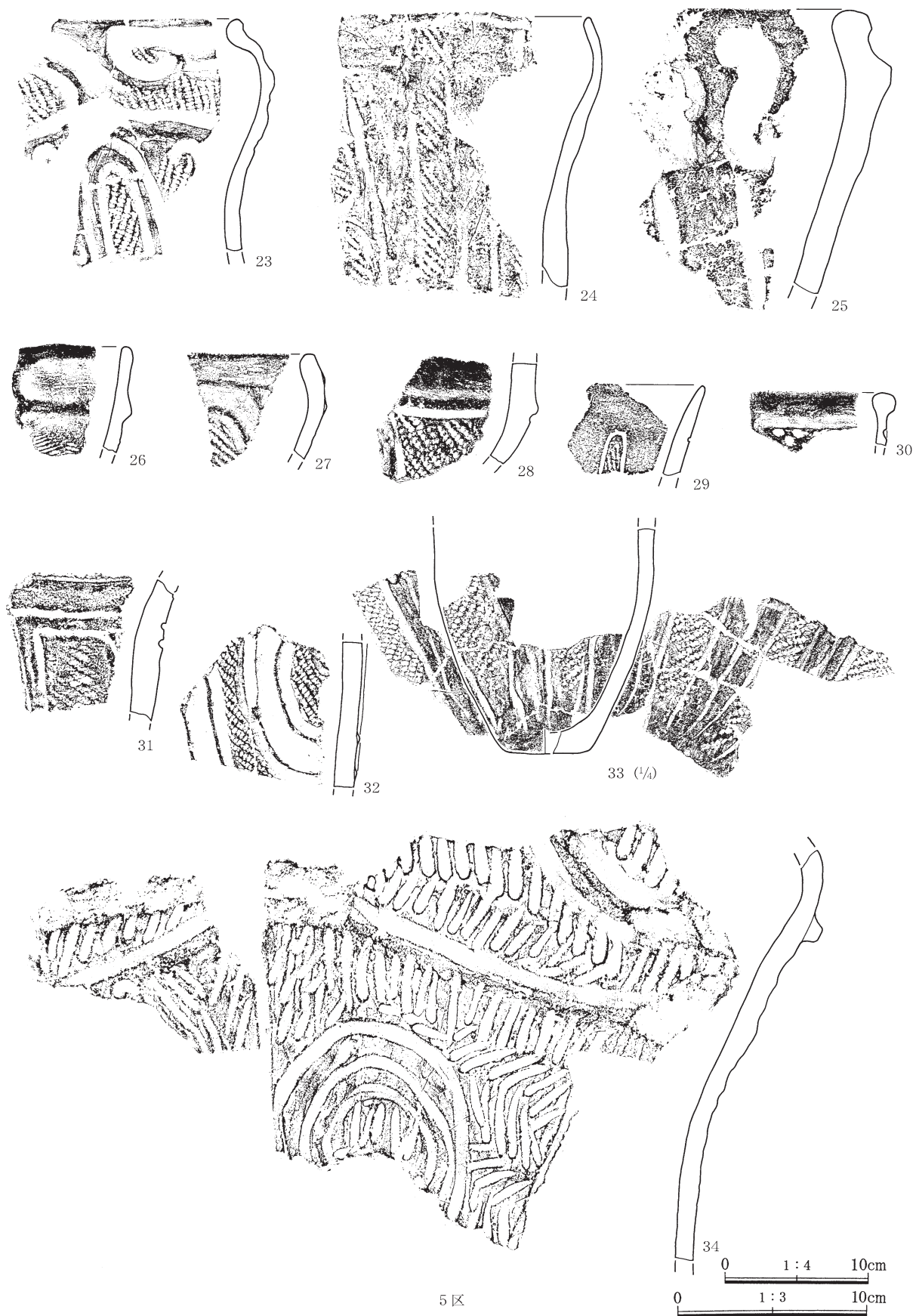
第494図 遺構外出土土器(4)



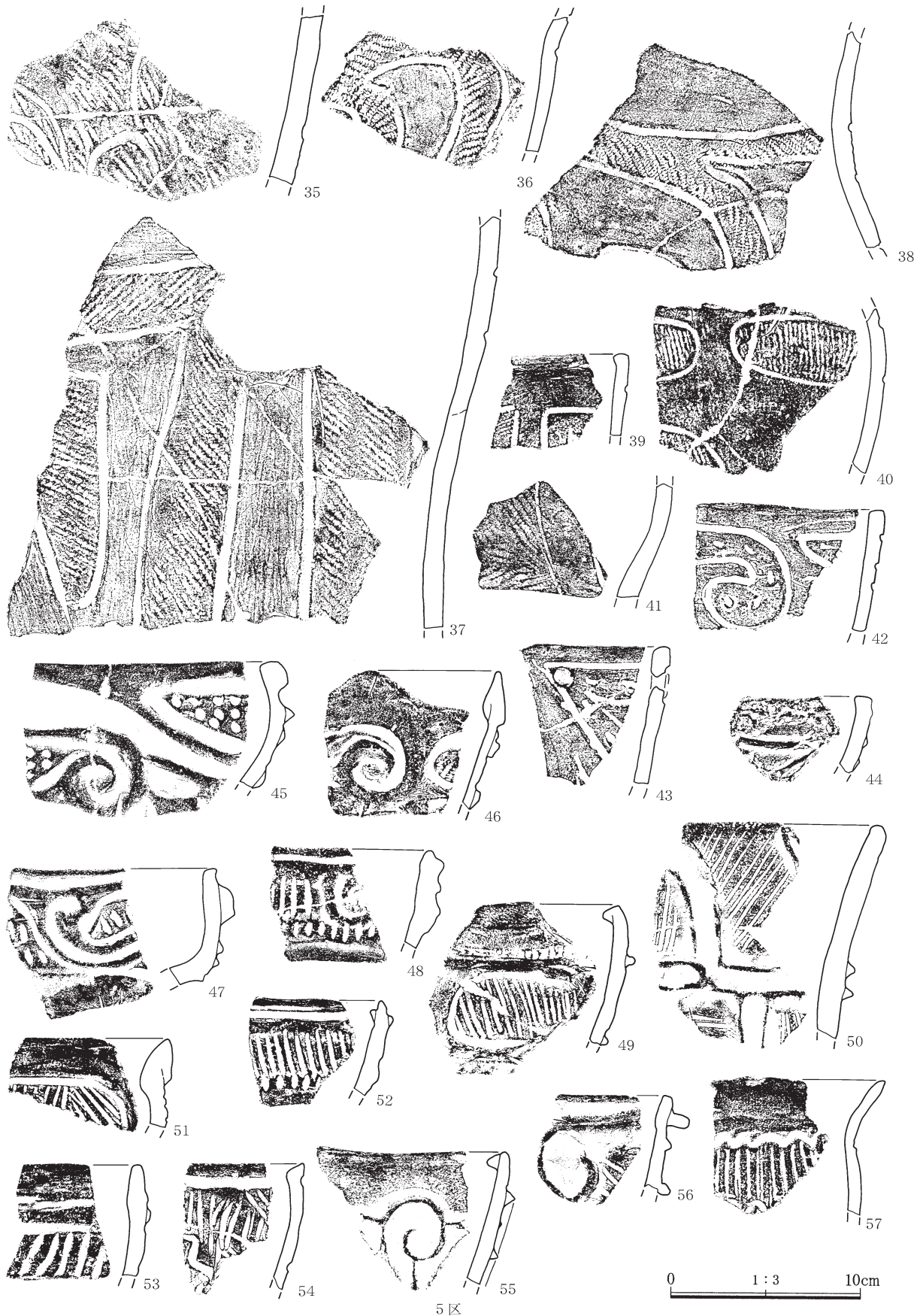
第495図 遺構外出土土器(5)



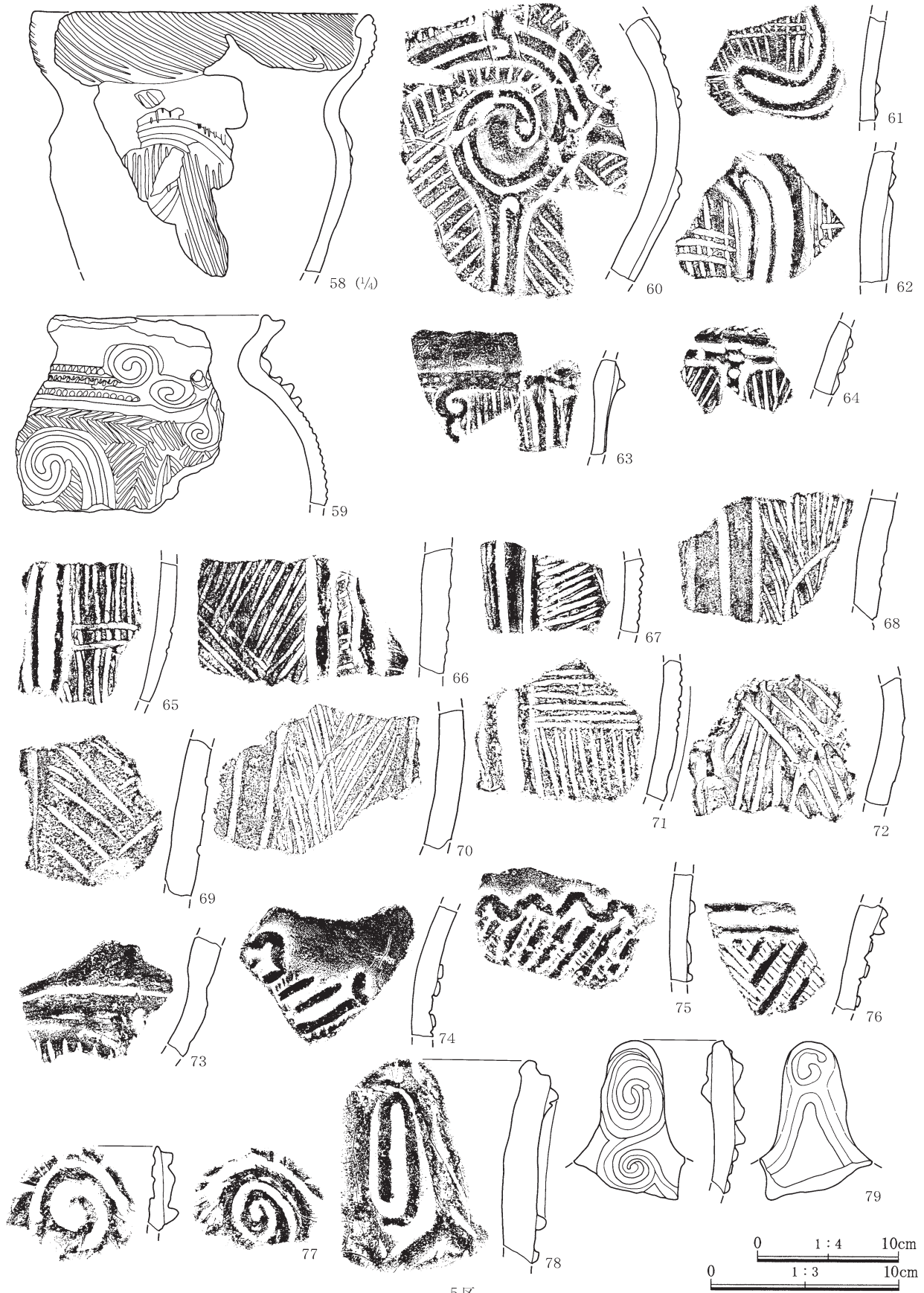
5区
第496図 遺構外出土土器(6)



第497図 遺構外出土土器(7)



第498図 遺構外出土土器(8)



5区
第499図 遺構外出土土器(9)

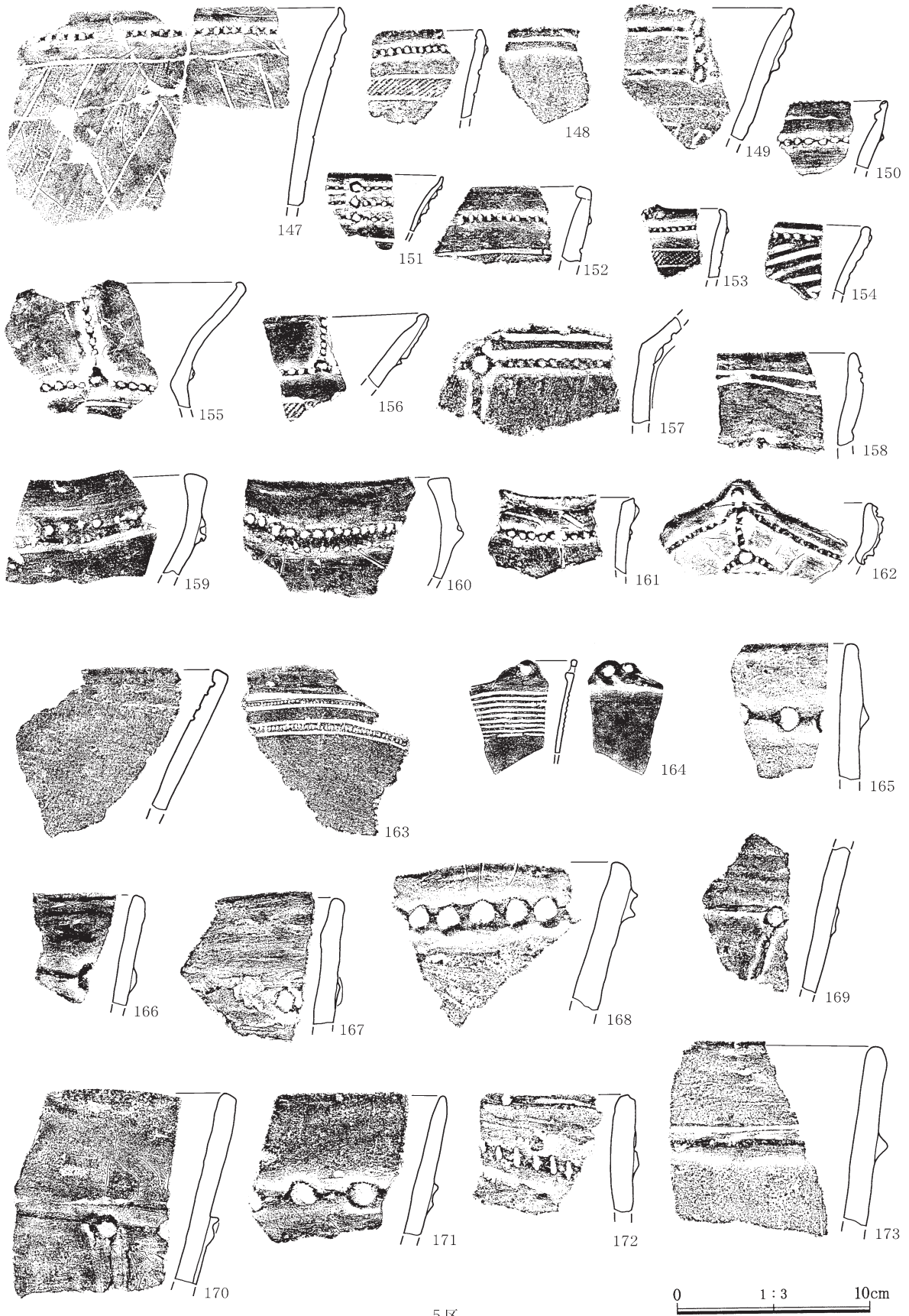


第500図 遺構外出土土器(10)



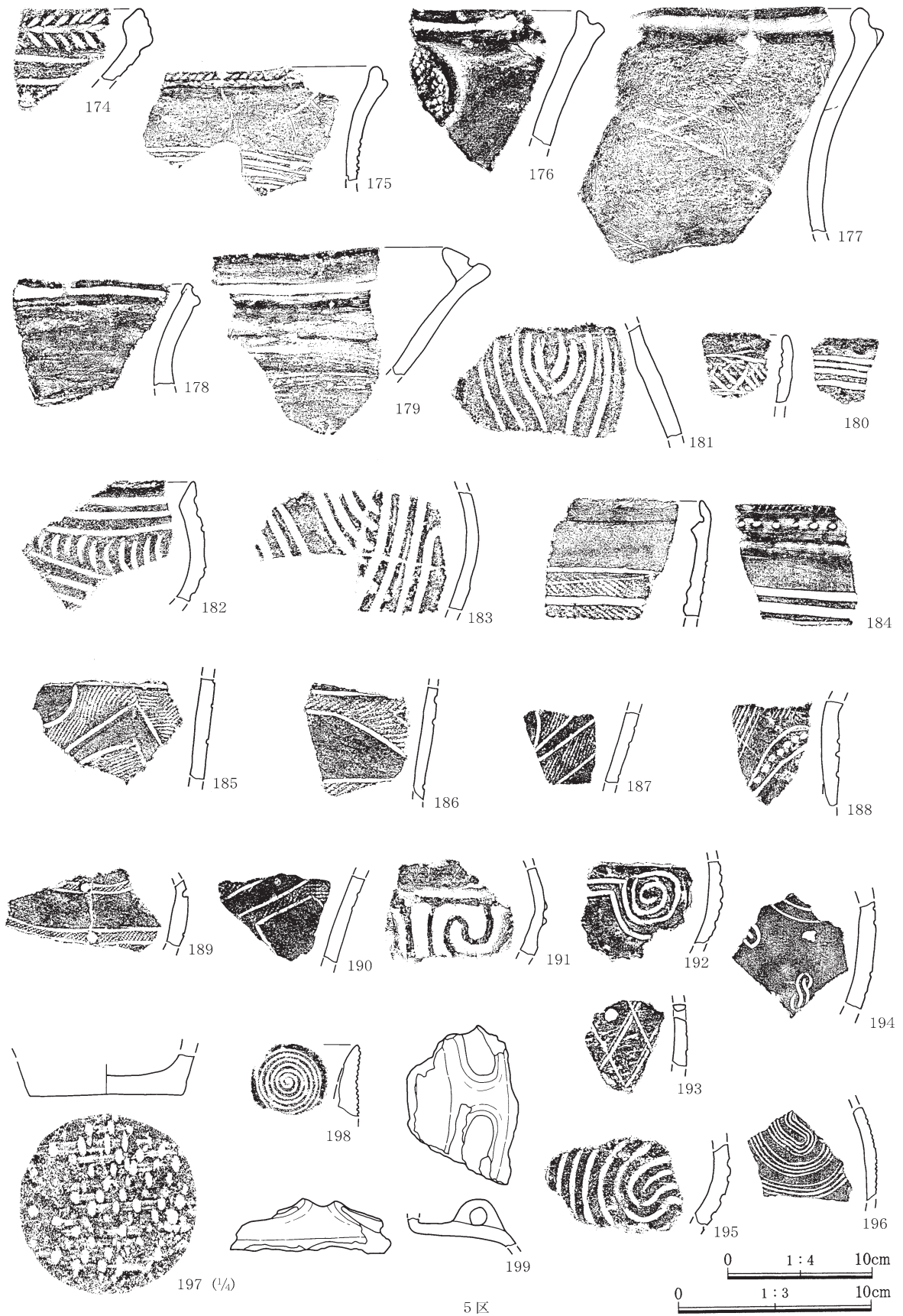
5区

第501図 遺構外出土土器(11)

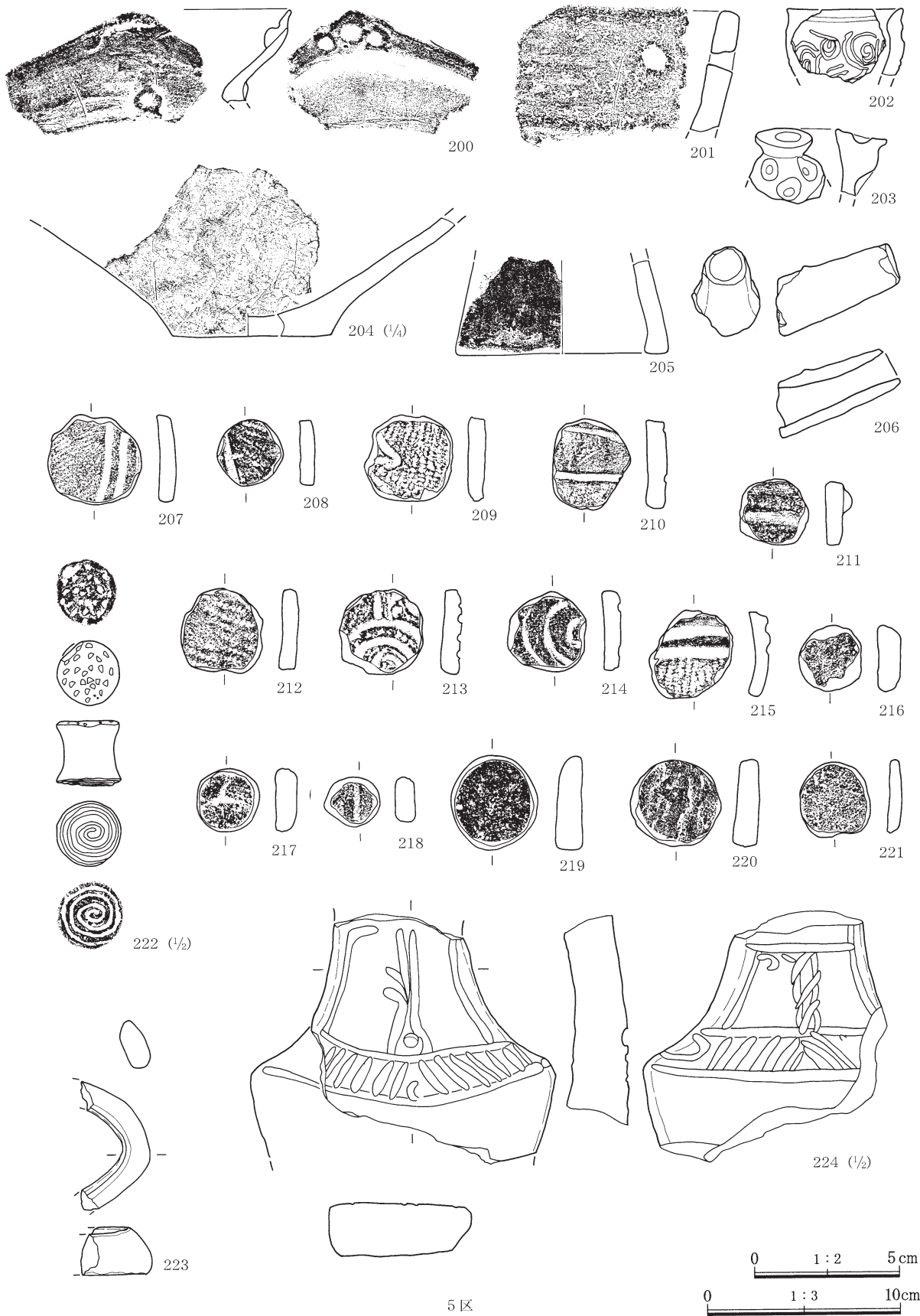


5区

第502図 遺構外出土土器(12)

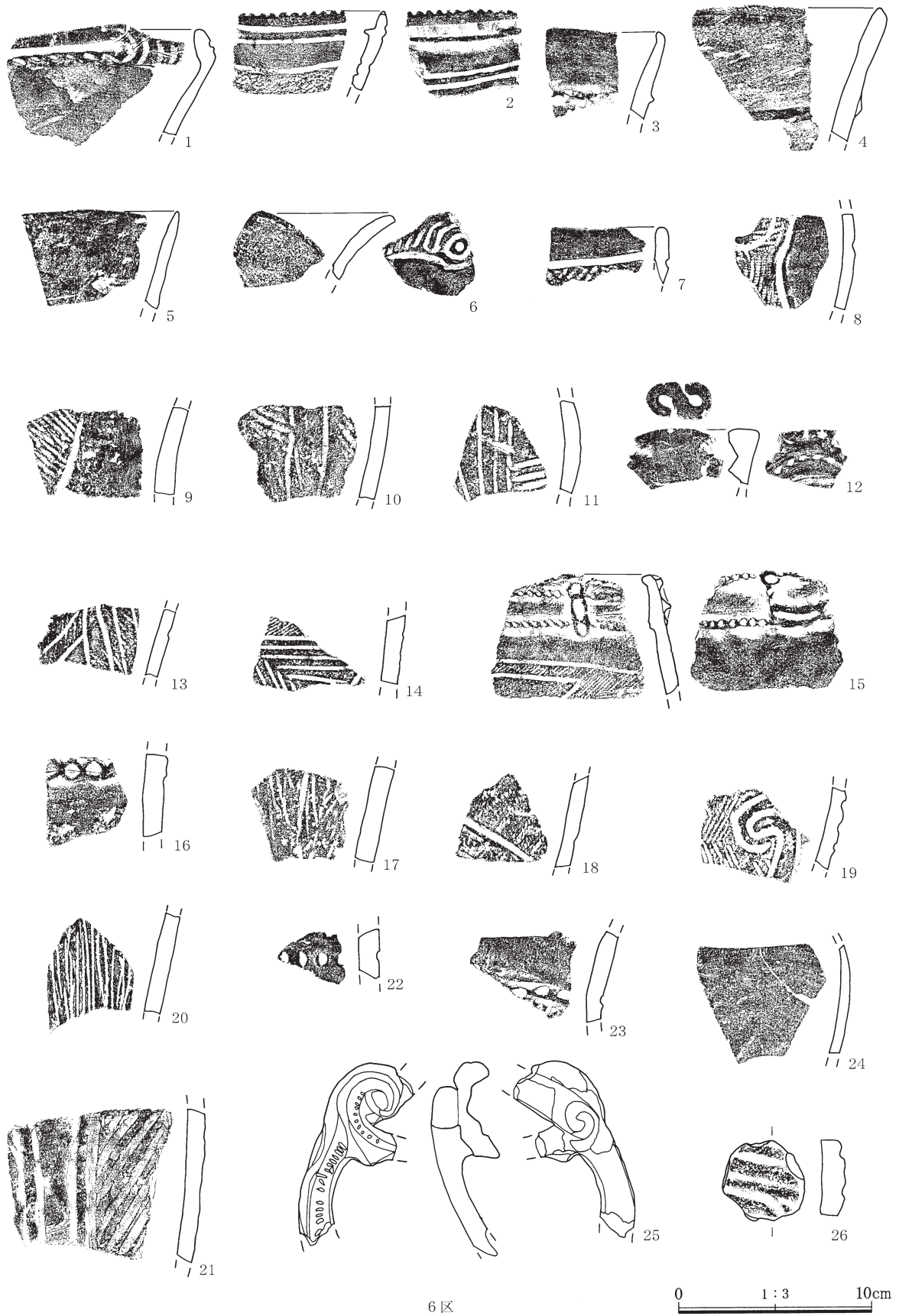


第503図 遺構外出土土器(13)



第504図 遺構外出土土器(14)

第3章 検出された遺構と遺物



第505図 遺構外出土土器(15)

(2) 石器・石製品 (第506～513図：PL224～227)

平成15年度の調査により出土した石器は、住居、土坑等の遺構より出土したものは1188点（住居1003点、土坑その他の遺構が185点）である。さらに遺構外出土212点を含めると1,400点となる。

器種別の点数内訳を見ると石鏃が最も多く、続いて打製石斧、磨石、石錐の順となる。

石鏃408、石錐86、磨製石斧50、打製石斧300、石棒14、多孔石30、磨石338、スクレイパー78、凹石14、軽石製品17、石皿17、石匙2点、その他46点である。

住居出土の石器に関しては、出土量に差が見られるこれは当然なことながら遺構の残存状況によるところが大きいのであるが、こうした点を考慮した上でも出土量や組成に違いが窺える。

中期後半期の住居では石鏃および打製石斧が比較的多く磨石類はやや少ない傾向に対し、後期では石鏃・打製石斧の減少があり逆に磨石が増加するようである。この傾向は時期が下るほど強まるようで、後期前半期の住居では特に磨石の出土量が目立つようになる。

また石皿は各時期において見られるが完形品は少ない。いずれも半分ないしは4分の1以下に割れているものが中心である。裏面に凹み穴を有すものや、炉石に転用されたものもある。多孔石に関しても時期的に偏った出土状況は看取されなかった。その多くが不定型な自然礫のほぼ全面に大小の凹み穴を穿っている。石材は総て粗粒輝石安山岩である。石棒に関しては14点が出土、極めて小破片もあるが石材は緑泥片岩がほとんどであり、搬入されていることがわかる。多くは火を受けている。4-17号住居跡や5-88号住居跡のように炉や壁際に立てられた状況で出土しているものもある。

打製石斧も出土点数が多い、前述したように中期後半期の住居では目立つ存在である。形状はいわゆる撥形や短冊形がほとんどで、分銅形のものも極めて少ない。石材は圧倒的に粗粒輝石安山岩が多く用いられている。また刃部あるいは基部片のみの欠損品も多く見られる。

磨製石斧に関しては中期から後期にかけて見られ、出土量傾向に違いはあまり差は見られない。欠損品が多く、刃部の欠けたものを敲打して角を落としたものが散見される。敲石として再利用したものか。

磨製石斧については長さ5cm以下の小形磨製石斧も見られる。石材は蛇紋岩で全体に丁寧な仕上げがなされている。

石材は石鏃、石錐は黒曜石製のものが多くであるが、今回出土した石鏃に関しては408点中黒曜石製は約3分の1の133点に止まっている。これに対し石錐は全体の93%以上が黒曜石製である。

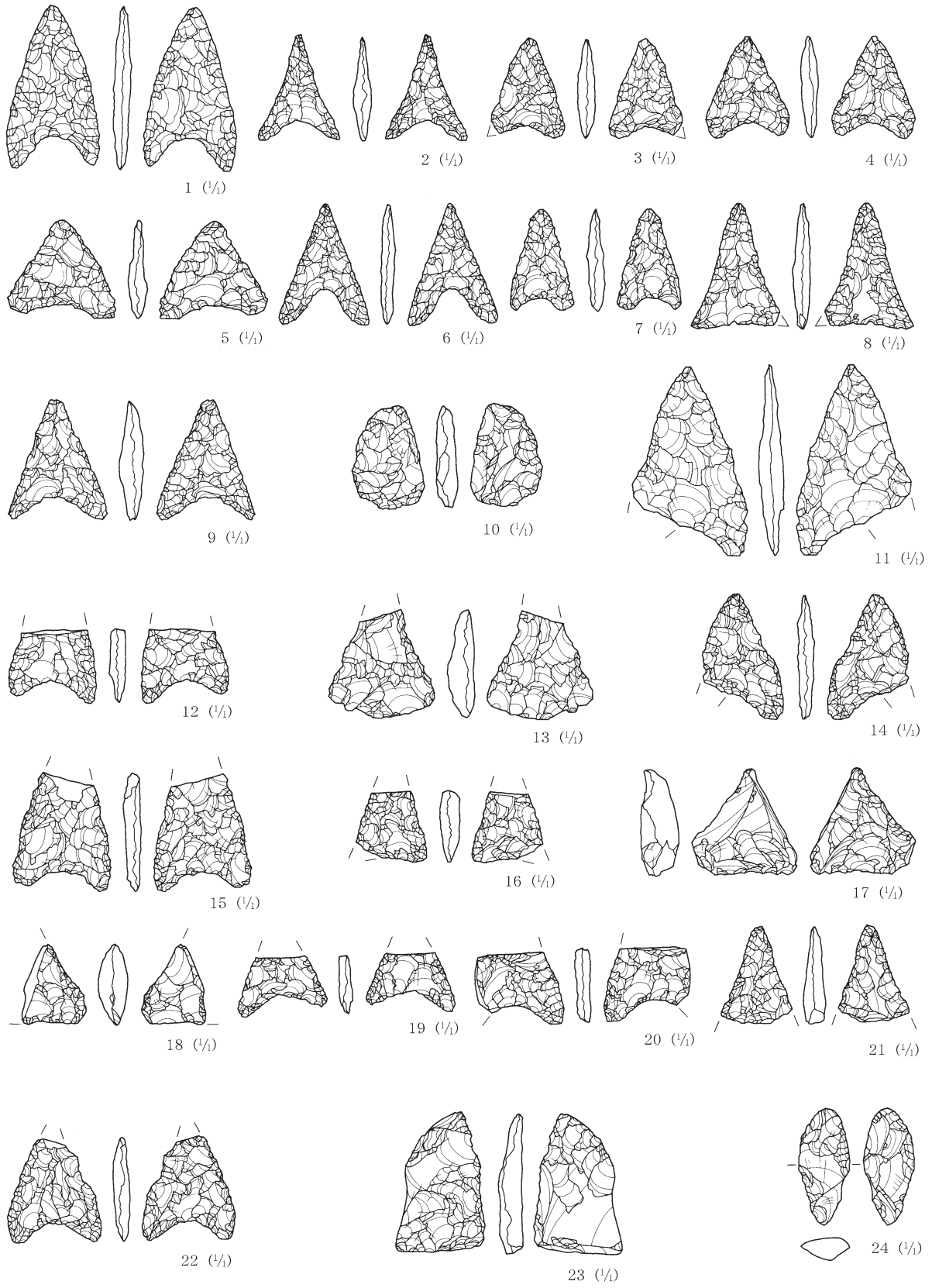
器種別の組成グラフを見ると石鏃は全体のほぼ30%、打製石斧は21%、磨石は24%でこれらの器種で総数の3分の2を占めている。また、磨石も全体の約4分の1を占めている点も注目される。さらに、石錐は6%であるが同時代の他の遺跡と比較しても比較的多い点も注目される。

長野原一本松遺跡組成比率表

器種	石鏃	磨石	打斧	磨斧	石錐	スクレイパー	磨斧	石棒	石皿	多孔石	その他	計
点数	408	338	300	50	86	78	50	14	17	30	29	1400
%	29.1	24.1	21.4	3.6	6.1	5.6	3.6	1	1.2	2.1	2.0	100

遺構外出土の石器については、以下に実測図・一覧表を挙げるが、実測図については石鏃、石錐類を中心に極力実測図の掲載に努めたが、総てについて掲載することができなかった。実測図未掲載の石器については、一覧表による観察および写真図版による記載となることを了承願いたい。

第3章 検出された遺構と遺物

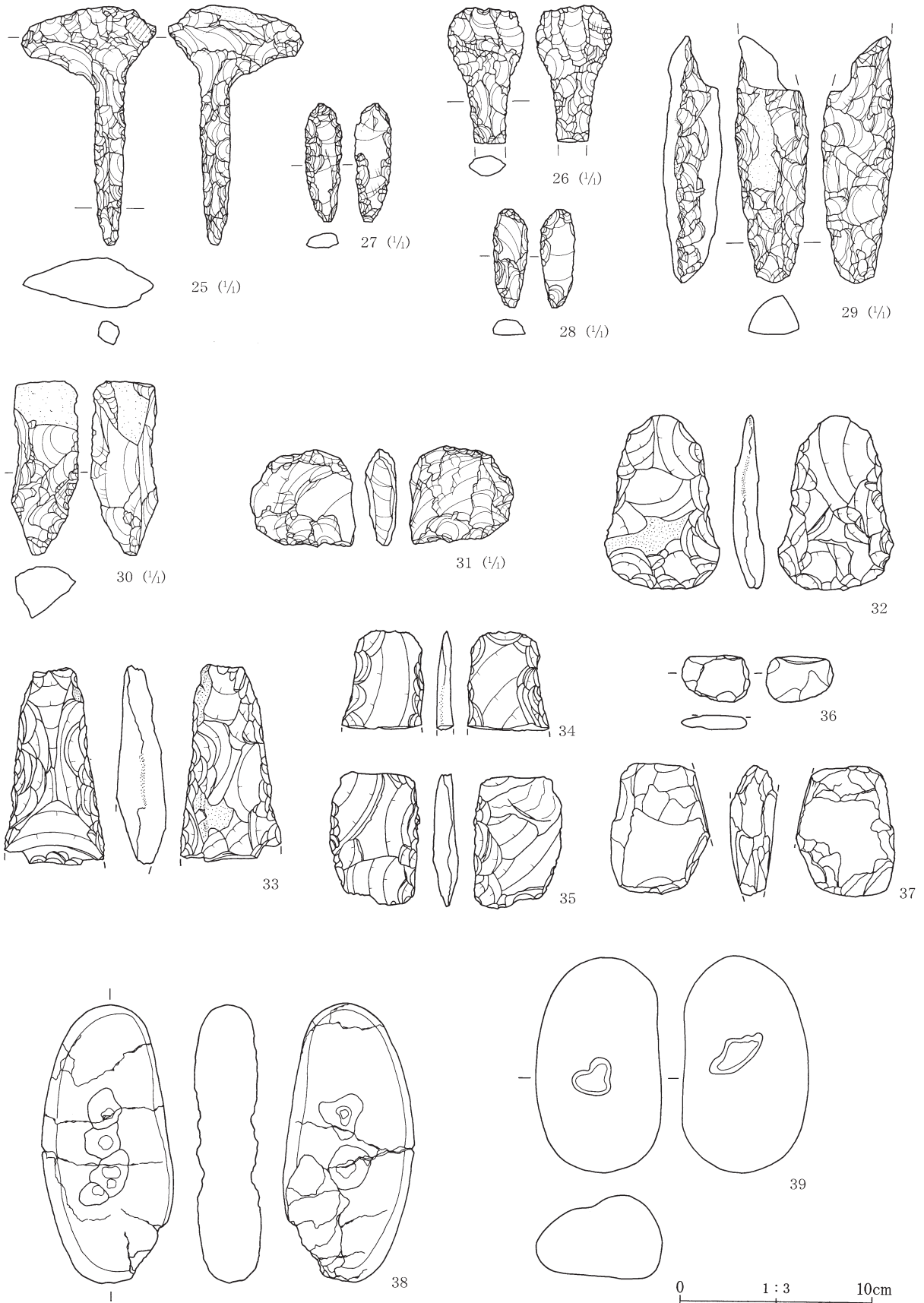


4区

0 1:1 5cm

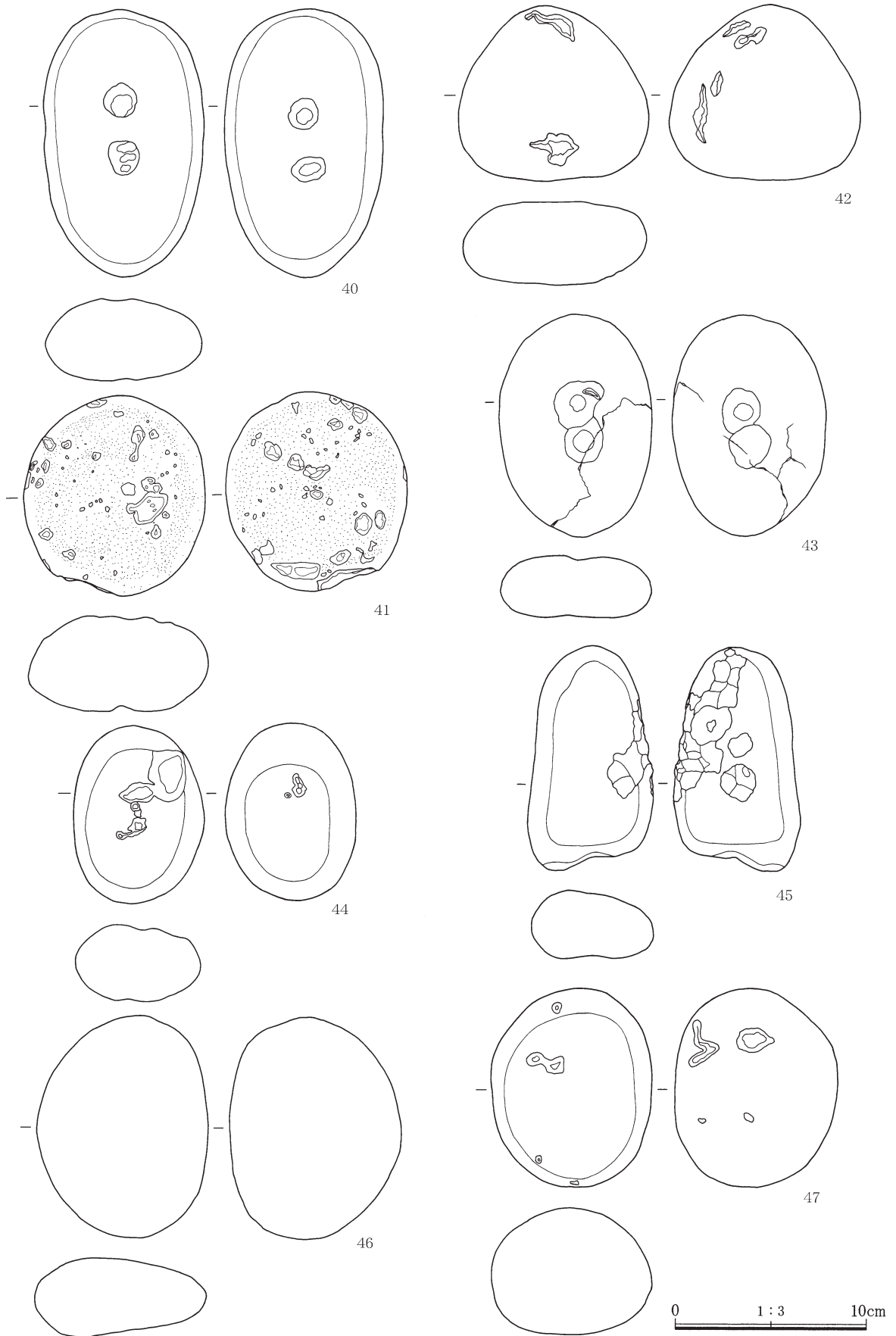
第506図 遺構外出土石器(1)

第3節 縄文時代の遺構と遺物



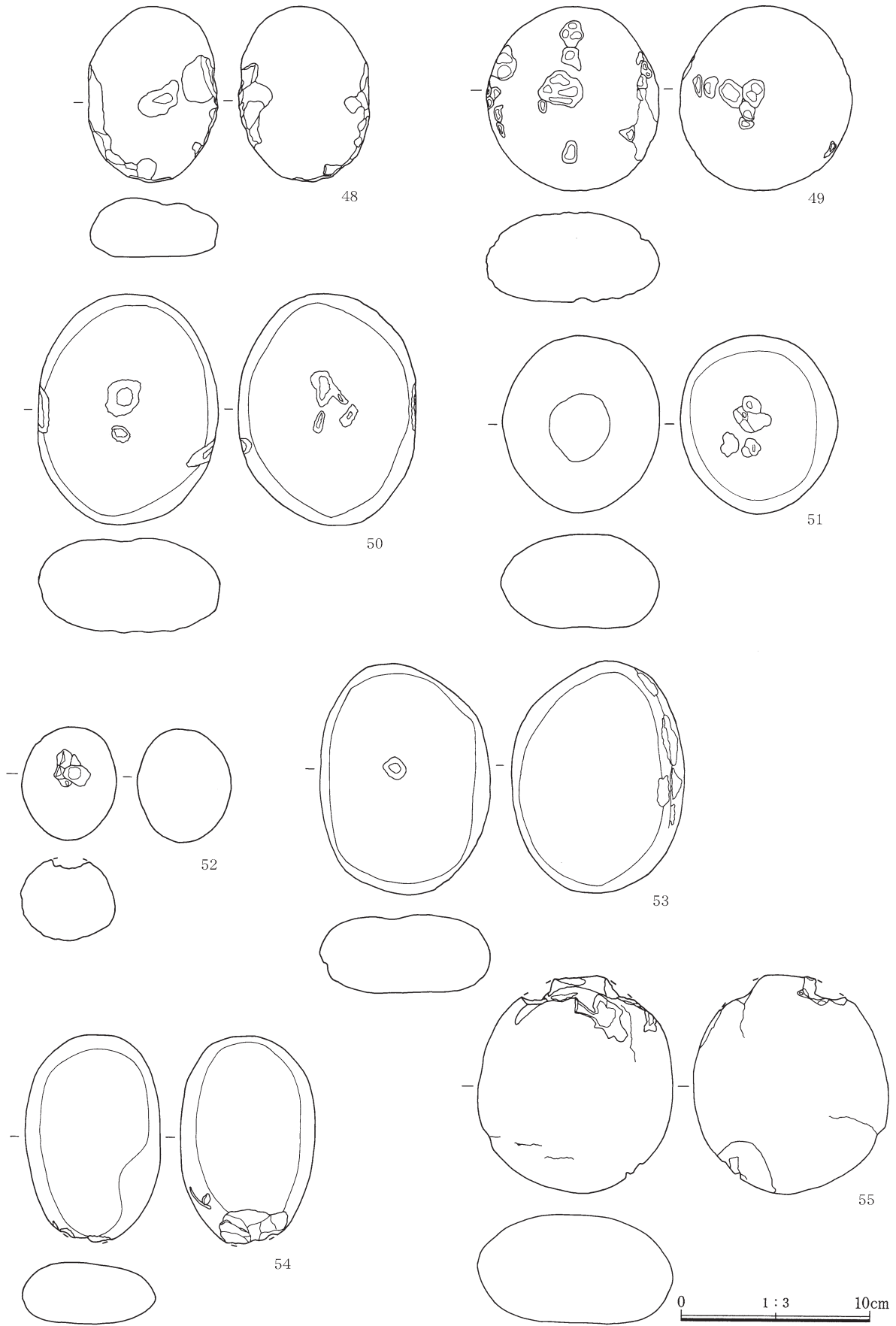
4区

第507図 遺構外出土石器(2)

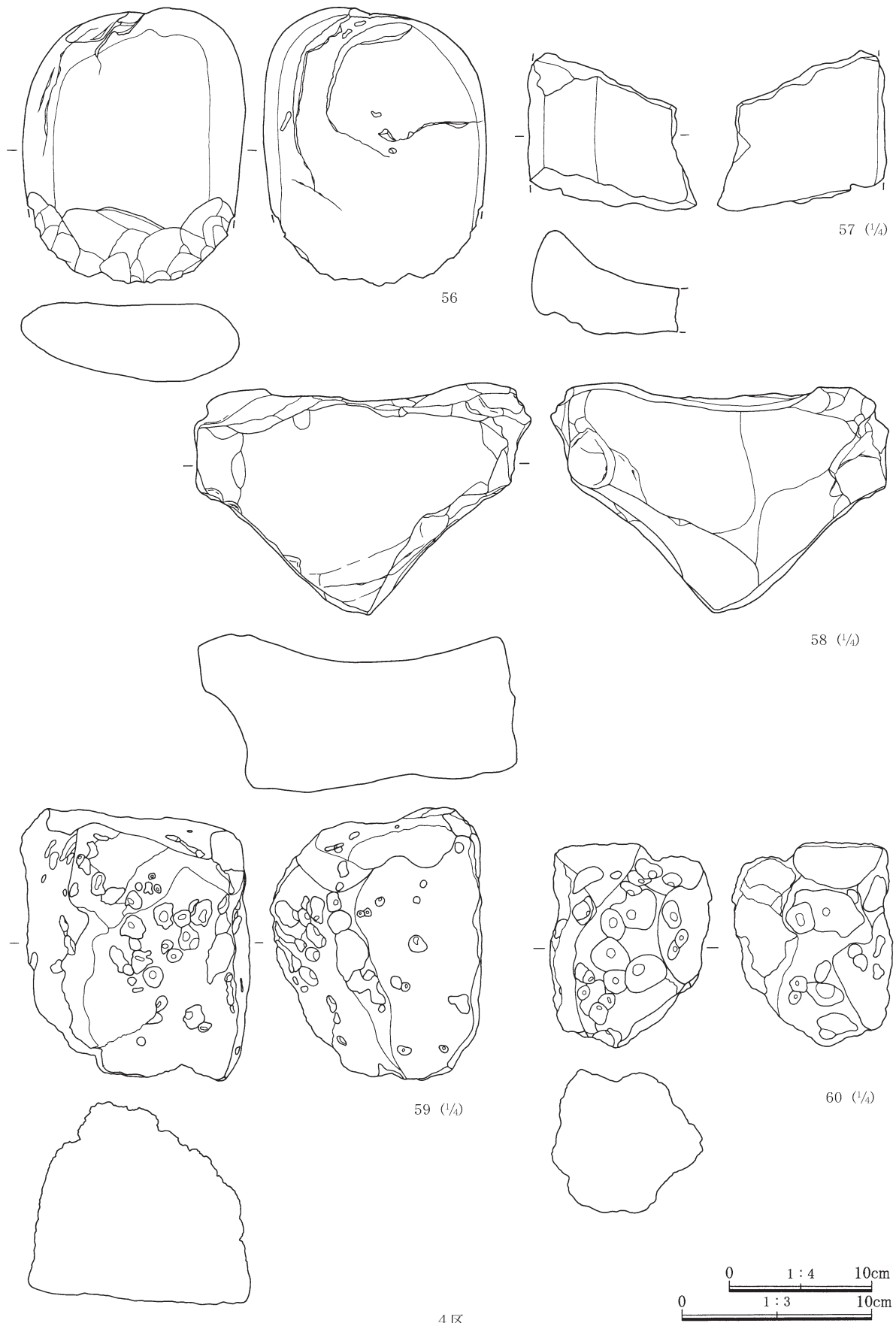


4区

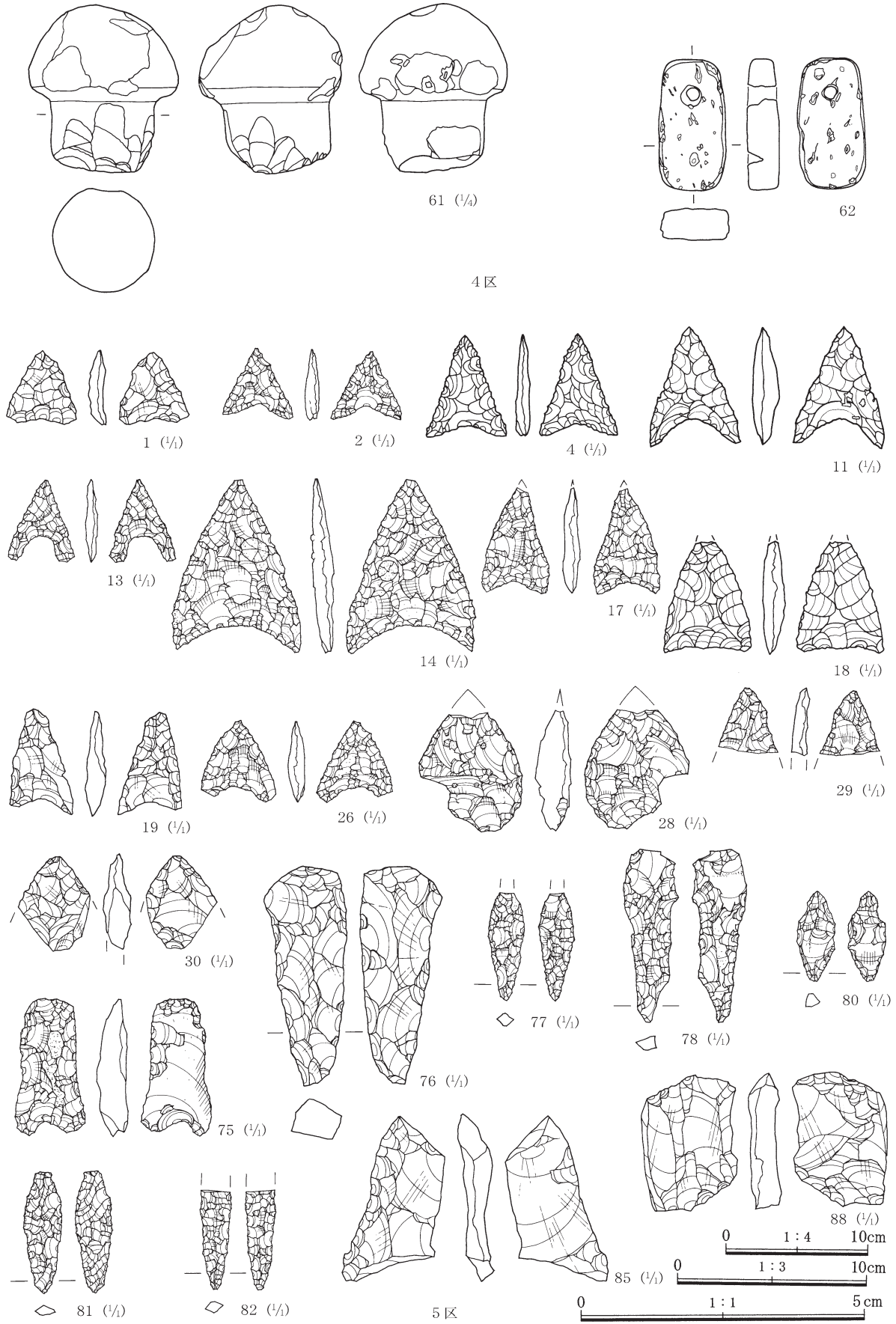
第508図 遺構外出土石器(3)



4区
第509図 遺構外出土石器(4)

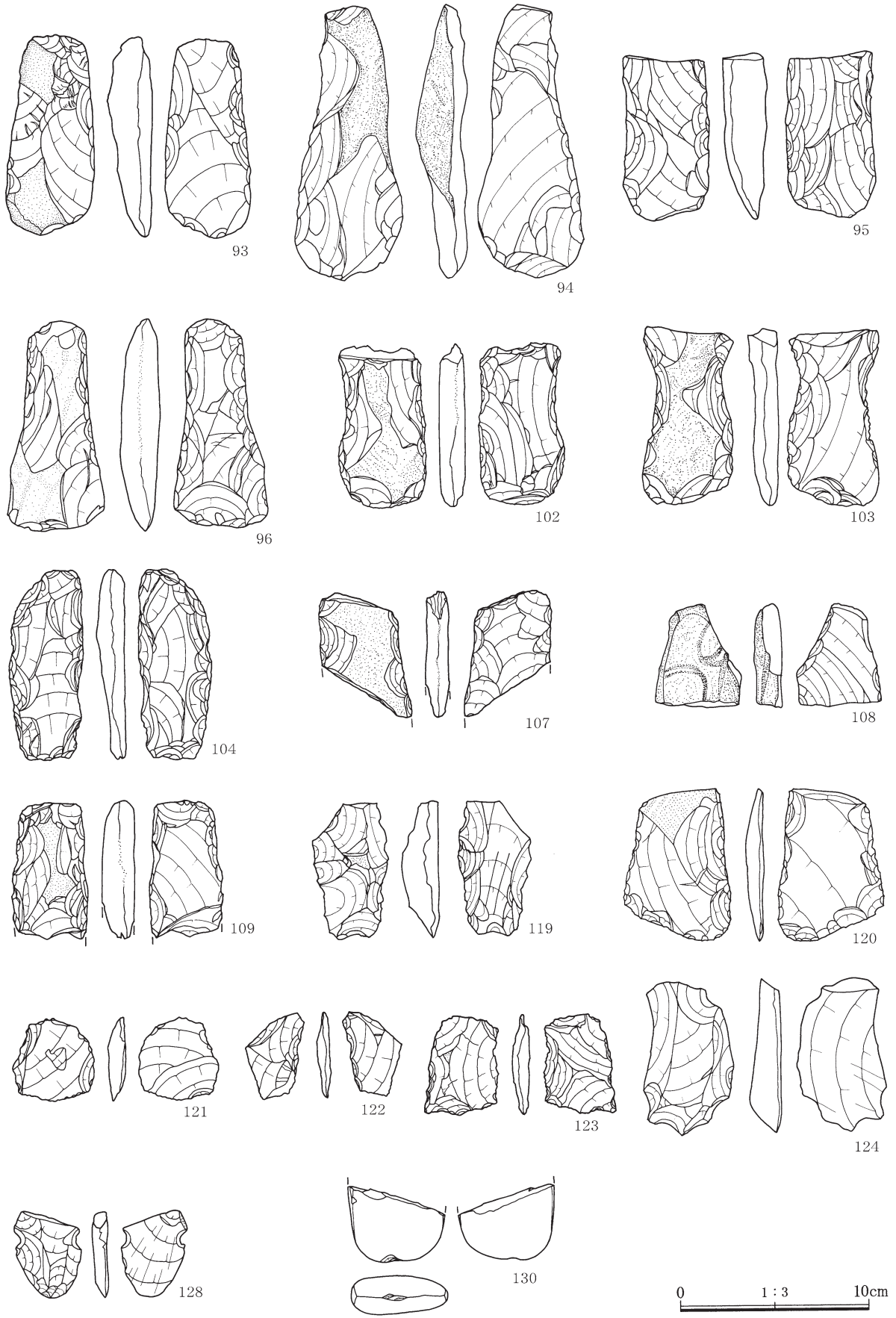


第510図 遺構外出土石器(5)



第511図 遺構外出土石器(6)

第3章 検出された遺構と遺物



5区
第512図 遺構外出土石器(7)



第513図 遺構外出土石器(8)

第3章 検出された遺構と遺物

9. 出土遺物観察表

表2 土器観察表

No.	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
4-16号住居跡 (第8図: PL112)							
1	深鉢	口縁把手	掘方	暗褐色	微砂粒	波頂部に付く橋状把手片、上部円形に凹みそこから沈線状に垂下、把手内面側に凹孔、両側に沈線による楕円区画、縄文施文。	加曽利E 3
2	深鉢	口縁部	床面	暗茶褐色	微砂粒	幅広いの口縁部無文帯、以下沈線による曲線文様を描き区画内に縄文施文。	称名寺
3	深鉢	口縁部	掘方	暗黄褐色	砂粒	口縁に沿って隆線、以下縄文施文、器面摩耗顕著。	加曽利E 4
4	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	砂粒多	無文土器。	不明
5	深鉢	胴部	掘方	明茶褐色	砂粒	縦位の併行沈線。	加曽利E 3
6	深鉢	胴部	掘方	茶褐色	微砂粒	縦位磨り消し縄文。附加条縄文。	加曽利E 3
7	深鉢	胴部	床面	淡黄褐色	精製	縦位磨り消し文。	加曽利E 3
8	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	微砂粒	沈線による区画文を描き区画内には細縄文を充填施文。	後期初頭
9	深鉢	胴部	床面	暗褐色	微砂粒	磨り消し曲線文。	称名寺
10	深鉢	胴部	床面	黒褐色	微砂粒	磨り消し曲線文。	称名寺
11	深鉢	胴部	床面	茶褐色	微砂粒	沈線による区画文を描き区画内には細縄文を充填施文。	称名寺
12	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	精製	沈線による曲線文描き、縄文施文。	称名寺
13	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	石英粒	縄文施文後沈線による曲線文描く。	
14	深鉢	胴部	掘方	淡黄褐色	砂粒	縦位の集合条線文。	加曽利E 3
15	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	微砂粒	縦位の集合沈線文。	
4-17号住居跡 (第11・12図: PL112)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	やや内湾する器形、口縁に無文帯を持ち以下沈線により縄文充填した連続舌状文を描く。	加曽利E 4
2	深鉢	口縁部	床面	暗黒褐色	微砂粒	口縁部は沈線が無文帯を画す、以下縄文地に沈線による凹状文を配す。	加曽利E 4
3	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	微砂粒	口縁に沿って沈線廻り、以下縄文地に凹状の沈線文。	加曽利E 4
4	深鉢	口縁部	覆土	淡茶褐色	微砂粒	厚手で口縁部は丸く肥厚する、横位の幅広い沈線下は縄文施文。	加曽利E 3
5	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	微砂粒	やや内湾し、横位の沈線見られ、縄文施文地に凹状文を沈線で描く。	加曽利E 4
6	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	小波状口縁部片、沈線による三角形曲線文を左右に描き、その中に沈線による凹状磨り消し文。	加曽利E 4
7	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	口縁部は丸みを持って肥厚し、沈線による楕円文を構成か、区画内は縄文RLを充填施文。	加曽利E 3
8	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	微石英粒	口縁部に沈線が廻り、以下縄文地に沈線による曲線文か。	加曽利E 3
9	深鉢	口縁部	床面	淡茶褐色	微砂粒	口縁下に横位沈線、以下凹状の沈線文を描く、地文は見られず。沈線は浅い。	加曽利E 4
10	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	長石粒	沈線による麻手文か。	加曽利E 3
11	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	波状口縁部、沈線による曲線文。	加曽利E 3
12	深鉢	口縁部	覆土	外黒色	精製	小波状口縁部片、浅い沈線による曲線文。	加曽利E 3
13	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	口縁は隆帯で画され無文、口唇部はやや薄くなる。以下沈線による文様を描くと思われる。	
14	鉢形土器	口縁部	覆土	淡褐色	微石英粒	やや内湾する無文土器。	
15	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	無文、やや硬質な感じである。	
16	深鉢	胴部	覆土	褐色	微砂粒	太めの沈線により微隆帯を描出。	加曽利E 3
17	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	砂粒	太めの沈線による曲線文。	加曽利E 3
18	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	微砂粒	沈線による磨り消し凹状文。1と同一個体。	加曽利E 4
19	両耳壺	把手部片	覆土	淡黄褐色	砂粒	口縁部は無文帯、橋状把手は欠損している、把手左右に隆帯による区画文を構成。	加曽利E 3
20	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	砂粒	櫛状具による縦位の集合条線文。	加曽利E 3
21	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	横位隆帯下に刺突による刻み文。	
22	壺形土器	口縁部	覆土	茶褐色	微砂粒	口縁はやや内傾し無文、肩部は剥落。	
23	深鉢	底部	覆土	灰黄褐色	精製	端部がやや外に張り出す器形を呈す、器面は無文で磨きが見られる。	
24	深鉢	底部	覆土	褐色	石英雲母粒	隆帯垂下か、器内は薄い。	
4-18号住居跡 (第16・17図: PL113)							
1	深鉢	口～胴下部	床面(倒置)	黄褐色	砂粒	隆帯による楕円区画文、接点部上下に円形文。楕円区内は縦位の集合沈線。胴部は垂下沈線により無文帯と施文部を交互に、集合波状沈線文。	加曽利E 3
2	深鉢	口～胴部	床面	暗灰褐色	微砂粒	4単位の小波状を呈し、波頂下に円形文を描き横に隆線が走り円形文を繋ぐ、2段文様構成をとる。胴部磨り消し縄文帯。外面に炭化物	加曽利E 3
3	深鉢	口～胴部	覆土	茶褐色	砂粒	小波状口縁、口縁に沿って断面三角の隆帯が廻り胴部には、三角形の区画が構成される。区画内には無節縄文しか縦位充填施文。	加曽利E 4

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No.	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
4	深鉢	口～胴部	床面	淡褐色	砂粒	小波状口縁、波頂部から口縁に沿って左右に沈線が延びる、以下沈線による連続舌状文が上下対に描かれ、文様内に縄文LRが充填。	加曽利E 4
5	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	微石英粒	口縁波頂部片、波頂下に沈線による渦巻き文、横には縄文充填の楕円文か。	加曽利E 3
6	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	微砂粒	口縁は無文帯でやや内傾する、以下縄文が充填され沈線による∩状文を描き中は無文。	加曽利E 4
7	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	微黒色粒	波状口縁部片、隆線で口縁を画し沈線で円形文か、縄文施文される。	
8	深鉢	胴部	床面	暗褐色	砂粒	上下に沈線による紡錘状文を対に配す、文様内はLR縄文を充填。	加曽利E 4
9	深鉢	口～胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	隆線による矩形区画、口縁部に無文帯、胴部は縄文、無文区画を交互に構成、LR縄文を施文方向を変えて充填施文。	加曽利E 4
10	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微石英粒	口縁部は隆帯で画す無文帯、胴部は縦位併行沈線で無文、縄文帯を交互に構成、縄文はLRを縦位施文。	加曽利E 4
11	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	石英粒	内湾し口唇部は内削ぎ状である、器面は無文で磨かれている。	
12	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	波状口縁部片、隆線で楕円、渦巻き文を描き、隆帯上および口縁部に刺突文を有す、文様下には縄文施文か。	
13	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	微砂粒	口縁部は幅広い無文帯、併行する横位隆帯区画内には縄文RLを充填する。	
14	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	微長石粒	沈線によるU状文を描き中に無節Lの縄文を充填施文。	加曽利E 4
15	深鉢	胴部	覆土	明褐色	微砂粒	垂下隆帯による縦位区画で縄文、無文帯。	加曽利E 3
16	深鉢	胴～底部	埋甕	淡褐色	少量石英粒	垂下隆帯により縄文帯と無文帯を画す、縄文帯には縦位のLRが施文される。	加曽利E 3
17	深鉢	胴上部	覆土	暗褐色	石英雲母粒	肩部が隆帯状に肥厚し、口縁部は幅広い無文帯となる。胴部は無節縄文Lを充填施文。	
18	深鉢	口縁部	覆土	赤褐色	長石粒	隆帯により口縁部文様を区画、文様区画内には集合条線文。	加曽利E 3
19	深鉢	胴部	覆土	赤褐色	石英・長石粒	沈線による縦位区画、楕円工具による縦位波状条線文帯と無文帯。	加曽利E 3
20	深鉢	胴下部	覆土	淡褐色	微量金雲母	隆帯によりU状文を連続して描く、内部に縄文施文。	

4-19号住居跡 (第20図: PL114)

1	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微石英粒	口縁部下に沈線が廻り、以下縄文施文。	
2	深鉢	口縁部	覆土	黒色	微砂粒	隆線により口縁部に無文帯、以下沈線により左右に曲線文様の磨り消し縄文。	称名寺
3	深鉢	口縁部	覆土	淡褐色	精製	口縁に沿って2段に廻らされた隆線上に、連続する刺突文が見られ、以下縄文が施文。	称名寺
4	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	口縁部に沈線が廻る、下位には曲線文様の磨り消し縄文。	称名寺
5	深鉢	口縁部	覆土	淡褐色	微砂粒	隆線により口縁部に無文帯、以下沈線による曲線文様の磨り消し縄文。	称名寺
6	両耳壺	把手部	覆土	茶褐色	微砂粒	幅広い環状把手、把手部以下全面に縄文施文。	加曽利E 3
7	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微石英粒	口縁下に隆帯が廻る無文土器。	称名寺
8	深鉢	口～胴部	覆土	茶褐色	精製	微隆線が口縁下に廻りさらに2本の弧状垂下文を描く。極めて薄手の作りで、内外面良く磨かれている。	後期か
9	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	微砂粒	縦位の磨り消し縄文帯。	加曽利E 3
10	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	微砂粒	隆帯による磨り消し縄文帯。縄文は縦位LRを充填。	加曽利E 3
11	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	幅広い縦位磨り消し縄文。	加曽利E 3
12	深鉢	胴～底部	埋甕	黄褐色	微砂粒	垂下沈線による無文帯、縄文原体はやや太め。極めて脆弱で風化が著しい。	加曽利E 3
13	深鉢	胴～底部	埋甕	黄褐色	微砂粒	垂下沈線による無文帯、縄文原体はやや太め。極めて脆弱で風化が著しい。	加曽利E 3
14	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	精製	沈線による∩状文が描かれる。無文地文。	
15	深鉢	胴～底部	埋甕	黄褐色	微砂粒	垂下沈線による無文帯、縄文原体はやや太め。極めて脆弱で風化が著しい。	加曽利E 3
16	深鉢	胴部	覆土	褐色	微砂粒	爪形刺突文。	三十稲場

4-20号住居跡 (第22図: PL115)

1	深鉢	口～胴下位	覆土	淡褐色	砂粒多	小波状口縁、隆帯により楕円、渦巻き文で文様帯を構成。区画内は縄文を充填施文。胴部は3本単位の垂下沈線が見られる無文帯。	加曽利E 2
2	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	口縁部に縄文帯有す、口唇部破断面三角を呈す。	
3	深鉢	胴部	床面	淡黄褐色	微砂粒	縦位の無文帯に3本の沈線、左右は縦位縄文RLが施文。	加曽利E 3
4	深鉢	胴部	床面	淡褐色	微砂粒	垂下沈線による縄文帯、縄文RLを縦位施文。	加曽利E 3
5	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	微砂粒	幅狭の垂下無文帯、両側に縦位縄文施文帯。	加曽利E 3
6	深鉢	胴部	床面	灰黄褐色	微砂粒	垂下沈線による縄文帯、縄文RLを縦位施文。	加曽利E 3
7	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	併行垂下隆帯による縦位区画文、縦位の縄文施文。	加曽利E 3
8	深鉢	胴部	覆土	淡茶褐色	微石英粒	沈線による曲線文内に縄文施文。	加曽利E 3
9	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	沈線による紡錘状文か、文様内に縄文施文。	加曽利E 4
10	深鉢	口縁～胴部	覆土	茶褐色	砂粒多	無文。	時期不明
11	台付き深鉢	脚台部	床面	淡褐色	微砂粒	内湾気味に開く台部、4カ所の円形透かし孔。	加曽利E 3

第3章 検出された遺構と遺物

No	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
12	深鉢	底部	覆土	淡褐色	微砂粒	併行垂下沈線文。	加曾利E 3
4-22号住居跡 (第24図: PL115)							
1	深鉢	口~胴部	炉体土器	灰黄褐色	砂粒	大形土器、口縁部には隆帯により楕円渦巻き文を構成し、胴部は垂下沈線により無文帯、縄文帯を画し、無文帯には蕨手文垂下させる。縄文はRL。	加曾利E 3
2	深鉢	口縁部	床面	淡褐色	精製	口縁下に横位沈線、隆帯による曲線文か。縄文RL。	加曾利E 3
4-23号住居跡 (第28~31図: PL115・116)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	微砂粒	口縁部は幅広い無文、隆帯により楕円、渦巻き文による文様帯を構成、楕円内にはRL縄文を充填。	加曾利E 3
2	深鉢	胴部	炉	淡褐色	微砂粒	沈線により大きく渦巻き文を描く、最も外側の渦巻き帯の一部に無節Lの縄文が施文されている。	加曾利E 4
3	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	微砂粒	隆帯により横楕円文様を構成、楕円内には縄文を充填施文、また隆帯の交わる三叉状部には円形押圧文が見られる。	
4	深鉢	底部を欠く	覆土	淡褐色	砂粒多	4単位の小波状口縁を呈す、口縁部文様帯は隆帯による4単位楕円渦巻き文を描く。以下胴部には2本単位の沈線が垂下し、沈線間は羽状沈線文。	曾利3
5	深鉢	口~胴部	覆土	暗褐色	長石粒含	4単位の把手が付くと思われるが欠損している。口縁2段の交互刺突を有す隆帯、渦巻き文から垂下する隆帯文、沈線の矩形文と縦位集合線。	曾利3
6	深鉢	口~胴下部	覆土	淡褐色	微砂粒含	口縁部は無文で横位隆帯で画される、隆帯下には沈線と隆帯による楕円文を構成、縄文と乱雑な沈線文を充填し、以下は縦位の集合沈線。	加曾利E 3
7	深鉢	口~胴部	覆土	明褐色	長石粒含	沈線による楕円文および隆帯による渦巻き文様を描く、口縁は4単位の小波状か。楕円内、胴部に縦位の集合沈線および曲線文。	中期後半
8	両耳壺	口~胴部	覆土	淡褐色	精製	口縁はほぼ直立、胴部に大きく渦巻文様を隆帯で描く。肩部には橋状の小把手が付く、器面には部分的に赤彩痕が残る。	加曾利E 3
9	深鉢	胴~底部	覆土	明褐色	微砂粒含	刻み文有す併行隆帯が対面に垂下、隆帯間には2本単位の沈線で口状文を描き内側、外側は斜線文で埋めている。	中期後半
10	深鉢	口~胴部	覆土	茶褐色	雲母粒	小波状口縁、隆帯で口縁下に楕円文を構成か、隆帯の交点に円形押圧文。胴部は波頂下に垂下無文帯が見られ、縄文部に波状垂下文。	
11	深鉢	口~胴部	覆土	暗褐色	微砂粒	楕円渦巻き文による区画文。以下胴部には上端部が蕨手状となる沈線により画された無文帯を構成。	加曾利E 3
12	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	精製	沈線による楕円文、縄文RLが充填施文される。	加曾利E 3
13	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	口縁部に隆帯で無文帯を画し以下縄文。	加曾利E 3
14	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	微砂粒	沈線による口状文を描き、その間に蕨手垂下文を配す。縄文RLを縦位施文。	加曾利E 3
15	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	縄文地文、横位沈線を多段に廻らし、下位には口状文、蕨手文を沈線で描く。	
16	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	微砂粒	文様帯を描く隆帯下に沈線で無文帯と縄文帯を画す。	加曾利E 3
17	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	微砂粒	無文帯部に3本単位の垂下沈線が付される。	加曾利E 2
18	両耳壺	胴肩部	覆土	暗赤褐色	精製	口縁部は内屈し端部は立ち気味となる。把手部の両側に弧状の沈線で文様を描き縄文が充填される。把手状は浅く凹み下位に蕨手文が垂下。	加曾利E 3
19	深鉢	把手部	覆土	淡褐色	微砂粒	大形の橋状把手で両端がかなり高まりを持ち、そのまま両側に高まりを持って延び文様帯を区画、中には楕円、横S字状文。把手下にも沈線文様。	加曾利E 3
20	深鉢	底部	覆土	明褐色	微砂粒	縄文地文、垂下沈線。	加曾利E 3
21	深鉢	口縁部	覆土	褐色	微砂粒	口縁に沿って沈線、下部に刺突文列。	
22	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	口縁に沿って隆帯が廻り、以下斜めの沈線文。口縁部内側が肥厚。	
23	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	口縁は沈線で画されや肥厚する、以下縦方向の沈線が施文される。	
24	深鉢	口縁部把手	覆土	灰黄褐色	精製	縦長円形の透かし孔を持つ、把手端部は隆帯状を呈しそのまま下部に延びて文様構成、区画内には縦位の沈線文。上端面に隆線による渦巻文。	
25	深鉢	口~胴部	覆土	暗褐色	微砂粒	口縁部内側に屈曲し口唇端部は三角を呈す。口縁上部から斜めの集合沈線が頸部まで施文され、貼り付け隆帯による横位、縦位の波状文。	曾利2
26	深鉢	胴部	覆土	赤褐色	微砂粒	口縁部に隆帯廻りそこから2本の隆帯が連弧状に垂下、中には縦位の集合沈線文、中央に波状垂下文が施文される。	曾利3
27	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	微砂粒	隆帯を縦位、斜位方向に貼り付け、間隙に斜めの集合沈線を配す。	曾利4
28	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	微砂粒	隆帯を縦位、斜位方向に貼り付け、間隙に斜めの集合沈線を配す。	曾利4
29	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	縦位の集合条線上に波状沈線が垂下。	
30	深鉢	胴部	覆土	赤褐色	長石粒	縦の隆帯で区画、間には連続のハの字状沈線充填。	曾利4
31	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	精製	地文には斜めの集合沈線を施し、その上に貼り付け隆帯により斜位方向の貼付文さらに横位の波状文を付す。	曾利3
32	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	微砂粒	隆帯を横位、斜位方向に貼り付け、間隙に斜めの集合沈線を配す。	曾利4
33	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	沈線による縦位綾杉文。	曾利4
34	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	微砂粒	篋状工具により渦巻き文と放射状の沈線文様を描く。	唐草文系
35	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	微砂粒	縦位の波状集合沈線と無文帯	加曾利E 3
36	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	沈線による渦巻き文。	唐草文系
37	浅鉢	底部	覆土	淡褐色	微砂粒	3本単位の垂下沈線がかなり密接して施文される。	加曾利E 3

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
5-1号住居跡 (第34図: PL117)							
1	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	上下2段に沈線により対向する紡錘状文を描き、文様内を縄文LRを縦位充填施文。	加曽利E 4
2	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁部に無文帯を画す横位隆帯、以下隆帯で画す幅広の無文帯で曲線文を構成か、縄文はRL施文。	加曽利E 4
3	深鉢	口縁部	覆土	黒色	微砂粒	口縁下に横位の隆帯、さらに微隆帯による渦巻き文か。	加曽利E 3
4	浅鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	無文で内外面研磨、補修孔あり。	中期後半
5	深鉢	胴部	覆土	黒色	微砂粒	縦位の磨り消し縄文帯。	加曽利E 3
6	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	微砂粒	縦位に平行沈線。	後期
7	壺型土器	口縁部	覆土	橙褐色	微砂粒	口縁は短く立ち上がる、肩部には幅広の橋状取っ手が連続して付されていたものと思われるが剥落、器壁は薄く、表面は研磨。	加曽利E 3
8	浅鉢	口縁部	覆土	淡橙褐色	微砂粒	口縁部に三角形の平坦部を持つ突起を有す、側面には2つの円形文、左右には円孔を有す。その下位には刻みを持つ横位の隆線が(2)条走りこれを8字文で繋いでいる。また突起部上面には沈線による重矩形文様を描く。	堀之内2
9	両耳壺	胴部	覆土	淡橙褐色	砂粒	口縁下に横位の隆帯廻り橋状取っ手がつくものと思われるが取っ手部は剥落。	加曽利E 3
10	台付き土器	脚台部	覆土	淡茶褐色	砂粒	ハの字に開く脚台部片、高さはあまりない。器内面底部に炭化物附着。	中期後半
11	土製円盤	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	胴部片利用、やや楕円を呈す、縄文あり。	中期後半
12	土製円盤	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	円形の小型品。	中期後半
13	土製円盤	胴部	覆土	暗褐色	微砂粒	円形の小型品。	中期後半
5-39号住居跡 (第37・38図: PL117・118)							
1	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	微砂粒	口縁部やや内傾、隆帯による渦巻き文、楕円文構成、渦巻き文は肥厚。	加曽利E 2
2	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	精製	波状口縁、口縁部には楕円文区画文描き縄文を充填施文、口縁部には三角の押圧文が見られる。器面良く磨かれている。	加曽利E 3
3	深鉢	口縁部	覆土	淡褐色	精製	隆帯による渦巻き文、楕円文か、楕円区画内には縄文施文。	加曽利E 3
4	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	精製	口縁部に楕円文、以下沈線による∩状文か。	加曽利E 3
5	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	やや内湾し口縁下に波状沈線が廻り、胴部には沈線による∩状文。	加曽利E 3
6	深鉢	口縁部	覆土	淡褐色	微砂粒	やや内湾し口縁下に横位沈線、以下細縄文LRを横位施文。	加曽利E 3
7	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	口縁下に沈線による横楕円文か、縄文LRを横位施文。	加曽利E 3
8	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁下に横位沈線、以下縄文施文。	加曽利E 3
9	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	口縁下に沈線による横楕円文か、縄文RLを横位施文。	加曽利E 3
10	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	沈線による無文帯、縄文帯を区画、縄文帯には波状垂線文。	加曽利E 3
11	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	沈線による無文帯、縄文帯を区画、縄文帯には波状垂線文。	加曽利E 4
12	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁に横位の隆帯に垂下隆帯が付くか、隆帯下には斜位の沈線。	曾利 3
13	深鉢	胴部	覆土	赤褐色	微砂粒	縦位の集合沈線内に一条の刺突文列が見られる。	曾利 3
14	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	縦位の平行沈線、斜位の集合沈線文。	曾利 3
15	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	微砂粒	縦位の平行隆帯、および縦位集合沈線施文、沈線上に横に弧状沈線を描く。	曾利 3
16	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	縦位の平行沈線、櫛状工具による波状集合沈線を横位、縦位方向に施文。	曾利 3
5-69号住居跡 (第42~44図: PL119・120)							
1	深鉢	口~底部	覆土	暗灰褐色	砂粒	口縁がやや内傾した無文帯、以下縦位の縄文複節LRを密接施文。胴下部の器面被熱により荒れている。	
2	深鉢	口~底部	覆土	淡茶褐色	砂粒	4単位の波状を呈す、波頂部に渦巻き文描き、繋ぐように長円文が見られる渦巻き文からも長円文沈線、胴部は櫛状具による集合弧状文充填。	曾利 3
3	有孔罎付土器	口縁部	覆土	茶褐色	微砂粒	口縁はほぼ直立し、罎部分はやや上向きに張り出し円孔有す。やや丸みを持つ胴部には沈線による垂下文、渦巻き文を描き、間隙部に無節Rを施文。	
4	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	口縁部に隆帯で画された無文帯、隆帯から2本単位の隆帯が垂下し胴部を縦位に区画。区画内には縦羽状の集合沈線文を施文する。	曾利 3
5	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	口縁部隆帯による楕円文様、さらに横に2本の沈線を廻らし、以下腕手文を有す垂下隆帯文による区画を構成し、区画内には縄文RLを縦位施文。	加曽利E 3
6	深鉢	口縁部	覆土	暗灰褐色	砂粒多	口縁下位に2本の隆帯を廻らす。口縁部には沈線による横位平行線を描き、間に斜沈線を施文。	
7	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	肥厚隆帯文により口縁部文様帯を区画、中には隆帯による弧状文を描き縦位の沈線で埋める。胴部には垂下沈線および波状沈線、地文は縦位LR。	
8	深鉢	胴部	覆土	明褐色	砂粒	押圧文有す2本の垂下隆帯による無文帯、縄文帯を構成。縄文帯には波状の垂下沈線文。	加曽利E 3
9	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒多	縄文地文とし、沈線による楕円文、下位に複数の垂下沈線文。	加曽利E 3
10	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒多	沈線による楕円文、縦位の∩状文を描く、∩文内に縦位の沈線が見られる。縄文帯縦位LR。器面はかなり風化している。	加曽利E 3
11	深鉢	胴部	床面	暗褐色	微砂粒	全面に縄文RLが縦位密接施文されている。	

第3章 検出された遺構と遺物

No.	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
12	深鉢	口縁部	覆土	黒色	砂粒	隆帯による渦巻き文を2段に施文か。	唐草文系
13	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	口縁部内側に肥厚し断面三角を呈す。口縁下に交互刺突文を持つ端部渦巻き文。その下には2条の横位隆帯。	
14	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	口縁下に隆帯が廻り、以下縦位の集合沈線。	
15	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	金雲母	横位隆帯下に渦巻き文描き周りには放射状に沈線文。	唐草文系
16	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	微砂粒	2本の隆帯による渦巻き文と下位に繋がる併行垂下文。渦巻き文には放射状の沈線文が付される。	唐草文系
17	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	金雲母	肥厚する隆帯の交点部から垂下隆帯による鈎状文。沈線を放射状に施文か。	唐草文系
18	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	2本の隆帯によるJ字状文、地文には斜位の集合沈線。	唐草文系
19	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	微砂粒	横位隆帯下に蕨手の垂下隆帯、周りに弧状沈線文。	曾利3
20	深鉢	口縁部	覆土	淡茶褐色	砂粒	口縁部に重連弧文を施文し横位の隆帯が見られる。	曾利3
21	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	口縁部に斜位の集合沈線文。端部内側が肥厚する。	曾利3
22	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	口縁部に斜位の集合沈線文。	曾利3
23	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	微砂粒	併行し下部が広がる隆帯間に梯子状沈線文、地文には弧状の集合沈線文。	曾利3
24	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	微砂粒	沈線による弧状文、以下集合沈線を多方向に描く。	曾利3
25	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	縦位2本隆帯、地文には斜位集合沈線。	
26	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	地文に縦位の条線文施文、沈線による渦巻き文、平行垂下文。	曾利3
27	深鉢	口縁部	覆土	淡茶褐色	微砂粒	隆帯による楕円区画文描き粗く縦位の沈線で埋める。楕円文下位には2本の横位沈線が廻る。	
28	深鉢	胴部	覆土	黒色	微砂粒	沈線による楕円文、渦巻き文を描くものと思われる。楕円内には羽状の条線文。器面良く磨かれている。	
29	深鉢	口縁部	覆土	淡茶褐色	雲母石英粒	口縁部やや丸みを有し、幅広い無文。下位に2本の横位隆帯を廻らし、縦に1本の隆帯が垂下する。隆帯下には縦位の集合沈線が施文される。	曾利3
30	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	微砂粒	沈線による同心円文か。	
31	土製円盤	胴部	覆土	淡茶褐色	金雲母	縦位の沈線。	
32	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	微砂粒	口縁端部が内側に折り返されて肥厚。幅広い口縁下位に横位の隆帯。器面に炭化物付着。	
33	深鉢	口縁部	覆土	黒色	金雲母	折り返し口縁、口縁部から隆帯が垂下か、器面には沈線文。	
34	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	縦位隆帯、地文には斜位集合沈線。	
35	深鉢	胴部	覆土	灰橙色	微砂粒	刻み文を有す横位沈線帯、直下には交互刺突文が見られ、さらに沈線による曲線文、羽状沈線文。	
36	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	口縁上面、直下に隆帯による渦巻き文、さらに口縁から垂下文。隆帯間には短沈線文、刺突文が見られる。	唐草文系
37	深鉢	把手片	覆土	淡茶褐色	微砂粒	隆帯により一対の渦巻き文、中央部分が突起し橋状把手となる。渦巻き文から左右及び下方に隆線が延び、区画された部分には集合沈線文充填。	唐草文系
38	深鉢	把手片	覆土	茶褐色	白色微砂粒	半円筒状で中空、内面側に円窓を有し、両脇に沈線による三叉文が見られる。表面には刻みを有す隆帯で縦長波状文、横位文。	唐草文系
39	深鉢	把手片	覆土	暗茶褐色	金雲母粒	中央に楕円の透かし窓を持つ大形の把手片、手前が橋状になり両端の隆帯が下がって渦巻き文を作る。側縁には沈線、交互刺突文が見られる。	唐草文系
40	深鉢	把手片	覆土	灰褐色	微砂粒	水煙状の口縁部把手片、3方向に長円形の窓を有す。側面には隆帯、沈線により端部渦巻き文を施文、下位には集合沈線見られる。	唐草文系
41	深鉢	底部	覆土	黄褐色	砂粒	平行垂下沈線による無文帯、縄文帯。縄文は縦位のLR。器面荒れている。	加曾利E3
42	深鉢	底部	覆土	茶褐色	砂粒	垂下隆帯文間に縦位の沈線が粗く施文される。	曾利3
43	深鉢	底部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	沈線による平行、波状および末端が渦巻きとなる垂下文。器肉の薄い小型品。	唐草文系
44	深鉢	底部	覆土	茶褐色	砂粒	縦位の沈潜。	
45	深鉢	底部	床面	茶褐色	微砂粒	縦位の極めて細い条線文、一部に横位の沈線が看取される。	曾利3
46	深鉢	底部	覆土	灰褐色	砂粒	無文。	
47	浅鉢	口縁部	床面	赤褐色	微砂粒	口縁部やや肥厚し断面三角を呈す、無文で外面は良く研磨されている。内外面に赤彩痕見られる。	加曾利E3
48	土製円盤	底部	覆土	茶褐色	微砂粒	底部片を利用。	

5-70号住居跡(第50~52図: PL121・122)

1	吊り手土器	ほぼ完形	床面	淡褐色	砂粒多	胴部は無文、口縁部が内傾し文様帯をなす。口縁に一対の環状隆帯が付く、吊り手部分は断面H状に作られ、4カ所の橋状突帯が付く。口縁部から吊り手部分橋状突帯側面には沈線による渦巻き文が、さらには長円文様などが描かれ、環状隆帯周辺および吊り手基部辺にかけて刺突文が付される。底部中央には焼成後の穿孔有り。吊り手中央部を欠いている。	中期後半
2	深鉢	口~胴部	覆土	茶褐色	砂粒	口縁下に2本単位の隆帯が廻り4単位の渦巻き文様を描出し、2本の隆帯が垂下し逆向きの渦巻き文、連続するU字状文を描く。地文は斜位集合沈線。	唐草文系
3	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	口縁部に連弧状隆帯が廻る、隆帯に沿って円形刺突文列。波頂部から渦巻き垂下文、波底部からは波状文垂下。地文には重層する弧状沈線文。	唐草文系

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
4	深鉢	口～胴下部	覆土	茶褐色	金雲母	口縁部に肥厚した無文帯を持ち、隆帯により連続のU字状文を2つ1単位に描く。それぞれの単位を画す隆帯が垂下。区画内には交互斜位集合沈線。	曾利3
5	深鉢	口～胴部	覆土	茶褐色	砂粒	口縁部に無文帯、横位に2本隆帯が廻り一部が渦巻き文を構成、隆帯下にも上端が渦巻きとなる垂下隆帯文。地文には交互斜位集合沈線文。	唐草文系
6	浅鉢	口～胴部	炉体土器	黄褐色	砂粒多	口縁部内傾、鐙状の隆帯が上向きに付き、下部に円形刺突文を施文。以下胴部には隆帯による渦巻き垂下文を描き間隙には放射状の沈線文。	唐草文系
7	深鉢	口～胴部	床面	灰黒色	微砂粒	隆帯による楕円渦巻き文構成、区画内には縦位沈線施文するが、渦巻き部放射状に施文。胴部垂下沈線による縦位無文、縄文帯区画、縄文LR縦位。	加曽利E3
8	深鉢	口～底部	床面	暗茶褐色	微砂粒	口縁下に円形文を持つ隆帯が廻る。胴部は縦位に3本単位の垂下文と縄文帯を画し、胴中に隆帯渦巻き文を持つ。縄文は縦位RL施文。口縁部欠。	加曽利E3
9	深鉢	口縁部	床面	黄褐色	砂粒多	小波状口縁を呈す。口縁文様帯は隆帯による楕円渦巻き文を構成、中には斜位の沈線文。胴部は受遺の沈線による無文、縄文帯。器面風化。	加曽利E3
10	深鉢	口縁部	床面	茶褐色	微砂粒	口縁部に2本の横位隆帯が廻り突起文有す。隆帯間に横位の刻み文。以下縄文LRを縦位施文。	加曽利E3
11	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	金雲母	口縁部肥厚し無文、横位の沈線下には縄文LRが全面に施文される。欠損した胴部に縦の沈線が一部看取される。	
12	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	金雲母	口縁部肥厚し無文、横位の沈線下には縄文LRが全面に施文される。	
13	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	微砂粒	沈線で口縁部に無文帯を画す。以下縄文施文。補修孔あり。	加曽利E4
14	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	金雲母	縄文LR全面施文後、波状垂下沈線文が描かれる。	
15	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	磨り消し縄文帯。縄文部に波状垂下沈線。	加曽利E3
16	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	隆帯により両端内側に渦巻き文を持つ楕円文。中には斜位集合沈線。胴部には波状垂下文。地文縦位羽状沈線。口縁部に3本の弧状沈線文。	唐草文系
17	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁部に横位の沈線、2本の隆帯で連弧状文を描き、つなぎ部分に渦巻き文。弧状内には縦位の集合沈線文、文様帯下には沈線による渦巻き、弧状の沈線。	曾利3
18	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁下に2本単位の隆帯が廻り、下段の隆帯には渦巻き文が描出される。隆帯間には縦位の沈線文。隆帯下には斜位の沈線文。	唐草文系
19	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	金雲母	口縁部に肥厚した無文帯、そこからやや広がるように2本の隆帯が垂下する。地文は縦位の集合沈線文。	
20	深鉢	口縁部	床面	灰褐色	微砂粒	口縁部欠いている。隆帯による楕円文区画、縦位の沈線を充填する。以下くの字に折れて胴部となる。	曾利3
21	深鉢	口縁部	床面	暗茶褐色	砂粒	隆帯により両端内側に渦巻き文を持つ楕円文。中には交互刺突文を有す横位併行沈線をはさみ羽状沈線施文。胴部にU字文か。地文縦位羽状沈線。	唐草文系
22	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	隆帯による楕円渦巻き文構成、渦巻き部分は肥厚して高まり隆帯が左右に延びる。地文には交互刺突文有す併行沈線、上下に斜位の集合沈線文。	
23	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	微砂粒	把手部分が欠損、肥厚する隆帯で眼鏡状の渦巻き文。上下左右に隆帯が延び下位には渦巻き文。間隙には刺突文を持つ沈線斜位集合沈線を充填。	唐草文系
24	深鉢	胴部	床面	灰褐色	微砂粒	横位の低隆帯下に渦巻き隆帯垂下、地文には縦位の沈線文。	唐草文系
25	深鉢	胴部	床面	淡褐色	砂粒多	2本沈線を持つ渦巻き隆帯文。渦巻き文から2本の垂下隆帯。地文には上部には縦位、横位に、以下羽状の沈線施文。	唐草文系
26	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	2本単位の隆帯による唐草文様を描く、地文には斜位の集合沈線施文。	唐草文系
27	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	隆帯による楕円文描き縦位の沈線文充填、胴部には垂下沈線および横位、斜位の沈線文。器面やや摩滅。	曾利3
28	深鉢	胴部	床面	灰褐色	微砂粒	縦位の併行隆帯、地文には縦位沈線施文後横位に沈線を3本施文。	唐草文系
29	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	縦位に波状粘土紐を貼り付ける。地文には縦位の羽状の条線文。	唐草文系
30	深鉢	把手片	覆土	褐色	微砂粒	上端部が丸く肥厚する口縁把手片、器面には隆帯による縦S字文を描き、側縁部には円形刺突列文を配す。	唐草文系
31	深鉢	胴下部～底	覆土	淡褐色	微砂粒	全面に縄文LRを縦位に施文。	加曽利E3
32	浅鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	白色砂粒	口縁部肥厚、内外面良く研磨されている。赤彩痕あり。	加曽利E3
33	有孔鐙付き土器	口縁部	覆土	橙褐色	砂粒	口縁部直立、鐙はやや上向きで短く突起する。穴は鐙の付け根にやや斜めに開けられている。	時期
34	深鉢	胴部	炉体土器	淡褐色	微砂粒	口縁部、胴下部を欠く。無文で外面に研磨痕あり。	
35	浅鉢か	胴部	覆土	灰褐色	精製	全面に円形刺突文。赤彩痕見られる。	後期

5-71号住居跡(第59～61図:PL123・124)

1	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	口縁部に突起部を有す。突起上端部は凹みを持ち片側口縁部に繋がる。突起下には渦巻き文、楕円文が描かれる。以下∩状文、蕨手垂下文、縄文帯。	加曽利E3
2	両耳壺	口～底部	床面	黒褐色	砂粒	上端部が尖る橋状把手を持つ。口縁下に押圧文を付した隆帯が廻り、胴部には沈線による∩状文と縄文帯を交互に配す。縄文は無筋Lの縦位施文。	加曽利E3
3	深鉢	胴～底部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	縄文を充填するU字状文、蕨手文を対にした2段文様構成。	加曽利E3
4	鉢形土器	口縁部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	口縁は短く直立し、肩部には隆帯が廻り橋状把手が付く。以下渦巻き文、円形文が見られる。	加曽利E3
5	深鉢	胴～底部	床面	黄褐色	砂粒多	沈線による∩状文、無文帯、縄文帯を縦位に配す。∩状文内は縄文充填。欠け口は平坦で磨られて丸みを持つ、再利用品か。両耳壺の可能性あり。	加曽利E3
6	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	砂粒	隆帯による楕円文描く、楕円文内には縄文が施文される。	加曽利E3

第3章 検出された遺構と遺物

No	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
7	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	隆帯による楕円文構成、縄文を充填施文。胴部は縦位沈線による無文、縄文帯。縄文はLR。	加曽利E 3
8	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	口縁部に突起部を有す、突起上端部は渦巻き様に凹みを持つ、突起下には渦巻き文が描かれ、縄文が施文される。下位には横位の沈線。	加曽利E 3
9	深鉢	口縁部	覆土	淡褐色	微砂粒	口縁下に沈線で画す楕円文か、縄文RLが施文される。	加曽利E 3
10	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	口縁に太い凹線および横位隆帯。以下縄文施文。	加曽利E 3
11	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	口縁部に無文帯、横位および縦位の隆帯により胴部縦位区画を構成。	加曽利E 4
12	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	微砂粒	口縁部に無文帯、以下∩状の隆帯文。	
13	深鉢	口縁部	床面	灰黄褐色	砂粒	口縁に横位隆帯。	
14	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	微砂粒	沈線で画す縦位無文帯、縄文帯。	
15	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	微砂粒	口縁部は2本の横位隆帯で幅狭の文様帯を構成。口縁下には縦位の短沈線文。	加曽利E 3
16	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	2本の隆帯による弧状文を連続させる、つなぎ部は瘤状となる。弧状部上には沈線で楕円文が描かれ、縦位の沈線が施文される。	曾利 3
17	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	沈線による∩状文を描き縦位の集合条線で埋める。	加曽利E 4
18	深鉢	胴部	床面	灰褐色	砂粒	隆帯による楕円文、および沈線による渦巻き文が見られる。楕円文内には斜位の集合沈線。	曾利 3
19	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	微砂粒	口縁部無文で横位の隆帯、下位は∩状の隆帯で画された無文帯、縄文帯を画す。	加曽利E 4
20	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	砂粒多	口縁部無文で横位の隆帯、縦位の併行隆帯が付くか。器面の荒れが著しい。	加曽利E 4
21	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	横位に隆帯、上位は縦位の沈線、下位には沈線による渦文、波状垂線および斜沈線が施文される。	唐草文系
22	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	精製	口縁端部内面やや肥厚、無文。	
23	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	精製	口縁下に浅い沈線廻る、以下は無文。	
24	深鉢	口縁部	覆土	灰茶褐色	微砂粒	無文。器面は良く研磨されている。	
25	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	無文。	
26	深鉢	把手片	覆土	黒褐色	微砂粒	口縁部に山形に突起、先端部は丸く平らである。内外面、および側縁に沈線が付される。	
27	深鉢	把手	覆土	暗褐色	砂粒多	∩状の突起片、表裏に隆帯による渦巻き文。	
28	深鉢	底部	覆土	茶褐色	微砂粒	磨り消し縄文帯。	加曽利E 3
29	深鉢	底部	床面	淡褐色	砂粒	無文。	

5-72号住居跡 (第66~68図: PL124・125)

1	深鉢	口縁部	床面	淡黄褐色	砂粒	4単位の波状口縁、波頂下に渦巻き文を配した隆帯による楕円渦巻き文様。以下胴部は垂下併行沈線による無文、縄文帯を画す。縄文は縦位RL。	加曽利E 3
2	深鉢	口~胴部	覆土	暗灰褐色	微砂粒	4単位の波状口縁、隆帯による楕円文様を重層させる。以下胴部は垂下併行沈線による無文、縄文帯を画し、縄文帯には波状垂下文。縄文RL縦位。	加曽利E 3
3	深鉢	口~底部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	小型品、口縁部に隆帯による横S字文を描く。以下LR縄文を全面に縦位施文。	加曽利E 3
4	深鉢	口~胴上部	覆土	灰褐色	砂粒	大形土器、口縁部は無文で大きく外反。文様帯は隆帯により渦巻き部の隆帯が太く肥厚する楕円渦巻き文を重層して描く。胴部は縦位集合条線。	加曽利E 3
5	深鉢	口~胴下部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁部に2本単位の沈線による連弧文を6単位描き、胴部にも2本の縦位沈線を6単位垂下させその間に波状の垂下文を描く、全面に縦位点状文施文。	曾利 3
6	深鉢	胴~底部	床面	暗灰褐色	砂粒	4単位のU状隆帯文を垂下させ、垂下文内には太めの沈線による横位の平行線を充填する。地文は無く、底部は僅かに丸みを持つ。	
7	深鉢	口縁部	床面	明黄褐色	白色粒	平行の横位隆帯、隆帯間に渦巻き文が付されるが、上側は高まりを持って広がり耳状となる。平行隆帯間に横位LR、胴部には垂下無文帯。	加曽利E 3
8	深鉢	胴部	床面	灰褐色	微砂粒	2本の沈線が付された縦位の隆帯、上端部が瘤状に肥厚。地文にはLR縄文を縦位施文。	
9	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒多	垂下沈線で幅狭の磨り消し無文帯を画す、縄文帯には波状垂下文を描く。縄文は縦位RL。	加曽利E 3
10	両耳壺	把手片	覆土	灰黄褐色	砂粒	大きく凹み、縁辺部が高まる大形の環状把手片、両脇には隆帯による縄文充填された曲線文。	加曽利E 3
11	両耳壺	把手片	覆土	灰黒褐色	微砂粒	縦S字文が付された環状把手片、隆帯による楕円文が見られ縄文が充填施文されている。	加曽利E 3
12	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	隆帯による楕円渦巻き文、楕円文内には横位羽状沈線、以下胴部には縄文施文。	加曽利E 3
13	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	砂粒	口縁部に突起文、隆帯による渦巻き文が描かれる。下位には隆帯による楕円文を構成。区画内には斜沈線。	曾利 3
14	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	口縁部からS字状の隆帯文垂下。上部が口縁部突起状となる。地文には斜位集合沈線。	唐草文系
15	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	微砂粒	口縁に横位の隆帯による区画文帯、中に隆帯による横S字文を配し、上下に刺突文。	曾利 2
16	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	隆帯による楕円文を構成か。	加曽利E 3
17	浅鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	口縁下に2本の横位隆帯が廻り、橋状の把手が付くものと見られる。把手部は欠損。	加曽利E 3
18	深鉢	胴部	覆土	灰白色	砂粒	隆帯による渦巻き文、横位隆帯。	
19	深鉢	胴部	床面	灰黄褐色	微砂粒	隆帯による曲線文、地文には斜位、羽状の沈線文。	曾利 3

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No.	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
20	浅鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	肩部に隆帯により楕円文、渦巻き文の文様帯。楕円文内には縦位の沈線文。口縁部は無文で外反する。文様帯以下く字に折れ無文胴部となる。	加曽利E 3
21	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	沈線による∩状文、蕨手文を交互に垂下。	加曽利E 3
22	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒多	縦位、縦長の楕円文隆帯。地には縦位羽状沈線文。	曾利 3
23	深鉢	胴部	床面	明黄褐色	砂粒	縦位の幅広隆帯、間には縦位の条線文。	
24	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	無文。内外面研磨。	
25	浅鉢	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	口縁部は直立気味、肩部に鐮状に延びた平行隆帯が廻りこれらを繋ぐ橋状把手。器面に赤彩痕。	加曽利E 3
26	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	口縁部に環状の小把手が付き、横位の隆帯が延びる。	
27	深鉢	胴部	覆土	暗灰褐色	微砂粒	先端が山形に尖った角棒状具による刺突文施文。	三十稲場
28	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	精製	口縁に刻み、2本単位の横位縄文帯を2段施文、縄文帯上に縦刺突文。縄文横位LR、他の部分は無文。内面に1条の横位沈線。薄手で内外面研磨。	加曽利B 1
5-73号住居跡(第71・72図: PL126)							
1	深鉢	口~胴部	覆土	茶褐色	砂粒	口縁部に隆帯による楕円渦巻き文様を連続させる。区画内は斜位の集合沈線、胴部は沈線によるU状文を垂下させ、斜位沈線、波状垂下文を描く。	唐草文系
2	深鉢	口~胴部	床面	茶褐色	砂粒多	口縁部に隆帯による楕円渦巻き文様を連続させる。区画内は縦位の集合沈線、胴部は2本の隆帯と波状垂下文、地文には弧状の集合沈線を充填。	唐草文系
3	深鉢	口~胴部	覆土	淡茶褐色	砂粒	口縁4単位の隆帯による渦巻き状突起文が付く。これを繋ぐ下向き弧状文、渦巻き文からは波状、弧状文からは直線の垂下文。地には斜行集合沈線。	唐草文系
4	深鉢	胴~底部	覆土	明茶褐色	白色砂粒	併行沈線で縦位区画し、間は斜行の集合沈線で埋める、さらに波状垂下文、横位弧状の沈線文が描かれている。	唐草文系
5	深鉢	口~胴部	床面	暗茶褐色	砂粒	隆帯による楕円渦巻き文、渦巻き文上位は波状口縁部、楕円文内には縄文LRを方向を変えて施文。胴部は垂下無文帯、縄文帯。	加曽利E 4
6	深鉢	口~胴部	床面	暗茶褐色	砂粒	隆帯による楕円渦巻き文、渦巻き文上位は波状口縁部、楕円文内には縄文LRを方向を変えて施文。胴部は垂下無文帯、縄文帯。	加曽利E 3
7	深鉢	口縁部	床面	暗茶褐色	砂粒	隆帯による楕円渦巻き文を描くが、渦巻きは不明瞭。胴部は平行沈線を垂下させた無文帯構成。楕円内、胴部縄文帯ともにLRを縦位施文する。	加曽利E 3
8	深鉢	口縁部	床面	褐色	砂粒	口縁下に横位太沈線廻る、縦位の平行沈線および縄文帯か。縄文は縦位LR施文。	加曽利E 4
9	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	微砂粒	隆帯による楕円、渦巻き文か、楕円文内に円形刺突文。胴部は垂下無文帯、縄文帯。	
10	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	砂粒	沈線による併行垂下文、楕円文、楕円文は沈線と縄文施文が見られる。縄文は縦位のRLが施文される。	加曽利E 2
11	深鉢	胴部	覆土	黄橙褐色	赤色砂粒	平行沈線による縦位磨り消し縄文、縄文はRLを縦位に施文、下地に施された縦位集合条線文が看取される。	加曽利E 3
12	深鉢	胴部	覆土	明茶褐色	微砂粒	渦巻き文が丸く瘤状となり2本の垂下隆帯が繋がる。この隆帯を繋いで2本の隆帯を貼り付けている。渦巻き文左右に沈線文。地には縄文LR縦位。	
13	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	隆帯による楕円渦巻き区画文、中には弧状沈線。胴部は垂下隆帯、弧状沈線か。	唐草文系
14	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	波状口縁、口縁に沿って沈線、波頂部から垂下波状沈線文描き、斜位の沈線文。	唐草文系
15	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	口縁部付された渦巻き文から続く太い隆帯が垂下する。	曾利 3
16	深鉢	胴部	床面	淡褐色	砂粒多	隆帯による渦巻き文描き、内側は放射状の沈線文、外側には弧状、斜位の集合沈線を施文。	唐草文系
17	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	隆帯による渦巻き文、併行文、下位には縦位の集合沈線。	曾利 3
18	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	横位、縦位の楕円隆帯文、縦位の集合沈線。	曾利 3
19	深鉢	胴部	床面	暗茶褐色	砂粒	貼り付け粘土紐による横位波状文、地には平行沈線文。	曾利 3
20	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	貼り付け粘土紐による波状垂下文、地には羽状の縦位沈線文。	曾利 3
21	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	隆帯文、沈線文。	曾利 3
22	深鉢	胴部	覆土	橙茶褐色	微砂粒	屈曲部に横位の平行沈線、以下隆帯による渦巻き文、縦位沈線文。	曾利 3
23	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒多	隆帯による曲線文、地文には横位集合沈線。	
24	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒多	多段横位沈線間に連続爪形文。器面風化。	
25	深鉢	口縁部	覆土	灰白色	砂粒	台形を呈す波状口縁部片、外側に4ヵ所の足を持った把手が付されるものと見られるが把手部分は欠損。	
26	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	鐮状の隆帯が廻り、隆帯に沿って円形竹管文列。	
27	片口	口縁部	床面	茶褐色	砂粒多	端部に浅く作られた片口が付く。器面風化。	
28	小型深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	精製	小型の土器。口縁部やや外傾。	
29	浅鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	大形品、内外面研磨されている。外面に炭化物付着。縦に並んで2個の補修孔を持つが、一つは未貫通。	
30	浅鉢	口縁部	床面	灰褐色	砂粒	口縁部端部が肥厚しやや外傾する。無文。内面僅かに赤彩痕。	
31	深鉢	口縁部	床面	暗茶褐色	石英粒	無文。	
32	深鉢	底部	床面	灰褐色	砂粒多	垂下沈線の端部が僅かに観察される。	加曽利E 3

第3章 検出された遺構と遺物

No	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
33	深鉢	底部	覆土	茶褐色	砂粒	垂下沈線の端部が僅かに観察される。内面研磨。	加曽利E 3
34	深鉢	底部	覆土	茶褐色	砂粒多・金雲母	厚手の底部。	
5-74号住居跡 (第76・77図: PL127)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	隆帯による楕円渦巻き文、楕円文内には縄文充填施文。	加曽利E 3
2	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	縦位3本の沈線による無文帯、縄文帯にはRL縦位施文。	加曽利E 2
3	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	微砂粒	縦位沈線による無文帯、縄文帯には波状垂下沈線文。縄文はRL縦位施文。	加曽利E 3
4	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	刺突文有す縦位垂下隆帯で無文帯を画す、縄文帯には縦位の複節LR。	中期
5	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	口縁部に横位沈線、以下縄文施文。器面風化。	中期
6	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	幅広の微隆帯文で曲線文を描き、文様内に縄文充填施文。	称名寺
7	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	沈線による楕円文を左右に振り分ける様に描き、縄文充填。中央に円形文。一部に無でつけた様な押圧文が看取される。	加曽利E 3
8	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	頸部で屈曲して外反、粘土紐を斜方向に貼り付、刺突を持った瘤状文から2本の貼り付け粘土紐が垂下。地文には横位2本単位の平行沈線文。	曾利 3
9	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	微砂粒	隆帯による縦長のU状文、地文には縦位の集合沈線施文後、横位平行線。	曾利 3
10	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	沈線による∩状文、縄文LR縦位を充填施文。両耳壺か。	加曽利E 3
11	深鉢	胴部	覆土	灰色	微砂粒	浅い縦位の沈線文、集合細条線文。	
12	深鉢	底部	覆土	黄褐色	微砂粒	垂下隆帯により無文帯、縄文帯を区画か、縄文は縦位に無節Rを部分的に施文。底部がやや括れる。	加曽利E 3
13	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	口縁部くの字に内屈、屈曲部は肥厚。微隆帯文による曲線文を描き、縄文施文。	称名寺
14	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	口縁部短く内屈、沈線による磨り消し縄文文様。	称名寺1
15	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	縄文施文後沈線による渦巻き文様描く。	後期
16	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	隆帯、平行沈線による矩形文、中には細縄文施文。	堀之内2
17	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	精製	口縁部に刺突文を伴う横位2条の沈線文。	後期
18	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	微雲母粒	小型土器。口縁に沈線による横位長楕円文、波状垂下文描く。以下縄文LRを縦位施文。	加曽利E 3
19	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	砂粒	口縁に横位沈線、以下刺突文を持つ磨り消し縄文。	称名寺2
20	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	微石英粒	刺突縄文帯を持つ磨り消し文様。	称名寺2
21	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	微石英粒	刺突縄文帯を持つ磨り消し文様。	称名寺2
22	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	微石英粒	刺突縄文帯を持つ磨り消し文様。	称名寺2
23	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	微石英粒	刺突縄文帯を持つ磨り消し文様。	称名寺2
24	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	精製	刺突文を伴う沈線文様。	称名寺2
25	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	砂粒	縦位の磨り消し、縄文帯。縄文は縦位の細縄文LR。	加曽利E 3
26	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	精製	細縄文LR横位施文した縄文帯、以下は無文。	堀之内2
27	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	横位の磨り消し縄文。	堀之内2
28	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	精製	磨り消し縄文帯。内面横位に4条の沈線。沈線間には縄文施文。	堀之内2
29	浅鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	砂粒	斜めに隆帯。器面風化。	堀之内1
30	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	口縁はくの字に折れて外傾。器内は薄手。	後期
31	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	器面荒れており文様不明瞭。	中期
32	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	大柄の刺突文。	三十稲場
33	土製円盤	胴部	覆土	黒褐色	微砂粒	縄文施文の胴部片利用。	中期
5-75号住居跡 (第81・82図: PL128)							
1	深鉢	口~胴部	床面	橙黄褐色	砂粒	幅広の無文口縁を有す、横位隆帯が廻り4カ所から2本単位の垂下隆帯が付く。隆帯間は無文、他の部分は無節Lの縄文を縦位施文している。	中期後半
2	深鉢	口縁部	炉	茶褐色	微砂粒	4単位の小波状、口縁部、隆帯による楕円、渦巻き文描き縄文RLを横位施文。胴部は垂下沈線で無文、縄文帯区画、縄文帯内には厥手垂下文か。	加曽利E 3
3	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	微砂粒	口縁下に横位沈線、以下沈線による連続舌状文描き、縄文LRを充填施文。	加曽利E 4
4	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	口縁下に横位隆帯を廻らし、さらに隆帯を垂下させ縄文帯、無文帯を構成。縄文は縦位LR施文。	加曽利E 4
5	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	波頂部片、肥厚する隆帯が波頂部に沿って廻り上部に刺突文配す。	
6	深鉢	口縁部	覆土	橙黄褐色	微砂粒	口縁やや内傾し、刺突文が2段付される。以下縄文が横位、縦位に施文され、∩状の沈線で画された無文帯文が見られる。	加曽利E 4
7	深鉢	口縁部	覆土	黒色	微砂粒	口縁部に突起文、上端部に凹み。沈線により矩形文を描き、突起下位は無文帯をなす。区画内には縄文LR縦位施文。	称名寺1
8	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	石英金雲母	沈線による文様。	称名寺1

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
9	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	微砂粒	口縁下に横位沈線。	
10	深鉢	口縁部	覆土	黒色	微砂粒	口縁下から縦位集合沈線文。	加曽利E 4
11	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	縄文地に縦位の隆帯、縄文はLR縦位施文。	加曽利E 3
12	深鉢	胴部	覆土	淡茶褐色	微砂粒	沈線による磨り消し曲線文、縄文はRL縦位。	加曽利E 4
13	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	沈線による無文帯を構成、中には縦位長楕円文を描く。縄文は縦位のRL。	加曽利E 3
14	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	砂粒多	微隆帯による磨り消し縄文。	称名寺1
15	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	縄文LRを縦位に施文、横位の隆帯、沈線文。	中期後半
16	深鉢	胴部片	炉	淡黄褐色	微砂粒	間に縦位刺突文列を持つ隆帯文および縄文帯。	中期後半
17	深鉢	胴部	覆土	明黄褐色	精製	沈線による縦位紡錘状文描き、縄文RLを縦位施文。	加曽利E 4
18	深鉢	胴部	覆土	明黄褐色	微砂粒	沈線による∩状文描き、縦位LR縄文を充填施文。	加曽利E 3
19	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	上下対にU状・∩状文を沈線で描く。	加曽利E 4
20	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	細沈線区画による磨り消し曲線文を描く。	称名寺1
21	深鉢	口縁部片	炉	灰黄褐色	精製	横位押圧文隆帯が2条、以下沈線文。	堀之内2
22	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	石英粒	沈線で渦巻き無文帯、地文に羽状の縦位集合条線文。	
23	深鉢	胴部	覆土	淡茶褐色	砂粒多	無文。	
24	深鉢	底部	覆土	淡褐色	砂粒	厚手の底部片。無文。	

5-76号住居跡 (第85・86図：PL129)

1	深鉢	口縁部	覆土	明黄褐色	砂粒多	隆帯による楕円、渦巻き文。文様内は縄文施文。	加曽利E 3
2	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	微砂粒	口縁に沈線、以下縄文施文後沈線による曲線文を描く。	称名寺1
3	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	口縁2本単位の沈線による楕円文を横位に描き、胴部にも2本単位の沈線で∩状文様を描く。楕円内は無文。縄文は上位はRL横位、下位は縦位施文。	加曽利E 3
4	深鉢	口縁部	覆土	淡褐色	砂粒多	隆帯により口縁部に楕円文様構成、以下縦位沈線による胴部無文帯を画す。楕円文内には横位、胴部には縦位の縄文LRが施文。器面風化。	加曽利E 3
5	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	口縁部に横位沈線、以下LR縄文を施文するが、施文がまばらである。	称名寺1
6	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	縦位平行沈線による無文帯、縄文帯。縄文LR単節を胴上半部には横位に、下半部には縦位施文する。施文は浅い。	加曽利E 3
7	深鉢	胴部片	覆土	淡褐色	砂粒多	横位沈線下に縦位沈線で無文帯。縄文はLR縦位施文。	加曽利E 3
8	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	微砂粒	縦位平行沈線で幅狭の磨り消し無文帯、縄文帯には縦位RL施文。	加曽利E 3
9	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	微砂粒	沈線による縦無文帯、縄文帯。縄文はRL縦位施文。器面風化。	加曽利E 3
10	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	微石英粒	横位隆帯下に沈線による縦位無文帯を画す。縄文はLR縦位施文。	加曽利E 3
11	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	口縁部外側に折り返されて肥厚、隆帯による縦長楕円文を付し、地文には弧状の沈線文。	曾利3
12	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	微砂粒	頸部に廻らした横位隆帯から渦巻隆帯文が垂下、さらに沈線による同心円の懸垂文が描かれている。文様間は弧状の集合沈線文で埋める。	唐草文系
13	深鉢	口～胴部	覆土	暗赤褐色	砂粒多	口縁に隆帯による渦巻き文、口縁部文様帯には縦位の集合沈線施文。渦巻き文下に2本の垂下隆帯、さらにS字状文垂下。地文は斜位集合沈線文。	唐草文系
14	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	砂粒	縦位平行沈線、地文には斜位の集合沈線。	曾利3
15	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	微砂粒	縦位集合条線文。	
16	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	無文。	
17	両耳壺	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒多	口縁部はやや外傾して立ち上がる。肩部には隆帯による楕円文様、円形文。	加曽利E 3
18	両耳壺	把手片	覆土	灰褐色	微砂粒	突起状の把手片、4カ所に円孔を有す。先端部および下面にS字状文が描かれる。内面、把手上面に赤彩痕。	加曽利E 3
19	両耳壺	把手片	覆土	淡褐色	砂粒多	3本の隆帯を合わせた形の環状把手。片側の側面には円形文、左右には渦巻き文を描く。	加曽利E 3
20	深鉢	底部	覆土	淡褐色	砂粒	縦位磨り消し無文帯、縄文は縦位RL施文。器内面研磨良。	加曽利E 3
21	深鉢	底部	覆土	茶褐色	砂粒	垂下平行沈線、曲線文、斜位沈線の下端部が看取される。	曾利3

5-77号住居跡 (第91・92図：PL129・130)

1	深鉢	口～胴部	床面逆位	淡黄褐色	砂粒	口縁横位沈線、4カ所の小突起に2個の円孔文有し、下部に重弧状楕円文。頸部に横位の平行沈線、以下胴部は2単位の沈線により下向きコの字状の区画を7単位描き、3本単位の沈線による曲線、直線の垂下文を描く。	堀之内1
2	深鉢	口～胴部	床面	淡橙褐色	微砂粒	口縁部開く、頸部に2条の横位押圧隆帯文を廻らし8字文を4カ所貼付するがその位置は不均等。このうち3カ所の貼付文を交点に口縁から胴部に下がるY字文を押圧隆帯文で描く。隆帯文の見られない8字文からは短冊状の縄文帯が下がり放射状に曲線文、直線文様を描く。他の3カ所には対照の渦巻き文が描かれ、その間には垂下縄文帯、曲線文が描かれる。	堀之内2

第3章 検出された遺構と遺物

No	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
3	深鉢	胴部	炉体土器	灰黄褐色	微砂粒	頸部に8字貼付文、これを中心に弧状の沈線文、渦巻き文を対照に描く。対面にも同様の文様を描き、間には両下端が開く紡錘状文、左右には3本単位の垂下文を描き、文様間には縄文を施す。器面被熱により風化。	堀之内2
4	深鉢	口～胴部	床面	黒褐色	白色砂粒多	口縁沈線を廻らし、以下沈線による三角、菱形の磨り消し文。縄文は単節LR。	堀之内2
5	浅鉢	口縁部	覆土	黒色	精製	口縁は大きく開き、端部僅かに内屈。口縁から押圧隆帯垂下し、頸部横位の押圧隆帯に繋がる。交点に貼付文。器面に炭化物多く付着。	堀之内2
6	深鉢	口縁部	覆土	黒色	精製	口縁端部内屈、沈線による横位縄文帯縄文は細縄文LR。横位沈線文。器内外面研磨。	堀之内2
7	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	精製	口縁端部内屈、沈線による横位縄文帯。	堀之内2
8	浅鉢	口縁部	覆土	黒褐色	精製	口縁下に2本の横位隆帯、口縁端部内側僅かに肥厚。炭化物付着。	堀之内2
9	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	精製	縦位沈線、縄文帯、縄文重縦位LR施文。	堀之内1
10	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	微砂粒	刻みを付す波状垂下隆帯、地文には羽状の縦位集合条線文。	曾利3
11	深鉢	胴下部	炉内	淡黄褐色	微砂粒	沈線による縄文帯。	堀之内1
12	深鉢	底部	床面	灰褐色	微砂粒	垂下沈線で無文帯、縄文帯を画す。縄文は縦位RL。器肉は薄く作られる。	後期
13	深鉢	底部	床面	暗茶褐色	精製	縄文施文後縦位の平行沈線。	後期
14	小型土器	底部	床面	淡褐色	微砂粒	縦位平行沈線下端部が看取される。器面研磨。	後期
15	小型土器	ほぼ完形	床面	暗黒褐色	微砂粒	樽形を呈す無文土器。口縁部は突起状のものが付く可能性がある。器面は研磨され部分的に赤彩痕が見られる。被熱し、部分的に器面剥落あり。	堀之内2
16	注口土器	胴上半部	H-16-1	茶褐色	微砂粒	注口部を欠き、注口上部対面側に橋状把手が付く。注口部から左右に隆線が延び、もう一方の把手下で環状となり把手に繋がる。無文で器面平滑。	堀之内1
17	蓋	3分1欠損	H-16-5	茶褐色	微砂粒	蓋の部分は薄い円盤状で、中央に円弧状のつまみが付く。16と組むものか。	後期
18	小型土器	ほぼ完形	床面	灰黒色	微砂粒	小型で算盤玉状を呈す。口縁部は小さく作られ、端部は欠損。肩部に弧状の集合沈線文で埋め、()状の隆帯文を対面に貼り付ける。以下下部は無文で煤が付着、全体に被熱している。	堀之内2

5-78号住居跡(第96~99図: PL131・132)

1	深鉢	口縁～底部	覆土	茶褐色	砂粒	口縁部に隆帯による横位文、交点に円形文、楕円文内にはRL横位の縄文充填。胴部は縄文施文後、垂下2本沈線による無文帯および蛇行沈線文。	加曽利E3
2	深鉢	口縁～胴部	覆土	淡褐色	砂粒	4単位の小波状を呈す。隆帯による楕円渦巻き文様を重層させている。文様内には縄文を充填施文。胴部は縦位幅狭の磨り消し帯、および縄文帯、縄文帯には沈線による垂下蔵手文が施文される。	加曽利E3
3	深鉢	口縁～胴部	覆土	茶褐色	砂粒	口縁下に横位に沈線を廻らす、胴部は沈線により横位連続波状文様描き、さらに内側に沿うように()状文様を組み合わせて施文。波状文下には蔵手文が描かれる。地文の縄文はLRを縦位に施文する。	加曽利E4
4	壺形土器	口縁～胴部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	頸部に併行する隆帯が廻り、等間隔に肥厚部が見られ横方向の貫通孔。胴部は沈線による連続渦巻き文が配され、文様間に円形文。赤彩土器。	加曽利E3
5	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	隆帯による渦巻き文と段歩が細く尖る楕円文を描き、楕円文内には縦位の集合沈線施文。胴部は縦位磨り消し縄文。縄文RL縦位施文。	加曽利E3
6	鉢	口縁～胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	口縁下に凹線が廻る無文土器。	加曽利E3
7	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	口縁は4単位の波状口縁、隆帯による楕円渦巻き文を構成、区画内には縄文施文。	加曽利E3
8	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	砂粒	隆帯による楕円渦巻き文様。縄文施文。胴部は縦位の磨り消し縄文帯。	加曽利E3
9	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁下に隆帯による連弧文を配し、弧状文内、および胴部には縄文施文。	加曽利E3
10	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	沈線による磨り消し文様か。	加曽利E4
11	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	口縁下に横位の沈線廻り、沈線文様。縄文はRL。	加曽利E4
12	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	微砂粒	口縁下に横位の沈線廻り、以下併行沈線による()状磨り消し文様か。縄文は口縁下は横位、以下は縦位施文。無節L。	加曽利E4
13	深鉢	胴部	覆土	淡茶褐色	砂粒	縄文地に横位平行沈線で上下を画し、それぞれに沈線による()状文波状垂下文を描く。	加曽利E3
14	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	精製	口縁部は無文で、横位隆帯で画される。以下縄文RL横位施文。器表面に赤彩痕見られる。	加曽利E4
15	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	砂粒	縦位幅狭の磨り消し帯、および縄文帯、縄文帯には沈線による垂下蔵手文が施文される。	加曽利E3
16	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	押圧文を有す隆帯を挟み沈線文縄文が見られる。	加曽利E3
17	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	押圧文を有す隆帯文様と縄文が見られる。	加曽利E3
18	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	押圧文を有す隆帯を挟み沈線文縄文が見られる。	加曽利E3
19	深鉢	底部	覆土	淡黄褐色	砂粒	垂下無文帯、縄文帯、縄文はRL縦位施文。	加曽利E3
20	深鉢	底部	覆土	淡褐色	砂粒	ほぼ等間隔に垂下沈線による無文帯、縄文帯を画す。	加曽利E3
21	深鉢	底部	覆土	黒褐色	精製	小型土器の底部片。やや太めの垂下沈線、間には縄文が施文される。器面は研磨されている。	加曽利E3
22	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	砂粒多	器全面に縄文LRを縦位施文する。	加曽利E3
23	広口壺形土器	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	40の胴部片と思われる。凹線による組合せ渦巻き文を描く。	加曽利E3
24	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	波状を呈す口縁は内側に肥厚、隆帯による楕円渦巻き文を構成。	曾利3

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No.	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
25	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	白色砂粒	口縁部文様は隆帯による楕円文、区画内には横矢羽根状の沈線文。胴部には縦位の矢羽根状沈線文。	曾利3
26	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	沈線を有す隆帯で連弧状文描き、沈線による重弧状文配す。	加曽利E3
27	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	隆帯による楕円渦巻き文、文様内は重弧状の沈線文。胴部は縦位の沈線文。	曾利3
28	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	隆帯による楕円渦巻き文様を重層施文。文様内は縦位の集合沈線施文。胴部には斜行沈線、渦巻き文が見られる。	曾利3
29	深鉢	口縁部	覆土	淡褐色	砂粒	沈線による大型楕円文描き、沈線による重弧状文を配す。	加曽利E3
30	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	砂粒	隆帯による方形区画文を構成し、中には縦位の集合沈線を施文。	加曽利E3
31	両耳壺	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	口縁部は無文で幅広に立ち上がる。口縁部文様は沈線による横長の楕円文様が部分的に看取される。取手の剝離痕が見られる。器面は良く研磨。	加曽利E3
32	深鉢	口縁部	覆土	淡褐色	砂粒	口縁下に、2本単位の隆帯による連弧状文か。以下胴部は縦位の集合条線文。	曾利2
33	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	金雲母	口縁部肥厚し外面直下には突帯状に隆帯が廻り、その上には横位連続爪形文が施文される。	中期後半北陸系
34	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	沈線による横U状文を肋骨状に配す。	加曽利E3
35	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	微砂粒	併行する浅い沈線文様と複数単位の刺突文。	中期後半
36	深鉢	口縁～胴部	床面	暗黒褐色	白色砂粒多	大型土器、口縁直下より篋状工具による深い平行集合沈線を垂下させる。	加曽利E3
37	深鉢	口縁～胴部	床面	暗黒褐色	白色砂粒多	36と同一個体片。	加曽利E3
38	深鉢	口縁部	覆土	淡褐色	砂粒	口縁部に小さな橋状取手。	加曽利E3
39	深鉢	口縁部	覆土	淡褐色	砂粒	口縁部に小さな橋状取手。38と同一個体。	加曽利E3
40	広口壺形土器	口縁～胴部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁は直立し、併行する隆帯を繋ぐ幅広の橋状部を有す。胴部は渦巻き文を基調とする文様を描く。器面はやや風化。	加曽利E3
41	有孔罎付土器	口縁部	覆土	黒褐色	精製	口縁部直立し、罎はやや上向きに付きほぼ等間隔に円孔が空けられる。器面研磨され、一部に赤彩痕。	加曽利E3
42	有孔罎付土器	口縁部	覆土	黒褐色	精製	41と同一個体片、内面に赤彩。	加曽利E3
43	有孔罎付土器	口縁部	覆土	黒褐色	精製	41・42と同一。	加曽利E3
44	両耳壺	取手	覆土	灰褐色	微砂粒	橋状取手部分、太く作り出された取手部、文様は沈線による渦巻き文か。	加曽利E3
45	深鉢	飾り取手	覆土	暗褐色	砂粒	紡錘状に突起する。沈線により渦巻き文楕円文様を描く。	中期後半
46	深鉢	胴部～底部	覆土	茶褐色	砂粒	底部片、厚手の作り。ほぼ等間隔に垂下沈線、撫でによる成形痕あり。	中期後半
47	深鉢	底部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	無文、底面に木葉痕か。	後期か
48	深鉢	底部	覆土	灰黄褐色	砂粒	内面の剝落部分に作成時の指頭による押圧文が見られる。	不明
49	深鉢	底部	覆土	暗茶褐色	微小石英粒	器面無文で研磨見られる。底部中心に器面の剝落が見られる。	中期後半
5-79号住居跡 (第103図: PL132・133)							
1	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	精製	楕円の透かし孔を有す三角形の口縁把手が付く。把手片側縁に凹線、下位には隆帯による楕円渦巻き文を描き、以下無文帯、横位沈線が付される。	加曽利E2
2	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	口縁下に横位区画文、縄文RLを横位施文。	加曽利E3
3	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	金雲母	胴部は隆帯による縦位矩形区画。区画間は縦位無文帯。区画内には斜位の集合沈線を充填。	曾利3
4	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	微砂粒	横位隆帯による口縁部文様帯、隆帯による渦巻き文、縦位の集合沈線文を付す。下段の隆帯には刻み文。以下胴部は無文。	
5	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	沈線で画す縦位無文帯、縄文帯。	
6	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	沈線で画す縦位無文帯、縄文帯。	
7	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	横位隆帯状に隆起状文。以下刺突文。	
8	深鉢	底部	覆土	茶褐色	砂粒	隆帯によるU状文を描き、中は斜位の集合沈線文。	曾利3
5-80号住居跡 (第105・106図: PL133)							
1	深鉢	口縁部	床面	黒褐色	精製	口縁部は内傾し、隆帯で画され無文帯構成、以下縄文LRを隆帯直下には横位、他は縦位方向に施文する。1-3は沈線による紡錘状文。	加曽利E4
2	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	砂粒	内側に肥厚、細い縄文RLを横位施文。	中期後半
3	深鉢	胴部	覆土	暗橙茶褐色	砂粒	垂下隆帯による縦位区画、無文、縄文帯を構成、縄文は隆帯部は縦位に内側は横位にLRを施文。	加曽利E4
4	深鉢	胴部	床面	暗橙茶褐色	砂粒	垂下隆帯による縦位区画、無文、縄文帯を構成、縄文は隆帯部は縦位に内側は横位にLRを施文。	加曽利E4
5	深鉢	胴部	覆土	暗橙茶褐色	砂粒	垂下隆帯による縦位区画、無文、縄文帯を構成、縄文は隆帯部は縦位に内側は横位にLRを施文。	加曽利E4
6	深鉢	胴部	覆土	暗橙茶褐色	砂粒	垂下隆帯による縦位区画、無文、縄文帯を構成、縄文は隆帯部は縦位に内側は横位にLRを施文。	加曽利E4
7	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	砂粒	垂下隆帯による縦位区画、無文、縄文帯を構成、縄文LRを縦位施文。	加曽利E4
8	深鉢	胴部	床面	暗橙茶褐色	砂粒	垂下隆帯による縦位区画、無文、縄文帯を構成、縄文は隆帯部は縦位に内側は横位にLRを施文。	加曽利E4
9	深鉢	胴部	床面	暗橙茶褐色	砂粒	1の胴部片、縦位文様の磨り消し縄文。	加曽利E4
10	深鉢	胴部	床面	暗橙茶褐色	砂粒	1の胴部片か、沈線による鈎状文様の磨り消し縄文。	加曽利E4

第3章 検出された遺構と遺物

No.	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
11	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	口縁部は肥厚、隆帯による渦巻き文描き2本の隆帯がこれに繋がる。縦位集合沈線を施文。	曾利3
12	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	微砂粒	口縁は外側に折り返され肥厚、以下縦位の集合沈線文。	曾利3
13	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	2本の沈線により弧状文描き、斜位の集合沈線文を充填施文。	曾利3
5-81号住居跡(第109図:PL133)							
1	深鉢	胴部	炉体土器	淡黄褐色	砂粒	縦位併行沈線による幅狭の磨り消し帯で胴部縦位区画、縄文帯はRL縦位施文され波状懸垂文が付される。	加曾利E3
2	深鉢	胴部	埋甕	暗褐色	砂粒多	縦位併行沈線による幅狭の磨り消し帯で胴部縦位区画、縄文帯はRL縦位施文される。	加曾利E3
3	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	小波状口縁を呈す、隆帯による楕円渦巻き文描き区画内には縄文を施文。	加曾利E3
4	深鉢	口縁部	覆土	淡橙褐色	砂粒	口縁は内傾、隆帯で横区画された口縁部には2段の交互刺突文様施文。	中期後半
5	深鉢	口縁部	覆土	淡灰色	微砂粒	波状口縁部片、隆帯による渦巻き文が見られ、波頂部の口縁内側に沈線による取手文が見られる。	加曾利E3
6	深鉢	口縁部	床面	淡橙褐色	砂粒	口縁はやや波状を呈す、隆帯による縦位口状文、左右には横位の集合沈線文が見られる。	曾利3
7	深鉢	口縁部	覆土	灰黒褐色	微砂粒	波頂部分、幅広の隆帯による縦楕円文。	中期後半
8	深鉢	口縁部	床面	淡黄褐色	微砂粒	僅かに内湾する無文口縁部片。	中期後半
9	深鉢	胴部	覆土	淡茶褐色	砂粒多	3本の縦位沈線、櫛状工具による縦位の波状集合沈線を施文。	加曾利E3
10	深鉢	取手片	覆土	黒色	砂粒	取手片と思われる、隆帯による渦巻き文、唐草文様が看取される。火を受けたものと見られ黒色に変色している。	不明
5-82号住居跡(第112・113図:PL134)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁下に隆帯による円形文、渦巻き文を描くか。	大木系
2	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	口縁部に隆帯による楕円渦巻き文様、隆帯に沿って一部交互刺突文。胴部には併行隆帯が垂下か。	曾利3
3	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	隆帯による楕円渦巻き文が描かれ渦巻き部文は肥厚する。区画内には捺糸文施文か。	加曾利E3
4	深鉢	口縁部	床面	暗褐色	砂粒	口縁部はほぼ直立し小突起が付くものと思われる、口縁下に横位沈線、横S字文様を沈線で描きさらに口状文、刺突文が付される。	加曾利E3
5	深鉢	口縁部	床面	灰黄褐色	微砂粒	口縁部に横位の沈線、以下縄文施文後沈線による曲線文を描く。	加曾利E4
6	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	口縁下に横位の隆帯廻り、隆帯下部には連続の刺突文が配される。	曾利3
7	深鉢	胴部	覆土	淡橙黄色	砂粒	併行する垂下沈線。沈線間には交互に縄文施文か。8・9は同一個体。	加曾利E3
8	深鉢	胴部	覆土	淡橙黄色	砂粒	併行する垂下沈線。沈線間には交互に縄文施文か。	加曾利E3
9	深鉢	胴部	覆土	淡橙黄色	砂粒	併行する垂下沈線。沈線間には交互に縄文施文か。	加曾利E3
10	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	口縁下に横位の隆帯廻りそこからさらに隆帯が垂下、以下斜位の集合沈線。	曾利2
11	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	隆帯による楕円文、曲線文様描く、間隙には縦位の集合沈線。	曾利2
12	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	縦位隆帯、地文に細い集合沈線文。	曾利3
13	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	隆帯による楕円文、曲線文様描く、間隙には縦位の集合沈線。	曾利2
14	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	横位の隆帯廻り、下位に交互刺突文。	曾利3
15	浅鉢	胴部	床面	灰黄色	精製	口縁部文様は渦巻き文、縦位の沈線文か。内外面研磨痕。	加曾利E3
16	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	隆帯による渦巻き文か、地文に細い集合沈線文。	曾利3
17	深鉢	口縁部	覆土	淡茶褐色	砂粒	小波状口縁部片、隆帯による渦巻き文。	加曾利E3
18	深鉢	胴部	覆土	橙褐色	砂粒	併行隆帯により渦巻きを基調とする曲線文描き、隆帯間には集合沈線充填施文。	曾利2
19	深鉢	胴部	床面	淡黄褐色	砂粒	隆帯による渦巻き文描き、地文には集合沈線。	曾利3
20	深鉢	胴部	床面	暗灰茶褐色	石英粒	間を磨り消す2本の併行隆帯を垂下、隆帯間には綾杉状の沈線文。	曾利3
21	深鉢	胴部	床面	暗灰茶褐色	石英粒	縦位、斜位の集合沈線。	曾利3
22	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	横位の隆帯廻り、沈線による垂下文、斜位の集合沈線、波状文が描かれる、23・24は同一個体。	曾利3
23	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	横位の隆帯廻り、沈線による垂下文、斜位の集合沈線、波状文が描かれる。	曾利3
24	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	横位の隆帯廻り、沈線による垂下文、斜位の集合沈線、波状文が描かれる。	曾利3
25	深鉢	口縁～胴部	覆土	黒茶褐色	金雲母粒	口縁部横位、胴部には2本の垂下隆帯が付され、隆帯間には細い集合沈線文を施文。	曾利3
26	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	微砂粒	口縁部はほぼ直立か、無文で内外面に研磨痕。	中期後半
27	浅鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	口縁部やや肥厚し内屈する、無文。	中期後半
28	深鉢	底部	覆土	暗褐色	金雲母細粒	無文底部片、内面に炭化物付着	中期後半

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No.	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
5-83号住居跡 (第118~128図: PL134~138)							
1	小型深鉢	口縁~胴部	床面	淡橙褐色	微砂粒	頸部が括れやや球形の胴部、口縁部は短く立ち上がりやや内傾する。口縁部には正面観を為す面に円形文および飾り取手が付く、取手下には8字状貼付文が見られ、対面にも沈線を伴う円形貼付文が付く。胴部は2本の隆線で画された無文帯で渦巻き文、曲線文様を描き縄文LRを充填施文する。また文様の交点、屈曲部には円形文が付される。口縁内側に炭化物付着。	堀之内1
2	深鉢	口縁部	床面	暗茶褐色	精製	4単位の小波状を呈す、波頂部は環状取手となり内外面に円形刺突文を伴う。波頂下には8字文を基調とした隆帯文様が付けられる。以下胴部には沈線、隆帯による区画文様が描かれるものと思われる。	堀之内1
3	蓋	ほぼ完形	床面	黒褐色	微砂粒	円形でやや膨らみ、中央に橋状の取手が付く、端部には穴が空けられている。器面には刺突文が充填された左右対称の沈線文様が描かれている。	三十稲場
4	深鉢	口縁部	床面	暗茶褐色	砂粒	口縁下に沈線による楕円文描き縄文RLを横位施文。	加曽利E3
5	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	沈線で画した縄文充填帯で矩形文様描く。	称名寺1
6	深鉢	口縁部	床面	黄白色	精製	微隆線による垂下J字文、曲線文の組合せ文、J字文内には縄文LRが充填施文されている。	称名寺1
7	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	精製	口縁部わずかに肥厚し内傾、縦の併行沈線による縦区画内に縄文施文。	堀之内1
8	深鉢	口縁部取手	覆土	暗茶褐色	微砂粒	口縁部外傾、橋状の取手が付きその上端部は環状となるものと思われるが欠損している。肩部には沈線による楕円文描き縄文LRが充填施文。	堀之内1
9	深鉢	取手	覆土	灰黒色	精製	円孔文有す突起文、胴部には縦位の沈線と区画内に縄文が施文される。	堀之内1
10	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	波状を呈し、波頂部は肥厚した突起部が2重構成となる。円形刺突文を伴う。以下胴部には沈線による三角文描き、縄文施文。	堀之内1
11	浅鉢	口縁部	床面	茶褐色	微砂粒	口縁部波状を呈し渦巻き上端部が突起した円形取手。取手下が突き出した形となり円孔を有す。口縁部には沈線で画された縄文帯が見られる。	称名寺1
12	注口土器	口縁部注口	覆土	灰褐色	精製	注口部分、注口上部から口縁に繋がる環状突起が見られる。器面には沈線による曲線文描き縄文を充填する。	堀之内1
13	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	隆帯による渦巻き文構成、区画内には縄文を充填施文。	加曽利E3
14	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	幅広の縦位磨り消し縄文帯。	加曽利E3
15	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	砂粒	3本の沈線による縦位磨り消し帯。縄文は縦位のRL施文。	加曽利E3
16	深鉢	胴部	床面	灰黒褐色	微砂粒	磨り消しJ字文を描く。	称名寺1
17	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	精製	沈線による磨り消し曲線文様。	称名寺1
18	深鉢	口縁部	床面	暗茶褐色	砂粒	口縁部に突起を有すか、平行沈線による磨り消し縄文文様、刺突文有す。	称名寺1
19	小型深鉢	胴部片	覆土	黒褐色	精製	微隆帯で画された無文帯で三角形、曲線文を描き、交点部には刺突を持つ円形文が付される。無文帯間には縄文が充填施文される。	堀之内1
20	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	微砂粒	刺突文を有す貼付文から横位、縦位に3本単位の沈線が走り幾何学紋様を画す。地文には縄文RLを施文。	堀之内1
21	小型深鉢	胴部	覆土	茶褐色	精製	併行隆帯による無文帯で幾何学文様を画す。区画は縄文施文と無文のものが見られる。	堀之内1
22	深鉢	胴部	覆土	橙褐色	砂粒	2本単位の隆帯で曲線文を描く、地文は縄文LRを施文。	堀之内1
23	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	微砂粒	渦巻き磨り消し文様描く。	堀之内1
24	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	複数の平行沈線文様、区画内に縄文施文。	堀之内1
25	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	横位、縦位に2本沈線文、縄文LRが施文される。	堀之内1
26	深鉢	胴部	床面	暗茶褐色	砂粒	沈線で画した磨り消し縄文。	加曽利E4
27	深鉢	胴部	床面	灰褐色	微砂粒	沈線による矩形磨り消し文様。縄文はLRの細縄文施文。	堀之内2
28	深鉢	胴部	覆土	暗赤褐色	砂粒	沈線で区画文様描き縄文施文。	堀之内1
29	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	微砂粒	縄文と無文帯を横位連続の山形沈線文で画す。縄文は横位LR。	後期
30	深鉢	胴部	覆土	淡茶褐色	微砂粒	LR縄文横位施文および横位の磨り消し無文帯。	後期
31	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	砂粒	紡錘状に垂下した隆帯の中を縄文で埋める。	堀之内1
32	深鉢	胴部	覆土	暗黄褐色	微砂粒	全面に縄文LRを斜位方向施文。	後期
33	深鉢	口縁部	覆土	明褐色	砂粒	口縁に沈線廻る、以下無文帯下に横位、縦位に沈線で矩形文描く。	堀之内2
34	深鉢	胴部	覆土	灰橙色	微砂粒	平行沈線による曲線文様。	堀之内1
35	深鉢	胴部	覆土	灰橙色	微砂粒	平行沈線によるT字文。	堀之内1
36	深鉢	胴部	覆土	淡灰黄褐色	微砂粒	頸部に横位の平行沈線。	堀之内1
37	深鉢	胴部	覆土	橙褐色	微砂粒	沈線による曲線文様描く。	堀之内1
38	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	砂粒	T字状に走る平行沈線	堀之内1
39	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	砂粒	頸部に横位隆帯廻り、渦巻き文配しこれに接して3本単位の弧状垂下文様、さらに2本単位の沈線が横位、縦位に施文される。	堀之内1
40	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	砂粒	縦位平行沈線文。	堀之内1
41	深鉢	胴部	床面	淡橙褐色	砂粒	4本の垂下沈線、横には複数の横位平行沈線文。	堀之内1

第3章 検出された遺構と遺物

No.	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
42	深鉢	胴部	床面	淡褐色	砂粒	2本の沈線が横位に廻り円形文から上に隆帯が対弧状に延びるものと思われる。	堀之内1
43	小型壺形土器	胴部	床面	暗赤褐色	微砂粒	頸部に横位沈線が見られ上下に渦巻き文が描かれる。	堀之内1
44	深鉢	口縁部	覆土	灰黒褐色	砂粒	口縁部は肥厚し隆帯による横S字文、刺突文で飾られる。さらにS字文下位にも渦巻き懸垂文が見られる。	堀之内1
45	深鉢	取手	床面	淡黄褐色	微砂粒	円形取手、刺突文、内面には円形沈線文。	堀之内1
46	深鉢	口縁部	床面	灰褐色	砂粒	口縁部は肥厚し隆帯による横S字文、刺突文で飾られる。さらにS字文下位にも渦巻き懸垂文が見られる。	堀之内1
47	深鉢	口縁部突起	床面	黄白色	微砂粒	口縁部の環状突起、2本の環状隆帯を貼り合わせる。円形文、垂下隆帯が見られる。	堀之内1
48	深鉢	口縁部	覆土	黒色	精製	口縁部隆帯で画した文様帯を持ち、沈線による楕円文、刺突文を描く。以下は沈線による縦位の曲線文、刺突文を配す。器面研磨。	称名寺1
49	深鉢	口縁部	覆土	淡褐色	微砂粒	沈線を伴う隆帯で横位渦巻き文を描く、渦巻き部分は口縁部突起状に高まる。	後期
50	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	精製	環状突起、突起内外面には沈線による円形文、以下胴部は2本単位の沈線による曲線文。	称名寺1
51	深鉢	口縁部	覆土	淡茶褐色	微砂粒	口縁部肥厚した環状突起、内外面両脇に刺突文。	堀之内1
52	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	口縁に付された環状突起、下位には沈線による∩状文見える。	堀之内1
53	浅鉢	口縁取手	覆土	灰黄褐色	砂粒	口縁部に付された飾り取手、上面は円形で円孔とそれを囲む円形文、さらに突起部から横に延びる隆帯は環状突起を構成か。	堀之内1
54	深鉢	口縁部取手	床面	黒褐色	微砂粒	口縁部肥厚し沈線による渦巻き文を描く、橋状取手付き肩部には沈線で画した縦文充填文。	堀之内1
55	深鉢	口縁部	床面	茶褐色	微砂粒	隆帯による曲線文、円形文を描く、隆帯上端は口縁部に突起する。	堀之内1
56	浅鉢	取手部	床面	淡褐色	微砂粒	波状口縁部の突起部分、先端部がY状に延び内側に沈線を有し器面側は環状となり下部に沈線による渦巻き文。	堀之内1
57	深鉢	口縁部	覆土	橙灰色	微砂粒	波頂部分、隆帯による渦巻き文を基調とした曲線文様を内外面に描く。	中期後半
58	飾り取手	取手片	覆土	灰黒色	微砂粒	口縁部に上部で交差させ2重となる環状取手。沈線、刺突文を伴う。	後期
59	深鉢	口縁部突起	床面	灰褐色	砂粒	波状口縁の波頂部分がC状となり、横には三方向からの円孔が穿たれる。それぞれの円孔から隆帯が口縁および胴部に延びる。	堀之内1
60	深鉢	口縁部	覆土	灰黄色	微砂粒	口縁内屈し沈線を伴った隆帯の端部に円形刺突文。	称名寺1
61	深鉢	体部取手	覆土	暗茶褐色	微砂粒	頸部にX状に付く橋状の取手、沈線および先端部に円形の刺突文が付される。	堀之内1
62	深鉢	口縁部	床面	淡黄褐色	微砂粒	口縁部内屈、沈線による横楕円文を描く。頸部に横位沈線。	堀之内1
63	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	口縁外面がやや肥厚する。	後期
64	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	口縁部はくの字に内屈する、頸部に横位押圧文。	堀之内1
65	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	隆帯で画された口縁部は内傾し、隆帯から繋がる渦巻き文を描き口縁部がやや高まる。以下無文。	堀之内1
66	深鉢	口縁部	床面	暗茶褐色	白色砂粒	口縁部は内傾し、口縁上に円形の耳状突起文が付される。	後期
67	深鉢	口縁部	覆土	淡褐色	微砂粒	口縁部肥厚し、円形刺突文列見られる、下位に横位沈線。	堀之内1
68	深鉢	口縁部	覆土	黄白色	微砂粒	口縁部に横位連続円孔文。	堀之内1
69	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	微砂粒	肥厚する口縁部に縦位短沈線を持つ貼付文。	堀之内1
70	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	微砂粒	横位隆帯で無文部を画す。	中期後半
71	深鉢	口縁部	覆土	黄白色	微砂粒	口縁部に横位隆帯。	後期
72	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	口縁部に隆帯廻らし無文帯を画す。	堀之内1
73	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	口縁部内側に肥厚、無文。	後期
74	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	口縁部肥厚、無文。	堀之内1
75	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	無文、口縁部内側に沈線廻る。	堀之内2
76	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	無文、表面研磨。	後期
77	深鉢	胴部	床面	暗茶褐色	砂粒	無文、研磨痕見られる。大型粗製土器。	後期
78	深鉢	口縁部	覆土	橙茶褐色	白色砂粒	無文の口縁部、外面研磨	後期
79	深鉢	胴部片	覆土	灰褐色	砂粒	櫛状工具による縦位波状文。	後期
80	深鉢	胴部	覆土	淡茶褐色	砂粒	縦位の集合条線文。	中期後半
81	深鉢	口縁～胴部	床面	暗黒褐色	砂粒	口縁部に両端に円形貼付文有す弧状文を4単位付す。以下横位に廻る隆帯に付した円形貼付文からは波状の垂下隆帯。	後期初頭
82	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	砂粒	口縁に横位隆帯廻らし無文帯を画す。	後期初頭
83	深鉢	胴部	覆土	黄橙色	微砂粒	隆帯の交点に円形の押圧貼付文。	後期初頭
84	深鉢	胴部	床面	淡黄褐色	砂粒	隆帯の交点に円形文の押圧文。	後期初頭
85	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	砂粒	T字状に付された隆帯の交点に円形文。	後期初頭
86	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	砂粒	縦位に隆帯。	後期初頭

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
87	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	隆帯文。	後期初頭
88	深鉢	胴部	床面	淡灰黄褐色	微砂粒	T字状に付された隆帯の交点に押圧文。	後期初頭
89	深鉢	胴部	覆土	暗灰褐色	微砂粒	断面三角の隆帯に深い押圧文。90は同一個体	後期初頭
90	深鉢	胴部	覆土	淡灰褐色	砂粒	T字状に付された隆帯。隆帯は断面三角で深い押圧文有す。	後期初頭
91	深鉢	胴部	床面	灰黒色	砂粒	横位、斜位の隆帯が見られる。	後期初頭
92	深鉢	胴部	床面	暗褐色	微砂粒	横位隆帯上に付された円形文から下位に隆帯が垂下。	後期初頭
93	深鉢	胴部	床面	淡褐色	砂粒	隆帯の接点に円形貼付文。	後期初頭
94	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	横位隆帯に円形の貼付文を付す。	後期初頭
95	深鉢	口縁部	床面	灰黒色	微砂粒	口縁部に押圧隆帯廻らす。押圧文はやや乱雑に施文される。	堀之内1
96	深鉢	口縁部	床面	橙褐色	微砂粒	口縁部に押圧隆帯を廻らす。	堀之内1
97	深鉢	口縁部	床面	灰褐色	微砂粒	口縁部に押圧隆帯を廻らす。隆帯、押圧文ともにしっかりとしている。	堀之内1
98	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	精製	口縁部押圧隆帯、内外面研磨。	堀之内1
99	深鉢	口縁部	床面	黒褐色	砂粒	口縁下に押圧隆帯が廻る。101は同一個体。	堀之内1
100	深鉢	口縁部	床面	灰褐色	微砂粒	押圧隆帯廻る。押圧文はやや間隔を空けて押される。	堀之内1
101	深鉢	口縁部	床面	灰黄褐色	砂粒	口縁下に押圧隆帯が廻る。	堀之内1
102	深鉢	口縁部	覆土	淡橙色	微砂粒	押圧隆帯廻る。	堀之内1
103	深鉢	口縁部	床面	淡黄褐色	微砂粒	押圧隆帯廻る。	堀之内1
104	深鉢	口縁部	床面	淡褐色	砂粒	押圧隆帯、隆帯は細く押圧も不揃い。	堀之内1
105	深鉢	口縁部	床面	淡黄褐色	微砂粒	低い押圧隆帯、口縁部がやや内屈。	堀之内1
106	深鉢	口縁部	床面	淡黄褐色	精製	押圧隆帯、押圧文やや小さく押し方もやや乱雑。	堀之内1
107	深鉢	口縁部	床面	淡茶褐色	微砂粒	押圧隆帯廻る。	堀之内1
108	深鉢	口縁部	床面	茶褐色	微砂粒	押圧隆帯廻る。口縁部を欠く。	堀之内1
109	深鉢	口縁部	床面	淡橙色	微砂粒	押圧隆帯、口縁部を欠く。	堀之内1
110	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	押圧隆帯。口縁部欠く。	堀之内1
111	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	横位隆帯に刺突文。	後期
112	深鉢	胴部	床面	茶褐色	砂粒	弧状に付された隆帯。	後期
113	深鉢	胴部片	床面	淡黄褐色	砂粒	曲線的に付された隆帯に一部押圧文。	堀之内1
114	深鉢	胴部	床面	灰黒色	微砂粒	縦位の隆帯、炭化物の付着顕著。	後期
115	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒多	隆帯がT状に付される。117・121は同一個体。	後期
116	深鉢	胴部	床面	淡黄褐色	砂粒	頸部に隆帯が廻らされる。	後期
117	深鉢	胴部	床面	灰黄褐色	砂粒	T字状に付された隆帯。	後期
118	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	砂粒	口縁部に刺突文を配した併行沈線で大々横波状文を描く。	後期初頭
119	深鉢	体部	床面	黄褐色	砂粒	刺突文を有した平行沈線で波状文様、下位に縦位に短沈線文が見られる。	後期初頭
120	深鉢	胴部	床面	橙褐色	赤褐色砂粒	無文胴部片で内面良く研磨。	後期
121	浅鉢	胴部	床面	灰黄褐色	砂粒多	無文、器面荒れる。	後期
122	深鉢	胴部	床面	灰褐色	砂粒	やや厚手の無文胴部片。	後期
123	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	砂粒多	薄手で硬質、縦位の集合細沈線文施文。	後期
124	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	口縁上端肥厚しやや高まり、左右に沈線が延びる。以下無文で横位沈線が廻る。	堀之内1
125	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	上端が凹む波状口縁を呈す、無文。	後期
126	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	砂粒	集合細沈線による縦位の弧状文様。	後期
127	深鉢	胴部	床面	淡黄褐色	砂粒	無文胴部片、器面やや荒れており、内外面に時の輪積み痕見られる。	後期
128	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	金雲母粒	無文胴部片。	後期
129	深鉢	胴部	床面	橙褐色	微砂粒	無文の胴部片。	後期
130	深鉢	胴部	覆土	橙褐色	微砂粒	無文の胴部片。	後期
131	深鉢	胴部	覆土	黒茶褐色	微砂粒	大型土器の無文胴部	後期

第3章 検出された遺構と遺物

No.	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
132	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	無文胴部片。	後期
133	浅鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	無文の胴下部片。	後期
134	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	精製	薄手で硬質、沈線による平行線文、拗り文、端部渦巻き文様見られる。	堀之内2
135	深鉢	体部取手	床面	灰褐色	砂粒	頸部に廻る横位の隆帯から2本の隆帯をX状に絡めた橋状取手部分。	後期
136	両耳壺	取手片	床面	淡黄褐色	精製	幅広の橋状取手、凹線の両端に円形押圧文。	中期後半
137	両耳壺	取手片	床面	淡黄褐色	精製	幅広の橋状取手3本の沈線と両端に円形押圧文。	中期後半
138	注口土器	注口部	覆土	灰黒褐色	精製	注口部分、先端に向かってやや細くなる、先端部を欠く。器面は研磨。	後期
139	注口土器	注口部	床面	暗茶褐色	微砂粒	注口部片、短く先端部が僅かに太くなる。	後期
140	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	精製	隆帯により口縁部無文帯をし、橋状取手を持つ、胴部には方向を変えた刺突文が施文される。	三十稲場
141	壺形土器	口縁部	床面	淡褐色	砂粒	口縁部外反、橋状取手を有し、爪形の連続刺突文を横位施文。	三十稲場
142	壺形土器	口縁部	床面	暗黒褐色	砂粒	口縁部外反、肩部に横位矢羽根状の連続刺突文。	三十稲場
143	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	精製	連続刻みを有す横位隆帯、以下胴部には水滴状の刺突文。	三十稲場
144	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	刺突文。	三十稲場
145	深鉢	胴部	床面	灰黒色	精製	水滴状の刺突文。	三十稲場
146	深鉢	胴部	床面	淡黄褐色	微砂粒	刺突文。	三十稲場
147	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	精製	水滴状の刺突文。	三十稲場
148	深鉢	胴部	覆土	淡茶褐色	微砂粒	刺突文。	三十稲場
149	深鉢	胴部	床面	茶褐色	砂粒	刺突文。	三十稲場
150	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	刺突文。	三十稲場
151	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	刺突文。	三十稲場
152	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	刺突文。	三十稲場
153	深鉢	胴部	床面	淡黄色	微砂粒	爪形の刺突文。	三十稲場
154	深鉢	胴部	床面	淡茶褐色	微砂粒	刺突文。	三十稲場
155	深鉢	胴部	床面	淡黄褐色	砂粒	刺突文および縦位の細沈線。	三十稲場
156	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	刺突文。	三十稲場
157	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	微砂粒	円形の刺突文。	三十稲場
158	深鉢	胴部	床面	黒色	微砂粒	瘤状の盛りあがりを伴う刺突文。	三十稲場
159	浅鉢	底部	床面	淡黄褐色	砂粒多	厚手の底部片、砂粒目立ち器面は風化。	後期
160	浅鉢	底部	覆土	暗褐色	微砂粒	無文、胴部は大きく開いて立ち上がる。	後期
161	深鉢	底部	覆土	暗褐色	砂粒	無文で器面は研磨。	後期
162	深鉢	底部	覆土	灰褐色	砂粒	無文底部片。	後期
163	深鉢	底部	床面	茶褐色	砂粒	無文底部片。	後期
164	深鉢	底部	覆土	淡褐色	砂粒	大型土器の無文底部片。	後期
165	深鉢	底部	覆土	灰黄褐色	砂粒	無文底部片。やや器肉薄い。	後期
166	深鉢	底部	床面	暗褐色	砂粒	無文、底面含め研磨されている。	後期
167	深鉢	底部	床面	黒褐色	砂粒	底面に網代痕か。	後期
168	深鉢	底部	覆土	茶褐色	微砂粒	無文底部片。	後期
169	深鉢	底部	床面	暗褐色	砂粒	無文底部片、底面に網代痕。	後期
170	深鉢	底部	覆土	黄褐色	微砂粒	無文底部片、底面に木葉痕。	後期
171	深鉢	底部	覆土	黒褐色	精製	無文、研磨されている、底面に網代痕(細)。	堀之内2
172	装身具	完形	覆土	暗赤褐色	精製	小型垂飾品である。足形を呈し、端部は二つに割れ、内屈する。体部には直交方向に2カ所の紐通し穴が空けられている。赤彩あり。	後期
5-84号住居跡 (第134・135区: PL139・140)							
1	深鉢	ほぼ完形	床面	茶褐色	砂粒	口縁部文様は隆帯による渦巻き楕円文、胴部は縦位併行沈線による磨り消し文。縄文は縦位RL施文。	加曽利E 3
2	深鉢	胴部	床面	茶褐色	砂粒多	口縁部を欠く、胴部には2本の垂下沈線による磨り消し帯、縄文はLR縦位施文。	加曽利E 3
3	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	波状口縁部片、渦巻き楕円文。	加曽利E 3

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
4	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	微砂粒	沈線により楕円渦巻き文様。	加曽利E 3
5	深鉢	胴～底部	床面	灰黄褐色	微砂粒	小型品、頸部に押圧文有す隆帯が廻る。以下沈線による∩状文を8単位描き、中に縄文RLを縦位施文。文様間に円形押圧文。	加曽利E 3
6	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	沈線により曲線文描き文様内を縄文で埋める。	加曽利E 3
7	深鉢	口縁～胴部	埋甕	灰褐色	砂粒	口縁部に隆帯による楕円渦巻き文様描き縄文で埋める。以下胴部は2本の垂下沈線による無文帯で縦位区画、間には縄文LRを縦位施文後波状懸垂文を描く。	加曽利E 3
8	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	口縁部に横位連続刺突文、その下に緩やかな波状沈線が廻り以下縄文施文。	加曽利E 3
9	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	口縁部に横位連続刺突文、その下に緩やかな波状沈線が廻り以下縄文施文。	加曽利E 4
10	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	口縁部に横位連続刺突文、その下に緩やかな波状沈線が廻り以下縄文施文。	加曽利E 5
11	深鉢	口縁部	覆土	明灰褐色	微砂粒	口縁に連続の刻み、以下横位沈線で画し沈線による磨り消し縄文。	加曽利E 3
12	深鉢	胴部	床面	黄褐色	砂粒	隆帯による横楕円区画文。口縁部は無文でやや外反気味に立ち上がる。器面風化。	加曽利E 3
13	深鉢	口縁～胴部	床面	淡茶褐色	砂粒	口縁部はやや外反気味に直立、肩部は張り出す。胴部には沈線により円形文、∩状文、蕨手文描き、文様内を縄文で埋める。	加曽利E 3
14	深鉢	胴部	床面	淡茶褐色	砂粒	やや内湾する。隆帯による渦巻き文有す。	加曽利E 3
15	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	砂粒	波頂部片、円形文内に放射状の沈線。	曾利 4
16	深鉢	口縁部	床面	暗黒褐色	砂粒	口縁下に横位の集合沈線文。	曾利 4
17	深鉢	口縁部	覆土	暗灰褐色	微砂粒	口縁部無文でやや内傾して立ち上がる、隆線による曲線文様を描くものと見られる。隆線の交点にやや斜めの細い貫通孔あり。内外面わずかに赤彩痕。	加曽利E 3
18	深鉢	口縁部	床面	暗褐色	砂粒	幅広の無文口縁部片。	中期後半
19	深鉢	底部	覆土	茶褐色	砂粒	無節Lを方向を変えて施文。欠け口部摩耗しており再利用品か。	加曽利E 3

5-85号住居跡 (第139図: PL140)

1	深鉢	口縁～胴部	床面	暗褐色	砂粒	隆帯で楕円渦巻き文様描き、縄文を充填施文。区画文間には縦に3個の円形押圧文。胴部沈線により狭い縦位磨り消し帯、間には縄文LRを縦位施文。	加曽利E 3
2	深鉢	口縁部	床面	淡茶褐色	砂粒	隆帯による楕円文。	加曽利E 3
3	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	波状口縁部、隆帯による渦巻き文か。	加曽利E 3
4	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	波状口縁に沿って沈線が見られ縄文施文される。	加曽利E 3
5	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	微砂粒	全面に縄文LRを縦位施文。	中期後半
6	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	波状口縁部、隆帯による渦巻き文か。	加曽利E 3
7	両耳壺	口縁～胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	口縁部無文でやや外反、沈線による∩状文、蕨手文、区画内には縄文が施文される。取手部分を欠く。	加曽利E 3
8	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	砂粒	縦位磨り消し縄文帯。	加曽利E 3
9	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	幅広の沈線による縦位磨り消し文。	加曽利E 3
10	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	縦位磨り消し縄文帯。	加曽利E 3
11	深鉢	胴部	覆土	淡茶褐色	微砂粒	刺突文か、器面風化。	後期か
12	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	縄文地文とし、縦位波状隆線文様。	大木系
13	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	微砂粒	沈線による縦位文、沈線間磨り消し。	加曽利E 3
14	深鉢	胴部	覆土	黒色	精製	沈線により横長の三角文描き、細縄文を充填施文。	後期
15	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	精製	口縁部無文でやや外反、刻みを持つ横位隆帯廻る。以下沈線による横楕円文、円形文描く。	中期後半
16	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒多	隆帯による曲線文、および弧状の集合沈線文。	曾利 3
17	深鉢	胴部	炉内	暗茶褐色	微砂粒	やや間の空いた斜位の集合沈線文。	曾利 3
18	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	弧状沈線による綾杉文。	曾利 3
19	深鉢	口縁部	床面	黄褐色	微砂粒	口縁部に押圧隆帯。	堀之内 1
20	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	精製	口縁部短く内傾、口縁下に横位押圧隆帯廻る。以下沈線で画した充填縄文文様。	堀之内 2
21	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	精製	口縁下に押圧隆線、以下横位の沈線文様。	堀之内 2
22	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	無文の口縁部片、口縁内側に折り返されて肥厚する。	中期後半
23	有孔罎付き土器	胴部	炉内	淡茶褐色	微砂粒	ほぼ水平に張りだした罎に円孔有す。罎下位より2本の隆帯が下がる。	加曽利E 3
24	深鉢	底部	炉内	茶褐色	砂粒	縦位沈線による磨り消しおよび縄文帯。	加曽利E 3
25	深鉢	底部	覆土	黄褐色	砂粒	縦位沈線による磨り消しおよび縄文帯か、器面の風化が著しい。	加曽利E 3

5-86号住居跡 (第142図: PL141)

1	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	口縁部隆帯による区画文描き縄文充填する。	加曽利E 3
---	----	-----	----	-----	----	----------------------	--------

第3章 検出された遺構と遺物

No	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
2	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	微砂粒	口縁部隆帯による区画文描き縄文充填する。	加曾利E 3
3	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	口縁に横位沈線廻らし沈線による磨り消し凹状文。縄文は口縁部横位、以下縦位のRL施文。	中期末
4	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁下に横位沈線以下沈線による磨り消し曲線文。	加曾利E 4
5	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色土	微砂粒	口縁下に横位沈線廻り間には列点状凹状文が見られる、以下縄文RL横位施文。	加曾利E 4
6	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	精製	沈線による曲線文描き縄文施文。器内外面研磨。	称名寺1
7	深鉢	胴部	床面	灰褐色	微砂粒	沈線文様内に列点文。	称名寺2
8	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	口縁直下に横位沈線、以下無文。	後期
9	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	精製	口縁上部に隆帯による8字文が突起状に付される。	堀之内2

5-87号住居跡 (第145図: PL141)

1	有孔罎付き土器	口縁~胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	胴部丸みを有し肩部に最大径を持つ、口縁はほぼ直立。罎はわずかに上向きに付き8cm程の間隔で孔が空けられている。胴部文様は沈線により罎直下には縦の2本沈線および渦巻き文が、以下横楕円文、四角文描き縦位の燃糸Lが充填施文されている。	中期後半
2	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁に横位沈線以下隆帯による矩形文描き縄文施文。	加曾利E 3
3	深鉢	口縁部	床面	茶褐色	砂粒	頸部片、口縁部は外反する。渦巻き沈線文描く。	中期後半
4	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	波頂部突起片、口縁部から続く隆帯が上に立ち上がり渦巻き状を呈す。	後期
5	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	地文に斜位、縦位の集合沈線文、紐状隆帯による横位、縦位の貼り付け文様。	中期後半
6	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	外反する無文の口縁部片。	後期
7	深鉢	底部	床面	茶褐色	砂粒	垂下隆帯による縦位区画、間には縦位の沈線文。	中期後半

5-88号住居跡 (第150・151図: PL141・142)

1	深鉢	胴~底部	炉体土器	灰橙色	砂粒	沈線による渦巻き文を基調とする垂下文を施文。口縁部を欠く。	堀之内1
2	深鉢	口縁部	炉内	灰黄褐色	微砂粒	口縁部に円形突起が付され沈線、円形刺突文が見られる。口縁部文様は端部が鈎状となる楕円文様を画し縄文RLを横位施文している。以下胴部無文。	堀之内1
3	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	横位沈線で画した部分に連続の刺突文。以下縄文施文。	称名寺
4	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	口縁下に隆帯廻り、肥厚部分で繋がる円形垂下隆帯か。	加曾利E 4
5	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	太沈線による重凹状文描く。	加曾利E 4
6	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	砂粒	口縁下に縄文施文された横位沈線文様。	称名寺1
7	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	沈線による磨り消し縄文。縄文は縦位RL。	堀之内1
8	深鉢	口縁部	覆土	淡灰褐色	微砂粒	口唇部平らに成形され両端に肥厚、細密縄文施文後沈線による磨り消し文様描く。	称名寺1
9	深鉢	口縁部	覆土	淡灰褐色	微砂粒	口唇部平らに成形され両端に肥厚、細密縄文施文後沈線による磨り消し文様描く。	称名寺1
10	深鉢	胴部	床面	淡灰褐色	微砂粒	口唇部平らに成形され両端に肥厚、細密縄文施文後沈線による磨り消し文様描く。	称名寺1
11	深鉢	胴部	床面	淡灰褐色	微砂粒	口唇部平らに成形され両端に肥厚、細密縄文施文後沈線による磨り消し文様描く。	称名寺1
12	深鉢	胴部	覆土	淡灰褐色	微砂粒	口唇部平らに成形され両端に肥厚、細密縄文施文後沈線による磨り消し文様描く。	称名寺1
13	深鉢	胴部	覆土	淡灰褐色	微砂粒	口唇部平らに成形され両端に肥厚、細密縄文施文後沈線による磨り消し文様描く。	称名寺1
14	深鉢	胴部	覆土	淡灰褐色	微砂粒	口唇部平らに成形され両端に肥厚、細密縄文施文後沈線による磨り消し文様描く。	称名寺1
15	深鉢	口縁部	炉内	淡茶褐色	微砂粒	口縁に横位の沈線文様。	称名寺
16	深鉢	口縁部	覆土	灰黒褐色	砂粒	縄文地に沈線による蕨手垂下文、補修孔あり。	中期後半
17	深鉢	取手	覆土	灰橙色	砂粒	口縁部に付された環状取手、沈線、刺突文が付され、下位は縄文充填された沈線文様描く。器内薄く小型の鉢形土器か。	称名寺
18	深鉢	胴部	覆土	淡灰褐色	微砂粒	縄文地に沈線による磨り消し曲線文描く。	称名寺1
19	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	沈線による縦位区画の磨り消し曲線文様描く、地文縄文施文。	堀之内1
20	深鉢	胴部	炉内	灰黄色	微砂粒	沈線による曲線文内に縄文充填。	加曾利E 4
21	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	砂粒多	縦位隆帯に横方向に連続刻み文、地文には縄文施文。	後期
22	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	微砂粒	隆帯および刺突文。	三十稲場
23	深鉢	胴部	炉内	淡褐色	微砂粒	刺突を伴う隆帯文様。	称名寺
24	深鉢	口縁部	覆土	淡橙色	精製	口縁部隆帯で無文帯を画す。	称名寺
25	深鉢	胴部	床面	淡黄褐色	精製	沈線による平行線文様。	称名寺
26	深鉢	胴部	炉内	黒褐色	砂粒	集合沈線による縦位波状垂下文。	後期
27	深鉢	取手	覆土	灰黒色	精製	飾り取手、円形で端部が細く嘴状となる。側面には沈線文、刺突文有し、円孔も見られる。	後期

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
28	深鉢	飾り取手	覆土	淡橙黄色	精製	飾り取手片、半肉彫り状の端部渦巻き沈線文様。	加曽利E 4
29	深鉢	胴部	覆土	淡橙黄色	微砂粒	隆帯および円形刺突文。	三十稲場
30	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	角頭刺突文を充填。	三十稲場
31	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	爪形刺突文。	三十稲場
32	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	砂粒	爪形状の刺突文充填施文。	三十稲場
33	蓋型土器	2分の1	覆土	暗褐色	砂粒	円形で浅い碗形を呈す、やや幅広の環状突起が(4)カ所に付される。	後期
34	深鉢	底部	覆土	淡灰褐色	砂粒	底面に茎状の丘痕文。	後期

5-89号住居跡 (第155図: PL142)

1	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	口縁に沿って横位沈線廻らし、以下縄文地に沈線による蕨手垂下文か。	加曽利E 3
2	深鉢	口縁部	Pit 1	黒褐色	砂粒	口縁部に無文帯を画し、以下縄文施文、一部に沈線文。	後期
3	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	砂粒	口縁部無文で横位の隆帯廻りそこから2本体の隆帯が垂下。	加曽利E 4
4	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	隆帯による横楕円文構成か、隆帯に沿って短沈線文。	曾利 2
5	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	砂粒	沈線による曲線文描きその間には垂下文。さらに上部には一對の円形刺突文。	後期
6	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	砂粒	2本単位の垂下無文帯、縄文は縦位RL施文。	加曽利E 3
7	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	2本単位の垂下無文帯、縄文は縦位RL施文。	加曽利E 3
8	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	全面に縄文RLを縦位施文、部分的に無文部分が見られる。	中期後半
9	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	刺突文施文。	三十稲場

5-90号住居跡 (第158・159図: PL143)

1	深鉢	口縁部	覆土	淡茶褐色	砂粒	口縁部波状となり環状および橋状取手を形作る。橋状取手から左右に隆帯が延び、区画文様を構成。中に縄文を施文。	称名寺
2	深鉢	口縁部	覆土	暗灰褐色	砂粒	口縁下に沈線による弧状文様か、縄文施文。器面風化。	後期
3	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	沈線による矩形文描き縄文充填施文。	後期
4	深鉢	胴部	床面	黄褐色	微砂粒	隆帯による無文帯画し、矩形文様構成か、文様内には縄文施文。	堀之内 1
5	深鉢	胴部	Pit11内	灰黒色	砂粒	縄文地に垂下波状沈線文。	加曽利E 2
6	深鉢	胴部	床面	黒褐色	砂粒	幅狭の口状文垂下、地には縄文LRを縦位。	後期
7	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	沈線による重楕円文様。	堀之内 1
8	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	2本単位の磨り消し波状沈線、地文には縦位の集合条線文。	曾利 3
9	深鉢	胴部	Pit13内	黄茶褐色	砂粒	垂下沈線で画し、沈線によるU状文、蕨手文が垂下、縄文地文とする。	加曽利E 3
10	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	微砂粒	磨り消し曲線文様。	称名寺
11	深鉢	胴部	覆土	黄茶褐色	微砂粒	沈線による矩形文様。	後期
12	深鉢	胴部	炉内	灰黒色	精製	沈線文、刺突文見られる。器面研磨。	後期
13	深鉢	胴部	床面	灰黒色	砂粒	隆帯による剣先文、地文には縦位の集合沈線。	曾利 2
14	深鉢	胴部	炉内	淡黄褐色	砂粒	隆帯による楕円、渦巻き文。楕円文内には縦位の集合沈線。	加曽利E 2
15	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	沈線による曲線文。	称名寺
16	深鉢	胴部	覆土	暗灰褐色	砂粒	押圧文。	後期
17	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	爪形状の刺突文。	三十稲場
18	鉢形土器	胴部	炉内	灰黒色	精製	刻みを有す細い隆帯を横位に廻らす。内外面丁寧な研磨。	堀之内 2
19	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	精製	無文、18の胴部片。	後期
20	深鉢	口縁部	覆土	暗赤褐色	精製	無文口縁部片、赤彩。	後期

5-91号住居跡 (第161図: PL143)

1	鉢形土器	口縁～胴部	覆土	暗茶褐色	赤褐色粒	口縁部無文で、隆帯により画され、隆帯の一部が突起しそこから隆帯による釣状懸垂文。さらに弧状文が描かれる。地には縄文LRが充填施文される。	加曽利E 4
2	深鉢	口縁～胴部	覆土	暗褐色	砂粒多	口縁部隆帯で無文帯を画し、2本単位の磨り消し隆帯が垂下。地文にはLR縄文施文。	加曽利E 4
3	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	口縁に2本単位の横位沈線廻らし間には横位連続押圧文付す、以下縄文地に2本単位の沈線による磨り消し曲線文様を描く。	加曽利E 4
4	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	3と同一個体。	加曽利E 4
5	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	微砂粒	沈線で画された口縁部に列点状の押圧文。以下縄文地文に沈線による曲線文様描く。	加曽利E 4
6	鉢形土器	胴部	覆土	茶褐色	赤褐色粒	幅広の磨り消し帯を微隆帯で描く。地文にはLR縄文。	加曽利E 4
7	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	沈線による対向するU状文を2段に描き、区画内は縄文を充填施文。	加曽利E 4

第3章 検出された遺構と遺物

No	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
8	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	2本の沈線によるU状文を上段に、下段は〇状文描く。	加曽利E 4
9	深鉢	口縁部	床面	灰褐色	微砂粒	口唇に刻みを有す、沈線による磨り消し重三角文。	堀之内2
10	深鉢	胴部	覆土	暗灰褐色	微砂粒	刺突文伴う横位隆帯。	中期後半
11	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁部外側に折り返され内外面肥厚、以下無文。	中期後半
12	深鉢	取手	覆土	茶褐色	砂粒	環状取手片か。	不明
13	鉢形土器	胴～底部	床面	暗茶褐色	赤褐色粒	小振りの底部から胴部は大きく開く。縄文LR施文。	加曽利E 3

5-92号住居跡 (第164・165図：PL143・144)

1	深鉢	口縁部	覆土	灰茶褐色	金雲母	隆帯による楕円渦巻き文、楕円文内には縦位LR縄文を施文。	唐草文系
2	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	金雲母	隆帯による楕円渦巻き文、楕円文内には縦位LR縄文を施文。	唐草文系
3	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	砂粒多	口縁下に横位沈線が廻る。以下3本単位の沈線および波状沈線文が垂下。	曾利3
4	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	微砂粒	口縁部波状を呈す、沈線で口縁無文部を画し、以下磨り消し縄文による文様を構成か。	加曽利E 4
5	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	微砂粒	横位隆帯、胴部には2本沈線による幅狭の磨り消し帯。縄文は縦位のLRを充填施文。	加曽利E 2
6	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	横位波状隆帯から鈎状の懸垂文、上位には斜位の集合沈線、下位には縄文地に波状垂下沈線。	唐草文系
7	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒多	2本単位の垂下沈線で縦位に画し、さらに波状垂下沈線文。地文には縦位LR縄文施文。器面風化しざらつく。	加曽利E 3
8	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	砂粒多	沈線による山縣波状文を垂下させるが、1本単位と2本単位が見られ、2本のは対向し連続菱形文様を呈す。	加曽利E 3
9	深鉢	胴～底部	床面	暗茶褐色	砂粒多	2本単位の垂下沈線で縦位に画し、さらに波状垂下沈線文。地文には縦位LR縄文施文。7と同一個体。	加曽利E 3
10	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	微砂粒	隆帯による弧状文、隆帯に沿って沈線が付される。以下胴部は縦位の集合沈線文。	曾利3
11	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	小波状を呈す、楕円渦巻き文を構成、中には縦位の集合沈線文。	唐草文系
12	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	口縁部内側に断面三角に突起、隆帯による渦巻き垂下文から左右に隆帯が延びる。矢羽根状の集合沈線。	唐草文系
13	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	口縁部肥厚、隆帯による渦巻き文描き左右に隆帯が延びる。斜行集合沈線文。	唐草文系
14	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	砂粒	口縁に楕円区画文、中には斜位の集合沈線を充填。	曾利3
15	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	砂粒	隆帯による楕円渦巻き文を構成、中には矢羽根状の横位集合沈線を施文。	曾利3
16	深鉢	口縁部	床面	暗茶褐色	砂粒多	隆帯による楕円区画文、中には横位沈線および沈線によるコンパス文、刺突文が見られる。胴部は矢羽根状沈線文。	唐草文系
17	深鉢	口縁部	覆土	淡褐色	微砂粒	隆帯による蛇行文様に沿って交互刺突文や渦巻き文を描く。	中期後半
18	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	隆帯による重楕円文か、縦位の刻み文。	曾利3
19	深鉢	口縁部	覆土	淡褐色	微砂粒	口縁下に隆帯による蕨手文描き、底から左右に隆帯が延びる。以下胴部には縦位綾杉文。	曾利2
20	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	隆帯による連弧状文から懸垂鈎状文。弧状文内には縦位の集合沈線。	唐草文系
21	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁部内側に肥厚、斜位の集合沈線文。	曾利2
22	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	口縁部波状を呈し突起文が付される、隆帯により弧状文描き、内側には交互刺突文有す両端渦巻き文様。器面の剥落顕著。	唐草文系
23	深鉢	口縁部	床面	暗褐色	微砂粒	4単位の突起を有し、口縁部には隆帯により、波頂下に渦巻き文有す波状文。さらに胴部には蕨手文が垂下。地文には斜位の集合沈線を充填する。	唐草文系
24	深鉢	口縁～胴部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	隆帯によるS状渦巻き文が口縁部突起状に付され、さらに口縁からY字状の隆帯文様が垂下。地には集合沈線文。	唐草文系
25	深鉢	口縁～胴部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	隆帯によるS状渦巻き文が口縁部突起状に付され、地には鱗状に集合沈線文。24と同一個体。	唐草文系
26	深鉢	胴部	床面	黒褐色	砂粒	横位の隆帯からS字状懸垂文、地文には斜位、弧状の集合沈線文。	唐草文系
27	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒多	横位の隆線、下位には縦位の集合沈線。	曾利3
28	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	隆帯による重弧状文、以下縦位の集合沈線文。	曾利3
29	深鉢	胴部	覆土	橙褐色	微砂粒	隆帯による矩形の区画文構成か、以下横位に2本の隆帯が廻る。区画文内には縦位の太沈線文。	中期後半

5-93号住居跡 (第169・172～174図：PL145・146)

1	深鉢	口縁～胴部	覆土	黒褐色	砂粒	口縁部文様は、隆帯による楕円、渦巻き文描き、胴部は垂下沈線で画した無文帯による縦位区画、縄文は楕円文内、胴部ともにRLを縦位施文。	加曽利E 3
2	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	金雲母粒	隆帯による楕円渦巻き文。楕円文内には縄文施文。胴部は2本の垂下沈線により画され、縄文LRを縦位施文。	加曽利E 3古
3	深鉢	口縁～胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	懸垂渦巻き文が連続し、胴部は3本単位の垂下沈線による磨り消し文様帯。縄文はRLを縦位施文する。	加曽利E 3
4	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	微砂粒	小波状口縁、隆帯による楕円渦巻き文を構成。縄文LR縦位施文。	加曽利E 3
5	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	砂粒	小波状口縁呈す、波頂下に楕円文、中には縄文施文。	加曽利E 3
6	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒多	隆帯による楕円渦巻き文。楕円文内には縄文施文。	加曽利E 3
7	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	隆帯による楕円、渦巻き文構成か。口縁上端に凹線が廻る。	加曽利E 3
8	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	小波状口縁呈す、波頂下に渦巻き文を描く。	加曽利E 3

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
9	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	砂粒	小波状を呈す、渦巻き隆帯文様	加曽利E 3
10	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	小波状口縁、隆帯による楕円渦巻き文を構成か。縄文施文。	加曽利E 3
11	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	金雲母	小波状口縁呈す、波頂下に楕円文、中には縄文施文。	加曽利E 3
12	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	砂粒	隆帯による楕円文か。	加曽利E 3
13	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	微砂粒	隆帯による矩形楕円文構成か。縄文LRを施文。	加曽利E 3
14	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	砂粒	波状口縁の波頂部で内湾する、隆帯による円形を基調とする文様を描出する。	中期後半
15	深鉢	胴部	覆土	橙褐色	砂粒	縄文LRを縦位施文後、3本単位の沈線による磨り消し垂下。	加曽利E 3古
16	深鉢	口縁～胴部	覆土	茶褐色	砂粒	突起状の小波状口縁、波頂下には隆帯による垂下蕨手文配し、左右には縄文充填の∩状文を配す。	曾利 3
17	小型深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	口縁部を欠く、胴部には沈線による蕨手文、∩状文を交互に垂下させる。	加曽利E 3
18	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	金雲母	波状口縁の波頂部、隆帯により楕円渦巻き文描く、楕円文内には縦位の集合沈線。	唐草文系
19	深鉢	口縁～胴部	床面	暗褐色	砂粒	幅広の無文口縁で隆帯による楕円渦巻き文を構成するが、やや矩形を呈す。区画内は縄文施文。以下胴部には縦位条線文。	加曽利E 3
20	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	微砂粒	波状口縁、波頂下に隆帯による渦巻き文。	唐草文系
21	深鉢	口縁部	覆土	淡褐色	砂粒	口縁下に2本単位の隆帯による渦巻き弧状文配し、地文には矢羽根状沈線文。	唐草文系
22	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	口縁下に押圧文有す隆帯が廻る、以下沈線文様か。	加曽利E 3
23	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁に刺突文、横位の沈線か。器面の荒れが著しい。	不明
24	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	押圧文を有す隆帯による横位連結楕円文。	加曽利E 2
25	深鉢	口縁部	覆土	色調	胎土	横位隆線に沿って刺突文。	称名寺 1
26	深鉢	口縁部	床面	灰黄褐色	微砂粒	横位隆線に沿って刺突文。	称名寺 1
27	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	横位2本の沈線間が隆帯状を呈し、刺突文が付される。以下胴部は縦位の集合条線。	加曽利E 3
28	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	口縁部は短く外反、隆帯による渦巻き文から2本の隆帯が両側に繋がる。外面に赤彩痕。	加曽利E 3
29	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	刻みを有す隆帯で渦巻き文を描く、さらに下位に繋がる垂下隆帯が見られる。	曾利 2
30	深鉢	口縁部	炉内	淡茶褐色	微砂粒	小波状を呈す、口縁部、沈線で画し連続刻み文、以下縄文地文に曲線文様描く。	称名寺 1
31	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	微砂粒	口縁下に横位の沈線廻り、沈線による∩状文を描き内部を磨り消す。縄文は横位および縦位にRL施文。	称名寺 1
32	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	石英粒	口縁部欠、沈線で縦位無文帯を画す、無文帯間には縄文RLを縦位充填施文し、沈線による波状懸垂文。	加曽利E 3
33	深鉢	胴～底部	床面	茶褐色	砂粒	縄文RLを縦位施文後、2本の沈線による8単位の幅狭磨り消し帯。	加曽利E 3
34	深鉢	胴～底部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	沈線で幅狭な縦位無文帯を画す、無文帯間には縄文RLを縦位充填施文。	加曽利E 3古
35	深鉢	胴～底部	床面	黄褐色	砂粒	沈線で幅狭な縦位無文帯を画す、無文帯間には縄文RLを縦位充填施文。	加曽利E 3古
36	深鉢	底部	覆土	茶褐色	砂粒	3本単位の沈線による無文帯、地文にはRLを縦位施文。	加曽利E 3古
37	深鉢	胴～底部	覆土	茶褐色	砂粒	沈線で縦位無文帯を画す、無文帯間には縄文RLを縦位充填施文。二次的に火を受けている。	加曽利E 3古
38	深鉢	胴～底部	覆土	茶褐色	砂粒	沈線で縦位無文帯を画す、無文帯間には縦位の波状集合沈線。	加曽利E 3
39	深鉢	胴～底部	覆土	茶褐色	砂粒	沈線で縦位無文帯を画す、無文帯間には縄文RLを縦位充填施文。底部わずかに丸みを有す。	加曽利E 3
40	深鉢	底部	覆土	黒褐色	砂粒	無文の底部片、下端部がやや張り出す、底面、胴部に研磨痕。	中期後半
41	深鉢	口縁～胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	口縁部は短く立ち上がり、肩部に廻る2本の隆帯に等間隔に橋状取手が見られる。胴部には幅広沈線による渦巻きを基調とする文様を描く。赤彩。	加曽利E 3
42	深鉢	口縁～胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	口縁部は短く立ち上がり、肩部に廻る3本の隆帯に等間隔に橋状取手が見られる。胴部には幅広沈線による渦巻きを基調とする文様を描く。赤彩。	加曽利E 3
43	深鉢	胴部	床面	黄褐色	砂粒	口縁部文様帯を画す隆帯が肥厚、端部渦巻き沈線施文。	加曽利E 3古
44	深鉢	口縁部	覆土	黒色	砂粒	弧状に付された隆帯からY字状の隆帯が垂下、地文には太い縦位沈線、さらに隆帯に沿って刺突文が見られる。	曾利 2
45	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	沈線による楕円文を構成、中には縦位の沈線文。	曾利 3
46	深鉢	胴部	埋甕	黒褐色	微砂粒	隆帯による渦巻き文と∩状文を交互に4単位垂下させ、これらを繋ぐ平行沈線文が多段施文。地文は渦巻き垂下文内は横位、その他には縦位の集合沈線文。	曾利 3
47	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	磨り消し縄文により曲線文。	称名寺 1
48	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	微砂粒	沈線による曲線文描き縄文充填。	称名寺 1
49	深鉢	胴部	Pit 3	淡黄褐色	微砂粒	2本沈線で無文帯を描く、地文には極めて細い原体の縄文RLを充填施文。	後期
50	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	精製	くの字に折れる頸部片、肩部に沈線による曲線文様。	堀之内 1
51	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	砂粒	口縁上に円形文、以下縦位、斜位方向に沈線文。	堀之内 1

第3章 検出された遺構と遺物

No	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
52	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	精製	口縁部に沈線、刺突文施す。以下沈線による曲線文か。	堀之内2
53	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	沈線による曲線文にそって刺突文が見られる。	称名寺1
54	深鉢	胴部	覆土	赤褐色	精製	無文地に横位に2本沈線。内外面研磨。	堀之内2
55	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	沈線による斜格子文が描かれる。器面剥落。70と同一個体。	後期
56	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	微砂粒	横からの刺突文充填。	三十稲場
57	深鉢	取手	覆土	灰黒色	砂粒	大きく突起した上端部分は円形を呈し、隆帯による渦巻き文が描かれる、端部は折り返され橋状を呈すと見られ、両側には渦巻き文様が見られる。	曾利2
58	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	微砂粒	無文、内外面赤彩。59は同一個体片。	加曾利E3
59	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	微砂粒	無文、内外面赤彩。	加曾利E3
60	浅鉢	口縁部	覆土	赤褐色	微砂粒	口縁部厚し内外面研磨。	加曾利E3
61	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	無文の口縁部片、内外面研磨。	後期
62	浅鉢	口縁～胴部	覆土	茶褐色	砂粒多	口縁部に横位の沈線廻る。内外面研磨。	加曾利E3
63	深鉢	底部	覆土	灰黒色	微砂粒	無文底部片、内面に厚く炭化物付着。	不明
64	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	刻みを有す横位隆線、以下磨り消し縄文による曲線文様描く。	堀之内2
65	深鉢	口縁部	覆土	淡褐色	砂粒	刻みを有す横位隆線廻り、横位の磨り消し縄文帯。	堀之内2
66	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	刻みを有す横位隆線文。	堀之内2
67	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	精製	口縁下に刺突文有す横位隆線、横位の磨り消し縄文帯。	堀之内2
68	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	横位磨り消し縄文、横位隆線が付されていたものと見られるが剥落している。	堀之内2
69	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	3本単位の沈線による横位波状文様描くか。	加曾利E4
70	深鉢	胴部	覆土	暗赤褐色	精製	横位細隆線上に連続刻み、隆帯間を赤彩。	後期
71	深鉢	口縁部	覆土	淡橙色	砂粒	口縁下に刻みを有す横位隆帯廻る。	堀之内2
72	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	小波状口縁、波状部に刺突を有す添付文、沈線による横位曲線文を描く。	堀之内2
73	浅鉢	口縁部	覆土	淡褐色	精製	波状部は内側に屈曲、無文。	堀之内2
74	小型深鉢	口縁部	覆土	赤褐色	精製	口縁部片、内外面赤彩。	後期
75	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	砂粒	沈線で画した縄文帯による三角文様画く。	堀之内2
76	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	口縁下に横位の隆帯廻らし以下磨り消し縄文による矩形文。	堀之内2
77	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	沈線による磨り消し曲線文。	堀之内2

5-94号住居跡(第179~181図:PL148)

1	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	隆帯による楕円、渦巻き文。	加曾利E3
2	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	隆帯による楕円渦巻き文か。	加曾利E3
3	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	隆帯による楕円文内に縄文施文。	加曾利E3
4	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	平行する縦位の隆帯間に隆帯による楕円文。地文に一部縄文が見られる。	後期
5	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	沈線による蕨手文頭部、縄文帯。	加曾利E3
6	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	砂粒	隆帯で画される縦位磨り消し縄文。縄文は縦位LR施文。	加曾利E3
7	深鉢	胴部	覆土	黒色	微砂粒	縦位縄文帯、磨り消し無文帯。	加曾利E3
8	深鉢	胴部	覆土	橙黄褐色	砂粒	垂下沈線による無文帯および縄文帯。	加曾利E3
9	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	沈線による∩状文描き縄文LRが充填施文されている。	加曾利E4
10	深鉢	胴部	覆土	淡茶褐色	砂粒	沈線による曲線文描き、縄文施文。	称名寺1
11	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	縄文施文、一部に隆帯文が見られる。	後期
12	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	縄文施文。	中期後半
13	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	微砂粒	縄文LRを縦位帯状施文。	中期後半
14	深鉢	胴部	覆土	赤褐色	砂粒	約半面に縄文が施文されている。	後期
15	深鉢	口縁部	覆土	淡茶褐色	微砂粒	隆帯による渦巻き文、刺突文を伴う突起状の波頂部片。波頂下には隆帯から続く磨り消し縄文。	称名寺1
16	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	精製	口縁部は外反し受け口状を呈し、刺突文有す橋状の取手が付く。取手下位からは上下に刺突文を伴う隆線が横に延びる。以下沈線による磨り消し文様を描く。	堀之内1
17	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	微砂粒	波頂部片、刺突文、沈線が見られる。表面の風化著しい。	堀之内1

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No.	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
18	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	精製	屈曲する頸部片、円形の貼付文を縦列に配しそこから縦、横方向に隆線が延びる。	堀之内1
19	深鉢	取手	覆土	黒褐色	砂粒	紡錘形の環状取手、側面、内面に沈線によるS字文が描かれる。	称名寺
20	深鉢	取手	覆土	淡黄褐色	精製	筒状に延びた環状取手片、表面研磨痕。取手下部左右に刺突文見られる。	後期
21	深鉢	取手	覆土	淡褐色	微砂粒	上向きに開く渦巻き状を呈す。	後期
22	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	微砂粒	磨り消し縄文による矩形文。	称名寺1
23	深鉢	胴部	覆土	黒色	精製	刻みを有す横位の隆帯と8字貼付文。以下沈線による横位の縄文充填文。	堀之内2
24	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	微砂粒	横位の刻み隆帯、8字文付され以下、沈線による磨り消し縄文による文様描く。	堀之内2
25	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	精製	沈線で画した縄文充填文で三角文描く。	堀之内2
26	壺形土器	胴部	覆土	灰黒色	精製	沈線による渦巻き文、矩形文描き縄文施文後刺突文付す。器面研磨。	堀之内1
27	壺形土器	胴部	覆土	灰黒色	精製	沈線による渦巻き文、矩形文描き縄文施文後刺突文付す。	堀之内1
28	小型鉢形土器	胴部	覆土	暗褐色	微砂粒	押圧文有す横位の隆帯、以下縄文地に沈線で四角文、同心円文を描き、さらに横位の沈線で底部を画す。	堀之内1
29	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	微砂粒	2本単位の隆帯による曲線文、地文には斜めの集合沈線を充填。	唐草文系
30	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	沈線による縦位、曲線文を描く。	堀之内1
31	深鉢	口縁部	覆土	淡茶褐色	微砂粒	口縁下に横位の沈線、曲線文描き、文様間には刺突文がT状に付される。32は同一個体片。	称名寺2
32	深鉢	胴部	覆土	淡茶褐色	微砂粒	横位沈線、T状に付された刺突文。	称名寺2
33	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	沈線文による曲線文様描き、刺突文施文。	称名寺2
34	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	白色砂粒	刺突列文。	中期後半
35	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	白色砂粒	刺突列文。	中期後半
36	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	精製	横位の押圧隆帯。	後期初頭
37	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	低い隆帯がT字状に付される。	後期初頭
38	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	微砂粒	横位の隆帯に円形貼付文。	後期初頭
39	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	横位の隆線、以下無文。	後期初頭
40	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	横位の隆帯。	後期初頭
41	深鉢	口縁部	覆土	淡橙色	微砂粒	無文の口縁部片。	中期後半
42	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	沈線を伴う隆線による曲線文で磨り消し文様を描く。	後期
43	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	微砂粒	無文地に横位の沈線。	中期後半
44	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	精製	無文、縦位方向の磨き。	後期
45	深鉢	底部	覆土	茶褐色	微砂粒	縦位の縄文および無文帯。	加曾利E3
46	深鉢	底部	覆土	暗茶褐色	砂粒	縦位の磨り消し縄文帯。	加曾利E3
47	深鉢	底部	覆土	灰褐色	微砂粒	縦位の沈線文。	加曾利E3
48	深鉢	底部	覆土	茶褐色	砂粒	細沈線による縦位無文帯、および縄文帯が見られる。	加曾利E3
49	深鉢	底部	覆土	淡褐色	砂粒	無文の底部片。	後期か
50	深鉢	底部	覆土	茶褐色	砂粒	無文の底部片。	中期後半
51	浅鉢	底部	覆土	淡黄褐色	精製	内外面研磨、底面に網代痕。	後期
52	小型深鉢	底部	覆土	橙褐色	砂粒	小型品の底部、器面の風化が著しい。	後期か
53	注口土器	注口部	覆土	淡褐色	精製	円筒状の注口部片、膨らみは弱く、先端部欠損している。	後期
5-95号住居跡 (第183図: PL149)							
1	深鉢	口縁～胴部	炉内	茶褐色	砂粒	沈線による矩形文様描き刺突文を配す。口縁部内側に肥厚。	堀之内1
2	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	砂粒	沈線による渦巻き文様描く、地文には縄文施文。	堀之内1
3	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	砂粒	刺突文有す。	三十稲場
5-96号住居跡 (第185図: PL149)							
1	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	口縁部に隆帯による無文帯を画し、以下縄文施文された沈線による口状文か。	加曾利E4
2	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	口縁部に連続突文有す横位平行隆線、これを繋ぐ8字地文が見られ、以下磨り消し縄文による矩形文描く。口縁部内側にも横位隆線が廻る。	堀之内2
3	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	精製	沈線による矩形文、縄文施文。	堀之内2
4	深鉢	底部	覆土	淡黄褐色	砂粒	被熱による器面の風化著しい、底面に網代痕。	後期

第3章 検出された遺構と遺物

No	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
5	土製円盤	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	小型の円盤状、沈線文見られる。	後期
5-97号住居跡 (第187図: PL149)							
1	深鉢	口縁部	Pit 5	暗茶褐色	砂粒	横位沈線下に縄文施文。	加曽利E 4
2	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	砂粒	くの字に内屈し、横位に肥厚隆帯廻り無文口縁帯。	称名寺2
3	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	縦位併行沈線で無文帯を画す、縄文RLを縦位施文。4・5は同一個体。	加曽利E 3
4	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	縦位併行沈線で無文帯を画す、縄文RLを縦位施文。	加曽利E 3
5	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	縦位併行沈線で無文帯を画す、縄文RLを縦位施文。	加曽利E 3
6	深鉢	口縁部	覆土	黒色	精製	三本単位の沈線により平行線文、曲線文描く、地文には縄文LRを斜位に施文。	堀之内1
7	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	精製	沈線による矩形文描く。薄手の作りで硬質。	称名寺2
5-98号住居跡 (第191・192図: PL149・150)							
1	深鉢	口縁~胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	4単位の小波状口縁を呈すと思われる。波頂下に隆帯による渦巻き文、間には横長の楕円渦巻き文を描く、胴部は白文、蕨手文を太い沈線で描く。それぞれの文様内は縄文LRを多方向施文する。	中期後半
2	深鉢	胴~底部	床面	明褐色	微石英粒	6本の隆帯による幅狭のU状垂下文、これを繋ぐように弧状文を付しその上位には縦S字文。地文には粗い縦位の集合沈線が施文される。	唐草文系
3	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微石英粒	小波状口縁を呈す、波頂下に隆帯による渦巻き文を描く。舌状の波状部分はやや外反する。	加曽利E 3
4	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	微砂粒	隆帯による弧状楕円文、縄文施文される。	加曽利E 2
5	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	口縁に横位、胴部には波状の沈線文様を描く、縄文地文。口縁部内湾。	加曽利E 4
6	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	隆帯による楕円文を画す。	加曽利E 3
7	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	微砂粒	口縁部肥厚隆帯廻り無文帯を画し、以下縄文施文。	称名寺1
8	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	隆帯による楕円文か、縄文RL横位施文。	加曽利E 3
9	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁部に肥厚隆帯。器面荒れている。	後期
10	深鉢	口縁部	覆土	黒色	金雲文粒	やや肥厚する口縁下に隆帯による渦巻き文描く。	曾利2
11	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	微砂粒	太い隆帯が垂下し、両側には撫で状の沈線、刺突文が見られる。	中期後半
12	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	垂下する2本の沈線により幅狭の無文帯を画す、縄文RLを縦位施文する。	加曽利E 3
13	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	微砂粒	やや斜めに走る隆帯を有す。	
14	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	微砂粒	3本の垂下沈線。	加曽利E 3
15	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	やや外反する無文口縁部。	後期
16	深鉢	胴~底部	覆土	茶褐色	微砂粒	胴部は大きく開く器形を呈す、隆帯によるU状文が配され、間には縄文が施文される。	加曽利E 4
17	深鉢	底部	覆土	淡褐色	砂粒	縦位2本の沈線による無文帯。	加曽利E 3
18	深鉢	突起部	覆土	茶褐色	砂粒	大きく立ち上がる突起部片、沈線による渦巻きを基調とした文様が描かれる。	曾利2
5-99号住居跡 (第195・196図: PL150・151)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	波状を呈す、沈線による渦巻き文、楕円文を描き、楕円文内には縄文充填施文。胴部は無文でやや薄手の作りである。	加曽利E 3
2	深鉢	口縁~胴部	覆土	黄褐色	砂粒	大型品、隆帯によるやや扁平な楕円渦巻き文描く、胴部は2本の沈線による幅狭の磨り消し帯が見られる。器面はかなり風化。	加曽利E 3
3	深鉢	口縁部	覆土	淡茶褐色	微砂粒	小波状口縁を呈す、波頂部分は外側にほぼ水平に突き出て上面には浅い沈線文描き、波頂下にも渦巻き文を描く。	加曽利E 3
4	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	隆帯による楕円、渦巻き文を構成か。	加曽利E 3
5	深鉢	口縁~胴部	覆土	黒褐色	砂粒	口縁に横位沈線が廻る、以下3本単位の沈線により磨り消し横位波状文を描く。縄文はRLを縦位施文。	加曽利E 3新
6	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	楕円文様を構成、縄文RLを横位施文。	加曽利E 3
7	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	口縁に沿って浅い沈線および波状文様を構成か、地文には縄文縦位RL施文。	加曽利E 3
8	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	口縁部はくの字に内屈し無文、以下縄文LRを縦位施文。	称名寺
9	深鉢	口縁部	床面	黒褐色	砂粒	全面に縄文RLを縦位施文後、沈線による紡錘文様を描くか。	加曽利E 4
10	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	微砂粒	口縁に横位沈線文。	後期か
11	深鉢	胴部	Pit13内	暗茶褐色	砂粒	2本単位の横位沈線帯で多段に画し、区画内は縦位縄文RL縄文施文後に2本単位の沈線による横波状文が描かれる。	中期後半
12	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	沈線による楕円文構成か。以下磨り消し縄文帯。	加曽利E 3
13	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	4本単位の沈線により曲線文様を描く、区画された文様内には縄文施文。	加曽利E 3
14	深鉢	口縁~胴部	覆土	黒褐色	砂粒	3本単位の沈線による横位波状文。地文にはRL縄文施文。5の胴部か。	加曽利E 3
15	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	沈線による幅狭の無文帯、縄文帯には垂下波状沈線文描く。	加曽利E 3
16	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	隆帯による楕円文、渦巻き文を構成、楕円文内には縦位の集合沈線が充填、区画隆帯下には交互刺突文。	曾利2
17	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	口縁直下に横位の隆帯廻らし、以下2段に交互刺突文、また隆帯の渦巻き文を配す。以下羽状の沈線文。	曾利3

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
18	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	隆帯による \cap 状文、これに繋がる2本単位の横位沈線。	曾利2
19	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	微砂粒	隆帯による渦巻き文描き、下方に2本の隆帯が垂下、地文には横位に2本単位の沈線、間は縦位の沈線が充填。	曾利2
20	深鉢	胴部	床	黄褐色	砂粒	刻み文を有す隆帯によるU状文を配し、中にやはり隆帯による垂下波状文。文様内には斜位の集合沈線文。	曾利2
21	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	金雲母	2本の垂下隆帯で幅狭の無文帯を画し、斜位、縦位の集合沈線を施文する。	曾利3
22	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	金雲母	隆帯によるU状文を描き、文様内および間隙を横位の集合沈線で埋める。	曾利2
23	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	口縁が内湾する無文土器。	中期後半
24	深鉢	胴～底部	床面	茶褐色	砂粒	縦位、斜位に浅い沈線配す。	曾利3
25	深鉢	底部	覆土	淡茶褐色	小砂礫粒	無文、底面研磨。	
5-100号住居跡 (第201～204図：PL151・152)							
1	深鉢	口縁～胴部	覆土	黒褐色	微砂粒	4単位の渦巻き突起文、口縁部には隆帯による楕円、渦巻き文描き縄文を充填する。文様帯下には \cap 形文、無文帯が見られ、以下胴部には沈線による \cap 状文、縦S字文が交互に縦位区画で描かれ \cap 内には縄文RLが縦位施文される。	加曾利E3
2	深鉢	口縁～胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	口縁部には隆帯による横渦巻き文が描かれ、渦巻き文間の弧状部分には縄文が充填される。胴部は沈線による縄文、無文帯の縦位区画がなされ、無文帯には縦S地文が縦列に描かれ、縄文部には蕨手文さらには縦楕円文が描かれる。	加曾利E3
3	深鉢	口縁～胴部	覆土	茶褐色	砂粒	口縁部には隆帯による楕円渦巻き文様を構成、胴部は沈線によりH状文様を意匠した磨り消し文様を構成する。文様間は沈線で \cap 状、釣状に画された縄文施文文様。さらに沈線による縦列のクランク文様を描く。	加曾利E3古
4	深鉢	口縁～胴部	床面	淡黄褐色	砂粒	口縁に沈線廻り、以下無文地に3本の沈線によるやや不規則な波状文描く。以下、胴部にはLR縄文を縦位充填し、やはり不規則な横位波状沈線文。	加曾利E3
5	深鉢	口縁～胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	隆帯による横楕円渦巻き文を配す。胴部には2本の垂下沈線で幅狭の無文帯を画し間は縦位のLR縄文を施文。	加曾利E3
6	深鉢	口縁部	床面	淡褐色	砂粒	隆帯による楕円文構成、楕円文内には縄文LRを多方向施文、連結部には3個の縦列 \cap 形文を付す。以下胴部は2本の垂下沈線による磨り消し帯で縦位区画、区画内には縦位LR縄文を充填施文。	加曾利E3古
7	深鉢	口縁～胴部	覆土	茶褐色	砂粒	隆帯による組合せ楕円文様を構成、以下胴部には2本単位の垂下沈線で画した無文帯で縦位区画。間には縄文LRを縦位充填施文し、波状垂下沈線。	加曾利E3
8	深鉢	胴部	床面	淡褐色	砂粒	口縁部文様部を欠く、胴部には2本の垂下沈線による磨り消し帯で縦位区画、間は縄文LRを縦位施文後上端が渦巻きの波状懸垂文を描く。	加曾利E3古
9	深鉢	口縁～胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	波状口縁であるが波頂部を欠損、波頂下に沈線による \cap 形文描き縄文を充填、以下沈線による波状文 \cap 状文、蕨手文。文様内縄文RL縦位施文。	加曾利E3
10	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	砂粒	全面に縄文RL、口縁部は横位、以下縦位施文後、2本の沈線で波状文様描き、沈線間を磨り消す。	加曾利E3末
11	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	砂粒	口縁に沿って沈線が廻る、以下縄文LRを斜位に施文。	
12	深鉢	胴部	炉内	淡黄褐色	微砂粒	口縁部は無文で内傾して立ち上がる。断面三角の大きく張り出した鏝はやや上向きに付けられ、橋状取手が付される。取手は下部が二股になり、沈線文刺突文等で飾られ、上位には縦方向の円孔が見られる。胴部は隆帯による渦巻き文様を描かれ、間隙に縄文が見られるが、回転せずに側面を押しつけ施文しており、沈線を意識か。	曾利2
13	鉢形土器	胴部	床面	灰黒色	砂粒	口縁部は無文、肩部に隆帯が肥厚する渦巻き文と楕円文を配す。以下胴部には縦位の集合条線文。	加曾利E3
14	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒多	無文の肥厚口縁部、楕円区画文。器面風化顕著。	唐草文系
15	深鉢	口縁～胴部	炉内	茶褐色	小砂礫粒	口縁部に楕円文、中には縦位の条線文。16は同一個体。	加曾利E3
16	深鉢	口縁～胴部	炉内	茶褐色	小砂礫粒	口縁部に楕円文、中には縦位の条線文。	加曾利E3
17	深鉢	口縁～胴部	覆土	淡褐色	砂粒	口縁に \cap 状の突起を有し、突起下に弧状に浅く凹線描き中央が肥厚。器面に縦位条線を施文後沈線による横位波状文、 \cap 状文描き間には蕨手文が描かれる。	加曾利E3
18	浅鉢	口縁～胴部	床面	暗灰褐色	精製	口縁内傾、鏝状に肥厚した隆帯が廻り何カ所か橋状取手設ける。隆帯から繋がる大、小の渦巻き文を構成し。器面に赤彩痕。	加曾利E3
19	深鉢	口縁部	覆土	灰色	砂粒	小波状口縁、隆帯による \cap 形文、楕円文を構成か、以下縦位の条線文。二次的に火を受ける。	加曾利E3
20	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	隆帯による楕円渦巻き文様を描き、区画内には縦位の集合沈線文。	曾利2
21	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	口縁部文様の隆帯部か、以下縦位の条線文。15・16と同一個体か。	加曾利E3
22	浅鉢	口縁部	床面	灰褐色	砂粒	口縁下に横位沈線廻り、以下縦位の集合条線。赤彩痕。	加曾利E4
23	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	口縁内側に隆帯が廻る、隆帯による曲線文、渦巻き文が描かれ隆帯に沿って刺突文が付される。また曲線文様内には斜位の沈線文。	曾利2
24	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	砂粒	横位の隆帯区画内に楕円渦巻き文様。区画内には縦位の集合沈線文。	曾利2
25	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	口縁端部は平らに作られる。横位の沈線区画内に交互刺突文。	曾利3
26	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	横位に2本の隆帯が \cap 形文に繋がる。隆帯の上面に刻み列文。	唐草文系
27	深鉢	口縁部	覆土	淡茶褐色	砂粒	S状に屈曲する肩部、矢羽根状の刻みを有す横位隆帯、以下沈線による渦巻き文描き、縦位の沈線文。	唐草文系
28	深鉢	胴部	床面	茶褐色	砂粒多	横位隆帯下に沈線による縦位、弧状文。	唐草文系
29	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒多	沈線による渦巻き文弧状文、垂下は縄文が見られる。	唐草文系
30	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	押圧文有す横位肥厚隆帯、上下には縦位の併行沈線文。	中期後半

第3章 検出された遺構と遺物

No	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
31	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	縦位の集合半隆起線文。	曾利2
32	深鉢	取手	覆土	暗褐色	砂粒	耳状の突起片、表裏に沈線による渦巻き文有す	後期
33	深鉢	口縁部	覆土	淡褐色	微砂粒	内湾する無文の口縁部片。口唇部は角頭状を呈す。	後期
34	台付き土器	台部	覆土	茶褐色	砂粒	脚台部片、脚部に沈線、刺突文見られる。	中期後半
35	深鉢	底部	覆土	灰褐色	微砂粒	2本単位の縦位沈線文。6単位か。	加曾利E3
36	深鉢	底部	覆土	黄褐色	砂粒	無文の底部片。	中期後半
37	深鉢	底部	床面	茶褐色	砂粒多	厚手の底部片、無文。底面に白色の付着物。	中期後半
5-101号住居跡 (第209~211図: PL153・154)							
1	深鉢	口縁~胴部	床面	暗茶褐色	微砂粒	口縁部やや幅広の無文部有す、隆帯により楕円渦巻き文を描く、文様内は縦位、放射状に沈線文が施される。胴部には垂下沈線、綾杉状沈線文。	唐草文系
2	深鉢	口縁~胴部	床面	暗茶褐色	微砂粒	1の口縁部分。	唐草文系
3	深鉢	口縁~胴部	炉	黄褐色	微砂粒	隆帯で楕円文、渦巻き文様画す、楕円文内には横矢羽根状の沈線文。胴部には沈線による垂下文、弧状文様描き間隙を縦位矢羽根状沈線を施す。	曾利3
4	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	隆帯による楕円渦巻き文。縦位の集合沈線を充填施文。	曾利3
5	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	隆帯で楕円文様画し区画内は弧状の集合沈線を充填する。	曾利3
6	深鉢	口縁~胴部	床面	茶褐色	砂粒	隆帯による渦巻き文とこれに繋がる2本の垂下文、垂下文間は無文で、両側には斜位の集合沈線が見られる。	曾利3
7	深鉢	口縁部	床面	灰黒色	微砂粒	隆帯による渦巻き文とこれに繋がる垂下文。地文には浅い斜位の集合沈線が見られる。	曾利3
8	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	口縁部隆帯による楕円渦巻き文、楕円文内は縦位集合沈線。以下胴部には縦位波状沈線。	曾利3
9	浅鉢	口縁~胴部	炉	淡黄褐色	砂粒	口縁部やや内屈、隆帯により渦巻き文を基調とした文様を描く、文様内は縦位、放射状に沈線文が施される。	唐草文系
10	深鉢	胴部	炉	黄茶褐色	砂粒	2本単位の垂下降帯文、4か所に渦巻き文が見られる隆帯間には縄文RLが付されているが粗く、方向も不規則。	曾利2
11	深鉢	口縁部	床面	暗黒褐色	砂粒金雲母	楕円文区画、縄文充填施文。	加曾利E2
12	深鉢	口縁部	炉	淡黄褐色	砂粒	隆帯による横楕円文描き中は縄文が充填施文される。	加曾利E2
13	深鉢	口縁部	覆土	赤褐色	砂粒多	横位の隆帯および沈線が廻る、間は縄文充填施文。	中期後半
14	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	金雲母	口縁部外側に肥厚、横に隆帯が付され隆帯上位に沿って刺突文。	曾利2
15	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	口縁部に隆帯により楕円文様描き区画内は横矢羽根状の沈線及び中央には交互刺突文。口縁内側にも隆帯が廻る。	曾利2
16	深鉢	口縁部	床面	黒褐色	砂粒	口縁部に隆帯により楕円文様描き区画内は横矢羽根状の沈線及び中央には交互刺突文。口縁内側にも隆帯が廻る。	曾利2
17	深鉢	口縁部	床面	黒褐色	砂粒	口縁部に隆帯により楕円文様描き区画内は横矢羽根状の沈線及び中央には交互刺突文。口縁内側にも隆帯が廻る。楕円文から垂下降帯。	曾利2
18	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	砂粒	隆帯による楕円文構成か、横位沈線文、交互波状文見られる。	曾利2
19	深鉢	口縁部	覆土	淡褐色	微砂粒	口縁に交互刺突文廻る、さらに2本の沈線を垂下させ間には矢羽根状の刺突文配す。地文は縦位の縄文RLが施文される。	中期後半
20	深鉢	口縁部	床面	淡茶褐色	微砂粒	口縁部外側に肥厚し連続刺突文有す。	中期後半
21	深鉢	口縁部	炉	黄褐色	砂粒	口縁折り返され肥厚、以下細沈線による曲線文様を描く。	中期後半
22	深鉢	口縁部	炉	灰黒色	砂粒	口縁部やや肥厚、以下胴部には細沈線による連弧状文、垂下文を描き、縦位、斜位の沈線を粗く施文する。	曾利3
23	深鉢	口縁~胴部	床面	暗茶褐色	微砂粒	横位隆帯廻り口縁部無文帯を画す、以下2本の垂下降帯および沈線による凹状文描き、斜位の交互集合沈線文。	曾利3
24	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	隆帯による渦巻き曲線文を描く。	唐草文系
25	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	凹状の隆帯文、先端部からも隆帯が延びる。地文には矢羽根状沈線文。	曾利3
26	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	2本単位の隆帯で大きく円を描き、その間に垂下波状文が見られ、円形文から延びた鈎状文が繋がる。地文には縦位、斜位の集合沈線が見られる。	唐草文系
27	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	隆帯による渦巻き、曲線文を描き地文には斜位の集合沈線文。	唐草文系
28	深鉢	胴部	床面	黄褐色	砂粒	隆帯による渦巻き曲線文を描き、地文は斜位の集合沈線文、および交互刺突文見られる。	唐草文系
29	深鉢	胴部	炉	茶褐色	微砂粒	横位沈線から2本の隆帯および刻みを有す隆帯垂下、地文には縦位の矢羽根状沈線文。	唐草文系
30	深鉢	胴部	炉	黄褐色	砂粒	隆帯による剣先状文、2本単位の垂下文。地文には斜位の集合沈線。	唐草文系
31	深鉢	胴部	Pit 7	淡褐色	砂粒	横位隆帯および2本単位の隆帯で渦巻き文様構成。横位、縦位の集合沈線文、交互は縄文見られる。	唐草文系
32	深鉢	胴部	床面	暗黒褐色	砂粒	斜位の集合沈線文。	唐草文系
33	深鉢	取手	覆土	灰黄褐色	微砂粒	半円状の口縁部突起、両面に渦巻き文。	曾利3
34	深鉢	取手	Pit 3	淡褐色	微砂粒	三角形の口縁部突起、貼り付け隆帯による波状文、コイル状文を描く。	曾利2
35	深鉢	底部	覆土	黄褐色	砂粒	2本単位の垂下沈線が間隔を空けて見られる。	中期後半
36	ミニチュア?	底部	覆土	灰褐色	砂粒	小型土器の底部片、無文。	

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
37	深鉢	底部	覆土	淡黄褐色	砂粒	無文の底部片。	中期後半
5-102号住居跡 (第214図：PL154・155)							
1	深鉢	口縁部	埋甕	黒褐色	微砂粒	口縁部4単位の小波状を呈す、口縁文様は隆帯による横楕円渦巻き文、文様内には粗い縄文RLを施文。胴部には垂下沈線。	加曽利E 3
2	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	砂粒	口縁は無文で外反する、隆帯による楕円文を描き縄文RLを縦位施文。	加曽利E 3
3	深鉢	口縁部	埋甕	暗茶褐色	微砂粒	口縁下に沈線による∩状文、蕨手垂下文、地文には口縁部横位、以下縦位のRL縄文施文。	加曽利E 3
4	深鉢	口縁部	床面	暗黒褐色	微砂粒	口縁下に横位の隆帯を廻らす、以下縄文LRが縦位帯状に施文される。	加曽利E 3
5	深鉢	口縁部	床面	灰褐色	砂粒	波状を呈す、隆帯により肥厚する円形文を連結して描く、文様内には縄文を充填する。	加曽利E 3 古
6	深鉢	口縁部	覆土	暗灰褐色	砂粒	口縁部直下より縄文RLを横位全面に施文。	加曽利E 2
7	深鉢	胴部	覆土	灰黄色	砂粒多	縦位の磨り消し縄文帯。	加曽利E 3
8	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	細沈線による縦位紡錘文様描き、縄文が充填施文される。	加曽利E 4
9	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	やや内湾する口縁直下から斜めの集合沈線文。	曾利 2
10	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	口縁直下より縦位の集合沈線施文。	中期後半
11	香炉形土器	口縁～底部	床面	黒色	砂粒	胴部は外傾して立ち上がり口縁部はくの字に折れ、外側に張り出しを有す。上面には沈線による連続刻みが施文されている。	中期後半
12	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	沈線による三角形の磨り消し文様を描く。	堀之内 2
13	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	磨り消し縄文。	堀之内 2
14	深鉢	胴部	覆土	灰橙色	精製	横位の磨り消し縄文。	堀之内 2
15	深鉢	底部	炉内	灰黒色	精製	無文の底部片、底面に網代痕。	堀之内 2
5-103号住居跡 (第216図：PL155)							
1	深鉢	口縁部	床面	灰褐色	砂粒	隆帯による楕円文を構成か。二次的に被熱。2は同一個体片。	加曽利E 3
2	深鉢	胴部	床面	灰褐色	砂粒	隆帯による楕円文、以下胴部は縦位磨り消し帯、縄文はRLを縦位施文。	加曽利E 3
3	深鉢	口縁部	床面	灰黄褐色	微砂粒	口縁部文様は隆帯による楕円、渦巻き文。4は同一個体片。	加曽利E 3
4	深鉢	口縁部	床面	灰黄褐色	微砂粒	口縁部文様は隆帯による楕円、渦巻き文。	加曽利E 3
5	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	微砂粒	口縁部は無文で隆帯による楕円文を描くか。	加曽利E 3
5-104号住居跡 (第218図：PL155)							
1	深鉢	口縁部	覆土	赤褐色	砂粒	波状口縁、隆帯による楕円区画文を構成、縄文充填。	加曽利E 3
2	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	口縁部には隆帯による楕円文か、以下縦位沈線による磨り消し帯、縄文はLRを縦位施文。	加曽利E 3
3	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	縦位沈線。4・5は同一個体。	中期後半
4	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	口縁部文様を持たない。口縁直下より1本の沈線で磨り消し帯が下がる。縄文はLR縦位を充填施文。	中期後半
5	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	口縁部文様を持たない。口縁直下より2本の沈線で磨り消し帯が下がる。縄文はLR縦位を充填施文。	中期後半
6	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	隆帯による横楕円区画、区画内には縦位沈線文。以下胴部は沈線による縦無文帯を配し、間には縦位矢羽根状沈線文。	曾利 3
7	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	横位の平行沈線間に刺突文が配され、以下沈線による∩状文、蕨手文。	加曽利E 3
8	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	隆帯による楕円区画文を構成か、区画内には縦位の集合沈線。	加曽利E 3
9	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	口唇部山形波状に刻み、器面にはRL縄文が縦位全面施文。	中期後半
10	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	精製	無文の口縁部片、やや内湾する。	中期後半
11	深鉢	底部	炉内	淡赤褐色	砂粒	4本単位の垂下沈線で縦区画、地文にはRLを縦位施文。	加曽利E 3
12	深鉢	底部	覆土	淡黄褐色	砂粒	3から4本の垂下沈線、沈線間には粗く縄文LRが縦位施文される。	加曽利E 3
5-105号住居跡 (第221・222図：PL156)							
1	深鉢	口縁～胴部	覆土	灰褐色	小砂礫多	口縁部に浅い沈線廻らし、以下隆帯による横S字文様、胴部は2本垂下沈線による無文帯で縦位区画、間には縄文LRを縦位施文。器面荒れている。	加曽利E 3
2	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	大型土器。隆帯による楕円区画文様。以下胴部は2本垂下沈線による無文帯で縦位区画を為す。	加曽利E 3
3	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	小波状口縁、隆帯による楕円渦巻き文様で文様帯を構成、区画内は縄文を施文。	加曽利E 3
4	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	砂粒	大型土器。隆帯が渦巻きを作り小波状を呈す、下位は楕円区画文が見られ、縄文RLを横位充填施文。器面風化。	加曽利E 3
5	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒(白色)	口縁部外反し、隆帯で画され無文となる。隆帯下位は縄文RLを縦位施文後、渦巻き沈線文描く。	加曽利E 3
6	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	微砂粒	小波状口縁、波頂部は舌状を呈し外傾する、隆帯による楕円渦巻き文様で文様帯構成、区画内は縄文を施文。以下2本単位の垂下沈線で縦位区画。	加曽利E 3
7	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	隆帯文、口縁部直下より縄文RLを縦位に施文。	加曽利E 3
8	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁部沈線で横楕円文か、縄文充填。	加曽利E 3
9	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	砂粒	横位に2本沈線廻らし間に連続円形刺突文配す。これを挟み上下対に2本沈線による∩状文描くか。地文には無節Lの縦位。	加曽利E 3

第3章 検出された遺構と遺物

No.	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
10	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	3本の垂下沈線による縦位磨り消し帯で縦位区画。間は無節L縄文を縦位施文。	加曾利E 3
11	深鉢	胴部	炉	黒褐色	砂粒	口縁下に隆帯による縦S地文描き両脇には沈線による∩状文描く。それぞれの文様区画内には縦位の集合波状沈線文充填。	加曾利E 3
12	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒(白色)	口縁下に弧状の隆帯か、以下沈線により縦の沈線有す∩文描く、間には縦の矢羽根状沈線文。	曾利 3
13	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁部内湾し内側に肥厚。口縁直下に重弧状沈線文。	曾利 2
14	深鉢	口縁～胴部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁部隆帯による楕円渦巻き文描き胴部には沈線による曲線文様を描く、地文は重弧状沈線文を充填する。	唐草文系
15	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	2本垂下沈線による幅狭の磨り消し帯で縦区画、さらに波状垂下文が見られる。地文には重弧状の沈線文。	曾利 3
16	深鉢	胴部	炉	茶褐色	砂粒(白色)	両脇に沈線を伴った縦位押圧隆帯で胴部を区画、区画内には縦位の矢羽根状沈線文。	曾利 3
17	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒(金雲母)	横位隆帯下に縦位集合条線文。	中期後半
18	深鉢	底部	覆土	淡褐色	砂粒	無文底部片。	中期後半

5-107号住居跡 (第226図: PL157)

1	深鉢	口縁～胴部	床面	暗褐色	砂粒	口縁部は幅広の無文、頸部に廻らした横位隆帯で画し、以下隆帯の直下には縄文LRを横位、さらに下位は斜位方向に全面施文。	加曾利E 4
2	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	砂粒	口縁やや内湾、浅い沈線による∩状文描き縄文を充填施文か。	加曾利E 4
3	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	砂粒	T状の隆帯付され、地には縄文施文。	中期後半
4	深鉢	口縁部	覆土	淡茶褐色	砂粒	口縁部内側に折り返されて肥厚、2本の横位隆帯。	中期後半
5	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	T状の隆帯付される。	加曾利E 4
6	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	口縁部肥厚し以下斜位の沈線。	中期後半
7	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	やや肥厚した口縁部、以下横矢羽根状の沈線文。	曾利 3
8	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	直線的に開く器形で、口縁部折り返しを持つ、沈線による細い∩状文描かれ。地は無文である。	中期後半
9	台付き土器	脚台部	覆土	橙黄色	砂粒	脚台部分は低く、外側に開く。	中期後半

5-108号住居跡 (第228図: PL157)

1	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	口縁下に沈線、以下沈線による磨り消し曲線文を描く。縄文はLR。	称名寺 1
2	深鉢	口縁部	覆土	橙褐色	微砂粒	併行する縦位の微隆帯文。	中期後半
3	深鉢	口縁部	床面	暗褐色	微砂粒	口縁部肥厚、無文であるが凹凸が見られる。	中期後半
4	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	横位沈線、隆帯、併行垂下沈線で画し、間には重弧状沈線文。	曾利 3
5	深鉢	胴部	床面	暗茶褐色	砂粒	2本隆帯で描く曲線文、斜位の集合沈線文。	曾利 3
6	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	横位沈線下に重弧状文。	曾利 3
7	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	重層するハの字状沈線文。	中期後半
8	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	縦位集合条線。	中期後半
9	腕輪形土製品	欠損品	覆土	茶褐色(白色顔料)	砂粒	5孔が見られる。上下に並ぶ2孔のうち下側のみ貫通しているが、他は未通孔である。表面に漆喰のような白色顔料が塗布されている。	中期後半か

5-109号住居跡 (第231・232図: PL158)

1	深鉢	口縁～胴部	覆土	黄褐色	砂粒	大型土器片口縁部に隆帯による楕円文を構成、胴部は2本単位の磨り消し垂下文帯および縄文帯で縦位区画。口縁部、胴部には縄文RLを充填施文。	加曾利E 3
2	深鉢	口縁部	覆土	明褐色	砂粒多	隆帯による渦巻き楕円文。楕円区画内には縦位沈線。	加曾利E 2
3	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	波状口縁を呈す、口縁部に無文部画し2本微隆線による曲線文描き、区画内には縄文施文。	加曾利E 4
4	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	隆帯による区画文、区画内には沈線による楕円文、狭い∩状文が複数描かれ、楕円区画内は縄文が充填施文されている。	中期後半
5	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	横位隆帯上に縄文施文。	加曾利E 1
6	深鉢	口縁部	床面	茶褐色	微砂粒	隆帯による楕円文構成か、区画内には刺突状の単位刻み文。	加曾利E 3
7	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁部小波状を呈す、隆帯による楕円区画文構成し波頂部より肥厚して隆帯が下がるか。楕円区画内には縦位の集合沈線。	曾利 2
8	深鉢	口縁～胴部	炉	暗褐色	砂粒	口縁部に横位隆帯で無文帯を画す、以下隆帯による曲線文描く。地文には重弧状の沈線文。	唐草文系
9	深鉢	口縁部	炉	明褐色	砂粒	口縁部が丸く肥厚、隆帯による渦巻き文描き左右にも隆帯が延びる。地には斜位の沈線か。	唐草文系
10	深鉢	口縁部	床面	暗灰褐色	砂粒(白色)	口縁部に弧状隆帯を連続させる、連結部には拗り隆帯文。隆帯区画内には縦位の沈線文。	曾利 2
11	深鉢	口縁部	床面	黄褐色	微砂粒	横位沈線で無文帯画す、沈線以下縦位の集合沈線。	加曾利E 4
12	深鉢	口縁部	覆土	暗灰褐色	砂粒	隆線による楕円文構成か、縦位の集合沈線文。	加曾利E 3
13	深鉢	胴部	覆土	明褐色	砂粒	隆帯による渦巻き文描き、地には斜位の沈線文。	曾利 2
14	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	頸部に横位併行隆帯が廻り、間にC状文画した楕円区画を構成、中に斜位沈線を粗く施文。	中期後半
15	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒(金雲母)	無文口縁部片、口唇部薄くなる。	
16	深鉢	口縁部	炉	茶褐色	砂粒(白色)	無文口縁部片、内外面研磨。	曾利 2

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
17	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	無文口縁部片、内側に肥厚。	曾利2
18	深鉢	胴部	床面	灰褐色	砂粒	沈線による渦巻き文間に刻みを有す耳状の隆帯が見られる。	中期後半
19	深鉢	胴部	覆土	明褐色	砂粒	縦位のH字状隆帯、地文に縦位の沈線施文、その上に横位弧状文。	曾利3
20	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	2本隆帯による曲線文、地には斜位の集合沈線。	曾利3
21	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	縦位隆帯、粗い斜位沈線地に波状垂下沈線文。	曾利3
22	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒(金雲母)	地文に縦綾杉文描き、その上に波状垂下沈線文。	曾利3
23	深鉢	突起部片	覆土	黄褐色	砂粒	台形状の突起部、縦位の隆帯を集合させている。	中期後半
24	深鉢	突起部片	炉	暗茶褐色	砂粒	口縁部に付く環状突起である、上端は平らに広がり隆帯による渦巻き文。	曾利2
25	台付き土器	脚台部分	覆土	茶褐色	微砂粒	脚台部は端部を欠損、欠け口は摩耗、器面には縦位の沈線文が見られる。器面縦方向の磨き痕見られる。	中期後半
26	台付き土器	底部	炉	淡黄褐色	砂粒	脚台部は小さく作られ、胴部も細身である。ミニチュア品か、火を受けている。	中期後半
5-110号住居跡 (第234図: PL158)							
1	深鉢	口縁～胴部	覆土	暗褐色	金雲母	口縁部隆帯による渦巻き繫ぎ弧文、区画内には縦位沈線充填施文。以下胴部は櫛状工具による帯状集合沈線で横位、渦巻き文描く、地文はRL横位。	加曾利E 3 併行
2	深鉢	口縁	覆土	黄褐色	砂粒	口縁部やや幅広の無文帯、以下隆帯による楕円文か、間には蕨手沈線文。	加曾利E 3
3	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	微砂粒	横位隆帯廻らし、下位には隆帯で描いた渦巻き垂下文、地文には縦位の集合沈線。	中期後半
4	浅鉢	口縁	覆土	暗褐色	砂粒	口縁部片、口縁段歩がやや肥厚、内外面研磨。	中期後半
5-111号住居跡 (第237・238図: PL158・159)							
1	深鉢	口縁～胴部	覆土	淡灰黄褐色	砂粒	胴上位に3本の横位沈線で文様帯を画す、中には4から6本単位の沈線で重弧状文を連続して横位に配す。	堀之内1
2	深鉢	口縁部	覆土	灰黒褐色	微砂粒	口縁部内屈しやや高まった部分に対弧状沈線文描き左右に沈線が延びる。以下無文。	堀之内1
3	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	口縁に刻み状の押圧文を持つ隆帯が廻る。	堀之内1
4	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	口縁部には沈線で無文帯を画し、以下縄文LRを縦位施文し沈線による無文帯が見られる。	称名寺1
5	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	精製	口縁下に平行する2本の紐線文を廻らし8字状の貼付文で繋ぐ、以下沈線による方形、円形文様描く磨り消し縄文帯。	堀之内2
6	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	砂粒	口縁下に横位の交互刺突文有す沈線、さらに沈線が廻る。	堀之内2
7	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	硬質で薄く作られる、横位の沈線で無文帯と縄文帯を交互に画す。口縁内側に沈線を廻らす。	堀之内2
8	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	細沈線による矩形の磨り消し文様。	堀之内2
9	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	無文口縁部片。	後期
10	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	沈線による重楕円文様描き、地文は縄文が施文される。	堀之内1
11	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	横位沈線で無文帯を画し、以下細縄文LRを横位施文。	堀之内2
12	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	全面にLR異条縄文を横位施文。	後期
13	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	砂粒	縄文と無文帯を横位連続の山形沈線文で画す。縄文は横位LR。	後期
14	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	微砂粒	縦位の平行沈線で磨り消し縄文帯、無文帯間には縦位の連続押圧文施文。	中期後半
15	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	微砂粒	磨り消し文様画す、区画内には刺突文が配される。	称名寺1
16	深鉢	胴部	覆土	赤茶褐色	砂粒	横位沈線に刺突貼付文を付しそこから紡錘状に2本単位の沈線文が垂下。	堀之内1
17	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	5本単位の沈線が斜位に横位連続施文される。	堀之内1
18	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	砂粒	縦位の併行沈線。器面やや荒れている。	堀之内1
19	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	3本単位の沈線による曲線文。	堀之内1
20	壺形土器	胴部	覆土	黄橙色	精製	器肉は極めて薄く硬質、横位、斜位の沈線文。小型の壺形土器と思われる。	堀之内1
21	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	精製	硬質で薄く作られる、器面は内外面良く研磨されている。2本単位の沈線により曲線文様を描く。	堀之内2
22	深鉢	胴部	覆土	黒色	微砂粒	併行する2本の隆帯と円形貼付文か、器面は良く研磨される。	堀之内1
23	深鉢	底部	覆土	灰黒色	微砂粒	小型土器の底部片、器面には刺突文が施文され、底面には網代痕が見られる。	後期
5-112号住居跡 (第239・240図: PL159・160)							
1	深鉢	口縁～胴部	覆土	明茶褐色	砂粒	渦巻き文基調の磨り消し縄文。縄文はLR。	称名寺1
2	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	砂粒	口縁下に∩状の併行沈線文、地文に縄文が施文される。	加曾利E 4
3	浅鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁部に隆帯で画された横位楕円文が描かれ、間には両端に刺突文有す短沈線が見られる。	堀之内1
4	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	微砂粒	口縁部直下に断面三角の肥厚隆帯が廻り、さらに横位の沈線が見られる、口縁部内側に肥厚。	堀之内1
5	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	微砂粒	口縁部に刻み状の押圧文有す隆帯が廻る。	堀之内1
6	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁部に横位押圧隆帯が廻る。	堀之内1

第3章 検出された遺構と遺物

No	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
7	深鉢	口縁部	覆土	淡橙褐色	微砂粒	T状に付された隆帯の交点に円形文。	堀之内1
8	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	微砂粒	口縁部に横位押圧隆帯が廻る、一部に炭化物の付着。	堀之内1
9	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	波状口縁を呈す、波頂部は隆帯により曲線文、内側には円形文を描く。以下沈線による磨り消し文か。	称名寺1
10	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	横位の併行する隆帯と縄文が見られる。	中期後半
11	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	微砂粒	口縁部は横位の隆帯で無文帯を画し、隆帯下には円形押圧貼付文が見られる。	堀之内1
12	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	低い隆帯により楕円文様を構成か、区画内には楕円状の刺突文様が見られる。	中期後半
13	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	砂粒	磨り消し曲線文描く、地文には刺突文。	称名寺1
14	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	微砂粒	薄手で硬質、3本単位の沈線より磨り消し曲線文様、地文は細縄文LRを施文。	堀之内1
15	浅鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	併行する沈線による渦巻き文か。	中期後半
16	深鉢	胴部	覆土	淡茶褐色	砂粒	縦位波状沈線文。	後期
17	注口土器	胴部	覆土	灰黄褐色	精製	薄手で硬質、器面研磨され、2本単位の沈線による唐草文様描く。	堀之内2
18	注口土器	胴部	覆土	淡茶褐色	精製	器面研磨され、2本単位の沈線による渦巻き文やS字文を蔓状に連結した文様を描く。	堀之内2
19	注口土器	胴部	覆土	淡茶褐色	精製	18と同一個体片。	堀之内2
20	深鉢	取手片	覆土	淡黄褐色	砂粒	口縁部に付された舌状に延びた取手片、2本の縦位沈線が見られる。	後期
21	注口土器	注口部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	円筒形の注口上部に橋状の取手部が付くものと思われる。	堀之内1
22	土偶か	腕	覆土	淡黄褐色	砂粒	土偶の腕部分か、表表面やや平らに整形され、上側面に刺突文。	後期

5-113号住居跡 (第244~249図: PL160~162)

1	深鉢	口縁~胴部	炉	灰褐色	砂粒	口縁下に廻る横位隆帯からT字状に隆帯が垂下し胴部を8分割に画し無文帯、縄文帯を交互に描出。器面風化。	加曽利E4
2	深鉢	口縁~胴部	炉	灰褐色	砂粒	横位の隆帯で口縁部に無文帯を画し、以下胴部には縦位沈線による縦位区画および紡錘状文を交互に配し、縄文LRを充填施文する。	加曽利E4
3	深鉢	口縁~胴部	炉	灰黒褐色	微砂粒	口縁部に横位隆帯廻らし下位には沈線による∩状文描き縄文LRを縦位充填施文。∩状文と接する隆帯部分は舌状にやや突起する。	加曽利E4
4	深鉢	口縁~胴部	炉	淡黄褐色	微砂粒	口縁部にやや弧状の隆帯を廻らす、隆帯に沿って刺突文が見られる。以下隆帯で画した弧状の縄文帯を構成、縄文はLR縦位。	加曽利E4
5	深鉢	口縁~胴部	炉	淡黄褐色	微砂粒	4と同一個体。	加曽利E4
6	深鉢	口縁部	炉	淡橙褐色	砂粒	口縁部に2本の横位隆帯廻る、胴部は沈線による縦位縄文帯構成。	加曽利E4
7	深鉢	口縁~胴部	炉	黒褐色	砂粒	口縁部に横位隆帯を廻らし無文帯構成、沈線による∩状文描き縄文LRを縦位施文。	加曽利E4
8	深鉢	口縁部	炉	灰褐色	砂粒	口縁部横位隆帯、以下隆帯による曲線文を構成し縄文施文。	加曽利E4
9	深鉢	口縁~胴部	炉	淡褐色	砂粒	口縁部横位隆帯、胴部は縦位区画の縄文帯、縄文は縦位のLRであるが、節は乱雑。	加曽利E4
10	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒多	口縁部は横位隆帯により無文帯を画し、以下縄文LRを縦位全面施文。	加曽利E4
11	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	口縁部は横位隆帯による無文帯を画す、以下全面に細縄文LRを横位、縦位方向に施文し、沈線による∩状文を描く。	加曽利E4
12	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒多	口縁部は隆帯画され無文、隆帯からはT字状に垂下隆帯を付し胴部を縦位に画す。区画内には縄文が施文される。	加曽利E4
13	深鉢	口縁部	覆土	赤茶褐色	砂粒多	口縁部は横位隆帯により無文帯を画す、隆帯下には縄文RLを縦位施文。	加曽利E4
14	深鉢	口縁部	覆土	暗灰褐色	砂粒多	口縁部やや厚く無文帯、以下縄文施文。	加曽利E4
15	深鉢	口縁部	覆土	暗灰褐色	微砂粒	口縁部は横位隆帯により無文帯を画す、隆帯上及び以下胴部には縄文LRの横位施文。	加曽利E4
16	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	微砂粒	幅広い無文口縁、胴部は2本の隆帯による渦巻き文様描き、縄文充填施文。	加曽利E4
17	深鉢	口縁~胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒多	口縁部は横位隆帯で無文区画とし、以下平行沈線による磨り消し曲線文様描く。縄文はLR。	称名寺1
18	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒多	曲線磨り消し文様。17と同一個体。	称名寺1
19	深鉢	口縁部	床面	暗灰褐色	砂粒	口縁下に横位沈線、沈線による紡錘文描き中は無文、縄文LR施文。	加曽利E4
20	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	微砂粒	口縁に沈線廻る、波頂部に突起状取手の剥落痕あり。∩状に沈線を描き、周囲を縄文で埋めている。	加曽利E4
21	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	波状口縁、口縁下に沈線が廻り、以下胴部は縄文地文に沈線による∩文。	加曽利E4
22	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	砂粒多	波状口縁、口縁下に隆帯による円形文、文様内には縄文を充填施文。	加曽利E4
23	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	口縁に沈線廻る、曲線文様の磨り消し縄文。	加曽利E4
24	深鉢	口縁部	覆土	橙黄色	微砂粒	口縁部小波状を呈す、口縁部に無文帯が見られ、以下沈線による曲線文様の磨り消し縄文。	加曽利E4
25	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	微砂粒	口縁部に沈線、以下沈線による∩状の磨り消し文。	加曽利E4
26	深鉢	口縁部	覆土	淡黄茶褐色	砂粒	口縁下に横位連続刻みを付し、隆帯による鈎状懸垂文か。	加曽利E3
27	深鉢	取手	覆土	茶褐色	砂粒多	波状部に付けられた環状取手片、外面には全面に縄文が施文される。	加曽利E4
28	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	微砂粒	口縁部やや内傾し先端部薄く尖る、横位の平行隆線間に刺突文列、下位にも隆線による曲線文。	加曽利E3

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
29	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	微砂粒	隆帯による弧状、紡錘文様。	加曽利E 3
30	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁下に横位の沈線および隆帯が廻り、隆帯から渦巻き垂下文。	加曽利E 3
31	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁部小波状を呈し、波頂下には隆帯による骨状文が垂下。	唐草文系
32	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	口縁下に平行沈線廻らし間には刺突文。	後期
33	深鉢	口縁部	炉	橙黄色	砂粒	隆帯による楕円区画、区画内、胴部には縄文施文。器面風化。	加曽利E 3
34	深鉢	口縁部	覆土	灰黒褐色	微砂粒	口縁部に隆帯により横位区画、中には縦位の集合沈線。	曾利 3
35	深鉢	口縁部	床面	灰褐色	微砂粒	口縁下に突起文。	中期後半
36	深鉢	胴部	炉	灰褐色	砂粒	隆帯による口縁部楕円区画を構成か。器面風化。	加曽利E 3
37	深鉢	胴部	炉	灰褐色	微砂粒	微隆帯により無文帯、縄文帯を縦位区画、縄文はLR縦位施文。	加曽利E 4
38	深鉢	胴部	炉	灰褐色	砂粒	沈線で幅広の無文帯、縄文帯を画す。	加曽利E 4
39	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	横位隆帯、下位には縄文LRを縦位施文する縄文帯を沈線で縦位区画。	加曽利E 4
40	深鉢	胴部	炉	灰褐色	砂粒	沈線で幅広の無文帯、縄文帯を画す。	加曽利E 4
41	深鉢	胴部	炉	淡茶褐色	砂粒	縦位沈線(紡錘状)区画された磨り消し縄文帯。縄文は単節LRを縦位施文。	加曽利E 4
42	深鉢	胴部	炉	淡茶褐色	砂粒	縦位沈線区画された磨り消し縄文帯。	加曽利E 4
43	深鉢	胴部	炉	淡茶褐色	砂粒	縦位沈線区画された磨り消し縄文帯。	加曽利E 4
44	深鉢	胴部	炉	淡茶褐色	砂粒	縦位磨り消し縄文。	加曽利E 4
45	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	微砂粒	縄文及び無文帯を縦位隆帯で画す。縄文は縦位のLR。	加曽利E 4
46	深鉢	胴部	炉	淡茶褐色	砂粒	縦位磨り消し縄文。	加曽利E 4
47	深鉢	胴部	炉	灰褐色	砂粒	隆帯で縦位区画された磨り消し縄文。	加曽利E 4
48	深鉢	胴部	炉	淡褐色	砂粒	縦位沈線区画された磨り消し縄文帯。縄文は無節Lを縦位施文。	加曽利E 4
49	深鉢	胴部	炉	淡黄褐色	砂粒	縦位の縄文LR施文。	加曽利E 4
50	深鉢	胴部	炉	灰黄褐色	砂粒	口縁部は無文構成か、隆帯による曲線文様描き縄文施文。	加曽利E 4
51	深鉢	胴部	炉	灰黄褐色	砂粒	横位隆帯、下位には縄文LRを縦位施文。	加曽利E 4
52	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒多	2本の平行隆帯で磨り消し曲線文描く。	加曽利E 4
53	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒多	隆帯による渦巻き文、隆帯の両側が幅広く撫で痕があり縄文施文される。	加曽利E 4
54	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	隆帯による円形文、さらには沈線による紡錘文様の磨り消し縄文。	加曽利E 4
55	深鉢	胴部	覆土	灰黒褐色	微砂粒	沈線による曲線文様描き細縄文を充填施文する。	称名寺 1
56	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	精製	縄文地に2本単位の沈線による磨り消し波状文様描く。	加曽利E 3
57	深鉢	胴部	床面	黒褐色	金雲母	隆帯による連弧状文、胴部は4本の垂下沈線で縦位区画し、弧状文内および胴部縄文帯にはLRを縦位施文。	加曽利E 3 古
58	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	隆帯で渦巻きを基調とした文様を多段構成か。	大木系
59	深鉢	胴部	覆土	暗灰褐色	微砂粒	やや深い沈線による渦巻き文、∩状文を描く、∩状文内には細沈線による矢羽根文様が充填される。	中期後半
60	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒多	肩部に隆帯が廻り、隆帯上に連続刺突文が配される。口縁部は無文で、隆帯下は縄文施文。	加曽利E 4
61	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	2本単位の垂下沈線間に刺突文。間には縄文施文。	加曽利E 3
62	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	微砂粒	隆線に対して斜め方向の押圧文を有す隆帯が放射状に延びる。地文には縄文施文。	堀之内 2
63	浅鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	沈線による斜格子文が描かれる。器面剥落。	加曽利E 3
64	深鉢	胴部	覆土	明褐色	微砂粒	沈線による組合せ曲線文様を描き、文様内に矢羽根状沈線文を充填。	唐草文系
65	深鉢	胴部	床面	暗茶褐色	砂粒多	細沈線により大きく2重のU状文を連続して描く、地文は見られない。	加曽利E 4
66	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	精製	薄手土器、隆線による横楕円渦巻き文様描く。器面良く研磨される。	加曽利E 3
67	鉢形土器	胴部	覆土	淡褐色	微砂粒	口縁部に沿って刻みを有す隆帯が廻り口縁直下に付された8字文から隆帯2本垂下。	堀之内 2
68	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	沈線による平行線文様、さらに矩形文描き、縄文充填。	堀之内 2
69	深鉢	取手	覆土	淡褐色	精製	口縁部突起、上端が円盤状に広がる。外面沈線がハ状に下がり中に縄文が施文。	加曽利E 4
70	深鉢	取手	覆土	黒褐色	微砂粒	板状に突起しH字状を呈す取手片。30と同一個体。	曾利 2
71	深鉢	胴部	炉	淡黄褐色	微砂粒	隆帯による曲線文。	加曽利E 4
72	浅鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	口縁部肥厚、無文で内外面良く研磨されている。	加曽利E 3
73	深鉢	胴部	炉	淡褐色	細砂粒	無文、器面やや荒れている。	中期末

第3章 検出された遺構と遺物

No	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
74	深鉢	胴部	炉	灰褐色	砂粒	端部に縦位の沈線文が看取され、横位の短沈線文が見られる。	加曾利E 4
75	深鉢	胴部	炉	灰褐色	砂粒	端部に縦位の沈線文が看取される。	加曾利E 4
76	深鉢	胴部～底部	覆土	灰褐色	砂粒	胴部はやや外反して立ち上がる。無文で研磨見られる。	中期後半
5-114号住居跡 (第253図: PL163)							
1	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	横位沈線、地文に捺糸文Rを縦位施文。	中期中葉
2	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	砂粒	隆線による曲線文描く、刺突文、斜位方向の集合沈線見られる。	唐草文系
3	深鉢	口縁	覆土	灰褐色	砂粒	無文。	中期後半
5-115号住居跡 (第255図: PL163)							
1	深鉢	口縁	覆土	灰黒色	微砂粒	厚手の口縁、隆帯による楕円文構成か。	加曾利E 3
2	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	刺突文有す隆帯で区画文描き縦位の集合沈線を充填か、以下横位隆帯下に弧状沈線文。	唐草文系
3	深鉢	口縁	覆土	灰黒色	微砂粒	口縁部環状突起、沈線文、刺突文見られる。	堀之内1
5-116号住居跡 (第257図: PL163)							
1	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	砂粒	縦位の磨り消し縄文帯、蕨手文か。	加曾利E 3
2	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	細縄文が横位羽状施文。一部に沈線文か。	中期後半
3	深鉢	胴部	覆土	黄白色	砂粒	縦位の集合条線文。	中期後半?
5-117号住居跡 (第259図: PL163)							
1	深鉢	口縁部	床面	黒褐色	微砂粒	隆帯による区画文を構成か。	加曾利E 3
2	深鉢	胴部	床面	淡黄褐色	砂粒	隆帯による楕円文と横位隆帯。	加曾利E 3
3	深鉢	胴部	床面	黄褐色	砂粒	肥厚した隆帯で渦巻き文、さらにこれに繋がる隆帯が多方向に延び楕円文を構成か、区画内には縄文施文。	大木系
4	深鉢	胴部	床面	淡黄褐色	砂粒	縦位併行沈線で無文帯を画す、縄文は縦位RL施文。	加曾利E 3
5	深鉢	胴部	床面	褐色	砂粒	縦位集合沈線文。	中期後半
6	深鉢	底部	床面	茶褐色	砂粒	垂下沈線による磨り消し縄文帯画す。	加曾利E 3
5-118号住居跡 (第261・262図: PL164)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁部に横位隆帯で無文帯を画し、楕円文を構成か、地文にはRL縄文横位施文。	加曾利E 3
2	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	隆帯による楕円区画文を構成、区画内には縦位の沈線、胴部には垂下沈線、縄文が見られる。	加曾利E 3
3	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	小波状を呈し、波頂下には隆帯による渦巻き文を描きさらに2方向に隆帯延びる。地文には弧状の集合沈線文。	曾利3
4	深鉢	口縁部	覆土	淡褐色	砂粒多	口縁部肥厚、隆帯による弧状文を配し波底部に渦巻き文が見られる、区画内には集合の弧状沈線文が配される。以下胴部は斜位の集合沈線文か。	曾利3
5	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	小波状を呈し、波頂部は隆帯による渦巻き文を描きさらに隆帯が垂下する。地文には縦位波状の集合沈線文。	曾利4
6	深鉢	口縁取手	覆土	灰黒色	微砂粒	口縁部に付く取手部分、上端部分が肥厚し瘤状を呈す、円孔、円形刺突文が見られる。	堀之内1
7	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	楕円区画文、楕円文間の上下端部が肥厚。	加曾利E 3
8	深鉢	口縁取手	覆土	茶褐色	微砂粒	口縁の取手部分、波頂部に付く橋状取手が欠損している、以下沈線による磨り消し文様描く。	称名寺1
9	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	隆帯による楕円区画文を構成、区画内は縦位の集合沈線で埋める。	加曾利E 3
10	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	沈線による曲線文、渦巻き文様を描く。	曾利2
11	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒多	併行沈線により縦位横位に区画を構成し、縦位の集合沈線で埋める。	曾利3
12	深鉢	胴部	床面	茶褐色	微砂粒	沈線による磨り消し文様。	称名寺1
13	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	砂粒	外傾する無文の口縁部片。	後期
14	深鉢	底部	床面	茶褐色	砂粒多	厚手の底部片、縦位の沈線下端が看取される。台付きの可能性あり。	加曾利E 3
5-119号住居跡 (第264・265図: PL164)							
1	深鉢	口縁～胴部	床面	橙褐色	砂粒多	波状部分が丸くなり隆帯による円形文が描かれこれに繋がる隆帯が口縁に沿って廻る。胴部には縦長の重口状文を6単位描く、地文に縄文LR縦位。	加曾利E 3
2	深鉢	口縁部	覆土	淡褐色	砂粒	波頂部に環状突起、Y状の橋状取手が付くものと思われるが剥落している、両脇には沈線による楕円文が描かれ、縄文が充填される。	加曾利E 3
3	深鉢	口縁部	覆土	黄橙褐色	砂粒多	隆帯による横長の渦巻き文を構成、隆帯下には沈線が伴う。	加曾利E 3
4	深鉢	口縁部	覆土	淡橙褐色	砂粒	肥厚する横位隆帯で口縁部を画す、口縁部縄文施文。以下無文。	加曾利E 3
5	深鉢	胴部	床面	黒色	砂粒	口縁部に隆帯による区画文様を構成か、以下縄文RL施文。	加曾利E 3
6	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	砂粒	縄文を地文とし、2本または3本単位の沈線で無文帯を構成。	加曾利E 3
7	深鉢	胴部	覆土	灰色	砂粒	2本の垂下沈線で幅狭の無文帯、縄文はLR縦位施文。	加曾利E 3
8	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	地文に細縄文施文し沈線文様か。	堀之内1
9	深鉢	胴部	炉	茶褐色	砂粒	垂下沈線で幅広の無文帯を画す、文様帯には横位の沈線文。10・11は同一個体。	曾利3

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No.	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
10	深鉢	胴部	炉	茶褐色	砂粒	垂下沈線で幅広の無文帯を画す、文様帯には横位の沈線文。	曾利3
11	深鉢	胴部	炉	茶褐色	砂粒	垂下沈線で幅広の無文帯を画す、文様帯には横位の沈線文。	曾利3
12	深鉢	胴部	床面	黄橙褐色	砂粒	3本単位の垂下沈線で縦位区画帯、縦位矢羽根状の沈線文。	曾利3
13	深鉢	胴部	覆土	淡茶褐色	砂粒	粗い縦位の集合沈線文。	曾利3
14	深鉢	胴部	床面	茶褐色	砂粒	櫛状工具による刺突状の短沈線文が僅かに見られる。	中期後半
15	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒多	口縁に沈線が付されやや内屈、以下無文。	堀之内1
16	深鉢	口縁部	床面	暗褐色	微砂粒	僅かに内屈する口縁部に浅い沈線が廻る、以下無文。	堀之内1
17	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	砂粒	口縁下に横位隆帯。	後期
18	深鉢	胴部	床面	淡黄褐色	微砂粒	沈線による渦巻き文。	称名寺1
19	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	砂粒	刺突文。	三十稲場
20	両耳壺	取手	覆土	淡黄褐色	砂粒	取手部片、幅を持ち上端浅く凹みやや突起する。取手の両側には微隆線による無文帯が見られ下位には凹状の沈線文。	加曾利E3
5-120号住居跡(第268~270図:PL164・165)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	砂粒多	4単位の波状口縁、波頂下に2本単位の沈線で渦巻き文、さらに凹状文様を交互に横位施文、縄文は口縁部は横位に以下縦位のRL施文。	加曾利E4
2	深鉢	ほぼ完形	床面	淡褐色	砂粒	口縁部に舌状の突起を有す、文様は細い条線により渦巻き文、凹状文様を乱雑に描いておりさらに縦位の条線を全面施文する。	後期
3	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	波状口縁を呈す、波頂下には隆線で渦巻き文描くか。	称名寺1
4	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	波状口縁を呈す、波頂下には隆線で渦巻き文描くか。	称名寺1
5	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	砂粒	口縁部に隆帯で楕円文構成か。	加曾利E3
6	深鉢	口縁部	覆土	淡褐色	砂粒	隆帯で楕円文を画す、楕円文内には縄文を充填施文。	加曾利E3
7	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁部沈線で無文帯を画し、さらに隆帯垂下し区画文構成。縄文充填。	称名寺1
8	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	微砂粒	縄文地文とし沈線による凹状文を描く。	加曾利E4
9	深鉢	口縁部	床面	暗黒褐色	砂粒	口縁に横位の沈線廻り以下縄文を施文。	加曾利E4
10	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	微砂粒	小波状部に環状取手。口縁に押圧文、取手左右に沈線が延びる。以下RL横位施文された縄文が見られる。	後期
11	深鉢	口縁部	床面	灰黒色	砂粒	口縁部に幅狭の無文部、以下縄文RLを縦位に全面施文。	中期後半
12	壺形土器	口縁部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	やや内湾、磨り消し縄文による曲線文描く。	称名寺1
13	深鉢	胴部	覆土	淡茶褐色	微砂粒	上下に文様帯か、下部文様帯には沈線による凹状又は楕円文を描き縄文RLを縦位施文する。器面は研磨。	加曾利E4
14	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	隆帯で胴部を分割し楕円文様を描く。	加曾利E3
15	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	砂粒	口縁部楕円文。	加曾利E3
16	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	縦位磨り消し帯内に上下に蕨手文描く。	加曾利E3
17	深鉢	胴部	覆土	黒色	砂粒	幅狭の2本単位の磨り消し帯および縄文帯。縄文は縦位のRL施文。	加曾利E2
18	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	縄文地に併行する隆帯で曲線文様を構成。器面内外ともに荒れが著しい。	加曾利E3
19	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	微隆帯で磨り消し文様帯を画す、縄文は縦位のLR施文。	加曾利E3
20	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	砂粒	2本単位の沈線によるU状、斜位の磨り消し縄文文様。	称名寺1
21	深鉢	胴部	覆土	黄橙色	微砂粒	沈線による磨り消し曲線文。充填される細縄文はややまばらに施文。	称名寺1
22	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	微砂粒	沈線による磨り消し曲線文。	称名寺1
23	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	沈線による磨り消し曲線文。	称名寺1
24	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	併行沈線による磨り消し縄文帯。	称名寺1
25	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	全面に縦位縄文LRを施文。	中期後半
26	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	沈線による曲線文様。	加曾利E3
27	深鉢	口縁部	覆土	淡茶褐色	微砂粒	微隆帯によるJ字あるいは渦巻き文を構成か。	称名寺1
28	深鉢	口縁部	床面	黒褐色	砂粒	波頂部に渦巻き隆帯。	加曾利E3
29	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	砂粒	口唇部に沈線、縄文施文し沈線で曲線文描き中に刺突文。	称名寺1
30	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	砂粒	縦位の集合沈線。	曾利3
31	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	縦位の集合沈線。併行沈線で無文帯区画、縦位の集合波状沈線で埋めておるが一部凹状文様も見える。	加曾利E3
32	深鉢	胴部	床面	茶褐色	砂粒	縦位の集合沈線。	曾利3
33	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	縦位の集合沈線。	曾利3

第3章 検出された遺構と遺物

No	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
34	深鉢	胴部	覆土	橙褐色	砂粒	縦位綾杉状の沈線文。	曾利3
35	深鉢(壺形)	口縁部	床面	茶褐色	砂粒	口縁下に環状取手が付き両側および下位には沈線による楕円文が描かれる。内外面良く研磨されている。	後期
36	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	口縁下に渦巻き隆起文。	曾利2
37	深鉢	口縁部	床面	淡黄褐色	砂粒	口縁下に2本の沈線で横位縄文帯、円孔有す。	称名寺1
38	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	微砂粒	横位連続刺突文下に三本の沈線を廻らす、さらに縦位、斜位の沈線文。	後期
39	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	微砂粒	刻み状の押圧文有す隆帯が廻る。	堀之内1
40	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	横位隆帯から併行沈線垂下し左右には横位の集合沈線文。	曾利3
41	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	砂粒	横位の連続ハの字文。	曾利3
42	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	微砂粒	刺突文。	三十稲場
43	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	微砂粒	刺突文。	三十稲場
44	深鉢	口縁部	覆土	淡褐色	砂粒	口縁部やや内傾し小波状を呈す、波頂部分に2重円形文と左右に対弧状文描く。	堀之内1
45	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	口縁部に沈線廻り、隆帯による円形貼付文。以下円形刺突文列縦位に施文。	堀之内1
46	深鉢	口縁部	床面	暗褐色	砂粒	外反する口縁に円形押圧文を囲むように対弧状文。	堀之内1
47	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	口縁部やや外傾し口唇部が肥厚し環状突起がつくものと思われる。	
48	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	砂粒	肥厚した口縁部に横位の沈線。	堀之内1
49	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁部肥厚し内屈、無文で頸部に横位の沈線廻る。	堀之内1
50	深鉢	口縁部	覆土	灰橙白色	微砂粒	口縁部やや内屈口唇部に沈線、以下無文。	堀之内1
51	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	砂粒	口縁下に横位の隆線。	堀之内1
52	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	幅広の無文口縁部、器面研磨。	後期
53	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	無文の口縁部片。	後期
54	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	砂粒	口縁部は肥厚、無文で器面風化。	後期
55	深鉢	胴～底部	覆土	淡黄橙色	砂粒多	縦位の沈線で無文帯画し縄文施文するが、施文は浅く不明瞭、器面もやや風化。	加曾利E3
56	深鉢	底部	覆土	暗褐色	砂粒	底部片、網代痕あり。	後期
5-121号住居跡 (第273図：PL166)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	口縁部から刻みを有す隆帯垂下、両側には沈線で区画文様描き縄文を充填。	堀之内1
2	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	横位押圧隆帯。	堀之内1
3	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	口縁部に隆帯によるC状文様、文様端部に円形文。以下縦位沈線で画した縄文帯か。	堀之内1
4	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	微砂粒	横位に平行する刻み隆帯。	堀之内2
5-122号住居跡 (第275図：PL166)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰黒褐色	砂粒	小波状口縁、楕円渦巻き文様を構成か。	加曾利E3
2	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	微砂粒	小波状口縁、波頂部に隆帯による渦巻き文描きその脇に円形押圧文見られる。	加曾利E3
3	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	口縁部に楕円文様か。	加曾利E3
4	深鉢	口縁部	覆土	黒色	微砂粒	隆帯による横楕円渦巻き文を構成か。	加曾利E3
5	浅鉢	口縁部	覆土	淡灰黄褐色	砂粒	口縁下に横位の沈線廻り、以下縄文を施文か。	加曾利E3
6	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	肥厚する隆帯で渦巻き文、この渦巻き文から繋がる隆帯により楕円文を構成し、それぞれの中に縄文充填する。	大木系
7	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒多	隆帯による楕円文様を上下2段に描く、楕円文内は縄文RLを縦位充填施文。	加曾利E3
8	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒多	厚手土器、2本の沈線による縦位磨り消し帯、縄文はLR施文。	加曾利E3
9	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	縦位の沈線で無文帯、縄文帯を画す。縄文帯には波状垂下沈線見られる。	加曾利E3
10	深鉢	胴部	炉	暗赤褐色	砂粒	縦位の併行沈線で画す磨り消し無文帯。	加曾利E3
11	深鉢	胴部	炉	黄褐色	砂粒	縦位沈線。	中期後半
12	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	縦位の沈線文、研磨痕も看取される。	中期後半
13	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	砂粒多	縦位の沈線文、粗い部分と密な部分が見られ、研磨痕も混在。	中期後半
14	深鉢	胴部	炉	黄褐色	砂粒	縦位沈線。	中期後半
15	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	2本単位の隆帯で渦巻き文、地文には斜位の集合沈線文。	曾利2
16	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	併行する縦位の隆帯、左右には縦位の沈線文見られる。	曾利3
17	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	縦位の沈線文、渦巻き文を描く磨り消し縄文、細縄文RLを充填施文。	堀之内1

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No.	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
18	深鉢	胴部	覆土	淡灰黄褐色	砂粒	押圧文有す横位の隆帯に8字状文を付し、これを基点に上下にも隆帯が延びる。	堀之内1
19	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	口縁部肥厚し円孔が見られ、これから延びた隆帯が下がり、口縁下の隆帯に繋がる。	堀之内1
5-123号住居跡 (第277・278図：PL167)							
1	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	大型土器、隆帯による楕円文を構成か、RL縄文横位充填施文。	加曽利E3
2	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	太い隆帯による楕円渦巻き文を構成か、楕円内にはRL縄文横位施文。	加曽利E3
3	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁に沈線による楕円文描き縄文を充填する。文様下にも縄文施文。	加曽利E3
4	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒多	隆帯による楕円文様か、脆弱な土器。	加曽利E3
5	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	砂粒	口縁下に沈線による∩状文様を描きその脇には蕨手文。縄文は口縁部は横位、∩状文内は縦位にRLを施文する。	加曽利E4
6	深鉢	口縁部	床面	暗褐色	砂粒	口縁部に横位の隆帯、隆帯から2本単位の沈線が垂下し胴部を縄文帯と無文帯に縦位区画。縄文はLRを隆帯直下は横位、以下は縦位に施文。	加曽利E4
7	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁下に沈線に横位の隆帯廻り以下縄文が見られる。	加曽利E3
8	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁下に横位の沈線、胴部には縄文施文後、2本単位の蕨手文を縦位、斜位に描く。	加曽利E4
9	深鉢	口縁部	覆土	短褐色	砂粒	口縁部に棒状の隆帯を拗り合わせた突起が付され、円孔も2カ所に空けられている。	堀之内1
10	深鉢	胴部	炉体土器	暗褐色	砂粒	微隆帯による7単位の対向U状、∩状文を描き、中は縄文LRを縦位施文。	加曽利E4
11	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	隆帯による楕円文様構成か、縄文充填する。	加曽利E3
12	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	微砂粒	屈曲部分で上位は無文、縄文施文後蕨手沈線文を描く。	加曽利E3
13	深鉢	胴部	覆土	淡茶褐色	砂粒	縦位の磨り消し縄文帯。	加曽利E3
14	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	縦位の沈線で無文、縄文帯を画す、縄文部分には沈線による縦S字文を描く。	加曽利E3
15	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	縦位に太い2本の隆帯、地文には縄文RLを方向を変えて施文している。	中期後半
16	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	砂粒	沈線による磨り消し縄文、文様は2段に描かれる。	称名寺1
17	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	砂粒	口縁下に廻る隆帯の一部が舌状に肥厚し沈線を伴い隆帯がその下に垂下。その脇にも楕円文を構成。隆帯上、楕円文内には刺突文が施文される。	後期
18	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	波頂部に渦巻き隆帯文、隆帯脇に横位の沈線見られる。	加曽利E3
19	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	波状口縁部分が上に延び取手を形成、垂下した隆帯の両側に渦巻き文を形成。	曾利3
20	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	押圧文を有す隆帯で渦巻き文を構成か。	加曽利E3
21	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	微砂粒	口縁下に押圧文有す隆帯が廻り、その下には連続の縦位短沈線を2段に施文。	中期後半
22	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	押圧文有す隆帯、地文には縦位の太い短沈線文。	中期後半
23	深鉢	口縁部	覆土	黒色	微砂粒	2本の沈線による円形文描く。	称名寺1
24	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	砂粒	X状に接する隆帯から、横に押圧文を持つ隆帯が延びている。細縄文施文。	堀之内1
25	深鉢	口縁取手	覆土	黒褐色	微砂粒	波頂部分が環状となる、中央部から刻みを有す隆帯が垂下、その脇には沈線による∧状文様が見られる。	称名寺1
26	浅鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	砂粒	渦巻き文、円形文配される。	加曽利E3
27	浅鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	口縁部に楕円形の環状突起が付く、以下無文。	堀之内1
28	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	砂粒多	口縁下に横位の沈線2条廻りこれに接して縦位の沈線が見られる。	堀之内1
29	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	刺突文を伴う隆帯の端部。	曾利2
30	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	2本単位の隆帯が垂下し左右に横位集合沈線文。	曾利3
31	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	幅広の無文口縁部、研磨されている。	後期
32	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁部に一部沈線文見られる。	加曽利E4
33	深鉢	底部	覆土	淡褐色	砂粒多	縦位の隆帯で胴部を画し間には斜位の沈線文施文。底部に網代痕。	曾利3
5-124号住居跡 (第283～292図：PL168～173)							
1	深鉢	胴部	炉	淡褐色	砂粒	沈線による渦巻き文を横位に描き、これらを繋ぐ2本単位のV字状沈線が描かれる。さらに渦巻き文からは右下がりの3本単位の沈線が描かれる。V字文部分には細縄文が施文される。炉体土器。	堀之内1
2	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	口縁部は4単位の小波状を呈し、波頂部に両端に刺突が見られる瘤状文から隆帯が垂下し、頸部横位の2条隆線に繋がる。交点部分は瘤状文を呈し上下からの刺突が見られ、さらに下位の隆帯との交点には円形文が付される。	堀之内2
3	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	砂粒	口縁は大きく開き無文、頸部に4条の沈線を廻らし4単位のX状の取手が付くものと見られる。取手下には重弧状文を横位連続施文しさらに横位に4条の沈線文を多段施文か。T-15グリッド出土片が接合。	堀之内2
4	小型深鉢	口縁～胴部	覆土	暗黒褐色	微砂粒	口縁部に刻み隆帯が廻り、8字状貼付文、以下胴部は菱形と三角の磨り消し組合せ文様。内外面研磨。	堀之内2
5	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	口縁は無文で頸部に細沈線が廻り、直下には横位矢羽根状の沈線文か。器面研磨。	堀之内2
6	小型深鉢	胴～底部	覆土	暗黒褐色	微砂粒	沈線により横位重U字状文。地文には縦位にRL細縄文施文。	堀之内2

第3章 検出された遺構と遺物

No.	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
7	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	内湾する口縁には横位連続刻み文、沈線、胴中位に刻みを持つ隆帯を廻らし、上下2段の文様構成をとる。上段には縄文R1施文後、2本単位の沈線による横位波状文描き、波状間に沈線によるS字状文描く。また下部文様はやはり2本単位の沈線による連続∩状文を描き文様内には縄文充填施文後、縦S字状沈線文を描く。	中期後半
8	深鉢	ほぼ完形	覆土	暗黒褐色	精製	口縁部は3単位の波状を呈す。口縁端部が内屈し口唇部は連続押圧文が付され細波状を呈す。内面には3条、外面には4条の沈線が廻り、外面には斜め3単位の列点文が沈線間の隆線上6カ所に見られる。器面は内外面共に良く研磨されている。底面に網代痕。	加曽利B 1
9	小型壺形土器	口縁部欠	床面	灰褐色	精製	胴部は算盤玉形を呈す、胴上半部に隆線で方形の窓枠状区画を2枠1対としたものが対面する形に描かれ取手で繋がっていたものと思われる、隆線の交点には円形文。さらにそれぞれの枠内には沈線により渦巻き文が描かれる。器面研磨され胴下半部には赤彩痕が見られる。口縁部分を欠く。	堀之内1
10	深鉢	口縁部	覆土	淡茶褐色	砂粒	小波状を呈す、波頂部分に隆帯で∩状文、中には縄文施文。	称名寺1
11	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	砂粒	口縁部横位沈線下に縄文。	称名寺1
12	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	小波状部から肥厚した隆帯が左右に延びて無文帯を構成。以下紡錘状の磨り消し縄文が見られる。	称名寺1
13	深鉢	口縁部	覆土	淡褐色	微砂粒	口縁下に幅狭の横位縄文帯、無文帯を描き以下縄文LRを横位施文。	
14	深鉢	口縁部	覆土	灰黒褐色	微砂粒	口縁部に沈線、以下縄文地文に沈線による文様描くものと思われる。	称名寺1
15	深鉢	口縁部	覆土	灰黒褐色	微砂粒	口唇部内側に丸く肥厚、磨り消し縄文による曲線文様描く。	称名寺1
16	深鉢	口縁部	覆土	淡橙褐色	砂粒	口縁部端部僅かに内屈、横位の沈線文、補修孔あり。	称名寺1
17	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁部は肥厚する小波状を呈す、横位に沈線、以下細縄文を異方向施文。	称名寺1
18	深鉢	口縁部	覆土	黄白色	精製	口縁部に付された円形文から延びる隆帯が曲線文様を表出し、地文部分には縄文施文。	称名寺1
19	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	砂粒	沈線による磨り消し縄文文様。	称名寺1
20	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	微砂粒	口縁部に腕状の取手が付く、中央部分が大きくへこむ。以下口縁に沿って沈線、さらに曲線文様を描く磨り消し縄文。	称名寺1
21	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁部に刺突文と横位沈線を配し、以下磨り消し縄文による曲線文様を描くものと思われる。	加曽利E 4
22	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁部円窓を有す突起が付く。以下横位の沈線、縄文が施文されている。	称名寺1
23	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	砂粒	口縁部に円形の貼付文、縄文施文後沈線による円形文描く。	称名寺1
24	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	微砂粒	横位沈線廻り、弧状に沈線延び、縄文が見られる。	称名寺1
25	浅鉢	口縁部	覆土	淡褐色	微砂粒	口縁部は内傾、口縁部文様帯には縄文施文。	加曽利E 3
26	深鉢	胴部	覆土	黄白色	微砂粒	紡錘状に沈線文。	加曽利E 4
27	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	2本単位の沈線による渦巻き懸垂文。	称名寺1
28	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	磨り消し縄文による渦巻き文。	称名寺1
29	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	縄文地文に沈線文様。	後期
30	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	磨り消し縄文による曲線文様。	称名寺1
31	深鉢	胴部	覆土	灰黒褐色	微砂粒	沈線による渦巻き磨り消し縄文。	称名寺1
32	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	沈線による剣先状磨り消し縄文。	称名寺1
33	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	磨り消し縄文による曲線文様。	称名寺1
34	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	磨り消し縄文による矩形文様。	堀之内2
35	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	微砂粒	胴部括れ部分、上下に沈線による磨り消し縄文文様。	称名寺1
36	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	磨り消し縄文文様。	称名寺1
37	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	口縁部内側に肥厚、沈線による矩形文様描く。	称名寺2
38	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	口縁下に横位沈線、剥落痕見られその脇に沈線が一部看取される。	後期
39	壺形土器	口縁部	覆土	淡褐色	砂粒(白色)	口縁部はくの字に短く外傾、肩部には縄文施文後沈線による磨り消し曲線文。	称名寺1
40	小型壺形土器	口縁部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	口縁部短く立ち、横位沈線で画され縄文施文。以下無文地に∧状に沈線の一部が看取される。	称名寺1
41	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	磨り消し縄文による曲線文様。	称名寺1
42	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	微砂粒	縦位の磨り消し縄文帯。	堀之内1
43	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	縦位磨り消し縄文帯。	堀之内1
44	壺形土器	胴部	覆土	橙褐色	砂粒	胴中位に横位の沈線で肩部文様帯を画す、楕円文、渦巻き文を描く磨り消し縄文。	堀之内2
45	深鉢	底部	覆土	茶褐色	金雲母粒	縄文地文とし3本単位の縦位沈線文。	中期後半
46	深鉢	胴部	覆土	淡茶褐色	精製	交互に縄文帯、無文帯表出する磨り消し文様。	堀之内1
47	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	砂粒	沈線による重弧状懸垂文。以下縄文施文。	堀之内1

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No.	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
48	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	砂粒	沈線で矩形文様を画し区画内には縄文施文。	堀之内1
49	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	磨り消し縄文による曲線文様。	称名寺1
50	深鉢	胴部	覆土	暗黄褐色	砂粒	沈線により上下に平行沈線による∩状文描き、間隙に円形文、縄文が見られる。	加曽利E4
51	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	砂粒	横位の隆帯下に連弧状に沈線文。間隙の縄文が見られる。	堀之内1
52	壺形土器	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	頸部に横位の沈線、以下曲線文様の磨り消し縄文。	堀之内2
53	深鉢	胴部	覆土	暗黄褐色	微砂粒	2本谷の沈線による縦位、弧状文が描かれる。区画内に細縄文施文。	堀之内2
54	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	3本単位の沈線により三角文を基調とする縄文充填文様を構成。	堀之内1
55	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	沈線による縦位∩状文様、沈線間に縄文施文。	堀之内1
56	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	微砂粒	沈線による重弧状懸垂文。	堀之内1
57	鉢形土器	胴部	覆土	黒色	微砂粒	頸部に押圧文隆帯廻り以下胴部には()状の連弧文、重弧文、縦位、斜位の集合沈線文描かれ一部文様間には縄文が施文。	堀之内1
58	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	縦位の隆帯を挟み重弧状の沈線文。	堀之内1
59	鉢形土器	胴部	覆土	黒色	微砂粒	集合沈線文が垂下。	堀之内1
60	深鉢	胴部	覆土	明茶褐色	砂粒	沈線による上下からの重弧状文、および縦位沈線文が見られ間には細縄文が施文。	堀之内1
61	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	横位の隆帯下に沈線により連弧状に沈線文を描き中央の紡錘形部分には縄文施文。	堀之内1
62	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	微砂粒	横位沈線下に2本の沈線による渦巻き懸垂文。細縄文LRが横位施文される。	堀之内1
63	深鉢	胴部	覆土	黒色	微砂粒	沈線による円形文、縦位の沈線文描き文様間に縄文、刺突文が看取される。	堀之内1
64	深鉢	胴部	覆土	暗黒茶褐色	微砂粒	隆線により平行、三角文様を描き、交点に円形文。	堀之内1
65	深鉢	胴部	覆土	灰黒褐色	微砂粒	沈線による連結蔵手文。	堀之内2
66	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	精製	波状口縁を呈す、口唇部は内側に丸く肥厚、口縁部に付された沈線は波頂部で下がる。以下胴部は三角形をモチーフとする磨り消し縄文描く。	堀之内2
67	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	精製	口縁部は短く内傾、横位の平行沈線による縄文帯。器肉は薄く両面研磨。炭化物付着。	堀之内2
68	深鉢	口縁部	覆土	灰黒褐色	精製	磨り消し縄文による三角文描き中を沈線による重三角文様で埋める。	堀之内2
69	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	精製	磨り消し縄文。	堀之内2
70	深鉢	胴部	覆土	灰黒褐色	砂粒	内側に円形文有す三角形の磨り消し縄文文様。	堀之内2
71	深鉢	口縁部	覆土	灰黒褐色	精製	磨り消し縄文による三角文描き中を沈線による重三角文様で埋める。	堀之内2
72	深鉢	胴部	覆土	黒色	精製	磨り消し縄文による三角文描き中を沈線による重三角文様で埋める。	堀之内2
73	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	精製	縦位の隆帯、三角の磨り消し縄文文様。器面研磨。	堀之内2
74	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	砂粒	磨り消し縄文で重菱形文を構成。	堀之内2
75	深鉢	胴部	覆土	黒色	精製	矩形磨り消し縄文。	堀之内2
76	浅鉢	口縁(注口)	覆土	灰褐色	砂粒	口縁が波頂部分で隆帯状になり表裏に渦巻き文を形成、口縁部には沈線で横J字文を描き縄文を充填施文。波頂下には注口が設けられる。	称名寺1
77	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	波状部分に付された環状突起部分か、突起部は欠落。沈線による楕円文、円形文が見られ、文様内には縄文、刺突文円形押圧文が見られる。	称名寺1
78	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁部は外反、環状の取手が付くものと思われる。肩部には沈線による弧状文を描き、縄文を粗く施文。	堀之内1
79	深鉢	突起部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	波頂部が大きく上にのび上部に円孔が付く。以下沈線による曲線文様の磨り消し縄文。	称名寺1
80	注口土器	口縁部	覆土	橙褐色	微砂粒	口縁部は短く外傾、幅広の橋状取手が付くものと思われ、肩部には沈線で画した縄文帯で矩形文を描く。	堀之内2
81	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	砂粒	口縁部に沈線廻らす、頸部下には対弧状文を描き、さらに下位へ沈線垂下。	堀之内1
82	小型甕形土器	口縁～胴部	覆土	灰黒色	微砂粒	頸部に8字状貼付文、下位に沈線による弧状文、Y字文様を描く。口縁部内側に沈線が廻る。	堀之内1
83	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	精製	口縁下に横位の刺突文、以下沈線による渦巻き文を基調とする文様を配す。	堀之内1
84	深鉢	口縁部	覆土	淡橙黄色	微砂粒	口縁直下に隆帯廻り以下縦位、斜位方向の沈線文。	堀之内1
85	深鉢	口縁部	覆土	橙黄褐色	微砂粒	口縁部に連続押圧文、以下併行沈線が垂下。	堀之内1
86	深鉢	口縁部	覆土	黒色	微砂粒	口縁部に沈線、以下胴部は垂下、U状の沈線文様描く。外面に炭化物。	堀之内1
87	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	縦位綾杉状の沈線文。	堀之内1
88	深鉢	口縁部	覆土	黒色	精製	口縁直下に沈線が廻る、以下無文で頸部には横位の沈線と刺突文を囲む重弧状の沈線か。	堀之内2
89	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	砂粒	横位に刻みを有す隆帯に8字状貼付文が付され、下位には沈線による渦巻き文か。	堀之内2
90	深鉢	胴部	覆土	黒色	微砂粒	横位沈線下に重弧状文、刺突文付す。	堀之内1

第3章 検出された遺構と遺物

No	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
91	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	砂粒	3本の横位沈線に貼付文、そこから2本の沈線が弧状、矩形に下がる。	堀之内1
92	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	横位の隆帯、上下に2本単位の沈線による楕円文を描き、隆帯、楕円文には横方向の刺突文を配す。	堀之内1
93	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	弧状の隆線、取り巻くように沈線文が配される。	堀之内1
94	深鉢	胴部	覆土	淡茶褐色	砂粒	弧状の沈線文。	堀之内1
95	小型甕形土器	胴部	覆土	灰黒色	微砂粒	沈線による渦巻き文か、器面研磨。	堀之内2
96	深鉢	胴部	覆土	白色	砂粒	沈線による曲線文様。器面に白色の顔料塗彩。97は同一個体。	堀之内1
97	深鉢	胴部	覆土	白色	砂粒	沈線による曲線文様。器面に白色の顔料塗彩。	堀之内1
98	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	横位の隆帯とこれに沿って沈線文、さらに凹状文が下がる。	堀之内1
99	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	沈線により横位沈線文描き間に円形刺突文。	堀之内1
100	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	刺突文とそこから延びる隆帯が見られる。	堀之内1
101	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	精製	口縁部に環状突起、沈線、刺突文が伴う。突起下には隆帯による円形文が付されそこから左右に隆帯が延びる。	堀之内1
102	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	口縁部に環状突起、突起内側には沈線文、円形刺突文が見られる。	堀之内1
103	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	白色砂粒	小波状を呈す、やや肥厚し沈線による楕円文、円形文さらには重弧状文を描く、内面にも刺突文が見られる。	堀之内1
104	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	波状部分、円窓を有し周囲を隆帯、刺突文が飾る。	堀之内1
105	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	口縁部の小突起部分、円形文、沈線文が見られる。	堀之内2
106	深鉢	口縁部	覆土	淡灰褐色	砂粒	波状口縁部、波頂部表裏に隆帯による渦巻き文、以下沈線による渦巻き文を描く。	称名寺1
107	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	砂粒	口縁部肥厚し端部が高まる横長の楕円文状文。	堀之内1
108	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	微砂粒	口縁部小波状を呈す、円孔を伴う円形文と刺突文が表裏に見られる。さらに縦位の隆帯が付される。	堀之内2
109	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	精製	口縁部に付された環状突起、刺突文弧状沈線で飾る。刻みを有す隆帯垂下。	堀之内1
110	深鉢	突起部	覆土	黄褐色	砂粒	口縁部に付された突起部分、円形文、隆帯を巻き付けた下部に長円形の円窓を作る。	堀之内1
111	深鉢	口縁部	覆土	明黄褐色	微砂粒	口縁部は肥厚しやや高まる部分に円形文、と左右に対弧状文。	堀之内1
112	深鉢	口縁部	覆土	淡褐色	微砂粒	肥厚しやや高まった口縁部分に円形文と連弧状の沈線文が見られる。	堀之内1
113	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	口縁部はくの字に折れ、屈曲部に連続の刻み目を付す。さらに口縁部は等間隔に高まりこの間に沈線、両側に対弧状文を描く。	堀之内1
114	浅鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	波状口縁部を呈す。口縁部には沈線が配され端部に刺突文、波頂部には弧状楕円文と刺突文が見られる。内面研磨。	堀之内1
115	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁部内傾し一部小波状を呈し、縦位の短沈線配し左右に沈線、刺突文が連続する。2カ所に補修孔あり。	堀之内1
116	深鉢	口縁部	覆土	黒色	微砂粒	口縁部やや突起し刺突文、沈線で表裏を飾る。刺突文下、縦に隆帯。	堀之内1
117	深鉢	口縁部	覆土	橙茶褐色	微砂粒	口縁部短く内傾し、押圧状の太い沈線文。	堀之内1
118	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	微砂粒	口縁部から左右斜め下方向に押圧隆帯が延びる。	堀之内1
119	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	精製	口縁部に凹状の隆帯が付される。	堀之内1
120	浅鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	くの字に内屈した口縁部に8字状の貼付文が付される。	堀之内1
121	深鉢	口縁部	覆土	黒色	微砂粒	波状口縁部、口唇部内側に肥厚、波頂部には口縁部、胴部から延びる隆帯が集まり大の字状を呈す。縦に3個の円形刺突文が付される。	堀之内2
122	深鉢	口縁部	覆土	黒色	微砂粒	波状口縁部、口唇部内側に肥厚、波頂部には口縁部、胴部から延びる隆帯が集まり円形刺突文が付される。	堀之内2
123	深鉢	口縁部	覆土	黒色	精製	口縁部のくの字に外傾し、端部が短く直立する。直下には沈線が廻り口縁部高まった部分で途切れ、そこから隆帯が垂下し頸部の横位沈線に繋がる。	堀之内1
124	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	精製	口縁部に横位の隆帯が廻り8字状貼付文が付されさらに下位に隆帯延びる。隆帯に沿って沈線が見られる。	堀之内1
125	深鉢	口縁部	床面	暗褐色	砂粒	口縁下に刻み状の押圧隆帯文。	堀之内1
126	深鉢	口縁部	覆土	淡茶褐色	微砂粒	口縁下に横位押圧文隆帯。	堀之内1
127	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	口縁下に押圧隆帯が廻る。	堀之内1
128	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	横位の押圧隆帯。	堀之内1
129	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	口縁下に横位短沈線文を付された隆帯が廻る。	堀之内1
130	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁下に横位の隆帯が廻る、隆帯の一部が盛りあがり楕円文を表出。さらに左右に刻みを配す。	堀之内1
131	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	口唇部が角頭状を呈す、口縁下に横位隆帯が廻る。	後期初頭
132	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	口縁下に横位の隆帯が廻る。	後期初頭
133	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	口縁下に横位の隆帯が廻る。	後期初頭
134	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	砂粒	横位の隆線に貼付文。	後期初頭

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
135	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	微砂粒	紡錘状の隆線の交点に8字状の貼付文。	後期初頭
136	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	砂粒	くの字に屈曲しながらの垂下隆線、屈曲部に円形文が付される。	後期初頭
137	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	8字状の貼付文。	後期初頭
138	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	円形文からV状に隆帯。	後期初頭
139	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	八状に垂下する隆帯の接点に円形文が貼付される。	後期初頭
140	深鉢	胴部	覆土	黄茶褐色	微砂粒	隆帯が付される。	後期初頭
141	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	弧状の隆帯。	後期初頭
142	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	微砂粒	沈線によるJ字状文。	称名寺2
143	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	微砂粒	沈線による曲線文様。	称名寺2
144	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	微砂粒	沈線による曲線文様。	称名寺2
145	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	円形の貼付文および隆帯による文様。	堀之内1
146	小型甕形土器	胴部	覆土	暗黒褐色	精製	刻み有す横位隆帯、上位に沈線による曲線文様。	堀之内2
147	浅鉢	口縁部	覆土	黒色	微砂粒	大きく開く口縁部、外面無文で内面に円形刺突文を囲み重弧状文様、さらに口縁に沿って沈線が見られる。	堀之内2
148	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	微砂粒	口縁直下に沈線が廻りやや高まった部分に連弧状の沈線、頸部からこの部分に向かってV字状に刻みを持つ隆線が見られる。	堀之内2
149	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	口縁部より押圧隆帯が垂下する。器外面に炭化物の付着。	堀之内2
150	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	口縁部短く内屈、無文で内外面研磨されている。	堀之内2
151	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	砂粒	縦位の波状集合沈線。	曾利3
152	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	砂粒	縦位集合沈線による波状文。	曾利3
153	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	白色砂粒	縦位の波状集合沈線文。	後期
154	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	厚手の口縁部片、環状突起と思われるが一部欠損。口縁を巻くように刺突文有す隆帯が見られ内面に繋がる。	堀之内1
155	注口土器	口縁部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	口縁部の瘤状貼付文から注口部に橋状の隆帯が繋がっていたものと見られる。	堀之内1
156	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁部の波状突起部分、隆帯による円形文、沈線文、刺突文が付される。	堀之内1
157	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	微砂粒	口縁部内側に内屈し、屈曲部に廻る隆帯が口縁部に渦巻き文構成。	堀之内1
158	壺形土器	胴部	覆土	黒色	精製	細隆線により平行線、曲線文様を描く。器面研磨、赤彩痕。	堀之内2
159	深鉢	胴部	炉	黄白色	砂粒	無文の胴部。	後期
160	深鉢	口縁部	覆土	黄白色	微砂粒	口縁下に横位2列の円形刺突文。	後期
161	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	刺突文。	三十稲場
162	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	爪形刺突文。	三十稲場
163	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	爪形刺突文。	三十稲場
164	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	砂粒	爪形刺突文。	三十稲場
165	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	微砂粒	爪形刺突文。	三十稲場
166	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	砂粒	爪形刺突文。	三十稲場
167	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	砂粒	爪形刺突文。	三十稲場
168	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	爪形刺突文。	三十稲場
169	深鉢	胴部	覆土	黒色	砂粒	刺突文、刺突文時の端部盛りあがりが見られる。	三十稲場
170	深鉢	胴部	覆土	赤褐色	砂粒	爪形刺突文。	三十稲場
171	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	口縁部はくの字に内屈、横位の沈線、横位の連続刻みが付される。	堀之内1
172	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	微砂粒	口縁部に横位に沈線、直下に斜めに連続の押圧文を配す。	堀之内2
173	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	精製	口縁部に沈線文。	後期
174	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	口縁部は肥厚し、併行沈線間に横位の円形押圧文列が見られる。	堀之内1
175	深鉢	胴部	覆土	黒色	砂粒	頸部に2本の横位沈線と下に連続の円形刺突文が付される。	堀之内1
176	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁部内屈し沈線が廻る。	堀之内1
177	深鉢	口縁部	覆土	黒色	微砂粒	口縁部は沈線が廻り肥厚、無文黒色でウルシカ。	堀之内2
178	深鉢	口縁部	覆土	淡褐色	微砂粒	口縁部内屈し沈線が廻る。	堀之内1
179	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁部に横位沈線が廻る。	堀之内1

第3章 検出された遺構と遺物

No.	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
180	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁部に横位沈線が廻る。	堀之内1
181	深鉢	口縁部	床面	淡褐色	微砂粒	口縁部内屈し沈線が廻る。	堀之内1
182	深鉢	口縁部	覆土	橙褐色	微砂粒	口縁部内屈し口唇部丸くなる、横位沈線廻る。	堀之内1
183	深鉢	口縁部	覆土	淡灰褐色	微砂粒	口縁部に横位沈線が廻る。	堀之内1
184	甕形土器	口縁部	覆土	黒色	精製	口縁部は短く内屈し沈線が見られる。頸部はくの字に折れ横位の沈線が廻る。	堀之内2
185	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	口縁下に横位の沈線。	称名寺2
186	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁部は内側に折り返されて肥厚、口縁下に横位連続刺突文を有す低い隆帯が廻る。	堀之内1
187	深鉢	口縁部	覆土	淡褐色	微砂粒	口縁部に沈線による横長楕円文描き、中に横位短沈線を配す。	堀之内1
188	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	口縁は内側に折れ横位沈線2条施される。	堀之内1
189	深鉢	口縁部	覆土	灰白色	微砂粒	口縁部肥厚、無文の口縁部片。	堀之内1
190	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	砂粒	無文口縁部片。	後期
191	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	無文口縁部片。	後期
192	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	無文の口縁部片。	後期
193	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	砂粒	斜めに走る隆帯が見られる。	後期
194	小型甕形土器	口縁部	覆土	灰黒色	砂粒	口縁部くの字に折れる。無文。	堀之内2
195	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	口縁部はくの字に外傾し口唇部は内側に丸く肥厚。無文で、器面研磨。	堀之内2
196	浅鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	砂粒	口縁部は外傾し平坦な面を形成、端部が薄くなる。	後期
197	深鉢	口縁部	覆土	灰白色	微砂粒	無文、器面に成形時の押圧痕見られる。	後期
198	深鉢	口縁部	覆土	淡褐色	砂粒	外傾する無文口縁部片、頸部に横位の沈線。	堀之内1
199	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	微砂粒	口縁部は内側に折り返されて肥厚、口唇上部には部分的に沈線が見られる。無文。	堀之内1
200	深鉢	口縁部	覆土	黄白色	微砂粒	口縁部が短く内屈する無文口縁部片。	堀之内1
201	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	微砂粒	無文口縁部片。	堀之内1
202	壺形土器	胴部	覆土	黒色	微砂粒	肩から頸部、無文。	堀之内2
203	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	横位の隆帯。	後期
204	深鉢	取手	覆土	黄褐色	砂粒	口縁部に付された環状突起、側縁に沈線、刺突文が見られる。	堀之内1
205	深鉢	取手	覆土	黄褐色	砂粒	波状口縁部に付けられた環状取手。上面が平坦な環状を呈し沈線、円形文が見られ、胴部に向かった環状隆帯が下がる。	堀之内1
206	深鉢	口縁部	覆土	黄白色	砂粒	口縁部に大きく盛り上がった環状突起文、口縁部から続く面が幅広となり渦巻き文、刺突文が配される。	堀之内1
207	深鉢	口縁部	覆土	黒色	精製	口縁部に隆帯状の8字文を連結させ頸部隆帯に繋げる。口縁部に円孔。	堀之内1
208	深鉢	口縁部	覆土	淡褐色	微砂粒	口縁下に刺突を伴う隆帯によるS字文が付される。	堀之内1
209	深鉢	取手	覆土	茶褐色	砂粒	突起部上部が開き漏斗状を呈す、決めには沈線による重弧状文が見られる。	堀之内1
210	深鉢	取手	覆土	灰黄褐色	微砂粒	口縁部に付く環状突起、上面が円形で沈線による渦巻き文が見られる。	堀之内1
211	注口土器	注口部分	覆土	黄褐色	砂粒	注口は斜め上を向き先端部から口縁部に欠けて螺旋隆帯で繋ぐ環状突起を有す。突起下口縁部に縄文、沈線が僅かに看取される。	堀之内1
212	注口土器	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	口縁部はくの字に外傾し波状を呈す。波頂部には突起が付くものと見られるが欠損、肩部に沈線が僅かに看取される。	堀之内1
213	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁下に沈線で弧状文様描き刺突文を付す、下位には隆起する貼付文が見られる。被熱による発泡が見られる。	後期
214	深鉢	環状取手	覆土	黄褐色	微砂粒	口縁部に付された環状突起、上下に2つの円孔を持つ。	後期
215	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	口縁部に内側を向くカエル様の突起文が付く。	堀之内2
216	深鉢	取手	覆土	灰褐色	微砂粒	波状口縁部に作られた環状の取手の上にさらに8字状に隆帯を廻らした2段の環状取手。器面部分的に剝落。	堀之内1
217	注口土器	注口部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	注口上部に付された幅広の環状取手。	堀之内1
218	注口土器	注口部	覆土	茶褐色	砂粒	注口の付け根部分は厚くなり、先端部はやや細く作られる。器面研磨。	堀之内1
219	注口土器	注口部	覆土	灰褐色	砂粒	円筒状で先端部が僅かに広がるか、注口上部に取手と思われる剝落痕が見られる。	堀之内1
220	深鉢	底部	覆土	茶褐色	砂粒	底部は厚手で器面やや凹凸が見られる。	中期後半
221	浅鉢	底部	覆土	暗褐色	砂粒	底部に網代痕。内面研磨。	堀之内2
222	浅鉢	底部	覆土	暗褐色	砂粒	内外面研磨。	堀之内2
223	深鉢	底部	覆土	灰褐色	微砂粒	硬質で外面研磨、底面に網代痕。	後期
224	深鉢	底部	覆土	灰黄褐色	砂粒	底面に網代痕。器面風化。	後期

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
225	深鉢	底部	覆土	淡褐色	砂粒	底面に網代痕。	後期
226	浅鉢	底部	覆土	黄褐色	微砂粒	底面に網代痕。	後期
227	深鉢	底部	覆土	黄褐色	砂粒	底面に網代痕。器面風化。	後期
228	浅鉢	底部	覆土	黒色	精製	無文、器面研磨され、底部は摩耗顕著。	後期
229	深鉢	底部	覆土	茶褐色	微砂粒	無文の底部片。底部中央が薄くなる。	後期
230	深鉢	底部	覆土	暗茶褐色	砂粒	細沈線による不規則な文様。器面研磨。	後期
231	深鉢	底部	覆土	灰黄褐色	砂粒	無文の底部片。	後期
232	深鉢	底部	覆土	淡黄褐色	砂粒	無文の底部片。	後期
233	深鉢	底部	覆土	暗褐色	砂粒	底部に網代痕。	後期
234	深鉢	底部	炉	黄褐色	砂粒	無文で外面良く研磨される。底面に網代痕。	堀之内2
235	土製円盤	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	大型の土製円盤、径約7.0cm。	後期
236	土製円盤	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒(石英)	縦位の集合沈線。反りを有す。径約4.0cm。	曾利3
237	土製円盤	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	深鉢のやや薄手の胴部片利用、径約3.5cm。	後期
238	土製円盤	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	小型品、径約3.0cm。	後期
239	土製円盤	胴部	覆土	橙褐色	砂粒	無文の胴部片利用、隅丸方形を呈す。一辺約5.0cm。	
240	土製円盤	胴部	覆土	淡橙色	砂粒	小型品、器面やや風化。径約2.5cm。	後期
241	土製円盤	胴部	覆土	淡褐色	砂粒	側縁部の成形やや粗い。径約2.5cm。	後期
242	土製円盤	胴部	覆土	灰白色	砂粒	無文胴部片利用、径約3.0cm。	後期
5-125号住居跡(第303~305図: PL176・177)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	厚手の口縁部、隆帯を横位に廻らし、胴部には縄文施文後、沈線による∩状文を描く。	加曾利E4
2	深鉢	口縁部	床面	暗褐色	砂粒	口縁に横位の沈線、胴部は縄文施文後、沈線による∩状文を描く。	加曾利E4
3	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	砂粒	横位隆帯で口縁部に無文帯を画し、以下胴部は隆帯による縦位区画の無文帯、縄文帯を構成。	加曾利E4
4	深鉢	口縁部	床面	暗黒褐色	微砂粒	口縁部にU状の突起文、胴部は沈線で矩形区画を横位に構成し、縄文帯による三角文、鈎状文を描く。縄文はLRを横位、縦位に施文。	称名寺1
5	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	口縁部内傾し隆帯によるC状文が付される。胴部はJ字状の磨り消し文様を描く。	称名寺1
6	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	砂粒	口唇部内側に丸く肥厚、沈線による磨り消し文様を描く。	称名寺1
7	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	併行隆帯で無文帯を画す。	加曾利E3
8	深鉢	胴部	床面	淡茶褐色	砂粒	幅広の磨り消し無文帯。	加曾利E3
9	深鉢	胴部	床面	灰褐色	砂粒	T字状に隆帯が垂下し縄文帯、無文帯を画す。	加曾利E4
10	浅鉢	口縁部	覆土	黄褐色	砂粒	口縁部は幅広に肥厚し波状を呈す。波頂部には内外面に扁平な隆帯でC字文を描き、左右の口縁部側面には沈線により横J字文を描き縄文充填。	称名寺1
11	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	厚手の胴部、縦位の磨り消し縄文。	加曾利E3
12	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	口縁部に円形刺突文列見られ、下位に横位の沈線文。	称名寺2
13	深鉢	取手	覆土	黄褐色	微砂粒	波状口縁部分が高く盛り上がり上下に円孔を持つ飾り取手を為す。	称名寺2
14	注口土器	注口部	覆土	灰黒色	微砂粒	浅鉢形の注口土器か、波上部に橋状突起が付され内面に円形文。取手は注口の先端上部に繋がる。	称名寺2
15	浅鉢	口縁部	覆土	赤茶褐色	砂粒	肩部に断面矩形の隆帯が付き、複数の円孔が見られるが、穴はやや扁平でやや雑に空けられている。	中期後半
16	深鉢	口縁部	覆土	淡黄茶褐色	微砂粒	口縁部横位隆帯により無文帯を画し、円形貼付文を基点とし隆帯が垂下。	称名寺2
17	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	屈曲する隆帯が見られる。	称名寺2
18	深鉢	胴部	床面	黒褐色	砂粒	円形文から隆帯が垂下。	称名寺2
19	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	砂粒	円形文を伴う隆帯。	称名寺2
20	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	円形文より隆帯が垂下。	称名寺2
21	深鉢	胴部	覆土	褐灰色	微砂粒	高まりを持つ隆帯の端部が見られる。	称名寺2
22	深鉢	口縁部	覆土	淡褐色	砂粒	小波状口縁を呈し、波頂部に縦位6本の沈線。	堀之内1
23	深鉢	口縁部	床面	黒褐色	微砂粒	口唇部内側に肥厚、刻みを有す隆帯が口縁部を巻くような形から垂下。沈線による∩状、矩形文様を描く。	称名寺2
24	鉢形土器	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	大きく開く口縁部片、外面は無文で、内面に沈線による同心円文。	堀之内2
25	深鉢	胴部	覆土	暗赤褐色	砂粒	沈線による重対弧状文。	堀之内1
26	深鉢	胴部	覆土	黒色	砂粒	滴状の刺突文。	三十稲場

第3章 検出された遺構と遺物

No.	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
27	甕型土器	胴部	覆土	褐灰色	砂粒	頸部くの字を呈す、口縁部を欠く。環状の取手が付くと見られるが欠損している。胴部文様は連続する爪形の刺突文。	三十稲場
28	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	刺突文。	三十稲場
29	深鉢	胴部	床面	明褐色	砂粒	太い横位の隆帯下に櫛状工具による縦位の集合沈線文。	中期後半
30	深鉢	口縁部	覆土	橙黄色	微砂粒	無文口縁部片。	後期
31	両耳壺	取手	覆土	淡茶褐色	砂粒	幅広の橋状取手部片、両側がやや盛りあがり上端が舌状に突き出る。	中期後半
32	浅鉢	取手	覆土	灰褐色	砂粒	幅広の橋状取手部。	中期後半
33	深鉢	底部	覆土	灰褐色	砂粒	小型品、縦位の併行沈線が見られる。	加曾利E 3
34	深鉢	底部	覆土	暗褐色	砂粒	無文の底部片。	中期後半
35	深鉢	底部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	胴部沈線で画した磨り消し文様か、以下細縄文が底部付近にまで施文される。	称名寺1
36	鉢形土器	底部	覆土	暗褐色	砂粒	無文底部片、器面風化。	後期
37	深鉢	底部	覆土	淡黄褐色	砂粒	無文底部片、底面研磨。	後期
5-126号住居跡 (第309図：PL178)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁に横位の沈線、以下無節縄文Lを縦位施文後2本単位の沈線で口状文を描く。	称名寺1
2	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	磨り消し縄文による曲線文様。	称名寺1
3	深鉢	胴部	覆土	黒色	微砂粒	磨り消し縄文による曲線文様。器面研磨。	称名寺1
4	深鉢	口縁部	覆土	暗灰褐色	微砂粒	口縁下に横位の隆帯、さらに2本の併行する隆帯で曲線文様。	称名寺2
5	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	砂粒	口縁部は短く外反し端部肥厚、刺突文有し端部の取手が付くか、頸部に横位の沈線。	堀之内1
6	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	併行沈線による渦巻き文様。	称名寺2
7	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	沈線による曲線文様。被熱しており器面荒れる。	称名寺2
8	深鉢	胴部	覆土	淡茶褐色	微砂粒	沈線による平行、曲線文描き間には斜位の短沈線文が付される。	後期
9	深鉢	胴部	覆土	淡茶褐色	微砂粒	縦位の併行沈線間に刺突文。	称名寺2
10	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	微砂粒	縦位の波状集合沈線文。	後期
11	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	細い縦位集合沈線が部分的に施文される。	後期
12	台付き鉢	脚台部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	ハの字に開く台部片。2カ所に円孔を有す。	後期
13	深鉢	底部	覆土	茶褐色	砂粒	無文の底部片、器面研磨。	後期
5-127号住居跡 (第311・312図：PL178)							
1	浅鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	隆帯による渦巻き文か、隆帯が剥落。	称名寺2
2	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	口縁に円形押圧文列、以下横位の沈線が見られる。	称名寺2
3	浅鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	小波状口縁を呈す、口縁部内外面に円形刺突文を伴う沈線。	堀之内1
4	浅鉢	口縁部	覆土	灰色	微砂粒	口縁部は強くくの字に内屈し口縁面が平坦をなす。無文。	中期後半
5	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	微砂粒	環状突起を有す、上位に棒状の貼付文。	後期
6	深鉢	胴部	覆土	暗赤褐色	砂粒	厚手の胴部片、縦位区画の磨り消し縄文、縄文帯はRL附加条縄文を縦位施文し縦位の波状沈線を描く。	加曾利E 3
7	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	縦位の磨り消し縄文帯、隆帯間を磨り消す。	加曾利E 3
8	深鉢	胴部	覆土	黄橙色	微砂粒	磨り消し縄文による曲線文様。	称名寺1
9	深鉢	胴部	覆土	橙褐色	砂粒	上下に口状の沈線文。	加曾利E 4
10	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	2本単位の垂下沈線、弧状を呈す。	加曾利E 4
11	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	幅広の縦位隆帯と縦位にハの字状沈線文。	曾利4
12	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	横位、斜位に粗い沈線文。	曾利3
13	浅鉢	取手	覆土	灰黄褐色	砂粒	橋状取手が付されるが、欠損している。取手下側の付け根部からは隆帯が延びる。	後期
5-128号住居跡 (第314図：PL178)							
1	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	縦位無文帯有す磨り消し縄文。	加曾利E 3
2	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	捺糸文Rを縦位施文。縦位山形沈線文。	中期後半
3	深鉢	胴部	覆土	淡茶褐色	砂粒	縦位平行沈線、斜位の集合沈線。	曾利3
4	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	砂粒	無文口縁部片。	後期
5-129号住居跡 (第315図：PL178)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	口縁部に隆帯による楕円渦巻き文を構成し、縄文RLを横位施文、胴部は縦位磨り消し縄文で、無文帯が中央で2分割されている。縄文は縦位のRL。	加曾利E 3

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
2	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	砂粒	沈線による縦位磨り消し帯、縦位の集合条線文。	曾利3
3	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	櫛状工具による列点状刺突の連続ハの字文。	中期後半
5-130号住居跡 (第318図：PL178)							
1	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	砂粒	縦位の磨り消し縄文帯。	加曾利E3
2	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	砂粒	弧状沈線が見られる。	称名寺2
3	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	砂粒	弧状隆線が見られる。	後期
4	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	砂粒	無文口縁部。	後期
5	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	砂粒	無文の胴部片、器面全体に凹凸が見られる。	後期
5-131号住居跡 (第320・321図：PL179)							
1	深鉢	口縁部	覆土	黄橙褐色	微砂粒	口縁部に沈線および円形文、以下胴部には沈線で画す縄文帯で矩形文を描く。	堀之内1
2	浅鉢	口縁部	覆土	暗褐色	精製	口縁部は瘤状に突起し連続波状を呈し最も高まった突起の内側には円形押圧文、口唇部から器外面にかけて良く研磨される。	堀之内1
3	深鉢	口縁部	覆土	淡灰褐色	微砂粒	口縁部に押圧文、以下平行する横位の沈線。	堀之内1
4	深鉢	口縁部	覆土	黒色	精製	口縁部に環状突起、両側に押圧を伴う沈線文、内側にも沈線、押圧文が見られる。	堀之内1
5	深鉢	口縁部	覆土	黒色	精製	口縁部やや肥厚し端部に押圧文有す沈線が廻る、器面研磨。	堀之内1
6	深鉢	口縁部	覆土	黒色	微砂粒	口縁に浅い凹線廻り、垂下沈線文。	堀之内1
7	深鉢	口縁部	炉	暗黒褐色	砂粒	口縁部に2条の沈線が廻る、頸部には沈線と貼付文か。	堀之内1
8	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	微砂粒	押圧隆帯。	堀之内1
9	深鉢	口縁部	覆土	灰黄色	砂粒	口縁下に横位の隆帯。火を受けている。	後期
10	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	無文口縁部片、火を受けゆがみを有す。	後期
11	深鉢	口縁部	覆土	灰黄色	精製	やや外反する無文口縁部片。	後期
12	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	沈線による曲線文様の磨り消し文様。	称名寺1
13	深鉢	胴部	覆土	黄橙褐色	砂粒	細縄文RLを施文。	後期
14	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	微砂粒	沈線によるJ字状文。	称名寺2
15	深鉢	胴部	覆土	黄橙色	砂粒	弧状の隆帯。	後期
16	深鉢	胴部	覆土	黒色	微砂粒	平行隆線。	堀之内1
17	深鉢	胴部	覆土	黒色	砂粒	隆線文。	堀之内1
18	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	砂粒	屈曲する頸部に沈線が廻り、肩部には縦位の浅い平行沈線が見られる。	後期
19	深鉢	胴部	覆土	淡灰黄褐色	砂粒	複数の平行沈線による垂下文様。	堀之内1
20	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	砂粒	沈線による重三角文様、一部分沈線に連続結節文。	堀之内1
21	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	縦位平行沈線およびハの字状沈線文。	曾利3
22	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	砂粒	縦位の沈線、器面やや風化。	後期
23	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	平行垂下沈線。	称名寺2
24	深鉢	底部	覆土	淡褐色	砂粒	磨り消し縄文による曲線文様。底部に網代痕。	称名寺1
25	深鉢	底部	炉	暗茶褐色	砂粒	無文の底部片、器面、底面良く研磨。	後期
26	深鉢	底部	覆土	暗灰褐色	砂粒	無文の底部片。	後期
27	小型甕形土器	胴～底部	覆土	淡灰褐色	精製	無文、小型土器。	後期
28	土製円盤	胴部	覆土	淡褐色	微砂粒	無文の胴部片利用、やや角張り径約4.0cm。	後期
29	土製円盤	胴部	覆土	灰白色	砂粒	胴部片を利用、隆帯が見られる。径約2.5cmとやや小型品。	後期
5-132号住居跡 (第323・324図：PL179・180)							
1	深鉢	口縁～胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	口縁部はやや外反、肩部に隆帯を廻し円形区画文、以下胴部には全面に縄文施文。	加曾利E3
2	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	微砂粒	小波状口縁、波頂下に円形の押圧文、浅い沈線による楕円文を区画し縄文を充填施文。	加曾利E3
3	深鉢	口縁部	覆土	橙褐色	微砂粒	口縁部に横位沈線、以下縄文施文後沈線で画した∩状文。	加曾利E4
4	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	隆帯による楕円、渦巻き文。楕円文内に縄文施文。口縁部欠損。	加曾利E3
5	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	砂粒	口縁部はやや外反、肩部に隆帯を廻し、以下隆帯による楕円文か。	加曾利E3
6	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	微砂粒	縦位沈線で画す無文帯、縄文帯。縄文は縦位のLRを施文。	加曾利E3
7	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	砂粒	全面に縄文LRを横位に施文。	

第3章 検出された遺構と遺物

No.	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
8	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	精製	把手部片、板状の隆帯を内および外面側から折り曲げてS字状に貼り合わせている。口縁、把手から延びた稜線鋭く刺突文、縄文を伴う。研磨顕著。	中期末
9	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	沈線で画した横位縄文帯、下位には曲線文。	加曾利E 3
10	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	隆帯文に沿って刺突文。縄文充填。	後期
11	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	微砂粒	口縁部肥厚し沈線による長楕円文、縦列刺突文を付し楕円内の隆線状部に押圧文。以下胴部には沈線による縄文充填された矩形区画文を構成。	加曾利E 3
12	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	平行沈線で画した縄文帯によるV字状文描き、中には連弧文を配す。	後期
13	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	精製	横位に3本隆帯、最上部の隆帯端部は高まり渦巻きとなり、交互刺突文に繋がる。また隆帯下には斜沈線文。	曾利4
14	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	精製	波状口縁、やや幅広の無文部を持ち、隆帯による渦巻き文か。	曾利4
15	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	金雲母粒	口縁部肥厚し、以下斜位の集合沈線文。	曾利4
16	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒多	横位の隆帯下位に沈線による曲線文。	曾利4
17	深鉢	口縁～胴部	覆土	灰黒色	砂粒	波状口縁を呈す、波頂部に円孔か、口縁部には楕円区画文が描かれ、縦位の沈線で埋めている。以下胴部には縦位の沈線で無文帯、蕨手垂下文。	曾利3
18	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	砂粒	ハの字状の沈線文。	曾利3
19	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	砂粒	縦位沈線を描き左右に弧状の沈線文。	曾利3
20	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	雲母粒	沈線による渦巻き文から2本の沈線が垂下。	堀之内1
21	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	縦位集合沈線文上に波状垂下文。	中期後半
22	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	無文で、磨き痕見られる。	後期
23	浅鉢	胴部	覆土	灰黒色	精製	沈線による曲線文。内外面に赤彩痕見られる。	加曾利E 4
24	浅鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒多	口縁端部内屈、外面無文であるが、上部に整形時に付いたものか横方向の粗い沈線が看取される。内外面磨き。	中期後半

5-133号住居跡 (第325・326図：PL180)

1	深鉢	口縁部	炉	灰褐色	微砂粒	口縁部に横位の隆帯が廻る。	称名寺1
2	浅鉢	口縁部	覆土	茶褐色	微砂粒	口縁部に横位2条の沈線および円形文が付される。	堀之内1
3	深鉢	口縁部	覆土	暗灰褐色	砂粒	口縁部に沈線、押圧文が見られる。	堀之内1
4	深鉢	口縁部	炉	茶褐色	微砂粒	口縁下に横位の沈線廻る。	堀之内1
5	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	横位の隆帯下に縄文施文。	称名寺1
6	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	磨り消し縄文による曲線文様。	称名寺1
7	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	磨り消し縄文による曲線文様。	称名寺1
8	深鉢	胴部	覆土	橙褐色	微砂粒	平行沈線による楕円、菱形文様描き縄文で埋めている。	称名寺1
9	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	砂粒	横位沈線から沈線が垂下交点部分に対向弧状沈線文。	堀之内1
10	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	縦位、弧状の沈線文。	堀之内1
11	深鉢	口縁取手	覆土	黒褐色	微砂粒	波状口縁波頂部分が高く伸び環状の突起となる。突起外縁には沈線、刺突文が見られる。以下器面には沈線による垂下文様と、列点状文が付される。	称名寺2
12	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	横位の隆帯に円形の貼付文。	堀之内1
13	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	斜位の隆線。	堀之内1
14	深鉢	胴部	炉	暗黒褐色	砂粒	縦位隆帯。	堀之内1
15	深鉢	口縁部	覆土	淡褐色	微砂粒	口縁下に横位押圧隆帯。	堀之内1
16	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	横位の隆帯、下段の隆帯には押圧文が見られ下位方向にも延びる。交点部には円形文。	堀之内1
17	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	砂粒	円形刺突文。	三十稲場
18	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	爪形状の刺突文。	三十稲場
19	深鉢	胴部	炉	淡黄褐色	砂粒	縦位の沈線による無文帯と縦位集合沈線。	加曾利E 3併行
20	深鉢	胴部	炉	淡褐色	砂粒	縦位の集合条線文。	中期後半
21	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	無文口縁部片。	堀之内1
22	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	無文口縁部片。	堀之内1
23	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	無文口縁部片。	堀之内1
24	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	無文口縁部片。	堀之内1
25	深鉢	底部	覆土	暗褐色	砂粒	無文底部片。器面やや荒れる。	後期

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
26	深鉢	底部	覆土	暗褐色	砂粒	無文底部片。器面やや荒れる。	後期
27	注口土器	注口部片	覆土	黄褐色	微砂粒	注口部片、先端を欠く。下部に鎖状の隆帯が見られる。小片に破損しており器面も風化。	堀之内1
5-134号住居跡 (第328・329図：PL181)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	砂粒	磨り消し縄文による三角文、渦巻き文様を描く。	称名寺1
2	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	口縁に横位沈線廻り直下には縦位短沈線を連続施文。以下縄文施文。	称名寺1
3	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	口縁部に横位沈線、以下沈線による渦巻き文をやや乱雑に描く。地文に縄文が部分的に施文。	加曽利E4
4	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	微砂粒	口縁部に横位沈線、以下沈線による曲線文様。	加曽利E4
5	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁下に横位の隆帯が廻り、その下には横位連続の矢羽根状沈線文を帯状に配す。	後期
6	深鉢	胴部	覆土	暗灰褐色	微砂粒	頸部屈曲し外反、頸部には沈線で画した重四角文、描き無節縄文Lを縦位充填施文する。	称名寺1
7	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	沈線による曲線文を描き縄文を充填施文。	加曽利E4
8	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	微砂粒	2本沈線による磨り消し文様。	加曽利E4
9	深鉢	胴部	床面	暗茶褐色	微砂粒	垂下沈線による幅狭の無文帯を画す。	加曽利E3
10	深鉢	口縁一部欠	埋甕	暗褐色	砂粒	底部径小さくキャリパー形を呈す。無文であるが、成形時の輪積み痕が明瞭に残る。	後期
11	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	口縁から続く隆帯による渦巻き文および沈線文が見られる。隆帯文には円形刺突文が伴う。	堀之内1
12	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	弧状の微隆線。	堀之内1
13	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	砂粒	無文胴部片。	後期
14	深鉢	底部	覆土	暗褐色	微砂粒	垂下沈線による縄文、無文帯。	加曽利E3
15	深鉢	底部	覆土	灰黄褐色	砂粒	無文の底部片、底面に網代痕。	後期
5-135号住居跡 (第333図：PL182)							
1	深鉢	口縁部	炉	灰黄褐色	微砂粒	くの字に折れた口縁部に沈線で画された縄文帯、以下胴部は沈線区画文。	称名寺1
2	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	微砂粒	口縁部に押圧文を持つ小突起有す、横位に沈線で画された縄文帯。	堀之内1
3	深鉢	口縁部	炉	灰黄褐色	微砂粒	口縁部はくの字に外反し、端部が直立。口縁から肩部に両端に円形刺突文を有す貼り付け隆帯文が付く。頸部には沈線が廻り以下横位の縄文帯。	堀之内1
4	深鉢	口縁部	炉	灰褐色	砂粒	沈線区画の磨り消し縄文。	称名寺1
5	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	口縁端部は内側に折れ、上面に平坦面を形成し円形刺突文が見られる。また下位には断面三角の横位の隆帯が廻る。器面研磨。	後期
6	深鉢	口縁部	炉	淡黄褐色	微砂粒	無文の口縁部片。	後期
7	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	薄手で硬質、器面に剝離痕、頸部には沈線文の一部が看取される。	後期か
8	深鉢	胴部	炉	茶褐色	砂粒	垂下沈線により無文、縄文帯。	加曽利E3
9	深鉢	底部	炉	灰褐色	砂粒	無文底部片。	後期
10	深鉢	底部	覆土	灰黒色	微砂粒	底面に網代痕。	後期
11	深鉢	底部	炉	黄橙色	砂粒	無文底部片。	後期
12	土製円盤	胴部	覆土	淡黄褐色	砂粒	沈線文様見られる。径約4cm。	称名寺2
5-136号住居跡 (第335図：PL182)							
1	深鉢	胴部	覆土	淡茶褐色	微砂粒	縦位の磨り消し縄文。	中期後半
2	深鉢	胴部	覆土	淡茶褐色	微砂粒	横位隆帯上に縦の押圧文列。	中期後半
3	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	低い横位隆帯。	中期後半
5-137号住居跡 (第337図：PL182)							
1	深鉢	口縁部	覆土	淡茶褐色	砂粒	小波状口縁、横位沈線が廻り、以下沈線で磨り消し文様を描く。縄文はLR、口縁部は横位、以下は縦位方向に施文。	称名寺1
2	深鉢	口縁部	覆土	褐色	微砂粒	口縁部に横位の隆帯。	後期
3	深鉢	胴部	覆土	黒色	砂粒	沈線で磨り消し縄文文様を描く。	称名寺1
4	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	沈線による矩形文。	称名寺2
5	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	縦位の沈線、両側に沈線で画した縄文充填の∩状文、渦巻き文が見られる。	堀之内1
6	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	沈線による垂下文、重弧文様描き、交点には円形文が見られる。	堀之内1
7	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	砂粒	縦位に無文帯、集合沈線帯。	中期後半
8	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	縦位集合条線。	中期後半
5-138号住居跡 (第339図：PL182)							
1	深鉢	口縁部	覆土	淡灰褐色	砂粒	口縁に隆帯文様か。	後期
2	深鉢	胴部	覆土	黒色	微砂粒	横位沈線、隆帯による渦巻き文か。	後期

第3章 検出された遺構と遺物

No	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
3	深鉢	胴部	覆土	淡灰褐色	砂粒	3本谷の沈線文、縄文施文。	堀之内1
4	深鉢	胴部	覆土	黄白褐色	砂粒	器面風化し文様不鮮明。	中期後半か
5	深鉢	胴部	覆土	黄白色	砂粒	縦位の隆帯。	後期か
5-139号住居跡 (第340・341図：PL182・183)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	精製	口縁に沈線が廻る、以下無文で器面研磨される。	堀之内1
2	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	砂粒	口縁部、頸部に横位沈線。	堀之内1
3	深鉢	口縁部	覆土	灰橙褐色	砂粒	口縁部は小波状を呈し端部に押圧文有す沈線が廻る、波状下には隆帯が垂下。	堀之内1
4	深鉢	胴部	覆土	暗黄褐色	砂粒	磨り消し縄文。	称名寺1
5	深鉢	胴部	覆土	淡茶褐色	砂粒	頸部に横位平行沈線廻り8字状の貼付文、下位に対向弧状沈線文が見られる。縄文LR施文。	堀之内1
6	小型壺形土器	胴部	覆土	黒褐色	微砂粒	沈線による渦巻き文、蕨手文様を描く。	堀之内1
7	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	縄文地文に横位沈線、曲線文描く。	加曾利E4
8	深鉢	胴部	覆土	灰黒褐色	微砂粒	頸部に横位平行沈線廻り間に列点文付す。さらに胴中位には3本の横位沈線が廻らされ、沈線間を縄文で埋めている。	堀之内1
9	深鉢	胴部	炉	黄褐色	砂粒	縄文施文。	中期後半
10	浅鉢	口縁～胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	無文浅鉢、器面に輪積み痕見られる。	後期
11	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	砂粒	無文の口縁部片、器面風化。	後期
12	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	T状の隆線交点に円形の貼付文。	後期初頭
13	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	微砂粒	隆帯による縦位区内に押圧文有す隆帯垂下。	堀之内1
14	深鉢	胴部	覆土	黄橙色	微砂粒	刺突文。	後期
15	深鉢	底部	覆土	暗褐色	砂粒	底部片。	後期
5-140号住居跡 (第343図：PL183)							
1	深鉢	口縁部	覆土	黒色	精製	口縁部内側に肥厚し、円形の隆起文が見られる。器面黒色で研磨される。	堀之内1
2	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	微砂粒	口縁下に横位の隆帯廻り無文部を有す。以下縄文RL横位施文。	加曾利E4
3	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	沈線による矩形文。	称名寺1
4	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	横位沈線、刺突文が見られる。	堀之内1
5	深鉢	底部	覆土	暗茶褐色	砂粒	縦位磨り消し縄文。	加曾利E3
6	深鉢	底部	覆土	灰黄褐色	砂粒	無文底部片。	後期
5-141号住居跡 (第345図：PL183)							
1	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	小波状を呈す、波頂下に隆帯による渦巻き文様。	加曾利E3
2	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	小波状を呈す、口縁内側に横位隆帯が見られる。隆帯による渦巻き文。	加曾利E3
3	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	砂粒	縦位磨り消し縄文。	加曾利E3
4	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	縄文地文に沈線で曲線文を描く。	加曾利E4
5	深鉢	胴部	覆土	灰色	砂粒	縄文LRを縦位施文後、2本の沈線で磨り消し曲線文を描く。	加曾利E4
6	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	砂粒多	隆帯による∩状の区画文連続させ、中には斜位、横位の集合沈線文を充填。	曾利3
7	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	隆帯下に縦位羽状沈線文。	曾利3
8	浅鉢	胴部	覆土	淡茶褐色	砂粒	口縁部に内側に刺突を伴う隆帯か。	中期後半
5-142号住居跡 (第347図：PL183)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	微砂粒	小波状口縁、円形押圧文有す隆帯による楕円文構成か。	加曾利E3
2	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	砂粒	口縁下に横位の沈線と縦位集合沈線。	曾利3
3	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	平行沈線による磨り消し文様。縄文はRL。	加曾利E4
4	深鉢	胴部	覆土	淡茶褐色	砂粒	沈線による渦巻き文。	加曾利E4
5	深鉢	胴部	覆土	橙褐色	砂粒	縦位沈線で無文帯、縄文帯。	称名寺1
6	深鉢	胴部	覆土	黄橙色	砂粒	縦位の沈線。	後期
7	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	砂粒	押圧文有す横位隆帯廻り下位には弧状、斜位の沈線文。	堀之内1
8	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	砂粒	隆帯が剥落し、地文の集合沈線が見られる。	曾利3
9	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	砂粒	隆帯文。	堀之内1

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No.	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
5-144号住居跡 (第349~351図: PL184・185)							
1	深鉢	口縁~胴部	炉体土器	暗黄褐色	砂粒	口縁は3単位の波状か、波頂部は肥厚し上位に円形文、内側に楕円文を構成。胴部文様は波頂部より、沈線で囲われたJ字状の縄文帯懸垂文様が大小2段に連なって描かれたものが3単位描かれている。文様間には縄文RLを縦位に充填施文。炉体土器。	後期初頭
2	深鉢	口縁~胴部	床面	黒褐色	砂粒	口縁部に沈線が廻り、胴部には垂下沈線で縦位4分割した区画内に懸垂重弧状文描きその下には重円状文を描く。文様の間隙には縄文充填施文。	後期初頭
3	甕形土器	口縁~胴部	覆土	暗黄褐色	精製	口縁部はほぼ直立し頸部に連続の刺突文が廻る。以下沈線による渦巻き文が横位連続する。口縁部に取手が付くか。内外面良く研磨。	後期初頭
4	深鉢	口縁部	覆土	黒色	微砂粒	口縁部は外反し、端部は短く直立、頸部に円形文を有す横位の隆帯、以下沈線による矩形磨り消し縄文描く。器面に炭化物の付着。	後期初頭
5	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	砂粒	口縁下に横位の沈線、以下渦巻き文、楕円文を組み合わせた縄文帯。	後期初頭
6	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	微砂粒	口縁部に側面沈線で飾られた環状突起が付くものと見られる。口縁下に横位の沈線、曲線文を描き、沈線間は縄文で埋める。	後期初頭
7	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	砂粒	3本単位の沈線による渦巻き文様。	後期初頭
8	深鉢	胴部	覆土	黒色	微砂粒	横位の沈線下に同心円文、区画内には縄文施文。	後期初頭
9	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	精製	縄文地文に沈線により渦巻き文、長楕円文様描く。	後期初頭
10	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	砂粒	縄文地文に沈線による曲線文用を描く。	後期初頭
11	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	横位に沈線以下、縄文帯による渦巻き文。	称名寺1
12	深鉢	胴部	覆土	黄白色	砂粒	沈線による三角および楕円文様を描き、縄文施文。器面風化。	後期初頭
13	深鉢	胴部	覆土	暗灰褐色	砂粒	横位の沈線に8字貼付文、以下沈線による重弧文、縦楕円文を描く。	後期初頭
14	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	砂粒	沈線による磨り消し曲線文。	称名寺1
15	深鉢	胴部	覆土	明褐色	砂粒	沈線で磨り消し曲線文様描く。	後期初頭
16	深鉢	胴部	覆土	黒茶褐色	微砂粒	沈線による重矩形文描き細縄文が充填施文される。	後期初頭
17	深鉢	口縁部	覆土	黄黒色	微砂粒	平行沈線で画された横位縄文帯。	後期初頭
18	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	三角形の磨り消し縄文。	後期初頭
19	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	磨り消し縄文による菱形区画文、斜位の集合沈線文。	後期初頭
20	深鉢	口縁部	覆土	黄白色	微砂粒	口縁部突起状に肥厚し、内外面に重弧状沈線文、その左右に刺突を有す沈線が延びる。	後期初頭
21	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	微砂粒	口縁部に刻みを有す沈線、瘤状に肥厚した部分には刺突文が見られる。	後期初頭
22	深鉢	口縁部	覆土	褐色	微砂粒	口縁部に隆帯による「の」字状文、端部に押圧文、隆帯上には刺突文が付され、口縁部にも円形文、刺突文が付される。	後期初頭
23	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁部内屈し沈線が廻らされ、直下が隆帯上に高まる。	後期初頭
24	深鉢	口縁部	覆土	淡褐色	砂粒	口縁部内屈し沈線、円形文が見られる。	後期初頭
25	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	精製	口縁部は短く外反し横位の沈線が見られる。以下横に刺突文列。	称名寺2
26	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁部に押圧隆帯。	後期初頭
27	深鉢	口縁部	覆土	暗灰褐色	砂粒	口縁から押圧文を有す弧状の隆帯が垂下。	後期初頭
28	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	微砂粒	口縁部内側に肥厚、押圧文を有す隆帯が廻る。	後期初頭
29	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	微砂粒	口縁部に2本の沈線が廻る、隆帯による円形文描き、刺突文が見られる。黒色の塗膜が部分的に残る、漆か。	後期初頭
30	深鉢	口縁部	覆土	橙褐色	砂粒	口縁から垂下した隆帯が左右に分かれ楕円文を構成、隆帯に沿って一部に角押し状の刺突文が見られる。	後期初頭
31	深鉢	口縁部	覆土	暗黄褐色	砂粒多	端状の取手が付くものと見られるが欠損。	後期
32	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	精製	口縁部は波状を呈し、口唇部が平坦をなし沈線が見られる。内外面良く研磨。	後期初頭
33	深鉢	口縁部	覆土	黄白色	砂粒	口縁部肥厚し瘤状部分に刺突文、その脇には刺突文を有す隆帯が垂下。	後期初頭
34	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒多	口縁部に螺旋隆帯による楕円透かし孔。さらに口縁に沿って2本の隆帯が廻る。	後期初頭
35	小型甕形土器	口縁部	覆土	暗灰褐色	微砂粒	口縁部は短く立ち上がる。隆帯による楕円文様組み合わせる。円形文が見られる。	後期初頭
36	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	微砂粒	頸部に刺突を有す貼付文見られ、沈線による同心円文、弧状文が描かれる。	後期初頭
37	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒多	口縁部が肥厚し、沈線が廻る。沈線下に沿って横位押圧文付される。器面やや風化。	後期初頭
38	深鉢	口縁部	覆土	黄白色	砂粒	口縁に2本の沈線が廻る。器面やや風化。	後期初頭
39	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	口縁部内側に肥厚、外面は無文。	後期初頭
40	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒多	頸部外反し、横位鎖状の隆帯、以下沈線による曲線文描く。	後期初頭
41	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	鎖状の隆帯が垂下。	後期初頭
42	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	微砂粒	頸部に横位円形刺突文列、斜位の集合沈線文。	後期初頭
43	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	肩部に重弧状および垂下沈線描き、周囲には列点状の刺突文を付す。	後期初頭

第3章 検出された遺構と遺物

No	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
44	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	砂粒	爪形の刺突文が粗く施文される。	三十稲場
45	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	砂粒	縦位の沈線。	後期
46	深鉢	胴部	覆土	黒色	砂粒	隆帯で縦位の磨り消し帯。	加曾利E 3
47	注口土器	注口部分	覆土	暗茶褐色	砂粒	注口部は先端を欠いている。上部に口縁から繋がる橋状の取手が付く。注口両側には隆帯、および沈線による楕円文、注口下には鈎状の垂下隆帯。	堀之内1
48	浅鉢	胴部	覆土	灰白色	砂粒	無文の胴部片。	後期
49	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	砂粒	無文の胴部。	後期
50	深鉢	底部	覆土	暗赤褐色	砂粒	細の沈線下端部見られる。底部網代痕。	後期
51	浅鉢	胴～底部	覆土	灰褐色	砂粒	無文。器面に一部黒色の塗膜が残る。漆か。	後期
52	深鉢	取手	覆土	黄褐色	微砂粒	口縁部に突き出た環状突起と思われる。内側には隆帯様に肥厚した貼り付け文が見られ、沈線、円形刺突文が付される。	堀之内1
53	注口土器	注口部	覆土	灰褐色	微砂粒	注口部分、先端部がやや細くなり、上部付け根部分に取手の欠損部が見られる。器面は研磨されているが部分的に剝離が見られる。	堀之内1
54	土製腕輪	破片	覆土	淡褐色	砂粒	幅約3.0cm、厚さ約1.0cmで両縁が丸みを有す。傾きを持った楕円形を呈すものと考えられる。表面に塗布された白色顔料が部分的に残る。	後期
5-145号住居跡 (第354図：PL185)							
1	深鉢	胴部	炉体土器	淡黄褐色	砂粒	3本単位の垂下沈線および縄文施文帯が間隔を置いて見られる。縄文はLRを縦位施文。炉体土器。	堀之内1
2	深鉢	口縁部	炉	黄白色	微砂粒	口縁下に横位の隆帯廻る、以下縄文LRを施文しているが、縄文施文後隆帯下を無帯で無文帯を作り出している。	後期
3	深鉢	胴部	床面	黄褐色	砂粒	縦位、斜位の沈線文。地文にLRの細縄文。	堀之内1
4	甕形土器	口縁部	床面	黒色	砂粒	口縁部が短く外反、器面には渦巻き文基調の磨り消し縄文。	堀之内1
5	深鉢	胴部	床面	灰褐色	砂粒	沈線による∩状文か。	加曾利E 4
6	深鉢	胴部	床面	灰褐色	微砂粒	沈線による菱形文。	堀之内2
7	深鉢	胴部	床面	灰褐色	精製	横位沈線見られ器面研磨。	堀之内1
8	深鉢	胴部	炉	暗灰褐色	砂粒	無文胴部片。1と同一個体か	後期
9	深鉢	底部	炉	灰黄褐色	砂粒	無文で外面研磨される。底面に網代痕か。火を受け脆弱、外面に灰色の付着物あり。	堀之内2
6-10号住居跡 (第323図：PL186)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	石英粒多	口縁下に横位の隆帯、口縁との間に連続の結節文。以下縄文施文か。	中期
2	深鉢	口縁部	Pit 3 内	橙褐色	微砂粒	口縁部に押圧文隆帯が弧状に付される。	堀之内1
3	深鉢	口縁部	床面	灰褐色	石英粒多	口縁部、頸部に横位沈線。	堀之内1
4	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	口縁部に沈線が廻る。	堀之内1
5	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	口縁部に沈線が廻る。	堀之内1
6	浅鉢	口縁部	覆土	淡褐色	微砂粒	口縁部に細かい刻みを有す、内側に隆帯が廻りさらに下位には4条の沈線が多段施文されている。外面は無文。	堀之内2
7	深鉢	口縁部	床面	暗黄褐色	微砂粒	口縁下位に横位刻み隆帯。	堀之内2
8	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	口縁部短く内傾し沈線が廻る。	堀之内2
9	深鉢	口縁部	床面	灰色	微砂粒	口縁部沈線で無文帯画す、以下重菱形文。	堀之内2
10	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	微砂粒	口縁部短く内傾、口縁から沈線を垂下、間には連続の山形沈線文を重層施文する。	後期
11	深鉢	口縁部	床面	灰黒色	微砂粒	口縁部内屈し平行沈線が垂下。	堀之内1
12	深鉢	口縁部	床面	淡褐色	微砂粒	口縁下に横位の隆帯、沈線文。	堀之内2
13	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	微砂粒	口縁くの字に内屈する。折れた部分は平滑に磨かれている。	後期
14	深鉢	口縁部	床下土坑	黒色	砂粒	口縁部片。	後期
15	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	砂粒	横位の沈線文以下磨り消し縄文。	堀之内1
16	深鉢	胴部	覆土	明黄褐色	微砂粒	重三角形磨り消し縄文。	堀之内2
17	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	砂粒多	沈線で縦位および斜位方向の文様描き、細縄文を充填施文。	堀之内1
18	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	微砂粒	沈線文、地文は横位RL。	後期
19	深鉢	胴部	覆土	橙褐色	砂粒	横位磨り消し縄文帯。	堀之内2
20	深鉢	胴部	床面	淡黄褐色	微砂粒	沈線による重三角磨り消し縄文。	堀之内2
21	深鉢	胴部	床面	黄褐色	砂粒	沈線による重三角磨り消し縄文。	堀之内2
22	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	微砂粒	横位磨り消し縄文帯。器肉極めて薄い。	堀之内2
23	浅鉢	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	口縁内面に沈線。	堀之内2

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
24	浅鉢	胴部	床面	黄橙色	微砂粒	頸部に8字貼付文、これを囲むように沈線による重弧文。	堀之内2
25	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	沈線による渦巻き文。	堀之内2
26	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	精製	沈線による渦巻き文か。炭化物付着。	後期
27	深鉢	胴部	床面	黒褐色	微砂粒	重菱形文か。	堀之内2
28	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	沈線による曲線文様。	後期
29	深鉢	胴部	床面	赤褐色	砂粒	刻みを有す横位隆帯。	堀之内1
30	深鉢	口縁部	覆土	橙褐色	微砂粒	横位、縦位の隆帯。	後期
31	深鉢	口縁部	床面	灰黒色	砂粒	押圧隆帯文。	堀之内1
32	深鉢	胴部	床面	灰褐色	精製	無文。	後期
33	深鉢	把手	覆土	橙褐色	微砂粒	口縁部把手片、手前側は橋状になると見られるが欠損している。	後期
34	深鉢	底部	覆土	茶褐色	微砂粒	底面に網状痕。	後期
6-15号住居跡 (第360図: PL186)							
1	深鉢	口縁部	Pit 3	灰褐色	砂粒多	口縁端部が短く内屈し内側が段を持って平坦面をなす。口縁外側に連続爪形文。	
2	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	内湾する無文口縁部。	
3	深鉢	胴部	床面	茶褐色	砂粒	隆帯による曲線文、波状垂下文。地文には斜方向の条線文。	唐草文系
4	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	垂下波状隆帯文、地文には斜方向の条線文。	唐草文系
5	深鉢	胴部	床面	茶褐色	砂粒	縦位併行隆線、地文には斜方向の条線文。	唐草文系
6	深鉢	胴部	床面	黄褐色	微砂粒	横位羽状沈線文。	曾利3
6-16号住居跡 (第363~365図: PL186~188)							
1	深鉢	口縁~胴下部	炉体土器	淡褐色	白色砂粒多	隆帯による楕円文様帯、楕円内は横位縄文施文。下側隆帯には押圧文が付され頸部にも押圧文が廻る。胴部沈線による縦楕円文、蕨手文。	加曽利E2
2	両耳壺	口縁~胴上部	覆土	灰黄褐色	砂粒	口縁は無文で外反する。把手は縁の部分高まり縦長S字状の沈線文、把手左右の肩部には縄文帯が施文される。胴部沈線による∩状文、蕨手文。	加曽利E3
3	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁部楕円区画文、区画間の隆帯上下に円形押圧文。楕円内縄文RL充填施文。胴部には垂下沈線による無文・縄文帯構成、無文帯には蕨手文。	加曽利E3
4	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	口縁部に隆帯による楕円、渦巻き文。区画内は縄文で埋めている。胴部は垂下無文帯、縄文帯を構成するが縄文帯がかなり幅広く作られる。	加曽利E3
5	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	隆帯による楕円文構成か。縄文LRを横位施文する。	加曽利E3
6	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	口縁部内屈する、横位沈線で画された縄文帯が見られる。	加曽利E2
7	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	無文部下、横位に連続刺突文、以下沈線による縦楕円文および蕨手文が見られる。楕円内には縄文RLが縦位施文されている。	加曽利E3
8	深鉢	胴上部	覆土	黒色	微砂粒	頸部に円形文が廻る、以下2本の沈線で胴部を画し、胴部には3本の沈線が斜めに走り文様を画す。区画内には縄文LRが充填施文。	堀之内1
9	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	砂粒	垂下無文帯、縄文帯を構成。無文帯には縄文充填した縦楕円文を描きその下に蕨手沈線文。縄文は縦位のRL。	加曽利E3
10	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	砂粒	沈線による垂下無文および縄文帯。縄文は縦位RL。	加曽利E3
11	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒多	口縁に沿って刺突文、以下縦位の集合条線文および沈線。	
12	深鉢	口縁部	覆土	淡茶褐色	砂粒多	口縁下に横位隆帯が廻り連続押圧文が付される。胴部は縦位の剣先状渦巻き隆帯文が見られ、上部には部分的に縄文LR縦位施文が看取される。	曾利3
13	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	雲母粒	口縁部に断面三角の隆帯による渦巻き文を付す。さらに左右に2本ずつの隆帯が延びている。	曾利3
14	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	雲母粒	渦巻き隆帯文、地文には縦位、斜位の集合沈線。	唐草文系
15	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒多	隆帯により横位区画帯、曲線文、矩形文を隆帯で描き出し隙間には沈線文が付される。	曾利3
16	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	横位の隆帯下にS字状の垂下文。字には沈線による重弧状文を描き外側には放射状に沈線文を配す。	唐草文系
17	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	横位の弧状、渦巻き弧状文。地文には縦位の沈線。口縁部内側に折り返されて肥厚。	曾利3
18	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	縦位にH字状の隆帯文付し、斜位の集合沈線。	曾利3
19	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	雲母粒	3本の垂下隆帯、地文には斜位の集合沈線文。	曾利3
20	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	雲母粒	垂下隆帯。	曾利3
21	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	縦、横方向の隆帯、横位隆帯上位は縦、下位部分には斜位の沈線施文。	曾利3
22	深鉢	胴部	床面	灰黄褐色	砂粒	沈線により縦位に対向楕円文を描く、楕円内には中央に縦位沈線1本を描く。地には斜位の集合沈線文。	曾利3
23	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	沈線による曲線文。内面に炭化物。	称名寺
24	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	精製	沈線による渦巻き文か、一部に刺突列。	後期
25	深鉢	口縁部	覆土	淡茶褐色	微砂粒	内屈し、横長の楕円形透かし孔を持つ、透かし孔の上下に隆線文が見られ、両端部に円形の刺突文。口縁部には沈線による楕円文か。	後期

第3章 検出された遺構と遺物

No	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
26	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	微砂粒	円形刺突文を有す横位の隆帯。	後期
27	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	砂粒	横位の沈線下に沈線による重弧文。	堀之内
28	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	白色砂粒	口縁段内側に短く折れる。外面沈線により無文帯を画し、以下胴部には沈線による矩形磨り消し縄文。縄文は無節Lを横位施文している。	堀之内2
29	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	白色砂粒	口縁段内側に短く折れる。外面沈線により無文帯を画し、以下胴部には沈線による重菱形文、外側には細縄文無節Lが施文されている。	堀之内2
30	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	砂粒多	横位の沈線下に同心円文状の縄文帯。	堀之内2
31	深鉢	口縁部	覆土	黒色	白色砂粒	口縁部に横位の沈線廻る。	堀之内1

6-17号住居跡 (第369図：PL188)

1	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	口縁内側に肥厚する、無文。	後期
2	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	沈線による縦位無文帯、縄文帯区画、縄文は縦位RLを施文。	加曾利E 3
3	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	金雲母	縦位羽状沈線文。	曾利3
4	深鉢	胴部	覆土	明黄褐色	砂粒多	沈線による縦位の区画帯内に羽状沈線文。	堀之内2
5	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	矩形区画内に縦位の集合沈線。	中期後半
6	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒多	縦位集合沈線文。	中期後半

5区焼土 (第372図：PL189)

1	深鉢	頸部	5-1号焼土 (5-7号掘立)	淡橙色	微砂粒	頸部から肩部片、2本の隆帯による連弧状の沈線とその連結部下位には渦巻き文。	堀之内1
2	深鉢	口縁部	5-1号焼土 (5-7号掘立)	灰褐色	微砂粒	隆帯に横位刺突文。	堀之内1
3	深鉢	胴部	5-1号焼土 (5-7号掘立)	暗褐色	微砂粒	沈線の交点部に円形文。	堀之内1
4	深鉢	底部	5-1号焼土 (5-7号掘立)	淡橙色	砂粒	胴部無文、底面には網代痕。	後期

5区埋甕・炉・配石 (第374・375図：PL189)

5-9号埋甕 (第374図：PL189)

1	深鉢	胴部	9号埋甕	茶褐色	砂粒	口縁部に隆帯による楕円区画文描き縦位集合沈線で充填。胴部は10単位の縦位の集合沈線文帯を磨り消し帯で画し、同じ工具により波状垂下文を描き、さらにその上から沈線による蛇行垂下文を付すが、このうち1帯のみ集合沈線による波状文を省いて蛇行垂下文が付されている。下部の欠け口は丸く整形される。	曾利3
---	----	----	------	-----	----	--	-----

5-10号埋甕 (第374図：PL189)

1	深鉢	口縁~胴上部	10号埋甕	灰褐色	砂粒	口縁部隆帯により横S字様の楕円文を重層させて描き、左側の楕円文にのみ縦位集合沈線文を施文。また隆帯交点に円形文を付す。胴部は縦位沈線による無文帯および集合沈線文帯に区画。	加曾利E 3
---	----	--------	-------	-----	----	---	--------

5-11号埋甕 (第374図：PL189)

1	深鉢	胴部	11号埋甕	暗茶褐色	金雲母粒	全面に縄文RLを縦位施文する。口縁部、底部を欠く。	中期後半
---	----	----	-------	------	------	---------------------------	------

5-12号埋甕 (第375図：PL189)

1	深鉢	口縁~胴部	12号埋甕	灰褐色	石英・長石粒	口縁部隆帯による楕円、渦巻き文様帯を構成。楕円文内には縦位の集合沈線文。胴部は縦位の沈線により無文帯、集合沈線文帯を画す。	加曾利E 3併行
2	深鉢	胴部	12号埋甕	黒褐色	精製	弧状沈線文。	曾利3

5-11号炉 (第375図：PL189)

1	深鉢	口縁部	炉内	淡褐色	砂粒多	隆帯による楕円文、渦巻き文か。縄文LR横位施文。胴部には垂下沈線による無文帯、縄文帯。	加曾利E 3
---	----	-----	----	-----	-----	---	--------

5-442号配石 (第378図：PL189)

1	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	砂粒	口縁下に刻みを持つ横位の隆帯廻り隆帯上に円形貼付文。	堀之内2
2	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	口縁下に押圧文を有す平行微隆帯が廻る。口唇部内側に沈線。	堀之内2
3	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	刻みを持つ横位併行隆帯。	堀之内2
4	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	横位、縦位の隆帯交点に円形文。	堀之内1
5	浅鉢	底部	覆土	灰黒色	微砂粒	薄手の底部片、底面に網代痕。	堀之内2

5-443号配石 (第378図：PL189)

1	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁部肥厚し沈線。	堀之内1
2	深鉢	胴部	覆土	黒色	微砂粒	横位、斜位の沈線。	堀之内2
3	深鉢	底部	覆土	暗褐色	砂粒	底面に網代痕。	堀之内2

5-444号配石 (第378図：PL189)

1	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	口縁下に横位隆帯。	堀之内1
2	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁部に重C状の沈線	堀之内1
3	深鉢	口縁部	覆土	淡褐色	砂粒	口縁下に横位隆帯。	堀之内1
4	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	横位凹線。	堀之内1
5	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁部に沈線廻る。	堀之内1
6	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	口縁に押圧隆帯。	堀之内1

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
7	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	横位平行沈線上に円形文。	堀之内1
8	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	平行沈線による渦巻き文および横位平行線。	堀之内1
9	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	押圧隆帯文。	堀之内1
10	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	C字状文。	堀之内1
11	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	横位平行沈線。	堀之内1
12	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	平行沈線間に刺突文。	堀之内1
13	深鉢	口縁部	覆土	黒色	砂粒	口唇部に沈線。	堀之内1
14	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	口縁に廻る隆帯に連続円形文。	堀之内1
15	深鉢	口縁部	覆土	黒色	砂粒	口唇部に沈線。	堀之内1
16	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	無文。	堀之内1
17	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	無文、口唇部は平ら。	堀之内1
18	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	無文。	堀之内1

5-445号配石 (第378図: PL189)

1	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	口縁下に横位沈線。	堀之内2
2	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	微砂粒	磨り消し縄文。	称名寺1
3	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	砂粒	横位平行沈線。	堀之内1

土坑出土土器一覧表

4-71号土坑 (第423図: PL190)

1	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	隆帯で画された楕円渦巻き文。縄文RLが施文される。文様下に無文帯有す。	加曾利E2
---	----	-----	----	-----	-----	-------------------------------------	-------

4-72号土坑 (第423図: PL190)

1	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒多	口縁下に凹線廻り以下縄文が見られる。器面風化。	加曾利E3
2	深鉢	口縁部	覆土	赤褐色	砂粒	口縁下に沈線による弧状文描く、中に円孔文見られる。	後期
3	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	微砂粒	曲線磨り消し縄文。	称名寺
4	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	砂粒	縦位沈線に併行する連続刺突文。	

4-73号土坑 (第423図: PL190)

1	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	微砂粒	併行沈線による渦巻き文。	称名寺
2	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	微砂粒	矩形の磨り消し縄文。	称名寺

4-75号土坑 (第423図: PL190)

1	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	微隆帯による磨り消し縄文。	称名寺
---	----	----	----	-----	----	---------------	-----

4-78号土坑 (第423図: PL190)

1	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	無文下に隆帯文。	
---	----	----	----	------	-----	----------	--

4-80号土坑 (第423図: PL190)

1	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	有段で、肥厚。	
---	----	-----	----	-----	-----	---------	--

4-85号土坑 (第423図: PL190)

1	深鉢	把手部	覆土	淡黄褐色	砂粒	端部は円形に高まり中央が凹む。	後期
---	----	-----	----	------	----	-----------------	----

4-88号土坑 (第423図: PL190)

1	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	隆帯による渦巻き文。	曾利3
2	深鉢	口縁部	覆土	橙褐色	砂粒	無文で、口唇部は内側に入る。	後期

4-89号土坑 (第423図: PL190)

1	深鉢	口縁部	覆土	黒色	微石英粒	口縁部に連続押圧文。以下沈線による凹状文か。	
---	----	-----	----	----	------	------------------------	--

4-96号土坑 (第423図: PL190)

1	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	微砂粒	縦位隆帯。	
2	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	縦位の集合条線文。	

4-102号土坑 (第423図: PL190)

1	深鉢	胴部	覆土	橙褐色	精製	沈線による渦巻き文。	
---	----	----	----	-----	----	------------	--

4-103号土坑 (第423図: PL190)

1	深鉢	口縁部	覆土	淡褐色	精製	無文、口唇部内側が僅かに肥厚。	
2	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	微砂粒	沈線による垂下無文帯、縄文LR施文。	加曾利E3

4-105号土坑 (第423図: PL190)

1	土製円盤	胴部	覆土	暗褐色	砂粒多	斜位の集合沈線文。	
---	------	----	----	-----	-----	-----------	--

4-106号土坑 (第424図: PL190)

1	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	微砂粒	口縁部幅狭の文様帯が見られ、縄文充填される。また胴部には垂下無文帯および沈線文見られる。	加曾利E3
---	----	-----	----	-----	-----	--	-------

第3章 検出された遺構と遺物

No	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
2	深鉢	口縁部	覆土	暗灰褐色	微砂粒	口縁下に横位の隆帯、以下縄文施文。器面かなり摩耗。	加曽利E 4
3	深鉢	口縁部	覆土	暗赤褐色	微砂粒	口縁部内傾、隆帯で文様帯を画し渦巻き文、縄文を充填する矩形文を描く。	加曽利E 2
4	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	微砂粒	口縁部に幅狭の縄文区画帯。1と同一。	加曽利E 3
5	深鉢	口縁部	覆土	暗灰褐色	砂粒	口縁部に低い横位隆帯。2と同一個体か。	加曽利E 4
6	深鉢	把手部	覆土	淡褐色	微砂粒	大型の把手片、中央におよび下位に円孔を有し手前側は橋状となる。表裏に沈線、刺突文が見られ裏面上部は渦巻き文となる。	称名寺
7	深鉢	把手部	覆土	黄褐色	微砂粒	内傾すると見られる長円形の把手、両面に円形長円形の凹み有す。	称名寺
8	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	沈線による三角文内に刺突文。	称名寺
9	深鉢	胴部	覆土	黄橙褐色	微砂粒	波状の集合沈線。	
10	深鉢	底部	覆土	黄褐色	微砂粒多	部分的に縄文が見られるが風化顕著。	
4-108号土坑 (第424図: PL190)							
1	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	砂粒	縦位沈線および細条線文。	
2	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	微砂粒	縦位沈線および細縄文。	
4-109号土坑 (第424図: PL190)							
1	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	微砂粒	無文で、口唇部はやや肥厚。	
2	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	縦位の沈線区画内にハの字状沈線文。	曾利 3
3	鉢形土器	胴下～底部	覆土	灰黒色	微砂粒	隆帯によるU字区画文。区画内は無文。底部は僅かに膨らみを有す。	
4-110号土坑 (第424・425図: PL190)							
1	深鉢	口縁～胴部	覆土	明褐色	微砂粒	口縁部に隆帯により楕円、渦巻き文、胴部は∩状の区画文描き垂下波状文、無文帯さらには条線文。また一部波状沈線と垂下無文帯間に縄文。	加曽利E 3
2	深鉢	口縁～底部	覆土	淡桃褐色	長石粒	口縁に沈線を廻らし下位には2本単位の沈線で横位の波状文を描く、胴部は沈線による∩状文で埋め、間には蕨手垂下文。やや粗い縄文施文。	加曽利E 3
3	深鉢	口縁部	覆土	淡茶褐色	微砂粒	波頂部片、口縁に沿って隆帯が見られる。以下無文。	
4	深鉢	胴部	覆土	暗赤褐色	長石粒	縄文地文とし、沈線による波状文を上下に描く。	加曽利E 3
4-111号土坑 (第425図: PL190)							
1	深鉢	口縁部	覆土	橙褐色	砂粒	口縁部無文で凹線で画される。以下無節L縄文を縦位に施文。	
5-804号土坑 (第425図: PL190)							
1	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	横位の隆帯から沈線による渦巻き文有す隆帯が垂下し胴部を矩形区画か、区画内には縄文施文。	中期後半
2	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	縦位2本隆帯で無文帯、地文には斜位集合沈線。	中期後半
3	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	精製	縦位羽状沈線。	中期後半
4	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	石英粒多	隆帯による縦位長楕円隆帯文、斜位集合沈線。	中期後半
5-811号土坑 (第425図: PL190)							
1	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	微石英粒	薄手、下位に横位沈線文間に円形文。	後期
5-812号土坑 (第425図: PL191)							
1	深鉢	ほぼ完形	底面	茶褐色	微砂粒	2単位の小波状口縁、口縁下に断面三角の隆帯が廻る。胴部には沈線による連続U状文が描かれているが、それぞれの形は不揃いで一部は重なる。	称名寺 1
5-813号土坑 (第426・427図: PL191)							
1	深鉢	口縁～底部	覆土	暗褐色	砂粒	大型の土器。およそ片側半分である。口縁部は(7)単位の波状把手が付される。各把手頂部から断面三角の隆帯が器面と隙間を持って連続状に繋がる。突起文下にはおむすび形の窓が開けられ、端部渦巻き文が左右に描かれている。胴部文様は2本単位の平行隆帯文および蛇行文が、口縁部から交互に垂下している。地文には肩部に縦位の縄文RLを、下半部には擦糸文Lを縦位に施文するが、肩部一部分には両者が混在して施文されている。	中期後半 (大木系)
2	深鉢	口縁～胴部	覆土	黒褐色	砂粒	口縁部にほぼ水平に隆帯による渦巻き文が突起状に付く、隆帯は口縁部以下で渦巻き文と繋がる。口縁部には隆帯による楕円文構成、中は沈線による両端渦巻き沈線、横位沈線、交互刺突文を重層施文する。胴部には隆帯による蕨手文、渦巻き懸垂文、地文に縦位、斜位に集合沈線充填。	唐草文系
3	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	口縁部に2本の隆帯による連続弧状文、つなぎ部下位に沈線による∩状文か。	曾利 3
4	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	沈線を伴い垂下渦巻きおよび、垂下隆帯が付される。地文は文様内には羽状に以下は粗く縦位に沈線が施文されている。	唐草文系
5	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	微砂粒	口縁部文様帯には隆帯による渦巻き文縦位の集合沈線、文様下のくの字に折れる所には沈線を伴う隆帯が付される。胴部は無文。	加曽利E 3
6	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	微砂粒	粗く斜めの太沈線、横位平行沈線廻らし、以下平行沈線による蕨手垂下文、曲線文を描く。胴部地文には縦位LR施文。	中期後半
7	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	隆帯による楕円、渦巻き文。以下胴部には縦位沈線、縄文帯。	加曽利E 2
8	深鉢	胴部	覆土	淡茶褐色	砂粒多	縦位隆帯、横位に2条の刻みを有す隆帯が廻り、下位は縦位、上位には平行沈線、縦位沈線が施文。	曾利 3
5-814号土坑 (第427図: PL191)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	隆帯による楕円文文様、楕円文間の隆帯には縦位2列、計6個の円形文が付される。楕円文内には縦位の集合沈線文。	曾利 3

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
5-815号土坑 (第427図: PL191)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	金雲母	波状口縁部片、隆帯による渦巻き文。内面にも口縁に沿って隆帯が見られる。2・3は同一個体。	唐草文系
2	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	金雲母	波状口縁部片、隆帯による渦巻き文。内面にも口縁に沿って隆帯が見られる。	唐草文系
3	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	金雲母	波状口縁部片、隆帯による渦巻き文。内面にも口縁に沿って隆帯が見られる。	唐草文系
4	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	縦位の集合細条線文。	中期後半
5	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	縦位沈線による無文、縄文帯。縄文は複節LRの縦位施文。	加曽利E 3
6	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	砂粒多	縦位沈線による無文、縄文帯。縄文はLRの縦位施文。	加曽利E 3
7	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	重弧状の沈線文。	曾利 3
5-816号土坑 (第427図: PL191)							
1	浅鉢	口縁部	覆土	暗赤褐色	微砂粒	口縁部平らで、無文。内外面良く研磨。	中期後半
2	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	縦位の集合沈線。	中期後半
3	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	横位沈線を多段施文し最下段には結節文。以下縦位の条線文。	中期後半
4	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	縦位の集合沈線。	中期後半
5-821号土坑 (第428図: PL191)							
1	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	口縁部は無文頸部横位に円形刺突文。以下横位の隆帯と隆帯による渦巻き垂下文。地文には斜位の集合沈線を施文。	唐草文系
5-824号土坑 (第428図: PL191)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	砂粒	波状口縁部片、隆帯による渦巻き文。	加曽利E 3
2	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	隆帯による楕円文構成か。	加曽利E 3
3	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	砂粒	口縁部文様は隆帯による楕円文様を構成か、胴部は重磨り消し縄文。	加曽利E 3
4	深鉢	口縁部	覆土	緑黄褐色	砂粒	沈線による∩状文描く。器面風化が顕著で文様不鮮明。	加曽利E 4
5	小型鉢形土器	口縁部	覆土	灰黒色	砂粒	胴部はやや膨らみを有して立ち上がる。無文で内外面整形痕残る。薄手で硬質な感じ。	後期
6	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	垂下沈線および重弧状沈線文。	曾利 3
5-825号土坑 (第428図: PL191)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	砂粒	口縁部に廻る隆帯から磨り消し隆帯文が弧状に垂下。	加曽利E 4
2	深鉢	胴部	覆土	淡茶褐色	砂粒	刻みを有す横位隆帯。	後期
3	浅鉢	胴部	覆土	黒色	砂粒	隆帯による渦巻き文。内面研磨され赤彩痕。	加曽利E 3
5-826号土坑 (第428図: PL191)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	口縁部隆帯による楕円文構成か、口縁部に斜位の集合沈線。	曾利 2
2	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	砂粒	口縁部隆帯による楕円文構成か。	加曽利E 3
3	深鉢	口縁部	覆土	淡灰褐色	砂粒	口縁下に横位の隆帯以下縄文施文。	加曽利E 3
4	深鉢	胴部	覆土	黄茶褐色	砂粒	2本単位の沈線による∩状文か、蕨手沈線文見える。	加曽利E 4
5-827号土坑 (第428図: PL191)							
1	深鉢	口縁部	覆土	黒色	砂粒	浅い沈線文。	加曽利E 3
2	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	重集合沈線、器面荒れる。	中期後半
3	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	無文胴部片。	後期
5-828号土坑 (第428・429図: PL192)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	砂粒	隆帯による弧状区画文。区画内縄文施文。	加曽利E 3
2	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	砂粒	口縁部に隆帯による連続弧状文。文様内には縄文施文。	加曽利E 3
3	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	微砂粒	口縁に沈線廻り、以下沈線により∩状の磨り消し文。	加曽利E 4
4	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	金雲母	口縁部から蕨手文状に垂下する隆帯に渦巻き部に平行して隆帯が垂下する。地文は口縁部下に横位2条の沈線、以下縦位ハ字状に沈線文。	曾利 3
5	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	波状口縁、隆帯による渦巻き文および楕円文様を画す。楕円文内には斜位の沈線文。	曾利 3
6	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	金雲母	口縁部から蕨手文状に垂下する隆帯に渦巻き部に平行して隆帯が垂下する。地文は口縁部下に横位2条の沈線、以下縦位ハ字状に沈線文。	曾利 3
7	深鉢	胴部	覆土	黒色	砂粒	横位の沈線以下磨り消し縄文による曲線文様。	称名寺 1
8	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	磨り消し縄文。	称名寺 1
9	深鉢	胴部	覆土	暗灰褐色	砂粒	沈線による渦巻き文か。	称名寺 2
10	深鉢	突起部	覆土	暗茶褐色	砂粒	口縁部に付された環状突起、沈線、円孔の周りは隆帯で飾る。	曾利 2
11	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	砂粒	隆帯による垂下U状文。	加曽利E 4

第3章 検出された遺構と遺物

No	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
5-829号土坑 (第429図: PL192)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	砂粒	口縁部波状を呈す、隆帯による楕円渦巻き文を構成か、区画内には縄文施文。	加曽利E 3
2	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	隆帯による楕円文構成し、横位矢羽根状の沈線文。	曾利 2
3	浅鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	横位沈線廻り以下縦位の集合条線文。赤彩痕。	加曽利E 3
4	短頸壺形土器	胴部	覆土	暗茶褐色	精製	口縁部は僅かに外傾しながら立ち上がる。肩部に横位平行隆帯が廻りこれを繋ぐ橋状の取手が付く。器面内外面とも研磨され、赤彩痕見られる。	加曽利E 4
5-830号土坑 (第430図: PL192)							
1	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	沈線による円形文および4本単位の垂下沈線文。	堀之内 1
2	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	沈線および縄文。	加曽利E 3
3	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	金雲母	隆帯による曲線文、異方向斜位の集合沈線文。	曾利 2
5-831号土坑 (第430図: PL192)							
1	深鉢	胴部	底面	橙黄褐色	砂粒	胴中位が括れ、口縁、底部を欠く。沈線により上下対のU・∩状文を9単位描く。文様内は縄文RLを縦位施文。また下段文様の内1つは2重に描かれる。	加曽利E 4
2	深鉢	口縁部	覆土	橙黄褐色	微砂粒	口縁下に横位の沈線、以下蕨手垂下沈線文か。地文には縄文LR縦位施文。	加曽利E 3
3	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒多	沈線によるU状文描き、縄文LRを縦位施文。器面風化。4・5は同一個体。	加曽利E 4
4	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒多	沈線によるU状文描き、縄文LRを縦位施文。器面風化。	加曽利E 4
5	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒多	沈線によるU状文描き、縄文LRを縦位施文。器面風化。	加曽利E 4
5-832号土坑 (第430図: PL192)							
1	深鉢	口縁部	覆土	黒色	精製	波状口縁、口縁内側には2条の沈線が廻る。外面口縁下に刻みを有す隆線下には沈線で画された縄文帯。	堀之内 2
2	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	砂粒	隆帯による円形文か、一部が見られる。	後期
3	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	縦位縄文帯および沈線で∩状文描き縄文充填文。4・5は同一個体。	加曽利E 4
4	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	縦位縄文帯が上部に見られる。3の下部片。	加曽利E 4
5	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	縦位縄文帯および沈線で∩状文描き縄文充填文。	加曽利E 4
5-833号土坑 (第431・432図: PL192・193)							
1	深鉢	口縁～胴部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁部はやや外反し幅広の無文となる。口縁部文様には隆帯で楕円渦巻き文を構成し、文様内には縄文RLを縦位に充填施文。	加曽利E 3
2	深鉢	口縁～胴部	覆土	明褐色	砂粒	口縁部は波状を呈し、波頂部下には隆帯による渦巻き文構成、以下沈線で画された横長の不定楕円文の中には縄文施文。以下磨り消し縄文。	加曽利E 3
3	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁部に沈線で楕円文構成、縄文LRを縦位施文。	加曽利E 3
4	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	砂粒多	口縁部に縦位の集合沈線、耳状の突起文が付く。	曾利 2
5	深鉢	口縁部	覆土	黒色	砂粒	口縁部に縄文施文後沈線による∩状文。	加曽利E 3
6	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	石英粒	口縁下に刻みを有す横位の隆帯廻り、以下斜位の集合沈線。	曾利 2
7	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	口縁部やや肥厚し縦位の短沈線文。	曾利 2
8	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	口縁直下に円形刺突文。	加曽利E 4
9	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁部に縦位の短沈線文。	曾利 2
10	浅鉢	口縁部	覆土	暗赤褐色	微砂粒	口縁部が断面三角に肥厚、器面研磨され赤彩痕。	中期後半
11	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	横位隆帯で口縁部無文とし、以下2重∩状文、∩状文内は磨り消す。縄文は、縦位にRL。	加曽利E 4
12	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	縦位磨り消し縄文、縄文は縦位RL施文。	加曽利E 3
13	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	縦位磨り消し縄文、縄文は縦位RL施文。	加曽利E 3
14	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂(石英)粒	縦位磨り消し縄文、縄文は縦位RL施文。	加曽利E 3
15	深鉢	胴～底部	覆土	暗褐色	砂粒	2本単位の垂下沈線により胴部を縦位分割、このうち7カ所に縦位円形刺突文が付される。縦位区画内には斜位の集合条線文見られる。	
16	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	砂粒	口縁部は隆帯で画した文様構成か、垂下波状隆帯、横位の平行沈線文描き、縦位重合沈線を地文とする。	曾利 2
17	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	3～4単位の縦位の沈線文及び縦位矢羽根状文。	曾利 3
18	深鉢	胴～底部	覆土	灰褐色	砂粒	縦位磨り消し縄文、縄文は縦位RL施文。	加曽利E 3
19	深鉢	取手	覆土	茶褐色	金雲母	口縁部に付された飾り取手、片側が大きく開き平坦を為し沈線による渦巻き文が描かれる、さらに側面には蕨手文等が配される。	唐草文系
20	深鉢	取手	覆土	灰黒色	砂粒	頸部に付された環状取手、取手部および周辺には太い沈線による文様が描かれる。	中期後半
5-834号土坑 (第432・433図: PL193)							
1	深鉢	口縁部	覆土	淡灰黄褐色	砂粒多	口縁下に横位沈線。	加曽利E 4
2	浅鉢	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	口縁内湾、浅い沈線で∩状文を描く、器面研磨し赤彩痕見られる。	加曽利E 4
3	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	砂粒多	口縁部に横位、以下縦位のRL施文後、沈線による∩状文描く。	加曽利E 4

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
4	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒多	沈線による磨り消し縄文文様、突起の剥落痕あり。	堀之内2
5	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	砂粒多	無文口縁部片。	中期後半
6	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	砂粒多	無文口縁部片。	中期後半
7	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	刻みを有す横位隆帯。	堀之内2
8	深鉢	底部	覆土	灰黄褐色	砂粒多	底面に網状痕。	後期
5-836号土坑 (第433図: PL193)							
1	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	砂粒	複数の縦位沈線による磨り消し文。縄文は縦位のRL。	加曾利E 3
5-838号土坑 (第433図: PL193)							
1	深鉢	底部	覆土	黒色	砂粒	底面に網状痕。	後期
5-840号土坑 (第433・434図: PL193・194)							
1	深鉢	胴部	覆土	明褐色	砂粒	口縁部は無文、上部が舌状に突起した円形隆帯文の上下から左右に延びた隆帯が弧状区画文様を構成、文様内には縄文無節Lを横位、縦位に充填施文。円形文からは平行隆帯が垂下し胴部を画す。胴部にも無節L縄文を縦位施文する。	加曾利E 3
2	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	砂粒	口縁下に沈線による楕円文、∩状文を描き縄文RLを充填する。∩状文内には蕨手沈線文垂下か。	加曾利E 3
3	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	口縁下に沈線による楕円文、∩状文を描き縄文RLを充填する。	加曾利E 3
4	深鉢	口縁～胴部	覆土	暗黄褐色	砂粒	口縁下に沈線による楕円文描き、縄文を充填施文。以下蕨手垂下文見られる。	加曾利E 3
5	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	口縁下に沈線による楕円文、∩状文を描き縄文RLを充填する。∩状文内には蕨手沈線文垂下か。	加曾利E 3
6	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁部は無文で横位の隆帯で画される、隆帯からは懸垂弧状文が描かれ縄文を充填施文する。また隆帯にも縄文が施文されている。	加曾利E 3
7	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	砂粒	口縁部に隆帯廻り、平行隆帯による∩状の垂下文描く。文様内には縄文LR縦位施文。	加曾利E 4
8	広口甕形土器	口縁部	覆土	黄褐色	砂粒	口縁部は無文で円形刺突文を伴う横位の隆帯が見られる。	後期
9	深鉢	口縁部	覆土	黒色	砂粒	口縁を含め全面縄文施文後、沈線による垂下文、および隆帯による楕円文構成か。	加曾利E 3
10	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	縦位磨り消し縄文。	加曾利E 3
11	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	縦位磨り消し縄文。	加曾利E 3
12	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	沈線による縦楕円文を多段横位に描き縄文を充填施文する。	大木系
13	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	沈線による渦巻き文。	加曾利E 3
14	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	砂粒	隆帯円形文。および沈線文見られる。	堀之内1
15	深鉢	胴部	覆土	暗黄褐色	砂粒	横位の沈線文様。	堀之内1
16	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	沈線による渦巻き文及び重弧状の沈線文。	曾利 3
5-842号土坑 (第434図: PL194)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	口縁部に無文部画す、以下縄文施文。	加曾利E 4
2	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁部に無文帯、以下縄文施文後沈線による∩状文様。	称名寺1
3	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	砂粒	口縁部に横位の沈線。	堀之内1
4	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	波状口縁部は肥厚し沈線を巻き付けるように配す。	堀之内1
5	深鉢	口縁部	覆土	暗灰褐色	砂粒	小波状を呈し波頂部には円孔有し、隆帯による円形文や沈線で飾られる。	堀之内1
6	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	縦位磨り消し縄文。	加曾利E 4
7	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	微砂粒	沈線で横位縄文帯画す。	堀之内2
8	土製円盤	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	やや楕円な形状令す。側縁部の作りは粗く打ち割られた状態。径約5.0cm。	後期
9	土製円盤	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	無文胴部片利用。径約4.0cm。	後期
5-843号土坑 (第434図: PL194)							
1	小型壺形土器	胴部	覆土	灰黒色	精製	横位平行沈線文。	後期
2	浅鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	精製	斜位の沈線文。	後期
3	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	弧状の沈線文。	称名寺2
5-844号土坑 (第434図: PL194)							
1	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	沈線を伴う隆帯文。	中期後半
5-845号土坑 (第435図: PL194)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰白色	砂粒	波状口縁、波頂部に渦巻き文、以下隆帯により渦巻き文、楕円文構成か。	加曾利E 3
2	深鉢	胴部	覆土	黄茶褐色	砂粒	縦位磨り消し縄文。	加曾利E 3
3	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	平行沈線による磨り消し渦巻き文。有文部には斜位の細条線文施文。	称名寺2
4	深鉢	胴部	覆土	淡茶褐色	砂粒	横位沈線間に刺突文。	称名寺2

第3章 検出された遺構と遺物

No	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
5	深鉢	胴部	覆土	黄橙色	微砂粒	沈線による垂下文様。	堀之内1
6	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	縄文地文に沈線による渦巻き文。	堀之内1
7	深鉢	胴部	覆土	暗黄褐色	砂粒	沈線による渦巻き文。	堀之内1
8	深鉢	胴部	覆土	黄白色	砂粒	円形貼付文から隆帯が垂下。	堀之内1
5-846号土坑 (第435図: PL194)							
1	深鉢	胴部	覆土	灰色	微砂粒	無文胴部片。	後期
5-847号土坑 (第435図: PL194)							
1	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	小波状口縁を呈す。横位の沈線、磨り消しJ字文を描くか。	称名寺1
2	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁下に刻み隆帯廻り、以下沈線で画した横位縄文帯。	堀之内2
3	深鉢	胴部	覆土	暗灰黄褐色	微砂粒	沈線による垂下文、 \cap 状文および円形文見られ一部に縄文充填。	堀之内1
4	深鉢	口縁～胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	口縁は肥厚、頸部に横位幅狭楕円文が廻り橋状取手が付くものと思われる。以下胴部にも隆帯による垂下文様描き、縦位の集合沈線が充填される。	曾利2
5	深鉢	胴部	覆土	淡茶褐色	砂粒	隆帯による円形文下に縦位の平行沈線、横位集合沈線施文。	曾利3
6	甕形土器	胴部	覆土	黄灰褐色	砂粒	肩部に横位連続爪形刺突文。	三十稲場
7	深鉢	飾り取手	覆土	灰黄褐色	砂粒	波頂部に螺旋状に延びた飾り取手、上部は開き渦巻き文が描かれる。	後期
5-848号土坑 (第435・436図: PL194)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁下に沈線を伴う横位の隆帯、以下LR縦位施文。	加曾利E3
2	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁部に無文部を有し以下縄文施文。	後期
3	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	大きく張り出した横位の隆帯で口縁部文様他を画す。文様帯には沈線で方形の区画文様描き縄文を充填施文。	加曾利E3
4	深鉢	胴部	覆土	橙褐色	砂粒	隆帯で画す縦位磨り消し縄文。	加曾利E3
5	深鉢	胴部	覆土	橙褐色	微砂粒	細縄文を多方向施文。	後期
5-849号土坑 (第436図: PL194)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁部に楕円区画文か。	加曾利E3
2	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	口縁部文様を画す隆帯見られ、以下縦位の磨り消し縄文、縄文は縦位RL。	加曾利E3
3	深鉢	胴部	覆土	橙茶褐色	砂粒	平行垂下隆帯、左右には横位集合沈線文。	曾利3
4	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	縦位の条線文。	中期後半か
5	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	縄文、沈線が看取される。	中期後半
5-850号土坑 (第436図: PL194)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	砂粒	口縁部楕円文区画、縦位の集合沈線充填。	曾利3
2	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	微隆帯で画した磨り消し縄文。	称名寺1
3	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	無文口縁部片。	後期
4	鉢形土器	胴部	覆土	赤褐色	砂粒	横位沈線で画した縄文帯。	称名寺1
5-851号土坑 (第436図: PL194)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	砂粒	口縁部は波状を呈し波頂部に取手がつくものと見られる。口縁下には隆帯が廻る。	堀之内1
2	深鉢	胴部	覆土	灰黒褐色	微砂粒	弧状の併行沈線文。	堀之内2
3	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	幅広の隆帯に円形文、沈線が付され、下位には沈線による三角文描き縄文が施文される。	堀之内1
5-852号土坑 (第436図: PL194)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁部に沈線による渦巻き文。	堀之内1
2	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	磨り消し縄文。器面に黒色の塗膜残る。漆か。	堀之内2
3	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	沈線により対向する \cap 状文を描き縄文施文。文様間には縦位の沈線が見られる。	加曾利E4
4	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	縦位幅狭のU状垂下文、沈線で縦位区画、文様間には斜位の沈線文が見られる。	曾利3
5	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	縦位幅狭のU状垂下文、重弧状沈線文見られる。	曾利3
5-854号土坑 (第437図: PL195)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁下に横位沈線、以下縄文施文後沈線による \cap 状文を連続に描く。	加曾利E4
2	深鉢	口縁部	覆土	黒色	砂粒	平行沈線による磨り消し文様。	称名寺1
3	深鉢	口縁部	覆土	橙茶褐色	砂粒多	口縁部に刺突文、沈線文。垂下波状沈線文。	称名寺2
4	深鉢	口縁部	覆土	暗灰褐色	砂粒	口縁下に円形貼付文。	堀之内1
5	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	隆帯による横U状文、渦巻き文を描くか。縦位集合沈線施文。	曾利2
6	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	砂粒	縦位平行沈線間に矢羽根状の縦位沈線施文。	曾利3

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
7	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	砂粒	爪形刺突文。	三十稲場
5-856号土坑 (第437図: PL195)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	精製	無文、口縁内側に隆帯が廻る。器面研磨。	堀之内2
2	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	無文口縁部片、内外面研磨。	後期
3	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	無文口縁部片、内外面研磨。	後期
5-858号土坑 (第437図: PL195)							
1	深鉢	胴部	覆土	黄白色	砂粒	縦位磨り消し縄文。	加曾利E3
2	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	縦位磨り消し縄文。	加曾利E3
3	深鉢	胴部	覆土	黄白色	砂粒	横位隆帯。	後期
5-859号土坑 (第438図: PL195)							
1	深鉢	口縁~胴部	覆土	灰褐色	砂粒	波状口縁、口縁部に刺突文付す。口縁部に沿って浅く沈線廻り以下縄文施文。縦位沈線による細長い冑状の垂下文か。	加曾利E4
2	深鉢	口縁部	覆土	暗黄褐色	砂粒	磨り消し縄文による渦巻き文様。	称名寺1
3	深鉢	口縁部	覆土	暗灰褐色	砂粒	磨り消し縄文。	称名寺1
4	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	砂粒	口縁下に横位沈線、以下縄文施文。	称名寺1
5	深鉢	口縁部	覆土	黒色	砂粒	口縁部に2段の連続横位刺突文。以下縄文RLが横位矢羽根状に施文。	称名寺1
6	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	波頂部に捻れを持って広がる突起文。下位には沈線で画した縄文施文。	称名寺1
7	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	口縁下に浅い横位沈線、以下縄文LRを縦位施文。	後期
8	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	隆帯による渦巻き文様を組合せる。	大木系
9	有孔罍付土器	口縁部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	罍の張り出しはほぼ水平で張り出しは弱い、斜めに空けられた円孔を有す。器面研磨。	中期後半
10	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁部に横位の沈線廻らし以下無節の縄文Lを施文。	後期
11	深鉢	胴部	覆土	暗灰褐色	砂粒	縦位隆帯で画された幅広の磨り消し縄文帯。縄文は縦位LR施文。	加曾利E4
12	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	磨り消し縄文。	称名寺1
13	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	平行沈線で大きく描かれる渦巻き縄文。	加曾利E4
14	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	沈線による渦巻き文。	称名寺2
15	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	微砂粒	縦位、波状の垂下沈線。	後期
16	両耳壺	環状取手	覆土	淡茶褐色	砂粒	両端が大きく盛り上がる環状取手が付く、取手ぶ横には横位の沈線下に縄文が施文される。	加曾利E3
17	深鉢	取手	覆土	黒褐色	砂粒	上部が広がり上面が凹む、波頂部に延びた取手片。	後期
5-860号土坑 (第438図: PL195)							
1	深鉢	胴部	覆土	黄橙褐色	砂粒	低い隆帯による楕円渦巻き文構成か、以下横位の沈線で画した胴部にも沈線文。	加曾利E3
2	深鉢	胴部	覆土	黄橙褐色	砂粒	横位隆帯に付された円形文から、斜めに隆帯が延びる。	堀之内1
5-861号土坑 (第439図: PL195)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	砂粒	口縁部は舌状の小波状を呈す、下位の隆帯による楕円文。	加曾利E3
2	浅鉢	口縁部	覆土	灰黒色	砂粒	口縁部は肥厚し口唇上端部は平らに成形。無文で内外面研磨。	中期後半
3	浅鉢	口縁部	覆土	灰黒色	砂粒	口縁部は肥厚し外側は隆帯状を呈す、無文で内外面研磨。	中期後半
4	浅鉢	口縁部	覆土	黄褐色	精製	口縁内側に(4)条の横位沈線廻る。	堀之内2
5-862号土坑 (第439図: PL195)							
1	深鉢	口縁	覆土	黒褐色	砂粒	口縁部下に隆帯による渦巻き文、口縁部区画内には斜位の沈線か。	唐草文系
2	深鉢	口縁部	覆土	灰茶褐色	砂粒	口縁部に隆帯による渦巻き文、横位隆帯が横に延び口縁部区画構成か。斜位の集合沈線が施文。	曾利3
3	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	砂粒	2本単位の隆帯による渦巻き文と垂下模様。放射状の沈線文および斜位の集合沈線が付される。	唐草文系
4	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	沈線による楕円文、渦巻き文様を描く、楕円文様内には弧状の集合沈線文。	唐草文系
5	深鉢	胴部	覆土	明褐色	砂粒	縄文施文後沈線による曲線文様描く。	堀之内1
6	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	縦位の集合隆帯および斜位の細沈線文帯が見られる。	曾利3
7	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	砂粒	縦位集合条線。	後期
8	深鉢	底部	覆土	暗赤褐色	砂粒	垂下隆帯の下端部が見られる。	曾利3
5-864号土坑 (第439図: PL195)							
1	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	沈線に伴って刺突文。	称名寺2
5-865号土坑 (第439図: PL195・196)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	砂粒	小波状の突起部分から左右に隆帯が延び口縁部に無文部を画す。また波頂下には平行沈線による紡錘状の磨り消し文様が垂下する。	称名寺1
2	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	口縁部に連続爪形文を伴う沈線が廻る。	堀之内1

第3章 検出された遺構と遺物

No	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
3	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒多	隆帯による渦巻き文描き放射状の集合沈線付す。	唐草文系
4	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	砂粒	頸部に横位の沈線、以下縄文施文。	堀之内1
5	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	刻みを有す縦隆帯、および縦位矢羽根状の集合沈線文。	曾利3
6	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	砂粒	円形の大きく突き出した突起文、中央に沈線による円形文および刺突を有し、突起文を囲うように沈線文および連続刺突文が見られる。	後期
5-866号土坑 (第440図: PL196)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	波状口縁、波頂部には沈線文、隆帯による横S字文および刺突文が付される。	堀之内1
2	深鉢	口縁部	覆土	明褐色	砂粒	口縁部に突起状の把手が付く、上端部に沈線による渦巻き文。隆帯からは2本単位の隆帯が二股に垂下し、その間からも2本の隆帯が垂下。地には縦位の集合沈線。	曾利3
3	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	砂粒	口縁部は無文で内側は折り返されて肥厚。	曾利3
4	深鉢	胴部	覆土	明褐色	砂粒	縦位、斜位の沈線文。	曾利3
5	深鉢	胴~底部	覆土	橙茶褐色	金雲母	3本単位の垂下隆帯、および縦位の垂下沈線文が見られる。	曾利3
5-867号土坑 (第440図: PL196)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	口縁下に横位の沈線。	後期
2	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	縄文LR縦位施文。	中期後半
3	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	砂粒	縦位磨り消し縄文、縄文は縦位RL。	加曾利E3
4	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	砂粒	磨り消し縄文文様。	称名寺1
5	深鉢	胴部	覆土	暗灰褐色	砂粒	横位磨り消し縄文帯。	堀之内2
5-868号土坑 (第440図: PL196)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	口縁下に横位隆帯。	後期
2	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	口縁から冑状の懸垂磨り消し文。	称名寺1
3	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	口縁下に横位隆帯。	後期
4	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	刻みを有す横位隆帯に円形貼付文が付され、さらに隆帯垂下し胴部を縄文帯、無文対に縦位に画す。	堀之内1
5	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒多	3本単位の沈線による縦位磨り消し縄文。	加曾利E3
6	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒多	縄文地文に沈線による曲線文、沈線垂下文。	加曾利E3
7	深鉢	胴部	覆土	暗灰褐色	砂粒多	沈線による縄文充填する三角文様か。	堀之内1
8	土製円盤	胴部	覆土	淡褐色	砂粒	薄手でやや反りを持つ土器片利用。楕円形で一部欠損。長径約4.4cm。	後期
9	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	砂粒多	集合隆帯を斜格子状に貼り付ける。	曾利2
10	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	微砂粒	口縁部に押圧文有す横位の隆帯廻り、口唇部にも押圧文。	堀之内1
5-869号土坑 (第441図: PL196)							
1	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	口縁部に隆帯により楕円区画文、区画間にはコイル状の隆帯文。楕円区画内には縦位沈線。	曾利2
2	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	縦位磨り消し縄文、縄文はRL縦位施文。	加曾利E3
3	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	隆帯により冑状文描き縄文充填。	加曾利E4
5-870号土坑 (第441図: PL196)							
1	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	隆帯による渦巻き文を基点に横位および下位に2本の隆帯が延びる。地文には弧状文、鈎状文、刺突文が見られ、さらに矢羽根状の沈線文施文か。	曾利3
2	深鉢	取手	覆土	茶褐色	砂粒	円窓を有す口縁部突起、上端部は広がり外側に瘤状に肥厚し下位に向かって橋状の取手が付くものと見られる。左右の面に横位の沈線文。	曾利2
3	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	無文、器面研磨。	後期
4	深鉢	胴部	覆土	暗灰黒色	砂粒	縦位併行隆帯文、斜位の集合沈線。	曾利3
5	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	金雲母	斜位の隆帯及び縦位矢羽根状沈線文。	曾利3
5-871号土坑 (第441図: PL196)							
1	浅鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	砂粒	口唇部が内側に肥厚し上端部平らで赤彩痕みられる。	中期後半
2	深鉢	口縁部	覆土	赤褐色	砂粒	曲線磨り消し縄文。	加曾利E4
3	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	磨り消し縄文による渦巻き文か。	称名寺1
4	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	上下に対向するU状文描き縄文充填施文。	加曾利E4
5	深鉢	胴部	覆土	淡茶褐色	砂粒	縦位ハ状沈線、沈線は細く、間が空きやや粗い施文。	曾利4
5-872号土坑 (第441図: PL196)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	砂粒	口縁下に隆帯文。器面研磨。	加曾利E3
2	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	横位沈線下に縦位磨り消し縄文、縄文帯には垂下沈線文。	加曾利E3
3	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	縦位の集合沈線文。	中期後半

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
4	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	沈線による文様区画内に斜位の集合条線文。	中期後半
5-873号土坑 (第441図: PL196)							
1	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	口縁部やや内傾、横位の沈線以下縄文施文。	称名寺1
2	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	横位隆帯の一部が瘤状に肥厚、以下縄文施文。	後期
3	深鉢	胴部	覆土	黒色	砂粒	横位の刻み隆帯下に横位縄文帯。	堀之内2
4	土製円盤	胴部	覆土	暗黒褐色	微砂粒	無文胴部片、外縁部粗く打ち欠かれており土製円盤か。径約4.5cm。	後期
5-874号土坑 (第442図: PL196・197)							
1	深鉢	口縁～胴部	覆土	黒褐色	砂粒	口縁に所々で切れる沈線を付す。以下胴部縦区画の文様帯に、U状、弧状、三角文、さらには渦巻き文様を組み合わせる。文様の間隙には部分的に縄文が施文される。	堀之内1
2	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	口縁部は無文でやや内傾する。横位隆帯下に沈線が廻る。縄文RLを横位施文。	
3	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	波頂部に橋状把手が付く、口縁に沿って沈線が見られ、取手部分を含め縄文が施文され、沈線による紡錘文の先端部が看取される。	加曽利E4
4	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	砂粒	やや内湾する器形、口縁下に横位沈線廻り以下条線文を不規則に施文。	後期
5	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	横位の隆帯が平行して廻り隆帯間には横位連続刺突文、隆帯を繋ぐ裝飾取手が付く、取手は中央に円孔を有しY状の橋状で、押圧文が付される。	中期後半
6	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	砂粒	口縁部内傾、沈線による紡錘文。	加曽利E4
7	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁部に横位平行沈線、間に連続の刺突文施文。	堀之内1
8	深鉢	口縁部	覆土	橙茶褐色	微砂粒	肥厚口縁部、円形文、沈線が付される。	堀之内1
9	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	口縁下に弧状沈線、以下縄文施文。	称名寺1
10	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	微砂粒	口縁内側に沈線廻る。	堀之内1
11	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	外傾する無文口縁部片。	後期
12	深鉢	胴部	覆土	暗灰褐色	砂粒	横位磨り消し縄文。	堀之内2
13	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	沈線による対向するU状文を2段に描き、区画内は縄文を充填施文。	加曽利E4
14	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	渦巻き磨り消し文。	称名寺1
15	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	砂粒	磨り消し縄文。	加曽利E4
16	深鉢	胴～底部	覆土	灰白色	砂粒	無文底部片、底面に網代痕。	後期
5-875号土坑 (第443図: PL197)							
1	鉢形土器	口縁部	覆土	灰黒色	精製	口縁部に円孔、以下刻みを有す隆線が横および、Y字状に垂下。交点には円形貼付文。口縁部内側に下向きのが三角文。	堀之内2
2	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	砂粒	波状を呈し、波頂部に突起文付し左右に刻み隆帯が延びる。以下山形に沈線文描き以下縄文が施文される。	堀之内2
3	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	口縁部に押圧隆帯廻り縦位の8字貼付文、下位には弧状の沈線文が見られる。	堀之内2
4	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	砂粒	口縁部に刻み隆帯廻り以下横位沈線で縄文帯。	堀之内2
5	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	砂粒	口縁下に沈線で無文帯を画し以下縄文施文。	称名寺1
6	小型菱形土器	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	胴上位に横位沈線文。	堀之内2
7	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	砂粒	沈線による縦位磨り消し文。	称名寺1
8	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	砂粒	併行隆帯文による渦巻き文か、内側は無文。	称名寺1
5-876号土坑 (第443図: PL197)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	金雲母	口縁部に斜位の集合沈線、頸部には横位方向の貼り付け隆帯間に波状貼り付け隆帯。さらに胴部には渦巻き懸垂文を描く。地には縦位に集合沈線。	曾利3
2	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	金雲母	1の胴部片、隆帯による渦巻き文。	曾利3
3	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	砂粒	口縁部に無文帯、以下縄文施文地に▽状無文帯。	加曽利E4
4	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	微砂粒	口縁下に横位の隆帯以下横位磨り消し縄文。	称名寺1
5	深鉢	口縁部	覆土	黄橙褐色	砂粒	口縁部は内側に肥厚、沈線で画した横位縄文帯下に垂下矩形文。	称名寺1
6	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	口縁下に沈線によるU状文。	加曽利E4
7	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	横位隆帯下に微隆線文帯による渦巻き文様か。隆帯上位に連続刺突文が付される。	加曽利E4
8	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	砂粒	沈線による縦位紡錘状文内に縄文LRを縦位充填施文。	加曽利E4
9	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒多	沈線による磨り消しU状文。	加曽利E4
10	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	沈線による縦位紡錘状文か、縄文LRを縦位充填施文。	加曽利E4
11	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	縦位磨り消し縄文帯。12は同一個体。	加曽利E4
12	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	縦位磨り消し縄文帯。	加曽利E4

第3章 検出された遺構と遺物

No	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
13	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	沈線によるU状文描き縄文施文。	加曾利E 4
14	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	沈線による縦位紡錘状文か、縄文LRを縦位充填施文。	加曾利E 4
15	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	微砂粒	口縁は内屈し円孔、小突起を有す。器面研磨。	堀之内1
16	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁部に沈線廻り隆帯が沿う。	堀之内1
17	土製円盤	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	小型品、径約2.0cm。	後期
18	浅鉢	底部	覆土	茶褐色	砂粒	無文底部片。内外面研磨。	後期
5-877号土坑 (第444図: PL197)							
1	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	口縁部は無文帯を画し、以下沈線による□文を沈線で描く、縄文LRを縦位施文。内面に炭化物が付着。	加曾利E 4
2	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	横位の沈線から波状垂下文様。	中期後半
3	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒多	3本単位の隆帯による渦巻き文、文様内には放射状に沈線を付し、外側には縦位の集合沈線。	曾利3
4	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	石英粒	隆帯に沿い刺突文か。	後期
5	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	縦位の貼り付け隆帯文様、地文にはハ状沈線文。	曾利3
6	深鉢	底部	覆土	暗茶褐色	砂粒	無文底部片。	後期
5-878号土坑 (第444・445図: PL197・198)							
1	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	砂粒	隆帯による楕円渦巻き文。	加曾利E 3
2	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	横位の沈線下に縦位縄文LRを全面施文。	加曾利E 4
3	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁部に無文帯を有し長楕円文を沈線で描く。以下縦位の集合沈線文。	曾利3
4	深鉢	口縁部	覆土	橙褐色	砂粒	波上部が突起状を呈す。口縁に沿って沈線が付され、縄文施文。	加曾利E 3
5	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	砂粒	隆帯による楕円文配し、下位は隆帯で画された無文帯構成か。縄文はLRを縦位施文。	加曾利E 3
6	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	併行沈線による磨り消し文様。縄文はRL縦位施文。	加曾利E 4
7	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	砂粒	渦巻き文。赤彩痕。	加曾利E 4
8	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	3本単位垂下沈線、両側には重弧状沈線文。	唐草文系
9	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	砂粒	口縁部に付された環状突起、上部が開き中が凹む。	加曾利E 3
10	深鉢	胴部	覆土	明黄褐色	砂(石)粒多	縦位の集合条線、剝離痕あり。	中期後半
5-879号土坑 (第445図: PL198)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	口縁下に弧状沈線文、以下磨り消し縄文による矩形文様。	称名寺1
2	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	波状部に環状突起が付き、隆帯で画す縄文帯垂下。	称名寺1
3	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	横位磨り消し縄文帯。	堀之内2
4	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	円形貼付文から横位、下方斜めに隆帯が延びる。	堀之内1
5	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	微砂粒	口縁部隆帯で無文帯とし、隆帯下位に刺突文。	称名寺2
6	深鉢	口縁部	覆土	暗灰褐色	砂粒	口縁部に横長の楕円沈線文。	称名寺2
7	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	無文口縁部片。	後期
8	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	無文口縁部片。	後期
9	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	無文口縁部片。	後期
10	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	横位隆帯下に無節縄文Lを縦位に施文。	後期
11	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	渦巻き沈線文。	堀之内1
12	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	沈線による円形文。	称名寺2
13	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	垂下隆帯が広がり、円形文対弧状に沈線付す。	堀之内1
14	深鉢	胴部	覆土	黒色	砂粒	横位押圧文隆帯。	堀之内1
15	土製腕輪	破片	覆土	淡黄褐色	微砂粒	断面楕円形を呈す。表面に細縄文が施文されている。	後期
5-880号土坑 (第446図: PL198)							
1	深鉢	口縁~胴部	埋設土器	淡黄褐色	砂粒	口縁下に廻る横位隆帯に5単位のY字状懸垂帯が付され、胴部を縦位分割、分割面には横位の沈線文。	曾利3
5-881号土坑 (第446図: PL198)							
1	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	砂粒	刺突文見られる。	後期
2	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	沈線による蕨手文。	加曾利E 3
5-882号土坑 (第446図: PL198)							
1	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	器面荒れて文様不鮮明、沈線文様か。	後期

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
5-883号土坑 (第446図: PL198)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	隆帯による楕円渦巻き文を2段構成。区画内は縄文LRを横位施文。口縁部文様間に円形文。	加曾利E 3
2	深鉢	口縁部	覆土	灰黒褐色	砂粒	口縁部が丸く肥厚。	後期
3	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	U状文描き縄文充填。	加曾利E 4
4	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	沈線による縦位紡錘状文描き縄文を充填か。	加曾利E 4
5-884号土坑 (第446図: PL198)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	隆帯による曲線文配し沈線文斜位に付す。口縁下には交互に押し当てられた押圧文。	曾利 3
2	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	口縁下に縦位の沈線。	曾利 3
3	深鉢	胴部	覆土	暗灰茶褐色	砂粒	縦位磨り消し縄文。	加曾利E 3
4	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	鋸歯状の垂下沈線文、および縄文が見られる。	中期後半
5	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	対向するU状文を沈線で連続して描き、文様内は縄文施文。	加曾利E 4
5-885号土坑 (第447図: PL198)							
1	深鉢	口縁部	底面	灰黄褐色	砂粒	幅広い無文口縁で外反、頸部に低い隆帯が廻る。以下縦位の沈線文か。	加曾利E 3
2	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	口縁下に隆帯廻り、隆帯上位に連続刻み、下位には斜位の集合沈線が見られる。	曾利 3
3	浅鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	砂粒	口縁部肥厚し内外面研磨。	加曾利E 3
4	深鉢	口縁部	底面	暗黒褐色	砂粒	口縁から繋がる隆帯が渦巻き文描き、さらに隆帯が垂下、さらに両脇にも隆帯による幅狭の凹文が描かれ、間は弧状、横位の沈線文が描かれる。	曾利 2
5	鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	隆帯により渦巻き文、楕円文を描くものと思われ、楕円文内には刺突文。以下胴部には縦位の集合条線文。	加曾利E 3
6	深鉢	環状取手	覆土	灰褐色	砂粒	波頂部に付く環状取手片、5-93号住居跡14と同一個体か。	中期後半
5-888号土坑 (第447・448図: PL199)							
1	深鉢	口縁～胴部	覆土	黒褐色	砂粒	沈線による三角文、J字状、剣先状文等描き刺突文が見られる。	称名寺 2
2	深鉢	口縁部	覆土	灰黒褐色	砂粒	口縁には波頂部で狭まる無文帯、以下縄文施文後沈線による凹状磨り消し文。	称名寺 1
3	深鉢	口縁部	覆土	灰黒褐色	微砂粒	口縁部横位沈線下に縄文施文。	称名寺 1
4	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	砂粒	口縁部に横位沈線、以下縄文RL横位施文。	称名寺 1
5	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	砂粒	口縁部内傾し沈線が廻る、以下縄文施文後凹状沈線文。	称名寺 1
6	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	砂粒	口縁部は隆帯で無文帯、さらに垂下隆帯で無文帯画す。	称名寺 1
7	鉢形土器	口縁部	覆土	白黄色	砂粒	口縁下から繋がる沈線による波状垂下文。	称名寺 2
8	深鉢	口縁部	覆土	灰色	砂粒	口縁部が内屈する無文口縁部片。13は同一個体。	称名寺 2
9	深鉢	口縁部	覆土	灰色	砂粒	口縁部が内屈する無文口縁部片。	称名寺 2
10	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	砂粒	磨り消し縄文による曲線文様。	称名寺 1
11	深鉢	胴部	覆土	黄灰褐色	砂粒	磨り消し縄文による渦巻き文、曲線文様描く。	称名寺 1
12	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	沈線による渦巻き磨り消し文様。斜めの平行沈線が見られる。	称名寺 1
13	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	砂粒	頸部屈曲、肩部以下細縄文施文。	後期
14	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	砂粒	平行沈線による渦巻き懸垂文、を4単位か、間には沈線によるU状文、さらに渦巻き文下にはこれらを繋ぐ弧状沈線文が見られる。沈線文間を磨り消す。地文には縄文RL施文。	堀之内 1
15	深鉢	胴部	覆土	暗赤褐色	砂粒	沈線による楕円文、凹状文、平行文描き文様内に細縄文Lを施文。	称名寺 1
16	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	砂粒	平行垂下沈線。	称名寺 2
17	深鉢	口縁部	覆土	灰白褐色	微砂粒	口縁下に横位連続刺突文を付した隆帯が廻る。18～21は同一個体片。	後期初頭
18	深鉢	口縁部	覆土	灰白褐色	微砂粒	口縁下に横位連続刺突文を付した隆帯が廻る。	後期初頭
19	深鉢	口縁部	覆土	灰白褐色	微砂粒	口縁下に横位連続刺突文を付した隆帯が廻る。	後期初頭
20	深鉢	胴部	覆土	灰白褐色	微砂粒	口縁下に横位連続刺突文を付した隆帯が廻る。	後期初頭
21	深鉢	胴部	覆土	灰白褐色	微砂粒	口縁下に横位連続刺突文を付した隆帯が廻る。	後期初頭
22	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	微砂粒	横位の隆帯直下に付された円形貼り付け文から隆帯が弧状に垂下する。	後期初頭
23	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	横位の隆帯端部付された円形貼付文から弧状隆帯が垂下。	後期初頭
24	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	波状垂下隆帯文。	後期初頭
25	深鉢	胴部	覆土	黒色	砂粒	平行垂下隆帯。	後期
26	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁部内径、刺突文から隆帯垂下。	後期
27	蓋形土器	蓋	覆土	黄灰褐色	砂粒	漏斗状を呈し上部は丸く抜けており上端部は平らに成形されている。下部には環状取手が横方向に付く。	後期

第3章 検出された遺構と遺物

No	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
5-889号土坑 (第449図: PL199)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	砂粒	口縁部隆帯による楕円文構成し縄文充填施文。	加曽利E 3
2	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	口縁部に浅い横位の沈線以下縄文施文。	加曽利E 3
3	深鉢	口縁部	覆土	黄白色	砂粒	口縁部に沈線による横楕円文様。	後期
4	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	砂粒	口縁直下より縄文施文、口縁部は横位以下縦位にRL。	
5	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	無文口縁部片。	中期後半
6	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	横位隆帯の上下縄文施文。	加曽利E 3
7	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	砂粒	横位隆帯で口縁部に無文部を画し、以下縄文施文。	加曽利E 3
8	深鉢	底部	覆土	暗茶褐色	砂粒	無文底部片。底面摩滅し角が丸みを呈す。	中期後半
9	深鉢	突起	覆土	暗黒褐色	微砂粒	橋状突起文。上部は環状を呈し内側に沈線、刺突文を配す。	堀之内1
5-890号土坑 (第449・450図: PL199・200)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	砂粒	口縁部楕円文構成か、縄文施文。	加曽利E 3
2	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	小波状口縁か、口縁部に横位沈線廻らし、以下楕円文構成か、文様内には横位RL施文。	加曽利E 3
3	浅鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	口縁部に横位沈線。赤彩痕。	加曽利E 3
4	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	波状口縁、口縁部は隆帯で無文部を画す。波頂部には渦巻き懸垂文か。地には縄文RL横位。	加曽利E 3
5	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	隆帯による楕円文間の円形押圧文。以下縄文施文。	加曽利E 3
6	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	隆帯文、および重弧状沈線。	唐草文系
7	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	無文の口縁部片、端部が僅かに外反。	後期
8	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	砂粒	口縁部に隆帯による楕円渦巻き文、胴部には縦位平行沈線および重弧状沈線。	唐草文系
9	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	微砂粒	横位隆帯下に隆帯による渦巻き文、渦巻き文内には放射状に短沈線、外縁には刺突文を配す。器面風化。	唐草文系
10	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	微砂粒	沈線による垂下文、放射状に短沈線、器面風化。	唐草文系
11	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	微砂粒	沈線による垂下文、放射状に短沈線、器面風化。	唐草文系
12	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	微砂粒	沈線による垂下文、同心円状に短沈線、器面風化。	唐草文系
13	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	微砂粒	横位沈線間に連続押圧円形文。	加曽利E 3
14	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	縦位集合沈線および無文帯。	曾利3
15	浅鉢	底部	覆土	茶褐色	砂粒	無文底部片。	中期後半
5-891号土坑 (第450~452図: PL200)							
1	深鉢	口縁~胴部	覆土	暗灰黄褐色	砂粒	肩部が張り、口縁部はやや外傾して立ち上がる。口縁部は無文で文様帯を画す刻み横位隆帯が見られる。肩部には隆帯による横楕円渦巻き文様による文様帯構成。胴部には縦位集合条線。	曾利系
2	深鉢	口縁~胴部	覆土	橙褐色	砂粒	波頂下には隆帯による渦巻き文、左右には楕円文を画し下辺内側に鈎状に隆帯延びる。楕円文内は矢羽根状の横位沈線文。胴部は2本単位の沈線による弧状懸垂文を上下対に描き、中央に縦に長楕円文、蕨手文を描く。間隙には渦巻き文が描かれ、文様内には縦位の矢羽根状沈線文。	唐草文系
3	深鉢	口縁~胴部	覆土	灰褐色	砂粒	頸部に横位隆帯廻り円形押圧文を基点に胴部に向かって押圧隆帯が垂下し胴部を縦位区画。地文には口縁部縦位集合条線、胴部区画内には波状の縦位集合条線文。	中期後半
4	深鉢	口縁~胴部	覆土	暗黒褐色	砂粒	波状下に隆帯による渦巻き文さらに口縁に沿って左右に隆帯が延び、隆帯下に沈線による楕円文描き縄文充填する。以下沈線による縦位磨り消し帯。	加曽利E 3
5	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	微砂粒	隆帯による楕円渦巻き文構成か、楕円文内には縄文RLが横位施文される。	加曽利E 3
6	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	口縁は小波状を呈す、横位に沈線廻り以下楕円文を構成か。	加曽利E 3
7	深鉢	口縁部	覆土	暗赤茶褐色	砂粒	口縁部には沈線で弧状文を画し、以下磨り消し縄文による文様を描く。器面研磨。	加曽利E 3
8	深鉢	口縁部	覆土	淡茶褐色	砂粒多	口縁部はやや幅広い無文部を持ち、以下隆帯による渦巻き楕円文構成。	加曽利E 3
9	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	波状口縁部下に隆帯による渦巻き文。	加曽利E 3
10	深鉢	胴部	覆土	暗灰黄褐色	砂粒多	口縁部に楕円文を画し縄文施文、以下縦位の磨り消し縄文帯。	加曽利E 3
11	深鉢	胴部	覆土	黄橙色	砂粒多	口縁部文様下、縦位の磨り消し縄文。	加曽利E 3
12	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	横位の刺突文帯下に沈線による∩状文蕨手文描き、∩状文内には縄文RLを縦位施文後波状沈線を垂下。	加曽利E 3
13	深鉢	胴部	覆土	黄橙褐色	砂粒	口縁部は隆帯による区画文、以下縦位の磨り消し縄文。器面剥落。9と同一個体か。	加曽利E 3
14	深鉢	胴部	覆土	暗黄褐色	砂粒	2本単位の沈線による横位波状文を描き、縄文RLを縦位充填施文。	加曽利E 3
15	深鉢	胴部	覆土	黄橙色	微砂粒	胴中位に横位円形押圧文が廻りこれを挟み沈線が廻る。以下沈線による∩状文が横位連続施文。文様内には縄文RLを縦位に施文。	加曽利E 4
16	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	口縁部は外側に折り返されて肥厚、隆帯による横位渦巻き弧状文、地文は縦位沈線が施文。	唐草文系

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No.	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
17	深鉢	口縁部	覆土	黒色	金雲母	肥厚した口縁部から片側に刺突文を伴った隆帯が垂下。	曾利2
18	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁部に2本の横位隆帯で幅狭の文様帯を画し、中には斜位の連続沈線文。	中期後半
19	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	微砂粒	口縁部に横位の沈線、隆帯による渦巻き文と横位文様、地文には縦位の集合沈線。	唐草文系
20	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	砂粒	隆帯による楕円文構成か、区画内列点状文が見られる。	加曾利E3
21	深鉢	口縁部	覆土	淡褐色	砂粒	波状部が高く延びた取手、縦形の楕円形透かし孔を有し、上部が肥厚。隆帯による渦巻き垂下文が一對描かれていたものと思われるが剥落。	唐草文系
22	浅鉢	口縁部	覆土	黄橙色	砂粒	無文、僅かに赤彩痕見られる。	中期後半
23	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	外反する無文口縁部片。	後期
24	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	無文口縁部片、器面研磨。	中期後半
25	深鉢	底部	覆土	灰黄褐色	砂粒	縦位磨り消し縄文帯、縄文は重のRL施文。	加曾利E3
26	深鉢	底部	覆土	灰黄褐色	砂粒	縦位の磨り消し縄文。やや薄手の作り。	加曾利E3
27	深鉢	底部	覆土	黄褐色	微砂粒	縦位の磨り消し縄文。	加曾利E3

5-894号土坑 (第453図: PL201)

1	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	T状の隆帯文、地文に斜位の集合沈線。	曾利3
2	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	砂粒	隆帯で画す区画文内に縦位の集合沈線。	曾利3

5-895号土坑 (第453図: PL201)

1	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁下に横位平行沈線、渦巻き垂下文、および縄文帯が見られる。	加曾利E3
2	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	U状の垂下隆帯、左右には横位、縦位の集合沈線文。	曾利4
3	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	平行垂下隆帯、縦位の綾杉沈線文。	曾利4

5-896号土坑 (第453図: PL201)

1	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	砂粒	縦位磨り消し縄文。	加曾利E3
2	深鉢	胴部	覆土	黄白色	砂粒	縦位磨り消し縄文。器面風化。	加曾利E3
3	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	磨り消し縄文による曲線文。	称名寺1
4	深鉢	底部	覆土	暗茶褐色	砂粒	縦位の垂下沈線。	加曾利E3

5-898号土坑 (第453図: PL201)

1	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	横位の隆帯およびU状沈線文横位。	加曾利E3
2	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	隆帯による渦巻き垂下文、縦位の集合沈線。	曾利3

5-899号土坑 (第453図: PL201)

1	深鉢	口縁部	覆土	明茶褐色	砂粒	隆帯をT状に付し胴部は縦位無文、縄文帯画す。縄文は縦位LR施文。	加曾利E4
2	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	口縁部に横位隆帯廻り、ここから縦位の隆帯垂下させU状の無文、縄文帯を画す。	加曾利E4
3	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁部に隆帯による楕円文、中には縄文施文。	加曾利E3
4	深鉢	口縁部	覆土	暗黄褐色	微砂粒	口縁部に突起状の小波状を呈す、突起下から口縁部に沿って隆帯が見られ、以下縄文施文後平行沈線によるU状の磨り消し帯が見られる。	加曾利E4
5	深鉢	口縁部	覆土	黄茶褐色	砂粒	口縁部からの磨り消し渦巻き懸垂文。縄文は口縁部は横位以下は縦位にRLを施文。	称名寺1
6	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	砂粒	横位の隆帯で口縁部に無文部を画す。以下縄文施文。	加曾利E3
7	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	砂粒	隆帯による渦巻き文構成。	加曾利E3
8	短頸壺形土器	胴部	覆土	灰黒色	砂粒	隆帯による曲線文。	加曾利E4
9	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	無文口縁部片。	中期後半
10	深鉢	底部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	無文底部。器面研磨。	中期後半

5-900号土坑 (第454図: PL201・202)

1	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	口縁部に横位押圧文付し下位に沈線が廻る。以下縄文充填した円形文、三角文描き下部に沈線文によるH状文描くか。間隙にはやはり縄文充填された紡錘文が描かれ沈線藏手文が配される。	加曾利E3
2	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	砂粒多	隆帯による楕円渦巻き文、文様間に2つの円形文を縦に配す。楕円文内には縄文施文。器面風化。	加曾利E3
3	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	口縁下に横位連続弧状文か、縄文充填施文。	加曾利E3
4	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒多	口縁部に横位押圧文付し、下位に沈線が廻る。以下縄文施文。	加曾利E3
5	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁に横位沈線、以下縄文施文、沈線直下は横位、以下縦位のRL施文。	加曾利E3
6	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	口縁部に小突起を有し突起下には円形押圧文、口縁部は隆帯による楕円渦巻き文様か。口唇部内側には凹線が廻る。	加曾利E3
7	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	縦位磨り消し縄文。縄文帯には垂下波状文。縄文はRL縦位施文。	加曾利E3
8	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	微砂粒	口縁が内湾し口唇部短くT状を呈す。隆帯による渦巻き文が横位連続しこれら渦巻き文から隆帯が垂下し楕円文様を画す。楕円内は縄文が充填施文。	大木系

第3章 検出された遺構と遺物

No	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
9	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁部は肥厚、直下には沈線による連弧文を配し、縦位沈線を充填する。	曾利 3
10	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	沈線による縦位区画、縄文帯ではなく縦位の沈線文が施文され、さらに波状垂下沈線文。	加曾利 E 3
11	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	無文口縁部片、器面研磨。	後期
12	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	2本単位の隆帯によるY状文様を付す、地文には縦位連続ハの字文。	曾利 4
5-902号土坑 (第455・456図: PL202)							
1	有孔罽付土器	口縁~胴部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	口縁部直立し罽は上向きに付く、ほぼ5cmの間隔で孔が空けられている。胴部は太い沈線による円形、渦巻き文様が描かれる。赤彩痕見られる。	加曾利 E 4
2	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	隆帯による楕円渦巻き文。	加曾利 E 3
3	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	波状口縁を呈す、沈線による楕円文描き縄文を施文。	加曾利 E 3
4	深鉢	口縁部	覆土	淡褐色	砂粒	波頂下に隆帯による渦巻き文。	加曾利 E 3
5	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	口唇部に凹線、直下には沈線による横位長楕円文、以下重の集合沈線が見られる。	曾利 3
6	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	石英粒	隆帯による横楕円文構成か、重弧状の沈線が充填施文。以下隆帯で画し胴部に沈線文様。	曾利 2
7	深鉢	口縁部	覆土	黒色	砂粒	円形刺突文。	三十稲場
8	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	波頂部に取手が付いていたものと見られる。波頂下に沈線による紡錘状文で無文部を画す。	加曾利 E 4
9	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	砂粒	沈線による渦巻き磨り消し文。	称名寺 1
10	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	縄文施文後沈線による磨り消し舌状文を垂下させる。	加曾利 E 3
11	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	砂粒	肥厚した隆帯で渦巻き文構成さらにこれらに繋がる隆帯が垂下し縦位の区画文構成し、沈線による渦巻き文が描かれる。	曾利 2
12	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	縦位の集合条線文。	中期後半
13	深鉢	口縁部	覆土	暗灰褐色	微砂粒	無文口縁部片。やや外反、器面研磨。	後期
14	深鉢	口縁部	覆土	淡褐色	砂粒	無文口縁部片。器面研磨。	後期
15	深鉢	底部	覆土	茶褐色	砂粒	小型土器の底部、縦位沈線の下端部が見られる。	中期後半
5-903号土坑 (第456図: PL202)							
1	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	砂粒	縄文施文。	中期後半
5-904号土坑 (第456図: PL202)							
1	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	微雲母粒か	縦位の隆帯、横位、縦位の沈線文が見られる。	曾利 2
2	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	砂粒	縦位の集合条線。	中期後半
5-905号土坑 (第456図: PL202)							
1	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	小波状口縁、口縁部に廻る隆帯が波頂下で渦巻き文を作りこれから2本の隆帯が垂下する。地文には縦位の集合沈線。	曾利 3
5-906号土坑 (第456・457図: PL202・203)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁部に横位隆帯で無文部を画す、以下縄文施文後沈線による磨り消し紡錘状文描く。	加曾利 E 4
2	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	砂粒	口縁直下に隆帯で画した∩状文描き縄文を充填施文、さらに∩状の磨り消し文が見られる。	加曾利 E 4
3	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	砂粒	口縁部内屈し無文、以下縦位の磨り消し縄文。	加曾利 E 4
4	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	口縁部に横位沈線、以下無文。	堀之内 1
5	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	口縁部に横位の沈線および刻みを有す。以下無文で頸部に複数の横位沈線。	堀之内 2
6	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁部内側に肥厚、無文。	後期
7	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	無文。	後期
8	深鉢	口縁部	覆土	黒色	微砂粒	口縁部に横S字状の突起文。突起文下の内面には弧状に垂下する隆帯文、口縁部には横位沈線、刻みを有す隆帯が廻る。	堀之内 2
9	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	口縁部に横位、以下斜位の隆線か、隆線に沿って刺突文。	称名寺 2
10	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	砂粒	隆帯で画した縦位磨り消し縄文。内面の剝落顕著。	加曾利 E 3
11	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	縦位隆帯。	加曾利 E 3
12	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	縦位の隆帯。	加曾利 E 3
13	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	沈線による渦巻き文が並ぶ。	堀之内 1
14	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	砂粒	縦位の波状集合沈線。	中期後半
15	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	横位沈線間に横位矢羽根状の短沈線文。	後期
16	深鉢	底部	覆土	淡茶褐色	微砂粒	底面に縄文か。	後期
17	深鉢	底部	覆土	淡茶褐色	砂粒	無文で研磨。	後期
18	深鉢	底部	覆土	茶褐色	砂粒	無文、底面に網代痕。	後期

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
5-907号土坑 (第457・458図：PL203)							
1	短頸壺形土器	口縁～胴部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	口縁部は直立、横位の平行隆帯を繋ぐ橋状取手が付され、取手は鈎状の沈線で飾られる。胴部は無文、赤彩痕見られる。	加曽利E 4
2	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	波状口縁を呈す。隆帯による楕円渦巻き文を2段構成、楕円文内には刺突文。以下縦位の磨り消し縄文。	加曽利E 3
3	深鉢	口縁部	覆土	淡茶褐色	微砂粒	波状口縁を呈す。隆帯による楕円渦巻き文を2段構成か、楕円文内には縄文が充填施文される。	加曽利E 3
4	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	口縁部下に横位沈線、以下縄文施文。	加曽利E 4
5	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	口縁部には横位隆帯で画された無文部有す、以下縄文施文され、橋状の取手が付いていたものと思われるが一部欠損。	加曽利E 4
6	深鉢	口縁部	覆土	赤茶褐色	砂粒	波状口縁を呈す。隆帯による楕円渦巻き文構成か、以下縦位磨り消し縄文か。	加曽利E 3
7	深鉢	口縁部	覆土	暗黄褐色	砂粒	縄文施文か、施文不鮮明で器面やや風化。	中期後半
8	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁部肥厚し無文、以下隆帯による渦巻き文か。斜位の集合沈線が見られる。	曾利 3
9	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	砂粒	口縁下に横位の隆帯、ここから隆帯による楕円文を構成する。楕円文内には縦位の集合沈線。	曾利 3
10	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	口縁部に隆帯による渦巻き弧状文、中には縦位の沈線文。	加曽利E 3
11	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	口縁下に横位の沈線、以下横位矢羽根状沈線文。	曾利 3
12	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	砂粒	隆帯で飾られた橋状取手が付く、取手上端部には渦巻き文、取手で挟まれた部分には斜位の集合沈線が見られる。	曾利 3
13	浅鉢	頸部	覆土	淡黄茶褐色	砂粒	大きく肥厚した断面三角の隆帯で口縁部文様を画す。沈線による重楕円文か。	加曽利E 3
14	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	沈線による紡錘状文描き中は無文とする。	加曽利E 4
15	深鉢	胴部	覆土	淡茶褐色	微砂粒	縦位磨り消し縄文。	加曽利E 3
16	短頸壺形土器	口縁部	覆土	灰黄褐色	砂粒	肩部に横位平行隆帯を繋ぐ橋状の取手が付く。	加曽利E 4
5-908号土坑 (第458図：PL203)							
1	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	縦位磨り消し縄文、垂下沈線施文。縄文は縦位RL。	加曽利E 3
2	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	縦位磨り消し縄文、垂下沈線施文。縄文は縦位RL。	加曽利E 3
3	深鉢	胴部	覆土	淡茶褐色	微砂粒	複数単位の垂下沈線、縦位刺突文が見られる。	堀之内 1
4	深鉢	胴部	覆土	淡茶褐色	微砂粒	沈線による同心円文か。	堀之内 1
5-909号土坑 (第458図：PL203)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	砂粒	隆帯による楕円渦巻き文構成か。	加曽利E 3
2	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	砂粒	口縁部は隆帯で画された無文帯。	後期
5-910号土坑 (第459図：PL203)							
1	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	砂粒	口縁下に横位沈線、以下縄文LRを縦位施文。	加曽利E 3
2	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	微砂粒	口縁下に横位隆帯。	曾利 3
3	深鉢	胴部	覆土	暗赤褐色	微砂粒	隆帯に沿って刺突文列。	中期後半
5-916号土坑 (第459図：PL204)							
1	短頸壺形土器	口縁部	覆土	暗褐色	微砂粒	微隆帯で画された口縁部は無文で、口縁端部が短く直立する。以下肩部には細縄文施文。	加曽利E 4
2	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	砂粒	縦位矢羽根状の沈線文。	曾利 4
3	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	微砂粒	弧状の集合沈線文。	堀之内 1
5-917号土坑 (第459図：PL204)							
1	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	縦位磨り消し縄文。	加曽利E 3
2	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	縄文地文に横位沈線。	加曽利E 3
5-918号土坑 (第459図：PL204)							
1	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	横位沈線下に縦位の磨り消し縄文。	加曽利E 3
2	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	砂粒	磨り消し縄文。	称名寺 1
3	深鉢	底部	覆土	黄橙色	砂粒	沈線によるV字文が見られる。	後期
5-919号土坑 (第459図：PL204)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰色	砂粒	口縁部に横位の沈線廻り以下縄文施文。	加曽利E 3
5-920号土坑 (第459図：PL204)							
1	深鉢	口縁部	覆土	黒色	微砂粒	口縁部沈線で無文帯を画し、直下の渦巻き文から二股に分かれる隆帯。地文は矢羽根状、斜位の沈線文。	曾利 4
5-921号土坑 (第460図：PL204)							
1	深鉢	口縁部	覆土	淡褐色	砂粒	口縁部に横位沈線、以下縄文を斜位方向施文。	加曽利E 4
2	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	砂粒	口縁部から幅狭の∩状隆帯文垂下、両側には横位集合沈線文。	曾利 4
3	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	砂粒	縦位磨り消し縄文。	加曽利E 3
4	短頸壺形土器	胴部	覆土	黒褐色	砂粒	隆帯による渦巻き文。赤彩痕。	加曽利E 4
5	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	微石英粒	縦位の平行沈線文。	加曽利E 3

第3章 検出された遺構と遺物

No	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
5-924号土坑 (第460図: PL204)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗灰褐色	砂粒	口縁部に沈線廻り、沈線による \cap 状磨り消し縄文。	称名寺1
2	深鉢	口縁部	覆土	灰白色	砂粒	口縁部に付く環状突起部片、弧状の沈線が付される。	堀之内1
3	深鉢	口縁部	覆土	淡橙褐色	微砂粒	無文口縁部片。	後期
4	深鉢	胴部	覆土	黒色	微砂粒	併行微隆帯による円形文様描き中に縄文を施文。	称名寺1
5	深鉢	胴部	覆土	淡橙褐色	砂粒	幅狭の縦位磨り消し縄文。	加曾利E3
5-925号土坑 (第460図: PL204)							
1	浅鉢	口縁部	覆土	暗赤褐色	砂粒	波状口縁を呈し波頂部に隆帯による円形の突起を配しそこから肩部に橋状の取手が下がる。取手は沈線、刺突文を有す隆帯で飾る。さらに取手下部から口縁に沿って刻みを有す隆帯が走り口縁部文様帯を画す。文様帯内は沈線で弧状文様細縄文で充填する。また胴部にも細縄文施文。	称名寺1
2	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁部下に縄文RLを斜位方向施文。	加曾利E4
3	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	沈線により胴部に \cap 状区画配す、区画間には蕨手垂下文を描く、また区画内は縄文LRを縦位充填施文し沈線による波状垂下文見られる。	加曾利E3
4	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	縦位に併行隆帯、地には縦位の集合条線見られる。	加曾利E3
5	蓋型土器	完形	覆土	淡褐色	微砂粒	小形の碗型を呈し、両端に円孔が見られる。径約4.7cmで高さは約2.0cm。	後期
5-926号土坑 (第460・461図: PL204)							
1	深鉢	口~胴部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁部に隆帯を捻った形の突起文が付く、胴部には沈線により重 \cap 状文、楕円文、鈎状文を組み合わせる横単位文様を描く。	称名寺2
2	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	砂粒	波頂部が環状となる。外面には斜めの刻みを有す隆帯が垂下し、左右には沈線による鈎状文描き縄文施文。	称名寺1
3	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	砂粒	隆帯による楕円文構成か。	加曾利E3
4	深鉢	取手	覆土	暗茶褐色	微砂粒	波上口縁部に付された橋状取手、上端に円形押圧文が見られる。	称名寺1
5	短頸蓋形土器	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	肩部に平行隆帯が廻りこれを繋ぐ橋状の取手が付く、取手下には隆帯で楕円文基調の区画文が見られる。器面研磨。一部に赤彩痕残る。	加曾利E4
6	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒多	横位4本の沈線。	後期
7	深鉢	胴部	覆土	黄白色	砂粒	横位隆帯から紡錘状に隆帯垂下し中を無文とする。縄文はやや乱雑に無節しを施文する。	加曾利E4
8	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	砂粒	やや外反した舌状の突起、側縁に円形刺突文。器面の風化が著しい。	後期
9	深鉢	底部	覆土	灰白色	微砂粒	縦位の沈線下部が見られる。	中期後半
5-928号土坑 (第461図: PL204)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁部から併行隆帯が垂下し、左右には重弧状文が見られる。	曾利2
2	深鉢	突起部	覆土	黄茶褐色	微砂粒	環状の突起部片か、沈線文見られる。	後期
3	深鉢	底部	覆土	淡褐色	砂粒	厚手の底部、底面に網代痕。	後期
5-929号土坑 (第461図: PL204)							
1	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	縦位の併行隆帯および斜位の集合沈線文。	曾利3
5-931号土坑 (第461図: PL205)							
1	深鉢	口縁部	覆土	明黄褐色	微砂粒	口縁部は肥厚し横位沈線間に刺突文。	堀之内1
2	深鉢	口縁部	覆土	暗灰褐色	砂粒	口縁部は小波状を呈し肥厚する。	堀之内1
3	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	砂粒	口縁部は内屈しやや波状を呈す、波状部分には横位連続弧状沈線文。	堀之内1
4	深鉢	胴部	覆土	明褐色	砂粒	3本単位の垂下沈線間に縦位LR縄文施文。	堀之内1
5	深鉢	胴部	覆土	明褐色	砂粒	縦位沈線間に沈線による紡錘状文描き縄文LRを施文。	堀之内1
6	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	横位の隆帯、器面研磨。	堀之内1
7	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	縦位の隆帯、器面研磨。	堀之内1
8	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	円形貼付文か。	堀之内1
5-932号土坑 (第462図: PL205)							
1	深鉢	口縁部	覆土	黒色	砂粒	口縁部は内屈し小波状を呈す、波頂下には沈線、刺突文および弧状沈線文。屈曲部には連続刻み文が付され、以下無文となり頸部には横位沈線。	堀之内2
2	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	沈線文様内に縄文施文。	堀之内1
3	深鉢	胴部	覆土	灰白色	砂粒	縦位沈線間に縄文施文。	堀之内1
4	深鉢	胴部	覆土	灰黄白色	砂粒	横位沈線下に重弧状沈線文。	堀之内1
5	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	砂粒	T状の隆帯。	堀之内1
6	深鉢	口縁部	覆土	黄灰褐色	微砂粒	刺突文有す横位隆帯、補修孔見られる。	堀之内1
7	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	砂粒	撫でによる微隆帯文。	中期後半

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
5-933号土坑 (第462図: PL205)							
1	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	縦位の磨り消し縄文帯、縄文帯には沈線による波状文垂下。縄文は縦位のRL施文。	加曾利E 3
2	深鉢	口縁部	覆土	灰色	砂粒	波状口縁、波頂部には隆帯による渦巻き文および楕円文か、縄文を施文。	加曾利E 3
3	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	砂粒	口縁直下から縄文施文、沈線による磨り消し紡錘状文か。	加曾利E 4
4	深鉢	胴部	覆土	灰白色	砂粒	胴部の縦位磨り消し縄文、縄文帯には波状垂下沈線文。	加曾利E 3
5	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	縦位磨り消し縄文、縄文帯には縦位沈線。縄文は複線RLを縦位施文。	加曾利E 3
6	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	砂粒	縦位磨り消し縄文、器面風化。	加曾利E 3
7	深鉢	口縁取手	覆土	灰褐色	微砂粒	波状口縁部に付く中空状の橋状突起部分5方向に円窓を有す。突起部は隆帯で飾られ渦巻き文、押圧文見られる。突起部下には縄文施文。	大木系
8	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	口縁部は無文で端部を欠く。隆帯による楕円渦巻き文を構成し、楕円文内は重弧状文で埋める。	加曾利E 3
9	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	隆帯による横位楕円文、区画内には横矢羽根状の沈線文。	曾利3
10	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	微砂粒	隆帯で画された横位文様帯、横位矢羽根状沈線文が施文。	曾利3
11	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	斜位の集合条線文。	曾利3
12	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	縦位刺突文帯。	中期後半
13	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	砂粒	口縁部から大きく上に延びる突起部と思われる。隆帯により三叉状に延びる渦巻き文を構成。	曾利3
14	深鉢	胴部	覆土	黒色	砂粒	3本の横位隆帯の上位に交互刺突文、下位には隆帯による曲線文描き斜位の集合沈線文か。	曾利2
5-934号土坑 (第463図: PL205)							
1	深鉢	口縁部	覆土	淡茶褐色	砂粒	口縁下に横位縄文帯。	堀之内2
2	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	微砂粒	肥厚沈線で画された縄文帯による曲線文様。	称名寺1
3	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	磨り消し曲線文様。	称名寺1
4	小型壺形土器	胴部	覆土	灰黒色	微砂粒	併行沈線による垂下文様。	称名寺2
5	深鉢	胴部	覆土	橙茶褐色	砂粒	縦位の隆帯。	堀之内1
6	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	縦位の波状隆帯。	堀之内1
5-935号土坑 (第463図: PL205)							
1	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁下に横位の隆帯廻り、縦位文、冂状の垂下文が描かれる。	加曾利E 3
2	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	文様帯部分が肥厚し、隆帯による渦巻き文描き、間隙に円形文が見られる。周囲に刺突文。	加曾利E 3
3	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	縄文RLを縦位施文、両端に縦位の沈線が見られる。	加曾利E 3
4	深鉢	胴部	覆土	淡茶褐色	砂粒	縦位磨り消し縄文。	加曾利E 3
5	深鉢	胴部	覆土	橙茶褐色	砂粒	縦位磨り消し縄文。器面荒れている。	加曾利E 3
6	深鉢	胴部	覆土	淡橙褐色	微砂粒	磨り消し縄文による渦巻き文様描くか。	称名寺1
7	浅鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	口唇部はやや肥厚し角頭状を呈す、内外面研磨。	加曾利E 3
5-936号土坑 (第464図: PL206)							
1	深鉢	胴部	覆土	明茶褐色	砂粒	平行沈線間に刺突文有す磨り消し文様。	称名寺2
2	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	砂粒	平行沈線による渦巻き文か。	称名寺2
3	深鉢	胴部	覆土	黄灰白色	微砂粒	平行沈線による渦巻き文か。	称名寺2
4	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	頸部に横位の沈線か。	堀之内1
5	深鉢	底部	覆土	灰褐色	砂粒	無文底部片。	後期
6	土製円盤	胴部	覆土	淡褐色	微砂粒	やや小形品、径約3.3cm。	後期
5-937号土坑 (第464図: PL206)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁部に横位沈線廻る。	堀之内1
2	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	矩形磨り消し文。	称名寺1
3	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	縦位の沈線文様。	称名寺2
4	深鉢	胴部	覆土	黄白色	砂(石)粒	3本単位の縦位沈線。	堀之内1
5-940号土坑 (第464図: PL206)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	精製	口縁部に小突起、内面に刺突文有す。口縁下位に平行する刻み隆帯が廻りこれらを縦に繋ぐ8字文が付される。以下横位の沈線文が看取される。	堀之内2
2	深鉢	胴部	覆土	黄茶褐色	微砂粒	沈線による渦巻き文。	称名寺2
5-941号土坑 (第464図: PL206)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	砂粒	口縁部はやや内傾し小波状を呈す、無文。	堀之内1

第3章 検出された遺構と遺物

No	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
2	深鉢	胴部	覆土	黒色	砂粒	平行沈線による横位連続三角文様描く。	堀之内2
3	短頸壺形土器	口縁部	覆土	暗黒褐色	微砂粒	口縁部は短く直立するものと思われる。斜行する集合細沈線文施文後、沈線による円形文、平行線文描き文様間には刺突文も見られる。	堀之内1
4	壺形土器	胴部	覆土	暗茶褐色	精製	沈線による組合せ渦巻き文様描く。器面研磨。	堀之内2
5-942号土坑 (第465図: PL206)							
1	両耳壺	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	口縁部は隆帯で画す無文帯、以下胴部には沈線で磨り消し渦巻き文様描く。	加曾利E 4
2	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	2本単位の横位沈線文、細縄文施文。	堀之内1
3	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	斜位の平行沈線。	堀之内1
4	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	刺突文。	三十稲場
5	浅鉢	口縁部	覆土	黄褐色	微砂粒	波状口縁波頂部に環状取手が付され、上端部に刺突文が見られる。器面部分的に剝離がある。	堀之内1
5-943号土坑 (第465図: PL206)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	口縁部に無文部を画す横位隆帯。	堀之内1
2	鉢形土器	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	微隆帯で画した無文帯を横位、斜位に描く。	称名寺1
3	深鉢	底部	覆土	橙褐色	微砂粒	無文底部片、底面に網代痕。	後期
5-944号土坑 (第465図: PL206)							
1	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒多	縦位の隆帯間に縦位矢羽根状沈線文。	曾利3
2	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	砂粒	横位押圧隆帯部片。	堀之内1
3	深鉢	底部	覆土	暗灰褐色	砂粒	無文底部片。	後期
5-945号土坑 (第465図: PL206)							
1	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	微砂粒	口縁は外傾、口唇部やや盛り上がった部分に刺突文を付し、下位に隆帯を垂らし端部に刺突文。頸部に横位の沈線が廻る。	堀之内1
2	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	砂粒	3本単位の沈線による垂下文様、左右には刺突文施文。	三十稲場
3	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	砂粒	沈線による曲線文様描き区画内に刺突文。	称名寺2
5-946号土坑 (第465図: PL206)							
1	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	3本単位の沈線による横位文さらに斜位の沈線文、間隙には縄文施文。	堀之内1
5-947号土坑 (第465図: PL206)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰黒褐色	砂粒	厚手土器、口縁下に横位の隆帯。	中期後半
2	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	沈線による矩形、曲線文か。	
3	深鉢	胴部	覆土	橙褐色	微砂粒	隆帯による曲線文。器面研磨。	後期
4	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	沈線文様内に刺突文。	称名寺2
5-948号土坑 (第465図: PL206)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰茶褐色	砂粒	口縁部は外反し橋状取手が付く、肩部には磨り消し縄文による曲線文様。	堀之内1
2	深鉢	口縁部	覆土	黒色	微砂粒	やや外反する無文口縁部片。	堀之内1
3	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	微砂粒	縦位隆帯。	堀之内1
5-949号土坑 (第466図: PL206)							
1	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	砂粒	縦位磨り消し縄文。	加曾利E 3
2	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	砂粒	縦位波状隆帯の波頂部に円形貼付文。	堀之内1
3	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	沈線による磨り消しU状文か。	加曾利E 4
4	深鉢	胴部	覆土	淡茶褐色	砂粒	縦位磨り消し縄文。	加曾利E 3
5	深鉢	底部	覆土	淡褐色	砂粒	縦位磨り消し縄文。	加曾利E 3
5-950号土坑 (第466図: PL206)							
1	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	肩部に押圧文有す隆帯が廻り、この隆帯状に付された円形文から口縁に向かって押圧有す隆帯が延びる。隆帯文以下は円形文下には対向弧状文、U状文が見られ、さらに垂下沈線状の沈線文が見られる。	堀之内1
2	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	縦位磨り消し隆帯、隆帯から磨り消し部分が広く延びる。	加曾利E 3
3	深鉢	胴部	覆土	明黄褐色	砂粒	横位隆帯上に円形貼付文付され隆帯垂下か。	堀之内1
4	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	円形貼付文から波状の垂下隆帯。	堀之内1
5	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	縦位平行沈線文間に刺突文配す。	称名寺2
6	土製円盤	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	やや不正形、側縁に凹凸。径約5.0cm。	三十稲場
5-951号土坑 (第466図: PL207)							
1	浅鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	口縁部は波状を呈し、環状突起の両面に鈎状の隆帯を貼り合わせている。突起内面には刺突文を伴う沈線文。口縁部にはやはり刺突を伴う沈線で横位楕円文を連続させている。器肉は薄い。	称名寺1
2	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	微砂粒	横位の押圧隆帯。	堀之内1
3	深鉢	胴部	覆土	灰茶褐色	砂粒	磨り消し縄文による渦巻き文。	称名寺1

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
4	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	刺突文、押された方向の器面に盛りあがり。	三十稲場
5	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	砂粒	縦位（やや波状）の隆帯。	堀之内1
6	深鉢	胴部	覆土	黒色	砂粒	横位の隆帯。	堀之内1
5-952号土坑（第467図：PL207）							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	砂粒	口縁部に横位円形刺突文と沈線、以下横位、縦位の沈線文。	堀之内1
2	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	横位押圧隆帯。	堀之内1
3	深鉢	胴部	覆土	明褐色	砂粒	2本単位の沈線によるU状磨り消し文様。	称名寺1
4	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	砂粒	横位沈線、渦巻き文等を描き刺突文、円形文が付される。	堀之内1
5	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	口縁下に沈線により重三角磨り消し文。	堀之内2
6	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	砂粒	縦位の隆帯。	堀之内1
7	土製円盤	底部	覆土	灰褐色	砂粒	やや上げ底の底部片を利用した土製円盤、径約4.5cm。	後期
5-954号土坑（第467図：PL207）							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	口縁部に沈線で画した横位縄文帯。	称名寺1
2	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	砂粒	縦位磨り消し縄文。縦位RL施文。	加曾利E3
3	深鉢	口縁部	覆土	灰茶褐色	砂粒	口縁部波状を呈しやや内傾。無文。	堀之内1
5-955号土坑（第467図：PL207）							
1	深鉢	口縁部	覆土	赤褐色	砂粒	口縁部内傾し無文帯を為す、以下沈線による縄文充填∩状文か。	加曾利E4
2	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	縦位磨り消し隆帯。	加曾利E3
3	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	微砂粒	縦位磨り消し縄文。	加曾利E3
4	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	縦位沈線文。部分的に縄文見られる。	称名寺1
5	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	縦位磨り消し縄文。	加曾利E3
6	深鉢	胴部	覆土	黄茶褐色	砂粒	縦位磨り消し縄文。	加曾利E3
7	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	微砂粒	横位沈線、器面研磨。	後期
8	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	縦位の隆帯。	堀之内1
5-956号土坑（第467図：PL207）							
1	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	砂粒	縦位磨り消し縄文。	加曾利E3
2	深鉢	底部	覆土	灰褐色	砂粒	厚手底部片。	中期後半
5-959号土坑（第468図：PL207）							
1	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	砂粒	3本単位の沈線文。	堀之内1
5-960号土坑（第468図：PL207）							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	口縁下に∩状磨り消し文様。	称名寺1
2	深鉢	胴部	覆土	黒色	砂粒	横位隆帯の上位に沿って円形刺突文、隆帯以下縄文施文。	称名寺1
3	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	砂粒	縦位隆帯により幅広の無文帯を画す。	加曾利E3
4	浅鉢	口縁部	覆土	黄褐色	砂粒	口縁部が肥厚し、縦位に円形文付し両側には沈線による横楕円文。	称名寺2
5	浅鉢	口縁部	覆土	淡褐色	微砂粒	口縁部に環状突起が付され先端部から下に橋状の取手が付くものと見られる。	堀之内1
6	深鉢	口縁部	覆土	黒色	微砂粒	口縁部に環状突起が付され先端部は三角形を呈し、円形押圧文、下面には刺突文が見られる。さらに沈線による渦巻き文が付される。	堀之内1
7	土製円盤	胴部	覆土	灰黒色	砂粒	やや長円形を呈す、長径約4.0cm。	後期
5-961号土坑（第468図：PL207・208）							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	砂粒	口縁部に沈線による横位縄文帯を画す。	称名寺1
2	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	微砂粒	沈線による縦位磨り消し文様。	堀之内1
3	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	縦位区画の磨り消し縄文文様。	称名寺1
4	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	微砂粒	磨り消し縄文。	称名寺1
5	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	微砂粒	3本単位の縦位沈線、縄文RL縦位施文。	加曾利E3
6	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	砂粒	垂下沈線文および縄文。	堀之内1
7	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	砂粒	3本の沈線で幅広の縦位磨り消し文様帯。	堀之内1
8	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	縦位平行沈線で磨り消し無文帯画す、縄文はLRを斜位方向。下辺部の割れ口は面取りされている。	加曾利E3
9	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	磨り消し縄文。	称名寺1
10	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	粗く縄文施文。	後期

第3章 検出された遺構と遺物

No	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
11	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	平行沈線による縦位磨り消し無文帯、縦位の集合条線で埋める。	加曾利E 3
12	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	微砂粒	縦位平行沈線間に刺突文。	称名寺2
13	深鉢	口縁部	覆土	明褐色	微砂粒	口縁部に横位沈線、以下無文。	堀之内1
14	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	砂粒	横位の隆帯下に斜めに沈線文。	後期
5-962号土坑 (第469図: PL208)							
1	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	縄文地に沈線による曲線文か。	加曾利E 4
2	深鉢	胴部	覆土	暗黄褐色	砂粒	沈線による磨り消し縄文。	称名寺1
3	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	頸部に付された隆帯に円形文、刺突文。	堀之内1
5-963号土坑 (第469図: PL208)							
1	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	沈線による磨り消し渦巻き文様。	称名寺1
2	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	砂粒	沈線による磨り消し渦巻き文様。	称名寺1
3	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	砂粒	平行隆帯による磨り消し曲線文様。	称名寺1
4	深鉢	口縁部	覆土	明黄褐色	砂粒	横位、斜位の集合条線。	後期
5	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	口縁部丸みを持って肥厚し、螺旋状に沈線文。	後期
5-964号土坑 (第469図: PL208)							
1	浅鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	精製	口縁部は内屈、口縁部に沈線による横位縄文帯を画す。	称名寺1
2	深鉢	胴部	覆土	黄橙褐色	微砂粒	斜めの押圧文有す横位隆帯、以下矩形の磨り消し文様。	称名寺1
3	深鉢	胴部	覆土	暗灰褐色	砂粒	縄文地文とし、3本単位の沈線による渦巻き文。	堀之内1
4	深鉢	口縁部	覆土	黄白色	砂粒	口縁下に横位の隆帯、円形文貼付し下位に隆帯が延びる。	堀之内1
5	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	砂粒	口縁部肥厚し横位沈線。	堀之内1
6	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	砂粒	横位押圧隆帯文。	堀之内1
7	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	縦位の隆帯。	堀之内1
8	深鉢	底部	覆土	黒色	微砂粒	無文、底の部分を欠く。	堀之内2
9	深鉢	底部	覆土	淡茶褐色	砂粒	無文底部片。	後期
10	深鉢	底部	覆土	灰黄褐色	砂粒	底部片、器面やや風化。	後期
5-965号土坑 (第469・470図: PL208)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰白色	砂粒	平行沈線による〇状磨り消し文描く、縄文は口縁部は横位、以下縦位のLRを施文するが施文は粗い。器面風化。	加曾利E 4
2	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	砂粒	口縁部に円形文と重弧状沈線さらには横位沈線付す、円形文からは平行沈線が垂下。地文縄文。	堀之内1
3	深鉢	口縁部	覆土	黄茶褐色	微砂粒	波状部分が渦巻き状に肥厚、円形文、沈線が見られる。	堀之内1
4	深鉢	取手部	覆土	灰褐色	微砂粒	波頂部に隆帯によるC状文を持つ環状突起文。口縁に沿って沈線が見られる。	堀之内1
5	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微石英粒	横位沈線の上位に縄文RLを横位施文、下位には縦位の集合条線付しさらに垂下沈線文描く。	中期後半
6	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	沈線による波状文か、波状文内は横位、他は縦位の縄文RLで埋める。	加曾利E 4
7	深鉢	胴部	覆土	淡茶褐色	砂粒	縦位磨り消し隆帯文。	加曾利E 3
8	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	縦位磨り消し文、間には鈍角の横位矢羽根状沈線文。	中期後半
9	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	沈線による渦巻き文が並ぶ。	中期後半
10	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	斜位の集合沈線に斜格子状に粘土紐を貼り付ける。	曾利2
11	両耳壺	取手部	覆土	灰黄褐色	砂粒多	取手部分であるが、欠損している。被熱。	加曾利E 3
12	土製円盤	胴部	覆土	灰白色	砂粒	土製円盤の欠損品か、推定径約5.5cm。	後期
5-966号土坑 (第470図: PL208)							
1	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	口縁部に楕円区画、以下隆帯による円形文描き文様内には縄文施文。	称名寺1
2	深鉢	口縁部	覆土	暗灰褐色	砂粒	縄文施文。	加曾利E 4
3	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	隆帯による楕円文、縦位沈線を充填施文。	曾利3
4	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	砂粒	外反する無文口縁部片。	後期
5	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	沈線による曲線文描く。	称名寺2
5-968号土坑 (第470図: PL208)							
1	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	砂粒	縄文施文後横位の平行沈線。	堀之内1
2	深鉢	胴部	覆土	暗黄褐色	砂粒	縦位沈線および縄文。	堀之内1

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
5-970号土坑 (第470図: PL208)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁下に横位沈線、以下縄文施文後沈線により磨り消し紡錘文描く。	加曾利E 4
2	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	砂粒	口縁に無文部有し、T状に付された隆帯の交点に円形貼付文。	後期初頭
3	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	精製	沈線で横位縄文帯。	称名寺1
4	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	口縁部波状を呈し、口縁部及び波頂部に円形文が付される。さらに波頂部下にも円形文が縦列に付され、これを繋ぐ隆帯には列点文が見られ、沈線による円形文が隆帯間に見られる。	大木系
5	深鉢	胴部	覆土	暗赤茶褐色	砂粒	沈線による横位平行文、曲線文を描く。被熱。	称名寺2
6	浅鉢	口縁部	覆土	橙黄褐色	微砂粒	口縁部が内傾し、上面に円孔を持つ環状取手が付く。	後期
5-972号土坑 (第470図: PL209)							
1	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	V状隆帯の交点に円形文。	後期初頭
2	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	併行垂下隆帯に鈎状隆帯か、斜位の集合沈線。	曾利2
5-975号土坑 (第470図: PL209)							
1	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	縄文LR施文。	後期
5-977号土坑 (第470図: PL209)							
1	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	砂粒	無文胴部片。	後期
5-979号土坑 (第471・472図: PL209)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	口縁端部はやや内屈し舌状の小突起が付く、器面には沈線による縦位区画の沈線文様描く。内外面に炭化物の付着。	称名寺2
2	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	微砂粒	口縁部に隆帯が渦巻きとなり、2つの円孔を持つ環状突起を作る。突起文下には重弧状の垂下文が描かれる。	堀之内1
3	深鉢	口縁部	覆土	暗灰褐色	微砂粒	口縁部はやや波状を呈す、沈線、刺突文が配される。器面研磨。	堀之内1
4	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	円孔有す隆帯による渦巻き文、沈線、刺突文を伴う。	堀之内1
5	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	微砂粒	口縁部に隆帯による端部渦巻き文。	堀之内1
6	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	微砂粒	口縁部に横位の隆帯。	堀之内1
7	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	砂粒	外傾する無文口縁部、口唇部は角頭状をなす。	後期
8	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	微砂粒	口縁端部が僅かに内屈する無文口縁部片。頸部に横位の沈線。	堀之内1
9	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	砂粒	口縁部は外側にやや肥厚すると見られるが剥落、無文。	後期
10	深鉢	口縁部	覆土	黒色	微砂粒	口縁部内側に両端部に刺突文を伴う沈線文が配される。内外面研磨。	堀之内1
11	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	微砂粒	口縁端部が僅かに内屈する無文口縁部片。頸部に横位の沈線。	堀之内1
12	深鉢	口縁部	覆土	黒色	砂粒	無文口縁部片、頸部に横位の隆帯か。	堀之内1
13	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	砂粒	口縁部は横位隆帯で無文部を画す。隆帯からは波状垂下隆帯。	堀之内1
14	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	砂粒	口縁部は横位隆帯で無文部を画す。隆帯からは波状垂下隆帯。	堀之内1
15	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	砂粒	口縁部は横位隆帯で無文部を画す。隆帯からは波状垂下隆帯。	堀之内1
16	深鉢	胴部	覆土	黒色	砂粒	横位平行沈線上に円形貼付文。	堀之内1
17	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	横位押圧隆帯。	堀之内1
18	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	横位押圧隆帯。	堀之内1
19	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	砂粒	横位押圧隆帯。	堀之内1
20	深鉢	口縁部	覆土	灰白色	微砂粒	口縁下に刺突文有す横位隆帯。	堀之内1
21	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	縦位、矩形の沈線文様、間隙には縄文施文。	堀之内1
22	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	隆帯、沈線による矩形文様。区画内には沈線で画された縄文充填文。	堀之内1
23	深鉢	胴部	覆土	灰黒褐色	微砂粒	併行沈線による縦位、斜位の区画文描き、区画内は縄文LRを施文。	堀之内1
24	深鉢	胴部	覆土	黒色	微砂粒	併行微隆帯文による〇状文。	称名寺2
25	深鉢	胴部	覆土	黒色	砂粒	曲線隆帯文。	堀之内1
26	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	沈線による曲線文様か。	称名寺2
27	深鉢	胴部	覆土	淡橙褐色	微砂粒	沈線による垂下文、曲線文。	称名寺2
28	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	砂粒	縦位の集合細条線文。	後期
29	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	爪形刺突文。	三十稲場
30	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	砂粒	無文胴部片。	後期
5-980号土坑 (第472図: PL209)							
1	深鉢	胴部	覆土	灰黒褐色	金雲母	横位隆帯上に刻み、以下突文施文。	三十稲場

第3章 検出された遺構と遺物

No	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
2	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	精製	沈線で画した磨り消し縄文文様。	称名寺1
3	浅鉢	底部	覆土	暗黒褐色	微砂粒	内外面研磨。	後期
5-983号土坑 (第472図: PL209)							
1	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	横位隆帯上に円形貼付文が付されここから左右下位方向に隆帯が延びる。	堀之内1
5-984号土坑 (第472・473図: PL210)							
1	浅鉢	口縁部	覆土	灰黒色	砂粒	(4) 単位の波状を呈す、波頂部に円孔有す突起文が付き、口縁部には沈線による長楕円文が2単位ずつ描かれ楕円文間に隆帯による渦巻き文。また波状下に沈線による舌状文が斜めに垂下。楕円文、舌状文内には細縄文。	称名寺1
2	浅鉢	口縁部	覆土	黒色	微砂粒	(4) 単位の波状口縁、波頂部には隆帯が螺旋状を呈す環状突起が付き、突起下位には沈線による鈎状垂下文。口縁部には沈線による長楕円文が2単位ずつ描かれ、楕円文内には刺突文。文様間には隆帯による渦巻き文。器面研磨。	称名寺2
3	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	上下に対向する∩状文を隆帯で描き、縄文LRを充填施文する。器面研磨。	加曾利E4
4	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	砂粒	沈線による磨り消し曲線文。	称名寺1
5	深鉢	胴部	覆土	橙黄褐色	微砂粒	V状に垂下する3本単位の沈線文。	堀之内1
6	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	隆帯文、器面研磨。5と同一個体。	堀之内1
5-985号土坑 (第473図: PL210)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	砂粒	横位隆帯下に縄文施文か。	加曾利E4
2	深鉢	口縁部	覆土	黄白色	微砂粒	口縁部くの字に内屈、口縁下には縦位の沈線、刺突文か。	堀之内1
3	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	隆帯による矩形文、中には沈線で画した文様内に縄文を施文。	堀之内2
4	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	砂粒	口縁下に刻みを有す隆帯、さらに隆帯下位にも爪形の刺突文が沿う。	後期
5	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	微砂粒	沈線による渦巻き文様だが中心部は隆帯となる。	堀之内1
5-986号土坑 (第473図: PL210)							
1	深鉢	胴部	覆土	暗灰褐色	微砂粒	沈線による∩状文描き縄文充填施文。	加曾利E4
2	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	沈線及び縄文。	後期
3	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	微砂粒	隆帯による曲線文様。	堀之内1
4	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	微砂粒	隆帯の交点部に隆帯による複数の円形文を付す。	堀之内1
5	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	重弧状沈線文。	堀之内1
6	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	砂粒	集合沈線文。	堀之内1
7	土偶か	足	覆土	灰黒色	微砂粒	断面は楕円形を呈し、接地部は丸く広がる。外面研磨。	後期
5-987号土坑 (第473図: PL210)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁部に隆帯で楕円文区画、中には沈線による渦巻き重弧状文。	曾利3
2	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	横位の隆帯、縄文施文後、隆帯に沿って沈線を引く。	加曾利E3
3	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	縄文施文後、沈線による波状垂下文。	加曾利E3
5-988号土坑 (第474図: PL210)							
1	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	砂粒	沈線による懸垂弧状文描き中に重弧文、さらに複数の垂下文描き間隙に縄文を施文。	堀之内1
2	深鉢	口縁部	覆土	黒色	微砂粒	横位沈線で縄文、無文帯を画す。	堀之内2
3	浅鉢	口縁部	覆土	黒色	精製	口縁部に内側に吸盤状に肥厚した雲形突起文が付く。	堀之内2
5-991号土坑 (第474図: PL210)							
1	深鉢	口縁部	覆土	黒色	微砂粒	口縁部突起を有し、円孔が見られる。内側は口縁に沿って走る隆帯が突起部上端に向かって渦巻き状をなす。	後期
5-992号土坑 (第474図: PL210)							
1	深鉢	胴部	覆土	黄橙褐色	砂粒	縦位の隆帯。2は同一個体。	後期初頭
2	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	砂粒	隆帯の交点に円形貼付文。	後期初頭
5-993号土坑 (第474図: PL210)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	口縁下に横位隆帯。	後期
5-996号土坑 (第474図: PL210)							
1	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	縦位磨り消し縄文。	加曾利E3
2	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	縦位磨り消し縄文。	加曾利E3
3	深鉢	口縁部	覆土	黒色	砂粒	平行沈線による弧状文、および横位の平行沈線文。	曾利2
4	深鉢	底部	覆土	淡茶褐色	砂粒	縦位磨り消し縄文の下端部が看取される。	加曾利E3
5-997号土坑 (第474図: PL210)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	砂粒	波状を呈す。波状部は舌状に突起、以下隆帯による渦巻き文描き、中には縄文RLを横位施文。また隣り合う文様間には円形文が上下に見られる。	加曾利E3
2	深鉢	胴部	覆土	淡黄茶褐色	砂粒	縦位磨り消し縄文。	加曾利E3

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
5-998号土坑 (第474図: PL210)							
1	深鉢	口縁部	覆土	黒色	微砂粒	口縁内面に横位沈線、刺突文が付される。	堀之内1
2	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	微砂粒	口縁下に横位併行沈線文。	堀之内2
3	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	沈線による垂下J状文。	称名寺2
4	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	弧状の隆帯文。	称名寺2
5	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	ハ状に沈線文。	堀之内1
6	深鉢	胴部	覆土	淡橙褐色	砂粒	無節縄文Lを施文。	後期
5-999号土坑 (第474図: PL210)							
1	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	隆帯による円形文、さらに併行沈線による渦巻き文様か。間隙には縄文施文。器面研磨。	堀之内1
2	鉢形土器	胴部	覆土	淡褐色	砂粒	頸部に刻みを持つ横位隆帯、以下沈線による三角形文様描く。	堀之内2
3	深鉢	胴部	覆土	淡灰黄褐色	砂粒	沈線文様。	称名寺2
4	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒多	縦位の隆帯。	堀之内1
5-1000号土坑 (第475図: PL210・211)							
1	深鉢	口縁部	覆土	明茶褐色	砂粒	口縁端部内側に肥厚、口縁下には隆帯による渦巻き文様か。	中期後半
2	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	金雲母	横位、縦位の隆帯貼り付け、地文には斜位の集合沈線文、波状垂下文見られる。	曾利3
3	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	口縁部に横位沈線。	堀之内1
4	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	3本単位の沈線垂下無文帯。	加曾利E3
5	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	隆帯による渦巻き文から2本の隆帯垂下し、両側には縄文施文。	大木系
6	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	横位沈線を挟み上下に縦位の集合沈線文。	曾利3
7	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	微砂粒	横位沈線下に重弧状文。	堀之内1
8	広口壺形土器	胴部	覆土	黒色	微砂粒	半肉彫りの渦巻き文。器面研磨。	加曾利E4
5-1001号土坑 (第475図: PL211)							
1	深鉢	胴部	覆土	暗灰褐色	微砂粒	併行沈線による曲線文。	称名寺2
5-1002号土坑 (第475図: PL211)							
1	不明	突起部	覆土	黄褐色	微砂粒	キノコ状を呈すつまみ状の取手部片、接合部は二股になっている。刺突文が縦位、横位に見られる。キノコ状の土製品か。	後期
5-1004号土坑 (第475図: PL211)							
1	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	縦位磨り消し縄文。	称名寺1
2	深鉢	突起部	覆土	暗灰褐色	微砂粒	丸みを持った三角形を呈す突起部で、下部が橋状の取手となる。器面には4カ所の円形刺突文が付され、突起の欠損痕が残る。	後期
5-1005号土坑 (第475図: PL211)							
1	深鉢	底部	覆土	灰橙色	砂粒多	無文底部片、上げ底状を呈す。	後期
5-1006号土坑 (第475図: PL211)							
1	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	砂粒	無文口縁部片。	後期
2	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	縦位の隆帯。	堀之内1
5-1007号土坑 (第475図: PL211)							
1	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	横位併行沈線。	堀之内1
2	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	横位平行沈線下に縄文充填施文した三角文か。	堀之内1
5-1008号土坑 (第475図: PL211)							
1	深鉢	胴部	覆土	黒色	微砂粒	斜めに平行沈線文、間を縄文が埋める。	堀之内1
2	深鉢	口縁部	覆土	淡褐色	微砂粒	口縁部に横位沈線廻り肥厚する。	堀之内1
5-1009号土坑 (第475図: PL211)							
1	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	微砂粒	沈線による楕円文描き下位には横位の併行沈線。	堀之内1
2	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	微砂粒	横位沈線下に刺突文。	三十稲場
5-1010号土坑 (第475図: PL211)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	砂粒	口縁部は内屈し波状を呈す、頸部に刺突文有す横位の隆帯。	堀之内1
2	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	磨り消し渦巻き文。	称名寺1
3	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	波状の垂下隆帯。	後期初頭
4	蓋形土器	橋状取手部	覆土	黒色	微砂粒	外縁に沿って2本の隆帯が廻りこれらを繋ぐ環状取手が付く。中央部が僅かに高くなる。内面研磨。推定径16.0cm。	後期
5-1011号土坑 (第476図: PL211)							
1	広口壺形土器	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	横位隆帯上に円形文、以下組合せ渦巻き文様を描く。	堀之内1
5-1012号土坑 (第476図: PL211)							
1	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	砂粒	口縁部は内屈し小波状を呈す。波状部に弧状文、円形文が付される。	堀之内1
2	深鉢	口縁部	覆土	褐色	砂粒	口縁に押圧隆帯。	堀之内1

第3章 検出された遺構と遺物

No	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
3	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	沈線による区画文様、地文には縄文LR横位施文。	堀之内1
4	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	沈線による弧状区画文内の上位に横位爪形刺突文施文し、弧状文内には角押し文状の刺突文が施文される。	後期
5	深鉢	胴部	覆土	橙褐色	砂粒	刺突文。	三十稲場
6	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	沈線による三角文か。	後期
7	深鉢	底部	覆土	黄褐色	砂粒	無文底部片。	後期
5-1013号土坑 (第476図: PL211)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁下に弧状の押圧隆帯文。	堀之内1
5-1014号土坑 (第476図: PL211)							
1	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	砂粒	平行沈線下に横位の重弧状文。	堀之内1
5-1015号土坑 (第476図: PL211)							
1	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒多	横位の隆帯。	後期
2	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	砂粒多	口縁部に沈線廻り、頸部に横位沈線廻り。	堀之内1
5-1018号土坑 (第476図: PL211)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	沈線による曲線文様描き縄文充填施文。	称名寺1
2	深鉢	口縁部	覆土	暗赤褐色	砂粒	波頂部に隆帯で重紡錘状文。下位には刺突文。	堀之内1
3	深鉢	口縁部	覆土	暗灰褐色	砂粒	波状口縁、波頂部に隆帯による渦巻き文、下位には沈線による渦巻き文か内面には円形文。	堀之内1
4	深鉢	口縁部	覆土	暗灰褐色	精製	口縁部はやや内傾、隆帯によるC状文が付され文様端に刺突文。	堀之内1
5	深鉢	口縁部	覆土	暗黄褐色	微砂粒	無文口縁部片。	
6	深鉢	胴部	覆土	暗黄褐色	砂粒	刺突文施文。	三十稲場
7	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	隆帯および円形貼付文がやや乱雑に付される。	堀之内1
5-1019号土坑 (第476・477図: PL211)							
1	浅鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	波状口縁、波頂部に縁孔有し橋状取手が付く。取手部から2本の沈線胴部に垂下し、口縁部には長楕円文を描く。被熱か。	堀之内1
2	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	口縁波頂部は頭が凹んだキノコ状を呈し、そこから橋状の取手が口縁下に繋がる。胴部は沈線文内に縄文が充填施文される。	称名寺1
3	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	口縁部肥厚し刺突文、円形文付される。	
4	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	縦位磨り消し縄文。器面やや風化。	加曾利E3
5	深鉢	胴部	覆土	暗灰褐色	砂粒	磨り消し縄文による組合せ文様。	称名寺1
5-1023号土坑 (第477図: PL212)							
1	深鉢	口縁部	覆土	黒色	微砂粒	口縁下に沈線による横位楕円文描き縄文が充填施文される。文様間には円形押圧文。	称名寺1
2	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	口縁下に沈線による横位縄文帯。	称名寺1
3	深鉢	口縁部	覆土	黄橙色	微砂粒	沈線による曲線文様。	称名寺2
4	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	口縁部やや肥厚、沈線による横楕円文。	称名寺2
5	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	微砂粒	口縁に横位の沈線を廻らし下部が肥厚、以下沈線による曲線、矩形文様を描く。	称名寺2
6	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	微砂粒	口縁部に隆帯による渦巻き状の突起を有す。以下沈線による渦巻き文が描かれる。	堀之内1
7	深鉢	口縁部	覆土	黄灰白色	砂粒	無文の口縁部片、内外面研磨。	後期
8	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	やや外反し口縁部が内傾する。	堀之内1
9	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	砂粒	横位隆線に横位に短沈線文、以下縄文施文。	堀之内1
10	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	砂粒	縦位平行沈線間に縄文施文。	称名寺1
11	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	微砂粒	縦位磨り消し縄文。	称名寺1
12	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	微砂粒	平行沈線により無文、縄文帯を画す。10と同一個体か。	称名寺1
13	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	砂粒	複数の沈線による文様間に縄文施文。	堀之内1
14	深鉢	胴部	覆土	黒色	砂粒	斜めの平行沈線文、及び刺突文が見られる。	称名寺2
15	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	縦位の弧状隆帯。	堀之内1
16	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	縦位の隆帯。15と同一個体。	堀之内1
5-1024号土坑 (第478図: PL212)							
1	深鉢	口縁部	覆土	淡褐色	砂粒	口縁下に押圧文隆帯。	堀之内1
2	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	縦位磨り消し縄文。	加曾利E3
3	深鉢	胴部	覆土	橙褐色	砂粒	縦位平行沈線。	称名寺2
4	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	併行する横位隆帯に刺突文。	後期

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
5	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	砂粒	沈線による懸垂文。	堀之内1
6	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	砂粒	斜位の集合沈線。	曾利3
5-1025号土坑 (第478図: PL212)							
1	浅鉢	口縁部	覆土	黄褐色	微砂粒	口縁部が内屈、隆帯による渦巻き文が上下にはみ出すように付けられる。	堀之内1
2	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	口縁部は内湾し上端が平らである。隆帯、沈線が廻らされる。	中期後半
3	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	砂粒	口縁部は無文で外反する。肩部以下には爪形の刺突文が施文される。炭化物付着。	三十稲場
5-1026号土坑 (第478図: PL212)							
1	深鉢	口縁部	覆土	淡褐色	砂粒	口縁部に横長の楕円文を画すか、以下縄文施文。	称名寺1
2	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	頸部に付された円形文から横位、下位に沈線が延び文様を画す。被熱。	堀之内1
3	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	砂粒	縦位矢羽根状沈線文。	曾利2
4	土製円盤	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	やや不整形で利用する土器片は薄手である。長径約5.0cm。	後期
5	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	縦位の平行沈線文。土器片の周囲を整えた痕跡が見られる。	称名寺1
5-1028号土坑 (第478図: PL212)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	砂粒	口縁部外反し頸部に横位隆帯。	後期
2	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	砂粒	斜行する沈線。	中期後半
3	深鉢	底部	覆土	暗褐色	砂粒	無文底部片。	中期後半
4	深鉢	底部	覆土	灰白色	砂粒	無文底部片、被熱で器面風化。	不明
5-1029号土坑 (第478図: PL212)							
1	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	微砂粒	口縁部に眼鏡状の環状突起、側縁に沈線が配される。以下無文部が見られ横位平行沈線が廻り以下縄文が施文される。	堀之内2
2	深鉢	口縁部	覆土	黒色	精製	口縁波状部分に環状突起が付く、上位に沈線廻り、突起内面には円形の刺突文見られる。	堀之内1
3	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	精製	口縁部隆帯状に突起し横位沈線が廻る。	堀之内1
4	深鉢	胴部	覆土	黄白色	微砂粒	沈線による垂下文様描く。	堀之内1
5	深鉢	底部	覆土	灰白色	砂粒	無文底部片、被熱で器面荒れる。	後期
5-1030号土坑 (第478図: PL212)							
1	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	砂粒	磨り消し沈線文様。	称名寺1
2	深鉢	胴部	覆土	黒色	砂粒	沈線による曲線文。	称名寺2
5-1034号土坑 (第478図: PL212)							
1	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	微砂粒	浅い沈線による渦巻き文。	堀之内1
5-1038号土坑 (第479図: PL212)							
1	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	縦位磨り消し縄文。縄文RL縦位施文。	加曾利E3
2	深鉢	胴部	覆土	黄茶褐色	微砂粒	頸部に押圧隆帯が廻る。	堀之内1
3	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	砂粒	T状に付された隆帯。	堀之内1
4	深鉢	底部	覆土	暗茶褐色	砂粒	無文底部片。器面研磨。	後期
5-1039号土坑 (第479図: PL212)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁部は内屈し器面には波状隆帯が付される。	堀之内1
2	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	砂粒	口縁下に横位隆帯を廻らし口唇部からC状の隆帯貼付、以下無文。	堀之内1
3	深鉢	胴部	覆土	淡灰黄褐色	砂粒	縦位の集合条線文。	中期後半
4	深鉢	底部	覆土	黄褐色	砂粒	底面に網代痕。	後期
5-1041号土坑 (第479図: PL212)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁部は隆帯で無文部を画し以下縄文施文。	加曾利E4
2	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	沈線による腕骨状文様、地文縄文。	堀之内1
3	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	沈線による∩状文。	称名寺2
5-1042号土坑 (第479図: PL212)							
1	深鉢	胴部	覆土	橙褐色	砂粒	隆線で画した無文帯、縄文はLR。	称名寺1
5-1043号土坑 (第479図: PL212)							
1	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	砂粒	口縁部に隆帯が廻り波状を為すと思われる。この隆帯から∩状懸垂文配す。縄文はRL施文。	加曾利E4
2	深鉢	胴部	覆土	橙茶褐色	砂粒	縦位磨り消し縄文。縄文はRL縦位施文。	加曾利E3
3	深鉢	胴部	覆土	暗灰褐色	砂粒	縦位磨り消し縄文。縄文はRL縦位施文。	加曾利E3
4	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	口縁部に平行沈線廻らし間には円形文。	加曾利E3

第3章 検出された遺構と遺物

No	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
5-1044号土坑 (第479図: PL212)							
1	深鉢	胴部	覆土	橙茶褐色	砂粒	縦位磨り消し縄文。	加曾利E 3
5-1047号土坑 (第479図: PL213)							
1	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	横位の押圧文隆帯。	堀之内1
2	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	縄文地文で横位、弧状に沈線文様。	堀之内1
3	深鉢	胴部	覆土	黄橙色	砂粒	縄文地に渦巻き文。	堀之内1
4	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	縄文LR施文。	後期
5	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	砂粒	沈線による渦巻き文。	称名寺2
6	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	微砂粒	縦位隆帯。	堀之内1
7	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	口縁部無文で頸部に隆帯廻り、以下横位の列点状の刺突文。	三十稲場
8	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	横位の平行沈線。器面研磨。	堀之内1
9	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	横位平行沈線。	堀之内2
5-1050号土坑 (第480図: PL213)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	口縁部直下に隆帯が廻り、小波状部はC状の隆帯が付き肥厚、両側に沈線が延びる。	堀之内1
5-1052号土坑 (第480図: PL213)							
1	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	沈線による磨り消し曲線文。器面風化。	称名寺1
2	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒多	胴上半部に横列多段に刺突文施文。大型土器。	三十稲場
3	深鉢	胴部	覆土	灰黒褐色	砂粒	平行沈線による渦巻き文から横に沈線が延びる。	堀之内1
4	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	縦位の細沈線文。	後期か
5-1054号土坑 (第480図: PL213)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁部に小突起を有し左右に沈線が延びる。以下垂下沈線および刺突文が見られる。	堀之内1
2	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	口縁部は小波状を呈し、刺突文および重弧状沈線文が付される。	堀之内1
3	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	口縁部は小波状を呈し、横S字文、左右に延びる沈線文。	堀之内1
4	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	縦位3本単位の沈線文。地文に細縄文施文。	堀之内1
5	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	砂粒	平行沈線による曲線文か。	称名寺2
5-1055号土坑 (第480図: PL213)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	砂粒	口縁部は小波状を呈し、沈線文刺突文および重弧状沈線文が付される。	堀之内1
5-1058号土坑 (第480図: PL213)							
1	深鉢	取手部	覆土	暗黒褐色	精製	波状口縁の上部が高く突き出て半円状の飾り取手を為す。円孔有し、口縁面に沈線が廻る。器面は内外面とも研磨。	堀之内1
2	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	磨り消し渦巻き文様。縄文LR施文。	称名寺1
3	深鉢	胴部	覆土	黄橙色	微砂粒	3本単位の垂下沈線文か。	堀之内1
4	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	横位平行沈線間に長めの刺突文が付される。	称名寺2
5-1059号土坑 (第481図: PL213)							
1	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	爪形刺突文施文。	三十稲場
5-1060号土坑 (第481図: PL213)							
1	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	平行沈線による重〇状磨り消し縄文。縄文は縦位LR施文。	称名寺1
5-1061号土坑 (第481図: PL213)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁部肥厚し以下縄文が施文。	後期
2	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	無文で口縁部が僅かに内傾。	堀之内1
3	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	横位沈線で磨り消し文様を描き、間に刺突文。	称名寺2
4	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	砂粒	細縄文施文。	後期
5	深鉢	胴部	覆土	灰茶褐色	砂粒	縄文施文後横位平行沈線、渦巻き文を描く。	堀之内1
5-1062号土坑 (第481図: PL213)							
1	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	口縁部に隆帯による突起文、さらには円孔、沈線文が見られる。	堀之内1
2	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	口縁部内屈し、渦巻き文弧状沈線文が見られる。	堀之内1
3	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	刺突文有す横位隆帯。	堀之内1
4	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	横位沈線で画された縄文帯。	堀之内1
5	深鉢	胴部	覆土	淡灰黄褐色	砂粒	横位沈線、貼付文配し円形文さらには縄文が見られる。	堀之内1
6	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	頸部に横位刺突文有す隆帯が廻る。	堀之内1
7	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	押圧文隆帯。	堀之内1
5-1068号土坑 (第481図: PL213)							
1	深鉢	胴部	覆土	灰茶褐色	砂粒	縄文施文後3本の沈線による円形文様。	堀之内1

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No.	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
5-1070号土坑 (第481図: PL213)							
1	深鉢	口縁部	覆土	黒色	砂粒	口縁部は肥厚し、以下縄文施文。	後期
2	深鉢	口縁部	覆土	黒色	微砂粒	口縁部は内屈し小波状を呈す。波上部に沈線による渦巻き文。	堀之内1
3	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	砂粒	横位併行沈線。	堀之内1
5-1071号土坑 (第481図: PL213)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁部に横位押圧文隆帯。	堀之内1
5-1074号土坑 (第481図: PL213)							
1	浅鉢	胴部	覆土	黒色	砂粒	左右方向への併行沈線文。内外面研磨。	堀之内1
5-1075号土坑 (第481図: PL213)							
1	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	磨り消し縄文。	称名寺1
2	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	磨り消し縄文。	称名寺1
3	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	砂粒	2本の波状垂下隆帯。	堀之内1
4	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	微砂粒	爪形刺突文。	三十稲場
5	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	横位隆帯。	堀之内1
5-1078号土坑 (第481図: PL214)							
1	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	弧状の沈線磨り消し文。	称名寺1
2	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	磨り消し縄文文様。	称名寺1
3	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	砂粒	磨り消し縄文文様。	称名寺1
5-1081号土坑 (第481図: PL214)							
1	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	砂粒	横位隆帯上に円形貼付文付し、ここから下方および斜めに沈線が延びる。	堀之内1
5-1084号土坑 (第482図: PL214)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁部は僅かに内湾、縄文施文か、器面剥落しており不鮮明。	中期後半
2	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	垂下隆帯および斜位の沈線が乱雑に施文されている。3は同一個体。	曾利3
3	深鉢	胴～底部	覆土	茶褐色	砂粒	渦巻き文有す垂下併行隆帯、およびハの字状の沈線が乱雑に施文されている。	曾利3
5-1087号土坑 (第482図: PL214)							
1	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	縦位隆帯。	堀之内1
5-1088号土坑 (第482図: PL214)							
1	深鉢	底部	覆土	灰褐色	砂粒	細縄文LRを帯状に縦位施文。	後期
5-1090号土坑 (第482図: PL214)							
1	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	沈線による∩状文、および斜位の集合沈線。	曾利3
5-1093号土坑 (第482図: PL214)							
1	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	砂粒	細縄文施文。	後期
5-1094号土坑 (第482図: PL214)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁部は内傾し円孔有す突起文が付き、口縁部に沈線。	堀之内1
2	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	縦位集合条線上に垂下する太沈線。	曾利4
5-1097号土坑 (第482図: PL214)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁下に沈線による楕円文構成か。	加曾利E3
2	深鉢	口縁部	覆土	橙茶褐色	微砂粒	口縁部内屈し器面研磨。赤彩痕。	堀之内1
3	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	砂粒	沈線による横位波状文描く。	加曾利E4
4	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	微砂粒	垂下併行沈線。	後期
5	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	砂粒	無文。	後期
6	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	無文。	後期
7	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	沈線によるU状文、刺突文伴う。	称名寺2
8	深鉢	底部	覆土	黄褐色	微砂粒	無文底部片。	後期
5-1098号土坑 (第482図: PL214)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	微砂粒	4単位の波状口縁を呈し、波頂部は円形で円形刺突文を付す。口唇部には浅く沈線が廻る。胴部は沈線による磨り消し文様が描かれる。	堀之内1
2	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	微砂粒	口縁部肥厚し横位の平行沈線。	堀之内1
5-1100号土坑 (第482図: PL214)							
1	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	縦位隆帯。	堀之内1
5-1101号土坑 (第483図: PL214)							
1	浅鉢	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	口縁部は肥厚、器内外面研磨。	中期後半
5-1102号土坑 (第483図: PL214)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	微砂粒	口縁に爪形の刺突文廻り、沈線以下に縄文RLを横位施文。一部に∩状沈線文の上端部分か。	加曾利E4

第3章 検出された遺構と遺物

No.	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
5-1103号土坑 (第483図: PL214)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	砂粒	口縁部は小波状を呈す。横位併行沈線文、および垂下沈線。	後期
5-1104号土坑 (第483図: PL214)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁部は小波状を呈し波頂部で途切れる沈線が付される。	堀之内1
2	深鉢	胴部	覆土	黒色	微砂粒	微隆帯で画した縦位の無文帯。	後期
3	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	垂下隆帯に円形貼付文付される。	堀之内1
4	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	隆帯によりU状文、渦巻き文描きさらに下に隆帯垂下。文様内に斜位の沈線見られる。	曾利2
5	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	砂粒	斜位の沈線文。	堀之内1
6	深鉢	胴部	覆土	黒色	金雲文	隆帯による渦巻き文。	曾利2
7	土製円盤	胴部	覆土	淡茶褐色	微砂粒	側縁部はやや斜めに成形されている。径約3.5cm。	後期
5-1105号土坑 (第483図: PL214)							
1	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	微砂粒	横位押圧文隆帯。	堀之内1
5-1106号土坑 (第483図: PL214)							
1	深鉢	胴部	覆土	淡黄白色	微砂粒	口縁部に押圧を持つ隆帯が廻り、以下沈線による縦位、弧状、波状の垂下文を描く。	堀之内1
2	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	砂(石)粒	口縁部に沈線が廻り環状の小突起が付される。以下胴部は突起下に刻みを有す隆帯垂下しこれに沿って平行沈線が付される。さらに平行沈線による斜沈線、渦巻き文が描かれる。地には縄文RLが施文される。	堀之内1
3	短頸壺形土器	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	口縁部は短く直立、肩部に沈線で幅狭の横位縄文帯、無文帯を画す。以下波状沈線文様。	堀之内1
4	深鉢	胴部	覆土	淡茶褐色	微砂粒	横位縄文帯からJ状の懸垂文。	堀之内2
5	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	沈線で画した縄文帯により文様画す。	堀之内2
6	深鉢	胴部	覆土	黒色	精製	横位磨り消し縄文帯。器面研磨。	堀之内2
7	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	微砂粒	縄文帯による弧状文様。	堀之内2
8	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	斜位方向の沈線文。	堀之内1
9	小型甕形土器	胴部	覆土	暗黒褐色	微砂粒	頸部に横位の刺突文隆帯が廻り8字状貼付文。以下重弧状の懸垂文さらに縦位方向の沈線文による磨り消し縄文。	堀之内2
10	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	横位押圧文隆帯。	堀之内1
11	深鉢	底部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	無文、器面に輪積みの凹凸が残る。器面研磨。	後期
5-1107号土坑 (第484図: PL215)							
1	深鉢	胴部	覆土	橙黄褐色	砂粒	縦位磨り消し縄文。	称名寺1
2	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	縦位磨り消し縄文。	堀之内1
3	深鉢	胴部	覆土	淡茶褐色	砂粒	横位、縦位の隆帯。	堀之内1
4	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	砂粒	無文胴部片。	後期
5-1108号土坑 (第484図: PL215)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	口縁部に横位の隆帯が廻り以下沈線文か。	曾利3
2	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	磨り消し縄文による渦巻き文。	称名寺1
3	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	三角文様の磨り消し縄文。	堀之内2
4	深鉢	胴部	覆土	暗黄褐色	砂粒	隆帯による磨り消し文様、区画内に縄文施文。	堀之内1
5	深鉢	口縁部	覆土	黒色	精製	無文口縁部片。	後期
6	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	波状の縦位貼り付け隆帯、地には斜位の沈線。	曾利3
7	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	爪形刺突文。	三十稲場
5-1110号土坑 (第484図: PL215)							
1	深鉢	胴部	覆土	淡茶褐色	砂粒	平行沈線による斜方向文。	堀之内1
2	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	沈線による磨り消し曲線文。	称名寺1
3	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	平行沈線による渦巻き文。	堀之内2
4	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	微砂粒	沈線による渦巻き文を複数描き間には縄文充填施文。	堀之内1
5	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	縦位の矢羽根状沈線文。	曾利3
6	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	横位併行沈線下に渦巻き文。	堀之内1
5-1111号土坑 (第484・485図: PL215)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	微砂粒	波状口縁、沈線による渦巻き文。口縁内側に隆帯が廻る。	称名寺2
2	深鉢	胴部	覆土	黄茶褐色	砂粒	縦位集合沈線。	後期
3	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	微砂粒	横位隆帯および斜位沈線。	堀之内1

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
4	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	微砂粒	爪形刺突文。	三十稲場
5	浅鉢	取手部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	口縁部に渦巻き文、円孔文、橋状を呈す飾り取手が付く。器面は丁寧な研磨が見られる。	堀之内1
6	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	砂粒	縦位隆帯。	堀之内1
7	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	微砂粒	無文。	後期
5-1112号土坑 (第485図: PL215)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	無文口縁部片。	後期
5-1113号土坑 (第485図: PL215)							
1	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	微砂粒	三角形を基調とする磨り消し文様。	称名寺1
2	両耳壺	環状取手部	覆土	淡茶褐色	砂粒	中央部分がやや凹む橋状取手。取手の上下接合部が隆帯状に左右に延び、口縁部文様帯を画す。文様帯内に横位刺突文列が見られる。	加曾利E3
5-1114号土坑 (第485図: PL215)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗黄褐色	微砂粒	口縁下に横位の押圧文隆帯。	堀之内1
2	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	微砂粒	渦巻き磨り消し縄文。	称名寺1
3	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	微砂粒	口縁下に横位の隆帯が付くものと見られるが剥落。1と同一個体か。	堀之内1
4	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	縦位区画の沈線文様、U状、J状文描き縦位の列点文が付される。	称名寺2
6-204号土坑 (第486図: PL215)							
1	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	石英粒	横位の渦巻隆帯文、沈線で楕円文を画し斜位方向の沈線で埋める。渦巻き文下位から垂下隆帯、地文にも斜沈線文。	曾利3
2	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒多	口縁部に連弧状の隆帯、沈線に画された楕円文内には縦位集合沈線。	曾利3
3	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	雲母石英粒	渦巻き隆帯文。	曾利3
4	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	3本の隆帯が弧状に、内側には刺突文が見られる。	焼町
5	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	白色砂粒	隆帯による剣先渦巻き文、平行垂下文が付され、地文には斜方向に集合沈線文。	唐草文系
6	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	砂粒	隆帯文および刺突状の短沈線文。	曾利3
7	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微雲母粒	波状の垂下隆帯、斜位の沈線文であるが、施文は細く、部分的である。	曾利3
8	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	微砂粒	渦巻を持つ2条の垂下隆帯、および波状隆帯を持つ。地文には斜位の集合沈線文。	唐草文系
6-205号土坑 (第486図: PL215)							
1	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	刺突文有す縦位の隆帯、地文は縦位条線文。	曾利2
2	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒多	縦位の羽状沈線施文後横位の沈線文。	曾利2
3	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	砂粒	斜格子状の隆線、さらに波状隆線を横位に付す。	曾利2
4	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	雲母石英粒	垂下隆帯、縦位の集合沈線施文後、横位3条の平行沈線、横位沈線内には刺突文付す。	曾利3
6-206号土坑 (第486図: PL216)							
1	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	砂粒	隆帯により渦巻き文、隙間には放射状に沈線文。	唐草文系
2	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	砂粒多	隆帯による曲線文を描き、間隙部分は集合沈線で埋めている。	曾利3
3	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒多	波状の垂下隆帯文、地には羽状の沈線文が付される。器面かなり風化している。	曾利3
6-207号土坑 (第487図: PL216)							
1	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	白色砂粒	口縁部は無文で外反する、肩部に横位の隆帯を廻らす、隆帯に沿って沈線が付され、以下沈線による重弧状、斜行文磨り消し縄文。	堀之内1
2	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	くの字に外傾する、口縁部に円形隆帯中央に刺突文、そこから隆帯が頸部に下がる。内面には沈線で連結する渦巻き文を描く。	堀之内1
3	浅鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	内面の口縁直下には隆帯が、さらに下位部分に多段の沈線文が廻る。	加曾利B
4	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	口縁部内屈、口縁部無文。	後期
5	深鉢	胴部	覆土	黒色	微砂粒	磨り消し縄文による曲線文。内面に凹線状に撫での痕跡。	堀之内1
6	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	微砂粒	沈線による渦巻き文、矩形文様を描く。地の縄文は施文方向を複雑に変えている。原体はRL。	堀之内1
7	深鉢	胴部	覆土	淡茶褐色	砂粒	沈線による曲線文。	後期
8	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	砂粒	微隆帯文。	後期
6-209号土坑 (第488図: PL216)							
1	深鉢	胴部	覆土	淡茶褐色	砂粒	無文の胴下部片。	後期
6-210号土坑 (第488図: PL216)							
1	深鉢	胴部	覆土	明褐色	砂粒	垂下沈線による無文帯、縄文帯には波状垂下文。	加曾利E3
6-211号土坑 (第488図: PL216)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	口縁端部が内側に肥厚、無文。	後期
2	浅鉢	胴部	覆土	明褐色	微砂粒	磨り消し縄文。	堀之内1
3	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	金雲母	縦位併行隆線、地文は斜位の集合沈線文。	曾利3

第3章 検出された遺構と遺物

No	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
4	土製円盤	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	無文。小型品。	
6-212号土坑 (第488図: PL216)							
1	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	隆帯による口縁部文様は横長の楕円文を2段構成。楕円文部分は横に延び施された縄文も帯状に長くなる。胴部には垂下沈線、無文および縄文帯。	加曾利 E 3
2	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	微砂粒	波状口縁部の上端が外傾し幅広となり隆帯による渦巻き文。下位には楕円文を描き縄文を充填施文、さらに円形文を付す。垂下沈線帯には蕨手文。	加曾利 E 3
3	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	口縁部下に横位沈線、以下縄文施文。	
4	深鉢	口縁部	覆土	橙黄褐色	砂粒多	口唇部角頭状、口縁下に横位の条痕様沈線文。	晩期か
5	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	無文の口縁部。	
6	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	横位の隆帯から4本の垂下沈線を持つ無文帯、および渦巻き文が描かれる。間には斜めに無節Rを施文。	
7	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	2本隆線によるJ字文、内側に沿って梯子状の短沈線文、外側は斜位の集合沈線文。	唐草文系
8	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	沈線による渦巻き文、平行線文、斜沈線文。	曾利 3
9	土製円盤	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	小型品。	
6-213号土坑 (第488図: PL216)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	微石英	口縁部内面下に横位の隆帯。	後期
2	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	口唇部に沈線、横8字文。	後期
3	深鉢	胴部	覆土	橙黄褐色	砂粒	磨り消し縄文。	後期

第3節 縄文時代の遺構と遺物

表3 石器観察表

遺物No.	器種	出土位置	残存	計測値 長さ・幅・厚さ(cm)			重さ(g)	石材	特徴	備考
4-16号住居跡 (第8図: PL112)										
16	石鏃	床面	完形	2.7	1.8	0.3	1.1	黒色安山岩	凹基無茎、先端部から縦に低い稜線を残す	
17	軽石製品	床面	ほぼ完形	8.6	3.7	1.5	15	軽石	長方形の板状を呈すが片方がやや薄くなる、中央に穿孔痕か	
18	石棒	床面	ほぼ完形	14.3	4.9	2.1	251	結晶片岩	蒲鉾状のやや扁平な棒状礫、両端に打痕、被熱	
4-17号住居跡 (第12・13図: PL112・113)										
25	石鏃	掘方	ほぼ完形	2.4	1.6	0.5	1.8	黒色頁岩	凹基無茎であるが、挟り小さく、両側の厚み不均等	
26	石鏃	覆土	未製品	2.0	1.8	0.8	2.2	黒曜石	片面に厚みを有す、縁辺部に調整剥離を持つ	
27	石鏃(錐)	覆土	欠損品	(1.6)	(1.4)	0.4	(1.0)	黒曜石	基部片か、石鏃の可能性有り	
28	打製石斧	床面	完形	14.5	6.5	2.3	234	細粒輝石安山岩	撥形、片側縁の中央やや上位に小さい挟りあり、刃部摩耗顕著	
29	打製石斧	覆土	完形	9.2	5.3	1.6	90	分銅形、砂岩	分銅形、挟り下部分は円く上部はつまみ状を呈す、刃部はやや摩耗	
30	打製石斧	床面	欠損品	(3.9)	3.8	1.1	(19)	黒色頁岩	小型撥形か、刃部、基部を欠く	
31	スクレイパー	床面	完形	11.8	5.3	1.3	74	黒色頁岩	ほぼ三角形のやや細長い剥片で1縁辺に自然面、他辺に刃部作出	
32	砥石	床面	完形	8.6	6.0	1.4	75	砂岩	撥形の扁平礫、縁辺に丸み、表面に若干の使用痕、被熱している	
33	磨石	床面	完形	8.6	8.0	7.8	752	安山岩	球形で数カ所にやや深い打痕が見られる	
34	磨石	覆土	完形	7.0	5.5	4.5	248	粗粒輝石安山岩	やや扁平な卵形を呈し、両面に使用面	
35	砥石	床面	完形	7.3	5.8	1.3	78	砂岩	扁平な礫を利用、両面使用面	
36	石皿	立石	完形	45.6	24.8	5.5	9,900	粗粒輝石安山岩	板状の角礫、片面極めて平滑、住居奥に立石として利用、炉石転用か	
37	石棒	立石	欠損品	(22.3)	9.6	—	(2,340)	デイサイト	キノコ状の頭部はやや扁平で、頭部下括れ部から徐々に太くなる	
4-18号住居跡 (第18図: PL114)										
21	石鏃	覆土	欠損品	(1.0)	(1.7)	0.3	(0.6)	黒曜石	平基無茎鏃の基部か	
22	石核	Pit 5	完形	6.2	3.4	2.4	43.7	黒曜石	縦長で、下縁部には打撃調整見られる	
23	小型磨製石斧	覆土	刃部欠損	(2.6)	(1.6)	0.9	(5.4)	凝灰岩	小型の定角式、基部は薄く、成形面の稜線明瞭	
24	多孔石	床面	ほぼ完形	(13.7)	19.9	8.7	(3,320)	粗粒輝石安山岩	おむすび形の礫で一部欠損、表に7カ所裏面に4カ所の凹穴、煤付着	
25	多孔石	覆土	完形	15.9	15.9	13.6	3,400	粗粒輝石安山岩	不定形の角礫のほぼ全面に凹み穴が見られる	
26	石皿	床面	欠損品	(32.7)	30.0	12.1	(10.6kg)	粗粒輝石安山岩	大型石皿片、舟部分広く平らである、側、裏面に小凹み穴が見られる	
4-19号住居跡 (第20図: PL114)										
17	石鏃	覆土	未製品	2.1	1.8	0.6	2.0	黒曜石	三角形で、側縁にやや粗く剥離調整	
18	石鏃	覆土	欠損品	(0.5)	(0.4)	0.2	(0.2)	黒曜石	小型鏃、基部、先端部を欠く	
19	多孔石	床面	欠損品	12.8	12.2	(11.2)	(2,390)	粗粒輝石安山岩	自然面の残る部分に10カ所ほどの凹み穴、最大で径2cm、深さ0.5cm	
4-20号住居跡 (第22図: PL115)										
13	石鏃	覆土	完形	1.7	1.5	0.5	1.0	黒曜石	挟りはほとんど無く、片面が膨らむ、作りは粗い	
14	打製石斧	覆土	ほぼ完形	(9.3)	5.7	1.2	(69)	粗粒輝石安山岩	撥形、刃部あまり広がらず、薄手で基部を欠くか	
15	磨石	覆土	完形	13.9	9.5	4.4	802	粗粒輝石安山岩	やや扁平な楕円礫、両面に使用痕	
16	磨石	覆土	ほぼ完形	14.1	9.5	4.6	870	粗粒輝石安山岩	やや扁平な楕円礫、端部に打痕、裏面は風化によるものか剥離顕著	
4-23号住居跡 (第31・32図: PL117)										
38	石鏃	覆土	完形	1.8	1.3	0.3	0.4	黒曜石	凹基無茎、挟りは浅い、薄手で作りは端正	
39	石鏃	覆土	欠損品	(1.7)	(1.6)	0.6	(1.1)	黒曜石	先端部片か、厚み有り	
40	石鏃	覆土	欠損品	(1.8)	(1.3)	0.3	(0.4)	黒曜石	凹基無茎、挟りが深く、片脚を欠損	
41	石鏃	覆土	ほぼ完形	1.8	1.6	0.4	0.5	粗粒輝石安山岩(風化岩質)	反りが見られる、両面光沢を持ち、側縁部に若干の調整	
42	石鏃	覆土	欠損品	(1.2)	(1.6)	0.3	(0.6)	黒曜石	凹基無茎、やや薄手の作り、先端部を欠く	
43	石鏃	覆土	欠損品	(1.2)	(1.5)	0.4	(0.6)	黒曜石	凹基無茎、先端部欠き、挟り部は薄く作出されている	
44	石鏃	覆土	ほぼ完形	2.2	0.8	0.6	0.7	黒曜石	棒状鏃、錐部は短めて、摩耗見られる	
45	打製石斧	覆土	完形	10.1	5.1	2.0	95	粗粒輝石安山岩	撥形、刃部は薄く作られ摩耗顕著	
46	打製石斧	覆土	ほぼ完形	11.4	5.4	1.9	149	粗粒輝石安山岩	撥形、両面僅かに自然面残る、刃部摩耗、基部わずかに欠く	
47	打製石斧	覆土	完形	11.8	5.9	1.3	109	粗粒輝石安山岩	薄手の短冊形、扁平礫利用、両面に自然面残る、刃部摩耗	
48	打製石斧	覆土	欠損品	(9.3)	5.2	2.0	(124)	粗粒輝石安山岩	撥形か、片面に自然面大きく残る、刃部を欠く	
49	打製石斧	床面	欠損品	(8.1)	5.6	1.7	(128)	粗粒輝石安山岩	短冊形か、片面に大きく自然面残る、刃部欠く	
50	打製石斧	覆土	欠損品	(6.9)	5.3	1.3	(70)	粗粒輝石安山岩	扁平な礫を利用、刃部加工は僅かに両面及び刃部にかけて自然面	
51	打製石斧	覆土	欠損品	(6.7)	4.9	1.8	(69)	粗粒輝石安山岩	撥形、刃部で若干の摩耗見られる、基部を欠く	
52	打製石斧	覆土	基部欠損	(8.6)	5.4	1.6	(103)	粗粒輝石安山岩	扁平な礫利用、片面に自然面残す、刃部摩耗	
53	打製石斧	覆土	欠損品	(7.7)	5.5	1.6	(90)	粗粒輝石安山岩	撥形か、扁平礫利用、刃部僅かに欠損、基部を欠く	
54	打製石斧	覆土	欠損品	(8.2)	5.4	1.8	(86)	粗粒輝石安山岩	撥形、基部が細く刃部に向かって開く、刃部欠く	
55	打製石斧	覆土	欠損品	(7.7)	4.8	1.7	(96)	粗粒輝石安山岩	撥形か、片面に自然面残る	
56	打製石斧	覆土	欠損品	(4.9)	6.2	1.2	(43)	粗粒輝石安山岩	板状礫を利用、基部片か	
57	スクレイパー	炉内	完形	7.9	5.3	1.7	65	粗粒輝石安山岩	やや不正な菱形を呈す、下縁に直刃を作出	
58	スクレイパー	床面	完形	8.0	6.9	1.2	84	黒色頁岩	やや菱形の剥片利用、片側縁と下縁部に刃部を作出	
59	磨製石斧	刃部欠損	(15.2)	7.1	4.2	(803)	蛇紋岩	大型品、刃部を欠く蛤刃か		
60	磨石	床面	ほぼ完形	13.2	4.2	4.6	325	安山岩	棒状礫を利用、端部および側面に複数の打痕が見られる	
61	多孔石	覆土	完形	15.4	11.2	8.6	1,373	多孔質安山岩	不定形でやや赤みを帯びた礫を利用、対になる二面に凹み穴を有す	
5-1号住居跡 (第34図: PL117)										
14	打製石斧	覆土	欠損品	(4.4)	4.6	1.0	(23)	黒色安山岩	撥形打製石斧の基部片か	
15	磨石	覆土	欠損品	(11.8)	11.8	8.3	(1,567)	粗粒輝石安山岩	大型礫の端部分、表面に研磨痕、被熱あり	
16	磨石	覆土	完形	9.5	9.1	1.9	266	粗粒輝石安山岩	円盤状の礫、両面使用	
17	磨石	覆土	完形	18.5	5.5	4.5	820	石英閃緑岩	棒状礫、表面は平滑	
5-38号住居跡 (第37図: PL117)										
1	石鏃	覆土	完形	1.5	1.4	0.4	0.6	黒曜石	凹基無茎、挟りは浅く脚は左右不均衡、片面にやや大きく原石面	

第3章 検出された遺構と遺物

5—39号住居跡（第38～40図：PL118）

遺物No	器種	出土位置	残存	計測値	長さ	幅	厚さ	(cm)	重さ(g)	石材	特徴	備考
17	石鏃	覆土	完形	2.3	1.3	0.5	0.9			碧玉	凹基無茎、挟り、脚共に丸みを有す	
18	石鏃	覆土	ほぼ完形	1.9	1.4	0.4	0.6			黒曜石	凹基無茎で挟りは浅い、身に僅かな反りを持つ	
19	石鏃	覆土	ほぼ完形	2.5	1.7	0.4	1.2			黒曜石	凹基無茎であるが挟りは極めて浅い	
20	石鏃	覆土	完形	2.2	1.8	0.4	1.0			黒色頁岩	凹基無茎、脚はやや開く、片面平坦に作られる	
21	石鏃	覆土	完形	2.8	2.0	0.6	2.7			黒色安山岩	凹基無茎で全体に作りは粗い、表面に付着物（アスファルトか）	
22	石鏃	覆土	完形	2.8	1.4	0.4	1.3			珪質頁岩	凹基無茎であるが挟りは極めて浅い、身はやや細長い作り	
23	石鏃	覆土	欠損品	(1.6)	(1.0)	0.3	(0.4)			黒曜石	石鏃先端部片である	
24	石鏃	覆土	欠損品	(1.1)	(1.1)	0.3	(0.2)			黒曜石	石鏃先端部片であるが側縁部の一部のみ残存	
25	石鏃	覆土	欠損品	(1.2)	(1.5)	0.3	(0.4)			黒曜石	先端部片、片面が平らである	
26	石鏃	覆土	欠損品	(1.5)	(1.2)	0.4	(0.5)			黒曜石	脚部片か	
27	石鏃	覆土	欠損品	(1.4)	(1.1)	0.3	(0.3)			黒曜石	つまみ部か	
28	石鏃	覆土	欠損品	(0.9)	(0.8)	0.2	(0.1)			黒曜石	脚の破片か	
29	石鏃	覆土	ほぼ完形	2.1	1.5	0.4	0.9			黒曜石	扁平な扇形を呈すつまみ下部に鏃部有す、先端部を欠く	
30	石鏃	覆土	完形	2.6	0.8	0.7	0.9			黒曜石	紡錘状を呈す、鏃部は細く尖る	
31	石鏃	覆土	ほぼ完形	2.4	0.7	0.5	0.8			黒曜石	棒状鏃、鏃部の先端を僅かに欠く	
32	石鏃	覆土	完形	2.0	0.6	0.4	0.5			黒曜石	小型品で、側縁部のみ調整が見られる	
33	スクレイパー	覆土	ほぼ完形	2.9	1.8	0.8	3.3			黒曜石	端部につまみ状の突起を有す、石匙か	
34	二次加工片	覆土	ほぼ完形	2.2	1.9	0.7	2.1			黒曜石	不定形で一線に刃部作出	
35	打製石斧	覆土	完形	18.3	5.3	1.8	222			粗粒輝石安山岩	細長い撥形を呈す、刃部片面の一部に自然面残る	
36	打製石斧	覆土	完形	10.4	4.8	2.4	108			粗粒輝石安山岩	撥形、刃部が肥厚し作りは粗い、刃部僅かに摩耗	
37	打製石斧	覆土	完形	10.1	5.4	1.7	106			粗粒輝石安山岩	撥形、刃部で摩耗顕著	
38	打製石斧	覆土	完形	9.9	4.2	1.1	51			黒色頁岩	短冊形、やや小振りで薄手の作り、左右非対称、刃部摩耗	
39	打製石斧	覆土	ほぼ完形	10.2	5.0	1.9	105			粗粒輝石安山岩	撥形、基部の一部欠損、刃部に摩耗	
40	打製石斧	覆土	欠損品	(11.5)	7.7	2.0	(176)			粗粒輝石安山岩	薄い板状の撥形、片面に平らな自然面残る、刃部は薄く作られる	
41	打製石斧	覆土	欠損品	(10.2)	7.7	0.9	(91)			粗粒輝石安山岩	薄い板状の分銅形、両面に自然面、刃部は丸刃で端部は摩耗	
42	打製石斧	覆土	欠損品	(6.3)	5.4	1.8	(84)			粗粒輝石安山岩	短冊形か、基部、刃部を欠く、片面に一部自然面残る	
43	打製石斧	覆土	欠損品	(3.9)	4.1	1.0	(25)			粗粒輝石安山岩	基部片、やや薄手で片面に自然面残す	
44	打製石斧	覆土	欠損品	(4.5)	5.9	2.2	(76)			粗粒輝石安山岩	撥形か、基部側面あり、刃部、基部を欠く	
45	磨石	覆土	完形	16.1	9.1	6.7	1,480			粗粒輝石安山岩	やや大きめの長円形利用、使用面摩耗、両端部に打痕あり	
46	磨石	覆土	完形	10.7	7.0	4.9	481			粗粒輝石安山岩	なすび形の礫利用、両面を使用	
47	磨石	覆土	欠損品	7.8	5.4	3.6	(225)			粗粒輝石安山岩	卵形の円礫、両面に使用面、端部に打痕あり、一部欠損	
48	磨石	覆土	完形	7.2	4.2	3.2	147			粗粒輝石安山岩	不定形な小礫を利用	
49	磨石	覆土	完形	12.2	7.5	4.8	697			粗粒輝石安山岩	やや扁平な長円形を利用、両面を使用、面の摩耗顕著	
50	凹石	覆土	完形	12.1	8.9	4.1	580			粗粒輝石安山岩	小判形を呈す、両面に凹み穴有し、側縁に打痕あり、煤付着	
51	磨石	覆土	完形	6.5	6.4	3.1	161			粗粒輝石安山岩	やや扁平な円礫利用、扁平面を使用	
52	磨石	覆土	完形	4.7	3.9	3.1	79			粗粒輝石安山岩	小型の円礫利用、やや平坦な面に磨り面を有す	
53	石皿	覆土	欠損品	(17.5)	(15.9)	9.9	(2,350)			粗粒輝石安山岩	大型石皿の破片、両面使用で中央部分は器肉薄、被熱あり	
54	軽石製品	覆土	欠損品	(6.2)	(4.6)	(2.8)	(13)			軽石	楕円形で底は平らで括れ有す、上部は器状を呈し、対方向に欠損部	
55	多孔石	覆土	完形	30.5	25.2	23.1	15.4kg			粗粒輝石安山岩	大型の角礫利用、上部に凹み穴	
56	多孔石	覆土	完形	18.3	16.0	11.1	3,870			粗粒輝石安山岩	不定形な角礫利用、隣り合う三面に複数の凹み穴を有す	

5—69号住居跡（第44～46図：PL120）

49	石鏃	覆土	完形	1.8	1.5	0.3	0.7			黒曜石	平基無茎、小型で作りは丁寧	
50	石鏃	覆土	完形	1.6	1.4	0.3	0.4			黒曜石	平基無茎、やや小型で三角形を呈す	
51	石鏃	覆土	完形	2.8	1.4	0.4	1.0			黒色頁岩	凹基無茎、挟りは浅く脚端部尖る	
52	石鏃	覆土	完形	2.2	1.8	0.6	1.6			黒曜石	凹基無茎、挟りは浅く作りは粗く左右非対称	
53	石鏃	覆土	完形	2.1	1.4	0.3	0.6			黒曜石	凹基無茎、挟りは浅く薄手の作り	
54	石鏃	覆土	完形	1.6	1.8	0.3	0.7			黒曜石	凹基無茎、三角形を呈し、両脚は大きく開く、先端角は大きい	
55	石鏃	覆土	完形	2.0	1.2	0.3	0.6			チャート	凹基無茎、挟りは浅く作りは丁寧	
56	石鏃	覆土	欠損品	(2.5)	(1.8)	0.4	(1.1)			黒曜石	凹基無茎、側縁僅かに弧状を呈す、片脚を欠く	
57	石鏃	覆土	ほぼ完形	0.9	0.8	0.2	0.3			黒曜石	平基無茎、小型でほぼ正三角形である	
58	石鏃	覆土	ほぼ完形	2.0	1.6	0.4	1.0			黒曜石	未製品か、基部の作出は未了	
59	石鏃	覆土	欠損品	(1.5)	(1.0)	0.3	(0.3)			黒曜石	先端部片、調整刻離細かく丁寧な作り	
60	石鏃	覆土	欠損品	(2.1)	(1.1)	0.3	(0.4)			黒曜石	基部を欠く、先端角は小さく作りは丁寧	
61	石鏃	覆土	未製品	2.2	1.7	0.5	1.9			黒曜石	両側縁に粗い調整痕、両面は無調整、石鏃の未製品と見られる	
62	石鏃	覆土	欠損品	(1.2)	(0.7)	(0.3)	(0.2)			黒曜石	先端部片	
63	石鏃	覆土	欠損品	(1.2)	(1.4)	(0.2)	(0.5)			黒曜石	凹基無茎、挟りは浅く先端部を欠く、やや薄手の作り	
64	石鏃	覆土	欠損品	(1.1)	(1.3)	(0.2)	(0.3)			黒曜石	凹基無茎、基部は薄く作られる、先端部を欠く	
65	石鏃	覆土	欠損品	(1.7)	(1.5)	(0.4)	(0.8)			黒曜石	石鏃の先端部と見られるが、製作途中か	
66	石鏃	覆土	欠損品	(1.2)	(1.4)	(0.3)	(0.5)			黒曜石	凹基無茎、薄手の基部片、先端部を欠く	
67	石鏃	覆土	欠損品	(1.3)	(1.2)	0.3	(0.2)			黒曜石	側縁部の一部か	
68	石鏃	覆土	欠損品	(0.8)	(1.1)	(0.3)	(0.3)			黒曜石	先端部片	
69	石鏃	覆土	欠損品	(1.3)	(1.6)	(0.2)	(0.6)			黒曜石	平基無茎、薄手であるが作りはやや粗い、先端部を欠く	
70	石鏃	覆土	未製品	(1.8)	(1.8)	(1.4)	(1.3)			黒曜石	二辺に調整痕見られる、石鏃の未製品か	
71	石鏃	覆土	完形	1.6	0.5	0.2	0.3			黒曜石	小型の棒状鏃、やや扁平で側縁、先端部調整	
72	石鏃	覆土	完形	2.1	0.8	0.5	0.9			黒曜石	小型の棒状鏃、断面三角形	
73	石核	床面	完形	6.9	2.9	1.7	38.4			黒曜石	縦長に剥ぎ取られた石核	
74	石核	覆土	完形	4.7	4.1	1.6	24.6			黒曜石	扇形のやや大型の剥片	
75	石核	床面	完形	5.3	3.7	2.5	32.7			黒曜石	片面が肥厚する石核片	
76	打製石斧	覆土	完形	14.6	5.6	2.8	214			粗粒輝石安山岩	やや縦長の撥形、身の中位に厚みがある、刃部僅かに欠損	
77	楔形石器	覆土	完形	2.1	2.0	0.4	2.4			黒曜石	四角形を呈す、三辺に刃部作出	
78	打製石斧	覆土	完形	8.7	5.8	2.8	134			粗粒輝石安山岩	撥形、基部に厚みがある、刃部はやや広がり薄手に作られている	
79	打製石斧	覆土	完形	9.1	5.3	1.4	78			黒色頁岩	自然面大きく残す一次剥片利用、薄手で作りは粗い、刃部摩耗	
80	打製石斧	覆土	欠損品	(9.1)	(4.9)	1.6	(45)			粗粒輝石安山岩	撥形か、基部から身にかけての剥離片と見られる	
81	打製石斧	覆土	欠損品	(7.2)	5.3	1.7	(76)			粗粒輝石安山岩	撥形、比較的薄手の作り刃部やや摩耗、基部を欠く	

第3節 縄文時代の遺構と遺物

5-69号住居跡（第44～46図：PL120）

遺物No	器種	出土位置	残存	計測値 長さ・幅・厚さ(cm)	重さ(g)	石材	特徴	備考
82	打製石斧	覆土	欠損品	(10.1) 7.4 2.8	(199)	細粒輝石安山岩	短冊形であろうか、幅広く片面に大きく自然面残す、薄刃である	
83	打製石斧	覆土	欠損品	(6.8) 4.4 2.3	(88)	細粒輝石安山岩	撥形の基部片か、基部が瘤状に隆起	
84	打製石斧	覆土	欠損品	(2.6) 4.8 1.4	(17)	細粒輝石安山岩	半月状を呈す、刃部片と見られる	
85	スクレイパー	覆土	完形	4.0 2.3 0.8	9	黒色安山岩	縦長の小剥片利用、一側縁に刃部作出	
86	スクレイパー	覆土	完形	4.2 3.5 0.9	13	黒色安山岩	片面に自然面残す小剥片利用、両側縁に簡単な刃部を作出	
87	スクレイパー	床面	完形	9.3 6.7 1.7	101	粗粒輝石安山岩	ほぼ三角形を呈す大型の一次剥片利用、下縁に刃部作出	
88	石核	覆土	完形	12.9 8.9 6.1	763	細粒輝石安山岩	側面に大きく自然面残る、二面の大きな剥離面を持つ	
89	磨石	覆土	完形	7.4 7.1 5.1	383	粗粒輝石安山岩	片面が平らな円礫利用、両面使用	
90	磨石	覆土	欠損品	12.6 (5.2) 5.4	(412)	粗粒輝石安山岩	棒状礫利用	
91	磨石	覆土	完形	7.2 6.5 4.7	263	粗粒輝石安山岩	やや扁平な円礫利用、片面中央部、側縁部に若干の打痕、鉄分付着	
92	磨石	覆土	完形	10.6 6.8 4.2	442	粗粒輝石安山岩	扁平な長円礫利用、両面使用面	
93	磨石	覆土	完形	3.9 3.8 2.5	42	粗粒輝石安山岩	小礫利用、被熱か	
94	多孔石	覆土	完形	17.2 11.4 10.0	1,679	粗粒輝石安山岩	角礫利用、隣り合う三面に複数の凹み穴を有すが大きさは不均一	

5-70号住居跡（第53～56図：PL122・123）

36	石錐	覆土	欠損品	(2.3) (1.8) (0.5)	(1.7)	黒曜石	つまみ部三角形で下位に錐部が作られている、錐部を欠く	
37	石錐	床面	完形	2.0 1.9 0.5	0.8	黒曜石	平基無茎、ほぼ正三角形で側縁、基部が薄く作られている	
38	石錐	覆土	完形	1.6 1.4 0.4	0.9	黒曜石	凹基無茎、扱りは浅く側縁僅かに弧状を呈す	
39	スクレイパー	覆土	完形	2.6 2.2 0.9	4.8	黒曜石	片面が盛り上がった厚手の製品、下縁に粗く刃部作出	
40	石錐	覆土	欠損品	(0.9) (1.1) (0.2)	(0.3)	黒曜石	平基無茎、小型品で先端部を欠く	
41	石錐	覆土	欠損品	(1.2) (1.6) (0.3)	(0.7)	黒曜石	凹基無茎、扱りに浅く両脚は先端部に僅かに突起する、先端部を欠く	
42	石錐	覆土	欠損品	(1.9) (2.2) (0.3)	(1.1)	黒曜石	凹基無茎、大型でやや薄手の作り、先端部欠く、斑晶が見られる	
43	石錐	覆土	欠損品	(1.0) (2.2) (0.3)	(0.5)	黒曜石	凹基無茎、先端部やや細身で脚は開く、片脚を欠く	
44	石錐	覆土	欠損品	(1.9) (1.1) (0.3)	(0.4)	黒曜石	凹基無茎、扱りは深い、片脚片	
45	石錐	覆土	完形	3.1 0.6 0.4	0.7	黒曜石	棒状錐、断面レンズ状で両端が尖る、作りは丁寧	
46	石錐	覆土	完形	3.1 0.7 0.5	0.9	黒曜石	棒状錐であるが、断面三角で錐部は両側縁にのみ調整痕	
47	石錐	覆土	完形	2.6 1.3 0.4	1.4	黒曜石	三角形の剥片を利用、錐部は断面三角	
48	石錐	覆土	完形	1.9 1.0 0.5	0.9	黒曜石	角錐状の剥片を利用、作りは粗い、使用痕はあまり見られず	
49	打製石斧	床面	完形	15.5 6.1 2.1	234	細粒輝石安山岩	短冊形、両側縁部が僅かに挟れる、刃部摩耗	
50	打製石斧	覆土	ほぼ完形	11.7 4.9 1.6	100	黒色安山岩	撥形であるが刃部の広がり僅かで、両側に弱い扱りに見られる	
51	打製石斧	覆土	完形	10.4 6.0 1.5	133	粗粒輝石安山岩	撥形、片面に自然面残る、刃部摩耗	
52	打製石斧	覆土	完形	10.8 4.8 2.0	122	細粒輝石安山岩	撥形、基部および刃部に一部自然面残る、円刃で摩耗見られる	
53	打製石斧	覆土	欠損品	(9.2) 5.3 1.9	(121)	粗粒輝石安山岩	短冊形、基部欠損か、刃部やや摩耗	
54	打製石斧	覆土	完形	17.9 6.4 1.9	213	黒色安山岩	短冊形であるが、刃部が狭くなる、未製品の可能性あり	
55	打製石斧	床面	完形	10.7 5.7 2.1	125	黒色安山岩	撥形、円刃でやや薄刃	
56	打製石斧	覆土	欠損品	(12.1) 5.4 2.3	(128)	粗粒輝石安山岩	撥形、円刃で片面に自然面残す、基部を欠く	
57	打製石斧	覆土	完形	10.6 6.0 1.3	97	細粒輝石安山岩	板状の礫を利用、撥形で左右の厚みが異なる、刃部摩耗	
58	打製石斧	覆土	完形	9.7 5.3 1.2	59	粗粒輝石安山岩	撥形、刃部は薄手の円刃で摩耗している	
59	打製石斧	覆土	欠損品	(8.4) 5.3 1.5	(72)	細粒輝石安山岩	短冊形、基部を欠損か、刃部薄く作られる	
60	打製石斧	覆土	欠損品	(8.4) 6.0 2.1	(128)	粗粒輝石安山岩	撥形か、基部を欠損、刃部の摩耗見られず	
61	打製石斧	覆土	欠損品	(9.1) 6.2 1.4	(84)	黒色安山岩	撥形か、刃部は円刃で摩耗顕著	
62	打製石斧	床面	欠損品	(7.8) 5.0 1.5	(82)	細粒輝石安山岩	短冊形か、板状の礫利用、表裏に自然面残す、刃部を欠く	
63	打製石斧	覆土	欠損品	(14.2) 6.4 2.0	(169)	黒色安山岩	撥形、基部が極めて薄く、刃部を欠く	
64	打製石斧	覆土	欠損品	(10.8) 5.4 1.6	(119)	細粒輝石安山岩	短冊形、刃部欠損、基部の整形は粗い	
65	打製石斧	床面	欠損品	(7.3) 4.8 1.1	(56)	黒色安山岩	基部を欠損か、刃部やや厚みを持ち若干の摩耗あり	
66	スクレイパー	覆土	完形	7.8 6.4 1.9	96	細粒輝石安山岩	一次剥片利用、楕円形で下辺に刃部作出	
67	スクレイパー	覆土	完形	7.4 5.4 1.2	45	細粒輝石安山岩	不定型な一次剥片利用、一辺に刃部作出、片面に大きく自然面	
68	有溝砥石	床面	完形	34.0 13.2 11.8	6,700	粗粒輝石安山岩	大型の棒状礫、四面磨り面として使用、対面の二面が溝状に凹凸	
69	磨石	覆土	完形	9.2 5.6 2.7	204	安山岩	細長い扁平礫利用、両面および側面の一部に若干の打痕あり	
70	磨石	覆土	ほぼ完形	10.2 9.9 4.2	534	粗粒輝石安山岩	扁平な円礫で両面を使用	
71	磨石	覆土	完形	10.4 9.2 5.1	696	安山岩	扁平な礫利用、両面使用、片面に小さい凹穴あり、一部に煤付着	
72	磨石	覆土	ほぼ完形	6.3 5.6 4.6	204	粗粒輝石安山岩	小振りの円礫、やや平坦な面を使用	
73	磨石	覆土	完形	11.8 7.7 4.4	613	粗粒輝石安山岩	扁平な小判形を呈す、両面を使用し平滑、片面に煤の付着が顕著	
74	磨石	覆土	完形	15.9 8.7 4.6	989	粗粒輝石安山岩	扁平な礫を利用、やや細くなった先端部に打痕顕著、若干の煤付着	
75	磨石	覆土	完形	9.6 8.6 4.7	424	粗粒輝石安山岩	やや不定型な礫を利用、両面に使用痕、若干の打痕観察される	
76	磨石	覆土	ほぼ完形	21.8 8.3 7.3	2,200	石英閃緑岩	両端が円いや細長い角礫を利用、四面使用面で、端部に打痕顕著	
77	台石	覆土	欠損品	(12.2) (15.1) (5.5)	(958)	粗粒輝石安山岩	大型台石の破片使用面は平滑、被熱あり	
78	多孔石	床面	完形	26.9 16.1 8.3	3,700	礫岩	やや扁平な礫利用、片面に大小数個の凹み穴	

5-71号住居跡（第61～63図：PL124）

30	石錐	覆土	完形	1.8 1.3 0.3	0.5	黒曜石	凹基無茎、脚の長さが異なっている。小振りで作りは丁寧	
31	石錐	床面	完形	2.0 1.6 0.3	0.9	碧玉	凹基無茎、身の中央縁に稜を有す、端正な作り	
32	石錐	覆土	欠損品	(1.9) (1.6) (0.3)	(1.1)	黒曜石	つまみ部三角形を呈す、錐部を欠く、石錐未製品の可能性も	
33	石錐	覆土	ほぼ完形	1.8 1.6 0.4	1.7	黒曜石	中央部分がやや肥厚する、基部を欠損か	
34	石錐	覆土	ほぼ完形	1.7 1.4 0.2	0.5	黒曜石	薄手の石錐で基部を欠損か	
35	石錐	覆土	欠損品	(1.6) (1.1) (0.3)	(0.5)	黒曜石	小型品、両脚を欠く	
36	石錐	覆土	欠損品	(1.0) (0.9) (0.2)	(0.2)	黒曜石	先端部片	
37	石錐	覆土	欠損品	(1.3) (1.1) (0.3)	(0.4)	黒曜石	先端部片	
38	石錐	覆土	欠損品	(1.5) (0.7) (0.3)	(0.3)	黒曜石	先端部片、細身で脚やや開く形状か	
39	石錐	覆土	欠損品	(1.2) (1.4) (0.3)	(0.5)	黒曜石	凹基無茎、先端部を欠く	
40	石錐	覆土	欠損品	(0.9) (1.1) (0.2)	(0.2)	黒曜石	小型品、平基無茎、先端部を欠く	
41	石錐	覆土	欠損品	(1.2) (1.4) (0.3)	(0.5)	黒曜石	凹基無茎、先端部を欠く、扱りに、片側縁部に細かな調整顕著	
42	石錐	覆土	欠損品	(1.3) (1.5) (0.3)	(0.6)	黒曜石	凹基無茎、先端部を欠く	

第3章 検出された遺構と遺物

5-71号住居跡 (第61~63図: PL124)

遺物No	器種	出土位置	残存	計測値	長さ	幅	厚さ(cm)	重さ(g)	石材	特徴	備考
43	石鏃	覆土	未製品	(1.6)	(1.5)	(0.4)	(1.1)		黒曜石	石鏃未製品か、不定形で側縁部に調整	
44	打製石斧	覆土	ほぼ完形	11.4	4.5	2.1	131		細粒輝石安山岩	短冊形、刃の一部を欠損	
45	打製石斧	覆土	欠損品	(6.8)	4.1	1.8	(58)		細粒輝石安山岩	撥形か、刃部は薄く作られる、基部を欠く	
46	打製石斧	覆土	欠損品	(6.8)	5.0	2.0	(82)		細粒輝石安山岩	撥形か、やや肉厚の作り、刃部を欠く	
47	スクレイパー	覆土	完形	8.7	7.4	1.7	108		黒色頁岩	やや丸みを持つ剥片を利用、縁辺の一部にやや粗い刃部を作出	
48	スクレイパー	床面	完形	5.7	5.1	1.0	31		黒色頁岩	角に丸みを持つ三角形を呈す、二辺に刃部を作出	
49	打製石斧	覆土	欠損品	(6.2)	6.5	1.1	(49)		細粒輝石安山岩	薄手の作り、刃部片と見られやや摩耗	
50	磨石	覆土	完形	6.7	4.6	2.4	97		粗粒輝石安山岩	扁平な楕円礫、両面使用	
51	磨石	覆土	完形	9.9	8.1	4.5	501		デイスait	扁平な礫を利用、片面を使用面とする、側縁部に若干の打痕見られる	
52	磨石	覆土	完形	13.4	7.0	5.2	752		粗粒輝石安山岩	長円礫利用、側面磨り面とし、両端部に僅かに打痕	
53	磨石	覆土	完形	7.8	7.6	5.1	438		粗粒輝石安山岩	円礫利用、両面使用面で平滑	
54	磨石	覆土	完形	11.6	11.4	8.5	1,577		粗粒輝石安山岩	やや大振りな円礫、やや平坦な面を磨り面として使用	
55	磨石	覆土	完形	5.5	4.4	2.2	80		粗粒輝石安山岩	小型の扁平礫、両面使用面	
56	磨石	覆土	完形	4.1	3.7	3.7	81		粗粒輝石安山岩	小型円礫、やや平坦な二面を使用面とする、若干の煤付着	
57	磨石	覆土	完形	12.0	6.6	3.3	425		粗粒輝石安山岩	扁平でなすび形を呈す、片面に凹み穴	
58	磨石	覆土	完形	9.5	5.9	4.1	313		粗粒輝石安山岩	不定形な礫を利用、目立った使用面は観察されず	
59	磨石	覆土	完形	8.5	5.0	4.3	255		粗粒輝石安山岩	卵形の礫で、側面部を使用面とする	
60	石皿	覆土	欠損品	(16.5)	17.5	8.3	(2,750)		粗粒輝石安山岩	使用面大きく凹み、極めて平滑である	
61	石棒	覆土	欠損品	(6.9)	(4.1)	(1.7)	(48)		緑色片岩	大型石棒の小破片と思われる、被熱	
62	多孔石	床面	完形	23.1	19.5	10.5	7,100		粗粒輝石安山岩	両面に平坦な面を有す角礫利用、表裏に数個の小振りな凹み穴有り	
63	多孔石	覆土	完形	17.2	16.6	9.2	2,310		粗粒輝石安山岩	不定形な自然礫利用、表、裏の平坦面に大小の凹み穴有す	

5-72号住居跡 (第68・69図: PL125)

29	石鏃	覆土	完形	2.3	1.7	0.3	0.8		黒曜石	凹基無茎、脚がやや外に開く、作りは丁寧	
30	石鏃	覆土	未製品	(1.8)	(1.6)	(0.5)	(1.3)		黒曜石	石鏃の未製品か、片面がやや凹み側縁部に調整痕	
31	石鏃	覆土	欠損品	(1.1)	(2.2)	(0.3)	(0.6)		黒曜石	凹基無茎、基部が薄く作られ、片脚を欠く	
32	石鏃	覆土	欠損品	(0.9)	(2.1)	(0.2)	(0.5)		黒曜石	凹基無茎、扱りは浅く片脚を欠く	
33	石鏃	覆土	欠損品	(1.4)	(1.3)	(0.3)	(0.6)		黒曜石	先端部片、やや厚みを持つ	
34	石鏃	覆土	欠損品	(1.2)	(0.9)	(0.3)	(0.6)		黒曜石	木葉形の鏃か、先端部を欠く	
35	石鏃	覆土	欠損品	(1.1)	(1.5)	(0.2)	(0.5)		黒曜石	凹基無茎、先端部および脚の一部を欠く、やや薄手の作り	
36	石鏃	覆土	欠損品	(1.8)	(1.6)	(0.2)	(0.7)		黒曜石	凹基無茎、先端部を欠く	
37	石鏃	覆土	ほぼ完形	1.6	0.5	0.3	0.3		黒曜石	小型棒状鏃、断面三角形	
38	打製石斧	床面	完形	13.3	5.5	1.5	140		細粒輝石安山岩	撥形、円刃で片面に自然面、摩耗顕著	
39	打製石斧	覆土	完形	9.9	4.6	1.4	67		細粒輝石安山岩	短冊形、片面に自然面残す薄手の作り、刃部円刃で摩耗見られる	
40	打製石斧	覆土	欠損品	(7.6)	4.3	2.2	(79)		黒色頁岩	基部片、片側に丸みを持った自然面残る	
41	打製石斧	覆土	欠損品	(8.6)	5.2	1.6	(83)		黒色頁岩	撥形、片面に大きく自然面残る、刃部を欠く	
42	打製石斧	覆土	欠損品	(7.1)	4.5	3.2	(128)		細粒輝石安山岩	基部片、極めて厚みがあり断面三角形を呈す	
43	打製石斧	覆土	欠損品	(4.9)	4.2	2.0	(43)		黒色頁岩	基部片、やや厚みを持つ	
44	磨石	覆土	完形	10.1	8.8	7.8	876		粗粒輝石安山岩	こぶし大の円礫、表面の使用痕あまり明瞭で無く、若干の打痕あり	
45	磨石	床面	ほぼ完形	12.1	6.9	4.0	479		粗粒輝石安山岩	やや扁平な小判形礫、両面使用、被熱によるひび割れ顕著	
46	磨石	覆土	欠損品	(9.7)	(6.1)	5.8	(409)		粗粒輝石安山岩	長円礫利用、両面使用面、被熱	
47	磨石	覆土	欠損品	(4.6)	8.3	4.9	(222)		安山岩	使用面平滑で、数カ所の打痕見られる	
48	磨石	Pit 8	欠損品	(10.0)	7.6	4.7	(508)		粗粒輝石安山岩	やや扁平な小判形礫、両面使用面で平滑、被熱によるひび割れあり	

5-73号住居跡 (第72・73図: PL126・127)

35	石鏃	覆土	欠損品	(1.2)	(2.4)	(0.3)	(0.7)		黒曜石	凹基無茎、片脚を欠く、作りは丁寧	
36	石鏃	Pit 4	欠損品	(1.9)	(1.6)	(0.4)	(1.2)		黒曜石	凹基無茎、扱りに浅く先端部、片脚の一部を欠く	
37	石鏃	覆土	完形	1.7	1.6	0.5	1.3		黒曜石	凹基無茎、厚手で先端部も鋭利さを欠く	
38	石鏃	覆土	欠損品	(1.4)	(2.2)	(0.3)	(1.2)		黒曜石	平基無茎鏃の基部片か、薄手でやや大型品	
39	楔形石器	覆土	ほぼ完形	1.9	1.7	0.3	1.2		黒曜石	三縁に刃部、薄手の作り	
40	打製石斧	覆土	欠損品	(5.0)	4.9	1.2	(27)		黒色安山岩	刃部片、薄手の礫から作り出している、刃部両面に自然面	
41	小型磨製石斧	覆土	欠損品	(2.9)	1.8	0.8	(7.4)		蛇紋岩	小型定角式、刃部が僅かに幅広となる、使用痕有り、基部を欠く	
42	石匙	床面	完形	12.7	4.5	1.2	63		黒色安山岩	大型の縦型石匙、つまみ部大きく、刃部先端は尖る、片側に自然面	
43	スクレイパー	覆土	完形	12.1	5.3	1.3	70		黒色安山岩	ほぼ三角形で下辺部に刃部を作出	
44	礫器	覆土	完形	11.3	7.2	2.5	227		細粒輝石安山岩	大型の一次剥片で片面に自然面、縁辺の一部に粗く刃部作出	
45	凹石	覆土	完形	12.3	7.7	4.3	503		粗粒輝石安山岩	やや扁平な長円礫、片面に二カ所、片面に一カ所の凹み有す	
46	磨石	覆土	完形	9.2	6.7	5.0	450		石英閃緑岩	長円礫、両面に使用面見られる	
47	磨石	覆土	完形	6.3	4.9	4.0	155		細粒輝石安山岩	小型の卵形、両面に使用面	
48	磨石	覆土	完形	5.6	4.6	2.2	90		デイスait	小型扁平礫、両面に使用面	
49	磨石	覆土	ほぼ完形	13.3	9.0	5.3	1,055		粗粒輝石安山岩	不定形な礫、一面が窪んだ使用面、一端部は敲石としての使用面か	

5-74号住居跡 (第77~79図: PL127・128)

34	石鏃	覆土	完形	3.6	1.9	0.3	1.7		黒曜石	凹基無茎、大型で身が長い、精緻な作りで石材の透明度高い	
35	石鏃	覆土	完形	2.3	1.5	0.3	0.7		黒曜石	凹基無茎、作りは丁寧	
36	石鏃	覆土	完形	1.4	1.4	0.2	0.3		黒曜石	凹基無茎、やや小型品で脚は大きく開く	
37	石鏃	覆土	ほぼ完形	1.6	1.2	0.3	0.5		黒曜石	凹基無茎、小型品で両側縁部にややカーブを持つ	
38	石鏃	覆土	ほぼ完形	2.1	1.4	0.5	1.4		黒曜石	つまみ部を有し基部は短い作り先端を僅かに欠くか	
39	石鏃	覆土	欠損品	(1.4)	(1.4)	(0.2)	(0.5)		黒曜石	凹基無茎、扱りは浅く先端部を欠く	
40	石鏃	覆土	欠損品	2.4	0.7	0.4	0.8		黒曜石	棒状鏃、断面三角形で先端部は断面方形に作られている	
41	石鏃	覆土	完形	2.8	0.8	0.5	1.5		黒曜石	棒状鏃、両端尖る、先端部が僅かに太く作られている	
42	石鏃	覆土	欠損品	(1.3)	(0.8)	(0.5)	(0.9)		黒曜石	棒状鏃部片、先端部を欠く、やや曲がり有す	
43	石鏃	覆土	未製品	3.4	2.2	0.7	6.9		珪質頁岩	薄手の剥片を利用、側縁部に剝離調整、石鏃の未製品か	
44	打製石斧	覆土	完形	9.5	5.5	1.1	8.5		細粒輝石安山岩	板状の撥形、両面に自然面、円刃でやや摩耗	
45	打製石斧	覆土	欠損品	(7.5)	4.3	1.7	(79)		細粒輝石安山岩	小型の短冊形、作りはやや粗い、基部欠損、火を受けている	

第3節 縄文時代の遺構と遺物

5-74号住居跡（第77～79図：PL127・128）

遺物No	器種	出土位置	残存	計測値	長さ	幅	厚さ	(cm)	重さ	(g)	石材	特徴	備考
46	打製石斧	覆土	欠損品	(8.1)	5.1	1.3		(66)			細粒輝石安山岩	撥形の基部片か、板状礫の片側縁のみ調整が見られる	
47	打製石斧	覆土	欠損品	(9.5)	4.9	1.6		(87)			細粒輝石安山岩	短冊形か、板状礫利用、自然面両面に残る、刃部を欠く	
48	打製石斧	覆土	欠損品	(8.1)	5.5	1.6		(64)			細粒輝石安山岩	短冊形か、やや薄手で基部側を剥離欠損、火を受けている	
49	磨製石斧	覆土	完形	12.2	6.4	3.1		462			蛇紋岩	蛤刃形、片面に部分的に窪んだ磨り残り、側縁から基部にも見られる	
50	磨製石斧	覆土	欠損品	(2.3)	2.0	0.7		(4.5)			蛇紋岩	小型磨製石斧の基部片、定角式と見られる、基部は丸みあり	
51	打製石斧	覆土	欠損品	(7.4)	5.3	1.6		(77)			黒色頁岩	丸みを持った形状で、器面の風化が顕著、基部欠損品か	
52	スクレイパー	覆土	完形	7.3	5.9	1.3		50			細粒輝石安山岩	不定形で下側縁に刃部作出	
53	スクレイパー	覆土	欠損品	(5.3)	(4.3)	(1.1)		(25)			細粒輝石安山岩	片面に自然面残り剥片	
54	磨石	覆土	完形	7.9	5.5	3.7		193			粗粒輝石安山岩	やや扁平な卵形、表裏に打痕見られ、煤付着	
55	磨石	Pit 3	完形	12.8	9.0	4.5		728			砂岩	扁平な礫を利用、側縁端部所々に打痕見られる	
56	磨石	覆土	欠損品	(8.3)	7.8	4.5		(444)			デイサイト	両端部を欠損、両面を磨り面として使用、片面に凹み穴、被熱	
57	磨石	覆土	完形	11.9	6.3	3.6		401			粗粒輝石安山岩	やや扁平な長円礫、片面大きく剥落、端部に打痕あり	
58	磨石	覆土	欠損品	(9.6)	7.9	4.4		(472)			細粒輝石安山岩	やや扁平な円礫利用、表裏使用面で極めて平滑、片面に打痕顕著	
59	磨石	覆土	完形	11.7	5.7	3.3		323			粗粒輝石安山岩	棒状礫、先端部に僅かな打痕	
60	磨石	覆土	欠損品	(10.5)	7.8	7.6		(965)			粗粒輝石安山岩	棒状礫の端部で、側面使用面とし、部分的な剥離あり、被熱	
61	磨石	覆土	完形	5.4	4.0	2.0		63			粗粒輝石安山岩	小型の扁平な円礫利用、両面を使用	
62	多孔石	覆土	完形	22.8	16.2	10.6		6,400			粗粒輝石安山岩	大型の楕円形を呈す、表面に4カ所の凹み穴、下面は平らで摩耗痕	
63	磨石	覆土	完形	8.9	2.9	5.3		216			粗粒輝石安山岩	三角柱状で、各面は平坦で若干の使用見られる	
64	軽石製品	覆土	完形	6.2	4.0	1.0		8			軽石	逆U字状を呈す板状で下辺部はやや弧状に膨らむ、上部に穴を有す	
65	軽石製品	覆土	欠損品	(5.1)	4.1	1.2		(7)			軽石	板状で長方形か、下部を欠く、上部に穴を有す	

5-75号住居跡（第82・83図：PL128）

25	石鏃	覆土	完形	1.5	1.4	0.4	0.7				黒曜石	凹基無茎、脚が開く正三角形を呈す、片側縁に厚みあり	
26	石鏃	覆土	欠損品	(1.1)	(1.3)	0.3	(0.4)				黒曜石	先端部片	
27	打製石斧	覆土	ほぼ完形	9.8	4.9	2.1	122				細粒輝石安山岩	撥形、刃部片側を一部欠く、刃部および全体に摩耗が見られる	
28	打製石斧	覆土	欠損品	(7.8)	4.9	2.0	(92)				凝灰岩	撥形、刃部欠損時に片面も大きく剥離	
29	磨石	Pit 1	完形	14.6	8.8	5.6	1,085				粗粒輝石安山岩	やや大きめの長円礫利用、両面使用、端部に僅かな打痕あり	
30	磨石	覆土	完形	12.8	6.5	3.6	526				粗粒輝石安山岩	扁平な長円礫利用、両面磨り面	
31	多孔石	床面	完形	23.5	23.4	10.5	5,100				粗粒輝石安山岩	不定形でやや扁平な礫の両面に多数の凹み穴有す	

5-76号住居跡（第87図：PL129）

22	石鏃	炉覆土	欠損品	(1.8)	(1.0)	(0.3)	(0.7)				黒曜石	基部片側を欠損する	
23	石鏃	覆土	欠損品	(1.2)	(1.5)	(0.2)	(0.3)				黒曜石	凹基無茎、薄手の作り、先端部を欠く	
24	石鏃	覆土	欠損品	(1.2)	(0.8)	(0.3)	(0.2)				黒曜石	凹基無茎、脚片	
25	石鏃	覆土	完形	2.5	1.8	0.8	2.5				黒曜石	三角のつまみ部有し、錐部は短くやや扁平となる、全体に粗い作り	
26	楔形石器	覆土	完形	1.9	1.6	0.4	1.8				黒曜石	長方形を呈す、一側面に自然面残り、直交する辺に刃部作出	
27	打製石斧	覆土	欠損品	(9.7)	6.6	1.2	(106)				細粒輝石安山岩	板状で、幅広い短冊形であるが側縁部弱い挟りあり、刃部欠く	
28	打製石斧	覆土	欠損品	(8.6)	5.5	1.6	(106)				黒色頁岩	短冊形、片面に自然面残り、基部を欠く	
29	打製石斧	炉内	欠損品	(4.0)	4.1	0.8	(15)				細粒輝石安山岩	薄手の作り、基部片と見られる	
30	スクレイパー	覆土	欠損品	6.4	5.0	0.9	(23)				黒色頁岩	三角形を呈す、下辺に刃部を作出、欠損品か	
31	磨製石斧	覆土	欠損品	(5.3)	(2.5)	1.1	(26)				蛇紋岩	磨製石斧の側縁部分の破片と見られ、器面の剥離顕著	
32	磨石	覆土	完形	12.5	5.6	4.9	587				粗粒輝石安山岩	棒状礫、側面磨り面として使用、両端部に打痕	

5-77号住居跡（第93・94図：PL130）

19	石鏃	床面	完形	3.0	1.8	0.3	1.4				黒色安山岩	凹基無茎、作りは丁寧、両脚がやや内側に丸くなる	
20	石鏃	覆土	完形	1.9	1.2	0.3	0.7				黒色頁岩	凹基無茎、挟りは浅い、やや小型の製品	
21	石鏃	床面	ほぼ完形	1.5	1.3	0.5	0.8				黒曜石	小型品、平基鏃で、片面が肥厚し稜線を有す	
22	石鏃	覆土	完形	1.3	0.9	0.2	0.2				チャート	小型品、凹基であるがほとんど平基に近い形状、薄手の作り	
23	石鏃	覆土	欠損品	(1.3)	(1.7)	(0.4)	(0.7)				黒曜石	先端角大きく、基部の一部を欠く	
24	石鏃	覆土	欠損品	(1.1)	(1.0)	(0.3)	(0.2)				黒曜石	小型品、凹基無茎、挟りは僅か、比較的厚く、先端部を僅かに欠く	
25	石鏃	覆土	欠損品	(2.4)	(0.7)	(0.4)	(0.6)				黒曜石	片側を大きく欠く、基部の端に斑品	
26	石鏃	覆土	欠損品	(1.2)	(1.9)	(0.3)	(0.5)				黒曜石	凹基無茎、やや小型で先端部および片脚を欠く、薄手の作り	
27	石鏃	覆土	欠損品	(2.1)	(1.1)	(0.2)	(0.5)				黒曜石	凹基無茎、細身で作りは丁寧、先端および片脚を欠く	
28	石鏃	覆土	欠損品	(1.1)	(1.2)	(0.2)	(0.3)				黒曜石	凹基無茎、やや小型で先端部を欠く	
29	石鏃	覆土	ほぼ完形	1.5	0.9	0.2	0.3				黒曜石	平基無茎鏃と思われるが、全体に湾曲しており不確定	
30	石鏃	覆土	ほぼ完形	1.5	1.6	0.4	0.4				黒曜石	錐部片か、断面は基部はほぼ方形であるが先端部は六角形となる	
31	石鏃	床面	完形	3.1	1.0	0.5	1.1				環状頁岩(凝灰岩)	細長い二等辺三角を呈す優品、錐部の断面は菱形に作られる	
32	打製石斧	Pit 9	欠損品	(8.4)	5.2	2.1	(120)				細粒輝石安山岩	撥形と思われるが、刃部を欠く	
33	スクレイパー	床面	完形	8.1	7.2	1.8	83				黒色安山岩	ほぼ台形を呈す、片側縁、下辺部に刃部作出	
34	スクレイパー	床面	完形	11.0	6.7	1.8	117				黒色安山岩	木の葉形を呈し、肩部に打点を有す剥片利用、両側縁に刃部作出	
35	礫器	床面	完形	10.7	9.0	3.8	370				黒色安山岩	片面に大きく自然面残り、大型礫から割り取られた一次剥片	
36	スクレイパー	Pit 11	完形	5.3	4.5	1.0	23				黒色安山岩	ほぼ扇形で二辺に刃部作出、一辺は弧状、一辺は凹刃である	
37	小型磨製石斧	床面	ほぼ完形	3.3	1.9	0.7	8.0				凝灰岩	19号ピット内出土、小型定角式、刃部薄く摩耗顕著、刃先一部欠く	
38	小型磨製石斧	床面	ほぼ完形	5.1	2.4	0.9	18.5				蛇紋岩	19号ピット内出土、小型定角式、刃部使用による欠損顕著	
39	磨石	床面	完形	12.8	10.1	5.6	1,025				粗粒輝石安山岩	やや扁平な円礫利用、両面磨り面とし浅い凹み穴有す、若干煤付着	
40	磨石	覆土	完形	11.9	7.8	3.9	542				粗粒輝石安山岩	扁平な礫利用、両面、側面を使用、さらに表裏に一つ一つの凹み穴	
41	磨石	床面	完形	10.1	8.1	4.2	523				粗粒輝石安山岩	やや扁平な円礫利用、両面磨り面として使用、浅い凹み穴見られる	
42	磨石	床面	完形	10.3	7.6	4.4	420				粗粒輝石安山岩	不定形な礫、両面がほぼ平らで使用面とする	
43	磨石	床面	欠損品	(13.9)	9.5	3.4	(591)				粗粒輝石安山岩	扁平な小判形を呈す、両面磨り面とし凹み穴が見られる、端部欠く	
44	石皿	床面	ほぼ完形	35.9	24.6	10.5	14.1kg				粗粒輝石安山岩	やや扁平な礫の一面を浅く凹ませ使用面とする	
45	小型石棒	床面	完形	10.5	1.1	1.2	20.3				緑色片岩	両頭の小型石棒	

第3章 検出された遺構と遺物

5—78号住居跡（第99～101図：PL132）

遺物No	器種	出土位置	残存	計測値	長さ	幅	厚さ(cm)	重さ(g)	石材	特徴	備考
50	石鏃	覆土	欠損品	(2.9)	(1.5)	0.3	(1.0)		黒曜石	凹基無茎、片方の脚を欠く	
51	石鏃	覆土	欠損品	(1.7)	(1.1)	0.2	(0.5)		黒曜石	凹基無茎、やや小型で片面平らな原石面残る	
52	石鏃	覆土	欠損品	(1.9)	(1.2)	0.3	(0.7)		黒曜石	平基無茎、わずかに片側の下辺部を欠く	
53	石鏃	覆土	欠損品	(2.8)	(1.2)	0.2	(0.6)		黒曜石	下部を欠損、欠損部が直線的に折れている	
54	石鏃	覆土	欠損品	(1.3)	(1.2)	0.2	(0.6)		黒曜石	凹基無茎、先端部が直線的に折れている	
55	石鏃	覆土	欠損品	(1.6)	(1.2)	0.3	(0.6)		黒曜石	凹基無茎、両脚はやや丸みを持って膨らむ、先端部が直線的に折れる	
56	石鏃	覆土	欠損品	(1.5)	(1.3)	0.3	(0.7)		黒曜石	凹基無茎、先端部および片側の脚を欠く	
57	石鏃	覆土	欠損品	(1.4)	(1.1)	0.2	(0.5)		チャート	凹基無茎、先端を欠く、薄手の作り	
58	石鏃	覆土	欠損品	(2.3)	(0.8)	0.4	(0.7)		黒曜石	基部を欠損、鋸部断面はやや半円状を呈す	
59	石鏃	覆土	欠損品	(2.1)	(0.6)	0.3	(0.5)		黒曜石	やや曲がりを持つ鋸部片、先端部を欠く	
60	石鏃	覆土	欠損品	(1.5)	(0.5)	0.3	(0.2)		黒曜石	先端部細く尖る鋸部片	
61	打製石斧	床面	完形	12.3	4.0	2.9	148		黒色頁岩	撥形、中央部分がやや膨らみ基部、刃部が薄くなる	
62	打製石斧	床面	完形	14.1	4.2	2.1	197		細粒輝石安山岩	撥形、片側縁は厚く自然面ほとんど無調整、刃部摩耗	
63	打製石斧	覆土	完形	11.4	4.0	2.0	115		黒色頁岩	細身の短冊形、やや厚みを有し表面片側に自然面残る	
64	打製石斧	覆土	完形	9.8	5.8	2.4	141		細粒輝石安山岩	撥形、刃部やや薄手となり広がりを持つ	
65	打製石斧	覆土	完形	12.2	5.9	1.5	121		細粒輝石安山岩	短冊形、薄手の円刃、板状の自然面を利用、両面に自然面残す	
66	打製石斧	覆土	ほぼ完形	(11.1)	5.0	1.6	(136)		細粒輝石安山岩	短冊形、薄手の突刃で摩耗顕著	
67	打製石斧	覆土	欠損品	(11.5)	(6.4)	(2.1)	(242)		細粒輝石安山岩	撥形、両側縁は丁寧に刃潰しされている、刃部先端部を欠く	
68	打製石斧	覆土	完形	10.7	4.8	1.5	91		黒色頁岩	撥形、やや内側に反りを持つ、刃部摩耗	
69	打製石斧	覆土	ほぼ完形	10.2	3.8	1.3	86		細粒輝石安山岩	短冊形、薄手の作り、片面に自然面残る、刃部摩耗、被熱	
70	打製石斧	覆土	完形	9.1	4.1	1.6	82		細粒輝石安山岩	短冊形、やや細身で基部が厚く刃部に向かって薄くなる	
71	打製石斧	覆土	完形	12.2	4.3	1.0	92		細粒輝石安山岩	短冊型であるが、両端がやや細くなる、基部は斜めの打面を残す	
72	打製石斧	覆土	ほぼ完形	(10.5)	5.5	2.3	(115)		細粒輝石安山岩	撥形、刃部は丸みを持つなすび形で片面に自然面	
73	打製石斧	床面	完形	10.4	4.6	1.2	83		細粒輝石安山岩	扁平な一次剥片を利用、片側縁は厚みが有り無調整である	
74	スクレイパー	床面	完形	8.6	6.4	2.2	131		細粒輝石安山岩	台形の大型剥片を利用、3側縁に刃部を作出	
75	打製石斧	覆土	欠損品	(5.4)	5.0	1.5	(48)		頁岩	打製石斧の基部片、両側縁に弱い抉りあり	
76	打製石斧	覆土	欠損品	(4.0)	4.4	2.1	(40)		黒色頁岩	打製石斧の基部片と見られ、厚みがある	
77	スクレイパー	覆土	完形	7.0	4.3	1.0	27		黒色頁岩	三角形を呈す、片面に自然面、直線的な刃部を下辺に作出	
78	打製石斧	覆土	欠損品	(7.4)	3.2	1.3	(40)		黒色頁岩	打製石斧の刃部片にも見えるが欠け口に調整痕あり	
79	楔形石器	覆土	完形	4.8	3.4	1.2	28		黒色頁岩	長方形を呈し、片面平らで刃部は薄手	
80	スクレイパー	覆土	完形	7.1	9.1	1.4	89		細粒輝石安山岩	薄手で楕円形を呈す、一側縁部に簡単な刃部を作出、摩耗見られる	
81	凹石	覆土	完形	10.4	7.2	4.5	238		軽石	扁平な俵形を呈す、両面に凹み穴、石質脆く表面が風化	
82	磨石	床面	完形	11.9	8.3	4.3	675		粗粒輝石安山岩	扁平な長円礫、両面使用、端部に打痕あり	
83	磨石	床面	完形	10.9	10.1	4.9	785		粗粒輝石安山岩	やや扁平な円礫、両面使用により平滑	
84	磨石	覆土	完形	9.8	8.4	5.5	712		粗粒輝石安山岩	やや扁平な円礫、両面使用	
85	磨石	覆土	完形	6.9	5.8	5.0	272		粗粒輝石安山岩	卵形の円礫、打痕あり	
86	磨石	覆土	完形	7.2	5.4	1.7	89		粗粒輝石安山岩	扁平な小円礫、両面使用	
87	磨石	覆土	完形	5.4	4.2	3.6	117		粗粒輝石安山岩	小円礫、表面平滑	
88	玉	覆土	欠損品	(2.1)	1.1	(0.5)	(1.9)		ヒスイ	不正長台形、片面剝離が見られ、両面に穿孔痕見られる。研磨整形	

5—79号住居跡（第103図：PL133）

9	打製石斧	覆土	完形	12.1	6.1	2.3	192		細粒輝石安山岩	撥形、片側縁がほとんど無調整で、自然面が残る、刃部摩耗	
10	打製石斧	覆土	欠損品	(3.9)	5.4	1.0	(37)		粗粒輝石安山岩	板状礫を利用、両面に自然面、側縁両面に調整痕あり、基、刃部欠く	

5—80号住居跡（第106図：PL133）

14	石鏃	覆土	欠損品	(1.7)	(1.0)	0.4	(0.7)		黒曜石	凹基無茎、抉りは浅く、片側の脚を欠く裏面に原石面残す	
15	石鏃	覆土	欠損品	(1.8)	(1.1)	0.3	(1.1)		黒曜石	石鏃の未製品か、V字縁辺部に調整痕	
16	打製石斧	覆土	欠損品	(4.5)	(5.2)	(0.8)	(31)		細粒輝石安山岩	円刃の欠損品か、薄手の作り	
17	磨石	床面	完形	11.8	8.7	4.2	670		粗粒輝石安山岩	やや扁平な川原石利用、両面使用浅い打痕、側縁にも打痕あり	
18	磨石	覆土	完形	27.0	8.0	4.9	1,390		石英閃緑岩	大型の棒状礫、端部に円形の被熱痕	
19	石皿	覆土	欠損品	(30.2)	(21.6)	(8.5)	(5,590)		粗粒輝石安山岩	縁の一部を欠く、楕円形で舟部は深く作られる、裏面に複数の凹み穴	

5—81号住居跡（第109・110図：PL133・134）

11	石鏃	覆土	完形	1.5	0.8	0.2	0.3		黒曜石	凹基無茎、小型品、抉りは浅い	
12	石鏃	覆土	完形	2.3	0.9	0.3	1.0		黒色頁岩	二等辺三角形を呈す、両面平坦部見られ、作りは粗い	
13	石鏃	覆土	欠損品	(1.5)	(1.0)	0.2	(0.3)		黒曜石	凹基無茎か、小型品、片側の脚を大きく欠く	
14	石鏃	床面	欠損品	(1.6)	(1.1)	0.3	(0.5)		黒曜石	凹基無茎、小型品、抉りはやや丸みを持つ	
15	石鏃	覆土	欠損品	(2.8)	(1.4)	0.2	(1.0)		黒曜石	片面局部磨製、凹基無茎で扁平な作り、片脚を欠く	
16	石鏃	覆土	欠損品	(1.0)	(1.0)	0.2	(0.4)		黒曜石	凹基無茎、先端部を欠く	
17	石鏃	覆土	欠損品	(1.7)	(1.1)	0.4	(1.1)		黒曜石	やや不定形な欠損品、石鏃つまみ部の可能性もある	
18	石鏃	覆土	欠損品	(1.2)	(0.4)	0.2	(0.2)		黒曜石	鋸部の欠損品	
19	打製石斧	床面	完形	10.3	6.4	2.0	164		細粒輝石安山岩	撥形、基部両側縁に浅く抉りが見られる、刃部は広がり摩耗あり	
20	打製石斧	覆土	完形	10.5	4.6	2.0	108		細粒輝石安山岩	短冊形、刃部はやや薄くなり摩耗	
21	打製石斧	床面	欠損品	(9.9)	(5.1)	(1.6)	(87)		黒色安山岩	撥形、基部の一部を欠く、刃部摩耗	
22	打製石斧	炉内	完形	10.3	6.0	1.9	248		紫輝石燻輝石山岩	長さが無く薄刃の円刃、基部は著しく肥厚する、基部の上端が平ら	
23	打製石斧	覆土	完形	10.1	4.6	2.0	73		粗粒輝石安山岩	撥形であるが刃部、基部に丸みを持つ、片側縁部が肥厚	
24	打製石斧	覆土	欠損品	(9.3)	3.8	1.7	(69)		細粒輝石安山岩	撥形、刃部を斜めに欠く	
25	打製石斧	床面	欠損品	(8.2)	4.6	1.9	(88)		細粒輝石安山岩	短冊形、基部欠損、刃部は薄手	
26	スクレイパー	覆土	完形	10.6	4.6	0.8	38		黒色安山岩	木の葉形の一次剥片利用、両側縁に簡単な刃部作出	
27	石核	床面	完形	8.7	7.0	5.2	348		黒色安山岩	円礫片、片面に自然面	
28	磨製石斧	覆土	破片	(3.0)	(2.1)	(0.5)	(5.6)			磨製石斧の剥離片	
29	磨石	覆土	欠損品	(5.1)	4.5	2.3	(69)		細粒輝石安山岩	やや軟質の石材、割れており敲打痕顕著、火を受けている	
30	凹石	床面	完形	8.7	8.0	4.0	379		粗粒輝石安山岩	円礫利用、やや丸みを帯びた片面に凹み穴を有す、ひび割れあり	

第3節 縄文時代の遺構と遺物

5-81号住居跡 (第109・110図: PL133・134)

遺物No	器種	出土位置	残存	計測値	長さ	幅	厚さ(cm)	重さ(g)	石材	特徴	備考
31	磨石	覆土	ほぼ完形	10.7	8.7	5.9	836	粗粒輝石安山岩	両面、縁辺部使用、浅い一對の凹み有す、端部破損		
32	磨石	床面	完形	9.3	7.8	6.0	575	粗粒輝石安山岩	円礫利用、両面および端部に打痕あり		
33	磨石	床面	欠損品	(10.3)	(7.2)	(4.8)	(493)	石英閃緑岩	側縁部、端部剥落あり、被熱		

5-82号住居跡 (第113・114図: PL134)

29	打製石斧	覆土	完形	11.3	4.7	1.5	89	黒色頁岩	撥形、全体にわずかな反りが見られ、刃部摩耗		
30	打製石斧	覆土	完形	10.4	4.5	1.5	92	紫輝石燧石山岩	撥形、内側に自然面残る、刃部調整は縁辺部に限られる、刃部摩耗		
31	打製石斧	覆土	欠損品	(7.2)	4.8	2.0	(117)	細粒輝石安山岩	厚手でつくりは粗い、刃部、基部を欠損、撥形か		
32	磨石	覆土	完形	11.4	7.8	3.9	553	粗粒輝石安山岩	扁平な楕円形礫利用、両面に一對の浅い打痕状の凹み、使用痕顕著		
33	凹石	覆土	完形	14.3	5.9	5.7	638	粗粒輝石安山岩	棒状礫利用、対面に2個の凹み穴が見られる		
34	磨石	床面	完形	8.9	6.9	5.2	505	粗粒輝石安山岩	円礫利用、側面部に磨り跡、敲打痕あり		
35	磨石	覆土	完形	6.1	5.2	5.1	236	粗粒輝石安山岩	小円礫、全面使用		
36	磨石	覆土	完形	12.4	5.8	3.9	414	粗粒輝石安山岩	棒状礫利用、片面に使用による摩耗見られる		
37	磨石	覆土	完形	5.1	5.0	2.2	73	粗粒輝石安山岩	扁平な小円礫、ひび割れ、表面には鉄分沈着層か		
38	磨石	覆土	完形	12.6	6.1	2.0	262	粗粒輝石安山岩	扁平で不定形を呈す、平らな1面を使用か		
39	磨石	覆土	完形	12.0	5.4	4.0	452	粗粒輝石安山岩	角棒状の礫利用、側面、端部を使用		
40	磨石	覆土	完形	9.8	4.6	3.4	219	石英閃緑岩	棒状の川原石、やや平らな1面に使用痕		

5-83号住居跡 (第128~130図: PL138・139)

173	石鏃	覆土	欠損品	(2.0)	(1.1)	0.3	(0.5)	黒曜石	凹基無茎、抉りが深く端正な作り		
174	石鏃	覆土	欠損品	(1.2)	(0.5)	0.3	(0.2)	黒曜石	凹基無茎、小型品、やや厚みがあり三叉状を呈す		
175	石鏃	覆土	欠損品	(1.9)	(1.0)	0.4	(0.8)	碧玉	平基無茎、片脚をわずかに欠く		
176	石鏃	覆土	欠損品	(1.5)	(1.0)	0.3	(0.5)	黒曜石	先端部片		
177	石鏃	覆土	欠損品	(1.1)	(1.0)	0.2	(0.3)	黒曜石	凹基無茎、やや薄い作りで先端部を欠く		
178	石核	覆土	完形	5.2	3.6	3.5	61.0	珪質頁岩	多方向からの剝離が行われている、自然面も比較的残る		
179	スクレイパー	覆土	完形	8.0	6.5	1.7	68	黒色安山岩	扇形を呈す、下縁に刃部作出、片面に自然面		
180	スクレイパー	覆土	完形	11.5	3.2	1.1	55	黒色安山岩	細長い木の葉形で両側縁部に簡単な刃部を作出		
181	スクレイパー	覆土	完形	5.8	5.3	1.5	52	チャート	不定形で上部に自然面、直線的な下辺部に刃部を作出		
182	磨製石斧	床面	欠損品	(4.5)	4.0	2.3	(76)	蛇紋岩	定角式の基部片		
183	磨製石斧	床面	欠損品	(6.6)	4.2	2.8	(136)	蛇紋岩	磨製石斧欠損品の転用品か、両端部再研磨され稜を作り出す		
184	磨石	床面	完形	10.6	7.3	3.0	294	粗粒輝石安山岩	扁平な長円礫、両面に使用面、2カ所の凹み穴有し、端部にも打痕		
185	磨石	覆土	完形	12.8	8.5	4.8	705	粗粒輝石安山岩	楕円形の礫利用、両面に使用痕、2カ所の浅い凹み穴両面にあり		
186	凹石	床面	完形	9.8	11.1	4.3	216	軽石	中央に凹み穴有し裏側は平らで磨り面として利用か、発泡質の石材		
187	磨石	覆土	ほぼ完形	12.9	7.8	5.0	768	粗粒輝石安山岩	両面、側面使用、端部に打痕、両面に浅い2カ所の浅い凹穴、被熱		
188	磨石	覆土	完形	11.6	8.7	4.9	700	粗粒輝石安山岩	やや扁平な長円礫利用、両面の使用痕顕著		
189	磨石	床面	欠損品	(9.0)	5.6	3.0	(231)	細粒輝石安山岩	やや扁平な長円礫を利用、両面に浅い凹穴、側縁、端部に打痕		
190	磨石	床面	完形	17.2	6.5	5.6	856	石英閃緑岩	断面三角の棒状を呈す、1面に浅い凹み穴、端部には打痕		
191	磨石	覆土	完形	9.8	5.2	4.6	322	粗粒輝石安山岩	小振りの川原石利用、両端部にわずかな打痕あり		
192	磨石	覆土	完形	8.1	5.3	2.7	178	粗粒輝石安山岩	扁平な長円礫、両面に使用痕		
193	磨石	覆土	完形	8.8	4.5	2.9	163	粗粒輝石安山岩	小振りの川原石利用、片面平ら		
194	磨石	覆土	欠損品	(7.7)	(4.0)	5.1	(186)	粗粒輝石安山岩	破片、やや厚みのある礫で両面使用面、側面部に打痕、被熱あり		
195	砥石	覆土	完形	9.4	9.8	1.8	219	砂岩	板状の礫利用、両面平滑で中央部が使用により浅く凹む		
196	磨石	床面	完形	5.8	5.2	4.1	165	粗粒輝石安山岩	小円礫、両面に使用痕		
197	敲石	床面	完形	16.3	6.2	4.0	543	粗粒輝石安山岩	断面三角の棒状を呈す、端部に打痕		
198	磨石	床面	欠損品	(7.2)	7.9	5.1	(444)	粗粒輝石安山岩	やや厚みのある楕円礫、両面使用、両端部を欠く		
199	磨石	床面	完形	11.3	6.4	1.1	222	緑色片岩	緑色の扁平な礫利用、側縁部磨られて薄くなっている。		
200	石皿	覆土	欠損品	(18.2)	(8.6)	4.1	(1,042)	多孔質安山岩	欠損品、発泡質の石材を使用、裏面に凹み穴あり		
201	多孔石	床面	完形	22.9	20.6	11.6	6,100	粗粒輝石安山岩	周囲を欠いた自然石、上面に小振りの凹み穴が10個ほど穿たれる		
202	多孔石	床面	完形	28.7	18.9	15.7	7,100	粗粒輝石安山岩	不定型な自然礫のほぼ全面に大小の凹み穴が穿たれている		
203	石冠	覆土	完形	6.9	5.3	4.3	61	軽石	発泡質の石を研磨した家型の石製品、被熱しているか		

5-84号住居跡 (第135・136図: PL140)

20	石鏃	覆土	欠損品	(2.2)	(1.2)	0.2	(0.7)	黒曜石	凹基無茎、抉りは丸く、丁寧な作り		
21	石鏃	覆土	欠損品	(2.1)	(1.4)	0.6	(1.7)	黒色安山岩	凹基無茎、抉りは浅く片面に瘤状の膨らみを有す		
22	石鏃	覆土	欠損品	(1.9)	(1.4)	0.5	(1.6)	黒曜石	石鏃の未成品か		
23	石鏃	覆土	欠損品	(1.6)	(0.7)	0.2	(0.4)	黒曜石	下辺部を欠く、脚がやや開く形か		
24	石鏃	覆土	欠損品	(1.5)	(1.1)	0.2	(0.5)	黒曜石	凹基無茎、先端部および片側の脚を欠く、下辺部が薄く作られる		
25	石鏃	覆土	欠損品	(1.8)	(1.2)	0.3	(1.1)	黒曜石	凹基無茎であるが抉りは浅い、先端部欠き全体に振れ、粗い作り		
26	石鏃	覆土	欠損品	(0.9)	(1.0)	0.2	(0.3)	黒曜石	凹基無茎であるが抉りは浅い、先端部欠き薄手の作り		
27	石鏃	覆土	欠損品	(1.8)	(0.5)	0.4	(1.0)	黒曜石	錐部片先端および基部を欠き、やや捻れを有す		
28	打製石斧	覆土	ほぼ完形	9.9	5.3	1.4	94	細粒輝石安山岩	撥形、刃部が広がって先端部をわずかに欠く		
29	スクレイパー	床面	完形	7.7	3.7	0.7	42	細粒輝石安山岩	わずかに弧状を呈す両側縁に刃部作出		
30	打製石斧	覆土	欠損品	(4.3)	4.8	1.6	(47)	細粒輝石安山岩	刃部の欠損品、摩耗あり		
31	磨製石斧	床面	欠損品	(10.0)	(4.8)	2.3	(155)	蛇紋岩	定角式、側縁の稜はしっかり作られる。刃部の片側を欠く		
32	磨石	覆土	完形	11.5	9.7	5.6	903	粗粒輝石安山岩	やや扁平な円礫利用、両面使用		
33	磨石	床面	完形	13.8	7.3	3.5	529	粗粒輝石安山岩	扁平な長円礫、両面に使用痕、浅い凹み穴見られる		
34	磨石	覆土	完形	14.1	4.6	4.2	470	粗粒輝石安山岩	棒状礫利用		
35	磨石	床面	完形	9.8	6.8	5.3	547	粗粒輝石安山岩	卵形の礫、両面使用、被熱		
36	台石	床面	完形	17.9	17.0	5.8	2,700	粗粒輝石安山岩	扁平な円礫利用、両面使用、被熱		
37	石棒	覆土	欠損品	(7.9)	3.2	2.2	(74)	結晶片岩	大型石棒の破片と思われる、被熱あり		

5-85号住居跡 (第139・140図: PL141)

26	石核	床面	完形	7.5	4.3	1.7	66.5	黒曜石	側縁の一部に丸く自然面残す、やや扁平な石核片		
27	磨石	床面	完形	10.2	8.5	5.7	713	デイサイト	やや扁平な円礫、表面の剝落顕著で、茶褐色の鉄分沈着あり		
28	磨石	覆土	完形	9.6	4.0	2.9	165	細粒輝石安山岩	棒状の川原石、表面平滑		

第3章 検出された遺構と遺物

5-85号住居跡 (第139・140図: PL141)

遺物No	器種	出土位置	残存	計測値	長さ	幅	厚さ(cm)	重さ(g)	石材	特徴	備考
29	磨石	覆土	欠損品	3.8	1.9	(1.3)	(7.5)		緑色片岩	やや扁平な石棒の頭部小片か	

5-86号住居跡 (第142図: PL141)

10	スクレイパー	覆土	完形	8.4	6.3	2.1	103		黒色頁岩	厚みを持った一次剥片利用、下刃に簡単な刃部作出	
11	磨石	覆土	ほぼ完形	7.0	6.2	5.8	325		粗粒輝石安山岩	下面に平らな磨り面有し、側面、上面に打痕見られる	
12	磨石	床面	完形	10.8	6.8	5.0	548		石英閃緑岩	断面がほぼ三角を呈し、両端部に打痕見られる	
13	軽石製品	覆土	完形	5.5	4.3	1.4	15.6		軽石	板状の隅丸方形を呈す、やや張り出した角に円孔と中央に未通孔あり	

5-87号住居跡 (第145・146図: PL141)

8	石鏃	覆土	欠損品	(1.1)	(0.9)	0.2	(0.3)		黒曜石	凹基無茎、小型品、抉りは深く側縁部にわずかな膨らみを持つ	
9	石鏃	覆土	欠損品	(1.5)	(1.2)	0.3	(0.6)		黒曜石	凹基無茎、抉りは浅くほぼ正三角形を呈す	
10	石鏃	覆土	欠損品	(1.3)	(1.1)	0.3	(0.6)		黒曜石	凹基無茎、先端部を欠く、脚部が丸みを持って開く形状か	
11	石鏃	覆土	欠損品	(1.5)	(1.2)	0.3	(0.5)		黒曜石	凹基無茎、脚はやや開く、扁平な剥片を用い、側縁調整のみで作出	
12	石鏃	覆土	欠損品	(2.9)	(1.0)	0.3	(0.9)		黒曜石	凹基無茎、片脚および側縁の一部を欠損、作りは端正	
13	石鏃	覆土	欠損品	(1.8)	(1.2)	0.4	(1.1)		黒曜石	凹基無茎、片脚および先端部を欠く	
14	石鏃	覆土	欠損品	(2.1)	(0.7)	0.6	(1.3)		黒曜石	鏃部、先端部細くなる	
15	磨製石斧	床面	欠損品	12.4	5.6	3.3	477		蛇紋岩	刃部は欠損後に再研磨し鈍角としている、敲石として再利用か	
16	スクレイパー	床面	完形	4.9	3.8	1.4	22		珪質頁岩	不定型な小剥片の側縁に細かい刃部を作出	
17	磨石	覆土	完形	11.0	9.4	8.2	349		粗粒輝石安山岩	やや平坦な一面に使用痕	
18	磨石	覆土	完形	12.3	7.1	5.2	660		粗粒輝石安山岩	長円形、両端部に打痕あり	
19	磨石	覆土	完形	9.4	8.5	7.1	839		粗粒輝石安山岩	両面に使用痕、側縁端部に打痕、被熱	
20	磨石	覆土	欠損品	(16.0)	6.5	4.2	(674)		粗粒輝石安山岩	扁平な棒状礫、両面使用し側縁の一部に打痕あり	
21	磨石	覆土	完形	9.9	8.5	7.2	824		粗粒輝石安山岩	一部に平坦面有す円礫、平坦面部分を使用面とする	
22	磨石	覆土	完形	11.8	4.3	4.1	1,199		紫輝石普通輝石安山岩	棒状の川原石利用	
23	磨石	覆土	完形	7.0	4.2	2.4	98		粗粒輝石安山岩	小型の扁平長円礫利用、片面の使用痕顕著	
24	石棒	覆土	欠損品	(5.4)	(2.4)	(1.8)	(27)		緑色片岩	やや大型の石棒片	

5-88号住居跡 (第151~153図: PL142)

35	石鏃	覆土	ほぼ完形	1.4	0.6	0.1	0.2		黒曜石	凹基無茎の小型品	
36	打製石斧	覆土	完形	15.2	7.0	1.9	156		紫輝石普通輝石安山岩	撥形、薄手で刃部が広がる、作りは粗い	
37	打製石斧	床面	ほぼ完形	10.0	4.7	1.9	114		細粒輝石安山岩	撥形、基部をわずかに欠くか、表面に自然面、刃部厚く摩耗顕著	
38	打製石斧	覆土	欠損品	(8.2)	5.0	1.9	(107)		細粒輝石安山岩	撥形か、基部を欠く、刃部がやや斜めに作出される	
39	打製石斧	覆土	欠損品	(11.0)	4.9	2.8	(171)		細粒輝石安山岩	撥形、刃部を欠く、厚み有し側縁部刃潰し	
40	石核	覆土	完形	9.8	8.4	5.0	475		黒色安山岩	粗割された残石核で3分の1程の自然面のこる	
41	磨石	床面	欠損品	(10.0)	7.5	5.6	(511)		粗粒輝石安山岩	ほぼ半分は割れた円礫、被熱による剝離、ひび割れ顕著	
42	磨石	覆土	ほぼ完形	10.5	7.6	4.8	609		紫輝石普通輝石安山岩	やや扁平な俵形の礫、表面に打痕、また片面中央に浅い凹み穴	
43	磨石	覆土	完形	9.7	7.9	6.6	616		粗粒輝石安山岩	円礫、被熱によるひび割れ顕著	
44	磨石	覆土	完形	9.1	6.8	5.6	537		粗粒輝石安山岩	卵形の礫、表面は平滑	
45	磨石	覆土	完形	10.7	5.6	2.4	269		粗粒輝石安山岩	扁平な礫利用、両面に使用痕	
46	丸石	床面	完形	15.2	12.9	1.1	3,180		石英閃緑岩	表面は平滑	
47	石棒	炉	欠損品	(21.4)	8.8	7.8	(2,200)		緑色片岩	有段の頭部を持ち体部にも稜が見られ、以下欠損、先端部摩耗	炉に敷設
48	多孔石	床面	ほぼ完形	18.8	16.8	17.3	6,400		粗粒輝石安山岩	上部を一部欠く大型角柱状礫、1側面および上面に複数の凹み穴	

5-89号住居跡 (第155図: PL142・143)

10	石鏃	覆土	欠損品	(1.3)	(0.9)	0.2	(0.3)		黒曜石	凹基無茎、小型品で扁平な剥片を用い側縁部のみ刃部調整	
11	石鏃	覆土	欠損品	(2.0)	(1.0)	0.3	(0.6)		黒曜石	凹基無茎、片脚をわずかに欠く	
12	石鏃	覆土	ほぼ完形	2.8	1.8	0.5	1.3		紫輝石普通輝石安山岩	凹基無茎、抉り部は小さく、片面平らで全体に厚手	
13	石鏃	覆土	ほぼ完形	2.5	1.6	0.5	1.9		黒曜石	凹基無茎だが抉りは極めて浅い、片面に膨らみを有す	
14	石鏃	覆土	欠損品	(1.2)	(1.2)	0.2	(0.3)		黒曜石	基部を欠く	
15	石鏃	覆土	欠損品	(2.7)	(1.3)	0.5	(1.6)		黒曜石	脚部を欠く、やや厚手であるが先端部は細く鋭利な作り	
16	石鏃	覆土	欠損品	(1.8)	(1.1)	0.3	(0.6)		黒曜石	凹基無茎、片脚を欠く	
17	石鏃	覆土	欠損品	(1.9)	(0.4)	0.2	(0.3)		黒曜石	細身の鏃部片	
18	打製石斧	覆土	欠損品	(6.6)	5.1	1.7	(87)		紫輝石普通輝石安山岩	短冊形の基部片	
19	スクレイパー	床面	完形	9.5	6.9	2.6	132		黒色頁岩	厚みを持った台形を呈す、斜辺部に細かな調整	

5-90号住居跡 (第159図: PL143)

21	石鏃	覆土	欠損品	(2.1)	2.1	0.3	(1.1)		黒曜石	欠けで不整形、製作途中の破損か	
22	石鏃	炉	完形	2.9	1.7	0.5	1.2		黒曜石	棒状鏃、鏃部断面が丸みを呈す	
23	石鏃	覆土	完形	3.4	1.7	0.4	1.2		黒曜石	板状の剥片を利用、両側縁を調整し先端部を尖らせている	
24	打製石斧	床面	欠損品	(8.5)	4.7	1.5	(67)		紫輝石普通輝石安山岩	撥形か、刃部を欠く、片面に自然面残る、作りはやや粗い	
25	磨製石斧	床面	欠損品	(7.1)	4.1	1.9	(94)		蛇紋岩	定角式、基部の破片	
26	磨石	床面	完形	6.8	6.4	4.4	290		粗粒輝石安山岩	やや扁平な円礫、表面平滑	

5-91号住居跡 (第161図: PL143)

14	石鏃	覆土	欠損品	(1.2)	1.3	0.2	(0.5)		黒色安山岩	凹基無茎、作りは粗い、先端部を欠く	
15	磨石	床面	ほぼ完形	12.4	6.0	3.3	387		細粒輝石安山岩	扁平な小判形礫、両面使用、それぞれの面に浅く一対ずつの凹み穴	

5-92号住居跡 (第165~167図: PL144・145)

30	石鏃	覆土	完形	3.1	2.0	0.3	1.5		黒曜石	凹基無茎、抉り部は丸く、全体に薄く丁寧に作られている	
31	石鏃	覆土	完形	2.2	1.6	0.3	1.0		黒曜石	凹基無茎、抉りは浅く側縁が鋸歯状を呈す	
32	石鏃	覆土	ほぼ完形	1.8	1.3	0.3	0.6		黒曜石	凹基無茎、脚は短く左右非対称に作られている	
33	石鏃	覆土	ほぼ完形	1.6	0.9	0.2	0.3		黒曜石	凹基無茎であるが、小型で抉りは小さい、両側縁はやや膨らみを有す	
34	石鏃	覆土	ほぼ完形	2.0	1.3	0.4	0.8		黒曜石	凹基無茎、左右非対称である、未製品か	
35	石鏃	覆土	欠損品	(1.8)	(1.0)	(0.3)	(0.3)		紫輝石普通輝石安山岩	細身の作り、基部を欠く	

第3節 縄文時代の遺構と遺物

5-92号住居跡(第165~167図: PL144・145)

遺物No	器種	出土位置	残存	計測値	長さ	幅	厚さ(cm)	重さ(g)	石材	特徴	備考
36	石鏃	覆土	ほぼ完形	1.9	1.6	0.4	1.0		黒色安山岩	平基無莖、板状片を利用、粗い作り	
37	石鏃	覆土	ほぼ完形	1.2	0.9	0.2	0.3		黒曜石	凹基無莖であるが挟りはわずかである、小型で石材は透明度高い	
38	石鏃	覆土	欠損品	1.7	(1.4)	0.2	(0.5)		黒曜石	凹基無莖、片脚を欠損	
39	石鏃	覆土	欠損品	2.2	(1.3)	0.3	(1.0)		黒曜石	粗い作りである、基部を斜めに欠損か	
40	石鏃	覆土	欠損品	1.6	(1.0)	0.2	(0.3)		黒曜石	基部欠損、やや細身の作り	
41	石鏃	覆土	ほぼ完形	1.7	1.0	0.4	0.6		黒曜石	突基鏃か、小型品	
42	石鏃	覆土	欠損品	(1.5)	1.2	0.3	(0.4)		黒曜石	基部を欠く	
43	石鏃	覆土	欠損品	(1.1)	1.0	0.3	(0.4)		黒曜石	凹基無莖、基部片	
44	石鏃	覆土	欠損品	(1.4)	1.2	0.3	(0.5)		黒曜石	基部を欠く	
45	石鏃	覆土	欠損品	1.2	(0.7)	0.2	(0.2)		黒曜石	先端部片	
46	石鏃	覆土	欠損品	(1.1)	1.1	0.3	(0.3)		黒曜石	先端部あるいは脚部片か	
47	石鏃	覆土	ほぼ完形	1.4	1.3	0.4	0.9		黒曜石	平基無莖、先端部が厚みを増し、やや反っている、作りは粗い	
48	石鏃	覆土	欠損品	(0.8)	0.5	0.2	(0.3)		黒曜石	凹基無莖で先端部を大きく欠損、薄手で作りは丁寧	
49	石鏃	覆土	欠損品	(1.6)	1.3	0.4	(0.7)		黒曜石	基部および先端部を欠く	
50	石鏃	覆土	欠損品	(1.3)	1.2	0.4	(0.5)		黒曜石	先端部片か	
51	石鏃	覆土	欠損品	(1.4)	(0.9)	0.3	(0.4)		黒曜石	凹基無莖、先端部、片脚を欠く	
52	石鏃	覆土	欠損品	(1.3)	0.6	0.2	(0.2)		黒曜石	石鏃の脚部片か、先端部尖る	
53	スクレイパー	覆土	ほぼ完形	1.3	1.3	0.4	0.8		黒曜石	小型の円形を呈す	
54	石錐	覆土	完形	3.0	0.7	0.3	0.6		黒曜石	細長い紡錘状を呈し片側縁が膨らみを有す	
55	石錐	覆土	ほぼ完形	2.0	0.8	0.5	0.7		黒曜石	小型の紡錘状を呈す、つまみ部がやや大きく作られる	
56	石錐	覆土	完形	2.5	0.6	0.4	0.6		黒曜石	小型で棒状を呈す	
57	石錐	覆土	完形	4.3	1.3	0.6	2.4		黒曜石	長く尖った剝片を利用、錐部に調整僅か、つまみ部は無調整	
58	石錐	覆土	完形	2.5	0.7	0.8	1.2		黒曜石	つまみ部を欠損か、錐部は先端に向かって徐々に細くなる	
59	石錐	覆土	完形	2.0	1.0	0.6	0.8		黒曜石	短めの紡錘状を呈す	
60	石鏃	覆土	欠損品	1.6	0.7	(0.5)	(0.5)		黒曜石	錐部片、先端部やや摩耗	
61	石鏃	覆土	欠損品	(1.3)	0.6	0.2	(0.2)		黒曜石	錐部片、断面やや扁平	
62	石鏃	覆土	欠損品	(1.4)	0.7	0.2	(0.2)		黒曜石	細身の作り、錐の可能性も	
63	石鏃	覆土	欠損品	(1.7)	0.6	0.3	(0.4)		黒曜石	細い板状片の側縁部を調整し作出	
64	打製石斧	床面	完形	10.9	5.0	1.5	104		黒色頁岩	撥形、やや小振りて刃部摩耗	
65	打製石斧	床面	完形	11.9	5.0	1.6	120		黒色安山岩	撥形、片面に大きく自然面を残す、刃部は円刃で摩耗見られる	
66	打製石斧	覆土	ほぼ完形	10.5	5.5	1.6	92		細粒輝石安山岩	薄い板状礫を利用、側縁に浅い挟り見られる、両面に自然面残る	
67	打製石斧	覆土	欠損品	(11.0)	6.1	2.1	(175)		細粒輝石安山岩	撥形、片面に大きく自然面を残す、刃部欠損	
68	打製石斧	床面	欠損品	(6.5)	4.4	1.8	(67)		細粒輝石安山岩	短冊形か、刃部を欠く	
69	打製石斧	覆土	欠損品	(7.0)	4.6	2.1	(83)		細粒輝石安山岩	短冊形か、刃部を欠く	
70	スクレイパー	覆土	完形	7.3	6.7	1.6	79		黒色安山岩	扇形を呈し、粗く作出された弧状の刃部を有す	
71	磨石	覆土	完形	12.3	7.8	4.7	704		粗粒輝石安山岩	やや扁平な長円礫、裏表面を使用浅い打痕あり	
72	三角柱形石製品	床面	完形	9.1	4.0	6.8	269		粗粒輝石安山岩	縦断面三角形、各面研磨され僅かに膨らみ持つ、被熱あり、一部線刻	石冠
73	軽石製品	覆土	欠損品	(7.8)	4.5	1.2	(7.2)		軽石	小判形を呈す、周縁部はやや薄手に作られている	

5-93号住居跡(第175~177図: PL146・147)

78	石鏃	覆土	完形	1.8	1.3	0.3	0.5		黒曜石	凹基無莖、小型品で挟り浅い	
79	石鏃	覆土	完形	1.6	1.2	0.2	0.4		黒曜石	小型の凹基無莖、側縁下部に突起、石材色を呈す	
80	石鏃	覆土	ほぼ完形	2.2	1.5	0.3	1.1		黒曜石	平基無莖に近いが僅かに脚部分を作出か、側縁が膨らみ作りは粗い	
81	石鏃	覆土	ほぼ完形	2.7	1.7	0.3	1.5		黒色安山岩	凹基無莖、挟りは円く側縁に膨らみを有す	
82	石鏃	床面	欠損品	(1.3)	1.3	0.2	(0.3)		黒曜石	凹基無莖、挟り深く先端部および側縁部を欠く	
83	石鏃	覆土	ほぼ完形	1.9	1.4	0.4	1.0		黒曜石	凹基無莖、ハート型を呈すが挟りは小さく、先端部細く尖る	
84	石鏃	覆土	ほぼ完形	2.0	1.4	0.3	0.8		黒曜石	凹基無莖で挟りは極めて浅い、先端部を僅かに欠く	
85	石鏃	床面	ほぼ完形	1.2	1.2	0.2	0.3		黒曜石	小型で三角を呈し、角は丸みを持ち鋭利さは見られず	
86	石鏃	覆土	完形	1.7	1.5	0.2	0.6		黒曜石	凹基無莖、ハート型を呈し先端部が細く尖る	
87	石鏃	覆土	ほぼ完形	2.2	1.9	0.6	2.4		黒曜石	凸基無莖、基部に厚み有し先端部に鋭利さは見られない	スクレイパー
88	石鏃	覆土	ほぼ完形	1.5	1.3	0.4	1.0		黒曜石	厚みを有し、調整は縁部部にのみ施される、スクレイパー又は未製品か	
89	石鏃	覆土	欠損品	(1.5)	(1.2)	0.2	(0.5)		黒曜石	凹基無莖、小型品で片脚を欠く	
90	石鏃	覆土	欠損品	(2.3)	(1.3)	0.2	(0.6)		黒曜石	凹基無莖、挟り深く脚は開き気味に作出、片脚を欠く	
91	石鏃	覆土	欠損品	(2.5)	(1.9)	0.3	(0.8)		黒曜石	凹基無莖、片脚を欠き、先端、脚共に尖る	
92	石鏃	覆土	欠損品	(1.9)	(1.4)	0.4	(0.8)		黒曜石	凹基無莖、ハート型を呈し片脚を欠く、やや厚みを持ち斑晶含む	
93	石鏃	覆土	欠損品	(1.3)	(1.3)	0.3	(0.5)		黒曜石	先端部片と思われる	
94	石鏃	覆土	欠損品	(1.5)	(2.0)	(0.5)	(1.7)		黒曜石	先端部やや鈍角に作出、厚みあり、尖頭部あるいはスクレイパー片か	
95	石鏃	床面	欠損品	(1.9)	1.6	0.2	(1.0)		黒色安山岩	凹基無莖、挟り深く先端部を欠く、側縁にやや膨らみ有す、薄手の作り	
96	石鏃	床面	欠損品	(2.0)	2.0	0.3	(1.1)		黒色安山岩	凹基無莖、挟り深い、いわゆる長脚鏃、先端部を欠く	
97	石鏃	覆土	欠損品	(1.3)	1.8	0.2	(0.6)		黒曜石	凹基無莖、脚はハの字に開く	
98	石鏃	覆土	欠損品	(1.3)	1.3	0.3	(0.5)		黒曜石	凹基無莖、三角に挟りを持つ小型品	
99	石鏃	覆土	欠損品	(1.6)	1.6	0.2	(0.6)		黒曜石	凹基無莖、先端部を欠く、やや薄手の作り	
100	石鏃	覆土	欠損品	(1.4)	1.7	0.2	(0.6)		黒曜石	凹基無莖、挟りはU状に深く作られる	
101	石鏃	覆土	欠損品	(1.8)	(1.4)	0.3	(0.3)		斑状頁岩(凝灰岩類)	凹基無莖、挟りは深く先端部、片脚を欠く	
102	石鏃	覆土	欠損品	(1.2)	1.3	0.2	(0.4)		黒曜石	凹基無莖、三角に挟りを持つ小型品	
103	石鏃	覆土	欠損品	(1.6)	(0.6)	0.2	(0.2)		黒曜石	基部を斜めに欠損	
104	石鏃	覆土	欠損品	(1.0)	(0.8)	0.2	(0.1)		黒曜石	凹基無莖鏃の脚部片と見られる	
105	石鏃	覆土	欠損品	(1.1)	1.5	0.2	(0.4)		黒曜石	凹基無莖、小型品挟りやや浅い	
106	石鏃	覆土	欠損品	(1.2)	(1.0)	0.2	(0.3)		黒曜石	凹基無莖鏃の脚部片と見られる	
107	石鏃	覆土	欠損品	(1.4)	(1.0)	0.3	(0.3)		黒曜石	先端部片と思われる	

第3章 検出された遺構と遺物

5-93号住居跡 (第175~177図: PL146・147)

遺物No	器種	出土位置	残存	計測値	長さ	幅	厚さ(cm)	重さ(g)	石材	特徴	備考
108	石錐	床面	欠損品	(2.7)	2.1	0.4	(1.6)		チャート	T字型を呈し、錐部の先端を欠く	
109	石錐	覆土	ほぼ完形	2.1	0.5	0.3	0.3		黒曜石	小型の棒状を呈す	
110	石錐	覆土	完形	1.7	0.4	0.3	0.2		黒曜石	小型の棒状を呈す	
111	石錐	覆土	欠損品	(1.8)	0.5	0.4	(0.4)		黒曜石	小型の棒状を呈す、中央部分が僅かに太い	
112	石錐	覆土	欠損品	(2.3)	(1.4)	0.5	(1.1)		黒曜石	三角形を呈す、錐部の先端を僅かに欠く	
113	石錐	覆土	欠損品	(1.4)	(0.6)	(0.5)	(0.3)		黒曜石	断面三角を呈す錐部片	
114	石錐	覆土	欠損品	(2.1)	(1.2)	0.3	(0.6)		黒曜石	つまみ部が広がる撥形を呈し、錐部はやや扁平に作出され先端を欠く	
115	スクレイパー	覆土	完形	2.7	3.4	0.9	6.7		黒曜石	三角形を呈す、一側縁が厚く刃部を作出	
116	小型磨製石斧	覆土	完形	3.6	1.9	0.5	1.2		蛇紋岩	小型定角式、やや薄手で作りは丁寧	
117	打製石斧	床面	ほぼ完形	15.3	7.2	1.9	206		黒色頁岩	板状礫を利用、刃部は薄く片側の一部を欠く	
118	打製石斧	床面	完形	19.1	5.7	2.0	341		粗粒輝石安山岩	大型の板状礫を利用した撥形、両面に大きく自然面残る	
119	打製石斧	覆土	完形	10.2	4.4	1.1	85		黒色安山岩	短冊形、小振りやや薄手の作り	
120	打製石斧	覆土	ほぼ完形	11.4	5.8	2.2	178		安山岩	撥形、片面やや肥厚する、両面に自然面残る	
121	打製石斧	覆土	完形	13.7	7.4	3.9	378		黒色頁岩	撥形、厚手で中央部が括れ、刃部が大きく広がる	
122	打製石斧	覆土	完形	8.5	4.9	1.7	95		細粒輝石安山岩	撥形、刃部の広がり弱く円刃	
123	打製石斧	覆土	欠損品	10.2	4.7	1.9	125		黒色安山岩	短冊形、厚手の刃部で一部を欠く	
124	打製石斧	床面	完形	6.6	2.7	0.8	23		黒色頁岩	小型の短冊形、片面やや膨らみを有す	
125	打製石斧	床面	欠損品	(7.2)	4.5	1.5	(56)		細粒輝石安山岩	撥形か、薄手の作りで両面に自然面、刃部を欠く	
126	打製石斧	覆土	欠損品	(7.4)	1.7	4.9	(112)		細粒輝石安山岩	短冊型、両面に自然面残る基部片	
127	打製石斧	床面	欠損品	(10.4)	4.8	2.5	(122)		黒色頁岩	撥形、基部やや厚みを有す、刃部が斜めに破損	
128	打製石斧	覆土	欠損品	(8.5)	4.1	1.7	(97)		細粒輝石安山岩	撥形か、刃部を欠く	
129	打製石斧	覆土	欠損品	(6.2)	4.8	1.9	(73)		細粒輝石安山岩	撥形の基部片、両側縁の刃潰し顕著	
130	打製石斧	覆土	欠損品	(5.9)	3.4	1.1	(41)		細粒輝石安山岩	撥形、やや小型で刃部を欠く	
131	打製石斧	覆土	欠損品	(5.3)	4.9	1.2	(38)		細粒輝石安山岩	薄手の基部片両面に自然面見られる	
132	打製石斧	床面	欠損品	(9.9)	5.3	1.6	(83)		細粒輝石安山岩	板状の礫を利用、両面に自然面残し、側縁に整形剥離、刃部を欠く	
133	打製石斧	覆土	欠損品	(7.3)	4.5	2.3	(105)		細粒輝石安山岩	短冊形か、刃部を欠く	
134	打製石斧	床面	完形	10.1	3.7	1.5	59		黒色頁岩	小型撥形、やや不整形、刃部斜めに摩耗	
135	スクレイパー	覆土	完形	8.6	5.3	2.1	80		細粒輝石安山岩	不定型な剥片、先端部弧状に自然面残り、片側縁に粗く刃部作出	
136	打製石斧	覆土	欠損品	(3.6)	5.3	2.1	(69)		黒色安山岩	撥形か、基部、刃部を欠く	
137	礫器	床面	完形	7.4	7.2	2.0	138		紫羅輝石普通輝石火山岩	一次剥片の周辺部を打ち欠き円形に作出	
138	磨製石斧	床面	欠損品	(6.5)	4.3	2.2	(125)		蛇紋岩	定角式、上端部に敲打痕あり、刃部を欠く	
139	磨製石斧	床面	欠損品	(3.2)	(2.0)	(0.8)	(7.8)		蛇紋岩	側縁部の破片	
140	磨石	床面	完形	14.8	8.4	4.3	887		粗粒輝石安山岩	やや扁平な川原石、片面平らで浅い凹み穴を有す	
141	磨石	床面	完形	11.3	6.8	3.8	454		石英閃緑岩	不定型な礫を利用	
142	磨石	覆土	欠損品	(8.0)	7.1	5.1	(477)		粗粒輝石安山岩	半分を欠く、やや扁平な俵形で両面使用で平滑、被熱	
143	磨石	覆土	完形	14.3	6.4	4.4	649		粗粒輝石安山岩	舟形の自然礫、下面使用	
144	磨石	床面	完形	17.8	8.2	4.5	779		粗粒輝石安山岩	なすび型を呈し、片面が平らである	
145	磨石	覆土	完形	4.6	4.5	3.9	100		粗粒輝石安山岩	小円礫利用	

5-94号住居跡 (第181図: PL148)

54	石鏃	覆土	完形	1.9	1.4	0.3	0.8		黒色安山岩	凹基無茎、扱りは弧状を呈し浅い	
55	石鏃	覆土	欠損品	(1.8)	1.9	0.3	(1.2)		黒曜石	凹基無茎、先端部を欠く	
56	磨石	覆土	完形	10.4	8.6	7.6	970		粗粒輝石安山岩	平滑な使用面2面あり、端部に打痕見られる	

5-95号住居跡 (第183図: PL149)

4	打製石斧	覆土	完形	12.3	4.7	2.3	179		紫羅輝石普通輝石火山岩	撥形、基部やや厚く刃部片側が剥離し薄くなる	
5	磨石	覆土	完形	11.5	7.6	5.4	723		粗粒輝石安山岩	扁平な俵形、両面使用面、浅い打痕あり、被熱	

5-97号住居跡 (第187図: PL149)

8	二次加工品	覆土	完形	2.1	1.7	0.9	3.4		黒曜石	やや扁平なコア状を呈し全体に剥離が施され、端部が尖頭状となる	
---	-------	----	----	-----	-----	-----	-----	--	-----	--------------------------------	--

5-98号住居跡 (第192図: PL150)

19	石鏃	覆土	ほぼ完形	2.0	1.3	0.4	0.8		黒曜石	凹基無茎、扱りに浅く全体に細身の作り	
20	石鏃	覆土	欠損品	(1.3)	(1.4)	0.3	(0.5)		黒曜石	先端部片か	
21	スクレイパー	覆土	完形	2.4	5.9	0.9	9.4		黒曜石	縦長の剥片を利用、一側縁に細かい調整で刃部作出	
22	石鏃	覆土	ほぼ完形	3.4	2.2	0.8	4.9		黒曜石	側縁に粗い調整、未製品か	
23	砥石	床面	欠損品	(1.4)	(4.3)	0.7	(6.5)		チャート	板状の小片、3面に平滑面あり、砥石か	
24	磨石	覆土	ほぼ完形	8.7	6.8	4.1	301		粗粒輝石安山岩	やや扁平で両面中央に浅い凹みあり	
25	石皿	床面	欠損品	(28.7)	27.0	11.2	(10.9kg)		粗粒輝石安山岩	厚手の大型品、縁は低く使用面は浅く平らである、上部を欠く	

5-99号住居跡 (第196・197図: PL151)

26	石鏃	覆土	完形	2.7	1.9	0.7	2.7		黒曜石	片面が盛り上がり縁辺部に粗い剥離が見られる、未製品と思われる	
27	石鏃	床面	完形	2.7	1.5	0.5	1.3		黒曜石	つまみ部分三角形を呈しやや肥厚する、錐部は細く尖り若干の摩耗	
28	打製石斧	覆土	ほぼ完形	7.8	5.0	1.8	67		黒色頁岩	撥形、刃部は丸みを持つ	
29	スクレイパー	床面	完形	12.4	5.2	1.4	108		粗粒輝石安山岩	半月状で下辺に直線的な粗い刃部作出か、打製石斧の可能性あり	
30	磨石	覆土	完形	11.0	6.1	3.5	393		粗粒輝石安山岩	扁平な長円礫、片面に打痕による浅い凹みあり	
31	磨石	覆土	完形	14.6	12.9	9.7	2,630		粗粒輝石安山岩	やや大型の円礫、両面に使用痕	
32	磨石	床面	完形	11.9	7.8	3.7	493		安山岩	扁平な礫を利用、両面に複数の打痕、表面に鉄分の沈着層	
33	磨石	床面	ほぼ完形	20.4	10.3	9.2	2,640		粗粒輝石安山岩	やや大型の長円礫、被熱あり	

5-100号住居跡 (第205・206図: PL152・153)

38	石鏃	覆土	完形	2.3	1.7	0.3	0.9		黒曜石	凹基無茎、扱りに三角に入る、比較的丁寧な作り	
39	石鏃	床面	完形	2.1	1.6	0.3	0.7		黒曜石	凹基無茎、扱りに三角に入る、比較的丁寧な作り	
40	石鏃	床面	完形	2.1	1.5	0.7	1.9		黒曜石	凹基無茎、扱りに浅く片面が瘤状に盛り上がる、未製品と思われる	

第3節 縄文時代の遺構と遺物

5-100号住居跡(第205・206図: PL152・153)

遺物No	器種	出土位置	残存	計測値	長さ	幅	厚さ(cm)	重さ(g)	石材	特徴	備考
41	石鏃	床面	完形	1.3	1.4	0.4	0.5		黒曜石	小型の凹基無茎、ほぼ正三角形で脚がひらく形状	
42	石鏃	床面	欠損品	(1.1)	1.6	0.2	(0.4)		黒曜石	凹基無茎、先端部を欠く	
43	石鏃	床面	欠損品	(1.7)	1.7	0.3	(0.8)		黒曜石	凹基無茎、挟りは深い、先端部を欠く	
44	石鏃	覆土	欠損品	(1.2)	1.4	0.4	(0.6)		黒曜石	凹基無茎、先端部を欠く	
45	石鏃	覆土	欠損品	(1.9)	1.7	0.6	(1.8)		黒曜石	平基無茎、先端を欠き、やや雑な作り	
46	石鏃	覆土	欠損品	(1.2)	(0.8)	0.3	(0.2)		黒曜石	やや丸みを持った先端部片	
47	石鏃	覆土	欠損品	(1.4)	(1.1)	0.4	(0.5)		黒曜石	先端部片と見られるが、丸みを呈す	
48	石鏃	覆土	完形	2.7	1.3	1.1	2.7		黒曜石	つまみ部は無調整で短い錐部が付く	
49	石鏃	覆土	ほぼ完形	2.3	0.7	0.5	0.6		黒曜石	棒状錐、断面やや丸みを呈す	
50	石鏃	覆土	ほぼ完形	1.6	0.6	0.5	0.4		黒曜石	小型の棒状錐、先端部僅かに欠損か	
51	石鏃	覆土	欠損品	(1.5)	0.7	0.4	(0.4)		黒曜石	小型角棒状で錐部を短く作出か	
52	打製石斧	床面	ほぼ完形	11.6	6.0	1.8	171		細粒輝石安山岩	撥形、刃刃で摩耗顕著	
53	打製石斧	床面	完形	12.1	5.8	1.9	147		細粒輝石安山岩	撥形、基部が薄くなる	
54	打製石斧	床面	完形	10.8	4.8	1.5	93		細粒輝石安山岩	撥形、側縁にわずかな挟りを持つ	
55	打製石斧	炉	欠損品	10.4	5.0	2.1	158		細粒輝石安山岩	側縁部わずかに括れる、刃部はやや扁平となり摩耗見られる	
56	打製石斧	床面	ほぼ完形	10.4	4.1	1.6	107		細粒輝石安山岩	短冊形、やや細身の作り、刃部摩耗	
57	打製石斧	覆土	欠損品	(6.4)	4.7	1.4	(52)		黒色安山岩	短冊形の基部片か	
58	打製石斧	覆土	欠損品	(7.4)	5.3	2.5	(138)		細粒輝石安山岩	厚手の短冊形、基部を欠く	
59	打製石斧	覆土	欠損品	9.7	6.2	1.5	95		細粒輝石安山岩	撥形、薄刃で、基部を欠く	
60	打製石斧	覆土	ほぼ完形	9.1	5.3	1.3	50		細粒輝石安山岩	撥形で刃部が薄く刃刃である	
61	打製石斧	床面	欠損品	(8.1)	6.6	2.9	(167)		細粒輝石安山岩	厚手で粗い作りの刃部片、刃角は鋭角	
62	打製石斧	覆土	欠損品	(8.2)	5.4	1.5	(78)		粗粒輝石安山岩	板状の礫を素材とする、作りは粗く刃部を欠く	
63	打製石斧	床面	欠損品	(10.6)	6.7	2.5	(227)		粗粒輝石安山岩	粗い作り、刃部を欠く	
64	打製石斧	床面	欠損品	(5.2)	3.8	1.2	(35)		細粒輝石安山岩	板状を呈す、基部片	
65	打製石斧	覆土	欠損品	6.9	3.4	1.3	35		黒色頁岩	端部が細くなる撥形の基部片と思われる	
66	磨石	床面	完形	9.1	8.3	6.2	697		粗粒輝石安山岩	端部にリング状の打痕在り	
67	磨石	覆土	完形	8.3	5.9	2.7	211		粗粒輝石安山岩	小判形を呈す扁平礫、両面使用	
68	磨石	床面	完形	16.8	7.8	4.7	1,155		粗粒輝石安山岩	やや扁平な棒状礫、鉄分の沈着顕著	
69	軽石製品	覆土	欠損品	(4.1)	3.9	1.4	(7.3)		軽石	下半部を欠く、板状で円孔を有す	
70	垂飾品	床面	未製品	2.3	1.0	0.6	2.9		凝灰岩	小型の隅丸長円形を呈す、研磨成形、片側がやや薄く、未通孔痕あり	

5-101号住居跡(第212図: PL154)

38	石鏃	床面	完形	2.9	2.0	0.6	2.2		珪類岩(凝灰岩類)	凸基無茎、軟質の石材を利用、剥離が見られる	
39	石鏃	床面	完形	1.9	1.3	0.3	0.6		黒曜石	凹基無茎であるが、挟りは極めて浅い	
40	石鏃	床面	ほぼ完形	1.8	1.5	0.3	0.9		黒色安山岩	凹基無茎であるが、挟りは浅い	
41	石鏃	覆土	完形	2.0	1.3	0.4	1.0		黒曜石	平基無茎であるが基部の調整ほとんど見られず作りは粗い	
42	石鏃	覆土	欠損品	(2.0)	(1.8)	0.4	(1.1)		黒曜石	扇形のつまみ部に扁平な錐部が付くが先端部を欠く	
43	石鏃	床面	完形	2.1	0.7	0.5	0.8		黒曜石	小型の棒状錐で僅かに曲がり有す	
44	スクレイパー	覆土	欠損品	5.4	1.5	1.0	7.2		黒曜石	細身の舟形を呈す、下辺部に粗く両面剥離による刃部作出	
45	打製石斧	床面	欠損品	(9.0)	4.4	1.6	(97)		細粒輝石安山岩	撥形、刃部を欠く	
46	打製石斧	床面	欠損品	(8.8)	5.1	2.0	(112)		細粒輝石安山岩	撥形か、基部がやや薄く作られる、刃部を欠く	
47	打製石斧	床面	完形	7.6	4.3	2.0	73		黒色頁岩	小型品、短い短冊形で刃部がやや丸み持つ	
48	打製石斧	覆土	完形	6.8	4.0	0.9	36		細粒輝石安山岩	小型で基部、刃部に丸みを持つ小判形を呈す	
49	打製石斧	覆土	ほぼ完形	(7.5)	4.9	1.2	(50)		黒色頁岩	短い短冊形、薄手の作り	
50	磨石	覆土	完形	6.5	7.2	1.3	96		粗粒輝石安山岩	不定型な板状の礫	

5-102号住居跡(第214図: PL155)

16	打製石斧	床面	完形	12.0	4.2	1.8	136		細粒輝石安山岩	撥形、片面に膨らみを持ち刃部がやや肥厚	
----	------	----	----	------	-----	-----	-----	--	---------	---------------------	--

5-103号住居跡(第216図: PL155)

6	磨石	床面	完形	11.7	7.5	4.9	653		粗粒輝石安山岩	小判形を呈す、両面使用、浅い凹穴が一対ずつ見られ、端部に打痕	
7	敲石	床面	ほぼ完形	15.9	8.6	4.6	989		粗粒輝石安山岩	扁平な小判型を呈す、打面部は剥離顕著	
8	多孔石	炉石	完形	25.4	13.9	12.9	4,050		粗粒輝石安山岩	不定型な自然礫の片面に大小の凹み穴が複数穿たれている	

5-104号住居跡(第218図: PL155)

13	石鏃	覆土	欠損品	(1.3)	(1.3)	0.4	(0.6)		黒曜石	先端部片	
14	石核	覆土	ほぼ完形	3.9	4.3	3.9	33.3		黒曜石	小角礫、ほぼ全面自然面で剥離はごく一部に止まる	
15	打製石斧	覆土	完形	11.4	4.3	1.6	125		細粒輝石安山岩	撥形、扁平な板状の礫を利用、両面に大きく自然面、刃部摩耗	
16	打製石斧	覆土	欠損品	(6.3)	4.3	1.0	(38)		細粒輝石安山岩	打製石斧の刃部片と見られる、斜めの刃部は摩耗、被熱か	
17	打製石斧	覆土	欠損品	(7.1)	(4.2)	(1.4)	(43)		細粒輝石安山岩	一次剥片利用、片面に自然面、粗い作り、スクレイパーか	
18	敲石	覆土	完形	12.8	5.9	4.8	572		粗粒輝石安山岩	棒状礫、両端部に打痕あり	

5-105号住居跡(第222・223図: PL156)

19	石鏃	Pit5	完形	2.8	1.6	0.3	1.0		黒曜石	凹基無茎、比較的作りは丁寧	
20	石鏃	覆土	完形	1.9	1.4	0.3	0.6		黒曜石	凹基無茎、小型品で左右非対称	
21	石鏃	覆土	欠損品	2.1	(1.4)	0.3	(0.5)		黒曜石	凹基無茎、挟りはやや深い、片脚の端部を欠く	
22	石鏃	覆土	ほぼ完形	2.4	1.1	0.5	1.0		黒曜石	つまみ部が広がる撥形で、やや反りを有し片側縁は無調整	
23	打製石斧	覆土	完形	9.4	4.4	1.4	79		細粒輝石安山岩	短冊形、片面に大きく自然面のこる、側縁、刃部は粗く作出	
24	打製石斧	覆土	完形	11.3	4.9	1.4	88		細粒輝石安山岩	撥形だが、刃部が細く尖り紡錘状を呈す、刃部摩耗	
25	打製石斧	覆土	完形	9.8	5.7	2.1	138		細粒輝石安山岩	撥形、板状の礫を利用、刃部摩耗	
26	打製石斧	覆土	欠損品	(9.7)	5.7	2.1	(124)		細粒輝石安山岩	撥形、刃部欠損、火を受けている	
27	磨製石斧	床面	欠損品	(6.1)	6.3	2.8	(186)		蛇紋岩	大型磨製石斧の刃部片、刃部先端から側縁にかけて研磨痕顕著	
28	磨製石斧	覆土	欠損品	(5.2)	5.4	2.1	(87)		蛇紋岩	磨製石斧の刃部片、割れ口部分から側縁にかけて二次的な研磨痕	
29	スクレイパー	覆土	完形	5.6	14.1	1.9	122		細粒輝石安山岩	やや大型で弧状の刃部を下辺に作出	

第3章 検出された遺構と遺物

5-105号住居跡(第222・223図:PL156)

遺物No	器種	出土位置	残存	計測値	長さ	幅	厚さ(cm)	重さ(g)	石材	特徴	備考
30	礫器	覆土	完形	9.5	12.9	5.5	875		安山岩	大型礫片の下辺部を打ち欠き、刃部様に作出	
31	磨石	覆土	完形	12.4	7.6	6.9	628		粗粒輝石安山岩	長円礫利用、両面に浅い凹み穴有す	
32	磨石	覆土	欠損品	(4.9)	(4.1)	1.9	(60)		安山岩	小型の扁平礫、両面平滑	
33	磨石	覆土	完形	7.3	6.2	4.0	241		粗粒輝石安山岩	小型の円礫、被熱によるひび割れが見られる	
34	磨石	床面	完形	8.6	7.7	5.7	518		粗粒輝石安山岩	やや扁平な円礫利用、両面使用	
35	磨石	覆土	完形	10.1	8.8	4.9	653		粗粒輝石安山岩	やや扁平な円礫を利用、両面使用、2個一対の浅い凹みを有す	

5-106号住居跡(第224図:PL157)

1	スクレイパー	床面	完形	10.6	6.5	1.6	82		細粒輝石安山岩	木の葉形の剥片で刃部の作出は見られない	
---	--------	----	----	------	-----	-----	----	--	---------	---------------------	--

5-107号住居跡(第226図:PL157)

10	石鏃	覆土	ほぼ完形	1.5	1.0	0.4	0.7		黒曜石	先端部片と思われるが、厚みを有し未製品の可能性もある	
11	打製石斧	床面	ほぼ完形	(10.4)	6.2	1.3	(95)		細粒輝石安山岩	薄い板状の礫を利用、両面に自然面残す	
12	打製石斧	覆土	欠損品	(5.5)	5.6	1.5	(58)		細粒輝石安山岩	撥形か、扁平で刃部を欠く	
13	磨石	床面	完形	11.6	7.5	4.0	564		粗粒輝石安山岩	扁平な小判形を呈す、両面使用により極めて平滑	

5-108号住居跡(第228図:PL157)

10	磨石	床面	完形	10.3	6.8	3.4	381		粗粒輝石安山岩	扁平な長円礫利用、表裏に浅い打痕あり	
11	磨石	床面	完形	8.9	8.0	3.9	365		粗粒輝石安山岩	扁平な円礫利用、浅い打痕あり	
12	磨石	床面	完形	11.5	7.3	3.1	435		粗粒輝石安山岩	扁平な長円礫、両面使用、被熱	
13	石皿	炉石	欠損品	(29.9)	27.1	11.1	(1,320)		粗粒輝石安山岩	厚手で縁は低く使用面は平らに作られる、裏面に凹み穴有す	

5-109号住居跡(第232図:PL158)

27	石鏃	床面	ほぼ完形	1.6	1.8	0.4	0.8		黒色安山岩	凹基無茎、両脚が大きく開き短い作り、先端部を僅かに欠損	
28	石鏃	覆土	完形	1.5	1.2	0.5	1.0		黒曜石	小型品、三角形を呈す剥片で、側縁に調整、未製品と思われる	
29	石鏃	覆土	完形	0.4	1.3	0.7	2.5		黒曜石	不定型な細長剥片利用、錐部は一縁にのみ調整、使用による磨耗痕	
30	打製石斧	床面	欠損品	(10.1)	5.0	1.1	(145)		粗粒輝石安山岩	板状の礫を利用、両側縁は直線的に作り出す、刃部欠く	
31	磨石	床面	完形	10.4	7.4	4.9	604		デイスait	両面および側面部に打痕による凹凸、鉄分の沈着顕著	

5-110号住居跡(第234図:PL158)

5	打製石斧	床面	完形	8.4	4.4	1.6	85		細粒輝石安山岩	小型の撥形、刃部磨耗	
6	磨石	床面	完形	6.7	5.7	5.0	265		粗粒輝石安山岩	卵形の礫、両面を使用	
7	磨石	覆土	完形	5.6	5.4	3.6	129		粗粒輝石安山岩	小円礫、やや扁平で両面を使用	
8	磨石	覆土	完形	10.7	6.7	3.0	366		粗粒輝石安山岩	扁平な楕円礫、両面平坦で平滑	

5-111号住居跡(第238図:PL159)

24	石鏃	Pit12	完形	1.6	1.2	0.3	0.4		チャート	凹基無茎、小型品で作りは丁寧	
25	石鏃	覆土	完形	1.3	1.1	0.3	0.2		黒曜石	凹基無茎、小型品で丁寧な作り、やや厚みがある	
26	石鏃	覆土	欠損品	(1.9)	(1.5)	0.3	(0.9)		黒曜石	凹基無茎、先端部および脚を欠く	
27	石鏃	覆土	欠損品	1.7	(1.1)	0.3	(0.4)		チャート	凹基無茎、扱いは円みを有し深い、小型で片脚を欠く	
28	石鏃	覆土	ほぼ完形	1.7	1.6	0.6	1.7		碧玉	平基無茎、厚みを有し先端部を僅かに欠く	
29	石鏃	覆土	欠損品	2.5	(0.9)	0.3	(1.2)		黒色頁岩	凹基無茎か、扱ひ浅く側縁部の剥離もやや粗雑、縦に大きく欠損	
30	石鏃	覆土	完形	2.1	0.7	0.5	0.6		黒曜石	細長い小剥片を利用、錐部は扁平で一側縁にのみ調整	
31	磨製石斧	覆土	欠損品	(5.6)	3.6	1.2	(41)		蛇紋岩	定角式、やや薄手の作りで、刃部に刃こぼれ、基部も欠損あり	
32	磨製石斧	覆土	欠損品	(10.8)	5.5	2.7	(265)		凝灰岩	定角式、稜は明瞭に作り出される、刃部欠損	
33	磨石	覆土	完形	7.5	6.8	5.1	298		粗粒輝石安山岩	卵形の礫、表面ややざらつく石材、両面に小さく浅い凹みを有す	
34	磨石	覆土	欠損品	6.5	5.4	(4.2)	(164)		粗粒輝石安山岩	小型の円礫、表面ざらついた発泡質の礫	
35	磨石	Pit15	ほぼ完形	(7.5)	4.5	1.5	(77)		玄武岩	扁平な楕円礫、両面平滑で両端部に打痕あり	
36	磨石	覆土	完形	6.3	5.5	3.7	178		粗粒輝石安山岩	やや扁平な小縁礫、両面使用面とし使用痕顕著	
37	磨石	覆土	完形	13.1	6.0	3.2	336		細粒輝石安山岩	棒状で、片面高まり縦に稜を有す、平坦面磨耗し、複数の凹み穴有す	被熱

5-112号住居跡(第240図:PL160)

23	石鏃	覆土	欠損品	2.0	(1.7)	0.4	(1.2)		黒曜石	やや粗い作りで片脚を欠損しているものと見られる	
24	石棒	覆土	欠損品	(17.2)	11.3	—	(2,480)		デイスait	大型石棒片、断面は円形で被熱あり	
25	多孔石	覆土	欠損品	(19.2)	(15.6)	(7.6)	(3,560)		粗粒輝石安山岩	表裏が平らな角礫を利用、両面に大小複数の凹み穴を有す	

5-113号住居跡(第249~251図:PL162・163)

77	石鏃	覆土	完形	1.6	1.3	0.3	0.3		黒曜石	凹基無茎、三角の扱ひを持つ小型品	
78	石鏃	覆土	完形	2.0	2.0	0.3	0.8		黒曜石	凹基無茎、脚が大きく開き扱ひも深い	
79	石鏃	覆土	ほぼ完形	1.8	1.7	0.3	0.9		黒曜石	凹基無茎、弧状の扱ひで両側縁が丸みを持つ、先端を僅かに欠く	
80	石鏃	覆土	完形	1.2	1.4	0.2	0.3		黒曜石	凹基無茎、小型品、脚が開く形状	
81	石鏃	覆土	欠損品	1.8	(1.2)	0.3	(0.5)		黒曜石	凹基無茎、両側縁が丸みを有す小型品、片脚を欠く	
82	石鏃	覆土	欠損品	(1.6)	(1.0)	0.3	(0.3)		黒曜石	凹基無茎、扱ひが深い、片脚片部	
83	石鏃	覆土	欠損品	(2.5)	1.8	0.3	(1.4)		碧玉	つまみ部は薄く三角に作られる、先端部を欠いている	
84	石匙	床面	完形	3.5	4.0	0.7	7.9		碧玉	横型石匙、つまみ部はほぼ中央に付き、左右対象に作られる	
85	スクレイパー	覆土	完形	2.4	1.0	0.5	1.3		黒曜石	半月状の小剥片、弧状に刃部を作り出す	
86	打製石斧	覆土	完形	13.5	4.8	1.8	142		黒色頁岩	細身の撥形、刃部の磨耗顕著	
87	打製石斧	床面	欠損品	10.0	5.1	2.7	127		細粒輝石安山岩	撥形の基部片か、端部に丸みを持ち刃部は肥厚か	
88	打製石斧	覆土	ほぼ完形	(8.7)	5.7	2.1	(115)		凝灰岩	片岩質の石を利用、片面に比較的平らで自然面残る使用痕見られず	
89	打製石斧	床面	欠損品	(6.9)	4.0	1.6	(73)		粗粒輝石安山岩	撥形の基部片、板状礫を利用	
90	打製石斧	覆土	欠損品	(3.4)	3.8	1.3	(40)		黒色安山岩	撥形の基部片か	
91	打製石斧	覆土	欠損品	(6.7)	4.5	2.7	(87)		黒色安山岩	撥形の刃部片、厚手で片側が瘤状に肥厚	
92	打製石斧	床面	欠損品	(5.3)	4.2	1.3	(40)		黒色頁岩	撥形の基部片	

第3節 縄文時代の遺構と遺物

5-113号住居跡 (第249~251図: PL162・163)

遺物No	器種	出土位置	残存	計測値	長さ	幅	厚さ(cm)	重さ(g)	石材	特徴	備考
93	打製石斧	覆土	欠損品	(9.6)	5.4	2.5	(147)		細粒輝石安山岩	基部を欠く短冊形、身は厚手で刃部は薄手の直刃である	
94	打製石斧	覆土	ほぼ完形	8.1	4.2	1.5	68		砂岩	撥形、小型品で刃部僅かに欠く	
95	打製石斧	床面	欠損品	7.9	5.0	1.1	64		黒色頁岩	撥形の基部片か、薄手である	
96	スクレイパー	覆土	完形	7.1	5.3	1.2	66		安山岩	不定形を呈す、下辺部にほぼ直線的な刃部を作出	
97	打製石斧	覆土	欠損品	(6.3)	4.9	2.0	(78)		黒色頁岩	基部片と見られる	
98	礫器	覆土	完形	7.0	7.5	3.2	158		黒色安山岩	不定形で粗く調整された刃部を持つ	
99	打製石斧	覆土	欠損品	(5.4)	4.3	1.3	(29)		黒色安山岩	打製石斧の刃部片か	
100	打製石斧	覆土	欠損品	(2.2)	3.1	0.9	(5.5)		黒色安山岩	刃部片か、表面に摩耗痕	
101	礫器	覆土	完形	11.6	8.6	2.9	435		粗粒輝石安山岩	扁平な礫の周囲を打ち欠く、側縁には敲打による使用痕	
102	磨石	覆土	完形	10.8	8.5	4.4	658		粗粒輝石安山岩	扁平な礫利用、両面平滑で片面に凹み穴、側縁部に打痕あり	
103	磨石	覆土	完形	12.9	7.6	4.1	696		石英閃緑岩	やや扁平な川原石、片面平らで使用痕あまり明瞭でない	
104	磨石	床面	ほぼ完形	13.6	12.5	11.5	2,810		粗粒輝石安山岩	やや大型の円礫、被熱	
105	磨石	覆土	完形	8.4	7.1	5.9	512		粗粒輝石安山岩	卵形を呈す、表面平滑	
106	磨石	覆土	欠損品	(8.1)	6.7	5.6	(231)		多孔質安山岩	両側縁は平らである、両面には使用痕顕著、やや軽量発泡質の石材	
107	石皿	床面	欠損品	(14.9)	(10.2)	4.7	(938)		緑色片岩	使用面が浅く凹む、欠損品、裏面は平らで平滑	
108	軽石製品	覆土	完形	7.0	4.9	3.5	44		軽石	卵形を呈す、両側面に未穿孔痕あり	
109	石棒	覆土	完形	34.9	18.2	13.6	1,400		粗粒輝石安山岩	大型の長円礫、表面所々に打痕あり	

5-114号住居跡 (第253図: PL163)

4	スクレイパー	覆土	完形	4.5	5.0	0.8	15.7		黒曜石	不定形な剥片の一縁に粗く刃部を作出	
5	磨石	Pit4	完形	5.7	4.8	3.1	124		粗粒輝石安山岩	小円礫、両面使用による摩耗痕、被熱	
6	台石	覆土	完形	19.9	15.9	6.0	2,900		石英閃緑岩	平坦面を持つやや大きな円礫、使用面は平らである	
7	丸石	覆土	欠損品	(31.2)	(20.4)	15.5	(13.2kg)		石英閃緑岩	大型の礫、一部欠く	

5-115号住居跡 (第255図: PL163)

4	石鏃	覆土	欠損品	(1.7)	(1.0)	0.3	(0.4)		珪質頁岩(凝灰岩類)	両脚部分を欠損、表面に光沢が見られる	
5	打製石斧	覆土	完形	11.7	5.2	2.0	126		粗粒輝石安山岩	撥形、大型の礫から打ち剥いだ一次剥片利用、簡単な整形剥離	
6	打製石斧	覆土	欠損品	(7.3)	4.7	2.2	(96)		黒色頁岩	撥形、刃部片面に自然面、基部を欠く	
7	磨石	覆土	完形	11.1	9.1	4.7	713		粗粒輝石安山岩	扁平な円礫利用、片面に浅い凹み穴、側縁には打痕見られる	

5-117号住居跡 (第259図: PL163)

7	石鏃	覆土	欠損品	2.0	(1.3)	0.3	(0.5)		黒曜石	凹基無茎、側縁の一部および脚部を欠損	
---	----	----	-----	-----	-------	-----	-------	--	-----	--------------------	--

5-118号住居跡 (第262図: PL164)

15	打製石斧	覆土	ほぼ完形	8.8	5.5	1.3	6.2		黒色頁岩	分銅形であるが上が小さく作られる、刃部は左右不均一で薄刃	
----	------	----	------	-----	-----	-----	-----	--	------	------------------------------	--

5-119号住居跡 (第265図: PL164)

21	スクレイパー	床面	完形	4.6	5.7	1.4	32		黒色頁岩	三角形を呈し側縁部分に刃部調整が為されるが鋭利さはない	
22	石皿	床面	欠損品	(14.9)	(16.5)	6.5	(2,560)		粗粒輝石安山岩	欠損品、断面がほぼ長方形で作業面の凹みは浅い、裏面に凹み穴	

5-120号住居跡 (第270・271図: PL165・166)

57	石鏃	覆土	完形	2.4	1.4	0.5	1.2		チャート	凹基無茎、扱りはU状に深く作られる、片面肥厚し膨らみを有す	
58	石鏃	覆土	欠損品	(0.9)	(0.8)	0.2	(0.1)		黒曜石	先端部片	
59	打製石斧	覆土	欠損品	(10.1)	7.6	2.2	(187)		細粒輝石安山岩	幅広い撥形か、基部を欠いていると思われるが、刃部の作りは粗い	
60	磨製石斧	床面	欠損品	(105)	6.2	4.4	(473)		蛇紋岩	稜に丸みを有す、比較的大型品で刃部を大きく欠く	
61	磨石	覆土	完形	11.2	10.1	5.5	909		粗粒輝石安山岩	やや扁平な円礫の両面を使用面とする、側縁に打痕	
62	磨石	床面	完形	12.1	10.1	4.6	747		粗粒輝石安山岩	扁平な円礫利用、両面使用し片面に浅い凹み穴有す	
63	磨石	覆土	欠損品	(14.3)	7.2	5.7	(992)		粗粒輝石安山岩	棒状礫、両面に浅い凹み穴、一端を欠く	
64	磨石	覆土	完形	7.2	5.8	4.5	254		粗粒輝石安山岩	小型の卵形、側縁に打痕あり	
65	磨石	覆土	完形	6.2	5.7	5.0	240		粗粒輝石安山岩	小型の円礫	
66	磨石	床面	欠損品	(23.2)	10.4	8.6	(2,880)		粗粒輝石安山岩	大型の棒状礫、上面に一つの凹み穴を有し、端部に打痕	

5-122号住居跡 (第275図: PL166)

20	石鏃	覆土	ほぼ完形	1.9	1.7	0.4	1.1		黒曜石	平基無茎、片面が僅かに凹み作りは粗い	
21	打製石斧	覆土	欠損品	(9.9)	5.8	1.2	(89)		細粒輝石安山岩	撥形、刃部を欠く、比較的薄手の作り	
22	磨製石斧	覆土	欠損品	(13.2)	5.7	3.4	(530)		蛇紋岩	定角式だが稜にやや丸みを有す、刃部を欠損後敲打具として利用か	

5-123号住居跡 (第278・279図: PL167)

34	石鏃	覆土	欠損品	2.4	(1.8)	0.3	(1.0)		黒曜石	凹基無茎、扱りは弧状を呈し側縁がわずかに円味を呈す、片脚を欠く	
35	石鏃	覆土	欠損品	(0.7)	(0.9)	0.3	(0.1)		黒曜石	先端または脚部片	
36	石鏃	覆土	欠損品	(1.1)	(1.1)	0.3	(0.4)		黒曜石	脚部片か	
37	打製石斧	床面	完形	10.7	5.2	1.3	116		細粒輝石安山岩	短冊形、刃部は円くやや薄くなる	
38	磨石	覆土	完形	10.8	9.0	8.3	995		粗粒輝石安山岩	円礫、全面を使用か、被熱しているものと見られる	
39	磨石	覆土	完形	12.8	11.2	10.8	2,100		粗粒輝石安山岩	やや大きな円礫、一部に打撃によるものか剥落見られる	

5-124号住居跡 (第292~300図: PL173~176)

243	石鏃	覆土	ほぼ完形	2.3	1.3	0.3	0.6		黒曜石	凹基無茎、三角の扱、作りは丁寧、片脚の一部を欠く	
244	石鏃	覆土	欠損品	(2.4)	1.9	0.3	(1.2)		黒色安山岩	凹基無茎、扱深く両脚が開く、作りは丁寧で先端部を欠く	
245	石鏃	覆土	完形	1.6	1.0	0.4	0.3		珪質頁岩(凝灰岩類)	小型品、平基無茎、僅かに軸が傾いた形で、厚みを有す	
246	石鏃	覆土	欠損品	(1.7)	(1.2)	0.3	(0.2)		珪質頁岩(凝灰岩類)	凹基無茎、脚が開き中央部分が厚みを持つ、脚を一部欠く	
247	石鏃	覆土	欠損品	1.7	(1.2)	0.2	(0.3)		黒曜石	凹基無茎、小型品で三角に深い扱、片脚を欠く	
248	石鏃	覆土	欠損品	(1.3)	(0.9)	0.2	(0.2)		黒曜石	凹基無茎、脚が開く小型品、片脚を欠く	
249	石鏃	覆土	欠損品	(1.1)	1.5	0.2	(0.3)		黒曜石	凹基無茎、三角に扱、先端部を欠損	

第3章 検出された遺構と遺物

5-124号住居跡(第292~300図: PL173~176)

遺物No	器種	出土位置	残存	計測値	長さ・幅・厚さ(cm)	重さ(g)	石材	特徴	備考
250	石鏃	覆土	欠損品	(1.0)	1.2 0.2	(0.3)	黒曜石	凹基無茎、小型品、三角に挟り、先端部を欠損	
251	石鏃	覆土	欠損品	(1.2)	(1.1) 0.2	(0.2)	黒曜石	凹基無茎、挟りはあまり深くない、脚部半分ほどの破片	
252	石鏃	覆土	ほぼ完形	3.4	(1.7) 0.8	(1.3)	黒曜石	肥厚したつまみを有し、鏃部は棒状に延びる、先端部摩耗	
253	石鏃	覆土	ほぼ完形	2.9	1.0 0.7	1.8	黒曜石	中央部分が太い断面三角を呈す棒状鏃、鏃部先を僅かに欠損か	
254	石鏃	覆土	欠損品	1.7	(1.2) 0.4	(0.9)	黒曜石	石鏃の未成品か、一部欠損	
255	スクレイパー	覆土	欠損品	1.7	1.8 0.6	1.7	チャート	ほぼ円形の薄片で周囲に調整痕、鏃のつまみ部の可能性もある	
256	打製石斧	覆土	完形	11.9	7.2 1.8	150	黒色頁岩	分銅形、片面に自然面残し、刃部側が大きく刃の作りは粗い	
257	打製石斧	覆土	完形	12.9	5.7 1.7	147	粗粒輝石安山岩	短冊形、刃部円く、薄手の作りで摩耗顕著	
258	打製石斧	覆土	欠損品	(8.2)	0.4 2.1	(111)	黒色頁岩	短冊形、厚手の作りで側縁部分の刃潰し丁寧、刃部欠損	
259	打製石斧	覆土	欠損品	(6.1)	4.6 1.4	(53)	粗粒輝石安山岩	短冊形、薄手作り、片面に自然面、刃部欠損	
260	磨製石斧	覆土	完形	9.1	3.7 2.5	156	蛇紋岩	定角式、中央部分から基部に厚み有す、刃部摩耗	
261	磨製石斧	覆土	欠損品	(10.7)	4.0 2.8	(224)	蛇紋岩	定角式、基部が細く厚手作り、刃部を欠く	
262	磨製石斧	覆土	欠損品	(11.0)	6.2 3.7	(516)	蛇紋岩	大型品、基・刃部を欠き、刃部欠損後敲打具として利用か	
263	磨製石斧	覆土	欠損品	(9.7)	4.4 2.4	(172)	蛇紋岩	定角式だが稜に丸み、基部端部に丸み、刃部を欠く	
264	磨製石斧	覆土	欠損品	(4.6)	3.5 1.3	(41)	蛇紋岩	定角式の基部片、やや薄手の作り	
265	磨製石斧	覆土	欠損品	(3.2)	(3.0) (1.9)	(28)	凝灰岩	基部の端部片	
266	礫器	覆土	完形	14.8	11.3 5.9	994	黒色頁岩	大型の礫切片、下縁弧状を呈し粗く刃部状に打ち欠く	
267	磨石	覆土	完形	13.7	10.0 5.6	1,136	粗粒輝石安山岩	やや扁平な小判形を呈す、両面使用し僅かに打痕による小穴あり	
268	磨石	覆土	完形	9.9	6.8 3.4	292	粗粒輝石安山岩	小判形の礫で、両面に小さく打痕見られる	
269	磨石	覆土	完形	10.9	10.2 4.5	659	デイサイト	扁平な円礫、打痕あり、表面鉄分の沈着で褐色を呈す	
270	磨石	覆土	完形	10.3	8.7 5.3	689	粗粒輝石安山岩	やや扁平な円礫、使用面一部剥落見られるが平滑	
271	磨石	覆土	完形	11.3	6.6 4.1	488	粗粒輝石安山岩	扁平でやや不定型な礫利用、両面および一側縁に打痕による凹み穴	
272	磨石	覆土	完形	11.8	7.1 4.5	626	石英閃緑岩	やや扁平な俵形、表裏を使用面とする、浅い打痕見られる	
273	磨石	覆土	完形	7.7	6.6 4.9	339	粗粒輝石安山岩	やや小振りの円礫、表面の一部に打痕あり	
274	磨石	覆土	完形	13.2	10.9 5.3	1,175	粗粒輝石安山岩	扁平な楕円礫を利用、両面平坦で各面に、凹み穴、僅かな打痕あり	
275	磨石	覆土	完形	11.0	9.1 5.2	827	粗粒輝石安山岩	やや扁平な円礫、比較的平らな両面を使用、摩耗顕著	
276	磨石	覆土	完形	11.0	9.8 3.2	544	石英閃緑岩	扁平な円礫、両面使用	
277	磨石	覆土	ほぼ完形	11.7	8.5 4.3	704	石英閃緑岩	やや扁平な小判形、両面使用しそれぞれ浅い凹み穴有す側縁に打痕	被熱
278	磨石	覆土	完形	11.5	10.2 6.8	1,221	粗粒輝石安山岩	やや扁平な円礫、使用面はあまり明確ではない	
279	磨石	覆土	欠損品	(13.6)	9.5 3.0	(555)	粗粒輝石安山岩	小判形の礫利用、両面平らで比較的平滑、一部を欠く	
280	磨石	覆土	完形	11.0	6.9 5.2	582	粗粒輝石安山岩	長円礫を利用、下面が平らで2カ所の浅い凹みを有す	
281	磨石	覆土	ほぼ完形	12.8	9.5 3.7	727	粗粒輝石安山岩	扁平な礫を利用両面平らで使用面とする	
282	小型石皿	覆土	完形	14.2	8.4 3.0	422	粗粒輝石安山岩	長円形で扁平な礫を利用、片側の面は浅く凹み小型石皿として利用か	
283	敲石	覆土	ほぼ完形	12.0	6.5 5.3	509	粗粒輝石安山岩	やや細長い礫で両端部に打痕見られる	
284	磨石	覆土	完形	9.5	5.9 2.5	199	粗粒輝石安山岩	扁平な長円礫	
285	磨石	覆土	完形	7.5	4.8 2.0	119	石英閃緑岩	小型の扁平礫	
286	磨石	覆土	完形	12.8	8.4 3.4	503	粗粒輝石安山岩	扁平礫、両面平らで使用面とする、ひび割れ見られる	
287	磨石	覆土	完形	7.6	8.0 5.7	424	粗粒輝石安山岩	円礫、ほぼ全面を使用面とする、片面に打痕による凹み有す	
288	磨石	覆土	完形	11.5	8.5 4.8	602	粗粒輝石安山岩	扁平な楕円礫で表面ざらつく石材、側縁部に打痕あり	
289	磨石	覆土	完形	15.5	9.7 8.0	1,874	粗粒輝石安山岩	比較的大型の楕円礫、全面平滑である	
290	磨石	覆土	完形	9.8	7.6 4.3	508	石英閃緑岩	やや扁平な礫を利用、両面使用であるが、片面は極めて平滑な面	
291	磨石	覆土	完形	9.8	3.0 4.4	239	粗粒輝石安山岩	小型の棒状礫、両端に弱い打痕見られる	
292	磨石	覆土	完形	9.7	4.9 3.5	319	粗粒輝石安山岩	やや細長い小礫、ほぼ全面を使用面としている	
293	磨石	覆土	完形	4.4	3.7 3.4	79	粗粒輝石安山岩	小型の円礫	
294	磨石	覆土	欠損品	10.4	(6.1) 5.1	(493)	粗粒輝石安山岩	俵形の礫、ほぼ全面に使用痕、一部分欠損、被熱あり	
295	磨石	覆土	完形	8.7	7.9 5.1	495	粗粒輝石安山岩	円礫利用、使用面平滑	
296	磨石	覆土	完形	10.3	6.7 3.0	276	粗粒輝石安山岩	小振りの扁平礫、平坦面を使用	
297	磨石	覆土	完形	8.4	6.8 3.5	236	粗粒輝石安山岩	不定型な小礫、明確な使用面無く、端部に打痕	
298	敲石	覆土	ほぼ完形	12.5	7.7 4.2	617	石英閃緑岩	扁平な長円礫、一端に打撃による剥離が顕著に見られる	
299	磨石	覆土	完形	10.3	6.9 4.1	434	粗粒輝石安山岩	やや扁平な礫利用、使用面はあまり明確ではない	
300	磨石	覆土	完形	13.6	12.4 9.5	2,100	粗粒輝石安山岩	やや大型の円礫、所々に打痕看取される	
301	磨石	覆土	完形	8.6	8.1 6.3	532	粗粒輝石安山岩	円礫利用、表面は比較的粗粒面である	
302	磨石	覆土	ほぼ完形	7.7	5.2 4.1	243	粗粒輝石安山岩	小型卵形で磨り面は1面、端部、側面には打痕あり	
303	磨石	覆土	完形	6.8	6.2 5.3	333	粗粒輝石安山岩	小型の円礫利用、表面は平滑	
304	磨石	覆土	ほぼ完形	10.9	(7.8) (5.4)	(587)	粗粒輝石安山岩	卵形の円礫、被熱によるものと思われるひび割れが顕著	
305	磨石	覆土	完形	9.7	5.2 3.8	279	粗粒輝石安山岩	やや細長い卵形を呈す、使用痕あまり見られず	
306	磨石	覆土	完形	15.1	8.6 5.4	894	安山岩	やや扁平な長円礫、両面に浅く不定型な凹み穴を一対ずつ有す	
307	磨石	覆土	完形	20.6	8.9 5.7	1,197	粗粒輝石安山岩	大型の棒状礫、片面に複数の浅い凹み穴および端部に打痕あり	
308	磨石	覆土	完形	16.8	8.2 4.5	1,003	粗粒輝石安山岩	棒状の礫を利用、表面比較的平滑	
309	磨石	覆土	完形	15.1	6.4 3.8	642	粗粒輝石安山岩	角棒状の扁平礫、各面平滑で一部に打痕による浅い凹みあり	
310	磨石	覆土	完形	14.1	7.3 2.4	316	粗粒輝石安山岩	扁平な長円礫、平らな両面を使用面としている	
311	磨石	覆土	完形	13.6	6.3 3.7	503	石英閃緑岩	棒状の礫を利用、側縁部に打痕	
312	磨石	覆土	完形	10.0	7.0 2.7	309	粗粒輝石安山岩	扁平な楕円形の礫、平坦面を使用し平滑	
313	磨石	覆土	完形	13.1	7.5 4.7	624	粗粒輝石安山岩	不定型な川原石利用、表面平滑で平坦面を使用面とする	
314	磨石	覆土	ほぼ完形	10.3	7.8 3.0	269	粗粒輝石安山岩	不定型な扁平礫、端部に打痕あり	
315	磨石	覆土	完形	6.5	5.0 4.0	165	粗粒輝石安山岩	卵形を呈す、一端に打痕見られる	
316	磨石	覆土	欠損品	(9.1)	8.3 2.3	(162)	粗粒輝石安山岩	扁平な円礫、両端部分を大きく欠く	
317	磨石	覆土	完形	10.9	6.9 2.7	322	安山岩	扁平な小判形を呈す、表面鉄分の沈着顕著で褐色を呈す	
318	磨石	覆土	完形	10.3	7.7 5.9	677	粗粒輝石安山岩	円礫利用、火を受け片面に煤の付着	
319	磨石	覆土	完形	11.8	13.8 3.0	809	粗粒輝石安山岩	扁平な礫を利用、両面平坦であるが僅かに凹凸が見られる	
320	敲石	覆土	ほぼ完形	10.2	5.6 4.0	275	粗粒輝石安山岩	凡字形の礫、打面はやや斜めで使用により縁が凹みを呈す	
321	石皿	覆土	欠損品	(20.1)	(22.3) 9.9	(6,400)	粗粒輝石安山岩	半分を欠く、使用面は比較的平坦で浅い、縁が打ち欠かれていた	
322	石冠	覆土	完形	9.5	5.3 6.7	460	粗粒輝石安山岩	三角柱状で側縁部分は敲打による成形見られ、両面は磨り痕	

第3節 縄文時代の遺構と遺物

5-124号住居跡 (第292~300図: PL173~176)

遺物No	器種	出土位置	残存	計測値	長さ	幅	厚さ(cm)	重さ(g)	石材	特徴	備考
323	石棒	覆土	欠損品	(15.2)	(11.3)	(7.5)	(2,050)		緑色片岩	両端部および側面に破損面を持つ大型片、成形面は見られず	被熱なし
324	石棒	覆土	欠損品	(14.0)	(6.2)	(3.8)	(226)		緑色片岩	石棒の欠損品か	被熱なし
325	軽石製品	覆土	完形	6.4	4.9	3.4	39.5		軽石	卵形を呈す軽石の上面が大きく凹み石皿状を呈す	
326	多孔石	覆土	完形	22.4	18.1	14.1	4,580		粗粒輝石安山岩	自然礫利用、三角の対面に円錐形の凹みを複数穿つ	
327	多孔石	覆土	完形	23.1	19.1	14.3	5,500		粗粒輝石安山岩	不定型な礫の高まった表面に径1~2cmの凹みを20カ所程穿つ	
328	多孔石	覆土	完形	29.4	23.6	18.0	12.4kg		粗粒輝石安山岩	上部やや平坦な自然礫の上面に複数の凹みが複数穿たれている。	
329	多孔石	覆土	完形	46.4	34.2	26.5	43.5kg		粗粒輝石安山岩	上部やや山形の大型自然礫利用、径3~4cmの凹みが複数穿たれる	

5-125号住居跡 (第305~307図: PL177)

38	石鏃	覆土	完形	1.6	1.3	0.2	0.4		チャート	凹基無茎、挟り浅く片面は平ら、小型で作りは丁寧	
39	石鏃	覆土	ほぼ完形	1.9	1.3	0.4	0.5		黒曜石	凹基無茎、挟り深くU状、小型品で片面中央が瘤状に肥厚	
40	石鏃	覆土	ほぼ完形	1.6	1.3	0.4	0.8		黒曜石	凸基無茎鏃か、全体に作りは粗い	
41	石鏃	覆土	欠損品	(2.2)	1.8	0.3	(1.1)		黒色安山岩	凹基無茎、挟り深く、先端部を僅かに欠く	
42	石鏃	覆土	ほぼ完形	2.0	(1.6)	0.3	(0.9)		黒曜石	平基無茎か、片面に大きく剥離面残り平らである	
43	石鏃	覆土	欠損品	(1.0)	1.5	0.2	(0.4)		黒曜石	凹基無茎、先端部分を欠く	
44	石鏃	覆土	欠損品	(2.2)	(0.9)	0.3	(0.6)		黒曜石	凹基無茎、挟り深く側縁がやや円味を有すいわゆる鏃形鏃、片側欠く	
45	石鏃	覆土	欠損品	(1.6)	(1.6)	0.7	(1.9)		チャート	T状を呈しつまみ部分は肥厚、錐部は欠損	
46	打製石斧	覆土	完形	11.8	5.3	1.7	121		黒色頁岩	撥形で刃部は僅かに広くなる。刃部先端は円く、やや尖り気味	
47	打製石斧	覆土	未製品	12.4	7.4	2.8	229		黒色安山岩	両側縁に挟りを有し片側先端が尖る、刃部は未作出	
48	スクレイパー	覆土	完形	4.9	8.2	0.7	28		黒色頁岩	三角を呈す、下辺部分を刃部としているが細かな調整は見られず	
49	磨石	覆土	ほぼ完形	9.6	9.6	7.5	1,106		粗粒輝石安山岩	卵形のやや大きめの礫、若干の摩耗痕見られる	
50	磨石	覆土	完形	9.4	7.8	3.1	379		粗粒輝石安山岩	扁平な円礫、表裏の平らな面を使用面とする	
51	磨石	覆土	完形	13.3	8.5	3.7	706		粗粒輝石安山岩	扁平な小判形の礫、両面を使用、使用面は平滑	
52	磨石	床面	欠損品	(10.9)	(7.8)	4.3	(473)		細粒輝石安山岩	やや扁平な卵形、使用面は極めて平滑である	
53	磨石	覆土	欠損品	(4.8)	(2.5)	(4.4)	(73)		粗粒輝石安山岩	側面部片	
54	磨石	覆土	完形	23.5	12.1	9.9	4,660		安山岩	扇形の大型自然礫、使用痕見られず、表面に鉄分沈着見られ赤褐色	
55	磨石	床面	完形	26.6	11.1	8.2	3,480		粗粒輝石安山岩	大型の棒状礫、比較的平らな1面を作業面とする	
56	磨石	床面	完形	25.4	9.2	5.9	2,450		粗粒輝石安山岩	大型の棒状礫、比較的平らな2面を作業面とする、台石として利用か	

5-126号住居跡 (第309図: PL178)

14	石鏃	覆土	欠損品	1.5	(1.1)	0.3	(0.5)		黒曜石	凹基無茎、小型品	
15	打製石斧	覆土	完形	10.1	5.8	1.8	134		細粒輝石安山岩	いわゆる分銅形であるが、基部側が小さく、挟りは左右非対称である	
16	磨製石斧	Pit3	欠損品	(7.6)	(4.0)	(2.2)	(138)		蛇紋岩	基部片、稜は不明瞭で、側縁、基端部分に敲打面残る	
17	磨石	覆土	欠損品	(8.7)	9.2	3.0	(366)		粗粒輝石安山岩	扁平な円礫利用、一部を欠損、両面平らで使用面としている	
18	磨石	覆土	欠損品	(9.7)	(4.3)	2.1	(104)		粗粒輝石安山岩	小判形の礫、半分を欠く、両面平らで使用面とする	
19	敲石	覆土	欠損品	(7.0)	3.8	(2.6)	(90)		凝灰岩	棒状礫、半分を欠く表面、端部に敲打痕顕著	

5-131号住居跡 (第321図: PL179)

30	凹石	覆土	完形	13.6	8.3	4.0	471		粗粒輝石安山岩	半月形の自然礫を利用、両面に列状の凹み穴を有し、端部に打痕	
31	磨石	炉	欠損品	(6.2)	6.3	2.0	(112)		粗粒輝石安山岩	扁平な川原石利用	

5-132号住居跡 (第324図: PL180)

25	石鏃	覆土	完形	2.2	0.6	0.4	0.6		黒曜石	棒状鏃、基部が僅かに細くなっている、錐部摩耗	
26	スクレイパー	覆土	ほぼ完形	2.1	0.9	0.4	0.7		黒曜石	やや扁平な棒状を呈す、両側縁に刃部作出	
27	スクレイパー	覆土	完形	5.5	4.5	0.9	23		黒色頁岩	半月形の剥片、縁辺部に刃部作出	

5-133号住居跡 (第326図: PL180)

28	石核	覆土	完形	5.9	2.8	2.1	35.1		黒曜石	全体に凹凸を有す石塊で、ほぼ全面がざらついた自然面	
29	磨石	覆土	完形	5.4	4.4	2.9	96		粗粒輝石安山岩	卵形の小平礫、両面はやや摩耗	

5-134号住居跡 (第329~331図: PL181)

16	石鏃	覆土	欠損品	(1.6)	1.4	0.3	(0.6)		黒曜石	凹基無茎、先端部と片脚を欠く	
17	スクレイパー	覆土	完形	2.3	4.6	1.0	13		黒色頁岩	角形を呈し一側縁に両面剥離による刃部を作出	
18	剥片石器	床面	完形	10.3	11.0	1.5	203		粗粒輝石安山岩	大型の礫から剥ぎ取った扁平大型剥片、片面自然面下辺に使用痕	
19	磨製石斧	覆土	刃部欠損	(14.5)	6.3	(3.5)	(601)		蛇紋岩	大型の定角式、良く研磨されている、刃部を欠くが敲打具として利用か	
20	磨石	覆土	完形	12.6	9.0	7.0	1,070		粗粒輝石安山岩	やや大型の卵形を呈す、片面平坦で使用面か	
21	磨石	覆土	完形	10.8	8.7	6.4	877		粗粒輝石安山岩	卵形の円礫、両面を使用痕	
22	磨石	覆土	完形	15.6	6.8	5.5	946		粗粒輝石安山岩	棒状の礫を利用、両面に敲打によるものか複数の打痕見られる	
23	磨石	覆土	欠損品	(13.6)	(9.8)	(3.9)	(637)		粗粒輝石安山岩	扁平で上面は僅かに凹む、片側縁部を欠く	
24	台石	覆土	完形	19.0	17.5	4.1	2,490		粗粒輝石安山岩	扁平な円礫、両面平らで使用面として利用か	
25	台石	床面	完形	17.1	16.1	5.7	2,620		粗粒輝石安山岩	扁平でやや不整形な礫を利用、両面平らで平滑	
26	台石	床面	欠損品	(36.3)	(28.3)	3.0	(5.3kg)		粗粒輝石安山岩	板状の大型礫、使用面は平らで平滑	
27	石棒	覆土	完形	14.5	5.4	1.5	231		緑色片岩	細長い扁平礫、表面、側縁やや摩耗	
28	軽石製品	覆土	完形	5.5	5.0	1.1	16		軽石	円みを呈す板状の軽石。上部に径6mm程の穴が空けられている	

5-137号住居跡 (第337図: PL182)

9	打製石斧	覆土	欠損品	(3.2)	(4.0)	(0.9)	(14)		細粒輝石安山岩	板状打製石斧の側縁部片	
---	------	----	-----	-------	-------	-------	------	--	---------	-------------	--

5-138号住居跡 (第339図: PL182)

6	石鏃	覆土	欠損品	(1.6)	(1.2)	0.2	(0.4)		黒曜石	先端部片、両側縁は直線的に作り出され丁寧	
---	----	----	-----	-------	-------	-----	-------	--	-----	----------------------	--

第3章 検出された遺構と遺物

5-141号住居跡 (第345図: PL183)

遺物No	器種	出土位置	残存	計測値	長さ	幅	厚さ	(cm)	重さ	(g)	石材	特徴	備考
9	石鏃	覆土	欠損品	(3.1)	1.8	0.3	(1.2)				黒曜石	凹基無莖、基部の両側縁がやや円味を有す、片脚を欠く	
10	打製石斧	覆土	完形	11.6	4.7	1.8		121			黒色頁岩	撥形、側縁、刃部摩耗顕著	

5-144号住居跡 (第352図: PL185)

55	楔形石器	覆土	完形	4.4	3.3	1.4		26			黒色頁岩	方形で、片面が肥厚、縁辺部は剥離により刃部作出	
56	スクレイパー	覆土	完形	5.8	3.8	1.3		24			黒色頁岩	剥片の1辺に刃部を作出	
57	磨石	Pit 2	完形	12.8	9.8	3.8		618			安山岩	扁平な楕円形礫、側縁の一部に打痕、被熱によるものかひび割れあり	
58	敲石	覆土	ほぼ完形	14.0	6.4	3.3		378			粗粒輝石安山岩	細長い礫を利用、端部両面に打撃による剥離あり	
59	磨石	Pit 2	完形	6.2	4.6	3.0		115			粗粒輝石安山岩	やや扁平で卵形の礫利用	
60	磨石	Pit 2	完形	9.4	7.8	4.7		425			粗粒輝石安山岩	おむすび形を呈し、やや尖った部分に打痕見られる	
61	磨石	Pit 2	完形	9.0	8.0	3.4		379			粗粒輝石安山岩	扁平な小型礫利用、側縁の一部に打痕見られる	
62	台石	覆土	完形	25.0	18.1	5.4		2,650			粗粒輝石安山岩	やや不定形な扁平礫を利用、使用面は平らで平滑、縁辺部に剥離	

5-145号住居跡 (第354図: PL185)

10	磨石	覆土	完形	4.8	4.2	3.8		72			粗粒輝石安山岩	小円礫、全体に表面が粗い	
11	磨石	Pit 1	完形	5.0	4.9	3.8		136			粗粒輝石安山岩	小円礫	

6-10号住居跡 (第357・358図: PL186)

35	打製石斧	床面	欠損品	5.9	4.6	(1.0)		(25)			細粒輝石安山岩	打製石斧の剥離片か、火を受けている	
36	打製石斧	床面	欠損品	(9.8)	7.7	4.0		(301)			黒色頁岩	厚手の分銅形、扱いは浅く刃部を欠く	
37	磨石	覆土	ほぼ完形	10.8	9.0	5.8		880			粗粒輝石安山岩	両面平らな円礫利用、凹み穴有し使用面平滑、一端を打面とする	
38	多孔石	覆土	完形	21.1	22.0	13.6		6,100			粗粒輝石安山岩	表面に十数個のやや不均一な凹み穴を有す	

6-15号住居跡 (第360図: PL186)

7	打製石斧	覆土	完形	15.2	6.4	1.7		254			粗粒輝石安山岩	撥形、片面に自然面残し、両側縁部丁寧な刃潰し調整、刃部摩耗	
---	------	----	----	------	-----	-----	--	-----	--	--	---------	-------------------------------	--

6-16号住居跡 (第365~367図: PL188)

32	石鏃	覆土	欠損品	(2.3)	(1.5)	0.3		(0.7)			黒曜石	薄手作りの凹基無莖、両脚を僅かに欠いている	
33	石鏃	覆土	完形	1.7	0.9	0.5		0.5			黒曜石	片面に先端部から稜線が走る、石鏃欠損品の可能性有	
34	石鏃	覆土	欠損品	(1.7)	(1.6)	0.3		(0.7)			黒曜石	凹基無莖、左右の均整を欠く、先端部欠損	
35	楔形石器	覆土	完形	2.0	1.4	1.6		1.2			黒曜石	片面膨らみ側縁部に剥離調整	
36	二次加工片	覆土	完形	3.3	1.9	0.8		4.3			チャート	下縁部に刃部作出	
37	打製石斧	覆土	ほぼ完形	9.3	5.7	1.4		63			黒色頁岩	撥形で刃部は円刃で薄く作られ、大きく開く	
38	打製石斧	覆土	完形	14.4	5.6	1.9		171			粗粒輝石安山岩	撥形、中央やや上位に弱い扱りを有す、作りはやや粗い	
39	打製石斧	覆土	完形	10.9	4.4	1.4		81			デイサイト	小型で細身の撥形、側縁部刃潰しされ、刃部摩耗し厚くなる	
40	スクレイパー	床面	完形	7.9	4.3	1.1		31			黒色頁岩	縦長の剥片を利用、片側縁に粗く刃部作出、火を受けている	
41	スクレイパー	覆土	完形	4.6	3.5	1.2		16			黒色頁岩	小型で扇形を呈す、刃部は弧状	
42	スクレイパー	覆土	完形	6.5	4.9	1.4		49			黒色安山岩	円刃だが、刃部は発掘時の欠損が顕著	
43	磨石	覆土	完形	11.9	6.4	4.3		460			粗粒輝石安山岩	細長い礫片面に凹み穴、片面に削痕状の溝、被熱によるひび割れ	
44	磨石	覆土	ほぼ完形	9.4	7.6	5.5		630			粗粒輝石安山岩	やや丸みを持ち両面平滑、一端を欠損	
45	磨石	覆土	完形	4.2	3.8	3.3		66			粗粒輝石安山岩	小型の円礫、ほぼ全面に使用痕、被熱	
46	磨石	覆土	ほぼ完形	(10.8)	9.8	5.5		(630)			粗粒輝石安山岩	やや扁平な円礫、両面使用面とし極めて平滑、一端を欠く	
47	磨石	覆土	完形	8.7	7.4	5.6		557			粗粒輝石安山岩	円礫利用、両面やや平坦で、部分的に煤付着	
48	石棒	覆土	頭部片	(9.6)	6.0	—		(305)			緑泥片岩	有頭石棒の頭部片である。キノコ状の頭部を作り出した中型品	
49	台石	覆土	欠損品	37.5	38.0	11.4		21.5kg			粗粒輝石安山岩	大型の円礫、使用面平滑で大小数個の凹み穴が見られる	
50	多孔石	覆土	完形	16.5	31.8	11.5		4,550			粗粒輝石安山岩	両面、側面に多数の凹み穴を有す、穴の断面は円錐形を呈す	
51	多孔石	覆土	完形	30.1	47.2	24.3		31.0kg			粗粒輝石安山岩	大型の礫で、狭くなった上端部分を中心に複数の凹み穴が穿たれる	

6-17号住居跡 (第369図: PL188)

7	打製石斧	覆土	完形	11.5	4.5	2.1		124			黒色頁岩	やや細身の撥形、体部に厚みを持ち刃部はやや薄く、摩耗している	
8	打製石斧	覆土	欠損品	(6.1)	3.8	0.8		(24)			黒色頁岩	薄手の撥形か、刃部を欠く	

5-11号炉 (第375図: PL189)

2	石鏃	覆土	欠損品	(1.4)	2.0	0.5		(1.5)			黒曜石	平基無莖鏃の基部片か、端部は薄く仕上げられ、欠損部は厚い	
---	----	----	-----	-------	-----	-----	--	-------	--	--	-----	------------------------------	--

5-444号配石 (第378図: PL189)

19	石錐	覆土	完形	2.1	0.7	0.3		0.5			黒曜石	両端が尖る小型の棒状錐	
20	磨製石斧	覆土	欠損品	(7.2)	4.5	2.3		(134)			蛇紋岩	定角式、刃部を欠く	

4-89号土坑 (第423図: PL190)

2	打製石斧	覆土	欠損品	(5.9)	5.7	1.2		(53)			細粒輝石安山岩	短冊形か、薄手の作り、刃部を欠く	
3	スクレイパー	覆土	欠損品	7.2	(3.2)	1.4		(30)			黒色頁岩	半月状を呈し片面に自然面残る、剥離は粗い、打製石斧の刃部片か	
4	スクレイパー	覆土	完形	6.6	4.1	1.7		48			黒色頁岩	木の葉形を呈す剥片で、剥離は粗く明確な刃部は特定できず	

4-97号土坑 (第423図: PL190)

1	磨石	覆土	欠損品	(9.7)	7.5	4.3		(431)			粗粒輝石安山岩	やや扁平な円礫を利用、両面使用し使用面は極めて平滑、被熱あり	
---	----	----	-----	-------	-----	-----	--	-------	--	--	---------	--------------------------------	--

4-105号土坑 (第423図: PL190)

2	磨石	覆土	完形	13.6	7.9	4.0		570			粗粒輝石安山岩	小判形を呈す、両面使用、浅い凹み痕を有す、被熱あり	
---	----	----	----	------	-----	-----	--	-----	--	--	---------	---------------------------	--

5-813号土坑 (第427図: PL191)

9	スクレイパー	覆土	ほぼ完形	5.8	4.1	1.0		23			黒色頁岩	不定形で、片面に自然面残す、刃部は一辺に作出される	
---	--------	----	------	-----	-----	-----	--	----	--	--	------	---------------------------	--

第3節 縄文時代の遺構と遺物

5-814号土坑 (第427図: PL191)

遺物No	器種	出土位置	残存	計測値	長さ	幅	厚さ	(cm)	重さ	(g)	石材	特徴	備考
2	石鏃	覆土	欠損品	2.1	(1.5)	0.2	(0.8)				黒曜石	凹基無茎、抉りは浅く片脚の一部を欠く	
3	スクレイパー	覆土	完形	5.3	4.4	1.5		29			黒色安山岩	扇形を呈す、基部は厚く刃部はやや弧状を呈す	

5-816号土坑 (第427図: PL191)

5	打製石斧	覆土	完形	8.5	4.1	1.8		71			黒色頁岩	撥形の小型品である、刃部摩耗	
6	打製石斧	覆土	欠損品	(6.7)	4.7	1.7		(77)			細粒輝石安山岩	基部片、片面に大きく自然面残す	
7	磨石	覆土	完形	6.3	6.1	4.6		261			粗粒輝石安山岩	円礫利用、両面磨り面	

5-825号土坑 (第428図: PL191)

4	石鏃	覆土	完形	1.5	1.3	0.2		0.4			黒曜石	小型凹基無茎、抉りやや深く作りは丁寧	
---	----	----	----	-----	-----	-----	--	-----	--	--	-----	--------------------	--

5-826号土坑 (第428図: PL191)

5	石鏃	覆土	欠損品	(2.6)	1.4	0.4		(1.2)			碧玉	凹基無茎か、極めて粗い剝離調整、片脚を欠く	
---	----	----	-----	-------	-----	-----	--	-------	--	--	----	-----------------------	--

5-828号土坑 (第429図: PL192)

12	石鏃	覆土	欠損品	(2.3)	(1.8)	(0.3)		(1.1)			黒曜石	凹基無茎、作りは丁寧、先端部を欠く	
13	打製石斧	覆土	欠損品	(8.7)	4.7	2.6		(151)			細粒輝石普通輝石山岩	粗い作り、刃部を欠く	
14	磨石	覆土	完形	7.9	6.2	4.1		302			粗粒輝石安山岩	やや扁平な卵大の礫、両面使用面	

5-829号土坑 (第429図: PL192)

5	石鏃	覆土	完形	1.9	1.4	0.2		0.3			黒曜石	凹基無茎、やや小型で、脚、先端部が細身の作り	
6	打製石斧	覆土	完形	11.3	5.4	2.2		204			黒色安山岩	短冊形、円刃	
7	磨製石斧	覆土	欠損品	(5.4)	3.5	(1.4)		(50)			蛇紋岩	定角式の基部片	

5-830号土坑 (第430図: PL192)

4	打製石斧	覆土	完形	6.4	3.7	1.4		18			粘板岩	剥片	
---	------	----	----	-----	-----	-----	--	----	--	--	-----	----	--

5-831号土坑 (第430図: PL192)

6	打製石斧	覆土	欠損品	(14.5)	5.7	1.8		(169)			細粒輝石安山岩	撥形、やや扁平な礫を利用、表裏に自然面残す、刃の一部を欠く	
7	磨製石斧	覆土	欠損品	(11.8)	6.6	4.0		(537)			蛇紋岩	やや大型の定角式か、器面敲打により極めて荒れている、刃部欠く	

5-833号土坑 (第432図: PL193)

21	石鏃	覆土	ほぼ完形	2.0	1.4	0.2		0.4			黒曜石	凹基無茎、抉りはやや浅い、薄手の作り、先端を僅かに欠く	
22	石鏃	覆土	完形	2.1	0.6	0.3		0.4			黒曜石	紡錘型の板状で反りを持つ、側縁、先端部を細かく調整、先端部摩耗	
23	打製石斧	覆土	欠損品	(9.4)	4.7	1.3		(100)			細粒輝石安山岩	短冊形、薄手で両面に自然面、刃部の摩耗顕著	
24	打製石斧	覆土	欠損品	(8.4)	4.5	1.5		(85)			細粒輝石安山岩	短冊形、刃部を欠く	
25	打製石斧	覆土	欠損品	(8.9)	5.3	1.9		(107)			細粒輝石安山岩	撥形、刃部の摩耗顕著	
26	スクレイパー	覆土	完形	8.0	4.6	1.4		40			細粒輝石安山岩	粗い作り	
27	磨石	覆土	完形	12.3	9.5	4.5		732			安山岩	やや扁平な円礫、両面使用また浅い凹穴が見られる	
28	軽石製品	覆土	欠損品	(5.2)	(3.7)	0.8		(9.4)			軽石	凹みを有し、一部つまみ状に高まり穿孔痕と見られる溝状の痕跡あり	

5-834号土坑 (第433図: PL193)

9	石鏃	覆土	欠損品	(1.8)	(1.6)	0.4		(1.0)			黒曜石	調整剝離がやや大きい、先端部片	
10	石鏃	覆土	欠損品	(2.0)	(1.2)	0.5		(1.3)			黒曜石	凹基無茎であるが、抉りはごく僅かである、先端部分を欠く	
11	打製石斧	覆土	欠損品	(9.1)	4.6	1.6		(105)			細粒輝石安山岩	撥形、刃部を欠く	

5-840号土坑 (第434図: PL194)

17	打製石斧	覆土	欠損品	(9.3)	5.1	1.4		(97)			細粒輝石安山岩	薄手で両面に自然面、刃部を欠く	
18	磨石	覆土	完形	4.8	3.3	3.5		76			粗粒輝石安山岩	卵形の小平礫	

5-842号土坑 (第434図: PL194)

10	石鏃	覆土	完形	1.4	1.0	0.2		0.3			黒曜石	きわめて小型の凹基無茎鏃	
----	----	----	----	-----	-----	-----	--	-----	--	--	-----	--------------	--

5-847号土坑 (第435図: PL194)

8	スクレイパー	覆土	完形	2.8	2.3	1.0		5.6			黒曜石	粗く刃部を作出、厚みがあり全縁に粗い作り	
---	--------	----	----	-----	-----	-----	--	-----	--	--	-----	----------------------	--

5-848号土坑 (第436図: PL194)

6	打製石斧	覆土	欠損品	(7.0)	5.0	1.9		(85)			黒色安山岩	刃部片、摩耗あり	
7	軽石製品	覆土	欠損品	(5.4)	(5.1)	1.8		(13)			軽石	発泡度の高い軽石、端に近い部分に円孔を有す	

5-850号土坑 (第436図: PL194)

5	打製石斧	覆土	欠損品	(6.8)	4.6	1.7		(60)			黒色頁岩	基部片	
---	------	----	-----	-------	-----	-----	--	------	--	--	------	-----	--

5-851号土坑 (第436図: PL194)

4	石鏃	覆土	欠損品	(1.0)	(1.3)	0.3		(0.4)			黒曜石	凹基無茎、やや小型で比較的薄手の作り、先端部および片脚を欠く	
---	----	----	-----	-------	-------	-----	--	-------	--	--	-----	--------------------------------	--

5-852号土坑 (第437図: PL194)

6	打製石斧	覆土	完形	11.7	6.8	1.8		130			細粒輝石安山岩	撥形だが刃部が四角に作られている、薄手で粗い作り	
7	打製石斧	覆土	欠損品	(6.8)	5.0	1.9		(84)			細粒輝石安山岩	基部片	
8	打製石斧	覆土	ほぼ完形	10.8	3.6	1.2		48			黒色頁岩	細手で粗い作り、刃部も細く摩耗あり	

第3章 検出された遺構と遺物

5-854号土坑 (第437図: PL195)

遺物No	器種	出土位置	残存	計測値	長さ	幅	厚さ	(cm)	重さ(g)	石材	特徴	備考
8	石鏃	覆土	ほぼ完形	1.6	1.0	0.3	0.3			黒曜石	小型の凹基無茎鏃、片側の脚が僅かに短い	
9	多孔石	覆土	完形	13.9	16.0	7.6	1,440			粗粒輝石安山岩	不定形な自然礫利用、ほぼ全面に大小の凹み穴が穿たれる	

5-856号土坑 (第437図: PL195)

4	石棒	覆土	欠損品	(9.4)	4.1	1.6	(107)			緑色片岩	扁平な棒状礫、表面は平滑で所々に打痕あり、打製石斧の基部か	
---	----	----	-----	-------	-----	-----	-------	--	--	------	-------------------------------	--

5-859号土坑 (第438図: PL195)

18	石鏃	覆土	欠損品	(1.0)	(1.5)	0.2	(0.5)			黒曜石	凹基無茎、先端部を欠く、薄手の作り	
19	打製石斧	覆土	ほぼ完形	(9.2)	4.6	1.3	(70)			黒色安山岩	両側縁がわずかに膨らみを有し刃部状を呈す、スクレイパーか	

5-862号土坑 (第439図: PL195)

9	打製石斧	覆土	欠損品	(1.0)	6.2	2.6	(282)			細粒輝石安山岩	片側に自然面、厚みがあり刃部先端は薄くなる、基部を欠く	
---	------	----	-----	-------	-----	-----	-------	--	--	---------	-----------------------------	--

5-865号土坑 (第439図: PL196)

7	石鏃	覆土	欠損品	2.1	(1.0)	0.3	(0.5)			黒曜石	凹基無茎、三角の袂りを有すと思われ、片脚を欠き、先端部僅かに欠く	
---	----	----	-----	-----	-------	-----	-------	--	--	-----	----------------------------------	--

5-867号土坑 (第440図: PL196)

6	石鏃	覆土	欠損品	(1.8)	(2.0)	0.9	(2.6)			黒曜石	両端を欠く、断面が紡錘形で両側縁が刃部様を呈す、スクレイパーか	
7	磨石	覆土	完形	8.7	7.4	3.4	297			安山岩	扁平な円礫、片面やや膨らみがある、使用面平滑	
8	磨石	覆土	完形	6.1	5.0	2.5	86			粗粒輝石安山岩	扁平な小円礫、両面を使用	

5-868号土坑 (第440図: PL196)

11	石鏃	覆土	完形	1.9	0.6	0.3	0.5			黒曜石	小型棒状鏃、先端部やや摩耗	
12	打製石斧	覆土	欠損品	(4.4)	5.0	1.9	(35)			黒色頁岩	刃部片、摩耗顕著	

5-871号土坑 (第441図: PL196)

6	磨石	覆土	完形	6.4	5.1	2.1	101			粗粒輝石安山岩	扁平な小円礫、両面使用	
---	----	----	----	-----	-----	-----	-----	--	--	---------	-------------	--

5-874号土坑 (第442図: PL197)

17	石鏃	覆土	完形	2.2	0.5	0.3	0.5			黒曜石	棒状鏃、鏃部は細身で先端部が僅かに欠損か	
18	石鏃	覆土	完形	4.0	2.0	0.6	4.2			黒色頁岩	薄く作られたつまみ部に鏃部が付く	
19	磨石	覆土	完形	6.6	6.6	4.5	296			粗粒輝石安山岩	小円礫、両面平滑	

5-876号土坑 (第444図: PL197)

19	石鏃	覆土	欠損品	1.5	(1.3)	0.3	(0.4)			黒曜石	比較的薄く作られた石鏃の先端部片か	
20	二次加工品	覆土	完形	3.8	2.9	1.1	9.2			黒曜石	不定形でやや捻れを持つ剥片の弧状縁辺部分に、簡単な刃部を作出	
21	石核	覆土	完形	4.5	3.2	2.7	37			黒曜石	一部に礫面、斑晶見られる	
22	打製石斧	覆土	欠損品	(9.4)	4.3	2.0	(112)			細粒輝石安山岩	撥形、一次剥片利用、片側に自然面、刃部欠く	
23	スクレイパー	覆土	完形	10.4	8.1	2.2	167			黒色安山岩	楕円形の剥片、弧状の下辺部を刃として使用か	
24	磨石	覆土	欠損品	(12.1)	6.8	4.2	(516)			粗粒輝石安山岩	丸みを持つ角礫状、使用痕はあまり見られない、側面部に赤色痕	

5-877号土坑 (第444図: PL197)

7	磨製石斧	覆土	欠損品	(10.4)	5.4	2.9	(307)			蛇紋岩	定角式、基部を欠損、刃部は使用による刃こぼれ	
---	------	----	-----	--------	-----	-----	-------	--	--	-----	------------------------	--

5-878号土坑 (第445図: PL198)

11	打製石斧	覆土	欠損品	(5.4)	4.5	1.9	(63)			黒色頁岩	片側が楕状に肥厚した刃部片、摩耗顕著	
12	打製石斧	覆土	完形	8.1	4.9	1.8	109			細粒輝石安山岩	短い撥形、刃部は広がる	

5-880号土坑 (第446図: PL198)

2	磨石	覆土	完形	10.6	5.9	4.3	439			粗粒輝石安山岩	長円礫、全面使用し平滑	
3	磨石	覆土	完形	12.8	6.5	4.8	664			粗粒輝石安山岩	長円礫、両面および側縁に浅い打痕による凹み複数あり、被熱	
4	磨石	覆土	完形	10.2	7.2	4.0	496			粗粒輝石安山岩	扁平な長円礫、両面平滑、被熱	

5-881号土坑 (第446図: PL198)

3	石鏃	覆土	欠損品	(1.8)	(0.9)	0.2	(0.4)			黒曜石	凹基無茎、脚は細く作られる、片脚を欠いている	
---	----	----	-----	-------	-------	-----	-------	--	--	-----	------------------------	--

5-885号土坑 (第447図: PL198)

7	石鏃	覆土	完形	1.7	1.2	0.5	1.1			黒曜石	凹基無茎、袂りは浅く厚みがある、	
8	打製石斧	覆土	欠損品	(4.0)	3.3	0.9	(15.4)			黒色安山岩	打製石斧の刃部片か	

5-888号土坑 (第448図: PL199)

28	石鏃	覆土	ほぼ完形	1.8	1.5	0.3	0.6			黒色安山岩	凹基無茎、袂り大きい	
29	打製石斧	覆土	欠損品	(10.6)	6.6	1.3	(108)			細粒輝石安山岩	板状の自然礫利用、両面に大きく自然面残す、刃部欠く	

5-889号土坑 (第449図: PL199)

10	打製石斧	覆土	欠損品	(7.5)	(3.9)	1.4	(82)			細粒輝石安山岩	板状礫、両面に自然面残す基部片	
----	------	----	-----	-------	-------	-----	------	--	--	---------	-----------------	--

5-890号土坑 (第450図: PL200)

16	石鏃	覆土	欠損品	(1.8)	(1.1)	0.3	(0.5)			黒曜石	凹基無茎、薄い剥片を素材に作られている、両脚を欠く	
17	打製石斧	覆土	欠損品	13.2	5.2	2.1	217			粗粒輝石安山岩	撥形、被熱あり、刃部を欠く	

第3節 縄文時代の遺構と遺物

5-891号土坑 (第452図: PL200・201)

遺物No	器種	出土位置	残存	計測値 長さ・幅・厚さ(cm)	重さ(g)	石材	特徴	備考
28	石鏃	覆土	欠損品	(1.5) (1.7) 0.3	(0.2)	黒曜石	凹基無茎、挟りは大きい、半分を欠く	
29	スクレイパー	覆土	完形	1.5 1.2 0.6	1.0	黒曜石	小型品、側縁に粗く刃部を作出	
30	石錐	覆土	ほぼ完形	2.3 1.2 0.5	1.2	黒曜石	平坦面を有す棒状錐、錐部は短い、石鏃未製品の可能性あり	
31	打製石斧	覆土	完形	11.7 5.4 1.9	102	細粒輝石安山岩	撥形、両側縁に浅い挟りあり、刃部丸く摩滅	
32	打製石斧	覆土	完形	11.8 4.7 1.8	126	細粒輝石安山岩	撥形、基部が細くなる、刃部は丸く摩滅	
33	打製石斧	覆土	欠損品	(9.7) 5.0 1.6	(144)	砂岩	撥形、片面に大きく自然面残す、円刃	
34	凹石	覆土	欠損品	(10.8) 7.2 (4.4)	(462)	粗粒輝石安山岩	長円礫を利用、浅い凹み穴あり、3分の1ほどを欠く、被熱	
35	凹石	覆土	完形	10.4 7.4 4.3	446	粗粒輝石安山岩	半円形の礫を利用、両面に凹み穴	
36	凹石	覆土	欠損品	(8.3) 7.9 4.0	(401)	粗粒輝石安山岩	両面にやや浅い凹み穴を有す、一部欠損しており被熱あり	
37	磨石	覆土	完形	8.3 7.7 3.4	331	粗粒輝石安山岩	やや扁平な円礫、両面に使用痕、被熱	
38	磨石	覆土	完形	13.4 4.4 3.5	331	細粒輝石安山岩	乳棒状の礫、端部に若干の打痕見られる	

5-899号土坑 (第453図: PL201)

11	打製石斧	覆土	完形	7.1 4.8 1.0	50	黒色頁岩	短い撥形、基底部に自然面、刃部丸く摩滅	
----	------	----	----	-------------	----	------	---------------------	--

5-900号土坑 (第454・455図: PL202)

13	石鏃	覆土	ほぼ完形	1.7 1.3 0.4	0.9	黒色頁岩	平基無茎、作りは粗く表面は風化	
14	石鏃	覆土	欠損品	2.2 1.4 0.5	1.4	黒曜石	凹基無茎か、大型の珽晶含まれる。片脚部分を欠く	
15	石鏃	覆土	欠損品	1.6 (1.1) 0.3	(0.5)	黒曜石	凹基無茎、挟りは弧状で浅い、片脚を欠き、全体に反りを持つ	
16	打製石斧	覆土	完形	14.6 6.4 2.8	269	細粒輝石安山岩	撥形、全体にやや反りを有す、刃部使用により摩滅	
17	打製石斧	覆土	ほぼ完形	11.2 6.0 1.6	114	細粒輝石安山岩	撥形、扁平で刃部の一部欠く	
18	打製石斧	覆土	完形	10.7 5.4 1.5	90	細粒輝石安山岩	撥形、薄手で刃部は直刃	
19	打製石斧	覆土	欠損品	(7.3) 5.3 1.2	(48)	細粒輝石安山岩	撥形、扁平で両側縁に浅い挟りを有す、刃部を欠く	
20	打製石斧	覆土	欠損品	(3.7) (4.8) (1.3)	(23)	黒色頁岩	刃部または基部片	
21	打製石斧	覆土	欠損品	(7.2) 5.4 1.8	(85)	細粒輝石安山岩	撥形、板状の礫を素材とする、両面に自然面残る、基部片	
22	打製石斧	覆土	欠損品	(3.1) 4.1 1.2	(16)	細粒輝石安山岩	打製石斧の欠損品か	
23	軽石製品	覆土	完形	8.9 5.3 3.6	63	軽石	やや扁平な長円礫、器表面は研磨により成形か	
24	磨石	覆土	完形	4.7 4.4 3.5	97	粗粒輝石安山岩	小型の円礫、表面平滑	
25	磨石	覆土	完形	9.2 8.3 4.9	553	粗粒輝石安山岩	やや扁平な円礫、両面使用し平滑、片面に打痕あり	

5-902号土坑 (第456図: PL202)

16	磨石	覆土	完形	10.9 7.3 5.3	638	粗粒輝石安山岩	長円礫、全面に使用痕	
----	----	----	----	--------------	-----	---------	------------	--

5-903号土坑 (第456図: PL202)

2	石皿	覆土	欠損品	(19.7) 25.5 9.9	(6,900)	粗粒輝石安山岩	厚みがあり、両面使用しており、浅い作り、さらに凹み穴が見られる	
---	----	----	-----	-----------------	---------	---------	---------------------------------	--

5-906号土坑 (第457図: PL203)

19	石鏃	覆土	欠損品	(1.1) (0.9) 0.2	(0.2)	黒曜石	脚部片か	
20	磨石	覆土	欠損品	(7.9) 5.7 4.3	(246)	粗粒輝石安山岩	棒状礫利用	
21	磨石	覆土	完形	4.5 4.3 4.0	109	安山岩	小円礫、表面に鉄分の沈着層あり	

5-907号土坑 (第458図: PL203)

17	石鏃	覆土	ほぼ完形	(1.1) (1.4) 0.3	(0.4)	黒曜石	凹基無茎と思われる、脚は大きく開く	
18	石鏃	覆土	欠損品	1.8 (1.2) 0.4	(0.6)	黒曜石	凹基無茎、片脚を欠く	
19	打製石斧	覆土	完形	10.3 4.1 1.4	72	細粒輝石安山岩	細身の短冊形、刃部は円刃で摩滅	
20	打製石斧	覆土	欠損品	(10.0) 4.2 1.9	(164)	紫羅輝石普通輝石如岩	撥形、片面に自然面残す、刃部を欠く	
21	磨石	覆土	完形	10.9 9.5 6.0	963	粗粒輝石安山岩	半球形の礫で球面部分を使用	

5-909号土坑 (第458・459図: PL203)

3	石核	覆土	完形	10.5 9.7 5.0	616.5	黒曜石	大型石核、1面自然面残り他は風化面	
4	石核	覆土	完形	9.3 4.4 4.5	194.3	黒曜石	1面に自然面、他の面も1面を除き、若干の風化が見られる、珽晶含む	
5	打製石斧	覆土	完形	11.6 5.4 1.7	126	細粒輝石安山岩	短冊形、刃部摩滅し丸みを呈す	
6	打製石斧	覆土	完形	9.8 5.5 1.3	92	細粒輝石安山岩	撥形、やや小型で刃部の作りは薄手である	

5-910号土坑 (第459図: PL203)

4	磨石	覆土	完形	12.1 10.3 3.1	663	粗粒輝石安山岩	扁平な円礫、平らな片面の使用痕顕著	
---	----	----	----	---------------	-----	---------	-------------------	--

5-918号土坑 (第459図: PL204)

4	石皿	覆土	欠損品	(23.4) 24.2 6.7	(4,110)	粗粒輝石安山岩	やや扁平で縁は低く、使用面の凹みも浅く中央が深くなる、被熱	
---	----	----	-----	-----------------	---------	---------	-------------------------------	--

5-919号土坑 (第459図: PL204)

2	打製石斧	覆土	欠損品	(6.1) 4.4 1.8	(51)	細粒輝石安山岩	片面に自然面残す基部片	
---	------	----	-----	---------------	------	---------	-------------	--

5-925号土坑 (第460図: PL204)

6	石鏃	覆土	完形	2.3 1.5 0.2	0.6	黒曜石	凹基無茎、薄手で端正な作り	
7	打製石斧	覆土	ほぼ完形	(9.8) 4.6 1.6	(90)	紫羅輝石普通輝石如岩	短冊形、片面の大きく自然面、刃部一部欠、やや雑な作り	

5-926号土坑 (第461図: PL204)

10	石鏃	覆土	ほぼ完形	(1.6) (1.4) 0.3	(0.4)	黒曜石	凹基無茎、小型品で作りは丁寧	
11	石鏃	覆土	欠損品	(1.5) (1.5) 0.3	(0.6)	黒曜石	凹基無茎、薄手の作り、先端部を欠く	
12	石錐	覆土	欠損品	(2.6) (2.5) 0.5	(2.2)	黒色頁岩	T字形を呈す、錐部摩滅しており先端部分を欠く	

5-932号土坑 (第462図: PL205)

8	スクレイパー	覆土	完形	6.9 3.2 1.1	26	黒色頁岩	木の葉形の石片利用、弧状の縁の部分に刃部を作出	
---	--------	----	----	-------------	----	------	-------------------------	--

第3章 検出された遺構と遺物

5-934号土坑 (第463図: PL205)

遺物No	器種	出土位置	残存	計測値	長さ	幅	厚さ	(cm)	重さ	(g)	石材	特徴	備考
7	磨石	覆土	完形	11.8	9.7	4.8	799	粗粒輝石安山岩	やや扁平な円礫利用、両面使用面、平滑で僅かに打痕見られる				

5-935号土坑 (第463・464図: PL205)

8	石鏃	覆土	欠損品	(2.5)	(1.7)	0.3	(1.1)	黒曜石	凹基無茎、挟り大きく作られる、比較的薄手で片脚および先端部欠く	
9	打製石斧	覆土	完形	12.8	4.0	1.0	73	細粒輝石安山岩	撥形、極めて薄手で刃部も薄く刃刃となる	
10	打製石斧	覆土	欠損品	(4.7)	5.0	1.8	(50)	黒色頁岩	打製石斧の基部片と思われる	
11	磨石	覆土	完形	4.5	4.1	3.7	92	石英閃緑岩	小円礫利用	
12	磨石	覆土	完形	11.9	5.8	4.3	460	粗粒輝石安山岩	扁平な棒状礫、両面に浅い打撃による凹みを有す	
13	磨石	覆土	欠損品	(12.5)	5.8	3.2	(387)	粗粒輝石安山岩	扁平な長方形の礫利用、両面に使用痕、端部を欠く	

5-937号土坑 (第464図: PL206)

5	石鏃	覆土	欠損品	(1.4)	2.0	0.2	(0.6)	黒曜石	凹基無茎、挟り部分大きく脚も長い、薄手の作り、先端部分を欠く	
6	磨石	覆土	完形	13.0	6.9	3.6	545	粗粒輝石安山岩	扁平な長円礫、両面使用	
7	磨石	覆土	完形	5.3	4.9	2.0	74	粗粒輝石安山岩	小円盤形の礫、両面使用	

5-940号土坑 (第464図: PL206)

3	石鏃	覆土	欠損品	2.2	(1.0)	0.3	(0.7)	黒曜石(燧石)	凹基無茎、挟りは深く長脚である、片脚を欠く	
---	----	----	-----	-----	-------	-----	-------	---------	-----------------------	--

5-941号土坑 (第464図: PL206)

5	磨石	覆土	完形	11.3	9.2	4.2	698	石英閃緑岩	扁平で不定形な自然礫	
---	----	----	----	------	-----	-----	-----	-------	------------	--

5-948号土坑 (第465図: PL206)

4	磨石	覆土	完形	10.6	7.2	3.6	437	粗粒輝石安山岩	小判形の扁平礫利用、両面使用により平滑	
---	----	----	----	------	-----	-----	-----	---------	---------------------	--

5-949号土坑 (第466図: PL206)

6	磨石	覆土	完形	11.4	4.5	3.3	265	粗粒輝石安山岩	棒状礫、表面は平滑	
---	----	----	----	------	-----	-----	-----	---------	-----------	--

5-950号土坑 (第466図: PL206)

7	磨石	覆土	欠損品	(7.4)	7.3	5.8	(514)	石英閃緑岩	棒状礫の欠損品、火を受け一部に煤附着	
---	----	----	-----	-------	-----	-----	-------	-------	--------------------	--

5-951号土坑 (第466図: PL207)

7	磨石	覆土	欠損品	(7.5)	9.3	9.1	(733)	粗粒輝石安山岩	円礫利用、割れた後も敲打具として利用か、被熱	
---	----	----	-----	-------	-----	-----	-------	---------	------------------------	--

5-952号土坑 (第467図: PL207)

8	磨石	覆土	欠損品	(7.0)	6.3	4.4	(222)	粗粒輝石安山岩	断面三角の棒状礫、半分を欠く	
---	----	----	-----	-------	-----	-----	-------	---------	----------------	--

5-954号土坑 (第467図: PL207)

4	磨石	覆土	完形	9.7	6.8	4.7	470	粗粒輝石安山岩	やや扁平な長円礫、表面は平滑	
5	磨石	覆土	欠損品	(8.0)	6.4	3.3	(274)	粗粒輝石安山岩	扁平でやや不定形な礫を利用、約半分を欠く	

5-956号土坑 (第467図: PL207)

3	多孔石	覆土	完形	20.6	20.2	9.7	4,690	粗粒輝石安山岩	自然礫利用、比較的平坦な表裏面に十数個の凹み穴が穿たれる	
---	-----	----	----	------	------	-----	-------	---------	------------------------------	--

5-961号土坑 (第468図: PL208)

15	打製石斧	覆土	欠損品	(9.5)	5.3	1.6	(120)	細粒輝石安山岩	短冊形、刃部を欠く、表面は風化見られる	
16	打製石斧	覆土	欠損品	(16.0)	(7.1)	(2.8)	(240)	黒色頁岩	いわゆる撥形であるが刃部の形状は不定形、未製品か	

5-962号土坑 (第469図: PL208)

4	磨石	覆土	完形	8.9	4.4	4.2	237	粗粒輝石安山岩	小型の長円礫、両端部に僅かな打痕見られる	
---	----	----	----	-----	-----	-----	-----	---------	----------------------	--

5-964号土坑 (第469図: PL208)

11	小型磨製石斧	覆土	欠損品	(2.2)	1.7	0.5	(3.7)	蛇紋岩	小型品、刃部は弧状を呈す、基部を欠損	
----	--------	----	-----	-------	-----	-----	-------	-----	--------------------	--

5-965号土坑 (第470図: PL208)

13	打製石斧	覆土	欠損品	(10.2)	6.3	2.2	(113)	紫蘇輝石普通輝石安山岩	撥形であるが、幅広の作りで刃部を欠く	
----	------	----	-----	--------	-----	-----	-------	-------------	--------------------	--

5-966号土坑 (第470図: PL208)

6	石鏃	覆土	欠損品	(1.5)	(1.3)	0.3	(0.6)	黒曜石	下半分を欠く、作りはやや粗い	
---	----	----	-----	-------	-------	-----	-------	-----	----------------	--

5-973号土坑 (第470図: PL209)

1	磨石	覆土	完形	12.3	9.3	6.3	1,085	粗粒輝石安山岩	楕円礫、両面を使用	
---	----	----	----	------	-----	-----	-------	---------	-----------	--

5-979号土坑 (第472図: PL209)

31	磨製石斧	覆土	完形	3.9	2.6	0.7	15.8	蛇紋岩	小型の定角式、やや幅広で刃部は弧状を呈す	
32	磨石	覆土	完形	9.2	4.9	2.3	171	粗粒輝石安山岩	やや扁平な棒状礫、使用痕はほとんど見られず、被熱か	

5-987号土坑 (第473図: PL210)

4	打製石斧	覆土	欠損品	(6.0)	(3.0)	(1.0)	(18)	黒色頁岩	小型品、片面縦に稜が見られる、刃部を欠損か	
---	------	----	-----	-------	-------	-------	------	------	-----------------------	--

5-1006号土坑 (第475図: PL211)

3	磨石	覆土	欠損品	12.4	(7.7)	5.7	(714)	粗粒輝石安山岩	楕円礫利用、片面および側縁部に打痕見られる、一部欠損	
---	----	----	-----	------	-------	-----	-------	---------	----------------------------	--

5-1023号土坑 (第477図: PL212)

17	凹石	覆土	完形	20.8	16.4	5.3	2,720	粗粒輝石安山岩	大型の扁平円礫利用、両面に複数のやや浅い凹み穴が見られる	
----	----	----	----	------	------	-----	-------	---------	------------------------------	--

第3節 縄文時代の遺構と遺物

5-1052号土坑 (第480図: PL213)

遺物No	器種	出土位置	残存	計測値 長さ・幅・厚さ(cm)	重さ(g)	石 材	特 徴	備考
5	磨石	覆土	完形	21.8 8.8 7.3	2,340	粗粒輝石安山岩	やや大型の長円礫、両面に使用痕見られる	
6	磨石	覆土	欠損品	(9.5) 6.9 5.5	(610)	デイサイト	長円礫利用、片面に打痕、端部が欠けており敲き石として利用か	

5-1058号土坑 (第480図: PL213)

5	磨石	覆土	欠損品	(13.8) 9.1 3.8	(670)	粗粒輝石安山岩	扁平礫利用、両面使用し、1面には浅い打痕あり、両端部に欠損	
---	----	----	-----	----------------	-------	---------	-------------------------------	--

5-1068号土坑 (第481図: PL213)

2	石錐	覆土	欠損品	(2.1) (1.6) 0.3	(0.9)	黒曜石	平基無茎か、やや薄手の作り、脚の端部を欠く	
---	----	----	-----	-----------------	-------	-----	-----------------------	--

5-1075号土坑 (第481図: PL213)

6	石錐	覆土	欠損品	(1.7) (1.2) 0.4	(1.1)	黒曜石	つまみ部を持つ石錐と思われるが、錐部の大部分を欠く	
---	----	----	-----	-----------------	-------	-----	---------------------------	--

5-1084号土坑 (第482図: PL214)

4	打製石斧	覆土	完形	12.8 4.7 2.1	146	黒色頁岩	短冊形、基部が薄く刃部に向かって厚みを増す、刃部摩耗	
---	------	----	----	--------------	-----	------	----------------------------	--

5-1088号土坑 (第482図: PL214)

2	磨石	覆土	ほぼ完形	24.9 (7.8) (6.0)	(2,010)	粗粒輝石安山岩	大型の棒状礫、被熱し部分的に剥離が見られる、一部表面に打痕	
---	----	----	------	------------------	---------	---------	-------------------------------	--

5-1110号土坑 (第484図: PL215)

7	磨製石斧	覆土	欠損品	(6.6) 4.0 1.1	(46)	蛇紋岩	薄手でやや不定形、刃部を欠く	
8	磨石	覆土	完形	5.6 5.1 3.6	145	粗粒輝石安山岩	小円礫、両面使用し平滑	

5-1113号土坑 (第485図: PL215)

3	凹石	覆土	欠損品	(15.2) 6.2 4.6	(549)	粗粒輝石安山岩	棒状礫利用、片面に2カ所の凹み穴有す、また端部に打痕あり	
4	磨石	覆土	完形	13.3 7.8 4.1	720	粗粒輝石安山岩	扁平な長円礫、平坦な両面を使用	

6-204号土坑 (第486図: PL215)

9	磨石	覆土	完形	9.9 8.6 4.5	442	粗粒輝石安山岩	おむすび形の礫を利用、表裏に複数の凹み穴有す	
---	----	----	----	-------------	-----	---------	------------------------	--

6-206号土坑 (第486・487図: PL216)

4	磨石	覆土	完形	12.4 7.7 3.2	545	粗粒輝石安山岩	小判形を呈す、両面平滑で、側縁部にも磨り痕及び打痕あり	
5	磨石	覆土	完形	10.2 8.6 7.3	824	粗粒輝石安山岩	卵形を呈す、表裏に使用による摩耗および敲打による剥落面あり	

6-207号土坑 (第487図: PL216)

9	石錐	覆土	欠損品	(1.8) (1.1) 0.5	(0.7)	珪質頁岩(黒曜石類似)	先端部片か	
10	スクレイパー	覆土	完形	7.4 6.3 2.2	86	珪質頁岩	厚みのある剥片で、刃部は鋭利な直刃で片面調整	
11	磨石	覆土	ほぼ完形	13.3 9.1 4.3	835	粗粒輝石安山岩	扁平な礫を利用、両面使用で平滑	
12	多孔石	覆土	完形	17.1 11.3 7.0	1,123	多孔質安山岩	三角の礫を利用、一面に10カ所ほどの凹み穴を有す	
13	磨石	覆土	完形	11.5 4.7 2.7	203	安山岩	扁平な棒状礫、両面に1対ずつの浅い凹みを有し両端部には打痕	
14	軽石製品	覆土	ほぼ完形	10.9 8.3 3.7	145	軽石	石皿のミニチュア品、黒色の軽石、縁は平に磨られている	

6-212号土坑 (第488図: PL216)

10	打製石斧	覆土	完形	10.5 4.2 1.7	81	黒色安山岩	短冊形、小振り刃部僅かに広がる、基部片面に自然面、刃部摩耗	
----	------	----	----	--------------	----	-------	-------------------------------	--

4区遺構外

遺物No	器種	出土位置	残存	計測値 長さ・幅・厚さ(cm)	重さ(g)	石 材	特 徴	備考
第506図-1	石錐	J-17	完形	2.8 1.6 0.3	1.1	チャート	凹基無茎、作りは丁寧で、脚部はやや丸く鋏形状	PL224
第506図-2	石錐	N-21	完形	1.9 0.4 0.3	0.4	チャート	凹基無茎、先端部、脚が細く延びた三角形を呈す	PL224
第506図-3	石錐	Y-11	ほぼ完形	1.7 (1.2) 0.3	(0.5)	黒曜石	小型の凹基無茎	PL224
第506図-4	石錐	表土	完形	1.7 1.4 0.3	0.5	黒曜石	凹基無茎、薄手の作り	PL224
第506図-5	石錐	表土	完形	1.7 1.8 0.3	0.6	黒曜石	凹基無茎、挟り浅く脚は開く、先端部薄く仕上げられる	PL224
第506図-6	石錐	表土	完形	2.1 1.5 0.3	0.5	チャート	凹基無茎、挟り深く脚は長い、作りは丁寧	PL224
第506図-7	石錐	Q-18	ほぼ完形	1.7 1.1 0.3	0.5	黒曜石	小型の凹基無茎	PL224
第506図-8	石錐	X-13	ほぼ完形	2.1 1.5 0.3	0.6	黒曜石	平基無茎、二等辺三角形を呈す、局部磨製	PL224
第506図-9	石錐	表土	ほぼ完形	2.0 1.7 0.4	0.8	黒曜石	凹基無茎、中央部厚く作られる	PL224
第506図-10	石錐	表土	ほぼ完形	1.7 1.2 0.4	0.8	黒曜石	凹基無茎、未製品か	PL224
第506図-11	石錐	C-10	欠損品	(3.3) (2.0) 0.4	(2.0)	黒色安山岩	やや大型の凹基無茎、片脚を欠く	PL224
第506図-12	石錐	O-15	欠損品	(1.5) 1.3 0.3	(0.5)	黒曜石	凹基無茎、やや薄手の作り、先端部を欠く	PL224
第506図-13	石錐	O-16	欠損品	(1.8) 1.8 0.5	(1.6)	チャート	凸基無茎、やや不整な三角形を呈す、錐のつまみ部か	PL224
第506図-14	石錐	P-19	欠損品	(2.2) (1.3) 0.3	(0.6)	黒曜石	凹基無茎、先端部、側縁部薄く作られる、片脚を欠く	PL224
第506図-15	石錐	P-19	欠損品	(2.0) 1.7 0.3	(1.0)	黒曜石	凹基無茎、薄く作られている、先端部を欠く	PL224
第506図-16	石錐	X-13	欠損品	(1.2) (1.2) 0.4	(0.4)	黒曜石	凹基無茎か、先端部、脚部を欠く	PL224
第506図-17	石錐	Y-11	欠損品	(1.8) (1.8) 0.7	(1.5)	黒曜石	未製品と見られるが、石錐つまみ部の可能性有り	PL224
第506図-18	石錐	Y-11	欠損品	(1.4) (1.1) 0.5	(0.6)	黒曜石	脚部片か、厚み有り	PL224
第506図-19	石錐	Y-12	欠損品	(1.0) 1.5 0.2	(0.3)	黒曜石	凹基無茎、薄手で脚は開き気味に作られる、先端部欠く	PL224
第506図-20	石錐	Y-19	欠損品	(1.4) (1.4) 0.3	(0.5)	黒曜石	凹基無茎、薄手で、先端部、片脚を欠く	PL224
第506図-21	石錐	表土	欠損品	(1.7) (1.2) 0.4	(0.6)	黒曜石	凹基無茎の先端部片と思われる、両脚を欠く	PL224
第506図-22	石錐	表土	欠損品	(1.8) 1.6 0.3	(0.7)	黒曜石	凹基無茎、先端部を僅かに欠く	PL224
第506図-23	石錐	Y-15	未製品	2.5 1.5 0.4	1.4	黒曜石	先端部作出、基部は未調整	PL224
第506図-24	石錐	N-16	完形	2.0 0.9 0.4	0.6	黒曜石	紡錘状を呈す、錐部の作りは粗い	PL224
第507図-25	石錐	Y-11	完形	4.2 2.3 0.9	3.4	珪質頁岩	紡錘状のつまみ部を持ち、錐部細長く直線的に延びる	PL224
第507図-26	石錐	D-11	欠損品	(2.4) 1.3 0.5	(1.1)	黒曜石	つまみ部上端は薄く、錐部はやや扁平、先端部を欠く	PL224
第507図-27	石錐	Y-11	欠損品	2.1 0.7 0.3	0.4	黒曜石	板状片利用、側縁部に調整痕	PL224
第507図-28	石錐	M-22	欠損品	(1.7) 0.6 0.3	(0.4)	黒曜石	小型棒状、小型板状片を利用、先端部を欠く	PL224

第3章 検出された遺構と遺物

4区遺構外

遺物No	器種	出土位置	残存	計測値	長さ	幅	厚さ(cm)	重さ(g)	石材	特徴	PLNo
第507図-29	石錐	O-19	欠損品	(4.3)	1.3	1.1	(5.3)		黒曜石	大型の錐部片、断面三角で使用による摩耗顕著	PL224
第507図-30	石錐	L-23	未製品	3.1	1.2	0.9	2.8		黒曜石	断面三角で、稜線部に調整痕、未製品と思われる	PL224
第507図-31	楔形石器	Y-11	完形	1.7	1.9	0.6	1.6		黒曜石	両側縁部に刃部作出	PL224
第507図-32	打製石斧	J-21	完形	9.0	6.0	1.6	81		黒色頁岩	刃部がやや幅広い楕形、刃部摩耗	PL224
第507図-33	打製石斧	N-21	刃部欠損	(10.2)	5.2	2.5	(116)		黒色頁岩	楕形、厚みがあり、両面部分的だが僅かに自然面残す、刃部を欠く	PL224
第507図-34	打製石斧	N-21	欠損品	(5.2)	4.2	0.8	(23)		黒色頁岩	薄手楕形の基部片と見られる	PL224
第507図-35	スクレイパー	N-21	ほぼ完形	6.8	4.6	1.3	42		黒色頁岩	ほぼ長方形を呈し、下縁部に薄刃の調整刃部作出す	PL224
第507図-36	磨製石斧	N-21	破片	(3.5)	(2.4)	(0.8)	(10)		蛇紋岩	磨製石斧の小破片	PL224
第507図-37	磨製石斧	表土	欠損品	(6.7)	5.1	2.3	(121)		蛇紋岩	定角式、器面平滑に仕上げられている、基部を欠き刃部も欠損	PL224
第507図-38	凹石	5 壑	ほぼ完形	14.2	6.5	3.2	439		粗粒輝石安山岩	扁平で細長い礫を利用、両面にやや浅い凹み穴を複数有す、被熱あり	PL224
第507図-39	磨石	M-22	完形	11.0	6.5	4.3	483		粗粒輝石安山岩	長円礫利用、表裏使用面で極めて平滑、浅い凹みが見られる	PL224
第508図-40	磨石	M-22	完形	13.7	8.2	4.3	689		粗粒輝石安山岩	扁平な小判形の礫、表裏に一つずつの浅い凹み有す	PL224
第508図-41	磨石	M-22	完形	10.3	9.4	5.6	366		多孔質安山岩	やや扁平な円礫で、気泡質、表面に若干の使用痕	PL224
第508図-42	磨石	M-22	完形	9.8	9.0	4.3	576		粗粒輝石安山岩	やや扁平な、いわゆるおむすび形で両面を磨り面として使用	PL224
第508図-43	磨石	M-23	完形	11.5	7.9	3.4	457		粗粒輝石安山岩	小判形の扁平礫、裏表に浅い2つの凹みを有す	PL224
第508図-44	磨石	N-22	完形	9.1	6.6	3.9	325		安山岩	やや扁平な長円礫、両面に打痕上の凹み、表面鉄分付着し赤褐色	PL224
第508図-45	磨石	N-22	完形	11.5	6.4	3.4	392		粗粒輝石安山岩	扁平で棒状の礫を利用、片側縁を中心に打撃による剥落見られる	PL224
第508図-46	磨石	P-19	完形	11.4	8.9	4.1	609		粗粒輝石安山岩	扁平な礫を利用、表裏に使用面、若干の煤付着	PL224
第508図-47	磨石	P-21	完形	10.4	8.4	6.6	852		粗粒輝石安山岩	こぶし大の円礫、使用の痕跡はあまり見られず、全面に煤の付着痕	PL224
第509図-48	磨石	P-21	完形	9.1	6.9	3.1	297		粗粒輝石安山岩	小型の扁平礫利用、両面使用し、縁辺には打撃痕が見られる	PL224
第509図-49	磨石	Q-21	完形	9.6	9.0	4.6	547		粗粒輝石安山岩	扁平な円礫利用、片面に使用面、周辺部に若干の打痕	PL224
第509図-50	磨石	W-16	完形	12.0	9.2	4.9	762		粗粒輝石安山岩	小判形の礫を利用、表裏に浅い打痕状の凹み有す、被熱あり	PL224
第509図-51	磨石	表土	完形	9.3	8.2	4.8	535		粗粒輝石安山岩	やや扁平な円礫、両面に使用痕、打痕性の浅い凹みあり	PL224
第509図-52	磨石	5 壑	完形	5.9	4.9	4.3	160		粗粒輝石安山岩	小型の円礫利用、煤付着	PL224
第509図-53	磨石	W-16	完形	12.0	8.9	5.0	746		粗粒輝石安山岩	やや扁平な礫を利用、片面使用面、浅い打痕見られる	PL224
第509図-54	磨石	M-22	ほぼ完形	10.7	7.0	3.1	349		粗粒輝石安山岩	扁平な礫、表面鉄分の沈着見られる	PL224
第509図-55	磨石	P-21	欠損品	11.2	10.1	5.5	(952)		粗粒輝石安山岩	円礫を利用、両面を使用、被熱か	PL224
第510図-56	磨石	P-21	欠損品	(14.3)	11.6	4.1	(1,055)		粗粒輝石安山岩	片面が浅く凹み、この面を使用面とする、石皿として利用か	PL224
第510図-57	石皿	M-19	欠損品	(9.6)	(10.3)	7.2	(677)		粗粒輝石安山岩	発泡質の石を用いる、使用面はあまり深くない、側縁部ほぼ垂直	PL224
第510図-58	石皿	M-22	欠損品	(16.1)	(23.6)	11.5	(4,630)		粗粒輝石安山岩	角礫の一面が弧状に窪む、砥石の可能性もあり	PL225
第510図-59	多孔石	2ヤック	完形	16.1	19.1	14.7	3,940		粗粒輝石安山岩	やや気泡質の礫利用、一面を中心に小さめの凹み穴が穿たれる	PL225
第510図-60	多孔石	L-18	完形	14.3	11.4	10.0	1,309		粗粒輝石安山岩	不定形な礫利用、ほぼ全面に大小の凹み穴が見られる	PL225
第511図-61	石棒	P-21	欠損品	(11.7)	10.5	—	(1,089)		デイサイト	やや大型の頭部片、頭部、縁辺部に剝離見られる、被熱あり	PL225
第511図-62	軽石製品	W-17	完形	6.9	3.5	1.7	15		軽石	角の円くなった長方形、上位中央に穴を有し下位に未貫通の小孔あり	PL225

5区遺構外

第511図-1	石鏃	A-17	完形	1.3	1.2	0.2	0.3		黒曜石	平基無茎の小型鏃、ほぼ正三角形を呈す	PL225
第511図-2	石鏃	C-13	完形	1.2	1.2	0.2	0.2		黒曜石	小型品、凹基無茎で脚が開く形、作りは丁寧	PL225
3	石鏃	D-15	完形	1.7	1.1	0.3	0.4		黒曜石	平基無茎、再生品か	PL225
第511図-4	石鏃	D-22	完形	1.8	1.4	0.3	0.5		チャート	凹基無茎、側縁部に細かな鋸歯状の調整剝離見られる	PL225
5	石鏃	E-15	完形	1.4	1.5	0.4	0.8		黒曜石	凹基無茎鏃と見られるが、作りがやや不均一、石錐の可能性あり	PL225
6	石鏃	L-16	完形	1.3	1.1	0.2	0.3		黒曜石	小型の凹基無茎、扱いは浅く作りは丁寧	PL225
7	石鏃	O-14	完形	3.0	1.8	0.7	4.1		チャート	凸基無茎、厚みを有し先端部は細く尖る、作りはやや粗い	PL225
8	石鏃	P-15	完形	1.3	0.9	0.4	0.4		黒曜石	凹基無茎、小型品で厚み有す、扱いは浅い	PL225
9	石鏃	T-14	完形	2.0	1.1	0.2	0.6		チャート	凹基無茎、扱いは小さく浅い	PL225
10	石鏃	U-15	完形	2.0	1.2	0.3	0.5		黒曜石	凹基無茎、やや細身で片面がやや肥厚している	PL225
第511図-11	石鏃	A-15	完形	2.1	1.6	0.5	1.1		碧玉	凹基無茎、やや肉厚であるが作りは丁寧	PL225
12	石鏃	U-16	完形	1.7	1.0	0.2	0.3		黒曜石	凹基無茎、小型品でやや細身の作り、扱いは浅く、作りは丁寧	PL225
第511図-13	石鏃	X-13	完形	1.4	1.1	0.2	0.2		黒曜石	小型の凹基無茎、扱いはU状に深い、作りは丁寧	PL225
第511図-14	石鏃	表土	完形	3.1	2.2	0.3	1.8		黒曜石	凹基無茎、扱いは弧状を呈す、大型品で薄手の作り	PL225
15	石鏃	表土	完形	2.0	1.4	0.3	0.7		黒曜石	凹基無茎、両脚側縁部にやや丸みを有す	PL225
16	石鏃	表土	完形	2.1	1.2	0.3	0.6		黒曜石	凸基有茎、紡錘形を呈す	PL225
第511図-17	石鏃	V-17	完形	1.8	1.1	0.3	0.5		黒曜石	凹基無茎、小型品で平面形状やや非対称	PL225
第511図-18	石鏃	A-15	ほぼ完形	2.0	1.6	0.4	1.1		碧玉	凹基無茎であるが扱いは浅く平基に近い、先端部を僅かに欠く	PL225
第511図-19	石鏃	B-13	ほぼ完形	1.9	1.1	0.3	0.5		黒曜石	やや細身の凹基無茎、小型品	PL225
20	石鏃	C-13	ほぼ完形	(1.4)	(1.7)	3.0	(0.5)		黒曜石	二次加工品か	PL225
21	石鏃	C-20	ほぼ完形	2.5	1.9	0.2	1.0		黒曜石	凹基無茎、薄手の作りでほぼ全面が剝離面	PL225
22	石鏃	D-13	ほぼ完形	(1.5)	1.3	0.3	(0.6)		黒曜石	凹基無茎、扱いは極めて浅い、小型で先端部を僅かに欠く	PL225
23	石鏃	D-22	ほぼ完形	2.3	1.5	0.2	0.8		黒曜石	凹基無茎、扱いは浅く、鏃としてはやや形状が不整形	PL225
24	石鏃	F-16	ほぼ完形	2.3	0.5	0.2	0.4		黒曜石	薄い縦長剥片を利用、両側縁に刃部作出	PL225
25	石鏃	I-18	ほぼ完形	(2.0)	1.5	0.3	(0.9)		黒曜石	凹基無茎、扱いは浅い、先端部を僅かに欠く	PL225
第511図-26	石鏃	K-16	ほぼ完形	(1.5)	1.3	0.3	(0.4)		黒曜石	凹基無茎、小型の鏃でやや幅広い	PL225
27	石鏃	T-16	ほぼ完形	(1.5)	1.5	0.3	(0.6)		黒曜石	平基無茎、三角形を呈し、片面は平ら、作りは粗く、石錐の可能性も	PL225
第511図-28	石鏃	V-17	欠損品	(2.1)	1.9	0.6	(1.6)		黒曜石	凸基無茎か、中央が膨らみを持ち両下端部に丸み、先端部下端を欠く	PL225
第511図-29	石鏃	V-17	欠損品	(1.0)	(1.0)	0.2	(0.2)		黒曜石	先端部片	PL225
第511図-30	石鏃	A-18	欠損品	(1.2)	(1.4)	0.3	(0.7)		黒曜石	凹基無茎と見られるが両脚を欠く	PL225
31	石鏃	B-14	欠損品	(1.8)	(1.9)	0.3	(0.9)		黒曜石	凹基無茎、先端部を欠く、左右の脚の形状長さが異なる	PL225
32	石鏃	B-15	欠損品	(1.7)	(1.8)	0.4	(0.8)		黒曜石	凹基無茎鏃の脚部片か	PL225
33	石鏃	C-14	欠損品	(2.0)	(1.3)	(0.3)	(0.5)		黒曜石	基部を欠く、先端部端正な作りで、側縁部調整は細かい	PL225
34	石鏃	C-14	欠損品	(1.2)	1.7	0.2	(0.5)		黒曜石	先端部を欠く凹基無茎、丁寧な作り	PL225
35	石鏃	C-21	欠損品	(1.4)	(1.5)	0.3	(0.7)		黒曜石	凹基無茎、扱いは浅い、先端部が欠けた後再調整か	PL225
36	石鏃	D-14	欠損品	2.3	(1.4)	0.2	(0.6)		黒曜石	凹基無茎、薄手の作り片脚を欠く	PL225

第3節 縄文時代の遺構と遺物

5区遺構外

遺物No	器種	出土位置	残存	計測値 長さ・幅・厚さ(cm)	重さ(g)	石材	特徴	PLNo
37	石鏃	D-14	欠損品	(1.3) 1.7 0.2	(0.6)	黒曜石	凹基無莖、先端部を欠く	PL225
38	石鏃	D-14	欠損品	(1.2) 0.8 0.3	(0.3)	黒曜石	脚部片か	PL225
39	石鏃	D-14	欠損品	(1.7) (0.9) 0.3	(0.4)	黒曜石	脚部片か	PL225
40	石鏃	E-13	欠損品	(1.7) (1.1) 0.2	(0.3)	黒曜石	凹基無莖の小型品、片脚、先端部を欠く	PL225
41	石鏃	E-14	欠損品	(1.3) 1.5 0.2	(0.5)	黒曜石	凹基無莖、先端部を欠く、比較的薄手の作り	PL225
42	石鏃	E-14	欠損品	(1.5) (0.9) 0.3	(0.4)	黒曜石	細身の先端部片と思われる	PL225
43	石鏃	E-14	未製品	(1.6) (1.8) 0.3	(1.3)	黒曜石	両側縁に剥離見られる、石鏃の未製品か	PL225
44	石鏃	E-14	未製品	(2.4) (1.5) 0.5	(1.3)	黒曜石	両側縁に剥離見られる、石鏃の未製品か	PL225
45	石鏃	F-14	欠損品	(1.5) 1.6 0.2	(0.7)	黒曜石	凹基無莖、やや反りを有す剥片を利用、やや雑な作りで先端部欠く	PL225
46	石鏃	F-14	欠損品	(1.2) (0.8) 0.2	(0.3)	黒曜石	先端部片、比較的細身	PL225
47	石鏃	F-15	欠損品	(1.5) (1.3) 0.3	(0.6)	黒曜石	平基無莖鏃で先端および基部を欠く	PL225
48	石鏃	F-16	欠損品	(1.7) (1.5) (0.3)	(0.6)	黒曜石	基部を欠く	PL225
49	石鏃	F-17	欠損品	(1.7) (0.6) 0.3	(0.4)	黒曜石	凹基無莖鏃の脚部片か	PL225
50	石鏃	G-17	欠損品	(1.0) 1.4 0.2	(0.4)	黒曜石	基部片か、薄手の作り	PL225
51	石鏃	I-15	欠損品	(1.4) 1.4 0.4	(0.7)	黒曜石	凹基無莖、先端部を欠く、身のほぼ中央部分に突起部あり	PL225
52	石鏃	I-15	欠損品	(0.8) 1.7 0.3	(0.4)	黒曜石	先端部あるいは脚部片	PL225
53	石鏃	I-16	欠損品	(1.0) 1.2 0.2	(0.3)	黒曜石	小型品、凹基無莖鏃の基部片	PL225
54	石鏃	K-16	欠損品	(1.1) (1.5) (0.3)	(0.6)	黒曜石	平基無莖、先端部を欠く	PL225
55	石鏃	K-16	欠損品	(1.1) 1.7 0.3	(0.5)	黒曜石	凹基無莖、扱いは弧状で浅い、先端部分を欠く	PL225
56	石鏃	K-17	欠損品	(1.7) 1.4 0.2	(0.3)	黒曜石	凹基無莖、扱ひ深く長脚、先端部を欠く	PL225
57	石鏃	K-17	欠損品	(1.4) 1.5 0.3	(1.1)	黒曜石	平基無莖、珪晶含み先端部分を欠く	PL225
58	石鏃	P-16	欠損品	(1.7) (0.9) 0.2	(0.3)	黒曜石	凹基無莖、小型品、約半分を欠く	PL225
59	石鏃	R-16	欠損品	(1.8) (0.7) 0.2	(0.2)	黒曜石	凹基無莖、扱ひは深く長脚、半分を欠く	PL225
60	石鏃	R-17	欠損品	(1.8) (1.6) 0.3	(0.8)	黒曜石	凹基無莖、片脚を欠く、局部磨製(片面)	PL225
61	石鏃	R-18	欠損品	(2.0) (0.8) 0.3	(0.5)	黒曜石	凹基無莖、扱ひ深く長脚、半分を欠く	PL225
62	石鏃	S-17	欠損品	(1.9) 1.5 0.4	(1.1)	黒曜石	平基無莖、先端部を欠く、粗い作り	PL225
63	石鏃	T-14	欠損品	(1.9) (1.5) 0.2	(0.5)	黒曜石	凹基無莖、片面が浅く凹む、脚を欠く	PL225
64	石鏃	T-16	欠損品	(1.5) 1.6 0.3	(0.5)	黒曜石	凹基無莖、扱ひ深く作りは丁寧、先端部を欠く	PL225
65	石鏃	T-16	欠損品	(1.3) (1.3) 0.2	(0.3)	黒曜石	凹基無莖、扱ひ深く作りは丁寧、脚がやや開く形、片脚を欠く	PL225
66	石鏃	T-16	欠損品	(0.7) (1.3) 0.2	(0.2)	黒曜石	斜めに欠けた先端部片であろう	PL225
67	石鏃	T-16	欠損品	(2.2) (1.7) 0.2	(0.5)	黒曜石	凹基無莖、薄手の作り、脚の一部を欠く	PL225
68	石鏃	T-17	欠損品	(1.8) (1.4) 0.2	(0.5)	黒曜石	凹基無莖、小型品、片方の脚を僅かに欠く	PL225
69	石鏃	U-14	欠損品	(2.0) (1.8) 0.4	(1.6)	黒色安山岩	平基無莖、片面が僅かに凹む、作りは極めて粗雑、器面風化	PL225
70	石鏃	U-15	欠損品	(1.0) 1.1 0.2	(0.2)	黒曜石	小型の石鏃片と見られる	PL225
71	石鏃	V-20	欠損品	(1.7) (1.2) 0.3	(0.5)	黒曜石	石鏃の先端部に思えるが曲がり有す、片面が平らな1面	PL225
72	石鏃	表土	欠損品	(2.1) 0.7 0.2	(0.2)	黒曜石	凹基無莖、扱ひは三角に入る、半分を欠く	PL225
73	石鏃	表土	欠損品	(2.3) (0.7) 0.2	(0.4)	黒曜石	凹基無莖、扱ひ深く脚も長い、半分を欠く	PL225
74	石鏃	表土	欠損品	(1.9) (1.4) (0.4)	(0.8)	黒曜石	凹基無莖、扱ひは極めて浅い、片脚を僅かに欠く	PL225
第511図-75	石鏃	T-15	未製品	2.5 1.1 0.5	1.6	黒曜石	凹基無莖か片面が高まり先端部はU字状を呈す、未製品と見られる	PL225
第511図-76	石鏃	A-15	未製品	3.9 1.5 0.7	3.9	黒曜石	つまみ部が薄く幅広に作られる、鏃部は太く、先端を欠く	PL225
第511図-77	石鏃	B-16	完形	1.9 0.6 0.3	0.4	黒曜石	小型紡錘状を呈す	PL225
第511図-78	石鏃	C-13	完形	3.0 0.9 0.4	1.2	黒曜石	棒状鏃、基部が僅かに薄く幅広となる、やや曲がりを持つ	PL225
79	石鏃	D-13	完形	2.5 1.9 0.7	2.3	黒曜石	つまみ部は厚みのある三角形を呈す、鏃部は短い、石鏃に類似	PL225
第511図-80	石鏃	D-14	完形	1.6 0.6 0.3	0.3	黒曜石	極めて小型で紡錘状を呈す	PL225
第511図-81	石鏃	T-16	完形	2.3 0.6 0.3	0.5	黒曜石	棒状鏃、小型品で作りは丁寧	PL225
第511図-82	石鏃	C-14	欠損品か	1.8 0.5 0.2	0.2	黒曜石	鏃部片か、断面やや扁平、作りは丁寧	PL225
83	石鏃	D-13	欠損品	(2.5) (0.6) (0.6)	(1.1)	黒曜石	鏃部片か、先端部は使用による摩耗が見られる	PL225
84	石鏃	D-14	欠損品	(1.8) (1.0) 0.4	(0.7)	黒曜石	鏃部またはつまみ部と考えられるが判然としない	PL225
第511図-85	スクレイパー	A-14	完形	1.5 3.0 4.0	1.7	黒曜石	縦長剥片利用、下縁部に刃部作出	PL225
86	スクレイパー	C-16	完形	1.8 2.5 0.6	3.0	黒曜石	刃部はやや厚みを有し弧状を呈す	PL225
87	スクレイパー	S-14	完形	1.1 1.0 0.4	0.5	黒曜石	小型円形で周辺部に調整痕、極めて小さく明確な用途不明	PL225
第511図-88	楔形石器	A-13	完形	1.7 2.4 0.5	2.1	黒曜石	平行四辺形で両側面に刃部を作出	PL225
89	楔形石器	E-16	完形	2.2 1.5 0.5	2.0	黒曜石	ほぼ長方形で、やや弧状となる下縁と直交する側縁部に刃部作出	PL225
90	楔形石器	W-17	完形	1.9 1.5 0.5	1.6	黒曜石	隅丸方形で、対になる側縁部に刃部作出	PL225
91	楔形石器	D-13	ほぼ完形	(1.4) 1.5 0.3	(0.8)	黒曜石	鼓形を呈す、下縁と直交する側縁に刃部調整見られる	PL225
92	楔形石器	R-18	欠損品	(1.2) 1.9 0.3	(0.9)	黒曜石	薄い台形を呈す剥片、隣り合う2辺に調整痕	PL225
第512図-93	打製石斧	D-13	完形	10.6 4.6 2.3	127	細粒輝石安山岩	撥形、やや円刃で摩耗顕著	PL226
第512図-94	打製石斧	D-13	完形	14.5 5.7 2.7	185	細粒輝石安山岩	撥形、基部から片側縁にかけて自然面、円刃で摩耗あり	PL226
第512図-95	打製石斧	D-15	完形	8.7 4.7 2.3	116	細粒輝石安山岩	短冊形、刃部は薄くなる	PL226
第512図-96	打製石斧	E-13	完形	11.1 5.1 2.1	123	黒色頁岩	撥形、基部は厚みを有し刃部は薄くなり開く	PL226
97	打製石斧	J-18	完形	10.0 5.4 2.0	101	黒色頁岩	撥形、刃部は丸みを有す、調整はやや粗い、刃部には若干の摩耗あり	PL226
98	打製石斧	J-18	完形	9.2 4.6 1.4	66	細粒輝石安山岩	撥形、小型でやや細身、調整は粗い	PL226
99	打製石斧	S-15	完形	9.4 6.1 2.3	138	細粒輝石安山岩	撥形、両側縁に浅い扱ひあり、刃部はやや丸みを呈す	PL226
100	打製石斧	V-19	完形	8.5 4.8 1.4	92	黒色頁岩	撥形、やや短く刃部の広がり弱い、刃部摩耗	PL226
101	打製石斧	表土	完形	18.8 6.3 2.1	324	細粒輝石安山岩	やや大型の短冊形、基部両側縁に弱い扱ひあり、円刃	PL226
第512図-102	打製石斧	A-13	ほぼ完形	8.5 4.6 1.4	76	黒色頁岩	短冊形、刃部やや摩耗	PL226
第512図-103	打製石斧	C-13	ほぼ完形	9.3 4.9 1.3	81	黒色安山岩	やや薄手で、両側縁に浅い扱ひを有す、刃部僅かに欠損	PL226
第512図-104	打製石斧	H-15	ほぼ完形	10.0 3.9 1.5	66	黒色頁岩	短冊形、刃部はやや薄く作られる	PL226
105	打製石斧	J-18	ほぼ完形	10.2 4.7 1.8	103	黒色頁岩	短冊形、両側縁刃潰しされる、刃部僅かに欠損	PL226
106	打製石斧	U-14	ほぼ完形	14.2 5.6 1.8	214	細粒輝石安山岩	撥形、片面に大きく自然面残す、刃部摩耗	PL226
第512図-107	打製石斧	A-15	欠損品	(6.6) 4.6 1.2	(43)	細粒輝石安山岩	基部片、斜めに割れている	PL226
第512図-108	打製石斧	D-14	欠損品	(5.3) 4.3 1.4	(43)	細粒輝石安山岩	基部片、片面に自然面残る	PL226
第512図-109	打製石斧	D-13	欠損品	(7.1) 4.0 1.7	(62)	黒色頁岩	撥形の基部片、片面平らでやや厚みがある	PL226
110	打製石斧	P-19	欠損品	(8.1) 5.5 2.0	(101)	細粒輝石安山岩	撥形、両側縁に弱い扱ひあり、刃部を欠く	PL226

第3章 検出された遺構と遺物

5区遺構外

遺物No	器種	出土位置	残存	計測値	長さ	幅	厚さ(cm)	重さ(g)	石材	特徴	PLNo
111	打製石斧	U-15	欠損品	(8.1)	5.1	1.3	(71)	71	細粒輝石安山岩	撥形、両側縁に浅い抉りが見られ刃部は広がるものと思われる	PL226
112	打製石斧	U-17	欠損品	(6.1)	5.9	1.7	(82)	82	細粒輝石安山岩	撥形打製石斧の基部片か、やや幅広く粗い作り	PL226
113	打製石斧	U-17	欠損品	(4.9)	5.4	1.5	(57)	57	細粒輝石安山岩	打製石斧の刃部片と思われる	PL226
114	打製石斧	V-18	欠損品	(6.3)	3.5	0.9	(27)	27	黒色頁岩	撥形打製石斧の基部片か、小型品で薄手の作り	PL226
115	打製石斧	W-13	欠損品	(6.7)	4.3	2.1	(82)	82	砂岩	撥形か、厚みのある基部片	PL226
116	打製石斧	X-13	欠損品	(8.0)	4.9	2.5	(114)	114	細粒輝石安山岩	撥形、刃部を欠く、短い作りか、器面やや風化	PL226
117	打製石斧	Y-12	欠損品	(4.8)	3.5	1.2	(22)	22	細粒輝石安山岩	撥形、小型の基部片か	PL226
118	打製石斧	Y-16	欠損品	(7.2)	3.6	1.8	(68)	68	細粒輝石安山岩	短冊形、やや細身の作り、基部片と思われる	PL226
第512図-119	スクレイパー	A-14	完形	7.2	3.9	2.0	56	56	黒色頁岩	中央部が肥厚、側縁刃部の剥離は粗い作り、打製石斧基部片か	PL226
第512図-120	スクレイパー	C-20	完形	8.0	5.6	0.9	44	44	黒色頁岩	台形を呈す薄形剥片、三辺に刃部を作出	PL226
第512図-121	スクレイパー	D-13	完形	4.3	4.3	0.9	18	18	黒色頁岩	ほぼ円形の剥片利用、弧状に刃部を作出	PL226
第512図-122	スクレイパー	E-14	完形	4.5	3.1	0.6	7	7	黒色頁岩	不定形で一辺に粗く刃部作出	PL226
第512図-123	スクレイパー	E-17	完形	5.3	3.8	0.8	16	16	黒色安山岩	ほぼ四角形の薄い剥片、打製石斧剥離片の可能性あり	PL226
第512図-124	スクレイパー	F-17	完形	8.1	4.7	1.7	68	68	黒色安山岩	端部に厚みを有し粗い剥離、器面の風化顕著	PL226
125	スクレイパー	S-17	完形	3.2	2.3	1.0	7.7	7.7	チャート	上面が肥厚し厚みを有す、周辺部に粗く刃部作出	PL226
126	スクレイパー	S-17	完形	8.2	4.3	1.3	46	46	細粒輝石安山岩	半円状の剥片利用、下縁部に若干の刃部調整見られる	PL226
127	スクレイパー	表土	完形	6.2	5.7	0.9	43	43	黒色頁岩	ほぼ四角形を呈す薄い剥片利用、各辺に簡単な刃部作出	PL226
第512図-128	スクレイパー	D-14	ほぼ完形	4.6	3.5	0.8	14	14	粗粒輝石安山岩	基部両端に小さい抉り、円刃であるが刃部の調整痕はほとんど無し	PL226
129	石核	S-17	完形	5.5	3.7	2.5	58.9	58.9	黒曜石	不定形な7面体、各面は平らで稜は直線的、複数の珪晶見られる	PL226
第512図-130	磨製石斧	E-22	欠損品	(4.1)	5.0	2.0	(56)	56	蛇紋岩	刃部片である、定角式か、やや丸刃である	PL226
131	凹石	R-16	欠損品	(11.0)	6.4	3.6	(370)	370	粗粒輝石安山岩	やや扁平な棒状礫利用、表裏に1対の凹み穴有す、半分を欠き被熱	PL226
132	敲石	R-15	ほぼ完形	138	55	38	497	497	石英閃緑岩	棒状礫、表面打撃によるものか凹凸顕著	PL226
第513図-133	磨石	A-13	完形	13.1	6.2	4.2	566	566	粗粒輝石安山岩	長円礫、表面及び端部に磨り面有り	PL226
第513図-134	磨石	C-13	完形	3.7	3.7	2.8	55	55	粗粒輝石安山岩	小型の円礫、被熱	PL226
第513図-135	磨石	E-14	完形	5.8	5.3	4.3	190	190	粗粒輝石安山岩	小型の円礫で磨り面がやや平坦、鉄分の沈着で茶褐色を呈す	PL226
第513図-136	磨石	E-18	完形	6.9	5.1	3.9	193	193	安山岩	やや扁平な卵形の礫、両面使用	PL226
第513図-137	磨石	F-18	完形	10.7	8.5	6.3	863	863	粗粒輝石安山岩	こぶし大の礫を利用、二面使用面とし、部分的に打痕が見られる	PL226
138	磨石	P-19	完形	5.2	4.7	4.2	132	132	デイサイト	小型の円礫、表面平滑	PL226
139	磨石	S-16	完形	9.0	7.0	5.0	513	513	粗粒輝石安山岩	やや扁平な円礫利用、両面使用で表裏、側縁部に打痕あり	PL226
140	磨石	S-16	完形	10.0	4.4	2.8	172	172	粗粒輝石安山岩	棒状礫利用、全面平滑であるが明瞭な使用痕は看取されず	PL226
141	磨石	T-17	完形	9.5	7.9	5.5	137	137	粗粒輝石安山岩	やや扁平な円礫利用、両面使用し一部に打痕見られる	PL226
142	磨石	W-13	完形	7.1	5.8	3.9	126	126	粗粒輝石安山岩	発泡質の小礫利用	PL226
143	磨石	X-13	完形	12.2	10.3	2.8	499	499	粗粒輝石安山岩	扁平礫、両面平らで使用痕見られる	PL226
144	磨石	X-13	完形	11.2	6.8	2.3	245	245	粗粒輝石安山岩	扁平礫、両面平らで平滑、側縁部に打痕見られる	PL226
第513図-145	磨石	F-17	ほぼ完形	11.3	7.0	5.0	571	571	粗粒輝石安山岩	長円礫、両面使用面極めて平滑である、端部部分的な剥離有り	PL226
第513図-146	磨石	H-16	ほぼ完形	9.8	6.8	4.5	441	441	粗粒輝石安山岩	やや扁平な卵形の礫、両面を使用し、部分的に煤の付着有り	PL226
第513図-147	磨石	C-13	欠損品	(7.6)	4.3	3.6	(230)	230	粗粒輝石安山岩	棒状礫、断面隅丸方形で4面磨り面、部分的に煤付着	PL226
第513図-148	磨石	G-21	欠損品	(7.6)	(5.9)	5.9	(293)	293	粗粒輝石安山岩	やや大型磨石の破損品、被熱	PL226
149	磨石	R-14	欠損品	(71)	(68)	29	(243)	243	粗粒輝石安山岩	扁平な長円礫、打撃による剥離あり、半分を欠く、被熱あり	PL226
150	石皿	表土	欠損品	(11.1)	(10.9)	5.3	(871)	871	多孔質安山岩	石皿の小破片、発泡質の石を利用、裏面には複数の凹み穴あり	PL227
151	石皿	表土	欠損品	(12.6)	13.9	5.5	(740)	740	粗粒輝石安山岩	弧状の両端が突起する形を呈す、使用面深く裏面に脚を有す。被熱	PL227
152	台石	T-14	欠損品	(8.0)	(5.9)	5.4	(310)	310	粗粒輝石安山岩	大型の扁平礫利用した台石の縁部片か	PL227
第513図-153	軽石製品	D-13	欠損品	(4.2)	(3.3)	1.3	(5)	5	軽石	四角い板状を呈すと見られる、角がやや丸くなった欠損品	PL227
第513図-154	ミニチュア石皿	F-23	欠損品	(6.1)	(5.0)	2.0	(32)	32	軽石	石皿のミニチュア品と見られる、側面はほぼ直立し裏面は平らである	PL227

6区遺構外

第513図-1	磨製石斧	B-12	ほぼ完形	8.6	3.5	2.0	108	108	蛇紋岩	やや小振りの定角式であるが不整形、厚みがあり側部、刃部に欠損	PL227
第513図-2	磨石	A-14	完形	7.1	5.6	4.1	233	233	細粒輝石安山岩	卵形を呈す、端部に打撃痕が見られる	PL227

第4節 平安時代の遺構と遺物

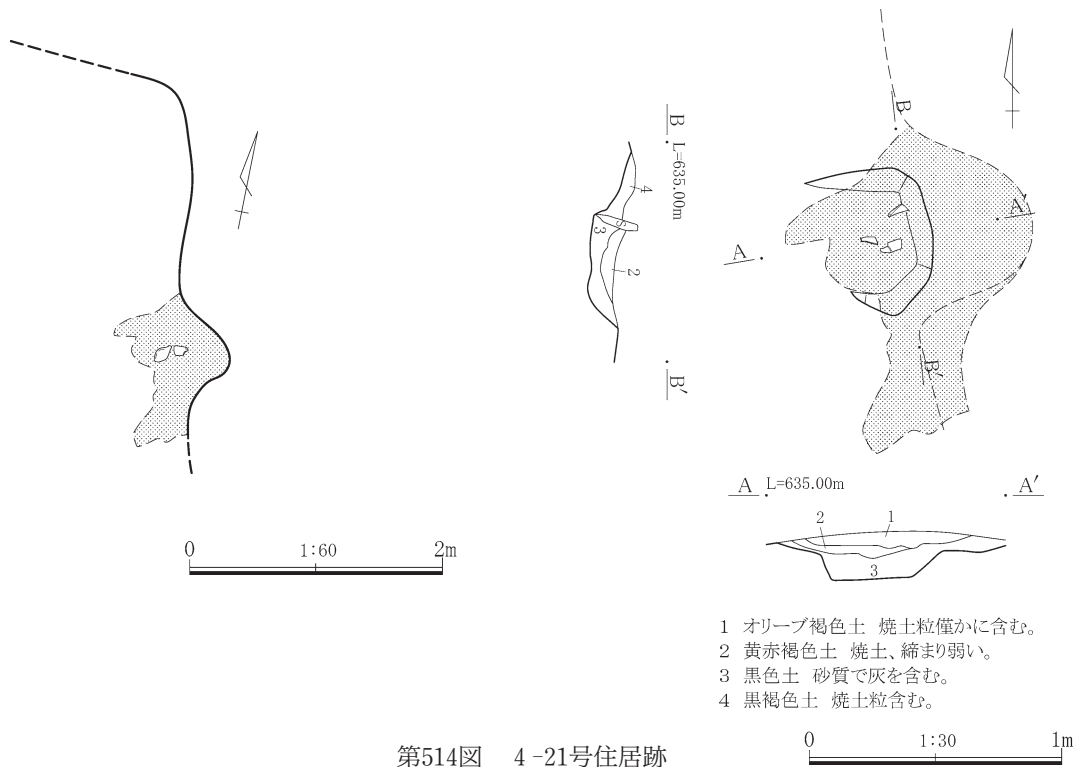
弥生・古墳時代の遺構は検出されていない。平安時代の住居跡は4区および5区において1軒ずつ、計2軒を検出した。その他土坑等については該期に比定される遺構は確認されなかった。

1. 住居跡

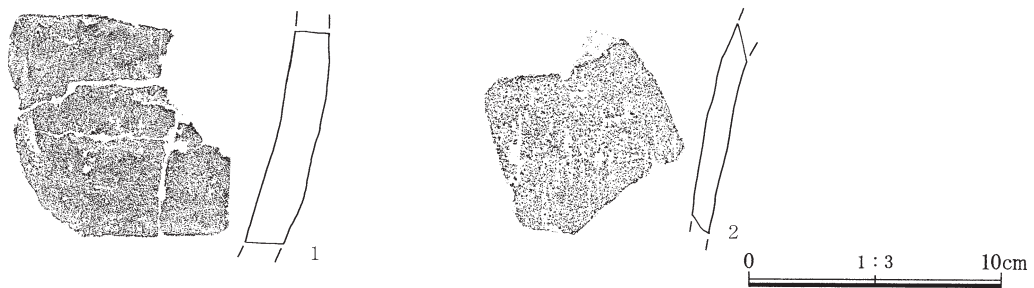
4-21号住居跡 (第514・515図：PL106・227)

位置 W-14・15グリッドに位置する。 **重複** 住居内に4-105号土坑、4-10号焼土が見られる。4-10号焼土は住居よりも新しい。 **形状** 隅丸方形と思われるが、削平が著しく全容は不明である。

規模 (350)×(350)×10cm。 **方位** N-82°-E **床面** カマドの手前においてやや硬化した貼り床面が小範囲であるが認められた。 **カマド** 住居の東に作られ、壁外に馬蹄形に張り出す。上部はほとんど削られており、火床面が残るのみである。住居内側に焼土の広がりが見られた。



第514図 4-21号住居跡



第515図 4-21号住居跡出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

柱穴 検出されなかった。

時期・所見 削平が著しく、残存状況は極めて悪い。出土遺物はほとんど見られず、カマド内より甕、土釜の胴部片が出土。時期は10世紀後半か。

5-68号住居跡 (第516~518図: PL106・227)

位置 E・F-21グリッドに位置する。 重複 無し。

形状 やや東西方向に長い隅丸長方形。 規模 515×405×25cm。 方位 N-89°-E

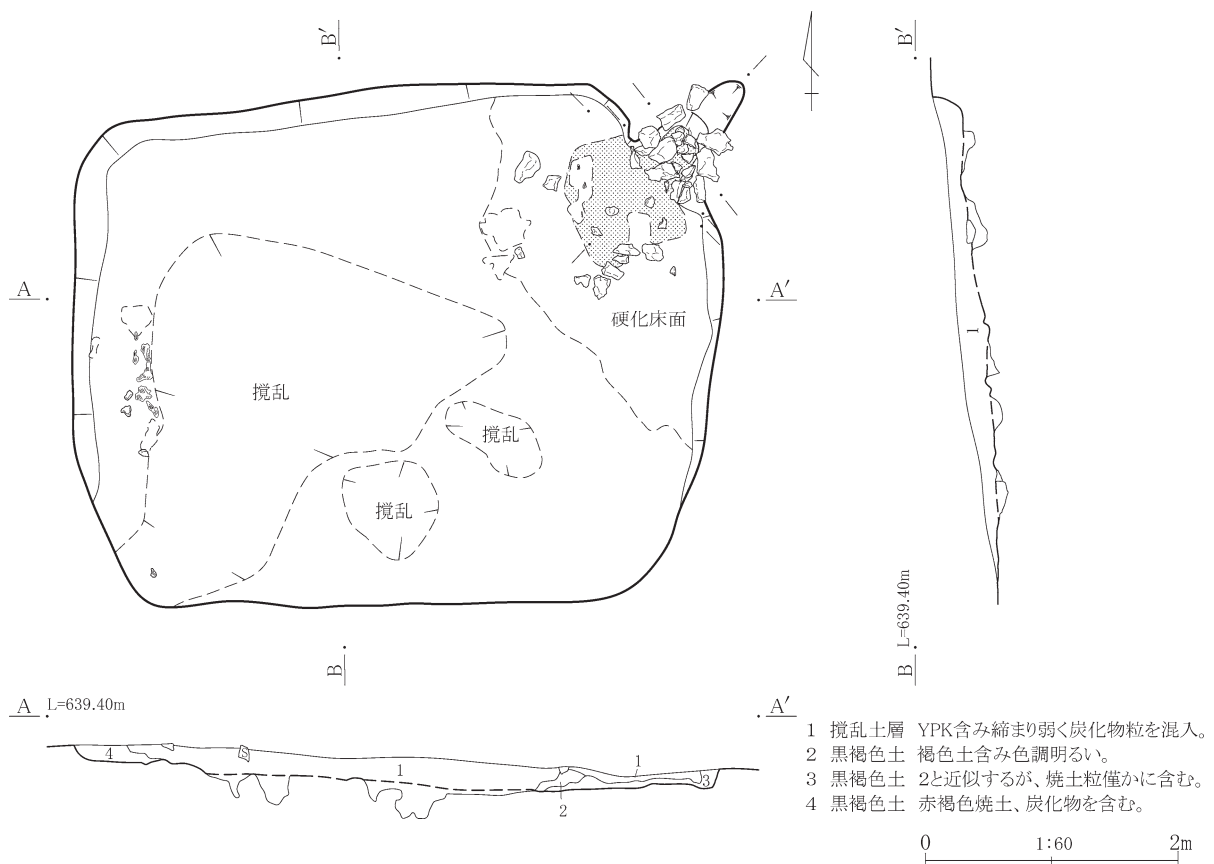
床面 明瞭な面は確認できなかった。住居の中央から南西部分は攪乱を受けていた。カマドの手前部分については比較的硬化面が確認された。

カマド 北東隅に構築されていた。焚き口幅は約50cm、奥行きは約1mである。本体はかなり崩れた状態で、掘方は壁外に馬蹄形に張り出し、両袖部分にやや小振りの石を据えている。カマド内火床面からカマド前面にかけて焼土の広がりを認めた。 柱穴 確認されなかった。

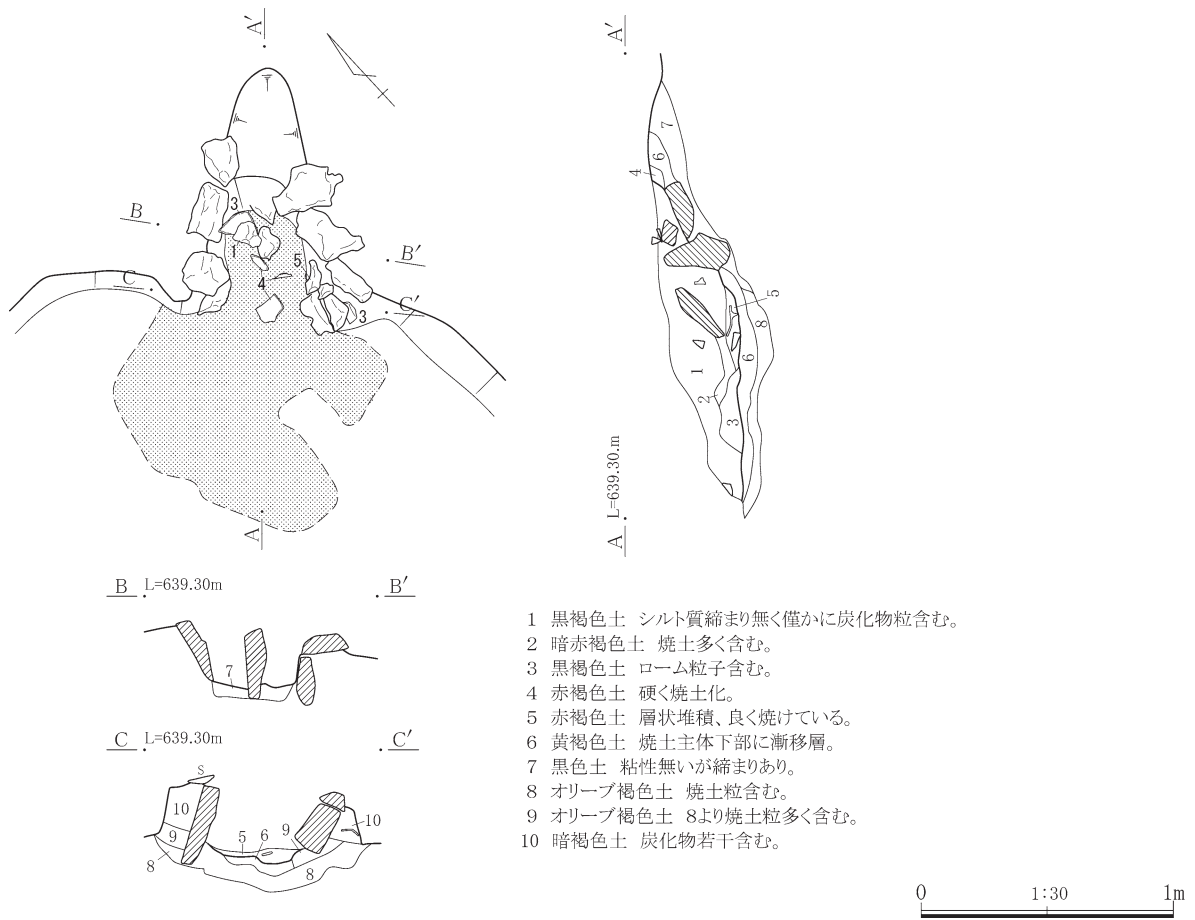
掘方 凹凸が認められたがいわゆる床下土坑などは見られなかった。

出土遺物 カマド内および周辺より須恵器坏の底部片、羽釜などが出土しているが数は少ない。

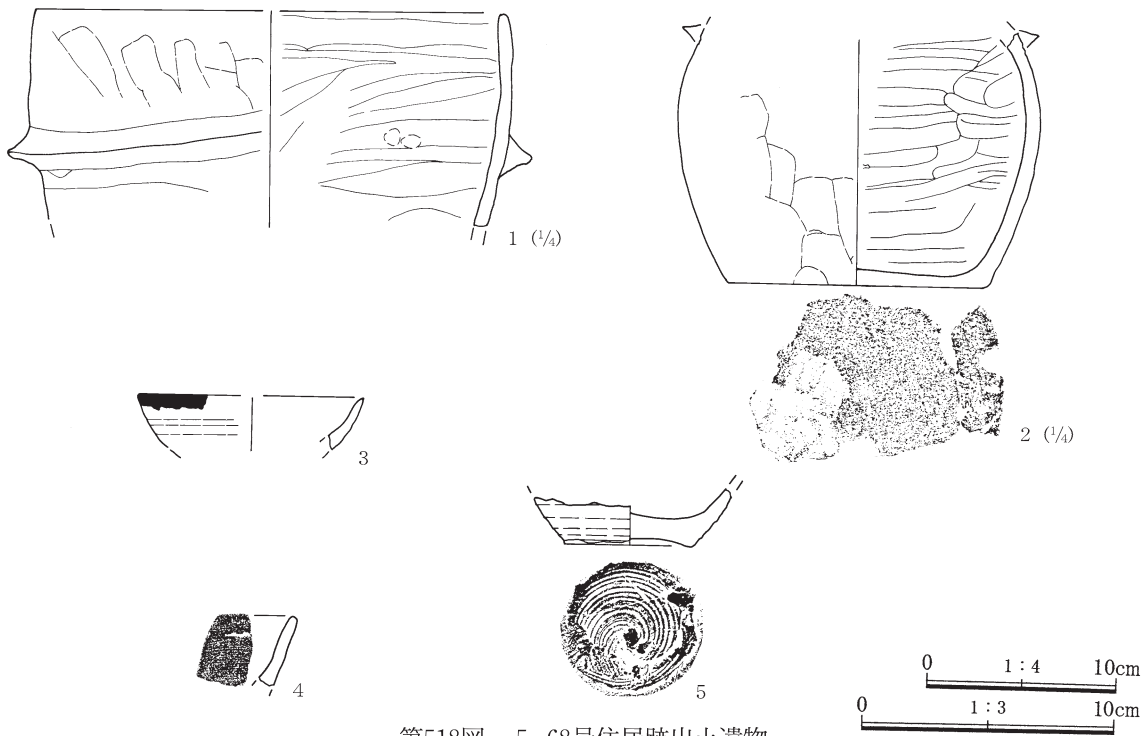
時期・所見 5区の北側やや南に下る傾斜地に構築されている、住居北側に比して南側は攪乱を受けていることもあり遺存状況は悪い。形状はやや東西に長く、カマドが北東の角に構築されており、本遺跡においては少例となる。器高の低い砂底の羽釜や坏類から、時期は11世紀後半と見られる。



第516図 5-68号住居跡(1)



第517図 5-68号住居跡(2)



第518図 5-68号住居跡出土遺物

第5節 中・近世の遺構と遺物

当該期の遺構は4区において中世に比定される掘立柱建物跡2棟、竪穴状遺構4基、焼土9基、土坑5基を、5区で7基の土坑を検出した。竪穴状遺構は平成13年度の調査でも今回の調査区の南側に2軒検出されている。

焼土は4区の調査区全体において点在している。この焼土遺構は5区において検出された焼土遺構と比較して、焼土の発色が鮮やかであること、灰層が明瞭に観察されたり、木灰（炭）などが見られること、さらに全体に軟質であること、一部に平安時代の住居跡を切っているものがあることなどから、明らかに時代的には新しくなるものと思われ、中世以降の所産と判断されるものである。4-9号焼土からは煙管の吸い口が出土している。

平成13年度に調査が行われた南側においても2軒の竪穴状遺構、柵列等が検出されており、今次の調査で検出した遺構と一連のものであると考えられる。

ヤックラ（集石遺構）に関しては4・5区内において4基が存在していた。

1. 掘立柱建物跡

4区において中世と思われる掘立柱建物跡を2棟検出している。東西に約20m離れて位置しており、いずれも柱穴の規模は小さい。ともに建物内に焼土の広がり確認されており、囲炉裏等の存在が考えられよう。また両建物の南側には平成13年度の調査で東西に走る柵列が検出されており、両建物跡との関連が窺える。

4-1号掘立柱建物跡（第519図：PL107・227）

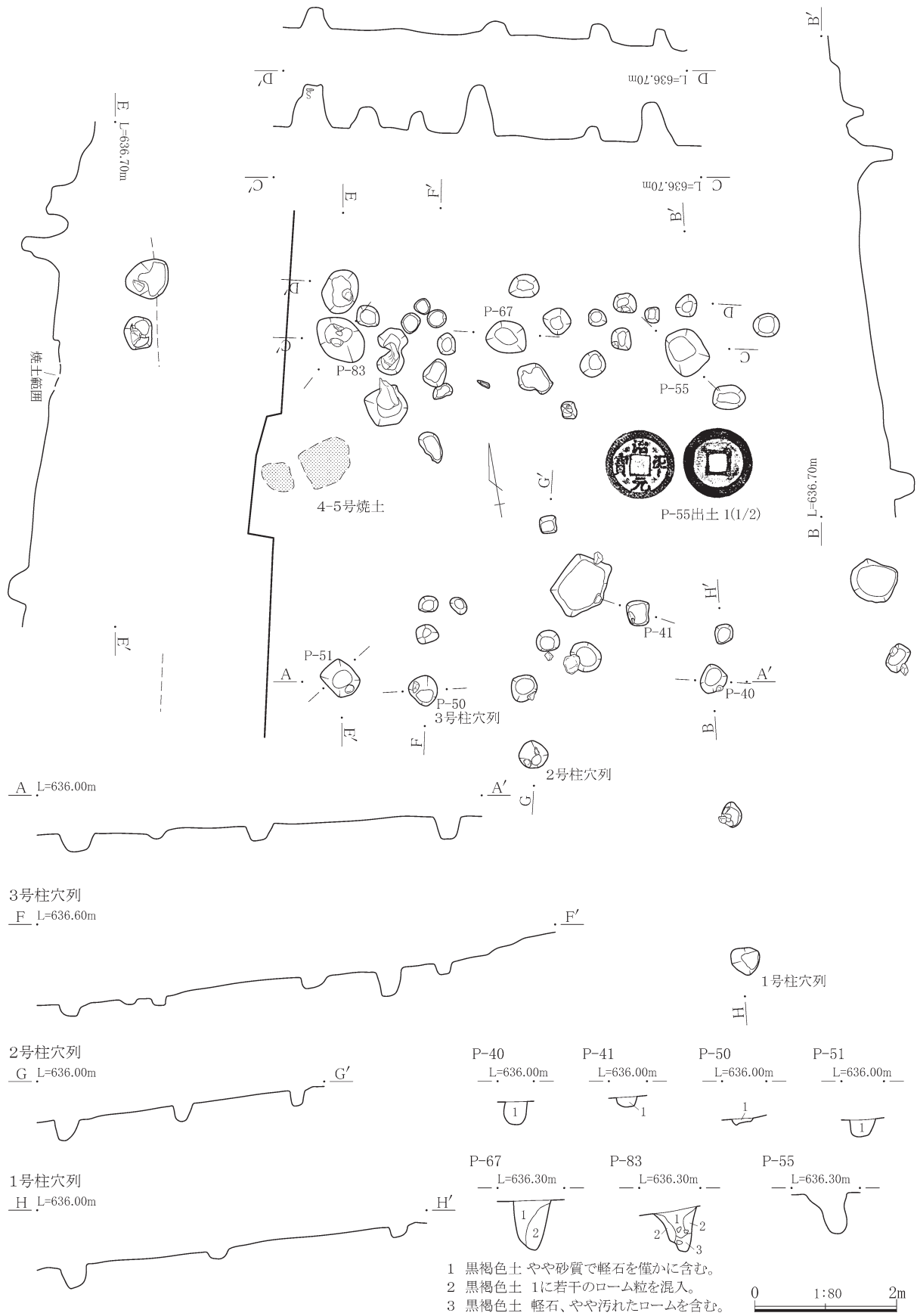
N・O-13~16グリッドに位置する。北側列は東西3間の柱が2列に並ぶ。南側列は2間を確認（西端については現道下にあると思われる）。北側は庇がつくものと考えられる。また、南傾斜地に位置していたために南側はかなり削られている状況を示しており、確認時において北側と南側ではかなりのレベル差が認められる。建物の施設については、中央西寄りに4-5号焼土が検出されている。本建物に付随する可能性がある。焼土は2カ所に広がり、かなり焼け込んだ様子が確認されている。

焼土からの出土遺物は見られなかったが、建物の北東部に位置するP-55からは、治平元宝が出土している。また、本址にからんで多くの柱穴が確認されていることから重複、あるいは建て替えの可能性もある。さらに本址の南西側には平成13年度に調査された東西に並ぶ2列の柵列があり、4-2号掘立柱建物を含め関連が想定される。

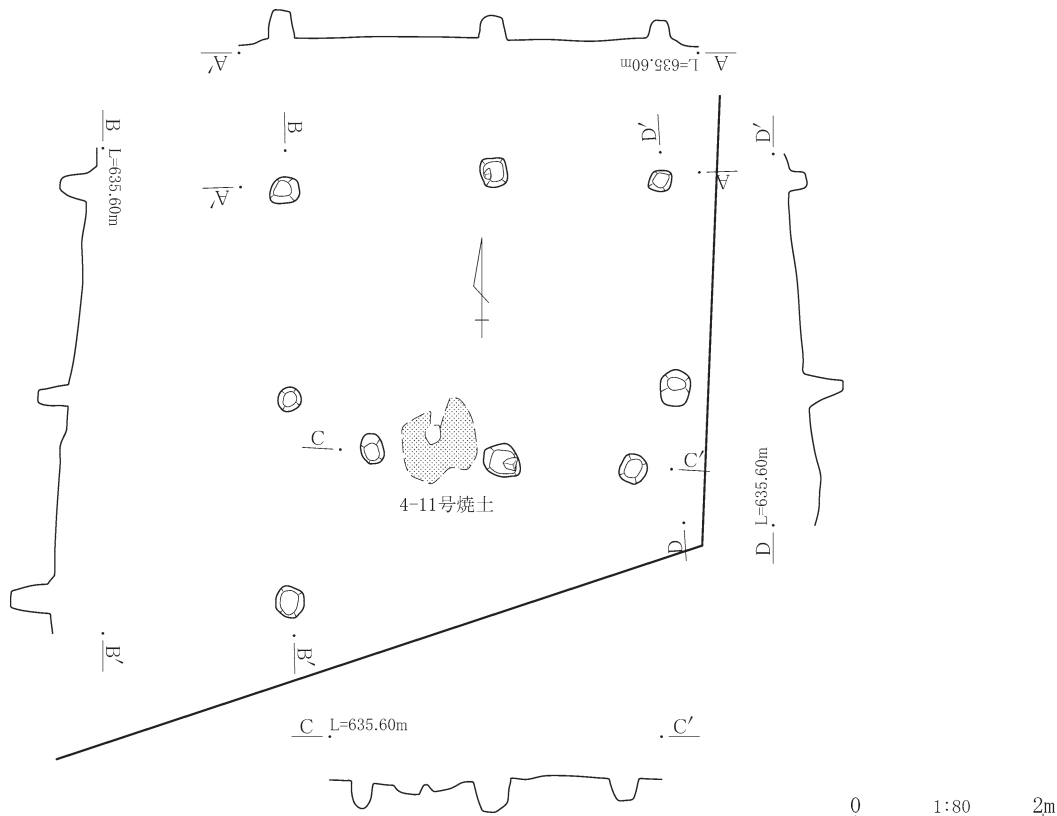
4-2号掘立柱建物跡（第520図：PL107）

T・U-15・16グリッドに位置する。南北2間×東西2間と思われる。南側については西端に柱穴を確認している。柱穴は径30cm前後で深さは20~40cmである。東側の2本については平成13年度の調査で4-2号集石および近世の集石遺構（ヤックラ）下にあったために未確認の可能性もある。

建物のほぼ中央やや南寄りには4-11号焼土が検出されており、4-1号掘立柱建物と同様に焼土との関連が想定される。焼土はやや方形に広がり発色が良く、断面ラミナ状の堆積を示していた。出土遺物は見られなかった。



第519図 4-1号掘立柱建物跡・出土遺物



第520図 4-2号掘立柱建物跡

2. 竪穴状遺構

4区において4基を検出。このうち4号は遺存状態が悪い。平成13年度に検出されている2基と合わせ計6基がまとまって存在していたことになる。

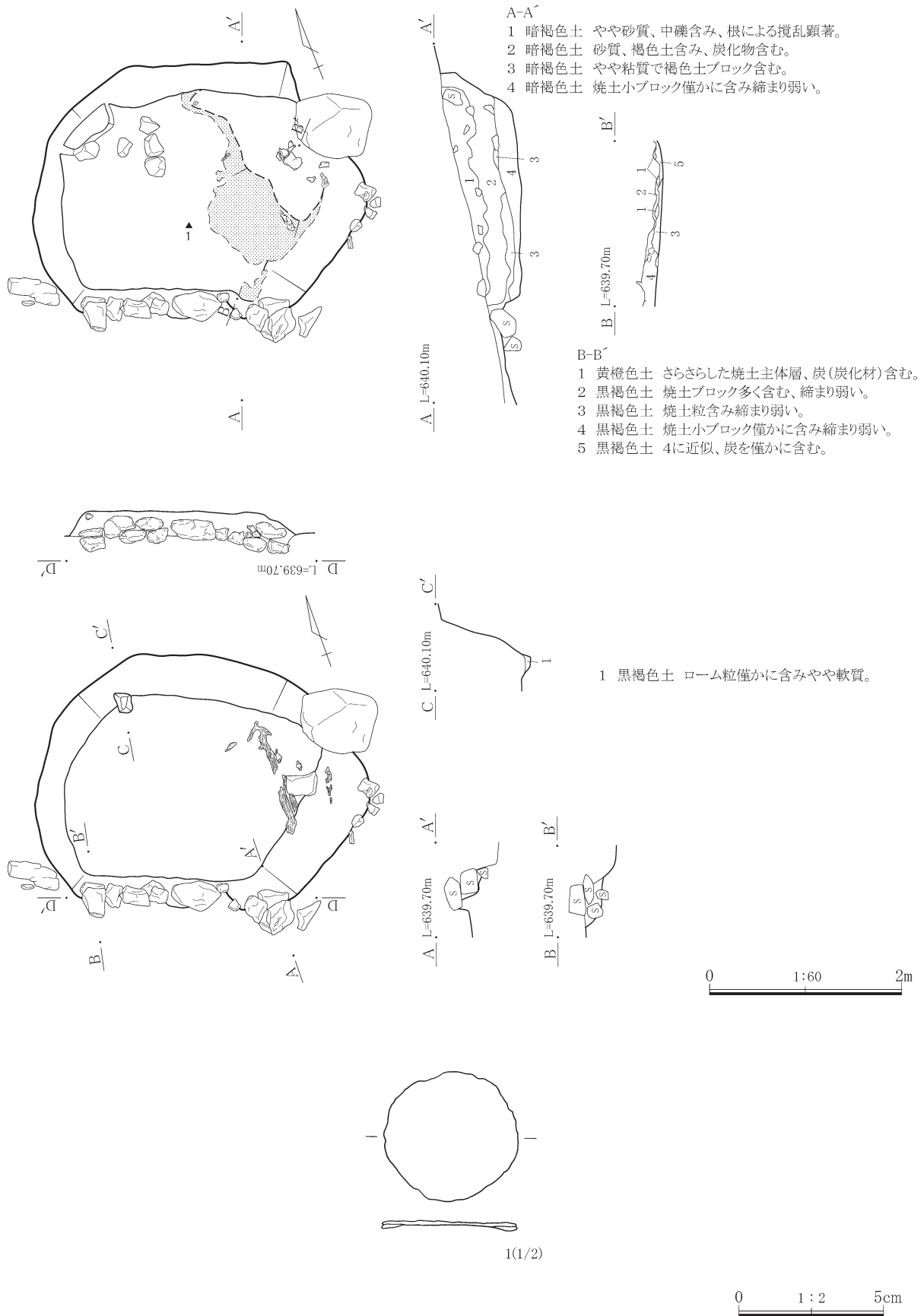
4-3号竪穴状遺構 (第521図：PL107・108・227)

M・N-20・21グリッド、4区北寄りの高い場所に位置、かなりの傾斜地に作られている。形状はやや東西に長い楕円形を呈すが南側の壁は石が積まれ直線的である。規模は東西3.5m、南北2.5mである。傾斜地にあるため掘り込みは北側が高く南が低くなる。最大壁高は約80cmを測る。南側の壁には礫が石垣状に2～3段積まれている。また北東の隅には地山の大型礫が一部露出し遺構内にやや張り出す状態である。床面上には炭化物、焼土がほぼ円形に検出されており、炭化材も見られた。

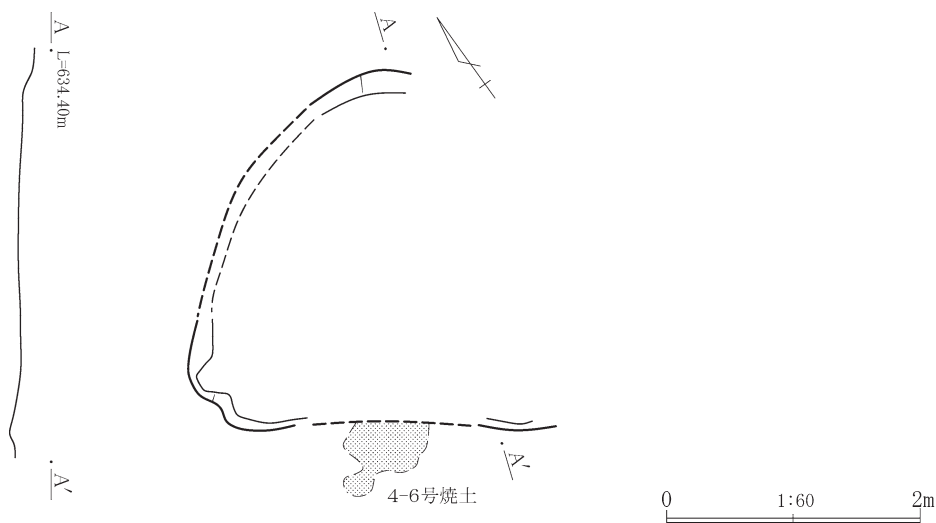
出土遺物は土器類は見られなかったが、床面近くで紡錘車と見られる鉄製の円盤が出土している。床面は平らで良く締まっている。

4-4号竪穴状遺構 (第522図：PL108)

E・F-10・11グリッドに位置、調査区の東寄り南北に積まれたヤックラの南端下部に検出された。平面形状は隅丸方形と思われる。壁の高さは最大で20cmほどである。南側に4-6号焼土が重複しこれを切っている。東側および南側の立ち上がりは削平されており不明瞭である。底面はやや南傾斜を持つ。出土遺物は混入した縄文土器が散見されているのみで、時期は不明である。



第521図 4-3号竪穴状遺構・出土遺物



第522図 4-4号竖穴状遺構

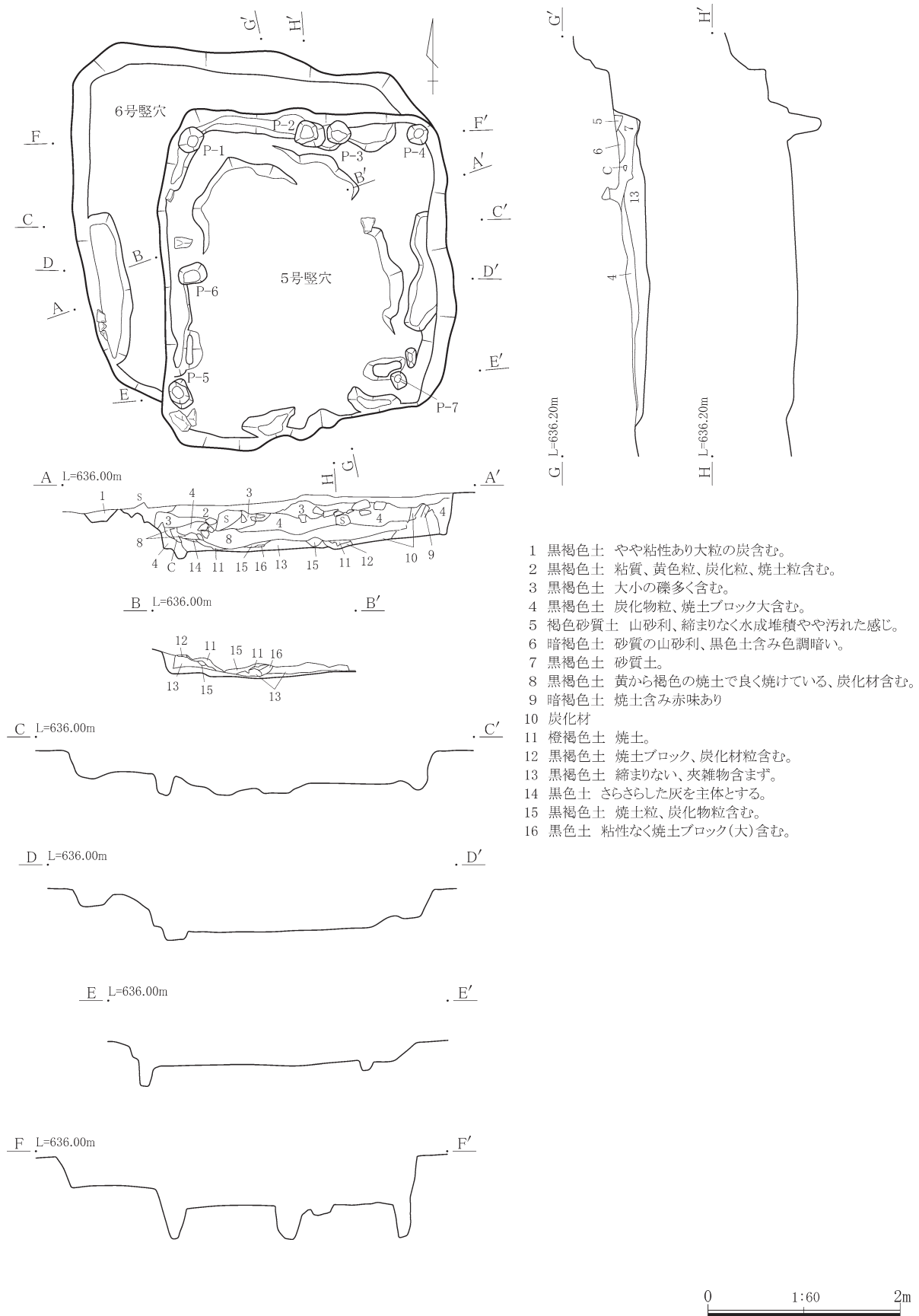
4-5号竖穴状遺構（第523～525図：PL108・109・227）

V・W-16・17グリッドに位置する。4-6号竖穴状遺構の南東部に重複して掘り込まれていた。形状はほぼ隅丸方形を呈す。規模は南北約3.5m、東西約3mである。深さはおよそ70cmである。埋土の中央部分に比較的大型の礫が投げ込まれた状況で集中して検出されている。また礫の周囲、下部には炭化材、焼土が多く認められ、火を受けているものと見られる。炭化材は壁側から内側に倒れ込んだ状況で検出されている。焼土は壁に沿っており壁の一部が焼土化している。出土遺物は礫の中に破砕された茶臼片や鉢の破片、白磁の合子片などが見られた他、銅製の筒状製品が出土している。床面は比較的平坦で壁の立ち上がりはやや緩やかである。

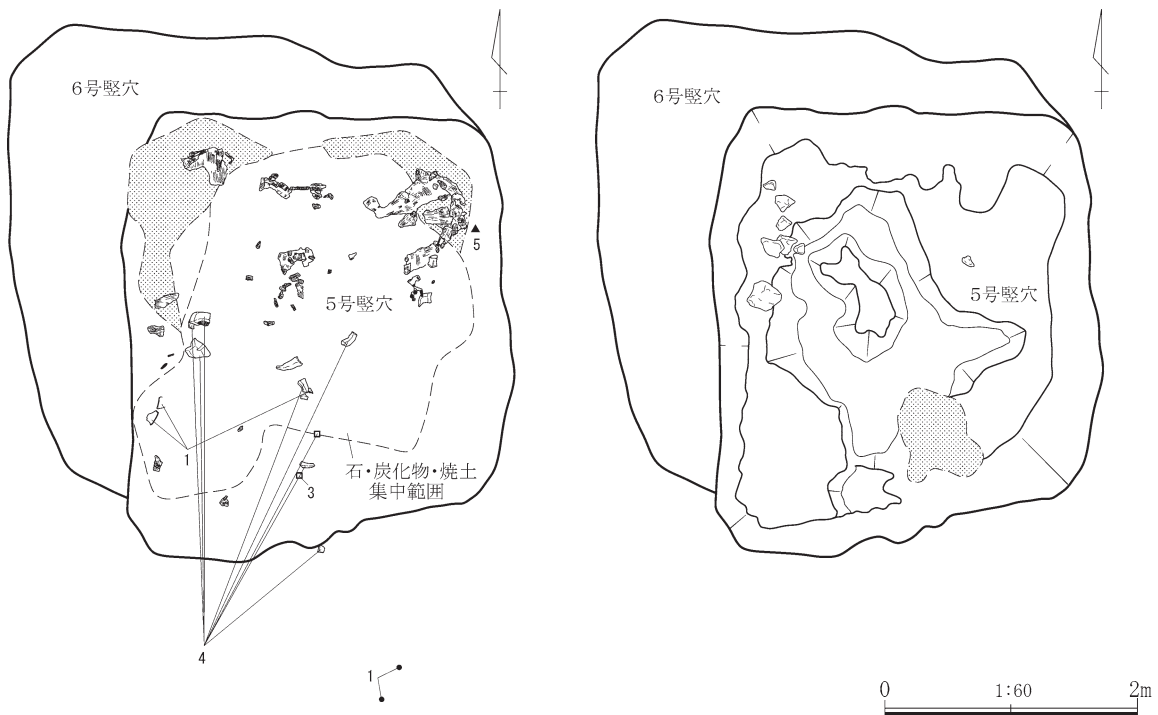
茶臼は臼の挽き目は左廻り8分割で、目溝は細いが等間隔にしっかりと刻まれている。芯穴は、すりあわせ部で直径が2.2cmのほぼ正円で、底部に向かいラップ状に広がっている。茶臼の成形は、底部や芯穴下部に残る加工痕から棒状のノミの使用を、また整形は、平ノミ状工具による小叩き後に水磨き仕上げして丁寧な平滑面を形成したことを、はんぎり上面や側面の痕跡から推測することができる。なお、臼半径の外側約1/2は、使用によるすり合わせできれいに磨滅している。臼（すりあわせ部）の角から側面全てに、人為的破壊の為の規則的な剝離が認められる。なお、底部には二次的な煤の付着後に破損したことを窺わせている。

4-6号竖穴状遺構（第523・524図：PL108・109）

4-5号竖穴状遺構に大きく切られている。規模は一回り大きくなるものと思われる。形状は隅丸方形を呈すものと思われ、規模は1辺が約4m程と思われる。掘り込みは4-5号竖穴状遺構に比して浅く壁の高さは40cm程である。床面はほぼ平坦である。柱穴などは検出されなかった。炭化材、焼土などは検出されず、出土遺物も見られなかった。



第523図 4-5・6号堅穴状遺構(1)



第524図 4-5・6号竪穴状遺構(2)

3. 焼土

前述したように4区内において検出された焼土は明らかに縄文時代の炉などの痕跡とは異なっていた。いずれも表土直下において確認されており、比較的軟質で橙褐色を呈するものが多いが炭化物、灰層が見られるものもある。さらには自然礫を組んだようなものも検出されている。総数は9基であるが、中世と考えられる掘立柱建物内に位置し、関連が想定されるものや、近世の煙管が出土したもの等がある。

4-3号焼土 (第526図：PL109)

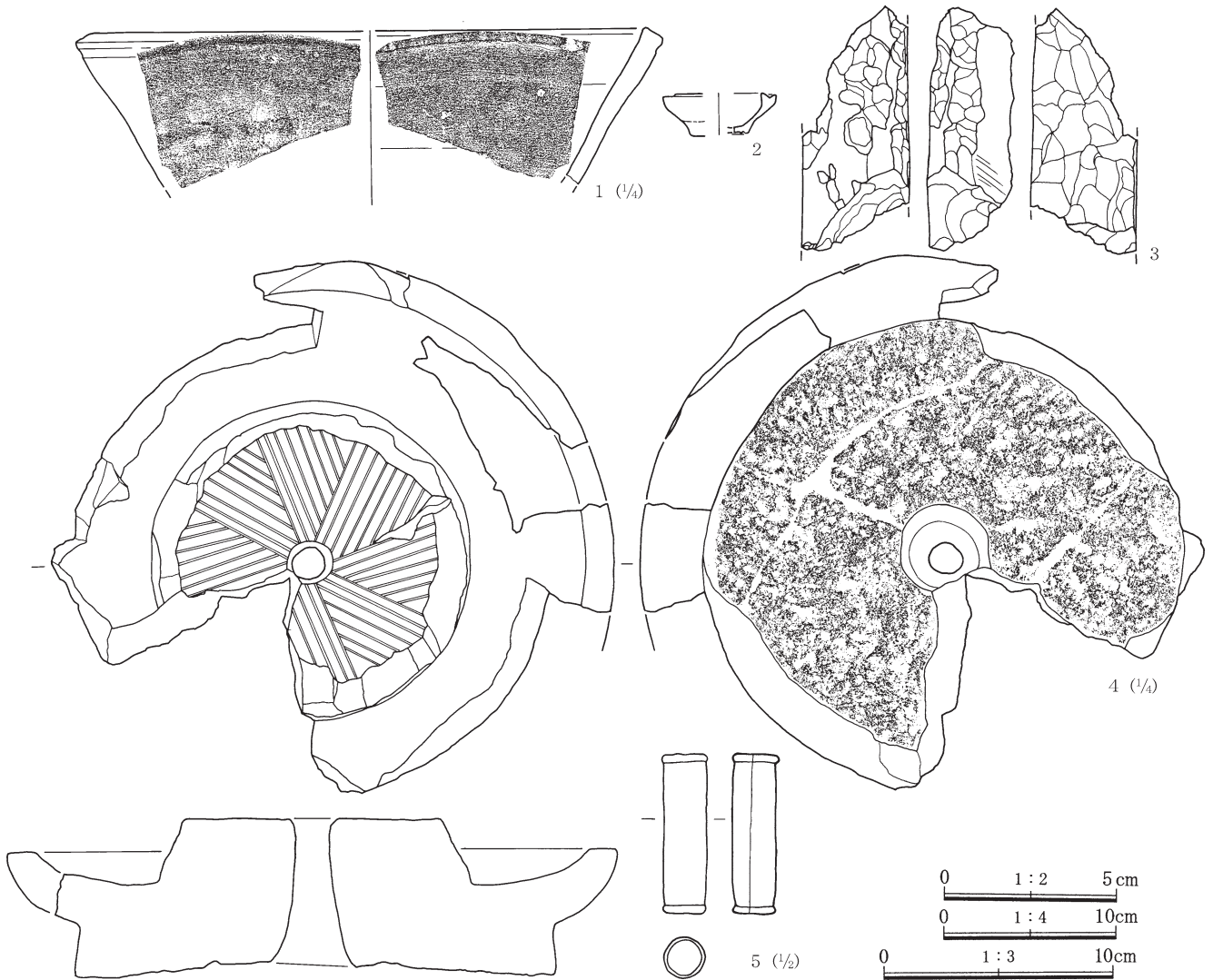
L-21グリッドに位置する。西側に大きな地山礫が露出し、その東脇にやや高まりを持った焼土の広がりを見られた。断面では焼土下位に灰が見られた。北に接してピット状の掘り込みを確認した。出土遺物は見られない。

4-4号焼土 (第526図：PL109)

G・H-13グリッドに位置する。わずかに不定形に広がる焼土を確認、長方形の掘方が検出されたが、純層の焼土は上層に留まる。周囲に土坑、ピットが見られるが規格性は無く、建物跡等を想定するには至らなかった。出土遺物は無い。

4-5号焼土 (第526図：PL109)

O-15グリッドに位置する。4-1号掘立柱建物跡内に検出された。建物のやや西寄りに位置、焼土は不定形なものと同馬蹄形に広がる2カ所が近接して見られた。明確な掘方や組石のようなものは検出されず、出土遺物も見られない。検出した焼土は上面部分が良く焼けており、硬く締まりも見られた。建物跡の付随施設の痕跡か。



第525図 4-5号竪穴状遺構出土遺物

4-6号焼土 (第526図: PL109)

F-10グリッドに位置する。4区東側の集石(ヤックラ)の南端部下層に検出され、礫を伴い不定形に広がる焼土が確認された。焼土を取り除くと浅い落ち込みが見られた。4-4号竪穴状遺構に東側を切られている。出土遺物は見られない。

4-7号焼土 (第526図: PL109)

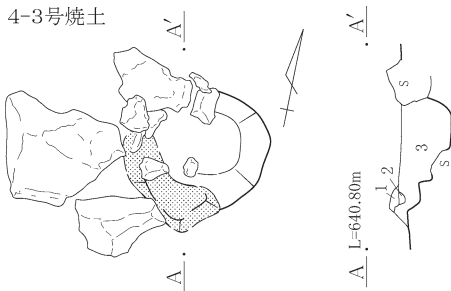
E-15グリッドに位置する。軸を南北に取る長円形の焼土と浅い掘り込みが確認された。掘り込み面は焼けており火を受けた礫も見られた。焼土下にはなすび形の落ち込みが確認されている。出土遺物は見られず、炭窯跡とも考えられる。

4-8号焼土 (第526図: PL109)

K-21グリッドに位置する。区の高い位置に検出された。南北軸の瓢箪形に焼土の広がりが見られ、北側には板状の礫が壁の様立った状態で出土。焼土下部は浅く落ち込んでおり、焼土は灰層と互層になっており20cm以上の厚さを持つ。検出された中では焼土の広がりが最も大きいもので、炭窯跡か。出土遺物は見られない。

第3章 検出された遺構と遺物

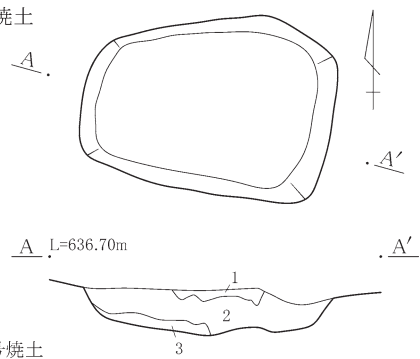
4-3号焼土



4-3号焼土

- 1 黄褐色土 ロームが焼土化、内側が焼けている。
- 2 黒褐色土 砂質土ローム混入。
- 3 黒褐色土 砂質でやや赤味あり、灰を多く含む。

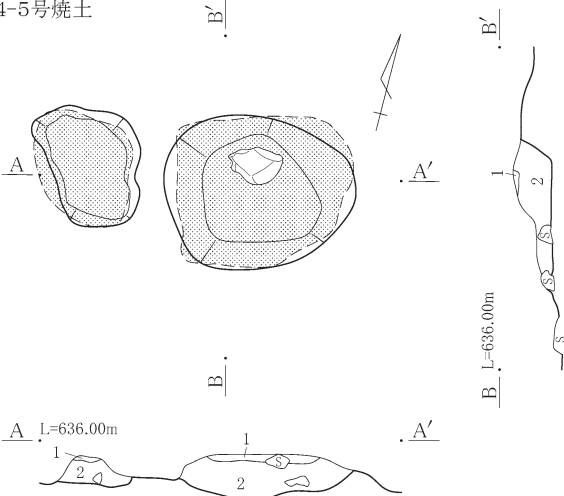
4-4号焼土



4-4号焼土

- 1 赤褐色土 締まり弱い焼土、黒褐色土小ブロック含む。
- 2 黒褐色土 締まり弱い、YPK、ローム細粒僅かに含む。
- 3 褐色土 YPK僅か、ローム細粒全体に含む。

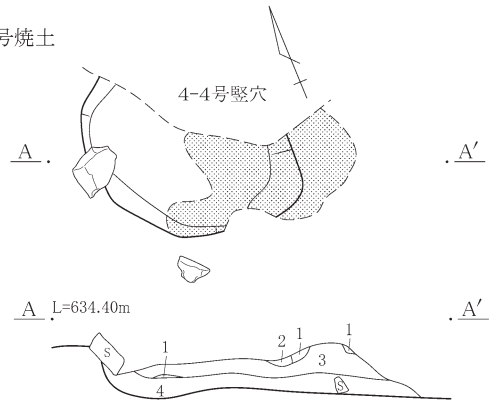
4-5号焼土



4-5号焼土

- 1 橙褐色土 固く締まり上面良く焼けている。
- 2 黒褐色土 やや砂質小礫含み、焼土粒、黒灰僅かに含む。

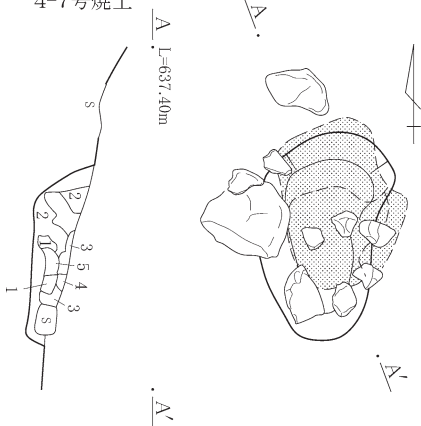
4-6号焼土



4-6号焼土

- 1 にぶい黄橙色土 灰状の砂質土黒褐色土僅か、炭化物含む。
- 2 黒褐色土 灰層。
- 3 黒褐色土 炭を僅かに含む。
- 4 暗褐色土 ローム細粒僅かに含む。

4-7号焼土

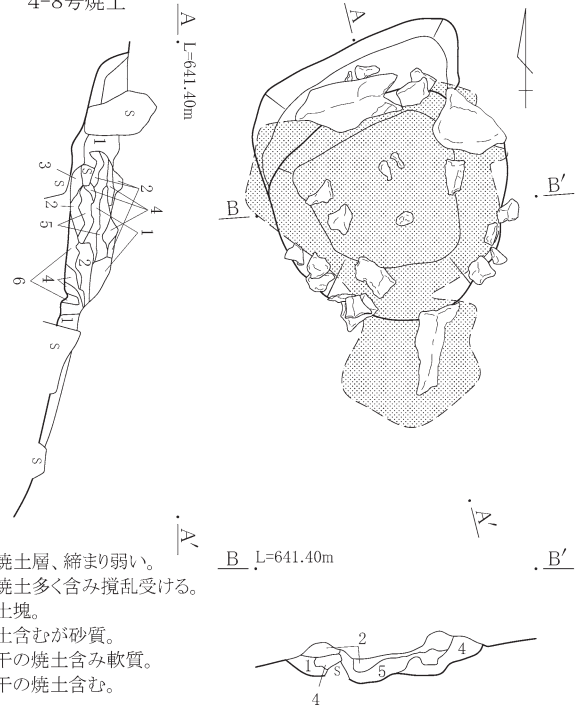


4-7号焼土

- 1 暗褐色土 ローム細粒と黒褐色土の混土。
- 2 黄褐色土 締まりない。
- 3 褐色土 締まりない。
- 4 にぶい黄橙色土 灰状の細かい土。
- 5 褐色土 やや赤味を帯び締まりなし。

0 1:30 1m

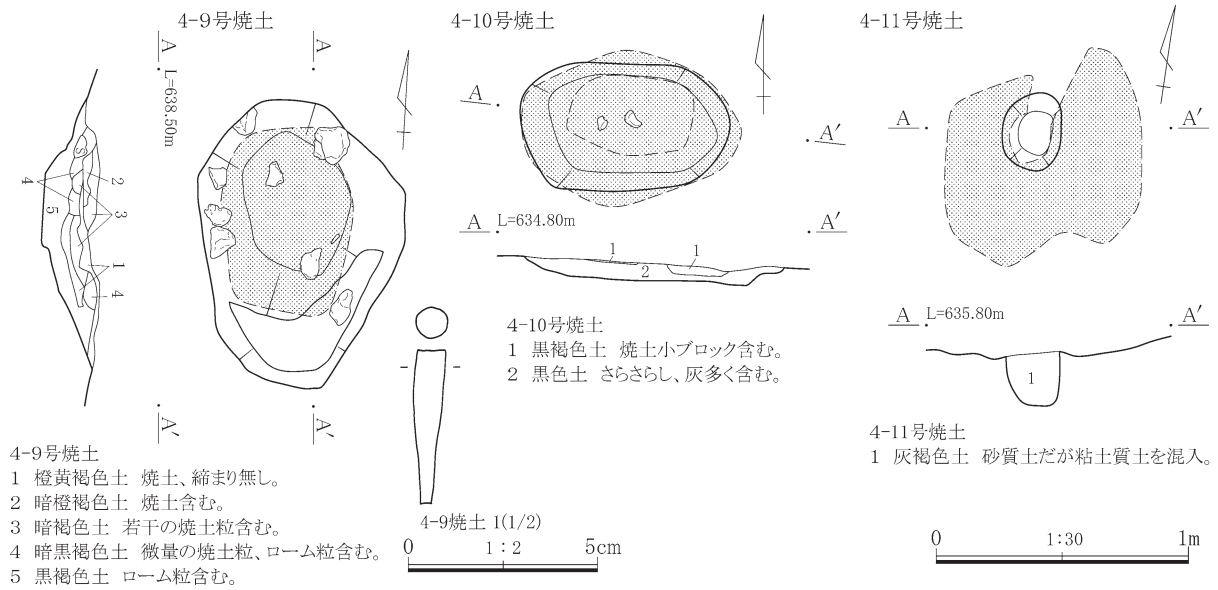
4-8号焼土



4-8号焼土

- 1 淡橙黄色土 焼土層、締まり弱い。
- 2 淡橙黄色土 焼土多く含み攪乱受ける。
- 3 赤褐色土 焼土塊。
- 4 暗褐色土 焼土含むが砂質。
- 5 暗褐色土 若干の焼土含み軟質。
- 6 黒褐色土 若干の焼土含む。

第526図 4-3～8号焼土



第527図 4-9～11号焼土・出土遺物

4-9号焼土 (第527図：PL110・228)

T-20グリッドに位置する。楕円形に広がる焼土を検出、ドーナツ状に焼けており中央部には灰層が残る。礫等は見られなかった。焼土層上位から煙管の吸い口部が出土している。

4-10号焼土 (第527図：PL110)

W-14グリッドに位置する。4-21号住居跡の南に接して検出された。当初住居との関連も考えられたが本址が新しいと判断された。焼土の広がりや厚みはわずかである。周囲が長円形に浅く落ち込む。出土遺物は見られない。

4-11号焼土 (第527図：PL110)

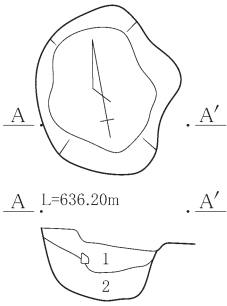
U-15グリッドに位置する。4-2号掘立柱建物跡の中央やや南寄りに検出されている。不定形に広がる焼土と中央にピットが検出されている。焼土の厚さはあまりない、出土遺物は見られないが建物との関連が想定される。

4. 土坑 (第528～530図：PL110・111・228)

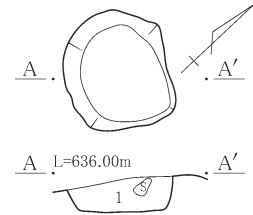
中世以降の所産と考えられる土坑はあまり多くはなかったが、4区において5基、5区において7基を検出した。6区では検出されなかった。4区の土坑はいずれも不定形で覆土は軟質で混入物が多く見られた。かなり新しくなるものと判断される。5区において検出された集石土坑も近世以降のものとして判断される。これらの土坑は長円形で中には拳～人頭大の石が詰め込まれた状態で出土している。用途として考えられるものの一つとして耕作中に出てきた石をまとめて埋めるためのものと考えられる。こうした土坑からは陶磁器類の破片が出土している。

第3章 検出された遺構と遺物

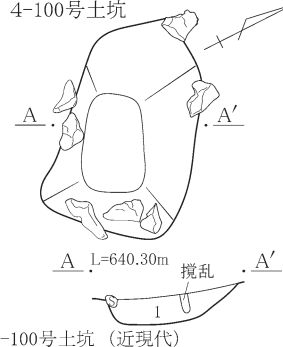
4-83号土坑



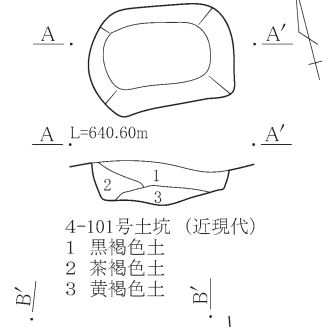
4-84号土坑



4-100号土坑



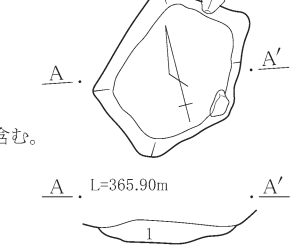
4-101号土坑



4-83・84・86号土坑 (近現代)

- 1 黒褐色土 締まりなし。
- 2 黒褐色土 褐色土ブロック含む。

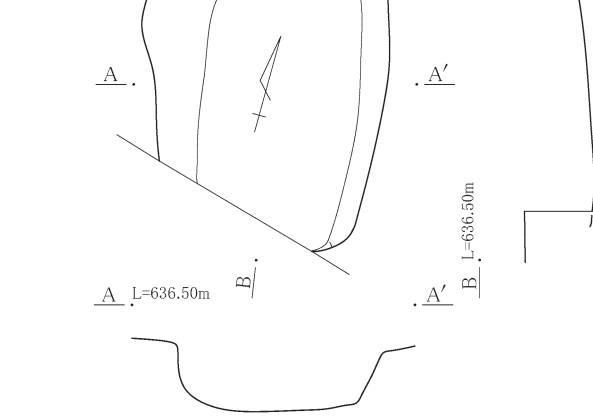
4-86号土坑



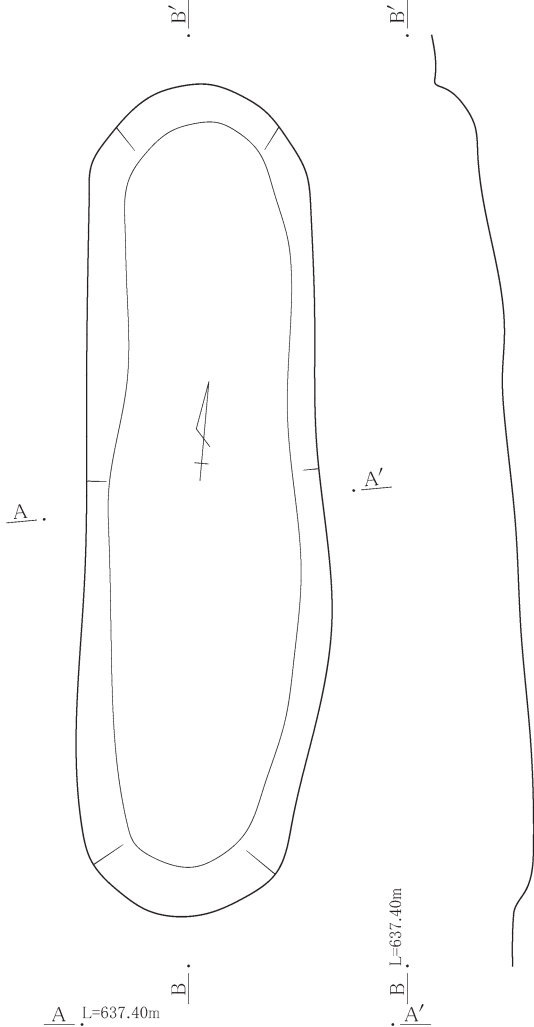
4-100号土坑 (近現代)

- 1 黒褐色土 褐色粒、YPKおよび炭化物含む。

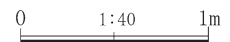
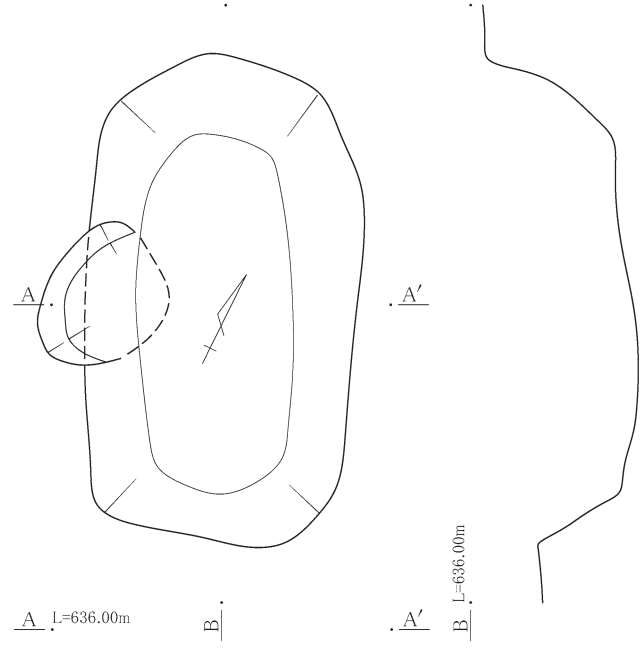
5-805号土坑



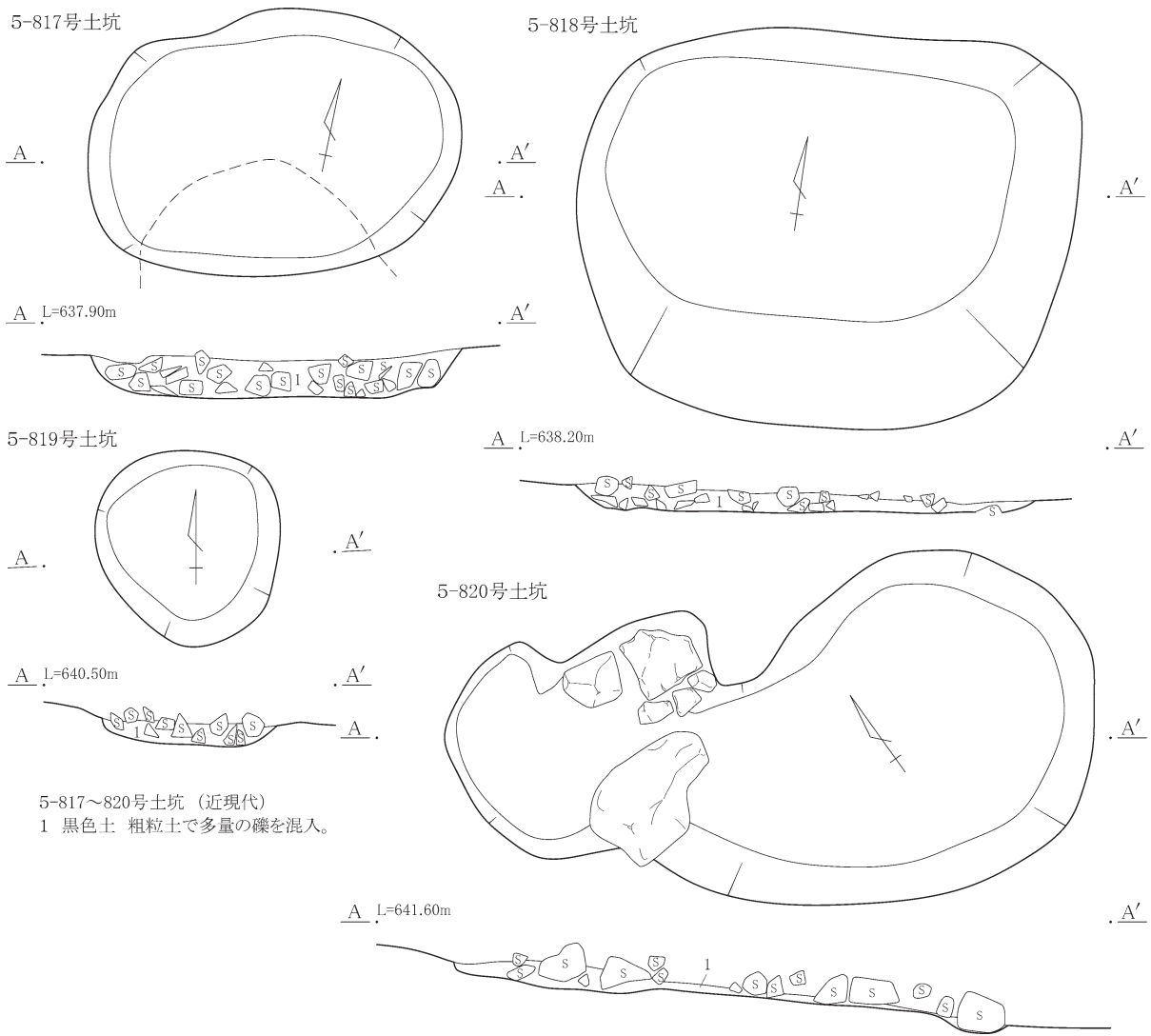
5-803号土坑



5-806号土坑



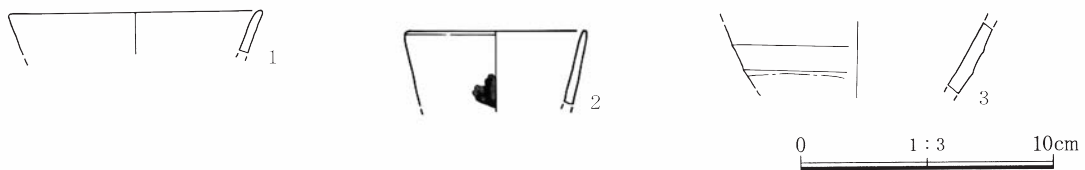
第528図 4-83・84・86・100・101・5-803・805・806号土坑



5-817～820号土坑（近現代）
1 黒色土 粗粒土で多量の礫を混入。

第529図 5-817～820号土坑

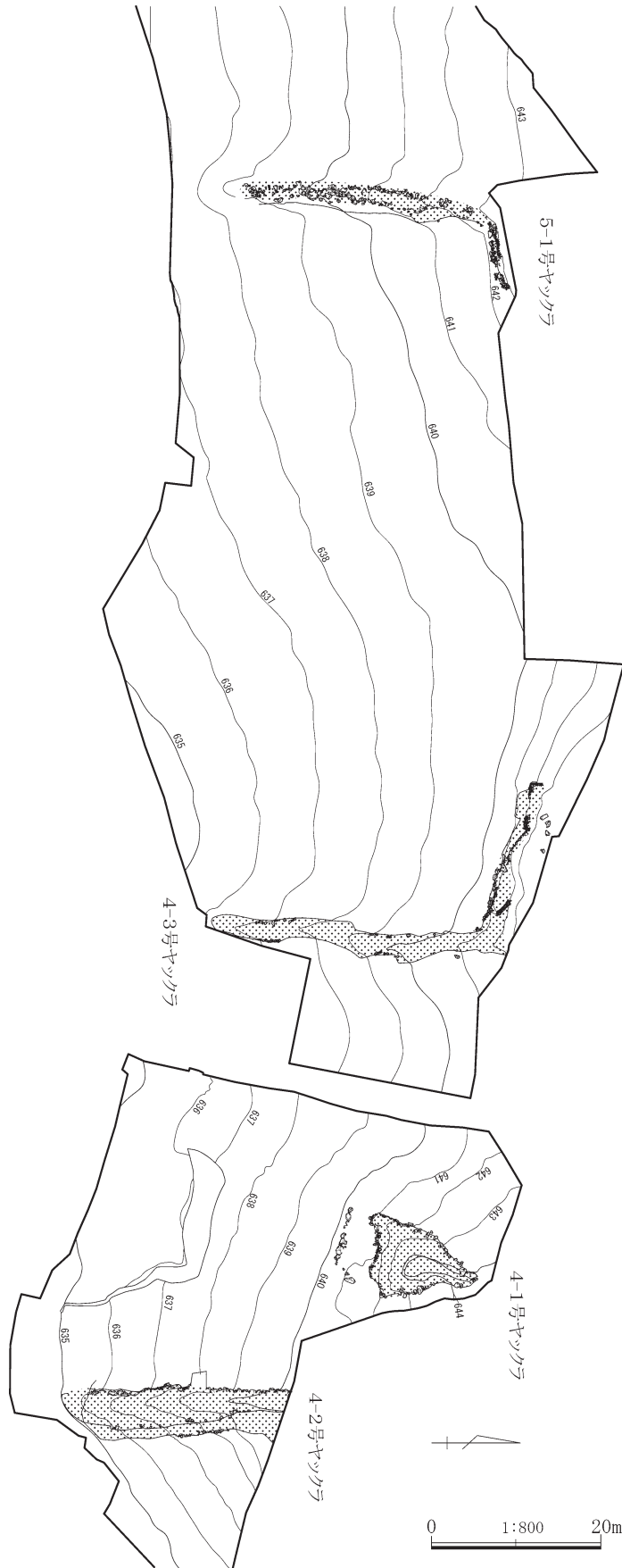
0 1:40 1m



第530図 土坑出土遺物

5. ヤックラ（集石遺構）

調査区の地境に大小の礫を石垣状あるいは土塁状に延びる遺構である。開墾や耕作中に耕地内から出る石を寄せ集めたものであり、シシ土手としての機能も考えられよう。近世から現代にわたって築かれたものと思われ、長野原地域においてはヤックラと呼ばれている。今回の調査でも4区の東側、北側、西側の3カ所に設けられていた。出土遺物からも明らかに近世以降の所産と考えられることから、他の集石遺構と峻別を



第531図 4・5区ヤックラ全体図

はかるためにここではヤックラの名称を用いることとする。

4-1号ヤックラ

(第531・532・535図：PL111・228)

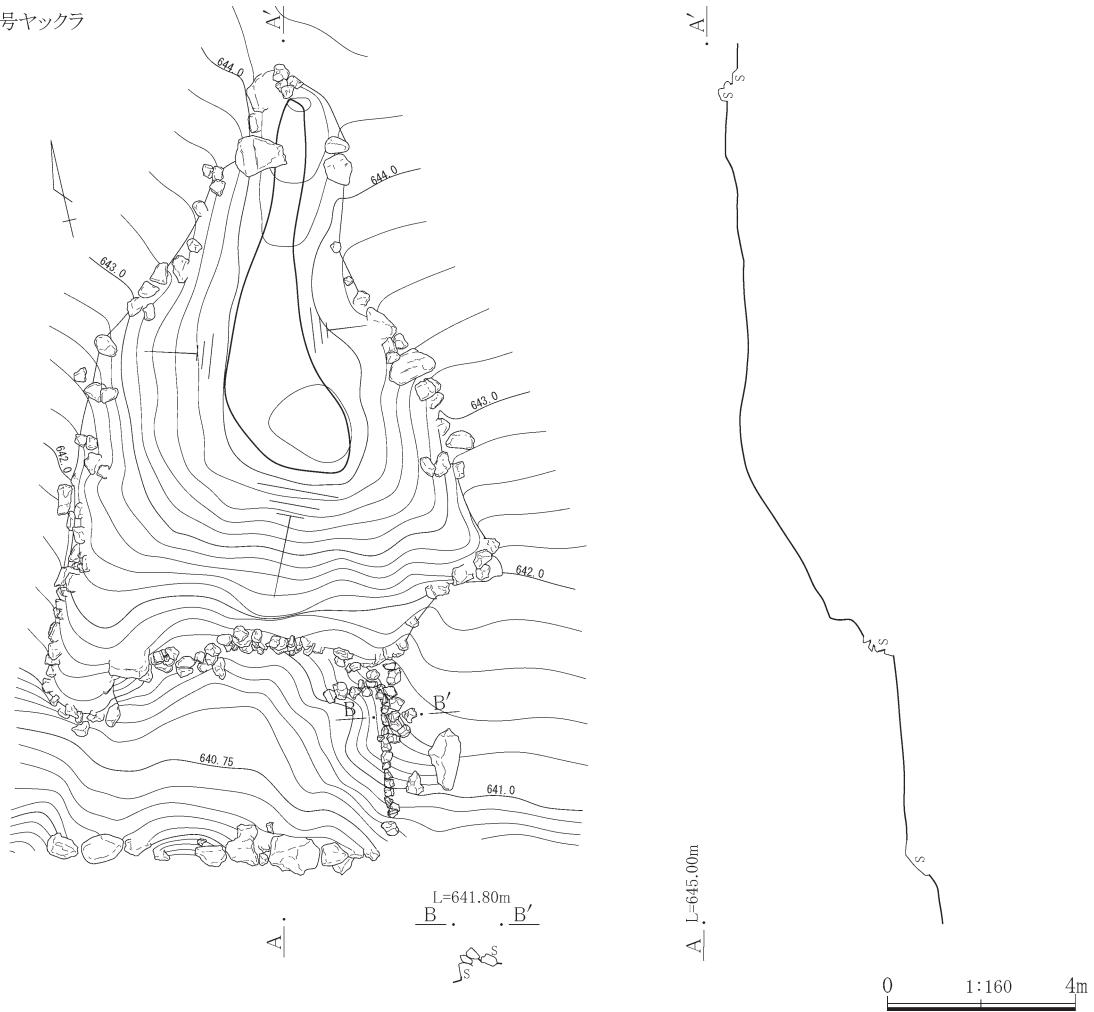
I～K-20～23グリッドに位置する。調査区の最も高い場所に構築されている。下辺部分には大型の石を矩形配し、その上に小山状に石を積み上げている。平面形は南側が広がる扇形を呈す。また南側にはテラス状の段が見られ、端には直線的に石が並べられている。ヤックラの規模は東西約9m、南北約15mで高さは4mを測る。出土遺物は陶磁器碗、皿、さらには鉢の破片である。

4-2号ヤックラ

(第531・533・535図：PL111・228)

調査区の東端に南北に築かれており地形に沿って南に傾斜しており、北側は調査区外となる。調査区内での長さ約27m、下幅最大で5m、高さは約1.5mである。南端部において礫の下から4-4号竪穴状遺構、4-6号焼土が検出されている。出土遺物は陶磁器類で猪口や、すり鉢などが見られる。

4-1号ヤックラ



第532図 4-1号ヤックラ

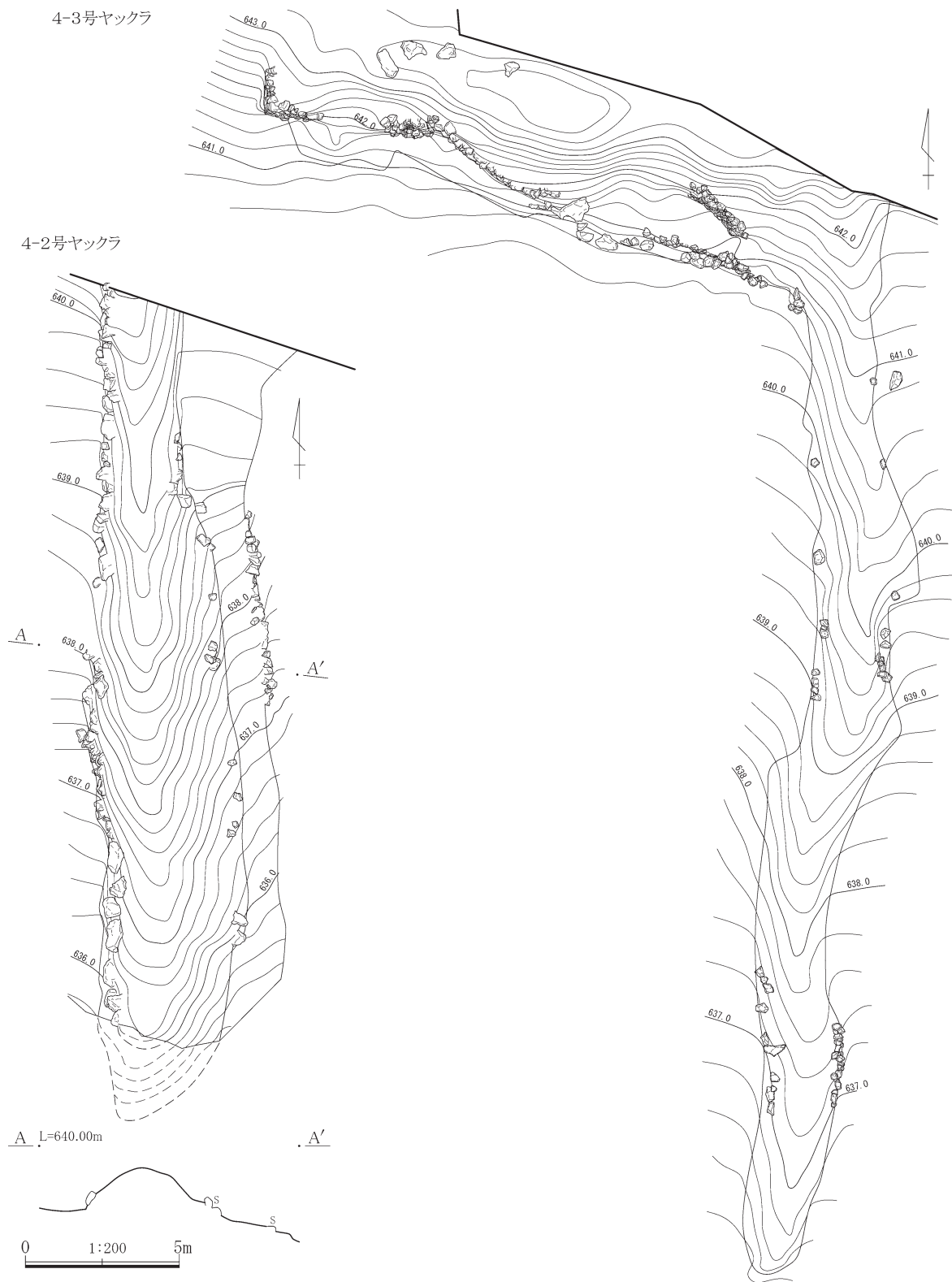
4-3号ヤックラ (第531・533・535図：PL111・228)

4区の西側に位置する、南北方向に延びたものが北側で西に曲がる。曲がった部分は上段の畑の法面に石垣として続く。南北に走るヤックラは平成13年度に南部分の調査を行っている。下幅約3mで高さは1m程である。他のヤックラに比して全体に石がやや小振りである。

5-1号ヤックラ (第531・534図)

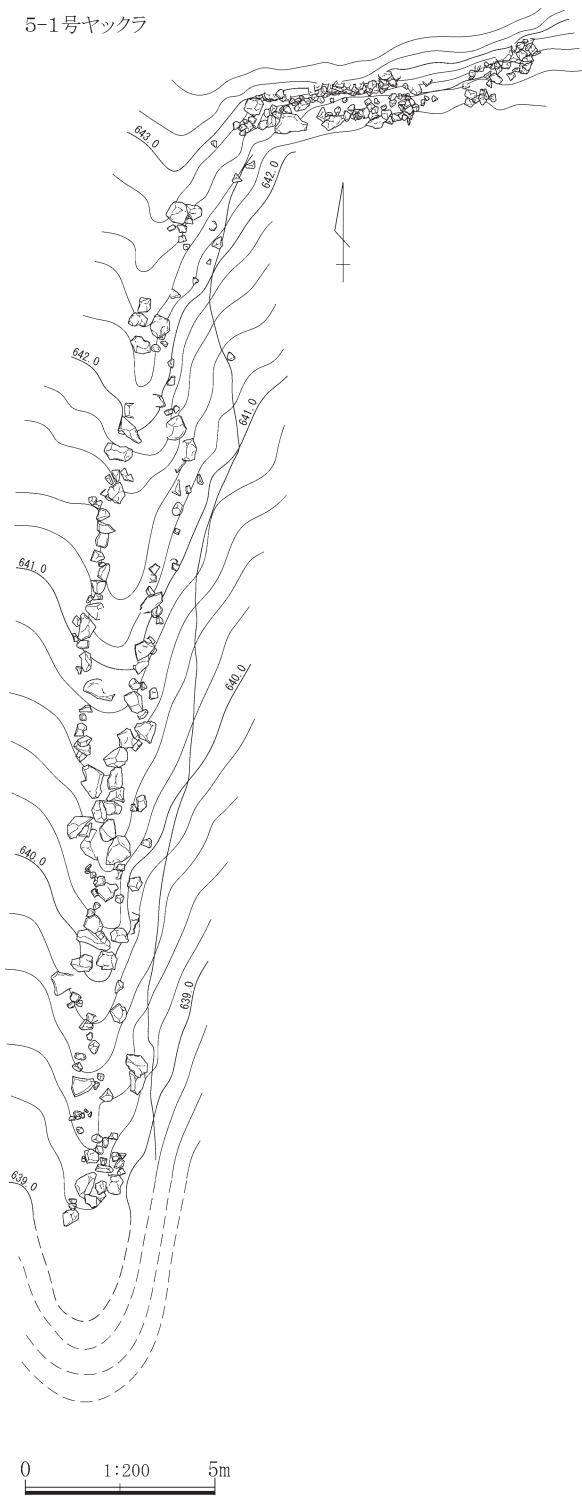
5区の中央に南北に走り、北端部で東に曲がり上段の畑の法面を構成する。南端部は区の中央で終わっている。石の積み方はやや乱雑で、下幅約1.5m、高さは1m弱である。

第3章 検出された遺構と遺物

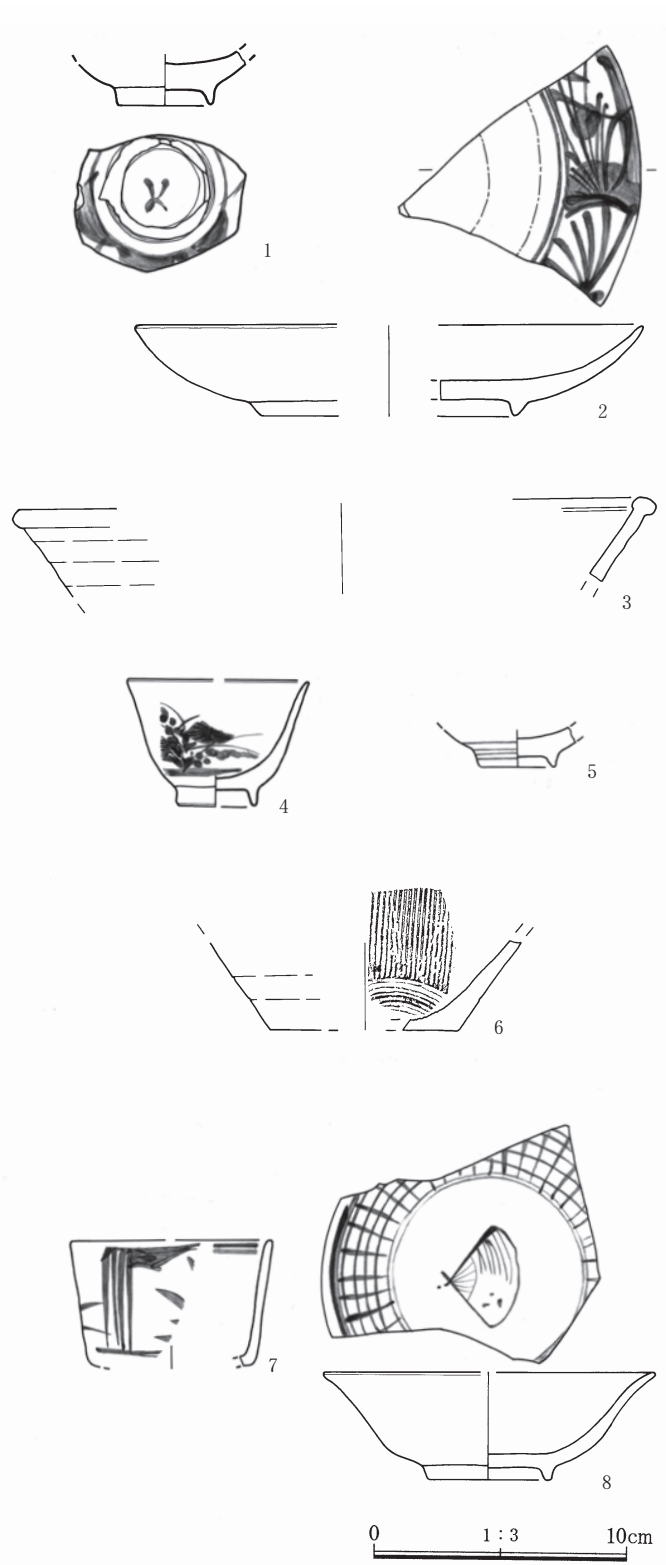


第533図 4-2・3号ヤックラ

5-1号ヤックラ



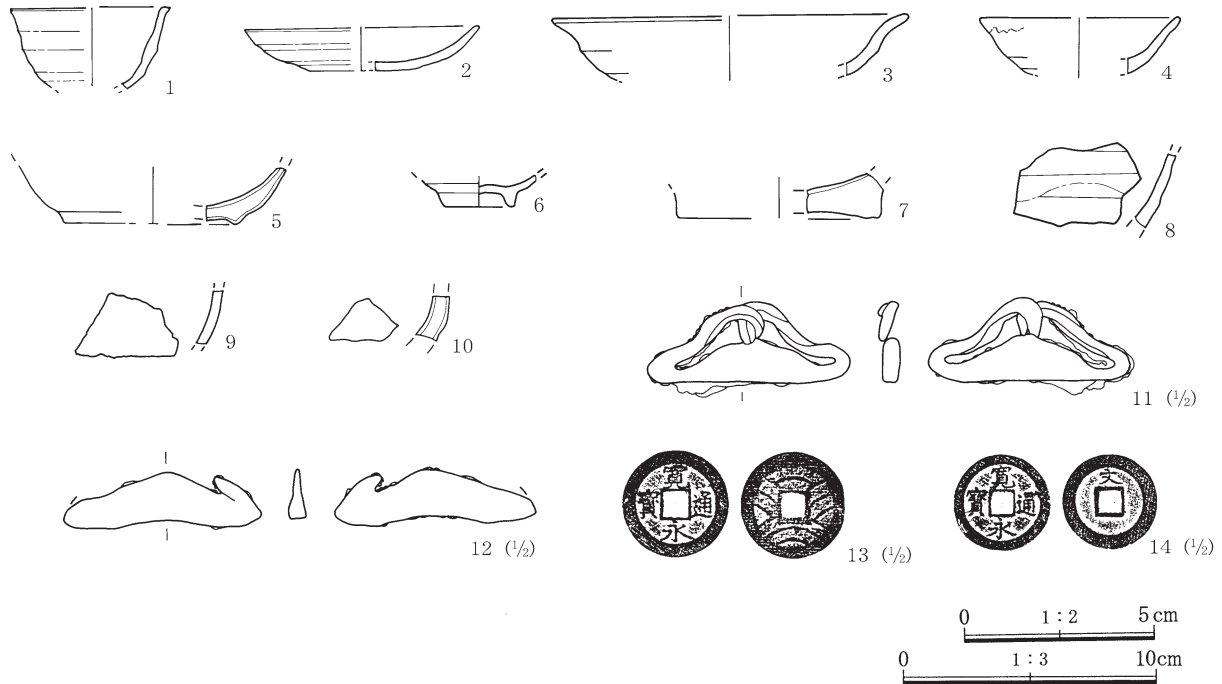
第534図 5-1号ヤックラ



第535図 ヤックラ出土遺物

6. 遺構外出土遺物 (第536図: PL228)

遺構外より出土した中・近世の遺物は陶磁器の碗、皿類の他、鉄製品としては火打金が2点、さらに寛永通宝2点が出土している。



第536図 遺構外出土遺物

表4 平安時代、中・近世遺物観察表

4-21号住居跡 (第515図: PL227)

No.	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
1	土釜か	胴部片	カマド内	灰色	精製	厚手、内外面撫で成形、外面に若干の煤付着	11c後半
2	甕	胴部片	カマド内	黒褐色	砂粒多	外面縦方向斡削り、内面横斡撫で	11c後半

5-68号住居跡 (第518図: PL227)

No.	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
1	羽釜	口縁部片	カマド内	明褐色	砂粒	口縁部幅広で罫は大きく作られる。	11c後半
2	羽釜	胴~底部	カマド内	明褐色	砂粒	罫部分から口縁を欠く、外面削り、内面撫で。器高低く底径大きい。砂底。	11c後半
3	須恵器杯	口縁部片	カマド内	灰黒色	微砂粒	ロクロ成形。灯明皿として使用。内面から外面口縁部にタール状の煤付着。	11c後半
4	土師器杯	口縁部片	覆土	黄褐色	微砂粒	ロクロ成形。	11c後半
5	須恵器杯	底部	西壁	灰黒色	微砂粒	ロクロ成形、右回転糸切り底。内面に油煙付着。	11c後半

4-1号掘立柱建物跡 (第519図: PL227)

No.	種類	残存	出土位置	特徴等	時期
1	銭貨	完形	Pit55内	「治平元寶」北宋、治平年間 (1064~1067) 径2.4cm、重さ4.4g	中世

4-3号竪穴状遺構 (第521図: PL227)

No.	種類	残存	出土位置	特徴等	時期
1	鉄製品	欠損品か	床面中央	径5.0cm。軸の部分欠く、錆のため表面に凹凸。紡錘車か。	中世

第5節 中・近世の遺構と遺物

4-5号竪穴状遺構 (第525図: PL227)

No.	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
1	鉢	口縁部片	覆土	灰色	砂粒	口縁部内外面撫で成形、体部外面には成形時の指頭痕、外稜を持ち、口唇部は角張り、内面摩耗する。	
2	合子	破片	覆土	白色	精製	合子の身か蓋、貿易陶磁ではない。	近世以降
No.	種類	残存	出土位置	特徴等			石材
3	砥石	欠損品	覆土	長さ(10.5)cm、高さ4.6cm。大型砥石の破片と思われる。4面以上の使用面あり、被熱している。			粗粒輝石安山岩
4	茶臼	欠損品	覆土	茶臼下白破片、7片が接合。全体の3/4。白部直径18cm、全高9.0cm、(はんぎり部直径35cm)、重さ6.62kg。茶臼下白の概ね全体像が把握できる。			粗粒輝石安山岩
5	金属製品	完形	覆土	長さ7.8cm、径1.3cm。管状の銅製品、両端部分は丸く縁取りされ、外面縦に合わせ目が見られる。			銅製

4-9号焼土 (第527図: PL228)

No.	種類	残存	出土位置	特徴等			時期
1	煙管	吸い口	焼土中	長さ4.0cm、径0.75cm。銅製、やや細身で吸い口の端部僅かに欠損。			近世

土坑 (第530図: PL228)

No.	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
1	陶器・碗	口縁部	5-805号土坑	—	—	瀬戸・美濃。腰錆碗。	近世
2	磁器・猪口?	口縁部片	5-806号土坑	—	—	肥前。コンニャク印判か。	近世
3	陶器・碗	体部片	5-808号土坑	黒褐色	—	瀬戸・美濃。天目茶碗か。	近世

4-1~3号ヤックラ (第535図: PL228)

No.	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
1	磁器・碗	3分の1	4-1号ヤックラ	—	—	波佐見系。雪輪草花文か。高台内に銘あり。	近世
2	磁器・皿	4分の1	4-1号ヤックラ	—	—	肥前。見込み蛇ノ目軸剥ぎ。	近世
3	陶器・すり鉢?	口縁部片	4-1号ヤックラ	—	—	瀬戸・美濃か。	近世?
4	磁器・小坏	3分の1	4-2号ヤックラ	—	—	肥前か。	近世以降
5	磁器・碗	3分の1	4-2号ヤックラ	—	—	肥前。染付。	近世
6	陶器・すり鉢	底部片	4-2号ヤックラ	—	—	瀬戸・美濃か。	近世?
7	磁器・碗	5分の1	4-3号ヤックラ	—	—	肥前。筒形碗。	近世
8	磁器・鉢	3分の2	4-3号ヤックラ	—	—	瀬戸・美濃か。浅い鉢。	近世以降

遺構外 (第536図: PL228)

No.	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
1	陶器・小坏	破片	4区表土	—	—	瀬戸・美濃。登1か2小期。	
2	陶器・灯明皿	3分の1	4区表土	茶褐色	—	美濃。登9~11小期。	
3	陶器・皿	口縁部片	4区表土	—	—	志野。大窯4段階後。	
4	陶器・皿	口縁部片	4区表土	—	—	古瀬戸後III期。縁袖小皿。埴塼として使用か。	
5	陶器・皿	体~底部片	4区表土	—	—	志野。大窯4段階後。	
6	陶器・小碗	高台部片	4区U-22	—	—	美濃。登8か9小期。	
7	陶器・碗	高台部片	4区表土	—	—	瀬戸・美濃。天目茶碗。登2小期。	
8	陶器・碗	破片	4区表土	—	—	瀬戸・美濃。天目茶碗。登1か2小期。	
9	陶器・丸碗	破片	4区表土	—	—	瀬戸・美濃。	近世
10	磁器	破片	4区表土	—	—	国産。詳細は不詳。	近世以降
No.	種類	残存	出土位置	特徴等			時期
11	ねじり鎌型火打ち金	ほぼ完形	4区T-17	長さ5.3、幅2.3、厚さ0.4cm。重さ14.1g。両端が長く引き延ばされ、上部でねじり合わさっている。			近世
12	火打ち金	欠損品	4区表土	長さ(5.3)、幅(1.2)、厚さ0.6cm。重さ(9.2)g。山形を呈し、端部欠損。			近世
13	寛永通宝	完形	4区表土	径2.8cm、重さ4.6g。青海波文(11波)			近世
14	寛永通宝	完形	5区表土	径2.5cm、重さ2.4g。背「文」			近世

第3章 検出された遺構と遺物

表5 遺構一覧表(平成15年度)

4区住居跡											
番号	位 置	形 状	規 模(cm)	方 位	炉	柱穴	床 面	出土遺物	時 期	備 考	考
16	N・O-18	柄鏡か	(420)×(370)×15	N-23°-E	石囲い	不明	敷石	土器、石器	後期初頭	石組み遺構	
17	L-18・19	柄鏡形	460×324×60	N-40°-E	石囲い	7	敷石	石棒(立石)	中期末	石組み遺構、立石	
18	F・G-11	円形	597×561×52	N-9°-W	石囲い	5		伏せ甕	中期後半		
19	H-10・11	円形	(325)×245×35	N-2°-W	石囲い	5		炉体土器	中期末		
20	N-17・18 O-18	円形か	425×(371)×29	N-42°-E	石囲い	不明		土器、石器	中期後半		
21	W-14・15	隅丸方形	(350)×(350)×10	N-82°-E	カマド	不明	不明瞭	甕、土釜片	平安	残存状況悪い	
22	Q・R-18・19	円形	(350)×226×33	—	石囲い土器	(2)		土器	中期後半		
23	Y-15・16	円形	578×562×45	N-5°-E	石囲い	7		土器、石器	中期末		
5区住居跡											
番号	位 置	形 状	規 模(cm)	方 位	炉	柱穴	床 面	出土遺物	時 期	備 考	考
1	S・T-13・14	楕円	390×360×40	N-0°	石囲い、炉体土器	6	入り口埋塞	土器、石器	中期末	平15残調査	
38	E・F-12・13	円形	推定径6.6m	—	不明	7		石器	中期後半	平15残調査	
39	D-12 E-12・13	円形	径およそ5.8m	N-5°-E	地床炉	7		土器、石器	中期後半	平15残調査	
68	E・F-21	隅丸長方形	515×405×25	N-89°-E	カマド	—		須恵器	平安		
69	E・F-15・16	円形	600×600×55	N-6°-W	石囲いか	6		土器、石器	中期後半	炉を813土坑に切られる	
70	G・H-15・16	円形	645×640×40	N-20°-W	石囲い	8		土器、石器	中期後半	重複住居	
71	F・G-14・15	円形	450×420×40	N-11°-E	地床炉	6		土器、石器	中期後半	水道管に切られる	
72	B~D-15・16	円形	600×550×40	N-12°-W	石囲い	6	入り口埋塞	土器、石器	中期後半		
73	A~C-16・17	円形	(690)×540×40	—	石囲い	6		土器、石器	中期後半		
74	C~E-13・14	柄鏡か	650×400	N-21°-E	水道管に切られる	10	柄部に敷石	土器、石器	後期	南側の立ち上がり不明	
75	E・F-13・14	円形	350×(350)×36	—	水道管に切られる	10		土器、石器	中期末	76住と重複	
76	E-13・14	円形	径(350)×35	N-6°-W	石囲い	9		土器、石器	中期後半	38・39・75住と重複	
77	H・I-16・17	柄鏡形敷石	560×430×40	N-4°-W	石囲い・炉体土器	15	敷石	注口土器、蓋	堀之内1	小型石棒出土	
78	O-21	円形	360×290×70	N-18°-E	石囲い	4		土器、石器	中期後半		
79	C・D-14	円形	450×(450)×15	—	—	2		土器、石器	中期後半		
80	L・M-22・23	円形	345×(300)×25	—	—			土器、石器	中期末		
81	L・M-18・19	円形	470×(470)×10	—	土器			土器、石器	中期後半		
82	N~P-20~22	円形	(720)×690×37	—	—	7		土器、石器	中期後半	中に78住	
83	M・N-14~16	柄鏡形	760×(900)×55	N-16°-W	石囲い	10		土器、石器	後期	5-383号配石は張り出し部	
84	N・O-18・19	円形	630×(550)×40	—	—	6(7)		土器、石器	中期後半		
85	O・P-17・18	円形	470×430×35	N-9°-E	石囲い	5		土器、石器	中期後半		
86	N・O-16・17	円形	(460)×(460)×20	—	—	2		土器、石器	中期末		
87	K・L-16・17	円形	450×(450)×50	N-23°-W	—	4		土器、石器	中期後半		
88	L・M-17・18	柄鏡形敷石	(600)×430×53	N-27°-W	石囲い、炉体土器	10	一部敷石	土器、石器	後期	炉の角に石棒	
89	M・N-18	円形	推定径660cm	—	—	3		土器、石器	中期後半		
90	M・N-17	円形	(430)×(430)×20	N-10°-E	石囲い	6		土器、石器	中期後半		
91	N・O-18	円形	(300)×(300)×30	—	—	6		土器、石器	中期末		
92	I~K-16・17	円形	(600)×(600)×40	N-0°	—	5(6)		土器、石器	中期後半		
93	I・J-15・16	円形	700×680×40	N-0°	石囲い	7		土器、石器	中期後半	5-211号土坑は入り口埋塞	
94	K・L-14・15	半円	(600)×(600)×—	—	—	(4)		土器、石器	中期後半		
95	M・N-18	柄鏡形か	推定径580cm	N-20°-W	石囲い	5		土器、石器	後期	敷石住居か	
96	O・P-15・16	円形	(600)×(600)×—	—	地床炉・土器	不明		土器	後期		
97	N・O-17	円形	(360)×(360)×10	—	地床炉	6		土器、石器	中期後半		
98	Q・R-24・25	円形か	(550)×606×25	N-29°-W	石囲い	7		土器、石器	中期後半		
99	S~U-23~25	円形	725×700×72	N-8°-W	石囲い	7		土器、石器	中期後半		
100	T~V-18・19	円形	550×(540)×30	N-11°-E	石囲い	4	埋塞2	土器、石器	中期後半		
101	V・W-18・19	円形か	700×(700)×40	N-0°	石囲い、炉体土器	5		土器、石器	中期後半	5-107号住が中に重複	
102	L・M-18・19	円形	(560)×(550)×—	—	—	6(7)		土器、石器	中期後半		
103	P・Q-21・22	円形	410×(400)×15	N-5°-W	石囲い	4		土器、石器	中期後半		
104	Q・R-22	円形	340×340×25	N-0°	石囲い	4		土器、石器	中期後半	入り口部に大型礫	
105	P・Q-19・20	円形	430×420×38	N-9°-E	石囲い	5(6)		土器、石器	中期後半		
106	D・E-13・14	円形	(460)×(460)×30	—	不明	5		土器	中期後半	5-74号住居跡が載る	
107	V・W-18・19	円形	270×(270)×15	N-12°-E	地床炉	2	周溝	土器、石器	中期末		
108	P-19	円形	400×(400)×30	N-26°-W	石囲い	不明		土器、石器	中期末	白色塗彩の土製腕輪片	
109	P・Q-18・19	円形	450×(450)×30	N-3°-W	石囲い	5		土器、石器	中期後半		
110	P・Q-17・18	円形	350×(350)×15	—	地床炉?	4		土器、石器	中期後半		
111	P・Q-14・15	円形	(600)×(600)×—	—	石囲い? 2基あり	不明		土器、石器	後期		
112	Q-15・16	円形	(450)×(450)×—	—	—	不明		土器、石器	後期		
113	I・J-16・17	楕円形	500×(300)×50	N-5°-E	土器囲い	9		土器、石器	中期末	拡張住居	
114	S・T-20・21	円形	推定径5.2m	—	不明	5(6)	土坑重複	土器、石器	中期後半	風倒木に炉を壊される	
115	S・T-19	円形	推定径3.0m	N-5°-E	石囲い	2(3)	ほぼ平坦	土器、石器	中期後半		
116	P-18	円形	(350)×(350)×15	—	—	5	半分を欠く	土器	中期後半		
117	W-17	不明	不明	N-0°	石囲い	9		土器、石器	中期後半	平地式か	
118	W・X-15・16	円形	380×(360)×12	N-29°-W	石囲い	5(6)		土器、石器	中期後半		
119	W-15・16	円形	320×(320)×12	—	地床炉、炉体土器	5	土坑重複	土器、石器	中期後半		
120	V-16	円形	290×270×25	N-6°-W	石囲い	3	埋塞1	土器、石器	中期末	小型住居	
121	Q・R-15・16	円形	推定径4.7m	—	地床炉	不明		土器片	後期	炉は下部の一部のみ検出	
122	V・W-16	円形	(560)×(560)×10	N-0°	石囲い	4	中に120住重複	土器、石器	中期後半		
123	X-14・15	円形	340×(340)×30	N-15°-W	石囲い土器	6		土器、石器	中期後半		
124	V~X-14・15	円形	860×(900)×60	N-0°	地床炉、埋塞炉	12	凹凸顕著	土器、石器多い	後期前半	大型の柄鏡形住居	
125	U-15・16	円形	310×290×45	N-5°-E	—	8		土器、石器	中期末		
126	X-15・16	円形	推定径4.0m	—	—	5		土器、石器	後期初頭		
127	U・V-16	円形	推定径3.0m	—	不明	不明		土器	後期		
128	W・X-15	円形	不明	—	不明	不明		土器	中期後半		
129	X・Y-15	円形	径約4m	—	—	2		土器	中期後半		
130	S・T-16・17	円形	不明	—	—	6(7)		土器	後期初頭		
131	R・S-15・16	円形	(800)×(800)×—	—	—	11		土器、石器	後期		
132	G-14・15	円形	(250)×(250)×25	—	地床炉(集石)	2	北側のみ残	土器、石器	中期後半		
133	R~T-16・17	円形	推定径8m	—	—	10		土器、石器	中期末		
134	U-14	柄鏡形か	300×(300)×40	N-0°	石囲い	8	埋塞1	土器・磨製石斧	後期初頭	軽石製品	
135	Q・R-16	円か	推定径6.7m	—	石囲いか	不明		土器片	後期	炉は僅かに残存	
136	N-18・19	円形	推定径(3.5)m	—	地床炉か	1		土器	中期後半	一部のみ検出	

番号	位 置	形 状	規 模(cm)	方 位	炉	柱穴	床 面	出土遺物	時 期	備 考
137	U-16	円か	不明	—	不明	1		土器、石器	後期初頭	一部のみ検出
138	S・T-15	円か	推定径5.6m	—	石囲い・炉か	6	不明	土器、石器	後期	範囲推定
139	R-15	円形	推定径5.0m	—	—	6(8)		土器	中期後半	
140	T-14	長円	260 × (180) × 10	—	地床炉	1	一部に周溝	土器片	後期	炉は5-156号配石(2002)
141	Y-12・13	円形か	推定径6.0m	—	石囲い	3		土器、石器	中期後半	5-83号配石(2002)が炉か
142	V-15	円か	推定径4.6m	—	不明	不明		土器	中期後半	範囲推定
143	欠番									
144	X-14・15	やや隅丸	推定径6.0m	—	地床炉、埋甕	8		土器、石器	後期	弧状の石列
145	W-13・14	柄鏡型か	600 × (650) × —	N-0°	地床炉、埋甕	12		土器、石器	後期	5-124住の下に検出

6区住居跡

番号	位 置	形 状	規 模(cm)	方 位	炉	柱穴	床 面	出土遺物	時 期	備 考
10	B・C-12・13	柄鏡形敷石	(380) × 335 × 15	N-17°-W	石囲い	6	張出し部敷石	土器片、石器	後期前半	敷石住居
15	A・B-17・18	円形か	(350) × (350) × 20	—	地床炉、焼土	4	南側は削平	土器、石器	後期	平13年度6-181号土坑を変更
16	A・B-12~14	円形	径約5m	—	土器	4	周溝	土器、石棒	中期後半	
17	5Y・6A-12	円か	(-) × (-) × 15	—	5-14配石か			土器、石器	中期後半	

掘立柱建物跡

5区

番号	位 置	形 状	規 模(cm)	方 位	炉	柱穴	床 面	出土遺物	時 期	備 考
6	M-O-17・18	魚甲形	(9.8) × 3.5m	東西	無し	(8)	不明	土器、石器	後期	西側棟持ち柱穴は推定
7	M-O-16~18	円(八角)	径6.5m		焼土、埋甕炉	8	やや凹凸あり	土器、石器	後期	5-1号焼土が炉と思われる

埋甕

5区

番号	位 置	形 状	残 存	掘 方	備 考	時 期
9号	F-16	正位	胴部	65×50×50	5-69住北壁	中期後半
10号	F-17	逆位	深鉢口縁2分の1	70×60×15	5-821土坑内	中期後半
11号	C-20	逆位	深鉢口縁~胴部	30×30×35	単独	中期後半
12号	C-15	逆位	深鉢口縁~胴部	70×70×25	5-72住入口部	中期後半

炉

5区

番号	位 置	形 状	規 模(cm)	出土遺物	備 考	時 期
11	F-15	石組み	40 × 35	土器片、石鏝	5-69住の入り口部に在り	中期後半
12	G-16	石囲い	50 × 50		5-70住の北東部に位置	

列石

5区

番号	位 置	形 状	規 模(m)	備 考	時 期
9	S~U-14	弧状	長さ10m	5-124号住の左から東に延びる	後期

配石

5区

番号	位 置	形 状	規 模(cm)	方 位	備 考	時 期
441	P・Q-14	不定形	100 × 90	N-37°-W	大型の礫を囲うように10数個の礫	後期
442	Q-15	楕円形	200 × 100	N-73°-E	2基の重複か、5-1106号土坑が下位に位置する。立石あり。	後期
443	Q-15	不定形	170 × 100		5-442号配石の北に位置する。	後期
444	X・Y-13・14	長円形	500 × 300		1mを越える大型礫の廻りに小礫が集められる	後期
445	W・X-13	列状	300 × 150		列石か、5-4号列石(2002)と対を為す。	後期

竪穴状遺構

4区

番号	位 置	形 状	規 模(m)	方 位	炉	柱穴	床 面	出土遺物	時 期	備 考
3号	M・N-20・21	不定楕円	3.4 × 2.6 × 0.8		無し、床面に焼土	無し	平坦でやや堅い	鉄製品	中世か	南壁に石積み
4号	E・F-10・11	不正方形	(3.2) × 3.0 × 10.0		無し	無し	凹凸あり	近世陶磁器	近世か	削平されており不確定
5号	V・W-16・17	方形	3.4 × 3.0 × 0.5		無し、床面に焼土	無し	やや凹凸あり	合子、鉢、茶臼他	中世	炭化材出土
6号	V・W-16・17	方形	3.8 × 3.8 × 0.4		無し	無し		無し	中世	5号に大きく切られる

焼土

4区

番号	位 置	形 状	規 模(cm)	備 考	時 期
3号	L-21	円形	60 × 60	周囲に礫	近世
4号	G・H-13	長方形	100 × 70		近世
5号	O-15	不定形	130 × 60	2カ所に焼土の広がり、焼土中に礫含む。	中世か4-1掘立柱建物内
6号	F-10	不定形	100 × 60	4-4号竪穴と重複。	近世
7号	E-15	長円形	80 × 60	礫が出土	近世
8号	K-21	不定形	130 × 100	北側に礫が据えられる、焼土厚い。	近世
9号	T-20	環状	110 × 80	煙管吸い口出土	近世
10号	W-14	長円形	140 × 60	灰が多く見られる。	近世
11号	U-15	不定形	80 × 80	中央にビットあり	中世か4-2掘立柱建物内

5区

番号	位 置	形 状	規 模(cm)	備 考	時 期
1号	N-17	不定形	50 × 50	埋甕あり、周囲に焼土の広がり、炉可能性。礫散在	5-7号掘立柱建物の炉か
2号	L-18	不定形	80 × 50	焼土がレンズ状に堆積	5-868土の上層部
3号	欠番				
4号	N-18	円形		焼土のみ	5-136号住居の炉
5号	R-15・16	円形	30 × 30		5-121号住居跡の炉か

第3章 検出された遺構と遺物

土坑 4区

番号	区	位置	形状	規模(長径・短径・深さ)cm	主軸方位	出土遺物	時期	備考
71	4	H-18・19	不整形	(213)×127×48	—	縄文土器	—	風倒木か
72	4	K・L-17・18	不整形	248×181×73	—	縄文土器	不明	覆土中央に礫集中、風倒木か
73	4	L-17	不整形	316×234×62	—	縄文土器	不明	覆土中央に礫集中、風倒木か
74	4	欠番						
75	4	N-16	不整形	198×149×42	—	縄文土器	不明	覆土中央に礫集中、風倒木か
76	4	I-16・17	不整形	130×100×31	N-30°-W	—	縄文	
77	4	H-14	長円形	206×74×23	N-60°-E	—	縄文	
78	4	I-13・14	不整形	82×60×40	—	縄文土器	縄文	
79	4	G-13	長円形	66×33×14	N-90°	—	縄文	
80	4	H-11	不整形	128×64×21	—	縄文土器	縄文	
81	4	G-12・13	楕円形	105×81×21	N-20°-W	—	縄文	
82	4	G-13・14	楕円形	56×50×34	—	—	縄文	
83	4	M-15	不整形	90×75×29	N-0°	—	近世	
84	4	M-14	不整形	62×54×18	N-60°-W	—	近世	
85	4	H-13	不整形	59×44×31	N-30°-E	縄文土器	縄文	
86	4	N-14	不整形	88×69×11	N-35°-E	—	近世	
87	4	欠番						
88	4	F-10	円形	147×150×74	—	縄文土器	縄文	
89	4	A・B-15	不整形	90×85×21	—	縄文土器、石器	縄文	
90	4	F-10	楕円形	135×(88)×63	N-75°-W	—	縄文	
91	4	F-17	楕円形	(103)×109×33	N-25°-W	—	—	風倒木
92	4	F-17	長円形	115×73×50	N-0°	—	縄文	
93	4	E・F-16	不整形	(75)×79×46	—	—	縄文	
94	4	E-16	円形	66×58×38	—	—	縄文	
95	4	D-17	不整形	87×61×27	—	—	縄文	
96	4	E-17	長円形	121×80×36	N-90°	土器	縄文	
97	4	E-17	楕円形	121×104×80	—	石器	縄文	
98	4	H-20	楕円形	71×61×30	—	—	縄文	
99	4	I-21	楕円形	98×65×24	N-65°-W	—	縄文	
100	4	H-18	不整形	112×67×15	—	—	近世か	
101	4	J-20	長円形	76×53×22	N-75°-W	—	近世か	
102	4	X-14・15	長円形	225×167×114	N-0°	土器	平安以降	陥し穴
103	4	X-19	楕円形	110×85×23	N-40°-E	土器	縄文	
104	4	T-18	長円形	190×(80)×29	N-0°	—	縄文	
105	4	Y-6	長円形	133×76×105	N-75°-W	土器、石器	平安以降	陥し穴
106	4	Y-14・15	長円形	217×191×130	N-10°-E	土器	平安以降	陥し穴
107	4	V・W-18	不整形	235×160×30	N-70°-W	—	不明	風倒木か
108	4	U-17・18	—	280×106×16	N-10°-E	土器	縄文	
109	4	X・Y-19	長円形	450×375×69	N-15°-W	土器	不明	風倒木か
110	4	U・V-21	円形	141×141×28	N-40°-W	大型土器片	縄文中期	割れた土器の中に蓋石状の平石
111	4	O-21	楕円形	94×80×25	N-70°-W	土器	縄文	
112	4	U・V-20・21	長円形	115×62×31	N-5°-E	—	縄文	
113	4	T-18・19	長円形	245×100×45	N-15°-E	—	縄文	
114	4	V-21	楕円形	83×59×20	N-20°-E	—	縄文	
115	4	W-15	楕円形	80×70×13	N-22°-W	—	縄文	
116	4	T-16	長形	80×60×19	—	—	縄文	

5区

番号	区	位置	形状	規模(長径・短径・深さ)cm	主軸方位	出土遺物	時期	備考
803	5	F-16・17	長円形	439×126×30	N-5°-W	—	近世	集石
804	5	C-18	長円形	203×129×133	N-84°-W	土器	平安以降	陥し穴
805	5	F-14・15	長円形	182×131×35	N-10°-W	陶磁器	近世	集石
806	5	C・D-14	長円形	256×144×68	N-27°-W	陶磁器	近世	集石
807	5	B・C-14・15	長円形	189×109×132	N-30°-W	—	平安以降	陥し穴
808	5	D-15	長形	215×140×20	N-78°-E	陶磁器	近世	
809	5	B-16	円形	95×89×33	N-0°	—	縄文	
810	5	B-16	楕円形	43×40×26	N-3°-E	—	縄文	
811	5	B-16・17	円形	100×100×47	N-0°	土器	縄文	
812	5	F-19	楕円形	132×120×16	—	土器	縄文	
813	5	F-16	楕円形	170×150×180	—	大型土器	縄文	5-69住の炉を切る
814	5	H-15	長円形	162×83×23	N-20°-E	土器、石器	縄文	
815	5	D-14	長円形	80×63×50	N-0°	土器	縄文	
816	5	E-14	円形	140×125×53	N-90°	土器、石器	縄文	
817	5	K・L-16	長円形	205×148×22	N-78°-E	—	近世	集石
818	5	I・J-17	長円形	277×221×15	N-85°-E	—	近世	集石
819	5	K-22	円形	108×103×19	N-70°-W	—	近世	集石
820	5	L-23	不整形	361×193×15	N-55°-W	—	近世	集石
821	5	F-16・17	円形	(96)×120×20	—	土器	縄文	
822	5	L-23・24	不整形	90×87×20	N-0°	—	縄文	
823	5	P-20	長円形	122×87×72	N-55°-W	—	縄文	
824	5	O-20	楕円形	110×96×88	N-0°	土器片、礫	縄文	
825	5	O-20	楕円形	103×88×60	N-0°	土器、石器	縄文	
826	5	N-20	楕円形	250×215×75	N-72°-W	土器、石器	縄文	
827	5	M-19	円形	122×120×35	—	土器	縄文	
828	5	M-19	円形	154×154×65	—	土器、石器	縄文	土器片、礫、底に大型礫
829	5	L・M-19	円形	150×132×35	—	土器、石器	縄文	土器片、礫、底に大型礫
830	5	L-18	円形	52×50×83	N-40°-W	土器、石器	縄文	柱穴か
831	5	I-17・18	長円形	145×117×21	N-50°-W	土器、石器	縄文	ほぼ完形の土器
832	5	H-17	楕円形	124×123×30	—	土器	縄文	

番号	区	位置	形状	規模(長径・短径・深さ)cm	主軸方位	出土遺物	時期	備考
833	5	N-19	不整形	210 × (195) × 37	N-20°-E	土器、石器	縄文	5-84号住の中にあり
834	5	N-18	楕円形	143 × 133 × 50	N-69°-E	土器、石器	縄文	
835	5	K-18	長円形	54 × 42 × 36	N-44°-W		縄文	
836	5	L-15	長円形	137 × 75 × 35	N-28°-W	土器	縄文	
837	5	O・P-16	不整形	60 × 55 × 35	N-0°		縄文	5-96住柱穴か
838	5	P-15・16	不整形	65 × 37 × 25	—	土器	縄文	5-96住柱穴か
839	5	K・L-15	楕円形	86 × 72 × 50	N-7°-E	土器片、礫	縄文	
840	5	O・P-17	不整形	197 × (140) × 110	—	土器、石器	縄文	5-85号住居跡の南に重複
841	5	O-17	長円形	56 × 46 × 63	—		縄文	5-85号住居跡の柱穴
842	5	O・N-17	長円形	178 × 140 × 58	N-15°-W	土器、石器	縄文	
843	5	O-15	楕円形	69 × 58 × 47	N-43°-E	土器	縄文	上層に礫
844	5	N・O-16	円形	52 × 48 × 45	N-10°-W	土器	縄文	5-86住柱穴の可能性あり
845	5	O-17	不整形	85 × 85 × 97	N-20°-W	土器	縄文	5-7号掘立柱建物
846	5	O-17	不整形	63 × 42 × 56	N-70°-E	土器	縄文	
847	5	N-18	円形	176 × 165	—	土器、石器	縄文	
848	5	M-17	楕円形	95 × 93 × 82	N-90°	土器片、礫	縄文	5-7号掘立柱建物
849	5	J-17	楕円形	124 × 114 × 34	N-0°	土器	縄文	中央にビット
850	5	M-18	楕円形	110 × 103 × 45	N-90°	土器片、礫	縄文	
851	5	O-15	楕円形	47 × 47 × 42	N-3°-W	土器、石器	縄文	5-96住柱穴か
852	5	O-17	不整形	(92) × 80 × 55	N-42°-E	礫	縄文	5-6号掘立柱建物
853	5	O-20	長円形	87 × 58 × 53	N-7°-W		縄文	
854	5	M・N-18	楕円形	104 × 78 × 70	N-30°-E	土器、石器	縄文	5-7号掘立柱建物
855	5	O-15	不整形	40 × 27 × 45	N-45°-W		縄文	
856	5	N-16・17	不整形	145 × (117) × 105	—	土器、石器	縄文	5-7号掘立柱建物
857	5	O-16	半円形	71 × (35) × (65)	—		縄文	南半分は水道溝に壊されている
858	5	M-16・17	長円形	148 × 87 × 15	N-10°-E	土器	縄文	
859	5	M-17	楕円形	153 × 143 × 90	N-0°	土器片、礫	縄文	
860	5	L-15	半円形	107 × (69) × 83	—	土器	縄文	
861	5	L-15	楕円形	82 × 79 × 40	N-90°	土器	縄文	
862	5	M-18	円形	110 × 110 × 98	—	土器、石器	縄文	5区A号掘立柱建物の北東柱穴
863	5	N-16	不整形	56 × (43) × 32	N-0°		縄文	
864	5	M-17	不整形	(28) × 68 × 33	—	土器	縄文	
865	5	M-17	長円形	105 × 85 × 78	N-32°-W	土器、石器	縄文	5-7号掘立柱建物
866	5	N-17	楕円形	73 × 62 × 76	N-13°-W	土器	縄文	5-6号掘立柱建物
867	5	N-17・18	長円形	185 × 124 × 65	N-30°-W	土器、石器	縄文	上層に大型礫
868	5	L-17・18	円形	140 × 135 × 113	—	土器、石器	縄文	5-88号住居跡の北側に重複
869	5	N-18・19	不整形	(135) × (63) × 23	N-90°	土器	縄文	
870	5	O-18	不整形	94 × 90 × 80	N-90°	土器	縄文	5-6号掘立柱建物
871	5	M-17・18	円形	105 × 105 × 55	N-0°	土器片、礫	縄文	5-6号掘立柱建物
872	5	O-19	長円形	105 × 88 × 37	N-10°-E	礫	縄文	
873	5	N-17	不整形	— × 57 × 50	—	土器	縄文	
874	5	N・O-18	長円形	116 × 103 × 92	N-55°-E	土器、石器	縄文	5-7号掘立柱建物
875	5	N・O-18	楕円形	123 × 104 × 15	N-63°-E	土器	縄文	
876	5	N-18	長円形	104 × 73 × 77	N-90°	礫	縄文	根巻き石か
877	5	N-18	長円形	106 × 88 × 87	N-82°-W	土器、石器	縄文	5-6号掘立柱建物
878	5	N・O-18・19	楕円形	155 × 147 × 65	N-60°-E	土器、石器	縄文	
879	5	K-15・16	不整形	(105) × 105 × 80	N-0°	貝輪状土製品	後期	柱穴
880	5	K-17	円形	69 × 66 × 21	N-90°	埋土、焼土	縄文	炉の可能性あり
881	5	K・L-16	長円形	(125) × 155 × 40	N-30°-W	土器、石器	縄文	
882	5	N-17	長円形	90 × 57 × 50	N-0°	土器	縄文	
883	5	N・O-17・18	不整形	75 × (55) × 65	N-55°-E	土器	縄文	
884	5	N-18	不整形	80 × 74 × 55	N-30°-E	土器	縄文	
885	5	J-16	円形	120 × 100 × 70	—	大型の礫	後期	5-93・113住の重複部に位置
886	5	J-16	長円形か	(110) × (90) × (40)	—	大型の礫	後期	5-113住内にあり、配石土坑
887	5	R-21	長円形	125 × 100 × 42	N-40°-E		縄文	
888	5	P-19	円形	125 × 122 × 97	—	土器片、礫	称名寺1	5-108号住居跡の東に重複
889	5	R-19	不整形	150 × 125 × 82	N-0°	土器、石器	縄文	
890	5	Q-20	円形か	(180) × (180) × 40	—	土器片、礫	縄文	5-891号土坑、5-105住に切られる
891	5	Q-20	長円形	372 × 190 × 66	N-0°	土器片、礫	縄文	5-890号土坑を切る
892	5	S-18	長円形	97 × 69 × 21	N-50°-W		縄文	
893	5	R・S-17	半円形	75 × (27) × 32	—		縄文	
894	5	R-18	円形	118 × 115 × 25	—	土器	縄文	
895	5	Q-19	長円形	132 × 108 × 40	N-35°-E	土器	縄文	
896	5	T-18	不整形	(100) × (175) × 57	N-30°-E	土器	縄文	
897	5	P・Q-18	不整形	80 × 79 × 65	N-3°-E	礫	縄文	
898	5	R-20・21	楕円形	118 × 98 × 31	N-40°-W	土器	縄文	
899	5	R-19	円形	250 × 230 × 28	—	土器、石器	縄文	住居の可能性
900	5	Y-18・19	楕円形	234 × 221 × 47	N-0°	土器片、礫	縄文	住居の可能性
901	5	S-24	長円形	99 × 73 × 34	N-20°-W		縄文	
902	5	T-23・24	不整形	254 × 193 × 63	—	土器、石器	縄文	5-99号住居内
903	5	Q-23	円形	147 × 119 × 39	—	川原石	縄文	
904	5	T-24			—			5-99号住居炉に変更
905	5	P・Q-21・22	円形	134 × 132 × 30	—	土器	縄文	
906	5	P・Q-16	不整形	265 × (160) × 60	N-90°	土器、石器	縄文	
907	5	S・T-20・21	不整形	(390) × (224) × 78	—	縄文・陶磁器	不明	風倒木、5-114号住居と重複
908	5	L-15	不整形	(140) × (80) × 77	N-35°-W	土器	縄文	5-94住内
909	5	R-17	不整形	107 × 100 × 92	N-7°-E	黒曜石塊(大)	縄文	大型の黒曜石核2点出土
910	5	S・T-19	楕円形	245 × 231 × 40	N-48°-E	土器、石器		風倒木、5-115号住居跡と重複
911	5	欠番						
912	5	欠番						

第3章 検出された遺構と遺物

番号	区	位置	形状	規模(長径・短径・深さ)cm	主軸方位	出土遺物	時期	備	考
913	5	T-23・24	不整形	(51)×64×36	N-55°-W		縄文		
914	5	T・U-23	不整形	(44)×93×33	—	礫	縄文		
915	5	T-23	不整形	61×(45)×15	N-90°		縄文		
916	5	R-20	楕円形	90×83×30	N-13°-W	土器	縄文		
917	5	Q-18	不整形	121×112×42	N-40°-W	土器	縄文		
918	5	Q-17	長円形	116×86×115	N-50°-E	土器、石器	縄文	上層に礫	
919	5	Q-17	不整形	(65)×(37)×53	N-80°-W	土器、石器	縄文		
920	5	Q-17	不整形	(88)×(56)×80	N-80°-W	土器	縄文		
921	5	Q-19	円形	127×124×25	N-0°	土器	縄文		
922	5	X・Y-16	楕円形	115×112×35	N-0°		縄文		
923	5	W-16	楕円形	89×78×95	N-62°-E		縄文		
924	5	U-15	不整形	133×108×43	—	土器	縄文		
925	5	5Y-16 6A-16・17	不整形	(192)×181×35	N-40°-W	土器、石器	縄文		
926	5	Y-16	長円形	175×116×65	N-40°-W	土器、石器	縄文		
927	5	Q-17	円形	82×80×105	N-0°		縄文	根巻き石	
928	5	T-17	楕円形	94×80×80	N-30°-E	土器	縄文	柱痕	
929	5	T-18	不整形	(125)×105×30	N-45°-E	土器	縄文		
930	5	Y-16	不整形	148×136×27	—				
931	5	T・U-15	楕円形	175×155×30	—	土器	縄文		
932	5	U-15	長円形	101×60×33	N-75°-W	土器、石器	縄文		
933	5	T・U-17	半円形	(136)×146×67	N-15°-E	土器	縄文		
934	5	U-14・15	円形	137×131×40	—	土器片、礫	縄文		
935	5	U-16・17	楕円形	103×95×135	N-5°-E	土器、石器	縄文		
936	5	U-15	長円形	111×78×17	N-90°	土器	縄文		
937	5	U-15	不整形	(69)×86×45	N-42°-W	土器、石器	縄文		
938	5	P-16	楕円形	65×(32)×110	N-0°		縄文		
939	5	P-16	形不明	(76)×(20)×62	—		縄文		
940	5	Q-16	楕円形	(76)×(56)×62	N-63°-W	土器、石器	縄文		
941	5	Q-15・16	楕円形	139×111×40	N-81°-E	土器、石器	縄文		
942	5	Q-16	長円形	124×86×55	N-80°-W	土器	縄文		
943	5	Q・R-16	不整形	(86)×115×66	—	土器	縄文		
944	5	Q-16	楕円形	(49)×52×105	—	土器	縄文		
945	5	Q-16	楕円形	68×59×48	—	土器	縄文		
946	5	X-15	不整形	57×57×62	N-0°	土器	縄文	柱穴か	
947	5	U-16	不整形	132×82×57	N-0°	土器	縄文		
948	5	R-16	円形	48×49×88	—	土器、石器	縄文	柱痕	
949	5	T-16	不整形	141×115×50	N-90°	土器、石器	縄文		
950	5	T-16	不整形	(83)×(80)×50	—	土器、石器	縄文		
951	5	T-16	楕円形	80×75×115	N-55°-W	黒曜石	縄文	柱痕	
952	5	Q-15・16	不整形	(54)×(37)×97	—	土器、石器	縄文		
953	5	Q-16	不整形	(94)×67×110	—		縄文	柱痕	
954	5	Q-16	不整形	(50)×(50)×40	—	土器、石器	縄文		
955	5	P-16	不整形	(130)×(60)×80	—	土器	縄文		
956	5	Q-16	不整形	(40)×44×39	—	土器、石器	縄文		
957	5	Q-16	楕円形	(70)×(46)×90	N-0°		縄文		
958	5	Q-16	円形	115×100×120	—		縄文		
959	5	Q-16	楕円形	58×51×55	—	土器	縄文		
960	5	T-17	長円形	85×61×100	N-30°-W	土器	縄文	柱痕	
961	5	R・S-16・17	半円形	161×(104)×74	—	土器、石器	縄文		
962	5	R-16	円形	57×50×45	N-65°-E	土器、石器	縄文		
963	5	R-16	円形	74×66×52	N-75°-W	土器	縄文		
964	5	Q・R-16	円形	106×105×35	—	土器、石器	縄文		
965	5	V-16	不整形	100×100×120	—	土器、石器	縄文		
966	5	X・Y-15	不整形	92×53×50	N-45°-E	土器、石器	縄文		
967	5	Q-16	不整形	88×77×100	N-35°-W		縄文		
968	5	Q-15	長円形	55×43×90	N-30°-W	土器	縄文	柱痕	
969	5	S-17	長円形	73×41×38	N-75°-E		縄文	5-981号土坑と重なる	
970	5	S-17	不整形	90×76×78	—	土器	縄文	5-980号土坑と重なる	
971	5	欠番							
972	5	T-16	楕円形	67×64×65	N-40°-E	土器	縄文		
973	5	T-16	円形	82×75×87	N-55°-W	石器	縄文		
974	5	Q-14	長方形	123×74×65	N-87°-E		縄文		
975	5	R-16	不整形	(17)×33×55	N-10°-E	土器	縄文		
976	5	V・W-15・16	円形	101×103×127	—		縄文	柱痕	
977	5	W-15	円形	88×89×125	—	土器	縄文	柱痕	
978	5	U-16・17	楕円形	85×85×63	N-60°-W		縄文		
979	5	Q・R-15・16	不整形	175×167×107	—	土器、石器	縄文		
980	5	S-17	不整形	93×75×96	N-10°-W	土器	縄文	5-970号土坑と重なる	
981	5	S-17	—	—×—×43	—		縄文	5-969号土坑と重なる	
982	5	S-17	不整形	25×24×37	—		縄文		
983	5	P・Q-16	不整形	(26)×42×—	N-88°-E	土器	縄文		
984	5	R-16・17	不整形	68×55×79	N-90°	土器	縄文		
985	5	R-15	不整形	(70)×68×86	N-85°-E	土器	縄文		
986	5	R-15	円形	97×90×75	N-0°	土器	縄文		
987	5	5Y・6A-16	長円形	167×(116)×38	N-50°-W	土器、石器	不明	風倒木か	
988	5	Q-14	長円形	104×59×88	N-10°-E	土器	縄文		
989	5	T-14	長円形	80×58×60	N-78°-W		縄文		
990	5	T-14	長円形	70×50×24	N-9°-W		縄文		
991	5	Q-16	不整形	109×(95)×45	—	土器	縄文		
992	5	Q-16	長円形	85×58×53	N-0°	土器	縄文		

番号	区	位置	形状	規模(長径・短径・深さ)cm	主軸方位	出土遺物	時期	備	考
993	5	S-14	不整形	80 × 72 × 74	—	土器	縄文		
994	5	Q-16	不整形	(47) × (55) × 18	—		縄文		
995	5	Q-16	楕円形	40 × 37 × 30	N-0°		縄文		
996	5	U-14	不整形	116 × 114 × 28	N-25°-W	土器	縄文		
997	5	U・V-14	円形	80 × 80 × 50	—	土器	縄文		
998	5	T-16	長円形	93 × 65 × 80	N-63°-E	土器	縄文		
999	5	T-16	長円形	80 × 51 × 105	N-10°-E	土器	縄文		
1000	5	V-16	円形	138 × 130 × 125	N-10°-W	土器	縄文	柱痕	
1001	5	R-15	不整形	(45) × 50 × 88	N-82°-E	土器	縄文		
1002	5	欠番						遺物あり	
1003	5	S-15	不整形	76 × (53) × 40	—		縄文		
1004	5	S-15	不整形	98 × (75) × 85	—	土器	縄文		
1005	5	U-14	長円形	97 × 74 × 35	N-90°	土器	縄文		
1006	5	T-16	不整形	56 × (37) × 75	N-35°-W	土器、石器	縄文		
1007	5	T-15	長円形	121 × 87 × 60	N-42°-E	土器	縄文		
1008	5	S-15	円形	75 × 69 × 64	—	土器	縄文		
1009	5	S-15	不整形	105 × 92 × 68	N-15°-W	土器	縄文		
1010	5	T-15	長円形	82 × 72 × 75	N-15°-W	土器	縄文		
1011	5	T-15	不整形	75 × 57 × 58	N-60°-E	土器	縄文		
1012	5	S-16	円形	87 × 80 × 73	N-90°	土器	縄文		
1013	5	U-15	円形	64 × 62 × 80	—	土器	縄文		
1014	5	U-15	円形	73 × 66 × 69	—	土器	縄文		
1015	5	T-16	不整形	45 × (23) × 45	N-5°-E	土器	縄文		
1016	5	T-16	不整形	90 × (47) × 27	N-33°-E		縄文		
1017	5	U-17	楕円形	64 × 53 × 30	N-10°-E		縄文		
1018	5	T・U-16	不整形	85 × 83 × 65	N-75°-E	土器	縄文		
1019	5	R-16	長円形	66 × 52 × 85	N-0°	土器	縄文		
1020	5	S-17	不整形	56 × (43) × 53	N-90°		縄文		
1021	5	T-14	円形	51 × 56 × 21	—		縄文		
1022	5	T-15・16	長円形	(54) × 65 × 30	N-30°-W		縄文		
1023	5	S-16	長円形	(118) × (80) × 84	N-45°-W	土器、石器	縄文		
1024	5	R-16	円形	68 × 67 × 105	—	土器	縄文		
1025	5	R-16	円形	65 × 67 × 107	—	土器	縄文		
1026	5	R-16	長円形	112 × 85 × 65	N-6°-W	土器	縄文		
1027	5	S-17	長円形	44 × 35 × 41	N-45°-E		縄文		
1028	5	R・S-16	長円形	88 × 64 × 75	N-7°-E	土器	縄文		
1029	5	R-16	長円形	(44) × 42 × 52	N-3°-W	土器	縄文		
1030	5	R-15・16	不整形	45 × 43 × 55	—	土器	縄文		
1031	5	S-16	長円形	(60) × 75 × 37	N-41°-W		縄文		
1032	5	T-17	長円形	66 × 49 × 29	—		縄文		
1033	5	T-16	半円形	(26) × 50	—		縄文		
1034	5	T-16	円形	50 × 49 × 56	—	土器	縄文		
1035	5	V-16	不整形	(68) × 72 × 30	—		縄文		
1036	5	R-16	不整形	(48) × 40 × 22	—		縄文		
1037	5	R・S-15	不整形	43 × 36 × 28	—		縄文		
1038	5	T-16	円形	(50) × 55 × 68	—	土器	縄文		
1039	5	S・T-16	円形が2つ	78 × (39) × 73	—	土器	縄文		
1040	5	S-16	長円形	35 × 27 × 20	—		縄文		
1041	5	U-16	不整形	84 × 75 × 66	—	土器	縄文		
1042	5	T-17	長円形	(96) × 78 × 40	N-71°-E	土器	縄文		
1043	5	T・U-17	長円形	80 × (40) × 105	N-59°-E	土器	縄文		
1044	5	R-16・17	円形	40 × (40) × 70	—	土器	縄文		
1045	5	R-15	不整形	56 × 48 × 48	—		縄文		
1046	5	R-15	円形	53 × 60 × 45	—		縄文		
1047	5	S-15	円形	79 × 78 × 118	—	土器	縄文		
1048	5	Y-13	円形	56 × 47 × 40	—		縄文		
1049	5	Y-12	円形	72 × 62 × 96	—		縄文		
1050	5	T-15	円形	57 × 57 × 58	—	土器	縄文		
1051	5	R-15	円形	65 × 58 × 33	—		縄文		
1052	5	S-15	長円形	101 × (69) × 49	N-56°-E	土器、石器	縄文		
1053	5	S-16	不整形	35 × (27) × 37	—		縄文		
1054	5	S-15	不整形	94 × 89 × 88	N-5°-W	土器	縄文		
1055	5	R-15	不整形	92 × 55 × 49	N-0°	土器	縄文		
1056	5	Q-14	長円形	60 × 39 × 41	N-20°-E		縄文		
1057	5	Y-13	長円形	(104) × 70 × 20	N-72°-W		縄文		
1058	5	X-13・14	不整形	57 × 47 × 58	N-29°-W	土器、石器	縄文		
1059	5	X-13	長円形	84 × 64 × 37	N-60°-E	土器	縄文		
1060	5	X-13・14	長円形	108 × (63) × 43	N-40°-E	土器	縄文		
1061	5	X-14	長円形	93 × (35) × 40	N-52°-E	土器	縄文		
1062	5	X-14	長円形	(63) × 63 × 40	N-45°-W	土器	縄文		
1063	5	S-16	円形	(50) × (40) × 49	—		縄文		
1064	5	R-15	円形	41 × 40 × 50	—		縄文		
1065	5	Q-15	長円形	94 × 57 × 44	N-27°-W		縄文		
1066	5	R-16	不整形	97 × (62) × 20	—		縄文		
1067	5	R-16	円形	52 × 44 × 52	—		縄文		
1068	5	Q-15	長円形	56 × 40 × 37	N-85°-W	土器、石器	縄文		
1069	5	Q-15	円形	(44) × 58 × 32	—		縄文		
1070	5	R-15	円形	94 × 85 × 83	—	土器	縄文		
1071	5	S-15・16	長円形	72 × 43 × 65	N-40°-W	土器	縄文		
1072	5	R・S-15・16	長円形	40 × 30 × 70	N-52°-E		縄文		

第3章 検出された遺構と遺物

番号	区	位置	形状	規模(長径・短径・深さ)cm	主軸方位	出土遺物	時期	備	考
1073	5	R-15・16	円形	70 × (48) × 27	—		縄文		
1074	5	R-15・16	長円形	67 × 56 × 88	N-0°	土器	縄文		
1075	5	U-15・16	長円形	130 × 92 × 44	N-88°-E	土器、石器	縄文		
1076	5	欠番							
1077	5	Q・R-14	半円形	(48) × 73 × 33	—		縄文		
1078	5	S-15	不整形	59 × 57 × 25	N-25°-E	土器	縄文		
1079	5	R-15	不整形	40 × 35 × 32	—		縄文		
1080	5	V-15	長円形	(57) × 67 × 35	N-25°-E		縄文		
1081	5	R-15・16	長円形	(45) × 40 × 24	N-14°-E	土器	縄文		
1082	5	U-15	長円形	67 × 45 × 28	N-30°-E		縄文		
1083	5	U-16	円形	78 × 88 × 80	—		縄文	柱痕	
1084	5	V-15	不整形	100 × 80 × 29	—	土器、石器	縄文		
1085	5	U-17	不整形	(65) × 65 × 42	N-14°-E		縄文		
1086	5	U・V-16	長円形	95 × 78 × 16	N-0°		縄文		
1087	5	X-14・15	不整形	90 × 75 × 46	—	土器	縄文		
1088	5	V-15	長円形	100 × 62 × 24	N-48°-W	土器、石器	縄文		
1089	5	V-15	長円形	(75) × 75 × 18	N-23°-W		縄文		
1090	5	V-17	不整形	72 × 62 × 17	N-24°-W	土器	縄文		
1091	5	V-17	不整形	114 × 82 × 28	N-72°-W		縄文		
1092	5	U-18	半円形	182 × (55) × 37	—		縄文		
1093	5	S-16	不整形	36 × (28) × 25	—	土器	縄文		
1094	5	R-14・15	円形	70 × 66 × 48	—	土器	縄文		
1095	5	R-16	円形	27 × 25 × 38	—		縄文		
1096	5	R・S-15	長円形	(73) × (57) × 30	N-71°-E		縄文		
1097	5	S・T-16	円形	94 × (57) × 70	—	土器	縄文		
1098	5	R-15	長円形	83 × 49 × 14	N-54°-W	土器	縄文		
1099	5	R・S-15	長円形	95 × 54 × 78	N-12°-W		縄文		
1100	5	Q・R-16	長円形	109 × (35) × 83	N-8°-E	土器	縄文		
1101	5	V-16	半円形	(64) × 76 × 23	N-0°	土器	縄文		
1102	5	V-15	半円形	93 × (55) × 20	—	土器	縄文		
1103	5	V-15	不整形	(78) × 128 × 22	—	土器	縄文		
1104	5	V-15	長円形	117 × 85 × 54	N-80°-W	土器	縄文	5-124住と重複	
1105	5	T-16	円形	32 × 30 × 60	—	土器	縄文		
1106	5	Q-15	長円形	192 × 154 × 58	N-4°-W	土器	縄文		
1107	5	T-15	長円形	92 × 85 × 21	N-10°-W	土器	縄文		
1108	5	V-15	長円形	93 × 50 × 52	N-50°-E	土器	縄文		
1109	5	U-15	長円形	73 × 58 × 30	N-12°-E		縄文		
1110	5	X・Y-13	長円形	(120) × 90 × 30	—	土器、石器	縄文		
1111	5	S-16	長円形	121 × 111 × 97	—	土器	縄文		
1112	5	R-16	円形	79 × 77 × 110	—	土器	縄文		
1113	5	W-13	長円形	300 × (280)	N-0°	大型礫	縄文	5-124号住の張り出し部下	
1114	5	Q-15	長円形	71 × (37) × 45	N-27°-W	土器	縄文		
6区									
番号	区	位置	形状	規模(長径・短径・深さ)cm	主軸方位	出土遺物	時期	備	考
204	6	B-14	長円形	205 × 180 × 35	—	縄文土器、石器	縄文	6-205号土坑と重複	
205	6	B-14	長円形	170 × 125 × 30	—	縄文土器	縄文	6-204号土坑と重複	
206	6	A-16	円形	160 × 140 × 45	—	縄文土器、石器	縄文		
207	6	B-13	不整形	260 × 190 × 30	—	縄文土器、石器	縄文		
208	6	B-13	円形	46 × 45 × 75	—		不明	6-207号土坑と重複	
209	6	B-13	長円形	120 × 100 × 43	—	土器	不明	6-16号住居内	
210	6	A-15	不整形		—	土器	不明		
211	6	A・B-13	円形	95 × 93 × 45	—	縄文土器	縄文	6-16号住居内	
212	6	A-13	円形	180 × 170 × 85	—	縄文土器、石器	縄文	6-16号住居内	
213	6	B-12	長円形	100 × 80 × 25	—	縄文土器	縄文		
214	6	B-12	円形	60 × 50 × 40	—		不明		
15区									
番号	区	位置	形状	規模(長径・短径・深さ)cm	主軸方位	出土遺物	時期	備	考
1	15	T・U-3	円形	300 × 310 × 30	—	縄文土器	不明		